

多田山東遺跡

多田山東遺跡

一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊

2024

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊 二〇二四

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 多田山東遺跡

一般国道50号（前橋笠懸道路）建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊

2024

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





遺跡南端上空より赤城山南麓を望む



囲い状遺構全景(南から)



# 序

前橋笠懸道路は、一般国道50号の慢性的な交通渋滞の解消及び地域住民の生活環境における安全性向上を目的として計画された大規模道路です。この道路建設に伴う発掘調査が群馬県伊勢崎市赤堀今井町の多田山東遺跡において、令和元年11月から令和2年9月にかけて行われました。

発掘調査では、縄文時代前期から平安時代までの竪穴建物や、囲い状遺構、掘立柱建物、方形周溝墓、溝、土坑など多くの遺構が発見されました。その中で最も注目されるのは囲い状遺構で、古墳時代後期に地域を治めた豪族の居館とみられます。竪穴建物の分布には、この囲い状遺構との関わりが想定される様相が見られました。これらの調査成果は、この地域で営まれていた人々の生活を考える上で貴重な資料となりました。

報告書刊行に至るまでには国土交通省関東地方整備局 高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、群馬県地域創生部、伊勢崎市教育委員会をはじめ、関係する機関や地元関係者の皆様に多大なるご指導とご協力を賜りました。本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますと共に、本書が地域における歴史の解明に広く役立てられますことを願ひまして、序といたします。

令和6年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 向田忠正



# 例 言

1. 本書は、一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う多田山東遺跡の発掘調査報告書である。
2. 所在地 群馬県伊勢崎市赤堀今井町2丁目406-2、407-2、412-3、413-3、413-4、768-7、769-2、772-2  
778-2、781-2、787-2、788-2、796-3、797-3、798-4、799-4、799-5、801-3、1062-10
3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局 高崎河川国道事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間及び調査体制

## 令和元年度

履行期間 令和元年10月16日～令和2年3月31日  
調査期間 令和元年11月1日～令和2年3月31日  
調査担当 関 俊明(上席調査研究員) 岩上千鶴(主任調査研究員)  
関 明愛(調査研究員) 飛田野正佳(専門調査役)  
遺跡掘削請負工事 スナガ環境測設株式会社  
委 託 遺構測量・デジタル編集業務 技研コンサル株式会社  
空中写真撮影 技研コンサル株式会社

## 令和2年度

履行期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日  
調査期間 令和2年4月1日～令和2年9月30日  
調査担当 須田正久(上席調査研究員) 木村 収(専門調査役)  
遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社  
委 託 遺構測量・デジタル編集業務 技研コンサル株式会社  
空中写真撮影 技研コンサル株式会社

6. 整理事業の期間及び体制は以下のとおりである。

## 令和3年度

履行期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日  
整理期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日  
整理担当 山中 豊(主任調査研究員)

## 令和4年度

履行期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日  
整理期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日  
整理担当 山中 豊

## 令和5年度

履行期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

7. 本書作成の担当者は以下のとおりである。

編 集 山中 豊 デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)  
遺物写真 土師器・縄文土器 山中 豊 石器 岩崎泰一(専門調査役)・山中 豊  
陶磁器 大西雅弘(専門調査役) 金属器 板垣泰之(専門員)

執筆 第3章第5節 関口博幸(上席調査研究員・資料統括) 第5章第2節・第3節 神谷佳明(専門調査役)  
上記以外 山中 豊

遺物観察 縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)

土師器・須恵器：神谷佳明 陶磁器：大西雅弘

石器・石製品：岩崎泰一 金属製品：板垣泰之

保存処理 板垣泰之 関 邦一(専門調査役)

8. 専門的な自然科学分析や考察については、専門機関に依頼・委託した。

テフラ分析：株式会社火山灰考古学研究所

放射性炭素年代測定：株式会社パレオ・ラボ

樹種同定分析：株式会社パレオ・ラボ

植物珪酸体分析：パリーノ・サーヴェイ株式会社

9. 記録資料及び出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

10. 発掘調査及び報告書の作成に際しては、下記の方々や機関にご協力・ご指導をいただきました。

記して感謝いたします(敬称略)。

群馬県地域創生部文化財保護課、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会

# 凡 例

1. 本書で使用した座標値は、国家座標「世界測地系(測地成果2011平面直角座標IX系)」を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標軸X・Y値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北であり、真北方向は、+0° 22' 02.94" (東偏)である。
3. 遺構図、遺物図の縮尺は各図にそれぞれ示し、遺物図と遺物写真は原則として同縮率とした。
4. 遺構平面図や遺構断面図に表示した数値は標高であり、単位はメートルである。
5. 遺構の主軸方向や走行は、竈のある竪穴建物の場合は、竈のある方向として北から東西180°以内を、それ以外の遺構の場合は、長軸方向で北から東西90°以内とした。表記は北を基準とし、東に傾く場合はN-○°-E、西に傾く場合はN-○°-Wとした。
6. 遺構の面積は下端を計測し、計測はプランメーターで3回行い、その平均値を採用した。
7. 遺構の計測値は、縮尺1/10又は1/20の図面を用いて計測し、単位はそれぞれに付記した。全容が計測できない場合は残存値( )で表記した。
8. 本書で使用したスクリーンパターンは以下のとおりである。  
遺構：焼土  粘土  炭化物  攪乱  硬化面   
遺物：釉  燻  黒色  煤  粘土  赤色 
9. 遺構土層注記及び土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に準拠している。
10. 遺物観察表における記載方法は以下の通りである。
  - ・計測値の単位はセンチメートルとし、重量はグラムで表記した。
  - ・種類：文化庁文化財部記念物課監修2010年『発掘調査のてびき』に準じて土師器、須恵器、黒色土器、土製品などとした。なお、古墳時代の黒色処理の施された土器については、その成整形から土師器とした。奈良時代中期から出現する内外面を黒色処理された土器については、成整形から黒色土器とした。
  - ・器種：文化庁文化財部記念物課監修2010年『発掘調査のてびき』に準じて杯、椀、高杯、盤、皿、鉢、埴、器台、壺、瓶(長頸壺・短頸壺・甗)、甕の名称を使用した。なお、杯と椀の区分は、器高/口径比が大きいものを椀としているが、明確に数値化できていない。壺と甕については、頸部/胴部最大径比によって区分した。
  - ・残存率：概ね全体の比率で「完形」、「4/5」、「3/4」、「2/3」、「1/2」、「1/3」、「1/4」、「1/5」などと表記した。なお、1/4以下については、「口縁部片」、「底部片」、「口縁部～体部片」、「口縁部～胴部片」、「底部～胴部片」などの部位名で表記した。
  - ・計測値：計測箇所は、以下のように省略した。口；口径、底；底径、高；器高、台；高台径、脚；脚径、摘；杯蓋等の摘最大径、稜；杯の稜径、受；蓋杯身の蓋受け径、カ；杯蓋等のカエリ径、頸；頸部径、胴；胴部最大径、孔；甗・有孔鉢などの底部内側に設けられた孔径のように略記した。この他の略称についてはそれぞれ備考に記載した。
  - ・胎土：記載中の表記にある細砂粒は、径2mm以下、粗砂粒は2～5mmのものを表す。
  - ・焼成：土師器は比較的硬質に焼成されているものを「良好」とした。須恵器は「還元焰」、「酸化焰」で表記した。
  - ・特徴：成整形を中心に特徴的な形態について記載した。
  - ・掲載縮尺：原則1/3で掲載した。大きさによっては、1/1～1/4の縮尺で掲載しているものがあるが、その場合は、それぞれの遺物図に表記した。

11. テフラについては以下の略称を用いた。

As-A : 浅間Aテフラ 天明3年(1783年)浅間山噴火起源

As-B : 浅間Bテフラ 天仁元年(1108年)浅間山噴火起源

As-C : 浅間Cテフラ 3世紀末浅間山噴火起源

As-YP : 浅間板鼻黄色テフラ 1.6万年前浅間山噴火起源

Hr-FA : 榛名二ツ岳渋川テフラ 6世紀初頭榛名山噴火起源

Hr-FP : 榛名二ツ岳伊香保テフラ 6世紀中葉榛名山噴火起源

12. 本書で使用した地図は以下のものを使用した。

第1図 国土地理院5万分の1地形図『前橋』(平成10年3月1日発行)

第2図 伊勢崎市都市計画現況図

第3図 『群馬県史』通史編1 付図2

第4図 国土地理院電子地図25,000『大胡』(平成30年8月7日発行)

第312図 国土地理院地図

第313図 国土地理院地図(陰影起伏図)

第314図 国土地理院地図(陰影起伏図)

第315図 伊勢崎市都市計画現況図

第353図 国土地理院5万分の1地形図『前橋』(平成10年3月1日発行)

# 総目次

(第1分冊)

口絵

序

例言

凡例

総目次・第1分冊目次

挿図・表目次

## 第1章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

第2節 発掘調査の方法

第3節 発掘調査の経過

第4節 整理事業

## 第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

第2節 歴史的環境

第3節 基本土層と遺構検出面

## 第3章 調査の成果

第1節 多田山東遺跡の概要

第2節 1区の遺構と遺物

第3節 2区の遺構と遺物

第4節 2区北～5区の遺構と遺物

第5節 旧石器時代の調査

## 第4章 自然科学分析

第1節 目的と成果

第2節 テフラ分析

第3節 放射性炭素年代測定

第4節 樹種同定分析

第5節 植物珪酸体分析

遺物観察表

報告書抄録

奥付

(第2分冊)

第2分冊目次

挿図・表・写真図版目次

## 第5章 考察

第1節 囲い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要

第2節 多田山東遺跡の囲い状遺構について

第3節 多田山東遺跡2号竪穴建物出土遺物について

第4節 古墳時代以降の集落の変遷

写真図版

奥付

# 第 1 分冊目次

口絵		
序		
例言		
凡例		
総目次		
第 1 分冊目次		
挿図・表目次		
第 1 章 発掘調査の経過	1	
第 1 節 発掘調査に至る経緯	1	
第 2 節 発掘調査の方法	3	
第 3 節 発掘調査の経過	3	
第 4 節 整理事業	5	
第 2 章 遺跡の環境	7	
第 1 節 地理的環境	7	
第 2 節 歴史的環境	9	
第 3 節 基本土層と遺構検出面	15	
第 3 章 調査の成果	18	
第 1 節 多田山東遺跡の概要	18	
第 2 節 1 区の遺構と遺物	18	
1. 竪穴建物・竪穴状遺構	18	
2. 掘立柱建物	84	
3. 方形周溝墓	100	
4. 溝	102	
5. 土坑	103	
6. ピット	105	
7. 遺構外の遺物	115	
第 3 節 2 区の遺構と遺物	116	
1. 竪穴建物・竪穴状遺構	116	
2. 掘立柱建物・柱穴列	253	
3. 溝	258	
4. 土坑	262	
5. ピット	278	
6. 遺物集中	285	
7. 遺構外の遺物	286	
第 4 節 2 区北～5 区の遺構と遺物	289	
1. 囲い状遺構	289	
2. 竪穴建物・竪穴状遺構	306	
3. 掘立柱建物	320	
4. 溝	325	
5. 土坑	363	
6. ピット	377	
7. 遺構外の遺物	383	
第 5 節 旧石器時代の調査	385	
1. 遺跡の概要	385	
2. 旧石器調査の概要	388	
3. 1 区の旧石器調査	390	
4. 2 区の旧石器調査	399	
5. 2 区北～5 区の旧石器調査	403	
6. 旧石器調査における自然科学分析	403	
7. 旧石器調査のまとめと考察	405	
第 4 章 自然科学分析	409	
第 1 節 目的と成果	409	
1. テフラ分析	409	
2. 放射性炭素年代測定	409	
3. 樹種同定分析	410	
4. 植物珪酸体分析	410	
第 2 節 テフラ分析	411	
I 令和元年度	411	
II 令和 2 年度	420	
第 3 節 放射性炭素年代測定	425	
第 4 節 樹種同定分析	429	
第 5 節 植物珪酸体分析	431	
遺物観察表		
報告書抄録		
奥付		

# 挿図目次

第1図	多田山東遺跡位置図(国土地理院5万分の1地形図『前橋』(平成10年3月1日発行)を使用)……………1	第64図	1区1・2号竪穴状遺構・2号竪穴状遺構出土遺物……………82
第2図	調査区位置図(伊勢崎市都市計画現況図を使用)……………6	第65図	1区3・4号竪穴状遺構・出土遺物……………83
第3図	周辺地形分類図(『群馬県史』通史編1 付図2を使用)……………8	第66図	1区1号掘立柱建物……………87
第4図	周辺遺跡分布図(国土地理院電子地形図25,000『大胡』(平成30年8月7日発行)を使用)……………11	第67図	1区2号掘立柱建物・出土遺物……………88
第5図	土層確認地点位置図……………15	第68図	1区3号掘立柱建物……………89
第6図	1～3区土層断面……………16	第69図	1区4号掘立柱建物……………90
第7図	3～5区土層断面……………17	第70図	1区5号掘立柱建物……………91
第8図	1区1号竪穴建物……………19	第71図	1区6号掘立柱建物……………92
第9図	1区1号竪穴建物掘方・竈……………20	第72図	1区7号掘立柱建物……………93
第10図	1区1号竪穴建物出土遺物……………21	第73図	1区7号掘立柱建物柱穴土層断面図・出土遺物……………94
第11図	1区2号竪穴建物……………22	第81図	1区8号掘立柱建物……………95
第12図	1区2号竪穴建物竈・出土遺物(1)……………23	第75図	1区9号掘立柱建物……………96
第13図	1区2号竪穴建物出土遺物(2)……………24	第76図	1区10号掘立柱建物……………97
第14図	1区3号竪穴建物竈・出土遺物……………25	第77図	1区11号掘立柱建物……………98
第15図	1区4号竪穴建物……………27	第78図	1区12号掘立柱建物……………99
第16図	1区4号竪穴建物竈・出土遺物……………28	第79図	1区1号方形周溝墓……………100
第17図	1区5号竪穴建物……………29	第80図	1区1号方形周溝墓土層断面図・出土遺物……………101
第18図	1区5号竪穴建物竈・出土遺物……………30	第81図	1区1号溝・出土遺物……………102
第19図	1区6号竪穴建物……………32	第82図	1区1～3・6～11号土坑・1・2号土坑出土遺物……………106
第20図	1区6号竪穴建物出土遺物……………33	第83図	1区12～17号土坑・12・17号土坑出土遺物……………107
第21図	1区7号竪穴建物……………34	第84図	1区18～22号土坑……………108
第22図	1区7号竪穴建物竈・旧竈……………35	第85図	1区97・256・278・293・299号ピット・出土遺物……………109
第23図	1区7号竪穴建物出土遺物……………36	第86図	1区遺構外出土遺物……………115
第24図	1区8号竪穴建物……………37	第87図	2区21号竪穴建物……………117
第25図	1区8号竪穴建物竈・出土遺物……………38	第88図	2区21号竪穴建物竈・旧竈……………118
第26図	1区9号竪穴建物……………40	第89図	2区21号竪穴建物出土遺物(1)……………119
第27図	1区9号竪穴建物竈……………41	第90図	2区21号竪穴建物出土遺物(2)……………120
第28図	1区9号竪穴建物出土遺物……………42	第91図	2区21号竪穴建物出土遺物(3)……………121
第29図	1区10号竪穴建物……………43	第92図	2区22号竪穴建物……………123
第30図	1区10号竪穴建物出土遺物……………44	第93図	2区22号竪穴建物竈……………124
第31図	1区11号竪穴建物……………46	第94図	2区22号竪穴建物出土遺物……………125
第32図	1区11号竪穴出土遺物……………47	第95図	2区23号竪穴建物……………126
第33図	1区12号竪穴建物……………48	第96図	2区23号竪穴建物竈……………127
第34図	1区12号竪穴建物掘方・竈……………49	第97図	2区23号竪穴建物出土遺物……………128
第35図	1区12号竪穴建物出土遺物(1)……………50	第98図	2区24号竪穴建物……………129
第36図	1区12号竪穴建物出土遺物(2)……………51	第99図	2区24号竪穴建物竈……………130
第37図	1区13号竪穴建物……………52	第100図	2区24号竪穴建物出土遺物……………131
第38図	1区13号竪穴建物竈・旧竈……………53	第101図	2区25号竪穴建物……………132
第39図	1区13号竪穴建物出土遺物……………54	第102図	2区25号竪穴建物出土遺物……………133
第40図	1区14号竪穴建物……………55	第103図	2区26号竪穴建物……………134
第41図	1区14号竪穴建物掘方……………56	第104図	2区26号竪穴建物出土遺物……………135
第42図	1区14号竪穴建物竈・出土遺物……………57	第105図	2区27号竪穴建物……………136
第43図	1区15号竪穴建物……………58	第106図	2区27号竪穴建物竈・出土遺物……………137
第44図	1区15号竪穴建物掘方……………59	第107図	2区28号竪穴建物……………139
第45図	1区15号竪穴建物竈……………60	第108図	2区28号竪穴建物竈……………140
第46図	1区15号竪穴建物出土遺物……………61	第109図	2区28号竪穴建物出土遺物……………141
第47図	1区16号竪穴建物……………63	第110図	2区29号竪穴建物……………142
第48図	1区16号竪穴建物竈……………64	第111図	2区29号竪穴建物掘方……………143
第49図	1区16号竪穴建物出土遺物(1)……………65	第112図	2区29号竪穴建物竈……………144
第50図	1区16号竪穴建物出土遺物(2)……………66	第113図	2区29号竪穴建物出土遺物……………145
第51図	1区16号竪穴建物出土遺物(3)……………67	第114図	2区30号竪穴建物・竈……………146
第52図	1区17号竪穴建物・出土遺物……………68	第115図	2区30号竪穴建物出土遺物……………147
第53図	1区18号竪穴建物……………70	第116図	2区31号竪穴建物……………148
第54図	1区18号竪穴建物断面図……………71	第117図	2区31号竪穴建物竈・出土遺物……………149
第55図	1区18号竪穴建物掘方・竈……………72	第118図	2区32号竪穴建物……………150
第56図	1区18号竪穴建物出土遺物(1)……………73	第119図	2区32号竪穴建物出土遺物……………151
第57図	1区18号竪穴建物出土遺物(2)……………74	第120図	2区33号竪穴建物……………152
第58図	1区18号竪穴建物出土遺物(3)……………75	第121図	2区33号竪穴建物竈……………153
第59図	1区19号竪穴建物……………76	第122図	2区33号竪穴建物出土遺物……………154
第60図	1区19号竪穴建物竈……………77	第123図	2区34号竪穴建物・出土遺物……………155
第61図	1区19号竪穴建物出土遺物……………78	第124図	2区35号竪穴建物……………156
第62図	1区20号竪穴建物……………79	第125図	2区35号竪穴建物竈・出土遺物(1)……………157
第63図	1区20号竪穴建物出土遺物……………80	第126図	2区35号竪穴建物出土遺物(2)……………158
		第127図	2区36号竪穴建物・出土遺物……………159
		第128図	2区37号竪穴建物・竈……………160

第129図	2区37号竪穴建物出土遺物	161	第197図	2区61号竪穴建物出土遺物(2)	237
第130図	2区38号竪穴建物	162	第198図	2区62号竪穴建物	238
第131図	2区38号竪穴建物竈・出土遺物	163	第199図	2区62号竪穴建物竈・出土遺物	239
第132図	2区39号竪穴建物・出土遺物	164	第200図	2区63号竪穴建物	241
第133図	2区40号竪穴建物	166	第201図	2区63号竪穴建物掘方・竈	242
第134図	2区40号竪穴建物竈・出土遺物	167	第202図	2区63号竪穴建物出土遺物	243
第135図	2区41号竪穴建物	168	第203図	2区64号竪穴建物	244
第136図	2区41号竪穴建物掘方	169	第204図	2区64号竪穴建物竈・出土遺物	245
第137図	2区41号竪穴建物1号竈	170	第205図	2区65号竪穴建物・竈	246
第138図	2区41号竪穴建物2号竈	171	第206図	2区65号竪穴建物出土遺物	247
第139図	2区41号竪穴建物出土遺物(1)	172	第207図	2区66号竪穴建物・竈	248
第140図	2区41号竪穴建物出土遺物(2)	173	第208図	2区66号竪穴建物出土遺物	249
第141図	2区42号竪穴建物	175	第209図	2区67号竪穴建物・出土遺物	250
第142図	2区42号竪穴建物掘方・竈	176	第210図	2区5号竪穴状遺構・出土遺物(1)	251
第143図	2区42号竪穴建物出土遺物(1)	177	第211図	2区5号竪穴状遺構出土遺物(2)	252
第144図	2区42号竪穴建物出土遺物(2)	178	第212図	2区13号掘立柱建物	254
第145図	2区43号竪穴建物	179	第213図	2区14号掘立柱建物	255
第146図	2区43号竪穴建物出土遺物	180	第214図	2区15号掘立柱建物・出土遺物	256
第147図	2区44号竪穴建物	181	第215図	2区5・6号柱穴列	257
第148図	2区44号竪穴建物掘方・竈	182	第216図	2区2号溝	258
第149図	2区44号竪穴建物出土遺物	183	第217図	2区2号溝出土遺物	259
第150図	2区45号竪穴建物	185	第218図	2区3・4・6号溝	260
第151図	2区45号竪穴建物竈・出土遺物	186	第219図	2区5号溝	261
第152図	2区46号竪穴建物	187	第220図	2区23~27号土坑・24・25号土坑出土遺物	266
第153図	2区46号竪穴建物竈・出土遺物	188	第221図	2区28~31号土坑・27・29・31号土坑出土遺物	267
第154図	2区47号竪穴建物	189	第222図	2区32~35号土坑・34号土坑出土遺物	268
第155図	2区47号竪穴建物掘方・竈	190	第223図	2区36~38号土坑・36号土坑出土遺物	269
第156図	2区47号竪穴建物出土遺物	191	第224図	2区38号土坑出土遺物(1)	270
第157図	2区48号竪穴建物	193	第225図	2区38号土坑出土遺物(2)	271
第158図	2区48号竪穴建物竈	194	第226図	2区39~43号土坑	272
第159図	2区48号竪穴建物出土遺物	195	第227図	2区44~46・48・51・52号土坑	273
第160図	2区49号竪穴建物	196	第228図	2区47号土坑・出土遺物	274
第161図	2区49号竪穴建物掘方・竈	197	第229図	2区49号土坑	275
第162図	2区49号竪穴建物出土遺物	198	第230図	2区50・105号土坑・50号土坑出土遺物	276
第163図	2区50号竪穴建物	199	第231図	縄文時代の遺構分布	277
第164図	2区50号竪穴建物竈・出土遺物	200	第232図	2区389・390・391・458・464号ピット・出土遺物	279
第165図	2区51号竪穴建物	202	第233図	2区471・526・556・558号ピット・出土遺物	280
第166図	2区51号竪穴建物竈・出土遺物	203	第234図	2区1号遺物集中・出土遺物(1)	285
第167図	2区52号竪穴建物	204	第235図	2区1号遺物集中出土遺物(2)	286
第168図	2区52号竪穴建物掘方	205	第236図	2区遺構外出土遺物(1)	287
第169図	2区52号竪穴建物出土遺物	206	第237図	2区遺構外出土遺物(2)	288
第170図	2区52号竪穴建物出土遺物(1)	207	第238図	2区北・3区囲い状遺構全体図	290
第171図	2区52号竪穴建物出土遺物(2)	208	第239図	2区北・3区7号柱穴列柱間模式図	291
第172図	2区52号竪穴建物出土遺物(3)	209	第240図	2区北7号柱穴列・12号溝(1)	292
第173図	2区53号竪穴建物・竈	211	第241図	3区7号柱穴列・12号溝(2)	293
第174図	2区53号竪穴建物出土遺物	212	第242図	3区7号柱穴列・12号溝(3)	294
第175図	2区54号竪穴建物	213	第243図	3区7号柱穴列・12号溝(4)	295
第176図	2区54号竪穴建物竈・出土遺物	214	第244図	3区7号柱穴列・12号溝(5)・出土遺物	296
第177図	2区55号竪穴建物・竈	215	第245図	2区北18号掘立柱建物・柱間模式図	297
第178図	2区55号竪穴建物出土遺物	216	第246図	2区北18号掘立柱建物断面図(1)	298
第179図	2区56号竪穴建物	217	第247図	2区北18号掘立柱建物断面図(2)	299
第180図	2区56号竪穴建物竈・出土遺物	218	第248図	2区北18号掘立柱建物出土遺物	300
第181図	2区57号竪穴建物	219	第249図	3区19号掘立柱建物	302
第182図	2区57号竪穴建物掘方・竈	220	第250図	3区19号掘立柱建物断面図(1)・柱間模式図	303
第183図	2区57号竪穴建物出土遺物	221	第251図	3区19号掘立柱建物断面図(2)	304
第184図	2区58号竪穴建物・竈	222	第252図	3区19号掘立柱建物出土遺物	305
第185図	2区58号竪穴建物出土遺物	223	第253図	2区北68号竪穴建物	307
第186図	2区59号竪穴建物	225	第254図	2区北68号竪穴建物竈	308
第187図	2区59号竪穴建物掘方	226	第255図	2区北68号竪穴建物竈遺物出土状況・出土遺物(1)	309
第188図	2区59号竪穴建物1・2号竈	227	第256図	2区北68号竪穴建物出土遺物(2)	310
第189図	2区59号竪穴建物出土遺物	228	第257図	2区北68号竪穴建物出土遺物(3)	311
第190図	2区60号竪穴建物	230	第258図	2区北68号竪穴建物出土遺物(4)	312
第191図	2区60号竪穴建物竈	231	第259図	3区69号竪穴建物・出土遺物	313
第192図	2区60号竪穴建物出土遺物(1)	232	第260図	3区70号竪穴建物	315
第193図	2区60号竪穴建物出土遺物(2)	233	第261図	3区70号竪穴建物竈	316
第194図	2区60号竪穴建物出土遺物(3)	234	第262図	3区70号竪穴建物出土遺物	317
第195図	2区61号竪穴建物	235	第263図	3区6号竪穴状遺構・出土遺物	318
第196図	2区61号竪穴建物竈・出土遺物(1)	236	第264図	3区7号竪穴状遺構・出土遺物	319

第265図	2区北16号掘立柱建物・出土遺物	321
第266図	2区北17号掘立柱建物	322
第267図	4区20号掘立柱建物	323
第268図	4区20号掘立柱建物断面図	324
第269図	3区14・16・37号溝	326
第270図	3区15号溝	327
第271図	3区17号溝	328
第272図	3区17号溝出土遺物	329
第273図	3区20・28・35号溝・20号溝出土遺物	330
第274図	3区21・22号溝	332
第275図	3区21号溝断面図・21・22号溝出土遺物	333
第276図	3区27・36号溝	334
第277図	3区23号溝	335
第278図	3区13・19号溝	336
第279図	3区24～26号溝・25・26号溝出土遺物	338
第280図	3区24号溝出土遺物	339
第281図	3区29～33号溝	341
第282図	3区32号溝出土遺物	342
第283図	3・4区7～9号溝	343
第284図	3・4区9号溝出土遺物	344
第285図	3・4区10・11号溝・10号溝出土遺物	345
第286図	4区38～40号溝	346
第287図	4区46・47号溝	348
第288図	4区41・42号溝	349
第289図	4区43～45・49号溝	351
第290図	4区43～45・49号溝断面図	352
第291図	4区43号溝出土遺物(1)	353
第292図	4区43号溝出土遺物(2)	354
第293図	4区43号溝出土遺物(3)	355
第294図	4区44号溝出土遺物(1)	356
第295図	4区44号溝出土遺物(2)	357
第296図	4区44号溝出土遺物(3)・49号溝出土遺物	358
第297図	5区48号溝	359
第298図	5区48号溝出土遺物(1)	360
第299図	5区48号溝出土遺物(2)	361
第300図	5区48号溝出土遺物(3)	362
第301図	3区56～60・104号土坑	369
第302図	4区53～55・61～63号土坑・62号土坑出土遺物	370
第303図	4区64～69・71号土坑・63号土坑出土遺物	371
第304図	4区70・72～74号土坑・72号土坑出土遺物	372
第305図	4区75・97～99号土坑	373
第306図	5区76～85号土坑	374

第307図	5区86～95号土坑	375
第308図	5区96・100～103号土坑	376
第309図	2区北629・645号ピット・出土遺物	377
第310図	3区772号・4区837号ピット・出土遺物	383
第311図	2区北・3区・4区・5区遺構外出土遺物	384
第312図	遺跡位置図(● 国土地理院地図をもとに作成)	385
第313図	遺跡位置(●)と関東平野北部の地形図(国土地理院地図(陰影起伏図)をもとに作成)	386
第314図	多田山東遺跡周辺地形図(国土地理院地図(陰影起伏図)をもとに作成、断面図は高さを10倍)	386
第315図	多田山東遺跡旧石器調査全体図(伊勢崎市都市計画現況図を使用)	387
第316図	1区旧石器トレンチ全体図	389
第317図	1区旧石器8号トレンチ礫集中と石器の出土状況	391
第318図	1区出土石器	391
第319図	1区旧石器14号トレンチ礫集中	394
第320図	1区旧石器14号トレンチ礫密集部	395
第321図	礫の散布図(長さ/幅)・ヒストグラム(長さ別)	396
第322図	礫の散布図(長さ/重量)・ヒストグラム(重量別)	396
第323図	2区旧石器トレンチ全体図	398
第324図	2区出土石器	399
第325図	2区旧石器20号トレンチ礫集中	400
第326図	2区北旧石器トレンチ全体図・土層断面図	401
第327図	3区旧石器トレンチ全体図	401
第328図	4区旧石器トレンチ全体図	402
第329図	5区旧石器トレンチ全体図	402
第330図	旧石器トレンチ8(690・-730グリッド)東壁の土層柱状図	415
第331図	旧石器トレンチ8(690・-730グリッド)北壁の土層柱状図	416
第332図	旧石器トレンチ14(720・-710グリッド)の土層柱状図	416
第333図	北端旧石器トレンチ(730・-700グリッド)南壁の土層柱状図	416
第334図	北端旧石器トレンチ(730・-700グリッド)北壁の土層柱状図	416
第335図	3区基本土層の総合柱状図	423
第336図	2区12号溝SPA-A'の土層柱状図	423
第337図	3区12号溝SPD-D'の土層柱状図	423
第338図	暦年較正結果(1)	427
第339図	暦年較正結果(2)	428
第340図	3区での植物珪酸体群集の層位的・空間的な変化	432

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	12
第2表	1号掘立柱建物柱穴一覧表	87
第3表	2号掘立柱建物柱穴一覧表	88
第4表	3号掘立柱建物柱穴一覧表	89
第5表	4号掘立柱建物柱穴一覧表	90
第6表	5号掘立柱建物柱穴一覧表	91
第7表	6号掘立柱建物柱穴一覧表	92
第8表	7号掘立柱建物柱穴一覧表	93
第9表	8号掘立柱建物柱穴一覧表	95
第10表	9号掘立柱建物柱穴一覧表	96
第11表	10号掘立柱建物柱穴一覧表	97
第12表	11号掘立柱建物柱穴一覧表	98
第13表	12号掘立柱建物柱穴一覧表	99
第14表	1区ピット一覧表	110
第15表	13号掘立柱建物柱穴一覧表	254
第16表	14号掘立柱建物柱穴一覧表	255
第17表	15号掘立柱建物柱穴一覧表	256
第18表	5号柱穴列柱穴一覧表	257
第19表	6号柱穴列柱穴一覧表	257
第20表	2区ピット一覧表	281
第21表	7号柱穴列柱穴一覧表	291

第22表	2区北18号掘立柱建物柱穴一覧表	298
第23表	3区19号掘立柱建物柱穴一覧表	301
第24表	2区北16号掘立柱建物柱穴一覧表	321
第25表	2区北17号掘立柱建物柱穴一覧表	322
第26表	4区20号掘立柱建物柱穴一覧表	324
第27表	21号溝内ピット一覧表	333
第28表	27号溝内ピット一覧表	334
第29表	2区北～5区ピット一覧表	378
第30表	礫の集計	396
第31表	礫の度数集計	397
第32表	年代測定結果	404
第33表	旧石器遺物一覧表	407
第34表	テフラ検出分析結果	414
第35表	テフラ検出分析結果	414
第36表	テフラ検出分析結果	422
第37表	測定試料および処理	426
第38表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	427
第39表	樹種同定結果	429
第40表	3区の植物珪酸体含量	433
第41表	多田山東遺跡遺物観察表	436



# 第1章 発掘調査の経過

## 第1節 発掘調査に至る経緯

### 1. 概要

多田山東遺跡は伊勢崎市赤堀今井町に所在する旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。特に古墳時代から平安時代までの集落が色濃く展開している様相が窺える。本遺跡では、令和元年11月から令和2年9月にかけて、一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施した。本書は、その埋蔵文化財発掘調査報告書である。

### 2. 前橋笠懸道路について

前橋笠懸道路は、一般国道50号の慢性的な交通渋滞の解消及び地域住民の生活環境における安全性向上を目的として計画された大規模道路である。群馬県前橋市今井町から、群馬県みどり市笠懸町鹿で現道に接続するまでの計画延長12.5kmの道路である。前橋市今井町から伊勢

崎市赤堀今井町までは現道拡幅区間4.5km、伊勢崎市赤堀今井町からみどり市笠懸町鹿までは新規バイパス区間7.5km、みどり市笠懸町鹿地内は現道拡幅区間0.5kmである。当該区間は群馬県中央部の東に位置しており、県都前橋と東毛地域を結ぶ重要な幹線道路である。周辺の土地利用は田畑等の耕作地が広がっている。当該区間通過の損失時間が多く、車両相互の事故も多発しているが、前橋笠懸道路の整備により、交通の円滑化が図られ渋滞緩和及び安全性の向上が見込まれる。

前橋笠懸道路の建設事業は、平成13年度に事業化され、平成18年度に環境影響評価が下されて、平成19年1月に都市計画が決定した。平成21年度に前橋市から伊勢崎市の現道拡幅部の用地買収に着手し、平成24年度に着工した。平成25年3月には歩道橋架け替え工事が実施され2橋が完成した。平成25年度には鹿交差点から笠懸小学校交差点にかけての現道拡幅区間の用地買収に着手し、平成25年12月に開通した。



第1図 多田山東遺跡位置図(国土地理院5万分の1地形図『前橋』(平成10年3月1日発行)を使用)

### 3. 前橋笠懸道路と埋蔵文化財

前橋笠懸道路は、赤城山南麓から大間々扇状地にかけて群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地が分布する地域を通過する。その路線は、おおむね①前橋市今井町から伊勢崎市赤堀今井町までの現道拡幅区間、②伊勢崎市赤堀今井町からみどり市笠懸町鹿までのバイパス新築区間、③みどり市笠懸町鹿地内での現道取り付け部分の3つの区間に分けることができる。

①の区間の西部では、荒砥北部圃場整備事業や上武道路建設工事に伴って、周辺で荒砥北三木堂遺跡、今井道上道下遺跡、二之宮谷地遺跡、荒砥上ノ坊遺跡、荒砥洗橋遺跡等が調査されている。東部も安定した山麓台地上に遺跡が点在しており、今後の前橋笠懸道路建設工事との調整のなかで記録保存のための発掘調査が想定される。

②の区間は、平成30年10月に西端の柳田遺跡から前橋笠懸道路用地内の発掘調査が開始され、徐々に東に向かって進行している。現状では鑄木川左岸の社南遺跡まで調査に着手している状況である。本書で報告する多田山東遺跡もこの②区間西端の遺跡群の一つである。今後、東の大間々扇状地地域についても、埋蔵文化財調査が想定される。

③の地点では国道50号への取り付け交差点部分は調査不要となり、工事が終了している。

### 4. 発掘調査に至る経緯

平成29年10月25日、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所(以下高崎河川国道事務所)より群馬県教育委員会文化財保護課(以下文化財保護課)に一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に関連して、事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地について照会があった。

平成29年10月27日、文化財保護課は高崎河川国道事務所に対し、事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地について回答した。

平成29年11月29日、高崎河川国道事務所、文化財保護課、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)の三者により、「一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する基本協定書」及び「細目協定書」が締結された。

平成30年11月14日、高崎河川国道事務所より文化財保護課に試掘・確認調査の実施が依頼された。

平成30年11月19・20日、文化財保護課が多田山東遺跡1区・2区の試掘・確認調査を実施した。竪穴建物・掘立柱建物・土坑・As-B下水田、Hr-FP下の溝等が検出され、古墳時代～古代の土師器が出土した。

平成30年11月30日、文化財保護課は高崎河川国道事務所に対し、試掘・確認調査によって遺構・遺物が確認されたことから、発掘調査が必要となる旨を回答した。

令和元年9月13日、高崎河川国道事務所より伊勢崎市教育委員会に94条通知が提出され、伊勢崎市教育委員会は同日付で文化財保護課に進達した。

これらの経緯を経て、高崎河川国道事務所からの委託により事業団が令和元年11月1日より令和2年3月31日まで発掘調査を実施した。

また、令和元年8月30日、高崎河川国道事務所より文化財保護課に試掘・確認調査の実施が依頼された。

令和元年9月10・11日、文化財保護課が多田山東遺跡2区北～5区の試掘・確認調査を実施した。その結果溝・土坑・ピット等が検出され、古墳時代～古代の土師器が出土した。

令和元年9月17日、文化財保護課は高崎河川国道事務所に対し、試掘・確認調査によって遺構・遺物が確認されたことから、発掘調査が必要となる旨を回答した。

令和2年3月、高崎河川国道事務所より伊勢崎市教育委員会に94条通知が提出された。伊勢崎市教育委員会は同日付で県教育委員会文化財保護課に進達した。

これを受け、高崎河川国道事務所からの委託により事業団が令和2年4月1日より令和2年9月30日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 発掘調査の方法

### 1. 調査区の設定

多田山東遺跡の発掘調査は、調査対象地を横切る市道等を境に、6つの調査区に分け、南西から「1区」「2区」「2区北」「3区」「4区」「5区」とした。

発掘調査に用いた座標は、国家座標「世界測地系(測地成果2011平面直角座標第IX系)」を用いた。第IX系の原点は、北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 0″(千葉県野田市)である。1m四方の区画を1単位として区画を設定している。本報告書内での呼称は、座標数値の下3桁で表記している。グリッドの設定は行わなかった。

なお、本遺跡はX=42,658~42,980、Y=-55,368~-55,780の範囲内にある。

### 2. 調査の方法

調査の方法は、標準的な方法を用いた。表土除去は重機(バックホー)を用い、重層する遺構調査面も必要に応じて重機(バックホー)で掘削を行った。

表土及び各文化層除去後、発掘作業員が鋤簾を用いて直下の露呈面(遺構面)の平面精査を行い、人為的な掘り込み箇所を認定することにより遺構確認を行った。確認した遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、発掘作業員が移植鏝等で掘削し、担当者が遺構の精査及び写真撮影を行って、測量会社が遺構の測量作業を行うという手順で記録した。遺構番号は、調査区により区分せず、通し番号とした。埋め戻しは重機(バックホー)を用いて行った。

遺構図等の測量は、測量会社に委託した。遺構断面図、遺構平面図、出土遺物図等の図化は、測量会社にデジタル測量を指示して調査期間の短縮と調査の効率化を図った。遺構図の縮尺は断面図・平面図とも1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40とした。また、全体図については1/200とした。

遺構等の写真撮影は、調査担当者が撮影した。ブローニー版モノクロフィルム、ブローニーカラーポジフィルム、デジタルカメラで撮影した。デジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名

は、遺構略号・番号・撮影方向・内容を記号化したものに置き換えるリネーム作業を行った。遺構ごとに土層断面、遺物出土状況(必要に応じて接写)、全景等を撮影した。その際必要に応じて高所作業車を利用し、高い位置からの撮影を行った。更に、調査区全景写真については、調査区ごとに区切りのついた段階で、測量会社に空中写真撮影を委託して、ラジコンヘリコプターを使用し、より高い位置からの撮影を実施した。

## 第3節 発掘調査の経過

### 1. 経過

発掘調査は、「1区」から「5区」までの範囲について、状況に応じて複数の調査区を並行して行うなど、作業効率を考慮して行った。

令和元(2019)年度は、令和元(2019)年11月1日から令和2(2020)年3月31日までの5か月間、調査面積は8,747㎡、令和2(2020)年度は、令和2(2020)年4月1日から令和2(2020)年9月30日までの6か月間、調査面積は8,475㎡である。

#### 【令和元年度】

令和元年度は、市道1210号線の南側に位置する1区と同市道北側の2区の調査を実施した。令和元年11月に1区から先行して調査を開始し、その後1区と2区の調査を並行して行い、1区の調査終了後、2区の残りの調査を行った。

調査は、1区の南側から着手し、11月6日から重機を用いた表土除去作業や発掘作業員による人力掘削を実施し、ローム層上面で遺構を確認した。後世の土地利用や攪乱により遺構の残存状態が良くない箇所もあったが、古墳時代から平安時代にかけての集落が展開していた。竪穴建物、掘立柱建物、方形周溝墓、溝などを確認した。また、縄文時代や弥生時代の遺構も確認した。この面の調査終了後、旧石器確認調査を行った。一部の土層、遺物については、その性質をより明らかにするために自然科学分析の業務委託を実施した。令和2年3月末に全発掘調査工程が完了し、埋戻しも終了した。更に、2年度調査の準備として、3区及び4区の表土掘削を開始した。

【令和2年度】

令和2年度は、2区の北に位置する2区北及びその東側の3区～5区の調査を実施した。令和2年4月に4区から開始し、適宜複数の区を並行して調査を進め、2区北～5区の調査を行った。

調査は、元年度末に表土掘削を行った4区の西側より着手し、4月8日から発掘作業員による人力掘削を行うと共に、4月9日から2区北の西側より重機を用いた表土除去作業や発掘作業員による人力掘削を実施した。全調査区において、主にローム層上面で遺構を確認したが、3区の一部では、As-B混土層やAs-Bの一次堆積層が残存し、他の遺構の検出面より上層にあたる黒褐色土中で溝を確認した。ローム上面では、竪穴建物、掘立柱建物、溝などを確認した。特に、2区北から3区の西側の範囲では、溝を伴う柱穴列及びその内部にあたる範囲内で複数の竪穴建物や類例の少ない掘立柱建物を確認した。これらの調査終了後、旧石器確認調査を行った。一部の土層、遺物については、その性質をより明らかにするために自然科学分析の業務委託を実施した。令和2年9月末に全発掘調査工程が完了し、埋戻しも終了した。調査日誌抄は以下のとおりである。



表土除去作業と掘削作業



竪穴建物内の掘削作業

【令和元年度】

令和元年11月

- 1日 調査担当2名着任
- 5日 調査事務所等設置
- 6日 1区 表土掘削・遺構確認開始
- 7日 1区 1号方形周溝墓調査開始
- 18日 2区 表土掘削・遺構確認開始
- 19日 1区 1号方形周溝墓全景撮影  
(高所作業車を使用し撮影)  
各遺構調査開始

同年12月

- 2日 調査担当新たに1名、計3名着任
- 3日 2区 各遺構調査開始
- 25日 1区 調査区全景撮影  
(ラジコンヘリによる空中撮影)  
旧石器確認調査開始

令和2年1月

- 7日 1区 旧石器確認調査継続  
2区 各遺構調査継続
- 31日 1区 旧石器確認調査終了

同年2月

- 3日 調査担当新たに1名、計4名着任
- 4日 2区 北側全景撮影  
(ラジコンヘリによる空中撮影)  
旧石器確認調査開始
- 25日 4区表土掘削開始

同年3月

- 3日 3区表土掘削開始
- 4日 2区 南側全景撮影  
(ラジコンヘリによる空中撮影)
- 13日 2区 旧石器確認調査終了
- 16日 3・4区 調査区整備
- 17日 2区 重機による埋め戻し作業開始
- 24日 2区 重機による埋め戻し作業終了  
調査事務所撤収

## 【令和2年度】

令和2年4月

- 1日 調査担当1名着任
- 2日 調査事務所等設置
- 8日 4区 遺構確認・各遺構調査開始
- 9日 2区北 表土掘削・遺構確認開始
- 14日 2区北 各遺構調査開始
- 3区 遺構確認・各遺構調査開始

同年5月

- 1日 調査担当新たに1名、計2名着任
- 27日 2区北・3区・4区(西) 全景撮影  
(ラジコンヘリによる空中撮影)

同年6月

- 1日 3区 旧石器確認調査開始
- 10日 3区 旧石器確認調査終了
- 17日 5区 表土掘削・遺構確認開始
- 22日 5区 各遺構調査開始
- 26日 4区(東)・5区(西) 全景撮影  
(ラジコンヘリによる空中撮影)

同年7月

- 1日 4区 旧石器確認調査開始
- 10日 2区北 旧石器確認調査開始
- 14日 2区北・4区 旧石器確認調査終了
- 15日 2区北 重機による埋め戻し

同年8月

- 5日 5区(東) 全景撮影  
(ラジコンヘリによる空中撮影)
- 6日 3区・4区 重機による埋め戻し作業開始
- 12日 3区 重機による埋め戻し作業終了
- 7日 5区 旧石器確認調査開始
- 25日 5区 旧石器確認調査終了
- 28日 5区 重機による埋め戻し作業開始

同年9月

- 2日 5区 重機による埋め戻し作業終了
- 4日 4区 重機による埋め戻し作業終了
- 7日 3区 重機による埋め戻し作業終了
- 15日～ 遺物整理・洗浄注記用遺物収納、  
写真、図面整理
- 28日 調査事務所撤収

## 第4節 整理事業

整理事業は、国土交通省関東地方整備局の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれにあたることとなり、令和3年4月に開始した。

遺物の分類、調査図面の確認、編集作業から始め、出土遺物の接合・復元、復元した土器及び石製品や鉄製品などの写真撮影、出土遺物の実測図作成、編集した遺構図・遺物図のデジタル編集を行った。遺構写真については、デジタル写真から編集を行った。

また、一部の遺構については、平成11年度に赤堀町教育委員会によって調査された範囲との関連が想定されたため、同調査結果及び出土遺物を視察し、本遺跡の遺構の理解及び整理事業に活用した。

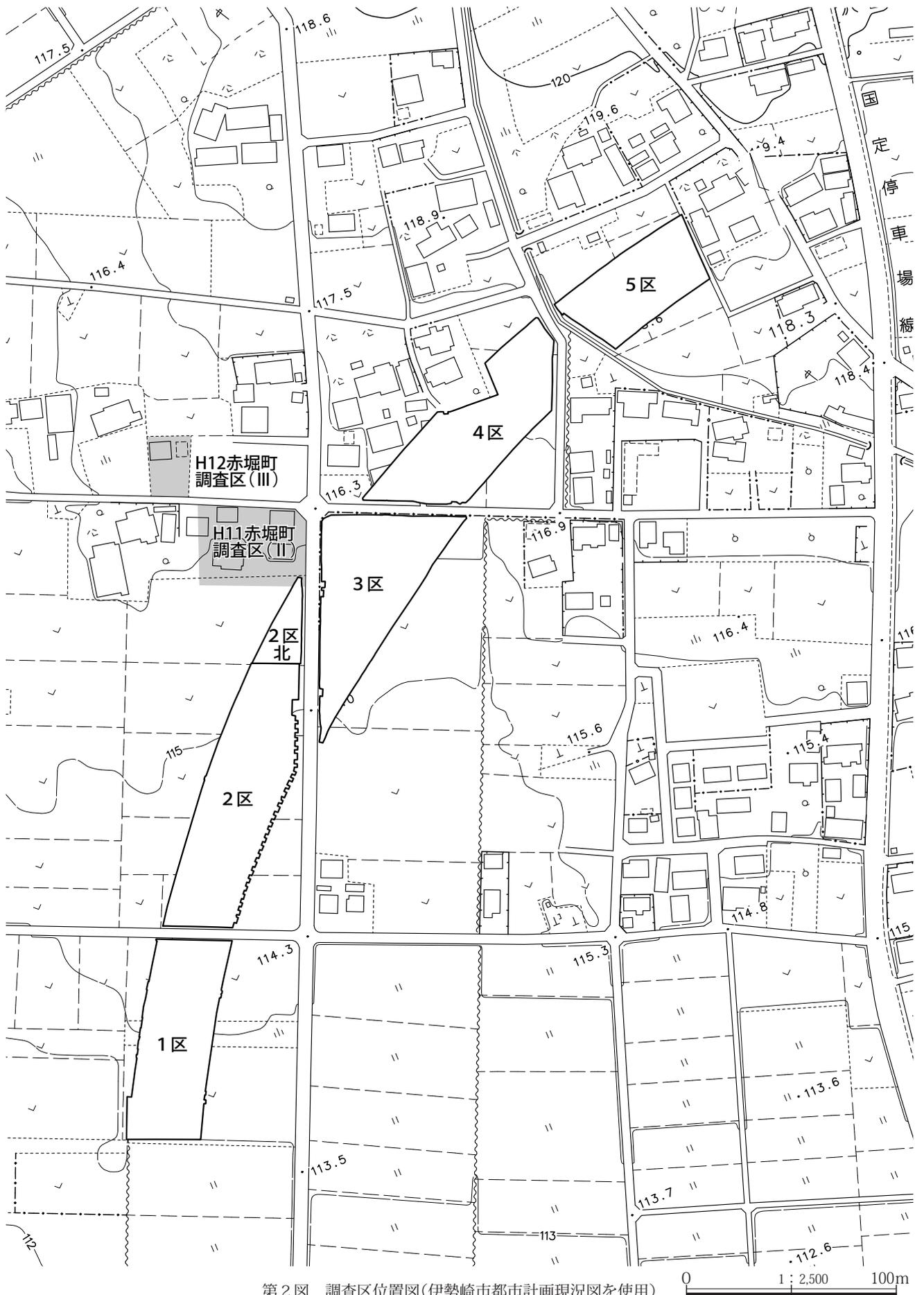
こうした作業と並行し、本文原稿の執筆・遺物観察表作成作業を進め、令和6年3月に調査報告書を刊行した。遺物・図面・写真等の記録資料については、遺物管理台帳および写真管理台帳を作成し、今後の活用に向けて遺物や図面の収納作業を行い、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管した。



土器接合・復元作業



原稿執筆作業



第2図 調査区位置図(伊勢崎市都市計画現況図を使用)

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

多田山東遺跡は、伊勢崎市赤堀今井町内に所在し(第1図)、多田山丘陵の東側、標高115m程度の南北に伸びる舌状の低台地上に立地する。多田山丘陵の東側沿いには湧水点及び無名河川があり谷地形を形成するが、その先は平坦面となり調査地点での地形は東側に緩やかに傾斜する。遺跡周辺は畑地および水田として利用されている。地層は、推定約10,000年前にできたローム漸移層の下位に、浅間山起源のテフラである浅間板鼻黄色テフラ(約16,000年前)、浅間板鼻褐色テフラ(約25,000年前)を層序に含むローム土壌の堆積を確認することができる。

遺跡の北方17kmにある赤城山は、群馬県の中央東よりに位置する日本有数の大規模な複合成層火山である。黒檜山(1,828m)を最高峰とし、日本の火山帯が集中する那須火山帯に属している。赤城山の山体は急な斜面から構成される山頂部とのびやかな裾野から構成されている。また、赤城山は山の高さに比して山体の占める面積が大きく、裾野は主に火砕流堆積物と扇状地堆積物から構成されている。赤城山北西面は大規模な輻射谷が形成されており丘陵性台地を成す火山原面であり、溶岩円頂丘が見られる。南麓では浅い輻射谷と狭い丘陵性台地が密集しており、その集積体として緩やかな火山原面からなる広大な裾野地形が形成されている。また、南麓では標高500m前後で急斜面の山地から丘陵性台地への地形の変容が見られ、伸びやかな裾野が展開する。特に標高200mよりも下位の地域は低台地を形成している。この低台地域では、荒砥川、神沢川、桂川、粕川など山腹より流出する大小河川や、山麓端部から流れ出る湧水によって樹枝状に開析が進み、複合的に形成された比較的規模の小さい丘陵地形が形成されている。

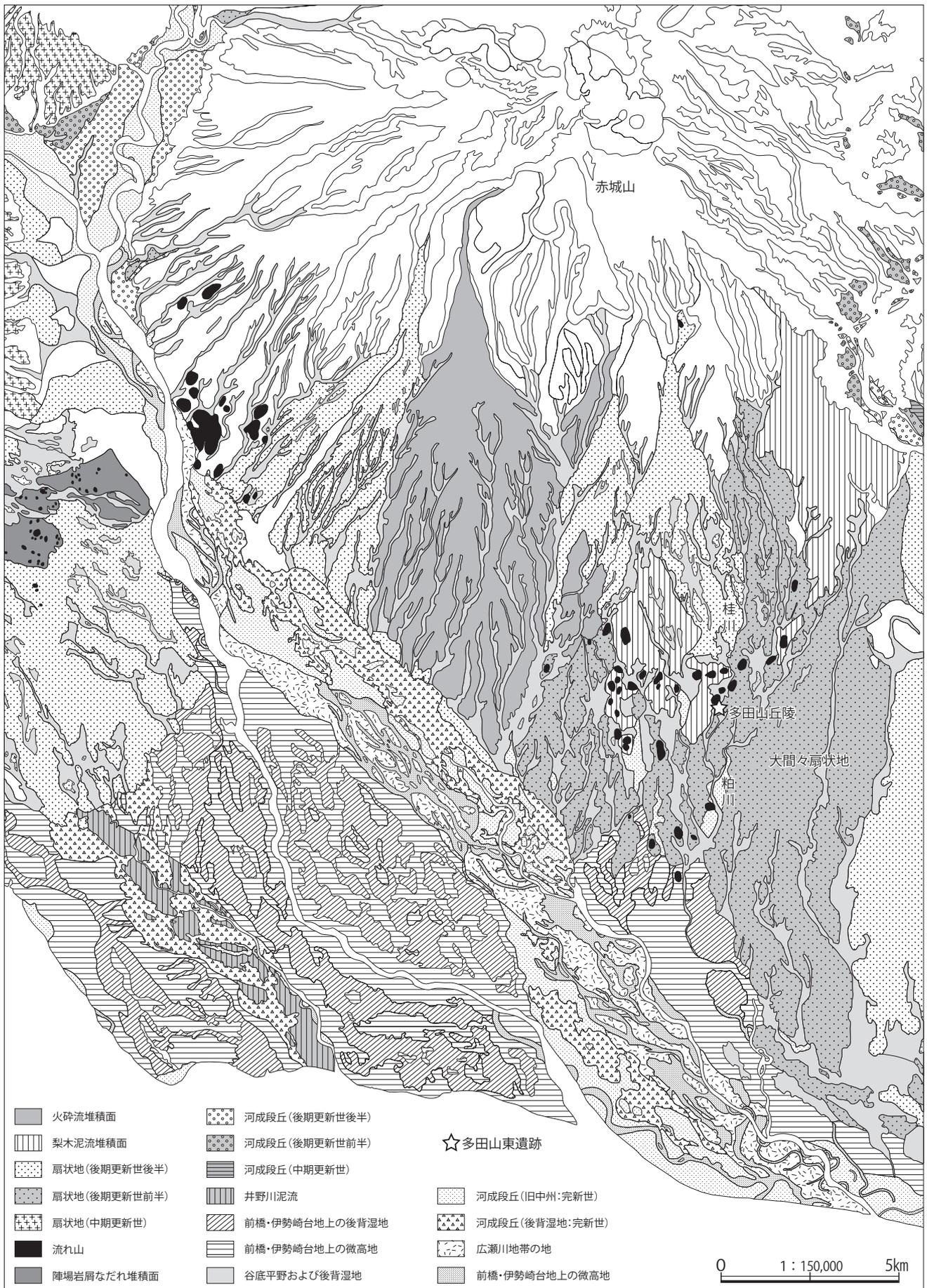
本遺跡は粕川と桂川の間、後期更新世前半の扇状地の開析台地にある。遺跡の両側には開析された谷底平野がある。また、赤城山南麓の標高200mより下位の地域では、およそ20万年前に生じた火山性の山体崩壊に伴い発生した岩屑なだれである梨木泥流による泥流堆積面及び山

麓端部に形成された流れ山が多数分布している。流れ山形成の経緯については、赤城山の形成の過程において以下のように位置づけられる。

赤城山の形成の歴史は、古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期に区分される。その中でも古期成層火山形成期で特筆すべきは梨木泥流の発生である。梨木泥流は山体崩壊に起因する大規模な岩屑なだれで、堆積物は東麓から南東麓の広い地域を覆っている。西部の堆積面上には多くの流れ山が分布している。赤城山は、その後の休止期で山体の侵食が進んだ。新期成層火山の山体は主に溶岩流とテフラから構成されており侵食の進んだ古期成層火山を覆って形成された。カルデラと中央火口丘群が形成された後、卓越した侵食作用により現在の赤城山が形成されていく。

本遺跡の西に位置する多田山丘陵は、古期成層火山形成期に発生した梨木泥流の発生に起因する流れ山の一つである。南北長約2.0km、東西幅約1kmで、最大標高159.1m、周囲との最大比高は40mをなす際立った丘陵である。丘陵頂部はなだらかな緩斜面が広がっているが、中腹から裾部にかけて傾斜は東側で勾配がやや緩やかであるものの、西側ではかなりの急勾配となっている。その姿は古来より地域に認識され、生活の風景に溶け込んでいたと推察できる。堂々たる偉容を呈し、当該地域では小学校の校歌や地域カルタにも登場する程象徴的な存在となっている。

多田山丘陵は、約20万年前の火砕流堆積物、梨木泥流に由来しており、その後侵食され南北に走る幅の狭い尾根状丘陵が形成された。またその地形を細かく観察すると、多田山丘陵は分断された箇所があり、幾つかの丘陵鞍部が見られる。特に顕著な鞍部は、その後丘陵を超える際の道筋になったと考えられる。今井三騎堂遺跡と今井見切塚遺跡の間の丘陵鞍部も前橋東部と赤堀・桐生方面をつなぐ県道が建設されている。岩宿遺跡の立地条件も、多田山東遺跡のように丘陵鞍部の両側が旧石器遺跡となる様相が見られ、遺跡立地・文化層の様相について地形との関連性が指摘されている。また、周辺地域には



第3図 周辺地形分類図(『群馬県史』通史編1 付図2を使用)

産泰丘陵・石山丘陵・堂山丘陵など多田山丘陵と同じ由来の丘陵が散在している。梨木泥流が形成した流れ山の最南端は、大間々扇状地の桐原面にあたる権現山丘陵まで南下している。県民に馴染みが深い赤城山麓の景色は、このように広大で伸びやかな裾野と点在する多田山丘陵をはじめとする丘陵群及びその奥に佇む赤城山本体で形成されている。

この多田山丘陵の西側には桂川が近接して南流し、約1km離れた東側には大間々扇状地と赤城山麓を隔てる粕川が南流している。粕川を境にしてその東には大規模な平坦面を形成する大間々扇状地の低台地が広がっており、広範囲が水田として利用されてきた。

本遺跡は桂川と粕川によって開析された赤城山南麓の台地面にある。遺跡地周辺の台地上にも水田化が進んだため旧地形が読みとりにくい。遺跡は細い台地上にあり、東西に小さな谷がある。西側の谷を隔てた先には多田山丘陵の東斜面が存在していた。その丘陵の山頂から東斜面にかけての範囲に今井三騎堂遺跡と今井見切塚遺跡がある。この2つの遺跡は実質的に一つのエリアを構成しており、縄文時代から古墳時代を経て平安時代までの集落が形成されている。多田山東遺跡の立地を考えるに際しては、周辺の微地形を復元しながらこれらの遺跡との関連性をとらえることが重要である。

#### 参考文献

- 『群馬県史』通史編1 群馬県史編纂委員会1990  
『前橋市史』第一巻 前橋市史編さん委員会1971  
『伊勢崎市史』通史編1 伊勢崎市史編纂委員会1987  
『多田山古墳群』『今井三騎堂遺跡―旧石器時代編―』  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2004  
『今井三騎堂遺跡 今井見切塚遺跡―縄文時代編―』  
『今井三騎堂遺跡 今井見切塚遺跡―歴史時代編―』  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005  
『今井見切塚遺跡―旧石器時代編―』  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007  
マッピングぐんま  
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>

## 第2節 歴史的環境

調査対象地は周知の遺跡として伊勢崎市の遺跡台帳に登録されている(伊勢崎市遺跡番号 AK044)地点に所在し、昭和56年度に赤堀村教育委員会、平成11年度～平成12年度に赤堀町教育委員会によって、その範囲内の調査が行われている。また、周辺にも多数の遺跡が確認されている。

### 旧石器時代

本遺跡周辺は全国有数の旧石器遺跡の密集地帯である。主な遺跡としては谷を挟んだ西側の丘陵に今井三騎堂遺跡(7)と今井見切塚遺跡(8)があり、4文化層から2万点を超える石器や石片が出土している。また、南西3km程に位置する下触牛伏遺跡(59)では国内で初めて環状ブロック群が発見されている他、2文化層が確認された光仙房遺跡(66)、石器群が確認された堀下八幡遺跡(62)や舞台遺跡(67)なども挙げられる。

### 縄文時代

縄文時代の遺跡には、昭和56年度赤堀村調査の多田山東遺跡(3)〈以下「S56多田山遺跡」〉、田向遺跡(5)、柳田遺跡(6)、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、今井学校遺跡(15)、荒砥上川久保遺跡(17)、社北遺跡(24)、下縄引遺跡(30)、上縄引遺跡(31)、大室小学校校庭遺跡(33)、北山遺跡(36)、寺回遺跡(39)、今井南原遺跡(43)、長岡遺跡(51)、東原遺跡(53)、鷹巣遺跡(55)、北通遺跡(56)、釜ノ口遺跡(57)、北通西遺跡(58)、下触牛伏遺跡、今宮遺跡(60)、堀下八幡遺跡、五目牛南組遺跡(63)、洞山遺跡(64)、舞台遺跡がある。これらの遺跡のほとんどで、竪穴建物が確認されており、時期は早期から後期まで様々である。他に今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡では掘立柱建物、同2遺跡及び柳田遺跡、荒砥上川久保遺跡、上縄引遺跡、長岡遺跡、東原遺跡、下触牛伏遺跡では集石遺構が確認されている。

### 弥生時代

弥生時代の竪穴建物が確認された遺跡は、S56多田山東遺跡、梅木遺跡(19)、久保皆戸遺跡(20)、五反田遺跡(21)、前原遺跡(22)、今井南原遺跡、西迎遺跡(50)である他、上縄引遺跡では周溝墓、五目牛南組遺跡では後期再葬墓が確認されている。また、弥生時代後期末～古墳

時代初期の遺構としては、西原遺跡(48)で環濠集落が確認されている。

### 古墳時代

古墳時代になると、遺跡の確認数が増加し、本遺跡周辺の多くの遺跡において、古墳時代の竪穴建物が確認されている。時期は前期から後期まで様々で、本遺跡に隣接する平成11年度赤堀町調査の多田山東遺跡(2)でも、前期1棟、後期2棟の竪穴建物が調査されている。また、中畑遺跡(46)、長岡遺跡では掘立柱建物が確認されている。

毒島城跡(9)では、古墳時代中期の土器も出土していることから首長居館が想定されており、今井学校遺跡、梅木遺跡でも居館の一部が検出されている。

三ヶ尻西遺跡(47)では、7世紀中葉～後葉のものと思われる製鉄炉が検出され、輪の羽口や鉄鍬等の鉄製品を伴う竪穴建物を含め、東日本最古の製鉄関連集落と考えられている。三ヶ尻西遺跡の北に位置する松原田遺跡(52)でも類似する製鉄炉が確認されている。その他、東原遺跡では炭窯、釜ノ口遺跡では埴輪工房、光仙房遺跡では粘土採掘坑が確認されている。

この地域は古墳も多く、国指定史跡の前二子古墳(27)、中二子古墳(28)、後二子古墳(29)を始め、本遺跡の北西約700mの位置には、家形埴輪などの豊富な形象埴輪群が出土した前方後円墳の赤堀茶白山古墳(10)がある。また、本遺跡の西約500mに位置し、唐三彩陶枕が出土した12号墳を含む多田山古墳群(A)の他、三騎堂古墳群(B)、吉沢峯・轟山古墳群(C)、北原古墳群(D)、神社丘古墳群(E)、田向古墳群(F)、峯岸山古墳群(G)といった多くの古墳群が周辺に存在する。古墳群として挙げたもの以外にも、荒砥村245号古墳(16)や、御伊勢坂遺跡(12)、今井学校遺跡、荒砥上諏訪遺跡(32)、武泰遺跡(38)、今井南原遺跡、長岡遺跡、東原遺跡、釜ノ口遺跡、下触牛伏遺跡、今宮遺跡、五目牛南組遺跡、洞山遺跡、上植木光仙房遺跡(65)では、主に小規模な円墳(上植木光仙房遺跡の殖蓮村62号墳は前方後円墳)が確認されている。その他、古墳時代の遺構として確認されたのは、今井北原遺跡(11)と御伊勢坂遺跡の溝、田宿遺跡(14)、三ヶ尻西遺跡の水田、荒砥上川久保遺跡、西迎遺跡、洞山遺跡の方形周溝墓、梅木遺跡の円形周溝遺構、磯前田遺跡(26)の周溝遺構・土壙墓、下寺遺跡(42)の周溝遺構である。

### 奈良・平安時代

奈良・平安時代についても、本遺跡周辺に多くの遺跡が見られ、周辺遺跡分布図に挙げたほとんどの遺跡において、竪穴建物が確認されている。また、田向遺跡、荒砥上諏訪遺跡、向井遺跡(41)、川上遺跡(44)、鷹巣遺跡、北通西遺跡、今宮遺跡、堀下八幡遺跡では掘立柱建物が確認された。稀有な遺構としては、舞台遺跡、光仙房遺跡の須恵器窯が挙げられ、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡では炭窯・竪形炉・精錬鍛冶遺構・火葬墓、五目牛南組遺跡でも炭窯が確認されている。その他、田宿遺跡や三ヶ尻西遺跡では、古墳時代から平安時代にわたって長く耕作が行われた可能性のある水田、梅木遺跡では畑・水田、波志江中峰岸遺跡(61)では水田、田向遺跡、今井北原遺跡、荒砥五反田遺跡(18)、西大室上諏訪遺跡(34)、寺回遺跡、上植木光仙房遺跡では溝が見つかっている。

### 中・近世

中世の遺構としては、毒島城跡、赤堀城(13)がある。毒島城は鎌倉・室町時代、赤堀城は室町時代の城館で、いずれからも五輪塔などが出土している。城館以外では、上植木光仙房遺跡で竪穴建物、長岡遺跡で炭窯、今井三騎堂遺跡、北山遺跡で土壙墓、今井北原遺跡で道路・溝、梅木遺跡で井戸、下縄引遺跡で環濠、今井南原遺跡で溝が確認されている。また、女堀(54)は中世初期に前橋市上泉町付近から旧佐波郡東村西国定までの13kmにわたって開削された未完成の水路である。中世以降～近世・近代の遺構としては、今宮遺跡の掘立柱建物・溝、五目牛南組遺跡の掘立柱建物・礎石建物・井戸・畑等、荒砥上諏訪遺跡、川上遺跡、上植木光仙房遺跡の溝が挙げられる。



第4図 周辺遺跡分布図(国土地理院電子地形図25,000『大胡』(平成30年8月7日発行)を使用)

第2章 遺跡の環境

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・概要	文献
1	多田山東遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○		本報告書
2	多田山東遺跡 (平成11・12年度赤堀町調査)				○	○	○		○	古墳～平安：竪穴建物、近世：溝、時期不詳：掘立柱建物	『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町教育委員会2000 『平成12年度『町内遺跡発掘調査報告』赤堀町教育委員会2001
3	多田山東遺跡 (昭和56年度赤堀村調査)		○	○	○	○				縄文：前期竪穴建物、弥生～奈良：竪穴建物	『多田山東遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会1982
4	今井西原遺跡		○		○					縄文土器、土師器壺などが出土。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
5	田向遺跡		○		○	○	○			縄文：竪穴建物、古墳：竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物・掘立柱建物・溝	『今井柳田遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会1982
6	柳田遺跡		○		○	○	○			縄文：竪穴建物・集石遺構、古墳：竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物	『今井柳田遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会S56
7	今井三騎堂遺跡		○	○	○	○	○	○	○	旧石器：第Ⅱ～第Ⅳ文化層のブロック・礫群、縄文：竪穴建物・掘立柱建物・貯蔵穴・墓壇・陥穴・集石土坑、古墳：後期～終末期の古墳・埴輪棺・石槨墓・竪穴、奈良・平安：竪穴建物・炭窯・竪形炉・精錬鍛冶遺構、平安：火葬墓、中世：土壇墓、近世：土壇墓	『今井三騎堂遺跡―旧石器時代編―』群馬県埋蔵文化財調査事業団2004 『多田山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団2004 『今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―縄文時代編―』『〃―歴史時代編―』群馬県埋蔵文化財調査事業団2005
8	今井見切塚遺跡		○	○	○	○	○	○	○	旧石器：第Ⅰ～第Ⅳ文化層のブロック・第Ⅱ～第Ⅳ文化層の礫群、縄文：竪穴建物・掘立柱建物・貯蔵穴・墓壇・陥穴・集石土坑、古墳：後期～終末期の古墳・石槨墓、奈良・平安：竪穴建物・炭窯・竪形炉・精錬鍛冶遺構、平安：火葬墓、中世：土壇墓、近世：土壇墓	『多田山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団2004 『今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―縄文時代編―』『〃―歴史時代編―』群馬県埋蔵文化財調査事業団2005 『今井見切塚遺跡―旧石器時代編―』群馬県埋蔵文化財調査事業団2007
9	毒島城跡				○			○		古墳：5世紀代の居館、中世：鎌倉・室町時代の墳墓・城館跡。五輪塔・板碑などが出土。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971 『考古学雑誌』第72巻第4号 日本考古学会「古墳時代における首長層の居宅と奥津城」橋本博文1987
10	赤堀茶白山古墳				○					5世紀中葉以降、全長70m、竪穴式の前方後円墳(帆立貝形)。2つの木炭樫。剣・刀・鏡・家形埴輪などが出土。	『上野国佐波郡赤堀村今井茶白山古墳』後藤守一1933 『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971 平成7～9年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1996～1998
11	今井北原遺跡		○		○	○	○	○		古墳：前期竪穴建物・溝、奈良・平安：竪穴建物・溝、中世：道路跡・溝	平成元年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1990 『今井北原遺跡Ⅶ』伊勢崎市教育委員会2006 『今井北原遺跡Ⅷ』伊勢崎市教育委員会2008 『今井北原遺跡Ⅸ』(有)毛野考古学研究所2012
12	御伊勢坂遺跡				○	○	○			古墳：竪穴建物・横穴式両袖形石室の古墳・溝、奈良・平安：集落	平成3・9・11年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1992・1998・2000
13	赤堀城				○			○		中世：室町時代の城館跡。藤原秀郷の末裔とされる赤堀氏の居城。南北350m、東西170mの規模。五輪塔などが出土。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
14	田宿遺跡				○	○	○			古墳～平安：水田	平成15年度『町内遺跡調査概報』赤堀町教育委員会2004 平成13年度『町内遺跡発掘調査報告』赤堀町教育委員会2002
15	今井学校遺跡		○		○	○	○			縄文：竪穴建物、古墳：6世紀後半の居館・竪穴建物・赤堀170号墳、奈良・平安：竪穴建物	昭和63年『町内遺跡発掘調査報告』赤堀町教育委員会1989 平成元・9年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1990・1998 『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町教育委員会2000 平成15年度『町内遺跡調査概報』赤堀町教育委員会2004
16	荒砥村245号墳				○					6世紀前半、径12mの円墳。両袖型横穴式石室。周堀内縁から150cm～165cm程内側に、円筒埴輪9個体が約60cmの間隔に樹立した状態で検出。女室内よりガラス小玉、水晶製切子玉、碧玉製管玉、鉄鏃、刀子、金銅製耳環、土師器高坏、須恵器提瓶などと共に少量の人骨が出土。	『荒砥宮川遺跡・荒砥宮原遺跡』群馬県教育委員会1993
17	荒砥上川久保遺跡		○		○	○	○			縄文：竪穴建物・配石遺構、古墳：竪穴建物・方形周溝墓、奈良・平安：竪穴建物など	『荒砥上川久保遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1982
18	荒砥五反田遺跡				○	○	○			古墳：竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物・溝	『荒砥五反田遺跡』群馬県教育委員会1978 『荒砥五反田遺跡Ⅱ』群馬県埋蔵文化財調査事業団2005
19	梅木遺跡		○	○	○	○	○	○		弥生：竪穴建物、古墳：竪穴建物・館跡・円形周溝、奈良・平安：竪穴建物・畠状遺構・水田址、中世：井戸	『梅木遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1986
20	久保皆戸遺跡		○	○	○	○	○			弥生：竪穴建物、古墳：前期竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物など	『西大室遺跡群』前橋市教育委員会1983
21	五反田遺跡				○	○	○			弥生後期～平安：竪穴建物・集石遺構	『深津地区遺跡群』粕川村教育委員会1987
22	前原遺跡			○						弥生：中期後半竪穴建物	『深津地区遺跡群』粕川村教育委員会1987
23	打越前遺跡						○			平安：竪穴建物	『深津地区遺跡群』粕川村教育委員会1987
24	社北遺跡		○		○	○	○			縄文：竪穴建物、古墳～平安：竪穴建物	平成8年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1997
25	磯前原遺跡				○					古墳：前期竪穴建物	平成3年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1992
26	磯前田遺跡		○		○					古墳：前期竪穴建物・周溝・土壇墓	平成元・14年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1990・2003 平成14年度『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会2003

第2節 歴史的環境

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・概要	文献
27	前二子古墳				◎					6世紀前半、全長93m、2段築城の前方後円墳。両袖型横穴式石室。石室内部にベンガラによる赤色塗彩。	『前二子古墳』前橋市教育委員会1993
28	中二子古墳				◎					6世紀前半、全長111m、2段築城の前方後円墳。横穴式石室か。	『中二子古墳』前橋市教育委員会1995
29	後二子古墳				◎					6世紀中～後半、全長82m、2段築城の前方後円墳。円筒埴輪の側面に貼付された猿と犬の土製小像が出土。	『後二子古墳・小二子古墳』前橋市教育委員会1992
30	下縄引遺跡		◎		◎			◎		縄文：竪穴建物、古墳：竪穴建物、中世：環濠	『内堀遺跡群VII』前橋市教育委員会1995 『内堀遺跡群XI』前橋市教育委員会1999
31	上縄引遺跡		◎	◎	◎	◎	◎			縄文：竪穴建物・集石、弥生：周溝墓、古墳：竪穴建物・円墳・埴輪棺、奈良・平安：竪穴建物など	『西大室遺跡群II』前橋市教育委員会1981
32	荒砥上諏訪遺跡				◎		◎		◎	古墳：後期円墳(荒砥村第54号墳)・竪穴建物、平安：掘立柱建物、近世以降：溝	『荒砥上諏訪遺跡』群馬県教育委員会1977 『荒砥上諏訪遺跡II』群馬県埋蔵文化財調査事業団1982
33	大室小学校校庭遺跡		◎		◎		◎			縄文：前期竪穴建物、古墳：竪穴建物、平安：竪穴建物	『大室小学校校庭III遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999 平成10・11年度『市内遺跡発掘調査報告書』前橋市教育委員会1999・2000
34	西大室上諏訪遺跡				◎	◎	◎			古墳：竪穴建物、奈良・平安：溝	『西大室上諏訪遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2005
35	荒砥東原遺跡				◎	◎	◎			古墳～平安：竪穴建物	『荒砥東原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1979
36	北山遺跡		◎		◎	◎	◎	◎		縄文：竪穴建物、古墳後期～平安：竪穴建物、中世：土墳墓	『西大室遺跡群II』前橋市教育委員会1981
37	西久保遺跡		○							縄文土器・石器が散在。	『群馬県遺跡台帳I(東毛編)』群馬県教育委員会1971
38	武泰遺跡				◎					古墳：円墳。刀が出土。	『群馬県遺跡台帳I(東毛編)』群馬県教育委員会1971
39	寺回遺跡		◎				◎			縄文：前期竪穴建物、平安：溝状遺構	『昭和63年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町教育委員会1989 『平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告』赤堀町教育委員会2001 平成14年度『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会2003 『寺回遺跡VII』『寺回遺跡VIII』伊勢崎市教育委員会2006
40	下今井遺跡				◎	◎	◎			古墳：竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物	平成3・4・8・9・10年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1992・1993・1997・1998・1999
41	向井遺跡		○		◎	◎	◎			古墳：竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物・掘立柱建物・井戸	『下触向井遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会1980 昭和63年『町内遺跡発掘調査報告』赤堀町教育委員会1989
42	下寺遺跡		○		◎	◎	◎			古墳：竪穴建物・周溝遺構、奈良・平安：竪穴建物	『下触下寺遺跡及び磯十二所遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1987 『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町教育委員会2000
43	今井南原遺跡		◎	◎	◎	◎	◎	◎		縄文：竪穴建物、弥生：竪穴建物、古墳：竪穴建物・古墳、奈良・平安：竪穴建物、中世：溝	『今井南原遺跡発掘調査概報』1981 平成6年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1995 『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町教育委員会2000 『南原遺跡VII地点発掘調査報告』2001
44	川上遺跡		○		◎	◎	◎	◎		古墳前期～平安：竪穴建物、平安：掘立柱建物・井戸・溝、中世以降：溝など	『川上遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』赤堀村教育委員会1980 『川上遺跡V』伊勢崎市教育委員会2006 『川上遺跡VI』伊勢崎市教育委員会2006
45	熊連遺跡					◎				奈良：竪穴建物	平成14年度『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会2003
46	中畑遺跡		○		◎					古墳：竪穴建物・掘立柱建物	『中畑遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』赤堀村教育委員会1986
47	三ヶ尻西遺跡				◎	◎	◎			古墳後期：製鉄関連集落(竪穴建物・東日本最古の製鉄炉(長方形箱形炉))、古墳～平安：水田	『ぐんま地域文化』第8号 財団法人群馬地域文化振興会1997 『勢多郡文化財ニュース No.5』勢多郡町村教育委員会事務局研究会2003
48	西原遺跡			◎	◎					弥生後期末～古墳初頭：環濠集落(竪穴建物・溝)	『深津地区遺跡群 付篇 西迎遺跡K1』粕川村教育委員会1986
49	三ヶ尻遺跡				◎	◎	◎			古墳：前期方形周溝墓・後期円墳、古墳前期～平安：竪穴建物	『深津地区遺跡群 付篇 西迎遺跡K1』粕川村教育委員会1986
50	西迎遺跡		○	◎	◎					縄文：陥穴、弥生中期～平安：竪穴建物、古墳：前期方形周溝墓など	『深津地区遺跡群 付篇 西迎遺跡K1』粕川村教育委員会1986 『西迎遺跡』粕川村教育委員会
51	長岡遺跡		◎		◎	◎	◎	◎		縄文：竪穴遺構・集石・陥穴、古墳：竪穴建物・掘立柱建物・古墳、奈良・平安：竪穴遺構、畝状遺構、中世：炭窯など	『長岡遺跡』粕川村教育委員会1991
52	松原田遺跡				◎					古墳後期か：製鉄炉	『深津地区遺跡群 付篇 西迎遺跡K1』粕川村教育委員会1986 『ぐんま地域文化』第8号 財団法人群馬地域文化振興会1997 『勢多郡文化財ニュース No.5』勢多郡町村教育委員会事務局研究会2003
53	東原遺跡		◎		◎					縄文：陥穴・集石遺構、古墳：竪穴建物・炭窯・古墳など	『東原遺跡』粕川村教育委員会1998
54	女堀							◎		前橋市上泉町付近から旧佐波郡東村西国定(現伊勢崎市)まで中世初期に幅15m～30m、深さ3m～4m、全長およそ13kmにわたり開削された未完成の用水路。	『女堀』群馬県埋蔵文化財調査事業団1985 『川上遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』赤堀村教育委員会1980 『中畑遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』赤堀村教育委員会1986 『史跡 女堀』前橋市教育委員会2016

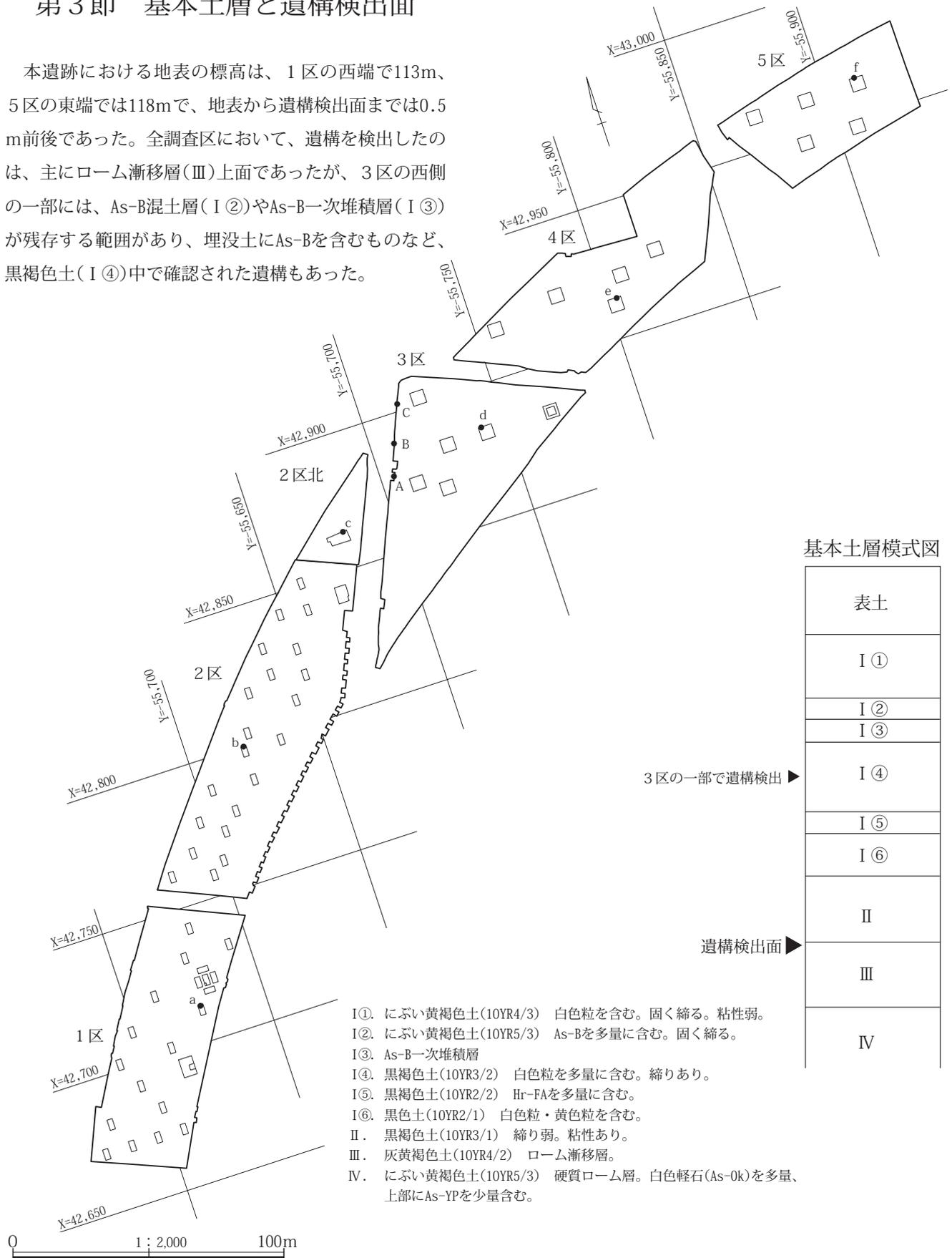
第2章 遺跡の環境

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・概要	文献
55	鷹巣遺跡		○			○	○			縄文：前期竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物・掘立柱建物など	『洞山古墳群及び北通、鷹巣遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会1983 『群馬県伊勢崎市下触町 鷹巣遺跡4』スナガ環境測定株式会社2015
56	北通遺跡		○		○					縄文：前期竪穴建物、平安：竪穴建物など	『洞山古墳群及び北通、鷹巣遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会 平成6・7年『町内遺跡発掘調査概報』赤堀町教育委員会1995・1996
57	釜ノ口遺跡		○		○		○			縄文：早期竪穴建物・集石遺構、古墳：竪穴建物(内1棟に)埴輪工房跡・後期の円墳、平安：竪穴建物	『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町教育委員会2000 『釜ノ口遺跡Ⅳ』伊勢崎市教育委員会2007 『釜ノ口遺跡Ⅲ』伊勢崎市教育委員会2011
58	北通西遺跡		○			○	○			縄文：竪穴建物、奈良・平安：竪穴建物、掘立柱建物、中世：掘立柱建物・溝	『平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告』赤堀町教育委員会2001 平成15年度『町内遺跡調査概報』赤堀町教育委員会2004
59	下触牛伏遺跡	○	○		○					旧石器：第Ⅰ・第Ⅱ文化層の石器群、縄文：竪穴建物・陥穴・集石、古墳：後期竪穴建物・終末期の古墳10基	『下触牛伏遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1986
60	今宮遺跡	○	○		○	○	○	○	○	縄文：竪穴建物・陥穴、古墳：竪穴建物・円墳・方墳、奈良・平安：竪穴建物・掘立柱建物、中世：掘立柱建物・溝、近世：溝、竪穴状遺構	『今宮遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2016
61	波志江中峰岸遺跡						○			平安：水田など	『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1995
62	堀下八幡遺跡	○	○				○			旧石器：石器群、縄文：前期竪穴建物、平安：竪穴建物・掘立柱建物など	『堀下八幡遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1990
63	五日牛南組遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	縄文：前期竪穴建物・陥穴・中期竪穴状遺構、弥生：後期土器棺墓、古墳：後期円墳、奈良・平安：木炭窯、近世・近代：掘立柱建物、礎石建物、井戸、島など	『五日牛南組遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1992
64	洞山遺跡		○		○			○		縄文：後期竪穴建物、古墳：方形周溝墓・古墳、中世以降：井戸・墓壇	『五日牛洞山遺跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会1980 『洞山遺跡Ⅴ』伊勢崎市教育委員会2006 『洞山遺跡Ⅳ』伊勢崎市教育委員会2007
65	上植木光仙房遺跡	○			○	○	○	○	○	旧石器：石器20点、古墳：前方後円墳1基(埴輪村62号墳)・円墳10基・墳形不明の古墳7基、奈良・平安：溝、中世：竪穴建物、近世：溝	『上植木光仙房遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1989 『上植木光仙房遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2007
66	光仙房遺跡	○			○		○			旧石器：第Ⅰ・Ⅱ文化層、古墳：竪穴建物・粘土採掘坑、平安：竪穴建物、須恵器窯跡	『光仙房遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2003
67	舞台遺跡	○	○		○	○	○	○		旧石器：石器群、縄文：前期竪穴建物、古墳：前期及び後期の竪穴建物・円形周溝遺構、奈良・平安：竪穴建物・須恵器窯跡など	『舞台遺跡(1)』群馬県埋蔵文化財調査事業団2001 『舞台遺跡(2)』群馬県埋蔵文化財調査事業団2004 『舞台遺跡(3)』群馬県埋蔵文化財調査事業団2005 『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』伊勢崎市教育委員会1977
A	多田山古墳群				○					後期円墳12基、多田山3号墳は造り出し付き。終末期円墳9基。最大は多田山15号墳で墳丘径38.5m。後期の古墳中、9基で2条3段の円筒埴輪が出土し、内7基で馬や家などの形象埴輪も出土。後期12基の埋葬施設の多くは竪穴式小石椁。他、木棺2基。無袖型横穴石室2基。未確認2基。終末期9基は全て両袖型横穴石室。内3基は載石切組積。多田山12号墳の前庭から唐三彩陶枕出土。人骨出土の古墳3基。古墳の他、埴輪棺3基、石椁墓2基。	『多田山古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団2004
B	三騎堂古墳群				○					4基の円墳を確認。1号墳・2号墳は6世紀前半の築造。2号墳・4号墳の主体部は竪穴式小石椁。1号墳・4号墳で円筒埴輪を確認。2号墳石椁内で成人の人骨がほぼ完全な形で出土。	『深津地区遺跡群』粕川村教育委員会1987
C	吉沢峯・轟山古墳群				○					前方後円墳2基、円墳59基が存在した。赤堀村246号墳・247号墳は共に両袖型横穴式石室の円墳で7世紀の築造。赤堀村247号墳からは、金銅製中空耳環が出土。	『吉沢峯古墳発掘調査概報』赤堀村教育委員会1986 『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
D	北原古墳群				○					6世紀前半～7世紀後半の円墳5基を確認。かつては47基以上が存在。確認された円墳のうち1基は無袖型、他は両袖型の横穴式石室。北原3号墳からは円筒埴輪や形象埴輪の破片が出土。赤堀村199号墳の石室内から、金銅製刀装具付直刀・鉄鏃・金銅製耳環などと共に3体以上の可能性がある人骨が出土。周堀によって壊された後期竪穴建物3棟。	『今井北原古墳及び住居跡発掘調査概報』赤堀村教育委員会1981
E	神社丘古墳群				○					古墳6基が確認され、最古の愛宕様古墳(赤堀村272号墳)は、全長28mの帆立貝式前方後円墳で5世紀末の築造。大塚古墳(赤堀村273号墳)は、直径19mの円墳で、埋葬施設は赤色に塗られた竪穴式石椁。他の4基は横穴式石室の小規模な円墳。	『西野諏訪神社丘古墳発掘調査概報』赤堀村教育委員会1975
F	田向古墳群				○					6世紀後半～7世紀築造。直径15m～10mの小円墳6基。1基は袖無型、他5基は両袖型の横穴式石室。Ⅱ号墳からは鉄製轡、金銅製心葉形杏葉、金銅製雲珠断片などが出土。	『昭和37・38年度における発掘調査』群馬大学教育学部史学・尾崎研究室1966
G	峯岸山古墳群				○					5世紀後半～8世紀初頭築造。前方後円墳6基、円墳43基。最古は竪穴式石椁の赤堀村299号墳。	『赤堀村峯岸山の古墳1』赤堀村教育委員会1976 『赤堀村峯岸山の古墳2』赤堀村教育委員会1977

(○印は遺物や土坑等の確認のみ)

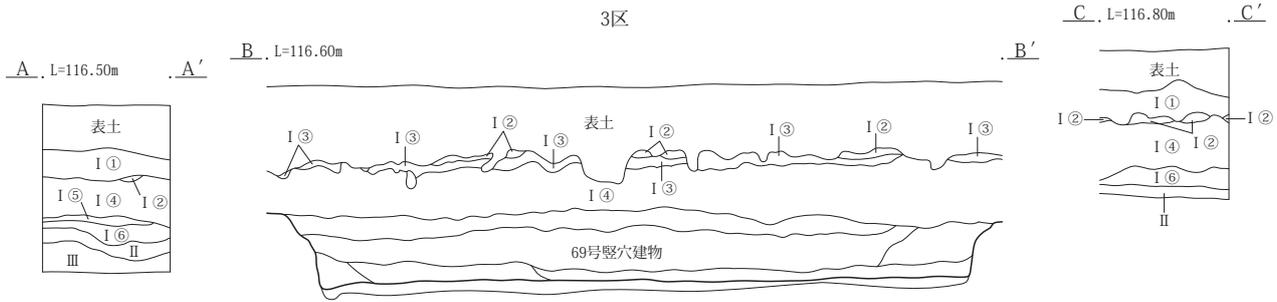
### 第3節 基本土層と遺構検出面

本遺跡における地表の標高は、1区の西端で113m、5区の東端では118mで、地表から遺構検出面までは0.5m前後であった。全調査区において、遺構を検出したのは、主にローム漸移層(Ⅲ)上面であったが、3区の西側の一部には、As-B混土層(I②)やAs-B一次堆積層(I③)が残存する範囲があり、埋没土にAs-Bを含むものなど、黒褐色土(I④)中で確認された遺構もあった。

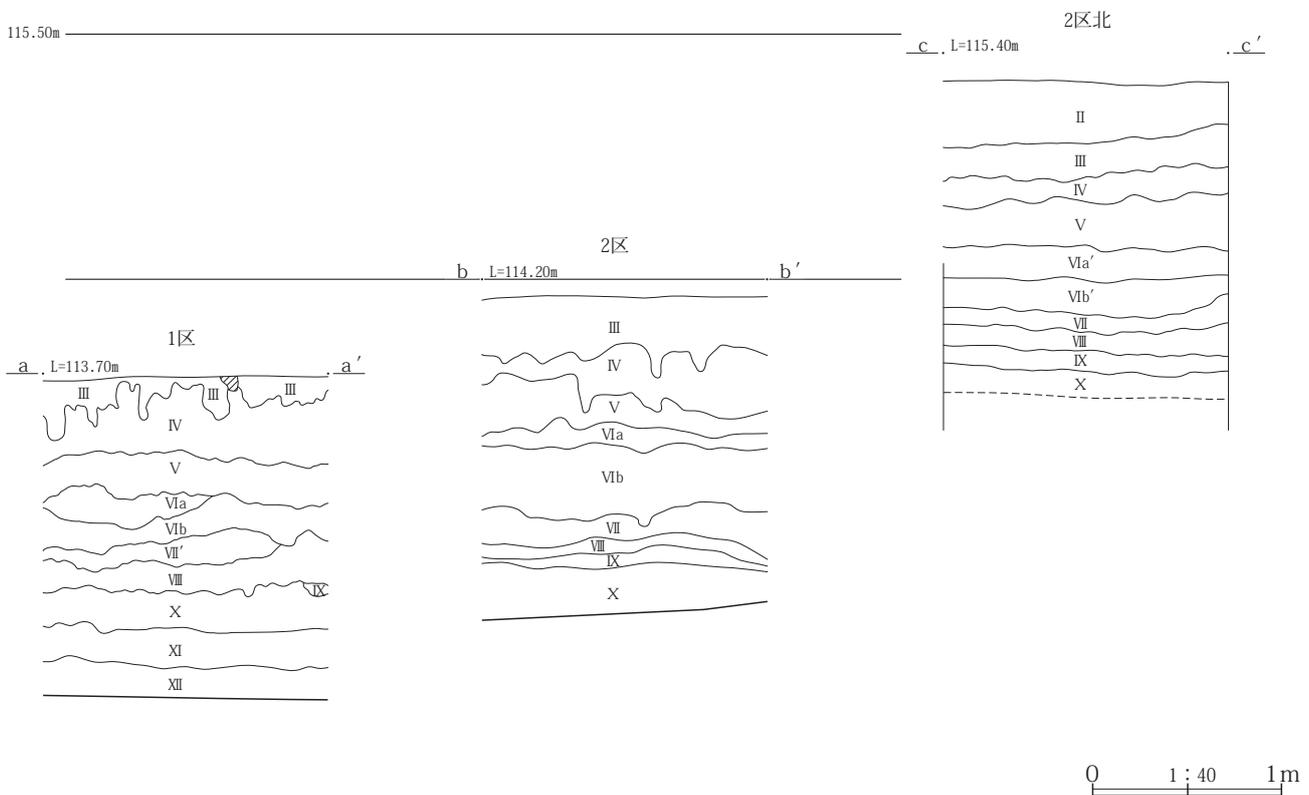


- I①. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒を含む。固く締る。粘性弱。
- I②. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-Bを多量に含む。固く締る。
- I③. As-B一次堆積層
- I④. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量に含む。締りあり。
- I⑤. 黒褐色土(10YR2/2) Hr-FAを多量に含む。
- I⑥. 黒色土(10YR2/1) 白色粒・黄色粒を含む。
- II. 黒褐色土(10YR3/1) 締り弱。粘性あり。
- III. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム漸移層。
- IV. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 硬質ローム層。白色軽石(As-0k)を多量、上部にAs-YPを少量含む。

第5図 土層確認地点位置図

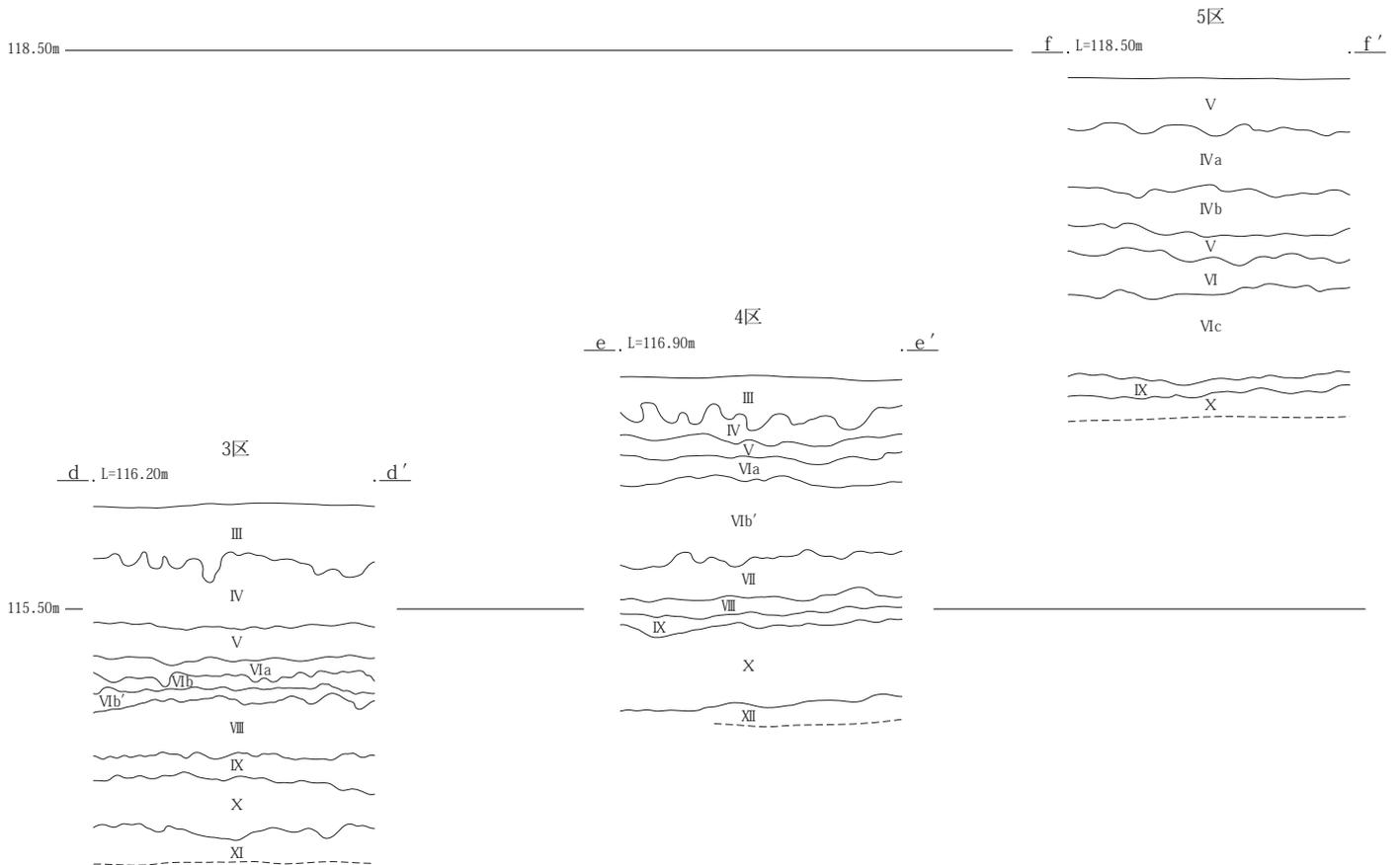


- I①. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒を含む。固く締る。粘性弱。
- I②. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-Bを多量に含む。固く締る。
- I③. As-B一次堆積層
- I④. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量に含む。締りあり。
- I⑤. 黒褐色土(10YR2/2) Hr-FAを多量に含む。
- I⑥. 黒色土(10YR2/1) 白色粒・黄色粒を含む。
- II. 黒褐色土(10YR3/1) 締り弱。粘性あり。
- III. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム漸移層。
- IV. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 硬質ローム層。白色軽石(As-Ok)を多量、上部にAs-YPを少量含む。
- V. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 硬質ローム層。軽石を含まない。
- VIa. 明黄褐色土(10YR6/6) 部分的に明赤褐色を帯びる。As-BPを少量、上部にAs-Okの可能性のある軽石を微量含む。
- VIa'. 明黄褐色土(10YR6/6) 部分的に黒味を帯びる。As-BPを多量に含む。硬質。
- VIb. にぶい黄橙色土(10YR6/4) As-BPを塊状に少量、炭化物を微量含む。硬質ローム層。
- VIb'. にぶい黄橙色土(10YR6/3) 部分的に黒味を帯びる。As-BPを多量、炭化物を微量含む。非常に硬質。
- VII. 黄褐色土(10YR5/6) 暗色部分。As-BPとMPの間層と考えられる。



第6図 1～3区土層断面

- VII'. 黄褐色土(2.5YR5/6) 暗色部分。As-BPとMPの間層と考えられる。
- VIII. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 橙色軽石(MP)を含む。部分的に下部5~10cm程の暗褐色土が見られる。やや軟質。MPとATの間層と考えられる。
- IX. 灰白色土(10YR8/2) 粘質ローム層。AT水性二次堆積物。部分的に一次堆積層の可能性が高い。
- X. 灰黄褐色土(10YR5/2) 暗色帯相当。
- XI. 暗灰黄色土(2.5YR5/2) 固く締る。
- XII. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 硬質で粘性のあるローム層。5mm程の小礫を含む。



第7図 3~5区土層断面

## 第3章 調査の成果

### 第1節 多田山東遺跡の概要

1区から2区にかけては、古墳時代から平安時代を中心とした多数の竪穴建物を確認したが、2区北、3区においては、その数が急激に少なくなり、4区、5区では全く見られなかった。掘立柱建物についても、1区から2区北に多く見られ、3区、4区では各1棟を確認したが、5区では全く見られなかった。また、1区の方形周溝墓、2区北から3区にかけて検出した囲い状遺構と考えられる柱穴列と溝など、調査区によって確認された遺構は様々であった。区ごとの概要は以下のとおりである。

1区では竪穴建物20棟、竪穴状遺構4基、掘立柱建物12棟、溝1条、方形周溝墓1基、土坑、ピット等を検出した。20棟の竪穴建物のうち、7棟が古墳時代、13棟が奈良・平安時代のものである。

2区では、竪穴建物47棟、竪穴状遺構1基、掘立柱建物3棟、溝5条、柱穴列2条、土坑、ピット等を検出した。47棟の竪穴建物のうち、1棟が縄文時代、22棟が古墳時代、24棟が奈良・平安時代のものである。竪穴建物は、調査区のほぼ全域で確認されたが、調査区の南側や西側に集中している。

2区北では、竪穴建物1棟、掘立柱建物3棟、柱穴列1条、溝1条、ピットを検出した。柱穴列は溝に伴うもので、共に3区へと続いており、囲い状遺構の一部と考えられる。

3区では、竪穴建物2棟、竪穴状遺構2基、掘立柱建物1棟、2区北より続く囲い状遺構の一部と考えられる溝と柱穴列の他、溝26条、土坑、ピットを検出した。7・9・10号溝は4区へと続いていた。また、西側の一部には、As-B混土層やAs-Bの一次堆積層が残存し、埋没土にAs-Bを含むものなど、黒褐色土(I④)中で検出した遺構も含まれている。

4区では、掘立柱建物1棟、3区から続く7・9・10号溝を含む溝16条、土坑、ピットを検出した。43～45・49号溝は、検出時は調査区を南北に横断する幅約14mの

大規模な溝と考えられたが、埋没土の堆積状況から、複数の溝であることがわかった。

5区では溝1条の他、土坑、ピットを検出した。溝は4区の43～45・49号溝に近い方位で調査区を横切っていた。

### 第2節 1区の遺構と遺物

#### 1. 竪穴建物・竪穴状遺構

1区で調査した竪穴建物は20棟で、時期は古墳時代から奈良・平安時代である。調査区のほぼ全域で確認されたが、古墳時代の建物は7棟で、調査区西側北寄りの範囲に集中している。7棟のうち6棟は全て6世紀代の建物であるが、1棟のみ3世紀末～4世紀初頭と考えられる建物があり、完形に近い弥生土器も出土した。奈良・平安時代の建物は調査区内の広い範囲に分布しているが、13棟のうち8棟は調査区の中央よりやや北側に集中している。8世紀～9世紀前半の建物がほとんどであるが、11世紀前半の建物を1棟確認した。規模には幅があり、最大は一辺6m余りの正方形、最小は一辺が3m未満の長方形である。

竪穴状遺構は4基で、そのうち3基は調査区際で検出し、調査区外へと続いていた。いずれも確認できた範囲が限られており、建物の一部と考えることが難しいため竪穴状遺構としたが、ほぼ平坦な底面を有しているとみられ、竪穴建物の可能性もある。1基は調査区北側で検出したが、平面形状が不正形で底面にも起伏が見られる長軸3m弱の遺構である。このように1区で検出された4基の竪穴状遺構のうちの3基が竪穴建物の可能性もあることから、1区および2区以降の竪穴状遺構の説明についても、竪穴建物を構成する要素の有無に視点を置いて行うことにする。

調査区全体が後世の削平を受けており、3号竪穴建物など、わずかに床面を残すのみの建物もあった。

1区1号竪穴建物(第8～10図、PL. 1・84)

調査区南西端から30m程の地点に位置し、建物の西側は調査区外にある。

座標値 X=42,694~42,700 Y=-55,761~-55,766

重複遺構 なし

形状 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性が高いが、建物の西側が調査区外にあるため、明らかではない。

主軸方位 N-44°-E

規模 長軸4.63m 短軸(3.00m)

床面積(12.05㎡) 残存壁高62cm

埋没土 主に埋没土上層は灰白色粒やローム粒を少量含む黒褐色土で、下層にはローム塊を多量に含む暗褐色土等が多く見られる。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻

された可能性がある。

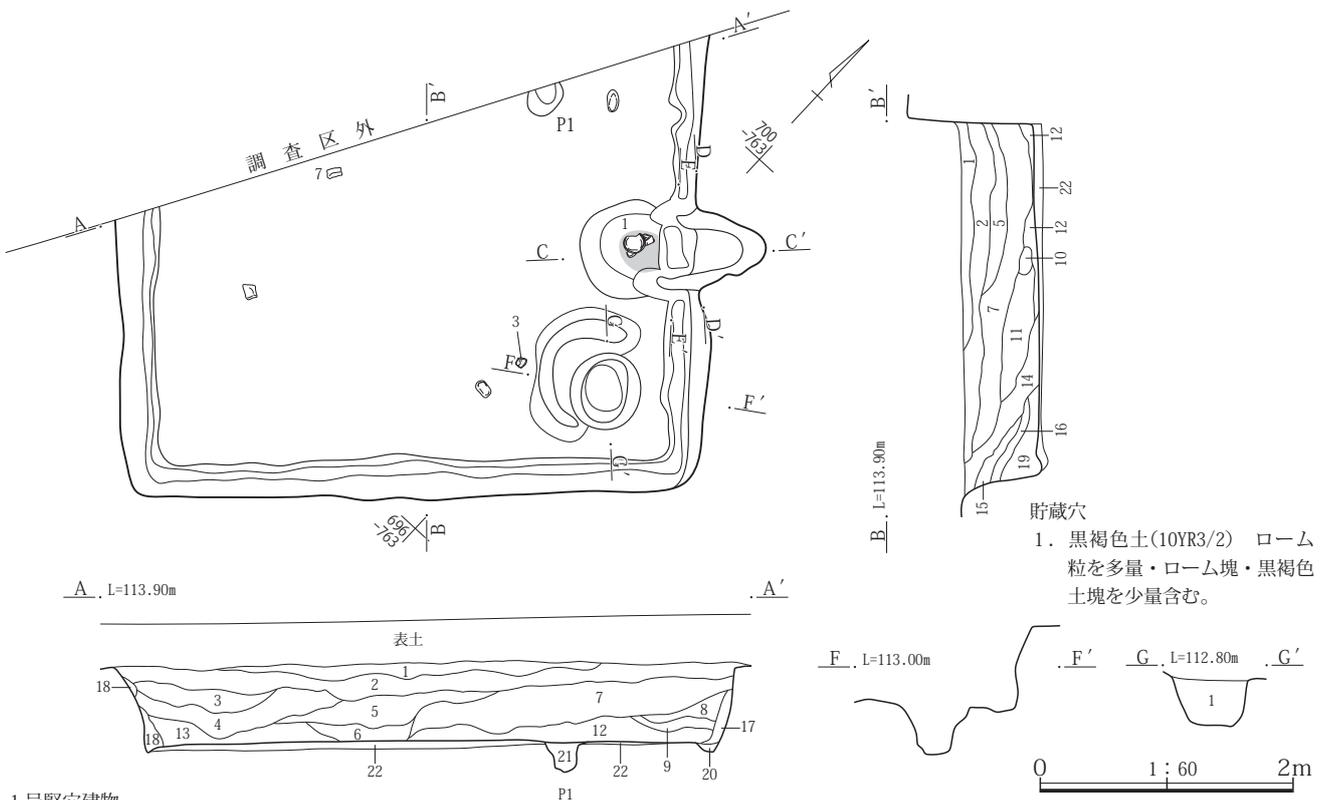
床面 ほぼ平坦である。

掘方 床面からの深さは数cm以内で、大きな起伏はないが、細かい凹凸がある。

竈 北東壁に位置する。規模は長軸145cm、袖幅40cm、燃烧部幅64cmを測る。燃烧部は壁の内側にあり、壁外への掘り込みは53cmである。燃烧部底部やその周辺に多量の焼土や灰が堆積している。燃烧部中央から土師器杯や須恵器蓋が出土した。

貯蔵穴 竈右脇にある。規模は長径60cm、短径55cmの楕円形で、深さ39cmを測る。

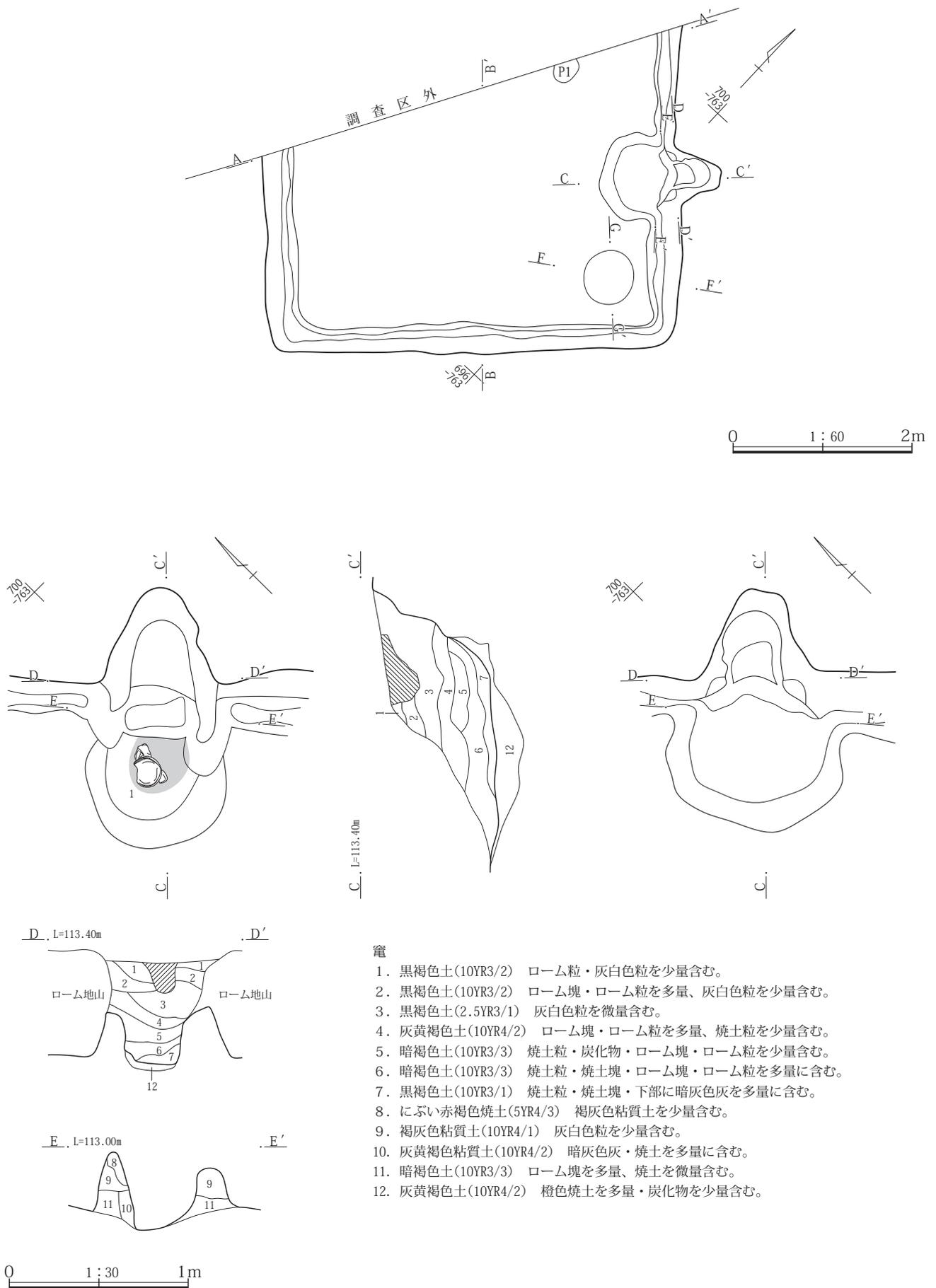
柱穴 調査区際で、ピット1基を検出した。主柱穴の1つとも考えられるが断定はできない。計測できた範囲での長径は32cm、深さは25cmである。



1号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土塊・ローム粒・灰白色粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
5. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒・灰白色粒を少量含む。
6. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒・灰白色粒を多量に含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒・灰白色粒を少量含む。
8. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
9. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を少量含む。
10. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム塊を微量含む。
11. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒・灰白色粒を少量含む。
12. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。
13. 黒褐色土(2.5YR3/1) ローム塊・ローム粒・灰白色粒を少量含む。
14. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
15. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊・ローム粒・灰白色粒を少量含む。
16. 黒褐色土(10YR2/2) 灰白色粒を少量含む。粘性ややあり。
17. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を少量含む。
18. 黄褐色土(2.5Y5/6) 黒褐色土を微量含む。
19. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を少量含む。
20. 黄褐色土(2.5Y5/4) 黒褐色土を微量含む。
21. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
22. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

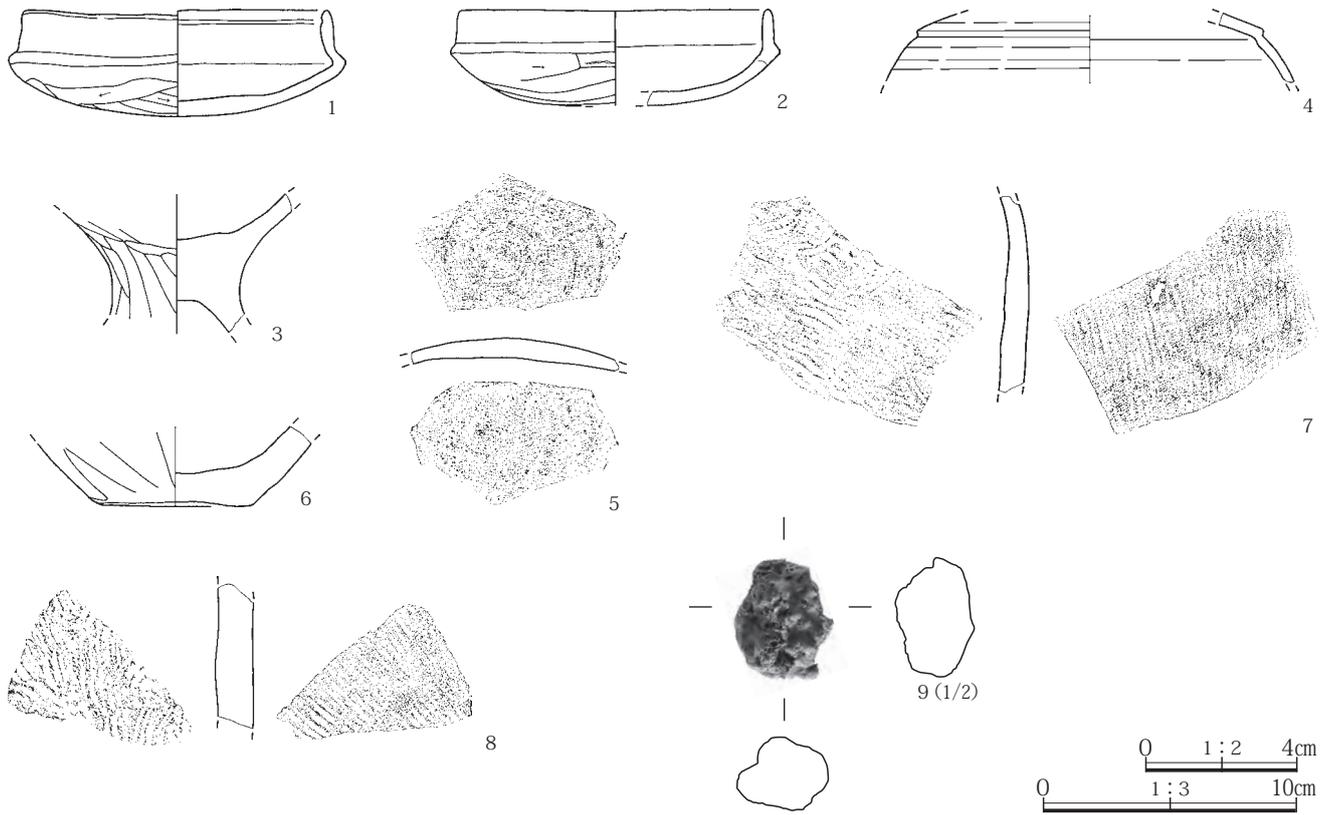
第8図 1区1号竪穴建物



竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量、灰白色粒を少量含む。
3. 黒褐色土(2.5YR3/1) 灰白色粒を微量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・炭化物・ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・焼土塊・ローム塊・ローム粒を多量に含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒・焼土塊・下部に暗灰色灰を多量に含む。
8. にぶい赤褐色焼土(5YR4/3) 褐灰色粘質土を少量含む。
9. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 灰白色粒を少量含む。
10. 灰黄褐色粘質土(10YR4/2) 暗灰色灰・焼土を多量に含む。
11. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、焼土を微量含む。
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 橙色焼土を多量・炭化物を少量含む。

第9図 1区1号竪穴建物掘方・竈



第10図 1区1号竪穴建物出土遺物

**壁溝** 調査区内では、全周している。幅5cm～13cm、深さ2cm～6cmを測る。

**遺物** 床面直上や埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は1・2：土師器杯(1は竈燃烧部)、3：同高杯、4・5：須恵器蓋杯の蓋(4は竈内)、6：土師器甕、7・8：須恵器甕(7は床面直上)、9：鉄滓である。

**所見** 調査できた範囲に限られているが、本調査で検出された竪穴建物の中では比較的規模の小さい建物とみられる。時期は竈から出土した杯や蓋杯の蓋から6世紀後半に比定できる。なお、掲載した土器は共伴関係にある。

**1区2号竪穴建物(第11～13図、PL. 2・84・85)**

調査区南側、1号竪穴建物の10m程南東にある。

**座標値** X=42,689～42,692 Y=-55,750～-55,754

**重複遺構** なし

**形状** 北東隅が隅丸で、ゆがみのある方形

**主軸方位** N-104°-E

**規模** 長軸3.48m 短軸2.64m

床面積8.20㎡ 残存壁高10cm

**埋没土** 後世の削平・攪乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近では、ローム塊やローム粒を含む黒褐色土を確認した。

**床面** ほぼ平坦である。掘方を有するが、掘り込みが少なく、掘方面の凹部に土を盛って床面としている。

**掘方** 凹凸が見られるが、床面からの掘り込みが少ない。南西隅で床下土坑を1基検出した。規模は長径75cm、短径68cm、深さ12cmを測る。

**竈** 東壁南寄りの位置に設置している。燃烧部のほとんどが東壁を掘り込む位置にあるが、建物の上部の多くが失われているため、壁外への掘り込みは70cmに留まる。規模は長軸95cm、袖幅40cm、燃烧部幅50cmを測る。焚口付近で多量の遺物や焼土を確認した。

**貯蔵穴・柱穴・壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 竈焚口や床面直上等で多数の遺物が出土した。掲載した遺物は1・2：黒色土器碗(1は床面直上、2は竈焚口)、3～8：須恵器皿(床面直上)、9～13：同碗(9・10・12は竈焚口、11・13は床面直上)、14・15：土師器鉢(床面直上)、16：同甕(竈右袖)、17～19：羽釜(17は床面直上、18・19は竈焚口)、20：器種不明の石製品

である。

**所見** 小規模で、方形に近いがゆがみのある形状の建物である。出土した須恵器皿3～8は類例が少なく、県内では前橋市宇通遺跡礎石建物A、同市荒砥天之宮遺跡F区12号住居、39号住居などからの出土がみられる程度である。これは密教法具の六器の代替品と考えられる。この点から在家の僧侶等が使用していた建物であることが想起される。掲載した遺物は全て共伴関係にあり、時期は11世紀前半である。

**1区3号竪穴建物(第14図、PL.2・85)**

調査区南側、1号竪穴建物の南東約30mの位置にある。

**座標値** X=42,673~42,676 Y=-55,739~-55,742

**重複遺構** 4号竪穴建物と重複し、3号掘立柱建物の内側にあたる位置にある。新旧関係は、本遺構が4号竪穴建物より新しい。3号掘立柱建物との関係は明らかではない。

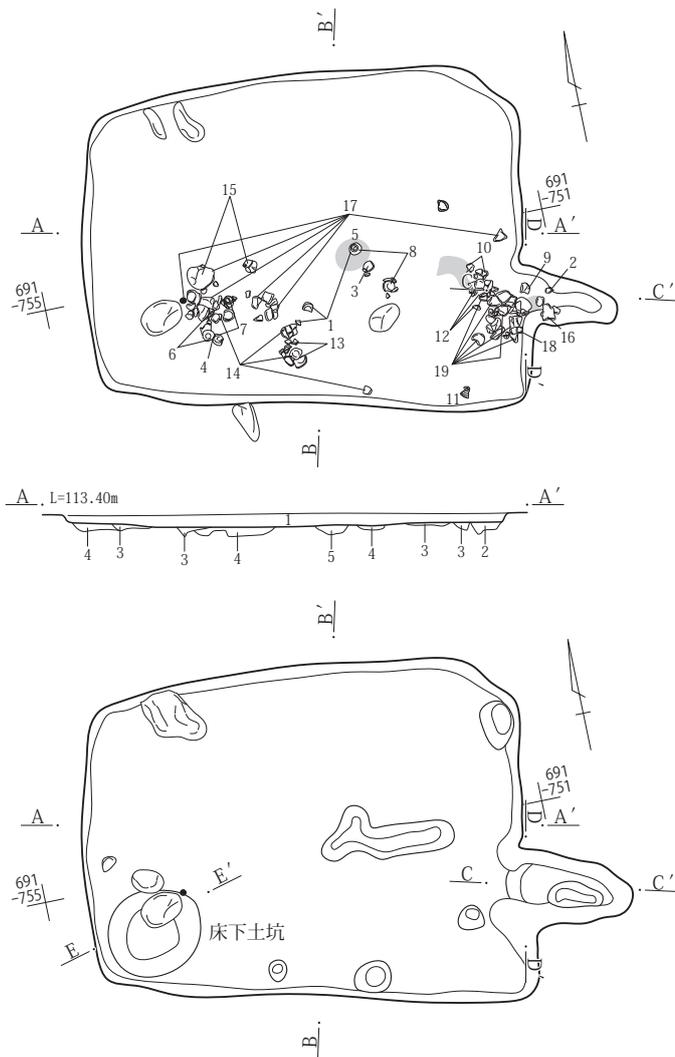
**形状** 正方形に近いが東壁より西壁が長く、南東隅が隅丸でゆがみのある方形。

**主軸方位** N-116°-E

**規模** 長軸2.50m 短軸2.50m

床面積5.77㎡ 残存壁高5cm

**埋没土** 後世の削平・攪乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近では、灰白色粒、ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を確認した。



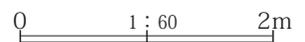
**2号竪穴建物**

- 1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
- 2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
- 3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。
- 4. 黄褐色土(2.5Y5/4) 黒褐色土を微量含む。
- 5. 黄褐色土(2.5Y5/3) 焼土・黒褐色土を微量含む。

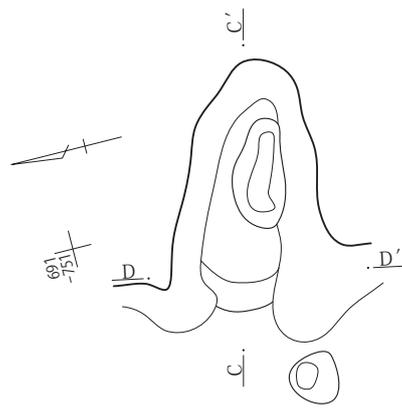
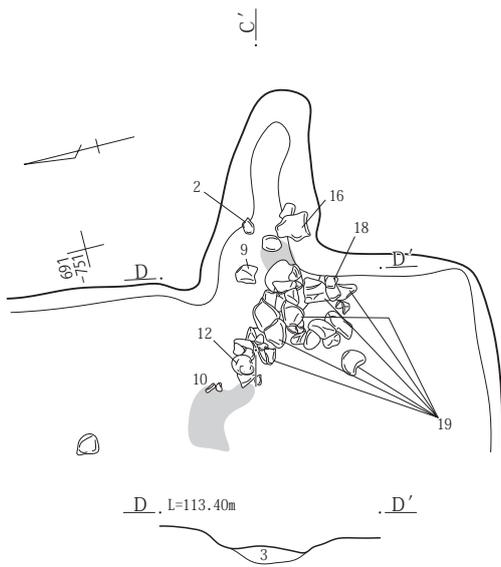


**床下土坑**

- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細の灰白色粒ローム粒を少量含む。砂質。締りあり。

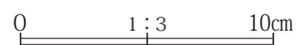
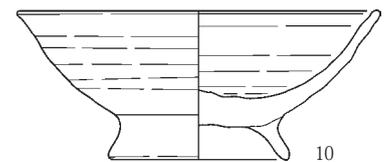
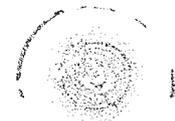
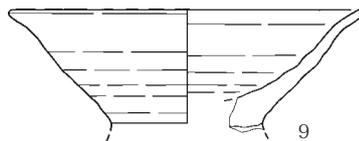
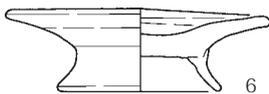
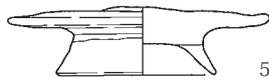
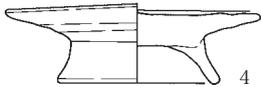
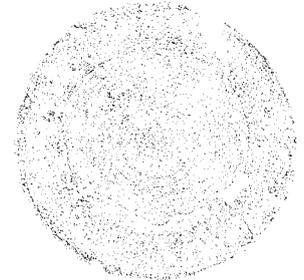
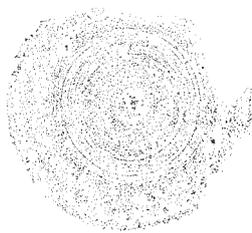
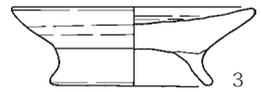
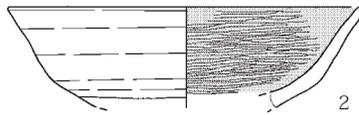
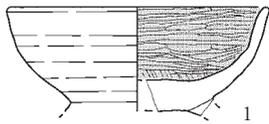
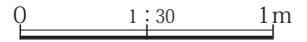


第11図 1区2号竪穴建物

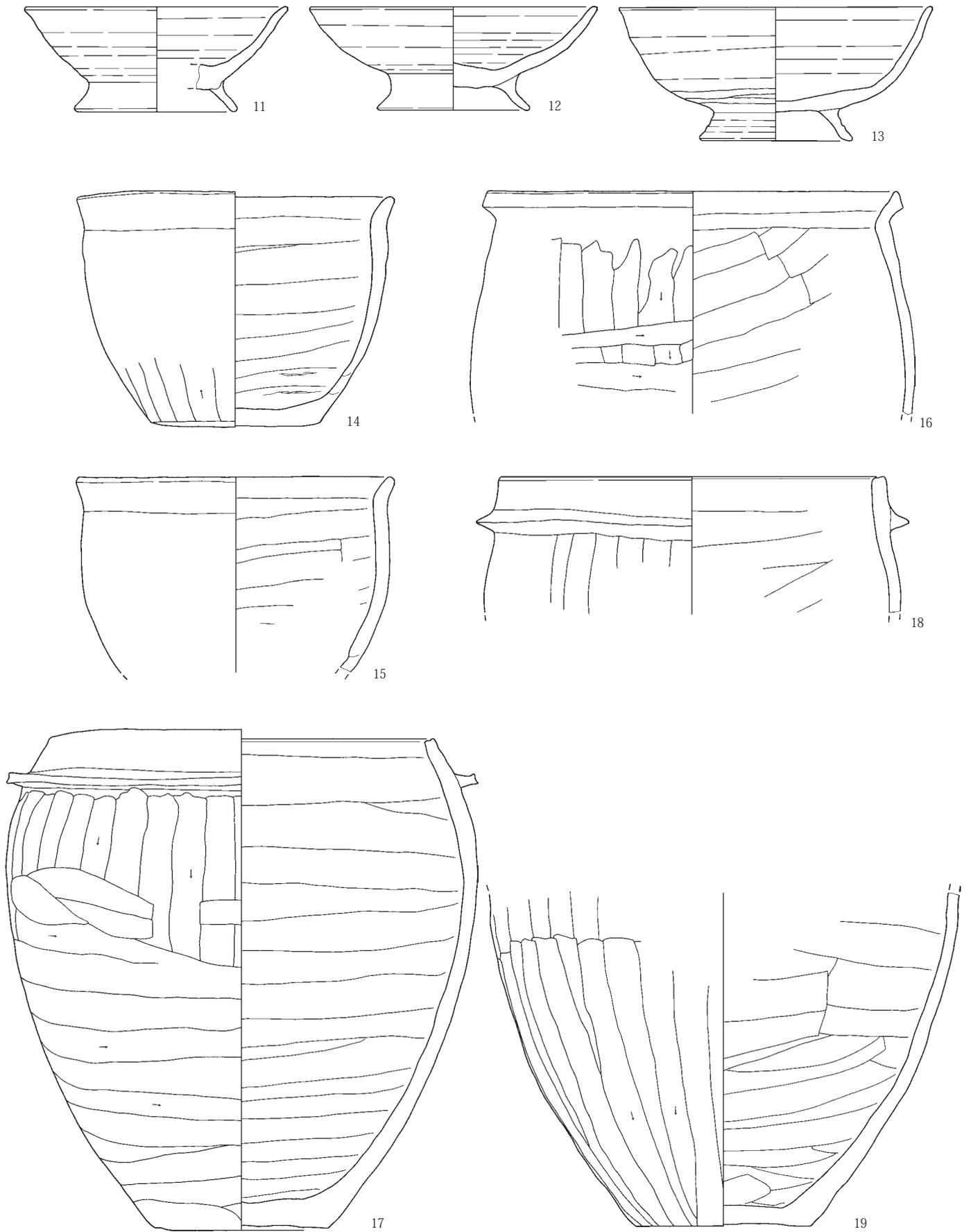


竈

- 1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量、焼土を微量含む。締りなし。
- 2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量、焼土を微量含む。
- 3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。

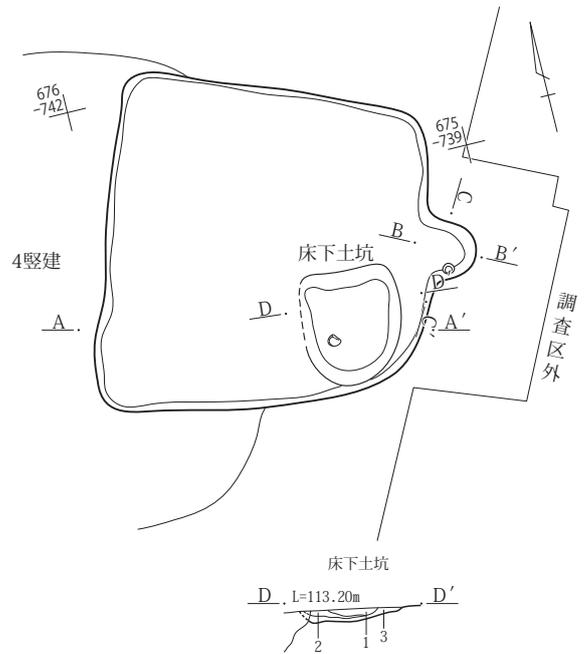
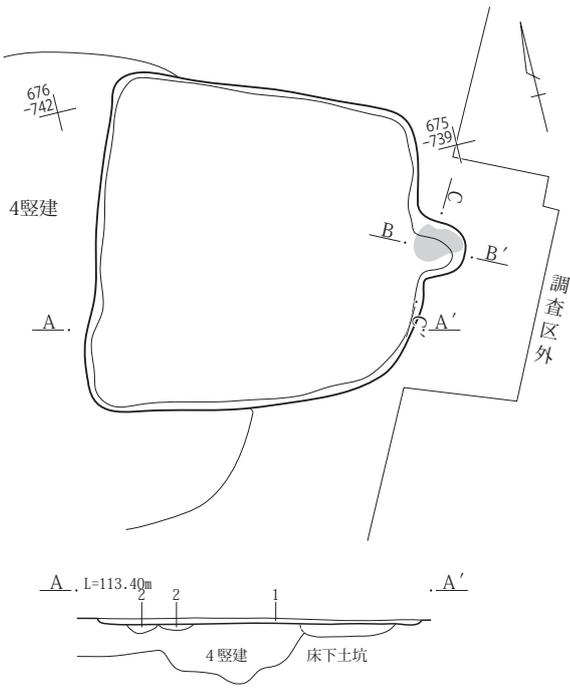


第12図 1区2号竪穴建物竈・出土遺物(1)



0 1:3 10cm  
(20. 石製品 写真のみ掲載)

第13図 1区2号竪穴建物出土遺物(2)

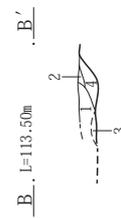
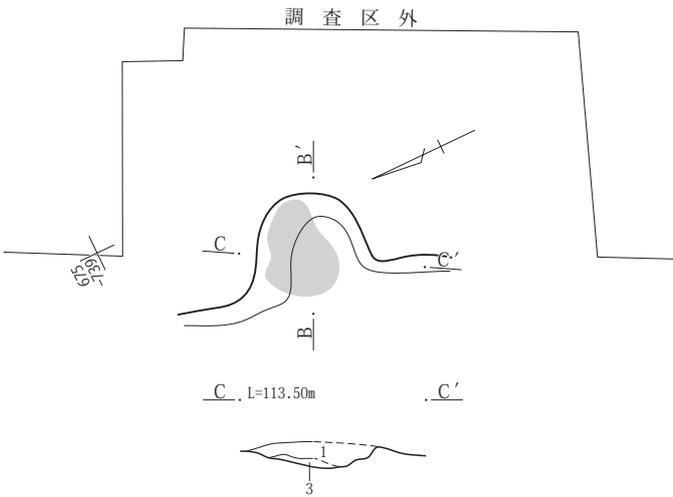
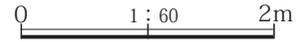


3号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒を少量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒・焼土粒を微量含む。

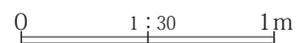
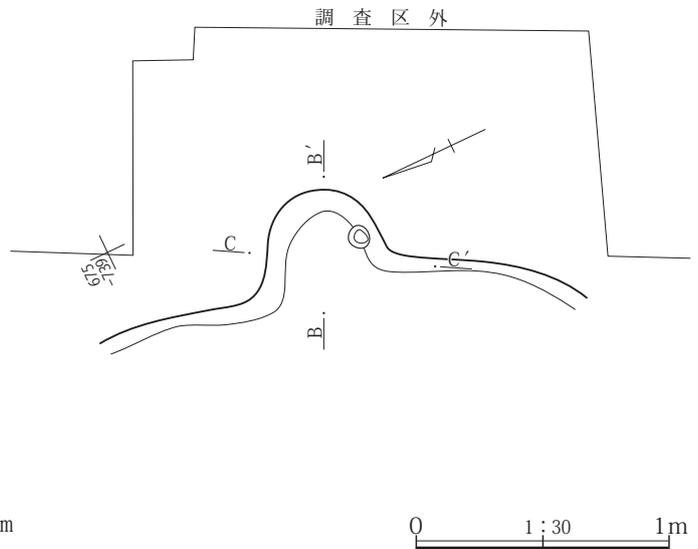
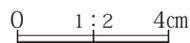
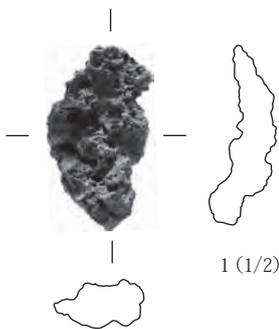
床下土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰褐色粘質土塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒を微量含む。



竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒を少量、灰白色粒を微量含む。
3. 橙色焼土(5YR6/8) 黒褐色土を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒を少量含む。



第14図 1区3号竪穴建物竈・出土遺物

**床面** ほぼ平坦である。掘方を有するが、掘り込みが少なく、掘方面の凹部に土を盛って床面としている。

**掘方** 床面からの掘り込みが少なく、凹凸もあまり見られないが、建物の南東隅で床下土坑を1基検出した。規模は長径100cm、短径75cm、深さ16cmを測る。

**竈** 東壁のほぼ中央で検出したが、後世の削平により、構築材はほとんど残っておらず、わずかに焼土面を残すのみであった。規模は長軸45cm、燃烧部幅45cmを測る。

**貯蔵穴・柱穴・壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 土師器や須恵器の小片、鉄滓が出土した。掲載した鉄滓は、竈内から出土したものである。

**所見** 本遺跡で、最も小規模な建物である。後世の削平・攪乱により、確認できたのは床面付近から掘り込みまでの範囲である。また、出土した土器が小片のため、時期は明らかではないが、4号竪穴建物との新旧関係から9世紀中頃以降の建物と考えられる。

#### 1区4号竪穴建物(第15・16図、PL.3・85)

調査区南側、3号竪穴建物の西に位置し、建物の東側が重複している。

**座標値** X=42,672~42,676 Y=-55,740~-55,744

**重複遺構** 3号竪穴建物、3号・4号掘立柱建物と重複する。新旧関係は本遺構が最も古い。

**形状** 隅丸長方形 **主軸方位** N-103°-E

**規模** 長軸3.80m 短軸3.15m

床面積9.52㎡ 残存壁高28cm

**埋没土** 主にローム粒やローム塊を含む黒褐色土で埋没している。

**床面** ほぼ平坦だが、南壁付近が若干低くなっている。建物の中央から竈周辺にかけて、床面の硬化を確認した。竈の両脇でピット2基を確認した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P1 45×42×29 P2 60×40×28

**掘方** 床面から5cm~10cm程の深さで、全体的にゆるやかな起伏があると共に、細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の中央よりやや南寄りに設置している。規模は長軸124cm、袖幅80cm、燃烧部幅80cmを測る。深めの掘り込みがあり、燃烧部では、多量の焼土・灰を検出した。よく使用されていたとみられる。

**貯蔵穴** 建物内の位置としては、P1が貯蔵穴と考えら

れるが、不適当な形状である。形状的にはP2の可能性はあるが壁溝との位置関係から貯蔵穴としては考えにくい。

**柱穴** 床面で確認したピットは、上述の2基である。その位置や形状から、これらが柱穴であるかは、はっきりしない。

**壁溝** P2から建物の南西隅にかけての範囲で検出した。調査時には確認できなかったが、南壁付近が低くなっている状況から、使用時には全周していた可能性がある。幅10cm~15cm、深さ4cm~7cmを測る。

**遺物** 床面直上や埋没土中から土器や鉄製品が出土した。掲載した遺物は、1・2：土師器杯(2は床面直上、1は床下9cm)、3：須恵器杯、4：土師器甕(床面直上)、5：刀子である。

**所見** 小規模な建物である。出土遺物の量は多くないが、床面の中央から竈周辺に硬化がみられ、竈には多量の焼土・灰が残されていた。埋没土中から出土した須恵器杯は9世紀第1四半期に比定できるが、長期間残存したものの可能性がある。床面直上で出土した土師器杯と甕から、この建物の時期は9世紀第2四半期と考えられる。

#### 1区5号竪穴建物(第17・18図、PL.3・85)

調査区中央西寄り、1号竪穴建物の10m程北東にあり、建物の北西隅は調査区外にある。

**座標値** X=42,704~42,708 Y=-55,757~-55,760

**重複遺構** なし

**形状** 北西隅が調査区外にあるが、確認できた範囲の形状から、正方形と考えられる。

**主軸方位** N-84°-E

**規模** 長軸3.30m 短軸3.05m

床面積(7.14㎡) 残存壁高49cm

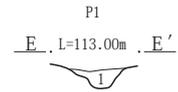
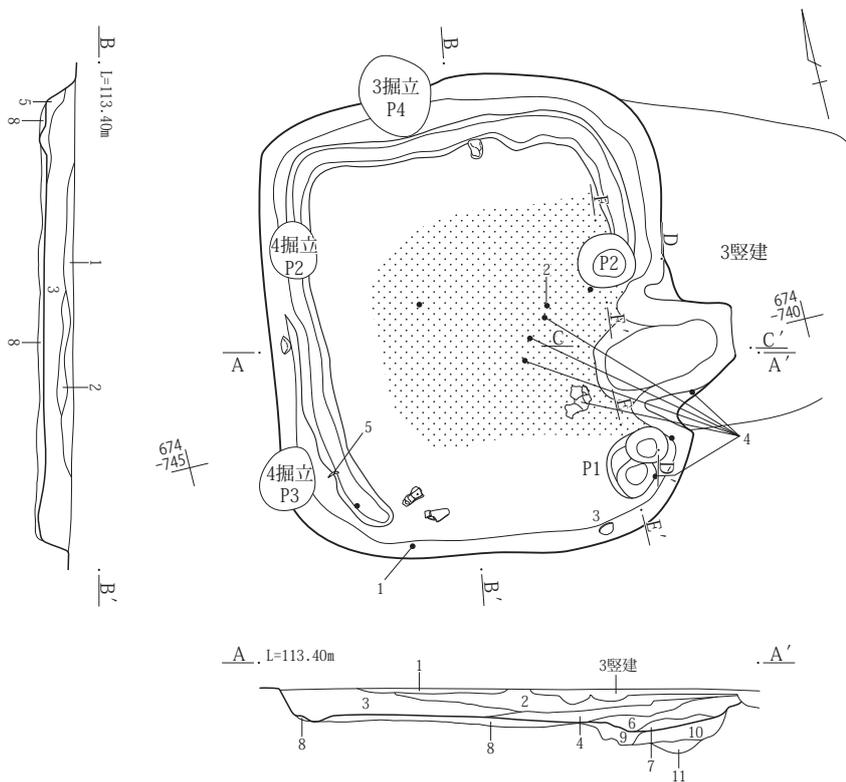
**埋没土** 主にローム粒やローム塊を含む黒褐色土で、上層には灰白色粒が見られる。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

**床面** ほぼ平坦である。建物の中央から北側にかけて床面の硬化を確認した。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが15cm程の所もあるが、5cm未満のところが多く、細かい凹凸も見られる。

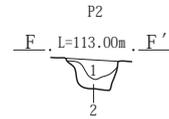
**竈** 東壁の中央よりやや南寄りに設置している。規模は

第2節 1区の遺構と遺物



P 1

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量、焼土塊・灰褐色粘質土塊を微量含む。

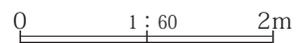
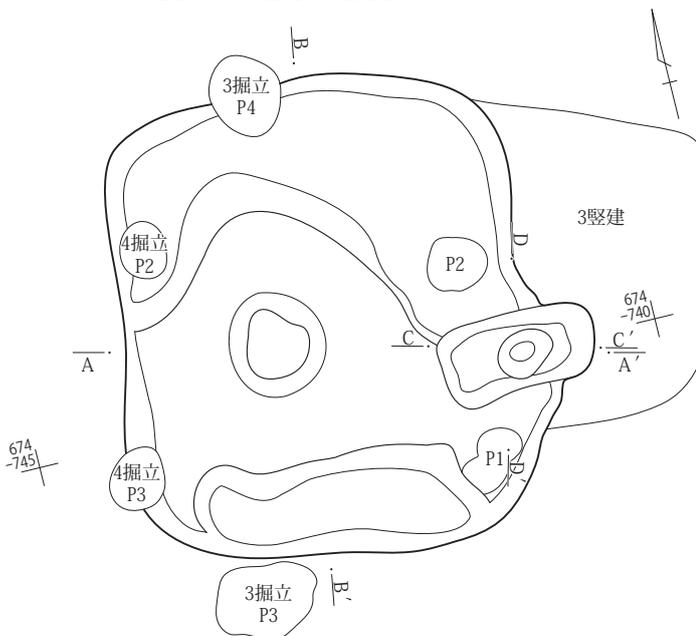


P 2

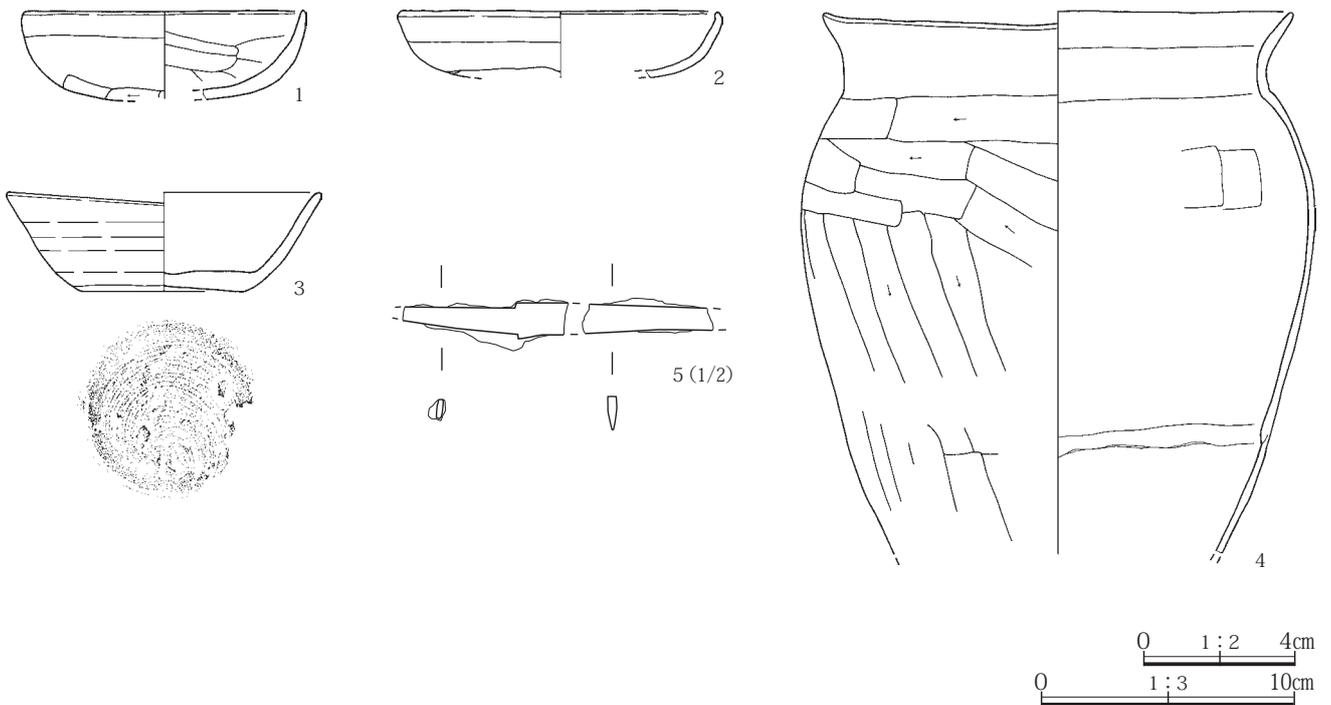
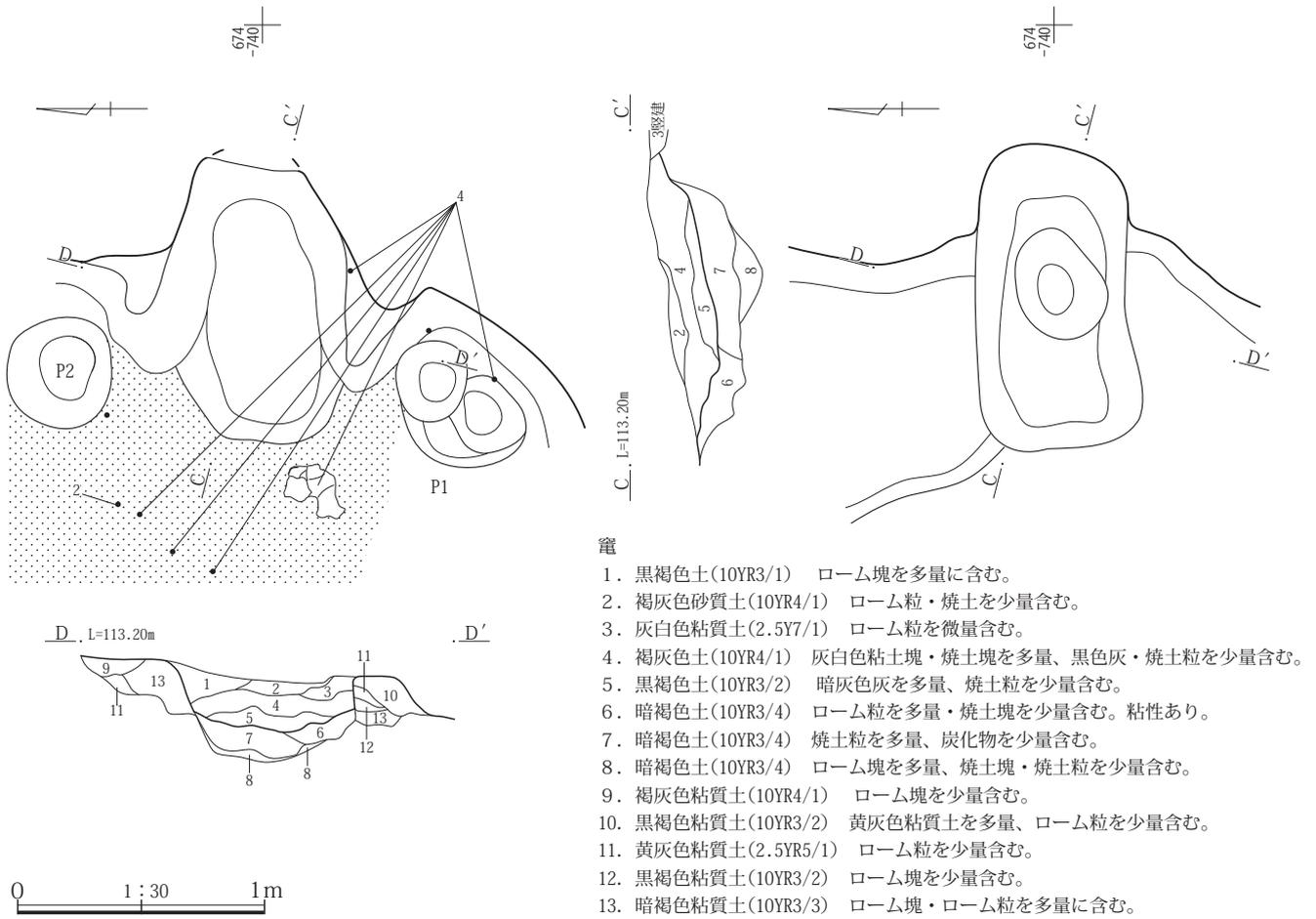
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・灰褐色粘質土を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量、灰褐色粘質土を微量含む。

4号竪穴建物

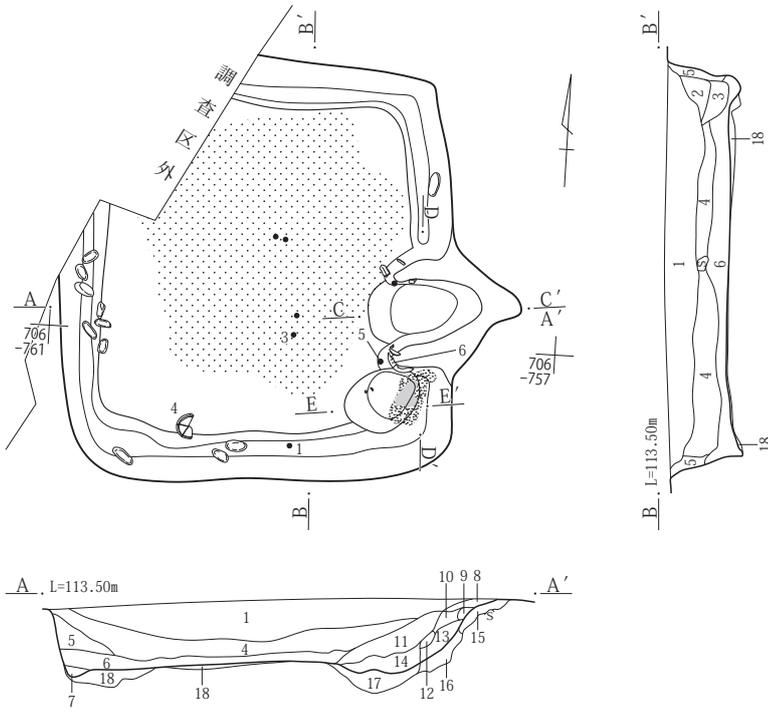
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰褐色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粘質土塊を多量、ローム粒・灰褐色粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・灰褐色粒を微量含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒・焼土粒を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色粘質土塊・焼土塊を多量、黒色灰・焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 暗灰色灰を多量、焼土粒を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。
9. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を多量、焼土塊を少量含む。粘性あり。
10. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒を多量、炭化物を少量含む。
11. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、焼土塊・焼土粒を少量含む。



第15図 1区4号竪穴建物



第16図 1区4号竈・出土遺物

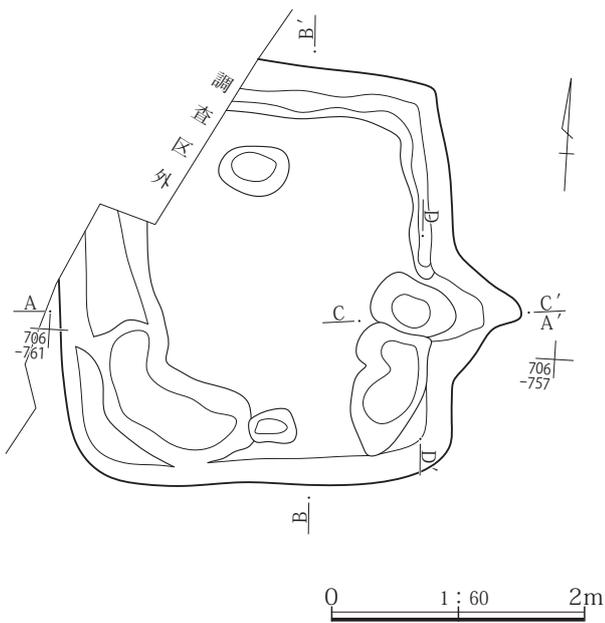


貯蔵穴

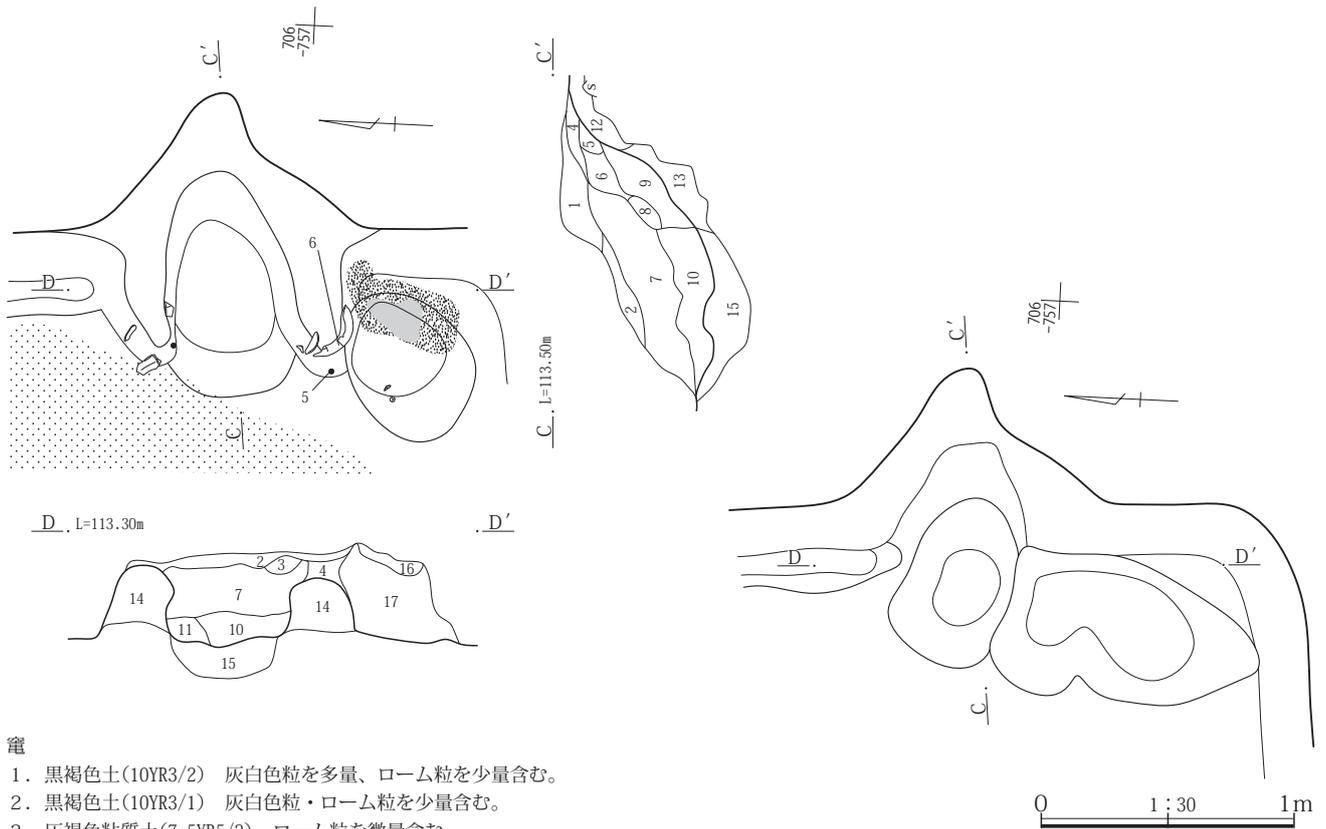
1. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒・ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。

5号竪穴建物

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を多量、ローム粒を少量含む。</li> <li>2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、灰白色粒を微量含む。</li> <li>3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。</li> <li>4. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。</li> <li>5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。</li> <li>6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性ややあり。</li> <li>7. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊を少量含む。</li> <li>8. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒・灰褐色粘質土を少量含む。</li> <li>9. 灰黄褐色粘質土(10YR4/2) 焼土を多量に含む。</li> <li>10. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) 焼土粒を少量含む。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>11. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 灰白色粘質土塊・炭化物・焼土粒を少量含む。</li> <li>12. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2) 灰白色粒を微量含む。</li> <li>13. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 灰褐色粘質土・黒褐色土・焼土を少量含む。縮りなし。</li> <li>14. 暗褐色土(10YR3/3) 暗灰色灰を多量、焼土粒を少量含む。</li> <li>15. 灰褐色粘質土(7.5YR5/2) 灰白色粒を微量含む。</li> <li>16. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色灰を上部に多量に含む。</li> <li>17. 褐灰色土(10YR4/1) 暗灰色灰・焼土粒を少量含む。</li> <li>18. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。</li> </ol> |
|--|--|

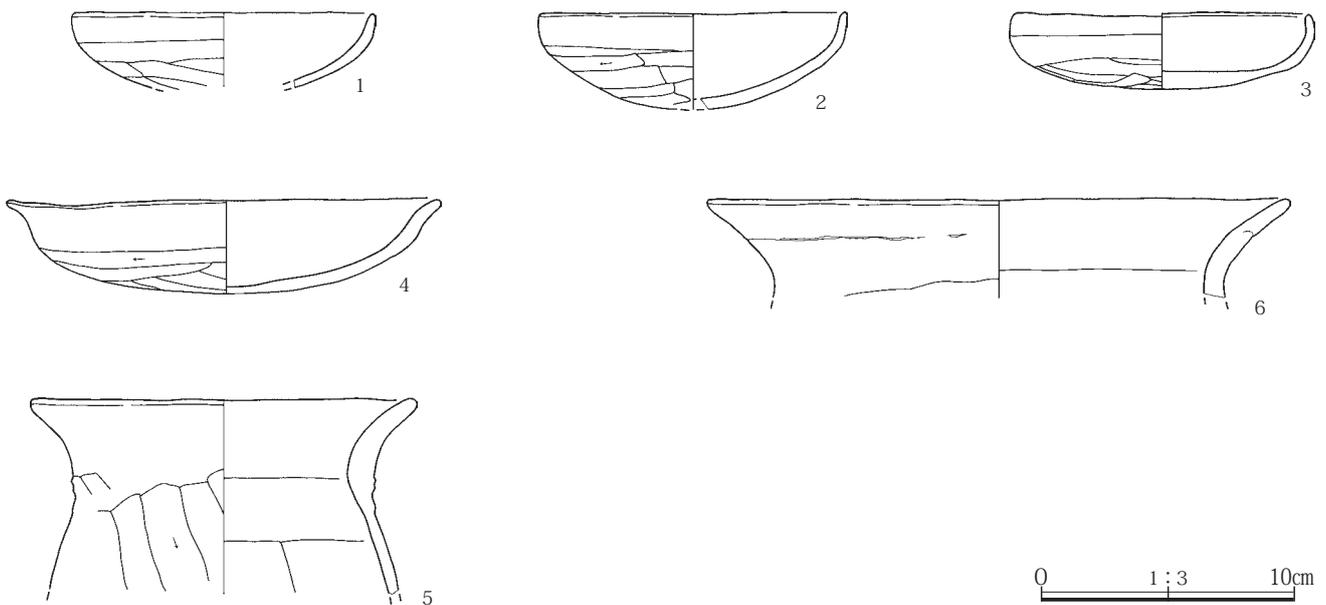


第17図 1区5号竪穴建物



竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を多量、ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。
3. 灰褐色粘質土(7.5YR5/2) ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒・灰褐色粘質土を少量含む。
5. 灰黄褐色粘質土(10YR4/2) 焼土を多量に含む。
6. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) 焼土粒を少量含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 灰白色粘質土塊・炭化物・焼土粒を少量含む。
8. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2) 灰白色粒を微量含む。
9. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 灰褐色粘質土・黒褐色土・焼土を少量含む。縮りなし。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 暗灰色灰を多量、焼土粒を少量含む。
11. 暗褐色土(10YR3/3) 暗灰色灰・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
12. 灰褐色粘質土(7.5YR5/2) 灰白色粒を微量含む。
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色灰を上部に多量に含む。
14. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム塊・焼土粒を少量含む。
15. 褐灰色土(10YR4/1) 暗灰色灰・焼土粒を少量含む。
16. 橙色焼土(5YR6/8) 黒褐色土を微量含む。
17. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性ややあり。



第18図 1区5号竪穴建物竈・出土遺物

長軸120cm、袖幅50cm、燃焼部幅50cmを測る。燃焼部の中程までが壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは50cmである。袖部分の構築は褐灰色粘質土を用いている。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径63cm、短径48cmの楕円形で、深さ26cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 調査区内では、全周している。幅8cm～13cm、深さ7cm～12cmを測る。

**遺物** 竈、壁溝内等から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は1～4：土師器杯(1は壁溝内、4は床直)、5・6：同甕(5は竈右袖、6は竈床下19cm)である。

**所見** 小規模な建物である。床面の中央から竈周辺に硬化がみられ、竈には多量の焼土・灰が残存していた。壁溝内や掘方から出土した遺物から、時期は8世紀第2四半期である。竈右袖から出土した甕は古墳時代後期のもの、竈構築に再利用されたと考えられる。

#### 1区6号竪穴建物(第19・20図、PL. 4・86)

調査区中央、1号竪穴建物の北東約20mの位置にある。攪乱により、建物の一部が壊されている。

**座標値** X=42,708～42,713 Y=-55,744～-55,749

**重複遺構** なし

**形状** 東壁中央を中心に攪乱によって壊されているが、確認できた範囲の形状から、ほぼ正方形である。

**長軸方位** N-90°-E

**規模** 長軸5.23m 短軸4.60m

床面積(19.71㎡) 残存壁高20cm

**埋没土** 主にローム粒やローム塊を含む黒褐色土で、上層には白色粒が見られる。

**床面** ほぼ平坦だが、建物の中央から壁溝に向かって緩やかな傾斜が見られる。南東隅の160cm×140cm程の範囲で粘土を検出した。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが30cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

**竈** 確認されなかった。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径100cm、短径62cmの楕円形で、深さ32cmを測る。

**柱穴** 南壁の中央付近でピット1基を検出した。計測値

は長径58cm、短径55cm、深さ28cmであった。その位置から、柱穴ではなく、出入り口に関わる可能性が高い。

**壁溝** 東壁以外の範囲で確認した。幅10cm～20cm、深さ10cm～15cmを測る。

**遺物** 床面直上や埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1・2：須恵器杯(1は床面直上)、3：同椀(床面直上、体部から口縁部を打ち欠き、欠け口を丁寧に処理しており、硯に転用しようとしたとみられるが、使用痕は確認できない。)、4～6：土師器甕(床面直上)、7：須恵器高杯、8：凹石である。

**所見** 本遺跡では、中規模の建物である。竈を確認することはできなかったが、南東隅で焼土を含む多量の褐灰色粘質土を検出した。本遺跡のほとんどの建物の竈が東壁内に設置されていることから、攪乱の範囲内に竈が存在した可能性が高く、多量の粘質土は、その痕跡とみられる。床面直上で出土した遺物から、時期は8世紀末～9世紀第1四半期である。

#### 1区7号竪穴建物(第21～23図、PL. 4・5・85)

調査区北側、6号竪穴建物の北約15mの位置にある。

**座標値** X=42,724～42,729 Y=-55,741～-55,747

**重複遺構** 8号掘立柱建物、166号・245号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-59°-E

**規模** 長軸4.40m 短軸4.05m

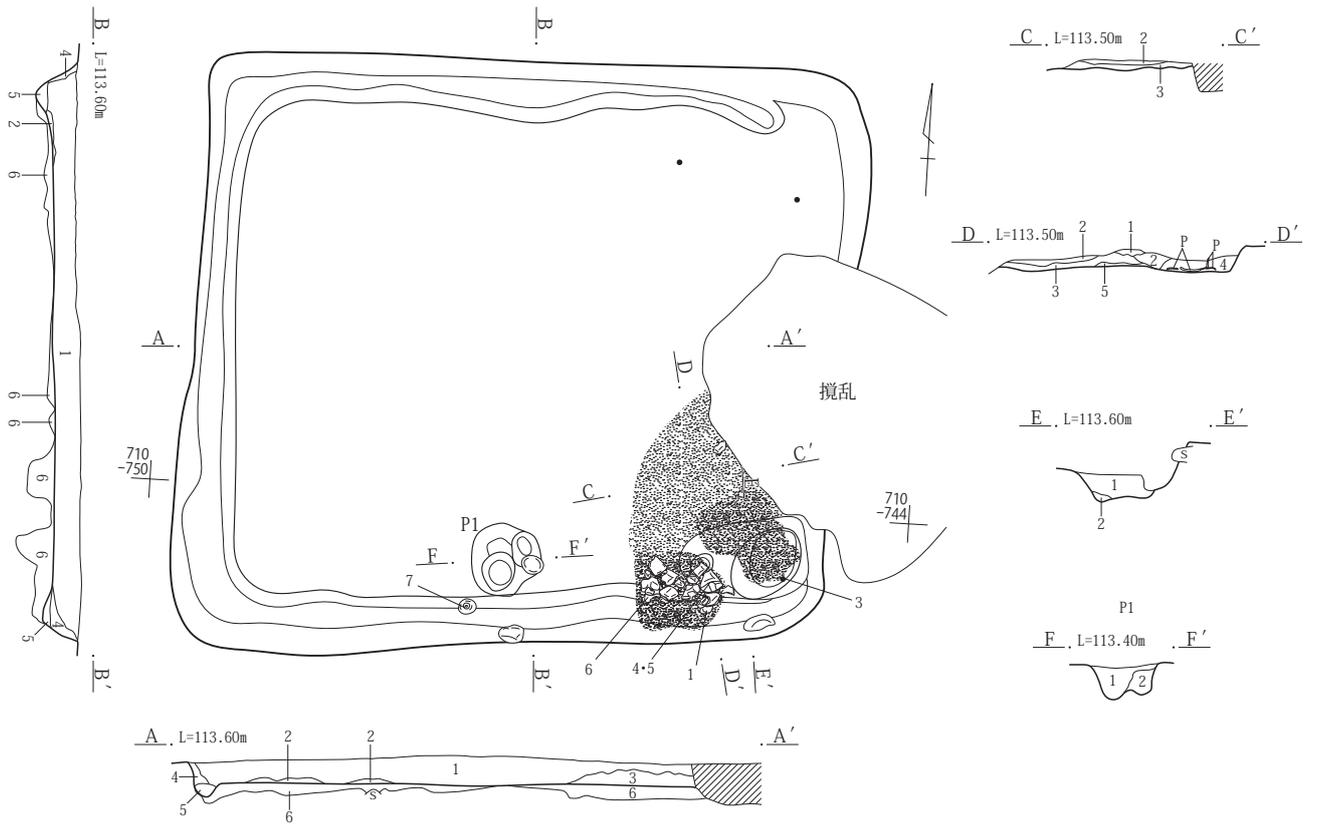
床面積15.20㎡ 残存壁高48cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム粒やローム塊を含む黒褐色土である。下層の一部には灰白色粘質土が見られる。

**床面** 全体の傾斜はないが、ゆるやかな起伏が見られる。南壁前から竈、建物の中央付近で硬化を確認し、その一部で灰白色粘質土を検出した。

**掘方** 床面から15cm～30cm程の深さで、場所による起伏や、細かい凹凸が見られる。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸115cm、袖幅30cm、燃焼部幅45cmを測る。燃焼部の中程までが壁を掘り込む位置にあるが、壁外への掘り込みは35cmである。袖部分の構築は灰白色粘質土を多量に含む褐灰色土を用いている。燃焼部底部やその周辺に焼土や炭化物、灰が厚く堆積しており、よく使用されていたと考えられる。また、北壁のほぼ中央で旧竈とみられる痕



6号竪穴建物 A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粘質土を多量、白色粒・ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。

C-C'・D-D'

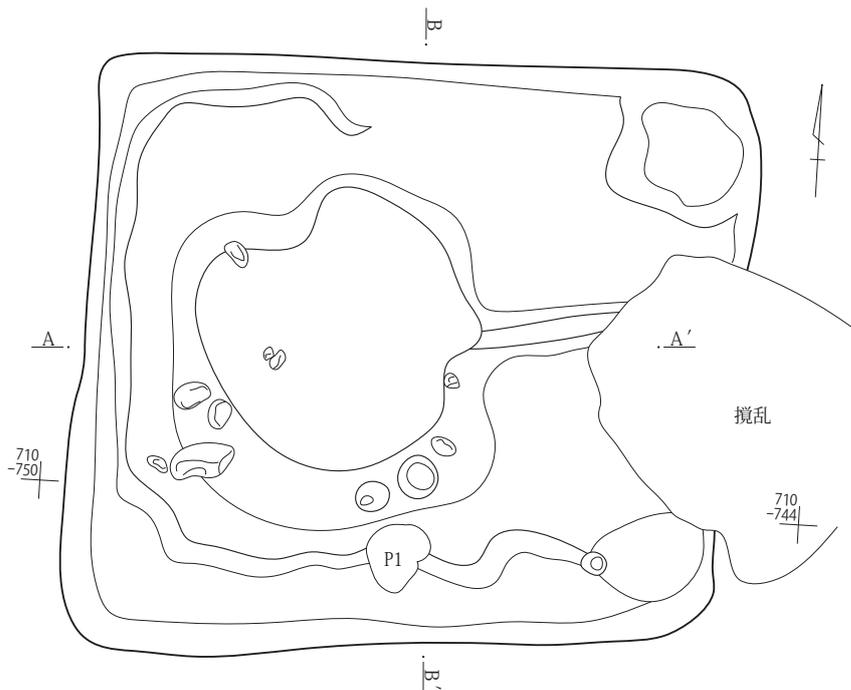
1. 焼土塊と灰白色粘土塊の混土。
2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土粒・灰白色粘質土粒を多量に含む。
3. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土粒・灰白色粘質土粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒・褐灰色灰を少量含む。

貯蔵穴 E-E'

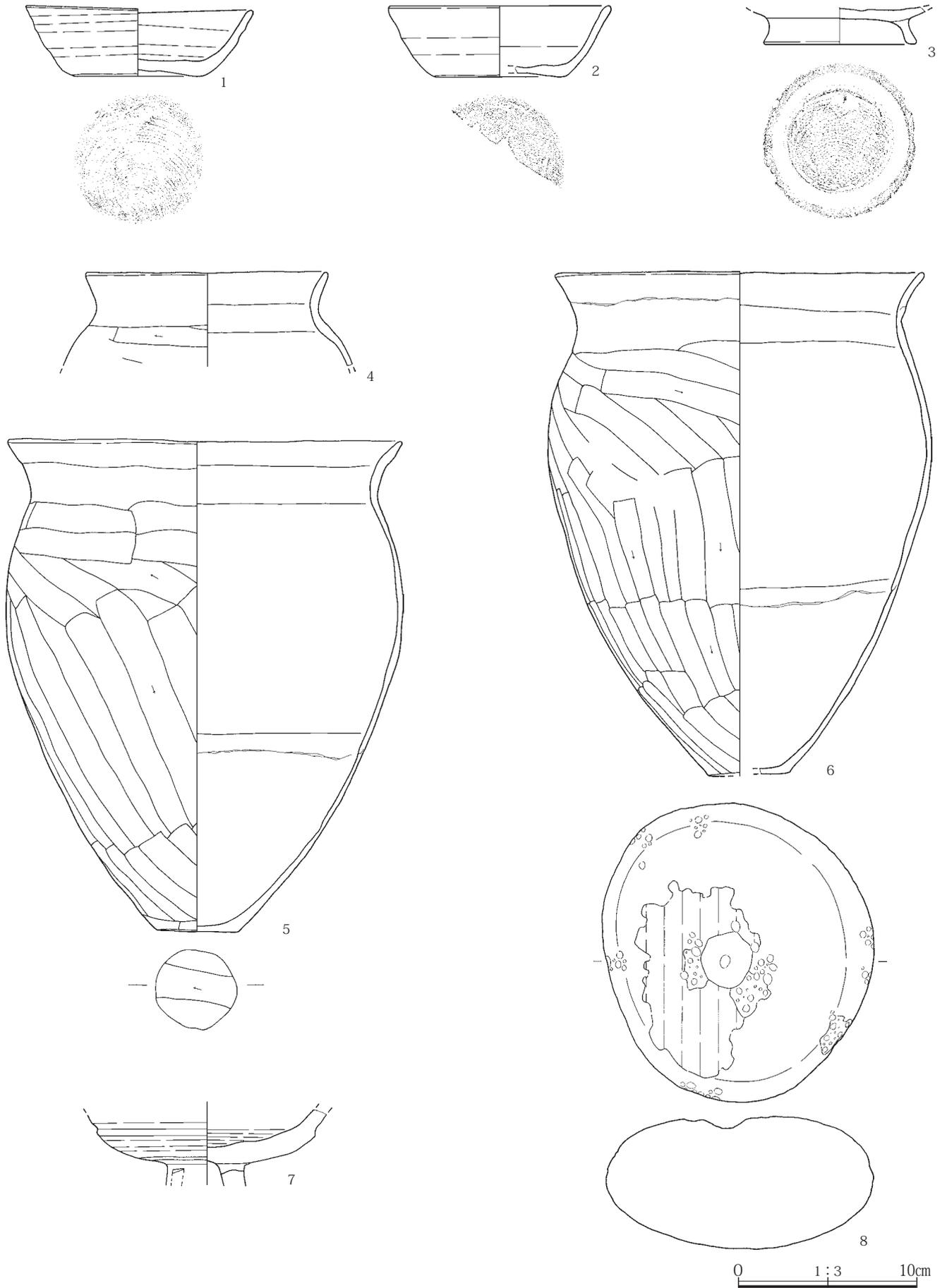
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量、灰褐色粘質土塊を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P1 F-F'

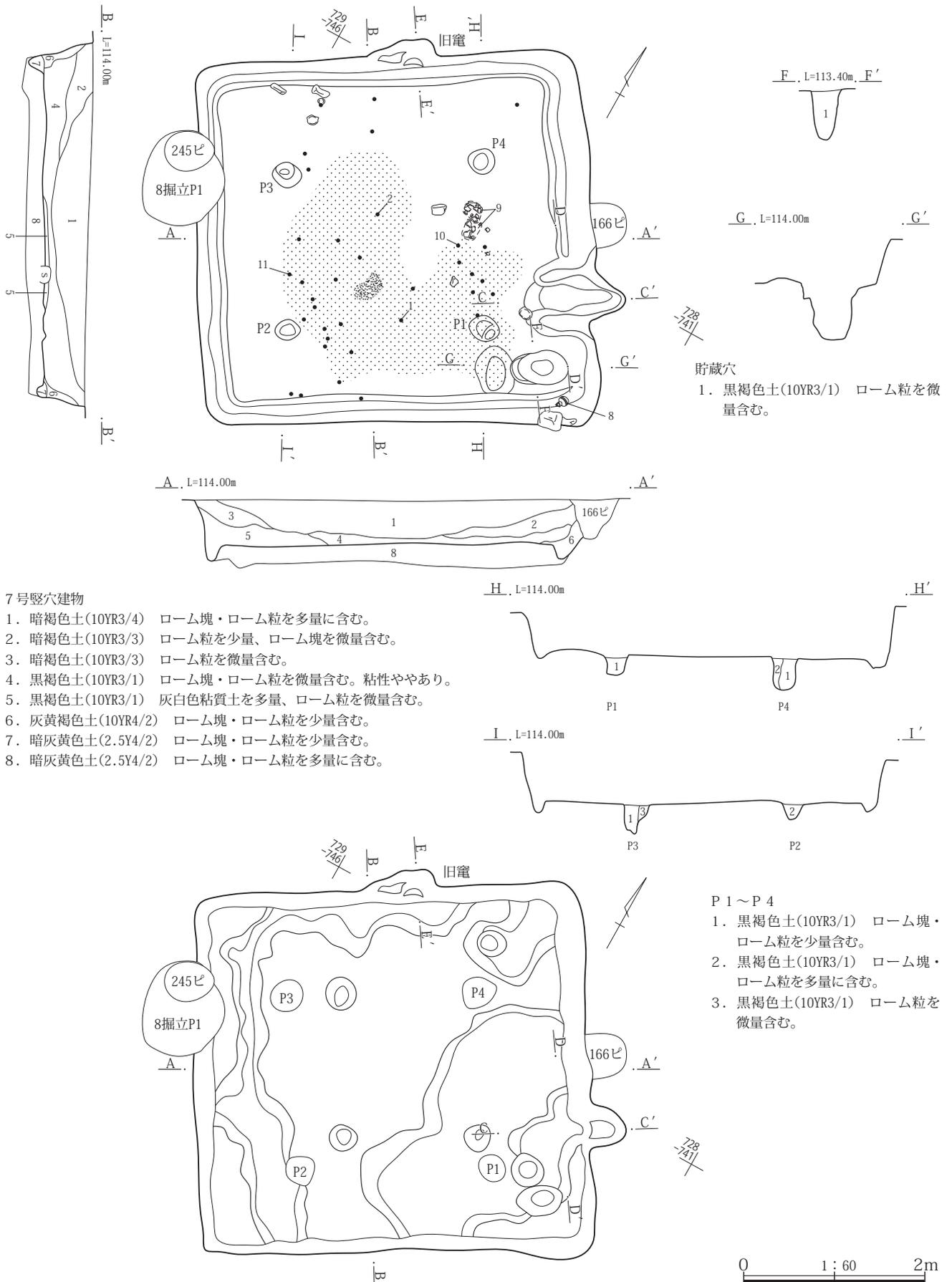
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



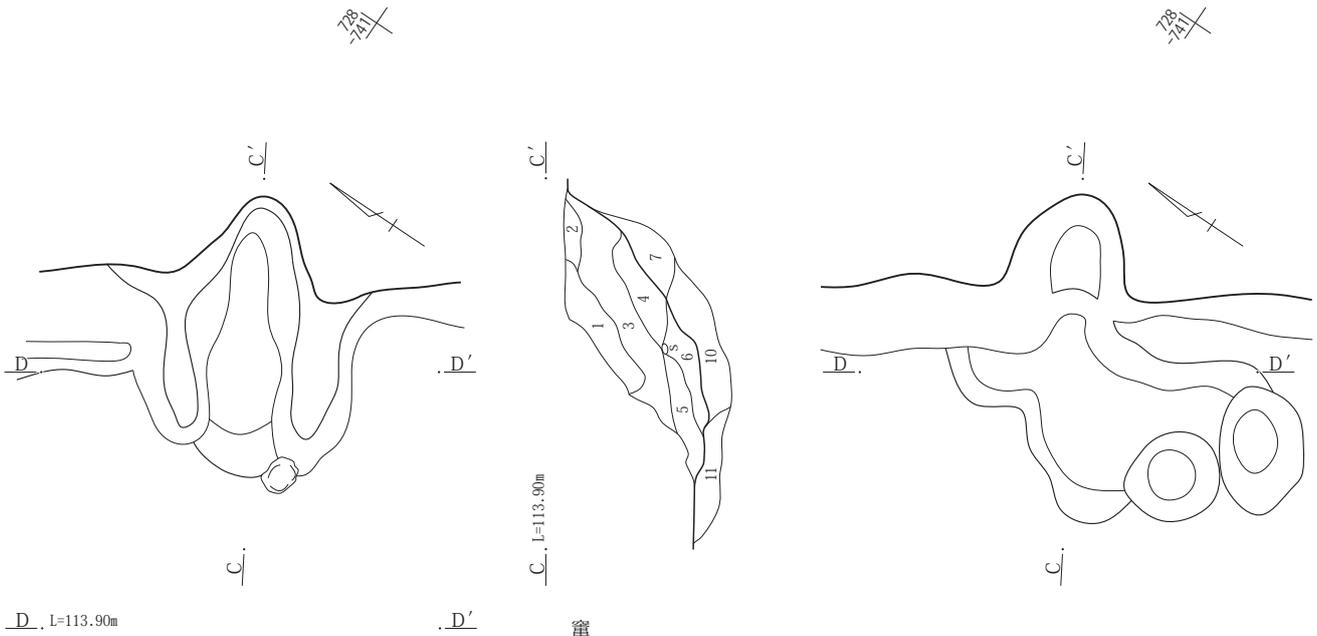
第19図 1区6号竪穴建物



第20図 1区6号竪穴建物出土遺物

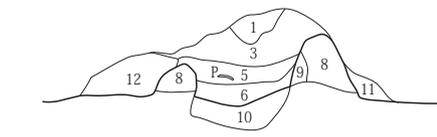


第21図 1区7号竪穴建物

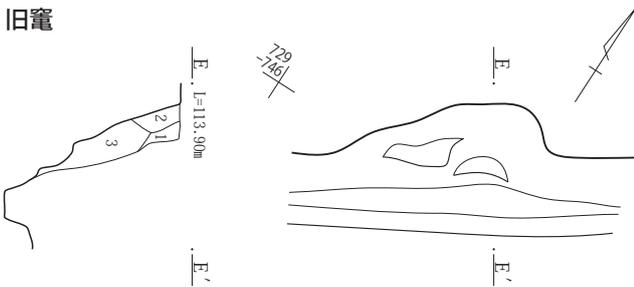


竈

1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 灰褐色粘質土塊を少量、ローム粒・ローム塊を微量含む。
2. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土粒を少量、ローム粒・ローム塊を微量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰褐色粘質土塊・焼土粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・炭化物を多量、灰褐色粘質土塊を少量含む。
5. 褐灰色土(10YR4/1) 灰褐色粘質土塊を多量、焼土粒を少量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒・炭化物・灰褐色粘質土を多量に含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 橙色焼土塊を少量、上部に灰を微量含む。
8. 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色粘質土塊を多量に含む。
9. 褐灰色土(10YR4/1) 橙色焼土塊を多量、灰白色粘質土塊を少量含む。
10. 黒褐色土(10YR3/2) 橙色焼土塊を多量、上部に灰を少量含む。
11. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。
12. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



旧竈

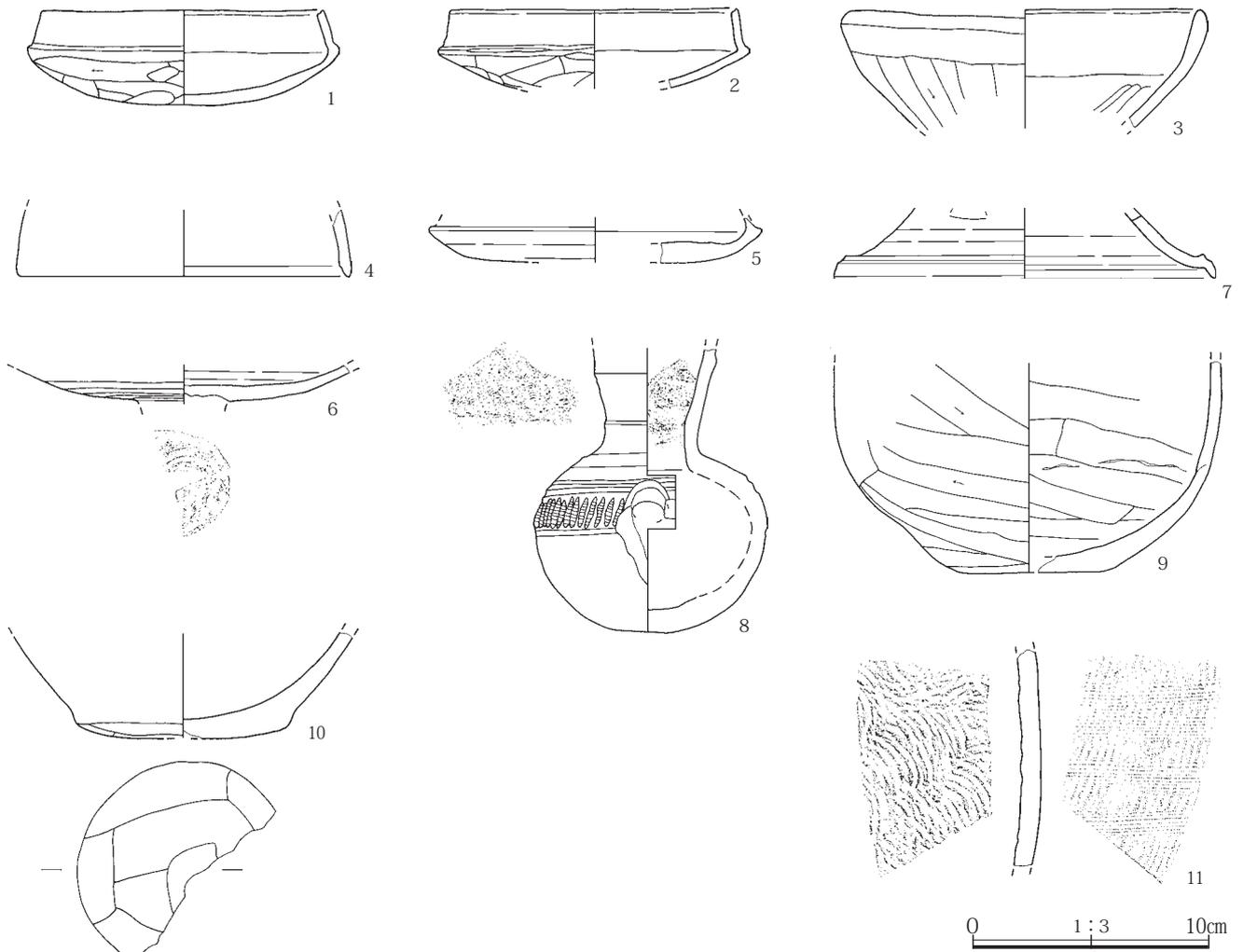


旧竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。



第22図 1区7号竈・旧竈



第23図 1区7号竪穴建物出土遺物

跡を検出した。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径62cm、短径38cmの楕円形で、深さ57cmを測る。

**柱穴** 床面でピット4基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 35×28×43      P 2 28×23×12

P 3 33×29×35      P 4 30×28×39

位置、形状から、それぞれ主柱穴の可能性が高い。

**壁溝** 全周している。幅7cm～15cm、深さ5cm～26cmを測る。

**遺物** 床面直上や埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1・2：土師器杯(1は床面直上、2は床上9cm)、3：同鉢(竈内)、4：須恵器蓋杯の蓋、5～7：同高杯(6は床下)、8：同甕(床面直上)、9：土師器壺(床面直上)、10：同甕、11：須恵器甕である。5は蓋杯の身ともみられるが、器高が浅い。黒井峯遺跡

C 61号高床式建物から同様の高杯が出土している。

**所見** 比較的規模の小さい建物であるが、竈・貯蔵穴・柱穴・壁溝を確認した。竈は当初北壁に設置し、その後東壁に造り替えたとみられる。竈付近から建物中央にかけて床面が硬化している範囲がある。床面直上で出土した遺物から、時期は6世紀第2四半期である。

1区8号竪穴建物(第24・25図、PL. 5・86)

調査区北側、7号竪穴建物の10m程南東にある。

座標値 X=42,720~42,724 Y=-55,734~-55,737

重複遺構 なし

形状 ほぼ長方形であるが、北東隅と北西隅の角度に差があり、幾分ゆがみのある形状である。

方位 N-92°-E

規模 長軸3.48m 短軸3.06m

床面積9.39m<sup>2</sup> 残存壁高36cm

埋没土 埋没土の多くはローム塊を含む黒褐色土や暗褐色土で、上層には白色粒が見られる。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

床面 全体の傾斜はないが、ゆるやかな起伏が見られる。建物の中央付近で灰白色粘質土を検出した。

掘方 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

竈 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸120cm、袖幅60cm、燃焼部幅80cmを測る。燃焼部のほと

んどが壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは70cmである。袖部分の構築は褐灰色粘質土を用いている。燃焼部底部やその周辺に焼土や灰が多量に堆積していた。

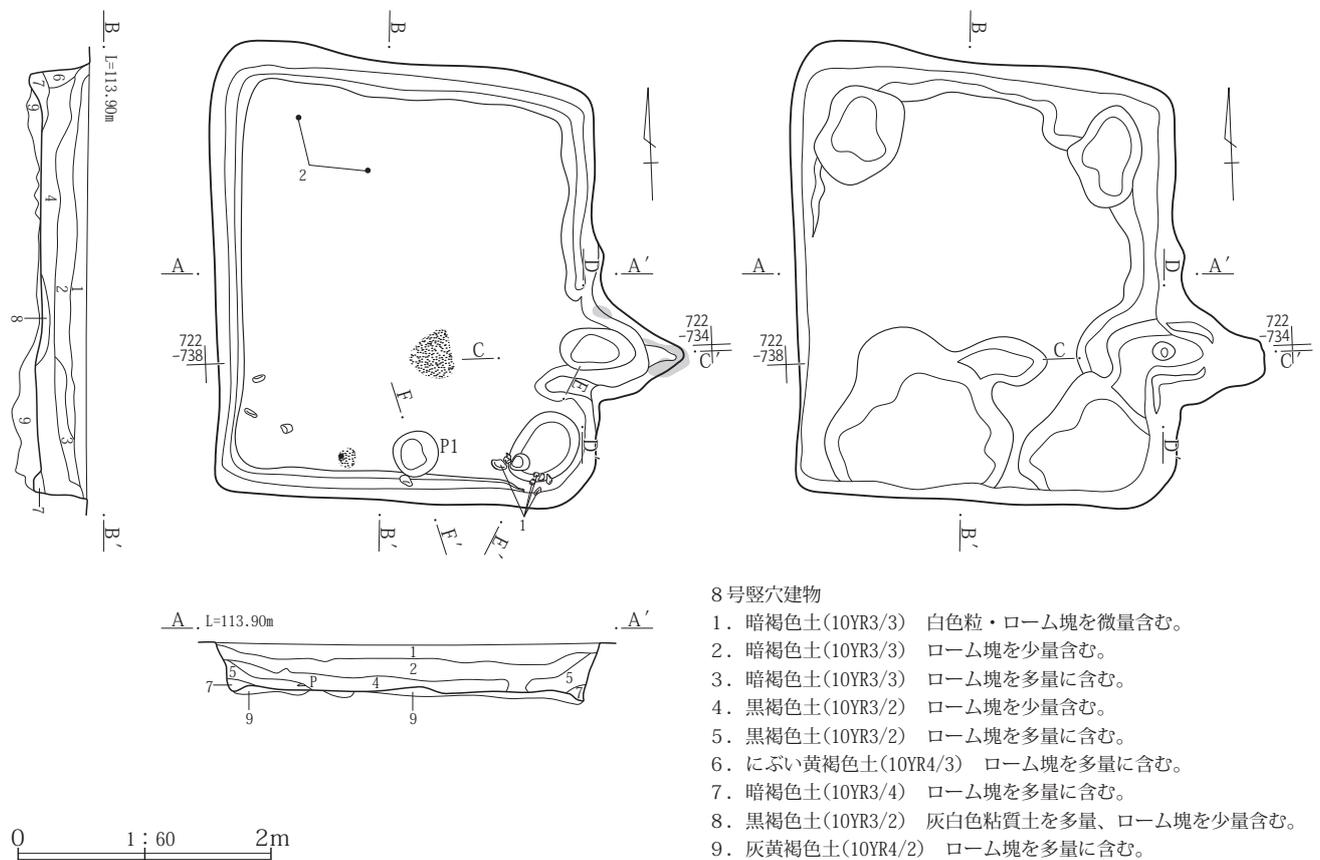
貯蔵穴 建物の南東隅にある。規模は長径63cm、短径48cmの楕円形で、深さ15cmを測る。

柱穴 南壁の中央付近でピット1基を検出した。計測値は長径38cm、短径37cm、深さ21cmであった。その位置から、柱穴ではなく、出入り口に関わる可能性が高い。

壁溝 全周している。幅5cm~10cm、深さ5cm~10cmを測る。

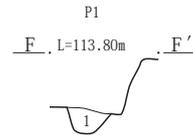
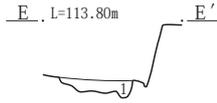
遺物 床面直上や埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2：須恵器杯(床面直上)である。

所見 小規模な建物である。本遺跡の多くの竪穴建物の主軸方位は北東であるが、本建物はほぼ東を向いている。床面直上で出土した遺物から、時期は8世紀末~9世紀第1四半期である。



第24図 1区8号竪穴建物

第3章 調査の成果

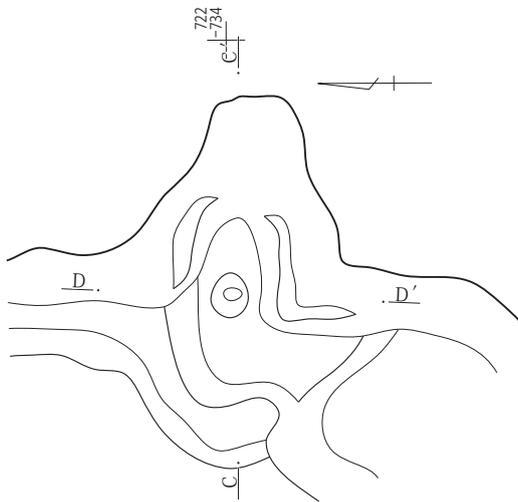
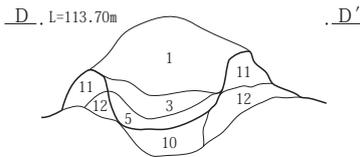
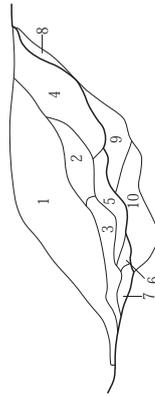
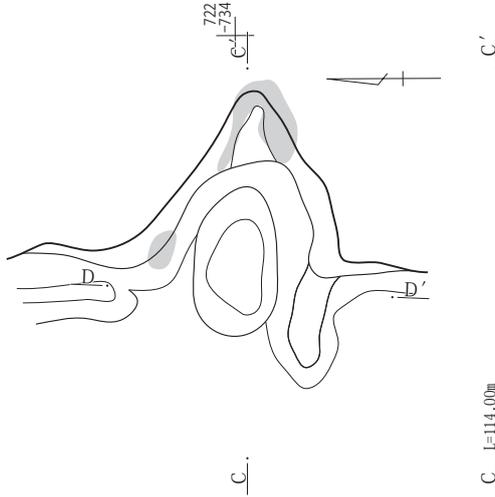
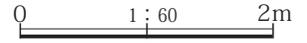


貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量、下部に焼土塊を少量含む。

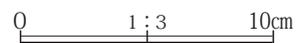
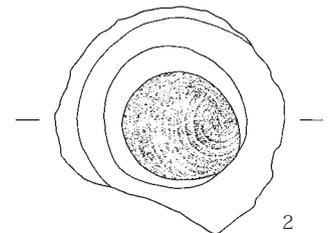
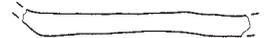
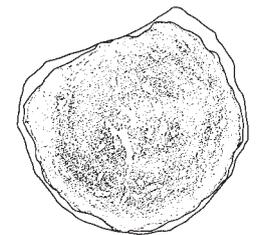
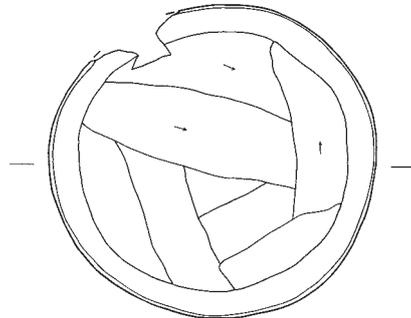
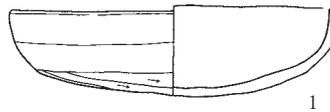
P 1

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



竈

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒を多量、灰褐色粘質土塊を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 橙色焼土塊・焼土粒を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 橙色焼土塊・暗灰色灰を多量に含む。
6. 暗灰色灰(N3/) 焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊・ローム粒・灰を少量含む。
8. 明黄褐色土(10YR6/6) 暗褐色土を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊・上部に灰を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土塊を少量含む。



第25図 1区8号竪穴建物竈・出土遺物

**1区9号竪穴建物**(第26～28図、PL. 5・6・86)

調査区北側、7号竪穴建物の5m程北にあり、建物の北西側が調査区外にある。

**座標値** X=42,731～42,737 Y=-55,739～-55,744

**重複遺構** なし

**形状** 北西側が調査区外にあるため、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、長方形と考えられる。

**主軸方位** N-55°-E

**規模** 長軸(4.65m) 短軸3.70m

床面積(13.59㎡) 残存壁高50cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。上層には灰白色粒が見られ、床面付近では、多量の炭化物を確認した。また、周縁部の一部では、灰白色粘質土塊が見られた。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

**床面** ほぼ平坦であるが、ゆるやかな起伏が見られる。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。北西隅で床下土坑を1基検出した。規模は長径98cm、短径63cm、深さ28cmを測る。

**竈** 北東壁のやや南東寄りの位置に設置している。規模は長軸152cm、袖幅69cm、燃烧部幅74cmを測る。建物の内側から壁を掘り込む位置まで、広い燃烧部があり、壁外への掘り込みは57cmである。

**貯蔵穴** 建物の南隅に位置するP4が、形状から貯蔵穴の可能性がある。規模は長径70cm、短径62cmの楕円形で、深さ23cmを測る。

**柱穴** 床面でP4以外に3基のピットを検出した。

それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P1 26×24×9 P2 53×35×50

P3 58×35×23

位置や形状から、これらのピットが支柱穴にあたるものかは、明らかではない。P3は、出入り口に関わる可能性がある。

**壁溝** 調査区内では、全周している。幅8cm～15cm、深さ3cm～10cmを測る。

**遺物** 床面直上や竈内、埋没土中から多数の土師器や須恵器等が出土した。掲載した遺物は、1～3：土師器杯(1は竈内)、4：須恵器皿、5：同杯(床面直上)、6・

7：土師器甕(竈内)、8：土鍾である。

**所見** 規模は小さめの建物である。本遺跡では数少ない主軸に対して横長の建物である。床面直上では建物の中央から北西隅方向を中心に多量の炭化物や焼土を検出した。埋没前に焼失した建物の可能性がある。また、廃絶前に建物の中で熱を伴う作業を行っていたとも考えられる。床面直上や竈内で出土した遺物から、時期は8世紀第3四半期である。

**1区10号竪穴建物**(第29・30図、PL. 6・87)

調査区中央西寄り、5号竪穴建物の10m程北にあり、建物の西側大部分が調査区外にある。

**座標値** X=42,714～42,717 Y=-55,753～-55,755

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、方形の可能性があるが、建物の大部分が調査区外にあるため、明らかではない。

**長軸方位** 南東壁の方位は、N-56°-Eである。

**規模** 東西(3.20m) 南北1.55m

床面積(2.64㎡) 残存壁高65cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られ、床面付近では、多量の焼土や炭化物を確認した。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

**床面** 多少の起伏はあるが、ほぼ平坦である。北側の範囲で粘質土を検出した。

**掘方** 床面から15～30cmの深さで、起伏や細かい凹凸がある。

**竈** 調査区内では確認されなかった。

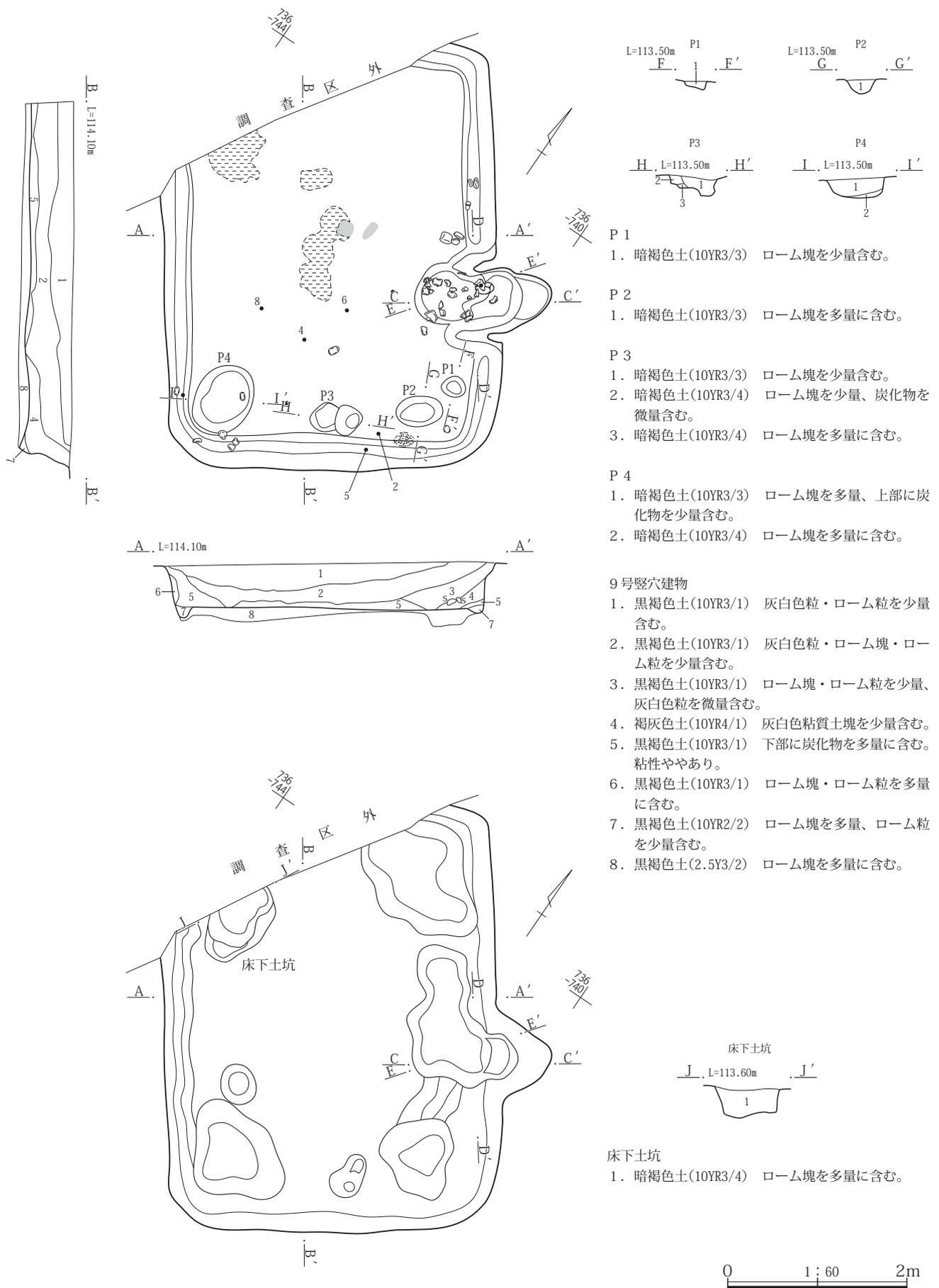
**貯蔵穴** 建物の東隅に位置するP1は、貯蔵穴の可能性がある。規模は長径65cm、短径62cmのほぼ円形で、深さ24cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

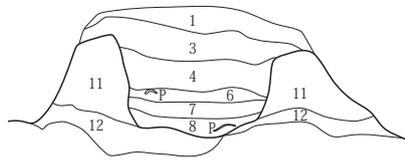
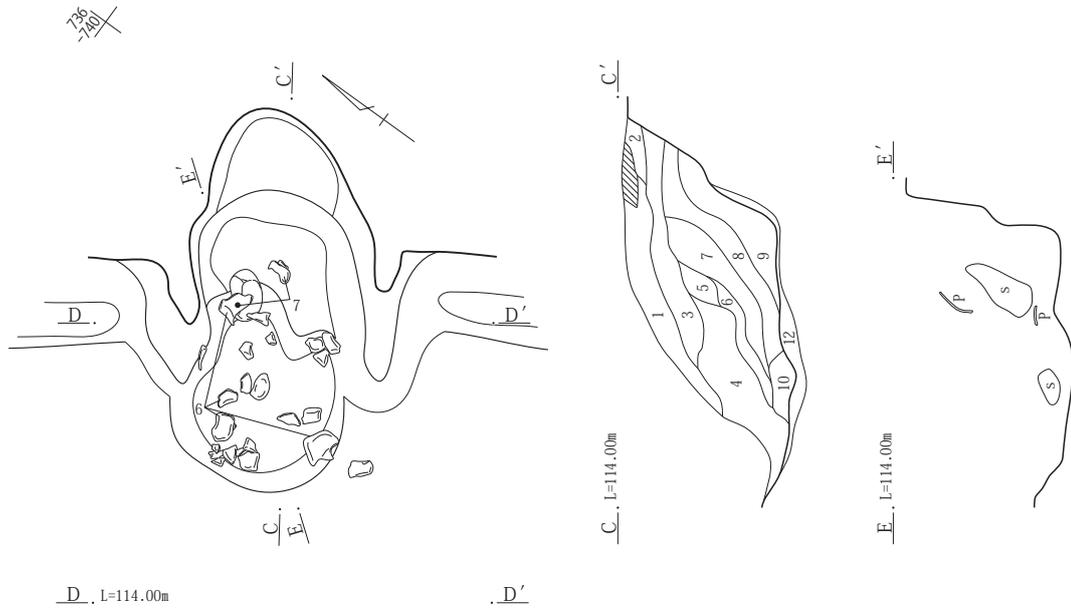
**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 床面直上や埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1：弥生土器壺(床面直上)、2：土師器壺(床面直上)、3：同鉢(床面直上)、4：同高杯か、5：同ミニチュア土器(床面直上)、6：同器台(床面直上)、7：土製紡輪(床面直上)、8：器種不明の鉄製品である。

**所見** 建物の大部分が調査区外にある。調査できた範囲

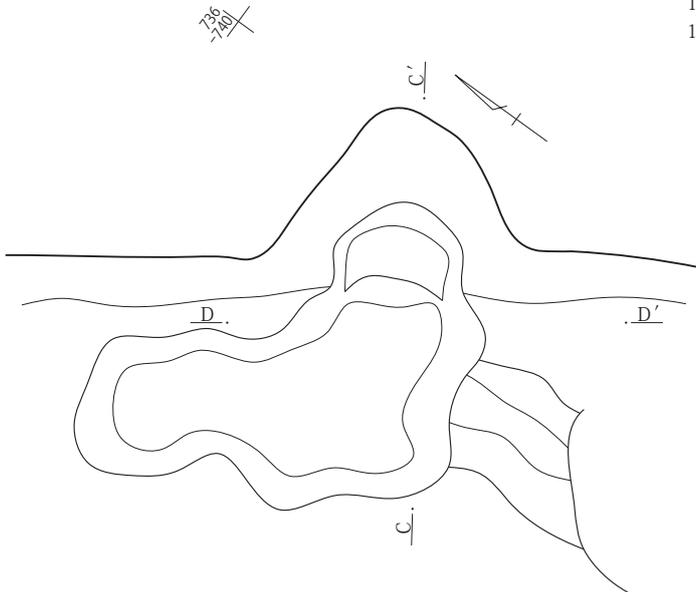


第26図 1区9号竖穴建物



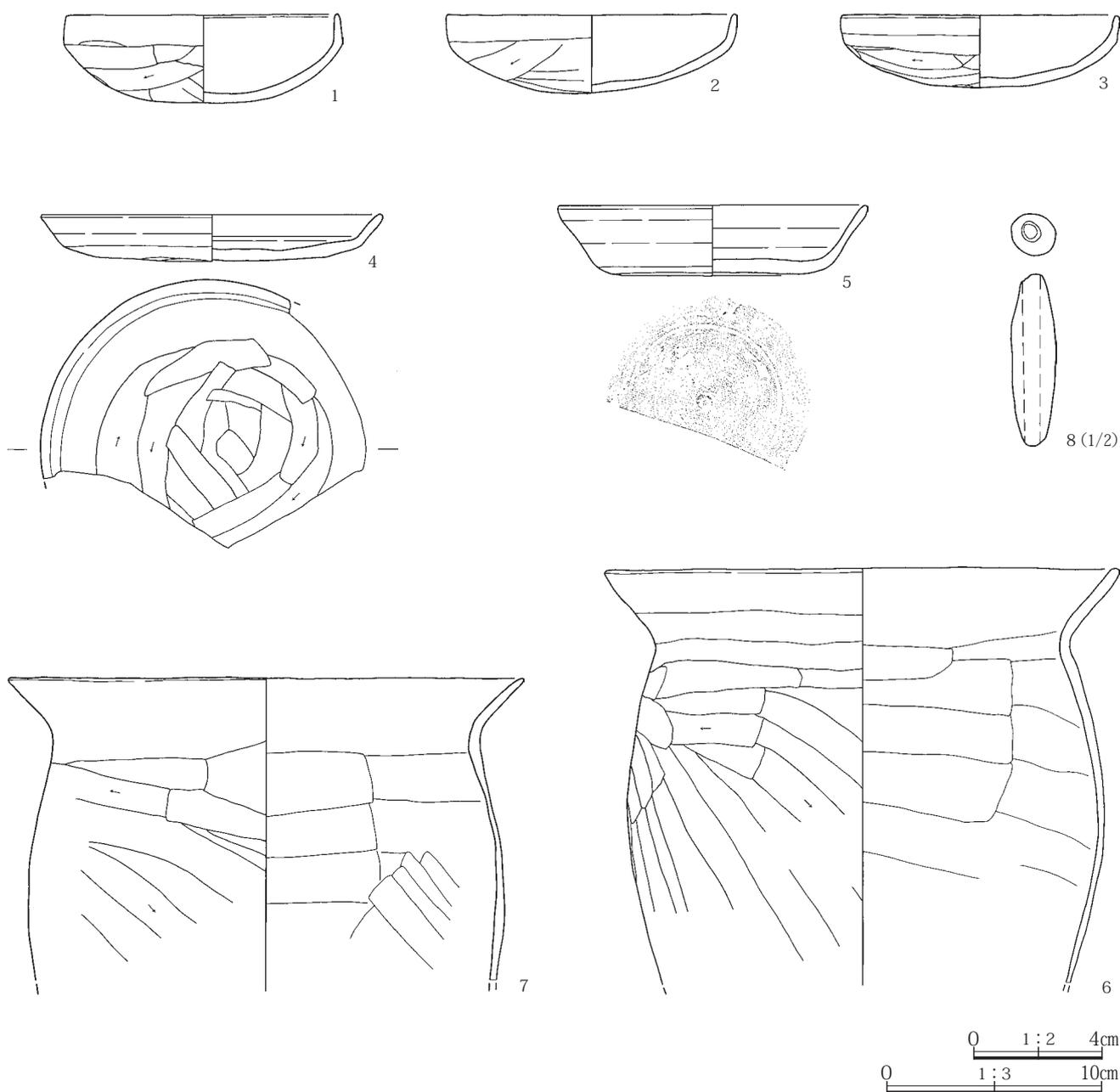
竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・白色粒・焼土粒を微量含む。
2. 灰褐色粘質土(5YR4/2) 白色粒・焼土粒を微量含む。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2) ローム粒を微量含む。
4. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒・焼土粒・炭化物片を微量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
6. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム塊・焼土粒を微量含む。
7. 暗褐色土(5YR3/2) 橙色焼土塊を斑状に多量に含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・焼土粒を微量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) 橙色焼土塊・ローム塊を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊を多量、灰・炭化材を少量含む。
11. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム塊・焼土塊を少量含む。粘性ややあり。
12. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、炭化物を少量含む。



0 1:30 1m

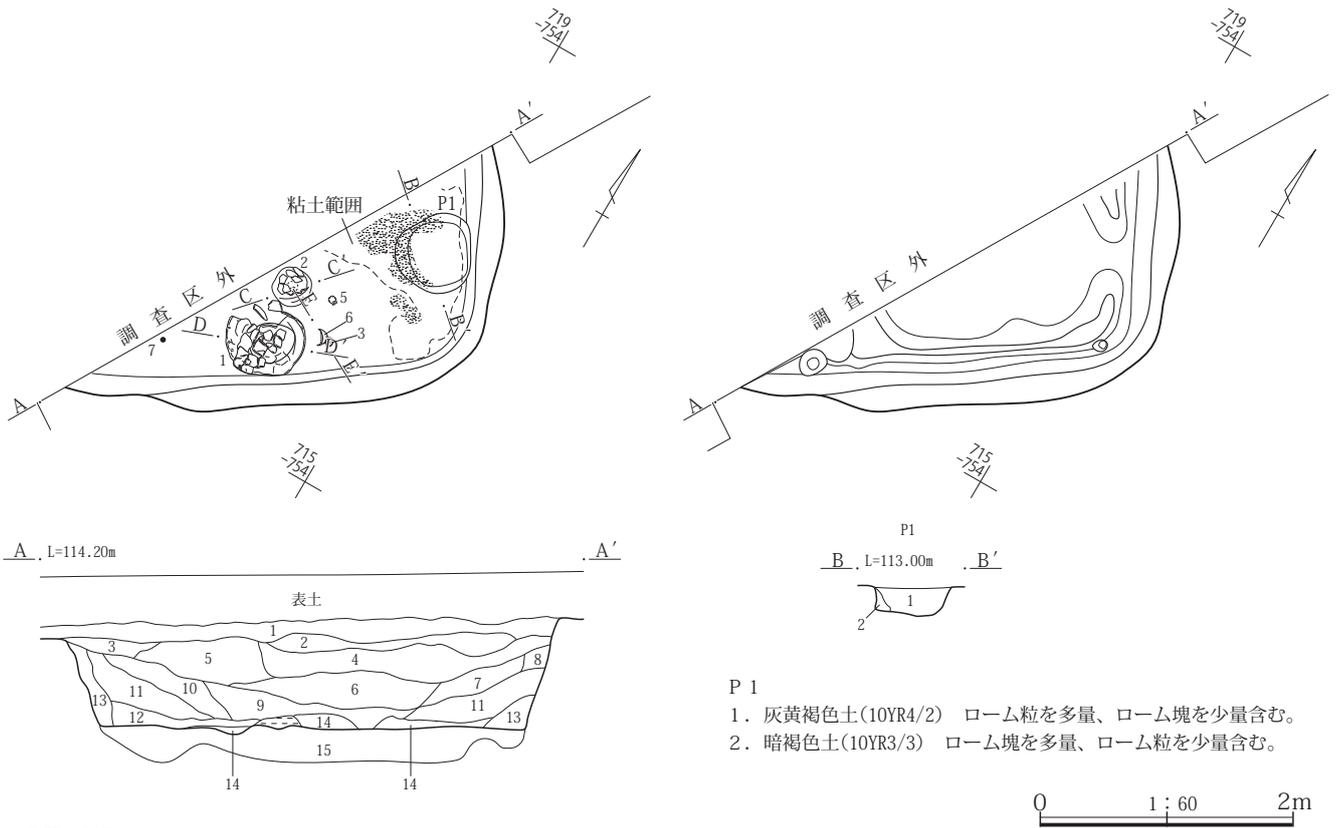
第27図 1区9号竈穴建物竈



第28図 1区9号竪穴建物出土遺物

が建物の北東隅の範囲に限られるため、不明な点が多いが、床面直上で完形あるいは完形に近い土器数点と共に、多量の焼土や炭化物が出土した。この炭化材の一部2点を採取して、放射性炭素年代測定と樹種同定分析を実施したところ、一方が弥生時代後期のコナラ属コナラ節の木材(カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワ)、他方が弥生時代後期～古墳時代前期のコナラ属クヌギ節の木材(クヌギ、アベマキ)であることが明らかになった。詳細については、第4章第1節・第3節・第4節に記した。カシワ節・クヌギ節の木材は弥生時代から平安時代に渡り建築部材として利用されている。

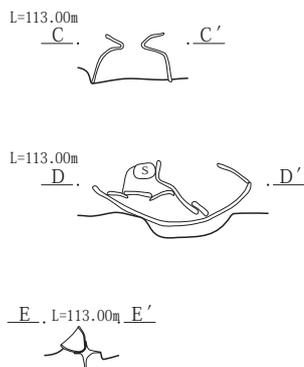
この建物の構築にも利用され、何らかの理由により焼失した可能性が高い。床面直上で出土した土器から、時期は3世紀末～4世紀初頭と考えられ、分析結果とも整合している。



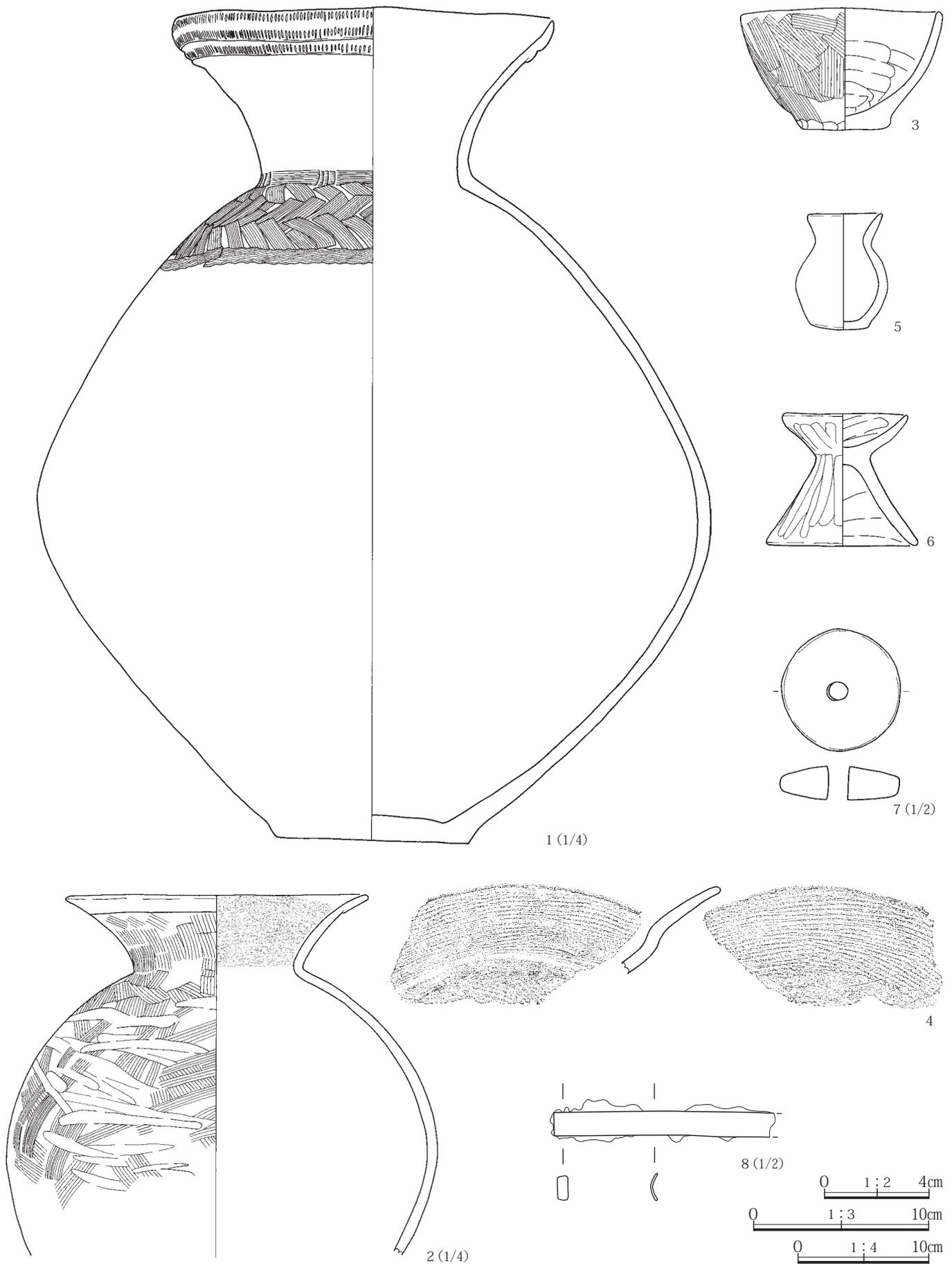
10号竖穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を少量含む。
4. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量、灰白色粒を微量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量、炭化物を少量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒色土塊を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・炭化物を微量含む。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
11. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、炭化物を微量含む。
12. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物・焼土塊・焼土粒を少量含む。
13. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
14. 黒褐色土(10YR3/2) 橙色焼土・炭化物を多量に含む。
15. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量、黒褐色土を微量含む。

南東壁沿い遺物出土状況



第29図 1区10号竖穴建物



第30図 1区10号竪穴建物出土遺物

**1区11号竪穴建物**(第31・32図、PL. 7・88)

調査区北側、6号竪穴建物の東約30mの位置にあり、建物の1/2以上が、調査区外にあると考えられる。

**座標値** X=42,711~42,716 Y=-55,714~-55,719

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性が高いが、建物の多くが調査区外にあるため、明らかではない。

**主軸方位** 北西壁の方位は、N-60°-Eである。

**規模** 長軸5.50m 短軸(2.90m)

床面積(12.10㎡) 残存壁高35cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られる。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

**竈** 調査区内では確認されなかった。

**貯蔵穴** 調査区内では確認されなかった。

**柱穴** 床面でピット2基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 80×80×43 P 2 96×85×46

位置、形状からP 1・P 2は支柱穴とみられる。調査区外に同様の2基の柱穴が存在する可能性が高い。

**壁溝** 調査区内では、全周している。幅8cm~10cm、深さ2cm~7cmを測る。

**遺物** 埋没土中から土師器や須恵器の土器片が数点出土した。掲載したのは、1~5:土師器杯(4は床上8cm)、6・7:須恵器杯蓋(6は床面直上)である。

**所見** 建物の半分程が調査区外にあるため、不明な点が多いが、本遺跡では中規模の建物とみられる。主軸は異なるものの、建物や柱穴等の規模・形状が、本遺構の10m程北西に位置する15号竪穴建物と類似している。形が同じだから同時期とはいえない。埋没土中からは、8世紀第2四半期から8世紀後半の遺物も出土しているが、床面直上で出土した遺物から時期は8世紀第1四半期と考えられる。

**1区12号竪穴建物**(第33~36図、PL. 7・88・89)

調査区北側、11号竪穴建物の北に隣接し、建物の南東

隅が調査区外にある。

**座標値** X=42,717~42,722 Y=-55,711~-55,717

**重複遺構** なし

**形状** 正方形 **主軸方位** N-90°-E

**規模** 長軸5.63m 短軸5.15m

床面積(25.88㎡) 残存壁高28cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土で、上層には灰白色粒が見られる。不自然な堆積状況で、埋め戻されたと考えられる。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。P 2付近で焼土を含む粘質土を検出した。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが25cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸153cm、袖幅80cm、燃烧部幅80cmを測る。燃烧部は建物の内側にある。後世の削平により残存する壁が低く、煙道の先端が調査区外にあるが、壁外への掘り込みは70cmを測る。使用時の煙道の先端は、壁から離れた位置にあったことが想定できる。燃烧部底部やその周辺に焼土や灰が多量に堆積している。

**貯蔵穴** 南東隅に位置するP 5はやや浅いが、その位置から貯蔵穴の可能性が高い。規模は長径65cm、短径45cmの楕円形で、深さ19cmを測る。

**柱穴** P 5の他、床面でピット5基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 38×35×51 P 2 38×33×43

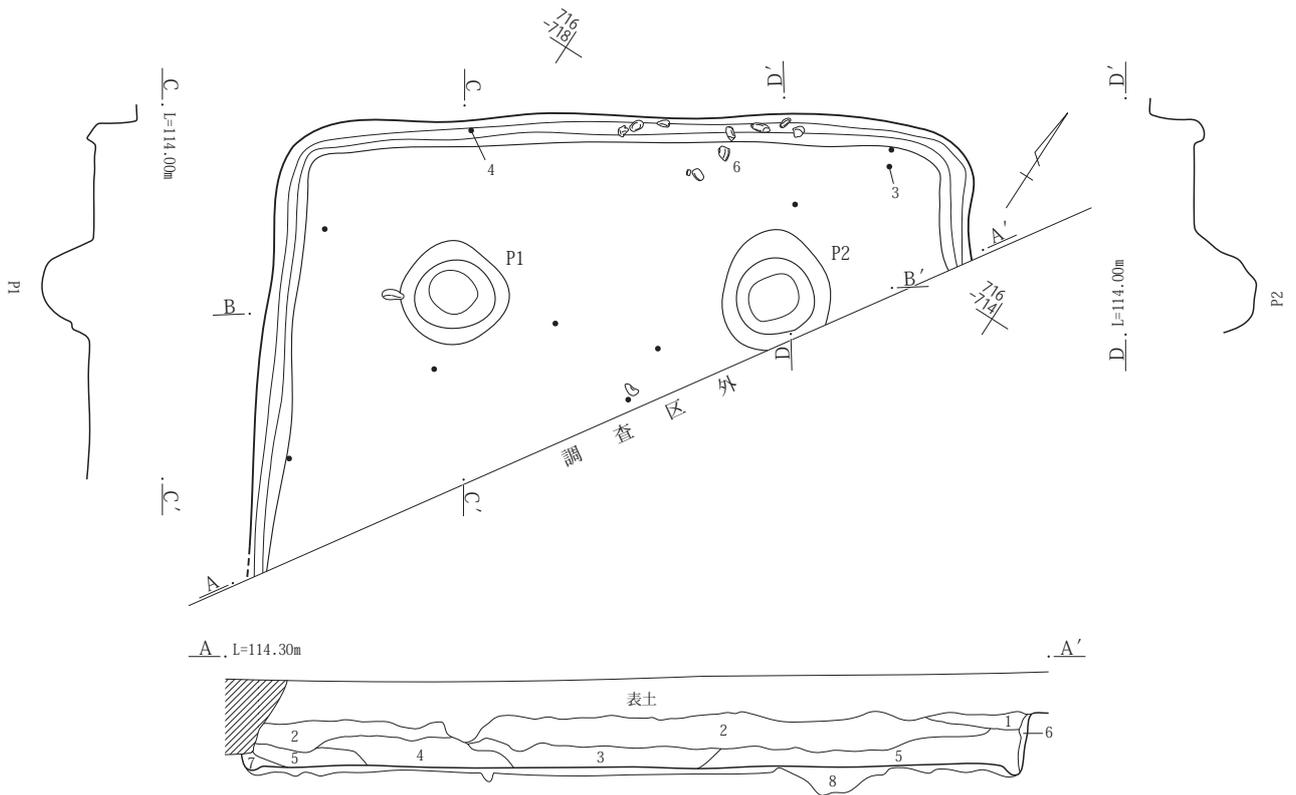
P 3 40×30×51 P 4 30×28×53

P 6 36×33×23

位置、形状からP 1~P 4が支柱穴とみられる。P 6の用途は明らかではないが、P 5と共に貯蔵穴として使用された可能性もある。

**壁溝** 壁から少し離れた位置で検出した箇所もあるが、P 5・P 6周辺を除くほとんどの範囲で確認した。幅5cm~15cm、深さ4cm~10cmを測る。

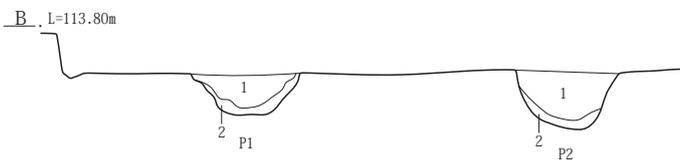
**遺物** 床面直上や焚口周辺、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1~6:土師器杯(1は床上8cm、2・3は床面直上、4は竈右袖、6は竈内)、7~10:須恵器杯蓋(8は転用硯)、11~18:同杯(12は



11号竪穴建物

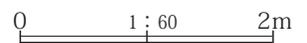
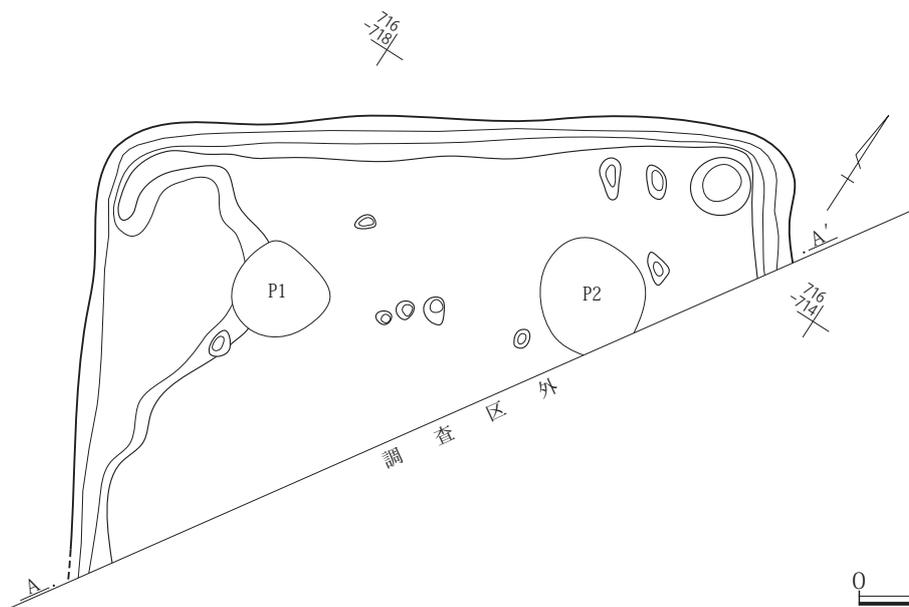
1. 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒・ローム塊を少量含む。粘性ややあり。
3. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性あり。

4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性あり。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を少量含む。粘性あり。
6. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。縮りあり。

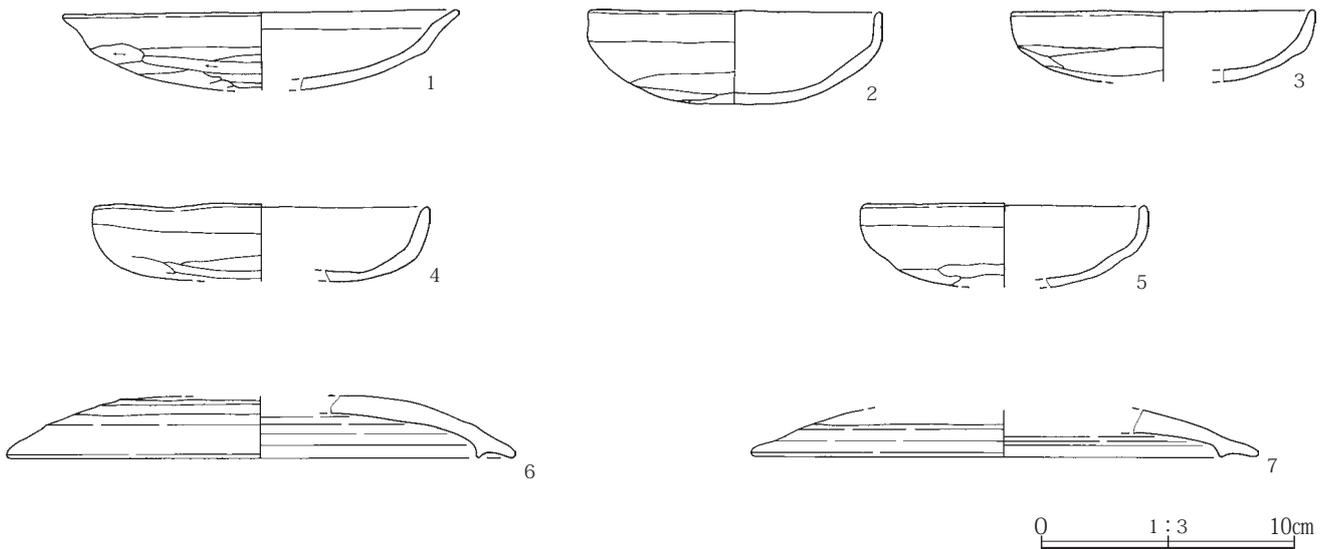


P1・P2

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第31図 1区11号竪穴建物



第32図 1区11号竪穴出土遺物

床上9cm、15は床面直上)、19~22：同有台杯(19・20は床面直上、21は床上7cm、22は竈煙道上部)、23：同小型短頸壺、24：同壺、25：土師器台付甕(床上8cm)、26・27：同甕(26は竈床下、27は竈内)、28：釘とみられる鉄製品(床面直上)である。19~22は高台が高く、貼付位置がやや内側に入っており、群馬県産須恵器の特徴とはやや異なる。20~22は硯に転用されている。

**所見** 本遺跡においては、中規模の建物である。周囲の数棟同様、主軸方位がほぼ東である。掲載した土器は10の杯蓋以外は、全て共伴関係にある。これらの土器から時期は8世紀第3四半期である。

#### 1区13号竪穴建物(第37~39図、PL. 7・8・89)

調査区北側、8号竪穴建物の5m程北にある。

**座標値** X=42,727~42,731 Y=-55,733~-55,738

**重複遺構** 14号竪穴建物、1号溝と重複している。新旧関係は本遺構が14号竪穴建物より新しく、1号溝より古い。

**形状** 長方形 **主軸方位** N-65°-E

**規模** 長軸4.50m 短軸3.61m

床面積13.60㎡ 残存壁高53cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られる。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが15cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹

凸も見られる。南壁中央付近で床下土坑を1基検出した。規模は長径95cm、短径85cm、深さ17cmを測る。

**竈** 東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸110cm、袖幅45cm、燃烧部幅50cmを測る。1号溝によって上部が壊されており、残存するのは、燃烧部の底面周辺であるが、焼土や灰が多量に堆積していた。また、北壁の東寄りの位置で旧竈とみられる痕跡を検出した。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 床面でピット2基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

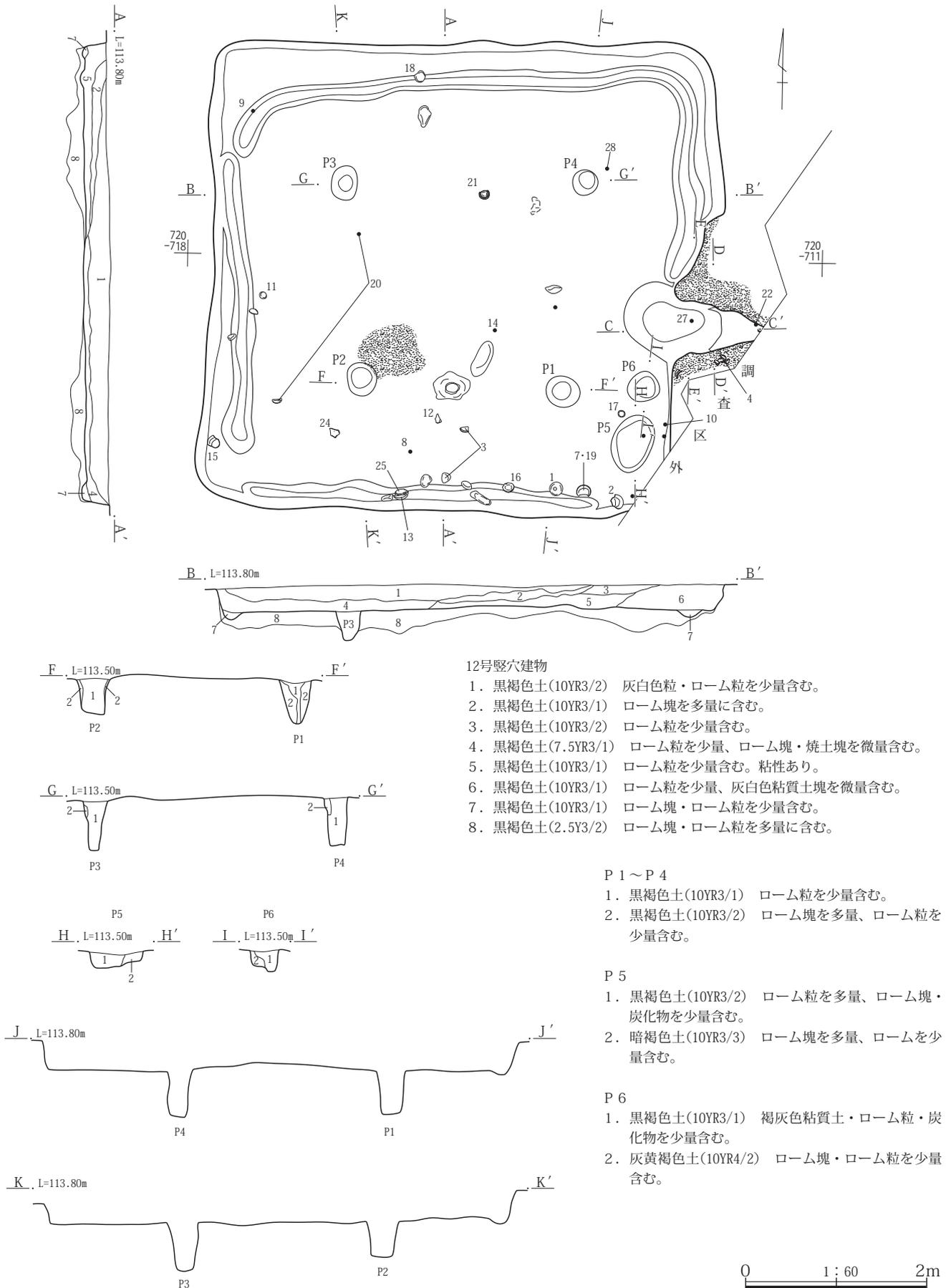
P 1 54×48×14 P 2 58×38×12

位置、形状から柱穴にあたるものとは考えにくい。

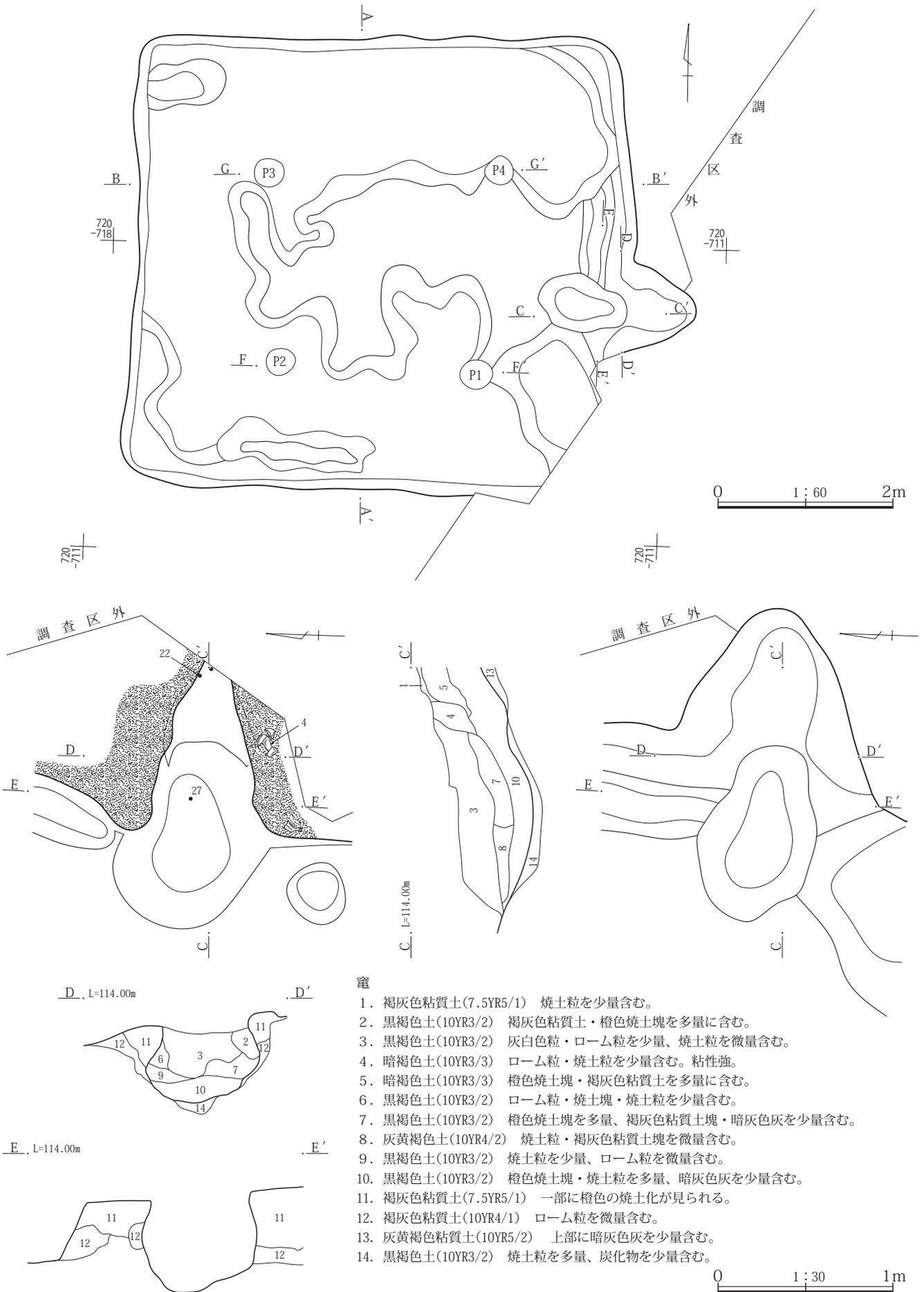
**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 床面直上、竈内、埋没土中から様々な遺物が出土した。掲載した遺物は、1~4：土師器杯(1・3・4は床面直上、2は床上9cm)、5：須恵器杯(床面直上)、6~8：土師器甕(6・8は床面直上、7は竈両袖)、9：管玉、10：釘である。

**所見** 小規模な建物であるが、竈の造り替えが行われており、遺物も比較的多く出土していることから、使用された期間は短くないと考えられる。掲載した遺物1・5は8世紀第1四半期に比定できるが、伝世した可能性があり、床面直上や竈で出土した他の土器から、時期は8世紀後半と考えられる。

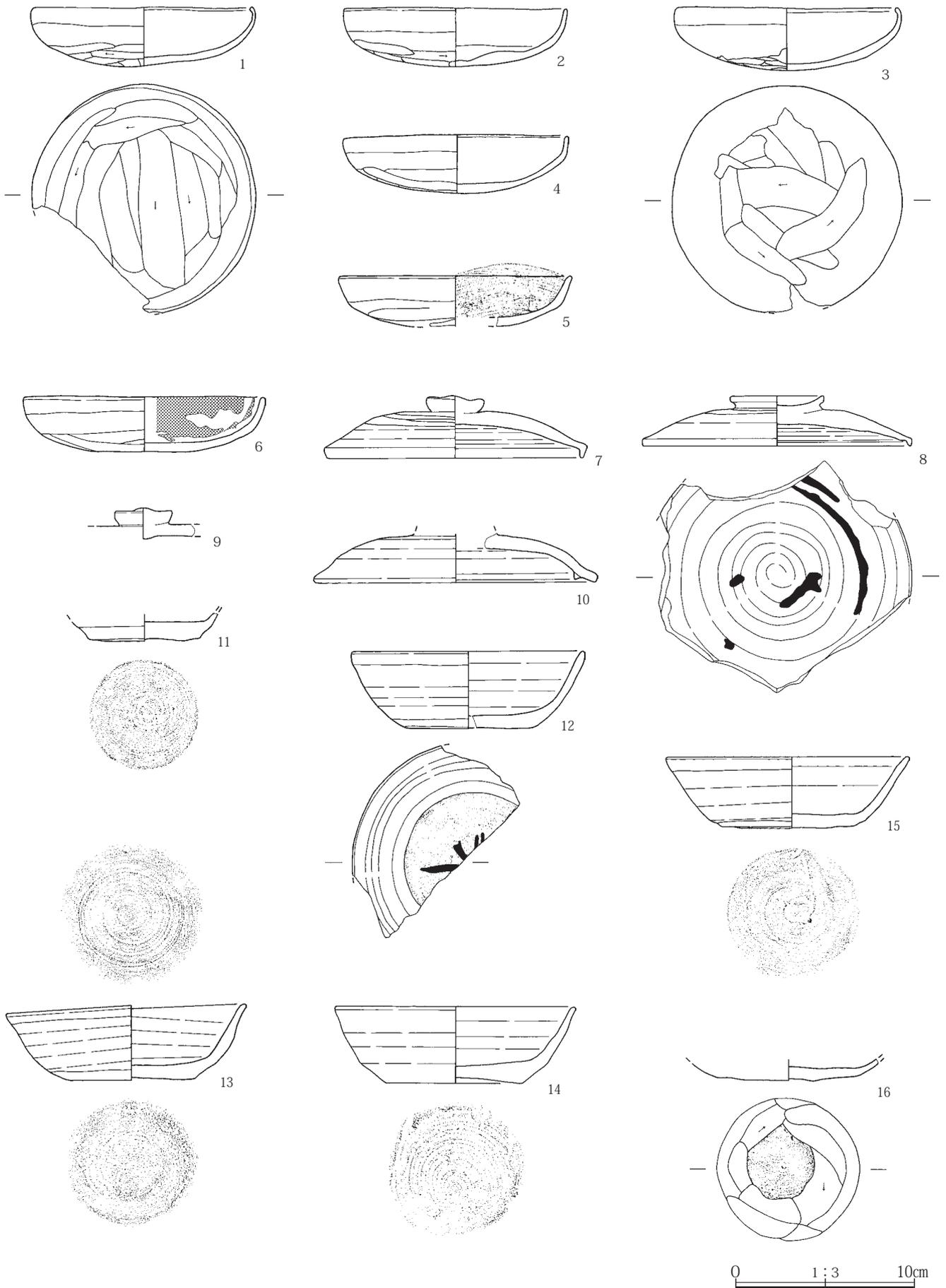


第33図 1区12号竪穴建物



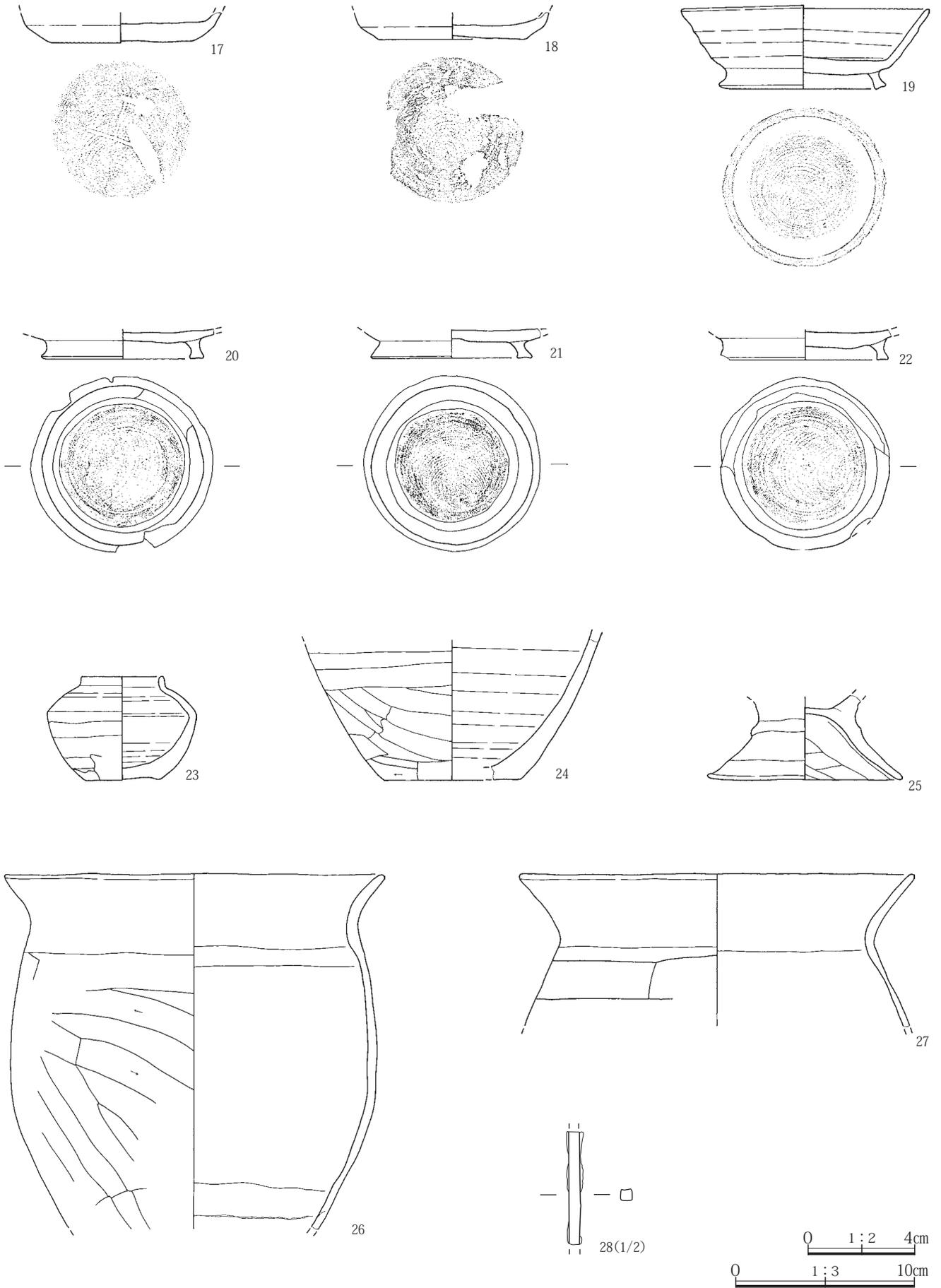
第34図 1区12号竈穴建物掘方・竈

第3章 調査の成果

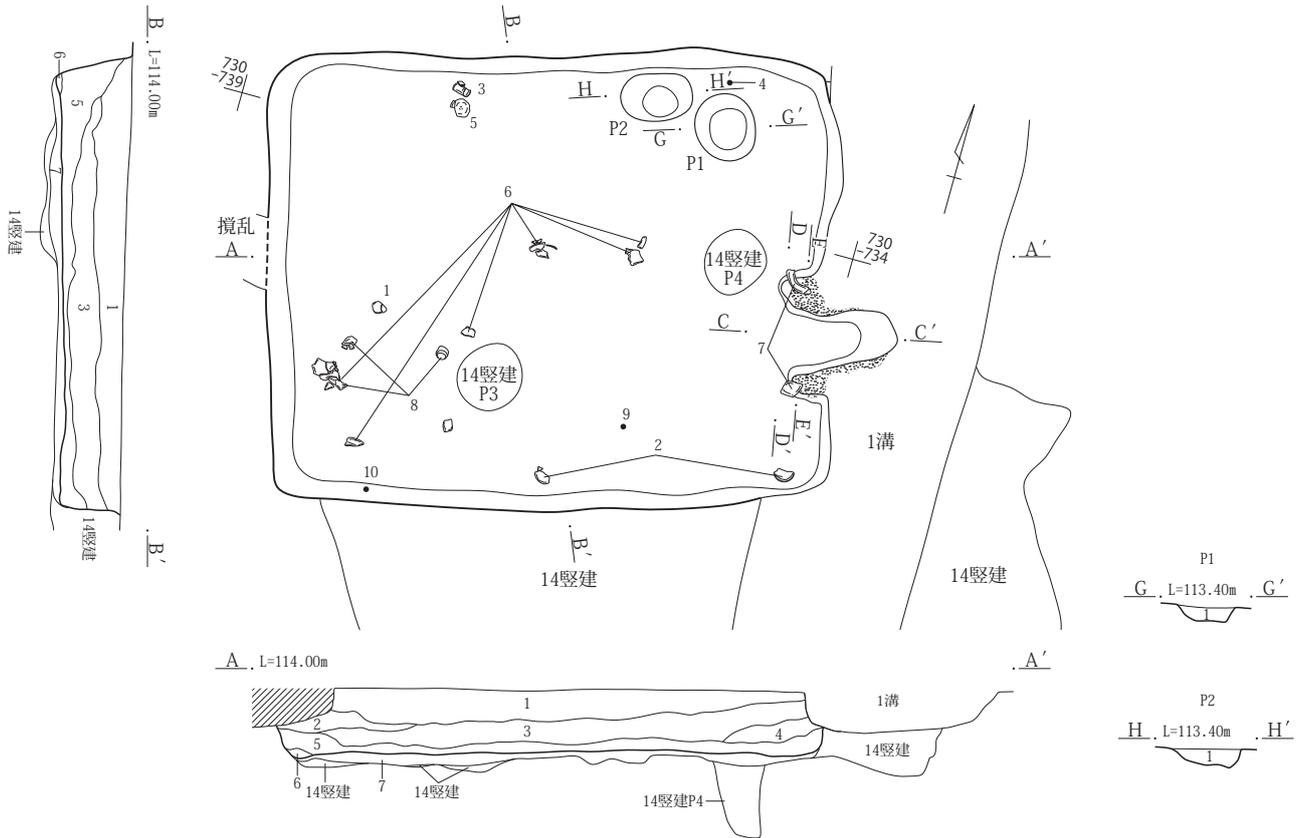


第35図 1区12号竪穴建物出土遺物(1)

第2節 1区の遺構と遺物



第36図 1区12号竪穴建物出土遺物(2)



13号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
7. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

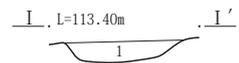
P 1

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。

P 2

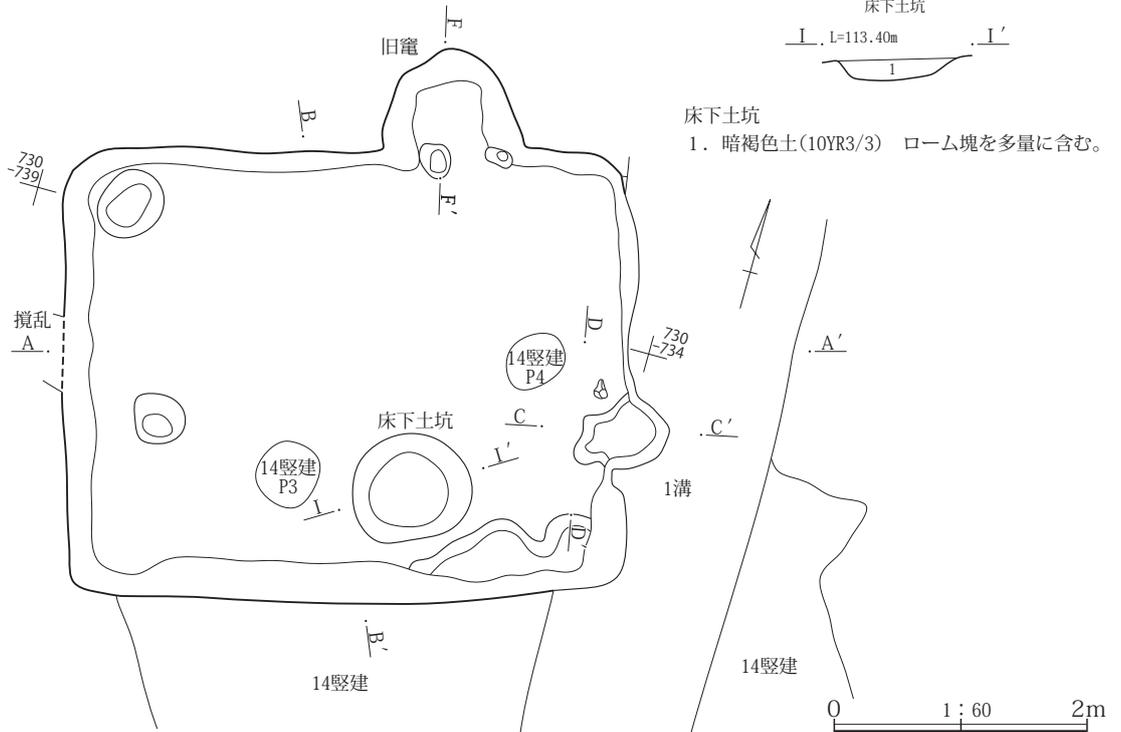
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・焼土粒・炭化物・褐灰色粘質土塊を少量含む。

床下土坑

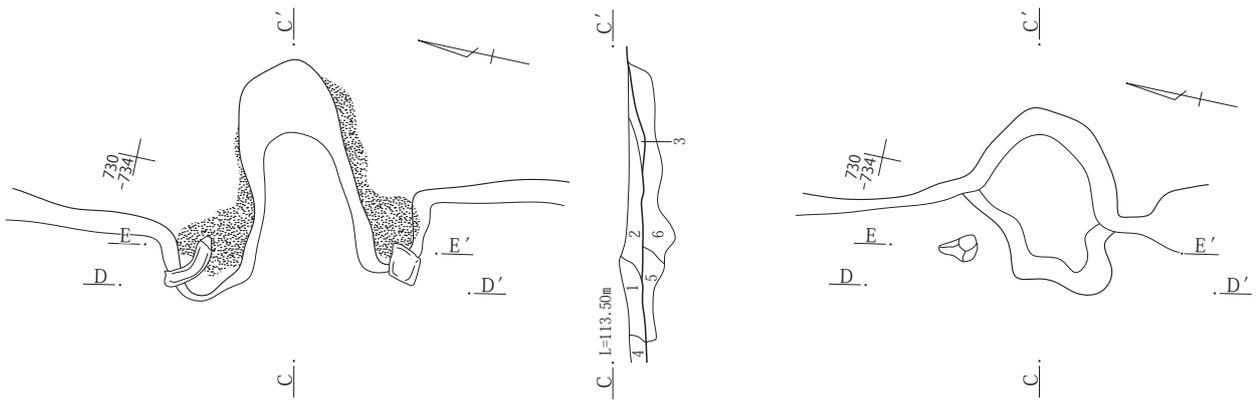


床下土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。



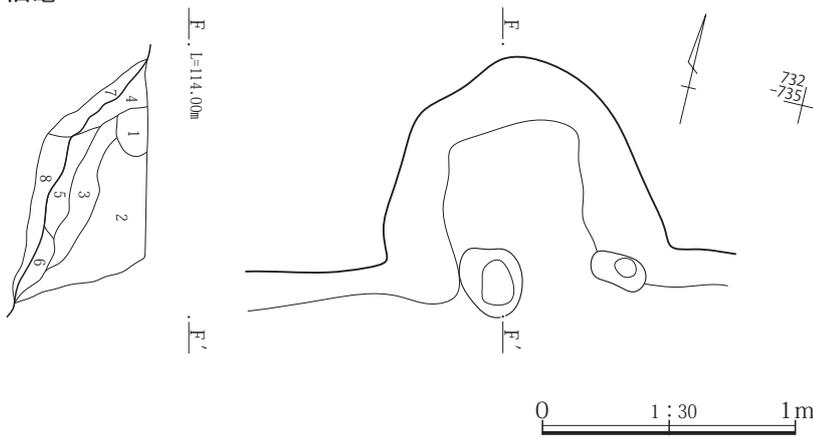
第37図 1区13号竪穴建物



竈

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土粒・ローム粒を少量含む。
2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土塊を多量に含む。
3. 暗灰色灰(N3/) 焼土粒を少量含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 灰黄褐色土を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土・ローム粒を少量含む。粘性あり。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を微量含む。

旧竈

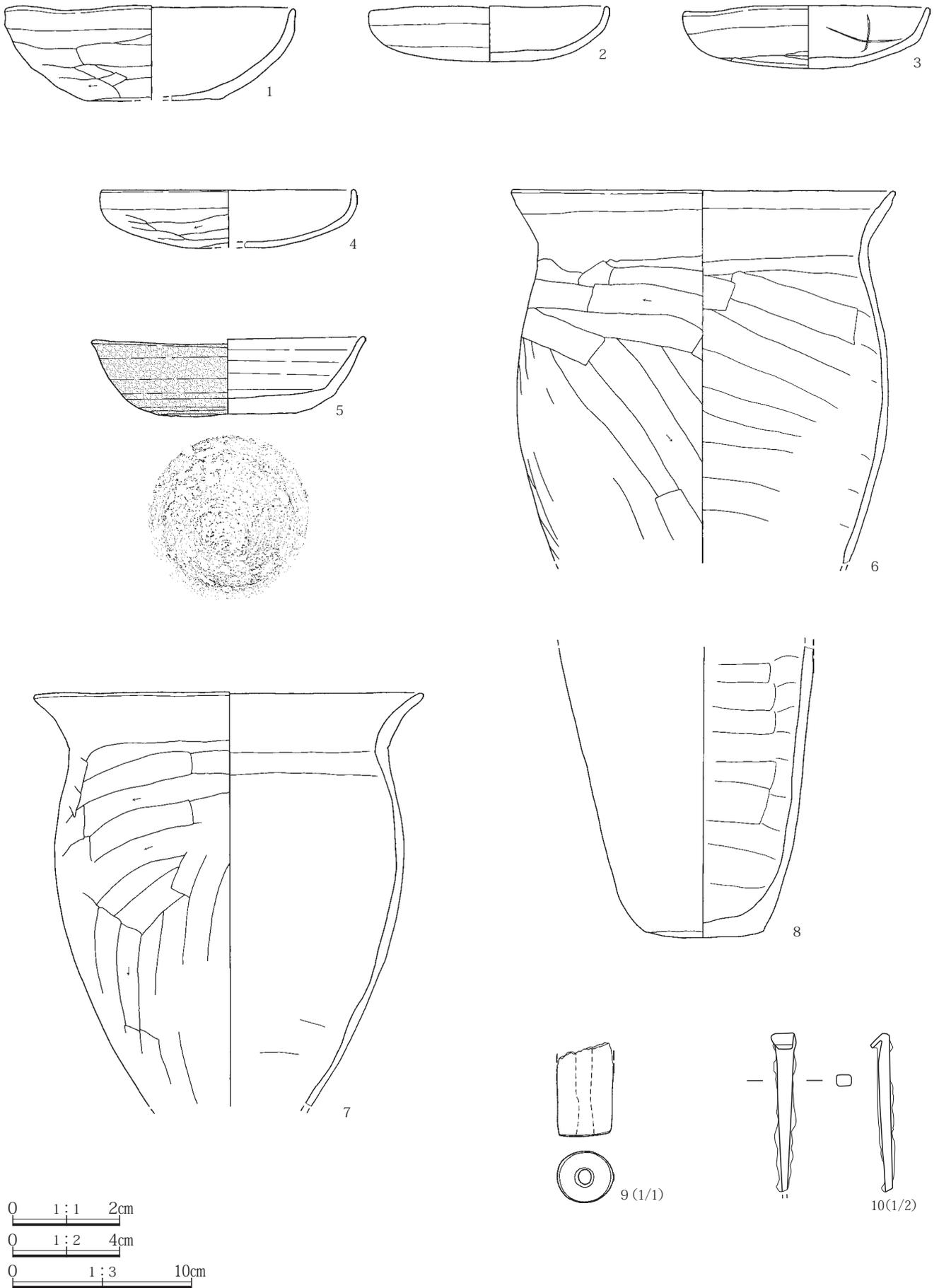


旧竈

1. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒・焼土粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・焼土粒・褐灰色粘土塊を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土塊・焼土粒を少量含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) 焼土粒を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒・焼土塊・焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。粘性あり。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒を少量、上部に灰を微量含む。

第38図 1区13号竪穴建物竈・旧竈

第3章 調査の成果



第39図 1区13号竪穴建物出土遺物

1区14号竪穴建物(第40～42図、PL. 8・90)

調査区北側で、建物の北側が13号竪穴建物の大部分と重複する位置にある。

座標値 X=42,724~42,731 Y=-55,731~-55,738

重複遺構 13号竪穴建物、1号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

形状 重複によって多くの範囲が壊されているため、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、正方形に近い形状である。

主軸方位 N-55°-E

規模 長軸5.33m (短軸5.15m)

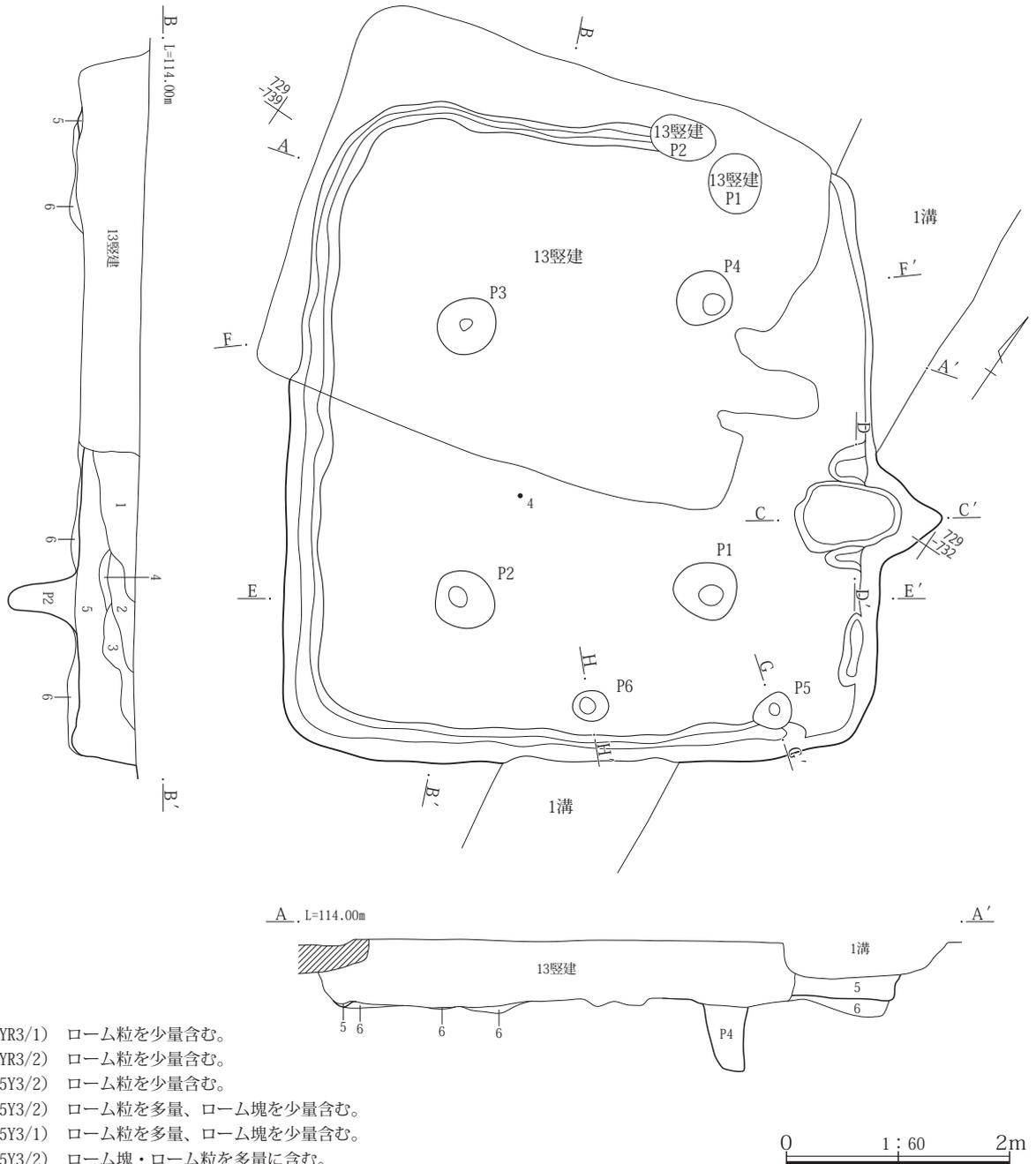
床面積(14.40㎡) 残存壁高55cm

埋没土 ローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

床面 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

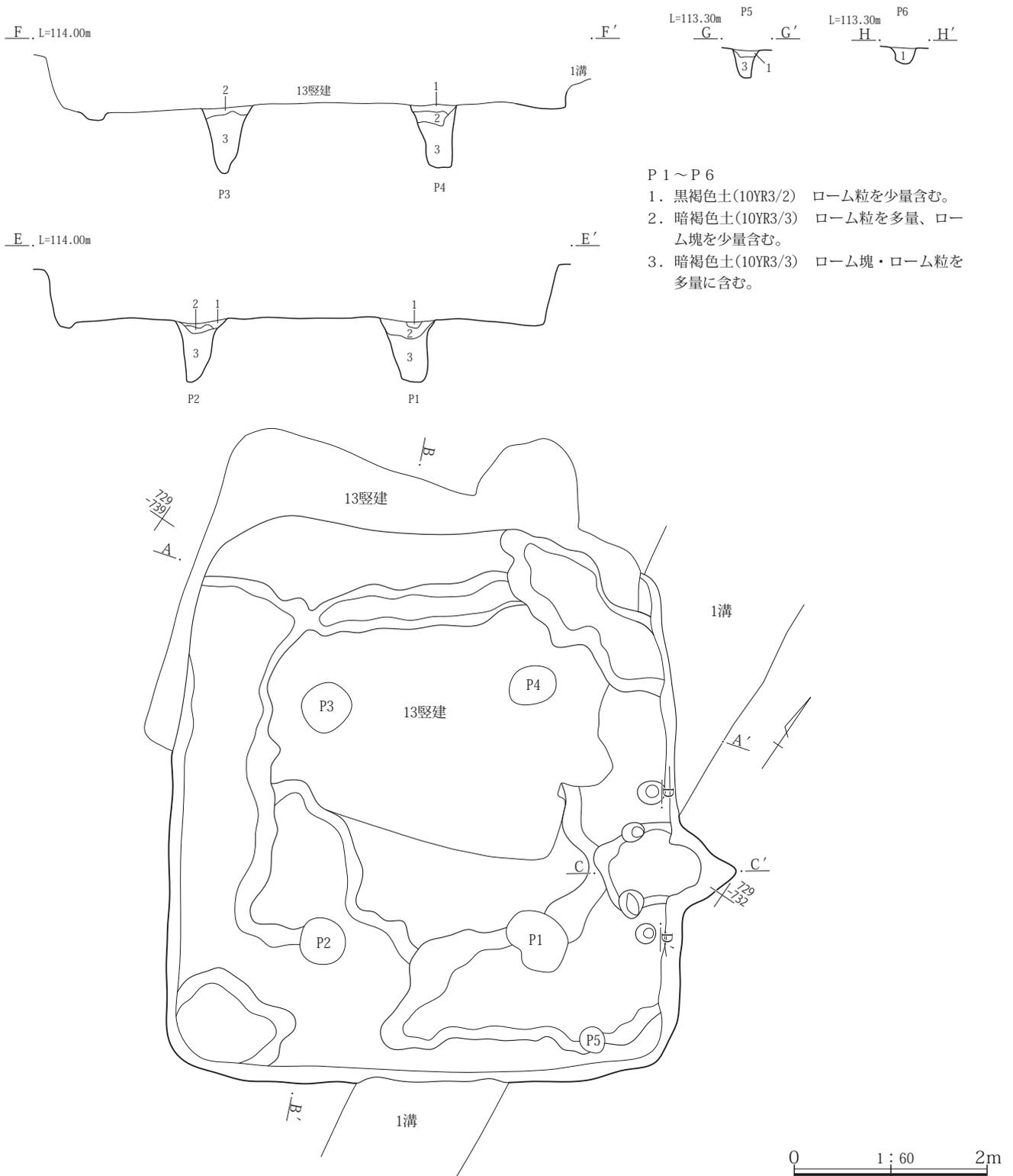
掘方 場所によって起伏があり、床面からの深さが15cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

竈 東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸146cm、袖幅50cm、燃烧部幅85cmを測る。燃烧部のほと



第40図 1区14号竪穴建物

第3章 調査の成果



第41図 1区14号竪穴建物掘方

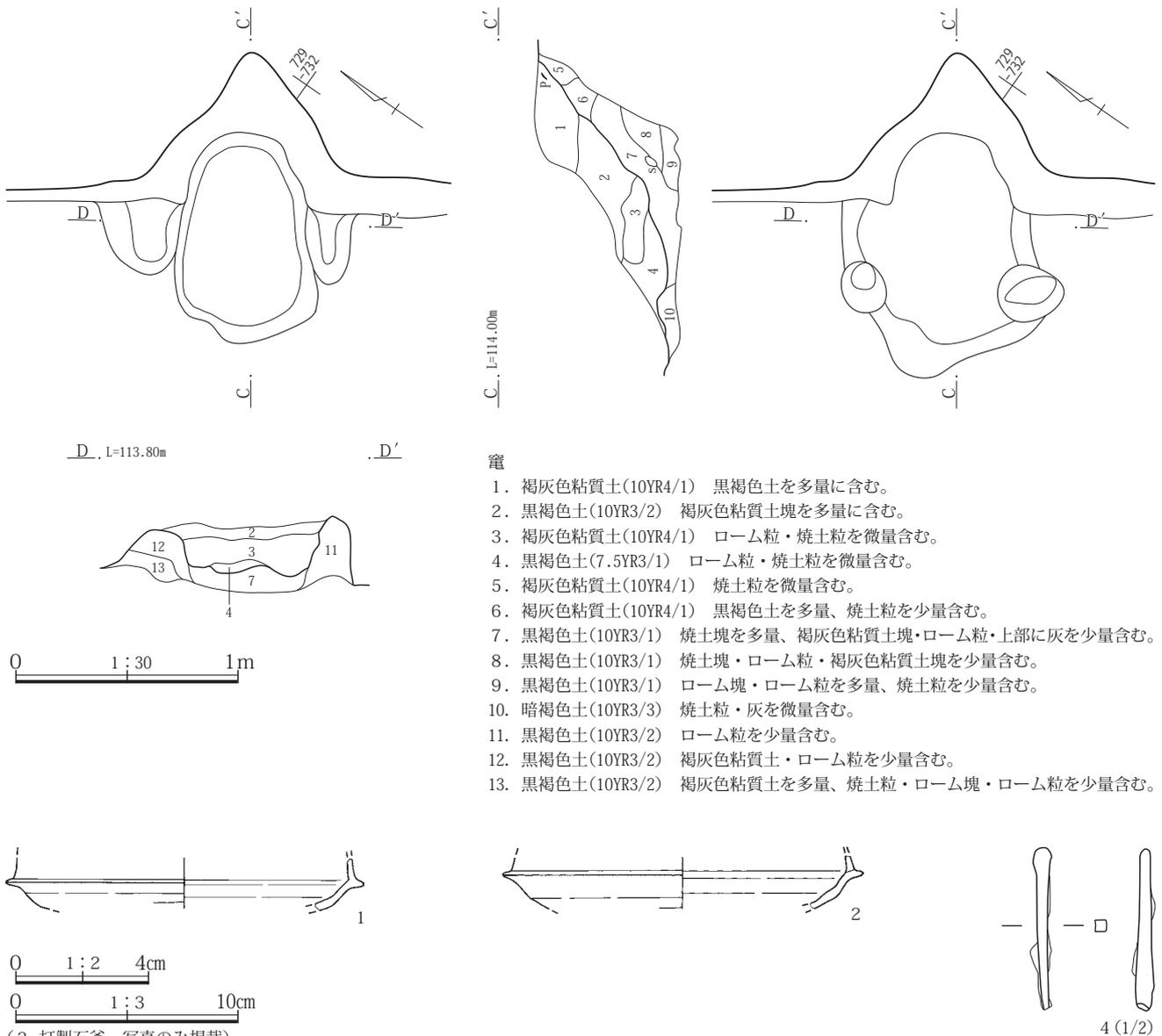
んどが建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは58cmである。袖石は残されていないが、残存していた袖の先端で袖石の据え付け掘方の可能性のある小ピットを検出した。

**貯蔵穴** 確認されなかった。南東隅で検出したP5は径が小さく、更に底部が狭くなる形状で、貯蔵穴とは考え

にくい。

**柱穴** 床面でピット6基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1	37×26×21	P 2	29×28×33
P 3	39×27×20	P 4	29×28×33
P 5	39×27×20	P 6	29×28×33



竈

1. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 黒褐色土を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土塊を多量に含む。
3. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒・焼土粒を微量含む。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒・焼土粒を微量含む。
5. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土粒を微量含む。
6. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 黒褐色土を多量、焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土塊を多量、褐灰色粘質土塊・ローム粒・上部に灰を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土塊・ローム粒・褐灰色粘質土塊を少量含む。
9. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・灰を微量含む。
11. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
12. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土・ローム粒を少量含む。
13. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。

建物全体の形状が明確ではないが、位置と形状から P 1～P 4 が支柱穴の可能性が高い。P 6 は出入口に関わる可能性がある。

**壁溝** 建物の南西部のほとんどの範囲で確認すると共に、13号竪穴建物の掘方の下でも南西部から続く壁溝の底部を検出した。幅 5 cm～10 cm、深さ 3 cm～9 cm を測る。

**遺物** 竈内や埋没土中から遺物が出土した。掲載した遺物は、1・2：須恵器蓋杯の身(竈内)、3：打製石斧(写真のみ掲載)、4：釘とみられる鉄製品である。

**所見** 13号竪穴建物の大部分が本遺構に重複しており、広い範囲が壊されているが、その下に、柱穴 2 基・壁溝・掘方の一部が残されていた。そのため、規模・形状をおおむねつかむことができた。本遺跡では中規

模の建物である。竈内で出土した土器から、時期は 6 世紀後半である。

1区15号竪穴建物(第43～46図、PL. 8・9・90)

調査区北側、8号竪穴建物の10m程東にある。

**座標値** X=42,718～42,725 Y=-55,723～-55,729

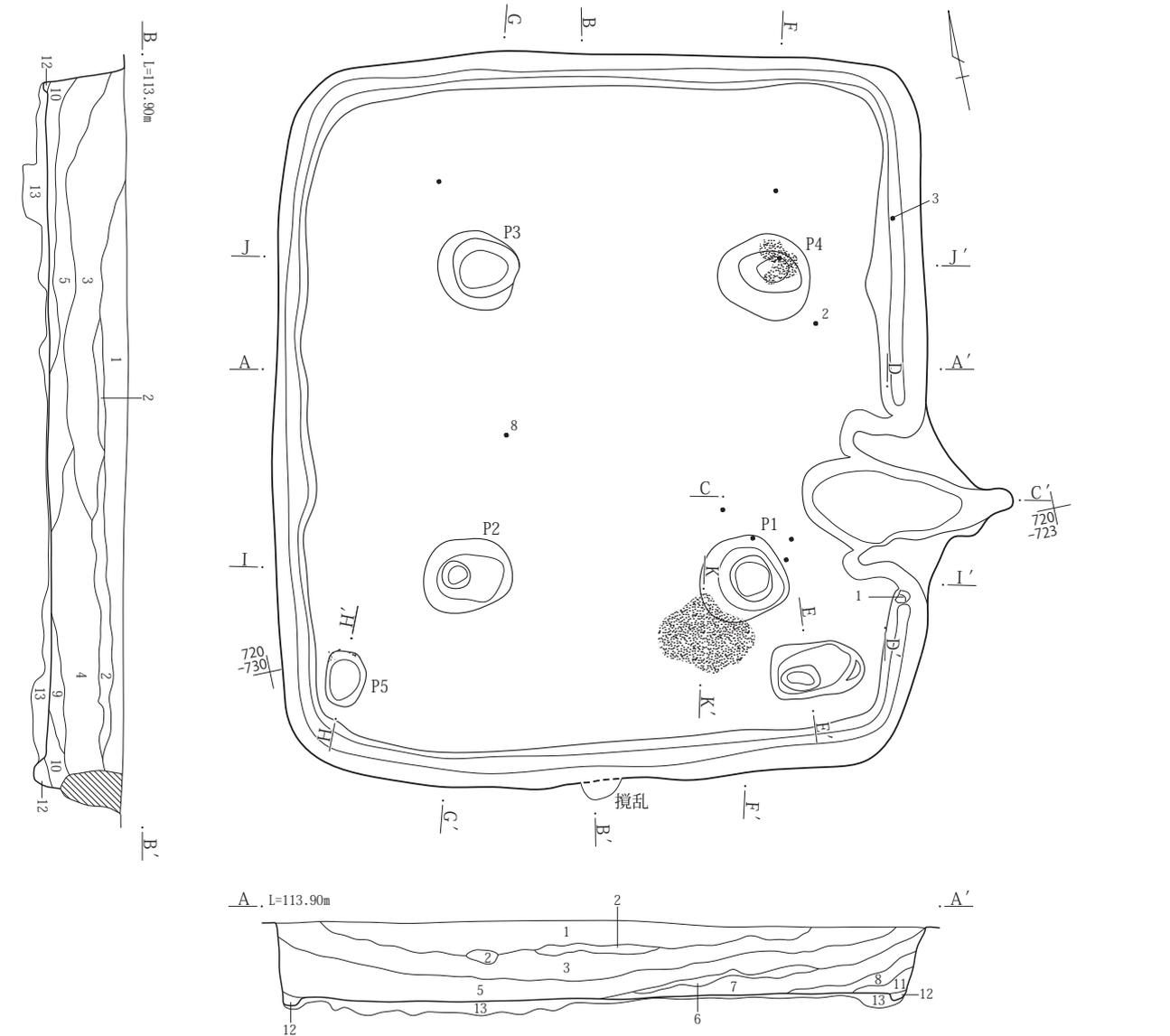
**重複遺構** なし **形状** 長方形

**主軸方位** N-103°-E

**規模** 長軸6.45m 短軸5.70m

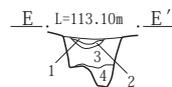
床面積31.49m<sup>2</sup> 残存壁高64cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られる。竈周辺の床面付近には、褐灰色粘質土や焼土塊が多く含



15号竪穴建物 A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 灰白色粒を少量含む。やや砂質。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土・ローム塊・ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土を少量、焼土塊・炭化物・ローム粒を微量含む。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土塊・炭化物・ローム粒を微量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
10. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。
11. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土粒を微量含む。
12. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
13. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土・ローム塊を少量含む。
2. 灰黄色粘質土(2.5Y7/2) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
4. 明黄褐色土(2.5Y6/8) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

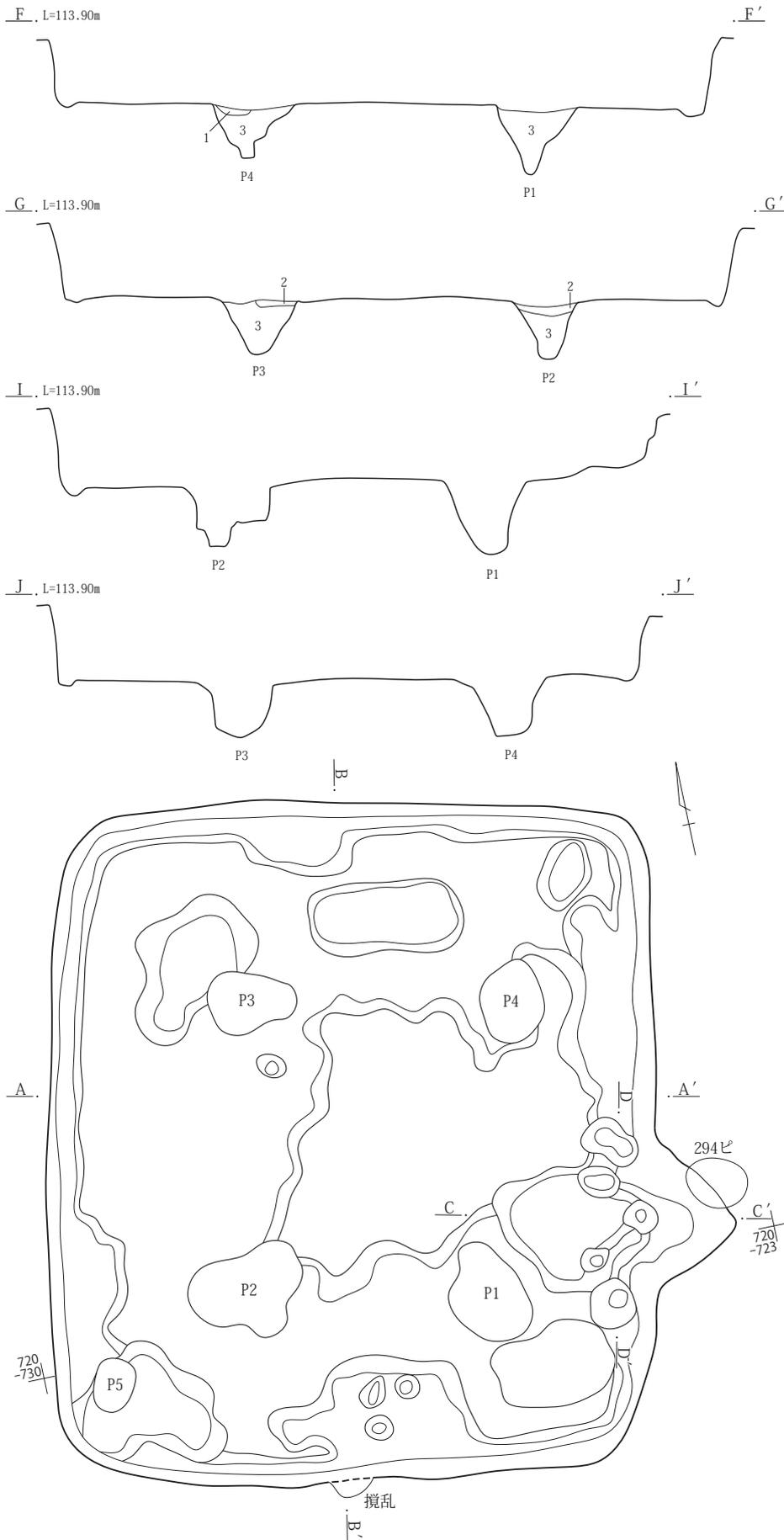
K-K'

1. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。

0 1:60 2m

第43図 1区15号竪穴建物

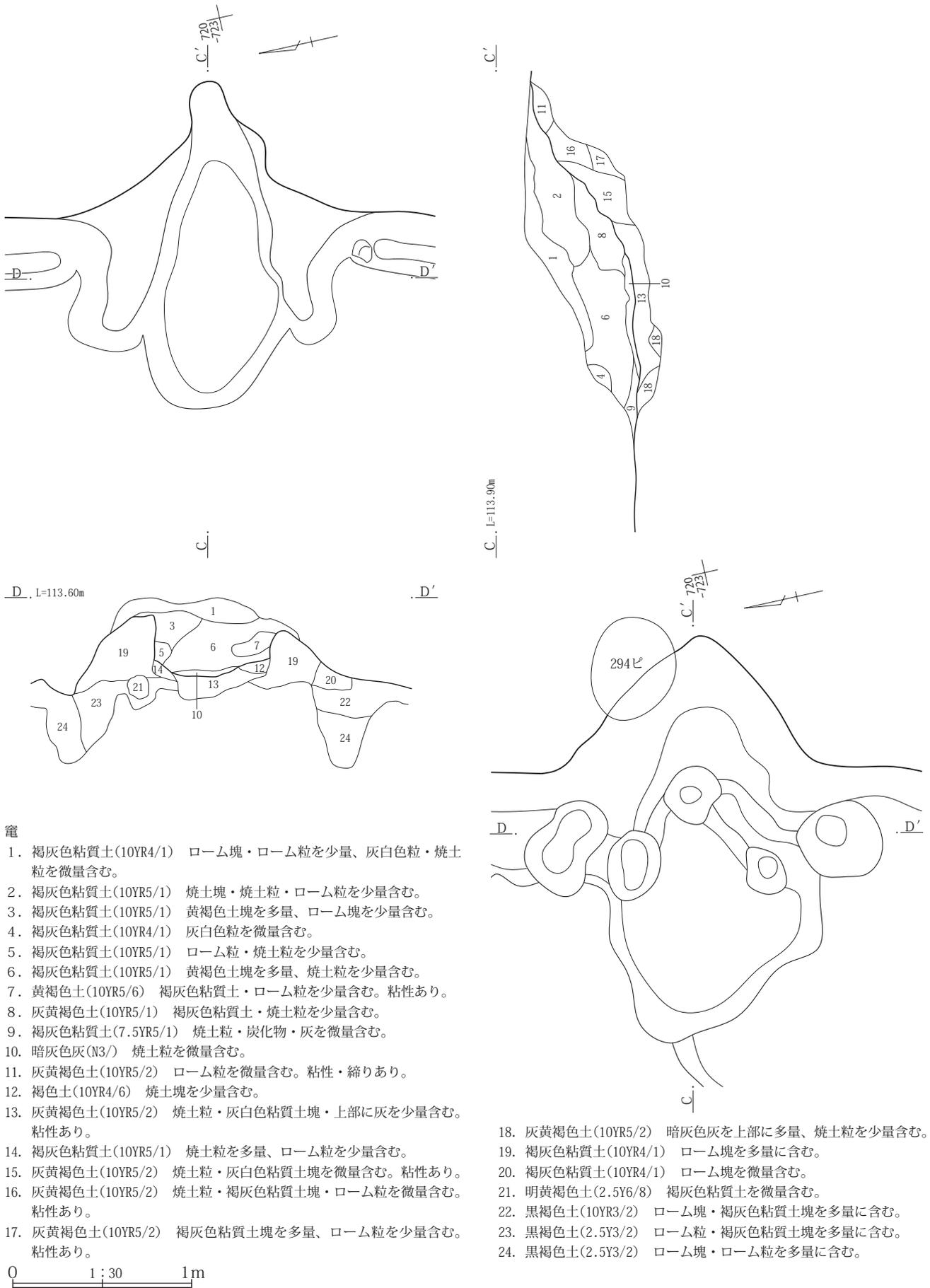
第2節 1区の遺構と遺物



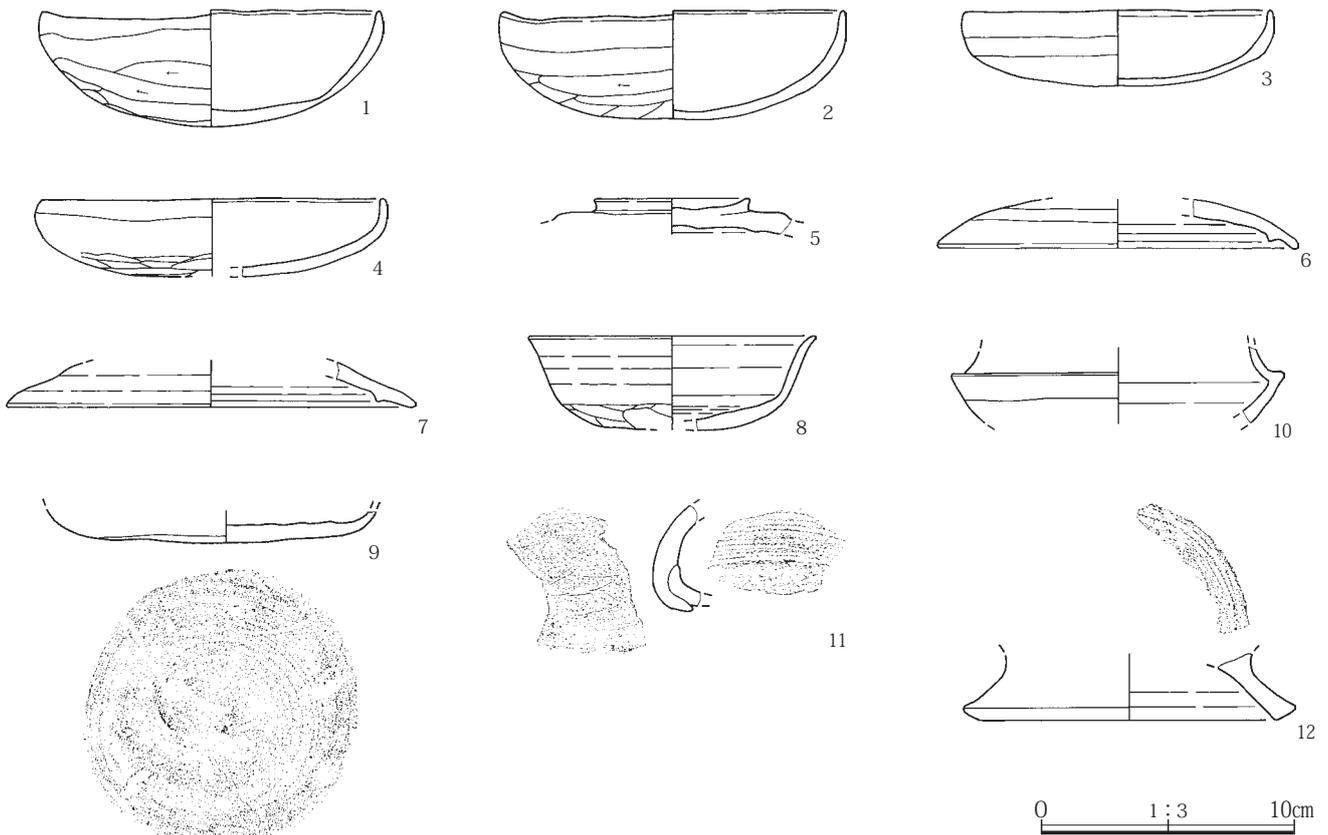
- P 5
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を含む。
  2. 炭化材
- P 1 ~ P 4
1. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物・ローム塊・ローム粒を少量含む。
  2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
  3. 明黄褐色土(2.5Y6/8) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

第44図 1区15号竪穴建物掘方

第3章 調査の成果



第45図 1区15号竪穴建物竈



第46図 1区15号竪穴建物出土遺物

まれている。また、その上層に不自然な堆積状況が見られることから、竈を廃棄し、埋め戻したことが考えられる。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。P 1付近で粘質土塊を検出した。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸183cm、袖幅65cm、燃烧部幅77cmを測る。燃烧部のほとんどが建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは75cmである。袖部や多くの範囲に褐灰色粘質土がみられ、竈全体の構築に褐灰色粘質土が用いられたと考えられる。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径83cm、短径50cmの楕円形で、深さ43cmを測る。

**柱穴** 床面でピット5基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

- |     |          |     |          |
|-----|----------|-----|----------|
| P 1 | 75×73×70 | P 2 | 78×63×57 |
| P 3 | 74×70×49 | P 4 | 80×75×61 |

P 5 50×32×16

位置と形状からP 1～P 4が支柱穴とみられる。P 5は底部から炭化材が多量に出土した。

**壁溝** 全周している。幅7cm～15cm、深さ3cm～11cmを測る。

**遺物** 床面直上や壁溝内、埋没土中から土師器や須恵器の破片が出土した。掲載した遺物は、1～4：土師器杯(2・3は床面直上、1は床上11cm)、5～7：須恵器杯蓋、8・9：同杯(8は床下4cm、9は竈床下)、10：同蓋杯の身、11：同壺、12：同長頸壺である。

**所見** 本調査区では、18号竪穴建物に次ぐ大規模な建物である。南西隅のP 5の底部で、多量の炭化材を検出した。木材等が置かれていた可能性がある。また、P 1・P 4と同様、P 5の縁で僅かながら粘土を検出した。柱などの固定に使用されたものとも考えられる。掲載した遺物10は6世紀後半、3・4は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期に比定できるが、床面直上や竈等で出土した1・2・5～9の土器から、この建物の時期は8世紀第1四半期と考えられる。

1区16号竪穴建物(第47～51図、PL. 9・90～92)

調査区北側、14号竪穴建物の北東に隣接している。

座標値 X=42,728～42,733 Y=-55,727～-55,731

重複遺構 なし 形状 ほぼ正方形

主軸方位 N-49°-E

規模 長軸3.60m 短軸3.43m

床面積10.76㎡ 残存壁高52cm

埋没土 埋没土の多くはローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には白色粒が見られる。また、建物の中央を中心に多数の礫が出土した。大小様々で、丸みを帯びたものと角があるものが混在する。

床面 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

掘方 場所によって起伏があり、床面からの深さが15cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

竈 東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸118cm、袖幅50cm、燃烧部幅70cmを測る。焚口付近で多量の土器が重なるようにして出土した。左袖には10cm×10cm×15cm程の袖石が置かれ、右袖には、土師器甕(第50図20)が下向きに据えられていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 床面でピット3基、掘方でピット1基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 35×30×18 P 2 43×32×24

P 3 50×28×23 P 4 32×30×24

これらのピットが柱穴であるかは、明らかではない。P 1は、その位置と形状から出入り口に関わる可能性がある。

壁溝 ほぼ全周している。幅5cm～10cm、深さ7cm～10cmを測る。

遺物 竈の焚口周辺や埋没土中から多量の土器が出土した。掲載した遺物は、1～4:土師器杯(3は床上7cm)、5:須恵器杯蓋(竈焚口)、6・7:同杯、8・9:同有台杯、10:同鉢、11:同長頸壺、12:土師器甕、13・15同台付甕(竈右袖)、14・16～22:同甕(16～22は竈焚口)、23・24:須恵器甕である。

所見 小規模な建物であるが、竈を中心に多量の土器が出土し、埋没土中から多数の礫が出土した。建物の埋没過程の中で混入した可能性がある。竈焚口周辺で出土した遺物から、時期は8世紀第3四半期である。

1区17号竪穴建物(第52図、PL. 9・10・92)

調査区北側、12号竪穴建物の北東に隣接し、建物の多くが、調査区外にあるとみられる。

座標値 X=42,721～42,725 Y=-55,708～-55,711

重複遺構 なし

形状 確認できた範囲の形状から、方形の可能性が高いが、建物の大部分が調査区外にあるため、明らかではない。

長軸方位 北壁の方位は、N-73°-Eである。

規模 長軸(3.50m) 短軸(3.0m)

床面積(4.93㎡) 残存壁高42cm

埋没土 ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られ、下層には炭化物を多量に含んでいる。

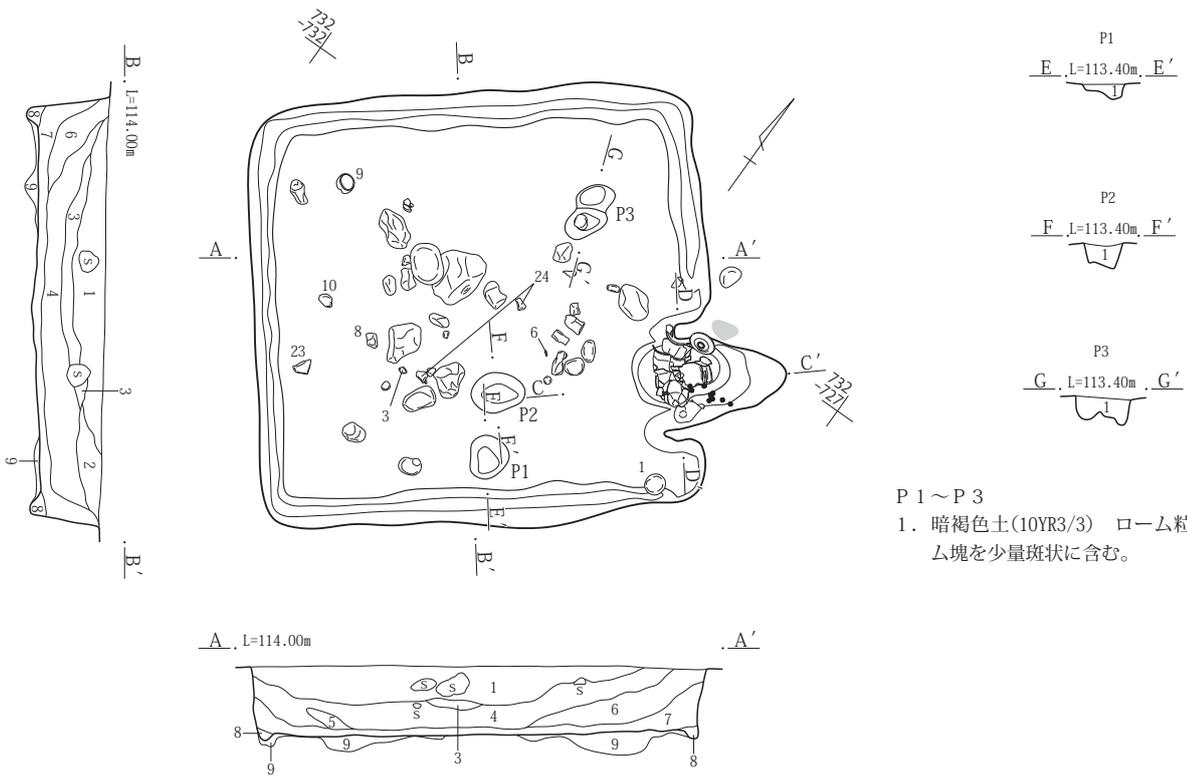
床面 ほぼ平坦であるが、北に向い緩やかに傾斜している。建物の北西隅付近で土坑1基を検出した。規模は長径75cm、短径68cm、深さ21cmを測る。また、建物の中央と想定される位置を中心に多量の炭化材が出土した。

掘方 場所によって起伏があり、床面からの深さが15cm以上の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

竈・貯蔵穴・柱穴・壁溝 確認されなかった。

遺物 床面直上や埋没土中から数点の遺物が出土した。掲載したのは、1:土師器杯(床面直上)、2:黒色土器椀(内外面とも黒色処理)、3:須恵器杯、4:鎌(床上14cm)である。

所見 建物の大部分が調査区外にあるため、不明な点が多いが、床面上で多量の炭化材を検出した。この炭化材については、放射性炭素年代測定と樹種同定分析を実施し、奈良～平安時代前期のコナラ属クヌギ節の木材(クヌギあるいはアベマキ)であることが明らかになった。詳細については、第4章第1節・第3節・第4節に記した。クヌギ節の木材は弥生時代から平安時代に渡り建築部材として利用されている。この建物の構築にも利用され、何らかの理由により焼失した可能性が高い。埋没土中では、9世紀以降の土器片も出土しているが、床面直上で出土した土器から、建物の時期は8世紀後半と考えられ、分析結果とも整合している。

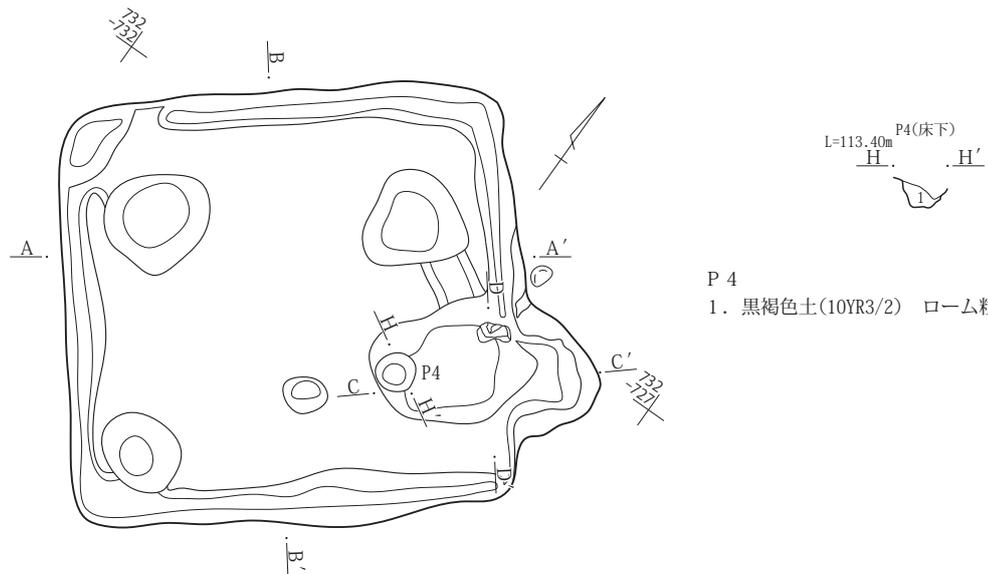


P 1 ~ P 3

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量斑状に含む。

16号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム塊を少量含む。縮りあり。
2. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を微量含む。縮りあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物を微量含む。粘性・縮りあり。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。縮りあり。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物を多量、ローム粒を少量含む。縮りあり。
6. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。縮りあり。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。縮りなし。
9. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



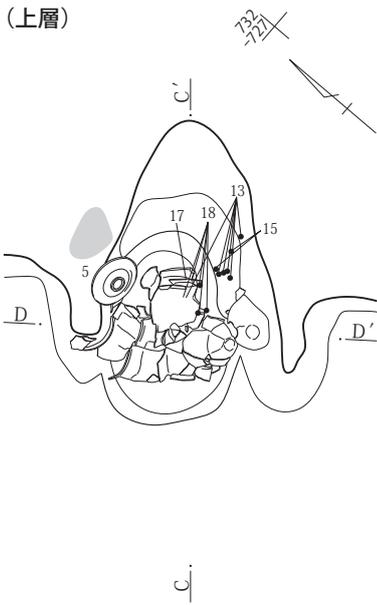
P 4

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。

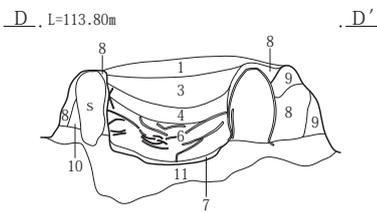
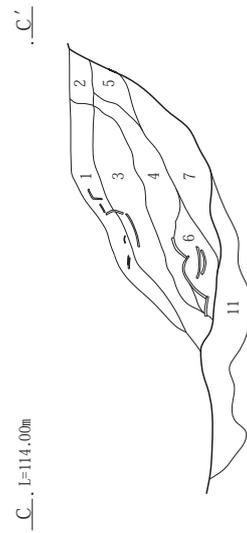
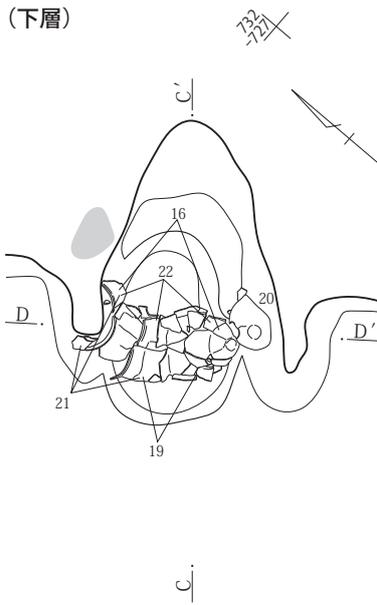
0 1:60 2m

第47図 1区16号竪穴建物

(上層)

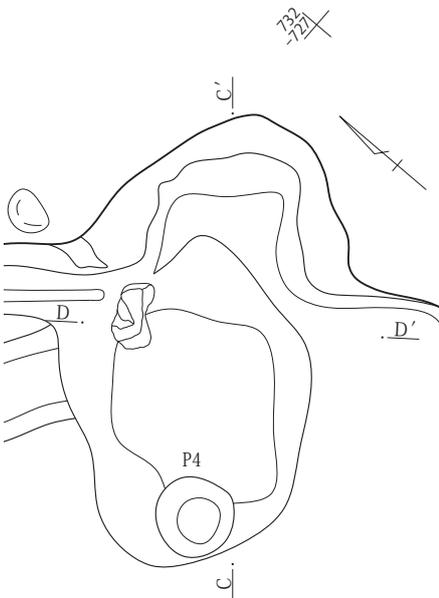


(下層)



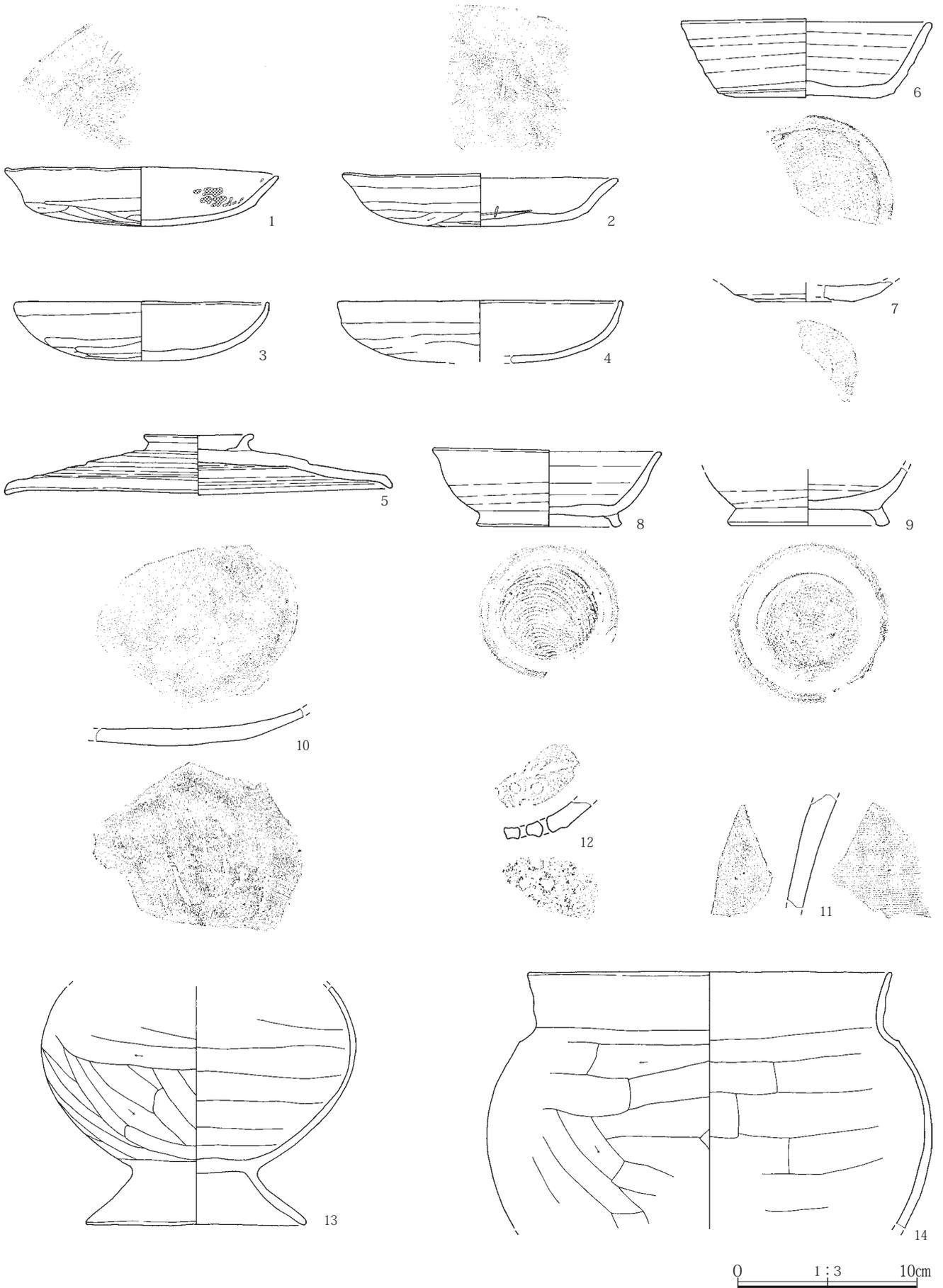
竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒・焼土・炭化物を微量含む。
4. 灰褐色土(7.5YR4/2) 褐灰色粘質土・焼土塊を少量含む。
5. 暗赤褐色土(5YR3/2) 焼土塊を斑状に少量含む。
6. 黒褐色土(5YR2/2) 橙色焼土を多量、灰・炭化物を少量含む。
7. 暗赤褐色土(5YR3/3) 橙色焼土を多量、灰を少量含む。
8. 灰褐色土(5YR4/2) 焼土粒を少量含む。
9. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒・焼土粒を少量含む。
10. 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土粒を微量含む
11. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を多量、焼土塊・炭化物を上部に少量含む。

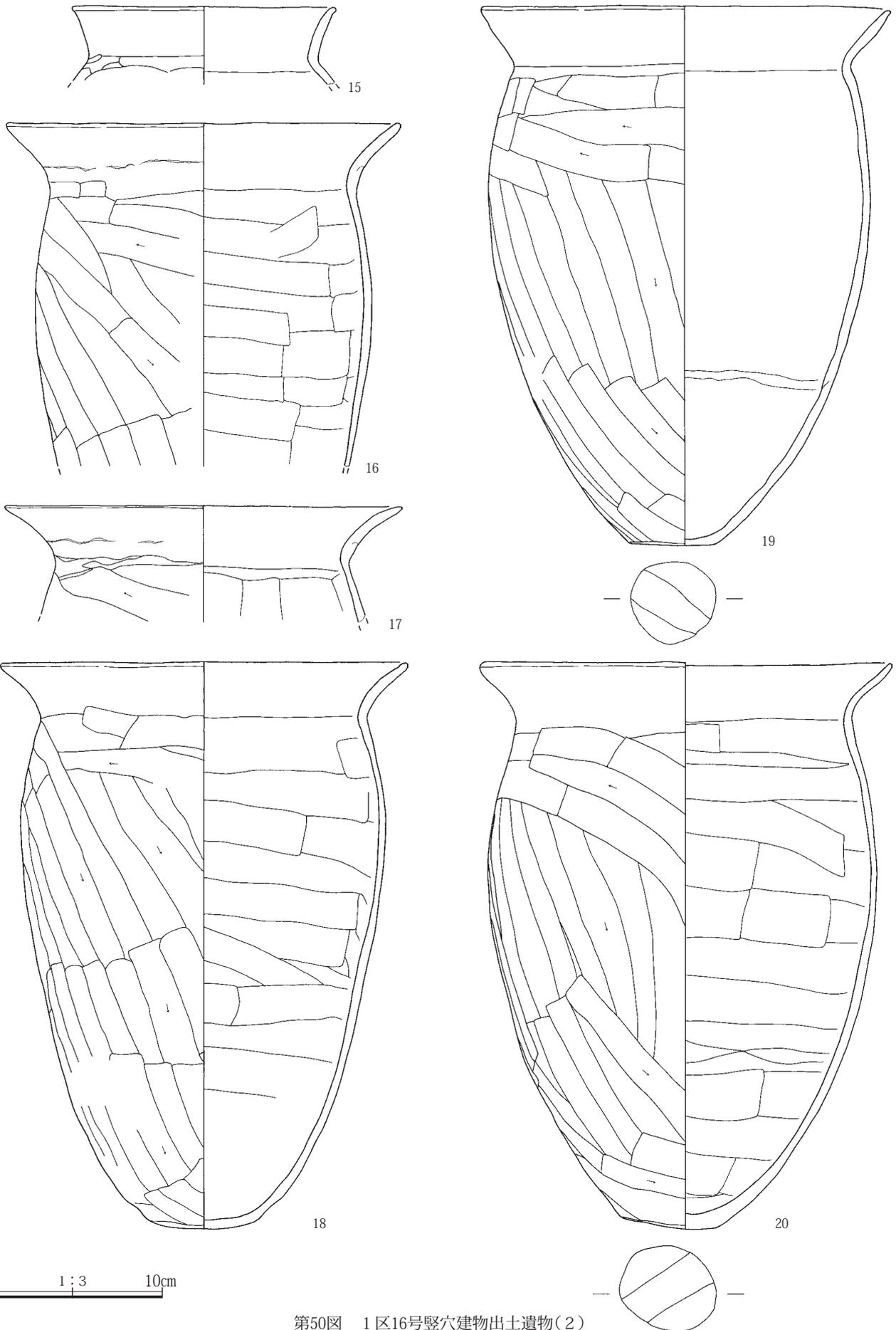


0 1:30 1m

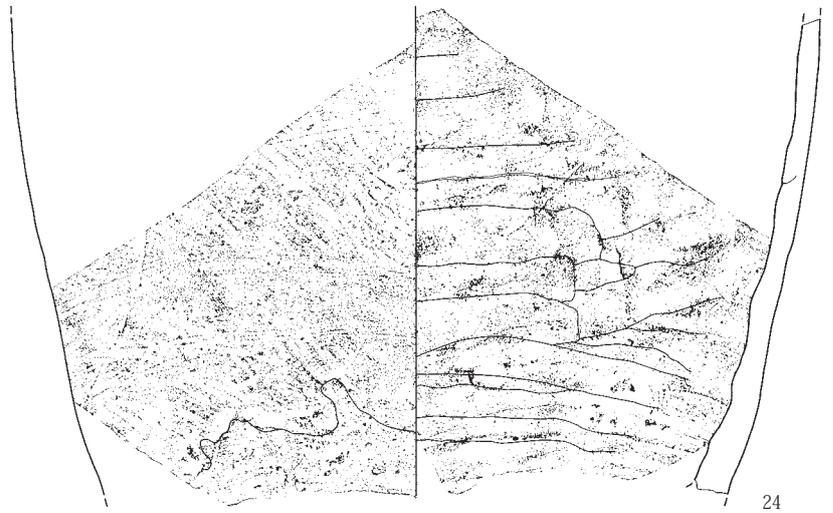
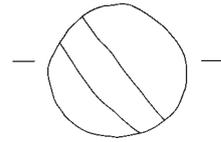
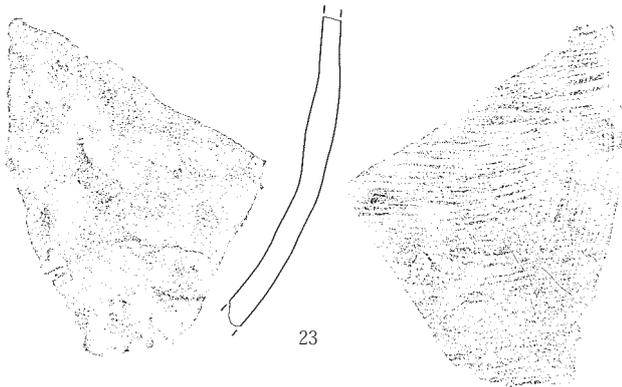
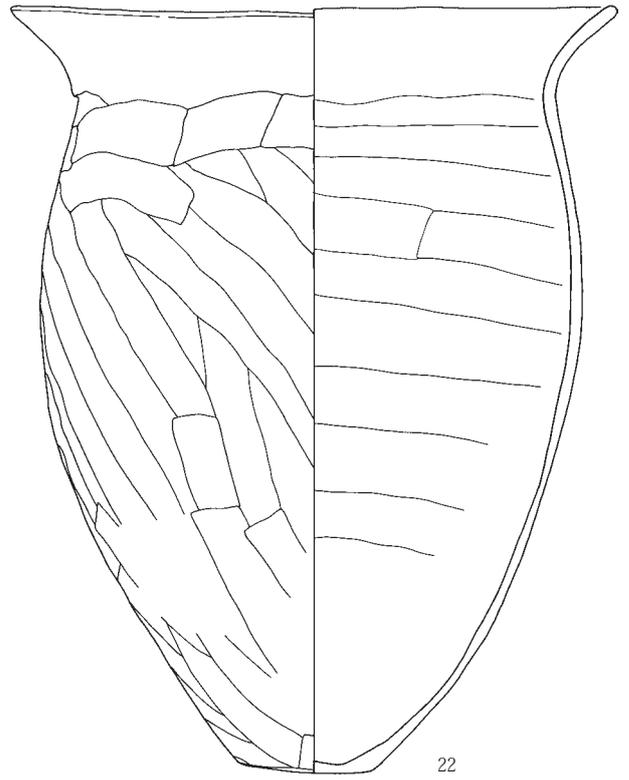
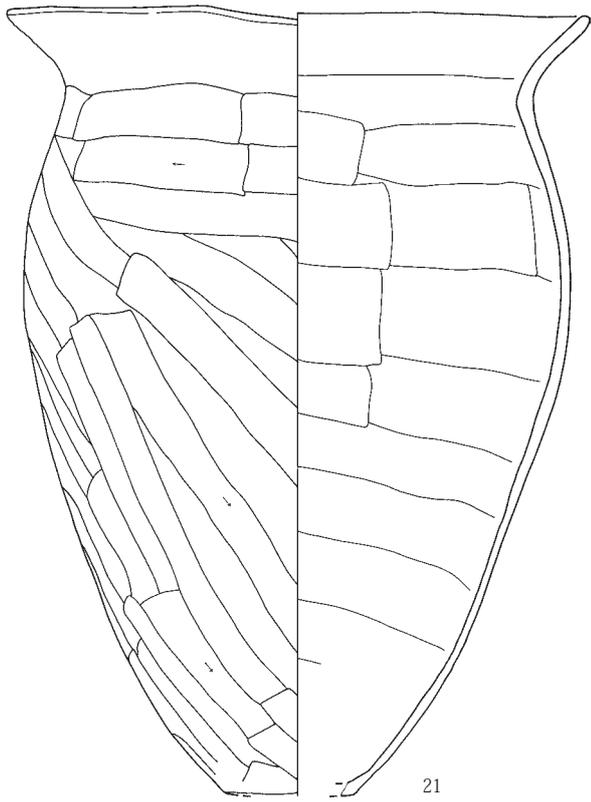
第48図 1区16号竈穴建物竈



第49図 1区16号竪穴建物出土遺物(1)



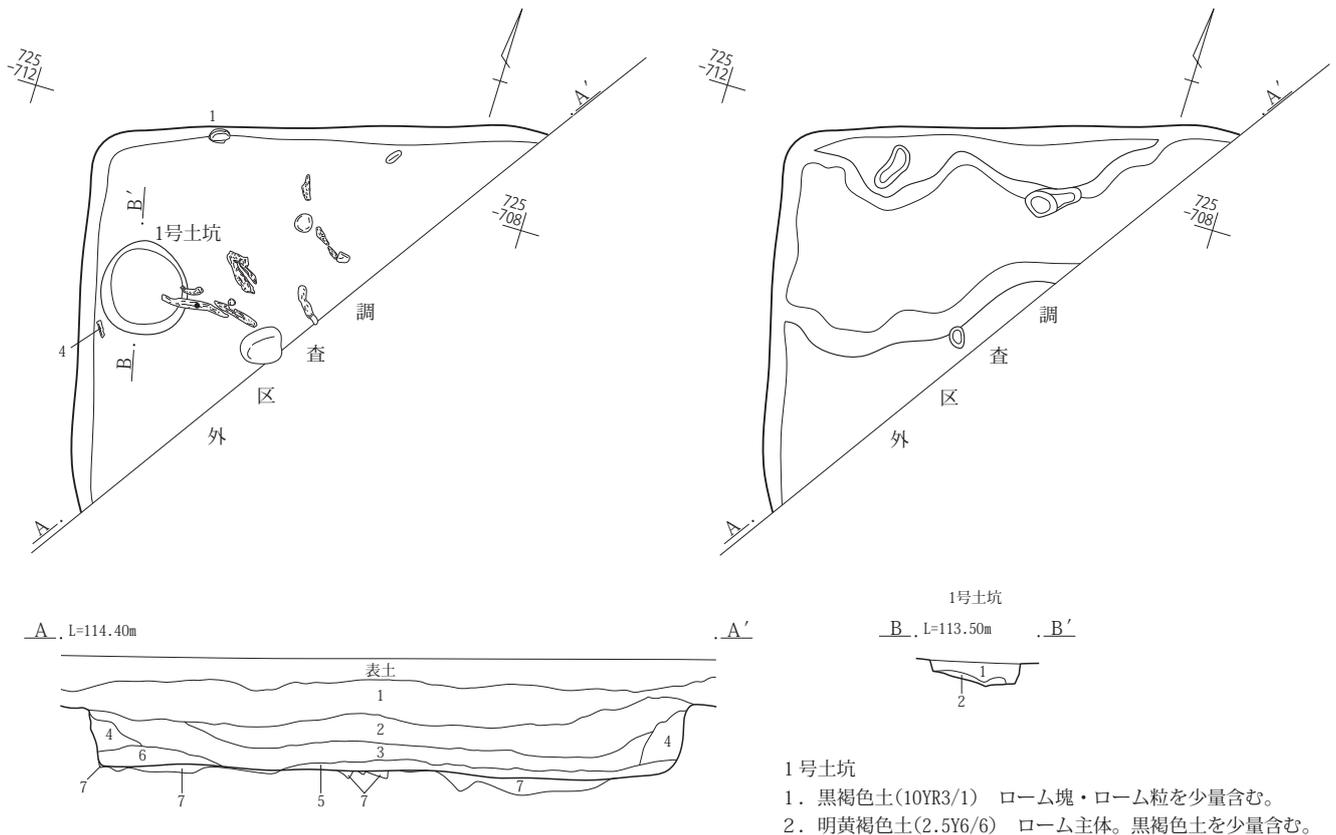
第50図 1区16号竖穴建物出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第51図 1区16号竪穴建物出土遺物(3)

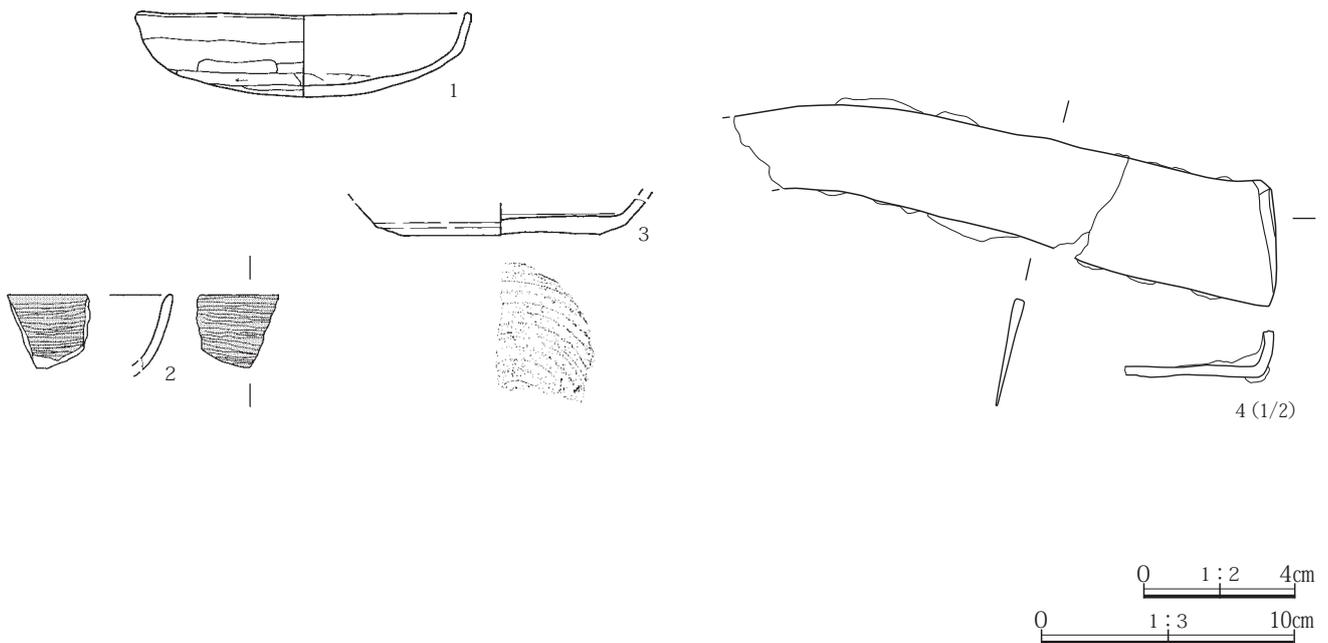
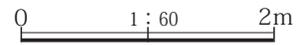
第3章 調査の成果



- 1号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
  2. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

17号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性あり。
3. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム粒・焼土粒・炭化物を微量含む。粘性あり。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・炭化材を多量に含む。
6. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・炭化材を少量含む。
7. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第52図 1区17号竪穴建物・出土遺物

**1区18号竪穴建物**(第53～58図、PL.10・11・92・93)

調査区の北側、16号竪穴建物の10m程北にある。

**座標値** X=42,737～42,746 Y=-55,721～-55,729

**重複遺構** 22号土坑、278号ピットと重複している。新旧関係は、本遺構が22号土坑より新しく、278号ピットより古い。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-63°-E

**規模** 長軸6.45m 短軸6.25m

床面積36.69㎡ 残存壁高45cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土である。上層には灰白色粒が見られる。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

**床面** 多少起伏があるがほぼ平坦である。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが30cm以上の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸132cm、袖幅55cm、燃焼部幅60cmを測る。燃焼部のほとんどが建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは42cmである。燃焼部底部やその周辺に焼土や灰が厚く堆積している。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径90cm、短径80cmの不整形で、深さ48cmを測る。

**柱穴** 床面でピット12基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1	55×50×85	P 2	65×63×75
P 3	62×60×84	P 4	58×48×81
P 5	35×33×10	P 6	48×41×17
P 7	28×19×12	P 8	35×32×9
P 9	28×28×17	P 10	45×38×22
P 11	27×20×21	P 12	30×18×15

位置、形状から、P 1～P 4が支柱穴の可能性が高い。P 5・P 6は、出入り口に関わる可能性がある。また、規模の大きい建物であることから、その他のピットは、建物の補強的なものであることが考えられる。

**壁溝** 貯蔵穴付近を除き、ほぼ全周している。幅5cm～10cm、深さ2cm～6cmを測る。

**遺物** 床面直上や竈・貯蔵穴内、埋没土中で様々な遺物が出土した。掲載したのは、1～8：土師器杯(1・5は貯蔵穴内、2・7・8は床面直上、4は竈内)、9：

同盤、10：同椀、11・30：同鉢(30は床下)、12：須恵器蓋杯の蓋、13・14：同蓋杯の身、15～18：同高杯(15は床上11cm)、19：同臚、20～23：土師器甕(21～23は床面直上)、24～27：同壺(24・25・27は床面直上、26は竈内)、28：須恵器甕、29：土錘、31：敲石(床下)、32・33：棒状礫(32はP 4内、33は貯蔵穴内)、34：器種不明の鉄製品である。

**所見** 本調査区で最も大規模で、形状や主柱の位置なども最も整った建物である。多量の遺物が出土しており、器種等も多岐にわたっている。集落において、特別な建物、あるいは中心的な人物が使用した建物であることが想起される。埋没土中では、8世紀後半に比定される土器片も出土しているが、混入したものと考えられる。床面直上や竈・貯蔵穴内で出土した遺物から、時期は6世紀後半である。

**1区19号竪穴建物**(第59～61図、PL.11・94)

調査区の北側、18号竪穴建物の10m程西にあり、建物の北西側の大部分が、調査区外にある。

**座標値** X=42,739～42,744 Y=-55,735～-55,740

**重複遺構** 10号掘立柱建物、1号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性が高いが、建物の大部分が調査区外にあるため、明らかではない。

**主軸方位** 南東壁の方位は、N-48°-Eである。

**規模** 長軸(5.60m) 短軸(2.40m)

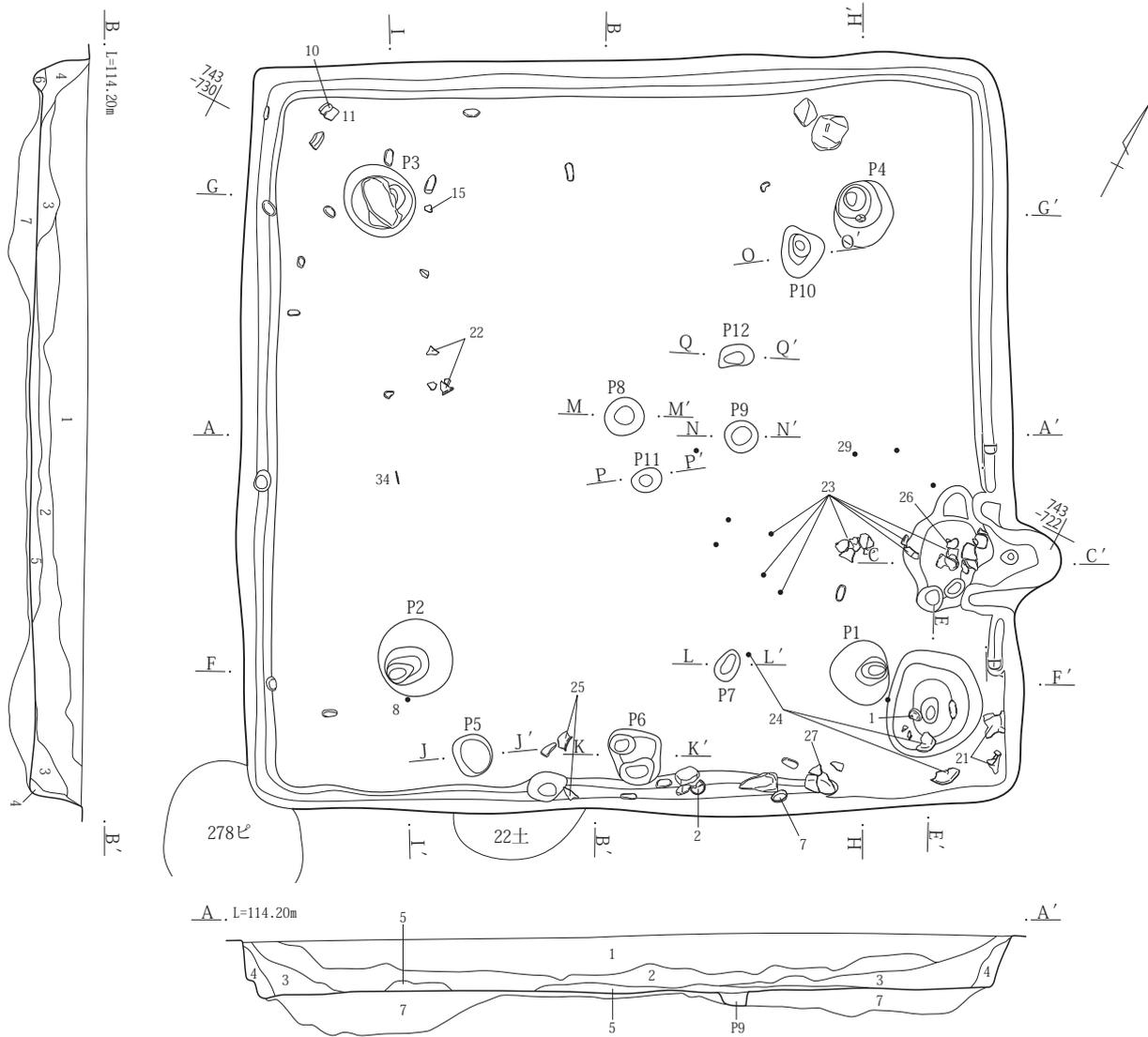
床面積(8.29㎡) 残存壁高38cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られる。

**床面** ほぼ平坦であるが、建物の周縁部がやや低くなっている。

**掘方** 床面から5cm～10cm程の深さで、起伏や細かい凹凸が見られる。

**竈** 北東壁内に設置しており、左袖の外側は調査区西側外の位置にある。規模は長軸125cm、袖幅25cm、燃焼部幅40cmを測る。燃焼部のほとんどが建物の内側に入る位置にあり、掘り方の壁外への張り出しは、40cmである。径35～40cmのほぼ円形、厚さ12～13cmの2つの河床礫を立てて両袖石としており、袖石の先端は、壁から65cmの



18号竪穴建物

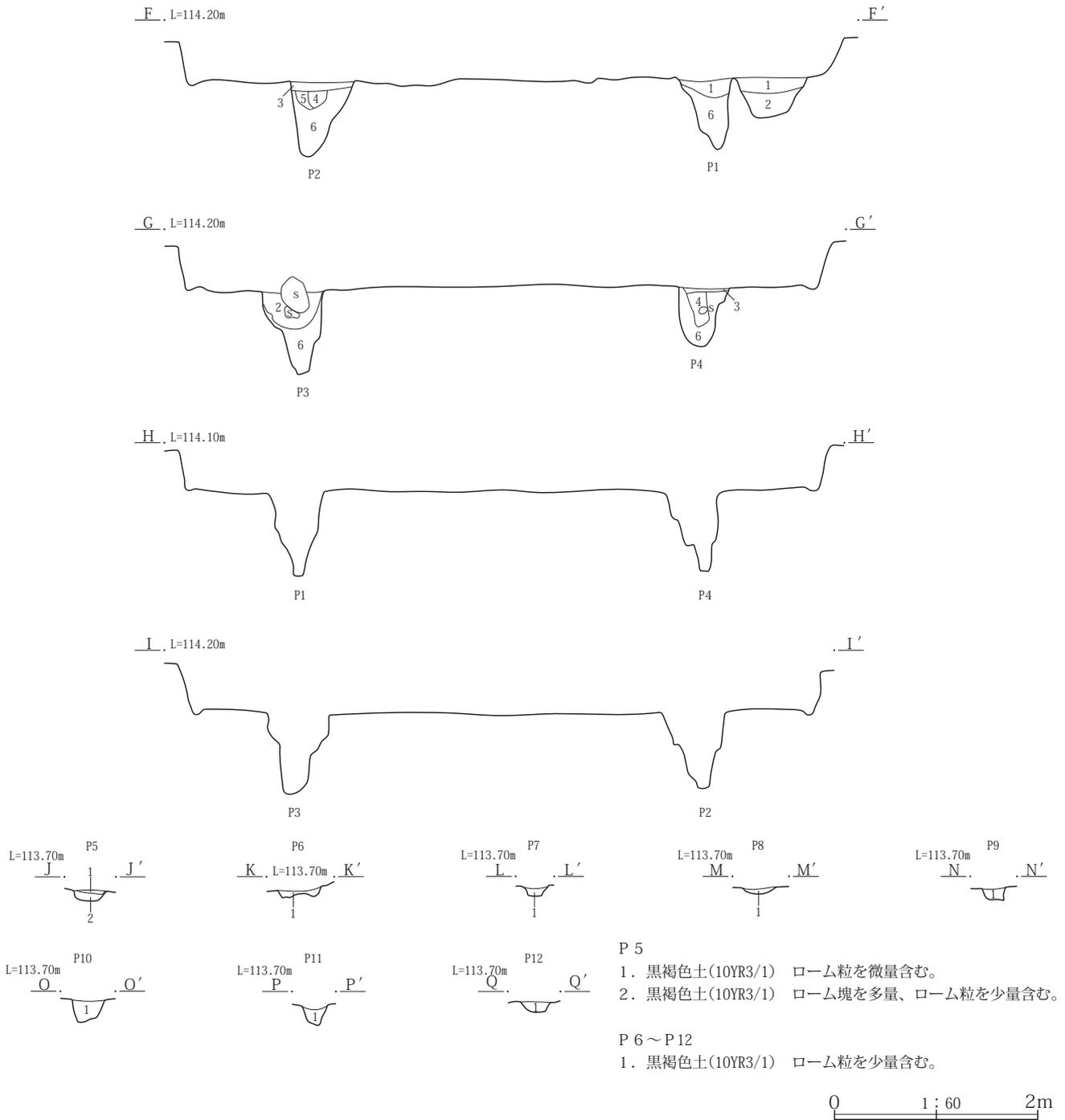
1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、灰白色粒を微量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
7. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。貼り床。

貯蔵穴・P1～P4

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、ローム塊・灰白色粘質土塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量、炭化物を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量に含む。
6. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

0 1:60 2m

第53図 1区18号竪穴建物



位置にある。2つの袖石の内側には、被熱による明赤褐色の変色があり、共に若干右に傾く状態で出土した。また、焚口の上部からは、一方の底部が他方の口縁に入り込む状態で、2個の長甕が出土した。袖の残存状態が良いことから、これらは竈使用時と大きく変わらない位置で出土した可能性が高く、袖石の先端上部に2個の長甕を重ね合わせるように据え、焚口を成形したと考えられる。燃焼部底部やその周辺には焼土や灰が多量に堆積し

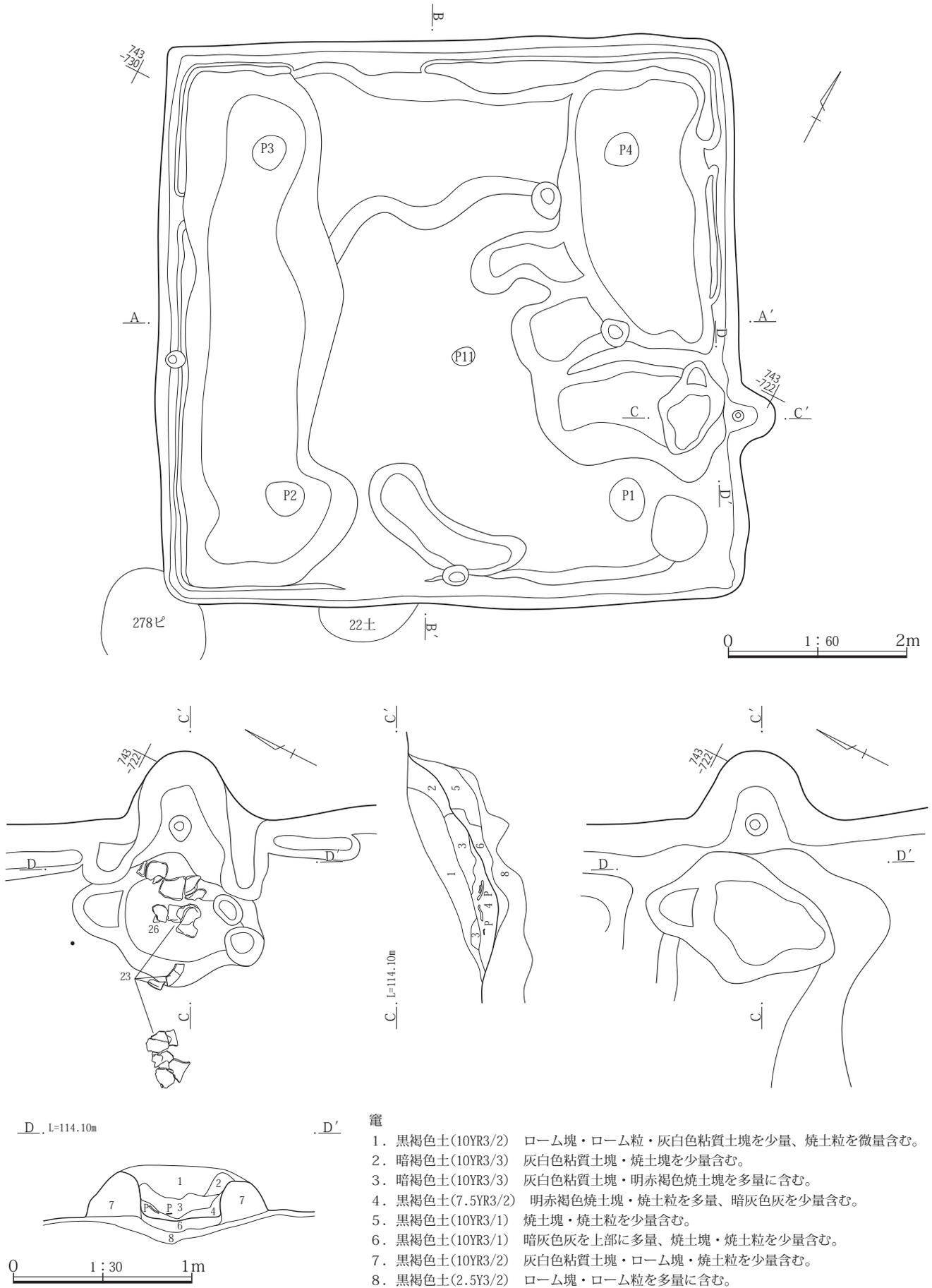
ていた。

**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径72cm、短径57cmの方形で、深さ48cmを測る。上部が段状に広がっており、蓋に類するものを置くことが可能な形状である。

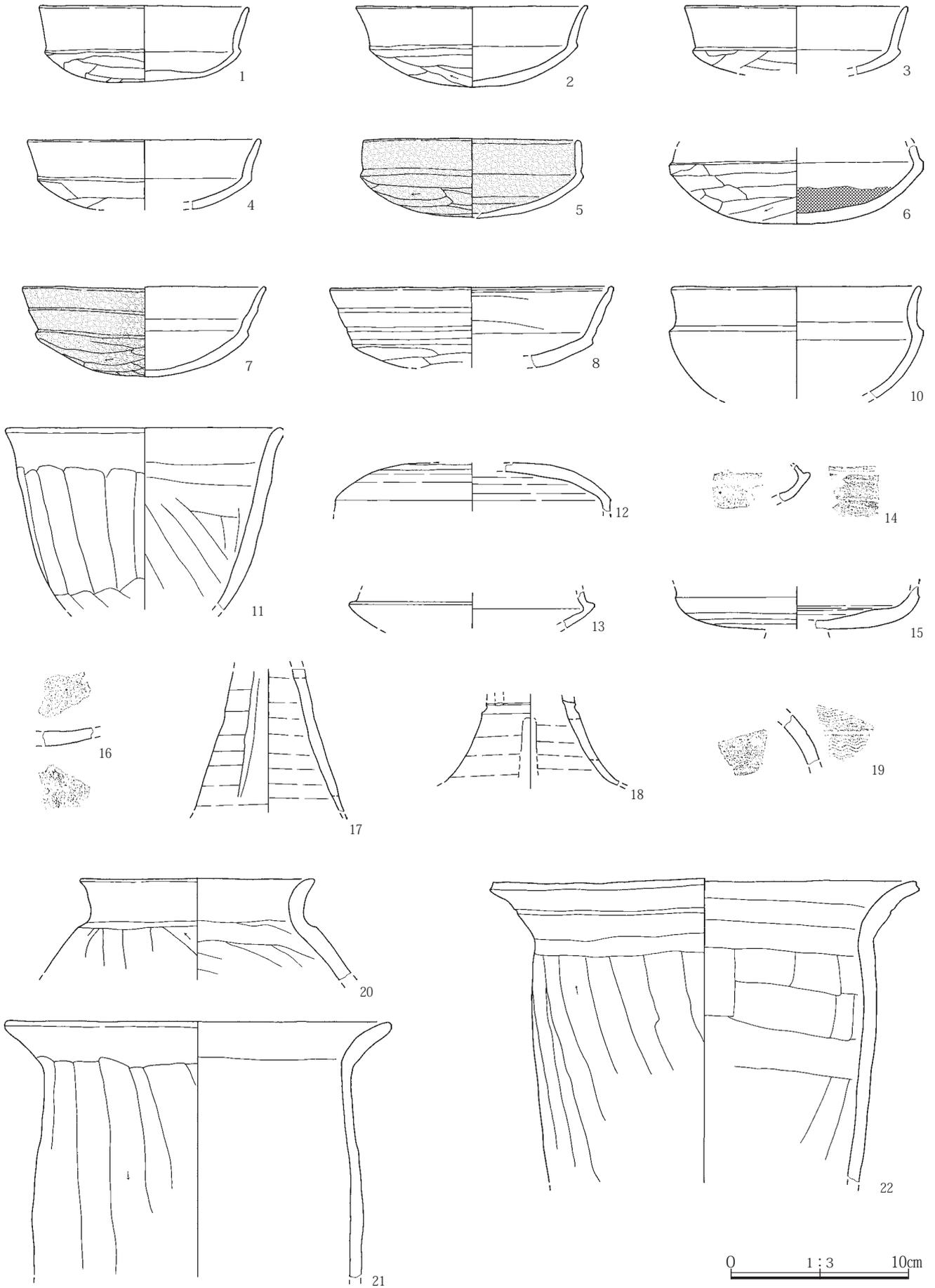
**柱穴** 床面でピット2基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 76×64×55 P 2 30×21×9

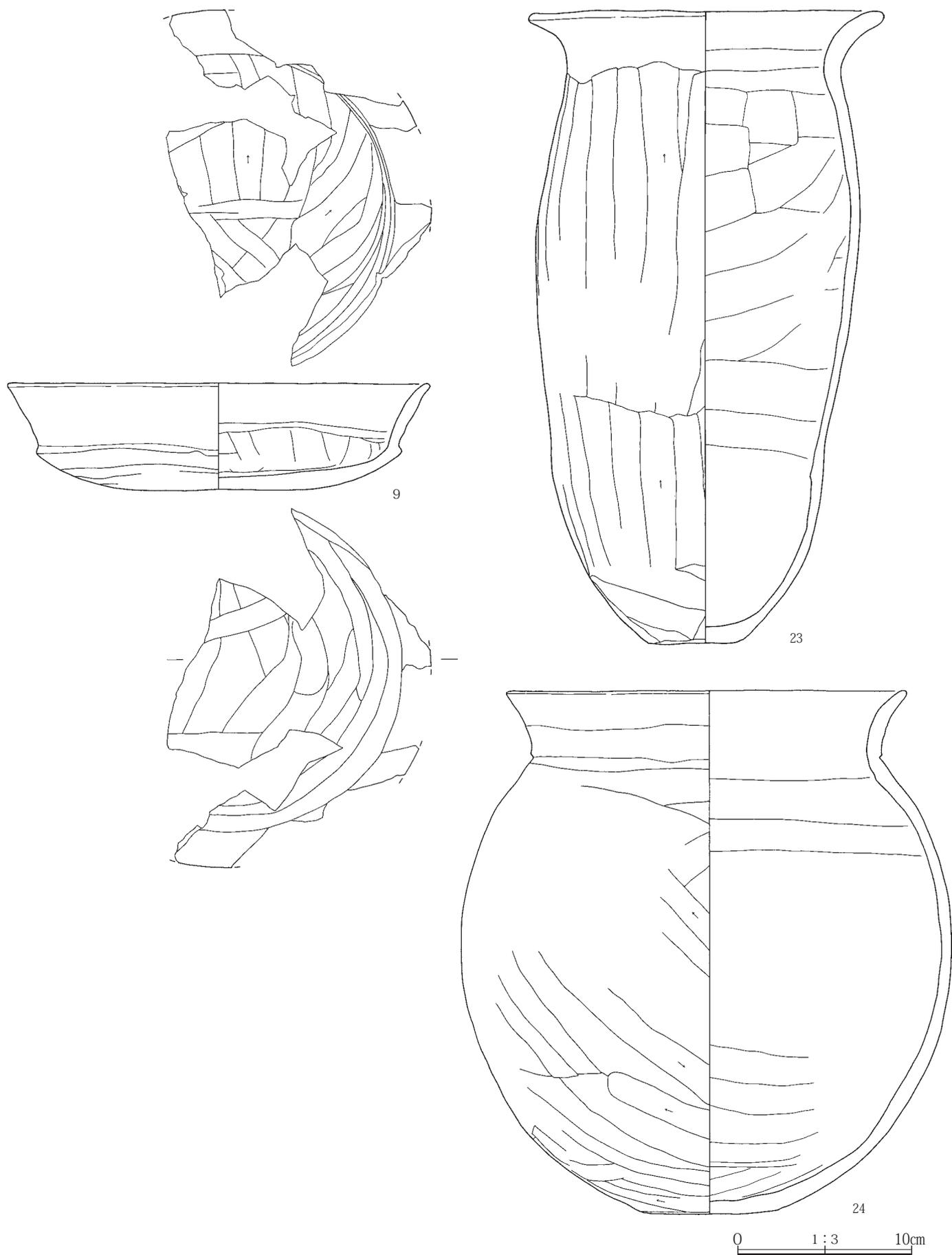
位置、形状から、P 1は主柱穴の可能性が高い。また、



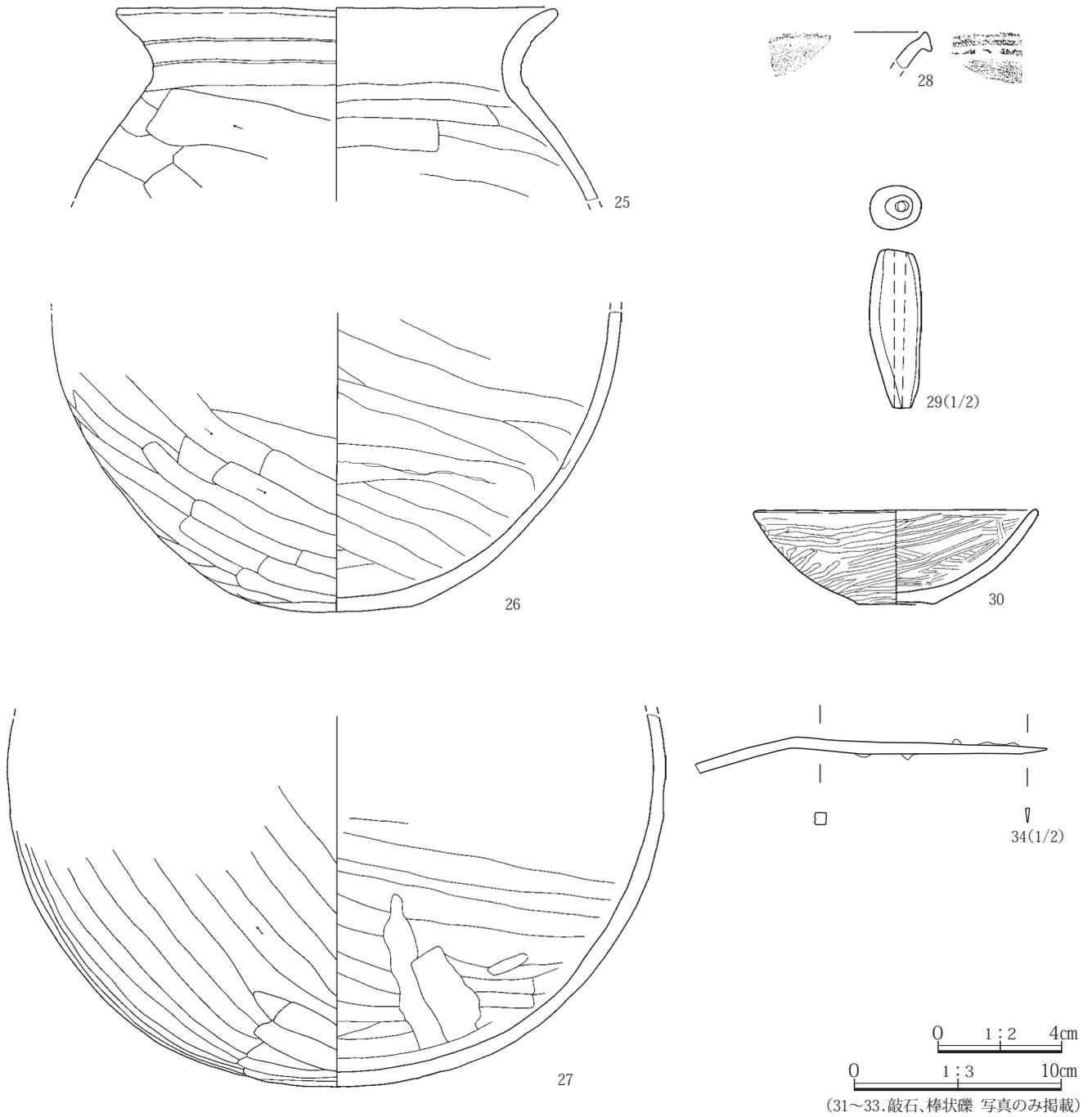
第55図 1区18号竪穴建物掘方・竈



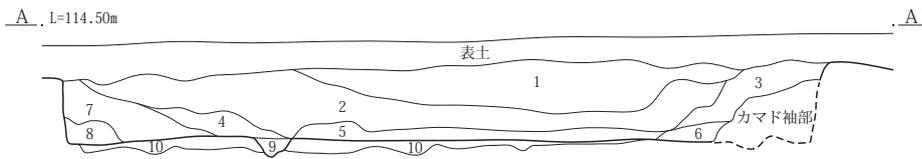
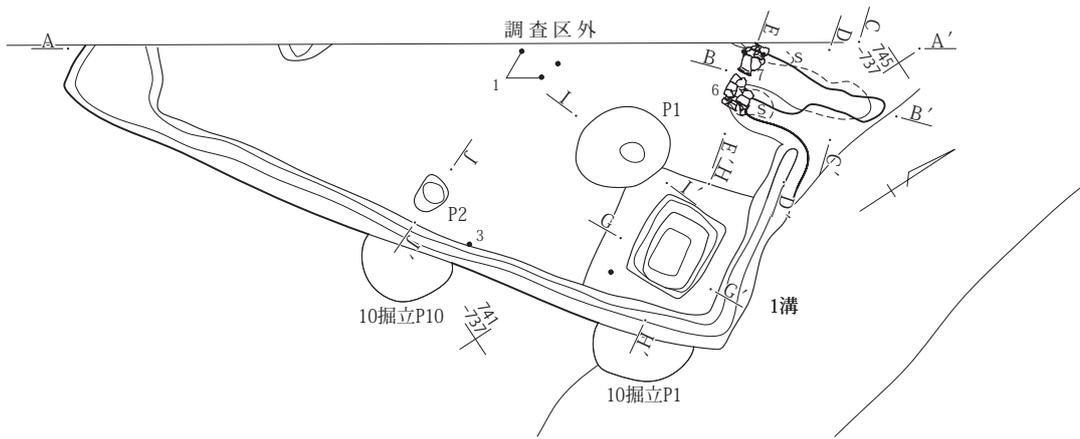
第56図 1区18号竪穴建物出土遺物(1)



第57図 1区18号竪穴建物出土遺物(2)

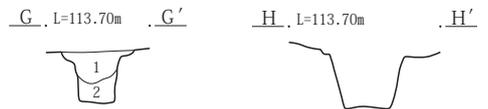


第58図 1区18号竪穴建物出土遺物(3)



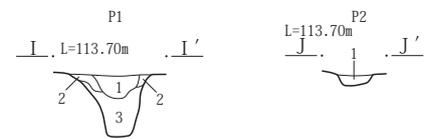
19号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒・褐灰色粘質土塊を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。やや砂質。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
9. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
10. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。黒褐色土を少量含む。



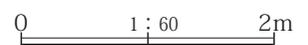
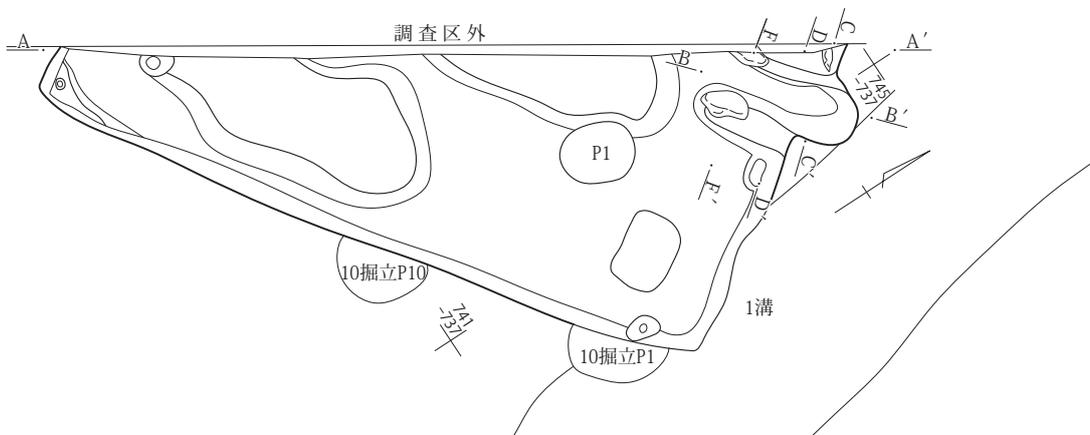
貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。

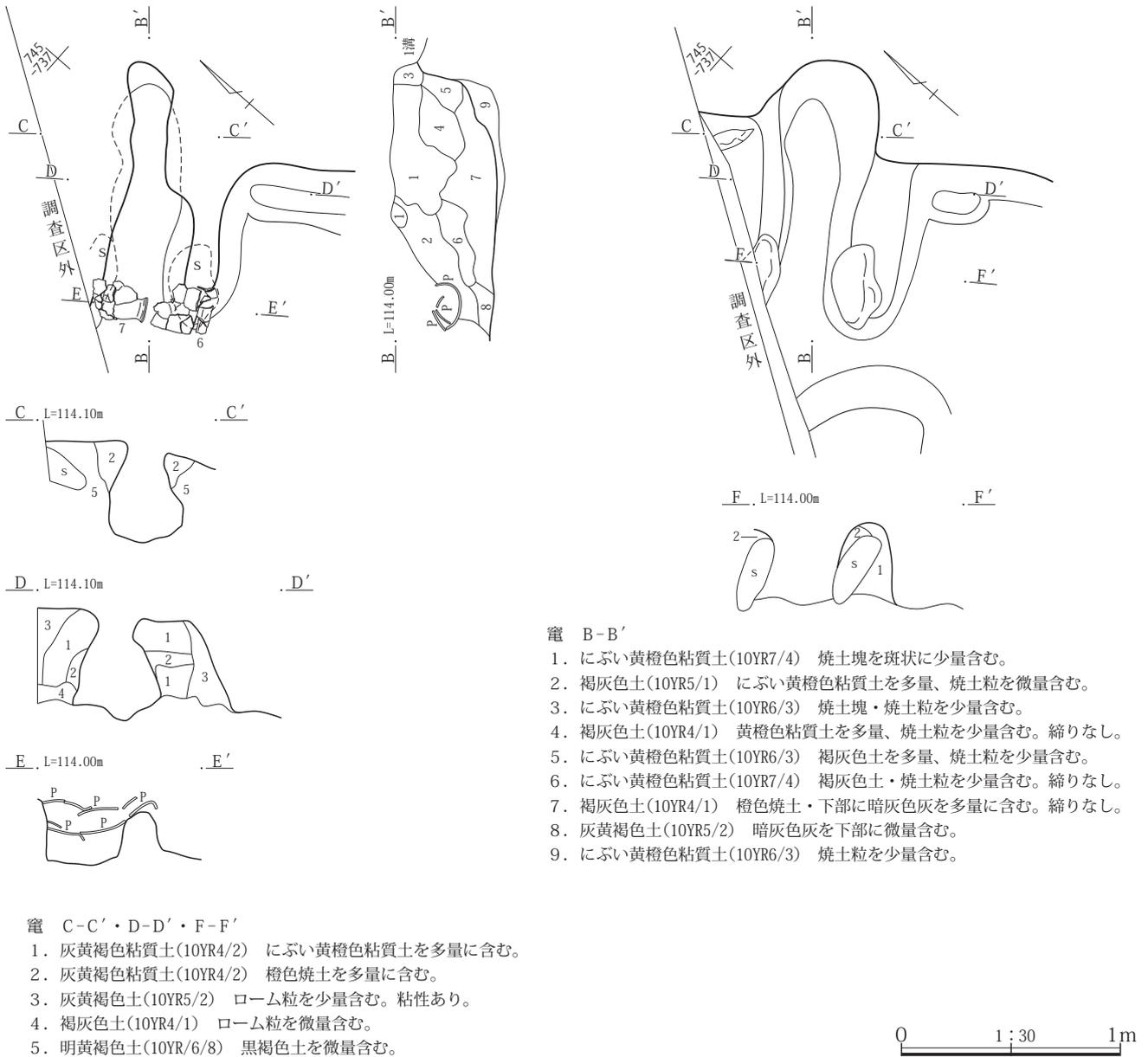


P1・P2

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。黒褐色土を微量含む。



第59図 1区19号竪穴建物



第60図 1区19号竪穴建物竈

P 1 の南西に位置する調査区際で検出されている窪みは、土層断面 A-A' 上においてもピット状のものであることが表れており、P 1 に対応する主柱穴の 1 つであることが考えられる。P 2 は、その位置と形状から、出入り口に関わる可能性がある。

**壁溝** 調査区内では、全周している。幅 5 cm～10 cm、深さ 9 cm を測る。

**遺物** 床面直上、竈焚口、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載したのは、1～3：土師器杯(1・3 は床面直上)、4：同鉢、5：須恵器蓋杯の身、6・7：土師器甕(竈焚口)である。

**所見** 建物の大部分が調査区外にあるため、不明な点が多いが、18号竪穴建物に次ぐ規模の可能性が高く、しっかりとした構造の竈や貯蔵穴をもつ建物である。掲載した遺物 1・2 は、本遺跡内で出土している同時期の杯と異なる様相を呈しており、搬入された可能性がある。床面直上や竈焚口などで出土した遺物から、時期は 6 世紀後半である。

**1区20号竪穴建物**(第62・63図、PL.12・94)

調査区の最北端、18号竪穴建物の 10 m 程北にあり、建物の大部分が調査区外にあるとみられる。

第3章 調査の成果

座標値 X=42,750~42,754 Y=-55,725~-55,730

重複遺構 なし

形状 確認できた範囲の形状から、方形の可能性が高いが、建物の多くが調査区外にあるため、明らかではない。

長軸方位 南壁の方位は、N-72°-Eである。

規模 長軸(4.40m) 短軸(4.10m)

床面積(9.23㎡) 残存壁高48cm

埋没土 ローム塊やローム粒を含む黒褐色土で、上層には灰白色粒が見られる。

床面 ほぼ平坦であるが、北に緩やかに傾斜している。

建物の中央付近と考えられる範囲で硬化面を検出した。

掘方 床面から7cm~15cm程の深さで、起伏や細かい凹凸が見られる。

竈 調査区内では確認されなかった。

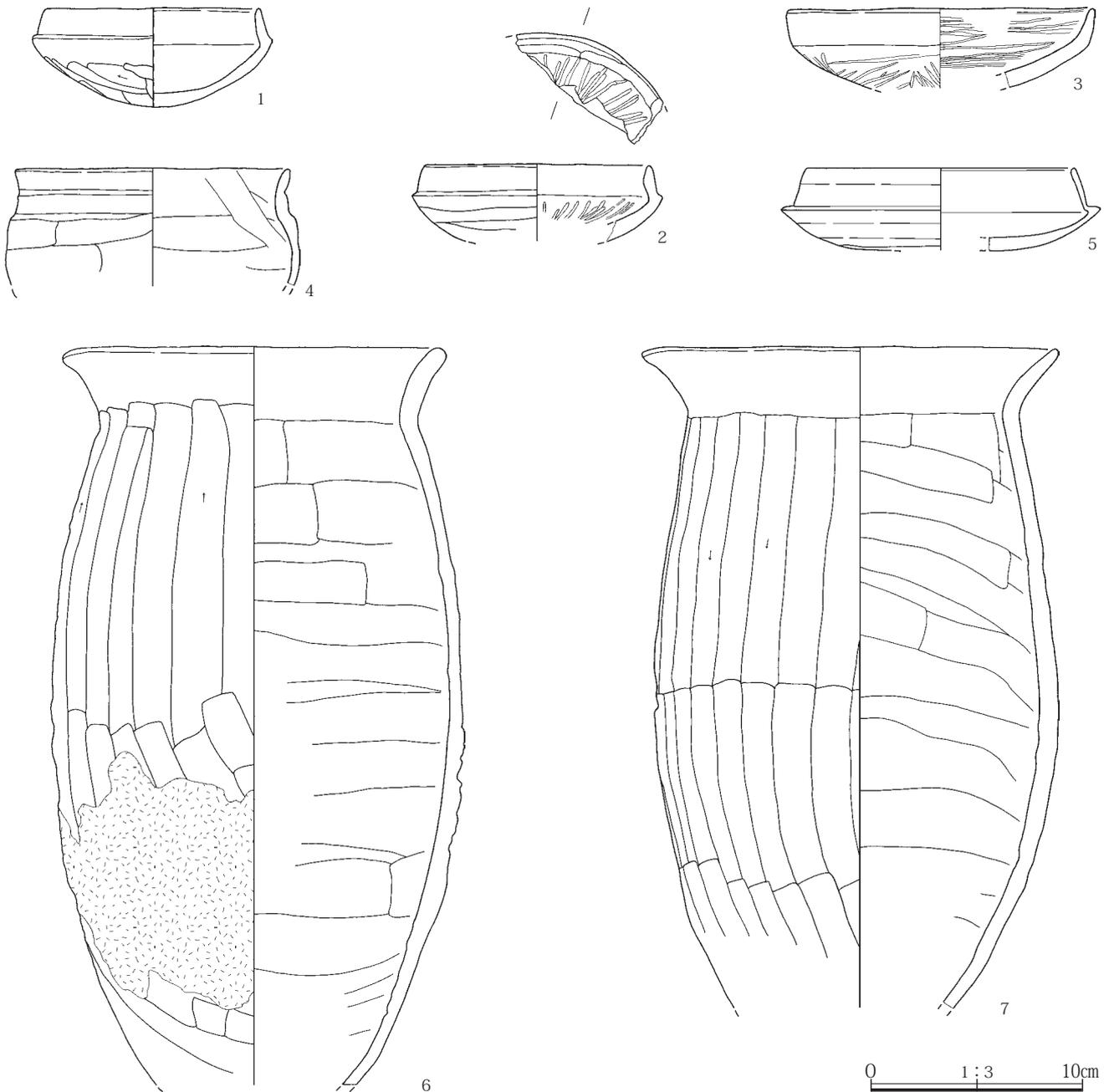
貯蔵穴 調査区内では確認されなかった。

柱穴 床面でピット3基を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

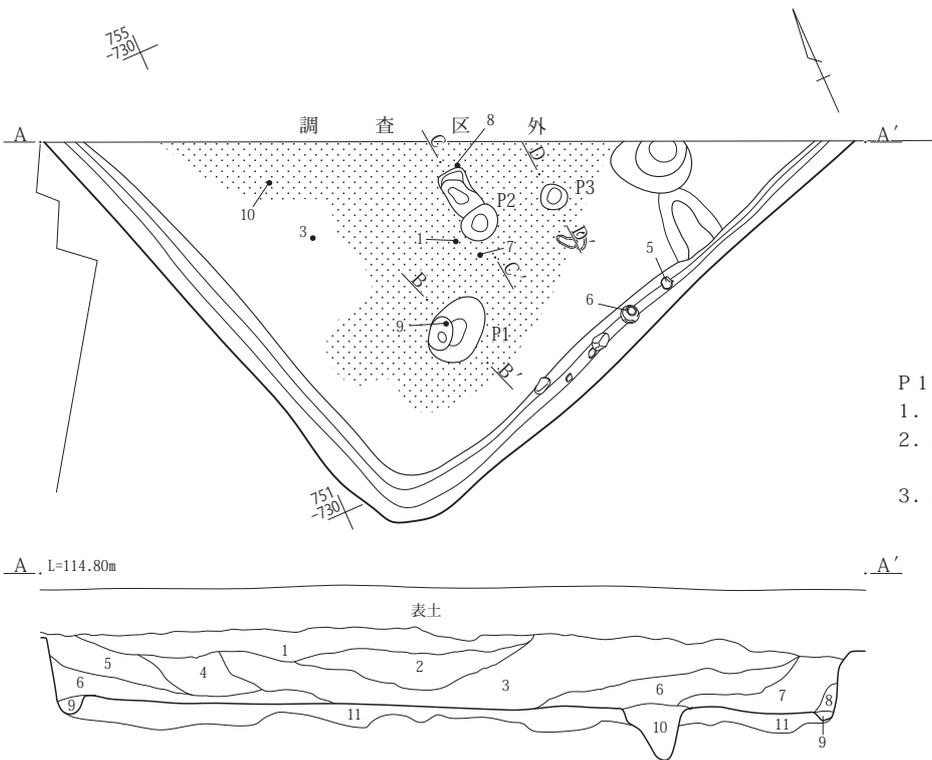
P 1 55×40×34 P 2 30×28×20

P 3 21×21×23

位置、形状から、P 1は主柱穴の可能性が高い。また、



第61図 1区19号竪穴建物出土遺物

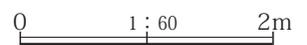
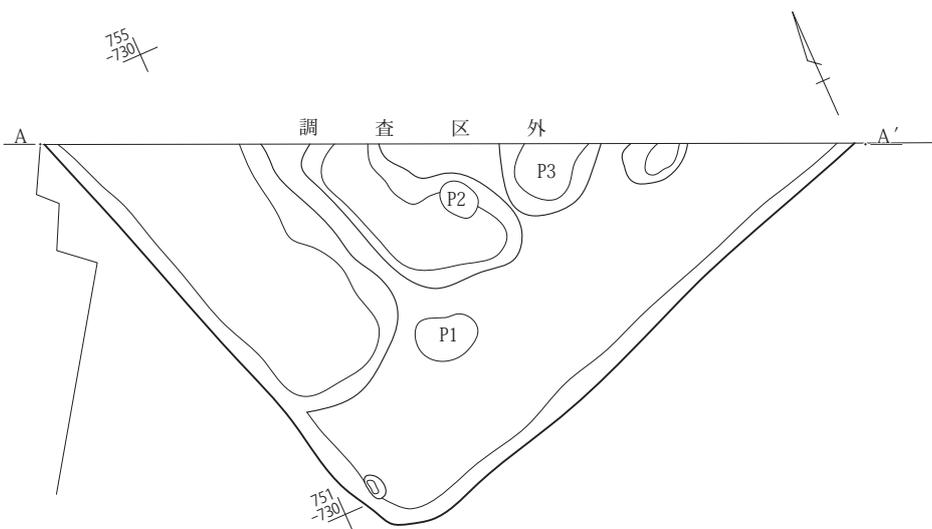


P 1 ~ P 3

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。

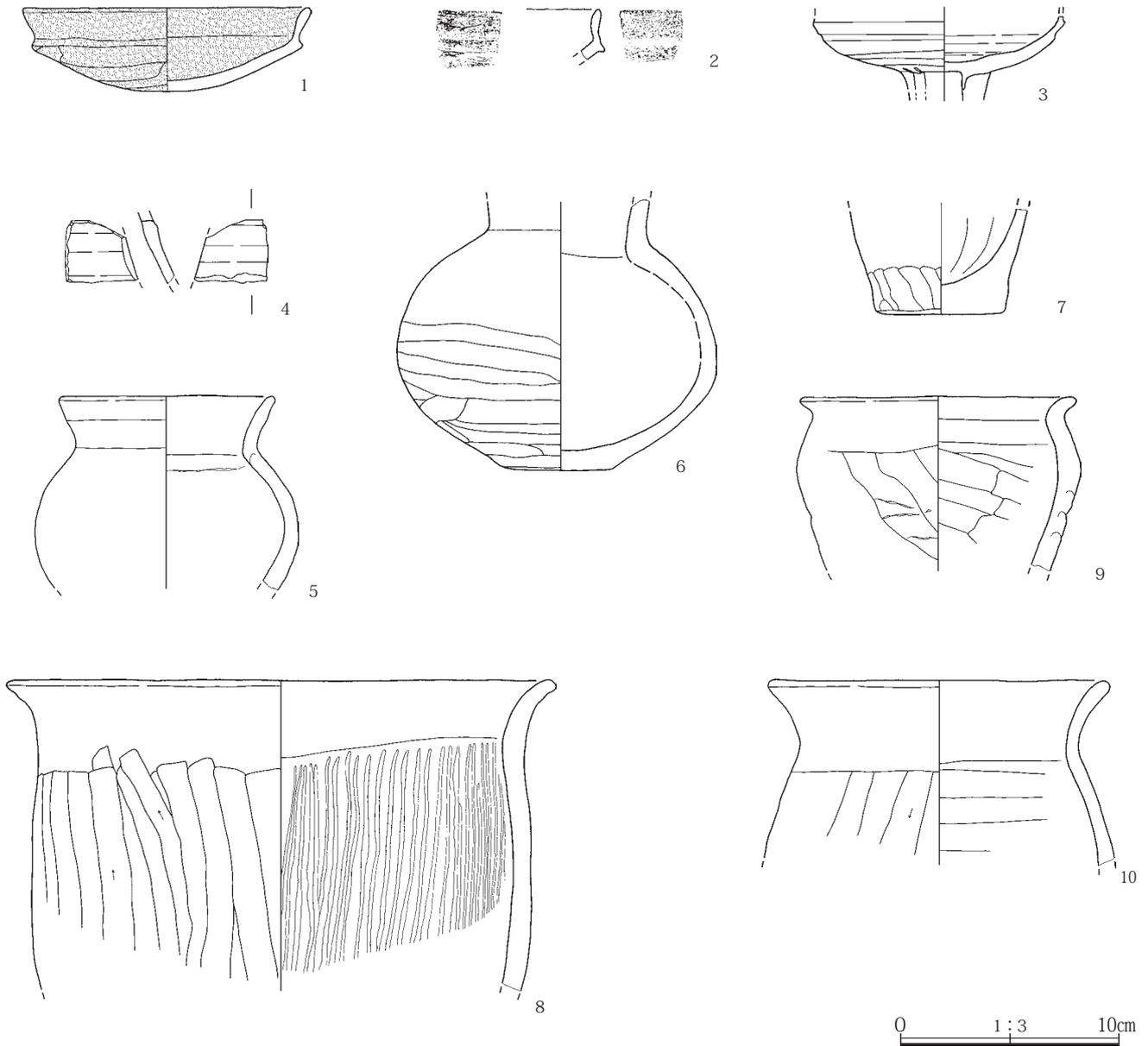
20号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を少量、ローム粒を微量含む。やや砂質。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を微量含む。
3. 黒褐色土(2.5Y3/1) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒を少量含む。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を微量含む。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量に含む。
10. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を少量含む。
11. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第62図 1区20号竪穴建物

第3章 調査の成果



第63図 1区20号竪穴建物出土遺物

調査区際で検出されている窪みは、土層断面A-A'上にもピット状のものであることが表れており、P1に対応する主柱穴の一部であることが考えられる。

**壁溝** 調査区内では、全周している。幅5cm～10cm、深さ8cm～10cmを測る。

**遺物** 床面直上、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載したのは、1：土師器杯(床直上11cm)、2：須恵器蓋杯の身、3・4：同高杯、5：土師器小型壺(床面直上)、

6・7：同壺(6は床面直上)、8：同甑(床直上8cm)、9：同小型甕(床直上13cm)、10：同甕である。

**所見** 建物の大部分が調査区外にあるため、不明な点が多い。竈や貯蔵穴を確認することはできなかったが、広範囲で硬化面を確認し、周辺に位置する時期の近い建物と類似する壁溝を確認した。床面直上や床面付近で出土した遺物から、時期は6世紀後半である。

**1区1号竪穴状遺構(第64図、PL.12)**

調査区南側、4号竪穴建物の10m程南にあり、遺構の東側大部分が調査区外にある。また、南側は攪乱によって壊されている。

**座標値** X=42,665~42,668 Y=-55,742~-55,744

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、方形の可能性があるが、遺構の大部分が調査区外と攪乱の範囲内にあるため、明らかではない。

**長軸方位** N-30°-E

**規模** 長軸(3.32m) 短軸(0.51m)

床面積(1.39㎡) 残存壁高32cm

**埋没土** 埋没土の多くはローム塊を含む黒褐色土と暗褐色土である。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。また、床面付近で多量の炭化材を検出した。廃棄時あるいは廃棄後に焼失した柱材等の可能性がある。

**掘方** 床面から10cm~20cm程の深さで、起伏や細かい凹凸が見られる。

**壁溝** 調査できた範囲内では、全周している。幅6cm~15cm、深さ11cmを測る。

**遺物** 埋没土中で土師器の小片が多数出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認できた範囲が僅かで、竈、貯蔵穴、柱穴は検出できなかったため、竪穴状遺構としたが、壁溝を伴うおおむね平坦な床面があり、掘方も確認した。詳しい時期の比定は難しいが、古墳時代後半から平安時代の竪穴建物の可能性がある。

**1区2号竪穴状遺構(第64図、PL.12・94)**

調査区中央西寄り、6号竪穴建物の10m程北にあり、遺構の西側大部分が調査区外にある。また、北側の調査区際は攪乱によって壊されている。

**座標値** X=42,709~42,712 Y=-55,756~-55,758

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、方形の可能性があるが、遺構の大部分が調査区外にあり、北側は攪乱されているため、明らかではない。

**長軸方位** N-40°-E

**規模** 長軸(3.25m) 短軸(0.75m)

床面積(0.90㎡) 残存壁高56cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土で、上層には灰白色粒が見られる。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。遺構の北東隅で褐灰色粘質土塊が出土した。

**掘方** 床面から5cm~15cm程の深さで、起伏や細かい凹凸が見られる。

**遺物** 埋没土中で土師器や須恵器の小片が数点出土した。掲載したのは、1:土師器杯、2:須恵器杯蓋である。

**所見** 確認できた範囲が僅かで、竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝は確認できなかったため竪穴状遺構としたが、おおむね平坦な床面があり、掘方も確認した。埋没土中からはあるが、8世紀前半の土器が出土しており、その時期の竪穴建物の可能性がある。

**1区3号竪穴状遺構(第65図、PL.12)**

調査区北側、18号竪穴建物の10m程北西にあり、遺構の北西側の多くが調査区外にある。

**座標値** X=42,746~42,749 Y=-55,733~-55,735

**重複遺構** なし

**形状** 遺構の大部分が調査区外にあるため、明らかではない。

**長軸方位** N-68°-E

**規模** 長軸(2.28m) 短軸(2.20m)

床面積(2.39㎡) 残存壁高26cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には灰白色粒が見られる。

**床面** 多少起伏が見られるが、ほぼ平坦である。掘方はなく、地山を直接床面としている。遺構の南東隅で土坑1基を検出した。

**遺物** 埋没土中で土師器の小片が数点出土した。掲載したのは、1:土師器甕、2:同壺である。

**所見** 確認できた範囲が僅かで、竈、柱穴、壁溝は検出できなかったため、竪穴状遺構としたが、調査できた範囲では、おおむね平坦な床面が存在し、土坑として調査を行ったものは貯蔵穴と考えることもできる。出土した遺物から、古墳時代後期の竪穴建物の可能性がある。

1区4号竪穴状遺構(第65図、PL.12)

調査区北側、18号竪穴建物の5m程南東にある。

座標値 X=42,734~42,736 Y=-55,720~-55,723

重複遺構 371号~374号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。

形状 不整形 長軸方位 N-65°-E

規模 長軸2.68m 短軸2.05m

床面積2.71m<sup>2</sup> 残存壁高35cm

埋没土 ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土

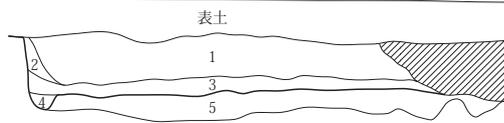
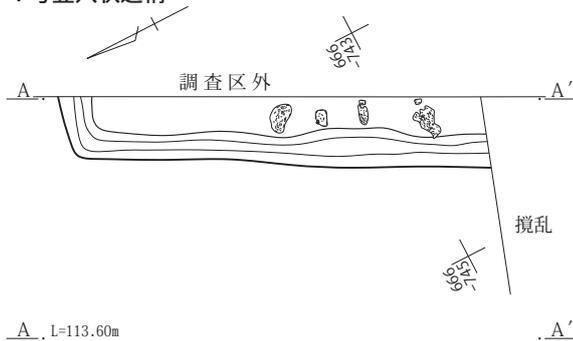
である。

床面 起伏が見られる。掘方はなく、地山を直接床面としている。

遺物 埋没土中で土師器が多数出土した。掲載した2点は、土師器杯(2は床面上9cm)である。

所見 形状が不正形で、竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝は検出されなかったため、竪穴状遺構とした。掲載した遺物は6世紀末~7世紀前半に比定でき、その時期に使用された遺構の可能性はあるが、使用目的は明らかではない。

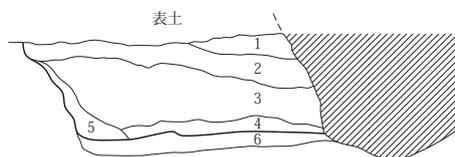
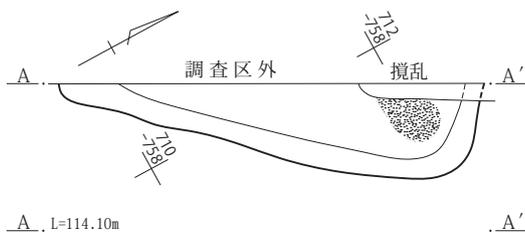
1号竪穴状遺構



1号竪穴状遺構

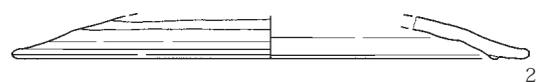
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。締りややあり。
2. 灰黄褐色(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化材・焼土を少量含む。やや柔らかい。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

2号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
2. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量、灰白色粘質土塊・焼土粒を微量含む。粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
6. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

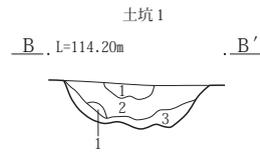
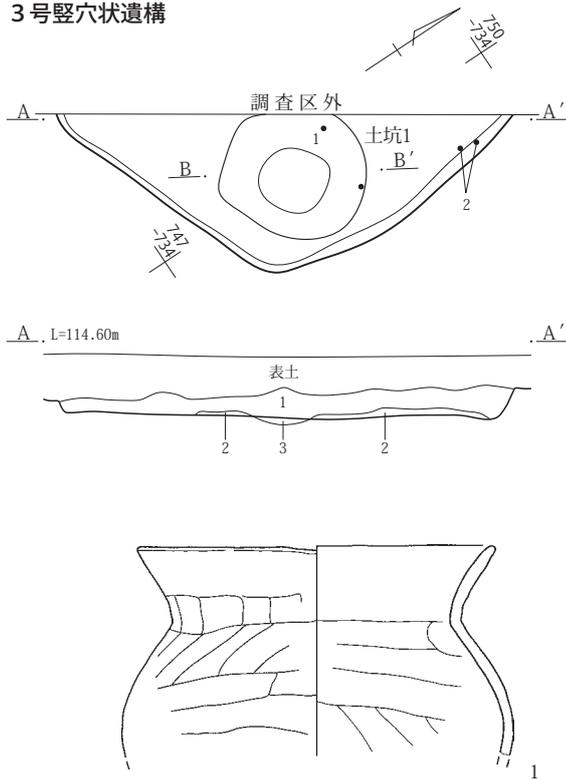


0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第64図 1区1・2号竪穴状遺構・2号竪穴状遺構出土遺物

3号竖穴状遺構

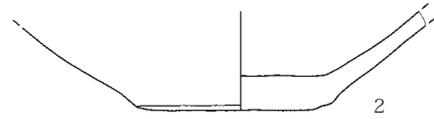


土坑1

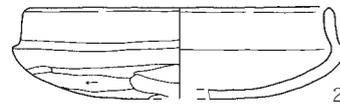
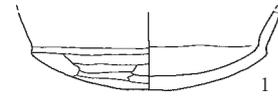
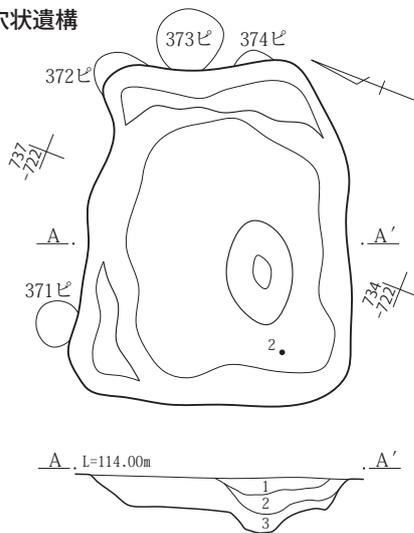
1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。

3号竖穴状遺構

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。固く締る。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。

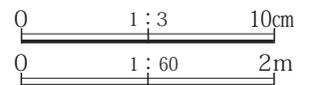


4号竖穴状遺構



4号竖穴状遺構

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。



第65図 1区3・4号竖穴状遺構・出土遺物

## 2. 掘立柱建物

1区では、掘立柱建物12棟を検出した。規模、柱間、主軸方位、柱穴の径や深さなど様々である。一部、2棟が隣接し主軸がそろっているものや、同一あるいは90°違いの主軸で一方が他方の内側に当たる位置にあるものもあった。

### 1区1号掘立柱建物(第66図、第2表、PL.13)

調査区南側、2号竪穴建物の東約15mの位置にある。

**座標値** X=42,685~42,688 Y=-55,737~-55,740

**重複遺構** なし **桁行方位** N-75°-W

**規模形態** 桁行2間：2.85m~2.93m

梁行2間：2.53m~2.75m

面積7.55㎡ 東西に棟を取る総柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は10基で、柱間は桁行方向1.35m~1.50m、梁行方向1.21m~1.39mを測る。近接するP3とP10については、位置関係からP3が建物南東隅の柱穴である可能性が高く、P10は柱以外の用途によるものとも考えられる。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈するが、不整形のものも確認された。各柱穴の規模は、長径40cm~75cm、短径40cm~55cm、深さ38cm~72cmである。ややばらつきはあるものの、規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 2基の柱穴から土師器が計4点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に2号竪穴建物に近接し、柱穴の規模や形状も類似しており、時期差は少ないとみられる。古墳時代~古代の掘立柱建物と考えられる。

### 1区2号掘立柱建物(第67図、第3表、PL.13)

調査区南側、1号掘立柱建物の5m程東にあり、建物の東側が調査区外に続いている可能性がある。

**座標値** X=42,683~42,687 Y=-55,732~-55,735

**重複遺構** なし **桁行方位** N-20°-E

**規模形態** 桁行2間：3.38m~3.45m

梁行(1間)：(1.65m~1.72m)

面積(5.12㎡)

南北に棟を取る側柱建物あるいは総柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は6基で、柱間は桁行方向1.65m~1.75m、梁行方向1.65m~1.72mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈し、規模は、長径55cm~78cm、短径50cm~70cm、深さ51cm~73cmである。規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 4基の柱穴から土器片が計5点(土師器4点、須恵器1点)出土した。掲載したのは、P6から出土した土師器甕(胴部片)である。

**所見** 6基の柱穴から梁間一間の建物と考えられるが、調査区外に建物の東側が続く総柱建物の可能性も残されている。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に1号掘立柱建物に近接し、柱穴の規模・形状も類似しており、時期差は少ないとみられる。古墳時代~古代の掘立柱建物と考える。また、掲載した甕は胴部の整形がハケメであることから5世紀代の可能性もある。

### 1区3号掘立柱建物(第68図、第4表、PL.14)

調査区南側、1号掘立柱建物の10m程南にあり、建物の東側が調査区外にある。

**座標値** X=42,671~42,678 Y=-55,737~-55,743

**重複遺構** 3号・4号竪穴建物と重複している。新旧関係は、本遺構が4号竪穴建物より新しい。3号竪穴建物との関係は明らかではない。

**桁行方位** N-14°-E

**規模形態** 桁行3間：6.03m

梁行(2間)：(4.40m)

面積(24.81㎡) 南北に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は6基で、柱間は桁行方向2.05m、梁行方向2.18m~2.22mを測る。P3とP4の間に柱穴を検出することはできなかったが、位置関係から柱穴が存在していた可能性が高く、桁行3間と判断した。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈するが、不整形のものも確認された。各柱穴の規模は、長径60cm~85cm、短径53cm~76cm、深さ62cm~84cmである。規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の掘立柱建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に4号掘立柱建物、重複する3・4号竪穴建物とは、主軸方向が合うか直交しており、時期差は少ないとみられ、古代の掘立柱建物と考えられる。

#### 1区4号掘立柱建物(第69図、第5表、PL.14)

調査区南側で、3号掘立柱建物と主軸がほぼ一致し、西側に隣接する位置にある。

**座標値** X=42,672~42,678 Y=-55,743~-55,749

**重複遺構** 4号竪穴建物、14号・162号~164号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が4号竪穴建物より新しい。14号・162号~164号ピットとの関係は明らかではない。

**桁行方位** N-16°-E

**規模形態** 桁行3間：5.25m~5.30m

梁行2間：5.13m~5.23m

面積26.88㎡ 南北に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は10基で、柱間は桁行方向1.60m~1.92m、梁行方向2.50m~2.70mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形・隅丸方形を呈し、規模は、長径37cm~49cm、短径35cm~48cm、深さ44cm~62cmである。規模や形状が近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土と黒褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に3号掘立柱建物、重複する4号竪穴建物とは、主軸方向が合うか直交しており、時期差は少ないとみられ、柱穴の径が小さめではあるが、古代の掘立柱建物と考えられる。

#### 1区5号掘立柱建物(第70図、第6表、PL.15)

調査区中央付近で、15号竪穴建物の南約10mの位置にある。

**座標値** X=42,706~42,711 Y=-55,722~-55,727

**重複遺構** なし **桁行方位** N-3°-E

**規模形態** 桁行3間：4.30m~4.40m

梁行2間：4.56m~4.60m

面積19.83㎡ 南北に棟を取る総柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は12基で、柱間は桁行方向1.30m~1.65m、梁行方向2.10m~2.46mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形・隅丸方形を呈するが、不整形のものも確認された。各柱穴の規模は、長径65cm~85cm、短径60cm~85cm、深さ35cm~63cmである。規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

**遺物** 9基の柱穴から土器片が多数(土師器30点、須恵器3点)出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に6・12号竪穴建物とは、主軸方向が直交し、規模も同様であり、時期差は少ないとみられ、古代の掘立柱建物と考えられる。

#### 1区6号掘立柱建物(第71図、第7表、PL.15・16)

調査区中央付近で、5号掘立柱建物の北西約20mの位置にある。

**座標値** X=42,717~42,722 Y=-55,739~-55,744

**重複遺構** 7号掘立柱建物の内側にあたる位置で重複している。新旧関係は明らかでない。

**桁行方位** N-47°-E

**規模形態** 桁行2間：4.05m

梁行2間：3.50m~3.60m

面積14.25㎡

北西—南東に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は8基で、柱間は桁行方向1.85m~2.20m、梁行方向1.50m~2.00mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈するが、不整形のものも確認された。各柱穴の規模は、長径42cm~75cm、短径38cm~60cm、深さ24cm~70cmである。ややばらつきはあるものの、規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 3基の柱穴から土師器が計6点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に7号掘立柱建物、9・16号竪穴建物と主軸方向が直交している。また、7号掘立柱建物の内部にあたる位置にあり、建て替え前後の関係にある可能性もある。これらの建物との時期差は少ないとみられ、古代の掘立柱建物と考えられる。

**1区7号掘立柱建物**(第72・73図、第8表、PL.16・22・94)

調査区中央付近で、建物の中心が6号掘立柱建物とほぼ同位置にあり、重複している。

**座標値** X=42,715~42,724 Y=-55,737~-55,745

**重複遺構** 6号掘立柱建物、13号土坑、214号・235号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が13号土坑より新しい。他の遺構との関係は明らかでない。

**桁行方位** N-43°-E

**規模形態** 桁行3間：6.35m~6.42m

梁行3間：4.69m~4.75m

面積30.00㎡

北東—南西に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は12基で、柱間は桁行方向2.05m~2.20m、梁行方向1.40m~1.75mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈している。規模は、長径45cm~82cm、短径32cm~68cm、深さ47cm~127cmである。ややばらつきはあるものの、おおむね規模や形状が近似している。埋没土は主にローム塊を含む暗褐色土である。

**遺物** 2基の柱穴から土師器が計4点出土した。掲載したのはP11埋没土中から出土した土師器杯である。

**所見** 周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に9・16号竪穴建物と主軸方向が合い、6号掘立柱建物とは直交している。また、6号掘立柱建物は本遺構の内側に入る位置にあり、建て替え前後の関係にある可能性もある。これらの建物との時期差は少ないとみられる。P11で出土した杯は8世紀後半に比定できる。

**1区8号掘立柱建物**(第74図、第9表、PL.16・17)

調査区中央付近で、6号・7号掘立柱建物の西に位置しており、建物の北西側が調査区外にある。

**座標値** X=42,719~42,727 Y=-55,745~-55,750

**重複遺構** 7号竪穴建物、14号土坑、175号・245号ピットと重複している。新旧関係は7号竪穴建物より新しく、14号土坑、245号ピットより古い。175号ピットとの関係は明らかではない。

**桁行方位** N-10°-W

**規模形態** 桁行3間：6.35m

梁行2間：4.50m

面積(25.56㎡) 南北に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は8基で、柱間は桁行方向2.10m~2.20m、梁行方向2.20m~2.30mを測る。各柱穴は、一部が調査区外にあり不明のものもあるが、おおむね楕円形である。各柱穴の規模は、長径58cm~120cm、短径(35cm)~85cm、深さ55cm~72cmである。おおむね規模や形状が近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土と黒褐色土である。

**遺物** 5基の柱穴から土器片が多数(土師器127点、須恵器12点)出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に6号竪穴建物と主軸方向が直交しており、時期差は少ないとみられる。5基の柱穴からは小片ながら、多数の土師器や須恵器が出土しており、古代の掘立柱建物と考えられる。

**1区9号掘立柱建物**(第75図、第10表、PL.17・22)

調査区北側で、5号掘立柱建物の北約20mの位置にある。

**座標値** X=42,726~42,731 Y=-55,720~-55,725

**重複遺構** 16号土坑、264号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が16号土坑より新しい。264号ピットとの関係は明らかではない。

**桁行方位** N-39°-W

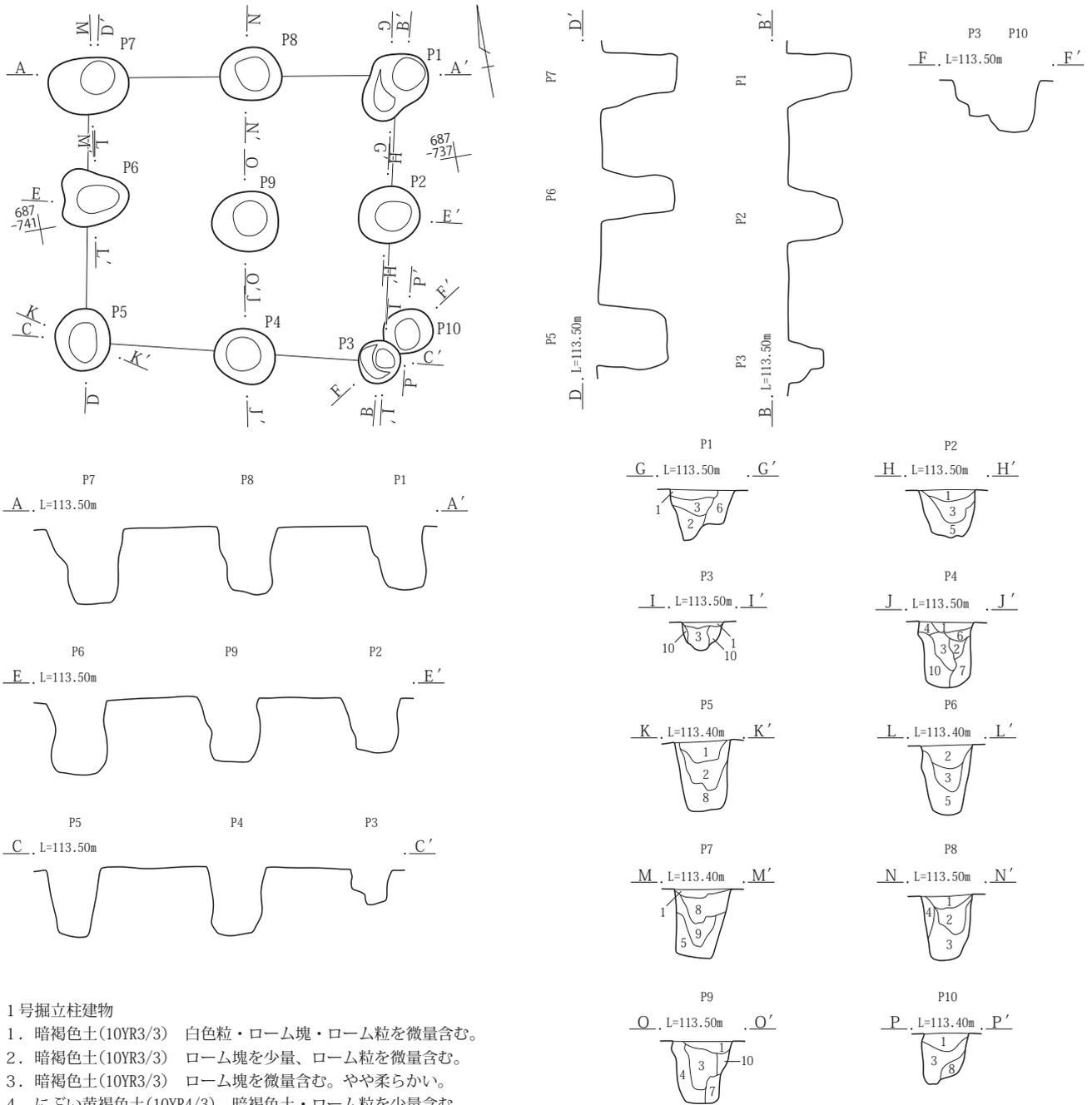
**規模形態** 桁行2間：3.45m~3.48m

梁行2間：3.38m~3.48m

面積11.90㎡

北西—南東に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は8基で、柱間は桁行方向1.60m~1.85m、梁行方向1.53m~1.88mを測る。各柱



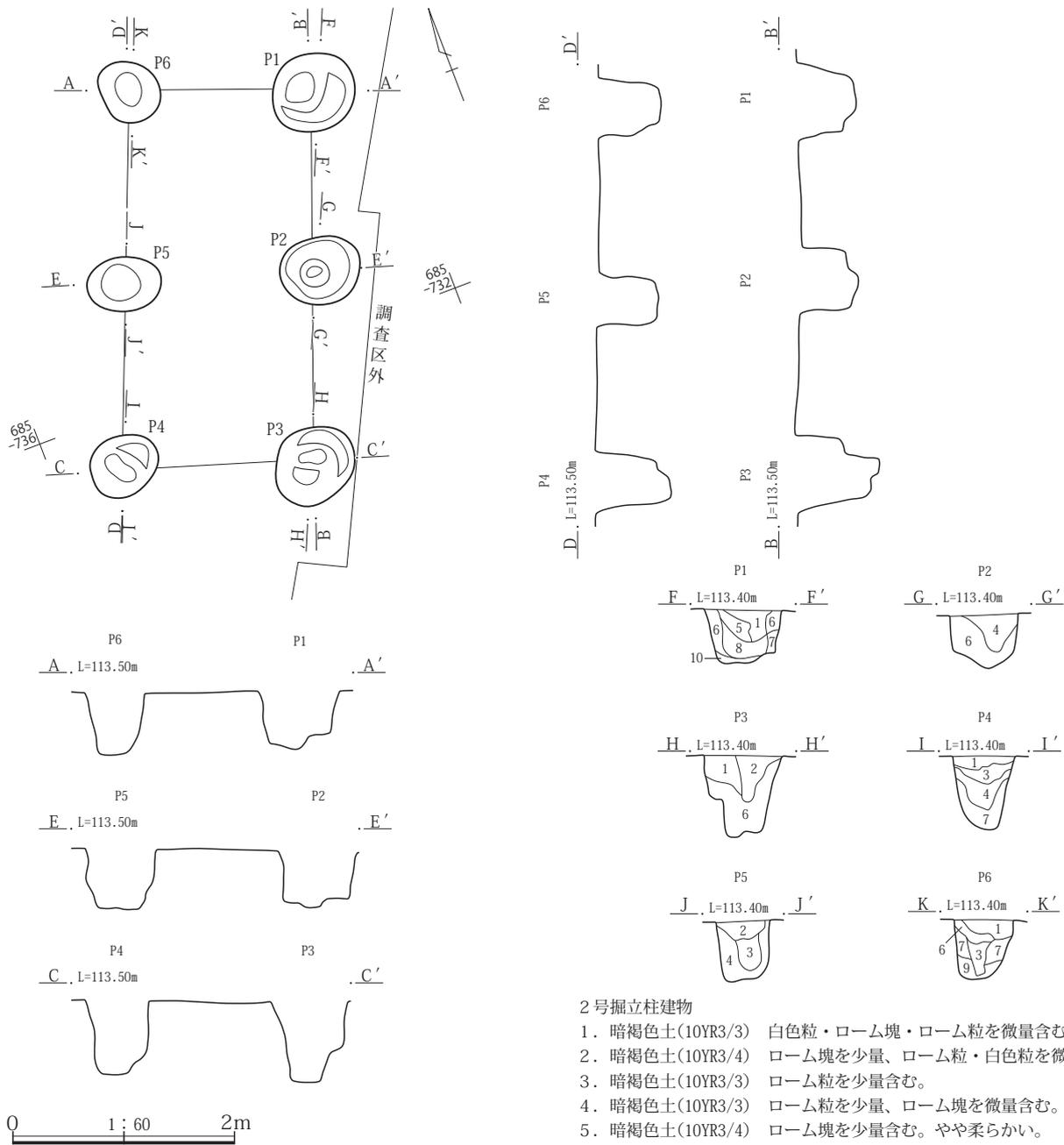
1号掘立柱建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を微量含む。やや柔らかい。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 暗褐色土・ローム粒を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。やや柔らかい。
6. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を斑状に多量に含む。柔らかい。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
9. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を微量含む。やや柔らかい。

第2表 1号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模	2間×2間		面積	7.55㎡				
主軸方位	N-82°-W		位置	X=42,685~42,688 Y=-55,737~-55,740				
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.	
		長径	短径	深さ				
東辺	2.75	P1	0.72	0.55	0.60	不整形	1.39	P7
-	-	P2	0.59	0.55	0.50	円形	1.36	P8
南辺	2.85	P3	0.40	0.40	0.38	円形	1.35	P9
-	-	P4	0.58	0.53	0.64	円形	1.50	P6
西辺	2.53	P5	0.58	0.50	0.64	楕円形	1.32	91号ビットP3
-	-	P6	0.60	0.50	0.68	不整形	1.21	P2
北辺	2.93	P7	0.75	0.55	0.72	楕円形	1.49	P1
-	-	P8	0.60	0.50	0.64	円形	P1へ1.44	P4
中央辺	2.65	P9	0.63	0.55	0.62	円形	P4へ1.35 P8へ1.30	P5
-	-	P10	0.45	(0.45)	0.52	円形か	-	-

第66図 1区1号掘立柱建物

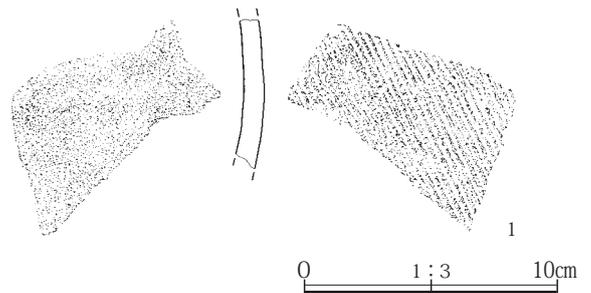


2号掘立柱建物

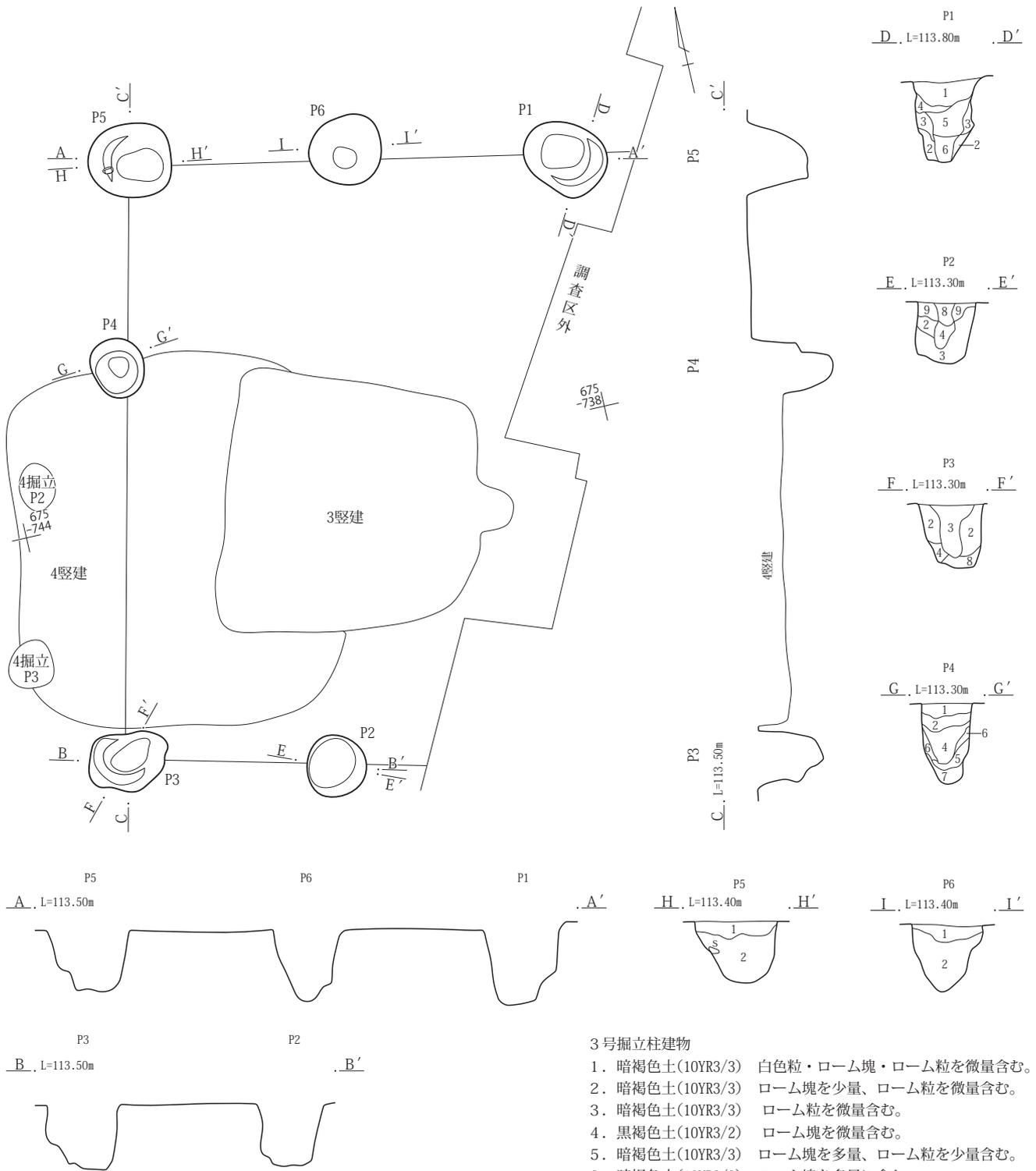
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量、ローム粒・白色粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量含む。やや柔らかい。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。やや柔らかい。
8. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を微量含む。やや柔らかい。
10. 黒褐色土(10YR2/1) ローム粒を少量含む。

第3表 2号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模	1間×2間		面積	5.12㎡				
主軸方位	N-20°-E		位置	X=42,683~42,687 Y=55,732~55,735				
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.	
東辺	3.38	P1	0.75	0.70	0.51	円形	1.65	P4
		P2	0.73	0.60	0.52	円形	1.73	P5
南辺	1.72	P3	0.78	0.68	0.73	円形	1.72	P6
西辺	3.45	P4	0.64	0.55	0.68	円形	1.70	P3
		P5	0.67	0.50	0.54	楕円形	1.75	P2
北辺	1.65	P6	0.55	0.55	0.58	円形	1.65	P1



第67図 1区2号掘立柱建物・出土遺物



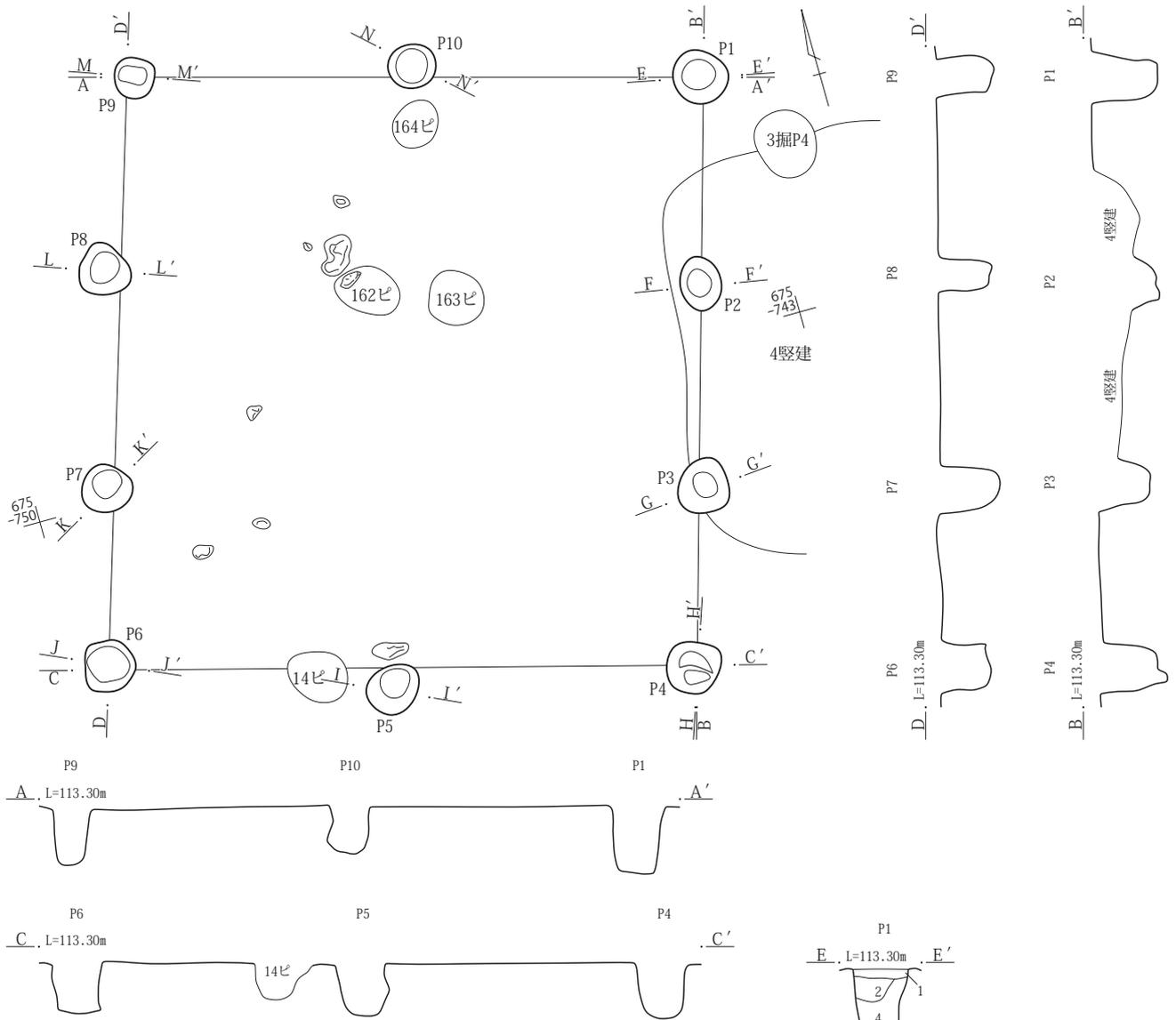
第4表 3号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		(2間×3間)		面積		(24.81)㎡		
主軸方位		N-14°-E		位置		X=42,671~42,678 Y=55,737~55,743		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.	
		長径	短径	深さ				
東片	-	P1	0.85	0.70	0.73	楕円形	-	99号ビット
南辺	(2.15)	P2	0.60	0.55	0.66	円形	2.15	94号ビット
西辺	6.03	P3	0.76	0.58	0.66	不整形	3.98	95号ビット
		P4	0.60	0.53	0.84	楕円形	2.05	165号ビット
北辺	4.40	P5	0.85	0.76	0.62	楕円形	2.18	4号土坑
		P6	0.73	0.70	0.71	楕円形	2.22	5号土坑

3号掘立柱建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を微量含む。
8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。

第68図 1区3号掘立柱建物

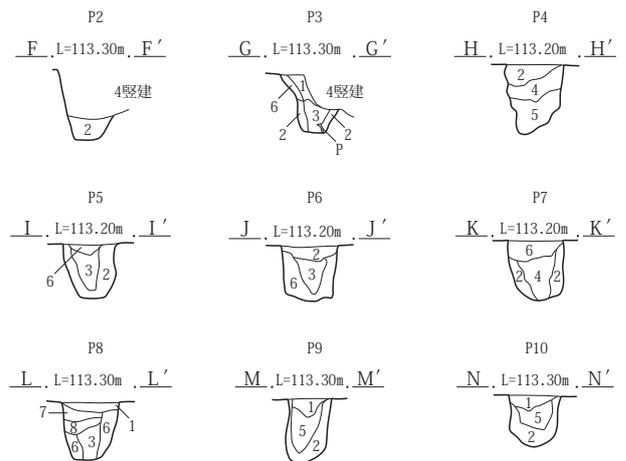


4号掘立柱建物

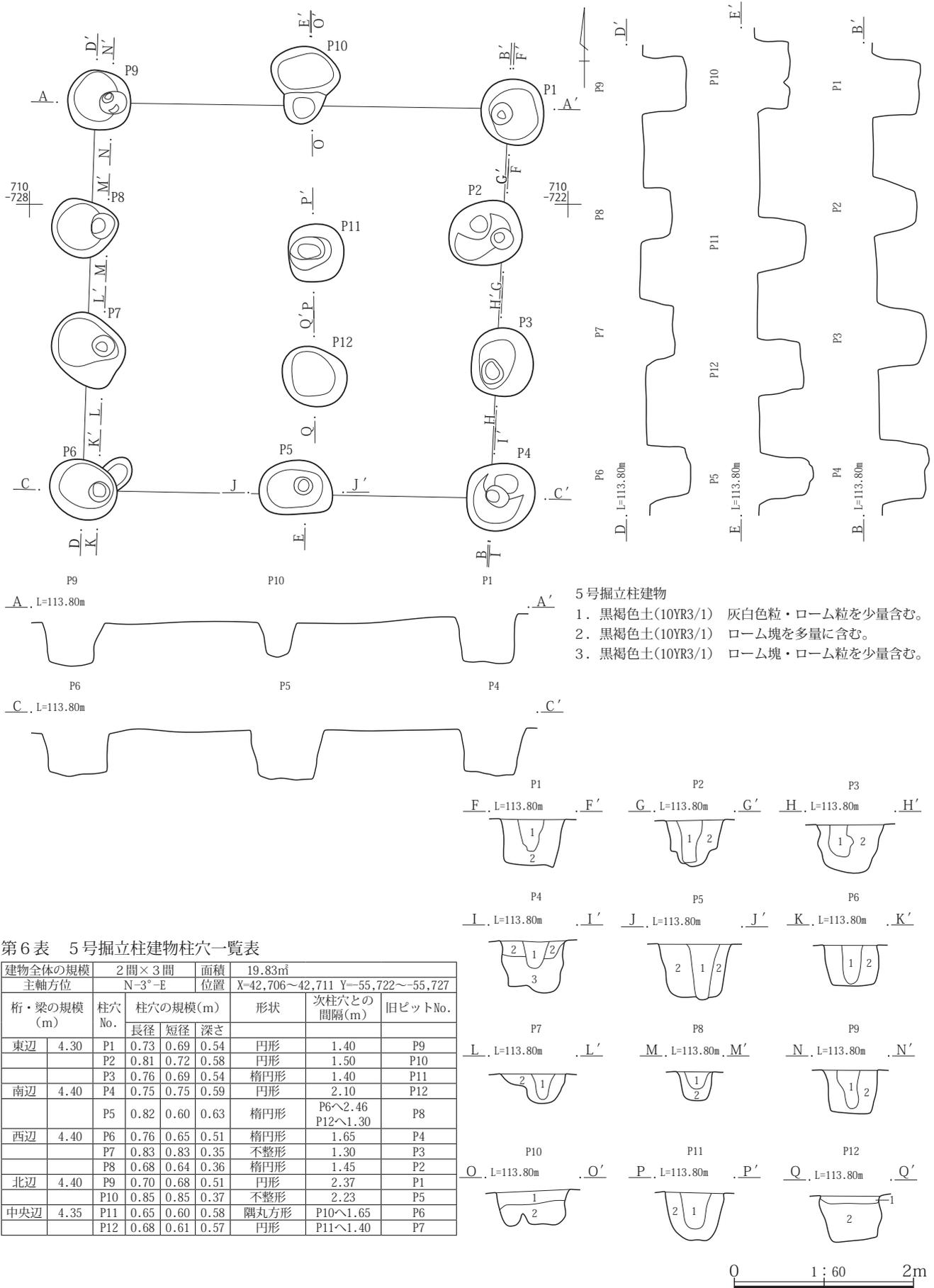
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。やや柔らかい。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。やや柔らかい。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を微量含む。柔らかい。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
8. 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

第5表 4号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		2間×3間		面積	26.88㎡		
主軸方位		N-16°-E		位置	X=42,672~42,678 Y=55,743~55,749		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.
		長径	短径	深さ			
東辺	P1	0.49	0.48	0.62	円形	1.85	75号ビット
	P2	0.48	0.36	0.56	楕円形	1.80	159号ビット
	P3	0.48	0.45	0.49	楕円形	1.60	160号ビット
南辺	P4	0.48	0.45	0.58	隅丸方形	2.70	17号ビット
	P5	0.48	0.45	0.49	楕円形	2.53	21号ビット
西辺	P6	0.48	0.48	0.44	隅丸方形	1.63	19号ビット
	P7	0.45	0.45	0.55	円形	1.92	25号ビット
	P8	0.48	0.46	0.55	楕円形	1.75	161号ビット
北辺	P9	0.37	0.35	0.50	楕円形	2.50	69号ビット
	P10	0.43	0.40	0.45	円形	2.63	74号ビット



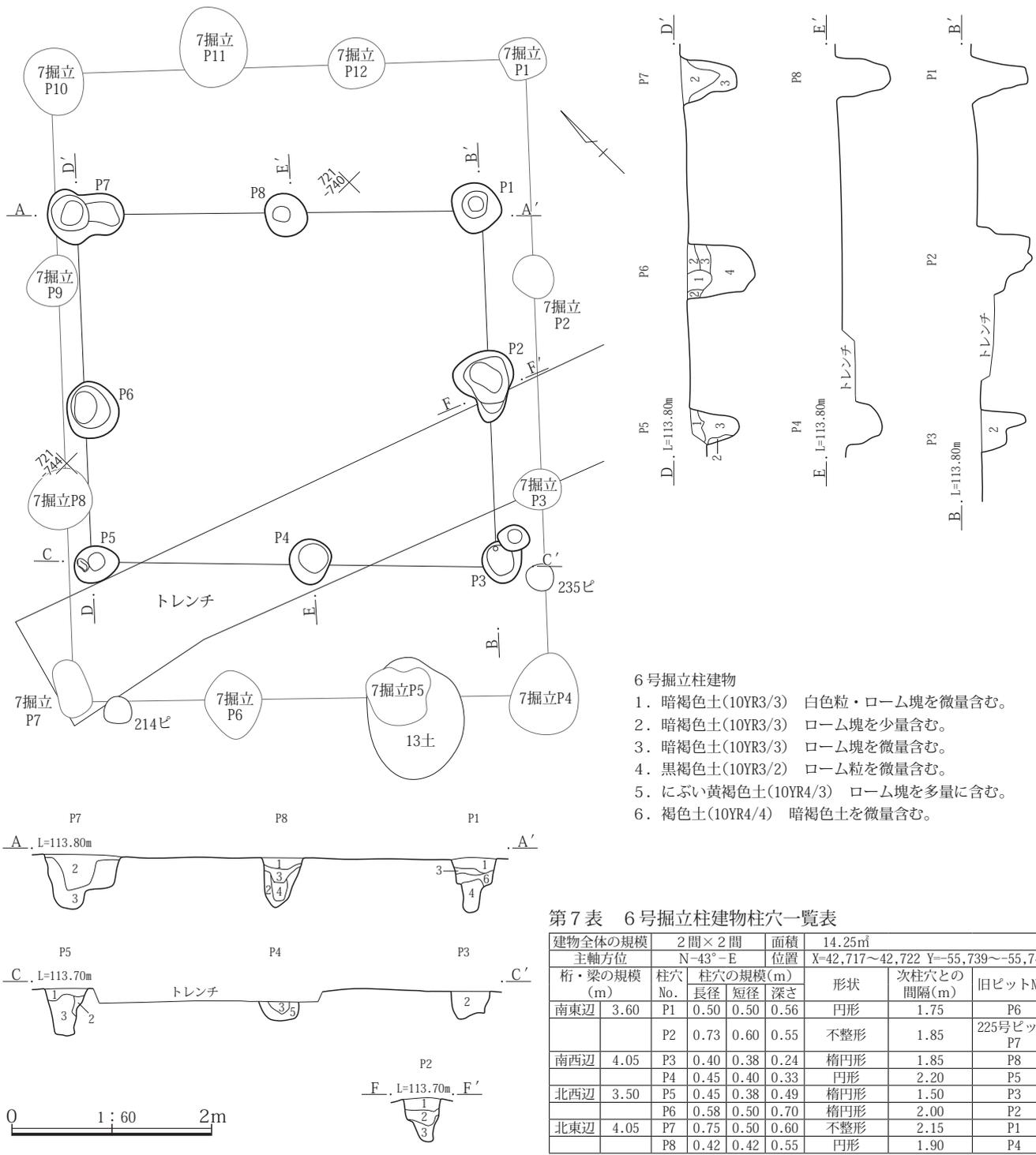
第69図 1区4号掘立柱建物



第6表 5号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		2間×3間		面積		19.83㎡	
主軸方位		N-3°-E		位置		X=42,706~42,711 Y=55,722~55,727	
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との 間隔(m)	旧ビットNo.
		長径	短径	深さ			
東辺	P1	0.73	0.69	0.54	円形	1.40	P9
	P2	0.81	0.72	0.58	円形	1.50	P10
	P3	0.76	0.69	0.54	楕円形	1.40	P11
南辺	P4	0.75	0.75	0.59	円形	2.10	P12
	P5	0.82	0.60	0.63	楕円形	P6へ2.46 P12へ1.30	P8
	P6	0.76	0.65	0.51	楕円形	1.65	P4
西辺	P7	0.83	0.83	0.35	不整形	1.30	P3
	P8	0.68	0.64	0.36	楕円形	1.45	P2
	P9	0.70	0.68	0.51	円形	2.37	P1
北辺	P10	0.85	0.85	0.37	不整形	2.23	P5
	P11	0.65	0.60	0.58	隅丸方形	P10へ1.65	P6
	P12	0.68	0.61	0.57	円形	P11へ1.40	P7

第70図 1区5号掘立柱建物

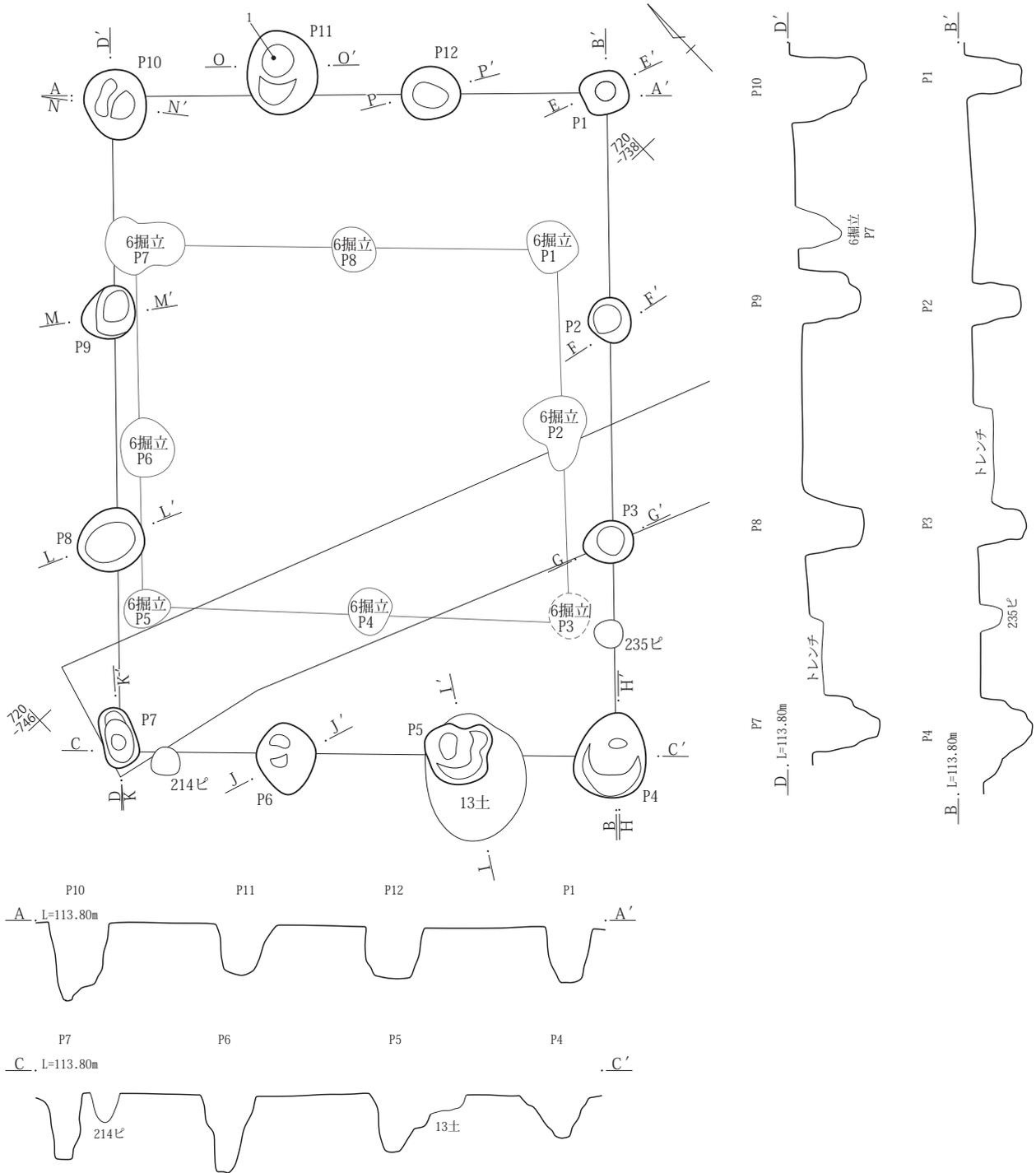


第71図 1区6号掘立柱建物

穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形や隅丸方形を呈し、規模は、長径35cm~60cm、短径34cm~58cm、深さ22cm~64cmである。深さにはややばらつきがあるものの、近似した形状である。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

**遺物** 3基の柱穴から土師器が計15点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に16号竪穴建物とは、主軸方向が直交しており、時期差は少ないとみられる。小片ながら、3基の柱穴から土師器が出土しており、古代の掘立柱建物と考えられる。

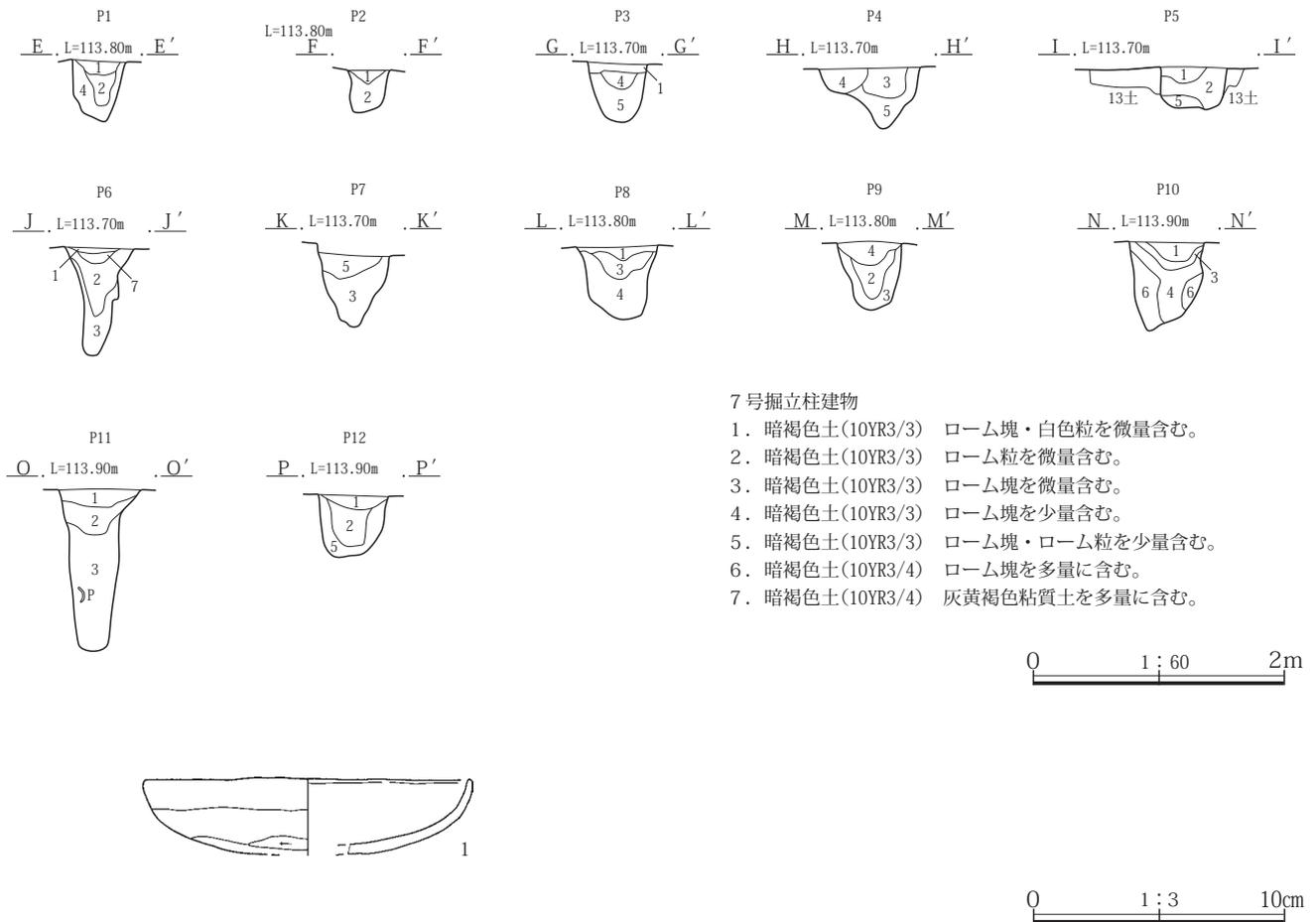


第8表 7号掘立柱建物柱六一覧表

建物全体の規模		3間×3間			面積		30.00㎡		
主軸方位		N-43°-E			位置		X=42,715~42,724 Y=55,737~55,745		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.		
		長径	短径	深さ					
南東辺	P1	0.46	0.42	0.56	隅丸方形	2.20	229号ビット		
	P2	0.45	0.40	0.47	楕円形	2.15	228号ビット		
	P3	0.50	0.42	0.48	楕円形	2.07	226号ビット		
南西辺	P4	0.82	0.68	0.47	楕円形	1.40	234号ビット		
	P5	0.60	0.60	0.57	不整形	1.75	233号ビット		
	P6	0.70	0.68	0.78	楕円形	1.60	232号ビット		
北西辺	P7	0.59	0.32	0.64	楕円形	2.05	213号ビット		
	P8	0.65	0.60	0.59	楕円形	2.15	212号ビット		
	P9	0.53	0.50	0.55	楕円形	2.15	211号ビット		
北東辺	P10	0.68	0.60	0.75	円形	1.60	246号ビット		
	P11	0.70	0.68	1.27	楕円形	0.50	247号ビット		
	P12	0.55	0.50	0.50	円形	1.65	248号ビット		

第72図 1区7号掘立柱建物

第3章 調査の成果



第73図 1区7号掘立柱建物柱穴土層断面図・出土遺物

1区10号掘立柱建物(第76図、第11表、PL.17)

調査区北側で、9号掘立柱建物の北西約20mの位置にある。

座標値 X=42,735~42,742 Y=-55,733~-55,741

重複遺構 19号竪穴建物、1号溝と重複している。新旧関係は19号竪穴建物より新しく、1号溝より古い。

桁行方位 N-28°-W

規模形態 桁行3間:3.98m~4.55m

梁行2間:3.95m~4.05m

面積16.82㎡ 北西-南東に棟を取り、南西に庇を持つ側柱建物

検出状況 検出された柱穴は13基で、柱間は桁行方向1.05m~1.80m、梁行方向1.50m~2.45mを測る。各柱穴はおおむね円形や円形に近い楕円形・隅丸方形を呈するが、不整形のものも確認された。規模は、長径38cm~80cm、短径(30cm)~78cm、深さ20cm~62cmである。ややばらつきがあるが、規模や形状が近似している。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

遺物 6基の柱穴から土器片(土師器15点、須恵器3点)が出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に9号竪穴建物と主軸方向が直交しており、時期差は少ないとみられる。小片ながら、6基の柱穴から土師器や須恵器が出土しており、古代の掘立柱建物と考えられる。

1区11号掘立柱建物(第77図、第12表、PL.18)

調査区北東隅付近で、9号掘立柱建物の東約20mの位置にあり、建物の東側が調査区外にある。

座標値 X=42,731~42,735 Y=-55,701~-55,706

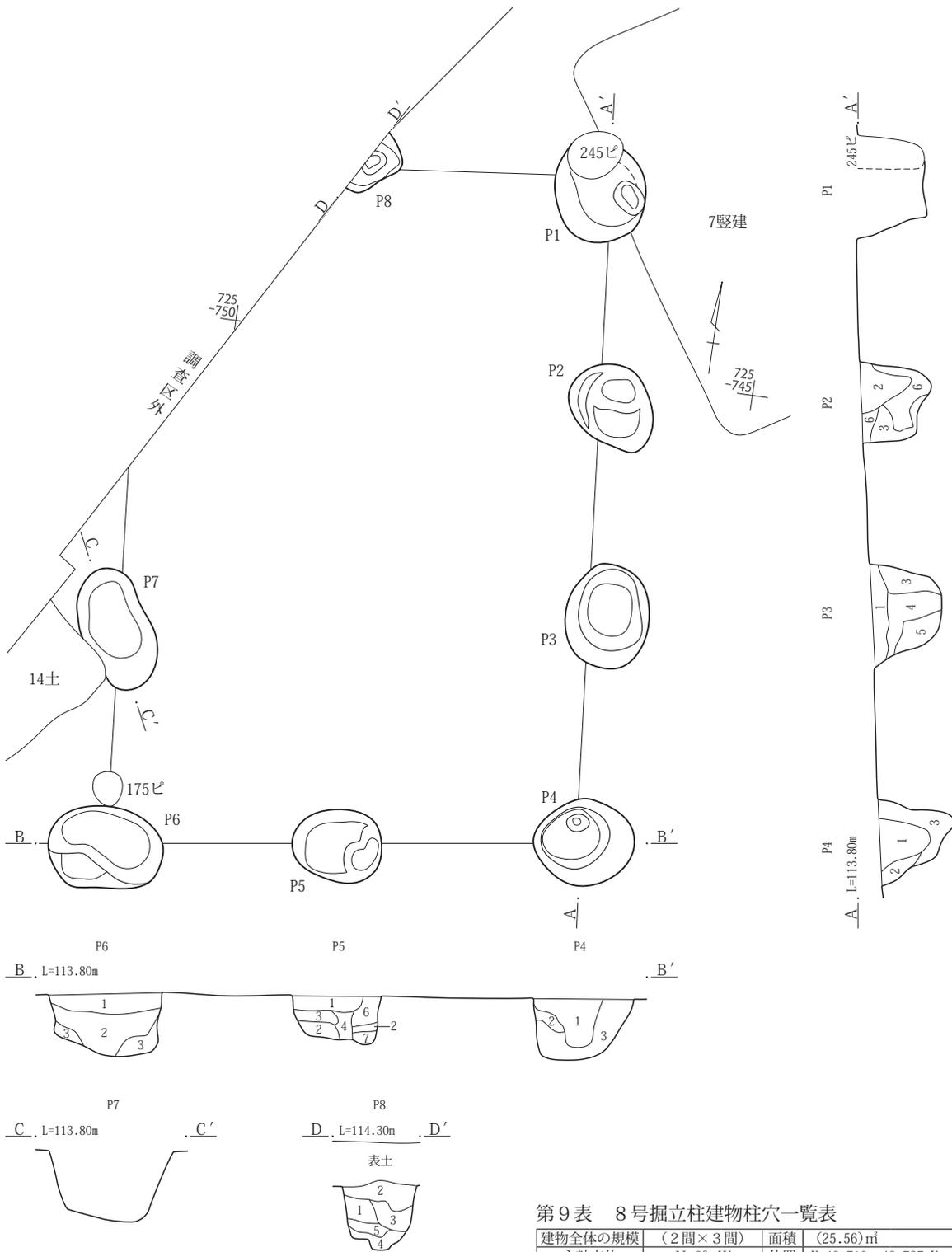
重複遺構 なし

桁行方位 N-68°-E

規模形態 桁行(2間):(5.10m)

梁行(1間):(2.80m)

面積(12.01㎡) 東西に棟を取る側柱建物



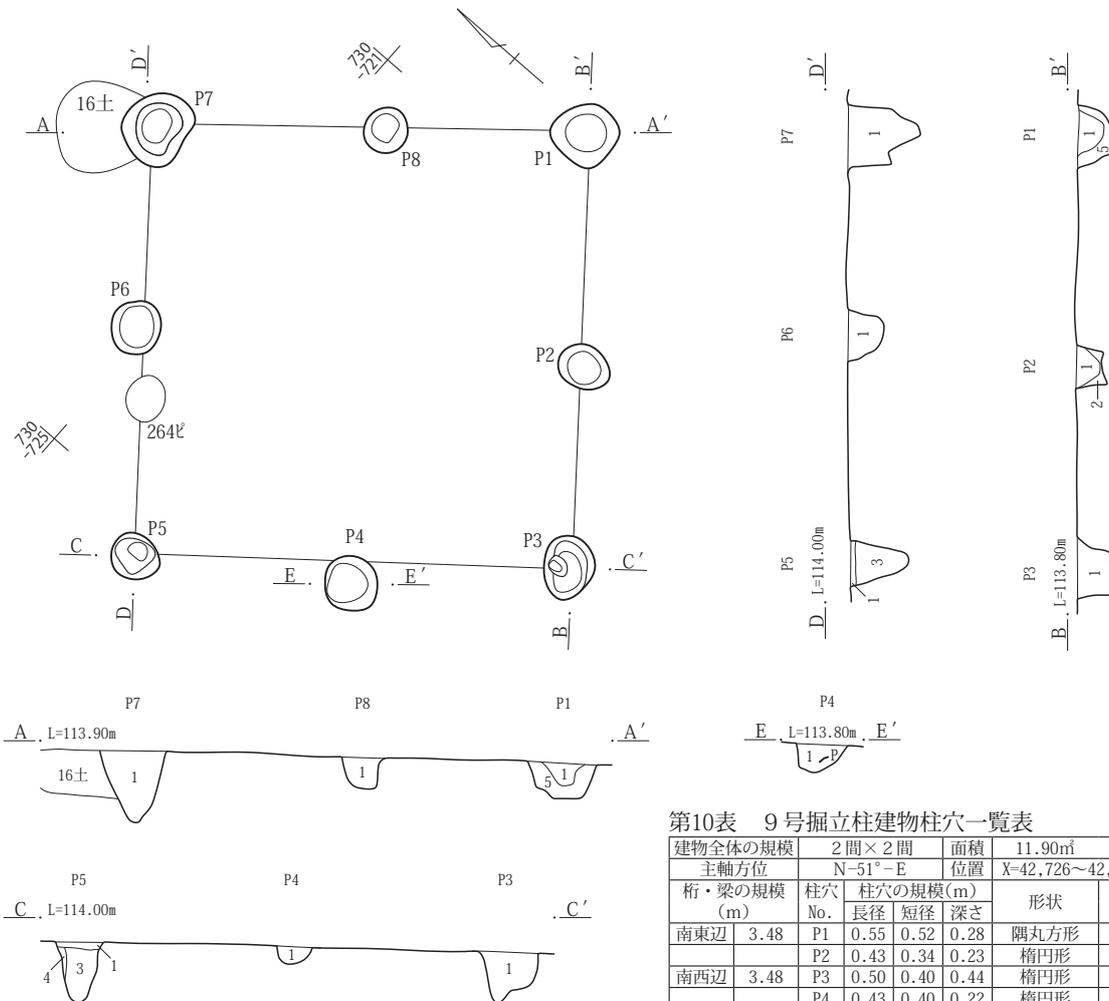
8号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。

第9表 8号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		(2間×3間)			面積		(25.56)㎡		
主軸方位		N-6°-W			位置		X=42.719~42.727 Y=-55.745~-55.750		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ピットNo.		
		長径	短径	深さ					
東辺	6.35	P1	1.00	(0.60)	0.65	楕円形か	2.10	-	-
		P2	0.80	0.80	0.65	不整形	2.10	-	-
		P3	1.00	0.80	0.66	楕円形	2.15	-	-
南辺	4.50	P4	0.98	0.85	0.72	楕円形	2.30	-	-
		P5	0.85	0.70	0.55	楕円形	2.20	-	-
西辺	(3.50)	P6	1.10	0.80	0.64	楕円形	2.20	-	-
		P7	1.20	0.65	0.70	楕円形	-	-	-
北辺	(2.25)	P8	0.58	(0.35)	0.60	不明	(2.25)	-	254号ピット

第74図 1区8号掘立柱建物

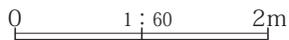


第10表 9号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		2間×2間		面積		11.90㎡		
主軸方位		N-51°-E		位置		X=42,726~42,731 Y=-55,720~-55,725		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.	
		長径	短径	深さ				
南東辺	3.48	P1	0.55	0.52	0.28	隅丸方形	1.88	P5
		P2	0.43	0.34	0.23	楕円形	1.60	P4
南西辺	3.48	P3	0.50	0.40	0.44	楕円形	1.75	-
		P4	0.43	0.40	0.22	楕円形	1.73	P2
北西辺	3.38	P5	0.40	0.38	0.48	楕円形	1.85	P1
		P6	0.40	0.40	0.25	円形か	1.53	P8
北東辺	3.45	P7	0.60	0.58	0.64	不整形	1.85	-
		P8	0.35	0.35	0.28	円形	1.60	P6

9号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。縮りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(2.5YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り・粘性ややあり。
3. 黒褐色土(2.5YR3/1) ローム塊を微量含む。縮り弱。粘性ややあり。
4. 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。黒褐色土を微量含む。縮り・粘性ややあり。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り・粘性ややあり。

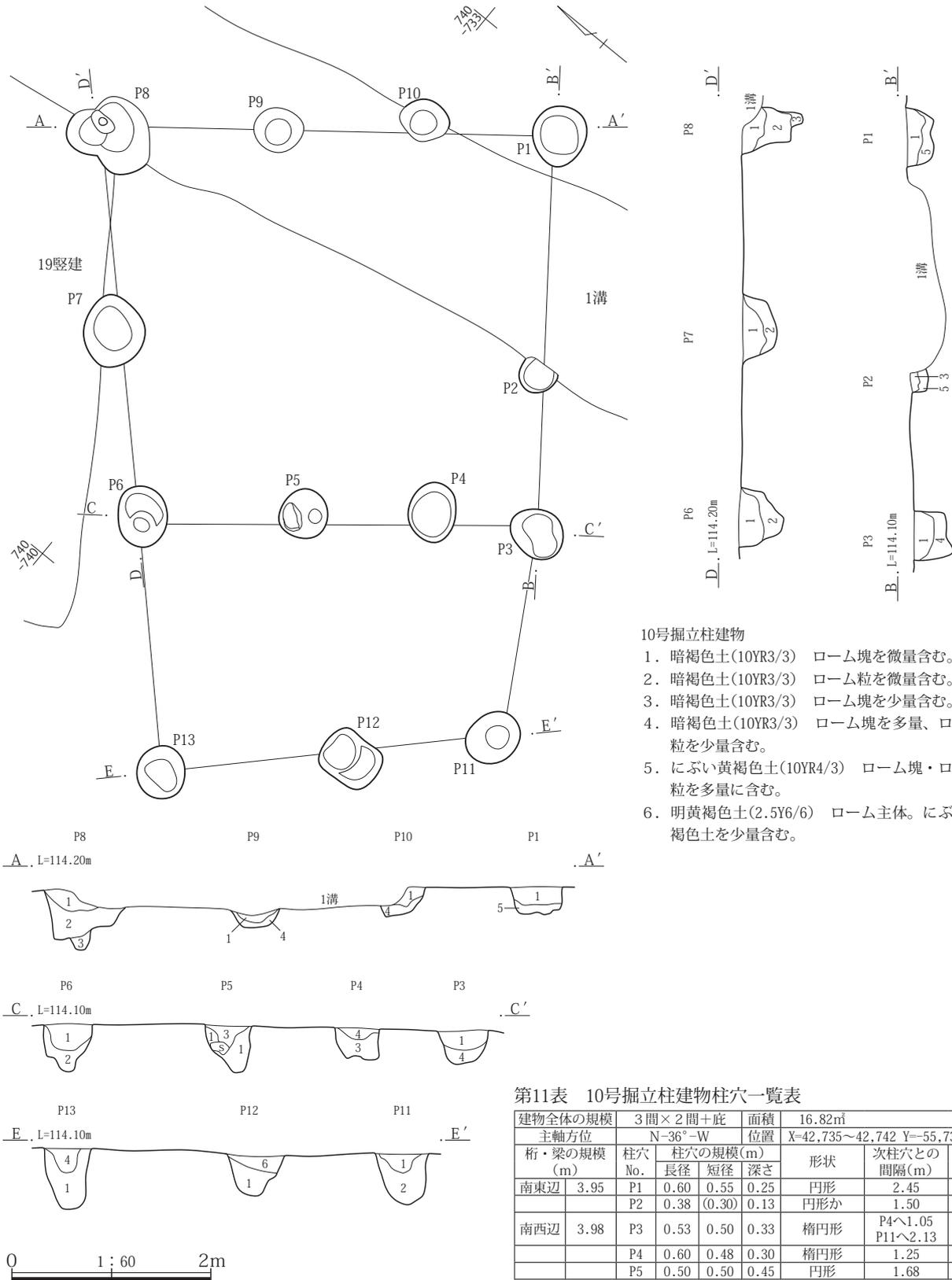


第75図 1区9号掘立柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は4基で、柱間は桁行方向2.35m~2.75m、梁行方向2.80mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈し、規模は、長径36cm~43cm、短径31cm~40cm、深さ36cm~47cmである。埋没土はローム粒を含む黒褐色土である。規模や形状、埋没土が近似している。

**遺物** 2基の柱穴から土師器が計2点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に11・17号竪穴建物とは、主軸方向が合うか直交し、時期差は少ないとみられる。柱穴の径が小さめではあるが、2基の柱穴から土師器が出土しており、古代の掘立柱建物と考えられる。



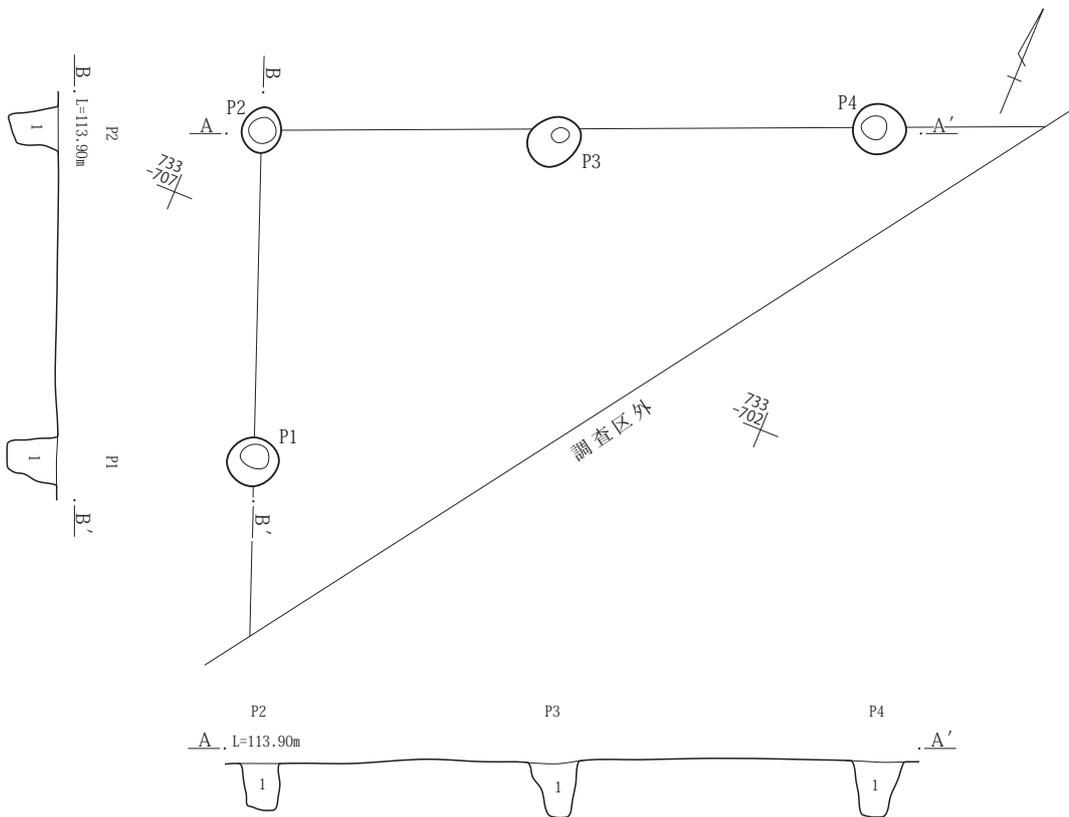
10号掘立柱建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
6. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。にぶい黄褐色土を少量含む。

第11表 10号掘立柱建物柱穴一覧表

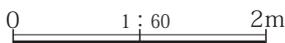
建物全体の規模		3間×2間+庇		面積		16.82㎡		
主軸方位		N-36°-W		位置		X=42,735~42,742 Y=-55,733~-55,741		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.	
		長径	短径	深さ				
南東辺	P1	0.60	0.55	0.25	円形	2.45	P6	
	P2	0.38	(0.30)	0.13	円形か	1.50	P5	
南西辺	P3	0.53	0.50	0.33	楕円形	P4へ1.05 P11へ2.13	P4	
	P4	0.60	0.48	0.30	楕円形	1.25	P3	
北西辺	P5	0.50	0.50	0.45	円形	1.68	P2	
	P6	0.61	0.49	0.41	楕円形	2.00	P1	
北東辺	P7	0.61	0.60	0.30	楕円形	2.05	P10	
	P8	0.80	0.78	0.62	不整形	1.80	P9	
	P9	0.50	0.45	0.20	楕円形	1.45	P8	
	P10	0.50	0.43	0.30	楕円形	1.30	P7	
南西辺	P11	0.55	0.48	0.54	楕円形	1.65	P13	
	P12	0.55	0.48	0.41	隅丸方形	1.85	P12	
	P13	0.53	0.50	0.61	円形	P6へ2.50	P11	

第76図 1区10号掘立柱建物



11号掘立柱建物

1. 黒褐色土(7.5YR2/2) ローム粒を微量含む。縮りややあり。粘性弱。



第12表 11号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		(1間×2間)		面積		(12.01)㎡	
主軸方位		N-22°-W		位置		X=42,731~42,735 Y=-55,701~-55,706	
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との 間隔(m)	旧ピットNo.
		長径	短径	深さ			
南西辺 (2.80)	P1	0.40	0.38	0.41	円形	2.80	P4
北西辺 (5.10)	P2	0.36	0.31	0.36	楕円形	2.35	P3
	P3	0.43	0.36	0.46	楕円形	2.75	P2
	P4	0.42	0.40	0.47	円形	-	P1

第77図 1区11号掘立柱建物

1区12号掘立柱建物(第78図、第13表、PL.18)

調査区北端で、11号掘立柱建物の北西約20mの位置にある。

座標値 X=42,741~42,746 Y=-55,714~-55,719

重複遺構 なし

桁行方位 N-47°-W

規模形態 桁行3間：3.85m

梁行2間：2.48m~2.60m

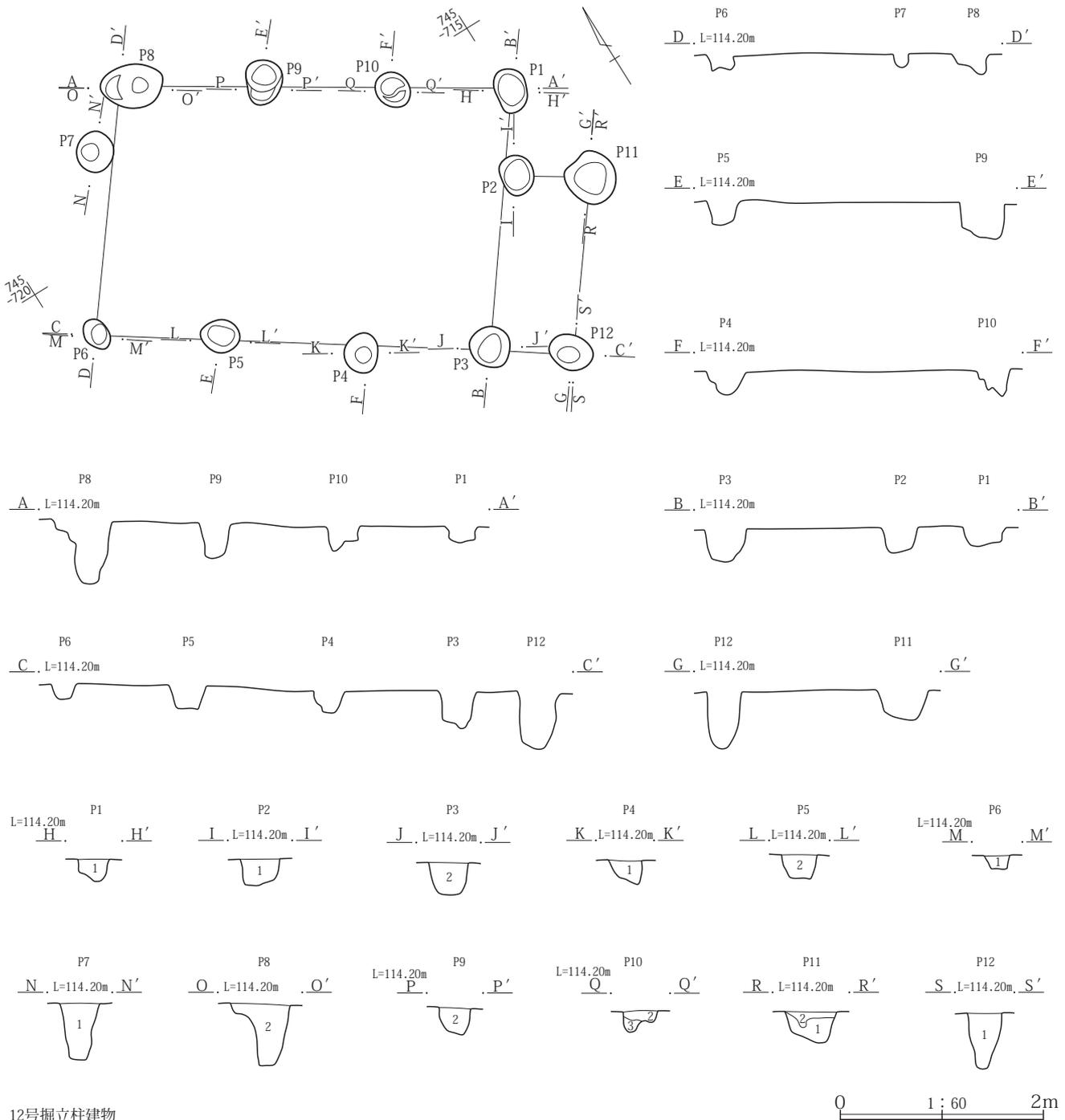
面積9.59㎡ 北西-南東に棟を取り、南東に下屋を持つ側柱建物

検出状況 検出された柱穴は12基で、柱間は桁行方向1.17m~1.45m、梁行方向0.68m~1.80mを測る。P2・P7の位置に偏りがあるが、下屋の柱の位置と対応しており、その位置に桁を通す構造の可能性がある。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈

し、規模は、長径20cm~60cm、短径16cm~43cm、深さ16cm~65cmである。深さにはややばらつきがあるものの、近似した形状である。また、身舎と下屋の柱穴の差はみられない。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

遺物 2基の柱穴から土師器が計2点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に9・10号竪穴建物とは、主軸方向が近く、時期差は少ないとみられる。柱穴の径が小さめではあるが、2基の柱穴から土師器が出土しており、古代の掘立柱建物と考えられる。



12号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。

第13表 12号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		2間×3間+下屋		面積		9.59㎡	
主軸方位		N-58°-W		位置		X=42,741~42,746 Y=-55,714~-55,719	
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との 間隔(m)	旧ビットNo.
		長径	短径	深さ			
南東辺	P1	0.22	0.16	0.25	楕円形	0.85	P6
	P2	0.20	0.16	0.27	楕円形	1.75	P5
南西辺	P3	0.20	0.20	0.31	円形	1.20	P4
	P4	0.40	0.33	0.26	楕円形	1.45	P3
北西辺	P5	0.40	0.33	0.23	楕円形	1.20	P2
	P6	0.32	0.23	0.13	楕円形	1.80	P1
北東辺	P7	0.40	0.35	0.58	円形	0.68	P10
	P8	0.60	0.43	0.65	楕円形	1.38	P9
南東辺	P9	0.45	0.35	0.37	楕円形	1.30	P8
	P10	0.38	0.33	0.24	楕円形	1.17	P7
南東辺	P11	0.50	0.50	0.30	不整形	P2<0.85 P12<1.75	P11
	P12	0.45	0.35	0.57	楕円形	P3<0.85	P12

第78図 1区12号掘立柱建物

### 3. 方形周溝墓

本遺跡では、1区で1基の方形周溝墓を確認した。  
後世の削平・攪乱により、残存状況は良好ではなかった。

#### 1区1号方形周溝墓(第79・80図、PL.19・20・95)

調査区南端に位置する。

座標値 X=42,665~42,682 Y=-55,751~-55,770

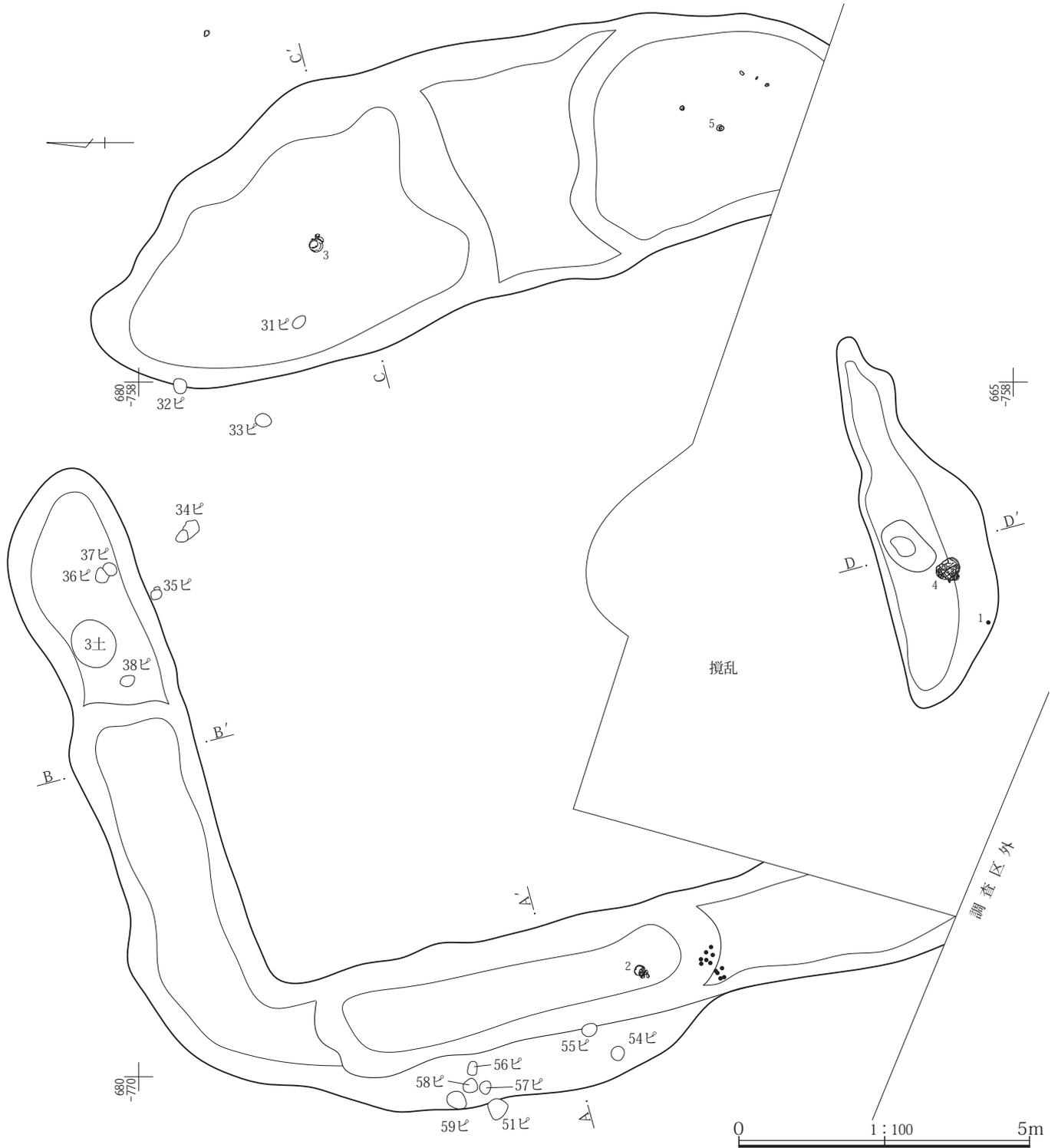
重複遺構 3号土坑、31号~38号・51号・54号~59号  
ピットと重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

平面形状 方形 長軸方位 N-15°-W

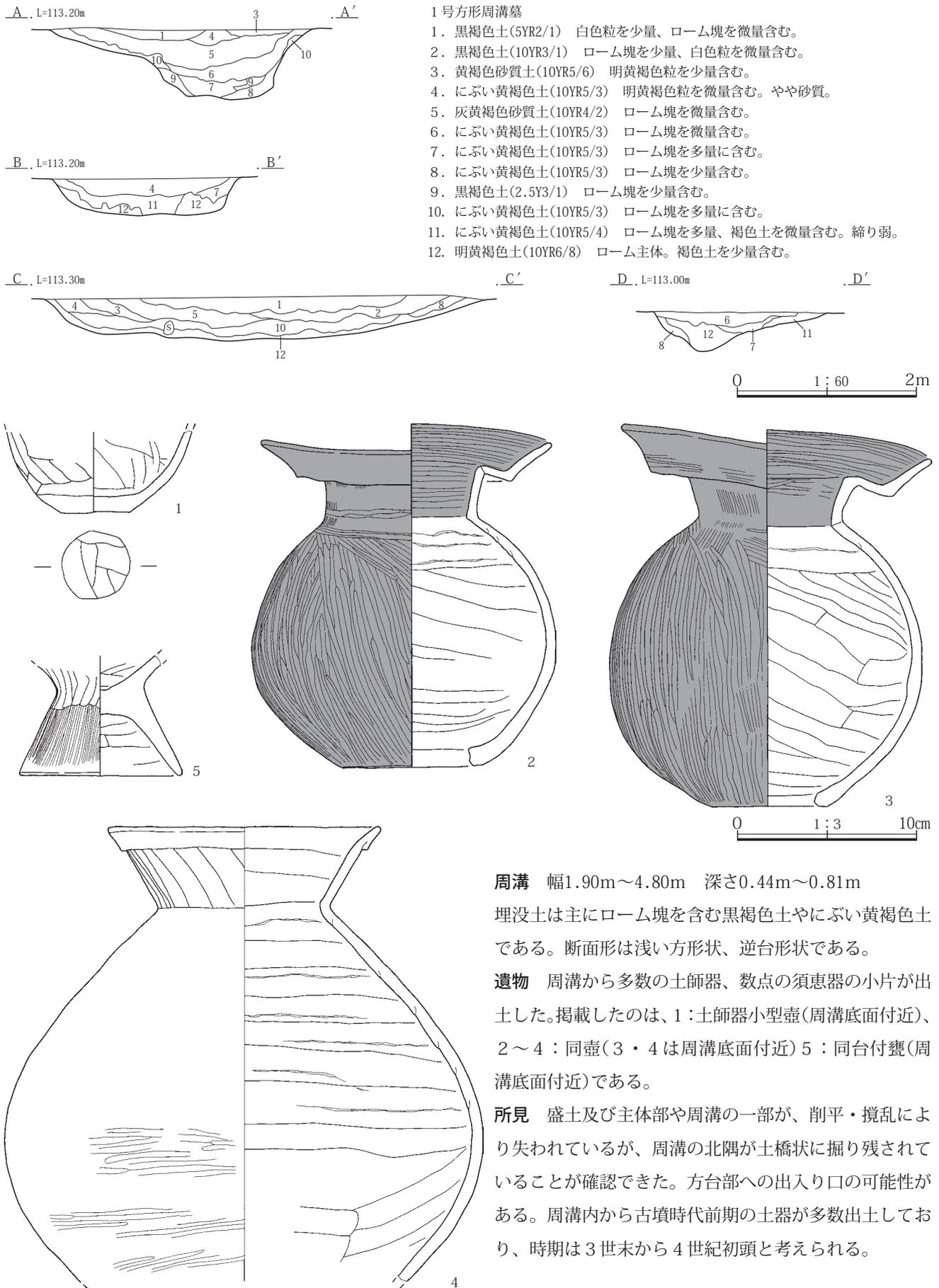
規模 全長：長軸18.00m 短軸16.20m

方台部：長軸12.10m 短軸10.60m

方台部(主体部) 盛土及び主体部は確認されなかった。



第79図 1区1号方形周溝墓



第80図 1区1号方形周溝墓土層断面図・出土遺物

4. 溝

1区で検出した溝は、1区1号溝、1条である。

1区1号溝(第81図、PL.21)

座標値 X=42,688~42,747 Y=-55,729~-55,736

重複遺構 13号・14号・19号竪穴建物、10号掘立柱建物と重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。また、調査区中央付近で攪乱によって一部壊されている。

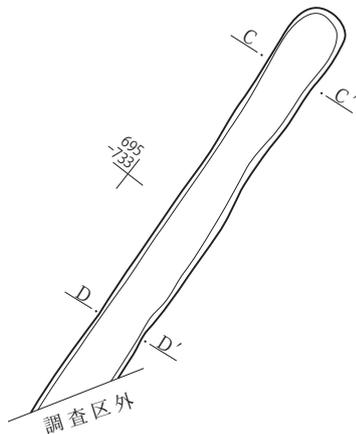
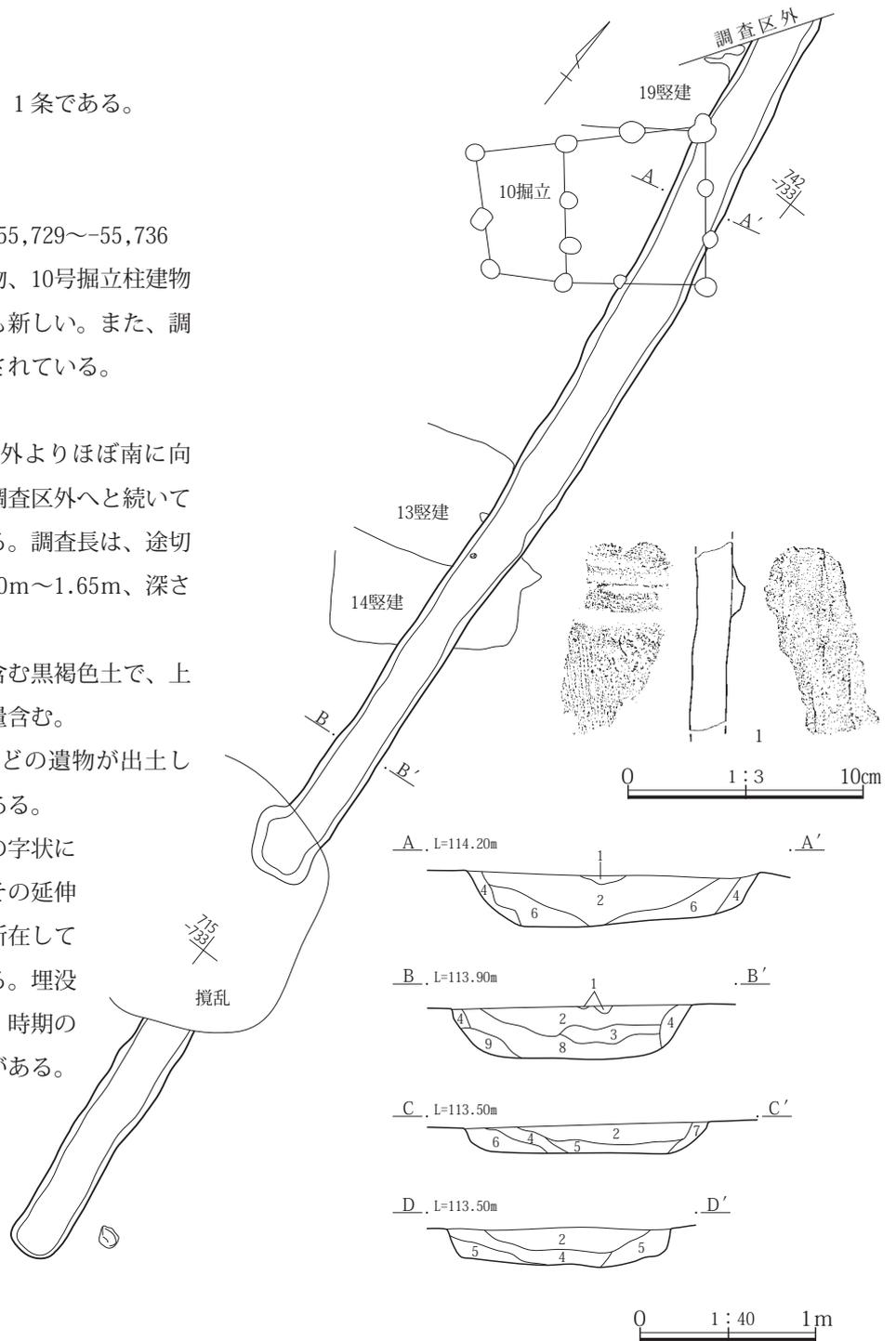
延伸方位 N-5°-W

規模 調査区の北端付近から調査区外よりほぼ南に向かって直線状に伸び、調査区東壁の調査区外へと続いている。途中15m程途切れる箇所がある。調査長は、途切れている箇所を含め56.8m、幅は1.30m~1.65m、深さは0.18m~0.30mを測る。

埋没土 主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土で、上層には、灰白色粘土粒・褐色粒を少量含む。

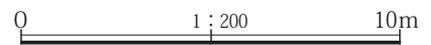
遺物 埋没土中から多数の土器片などの遺物が出土した。掲載した遺物は、埴輪の小片である。

所見 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。直線状に伸びており、その延伸方位に合う主軸方位の遺構が周辺に所在していることから、区画溝の可能性がある。埋没土中から出土した遺物は小片のため、時期の比定は難しいが、8世紀代の可能性がある。



1号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色粒を多量に含む。
2. 黒褐色砂質土(7.5YR3/1) 灰白色粘土粒・褐色粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粘土粒・褐色粒を少量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。やや砂質。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
8. にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) ローム粒を微量含む。
9. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を少量含む。粘性ややあり。



第81図 1区1号溝・出土遺物

## 5. 土坑

1区では20基の土坑を確認した。調査区全体に分布している。平面形状は20基中、円形7基、楕円形10基、隅丸方形1基、不整形2基である。遺物が出土した土坑は12基で、用途が考えられるものは3基である。

## 1区1号土坑(第82図、PL.22・95)

座標値 X=42,685・42,686 Y=-55,772・-55,773

形状 円形か 長軸方位 N-23°-E

規模 長軸1.00m 短軸(0.96m) 深さ0.68m

遺物 小片の土師器7点、須恵器1点、陶磁器1点が出土した。掲載したのは龍泉窯系の青磁碗である。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考える。埋没土中から出土した龍泉窯系青磁碗は12世紀中葉～後葉に比定でき、平安～鎌倉時代の可能性がある。

## 1区2号土坑(第82図、PL.22・95)

座標値 X=42,685・42,686 Y=-55,768・-55,769

形状 円形 長軸方位 N-60°-E

規模 長軸1.02m 短軸0.95m 深さ -

遺物 小片の土師器、陶磁器が各1点出土している。掲載したのは中国磁器白磁碗である。

所見 拳大～人頭大の礫が数点出土し、その下部からの湧水が認められた。その形状から井筒形の井戸とみられる。埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。埋没土中から出土した白磁碗は11世紀～12世紀の中国磁器に比定でき、平安時代の可能性がある。

## 1区3号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,680・42,681 Y=-55,762

形状 円形 長軸方位 N-60°-E

規模 長軸0.80m 短軸0.76m 深さ0.15m

遺物 土師器の小片が2点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

## 1区6号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,672・42,673 Y=-55,779

形状 円形か 長軸方位 -

規模 長軸1.48m 短軸(0.56m) 深さ0.14m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

## 1区7号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,690・42,691 Y=-55,743・-55,744

形状 円形 長軸方位 N-82°-W

規模 長軸1.20m 短軸1.15m 深さ1.03m

所見 底部からの湧水が認められた。その形状から井筒形の井戸とみられる。埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

## 1区8号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,693 Y=-55,731・-55,732

形状 楕円形 長軸方位 N-25°-E

規模 長軸0.73m 短軸0.65m 深さ0.35m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

## 1区9号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,724・42,725 Y=-55,736・-55,737

形状 楕円形 長軸方位 N-70°-E

規模 長軸1.10m 短軸0.72m 深さ0.28m

遺物 土師器の小片が10点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

## 1区10号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,682 Y=-55,749

形状 隅丸方形か 長軸方位 -

規模 長軸0.73m 短軸(0.38m) 深さ0.33m

遺物 土師器の小片が3点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区11号土坑(第82図、PL.22)

座標値 X=42,704 Y=-55,761

形状 円形か 長軸方位 -

規模 長軸0.68m 短軸(0.30m) 深さ0.18m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区12号土坑(第83図、PL.22)

座標値 X=42,706~42,408 Y=-55,756・-55,757

形状 円形 長軸方位 N-70°-W

規模 長軸1.45m 短軸1.38m 深さ1.14m

遺物 土師器17点、須恵器3点が出土した。掲載したのは、須恵器壺である。

所見 底部からの湧水が認められた。すり鉢形で下部が井筒状に深くなる井戸とみられる。出土した遺物は小片のため時期の比定は難しいが、古墳時代後期と考えられる。

1区13号土坑(第83図、PL.22)

座標値 X=42,716・42,717 Y=-55,742・-55,743

重複遺構 7号掘立柱建物 形状 楕円形

長軸方位 N-40°-E

規模 長軸1.23m 短軸1.00m 深さ0.16m

遺物 土師器の小片が2点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区14号土坑(第83図、PL.22)

座標値 X=42,720~42,722 Y=-55,750~-55,752

重複遺構 8号掘立柱建物、237号ピット

形状 不整形か 長軸方位 -

規模 長軸2.40m 短軸(0.85m) 深さ0.61m

遺物 土師器の小片が多数出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が多数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区15号土坑(第83図、PL.22)

座標値 X=42,729・42,730 Y=-55,722・-55,723

形状 楕円形 長軸方位 N-65°-E

規模 長軸0.73m 短軸0.66m 深さ0.32m

遺物 土師器の小片が5点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区16号土坑(第83図、PL.22)

座標値 X=42,731 Y=-55,722・-55,723

重複遺構 9号掘立柱建物 形状 楕円形か

長軸方位 N-86°-W

規模 長軸0.80m 短軸0.73m 深さ0.40m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区17号土坑(第83図、PL.23・95)

座標値 X=42,729・42,730 Y=55,705・-55,706

形状 楕円形 長軸方位 N-10°-W

規模 長軸1.48m 短軸0.95m 深さ0.25m

遺物 土師器4点、須恵器3点が出土した。掲載したのは、須恵器杯蓋である。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半である。

1区18号土坑(第84図、PL.23)

座標値 X=42,716~42,718 Y=-55,723・-55,724

形状 不整形 長軸方位 N-30°-E

規模 長軸2.08m 短軸0.86m 深さ0.23m

遺物 土師器の小片が13点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

1区19号土坑(第84図、PL.23)

座標値 X=42,736・42,737 Y=-55,721・-55,722

形状 楕円形 長軸方位 N-60°-W

規模 長軸1.10m 短軸0.98m 深さ0.21m

遺物 土師器の小片が1点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

**1区20号土坑**(第84図、PL.23)

座標値 X=42,737・42,738 Y=-55,711

形状 楕円形 長軸方位 N-35°-E

規模 長軸0.55m 短軸0.46m 深さ0.17m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

**1区21号土坑**(第84図、PL.23)

座標値 X=42,746・42,747 Y=-55,724・-55,725

重複遺構 347号ピット 形状 楕円形

長軸方位 N-60°-W

規模 長軸1.16m 短軸0.84m 深さ0.44m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

**1区22号土坑**(第84図、PL.23)

座標値 X=42,738・42,739 Y=-55,724・-55,725

重複遺構 18号竪穴建物 形状 楕円形

長軸方位 N-62°-E

規模 長軸1.10m 短軸(0.84m) 深さ0.61m

所見 6世紀後半の18号竪穴建物によって壊されており、規模・形状、埋没土の状況から時期は縄文時代の可能性がある。

**6. ピット**(第14表、付図)

1区では調査区全体でピットを検出しているが、所々に集中する箇所があり、掘立柱建物として調査を行ったものもあった。その周囲を含め、単独のピットとして調査を行ったものは299基である。平面形状は、円形又は楕円形がほとんどで、隅丸方形のものもわずかにみられる。径は30cm～50cmが目立ち、確認面からの深さは、20cm～45cmが多い。

**1区97号ピット**(第85図、第14表、PL.23)

座標値 X=42,678 Y=-55,745

形状 隅丸方形

規模 長軸0.30m 短軸0.28m 深さ0.34m

遺物 埋没土中から土師器杯が出土し、掲載した。

所見 掲載した土師器杯は7世紀第3四半期に比定できる。

**1区256号ピット**(第85図、第14表、PL.23・95)

座標値 X=42,725 Y=-55,747・-55,748

形状 楕円形

規模 長軸0.82m 短軸0.62m 深さ0.83m

遺物 埋没土中から2点の遺物が出土し、掲載した。1：土師器壺、2：土錘である。

所見 掲載した土師器壺は8世紀後半に比定できる。

**1区278号ピット**(第85図、第14表、PL.23)

座標値 X=42,736～42,738 Y=-55,726・-55,727

重複遺構 18号竪穴建物 形状 楕円形

規模 長軸1.36m 短軸1.18m 深さ0.31m

遺物 埋没土中から土師器の小片7点、須恵器の小片3点が出土した。掲載したのは土師器杯である。

所見 掲載した土師器杯は8世紀前半に比定できる。

**1区293号ピット**(第85図、第14表、PL.23)

座標値 X=42,732・42,733 Y=-55,716・-55,717

形状 楕円形

規模 長軸0.75m 短軸0.65m 深さ0.85m

遺物 埋没土中から土師器の小片8点、須恵器の小片2点が出土した。掲載したのは土師器大型杯である。

所見 掲載した土師器杯は7世紀第4四半期に比定できる。

**1区299号ピット**(第85図、第14表、PL.23)

座標値 X=42,733 Y=-55,719

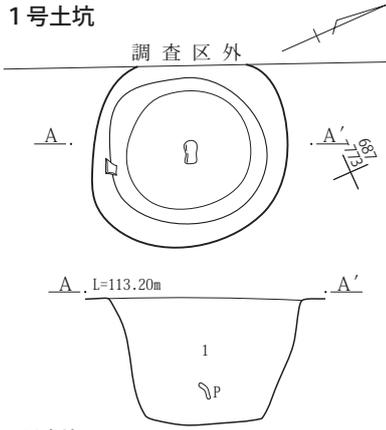
形状 円形

規模 長軸0.60m 短軸0.58m 深さ0.99m

遺物 埋没土中から土師器の小片6点が出土した。掲載したのは土師器甕である。

所見 掲載した土師器甕は7世紀前半に比定できる。

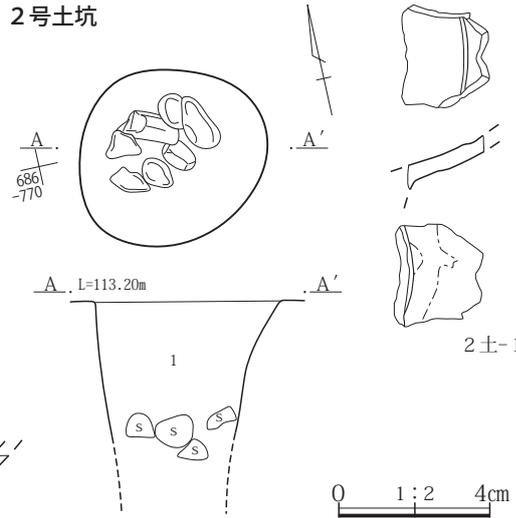
1号土坑



1号土坑

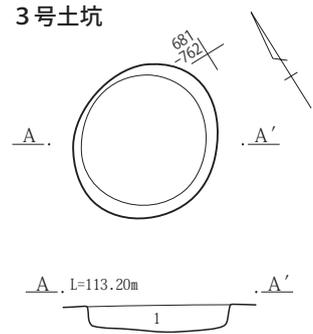
1. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。

2号土坑



2号土坑

3号土坑



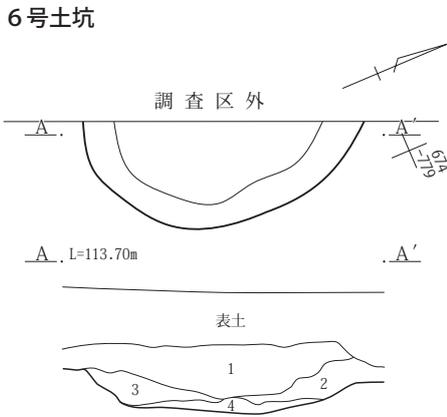
2号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。粘性あり。

3号土坑

1. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。

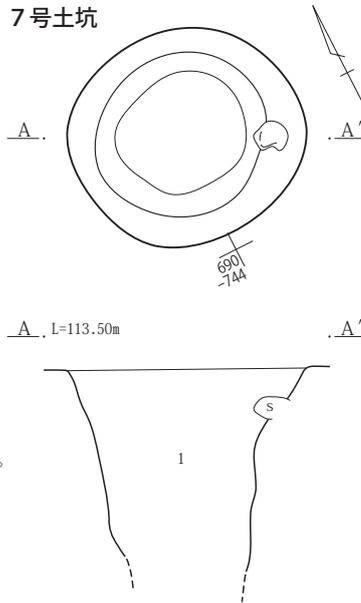
6号土坑



6号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を少量、ローム粒を微量含む。  
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量含む。  
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒・ローム粒を少量含む。  
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を少量含む。

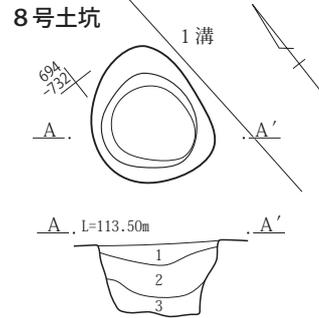
7号土坑



7号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。

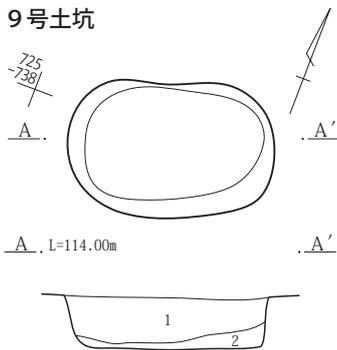
8号土坑



8号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。締りあり。  
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。締りあり。  
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。

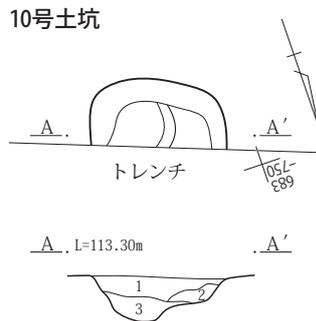
9号土坑



9号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊を微量含む。  
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。

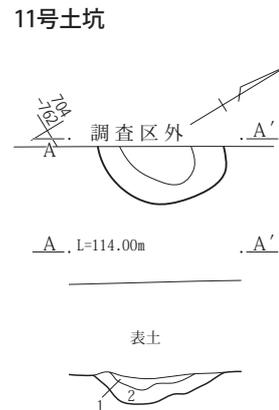
10号土坑



10号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。  
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を微量含む。  
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。

11号土坑

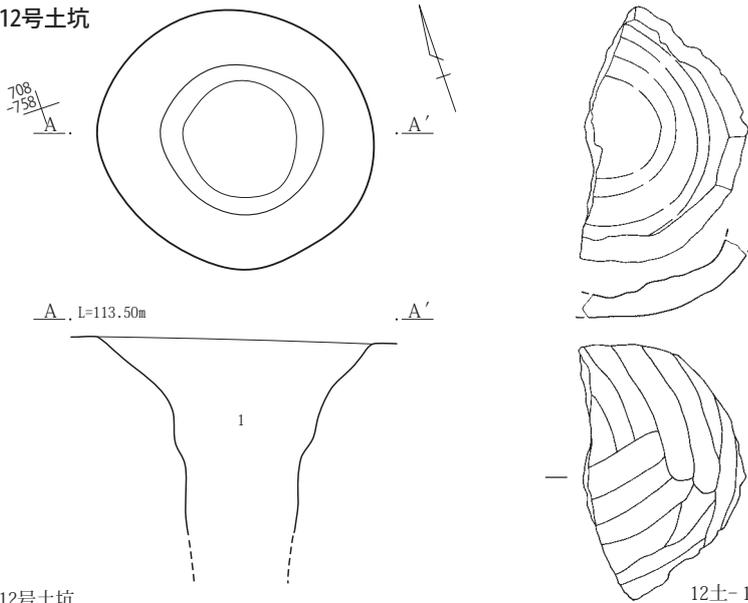


11号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒・炭化物片を微量含む。  
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。

第82図 1区1～3・6～11号土坑・1・2号土坑出土遺物

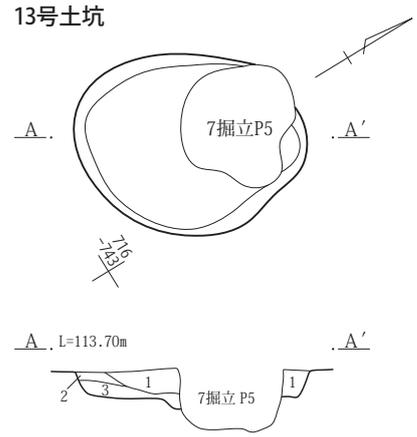
12号土坑



12号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。締りなし。

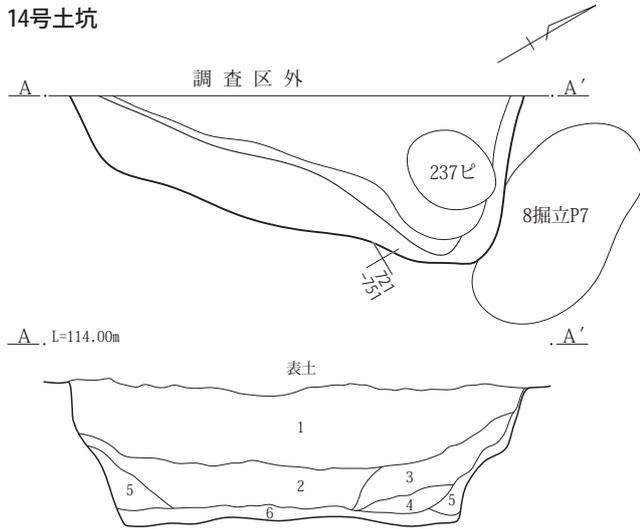
13号土坑



13号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。

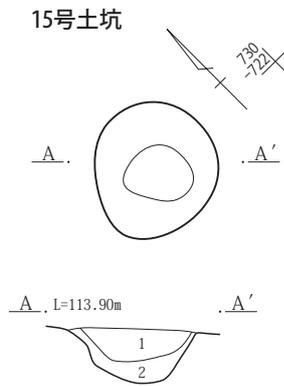
14号土坑



14号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を少量、焼土塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、焼土塊を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、焼土塊・褐灰色粘質土を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 褐灰色粘質土を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒を微量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、焼土粒を微量含む。

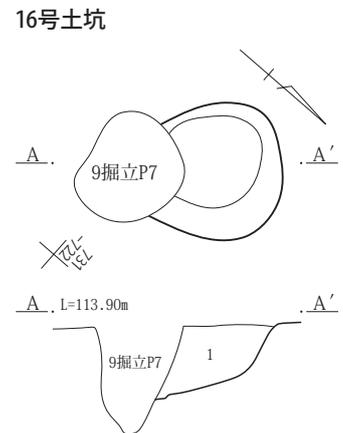
15号土坑



15号土坑

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊を少量含む。締り・粘性わずかにあり。
2. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。締り・粘性わずかにあり。

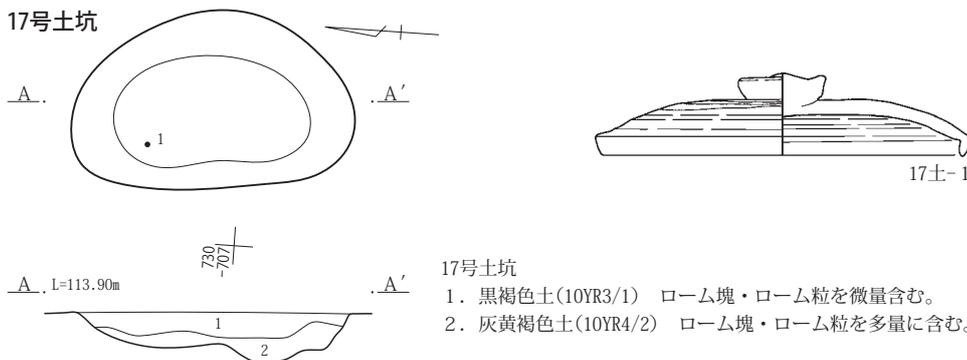
16号土坑



16号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土を少量含む。締り・粘性わずかにあり。

17号土坑



17号土坑

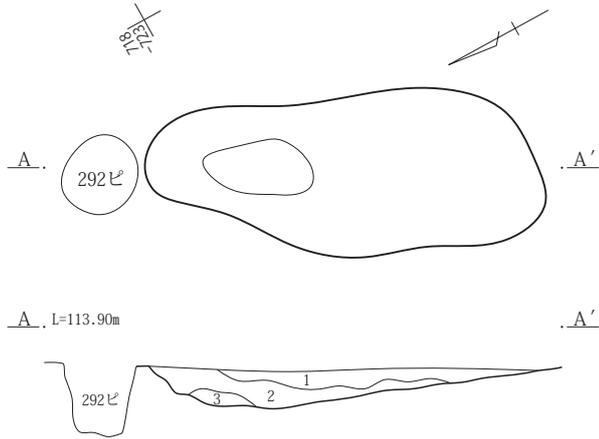
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

0 1:3 10cm

0 1:40 1m

第83図 1区12~17号土坑・12・17号土坑出土遺物

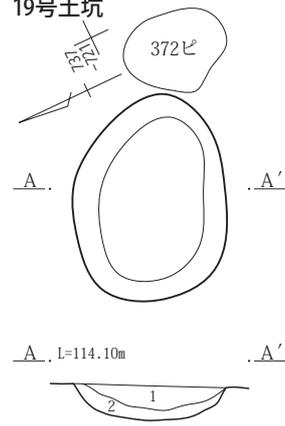
18号土坑



18号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 上部に褐灰色砂質土を多量、白色粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊・褐灰色砂質土を少量含む。

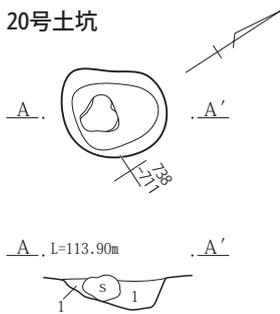
19号土坑



19号土坑

1. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。縮り・粘性ややあり。

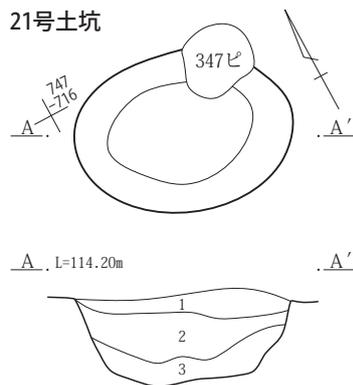
20号土坑



20号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。縮り・粘性ややあり。

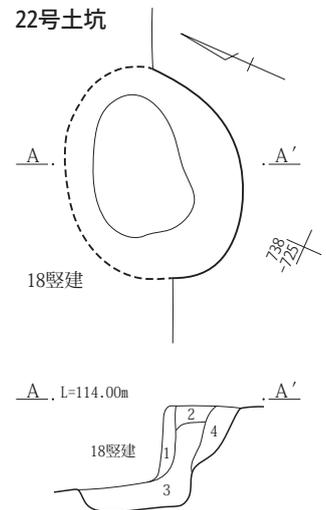
21号土坑



21号土坑

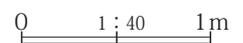
1. 黒色土(10YR2/1) 白灰色粘質土・ローム粒・炭化物を微量含む。ややシルト質。縮り・粘性ややあり。
2. 黒色土(10YR2/1) ローム塊を少量、炭化物を微量含む。ややシルト質。縮り・粘性ややあり。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を多量含む。縮り・粘性ややあり。

22号土坑



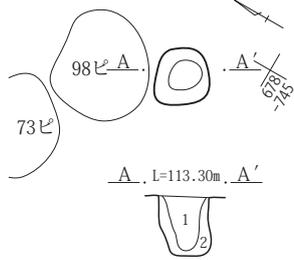
22号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。固く縮る。
2. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒を微量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量含む。固く縮る。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量含む。



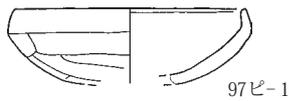
第84図 1区18～22号土坑

97号ピット

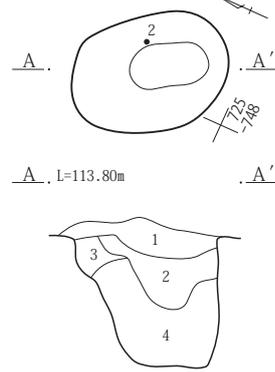


97号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を微量、ローム塊を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を斑状に多量含む。

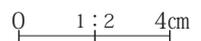
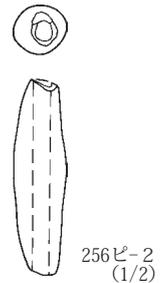
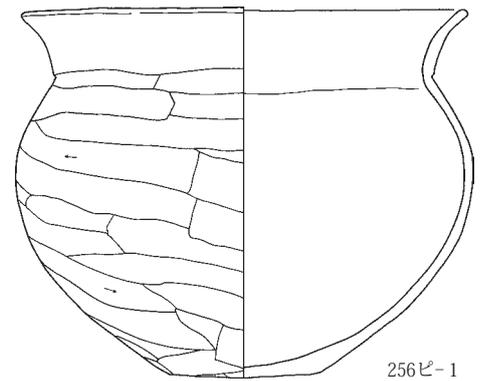
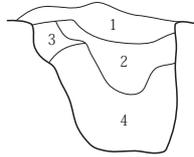


256号ピット

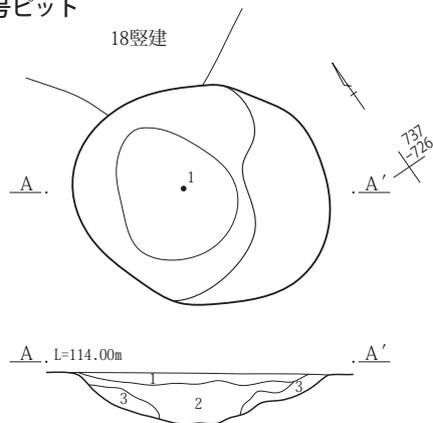


256号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。

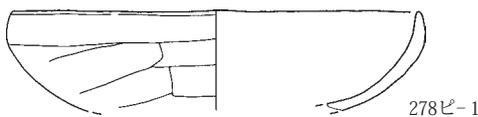


278号ピット

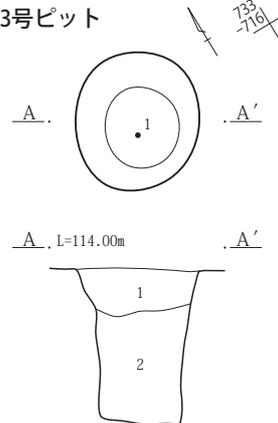


278号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。

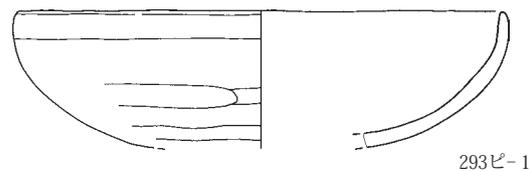


293号ピット

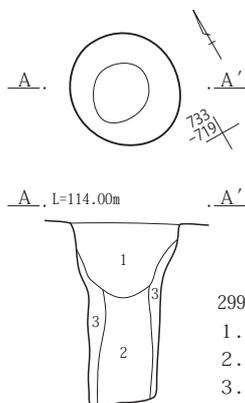


293号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を微量含む。しまりあり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を微量含む。やや柔らかい。

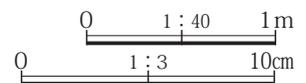
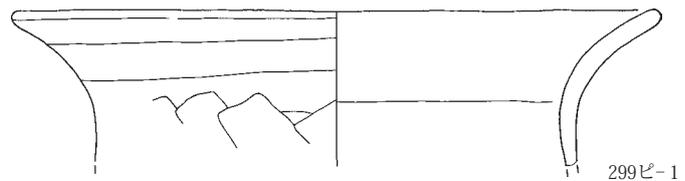


299号ピット



299号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。



第85図 1区97・256・278・293・299号ピット・出土遺物

第3章 調査の成果

第14表 1区ピット一覧表

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
1	1号ピット	X=42,668	Y=-55,750・-55,751	隅丸方形	0.60	0.50	0.24
1	2号ピット	X=42,667・42,668	Y=-55,748・-55,749	円形	0.25	0.23	0.16
1	3号ピット	X=42,667	Y=-55,746・-55,747	楕円形	0.35	0.35	0.12
1	4号ピット	X=42,668	Y=-55,744・-55,745	楕円形	0.55	0.40	0.22
1	5号ピット	X=42,668	Y=-55,746・-55,747	隅丸方形	0.50	0.46	0.17
1	6号ピット	X=42,669	Y=-55,750	円形	0.45	0.45	0.25
1	7号ピット	X=42,668	Y=-55,748	楕円形	0.43	0.38	0.10
1	8号ピット	X=42,669	Y=-55,748	楕円形	0.45	0.38	0.22
1	9号ピット	X=42,670・42,671	Y=-55,747・-55,748	楕円形	0.42	0.30	0.18
1	10号ピット	X=42,670・42,671	Y=-55,750・-55,751	隅丸方形	0.45	0.45	0.16
1	11号ピット	X=42,669・42,670	Y=-55,750	楕円形	0.55	0.50	0.31
1	12号ピット	X=42,670	Y=-55,748・-55,749	楕円形	0.63	0.50	0.09
1	13号ピット	X=42,671	Y=-55,748	楕円形	0.70	0.58	0.20
1	14号ピット	X=42,672・42,673	Y=-55,747・-55,748	楕円形	0.58	0.45	0.34
1	15号ピット	X=42,667	Y=-55,746	楕円形	1.46	0.38	0.16
1	16号ピット	X=42,669・42,670	Y=-55,745	円形	0.42	0.40	0.22
1	17号ピット	4号掘立柱建物P4					
1	18号ピット	X=42,671・42,672	Y=-55,751	円形	0.43	0.40	0.37
1	19号ピット	4号掘立柱建物P6					
1	20号ピット	X=42,671	Y=-55,747	円形	0.45	0.45	0.17
1	21号ピット	4号掘立柱建物P5					
1	22号ピット	X=42,671・42,672	Y=-55,746	円形	0.53	0.50	0.18
1	23号ピット	X=42,673	Y=-55,746・-55,747	楕円形	0.55	0.30	0.12
1	24号ピット	X=42,674	Y=-55,750	楕円形	0.30	0.23	0.26
1	25号ピット	4号掘立柱建物P7					
1	26号ピット	X=42,662・42,663	Y=-55,750	円形	0.35	0.33	0.30
1	27号ピット	X=42,660・42,661	Y=-55,753	円形	0.25	0.25	0.22
1	28号ピット	X=42,661・42,662	Y=-55,755	楕円形	0.60	0.43	0.08
1	29号ピット	X=42,664	Y=-55,757・-55,758	円形	0.71	0.68	0.24
1	30号ピット	X=42,665	Y=-55,762・-55,763	円形	0.30	0.30	0.24
1	31号ピット	X=42,677	Y=-55,756・-55,757	楕円形	0.26	0.18	0.47
1	32号ピット	X=42,679	Y=-55,757・-55,758	円形	0.26	0.25	0.19
1	33号ピット	X=42,677	Y=-55,758	楕円形	0.28	0.23	0.29
1	34号ピット	X=42,678・42,679	Y=-55,760	不整形	0.48	0.20	0.31
1	35号ピット	X=42,679	Y=-55,761	楕円形	0.19	0.16	0.15
1	36号ピット	X=42,680	Y=-55,761	楕円形	0.28	0.22	0.25
1	37号ピット	X=42,680	Y=-55,761	円形	0.25	0.22	0.25
1	38号ピット	X=42,680	Y=-55,763	楕円形	0.25	0.18	0.13
1	39号ピット	X=42,668・42,669	Y=-55,770	楕円形	0.40	0.31	0.32
1	40号ピット	X=42,668・42,669	Y=-55,771	円形	0.32	0.30	0.45
1	41号ピット	X=42,668	Y=-55,771	円形	0.48	0.48	0.44
1	42号ピット	X=42,668	Y=-55,773	楕円形	0.35	0.30	0.42
1	43号ピット	X=42,669・42,670	Y=-55,774	不整形	0.85	0.55	0.51
1	44号ピット	X=42,670・42,671	Y=-55,777・-55,778	円形	0.55	0.50	0.55
1	45号ピット	X=42,671・42,672	Y=-55,778	円形	0.50	0.48	0.53
1	46号ピット	X=42,673	Y=-55,775・-55,776	円形	0.32	0.31	0.38
1	47号ピット	X=42,670・42,671	Y=-55,772	楕円形	0.45	0.32	0.57
1	48号ピット	X=42,673	Y=-55,771・-55,772	楕円形	0.25	0.18	0.39
1	49号ピット	X=42,673	Y=-55,771	楕円形	0.43	0.30	0.50
1	50号ピット	X=42,673	Y=-55,770・-55,771	円形	0.22	0.22	0.21
1	51号ピット	X=42,673	Y=-55,770	隅丸方形	0.35	0.35	0.47
1	52号ピット	X=42,675	Y=-55,772	楕円形	0.35	0.28	0.46
1	53号ピット	X=42,677	Y=-55,775	円形	0.30	0.28	0.39
1	54号ピット	X=42,671	Y=-55,769	円形	0.25	0.25	0.30
1	55号ピット	X=42,672	Y=-55,769	楕円形	0.25	0.23	0.36
1	56号ピット	X=42,674	Y=-55,769	隅丸方形	0.25	0.15	0.35
1	57号ピット	X=42,673・42,674	Y=-55,770	楕円形	0.23	0.20	0.20
1	58号ピット	X=42,674	Y=-55,770	楕円形	0.25	0.25	0.18
1	59号ピット	X=42,674	Y=-55,770	楕円形	0.30	0.30	0.40
1	60号ピット	X=42,682	Y=-55,771・-55,772	楕円形	0.40	0.25	0.70
1	61号ピット	X=42,685	Y=-55,763	円形	0.33	0.28	0.32
1	62号ピット	X=42,687・42,688	Y=-55,762	楕円形	0.40	0.40	0.46
1	63号ピット	X=42,689	Y=-55,764	円形	0.38	0.32	0.28
1	64号ピット	X=42,689	Y=-55,762	円形	0.35	0.30	0.32
1	65号ピット	X=42,689	Y=-55,761	楕円形	0.35	0.32	0.36
1	66号ピット	X=42,486	Y=-55,760	円形	0.36	0.34	0.28
1	67号ピット	X=42,685	Y=-55,756・-55,757	楕円形	0.45	0.32	0.18
1	68号ピット	X=42,680	Y=-55,749・-55,750	楕円形	0.70	0.60	0.37
1	69号ピット	4号掘立柱建物P9					
1	70号ピット	X=42,679	Y=-55,747・-55,748	楕円形か	0.51	(0.32)	0.22
1	71号ピット	X=42,679	Y=-55,747・-55,748	隅丸方形	0.60	0.46	0.24

第2節 1区の遺構と遺物

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
1	72号ピット	X=42,678・42,679	Y=-55,746・55,747	楕円形	0.31	0.28	0.38
1	73号ピット	X=42,678・42,679	Y=-55,745・-55,746	円形	0.50	0.50	0.24
1	74号ピット	4号掘立柱建物P10					
1	75号ピット	4号掘立柱建物P1					
1	76号ピット	X=42,677・42,678	Y=-55,743	円形	0.26	0.25	0.42
1	77号ピット	X=42,678・42,679	Y=-55,743	楕円形	0.40	0.40	0.20
1	78号ピット	X=42,680	Y=-55,744	円形	0.61	0.60	0.33
1	79号ピット	X=42,680	Y=-55,741	円形	0.51	0.48	0.43
1	80号ピット	X=42,679・42,680	Y=-55,739	円形	0.45	0.41	0.36
1	81号ピット	X=42,681・42,682	Y=-55,741・-55,742	楕円形	0.53	0.35	0.23
1	82号ピット	X=42,682	Y=-55,743	円形	0.53	0.53	0.60
1	83号ピット	X=42,683	Y=-55,745・-55,746	円形	0.60	0.58	0.32
1	84号ピット	X=42,683・42,684	Y=-55,746	円形	0.45	0.40	0.28
1	85号ピット	X=42,684	Y=-55,745	円形	0.30	0.28	0.30
1	86号ピット	X=42,683	Y=-55,743・-55,744	円形	0.43	0.43	0.68
1	87号ピット	X=42,684・42,685	Y=-55,744・-55,745	円形	0.35	0.35	0.42
1	88号ピット	X=42,685	Y=-55,745・-55,746	円形	0.22	0.22	0.42
1	89号ピット	X=42,685・42,686	Y=-55,747	円形	0.28	0.26	0.41
1	90号ピット	X=42,686	Y=-55,742・-55,743	円形	0.35	0.35	0.24
1	91号ピット	1号掘立柱建物P5					
1	92号ピット	X=42,684	Y=-55,748	楕円形	0.38	0.32	0.23
1	93号ピット	X=42,684	Y=-55,748	楕円形	0.52	0.45	0.35
1	94号ピット	3号掘立柱建物P2					
1	95号ピット	3号掘立柱建物P3					
1	96号ピット	X=42,671・42,672	Y=-55,743・-55,744	楕円形	0.30	0.30	0.25
1	97号ピット	X=42,678	Y=-55,745	隅丸方形	0.30	0.28	0.34
1	98号ピット	X=42,678	Y=-55,745	楕円形	0.60	0.50	0.53
1	99号ピット	3号掘立柱建物P1					
1	100号ピット	X=42,678	Y=-55,737	楕円形	0.50	0.41	0.31
1	101号ピット	X=42,680	Y=-55,737・-55,738	円形	0.44	0.41	0.45
1	102号ピット	X=42,681	Y=-55,740	円形	0.45	0.42	0.44
1	103号ピット	X=42,682	Y=-55,742	楕円形	0.35	0.30	0.32
1	104号ピット	X=42,682・42,683	Y=-55,743	円形か	0.35	(0.15)	0.58
1	105号ピット	X=42,682・42,683	Y=-55,744	円形	0.36	0.35	0.39
1	106号ピット	X=42,683・42,684	Y=-55,742	楕円形	0.43	0.33	0.20
1	107号ピット	X=42,682	Y=-55,740	円形	0.28	0.28	0.19
1	108号ピット	X=42,683・42,684	Y=-55,739・-55,740	円形	0.40	0.40	0.49
1	109号ピット	X=42,684	Y=-55,740	円形	0.45	0.41	0.47
1	110号ピット	X=42,685	Y=-55,741・-55,742	円形	0.43	0.42	0.53
1	111号ピット	X=42,691	Y=-55,749	楕円形	0.34	0.23	0.27
1	112号ピット	X=42,691	Y=-55,749	円形	0.28	0.25	0.26
1	113号ピット	X=42,690	Y=-55,749	楕円形	0.35	0.32	0.40
1	114号ピット	X=42,691	Y=-55,747・-55,748	楕円形	0.71	0.40	0.72
1	115号ピット	X=42,692	Y=-55,745・-55,746	不整形	0.54	0.43	0.27
1	116号ピット	X=42,691・42,692	Y=-55,745・-55,746	楕円形	0.43	0.38	0.34
1	117号ピット	X=42,691	Y=-55,745	不整形	0.50	0.38	0.28
1	118号ピット	X=42,691・42,692	Y=-55,744	楕円形	0.59	0.43	0.29
1	119号ピット	X=42,693	Y=-55,744	円形	0.31	0.25	0.30
1	120号ピット	X=42,693	Y=-55,744	楕円形	0.32	0.38	0.29
1	121号ピット	X=42,693	Y=-55,744	隅丸方形	0.35	0.28	0.22
1	122号ピット	X=42,693	Y=-55,743	楕円形	0.40	0.35	0.42
1	123号ピット	X=42,692	Y=-55,742・-55,743	楕円形	0.36	0.30	0.24
1	124号ピット	X=42,692	Y=-55,742	円形	0.30	0.28	0.29
1	125号ピット	X=42,692	Y=-55,741・-55,742	楕円形	0.45	0.39	0.30
1	126号ピット	X=42,692・42,693	Y=-55,742	楕円形	0.48	0.30	0.26
1	127号ピット	X=42,692・42,693	Y=-55,742	不整形	0.46	0.36	0.37
1	128号ピット	X=42,693	Y=-55,741	円形	0.34	0.34	0.31
1	129号ピット	X=42,693・42,694	Y=-55,740・-55,741	楕円形	0.33	0.28	0.38
1	130号ピット	X=42,694	Y=-55,742	不整形	0.40	0.36	0.28
1	131号ピット	X=42,696	Y=-55,739	楕円形	0.30	0.25	0.40
1	132号ピット	X=42,694	Y=-55,735	円形	0.31	0.30	0.27
1	133号ピット	X=42,694	Y=-55,734	円形	0.26	0.25	0.29
1	134号ピット	X=42,693	Y=-55,733	円形	0.30	0.28	0.40
1	135号ピット	X=42,683	Y=-55,737	円形	0.40	0.40	0.32
1	136号ピット	X=42,683・42,684	Y=-55,737	円形	0.30	0.28	0.29
1	137号ピット	X=42,683・42,684	Y=-55,736	楕円形	0.30	0.26	0.31
1	138号ピット	X=42,683	Y=-55,735・-55,736	楕円形	0.21	0.17	0.15
1	139号ピット	X=42,689	Y=-55,736	楕円形	0.40	0.38	0.37
1	140号ピット	X=42,688	Y=-55,735・-55,736	円形	0.31	0.31	0.29
1	141号ピット	X=42,688・42,689	Y=-55,733・-55,734	楕円形	0.88	0.45	0.44
1	142号ピット	X=42,689	Y=-55,733	楕円形か	0.38	(0.30)	0.37
1	143号ピット	X=42,683・42,684	Y=-55,749	楕円形	0.33	0.24	0.46

第3章 調査の成果

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
1	144号ピット	X=42,692	Y=-55,749・-55,750	円形	0.30	0.30	0.26
1	145号ピット	X=42,692	Y=-55,753	円形	0.30	(0.23)	0.25
1	146号ピット	X=42,692	Y=-55,752・-55,753	円形	0.31	0.23	0.26
1	147号ピット	X=42,693・42,694	Y=-55,756・-55,757	楕円形	0.50	0.40	0.43
1	148号ピット	X=42,692・42,693	Y=-55,758	楕円形	0.50	0.33	0.31
1	149号ピット	X=42,694	Y=-55,761	円形	0.33	0.33	0.19
1	150号ピット	X=42,694	Y=-55,764	円形	0.55	0.50	0.29
1	151号ピット	X=42,697	Y=-55,761	円形	0.32	0.30	0.10
1	152号ピット	X=42,697	Y=-55,758	楕円形	0.40	0.33	0.26
1	153号ピット	X=42,700	Y=-55,762・-55,763	円形	0.45	0.43	0.28
1	154号ピット	X=42,700	Y=-55,759・-55,760	楕円形	0.48	0.40	0.23
1	155号ピット	X=42,701・42,702	Y=-55,759・-55,760	不整形	0.68	0.62	0.33
1	156号ピット	X=42,701	Y=-55,756	円形	0.43	0.42	0.40
1	157号ピット	X=42,698	Y=-55,751	楕円形	0.45	0.35	0.33
1	158号ピット	X=42,688・42,689	Y=-55,732・-55,733	楕円形	0.90	0.72	0.60
1	159号ピット	4号掘立柱建物P2					
1	160号ピット	4号掘立柱建物P3					
1	161号ピット	4号掘立柱建物P8					
1	162号ピット	X=42,675・42,676	Y=-55,746	楕円形	0.60	0.42	0.33
1	163号ピット	X=42,675・42,676	Y=-55,745・-55,746	楕円形	0.50	0.50	0.24
1	164号ピット	X=42,677	Y=-55,745・-55,746	楕円形	0.45	0.36	0.33
1	165号ピット	3号掘立柱建物P4					
1	166号ピット	X=42,728	Y=-55,742	楕円形か	0.52	0.50	0.34
1	167号ピット	X=42,679・42,680	Y=-55,736・-55,737	楕円形	0.50	0.31	0.19
1	168号ピット	X=42,711・42,712	Y=-55,756	楕円形	0.38	0.30	0.43
1	169号ピット	X=42,710・42,711	Y=-55,755・-55,756	楕円形	0.43	0.32	0.32
1	170号ピット	X=42,710	Y=-55,753・-55,754	円形	0.36	0.33	0.53
1	171号ピット	X=42,709	Y=-55,750	円形	0.40	0.40	0.24
1	172号ピット	X=42,718	Y=-55,753	楕円形か	0.40	(0.34)	0.29
1	173号ピット	X=42,718・42,719	Y=-55,751・-55,752	楕円形	0.40	(0.20)	0.43
1	174号ピット	X=42,718・42,719	Y=-55,751・-55,752	楕円形	0.50	0.30	0.26
1	175号ピット	X=42,720	Y=-55,750	楕円形	0.33	0.28	0.19
1	176号ピット	X=42,718	Y=-55,747・-55,748	円形	0.32	0.32	0.30
1	177号ピット	X=42,720・42,721	Y=-55,750	楕円形	0.41	0.35	0.32
1	178号ピット	X=42,720	Y=-55,749	楕円形	0.32	0.26	0.43
1	179号ピット	X=42,720	Y=-55,749	楕円形	0.42	0.30	0.38
1	180号ピット	X=42,716	Y=-55,744	楕円形	0.43	0.35	0.34
1	181号ピット	X=42,719	Y=-55,748	楕円形	0.34	0.30	0.44
1	182号ピット	X=42,715	Y=-55,744	円形	0.42	0.42	0.14
1	183号ピット	X=42,713	Y=-55,740	楕円形	0.55	0.43	0.20
1	184号ピット	X=42,711・42,712	Y=-55,738	円形	0.30	0.29	0.16
1	185号ピット	X=42,710	Y=-55,735・-55,736	円形	0.35	0.32	0.16
1	186号ピット	X=42,708	Y=-55,735	円形	0.45	0.40	0.19
1	187号ピット	X=42,711・72,712	Y=-55,736	楕円形	0.80	0.62	0.44
1	188号ピット	X=42,713	Y=-55,737・-55,738	隅丸方形	0.67	0.62	0.42
1	189号ピット	X=42,714	Y=-55,739	円形	0.37	0.35	0.50
1	190号ピット	X=42,714・42,715	Y=-55,738・-55,739	楕円形	0.82	0.62	0.27
1	191号ピット	X=42,715・42,716	Y=-55,737・-55,738	隅丸方形	0.45	0.40	0.43
1	192号ピット	X=42,715・42,716	Y=-55,737・-55,738	円形か	0.34	(0.30)	0.29
1	193号ピット	X=42,722	Y=-55,748・-55,749	円形	0.39	0.38	0.48
1	194号ピット	X=42,721	Y=-55,747・-55,748	円形	0.35	0.33	0.39
1	195号ピット	X=42,720・42,721	Y=-55,746・-55,747	不整形	0.45	0.25	0.38
1	196号ピット	X=42,719	Y=-55,746	円形	0.20	0.15	0.53
1	197号ピット	X=42,719	Y=-55,746	楕円形	0.50	0.38	0.29
1	198号ピット	X=42,723	Y=-55,748	円形	0.45	0.43	0.22
1	199号ピット	X=42,723・42,724	Y=-55,747	円形	0.37	0.35	0.42
1	200号ピット	X=42,711	Y=-55,753	円形	0.32	0.30	0.40
1	201号ピット	X=42,705・42,706	Y=-55,752	楕円形	0.45	0.36	1.04
1	202号ピット	X=42,706・42,707	Y=-55,745	円形	0.45	0.40	0.16
1	203号ピット	X=42,696・42,697	Y=-55,733	円形	0.35	0.35	0.78
1	204号ピット	X=42,694	Y=-55,731・-55,732	楕円形	0.50	0.37	0.32
1	205号ピット	X=42,723	Y=-55,746	円形	0.43	0.40	0.55
1	206号ピット	X=42,721	Y=-55,744・-55,745	楕円形	0.50	0.40	0.60
1	207号ピット	X=42,721・42,722	Y=-55,744	円形	0.48	0.46	0.17
1	208号ピット	X=42,722	Y=-55,744	円形	0.33	0.32	0.29
1	209号ピット	X=42,722・42,723	Y=-55,743	円形	0.52	0.48	0.18
1	210号ピット	X=42,722・42,723	Y=-55,743	円形	0.35	0.30	0.29
1	211号ピット	7号掘立柱建物P9					
1	212号ピット	7号掘立柱建物P8					
1	213号ピット	7号掘立柱建物P7					
1	214号ピット	X=42,718	Y=-55,745	円形	0.30	0.30	0.27
1	215号ピット	X=42,719	Y=-55,744	円形	0.28	0.26	0.28

## 第2節 1区の遺構と遺物

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
1	216号ピット	X=42,719	Y=-55,743	円形	0.25	0.25	0.22
1	217号ピット	X=42,719	Y=-55,742・-55,743	隅丸方形	0.48	0.42	0.45
1	218号ピット	X=42,719・42,720	Y=-55,742・-55,743	楕円形	0.40	0.32	0.29
1	219号ピット	X=42,718	Y=-55,741・-55,742	楕円形	0.58	0.45	0.49
1	220号ピット	X=42,718	Y=-55,741・-55,742	楕円形か	0.30	(0.23)	0.26
1	221号ピット	X=42,718・42,719	Y=-55,741	隅丸方形	0.28	0.25	0.29
1	222号ピット	X=42,720	Y=-55,741・-55,742	円形	0.30	0.28	0.33
1	223号ピット	X=42,719・42,720	Y=-55,741	円形	0.30	0.25	0.23
1	224号ピット	X=42,719・42,720	Y=-55,740	楕円形	0.30	0.22	0.42
1	225号ピット	6号掘立柱建物P2					
1	226号ピット	7号掘立柱建物P3					
1	227号ピット	X=42,717・42,718	Y=-55,738・-55,739	隅丸方形	0.40	0.36	0.41
1	228号ピット	7号掘立柱建物P2					
1	229号ピット	7号掘立柱建物P1					
1	230号ピット	X=42,718・42,719	Y=-55,737	楕円形	0.45	0.36	0.32
1	231号ピット	X=42,721	Y=-55,741	楕円形	0.29	0.24	0.38
1	232号ピット	7号掘立柱建物P6					
1	233号ピット	7号掘立柱建物P5					
1	234号ピット	7号掘立柱建物P4					
1	235号ピット	X=42,716	Y=-55,741	円形	0.28	0.28	0.19
1	236号ピット	X=42,716	Y=-55,740	円形	0.43	0.40	0.42
1	237号ピット	X=42,721	Y=-55,751	円形	0.50	0.43	0.60
1	238号ピット	X=42,710・42,711	Y=-55,734・-55,735	楕円形	0.80	0.55	0.55
1	239号ピット	X=42,718・42,719	Y=-55,743	円形	0.36	0.35	0.53
1	240号ピット	X=42,719	Y=-55,751	円形	0.45	0.42	0.37
1	241号ピット	X=42,714	Y=-55,750・-55,751	隅丸方形	0.40	0.36	0.34
1	242号ピット	X=42,714・42,715	Y=-55,749	円形	0.40	0.40	0.37
1	243号ピット	X=42,715	Y=-55,747	円形	0.40	0.35	0.22
1	244号ピット	X=42,719	Y=-55,746・-55,747	楕円形	0.51	0.44	0.45
1	245号ピット	X=42,726・42,727	Y=-55,746・-55,747	楕円形	0.55	0.46	0.71
1	246号ピット	7号掘立柱建物P10					
1	247号ピット	7号掘立柱建物P11					
1	248号ピット	7号掘立柱建物P12					
1	249号ピット	X=42,711	Y=-55,729・-55,730	円形	0.30	0.26	0.27
1	250号ピット	X=42,706	Y=-55,729	楕円形	0.60	0.35	0.34
1	251号ピット	X=42,705	Y=-55,729	楕円形	0.55	0.40	0.22
1	252号ピット	X=42,704	Y=-55,724・-55,725	楕円形	0.50	0.38	0.44
1	253号ピット	X=42,723・42,724	Y=-55,749・-55,750	楕円形	0.86	0.68	0.75
1	254号ピット	8号掘立柱建物P8					
1	255号ピット	X=42,726	Y=-55,748	楕円形	0.58	0.45	0.83
1	256号ピット	X=42,725	Y=-55,747・-55,748	楕円形	0.82	0.62	0.83
1	257号ピット	X=42,727・42,728	Y=-55,725	円形	0.39	0.37	0.50
1	258号ピット	X=42,727・42,728	Y=-55,725	円形	0.38	0.35	0.14
1	259号ピット	X=42,726	Y=-55,724	隅丸方形	0.36	0.32	0.50
1	260号ピット	X=42,725	Y=-55,723	円形	0.36	0.34	0.13
1	261号ピット	X=42,725	Y=-55,722	隅丸方形	0.38	0.32	0.17
1	262号ピット	X=42,729	Y=-55,725・-55,726	円形	0.40	0.40	0.45
1	263号ピット	X=42,730	Y=-55,724	円形	0.45	0.36	0.43
1	264号ピット	X=42,729	Y=-55,724	円形	0.38	0.30	0.59
1	265号ピット	X=42,729・42,730	Y=-55,724	楕円形	0.43	0.36	0.42
1	266号ピット	X=42,726・42,727	Y=-55,721	円形	0.40	0.36	0.32
1	267号ピット	X=42,725・42,726	Y=-55,720・-55,721	楕円形	0.45	0.40	0.31
1	268号ピット	X=42,730	Y=-55,722	円形	0.38	0.38	0.22
1	269号ピット	X=42,727	Y=-55,719・-55,720	円形	0.45	0.40	0.44
1	270号ピット	X=42,736・42,737	Y=-55,730	楕円形	0.58	0.49	0.32
1	271号ピット	X=42,737・42,738	Y=-55,730	不整形	0.70	0.55	0.18
1	272号ピット	X=42,737	Y=-55,729・-55,730	円形	0.74	0.72	0.19
1	273号ピット	X=42,736・42,737	Y=-55,728・-55,729	楕円形	0.95	0.70	0.22
1	274号ピット	X=42,738・42,739	Y=-55,729・-55,730	楕円形	0.75	0.68	0.16
1	275号ピット	X=42,737・42,738	Y=-55,728・-55,729	楕円形	0.65	0.58	0.12
1	276号ピット	X=42,737	Y=-55,728・-55,729	隅丸方形	0.65	0.55	0.13
1	277号ピット	X=42,738	Y=-55,727	楕円形	0.64	0.46	0.70
1	278号ピット	X=42,736 ~ 42,738	Y=-55,726・-55,727	楕円形	1.36	1.18	0.31
1	279号ピット	X=42,735・42,736	Y=-55,726	楕円形	0.46	0.38	0.32
1	280号ピット	X=72,729	Y=-55,745・-55,746	楕円形	0.43	0.35	0.46
1	281号ピット	X=42,727	Y=-55,741	円形	0.30	0.30	0.21
1	282号ピット	X=42,727	Y=-55,741	楕円形	0.45	0.35	0.20
1	283号ピット	X=42,728	Y=-55,740	楕円形	0.48	0.33	0.26
1	284号ピット	X=42,732	Y=-55,738・-55,739	円形	0.50	0.46	0.62
1	285号ピット	X=42,731	Y=-55,738	楕円形	0.63	0.50	0.09
1	286号ピット	X=42,724・42,725	Y=-55,722・-55,723	楕円形	0.43	0.30	0.66
1	287号ピット	X=42,731	Y=-55,705・-55,706	円形	0.30	0.30	0.20

第3章 調査の成果

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
1	288号ピット	X=42,733・42,734	Y=-55,706	楕円形	0.30	0.25	0.14
1	289号ピット	X=42,731	Y=-55,704	楕円形	0.45	0.36	0.31
1	290号ピット	X=42,732	Y=-55,703・-55,704	楕円形	0.85	0.62	0.10
1	291号ピット	X=42,732・42,733	Y=-55,703・-55,704	円形か	0.64	0.60	0.17
1	292号ピット	X=42,718	Y=-55,723	円形	0.43	0.40	0.43
1	293号ピット	X=42,732・42,733	Y=-55,716・-55,717	楕円形	0.75	0.65	0.85
1	294号ピット	X=42,720	Y=-55,723	楕円形	0.58	0.48	0.48
1	295号ピット	X=42,721・42,722	Y=-55,723	円形	0.45	0.40	0.35
1	296号ピット	X=42,735	Y=-55,725	隅丸方形	0.36	0.30	0.39
1	297号ピット	X=42,735・42,736	Y=-55,724	円形	0.40	0.38	0.47
1	298号ピット	X=42,734・42,735	Y=-55,720	円形	0.35	0.35	0.21
1	299号ピット	X=42,733	Y=-55,719	円形	0.60	0.58	0.99
1	300号ピット	X=42,733・42,734	Y=-55,718・-55,719	楕円形	0.45	0.35	0.41
1	330号ピット	X=42,732	Y=-55,718・-55,719	円形	0.54	0.52	0.93
1	331号ピット	X=42,731	Y=-55,717	円形	0.42	0.36	0.44
1	332号ピット	X=42,730・42,731	Y=-55,717	円形	0.62	0.60	0.74
1	333号ピット	X=42,730	Y=-55,716・-55,717	円形	0.52	0.50	0.44
1	334号ピット	X=42,740・42,741	Y=-55,717	円形	0.40	0.40	0.38
1	335号ピット	X=42,738	Y=-55,714	円形	0.36	0.30	0.36
1	336号ピット	X=42,738	Y=-55,711・-55,712	円形	0.35	0.35	0.18
1	337号ピット	X=42,739・42,740	Y=-55,719	円形	0.35	0.35	0.25
1	338号ピット	X=42,738・42,739	Y=-55,717・-55,718	円形	0.32	0.30	0.44
1	339号ピット	X=42,738	Y=-55,715	円形	0.26	0.22	0.34
1	340号ピット	X=42,737	Y=-55,715	円形	0.22	0.20	0.21
1	341号ピット	X=42,735・42,736	Y=-55,713	円形	0.42	0.38	0.33
1	342号ピット	X=42,739	Y=-55,719	隅丸方形	0.34	0.30	0.42
1	343号ピット	X=42,739	Y=-55,721	楕円形	0.32	0.28	0.27
1	344号ピット	X=42,735・42,736	Y=-55,712・-55,713	円形	0.34	0.30	0.22
1	345号ピット	X=42,730	Y=-55,716・-55,717	楕円形	0.40	0.28	0.45
1	346号ピット	X=42,738	Y=-55,719・-55,720	楕円形	0.45	0.25	0.60
1	347号ピット	X=42,746・42,747	Y=-55,714・-55,715	不整形	0.42	0.40	0.62
1	348号ピット	X=42,745	Y=-55,719・-55,720	楕円形	0.30	0.25	0.28
1	349号ピット	X=42,745	Y=-55,719	円形	0.30	0.28	0.57
1	350号ピット	X=42,744	Y=-55,720	円形	0.40	0.38	0.62
1	351号ピット	X=42,743	Y=-55,720	円形	0.33	0.30	0.29
1	352号ピット	X=42,744	Y=-55,717・-55,718	楕円形	0.44	0.30	0.18
1	353号ピット	X=42,745	Y=-55,717	円形	0.34	0.34	0.32
1	354号ピット	X=42,744・42,745	Y=-55,717	楕円形	0.38	0.25	0.17
1	355号ピット	X=42,744	Y=-55,718	円形	0.32	0.29	0.18
1	356号ピット	X=42,747・42,748	Y=-55,715・-55,716	円形	0.45	0.43	0.30
1	357号ピット	X=42,728・42,729	Y=-55,710・-55,711	楕円形	0.50	0.38	0.24
1	358号ピット	X=42,728	Y=-55,710	円形	0.32	0.30	0.12
1	359号ピット	X=42,728・42,729	Y=-55,709・-55,710	楕円形	0.33	0.28	0.33
1	360号ピット	X=42,729	Y=-55,708	円形	0.49	0.48	0.29
1	361号ピット	X=42,727	Y=-55,707	楕円形	0.40	0.32	0.17
1	362号ピット	X=42,729	Y=-55,725	円形か	0.35	0.30	0.35
1	363号ピット	X=42,728	Y=-55,725	楕円形か	0.33	(0.30)	0.34
1	364号ピット	X=42,728	Y=-55,725	楕円形か	0.30	(0.28)	0.41
1	365号ピット	X=42,728	Y=-55,725	楕円形	0.42	0.36	0.30
1	366号ピット	X=42,744	Y=-55,728	不整形	0.46	0.32	0.73
1	367号ピット	X=42,742	Y=-55,729	楕円形	0.35	0.25	0.46
1	368号ピット	X=42,740・42,741	Y=-55,728・-55,729	円形	0.48	0.46	0.33
1	369号ピット	X=42,737	Y=-55,725	楕円形	0.43	0.35	0.32
1	370号ピット	X=42,738	Y=-55,723・-55,724	楕円形	0.35	0.30	0.27
1	371号ピット	X=42,736	Y=-55,723	円形	0.36	0.35	0.39
1	372号ピット	X=42,736	Y=-55,721	楕円形	0.55	0.40	0.66
1	373号ピット	X=42,736	Y=-55,720・-55,721	円形	0.53	0.53	0.18
1	374号ピット	X=42,735	Y=-55,720・-55,721	円形	0.46	0.40	0.69
1	375号ピット	X=42,741	Y=-55,721	楕円形	0.45	0.30	0.34
1	376号ピット	X=42,742・42,743	Y=-55,717	円形	0.34	0.28	0.50

7. 遺構外の遺物

1区で遺構に伴わない形で出土した遺物は、土器及び土製品である。以下、その一部を種別ごとに記載する。

(1) 土器類(第86図、PL.95)

縄文時代の土器として1～15の15点を図示した。いずれも器種は深鉢である。型式は、1・2：黒浜式、3～5：諸磯a式、6：諸磯b式、7：諸磯b式又はc式、8～

10：諸磯c式、11・12：興津式、13：前期末葉～中期初頭、14：阿玉台式、15：加曾利E4式である。弥生時代の土器として16：樽式の1点を図示した。

古代の土器として17～19の3点を図示した。17・18：須恵器杯、19：手捏ね土器である。

(2) 土製品(第86図)

図示した土製品は、20：羽口の1点である。



第86図 1区遺構外出土遺物

## 第3節 2区の遺構と遺物

### 1. 竪穴建物・竪穴状遺構

2区で調査した竪穴建物は縄文時代から古代までの47棟で、調査区のほぼ全域で確認された。このうち縄文時代の建物は、調査区南端の1棟のみである。古墳時代の建物の大半は、1区同様に調査区の西側に位置しており、6世紀後半の建物が多い。古代の建物は広範囲に分布しているが、調査区の南側に特に多く、8世紀後半の建物が目立っている。

規模や形状は1区同様に、一辺が7m程の正方形の建物から、短軸が3mに満たない小規模な長方形の建物まで様々である。遺構確認面から床面までの深さは、1区に比べやや深い。西側の調査区際に位置する建物が多いため、一部あるいは大部分が調査区外にある建物も多い。竪穴状遺構は、調査区北側で1棟を確認した。

#### 2区21号竪穴建物(第87～91図、PL.25・96・97)

調査区北東端から約10mの位置にある。

**座標値** X=42,841～42,847 Y=-55,627～-55,632

**重複遺構** 22号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-122°-E

**規模** 長軸4.50m 短軸4.20m

床面積16.32㎡ 残存壁高45cm

**埋没土** 黒褐色土を主体とし、上層には白色軽石を少量含む。建物西隅の床面付近や上層の一部で炭化材が出土した。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、1cm未満の所もある。ピット状の窪みや細かい凹凸も見られる。

**竈** 南東壁の南寄りの位置に設置している。燃焼部の半分程が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは85cmである。規模は長軸170cm、袖幅50cm、燃焼部幅55cmを測る。袖は、右袖には8、左袖には11の土師器の甕を、口縁を下にして据え、褐灰色粘質土を用いて構築している。燃焼部や煙道には焼土と灰が厚く堆積していた。また、北東壁の東寄りの位置でも竈の痕跡を検出した。北

壁上部周辺で多量の灰と焼土塊を検出し、床面付近では周囲同様に壁溝を確認したことから、建物廃絶時には使用されていなかった旧竈と判断した。竈の造り替え後も旧竈の煙道の一部は残されたままであった可能性がある。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

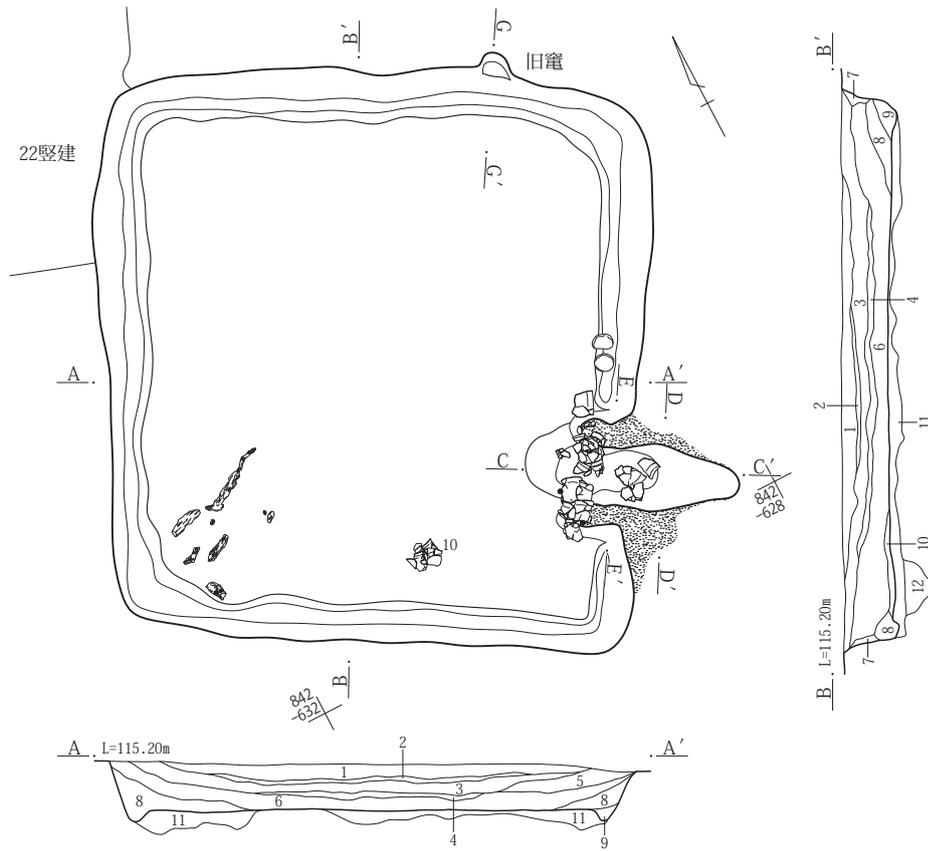
**柱穴** 床面では確認されなかったが、掘方の調査でピット状の窪みを検出した。南西壁中央付近でB-B'上に位置しており、長径46cm×短径40cm×深さ23cmを測る。その位置と形状から、出入り口に関わる可能性がある。

**壁溝** 全周している。幅5cm～15cm、深さ3cm～12cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1・2：土師器杯(1は床下、2は竈内)、3：須恵器杯、4～12：土師器甕(10は床面直上、他は竈焚口や袖、竈内)、13・14：須恵器甕、15：同壺、16：同蓋杯の身、17：同高杯、18：刀子である。

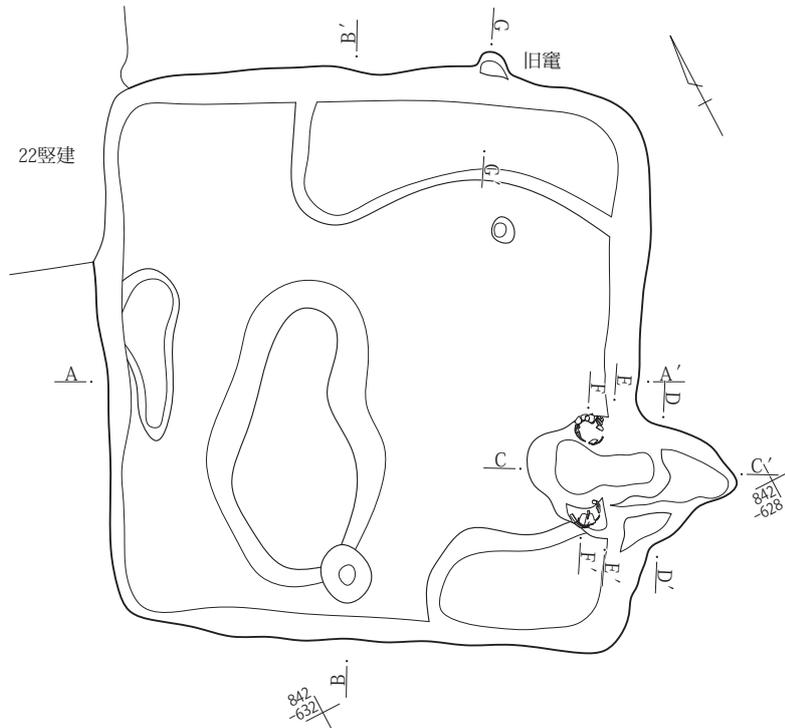
**所見** 小規模の建物である。建物の西隅で、多量の炭化材が出土した。この炭化材については、樹種同定分析を実施し、ヌルデであることが明らかになった。詳細については、第4章第1節・第4節に記した。本材は建物の西隅付近の高い位置から中心の床面付近にかけて出土した。垂木などの部材の可能性もある。ただし、ヌルデは材質が柔らかく、現代では木彫の材料として利用されたり、その成分から薬品や染料の原料、病気や災い除けの護符の材として使われたりする材料である。このことから、他の用途で使用された可能性もあり、西隅のみからの出土であるため、建物の部材と考えるには検討を要する。

本遺構で出土した土師器甕は口縁部が「くの字状」から「コの字状」の初期段階のものが見られる。8世紀第3四半期の年代観が与えられる「くの字状」の甕は竈の構築に利用されており、前代に使用していたものを転用したものと考えられる。また、埋没土中で出土した遺物16・17は6世紀後半に比定できるが、混入品と考えられる。この建物の時期は、床面直上や竈で出土した土器から8世紀第4四半期と考えられる。これは炭化材の放射性炭素年代測定の結果(第4章第1節・第3節)とも整合している。

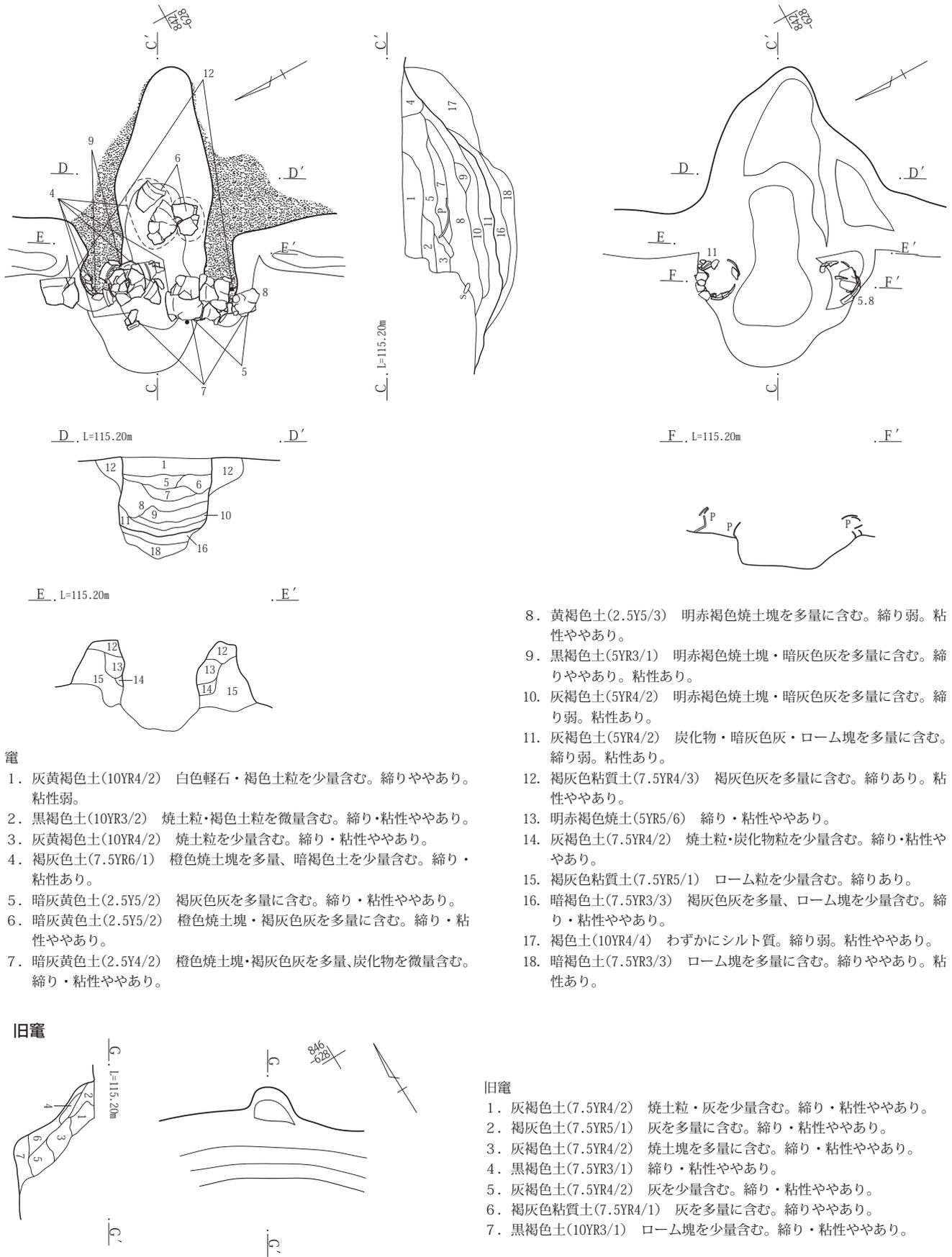


21号竪穴建物

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石を少量含む。ややシルト質。縮りややあり。粘性弱。</p> <p>2. 黒褐色土(2.5Y3/1) 炭化物を含む。縮り・粘性ややあり。</p> <p>3. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・褐色土粒を少量含む。ややシルト質。縮りややあり。粘性弱。</p> <p>4. 黒褐色土(2.5Y3/1) 炭化物を含む。縮り・粘性ややあり。</p> <p>5. 黒褐色土(10YR3/2) やや砂質。縮りややあり。</p> | <p>6. 黒褐色土(10YR3/1) 縮り・粘性ややあり。</p> <p>7. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土を少量含む。</p> <p>8. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を微量含む。縮り弱。粘性ややあり。</p> <p>9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を少量含む。縮り・粘性ややあり。</p> <p>10. 黒色土(10YR2/1) 炭化物を多量に含む。縮りなし。粘性ややあり。</p> <p>11. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を少量含む。縮りややあり。粘性弱。</p> <p>12. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を多量に含む。縮り・粘性ややあり。</p> |
|---|---|



第87図 2区21号竪穴建物



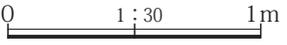
- 8. 黄褐色土(2.5Y5/3) 明赤褐色焼土塊を多量に含む。縮り弱。粘性ややあり。
- 9. 黒褐色土(5YR3/1) 明赤褐色焼土塊・暗灰色灰を多量に含む。縮りややあり。粘性あり。
- 10. 灰褐色土(5YR4/2) 明赤褐色焼土塊・暗灰色灰を多量に含む。縮り弱。粘性あり。
- 11. 灰褐色土(5YR4/2) 炭化物・暗灰色灰・ローム塊を多量に含む。縮り弱。粘性あり。
- 12. 褐灰色粘質土(7.5YR4/3) 褐灰色灰を多量に含む。縮りあり。粘性ややあり。
- 13. 明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮り・粘性ややあり。
- 14. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土粒・炭化物粒を少量含む。縮り・粘性ややあり。
- 15. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) ローム粒を少量含む。縮りあり。
- 16. 暗褐色土(7.5YR3/3) 褐灰色灰を多量、ローム塊を少量含む。縮り・粘性ややあり。
- 17. 褐色土(10YR4/4) わずかにシルト質。縮り弱。粘性ややあり。
- 18. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム塊を多量に含む。縮りややあり。粘性あり。

竈

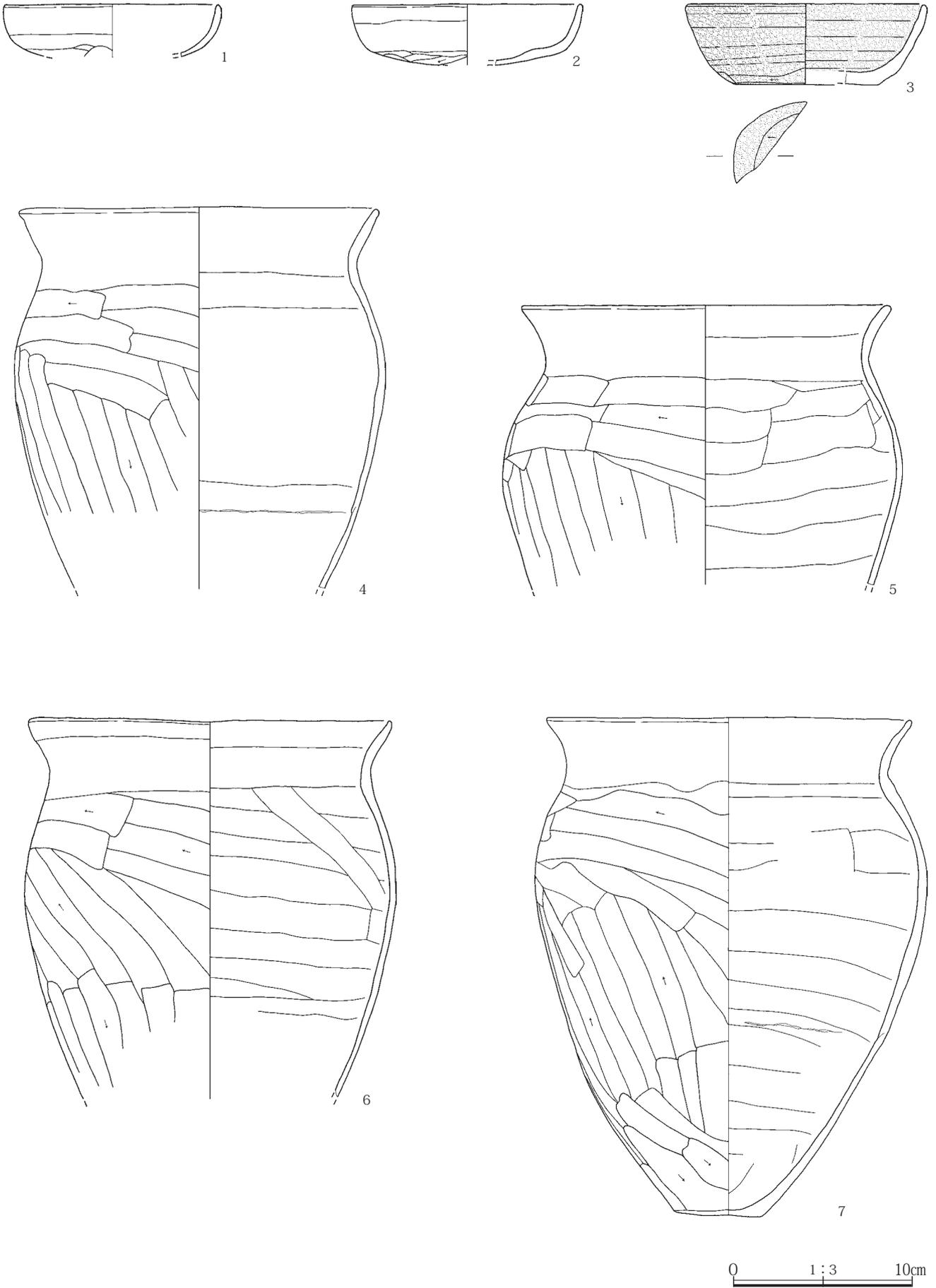
- 1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色軽石・褐色土粒を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
- 2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒・褐色土粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
- 3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒を少量含む。縮り・粘性ややあり。
- 4. 褐灰色土(7.5YR6/1) 橙色焼土塊を多量、暗褐色土を少量含む。縮り・粘性あり。
- 5. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 褐灰色灰を多量に含む。縮り・粘性ややあり。
- 6. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 橙色焼土塊・褐灰色灰を多量に含む。縮り・粘性ややあり。
- 7. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 橙色焼土塊・褐灰色灰を多量、炭化物を微量含む。縮り・粘性ややあり。

旧竈

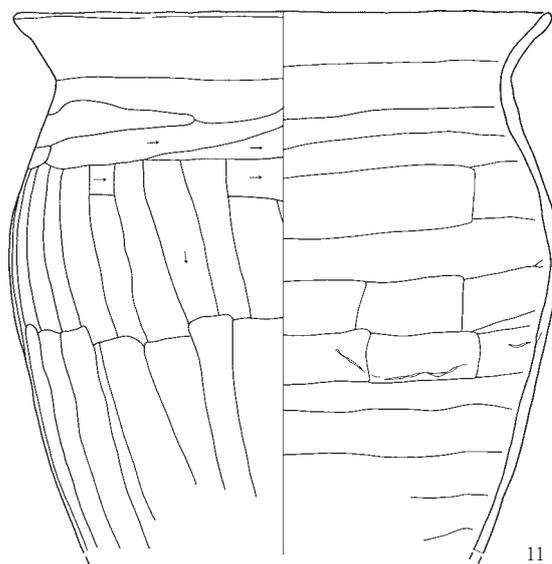
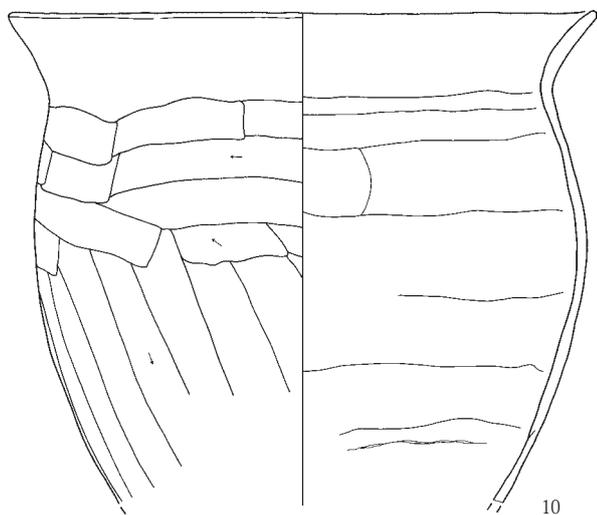
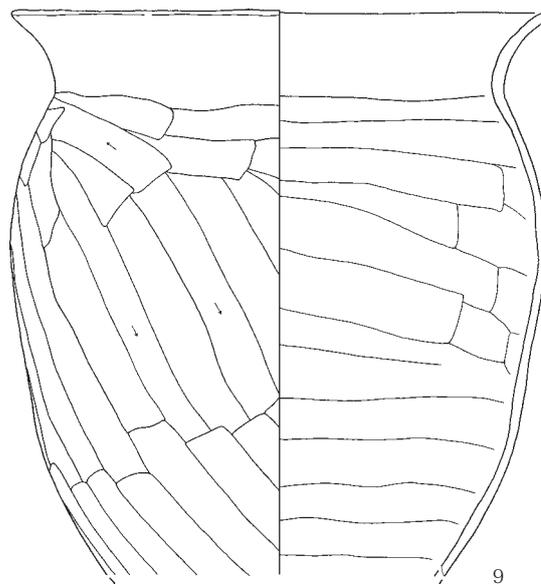
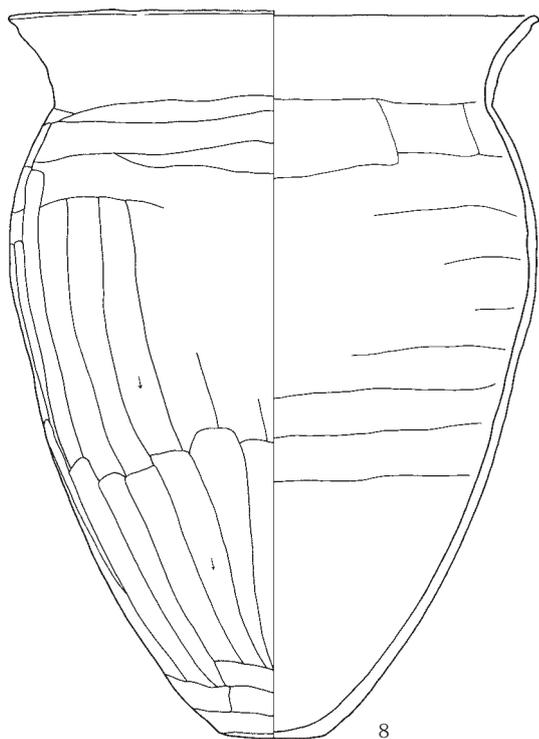
- 1. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土粒・灰を少量含む。縮り・粘性ややあり。
- 2. 褐灰色土(7.5YR5/1) 灰を多量に含む。縮り・粘性ややあり。
- 3. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土塊を多量に含む。縮り・粘性ややあり。
- 4. 黒褐色土(7.5YR3/1) 縮り・粘性ややあり。
- 5. 灰褐色土(7.5YR4/2) 灰を少量含む。縮り・粘性ややあり。
- 6. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 灰を多量に含む。縮りややあり。
- 7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を少量含む。縮り・粘性ややあり。



第88図 2区21号竈・旧竈

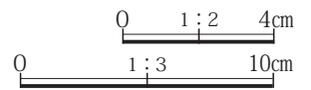
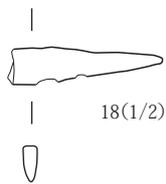
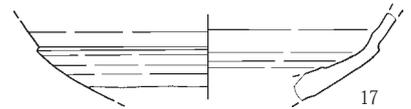
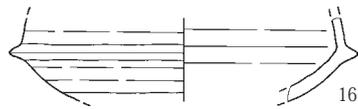
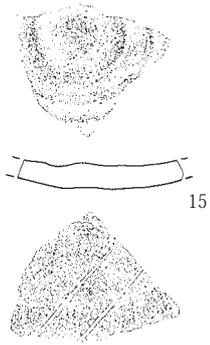
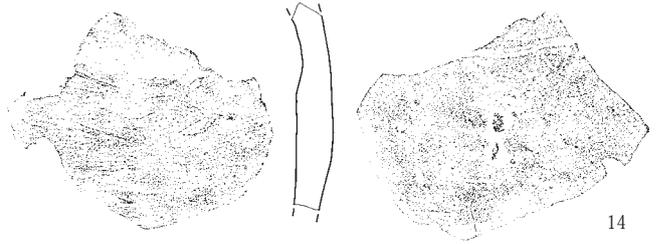
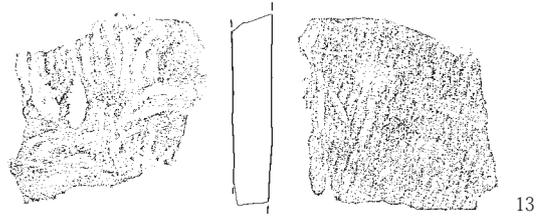
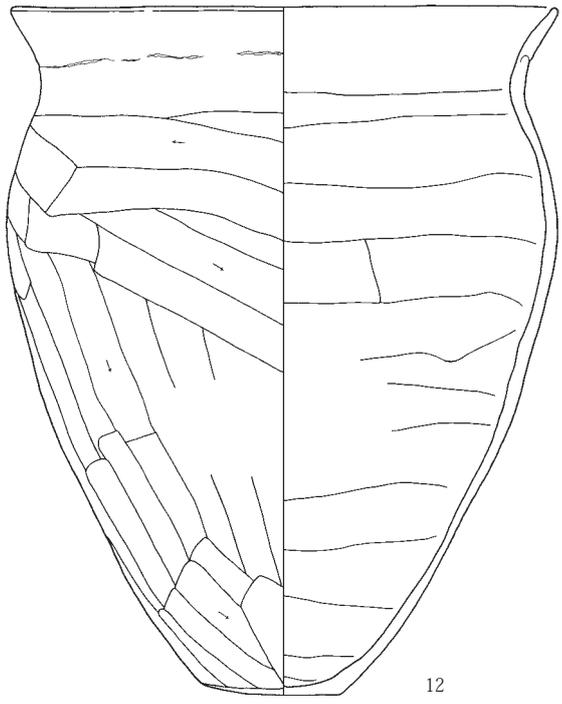


第89図 2区21号竪穴建物出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第90図 2区21号竪穴建物出土遺物(2)



第91図 2区21号竪穴建物出土遺物(3)

2区22号竪穴建物(第92～94図、PL.25・26・98)

調査区北側、21号竪穴建物の北西に位置し、建物の南東隅が重複している。

**座標値** X=42,846～42,850 Y=-55,630～-55,634

**重複遺構** 21号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-116°-E

**規模** 長軸3.68m 短軸3.30m

床面積(9.97㎡) 残存壁高35cm

**埋没土** 上層は主に白色軽石を含む黒褐色土で、床面付近はローム塊を含む暗褐色土である。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面からの深さは10cm～20cm程で、凹凸が見られる。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。燃烧部のほとんどが建物の内側にある。煙道は建物の南東隅と共に、重複する21号竪穴建物によって壊されている。残存する長軸方向は100cm、袖幅25cm、燃烧部幅35cmを測る。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径40cm、短径35cmの楕円形、深さ62cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 南壁中央付近から西壁、北壁にかけて確認した。

幅5cm～15cm、深さ4cm～10cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈周辺、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1～3：土師器杯(1・3は竈内、2は床上6cm)、4：同鉢(床面直上)、5：有孔鉢(床面直上)、6：須恵器蓋杯の蓋、7：同高杯、8：同小型甕(床面直上)、9：土師器甕(床面直上)、10：同甕(床面直上)である。1は器壁がやや厚く内面黒色処理の可能性があるので北毛の影響を受けているが、色調から在地での生産とみられる。

**所見** 長軸・短軸共に3mに満たない小規模な建物である。貯蔵穴脇の床面の高さで出土した甕は5世紀後半のものに類するが、同時期の遺物は他に見当たらず、伝世したものの可能性がある。床面直上や竈内、埋没土中で出土した遺物から、時期は6世紀後半である。

2区23号竪穴建物(第95～97図、PL.26・99)

調査区北側、21号竪穴建物の5m程南西にある。

**座標値** X=42,839～42,843 Y=-55,634～-55,638

**重複遺構** なし **形状** 正方形

**主軸方位** N-85°-E

**規模** 長軸3.90m 短軸3.63m

床面積10.17㎡ 残存壁高45cm

**埋没土** ローム塊を含む黒褐色土と暗褐色土で、上層の一部に白色軽石が見られる。建物の北西部を中心に多数の礫が出土した。大小様々で丸みを帯びている。おおむね北西隅に近いものほど高い位置で出土している。埋め戻される途中で投入された可能性がある。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸126cm、袖幅45cm、燃烧部幅50cm、燃烧部が壁を掘り込む位置にある。壁外への掘り込みは50cmを測る。焚口前の床面直上で、25cm×23cm×55cm程の直方体に近い形に加工された礫が出土した。天井石として利用されていた可能性がある。

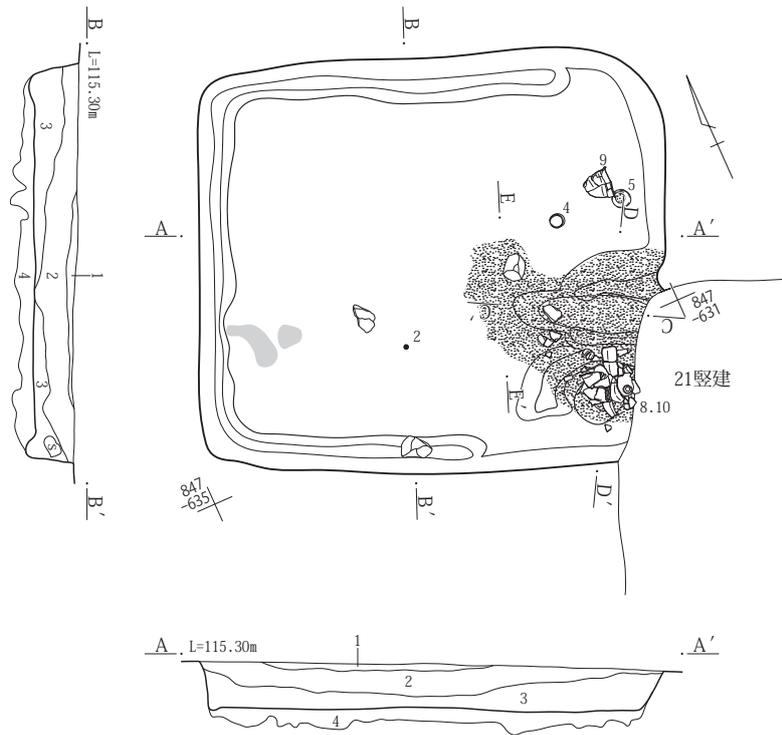
**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかったが、掘方の調査でP1を検出した。建物の南西隅に位置しており、長径39cm×短径35cm×深さ23cmを測る。柱穴の1つ、あるいは貯蔵穴とも考えられるが、明らかではない。

**壁溝** 北壁と南壁付近で検出したが、掘り込みが浅く範囲が明確ではなかった。幅8cm～15cm、深さ3cmを測る。

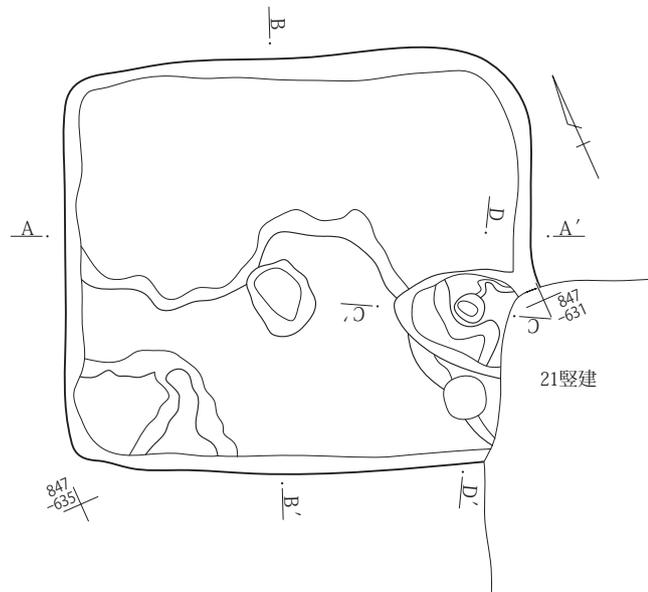
**遺物** 床面直上、埋没土中から遺物が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2：須恵器有台杯、3・4：同壺、5：環状土製品(床上7cm)、6：鉄滓である。

**所見** 長軸・短軸共に3mに満たない小規模な建物である。南壁を除き、壁と壁溝の間に床面より15cm～30cmの高さでテラス状になっている箇所がある。特に竈の両脇にあたる東壁前の水平な部分が広く、建物の時期や規模からも柵状施設の可能性が高い。埋没土中で8世紀前半の土器も出土しているが、床面直上で出土した杯から、時期は8世紀後半と考えられる。



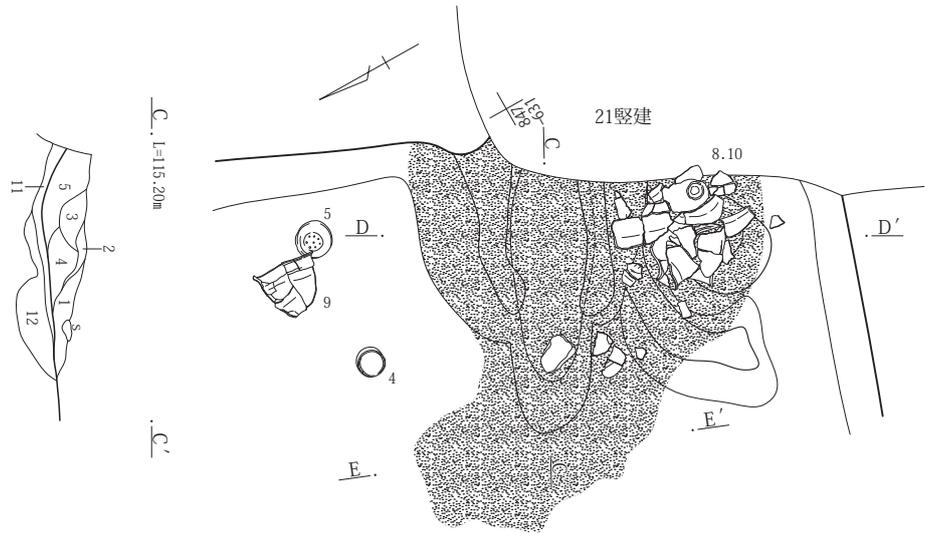
22号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粗砂を含む。縮りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石を少量含む。縮り・粘性ややあり。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。縮り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を多量に含む。縮り・粘性ややあり。



0 1:60 2m

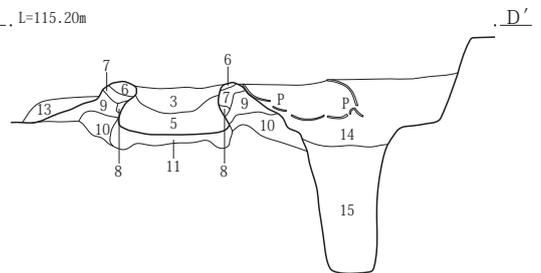
第92図 2区22号竪穴建物



竈・貯蔵穴

1. 暗褐色土(7.5YR3/3) 黄褐色粘質土を多量、焼土塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
2. 黄褐色粘質土(2.5Y5/4) にぶい黄褐色土を少量、焼土を微量含む。締りややあり。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 明赤褐色焼土塊・炭化物を多量、黄褐色粘質土を少量含む。締りややあり。粘性あり。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) 明赤褐色焼土を多量、炭化物を少量含む。締り弱。粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土・炭化物を少量含む。締り弱。粘性ややあり。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土を少量含む。締りあり。粘性弱。
7. 明赤褐色焼土(5YR4/8) 灰黄褐色土を少量含む。締りあり。粘性ややあり。
8. 黒色土(7.5YR2/1) 焼土粒を微量含む。ややシルト質。締り弱。粘性なし。
9. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 黄褐色粘質土を多量に含む。締り・粘性ややあり。
10. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒・焼土粒を少量、黄褐色粘質土を微量含む。やや砂質。締りややあり。
11. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、上部に焼土・灰を少量含む。
12. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒を少量・焼土粒を微量含む。締り・粘性ややあり。
13. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土塊を微量含む。締りややあり。粘性弱。
14. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒、黄褐色粘土粒を微量含む。締り・粘性ややあり。
15. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム粒を少量含む。締り弱。粘性ややあり。

D, L=115.20m

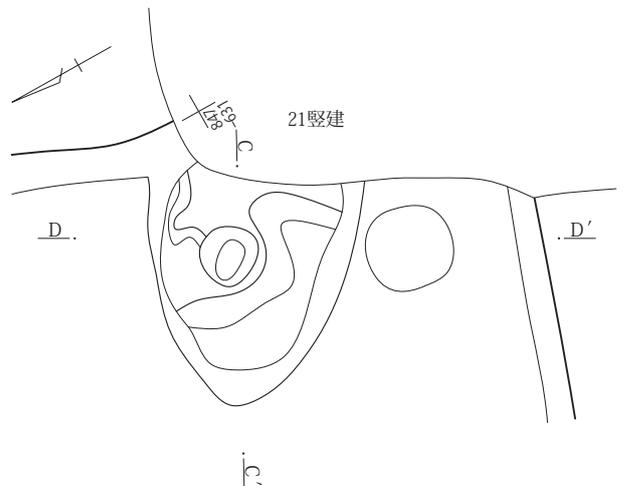


E, L=115.00m



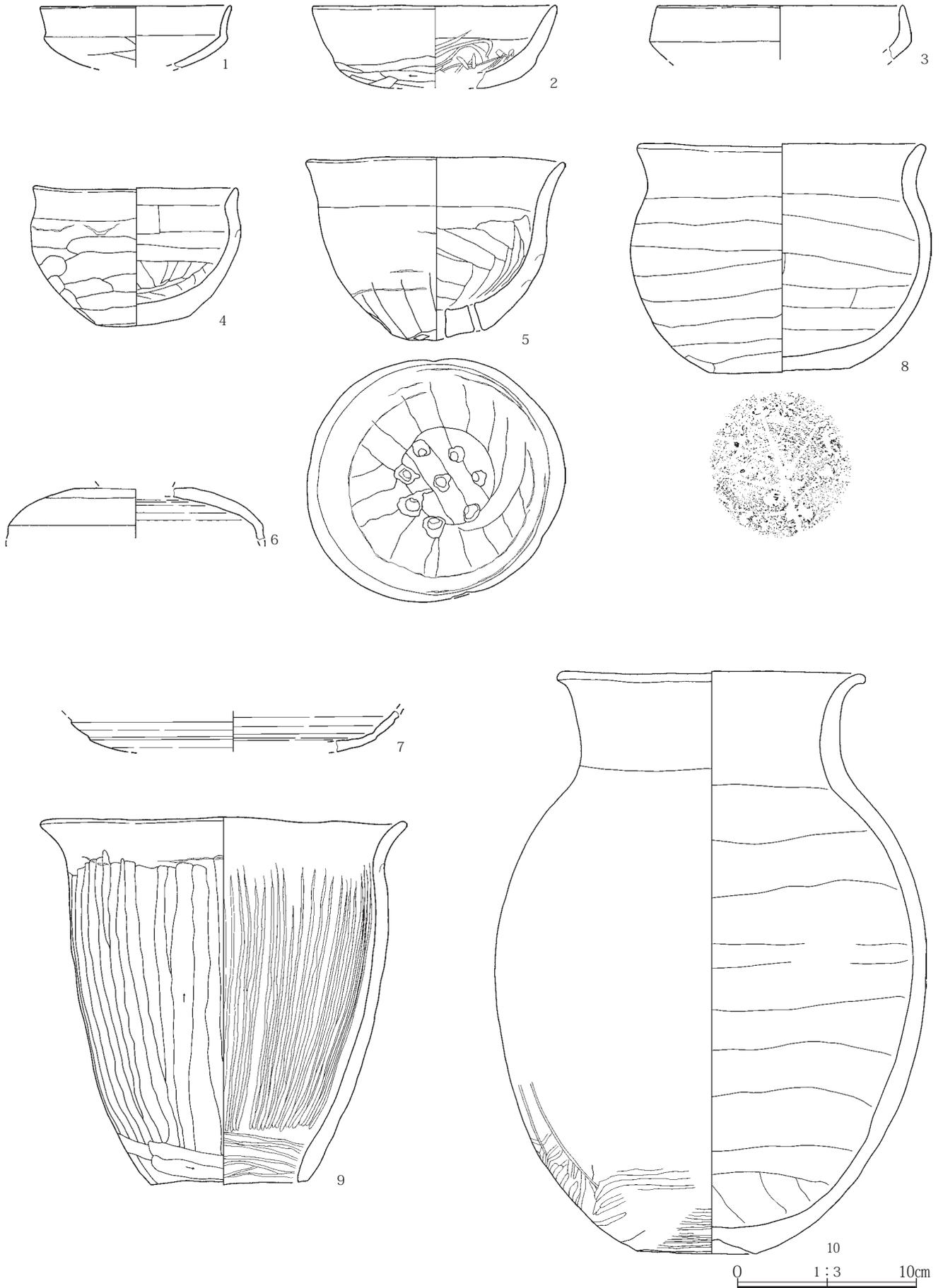
E-E'

1. 黄褐色粘質土(2.5Y5/4) 黒褐色土を少量、焼土粒を微量含む。締りややあり。
2. 黒褐色土(2.5Y3/1) 黄褐色粘質土・焼土粒・炭化物を微量含む。締り・粘性ややあり。

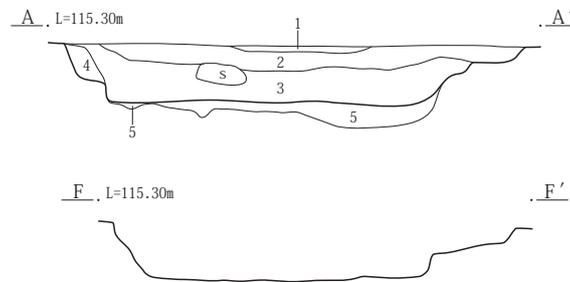
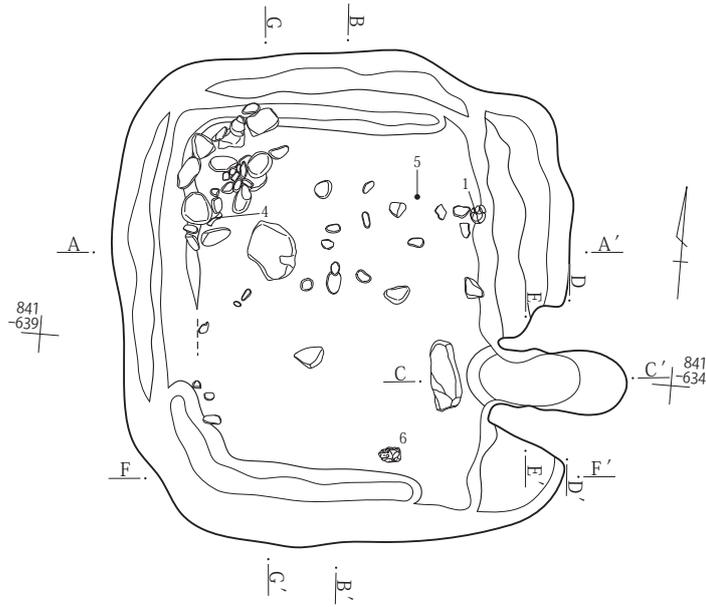
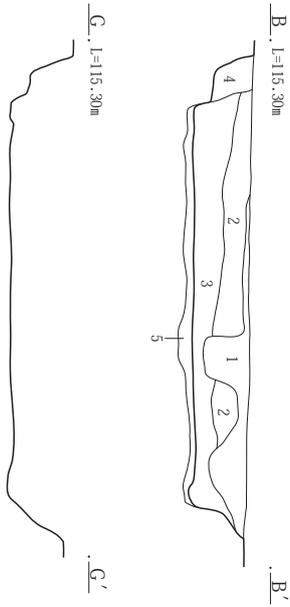


0 1:30 1m

第93図 2区22号竖穴建物竈

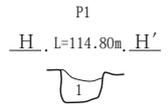


第94図 2区22号竪穴建物出土遺物



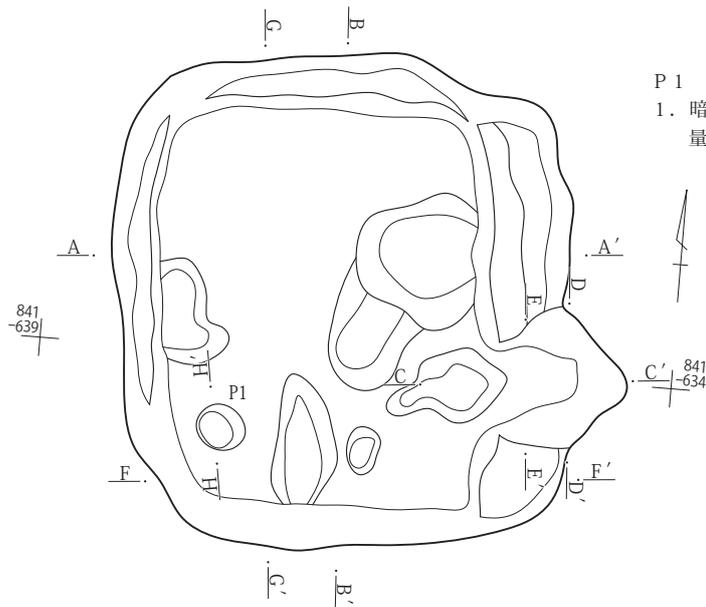
23号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石を少量含む。締りややあり。粘性弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。締り・粘性弱。
3. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。締り・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を多量に含む。

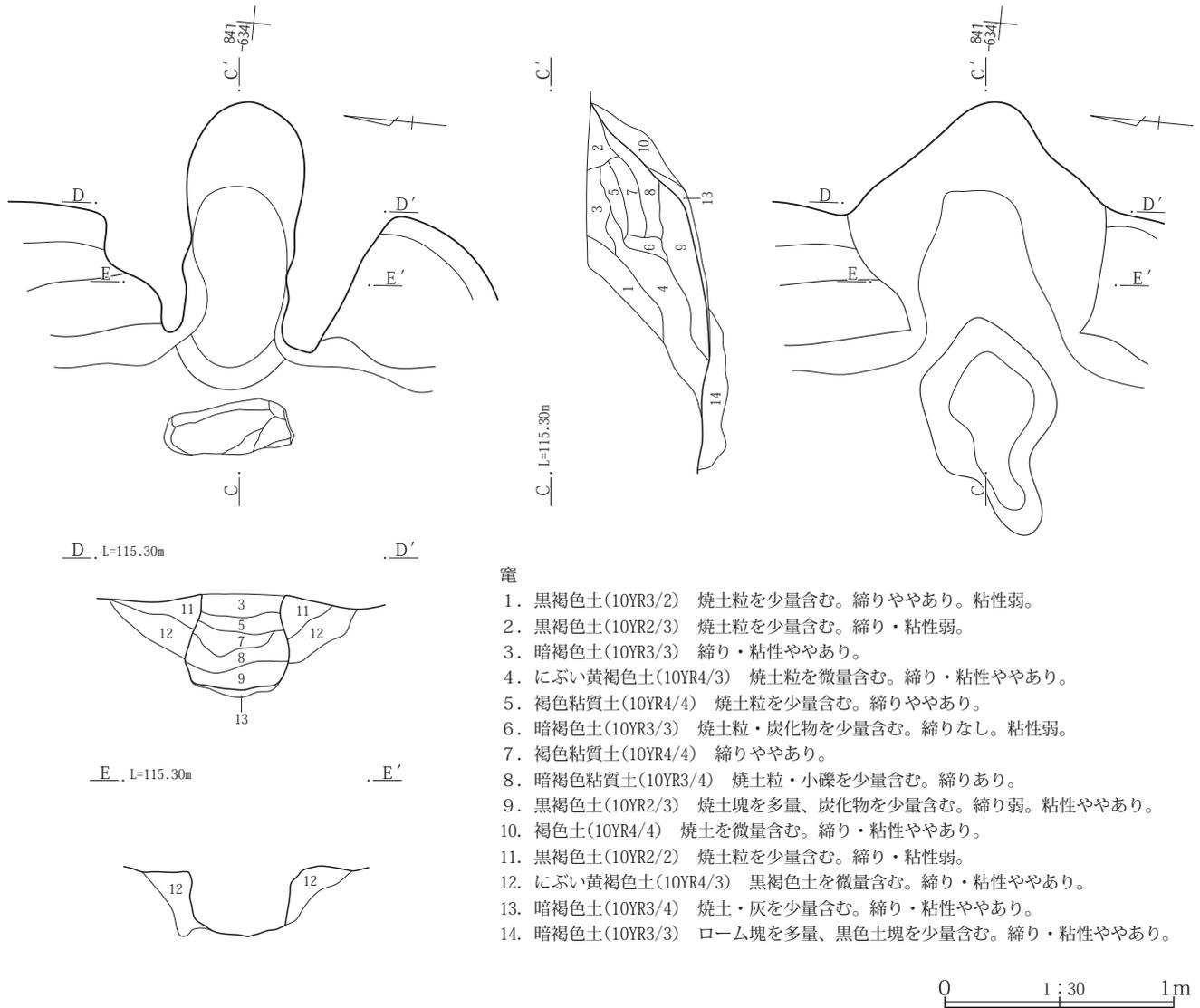


P 1

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。締り弱。粘性ややあり。



第95図 2区23号竪穴建物



第96図 2区23号竈

2区24号竈(第98~100図、PL.26・27・99)

調査区北側、23号竈の西約20mの位置にある。

座標値 X = 42,835~42,840 Y = -55,653~-55,658

重複遺構 471号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が古い。

形状 長方形 主軸方位 N-48°-E

規模 長軸4.00m 短軸3.20m

床面積10.32㎡ 残存壁高40cm

埋没土 ローム塊やローム粒を含む黒褐色土で、一部に灰白色粒が見られる。

床面 ほぼ平坦である。

掘方 起伏があり、床面からの深さは1cm~10cm程で、おおむね建物の周縁部が深い。

竈 東壁の南端近くに設置している。規模は長軸143cm、袖幅50cm、燃焼部幅50cm、壁外への掘り込みは53cmを測る。袖は右袖には30cm×15cm程の柱状の河床礫、左袖には10の甕を据えて灰白色粘質土等で構築している。

貯蔵穴 建物の南東隅でP2を検出した。規模は長径28cm、短径25cm、深さ35cmを測り、長方形に近い形状である。貯蔵穴としては小規模であるが、その可能性もある。

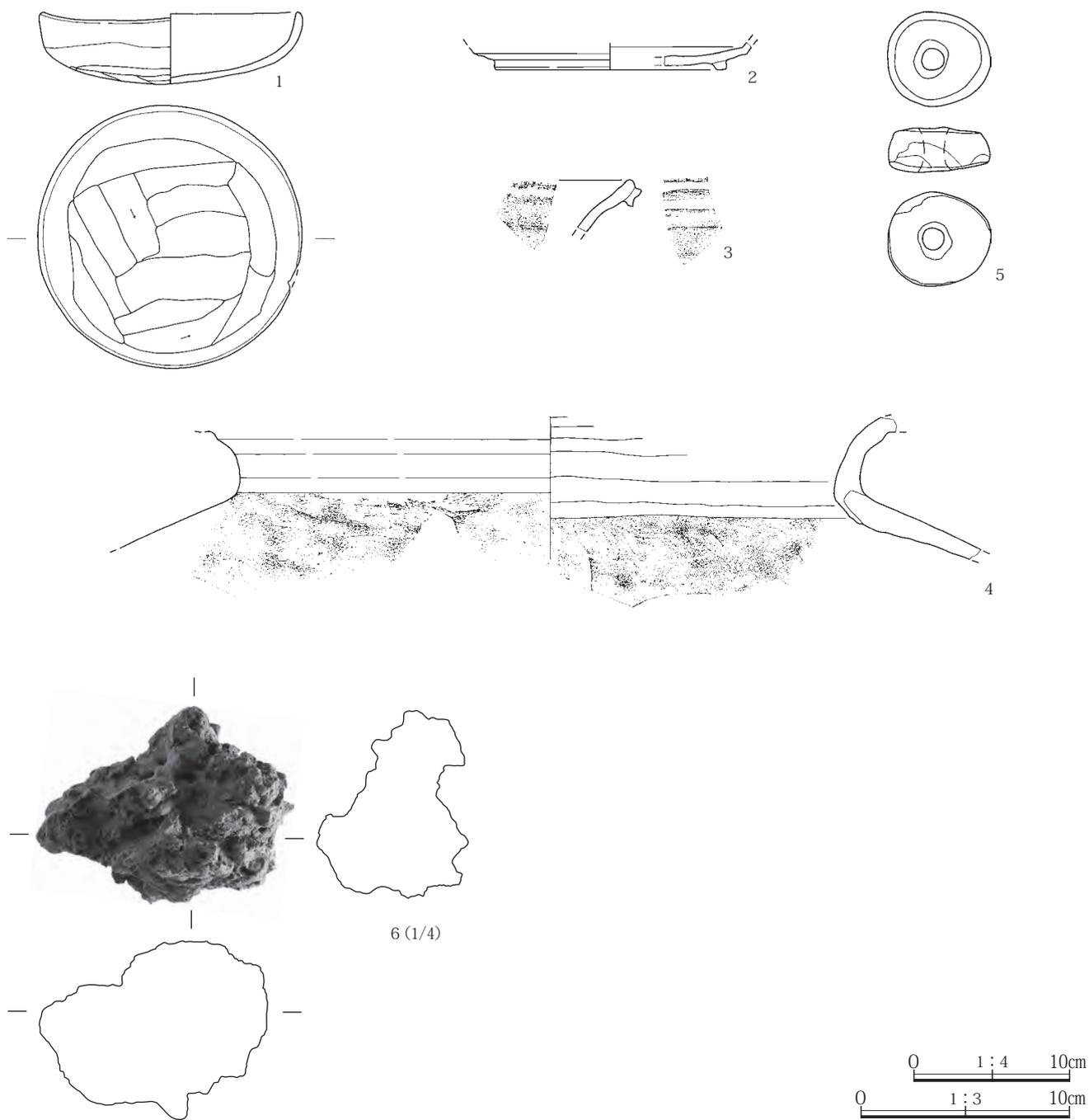
柱穴 床面でP2以外に3基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P1 37×36×14 P3 38×30×23

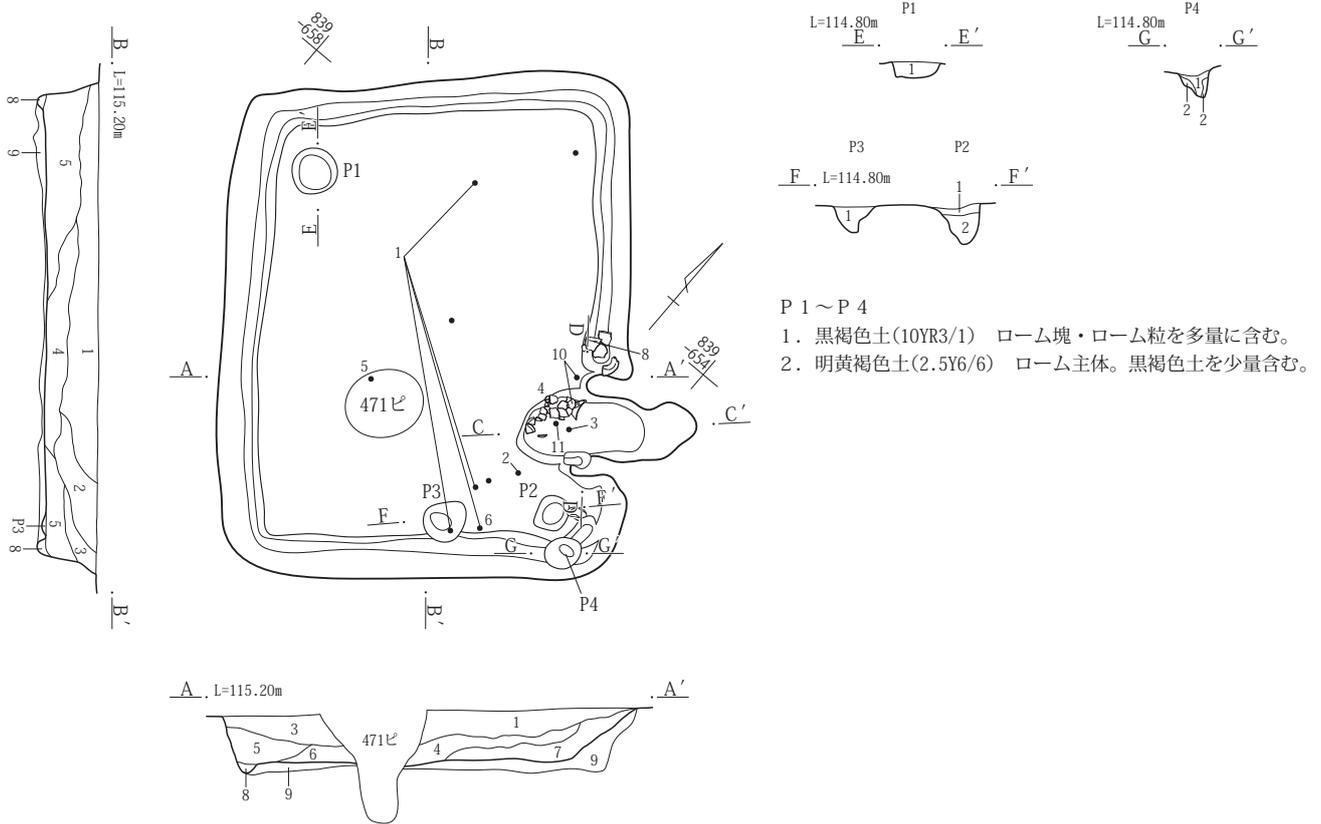
P4 28×25×29

位置からP1・P4が主柱穴の可能性はあるが、明らか

第3章 調査の成果



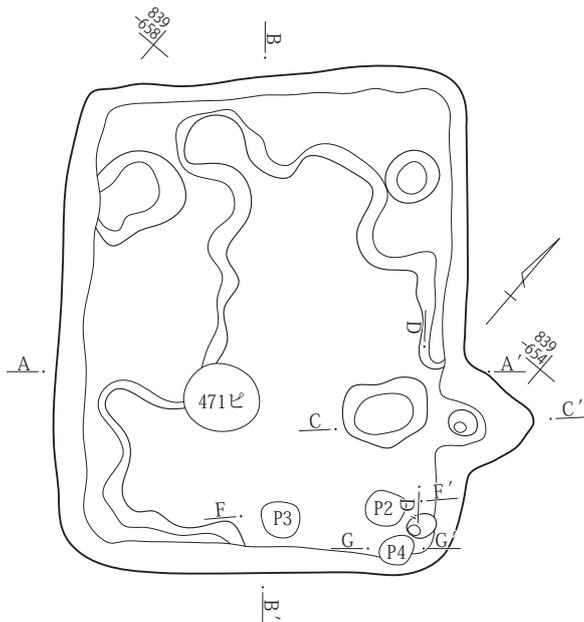
第97図 2区23号竪穴建物出土遺物



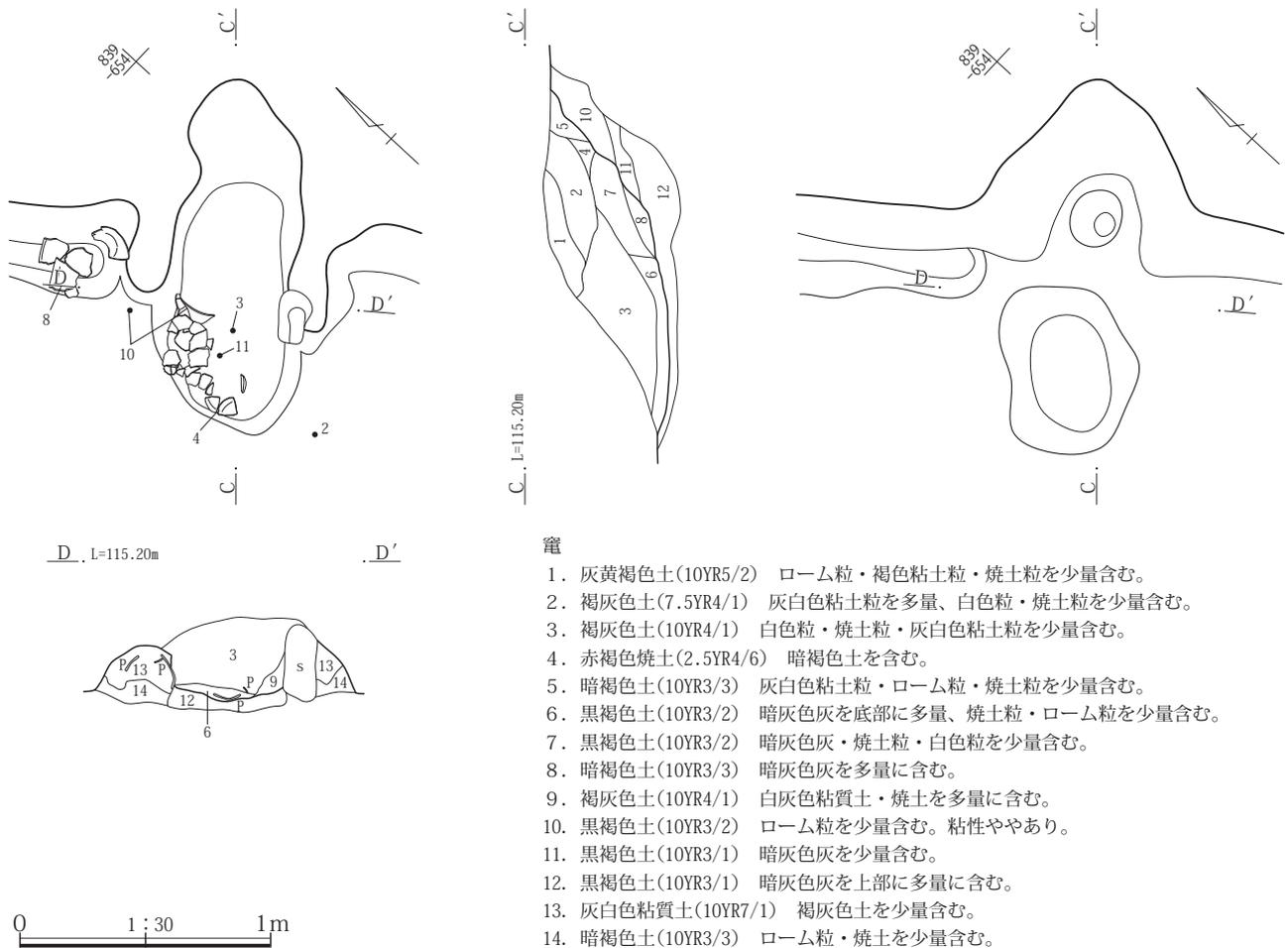
- P 1 ~ P 4
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
  2. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

24号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土・ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性ややあり。
6. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
7. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
8. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締りなし。
9. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム粒を多量、黒褐色土を少量含む。



第98図 2区24号竪穴建物



第99図 2区24号竪穴建物竈

ではない。また、P 1 は形状から貯蔵穴とも考えられる。P 3 はその位置と規模から出入り口に関わる可能性がある。

**壁溝** 全周している。幅 5 cm～15cm、深さ 8 cm を測る。  
**遺物** 床面直上、竈内外、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は 1～6：土師器杯(1・2 は床面直上、3 は竈内、4 は竈焚口)、7：須恵器杯、8：土師器小型甕(床面直上)、9～11：同甕(9 は竈内、10 は竈左袖、11 は竈焚口)、12：須恵器甕である。

**所見** 小規模で主軸に対して横長の長方形の建物である。床面直上で出土した 1・2 の土師器杯は 8 世紀第 1 四半期、竈で出土した 11 の同甕は 8 世紀第 2 四半期、3・4 の同杯は、上記の間の年代観が与えられる。これらの土器から、この建物の時期は、8 世紀第 1 四半期～第 2 四半期である。

### 2区25号竪穴建物(第101・102図、PL.27・100)

調査区北側、22号竪穴建物の10m程西にあり、建物の東側1/2程が攪乱されている。

**座標値** X=42,845～42,850 Y=-55,640～-55,646

**重複遺構** なし

**形状** 攪乱によって広範囲が壊されているので、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、正方形の可能性が高い。

**主軸方位** N-130°-E

**規模** 長軸(4.40m) 短軸(4.30m)

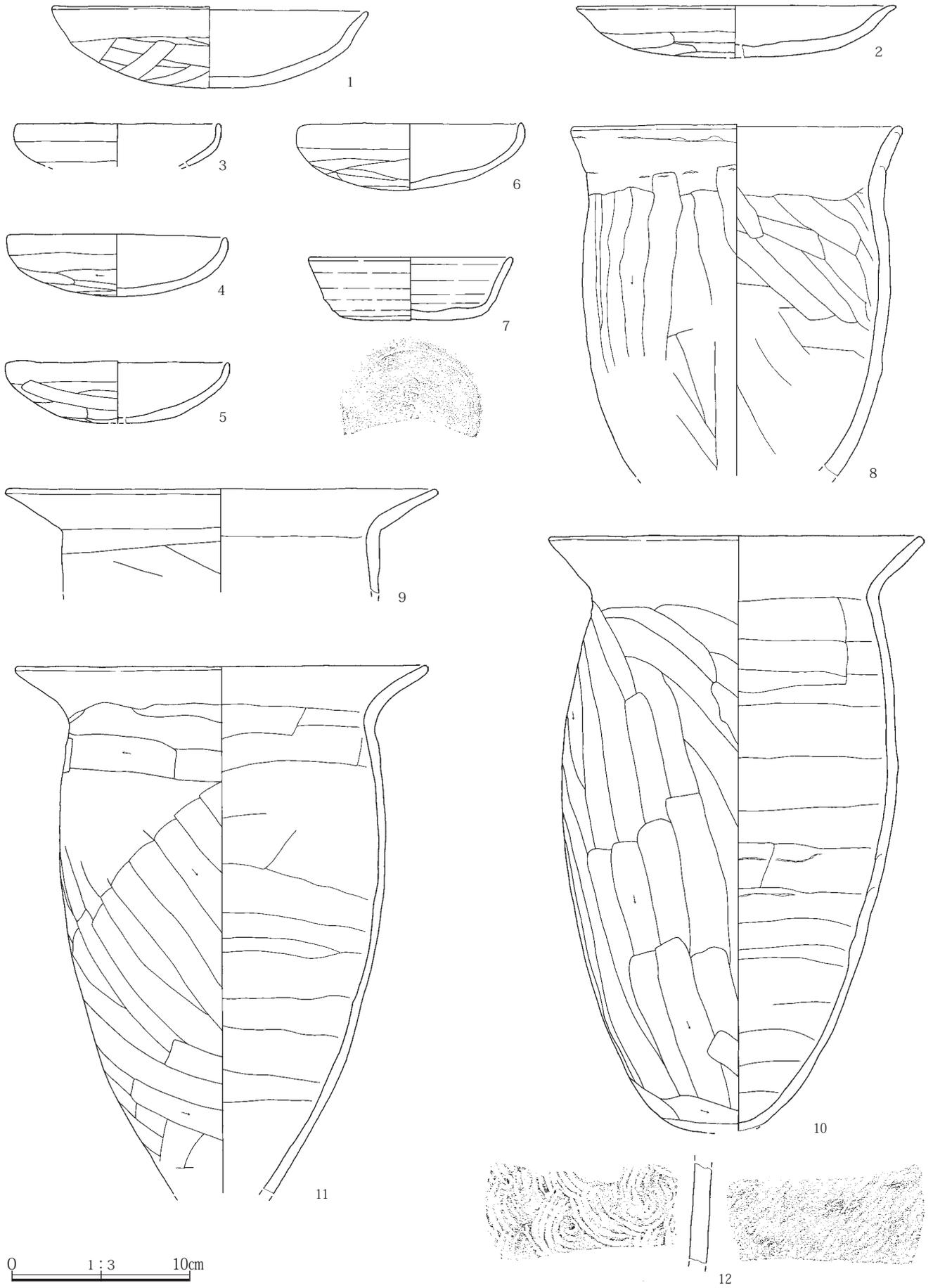
床面積(7.79m<sup>2</sup>) 残存壁高35cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

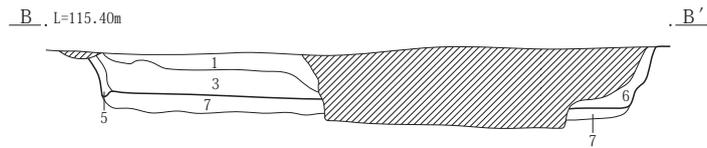
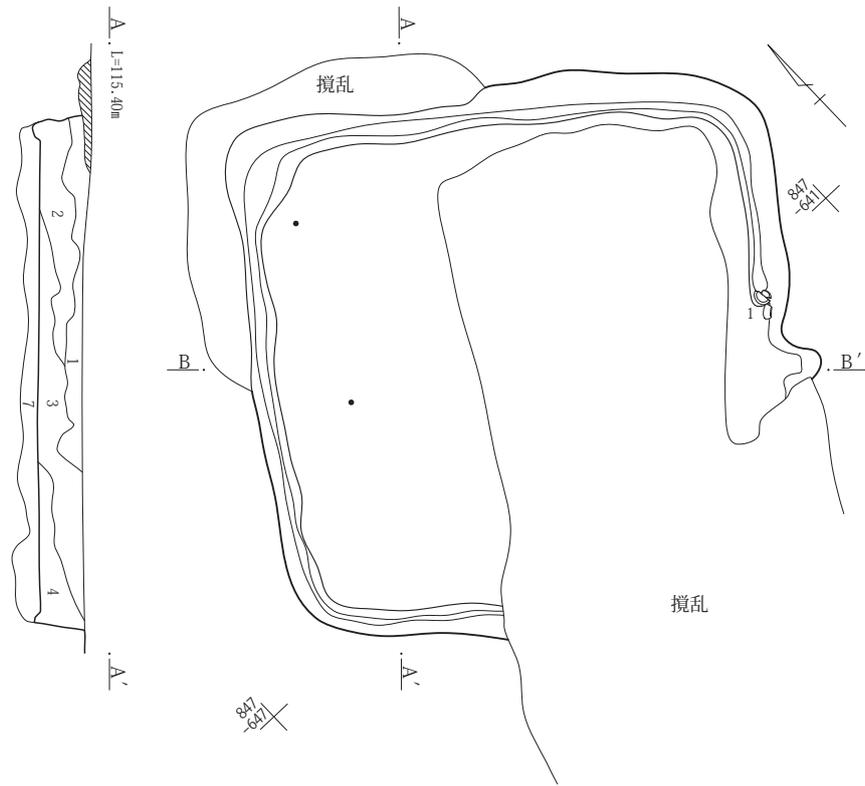
**床面** ほぼ平坦であるが、南方向に向かって僅かに傾斜している。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さは10cm～20cm程である。細かい凹凸も見られる。

**竈** 南東壁のほぼ中央に設置している。攪乱されており、

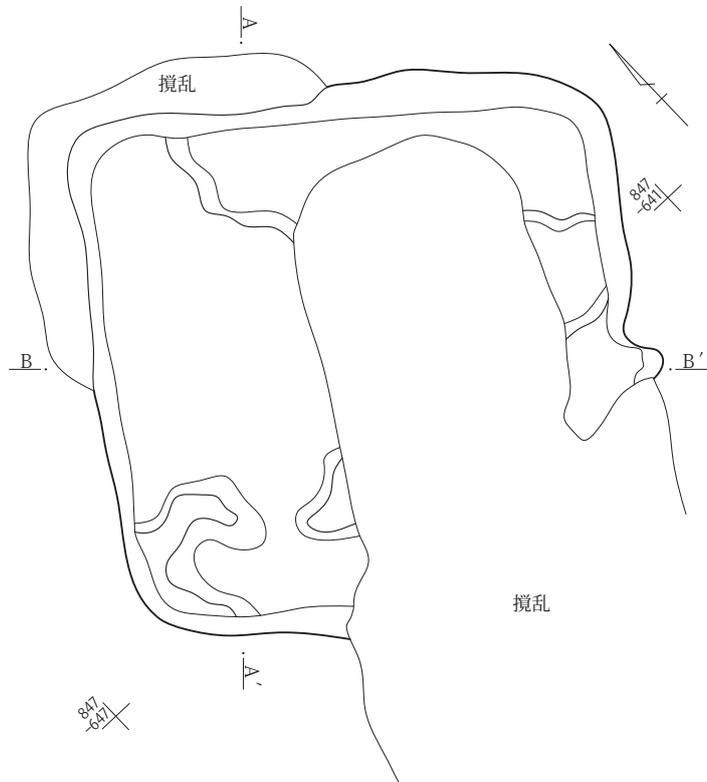


第100図 2区24号竪穴建物出土遺物



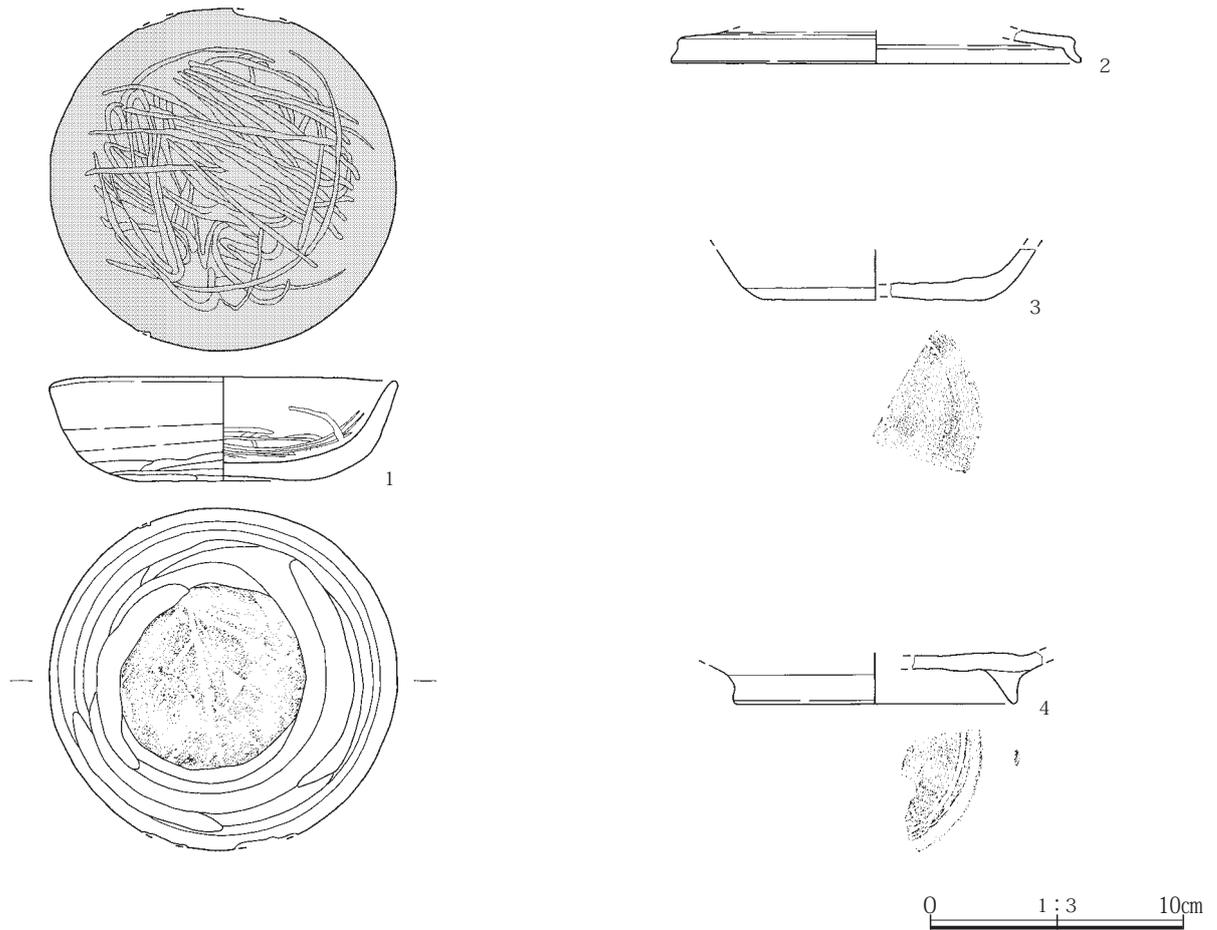
25号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 焼土・ローム粒を少量含む。
7. 暗灰黄色土(10YR5/2) ローム塊を多量に含む。



0 1:60 2m

第101図 2区25号竪穴建物



第102図 2区25号竪穴建物出土遺物

残存したのは燃焼部の一部と掘方のみである。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 床面の残存した範囲では、ほぼ全周している。幅5cm～10cm、深さ3cmを測る。

**遺物** 床面付近、埋没土中から、土師器、須恵器、黒色土器が出土した。掲載した遺物は、1：黒色土器杯(床上13cm、底部に木葉痕が残る)、2：須恵器杯蓋、3：同杯、4：同有台杯である。

**所見** 小規模な建物である。広範囲の攪乱により、建物についての情報、出土遺物が限られているが、床面付近で出土した土師器杯から、時期は8世紀中頃と考えられる。

**2区26号竪穴建物(第103・104図、PL.27・100)**

調査区北側、24号竪穴建物の南西約15mの位置にあり、建物の東側1/2程が攪乱されている。

**座標値** X=42,825～42,831 Y=-55,663～-55,669

**重複遺構** 450号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** 攪乱によって壊されているので、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、長方形とみられる。

**長軸方位** N-45°-E

**規模** 長軸5.08m 短軸(4.30m)

床面積(10.36㎡) 残存壁高50cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。一部に褐色粒が見られる。

**床面** ほぼ平坦であるが、東方向に向かって僅かに傾斜している。

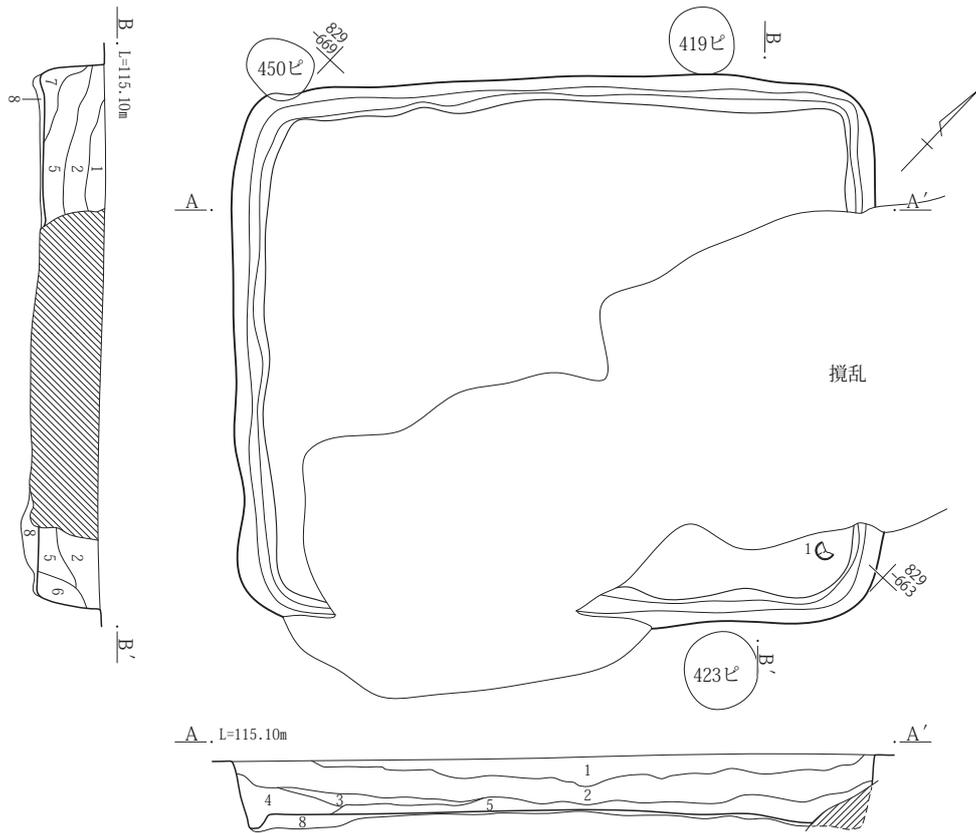
**掘方** 細かい凹凸が見られるが、ほとんどの範囲は5cm未満で、周縁部に15cm程の箇所がある。

**竈** 確認されなかった。北東壁のほとんどの範囲が攪乱されており、その範囲に設置されていた可能性が高い。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

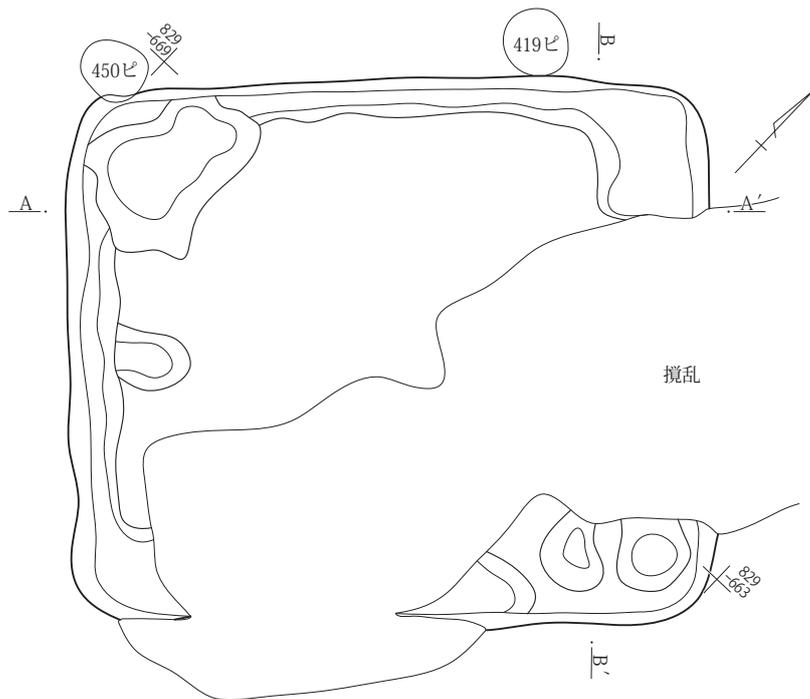
**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 床面の残存した範囲では、全周している。幅5cm、

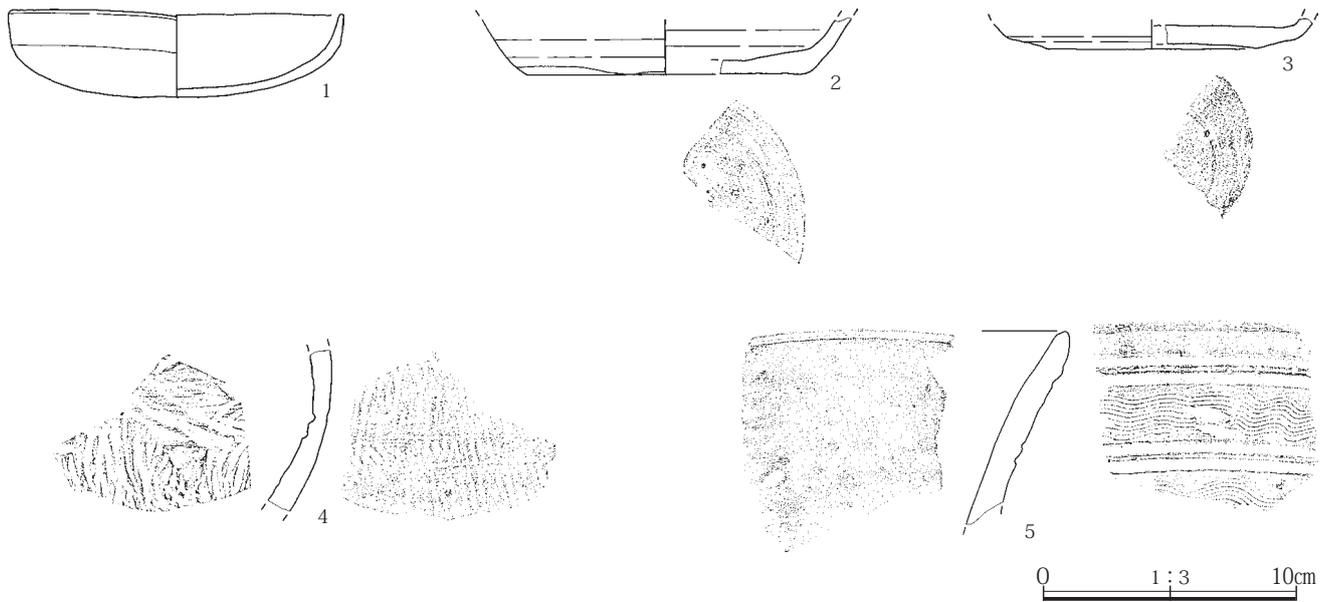


26号竪穴建物

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 白色軽石を少量含む。締りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 白色軽石・褐色粒を少量含む。締りややあり。粘性弱。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 白色軽石を少量含む。締り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊を少量含む。締り弱。粘性ややあり。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 褐色粒を少量含む。締り弱。粘性ややあり。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
8. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒多量に含む。締りあり。粘性ややあり。



第103図 2区26号竪穴建物



第104図 2区26号竪穴建物出土遺物

深さ6cm～12cmを測る。

**遺物** 床面直上、埋没土中から、土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2・3：須恵器杯、4：同壺、5：同甕である。

**所見** 比較的小規模な建物である。広範囲の攪乱により、建物についての情報や出土遺物が限られているが、床面直上で出土した土師器杯から、時期は8世紀後半と考えられる。

**2区27号竪穴建物(第105・106図、PL.27・100)**

調査区北側、26号竪穴建物の南に隣接している。

**座標値** X=42,820～42,825 Y=-55,665～-55,669

**重複遺構** 26号土坑、430号・485号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

**形状** 長方形 **主軸方位** N-14°-E

**規模** 長軸4.40m 短軸3.12m

床面積(10.82㎡) 残存壁高38cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土で、一部に白色軽石を含んでいる。ローム塊が不自然に散在する状況が見られることから、埋め戻された可能性がある。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、1cm未満の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北壁のほぼ中央に設置している。規模は長軸132cm、

袖幅50cm、燃烧部幅60cmを測る。燃烧部が建物の内側にあり、壁外への掘り込みは22cmである。

**貯蔵穴** 建物の北東隅にある。26号土坑によって建物北壁と共に一部が壊されている。調査時は貯蔵穴を含む範囲を26号土坑と判断して調査を進めたが、整理段階でその一部が貯蔵穴であると判断した。残存した範囲から長径66cm、短径60cm程の楕円形とみられ、深さ44cmを測る。

**柱穴** 床面で2基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

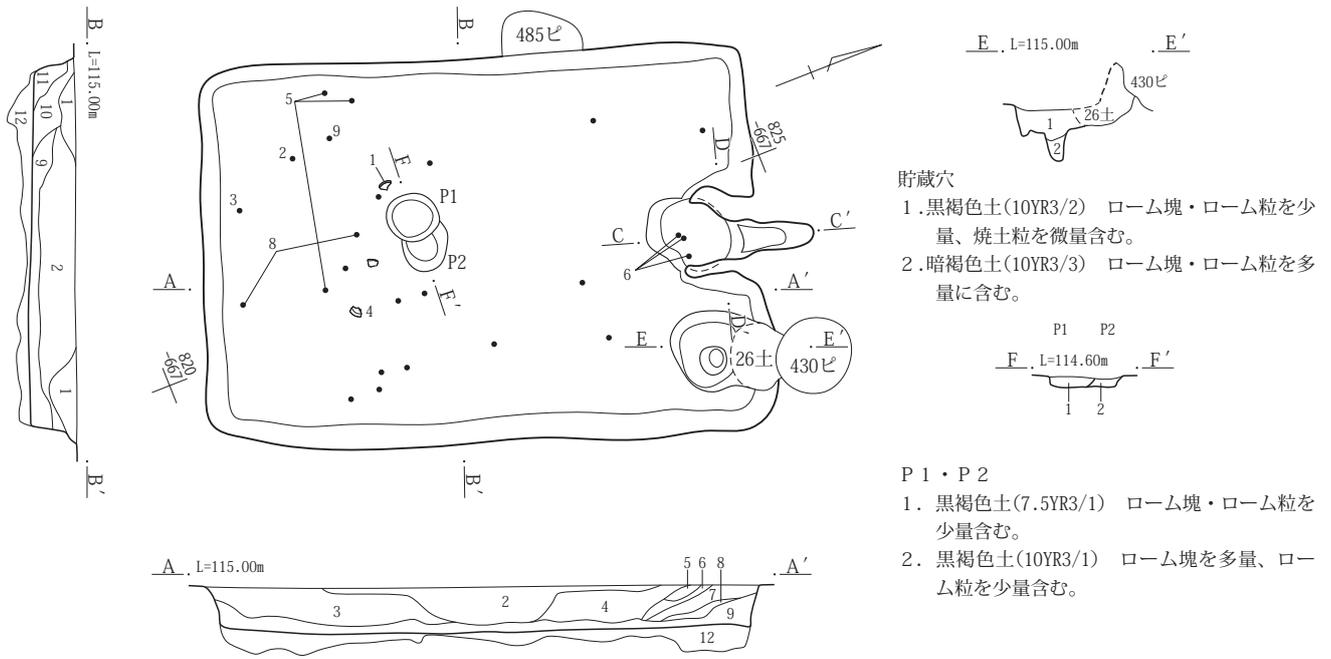
P 1 40×40×10 P 2 40×(35)×12

また、掘方の調査において、ピット状の窪みを3箇所で見出した。これらが、主柱穴にあたるものかは明らかではない。

**壁溝** 確認されなかった。

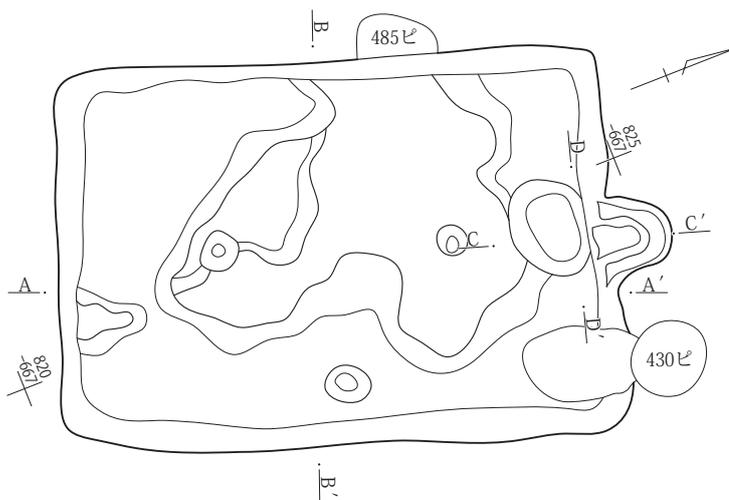
**遺物** 床面直上、竈、埋没土中から多数の土師器が出土した。掲載した遺物は、1～5：土師器杯(1・4・5は床面直上、2は床上9cm)、6：同鉢(竈焚口)、7：同甕、8：同甕(床面直上)、9：同小型甕(床上12cm)である。

**所見** 小規模で主軸に対して縦長の長方形の建物で、長軸が短軸に対して約1.5倍近くある。また、竈が北壁の中央に位置し、本遺跡では例の少ない建物である。床面直上や竈焚口で出土した土器から、時期は6世紀後半である。

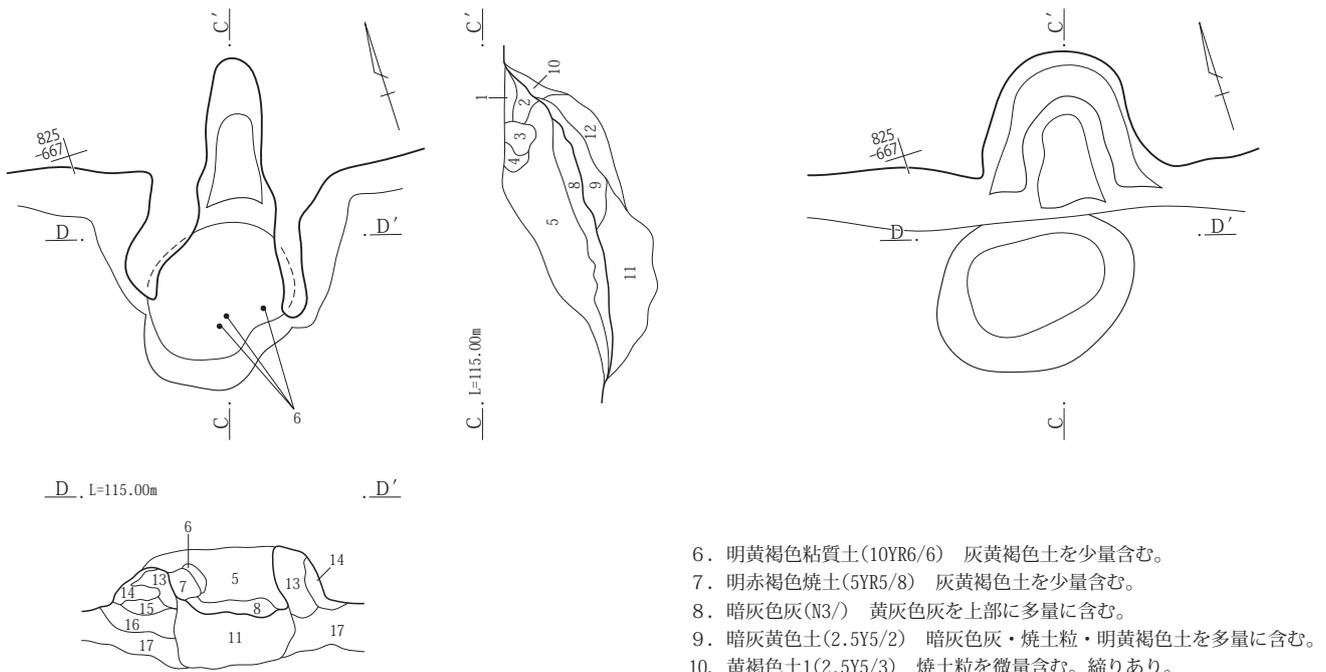


27号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石を微量含む。締りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒を少量含む。締りややあり。粘性弱。
3. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム塊・褐色粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石を少量含む。締りややあり、粘性なし。
6. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を微量含む。締り・粘性ややあり。
7. 黒褐色土(5YR3/1) 白色軽石を少量含む。締り・粘性ややあり。
8. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・黒褐色土を少量含む。締り・粘性ややあり。
9. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・炭化物粒を少量含む。締り弱・粘性ややあり。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・褐色粒を少量含む。締りややあり。粘性弱。
11. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・黒褐色土を微量含む。締り弱。粘性ややあり。
12. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。締り・粘性ややあり。



第105図 2区27号竪穴建物

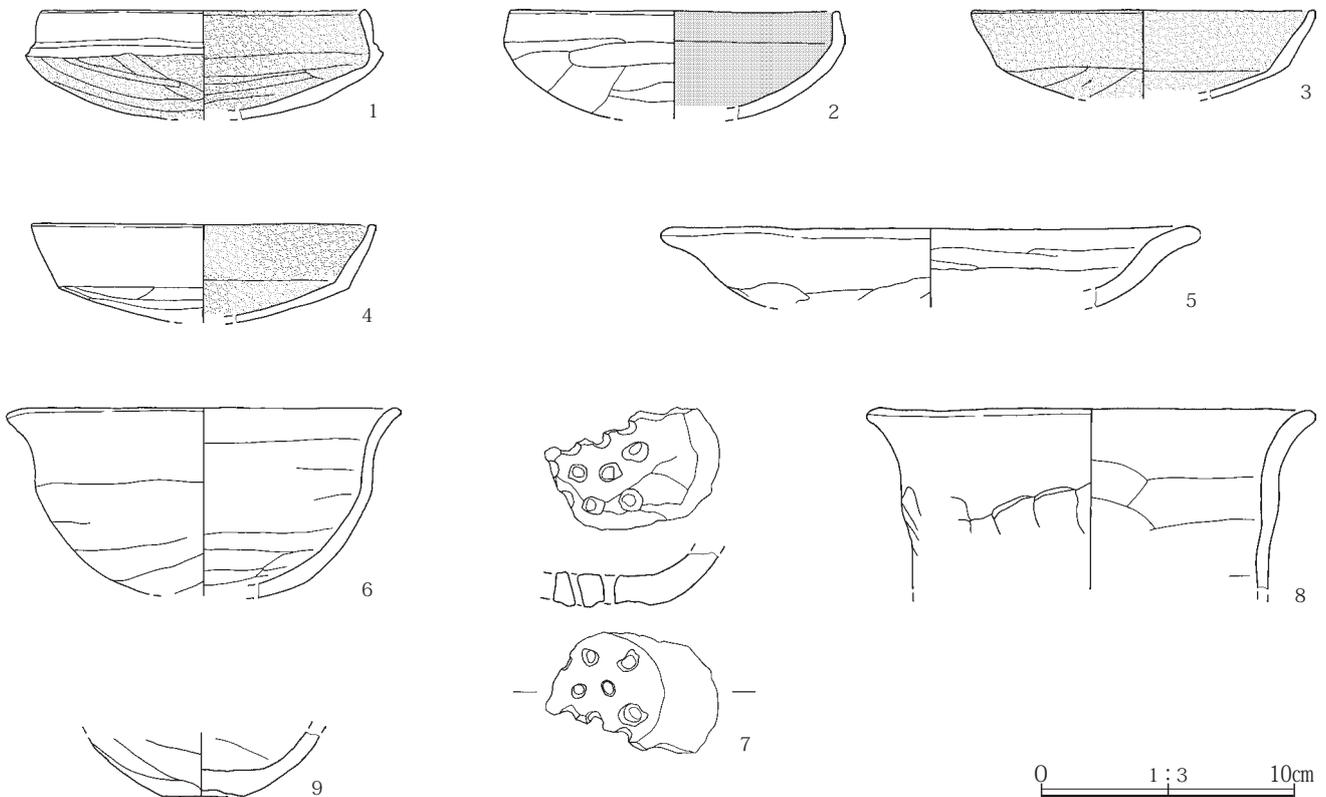


竈

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土粒を多量に含む。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒を少量含む。
3. にぶい黄橙色土(10YR6/4) 下部に焼土を多量に含む。
4. 灰黄褐色土(10YR6/2) 焼土粒・にぶい黄橙色土を微量含む。
5. 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色粘質土を多量、焼土粒を少量含む。

6. 明黄褐色粘質土(10YR6/6) 灰黄褐色土を少量含む。
7. 明赤褐色焼土(5YR5/8) 灰黄褐色土を少量含む。
8. 暗灰色灰(N3/) 黄灰色灰を上部に多量に含む。
9. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 暗灰色灰・焼土粒・明黄褐色土を多量に含む。
10. 黄褐色土1(2.5Y5/3) 焼土粒を微量含む。縮りあり。
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
12. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
13. にぶい黄橙色土(10YR6/4) 褐灰色土・明赤褐色焼土を多量に含む。
14. 褐灰色土(10YR4/1) にぶい黄橙色土・焼土を少量含む。
15. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
16. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、黒褐色土を少量含む。
17. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。縮りややあり。

0 1:30 1m



第106図 2区27号竈・出土遺物

2区28号竪穴建物(第107～109図、PL.28・100)

調査区北側、26号竪穴建物の南西に隣接しており、建物の多くが調査区外にある。

**座標値** X=42,823～42,827 Y=-55,669～-55,674

**重複遺構** 29号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性はあるが、北西側の多くが調査区外にあるため、明らかではない。

**主軸方位** N-78°-E

**規模** 長軸(4.60m) 短軸(4.30m)

床面積(8.92㎡) 残存壁高40cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土で、一部に白色軽石を含んでいる。

**床面** 建物の周縁部に向かい僅かに傾斜が見られるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 全体的に深く起伏があり、床面からの深さが30cm程の所がある一方、10cm未満の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁に設置している。規模は長軸150cm、袖幅70cm、燃烧部幅70cmを測る。燃烧部は建物の内側にあり、壁外への掘り込みは45cmである。左袖及び焚口で、被熱によって変色した礫を確認した。共に人頭大以上である。焚口で出土した礫は右袖あるいは天井石として使用された可能性がある。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径72cm、短径70cmのほぼ円形で、深さ56cmを測る。

**柱穴** 床面で2基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 65×55×80 P 2 25×(25)×61

P 2は、床面での径はP 1に比べかなり小さいが、下部の形状がP 1に近く、共に主柱穴の可能性が高い。

**壁溝** 調査区内では、貯蔵穴付近を除き全周している。幅10cm、深さ6cm～11cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1～4：土師器杯(2は床面直上、3は床上8cm、3は2と近似し、同一工人による製作品の可能性はある。)、5：同甕(竈右袖)、6～8：同甕(6は竈焚口・7は竈内外)、9：須恵器甕(竈内)、10：器種不明土製品(竈内)、11：凹石(床上7cm)、12：砥石、

13：敲石(床上15cm)、14：磨石とみられる石製品である。

**所見** 建物の北西側の多くが調査区外にあるため、規模や形状は明らかではないが、平面形状から、南壁・東壁共に調査区北西壁際で曲がっていく様相が見られる。一辺4.5m前後の正方形に近い形状の可能性はある。竈で出土した甕2点は、6世紀後半と考えられるが、床面直上で出土した複数の遺物から、建物の時期は6世紀末～7世紀前半と考えられる。

2区29号竪穴建物(第110～113図、PL.28・101)

調査区中央、28号竪穴建物の南約15mの位置にある。

**座標値** X=42,805～42,814 Y=-55,674～-55,683

**重複遺構** 30号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-53°-E

**規模** 長軸6.45m 短軸6.40m

床面積39.77㎡ 残存壁高40cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を多量に含む黒褐色土である。一様に多量のローム塊が見られることから、短期間で埋め戻された可能性がある。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 床面から10cm～20cm程の深さで、周縁部に深いところが目立つ。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸170cm、袖幅70cm、燃烧部幅85cmを測る。燃烧部は建物の内側にあり、壁外への掘り込みは75cmである。褐灰色粘質土を使用して構築しており、両袖付近で構築に使用した可能性のある人頭大の礫が出土している。燃烧部を中心に煙道上部に至るまで焼土が多量に見られ、燃烧部底部面の広範囲に灰層が広がっている。長期間にわたって使用されていたと考えられる。

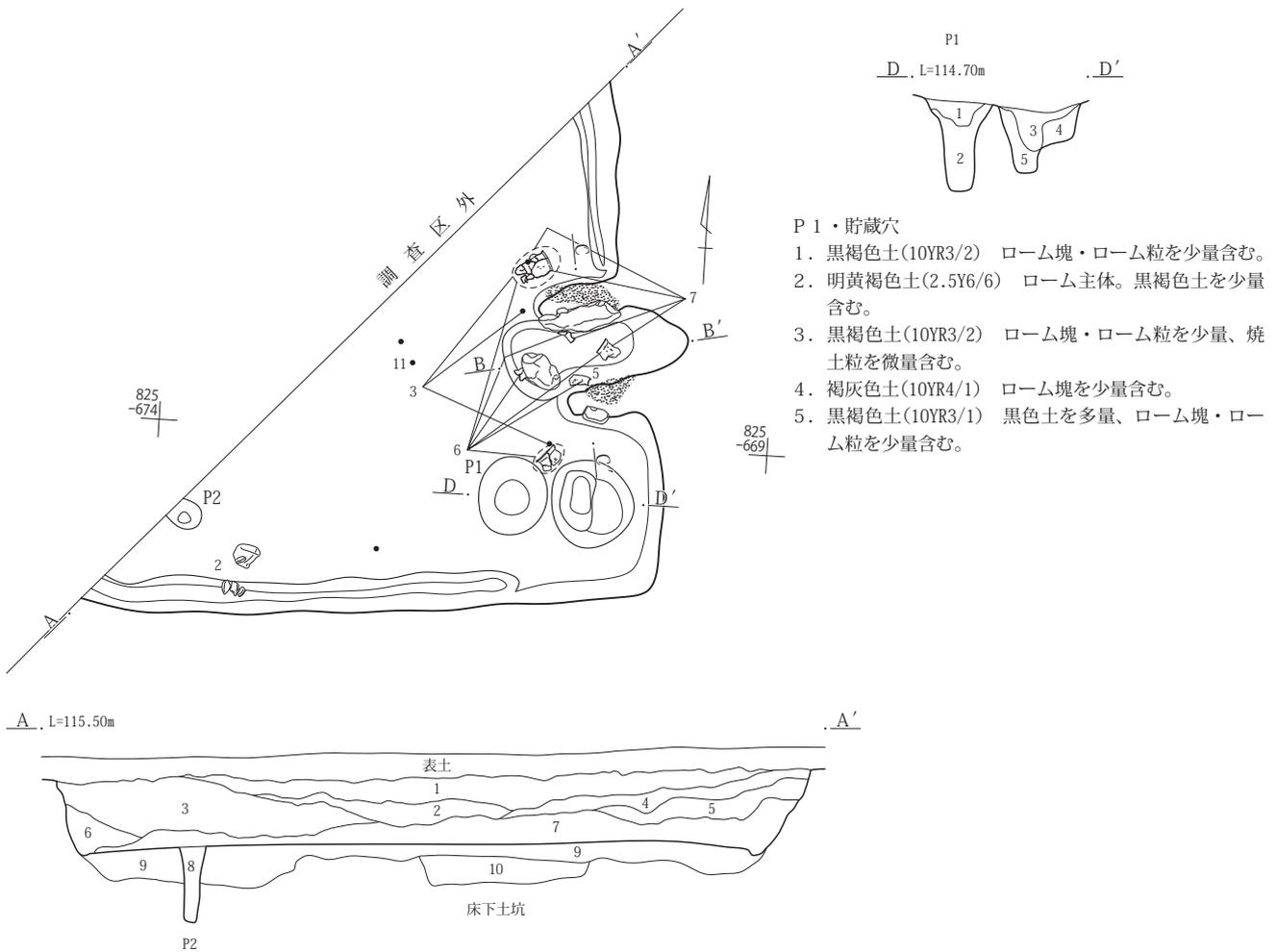
**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径85cm、短径80cmの楕円形、深さ50cmを測る。貯蔵穴を含む1.4m×1.1mの範囲が周囲の床面より10cm程低くなっており、蓋が置かれていた可能性がある。

**柱穴** 床面で6基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 53×50×76 P 2 80×73×72

P 3 60×46×68 P 4 70×65×88

P 5 40×32×33 P 6 40×32×14



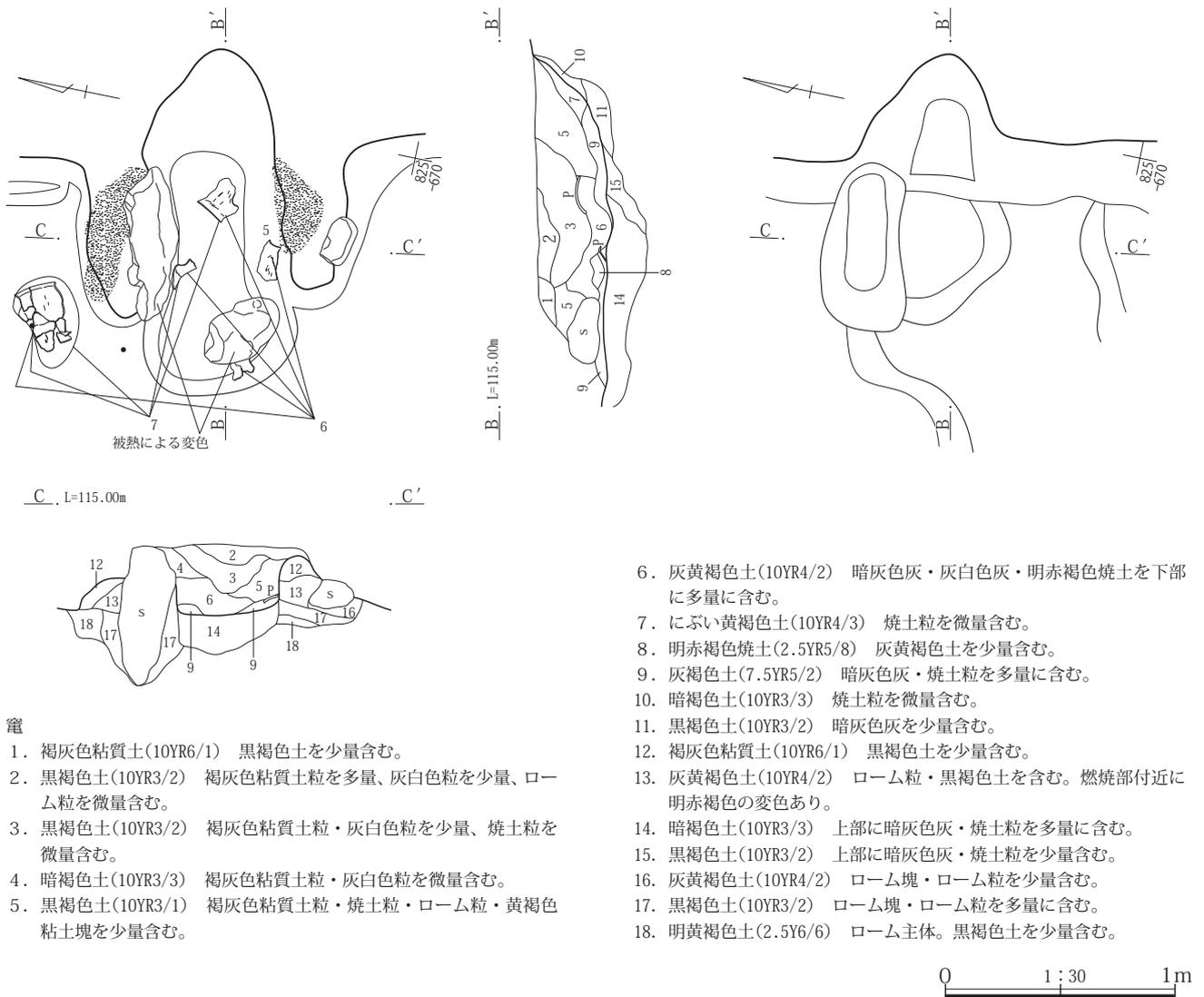
- P1・貯蔵穴
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
  2. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。
  3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
  4. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊を少量含む。
  5. 黒褐色土(10YR3/1) 黒色土を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。

28号竪穴建物

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 締りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土・ローム塊を少量、炭化物を微量含む。締り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石を少量、黒色土・炭化物を微量含む。締りややあり。粘性弱。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) 締りややあり。粘性弱。
6. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
7. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を少量、黒色土・炭化物を微量含む。締り弱。粘性ややあり。
8. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒を多量に含む。 P2
9. 暗褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。締り・粘性ややあり。
10. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 締り・粘性ややあり。 床下土坑



第107図 2区28号竪穴建物



竈

1. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 黒褐色土を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土粒を多量、灰白色粒を少量、ローム粒を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土粒・灰白色粒を少量、焼土粒を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土粒・灰白色粒を微量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土粒・焼土粒・ローム粒・黄褐色粘土塊を少量含む。

6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗灰色灰・灰白色灰・明赤褐色焼土を下部に多量に含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土粒を微量含む。
8. 明赤褐色焼土(2.5YR5/8) 灰黄褐色土を少量含む。
9. 灰褐色土(7.5YR5/2) 暗灰色灰・焼土粒を多量に含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒を微量含む。
11. 黒褐色土(10YR3/2) 暗灰色灰を少量含む。
12. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 黒褐色土を少量含む。
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・黒褐色土を含む。燃烧部付近に明赤褐色の変色あり。
14. 暗褐色土(10YR3/3) 上部に暗灰色灰・焼土粒を多量に含む。
15. 黒褐色土(10YR3/2) 上部に暗灰色灰・焼土粒を少量含む。
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
17. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
18. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

第108図 2区28号竈

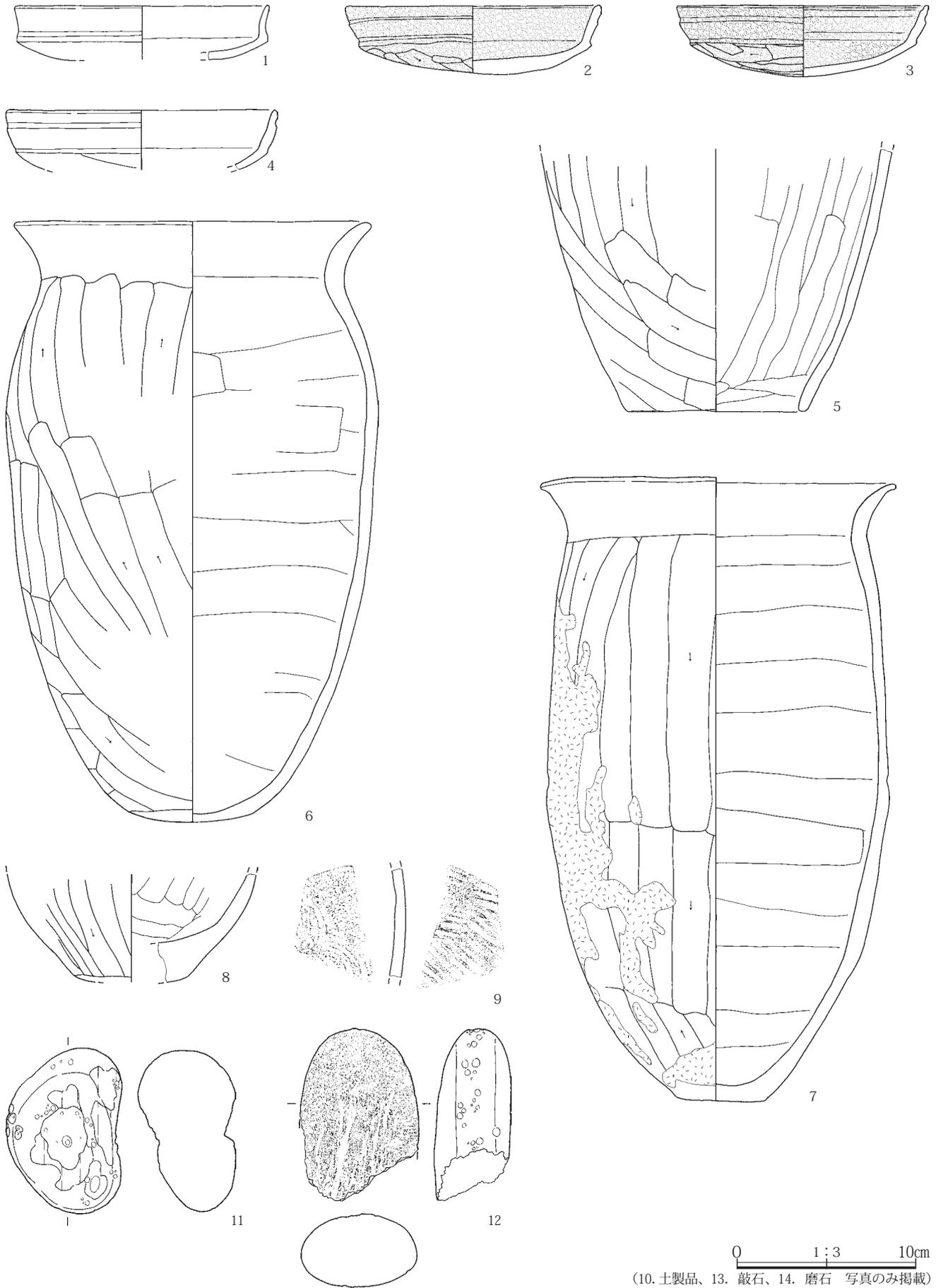
位置や規模、形状から、P 1～P 4が主柱穴と考えられる。

**壁溝** ほぼ全周している。幅 5 cm～10cm、深さ 4 cm～13 cmを測る。

**遺物** 床面直上、貯蔵穴内、埋没土中で土師器が出土した。掲載した遺物は、1～3：土師器杯(1・2は床面直上、3は貯蔵穴内)、4～7：同甕である。

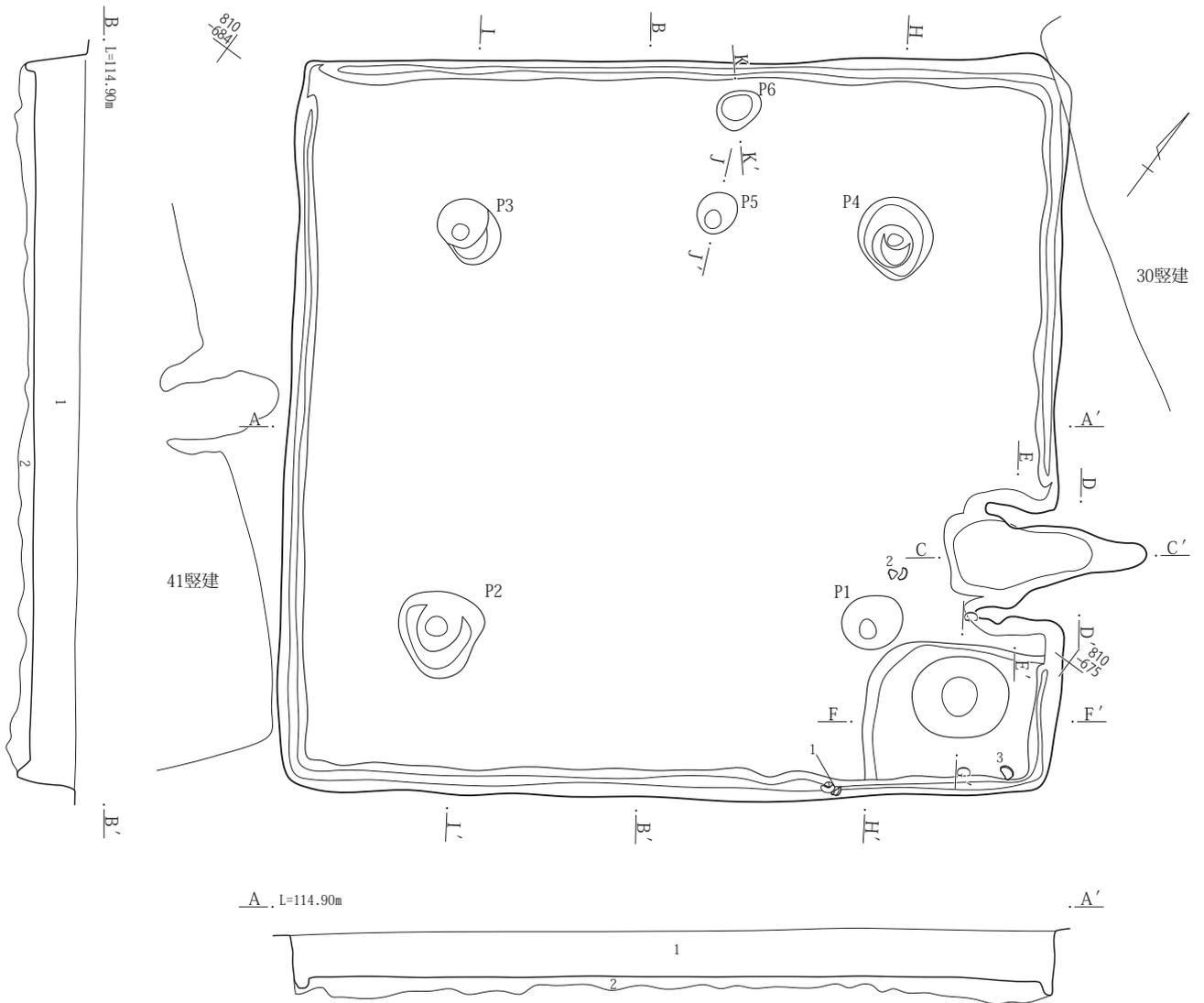
**所見** 本遺跡においては、最大規模の範疇にある建物で、竈・貯蔵穴・柱穴・壁溝の規模や形状から、丁寧に構築

されている様相が見られる。類似する31号竈建物が北側に隣接しており、関わりをもつ建物の可能性がある。P 5・P 6は、31号竈建物や本遺構内の壁や柱との位置関係から、北側にある例は稀であるが、出入り口に関わるものとも考えることもできる。床面直上や貯蔵穴内で出土した遺物から、時期は6世紀後半である。



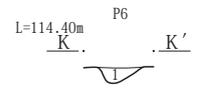
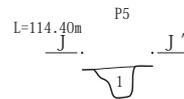
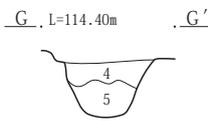
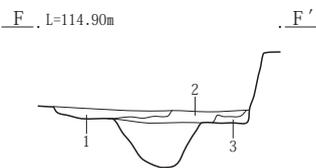
0 1:3 10cm  
 (10. 土製品、13. 敲石、14. 磨石 写真のみ掲載)

第109図 2区28号竪穴建物出土遺物



29号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量に含む。



貯蔵穴

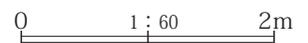
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・褐灰色粘質土塊・炭化物を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 暗褐色土を少量含む。締り・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。

P 5

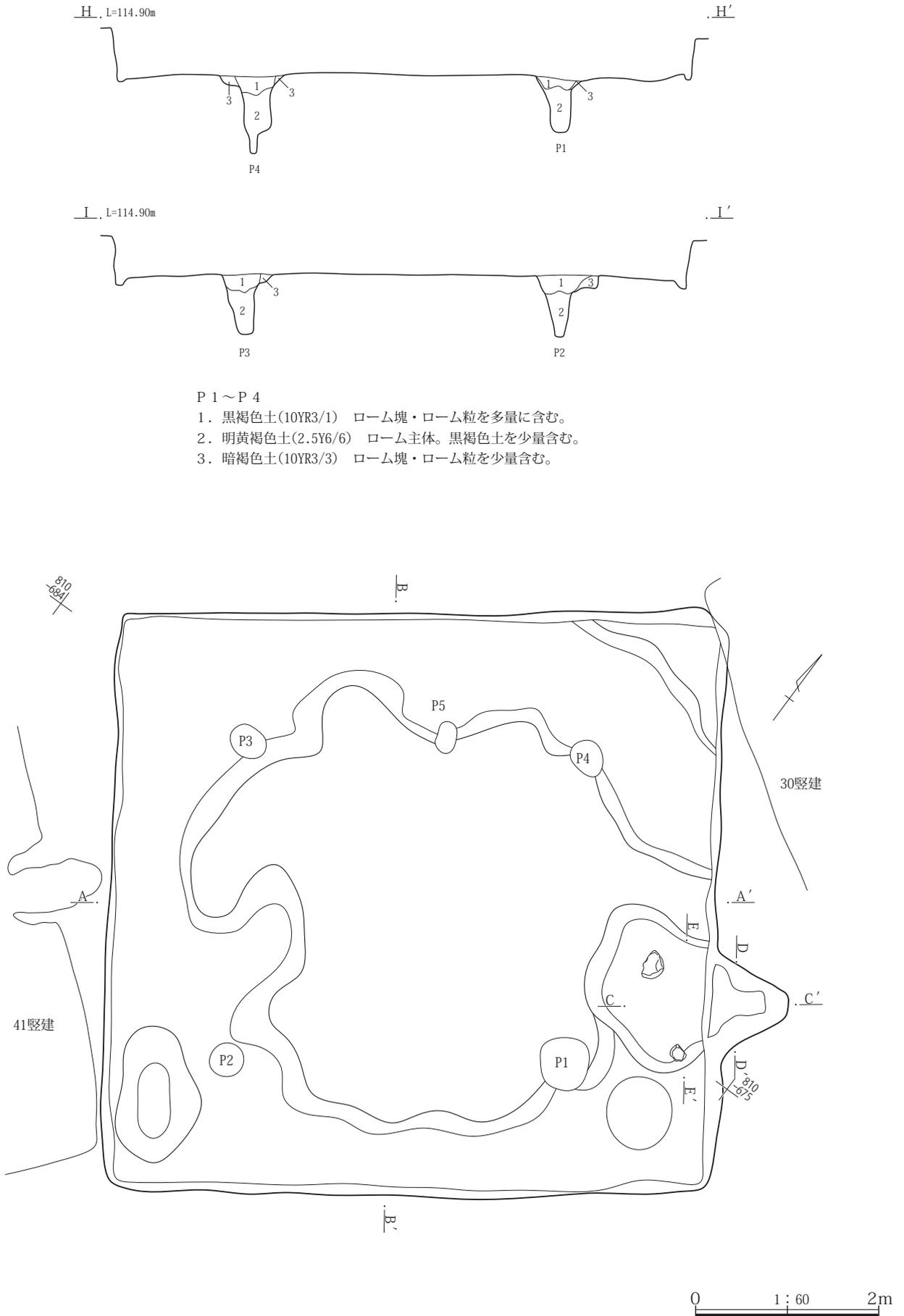
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。

P 6

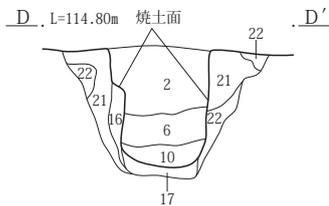
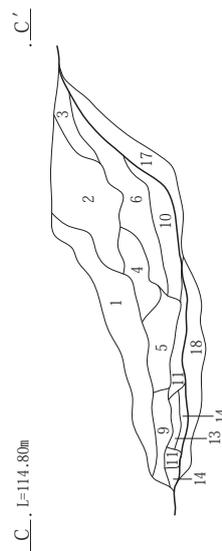
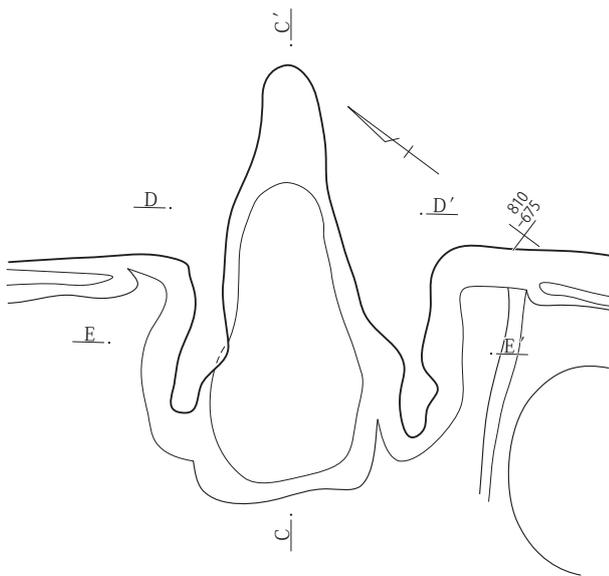
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。



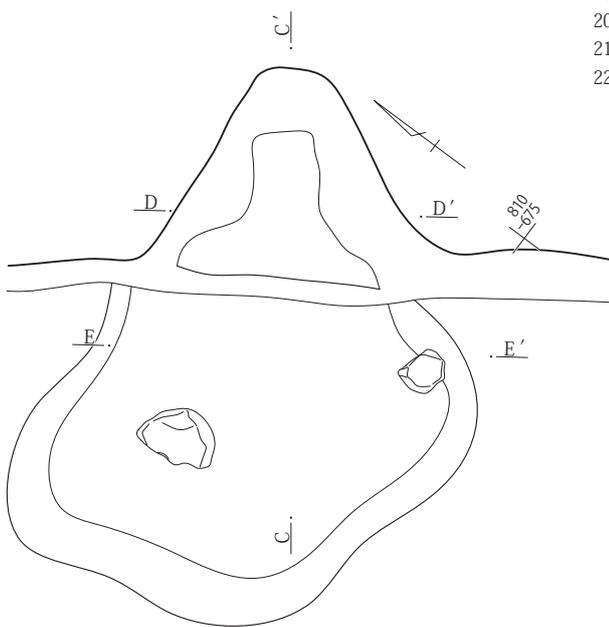
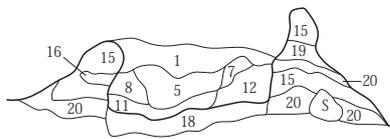
第110図 2区29号竪穴建物



第111図 2区29号竪穴建物掘方

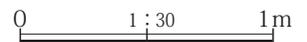


E, L=114.80m

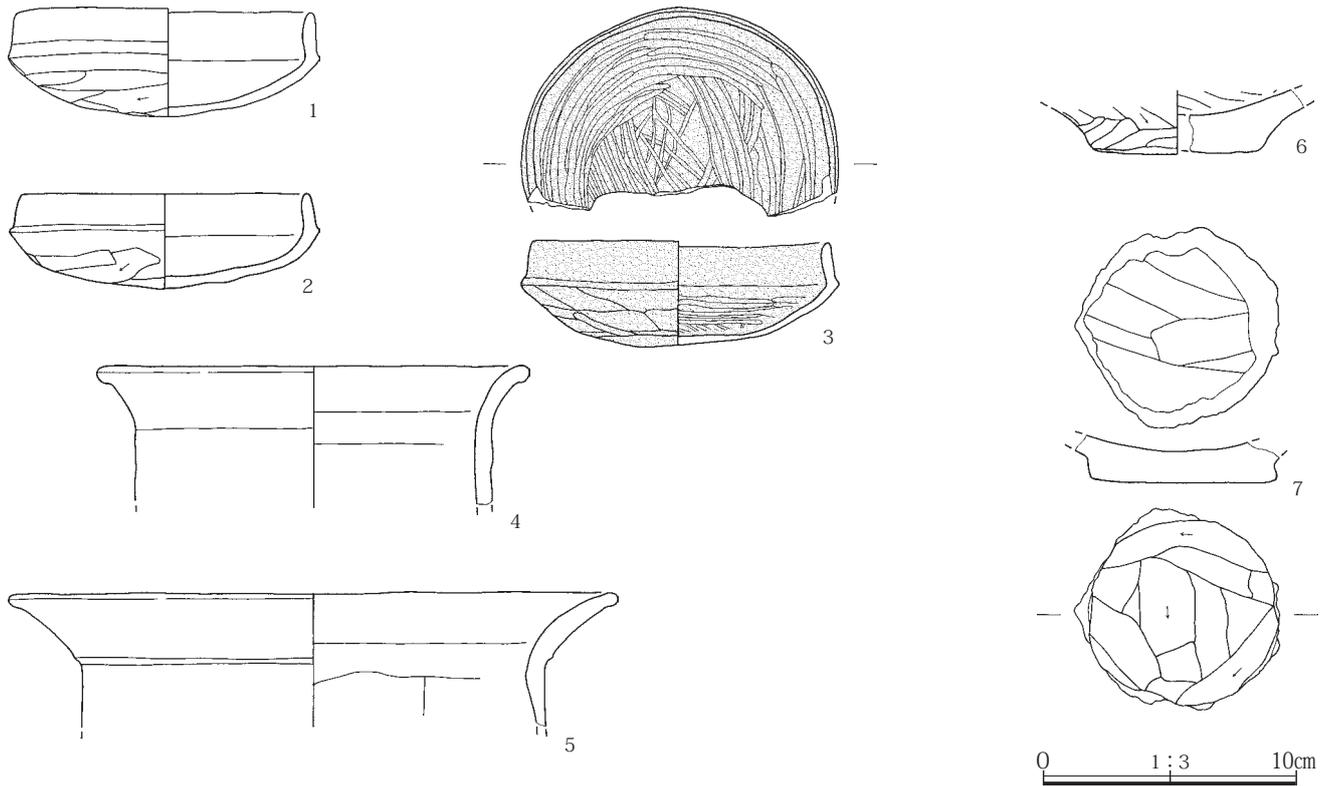


竈

1. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 黒褐色土・ローム粒を微量含む。
2. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 焼土を少量、黒褐色土・ローム粒を微量含む。
3. 褐灰色粘質土(7.5YR6/1) 焼土を少量、ローム粒を微量含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 灰白色粘質土塊を少量、黒褐色土・ローム粒を微量含む。
5. 灰黄褐色土(10YR6/2) 橙色焼土を多量、暗灰色灰を微量含む。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土塊を多量、褐灰色粘質土を少量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) 黄橙色焼土を多量に含む。
8. 灰黄褐色土(10YR5/2) 橙色焼土を多量、暗灰色灰を少量含む。
9. 褐色土(10YR4/4) 黄橙色焼土を少量含む。
10. 明赤褐色焼土(2.5YR5/8) 暗灰色灰を下部に少量含む。
11. 暗灰色灰(N3/) 明赤褐色焼土を少量含む。
12. 灰黄褐色土(2.5YR5/8) 灰白色粘質土塊を少量含む。
13. 明赤褐色焼土(10YR5/2) 暗灰色灰を下部に少量含む。
14. 褐色土(10YR4/4) 明赤褐色焼土を多量に含む。
15. 褐灰色粘質土(10YR5/1) ローム粒を少量、黒褐色土を微量含む。
16. 灰黄褐色土(10YR5/2) 橙色焼土を多量含む。
17. 暗褐色土(10YR3/3) 明赤褐色焼土粒を少量含む。
18. 褐色土(10YR4/3) 明赤褐色焼土を多量、暗灰色灰を上部に少量含む。縮りなし。
19. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石を少量含む。粘性あり。
20. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。粘性あり。
21. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 黒褐色土を少量、ローム粒を微量含む。
22. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 黒褐色土を多量、ローム粒を微量含む。



第112図 2区29号竪穴建物竈



第113図 2区29号竪穴建物出土遺物

**2区30号竪穴建物**(第114・115図、PL.29・101)

調査区中央、29号竪穴建物の北東に位置し、建物の西隅がわずかに重複している。

**座標値** X=42,811~42,816 Y=-55,672~-55,678

**重複遺構** 29号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 長方形

**主軸方位** N-95°-E

**規模** 長軸5.28m 短軸3.50m

床面積16.17㎡ 残存壁高18cm

**埋没土** 主に白色軽石やローム塊を含む黒褐色土で、建物周縁部にはローム塊を含む暗褐色土が堆積している。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さは10cm~20cm程である。細かい凹凸も見られる。

**竈** 南東壁の北端、建物の東隅に設置している。規模は長軸103cm、袖幅40cm、燃焼部幅50cmを測る。燃焼部は完全に建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは40cmである。褐灰色粘質土を使用して構築している。

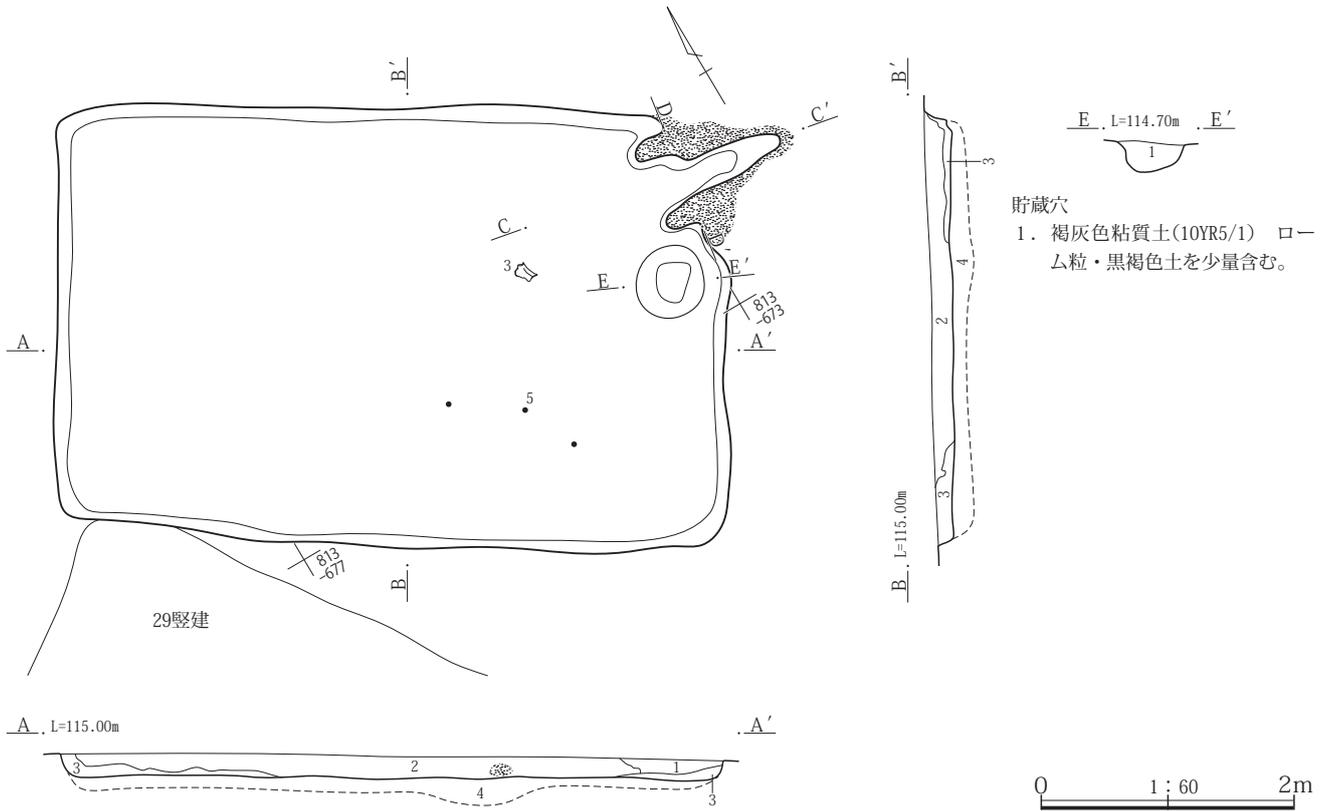
**貯蔵穴** 建物の東隅付近にある。規模は長径58cm、短径55cmのほぼ円形で、深さ27cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 床面直上、埋没土中から土器や石器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯、2：同小型甕、3：同甕(床面直上)、4：須恵器甕、5：凹石(床面直上)である。

**所見** 長軸と短軸の差の大きい長方形の形状で、竈が建物の東隅にある。建物のコーナーにあたる位置に竈を設置している建物は、本遺跡ではこの建物だけである。共伴する出土遺物が少なく、時期の比定は難しいが、29号竪穴建物との新旧関係、床面直上で出土した甕から、時期は6世紀後半~末と考えられる。

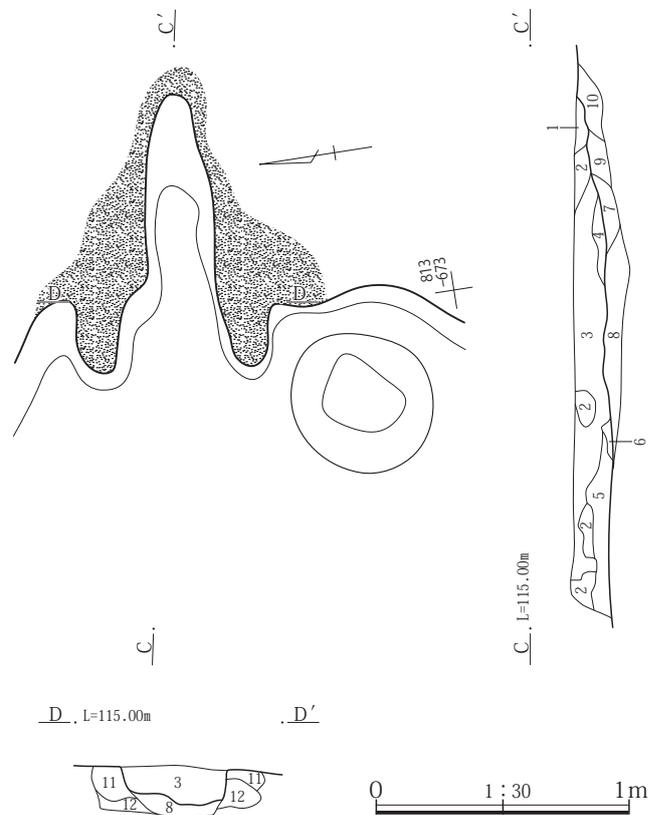


30号竪穴建物

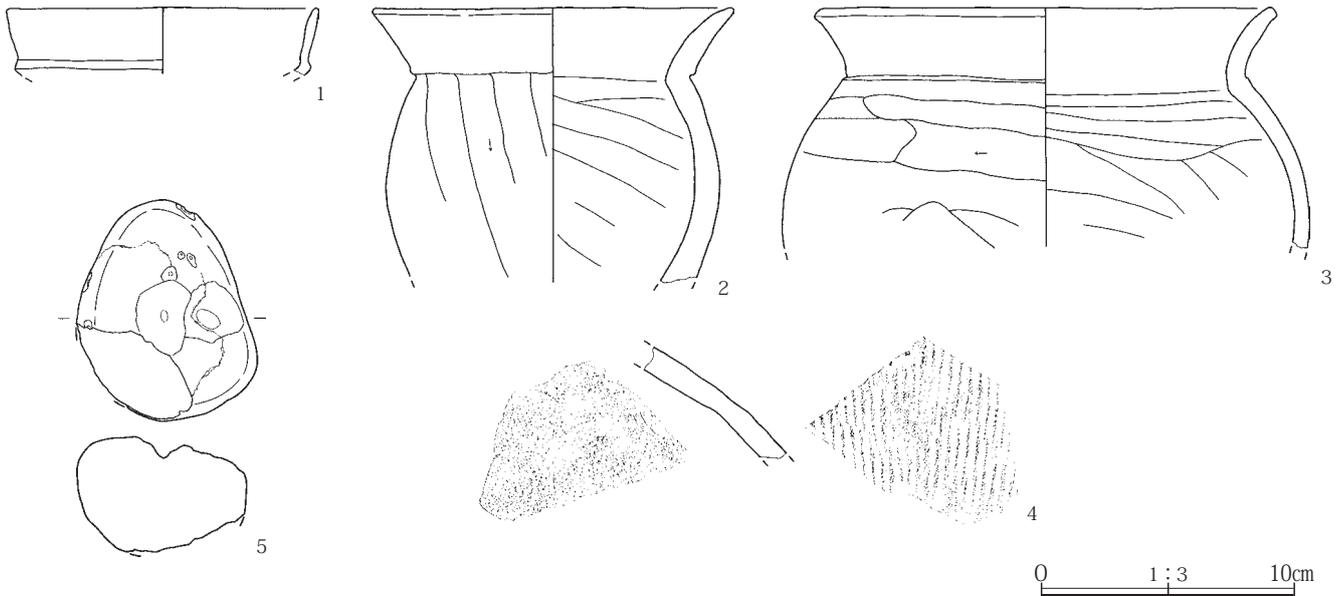
1. 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を少量含む。締りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊を微量含む。締り・粘性ややあり。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。

竈

1. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 焼土を多量、ローム粒・黒褐色土を微量含む。
2. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 焼土粒・ローム粒・黒褐色土を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土粒を多量、焼土粒・ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 明赤褐色焼土を多量、ローム粒を微量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土粒・焼土粒・ローム粒を少量含む。
6. 黒褐色土(2.5Y3/1) 白色軽石・ローム塊を微量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・褐灰色粘質土粒を多量に含む。
8. 黒褐色土(2.5Y3/2) 暗灰色灰・焼土粒を上部に少量含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土粒を少量含む。
10. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 褐灰色粘質土粒を微量含む。
11. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 白色軽石・焼土粒を微量含む
12. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 白色軽石・暗褐色土を少量、焼土粒を微量含む。



第114図 2区30号竪穴建物・竈



第115図 2区30号竪穴建物出土遺物

**2区31号竪穴建物**(第116・117図、PL.29・101)

調査区中央の西寄り、29号竪穴建物の北西に隣接しており、建物の大部分が調査区外にあるとみられる。

**座標値** X=42,812~42,817 Y=-55,678~-55,684

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性が高いが、建物の多くが調査区外にあるため、明らかではない。

**主軸方位** N-50°-E

**規模** 長軸6.20m 短軸(2.50m)

床面積(9.79㎡) 残存壁高54cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。ローム塊を多量に含む土が偏って堆積していることから、埋め戻された可能性がある。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁に設置している。規模は長軸143cm、袖幅28cm、燃烧部幅45cmを測る。燃烧部は建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは43cmである。褐灰色粘質土を使用して構築されている。

**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径83cm、短径74cmの楕円形で、深さ86cmを測る。貯蔵穴を含む1.2m×0.8mの範囲が周囲の床面より10cm程低くなっており、蓋が置かれていた可能性がある。

**柱穴** 床面でピットを2基検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

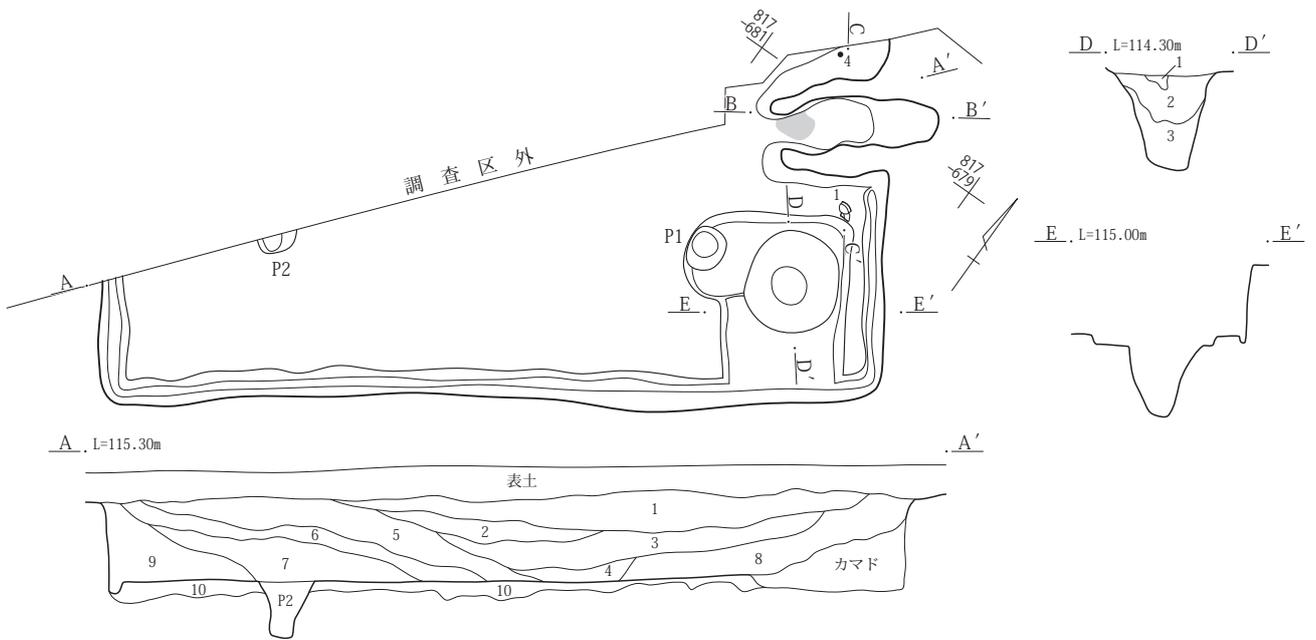
P 1 35×30×51 P 2 30×(15)×36

位置や規模、形状から、P 1は主柱穴と考えられる。P 2は北側が調査区外に出る位置にあるが、確認できた範囲での規模や形状から、P 1同様に主柱穴の可能性が高い。

**壁溝** 調査区内では、ほぼ全周している。幅5cm~10cm、深さ3cm~10cmを測る。

**遺物** 床面直上や竈内、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2：同高杯(竈内、器面が厚く口縁部がヘラナデであるため、他機種の可能性もある。)3：須恵器蓋杯の蓋(竈内)、4：土師器甕(竈左袖)である。

**所見** 建物の大部分が調査区外にあるため、建物全体の規模は明らかではない。確認できた範囲を見る限り、主軸方位がほぼ同じで、南側に隣接する29号竪穴建物に類似している。また、時期は床面直上で出土した遺物等から6世紀後半と考えられ、29号竪穴建物と同様である。この2つの建物は、何らかの関わりのある建物として、同時期に存在していた可能性がある。

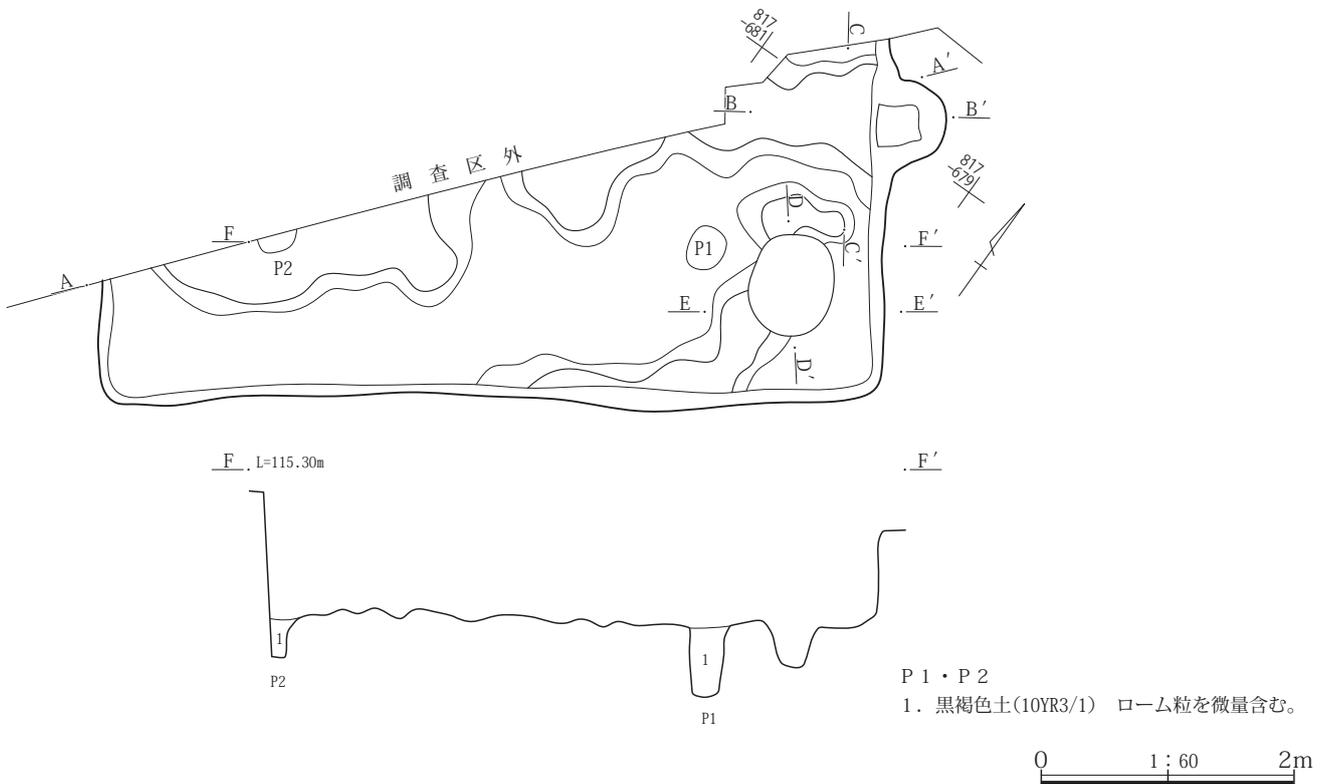


貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ローム塊を微量含む。
3. 明黄褐色土(2.5Y6/6) 黒褐色土を少量含む。

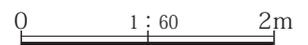
31号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を多量、ローム粒を微量含む。粘性あり。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
9. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
10. 明黄褐色土(2.5Y6/6) 黒褐色土を少量含む。

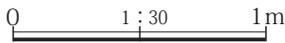
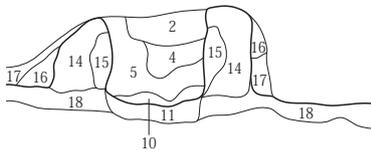
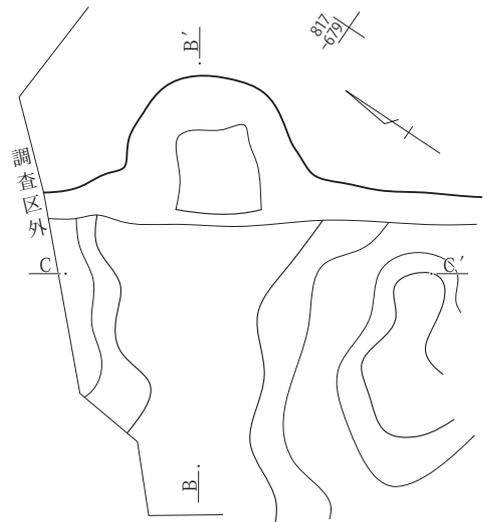
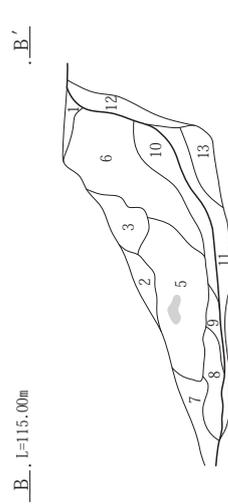
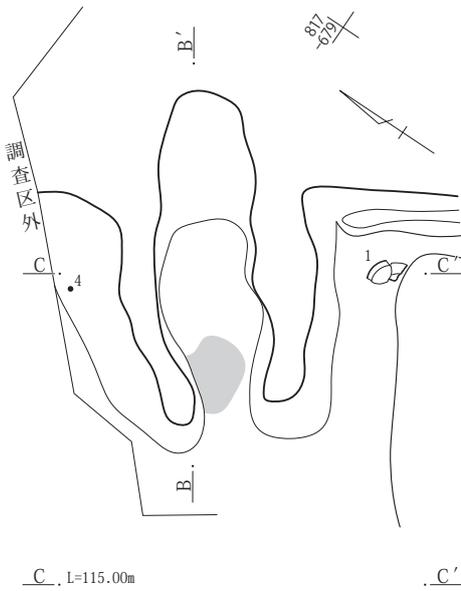


P1・P2

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を微量含む。

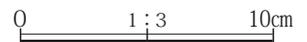
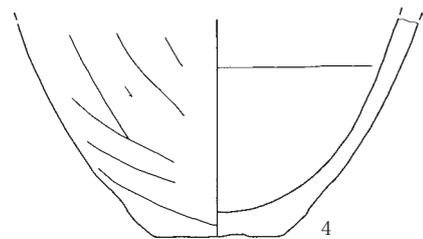
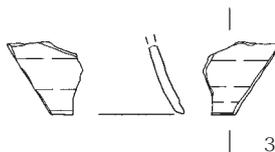
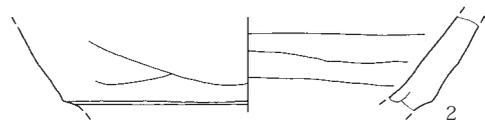
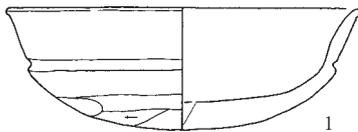


第116図 2区31号竪穴建物



竈

1. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土塊を少量含む。
2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土粒を少量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色粘質土を多量に含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 焼土塊を多量に含む。
5. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 焼土粒・黒褐色土を微量含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 褐灰色粘質土粒を多量、焼土粒を少量含む。
7. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土塊・焼土粒を少量含む。
8. 明赤褐色焼土(2.5YR5/8) 暗灰色灰・褐灰色灰を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・暗灰色灰を少量含む。
10. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土塊・焼土粒を多量に含む。
11. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 上部に暗灰色灰・焼土を多量、褐灰色粘質土を少量含む。
12. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 一部に明赤褐色の変色が見られる。
13. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 褐灰色粘質土を少量含む。
14. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) ローム粒・黒褐色土を微量含む。
15. 橙色焼土(2.5YR6/2) 黒褐色土を微量含む。
16. 灰褐色土(7.5YR6/6) ローム粒を微量含む。
17. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒を微量含む。
18. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第117図 2区31号竪穴建物竈・出土遺物

2区32号竪穴建物(第118・119図、PL.29・101)

調査区北側、25号竪穴建物の5m程西にあり、建物の大部分が調査区外にある。

座標値 X=42,845~42,848 Y=-55,649~-55,653

重複遺構 5号柱穴列と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

形状 確認できた範囲の形状から、方形の可能性はあるが、大部分が調査区外にあるため、明らかではない。

長軸方位 N-60°-E

規模 長軸(3.50m) 短軸(1.10m)

床面積(2.05㎡) 残存壁高57cm

埋没土 主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土で、所々に焼土や炭化物を僅かに含んでいる。

床面 ほぼ平坦であるが、わずかに起伏が見られる。

掘方 全体的に深く起伏があり、床面からの深さが30cm程の所がある一方、10cm未満の所もある。細かい凹凸も

見られる。

竈 確認されなかった。

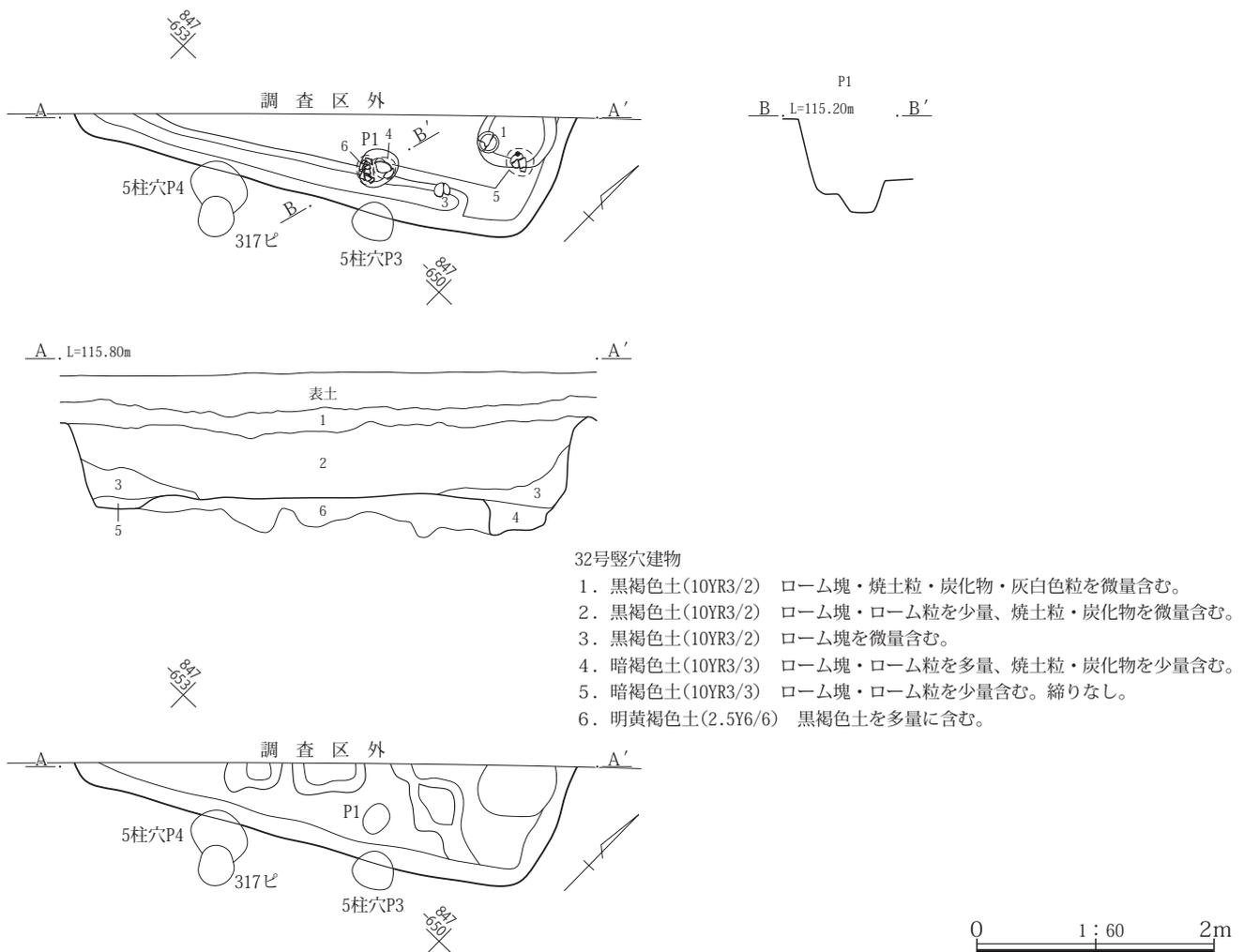
貯蔵穴 建物の東隅と考えられる位置で、北側は調査区外にある。規模は長径65cm、短径(45cm)、深さ26cmを測る。形状は楕円形の可能性が高いが明らかではない。

柱穴 南東壁中央よりやや東の位置付近の床面でP1を確認した。規模は長径36cm、短径30cm、深さ24cmである。建物について確認できた範囲に限られているため明らかではないが、その位置から支柱穴の可能性は低い。

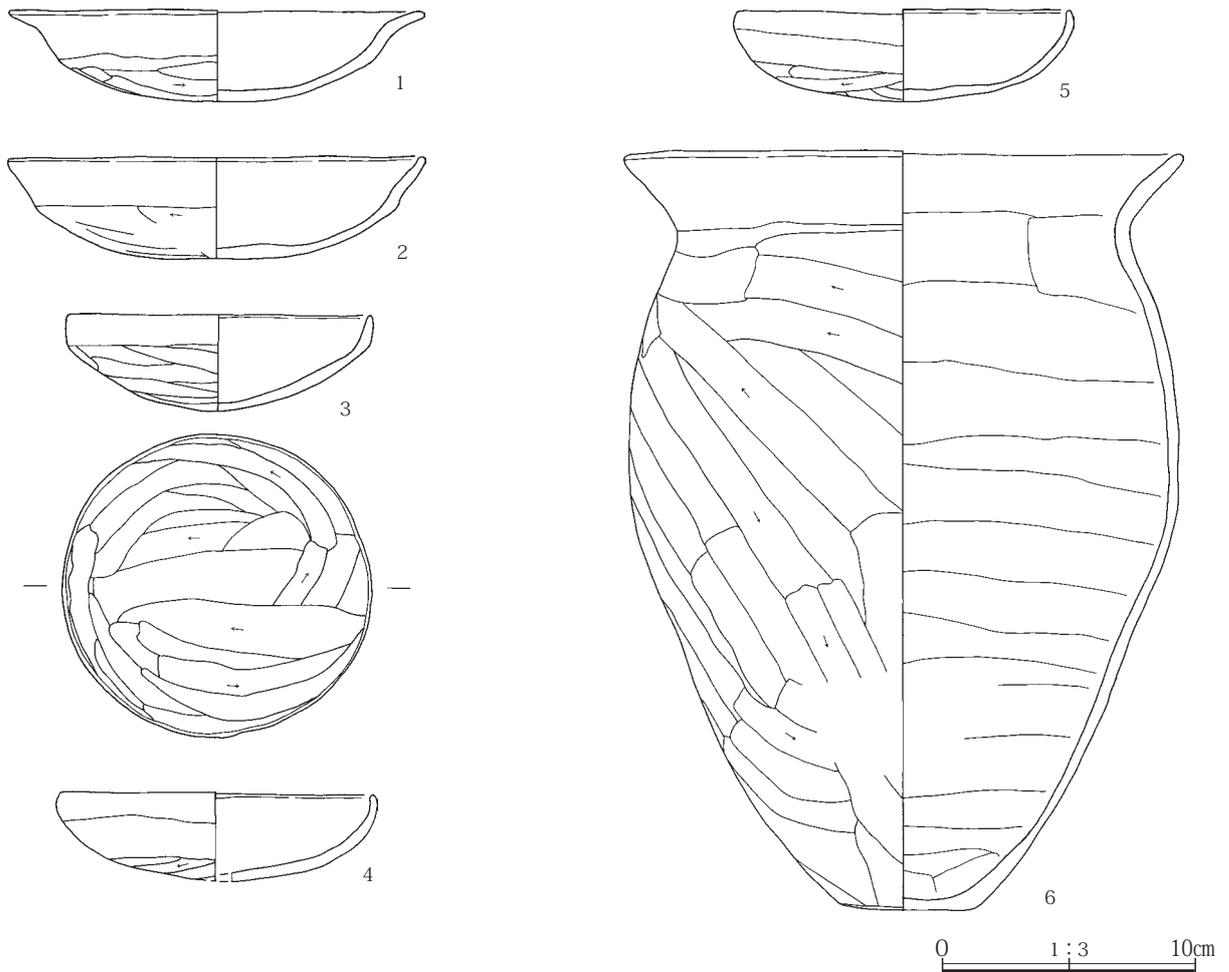
壁溝 南壁で確認した。幅15cm、深さ6cm~8cmを測る。

遺物 床面直上、P1内、埋没土中から土師器が出土した。掲載した遺物は、1~5:土師器杯(1・5は床面直上、4は床下11cm)、6:同甕(P1内床下11cm)である。

所見 西端の平面形状から、そこが建物の南西隅である可能性があり、小規模な建物とみられる。床面直上で出土した土師器杯は8世紀第1四半期に比定できるが、ピ



第118図 2区32号竪穴建物



第119図 2区32号竪穴建物出土遺物

ット内で出土した土師器甕は頸部がくの字状を呈し、胴部上位の整形に横方向のへら削りが見られることから、8世紀第3四半期に近い年代観が与えられる。このことから、建物の時期は8世紀第2四半期と考えられる。

**2区33号竪穴建物**(第120～122図、PL.30・101)

調査区中央、30号竪穴建物の10m程東にある。

**座標値** X=42,808～42,812 Y=-55,663～-55,667

**重複遺構** なし

**形状** 南壁より北壁の長い方形

**主軸方位** N-98°-E

**規模** 長軸3.80m 短軸3.15m

床面積9.04㎡ 残存壁高40cm

**埋没土** 主に白色粒を含む黒褐色土や暗褐色土で、一部にローム塊やローム粒を含む。埋没土中で小片の土器と共に多数の礫を検出した。ほとんどが拳大以下で丸みを帯びている。建物中央ほど床面に近く、周縁部ほど高い

位置で出土しており、埋没途中で投棄された可能性がある。

**床面** ほぼ平坦であるが、わずかに起伏があり、南東方向に向かって僅かに傾斜している。

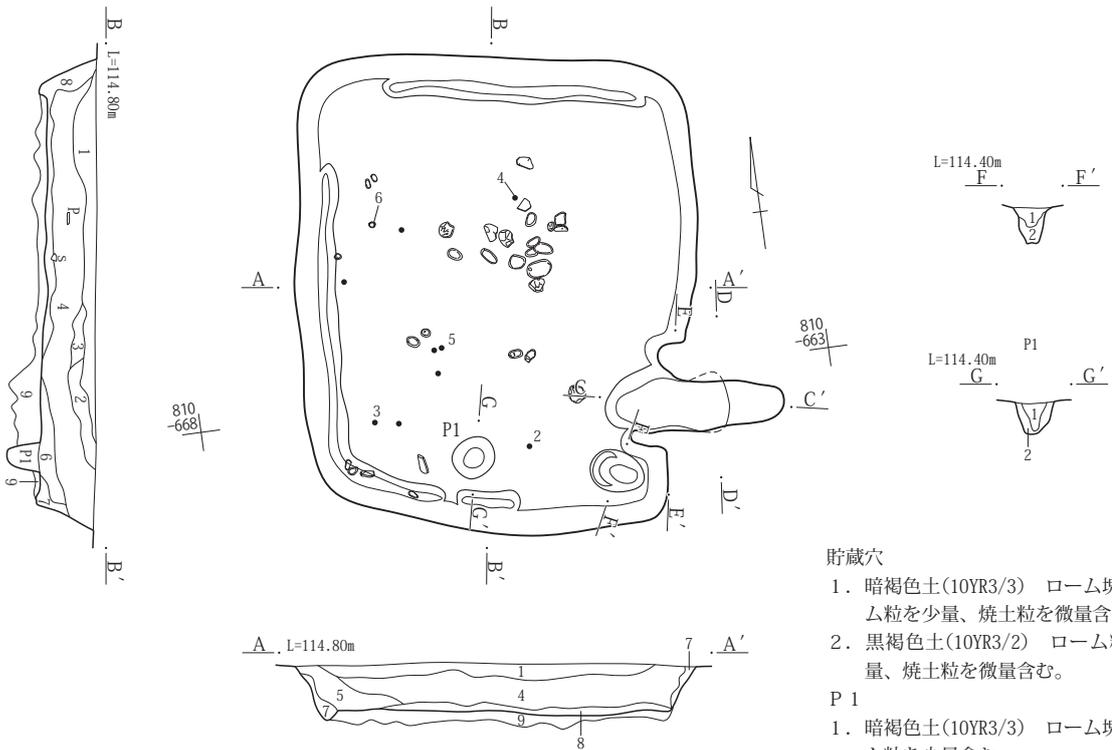
**掘方** 多くの範囲が床面からの深さ10cm前後であるが、竈前は20cmを超える深さがある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸140cm、袖幅60cm、燃烧部幅50cmを測る。燃烧部の半分程が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは90cmである。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径43cm、短径33cmの楕円形で、深さ33cmを測る。

**柱穴** 床面でP1を確認した。計測値は長径35cm、短径35cm、床面からの深さ30cmであった。位置から支柱穴とは考えにくく、出入り口に関わる可能性がある。

**壁溝** 途切れる箇所があるが、南壁から西壁、北壁で確認した。幅5cm～10cm、深さ3cmを測る。

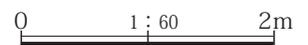
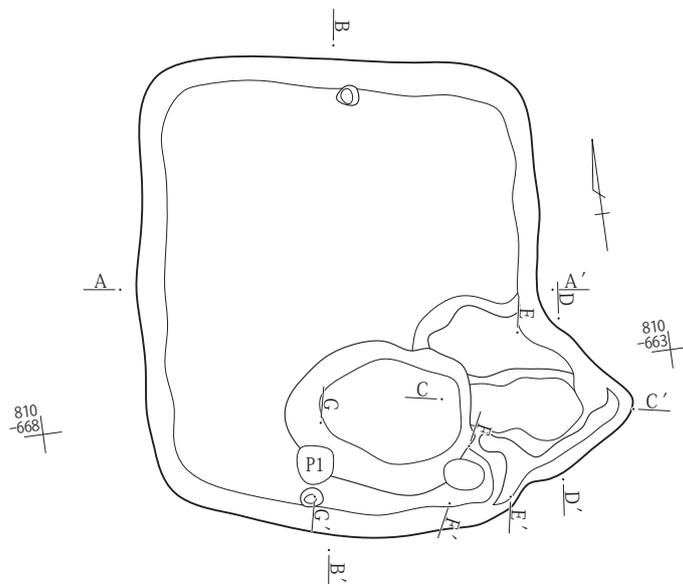


33号竪穴建物

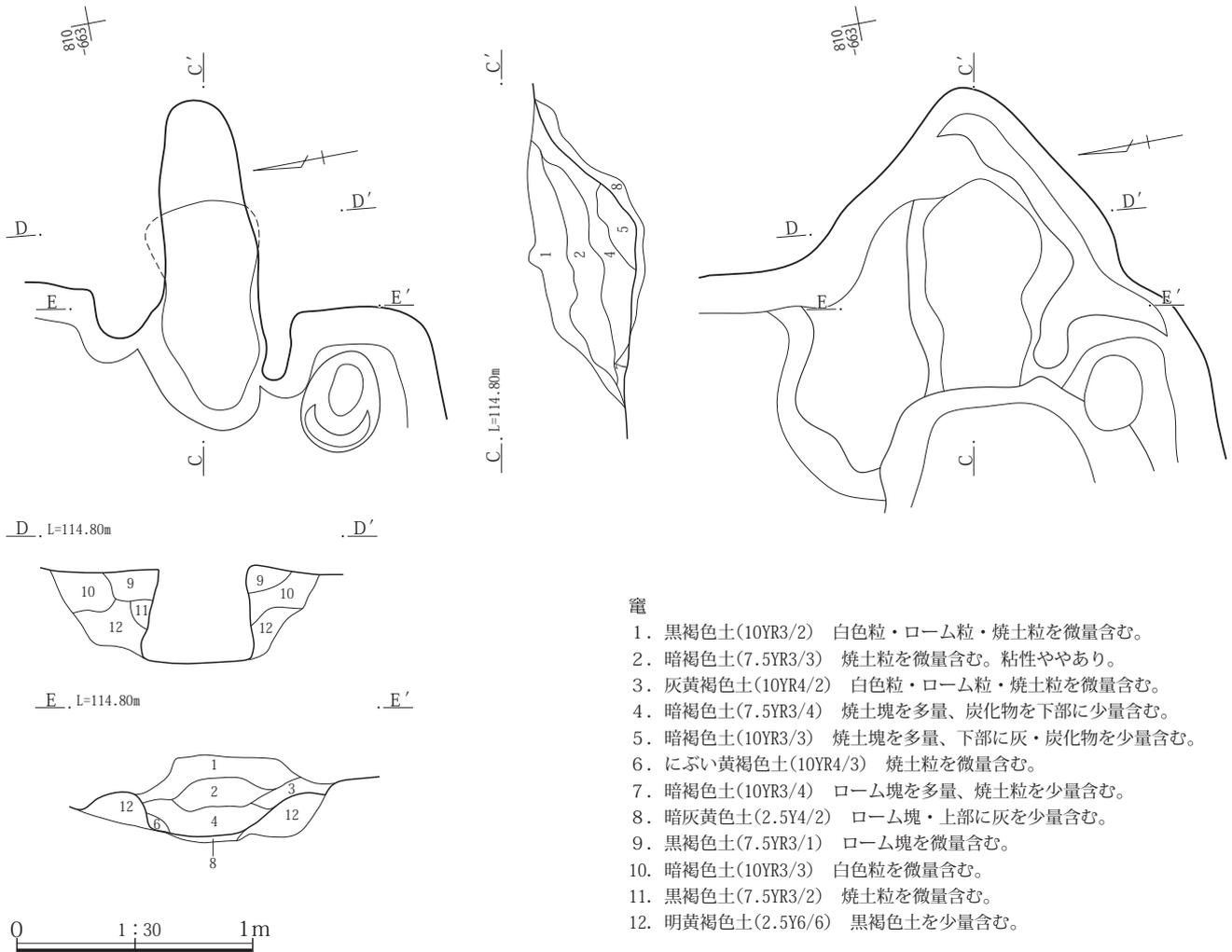
1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を少量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) 白色粒を少量含む。粘性あり。
5. 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒・ローム粒を微量含む。
6. 黒褐色土(2.5Y3/1) 白色粒・ローム粒を微量含む。粘性あり。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
8. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

貯蔵穴

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
  2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
- P 1
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第120図 2区33号竪穴建物



竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム粒・焼土粒を微量含む。
2. 暗褐色土(7.5YR3/3) 焼土粒を微量含む。粘性ややあり。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒・ローム粒・焼土粒を微量含む。
4. 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土塊を多量、炭化物を下部に少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊を多量、下部に灰・炭化物を少量含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土粒を微量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。
8. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・上部に灰を少量含む。
9. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊を微量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を微量含む。
11. 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土粒を微量含む。
12. 明黄褐色土(2.5Y6/6) 黒褐色土を少量含む。

第121図 2区33号竈

**遺物** 床面直上、竈、埋没土中から土器や石器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(竈内)、2：同高杯(床上11cm)、3～5：須恵器甕(5は床面直上)、6：手捏ね土器(床面直上)、7：敲石(床面直上)である。

**所見** 小規模で、長方形に近いが、竈の右側の壁の立ち上がりが左側より手前で、その分北壁より南壁が短い形状である。出土した土器が小片のため時期の比定は難しいが、竈内で出土した杯から6世紀代と考えられる。

2区34号竈(第123図、PL.30・101)

調査区中央の東寄り、33号竈の東約30mの位置にあり、建物の多くが調査区外にあるとみられる。

**座標値** X=42,808～42,812 Y=-55,635～-55,638

**重複遺構** 32号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 確認できた範囲の形状から、方形の可能性が高いが、建物の大部分が調査区外にあるため、明らかではない。

**長軸方位** N-23°-E

**規模** 長軸(3.50m) 短軸(1.80m)

床面積(5.22㎡) 残存壁高28cm

**埋没土** 主に白色軽石やローム粒を少量含む黒褐色土である。

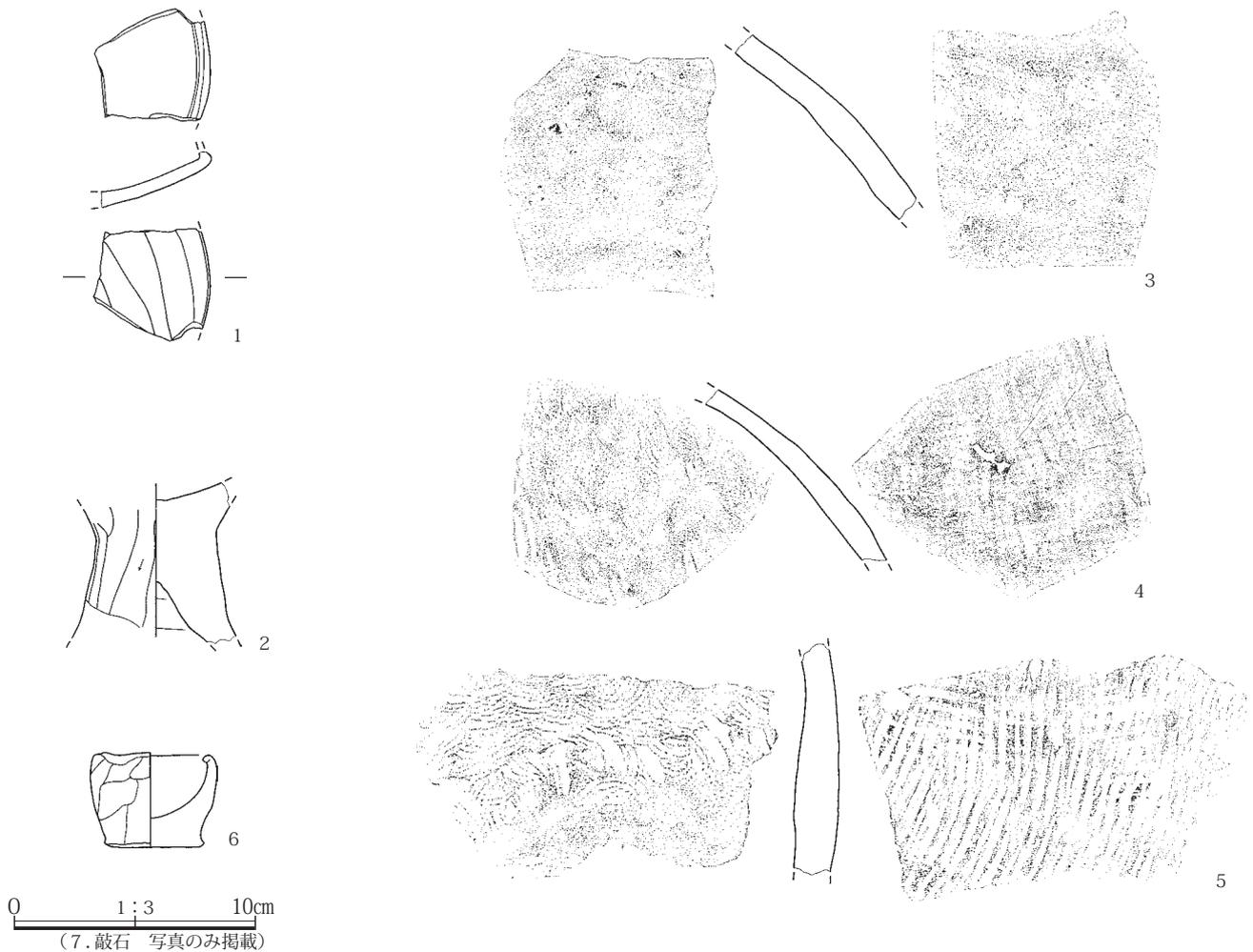
**床面** ほぼ平坦であるが、北方向に向かって僅かに傾斜している。

**掘方** 起伏や細かい凹凸があるが、全体的に深く、床面からの深さは20cm前後である。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 調査した範囲では全周している。幅5cm～10cm、



第122図 2区33号竪穴建物出土遺物

深さ9cmを測る。

**遺物** 床面直上、埋没土中から土師器が出土した。掲載した遺物は、1～3：須恵器杯(1・2は床面直上、3は床上9cm)、4：椀形の手捏ね土器である。

**所見** 確認できた形状から、小規模な方形の建物の可能性が高い。床上9cmで出土した須恵器杯のみ9世紀第1四半期の年代観が与えられるが、後世の混入と判断した。床面直上で出土した土器から、時期は8世紀第1四半期と考えられる。

**2区35号竪穴建物**(第124～126図、PL.30・101・102)

調査区中央の東寄り、33号竪穴建物の南東約20mの位置にある。

**座標値** X=42,793～42,798 Y=-55,650～-55,654

**重複遺構** なし **形状** 長方形

**主軸方位** N-50°-E

**規模** 長軸4.10m 短軸2.90m

床面積10.38㎡ 残存壁高28cm

**埋没土** 主に白色軽石やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。

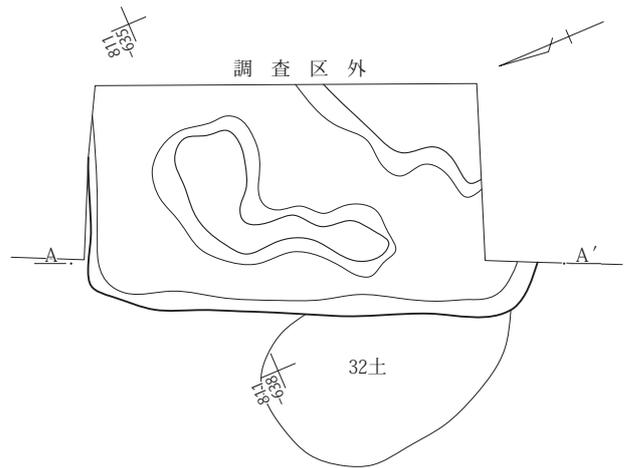
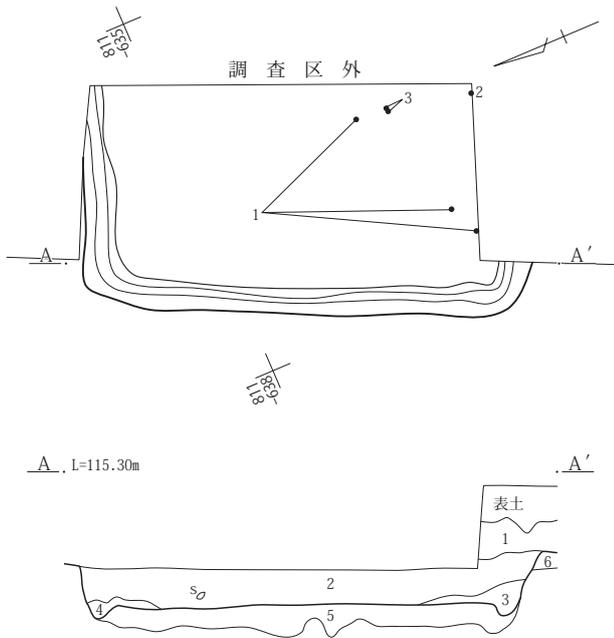
**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。竈の前から建物中央にかけて、硬化面を確認した。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、1cm未満の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁の東端に設置している。規模は長軸110cm、袖幅65cm、燃烧部幅68cmを測る。燃烧部の多くが壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは70cmである。褐色粘質土を用い、構築している。燃烧部から煙道にかけて焼土を多量に含む層が見られ、燃烧部下面には厚い灰層を確認した。長期間使用されていたと考えられる。

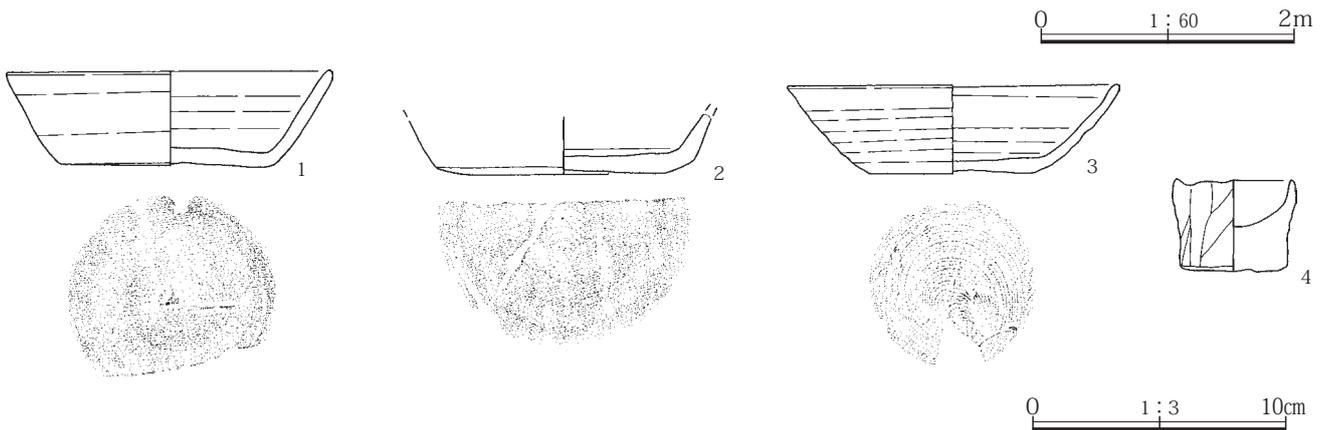
**貯蔵穴** 竈の右袖付近で、南東壁に近接する位置にある。規模は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ40cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。



34号竪穴建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量、白色軽石を微量含む。縮り弱。粘性ややあり。
4. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。縮り弱。粘性ややあり。
5. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を多量に含む。縮り・粘性ややあり。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 縮り・粘性ややあり。



第123図 2区34号竪穴建物・出土遺物

**壁溝** 全周している。幅3cm～10cm、深さ9cm～11cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈内、埋没土中等から多数の土器や石器が出土した。掲載した遺物は、1～3：土師器杯(1・3は竈内、2は床上10cm)、4：須恵器杯(貯蔵穴内床下2cm)、5：同長頸壺(床面直上)、6～11：土師器甕(6は床面直上、9・11は床下、8・10は竈内)、12：須恵器甕、13：同蓋杯の蓋、14：壺形の手捏ね土器(竈内)、15：砥石(床面直上)、16：台石(床上10cm)である。

**所見** 主軸に対して横長の長方形の形状で、北東壁の東端に竈を設置しており、本遺跡では数少ない建物である。小規模な建物であるが、出土遺物の数や種類は多め

であった。床面直上や竈などで出土した土器から、時期は8世紀第3四半期である。

2区36号竪穴建物(第127図、PL.31)

調査区中央の東寄りで、34号竪穴建物の10m程南にあり、建物の大部分が調査区外にある。

**座標値** X=42,800～42,803 Y=-55,639～-55,642

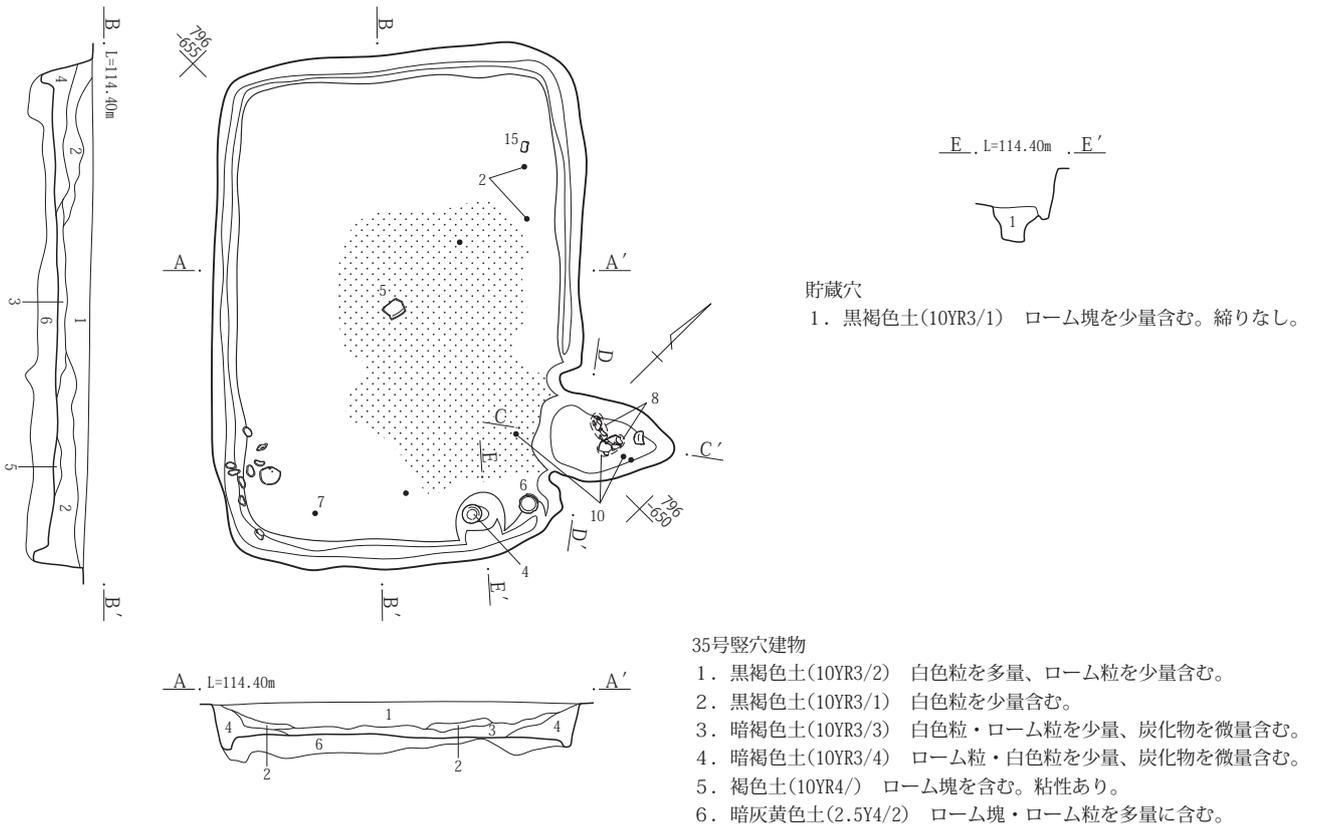
**重複遺構** なし

**形状** 大部分が調査区外にあり、明らかではない。

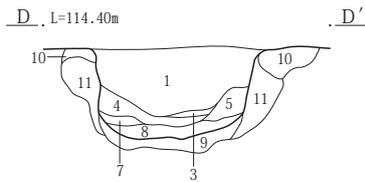
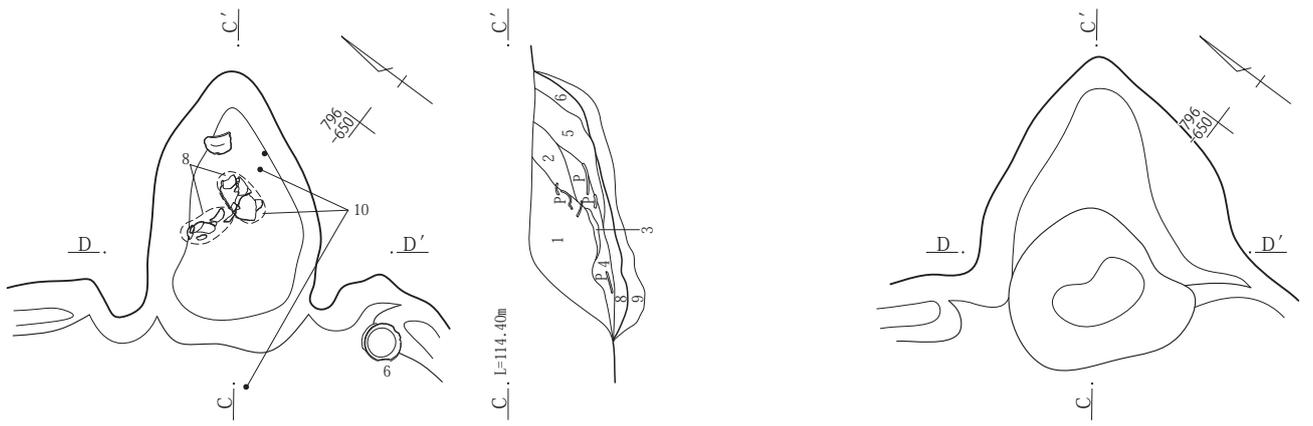
**主軸方位** 不明

**規模** 長軸(3.40m) 短軸(1.70m)

床面積(1.44㎡) 残存壁高35cm

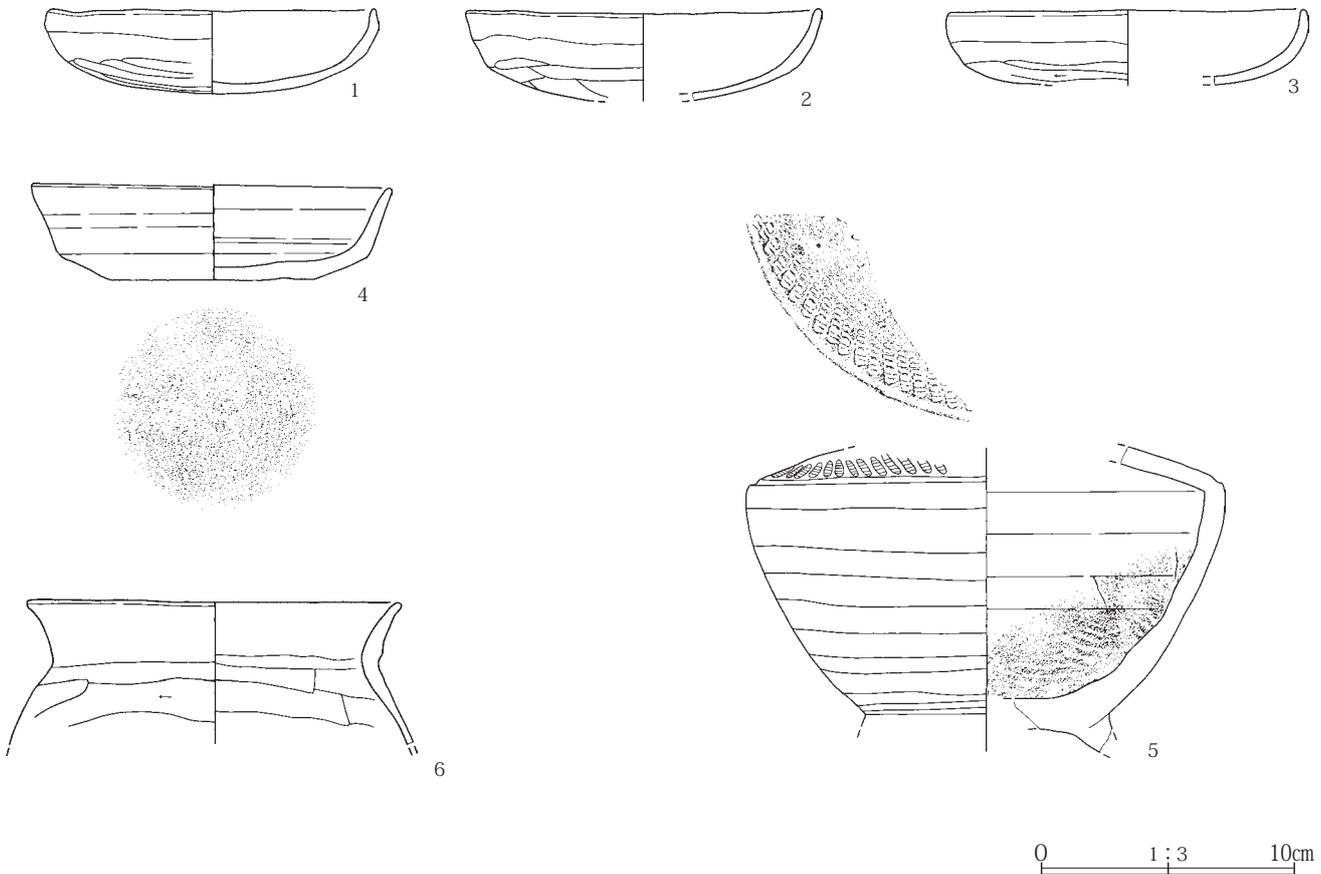


第124図 2区35号竪穴建物

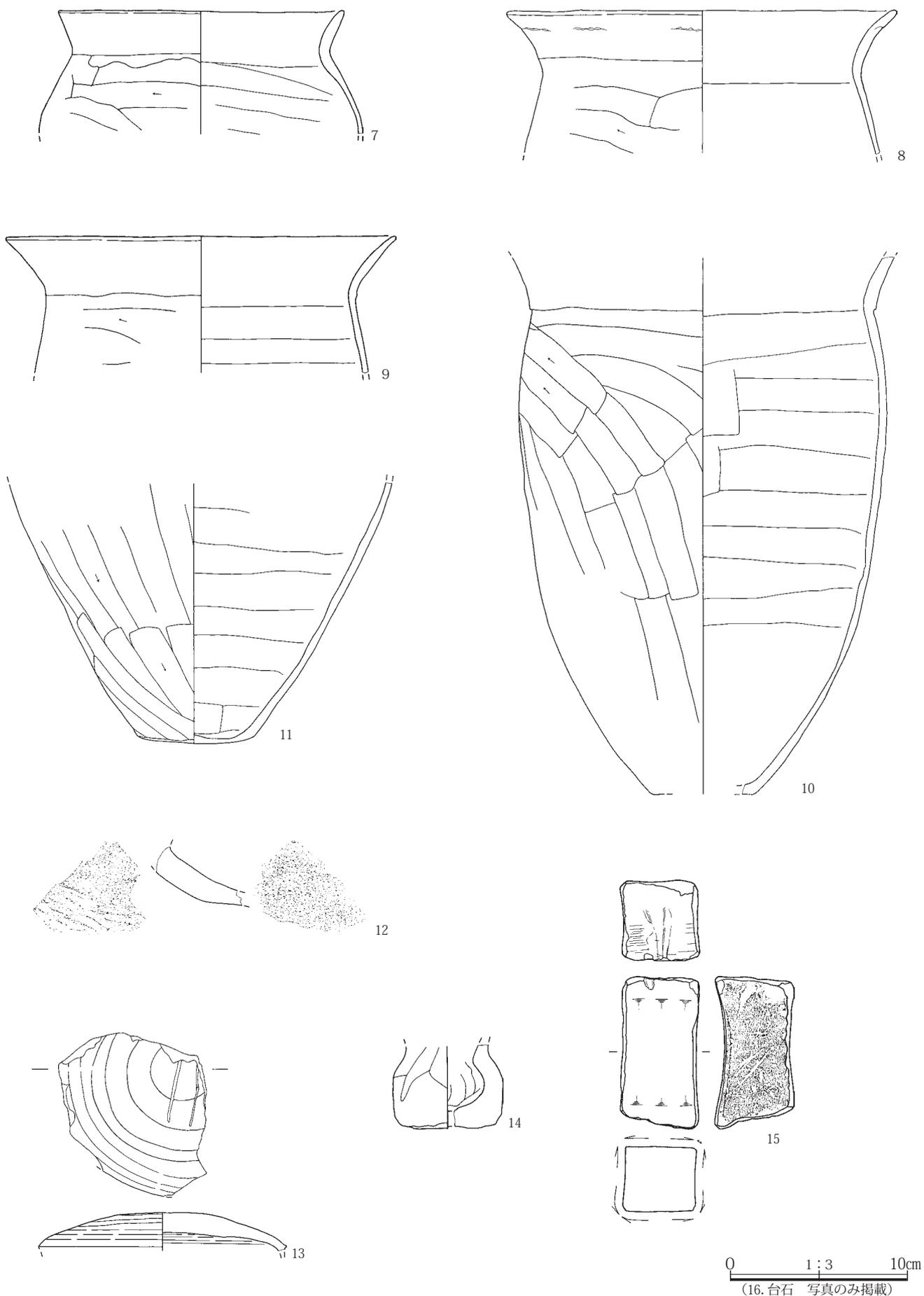


竈

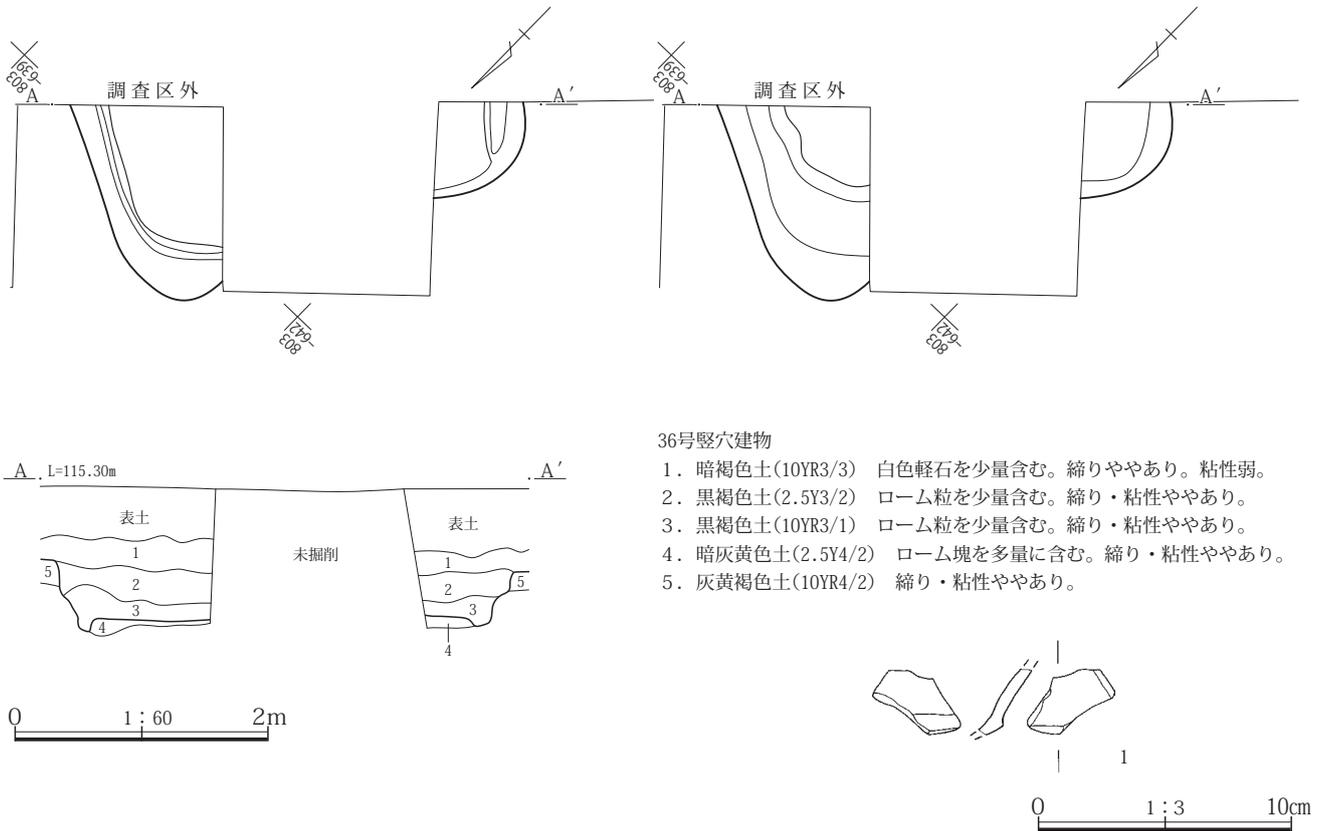
1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム粒・焼土粒・炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒・灰白色粘質土塊を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 明黄褐色粘質土塊を多量に含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊を多量、白灰色灰を少量含む。粘性あり。
5. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土塊を多量、炭化物を微量含む。
6. 暗褐色土(7.5YR3/3) 焼土塊を多量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土・暗灰色灰を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 暗灰色灰を多量、焼土粒を少量含む。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 上部に焼土・灰を多量に含む。粘性あり。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム粒を微量含む。
11. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土を多量に含む。



第125図 2区35号竪穴建物竈・出土遺物(1)



第126図 2区35号竪穴建物出土遺物(2)



第127図 2区36号竪穴建物・出土遺物

**埋没土** ローム粒を少量含む黒褐色土である。

**床面** ほぼ平坦とみられる。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さは5cm～15cm程である。細かい凹凸も見られる。

**竈** 確認されなかった。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 調査した範囲では、一部を除き確認した。幅5cm～15cm、深さ10cmを測る。

**遺物** 埋没土中から土師器の小片が17点出土した。掲載した遺物は、土師器杯である。

**所見** 確認できた形状から、小規模な方形の建物の可能性が高い。掲載した土師器杯は、口縁部に稜を作り、口縁部がやや外反することから、6世紀後半の年代観が与えられ、建物の時期も同様と考えられる。

#### 2区37号竪穴建物(第128・129図、PL.31・102)

調査区南側、35号竪穴建物の南西約30mの位置にあり、攪乱によって建物の1/2以上が壊されている。

**座標値** X=42,773～42,776 Y=-55,673～-55,677

**重複遺構** なし

**形状** 広範囲に攪乱されているが、確認できた範囲の形状から、正方形の可能性が高い。

**主軸方位** N-86°-E

**規模** 長軸(3.30m) 短軸(3.30m)

床面積(4.84㎡) 残存壁高28cm

**埋没土** ローム粒を少量含む黒褐色土である。

**床面** 多少起伏があり、東方向に向かって僅かに傾斜している。

**掘方** 東側ほど深くなっており、床面からの深さは西側が5cm～10cmであるのに対し、東側は20cm程である。細かい凹凸も見られる。

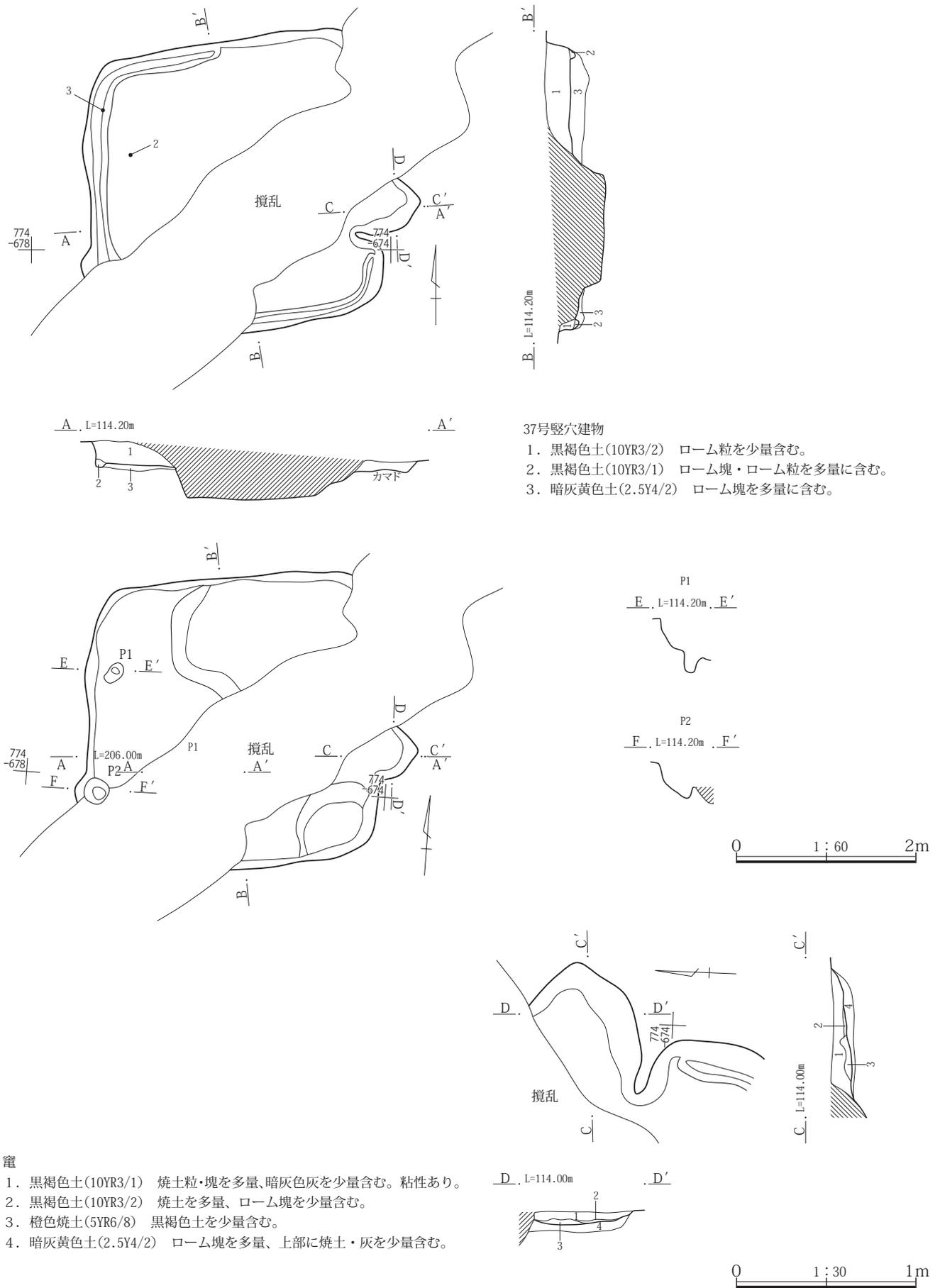
**竈** 東壁の中央よりやや南寄りの位置に設置している。攪乱されており、残存したのは底部の一部である。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 竈の右から北壁の中央にかけての攪乱を除く範囲で確認した。幅5cm～10cm、深さ4cmを測る。

**遺物** 床面直上、壁溝内、埋没土中から土器や鉄製品が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯、2：須恵器



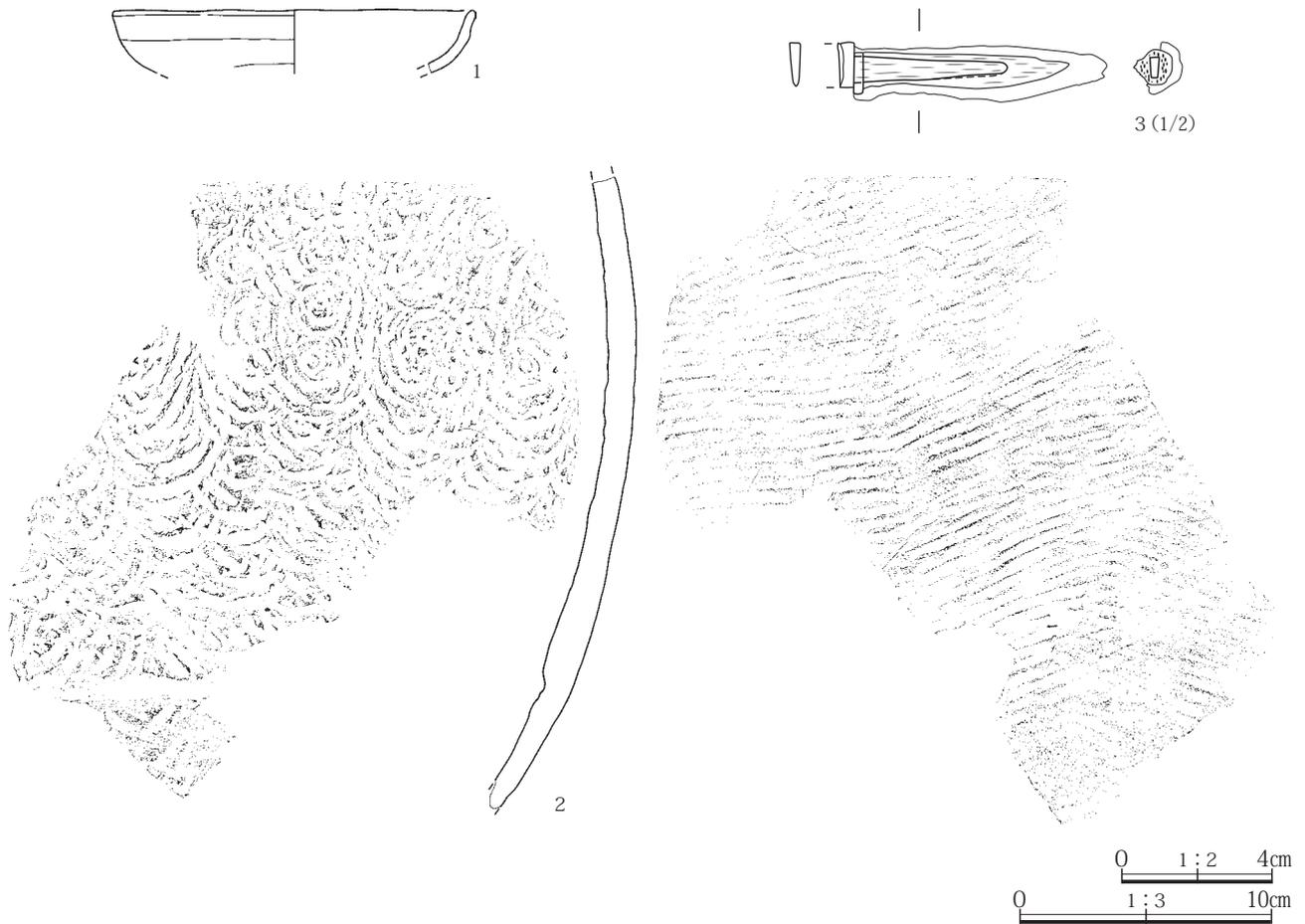
37号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量に含む。

竈

1. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒・塊を多量、暗灰色灰を少量含む。粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土を多量、ローム塊を少量含む。
3. 橙色焼土(5YR6/8) 黒褐色土を少量含む。
4. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量、上部に焼土・灰を少量含む。

第128図 2区37号竪穴建物・竈



第129図 2区37号竪穴建物出土遺物

甕(床面直上)、3：刀子(壁溝内)である。

**所見** 攪乱されているが、本遺跡で最も小規模な建物の1つと考えられる。出土した土器は、埋没土中の小片が多いが、床面直上で出土した甕との共伴に矛盾はなく、時期は8世紀後半である。

**2区38号竪穴建物**(第130・131図、PL.31・102)

調査区南側、37号竪穴建物の10m程南西にある。

**座標値** X=42,764~42,768 Y=-55,683~-55,687

**重複遺構** なし

**形状** ほぼ長方形

**主軸方位** N-91°-E

**規模** 長軸4.50m 短軸3.30m

床面積13.51㎡ 残存壁高30cm

**埋没土** ローム塊を含む黒褐色土である。斑状にローム塊を含んでいるところがほとんどであることから、短期間で埋め戻された可能性がある。

**床面** ほぼ平坦である。

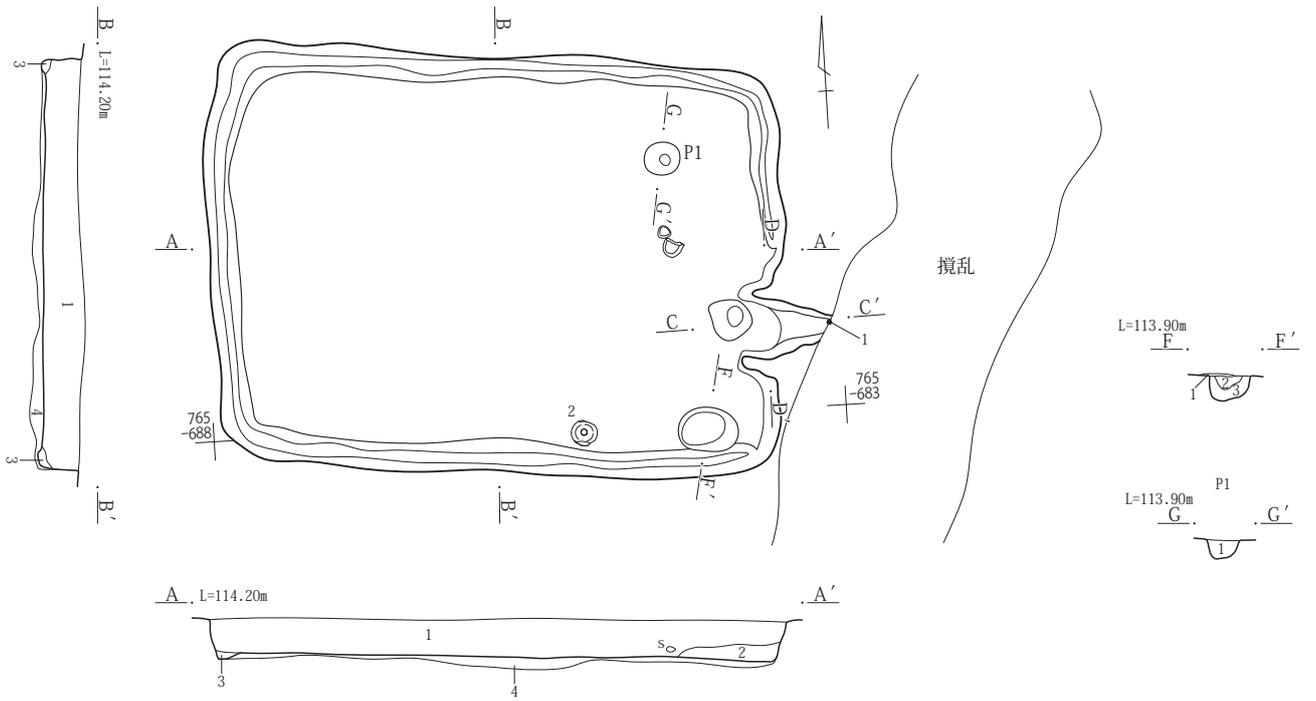
**掘方** 建物の南東側程深くなっており、床面からの深さは北西隅では5cm以下であるのに対し、南東隅では20cm程になっている。ピット状の窪みや、細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の中央よりやや南寄りの位置に設置している。煙道の先端が攪乱されている。残存する長軸方向は95cm、袖幅40cm、燃烧部幅50cmを測る。燃烧部がやや壁を掘り込む位置にあり、残存した壁外への掘り込みは40cmである。燃烧部底部から攪乱手前の煙道まで焼土や灰が厚く堆積しており、一定期間よく使用されていたと考えられる。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径50cm、短径35cmの楕円形で、深さ24cmを測る。

**柱穴** 床面でP1を検出した。長径30cm、短径27cm、深さ24cmである。小規模であるが、その位置から支柱穴の1つである可能性がある。また、床面では確認できなかったが、掘方の調査で、P1の2.2m程西でピット状の窪みを検出した。長径40cm、短径36cmで床面からの深さは22

第3章 調査の成果



38号竪穴建物

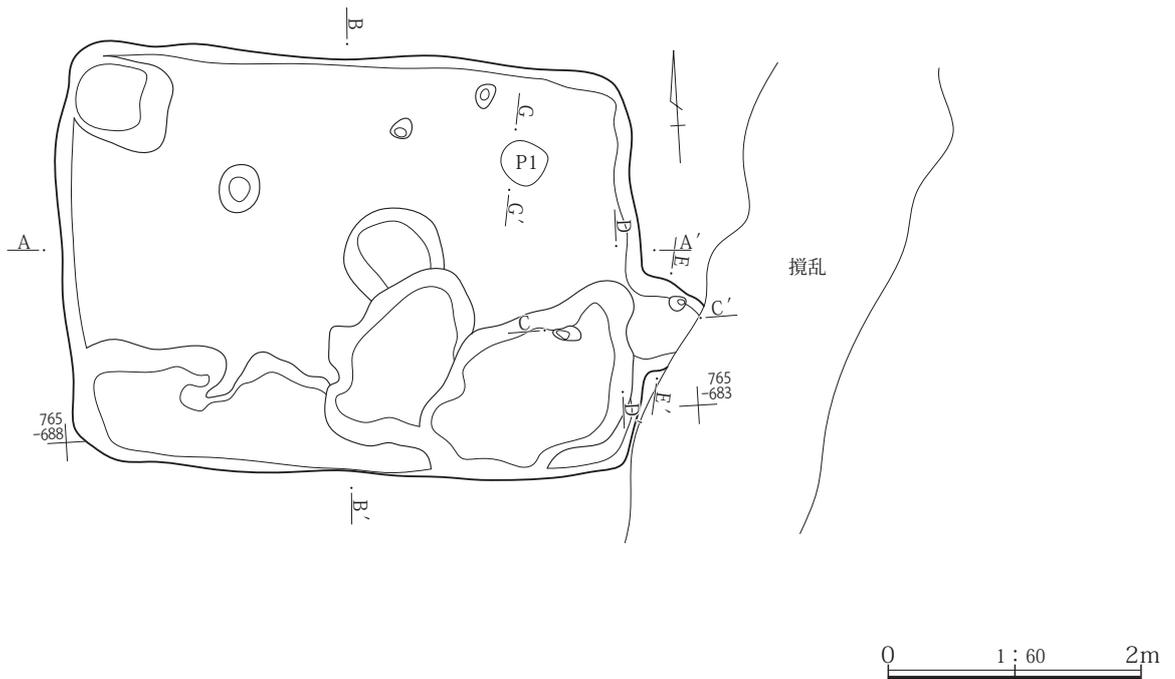
- 1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を斑状に少量含む。
- 2. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土を少量含む。
- 3. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を多量に含む。
- 4. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量に含む。

貯蔵穴

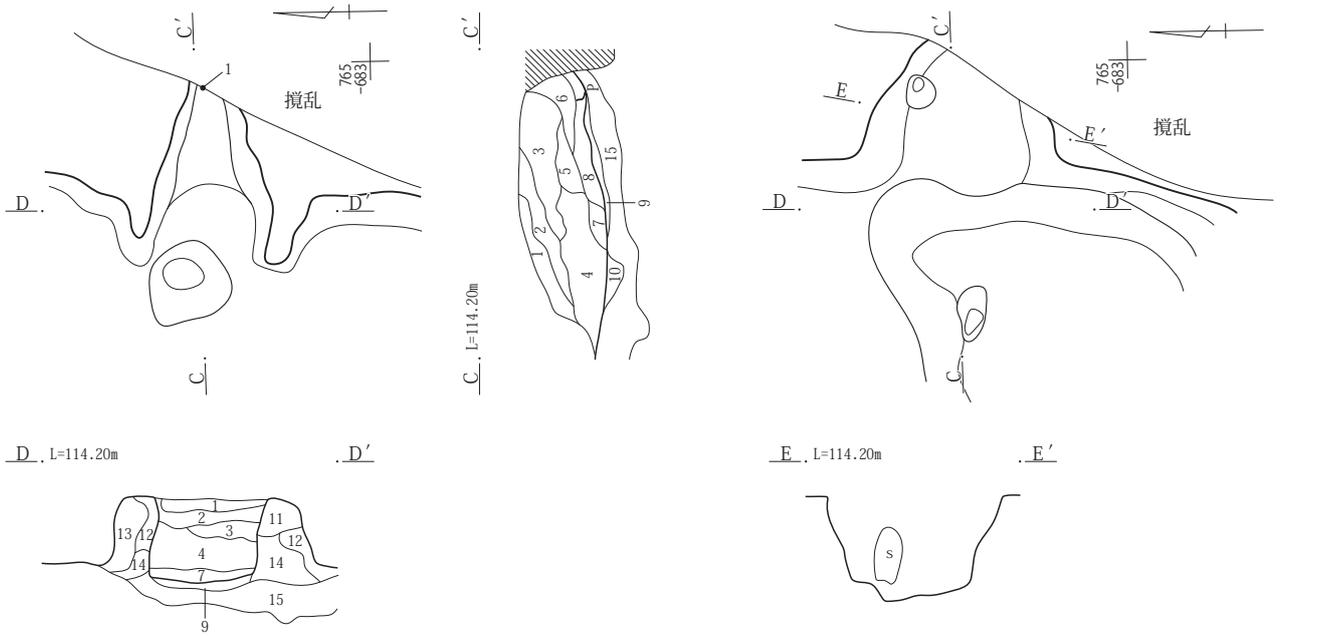
- 1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色粘質土・焼土を少量含む。
- 2. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。褐色土を少量含む。
- 3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P 1

- 1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。



第130図 2区38号竪穴建物

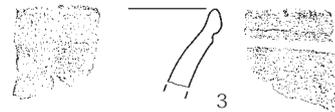
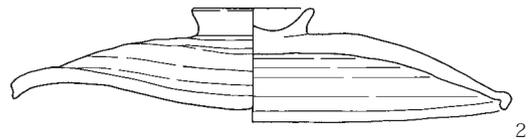
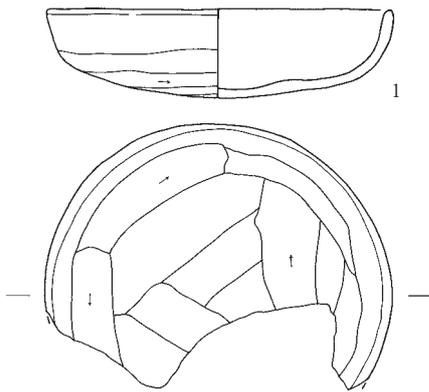


竈

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 褐灰色粘質土・黒褐色土・焼土を少量含む。
2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 灰黄褐色土を少量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒・褐灰色粘質土・ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒を少量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。
7. 褐灰色灰(7.5YR5/1) 下部に焼土を多量に含む。
8. 明赤褐色焼土(2.5YR5/8) 褐灰色灰を上部に多量に含む。

9. 暗灰色灰(N3/) 焼土を少量含む。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土・灰を少量含む。
11. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒・灰白色粒を少量含む。
12. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 黒褐色土を少量、ローム粒・灰白色粒を微量含む。
13. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土を少量、ローム粒・灰白色粒を微量含む。
14. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) 黒褐色土・焼土ローム粒を少量含む。
15. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量に含む。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第131図 2区38号竪穴建物竈・出土遺物

cmである。規模や形状がP 1に類似しており、P 1に比べやや建物の内側に位置するが、支柱穴の可能性も残されている。

**壁溝** ほぼ全周している。幅5cm～10cm、深さ4cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈煙道、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(竈煙道)、2：須恵器杯蓋(床面直上)、3：同甕である。

**所見** 27号竈穴建物同様、小規模で主軸に対して縦長の長方形の建物で、長軸が短軸に対して約1.5倍近くあるが、主軸の方位は27号竈穴建物とは異なっている。床面直上や竈煙道で出土した土器から、時期は8世紀第4半期である。

**2区39号竈穴建物(第132図、PL.31・102)**

調査区南端、38号竈穴建物の南約15mの位置にあり、建物の東側の多くが調査区外にある。

**座標値** X=42,748～42,751 Y=-55,689～-55,693

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性が高いが、建物の多くが調査区外にあるため、明らかではない。

**長軸方位** N-16°-E

**規模** 長軸3.80m 短軸(2.00m)

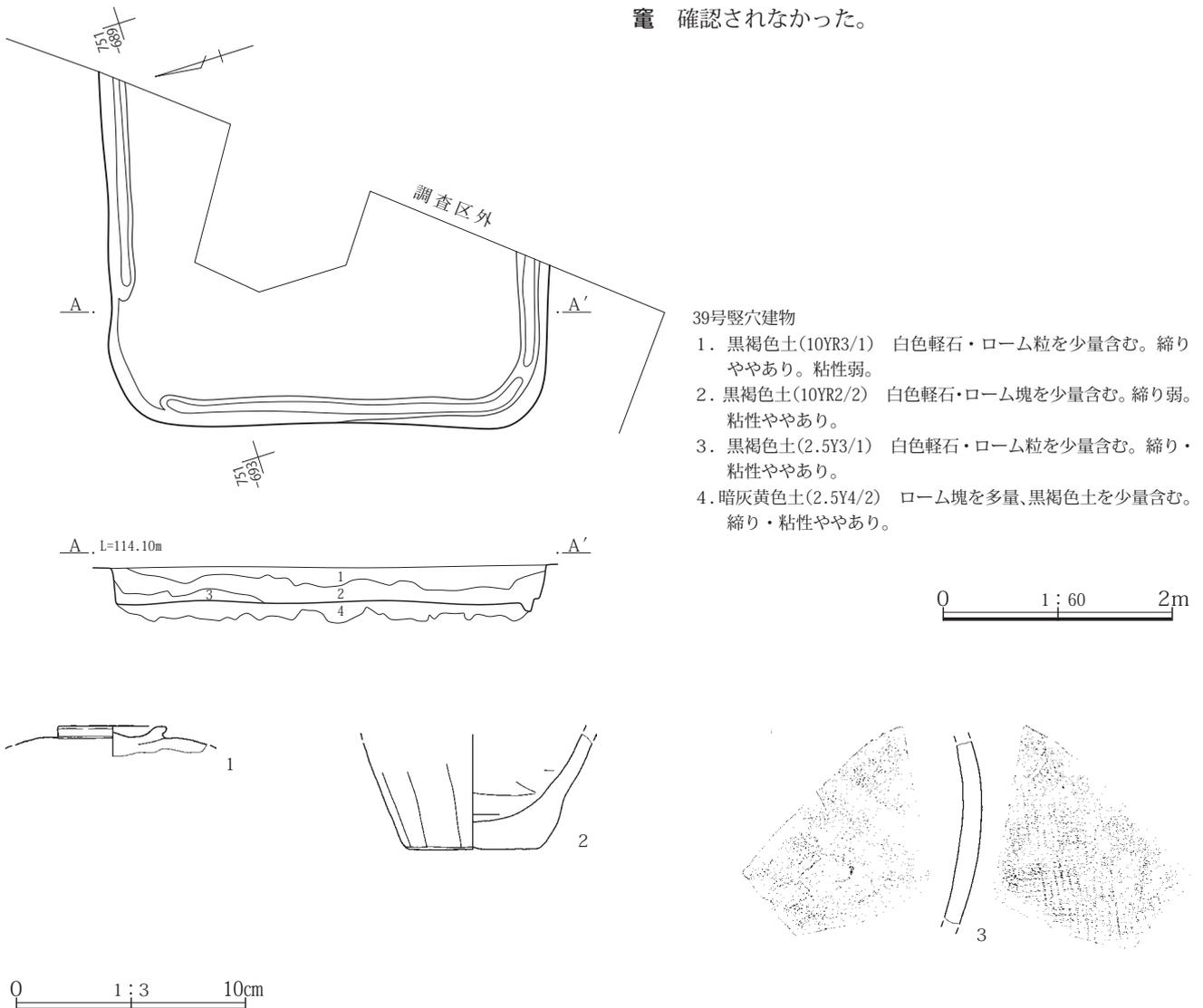
床面積(6.26㎡) 残存壁高32cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 床面から15cm～20cm程で、起伏や細かい凹凸が見られる。

**竈** 確認されなかった。



第132図 2区39号竈穴建物・出土遺物

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 調査できた範囲では、北西隅を除き全周している。幅5cm～10cm、深さ4cm～10cmを測る。

**遺物** 埋没土中から土師器や須恵器の小片が出土した。掲載した遺物は、1：須恵器杯蓋、2：土師器小型甕、3：須恵器甕である。

**所見** 確認できた形状から、小規模な方形の建物の可能性が高い。出土遺物は、埋没土中からの小片の土器に限られているため、時期の比定は難しいが、8世紀後半と考えられる。

#### 2区40号竪穴建物(第133・134図、PL.31)

調査区南側、38号竪穴建物の5m程北にある。

**座標値** X=42,771～42,776 Y=-55,680～-55,686

**重複遺構** 591号ピットと重複している。本遺構が古い。

**形状** 正方形に近いが竈の南側が幾分広くなっている。

**主軸方位** N-58°-E

**規模** 長軸4.10m 短軸4.00m

床面積15.55㎡ 残存壁高50cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を多量に含む黒褐色土である。ローム塊を多量に含んでいるところが大半であることから、短期間で埋め戻された可能性がある。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸120cm、袖幅64cm、燃烧部幅65cmを測る。燃烧部がやや壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは55cmである。袖部や天井崩落土と考えられる土層等に褐灰色粘質土が多く含まれており、これを使用して構築したとみられる。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 床面でピットを3基検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 38×32×4 P 2 21×17×11

P 3 23×18×17

位置や規模、形状から、明確に支柱穴と言えるものはない。P 1・P 3は、その位置から出入り口に関わる可能

性がある。また、P 1は平面形状的には小規模な貯蔵穴とも考えられるが、深さが4cmのため可能性は低い。

**壁溝** 全周している。幅5cm～10cm、深さ7cmを測る。

**遺物** 竈内、埋没土中から土師器や須恵器の小片が出土した。掲載した遺物は、1・2：土師器杯(1は竈内)、3：須恵器杯蓋である。

**所見** 小規模で、正方形に近いが、竈の右側の壁の立ち上がり左側より奥で、その分北壁より南壁が長い形状が特徴的である。出土遺物は小片の土器に限られているが、竈内や埋没土中で出土した土師器杯は8世紀末～9世紀初頭に比定でき、建物の時期も同様と考えられる。

#### 2区41号竪穴建物(第135～140図、PL.32・33・102・103)

調査区中央の西寄り、29号竪穴建物の南西に位置し、建物の東隅が近接している。

**座標値** X=42,800～42,809 Y=-55,680～-55,689

**重複遺構** 49号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-40°-E

**規模** 長軸7.25m 短軸6.90m

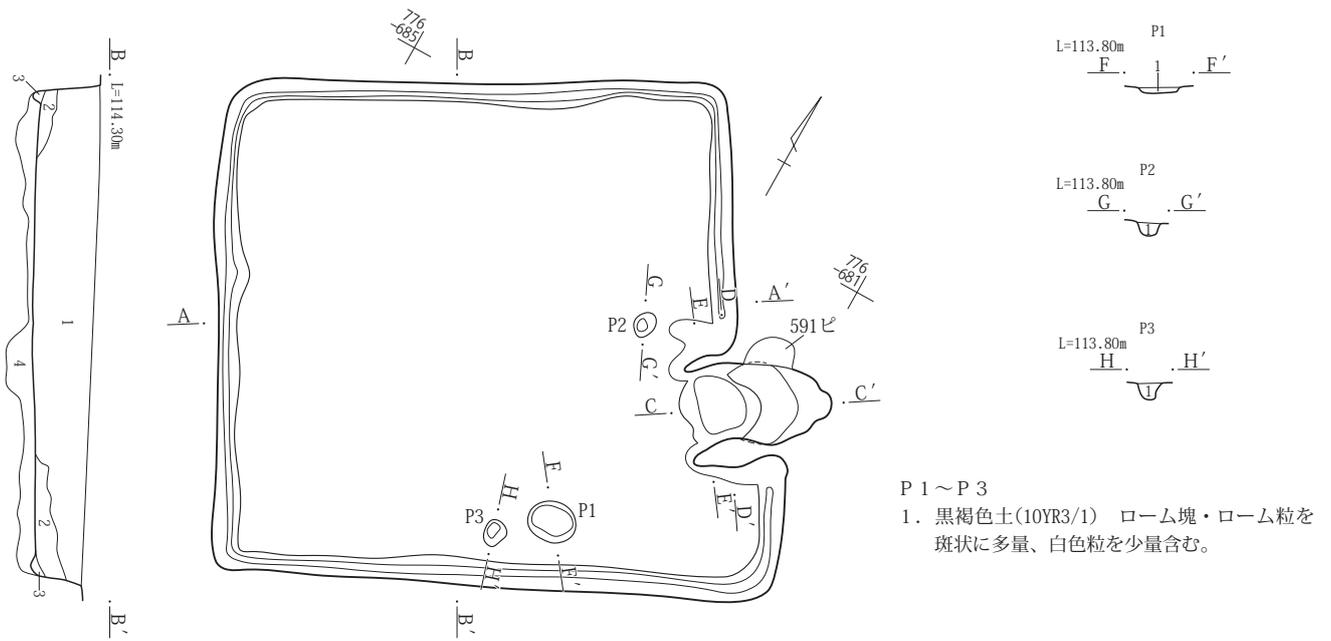
床面積44.17㎡ 残存壁高40cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土、暗褐色土等である。床面付近の一部に褐灰色粘質土を含んでいる。不自然な状況が見られ、埋め戻された可能性がある。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。2号竈付近では、焼土を検出した。

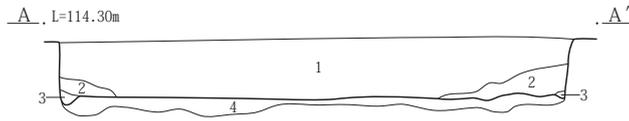
**掘方** 起伏があり、おおむね建物の中央が浅く、周縁部が深い。中央の一部では5cm未満であるのに対し、南東壁付近では25cm程である。細かい凹凸も見られる。

**竈** 2基の竈を確認した。北東壁と北西壁それぞれの中央よりやや右寄りの位置に設置している。北東壁の1号竈の規模は長軸122cm、袖幅40cm、燃烧部幅45cmを測る。燃烧部がやや壁を掘り込む位置にあり、煙道の角度が2号竈に比べ急で、壁外への掘り込みは55cmである。北西壁の2号竈の規模は長軸156cm、袖幅42cm、燃烧部50cmを測る。燃烧部が建物の内側に入る位置にあるため、煙道の角度は1号竈に比べ緩いが、壁外への掘り込みは30cmである。両竈共に燃烧部底部に焼土及び灰が良好に残っており、廃絶前まで両竈が使用されていたと考えられる。



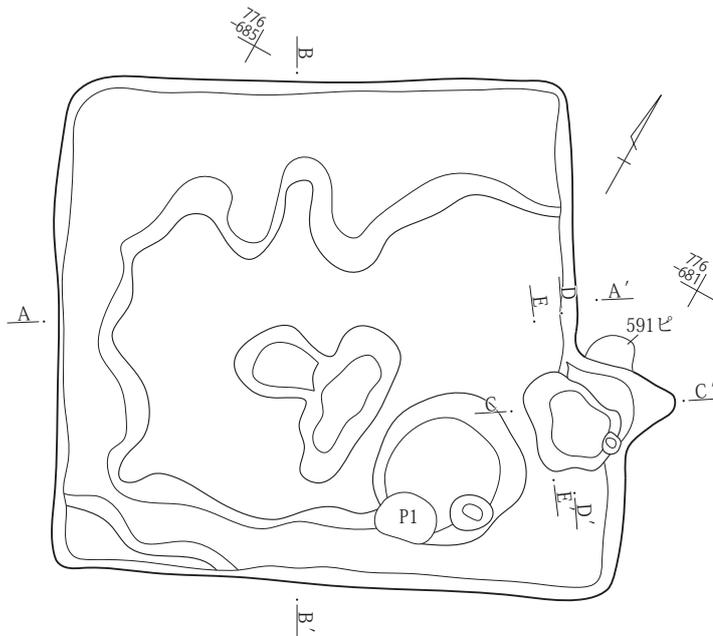
P 1 ~ P 3

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を斑状に多量、白色粒を少量含む。

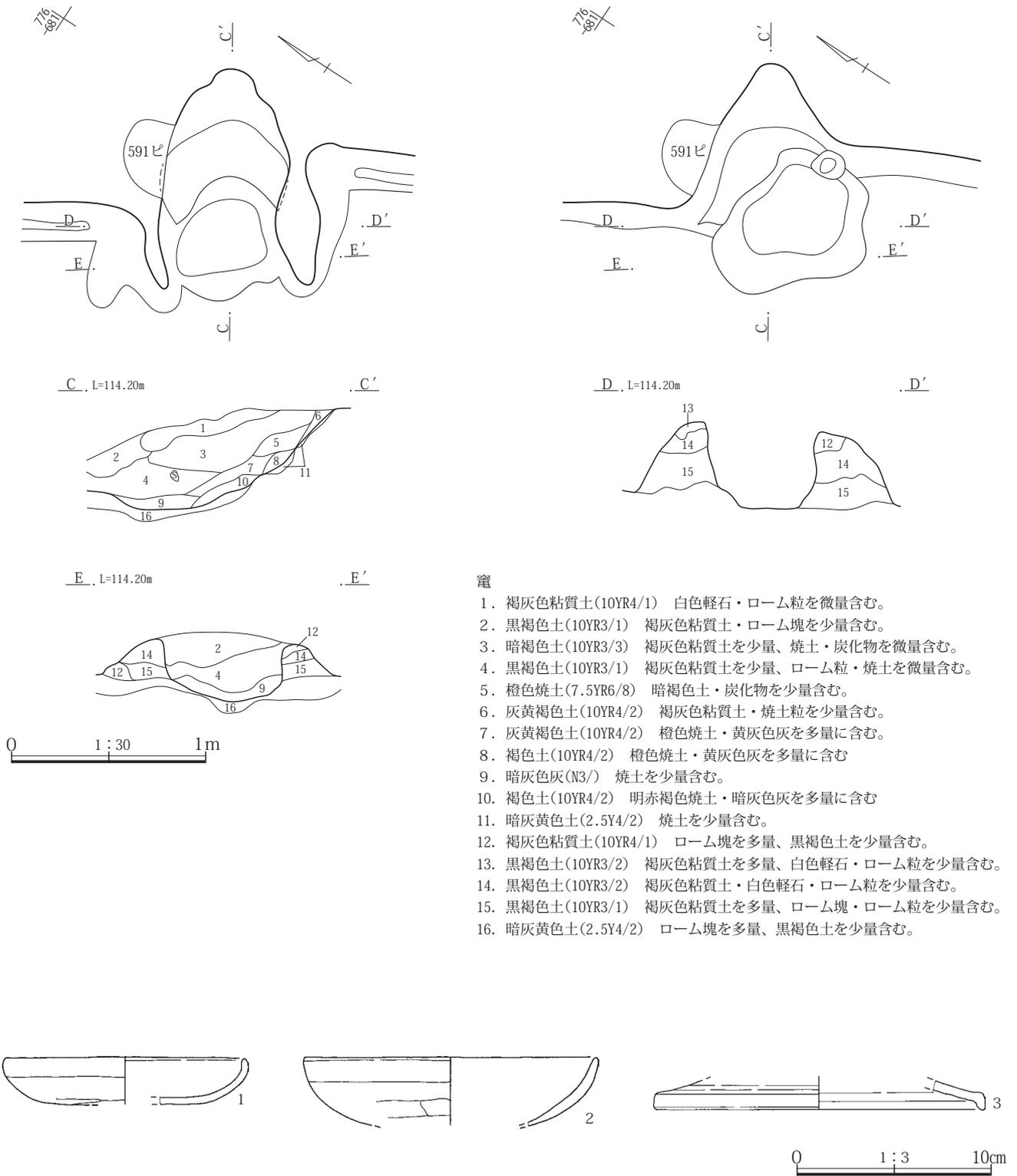


40号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を斑状に多量、白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量、黒褐色土を少量含む。



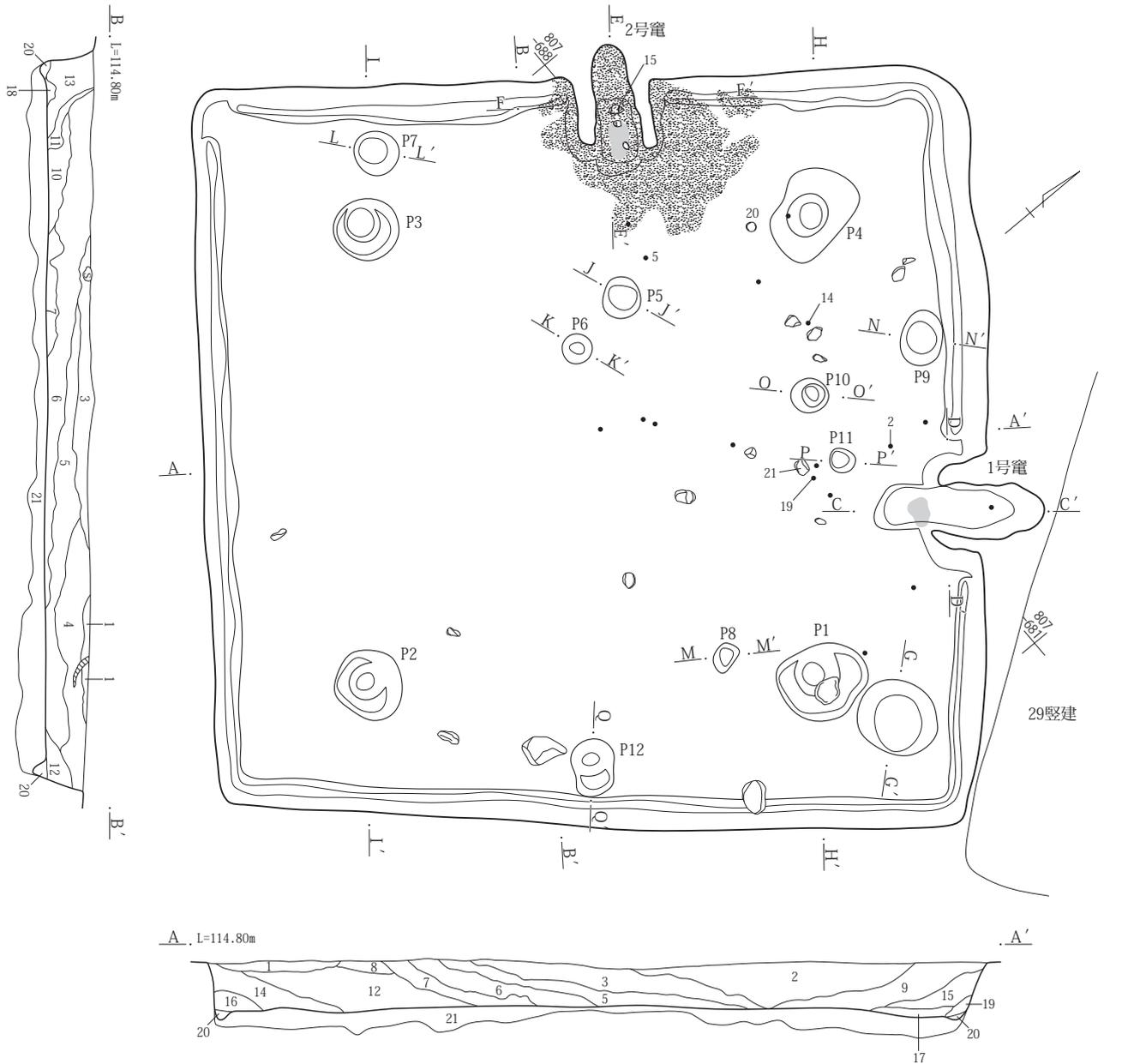
第133図 2区40号竪穴建物



竈

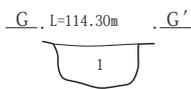
1. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 白色軽石・ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土・ローム塊を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土を少量、焼土・炭化物を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土を少量、ローム粒・焼土を微量含む。
5. 橙色焼土(7.5YR6/8) 暗褐色土・炭化物を少量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色粘質土・焼土粒を少量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 橙色焼土・黄灰色灰を多量に含む。
8. 褐色土(10YR4/2) 橙色焼土・黄灰色灰を多量に含む。
9. 暗灰色灰(N3/) 焼土を少量含む。
10. 褐色土(10YR4/2) 明赤褐色焼土・暗灰色灰を多量に含む。
11. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 焼土を少量含む。
12. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム塊を多量、黒褐色土を少量含む。
13. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土を多量、白色軽石・ローム粒を少量含む。
14. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土・白色軽石・ローム粒を少量含む。
15. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。
16. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量、黒褐色土を少量含む。

第134図 2区40号竪穴建物竈・出土遺物



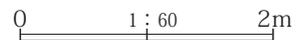
41号竈穴建物

- |  |  |
|--|--|
| 1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。                  | 12. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。            |
| 2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。             | 13. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。      |
| 3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。          | 14. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。         |
| 4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。            | 15. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒・褐色粘質土を少量含む。           |
| 5. 黄褐色土(2.5Y5/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。            | 16. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。     |
| 6. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム塊主体。暗褐色土・黒褐色土を少量含む。     | 17. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土粒を少量含む。               |
| 7. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。          | 18. 灰黄褐色土(10YR5/2) 褐灰色粘質土を少量、ローム塊・ローム粒を微量含む。 |
| 8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。       | 19. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土を微量含む。               |
| 9. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。          | 20. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。        |
| 10. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量、焼土を微量含む。     | 21. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。          |
| 11. 灰黄褐色土(10YR5/2) 褐灰色粘質土を多量、ローム塊・ローム粒を微量含む。 |  |

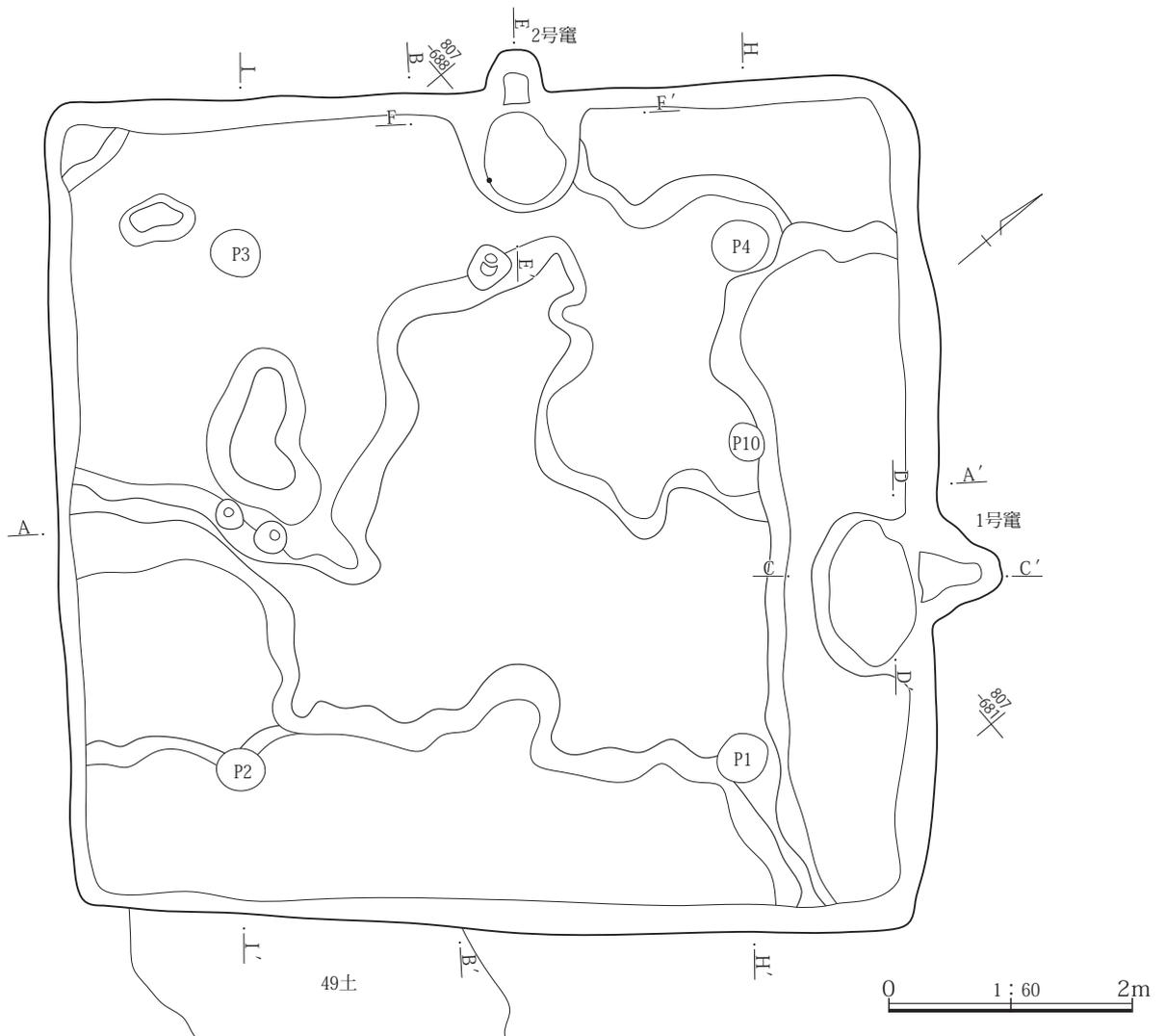
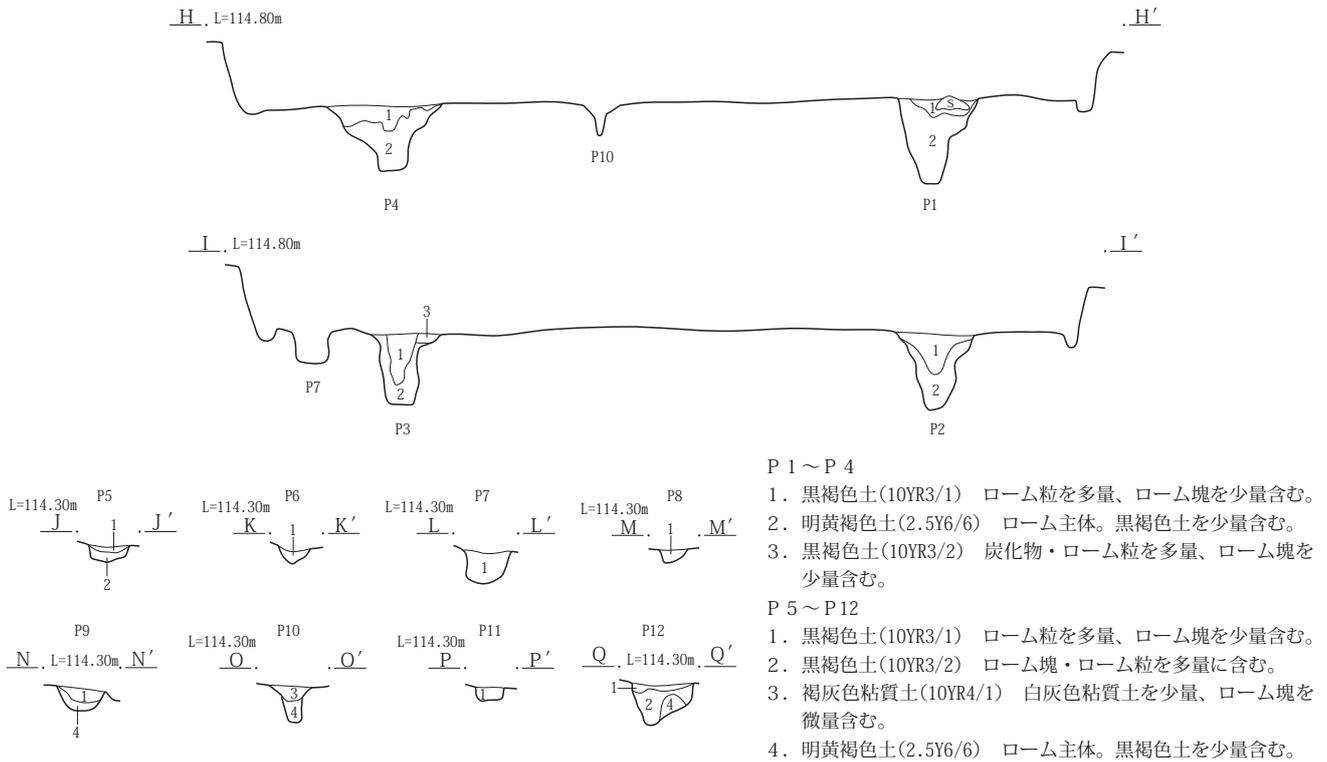


貯蔵穴

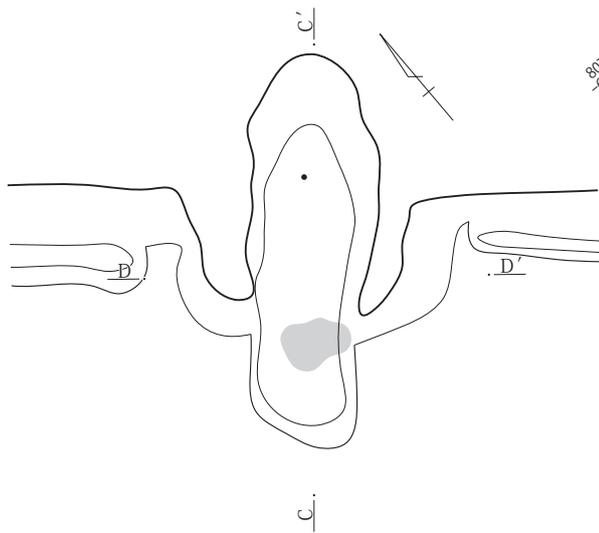
1. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土・ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒を微量含む。



第135図 2区41号竈穴建物

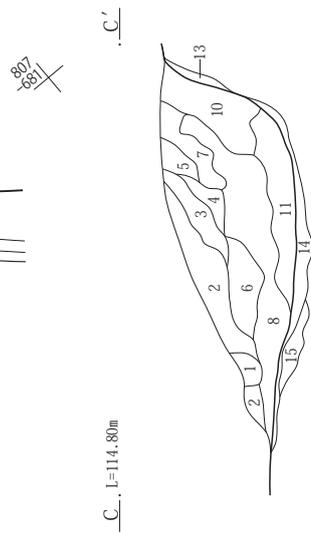
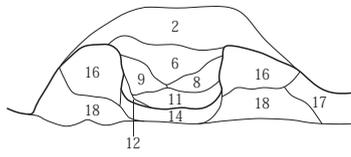


第136図 2区41号竈穴建物掘方



D, L=114.80m

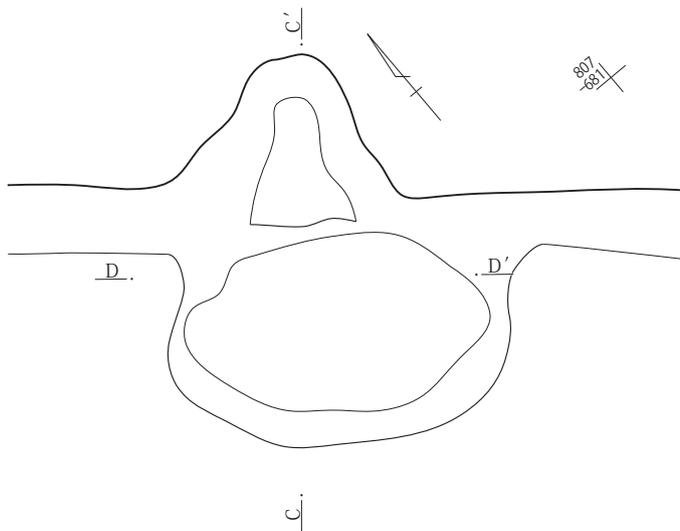
D'



C, L=114.80m

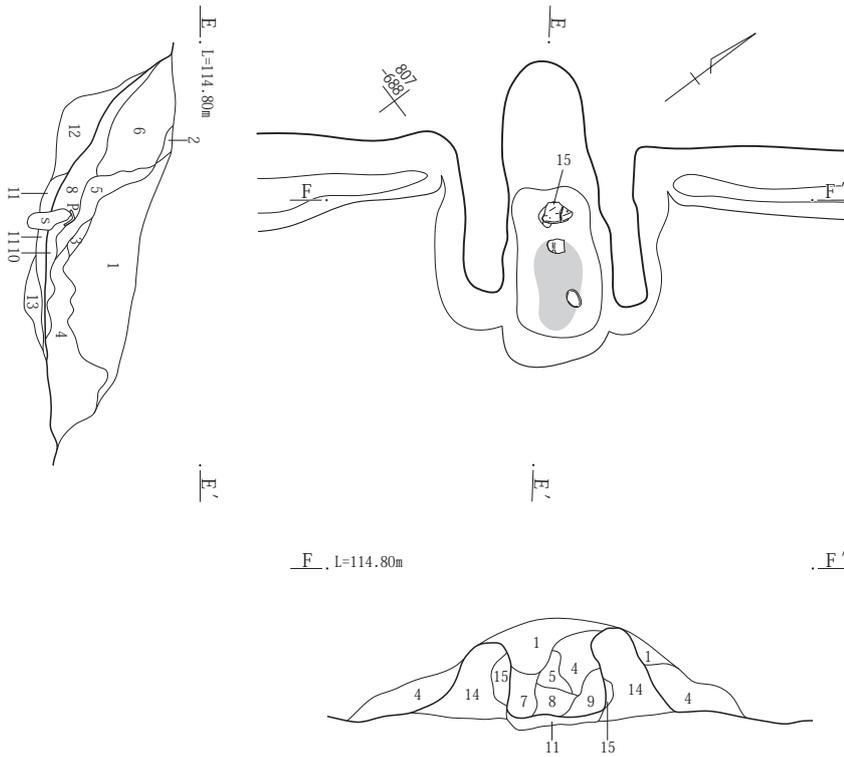
1号竈

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒・褐灰色粘質土塊・黒褐色土を少量、焼土粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土を多量、白色粒を少量、焼土粒を微量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土粒を微量含む。
5. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 暗褐色土を多量、焼土粒を微量含む。
6. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒を多量、ローム塊・焼土粒を少量含む。
7. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 黄褐色焼土を多量、炭化物を少量含む。
8. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 焼土粒を少量含む。
9. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) 焼土粒・ローム粒を少量含む。
10. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 焼土塊を少量含む。
11. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 明赤褐色焼土・炭化物を多量、暗灰色灰を微量含む。
12. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) 焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。
13. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土粒を少量含む。
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) 明赤褐色焼土・ローム塊を多量、暗灰色灰を少量含む。
15. 明赤褐色焼土(5YR5/8) 暗灰色灰を少量含む。
16. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 暗褐色土・焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。
17. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
18. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



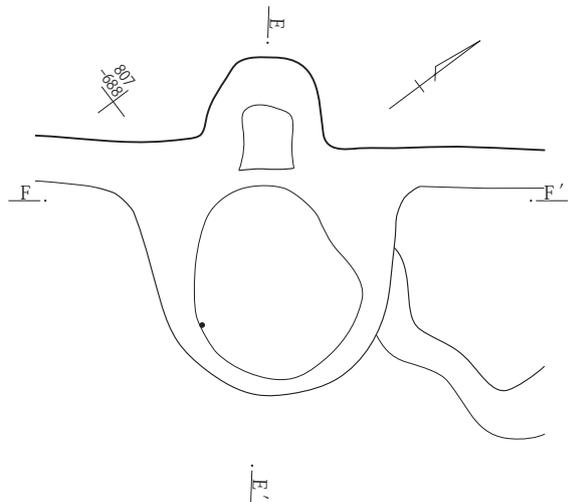
0 1:30 1m

第137図 2区41号竈建物1号竈



2号竈

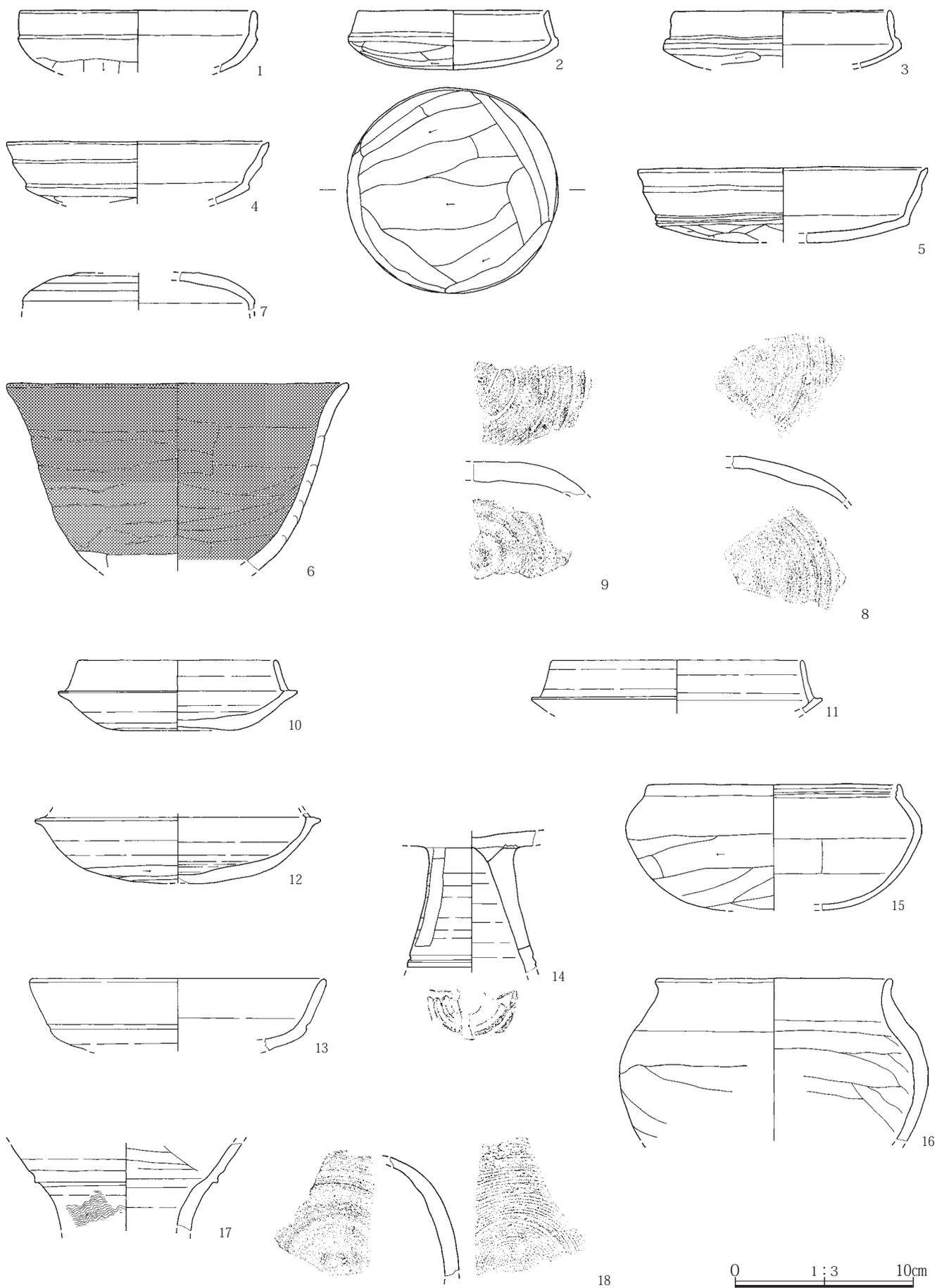
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・焼土粒・ローム塊・ローム粒・灰黄褐色粘質土を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒を多量、白色粒・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒を少量含む。
4. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2) 焼土粒を微量含む。
5. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) 黒褐色土・ローム塊・焼土粒を微量含む。
6. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) 焼土粒を少量、黒褐色土を微量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 灰黄褐色粘質土・明赤褐色焼土を多量に含む。
8. 暗褐色土(7.5YR3/3) 焼土粒を多量、黒褐色土・ローム塊を微量含む。
9. 灰黄褐色土(7.5YR4/2) 焼土塊・暗灰色灰を少量含む。
10. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒・暗灰色灰を多量に含む。
11. 暗灰色灰(N3/) 明赤色焼土を多量に含む。
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土を少量含む。
13. 明赤褐色焼土(5YR5/8) 暗灰色灰を少量含む。
14. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 白灰色粘質土・ローム塊・暗褐色土を微量含む。
15. 橙色焼土(7.5YR6/8) 黒褐色土を少量含む。



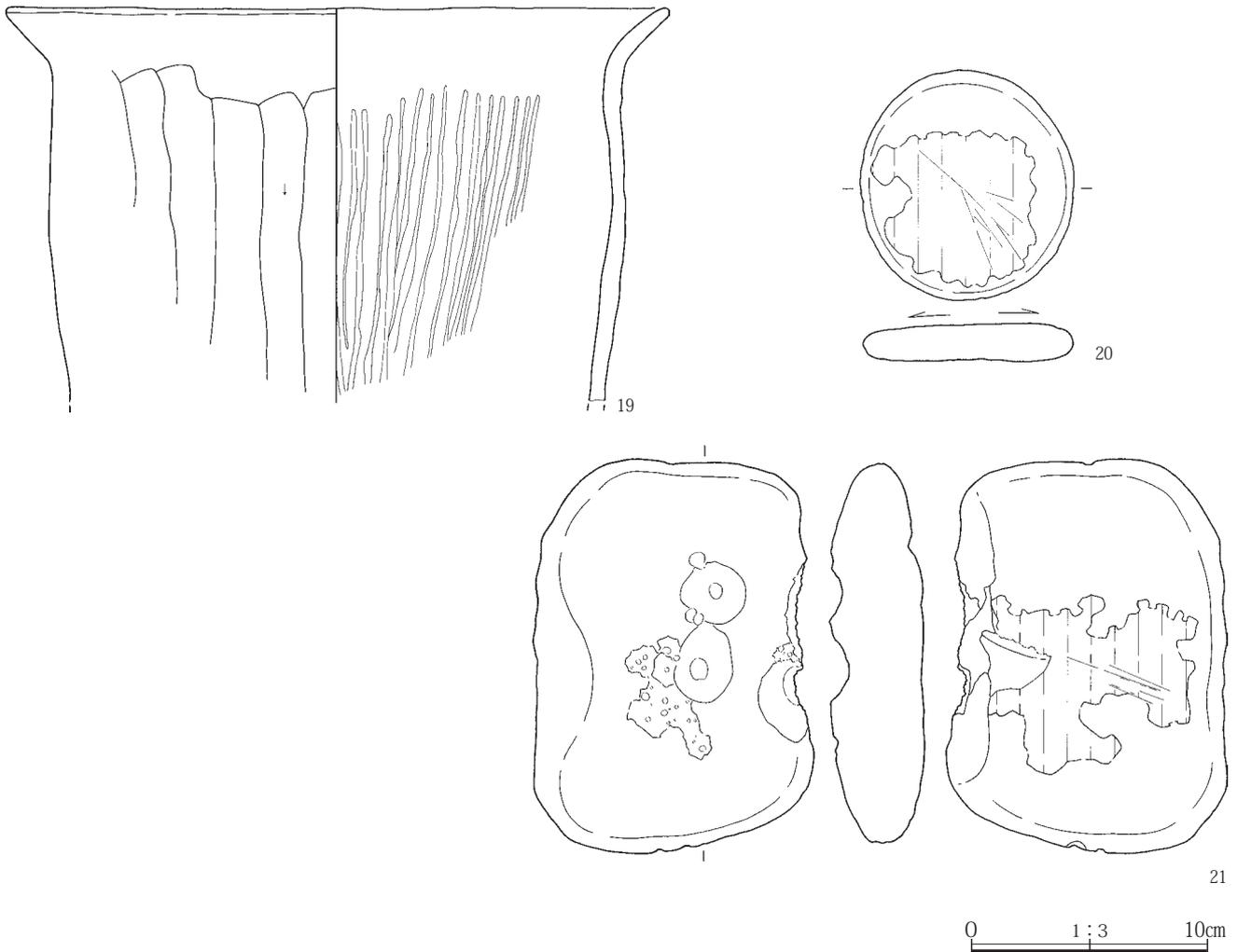
0 1:30 1m

第138図 2区41号竈建物2号竈

第3章 調査の成果



第139図 2区41号竪穴建物出土遺物(1)



第140図 2区41号竪穴建物出土遺物(2)

**貯蔵穴** 建物の東隅に設置している。規模は長径75cm、短径68cmの楕円形で、深さ39cmを測る。

**柱穴** 床面で12基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1	80×73×69	P 2	65×63×66
P 3	60×58×56	P 4	90×65×53
P 5	38×35×18	P 6	28×25×15
P 7	40×40×27	P 8	30×20×16
P 9	51×38×21	P 10	35×32×32
P 11	24×22×10	P 12	53×38×38

位置や規模、形状から、P 1～P 4が支柱穴と考えられる。位置や規模から、P 12は、出入り口に関わるもの、P 9は、貯蔵穴の可能性もある。他のピットについては、補強や間仕切り等に関わるものであることも考えられるが、明らかではない。

**壁溝** ほぼ全周している。幅5cm～15cm、深さ11cmを測る。

**遺物** 竈内、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1～5：土師器杯、6：同鉢、7～9：須恵器蓋杯の蓋(7は1号竈内)10～12：同蓋杯の身(11は1号竈内)、13・14：同高杯、15：土師器短頸壺(2号竈燃烧部底部)、16：同壺、17：須恵器甗、18：同瓶、19：土師器甗(床上15cm)、20：器種不明石製品、21：砥石とみられる石製品(床上15cm)である。

**所見** 本遺跡においては、最大規模の建物で、2基の竈を設置している。様々な器種の須恵器が多数出土していることも特徴的である。集落において、特別な建物、あるいは有力な人物が使用した建物の可能性がある。出土遺物の多くは埋没土中からであるが、竈内で出土した土器との共伴に矛盾しないものが多い。1号竈内で出土し

た蓋杯の身は口縁部の内傾が顕著であることから6世紀後半に比定でき、建物の時期も同様と考えられる。

#### 2区42号竪穴建物(第141~144図、PL.33・103・104)

調査区中央の西寄り、41号竪穴建物の南西に隣接する位置にあり、建物の北西側が調査区外にある。

**座標値** X=42,796~42,803 Y=-55,687~-55,694

**重複遺構** 43号竪穴建物、911号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が43号竪穴建物より新しく、911号ピットより古い。

**形状** 建物の北西部が調査区外にあるため、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、方形とみられる。

**主軸方位** N-43°-E

**規模** 長軸5.32m 短軸(4.75m)

床面積(23.22㎡) 残存壁高52cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土、暗褐色土等である。上層には、白色粒を多く含む。建物の中央と考えられる範囲の床面直上あるいはその付近で、多量の礫が出土した。丸みを帯びているものがほとんどで、径は約15cmから50cmを超えるものまで様々である。堆積に不自然な状況が見られることから、埋め戻される途中で投棄された可能性がある。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが25cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁に設置している。規模は長軸140cm、袖幅50cm、燃烧部幅43cmを測る。燃烧部が建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは45cmである。右袖には14、左袖には15の土師器の甕を、口縁を下にして据え、褐灰色粘質土を用いて構築している。

**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径81cm、短径75cmの隅丸長方形、深さ46cmを測る。貯蔵穴を含む0.8m×0.7m程の範囲が周囲の床面より10cm程低くなっており、蓋が置かれていた可能性がある。

**柱穴** 床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 70×55×70 P 2 78×65×64

P 3 72×(30)×61 P 4 70×45×85

P 3は、一部が調査区外にあり、限られた範囲の計測値

であるが、他のピットと同規模と考えられる。それぞれの規模と位置から、支柱穴と考えられる。

**壁溝** 南東壁から南西壁にかけて確認した。幅5cm~18cm、深さ9cmを測る。

**遺物** 竈、床面直上、埋没土中から多数の土器が出土した。掲載した遺物は、1~7:土師器杯(2・6は床面直上、4はP 2内床下33cm)、8:同高杯、9:須恵器蓋杯の身、10・11:同短頸壺(10は床下)、12・13:同壺(床面直上)、14~17土師器甕(14は竈右袖、15は竈左袖、16・17は床面直上) 18:同小型甕(床面直上)、19:壺形の手捏ね土器(床面直上)である。

**所見** 建物の北西側が調査区外にあるが、柱穴の位置から、本遺跡では中規模となる正方形の建物である可能性が高い。多数の土師器杯が出土しているが、須恵器杯身模倣と有段口縁杯だけで、須恵器杯蓋模倣が伴わないのが特徴的である。床面直上や竈で出土した土器から、時期は6世紀後半である。

#### 2区43号竪穴建物(第145・146図、PL.34・104)

調査区中央の南西寄り、42号竪穴建物の南西にあり、建物の北東側が重複している。また、北西側は調査区外にある。

**座標値** X=42,795~42,799 Y=-55,692~-55,696

**重複遺構** 42号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性はあるが、重複によって北東部が壊され、北西部が調査区外にあるため、明らかではない。

**長軸方位** N-50°-E

**規模** 長軸(3.80m) 短軸(3.00m)

床面積(10.67㎡) 残存壁高38cm

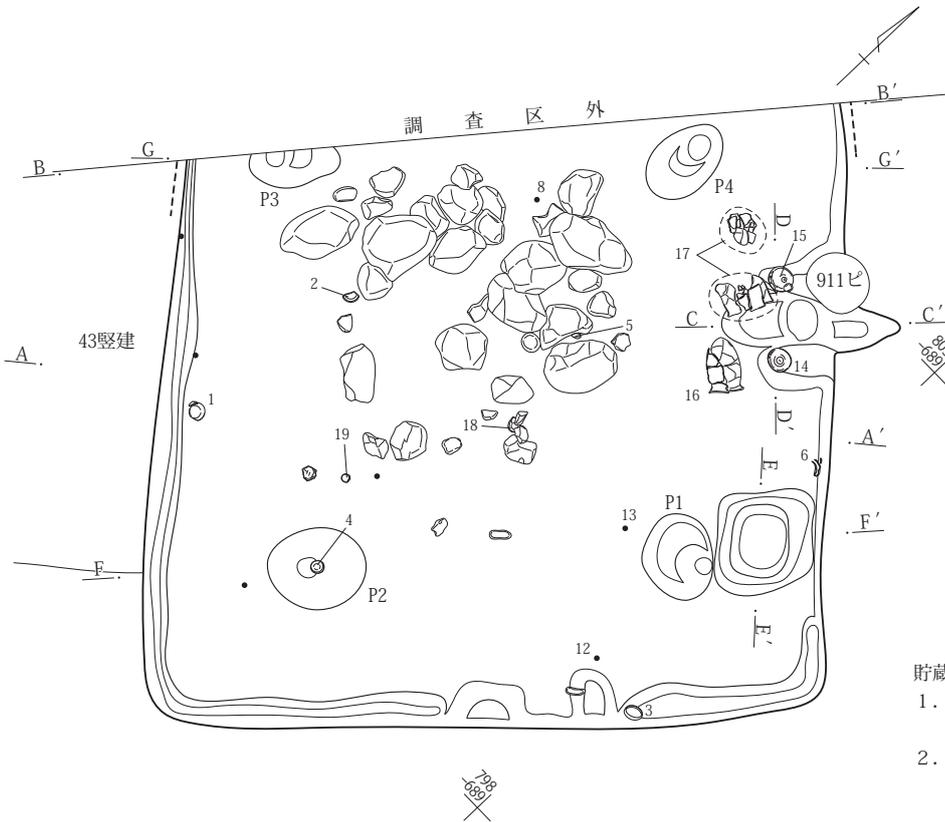
**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。P 1の北側の100cm×40cm程の範囲で、焼土を含む褐灰色粘質土を検出した。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。ピット状の窪みや、細かい凹凸も見られる。

**竈** 確認されなかった。

**貯蔵穴** 建物の東隅でP 3を検出した。規模は長径48cm、



貯蔵穴

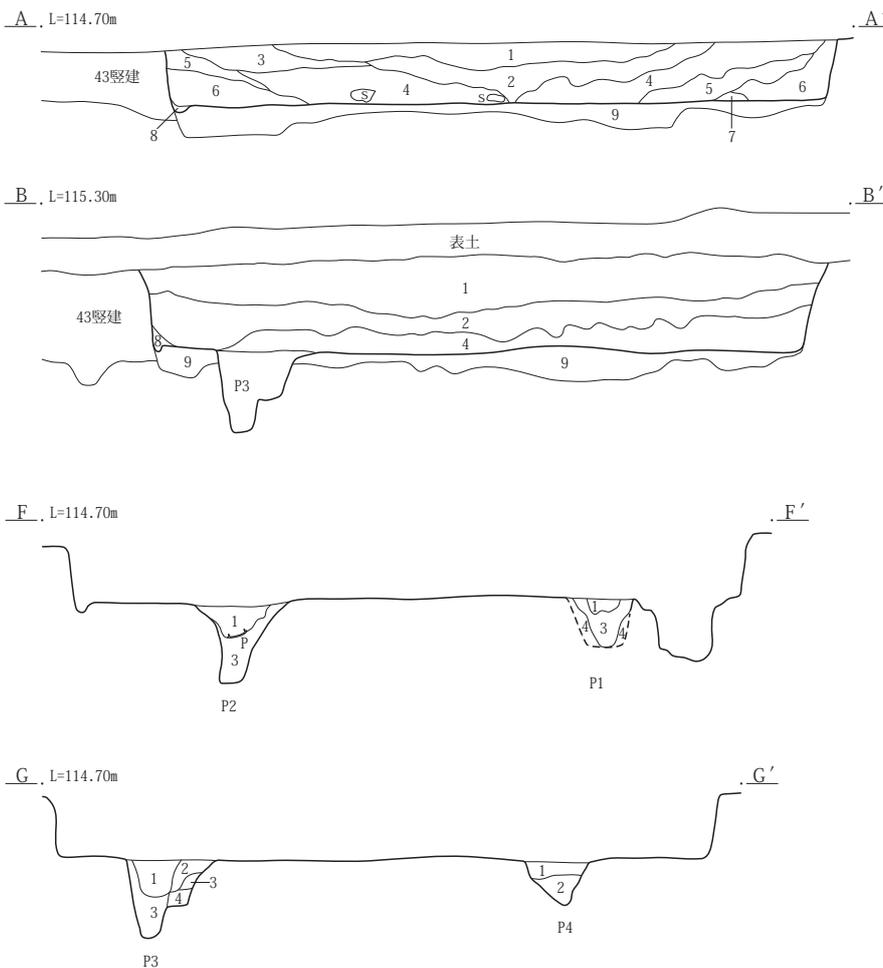
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。

42号竪穴建物

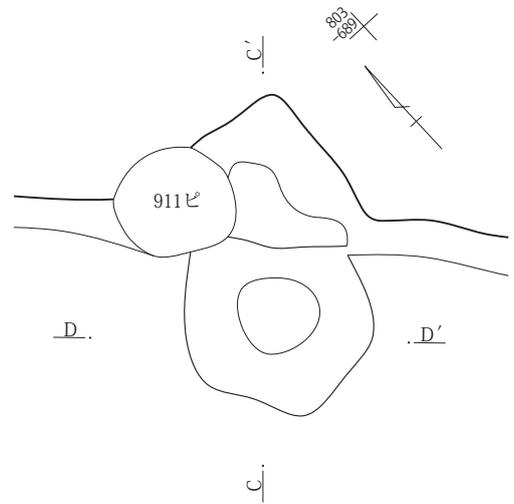
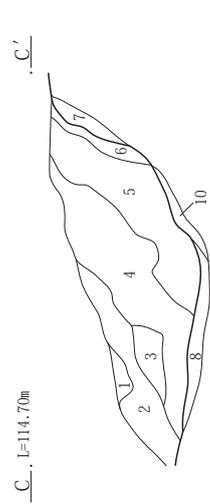
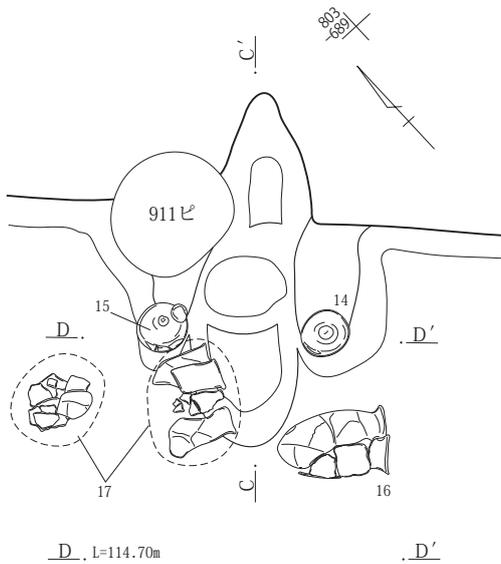
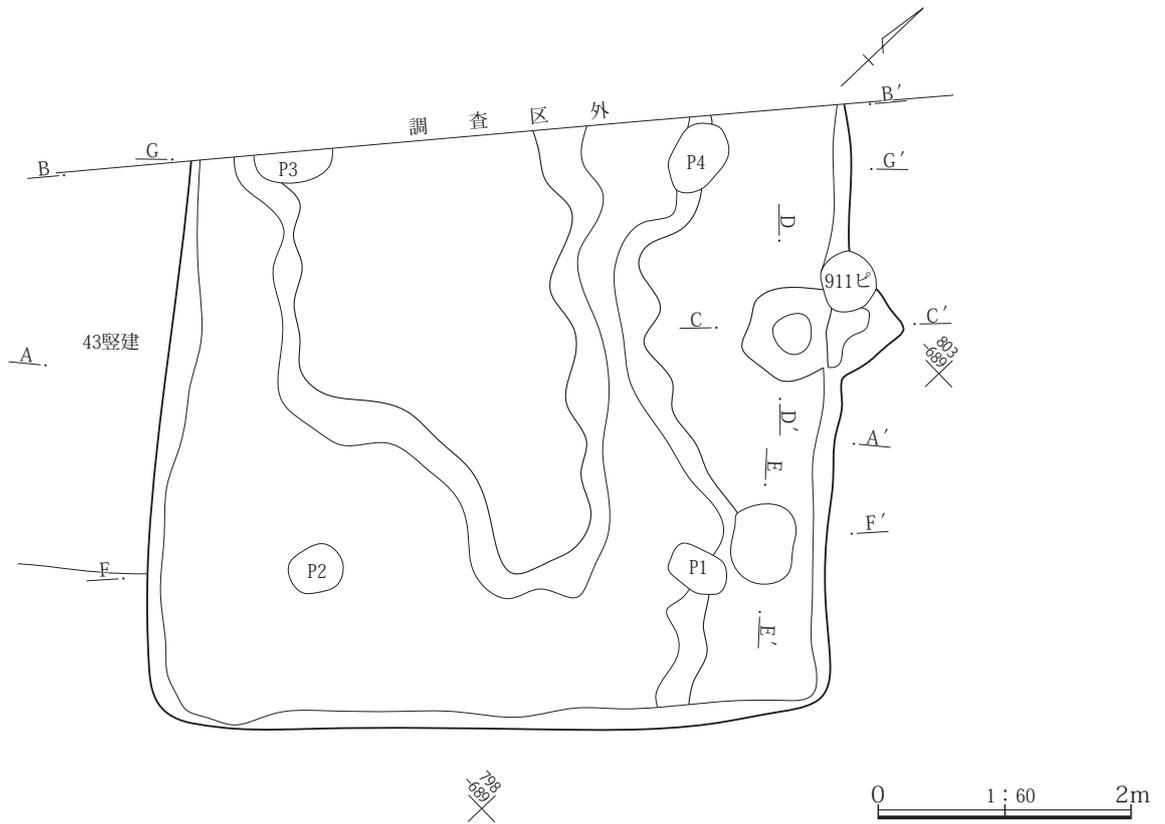
1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒・白色粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 黄褐色土(2.5Y5/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
7. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 黒褐色土を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
9. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P1～P4

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
4. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。暗褐色土を少量含む。

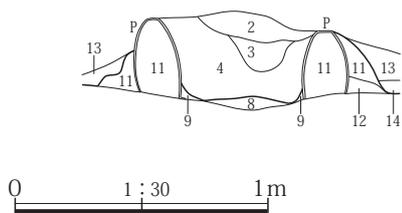


第141図 2区42号竪穴建物

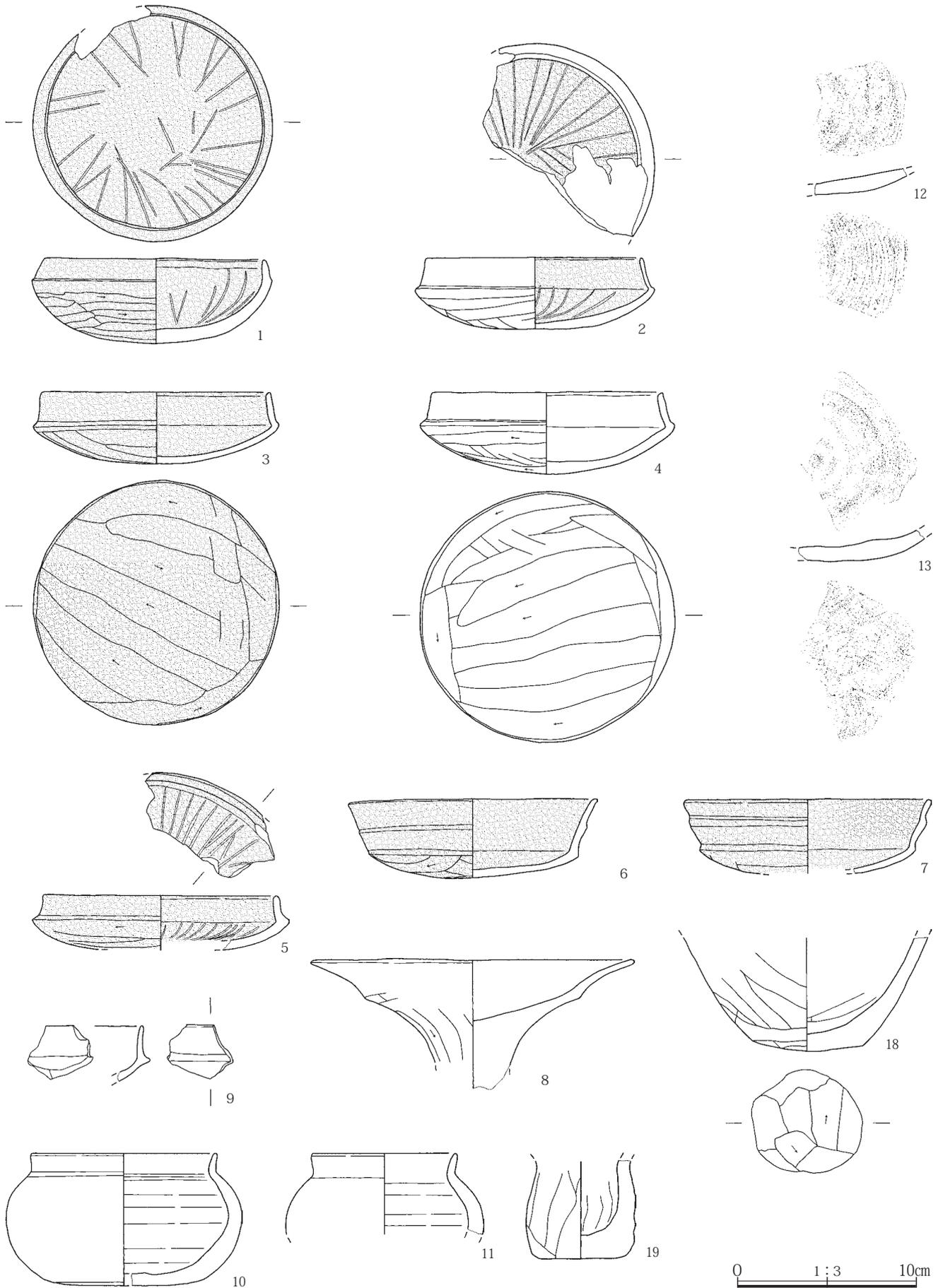


竈

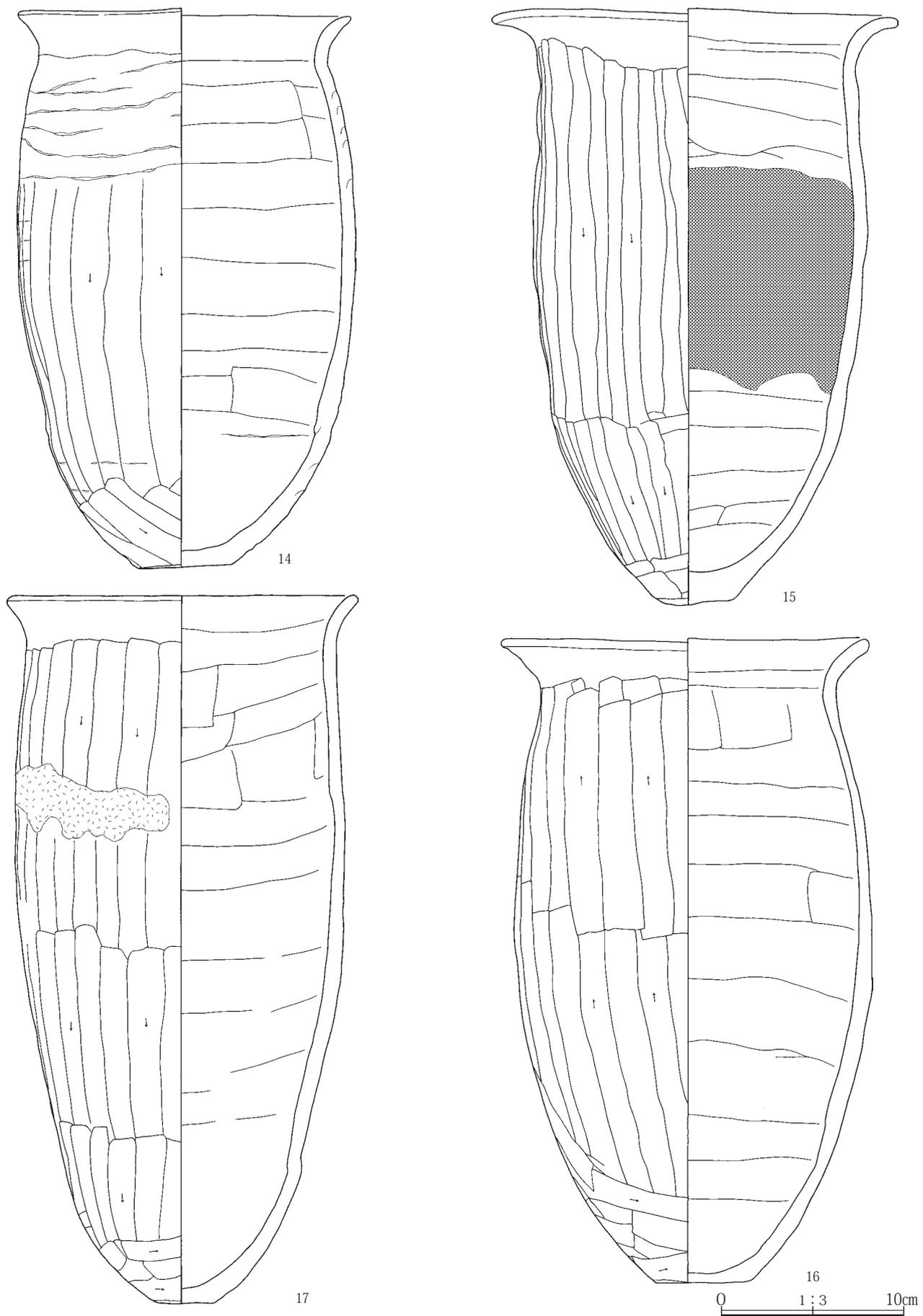
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 暗褐色土・ローム粒を微量含む。
3. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 橙色焼土を多量に含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 下部に焼土粒・灰を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土・明赤褐色焼土を多量に含む。
6. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 明赤褐色焼土を多量に含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土・ローム粒・褐灰色粘質土を少量含む。
8. 明赤褐色焼土(5YR5/8) 暗灰色灰を少量含む。
9. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 明赤褐色焼土・暗灰色灰を少量含む。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 明赤褐色焼土を多量、ローム粒を少量含む。
11. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) ローム粒・焼土粒を少量含む。
12. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、炭化物を少量含む。
13. 褐灰色粘質土(10YR5/1) 黒褐色土・白色粒・ローム粒を少量含む。
14. 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土・焼土粒・ローム粒を少量含む。



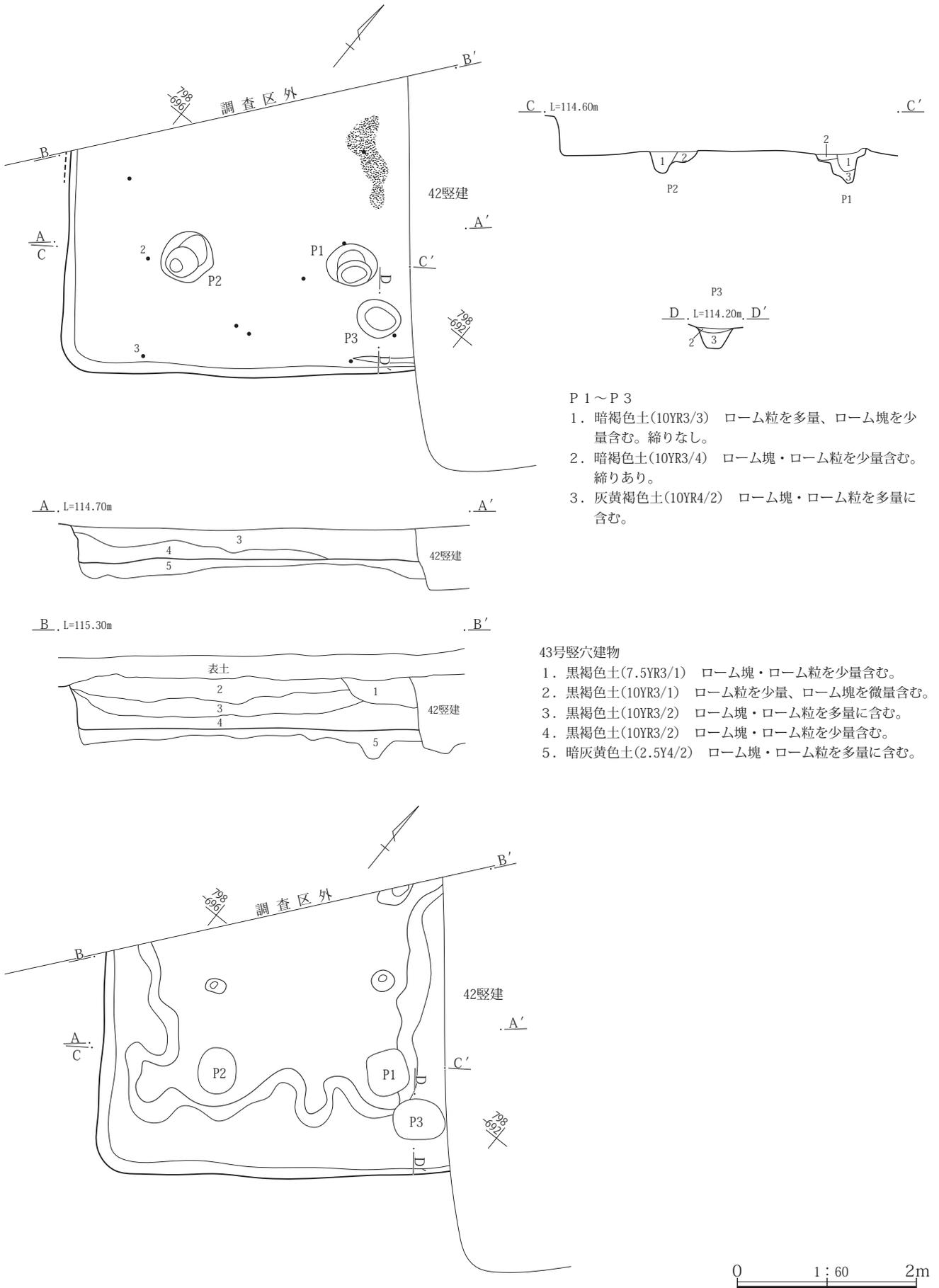
第142図 2区42号竪穴建物掘方・竈



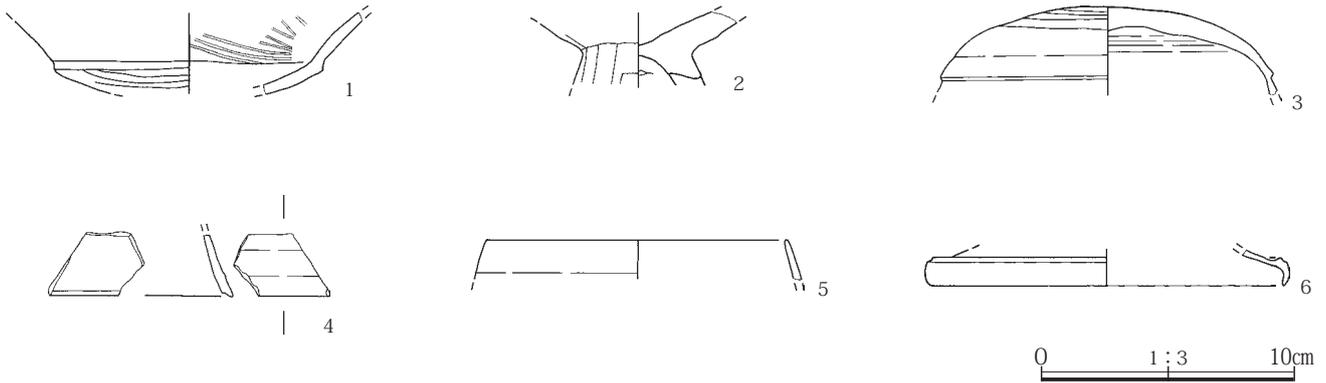
第143図 2区42号竪穴建物出土遺物(1)



第144図 2区42号竪穴建物出土遺物(2)



第145図 2区43号竪穴建物



第146図 2区43号竪穴建物出土遺物

短径43cmの隅丸長方形で、深さ31cmを測る。貯蔵穴の可能性はある。

**柱穴** 床面でP 3の他、2基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 58×48×39 P 2 59×54×26

位置や規模、形状から、P 1・P 2は支柱穴と考えられる。

**壁溝** 42号竪穴建物と重複する手前の60cm程の範囲で僅かに窪みを検出したが、他の範囲では確認されなかった。

**遺物** 埋没土中から土師器や須恵器の小片が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯、2：同高杯、3・4：須恵器蓋杯の蓋、5：同蓋杯の身、6：同高杯である。

**所見** 重複によって北東部が壊され、北西部が調査区外にあるため、明らかではないが、支柱穴と壁の位置から、一辺4m50cm前後の方形の建物の可能性が高い。出土した土器は全て埋没土中からであるが、おおむね同時期のものである。5の須恵器蓋杯の身の口縁部が内傾し、3・4須恵器蓋杯の蓋口縁部がハの字状に開く様相が見られることから、時期は6世紀後半と考えられる。

#### 2区44号竪穴建物(第147～149図、PL.34・104)

調査区中央の南西寄り、42号竪穴建物の5m程南東にある。

**座標値** X=42,790～42,796 Y=-55,682～-55,689

**重複遺構** 590号ピットと重複している。本遺構が新しい。

**形状** ほぼ正方形 **主軸方位** N-130°-E

**規模** 長軸4.95m 短軸4.85m

床面積(16.78㎡) 残存壁高32cm

**埋没土** 上層から白色粒やローム粒を含む黒褐色土、ローム粒や褐灰色粘質土を含む暗褐色土、ローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

**床面** ほぼ平坦であるが、多少起伏があり、西方向に向かって僅かに傾斜している。

**掘方** 床面から15cm～20cm程の深さがあり、細かい凹凸が見られる。

**竈** 南東壁のやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸130cm、袖幅30cm、燃烧部幅45cmを測る。燃烧部がほぼ建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは30cmである。左袖には27cm×18cm×42cm、右袖には27cm×15cm×38cm程の隅丸の直方体に近い形状の礫を据え、褐灰色粘質土等を用いて構築している。また、燃烧部の底部では、径10cm、高さ10cm程の円柱に近い形状の円礫2つが直立よりやや煙道方向に傾いた状態で出土した。支脚として使用されたものの可能性がある。

**貯蔵穴** 2基の貯蔵穴を確認した。建物南隅の1号貯蔵穴の規模は長径140cm、短径110cmの隅丸長方形に近い形状で、深さ56cmを測る。底部にはピット状の段差がある。2号貯蔵穴の規模は長径105cm、短径90cmの楕円形で、深さ51cmを測る。

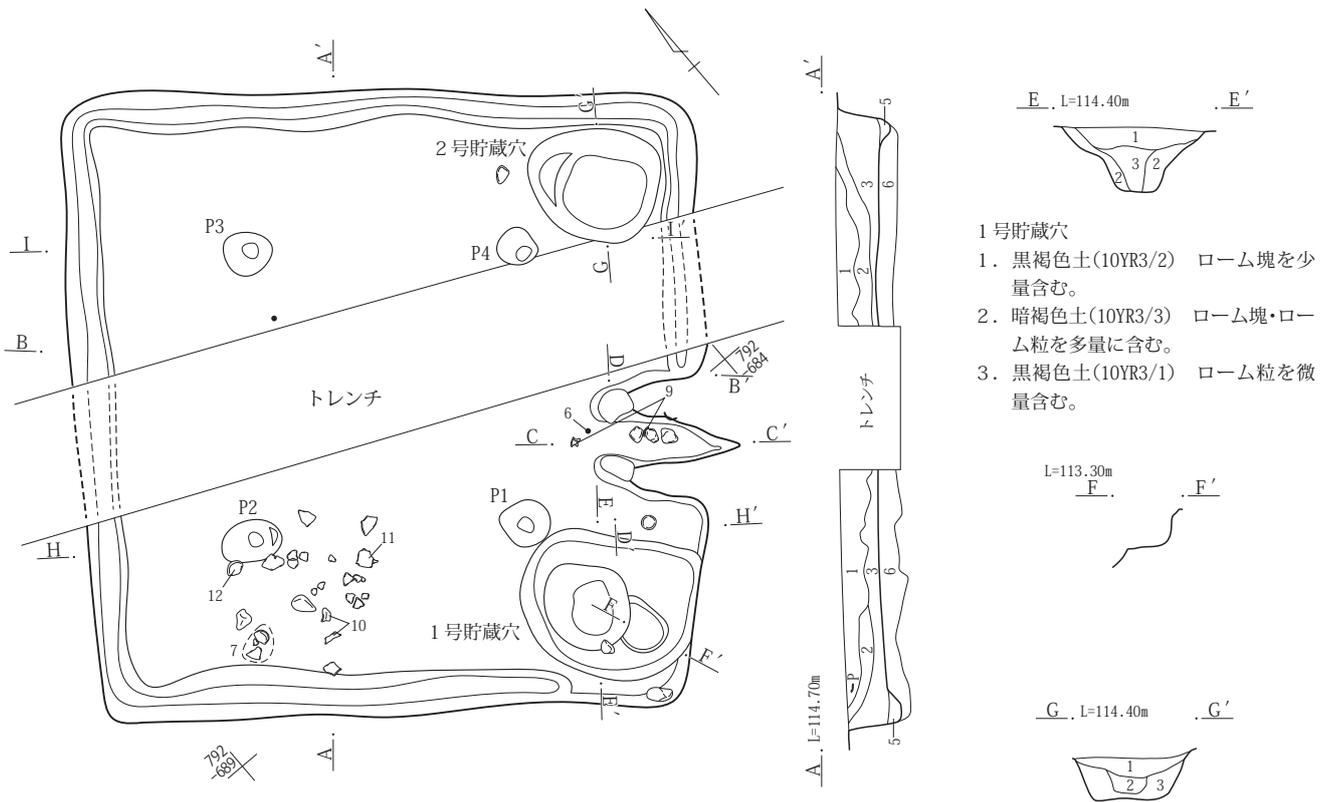
**柱穴** 床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 40×38×80 P 2 50×33×94

P 3 49×35×80 P 4 33×30×86

位置や規模、形状から、それぞれ支柱穴と考えられる。

**壁溝** 試掘トレンチの範囲を除き、ほぼ全周している。幅5cm～15cm、深さ10～19cmを測る。



1号貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を微量含む。

2号貯蔵穴

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
2. 褐灰色粘質土(5YR5/1) 灰白色粘質土・ローム塊・暗褐色土を少量含む。
3. 暗オリーブ褐色土(2.5YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

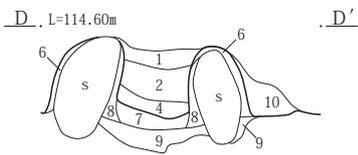
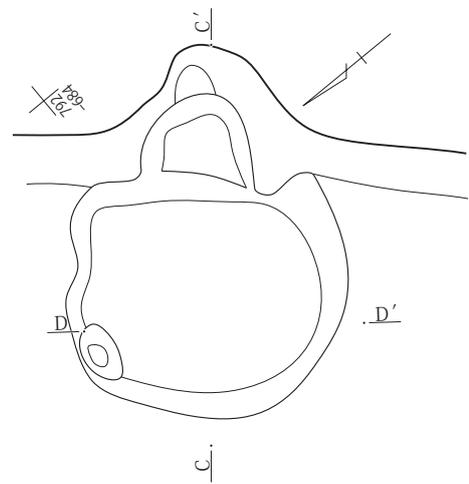
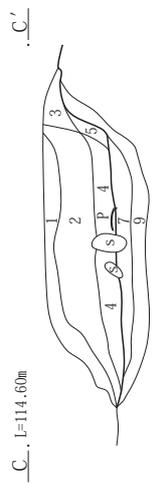
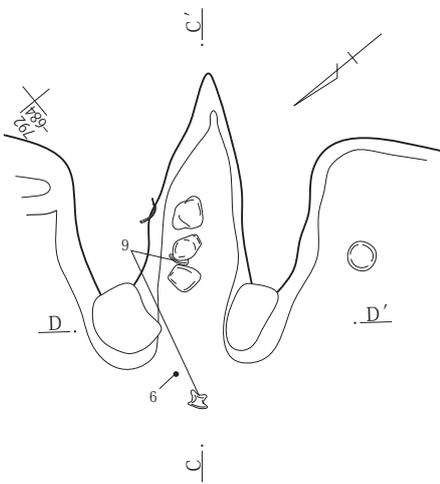
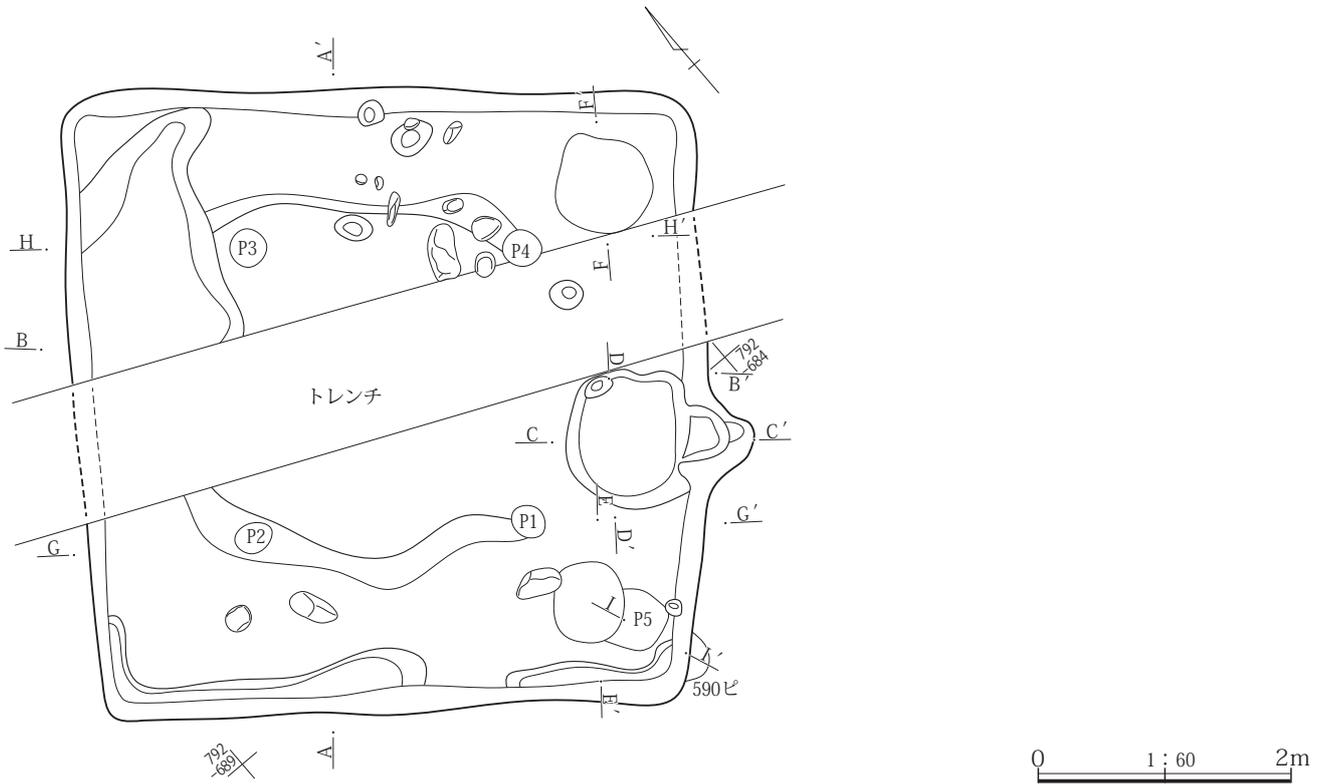
44号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を少量、ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、褐灰色粘質土を微量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 暗褐色土・ローム塊を少量含む。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を多量に含む。
6. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P1～P4

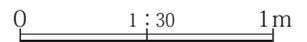
1. 黒褐色土(2.5Y3/1) 橙色焼土塊・ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

第147図 2区44号竪穴建物

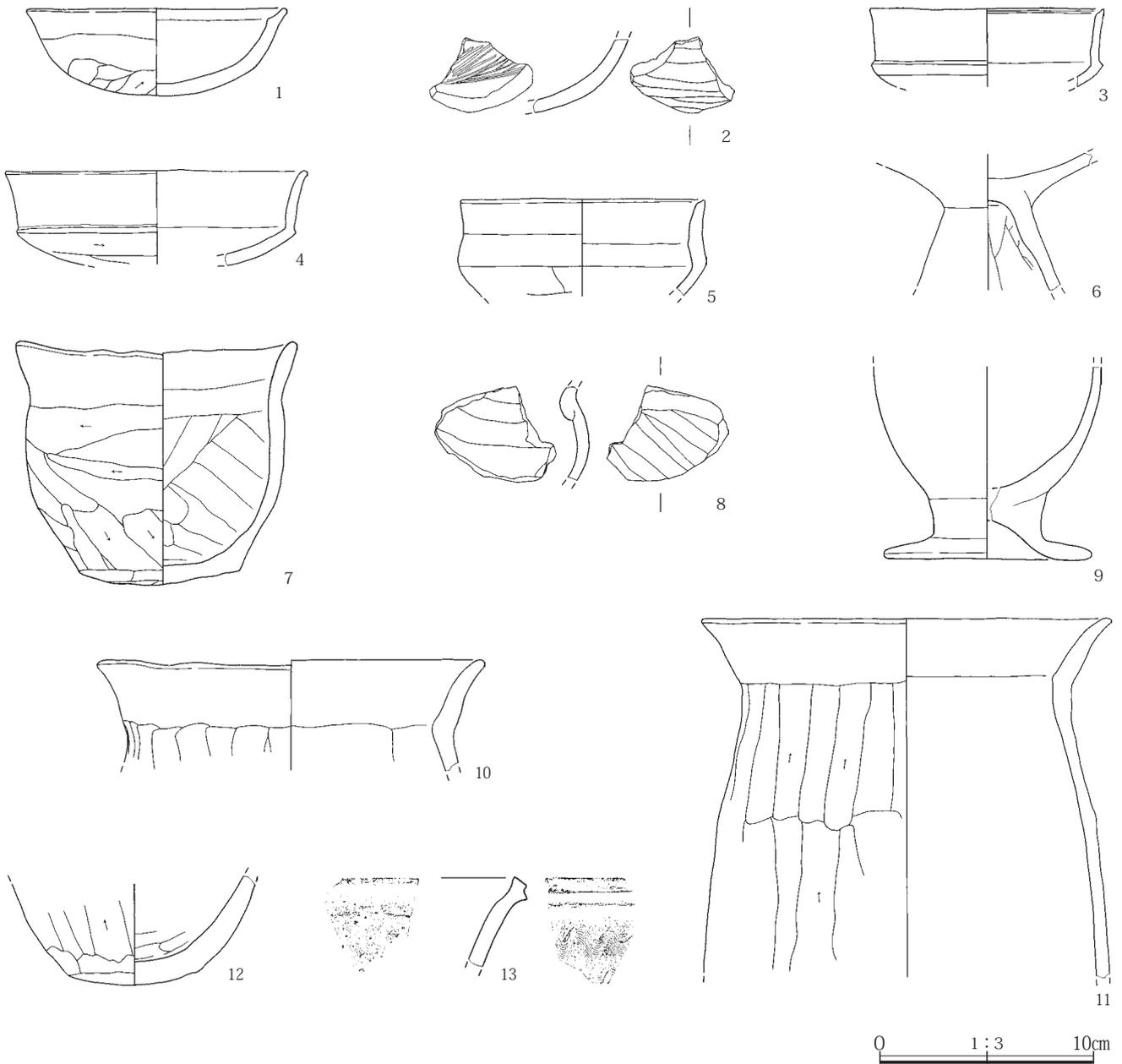


竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、焼土塊を微量含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土粒を少量、白色粒・ローム粒を微量含む。
3. 褐灰色粘質土(5YR5/1) 焼土粒を少量含む。
4. 黒褐色土(7.5YR2/2) 橙色焼土塊を多量、褐灰色粘質土・ローム塊・灰・炭化物を少量含む。
5. 暗褐色土(7.5YR3/3) 橙色焼土塊を少量、ローム塊を微量含む。
6. 黒褐色土(5YR2/2) ローム塊を少量含む。
7. 暗赤褐色土(5YR3/2) 橙色焼土・暗灰色灰を上部に多量に含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/1) 橙色焼土を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
10. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 暗褐色土・ローム塊を少量含む。



第148図 2区44号竪穴建物掘方・竈



第149図 2区44号竪穴建物出土遺物

**遺物** 竈、埋没土中から土師器や須恵器が多数出土した。掲載した遺物は、1～4：土師器杯、5：同碗、6：同高杯(竈焚口)、7：同鉢(床上11cm)、8：同小型壺、9：同台杯壺(竈内)、10～12：同甕(11は床上6cm、12は床上12cm)、13：須恵器甕である。

**所見** 建物の南隅の平面形状にややゆがみが見られるが、本遺跡では中規模の、正方形に近い建物である。2基の貯蔵穴を有し、深い柱穴、大きめの両袖石や支脚を据えた竈、深めの壁溝が特徴的である。また、竈焚口で出土した土師器高杯はロクロ整形で、三ツ寺I遺跡や金井東裏遺跡・金井下新田遺跡で出土したものと胎土等が類似

している。その他、竈内や埋没土中で出土した土器も共に矛盾のない形状である。これらの土器から、時期は5世紀末～6世紀初頭である。

**2区45号竪穴建物**(第150・151図、PL.34・35・105)

調査区南側、44号竪穴建物の南に隣接する位置にある。

**座標値** X=42,786~42,790 Y=-55,685~-55,690

**重複遺構** 46号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-58°-E

**規模** 長軸3.60m 短軸3.60m

床面積11.59㎡ 残存壁高35cm

**埋没土** 主に白色粒やローム塊を含む黒褐色土と暗褐色土で、床面付近はローム塊やローム粒を含む灰黄褐色土である。

**床面** おおむね平坦であるが、多少起伏が見られ、西方向に向かって僅かに傾斜している。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸156cm、袖幅65cm、燃燒部幅80cmを測る。燃燒部の多くが壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは80cmである。燃燒部底部から煙道にかけて厚い焼土や、灰層が見られ、長期間にわたって使用されていたと考えられる。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 全周している。幅5cm~15cm、深さ4cm~8cmを測る。

**遺物** 床面直上、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2：須恵器杯蓋、3：同有台杯、4：同杯、5：土師器甕、6：磨製石鏃である。

**所見** 小規模な正方形の建物である。掲載した遺物のうち、床面直上で出土したものは1の杯のみであるが、2~5の土器も共に矛盾しない形態である。これらの土器から、建物の時期は8世紀第3四半期である。

**2区46号竪穴建物**(第152・153図、PL.35・105)

調査区南側、45号竪穴建物の西に位置し、建物の東隅が重複している。

**座標値** X=42,787~42,791 Y=-55,688~-55,693

**重複遺構** 45号竪穴建物、45号・46号土坑、538号・539号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が45号竪穴建物より古く、45号・46号土坑、538号・539号ピットより新しい。

**形状** 重複によって東隅が壊されているため、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、ほぼ正方形とみられる。

**主軸方位** N-56°-E

**規模** 長軸3.83m 短軸3.50m

床面積(9.51㎡) 残存壁高33cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む暗褐色土と黒褐色土である。また、各層に焼土粒も僅かに見られる。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cmの所がある一方、5cm以下の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁南寄りの位置に設置しているが、重複する45号竪穴建物によって壊されており、残存したのはその一部のみである。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 床面で3基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 20×20×14 P 2 35×35×17

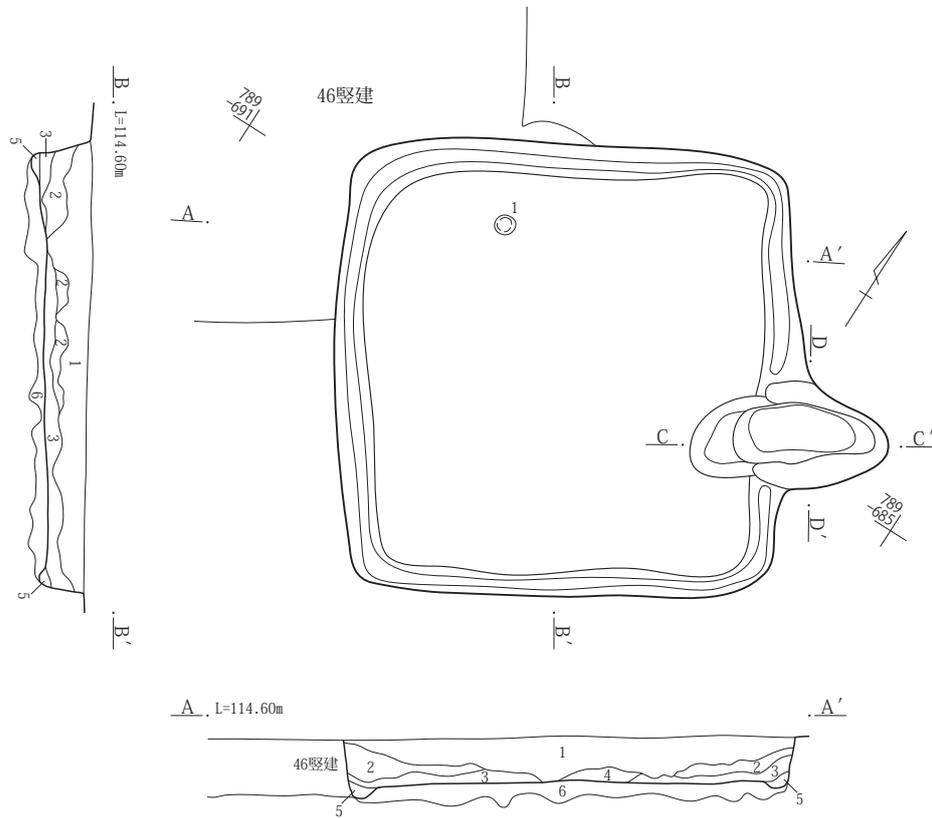
P 3 30×25×11

P 2は支柱穴の可能性もあるが、位置や規模、形状に疑問が残る。P 3は、その位置から出入り口に関わる可能性がある。

**壁溝** 45号竪穴建物と重複する範囲付近を除き、全周している。幅5cm~13cm、深さ4cmを測る。

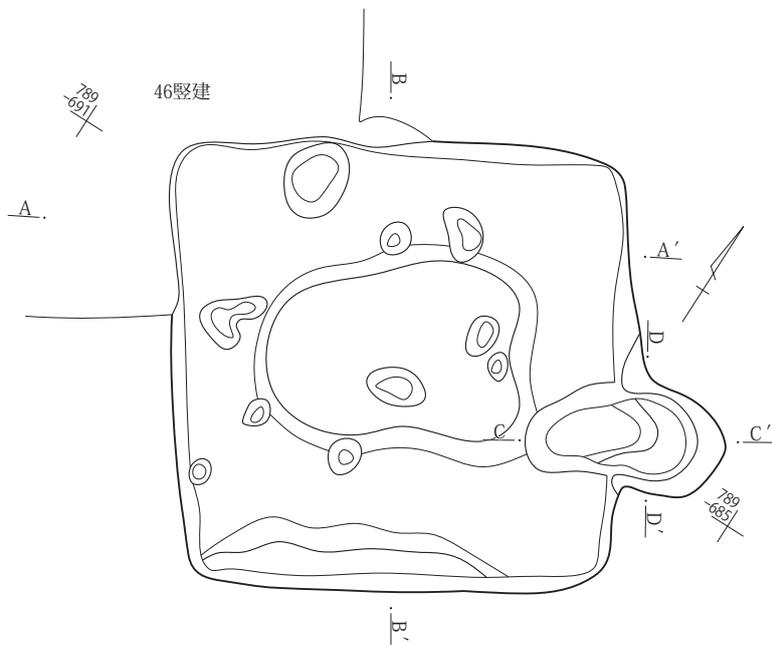
**遺物** 床面直上、床下、埋没土中から遺物が出土した。掲載した遺物は、1~3：土師器杯(2は床面直上、3は床下)、4：同高杯(床下)、5：白玉である。

**所見** 重複により失われている範囲もあるが、ほぼ正方形の小規模な建物と考えられる。床面直上や床下等で出土した土器から、時期は7世紀第4四半期~8世紀第1四半期である。



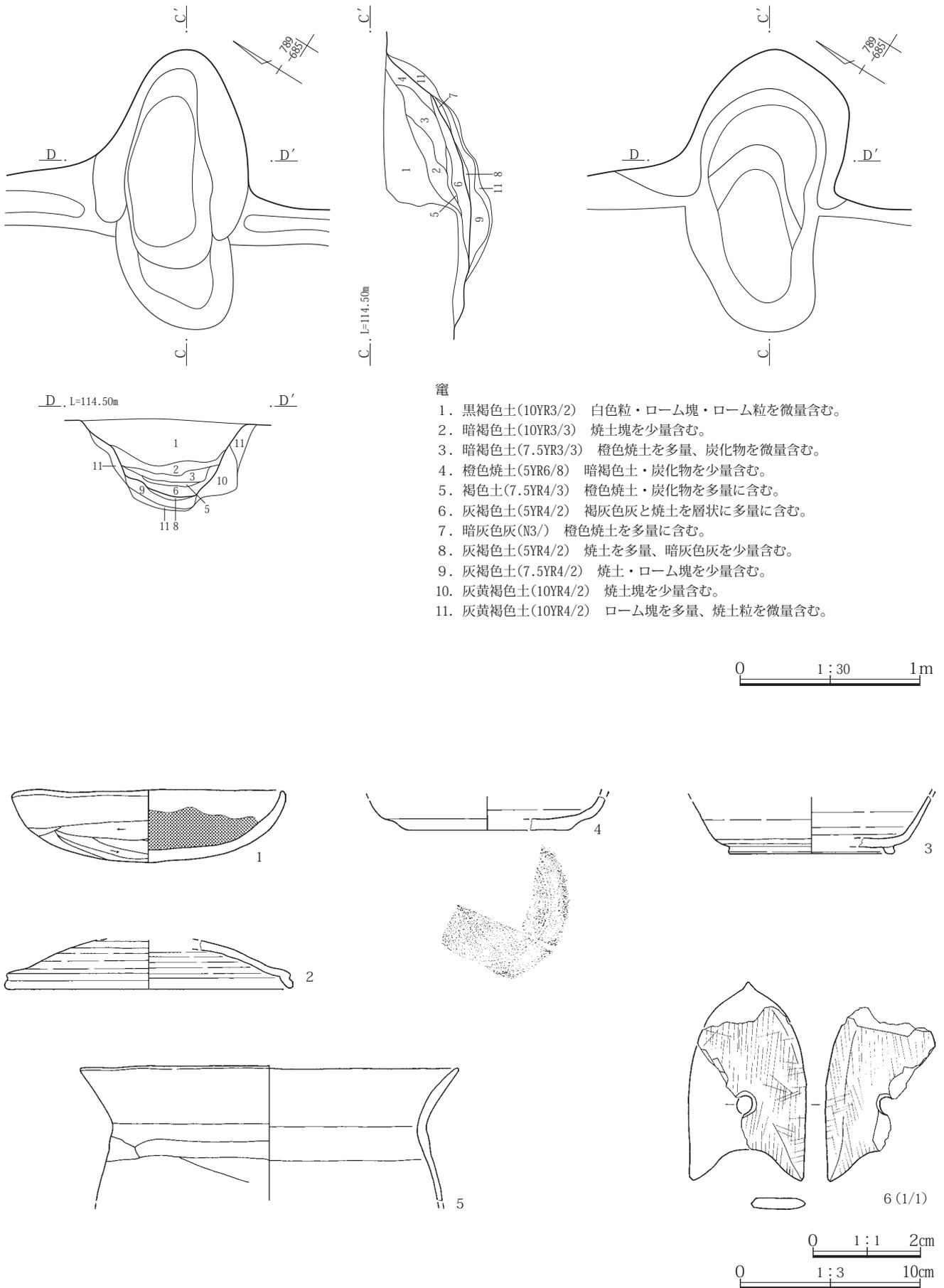
45号竖穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、白色粒・焼土塊を微量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量含む。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
6. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

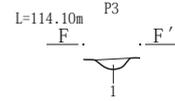
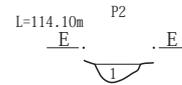
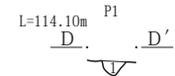
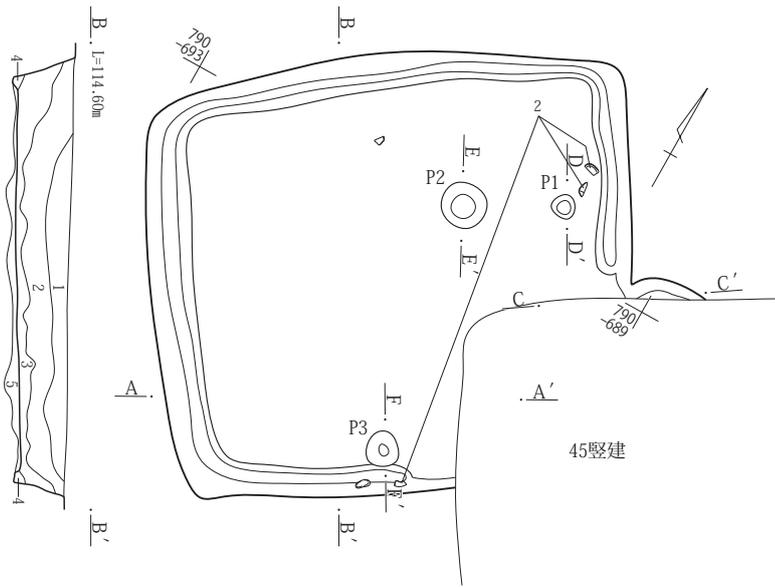


0 1:60 2m

第150図 2区45号竖穴建物

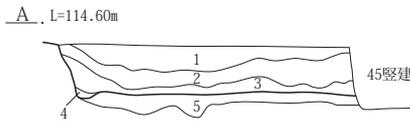


第151図 2区45号竪穴建物竈・出土遺物



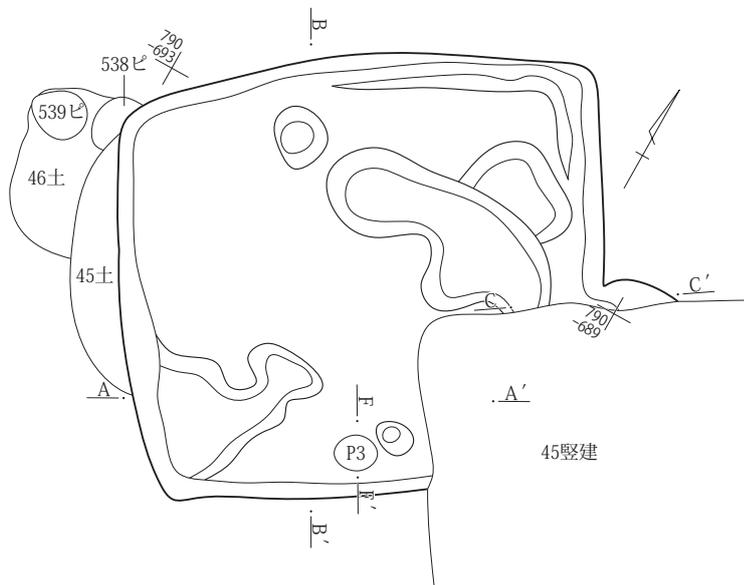
P 1 ~ P 3

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

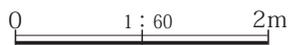


45号竖建

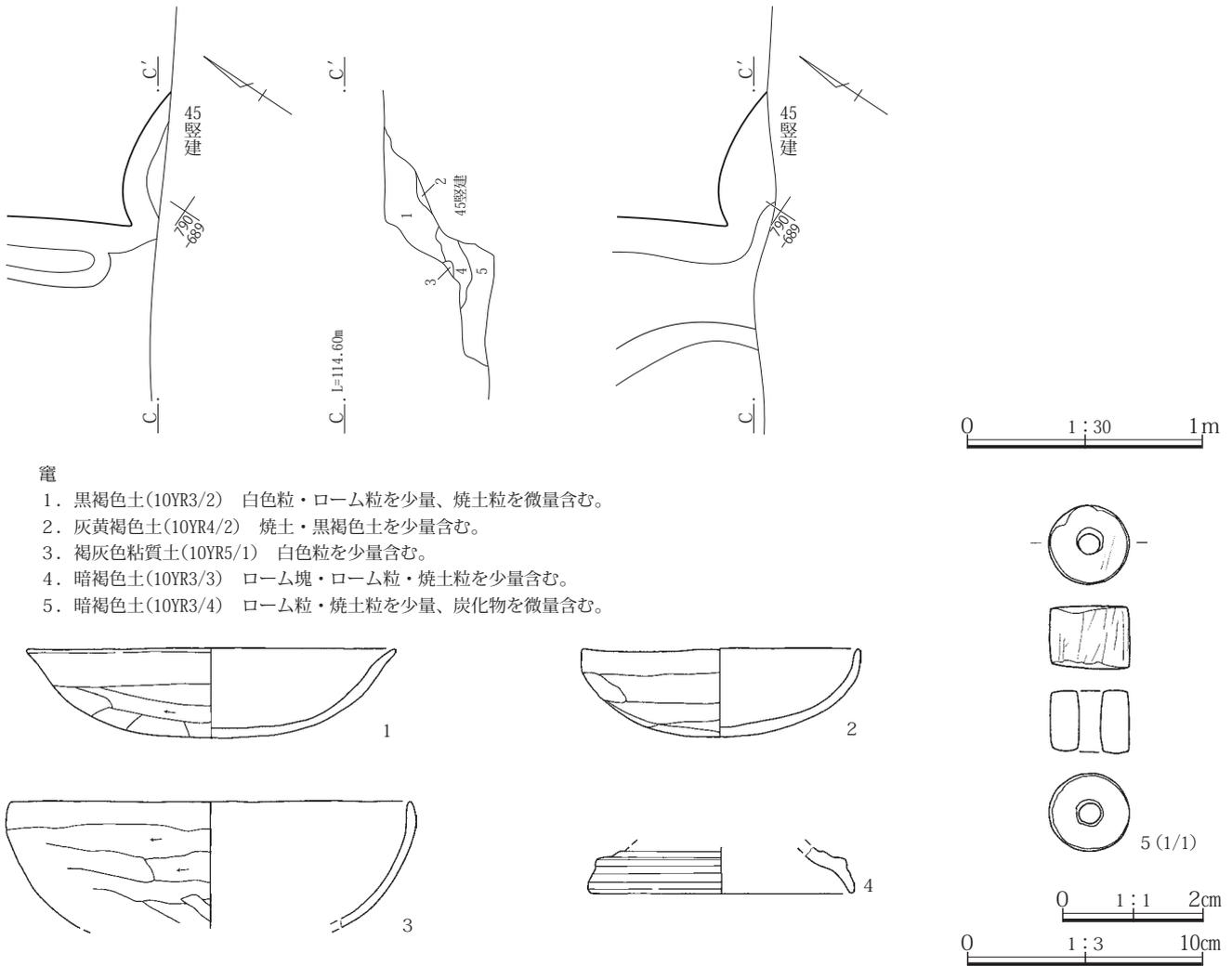
1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム粒を少量、ローム塊・焼土粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量、焼土粒を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・焼土塊を少量含む。粘性ややあり。縮りあり。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を多量に含む。
5. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



45号竖建



第152図 2区46号竖穴建物



2区47号竈穴建物(第154~156図、PL.35・105)

調査区南側、46号竈穴建物の10m程西にあり、建物の西側が調査区外にある。

座標値 X=42,787~42,793 Y=-55,696~-55,702

重複遺構 なし

形状 北西側が調査区外にあるため、明らかではないが、確認できた範囲の形状から方形とみられる。

主軸方位 N-42°-E

規模 長軸5.05m 短軸(4.20m)

床面積(19.17㎡) 残存壁高62cm

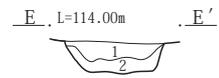
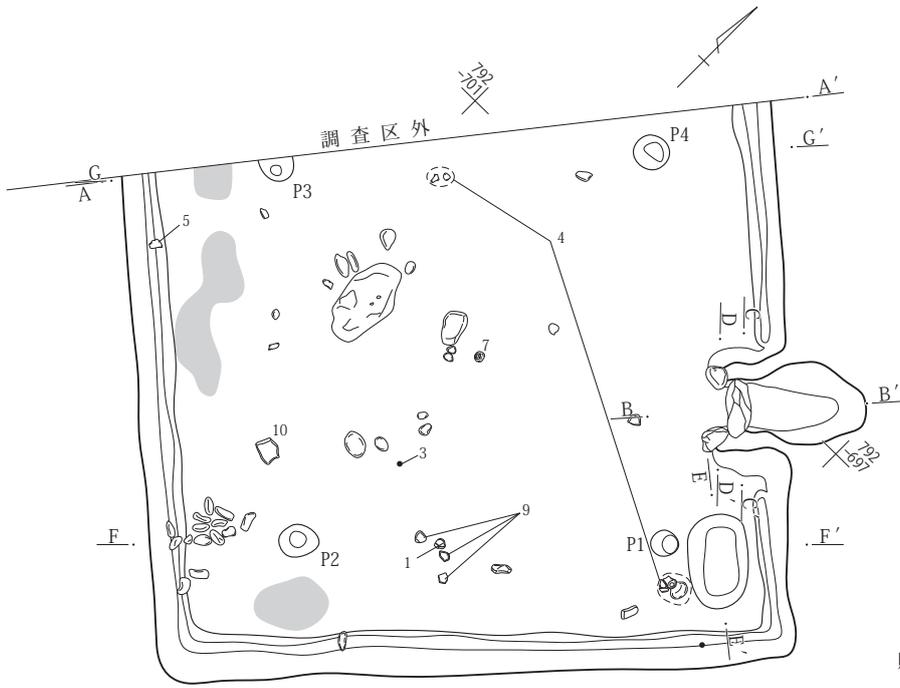
埋没土 ローム塊やローム粒を多量に含む黒褐色土と暗褐色土等である。建物のほぼ中央と考えられる位置の埋没土中で、数点の礫が出土した。表面にやや凹凸があり、拳大のものから人頭大以上のものまで様々である。埋没土全体にローム塊が多量に含まれていることから、これらの礫は埋め戻される途中で投棄された可能性がある。

また、床面付近では、拳大前後の円礫が建物の南隅を中心に十数点出土した。

床面 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。南隅と西隅で焼土を検出した

掘方 起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

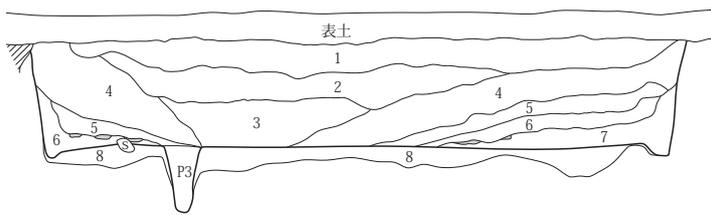
竈 北東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸140cm、袖幅35cm、燃焼部幅65cmを測る。燃焼部が僅かに壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは62cmである。両袖には15cm×20cm×40cm程の礫が据えられており、その間の燃焼部側からは落下したような状況で20cm×20cm×50cm程の礫が出土した。こうした状況から、両袖に同サイズの礫を立て、その上に天井石を据え、褐灰色や灰褐色の粘質土等を用いて焚口を構築したと考えられる。



貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒・焼土を少量含む。
2. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量、焼土を微量含む。

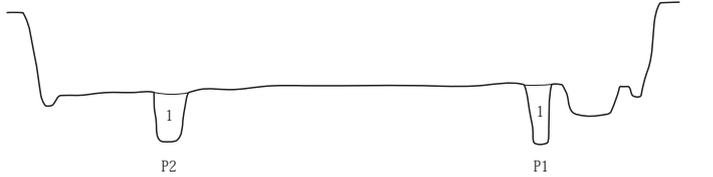
A, L=115.10m



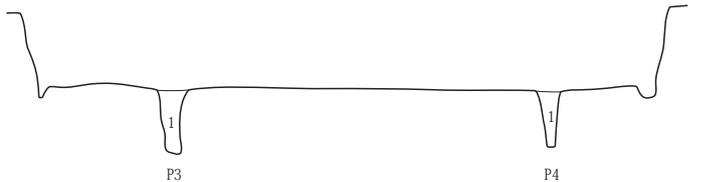
47号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
7. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を多量・ローム塊を少量含む。
8. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

F, L=114.60m



G, L=114.60m

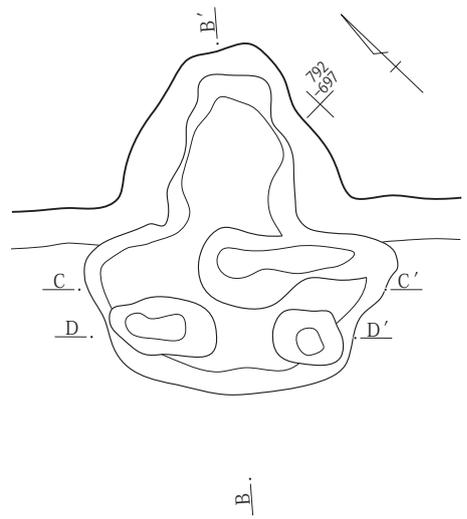
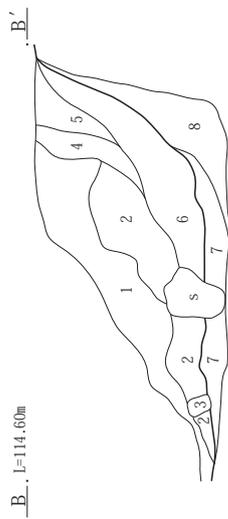
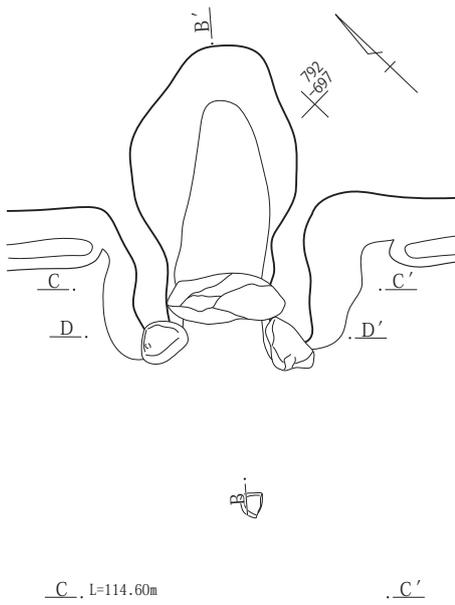
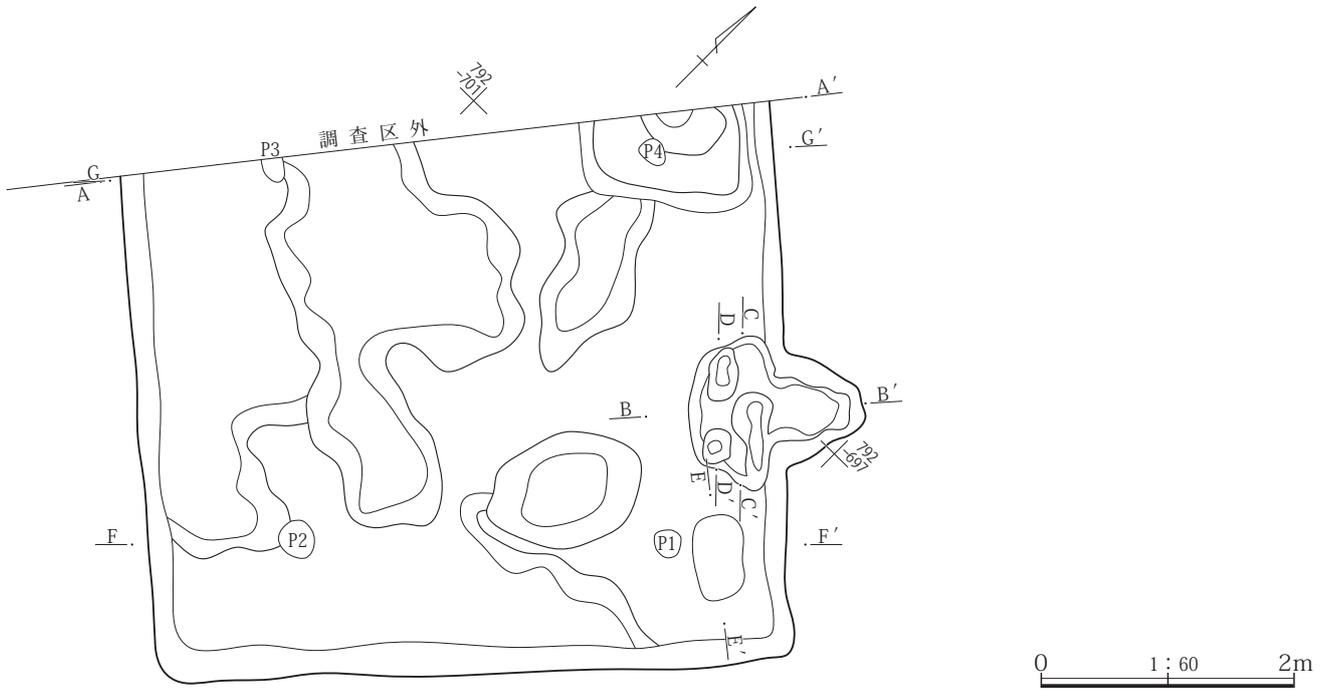


P 1 ~ P 4

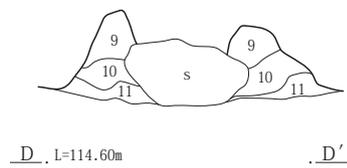
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。



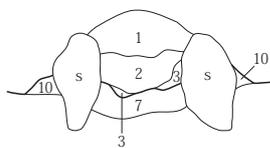
第154図 2区47号竪穴建物



C, L=114.60m C'



D, L=114.60m D'

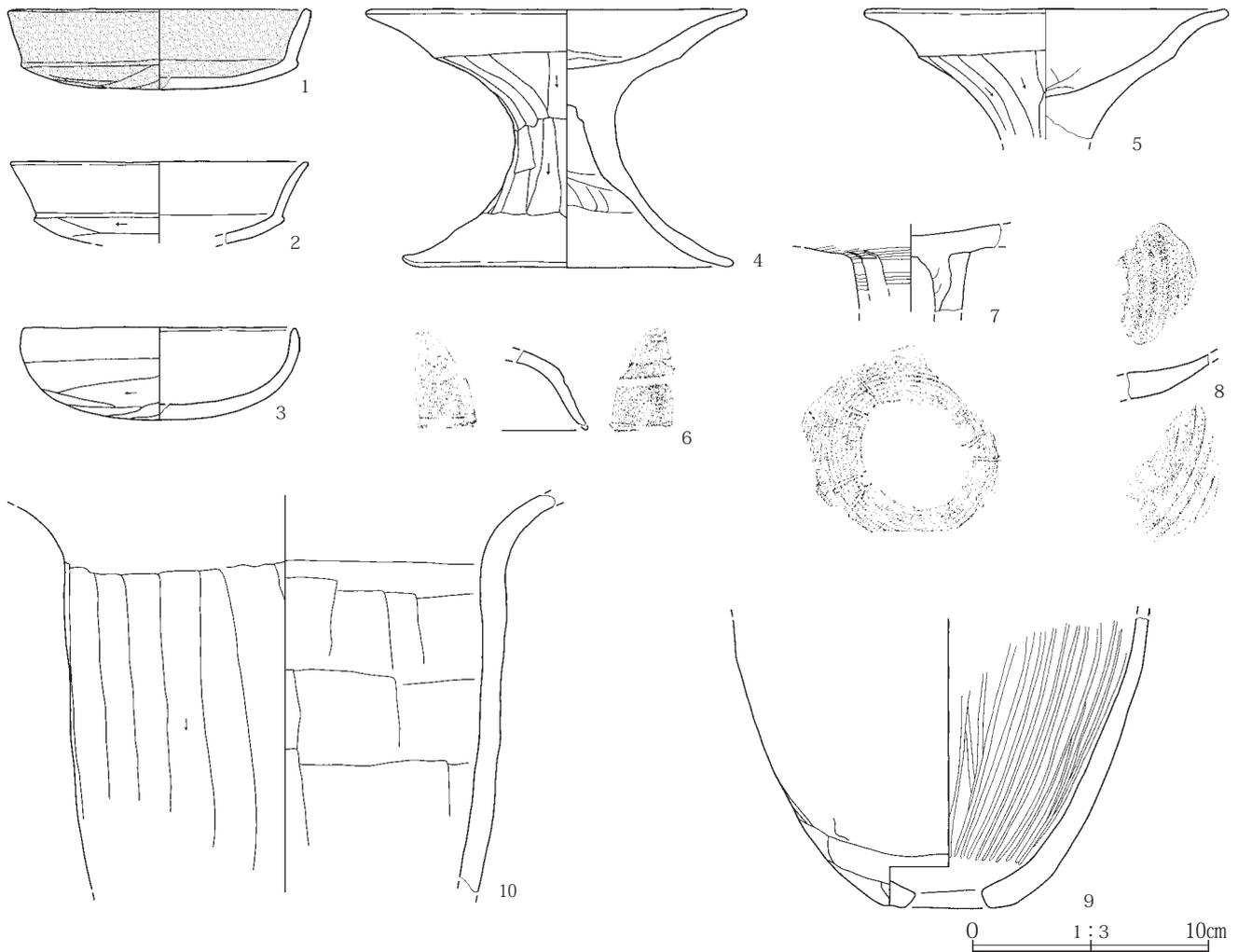


竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を多量に含む。
3. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) 灰黄褐色土を微量含む。
4. 灰褐色粘質土(7.5YR4/2) 橙色焼土を多量に含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土を少量、ロームロックを微量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土を多量、ローム塊・ローム粒を微量含む。
7. 暗灰色灰(N3/) 橙色焼土・褐灰色粘質土を少量含む。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土・灰・灰褐色粘質土を少量含む。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量、褐灰色粘質土・焼土粒を微量含む。
10. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・褐灰色粘質土を多量に含む。
11. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) ローム塊を多量、焼土粒を微量含む。

0 1:30 1m

第155図 2区47号竪穴建物掘方・竈



第156図 2区47号竪穴建物出土遺物

**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径75cm、短径48cmの楕円形で、深さ29cmを測る。

**柱穴** 床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

- |     |            |     |          |
|-----|------------|-----|----------|
| P 1 | 23×20×50   | P 2 | 30×25×50 |
| P 3 | 26×(18)×50 | P 4 | 30×28×49 |

P 3は一部調査区外に出ているが、位置や規模、形状から、それぞれ支柱穴と考えられる。

**壁溝** 調査区内では全周している。幅5cm～10cm、深さ9cmを測る。

**遺物** 床面直上、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1～3：土師器杯(1は床面直上、2は床下、3は床上7cm)、4・5：同高杯(4は床面直上、5は床上12cm)、6：須恵器蓋杯の蓋、7・8：同高杯、9：土師器甕(床面直上)、10：同甕(床上7cm)である。

**所見** 北西側が調査区外にあるが、柱穴の位置から、本

遺跡では中規模の正方形の建物の可能性が高い。掲載した土器はおおむね共伴しても矛盾のないものであるが、多少の時期差がある。1は7世紀前半に比定できるが、3が北武蔵型、4は高盤の可能性があるので、7世紀第3四半期の年代観が与えられる。こうしたことから、この建物の時期は7世紀中頃と考えられる。

2区48号竪穴建物(第157～159図、PL.36・105)

調査区南側、45号竪穴建物の5m程南にある。

座標値 X=42,780～42,785 Y=-55,684～-55,689

重複遺構 33号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

形状 ほぼ長方形 主軸方位 N-61°-E

規模 長軸4.20m 短軸3.18m

床面積 10.86㎡ 残存壁高48cm

埋没土 主に白色粒、ローム塊、ローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。

床面 ほぼ平坦であるが、東方向に向かって僅かに傾斜している。

掘方 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、1cm以下の所もある。細かい凹凸も見られる。

竈 北東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸152cm、袖幅52cm、燃烧部幅50cmを測る。燃烧部の半分程が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは85cmである。拳大～人頭大の礫を焚口付近から煙道の下部まで組み、褐灰色粘質土等を用いて構築している。燃烧部の底部全体に焼土・灰・炭化物を含む層が厚く堆積していた。

貯蔵穴 建物南隅の床面で長径70cm、短径60cm、深さ16cmのP1を確認した。浅いが、貯蔵穴の可能性もある。

柱穴 確認されなかった。

壁溝 建物の東隅と南隅を除く範囲で確認した。幅5cm～10cm、深さ4cmを測る。北西壁下では、壁から10cm前後離れた位置にあり、南西壁下でも若干離れている。

遺物 床面直上、竈、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1～6：土師器杯(1は竈煙道、2・4・6は竈内、5は竈焚口)、7～9：須恵器杯蓋(7は竈左袖上部)、10：同有台杯、11：土師器甕(床面直上)、12：須恵器甕、13：刀子(床面直上)、14：釘である。

所見 小規模で北西壁・南西壁に対して、南東壁・北東壁が長めの多少ゆがみのある長方形の建物である。竈で出土した4と5の杯には多少時期差があるが、おおむね共に矛盾のない土器が床面直上や竈、埋没土中で出土している。これらの土器から、建物の時期は8世紀第2四半期と考えられる。

2区49号竪穴建物(第160～162図、PL.36・106)

調査区南側、48号竪穴建物の西南西約15mの位置にある。

座標値 X=42,777～42,783 Y=-55,703～-55,709

重複遺構 50号竪穴建物と重複している。新旧関係は、発掘調査時には土層断面の観察から、本遺構が新しいと判断して調査を進めたが、整理作業での出土遺物の精査を含めて再検討した結果、本遺構が50号竪穴建物より古いと判断した。

形状 ほぼ正方形 主軸方位 N-140°-W

規模 長軸4.40m 短軸4.33m

床面積16.70㎡ 残存壁高33cm

埋没土 ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層には白色粒が少量見られる。

床面 ほぼ平坦である。

掘方 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、1cm以下の所もある。細かい凹凸も見られる。

竈 南西壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸140cm、袖幅40cm、燃烧部幅45cmを測る。燃烧部がほぼ建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは50cmである。焚口の両袖石、天井石が残存し、使用時に近い状態で出土した。右袖石は径12cm、高さ25cm程の円錐に近い形状、左袖石と天井石は、それぞれ13cm×35cmと15cm×45cm程の楕円体に近い形状である。燃烧部の底面から煙道にかけて、多量の焼土や灰・炭化物を含む層が堆積していた。

貯蔵穴 建物南隅の床面で長径50cm、短径38cm、深さ64cmのP5を確認した。深さに対して径の小さい楕円形であるが、貯蔵穴の可能性はある。

柱穴 P5の他、床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

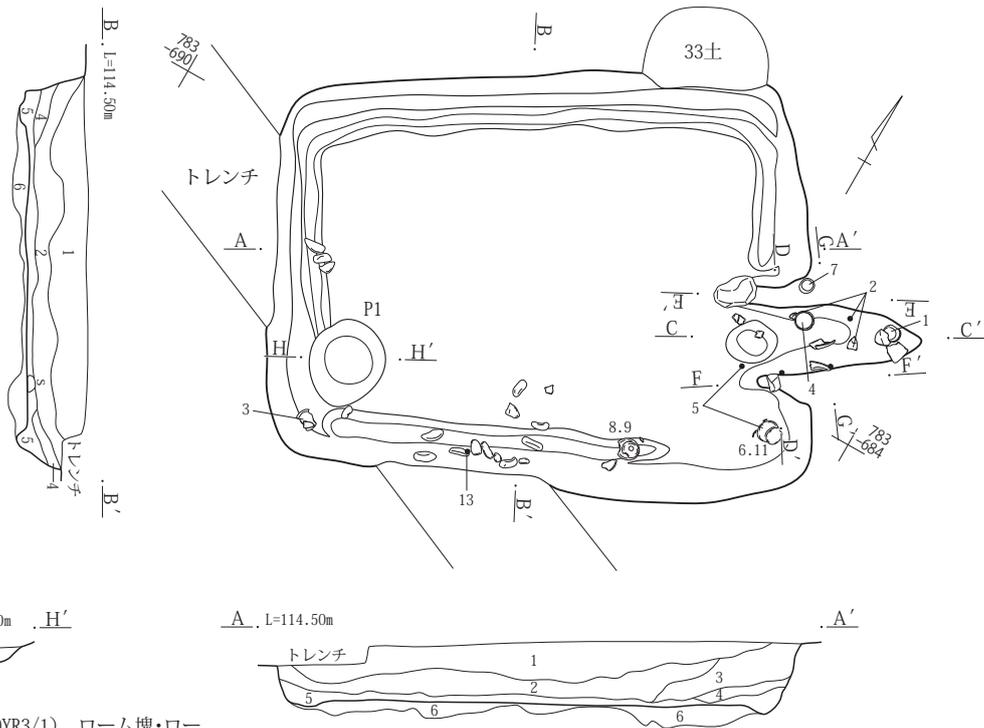
P1 33×22×64 P2 43×38×48

P3 32×30×47 P4 30×28×58

位置や規模、形状から、それぞれ主柱穴と考えられる。

壁溝 建物の南側から中央の範囲及び北西壁の一部で確認した。幅8cm、深さ4cmを測る。

遺物 床面直上、埋没土中から土師器や須恵器が多数出土した。掲載した遺物は、1・2：須恵器蓋杯の蓋(床面直上)、3～6：同蓋杯の身(3・4は床面直上)、7：

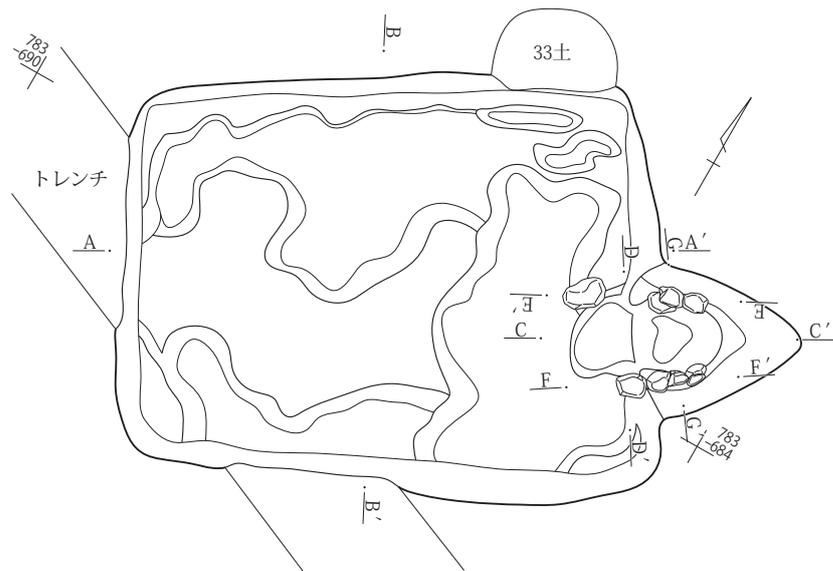


P 1

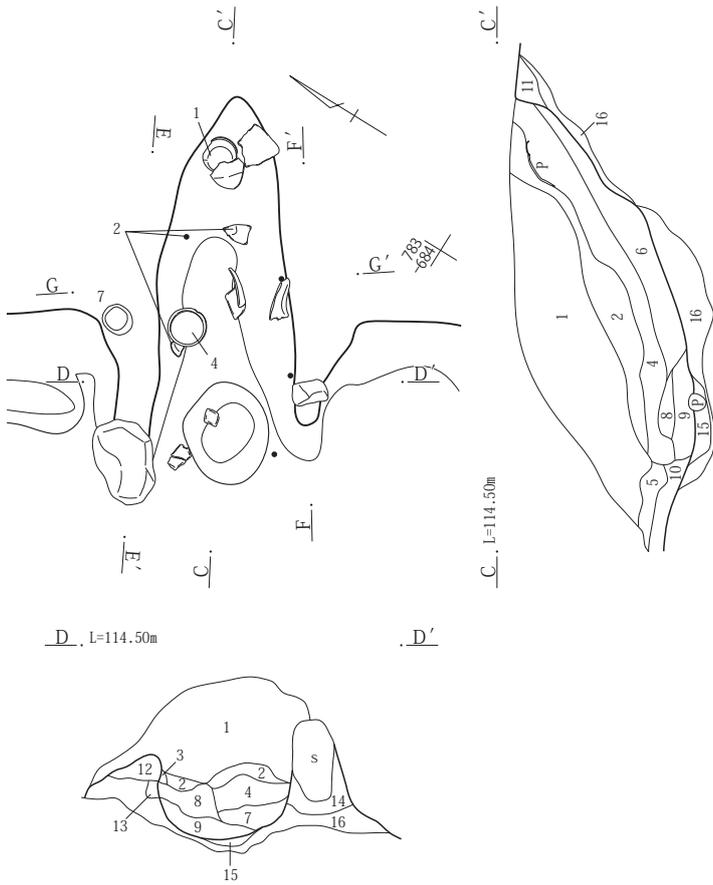
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。

48号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、ローム粒・焼土粒を微量含む。締りややあり。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒を少量、白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を微量含む。締りややあり。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
6. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

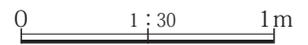
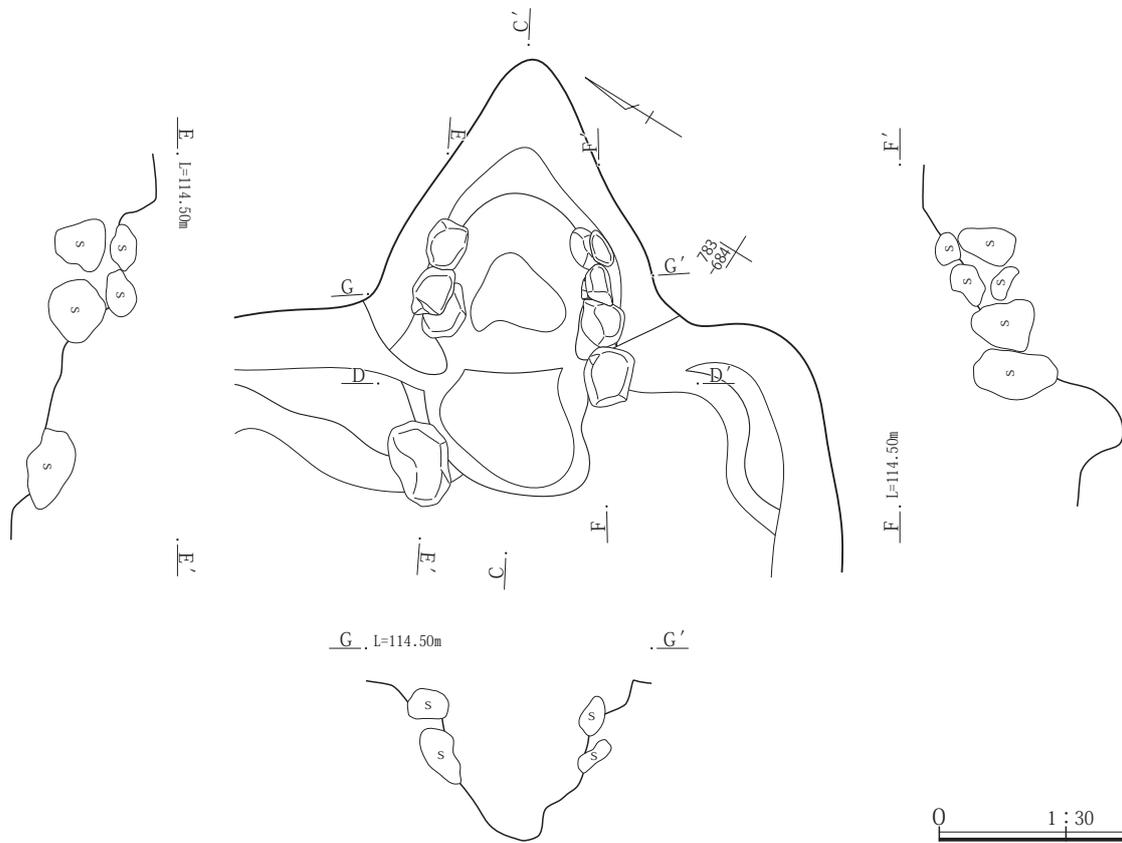


第157図 2区48号竪穴建物

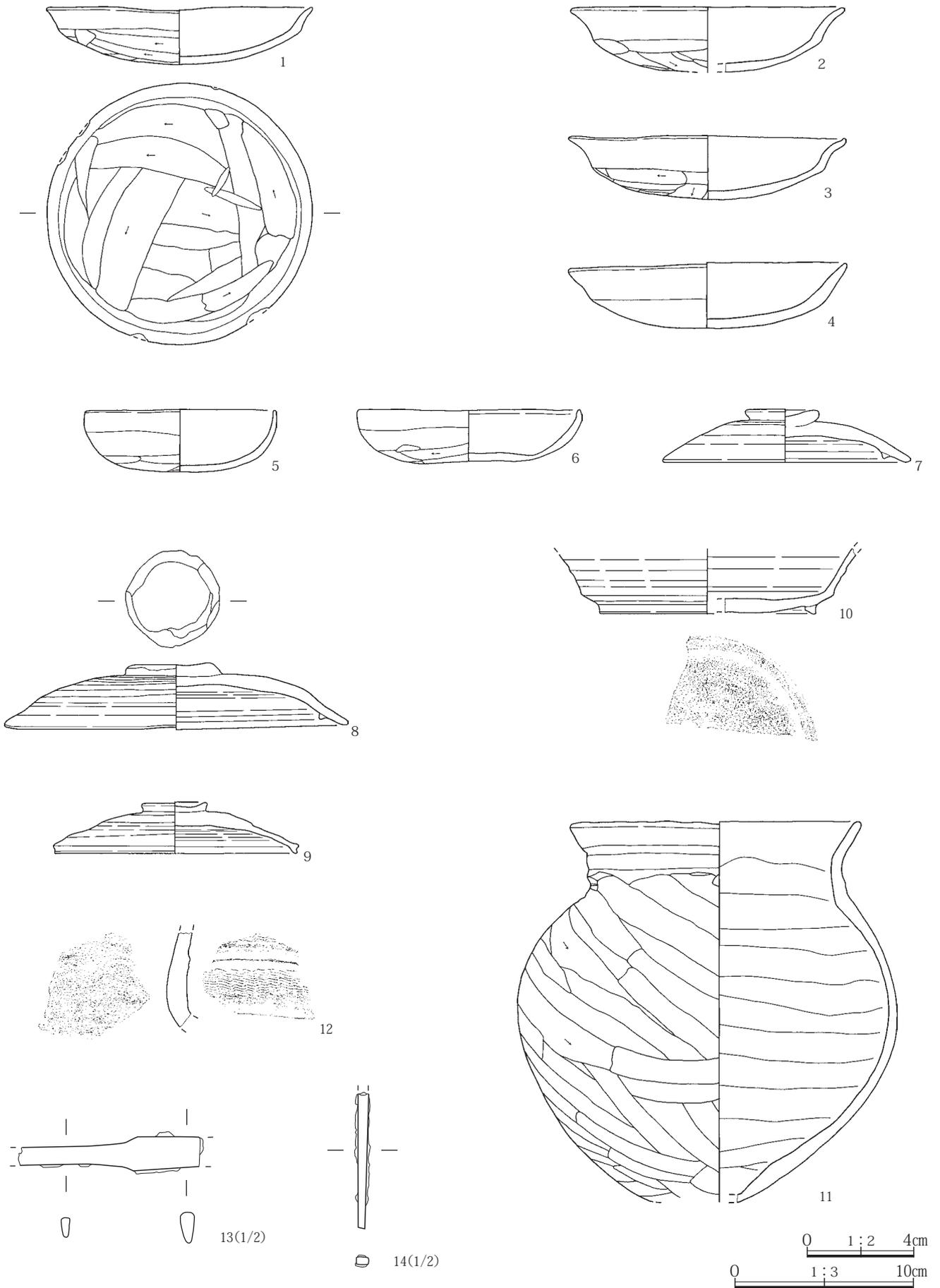


竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、焼土塊・炭化物片を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・焼土塊を微量含む。粘性ややあり。
3. 黄褐色土(2.5Y5/4) 暗褐色土・焼土を少量含む。
4. 灰褐色土(7.5YR4/2) 橙色焼土を多量、ローム塊・褐灰色粘質土を少量、炭化物片を微量含む。
5. 灰褐色土(5YR4/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土塊・ローム粒を少量、炭化物片を微量含む。
6. 暗褐色土(7.5YR3/4) 橙色焼土を多量、ローム塊を少量含む。
7. 黒褐色土(7.5YR2/2) 焼土粒・ローム粒を少量含む
8. 暗赤褐色土(5YR3/4) 橙色焼土を多量、炭化物片を微量含む。
9. 黒褐色土(7.5YR2/2) 暗灰色灰を多量、焼土粒を少量含む。
10. 灰黄褐色土(7.5YR5/2) ローム塊を多量、焼土粒を微量含む。
11. 褐灰色土(5YR4/1) 焼土塊・ローム塊を少量、炭化物を微量含む。
12. 明黄褐色土(2.5Y6/6) 褐灰色粘質土を多量、暗褐色土を少量含む。
13. 褐色土(7.5YR4/3) 焼土を多量、ローム粒・褐灰色粘質土を少量含む。
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・褐灰色粘質土を微量含む。
15. 黒褐色土(5YR2/1) 暗灰色灰を多量、炭化物を少量含む。
16. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。

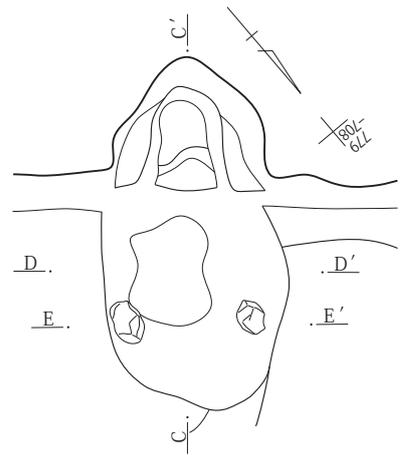
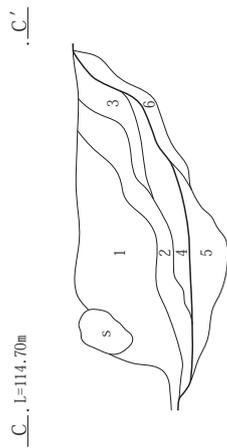
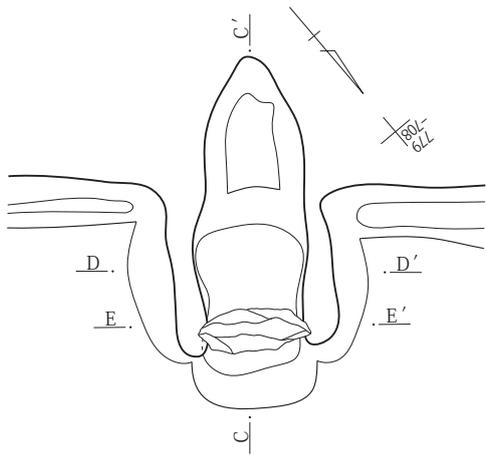
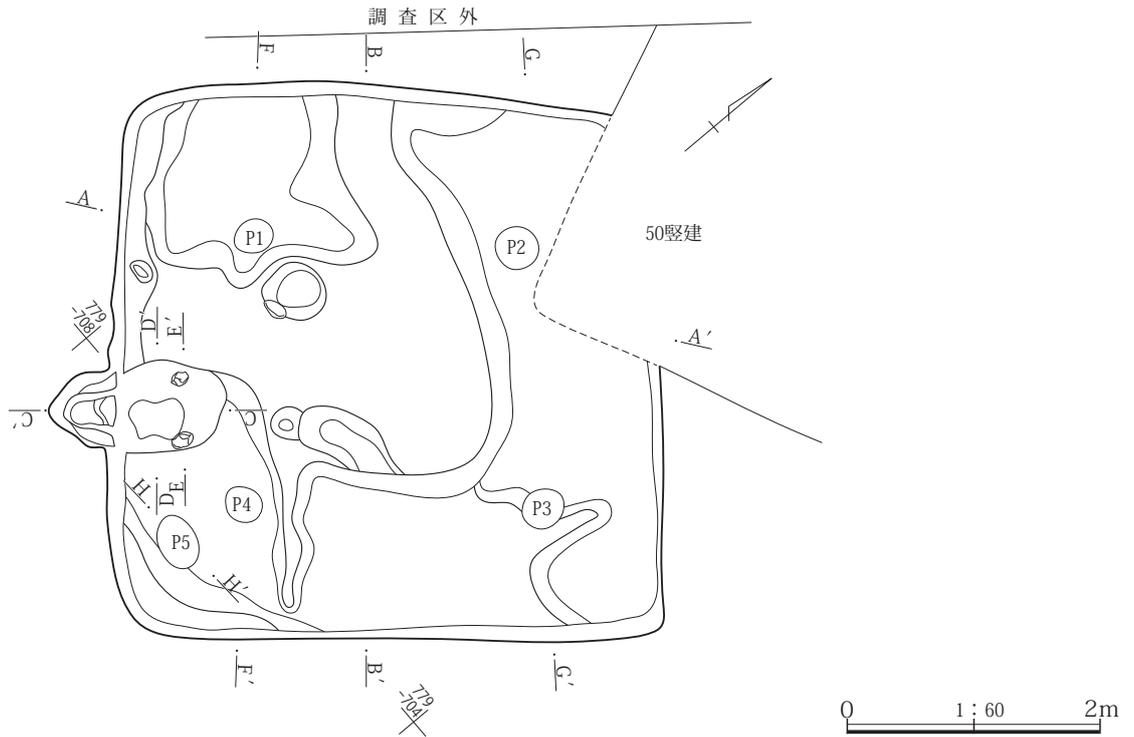


第158図 2区48号竈



第159図 2区48号竪穴建物出土遺物



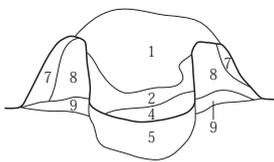


竈

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を少量、焼土を微量含む。締り・粘性ややあり。
2. 灰褐色土(7.5YR4/2) 橙色焼土を多量、灰・黒褐色土を微量含む。締りややあり。粘性弱。
3. 暗褐色土(7.5YR3/3) 焼土を少量含む。
4. 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土・炭化物・ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 上部に焼土・灰を少量含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒・焼土を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
8. 褐灰色土(10YR5/1) ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。締り極強。粘性ややあり。
9. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。

D, L=114.70m

D'



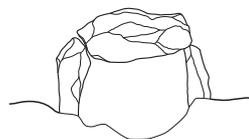
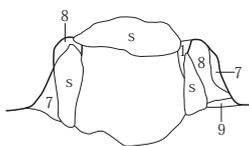
E, L=114.70m

E'

E, L=114.70m

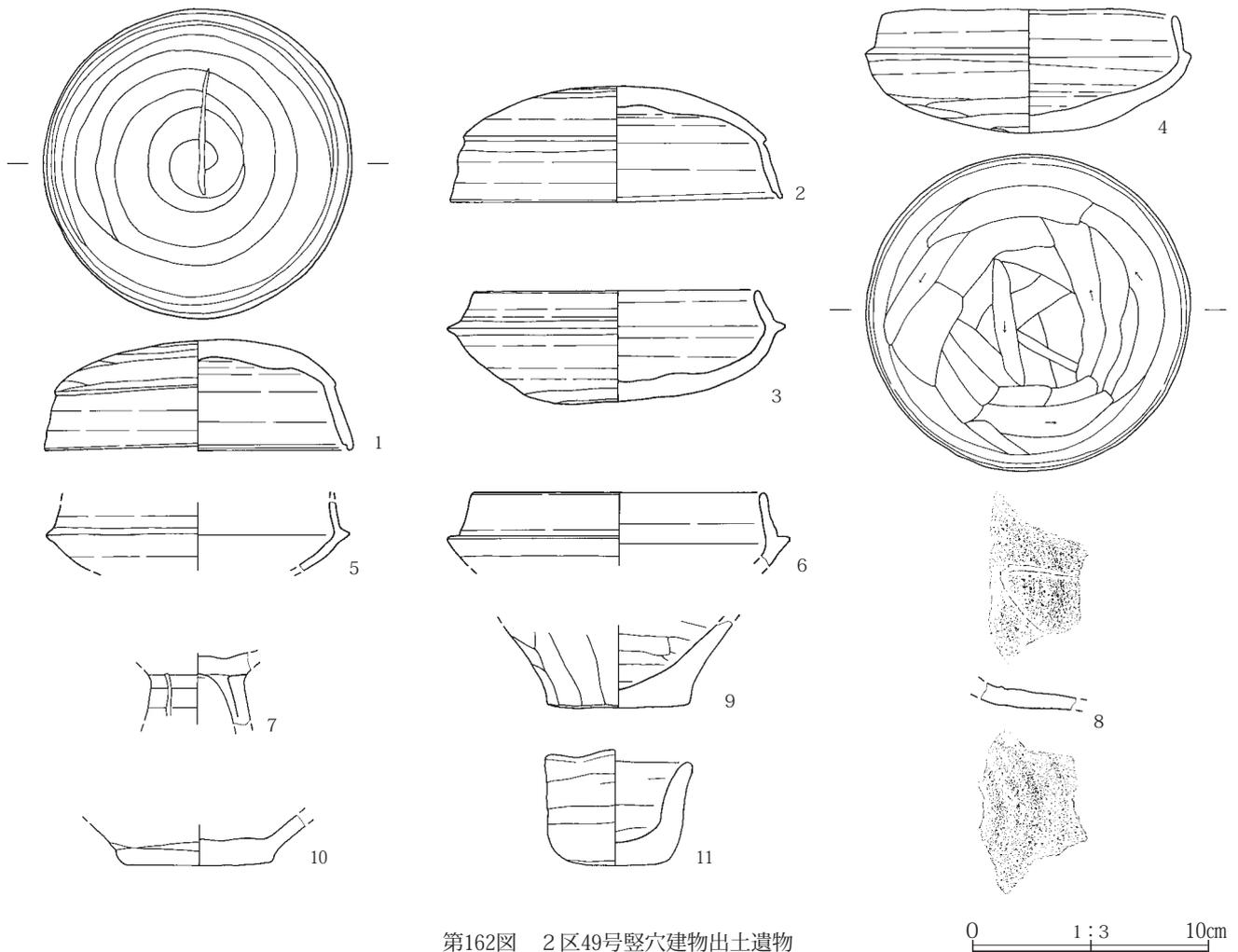
袖石立面

E'



0 1:30 1m

第161図 2区49号竪穴建物掘方・竈



第162図 2区49号竪穴建物出土遺物

同高杯、8：同壺、9・10：土師器甕(10は床面直上)、11：椀形の手捏ね土器(床上15cm)である。

**所見** ほぼ正方形の小規模な建物である。竈を南西壁に設置している例は稀で、竈の両袖石と天井石が使用時に近い状態で出土したのは、特筆すべき点である。また、完形の須恵器が床面直上で数点出土しており、2と3は形状や表面への自然釉の付着状態から、1組の蓋杯とみられる。他の出土遺物も共に矛盾のない形態であり、これらの土器から、時期は6世紀中頃である。

**2区50号竪穴建物**(第163・164図、PL.37・106)

調査区南側、49号竪穴建物の北に位置し、建物の南隅が重複している。また、北西側が調査区外にある。

**座標値** X=42,782~42,787 Y=-55,701~-55,706

**重複遺構** 49号竪穴建物、47号土坑と重複している。新旧関係は、発掘調査時には土層断面の観察から、本遺構

は47号土坑より新しく、49号竪穴建物より古いと判断して調査を進めたが、整理作業での出土遺物の精査を含めて再検討した結果、49号竪穴建物の方が古く、本遺構が最も新しいと判断した。

**形状** 確認できた範囲の形状から方形とみられるが、建物の北西部が調査区外にあるため明らかではない。

**主軸方位** N-68°-E

**規模** 長軸4.60m 短軸(4.20m)

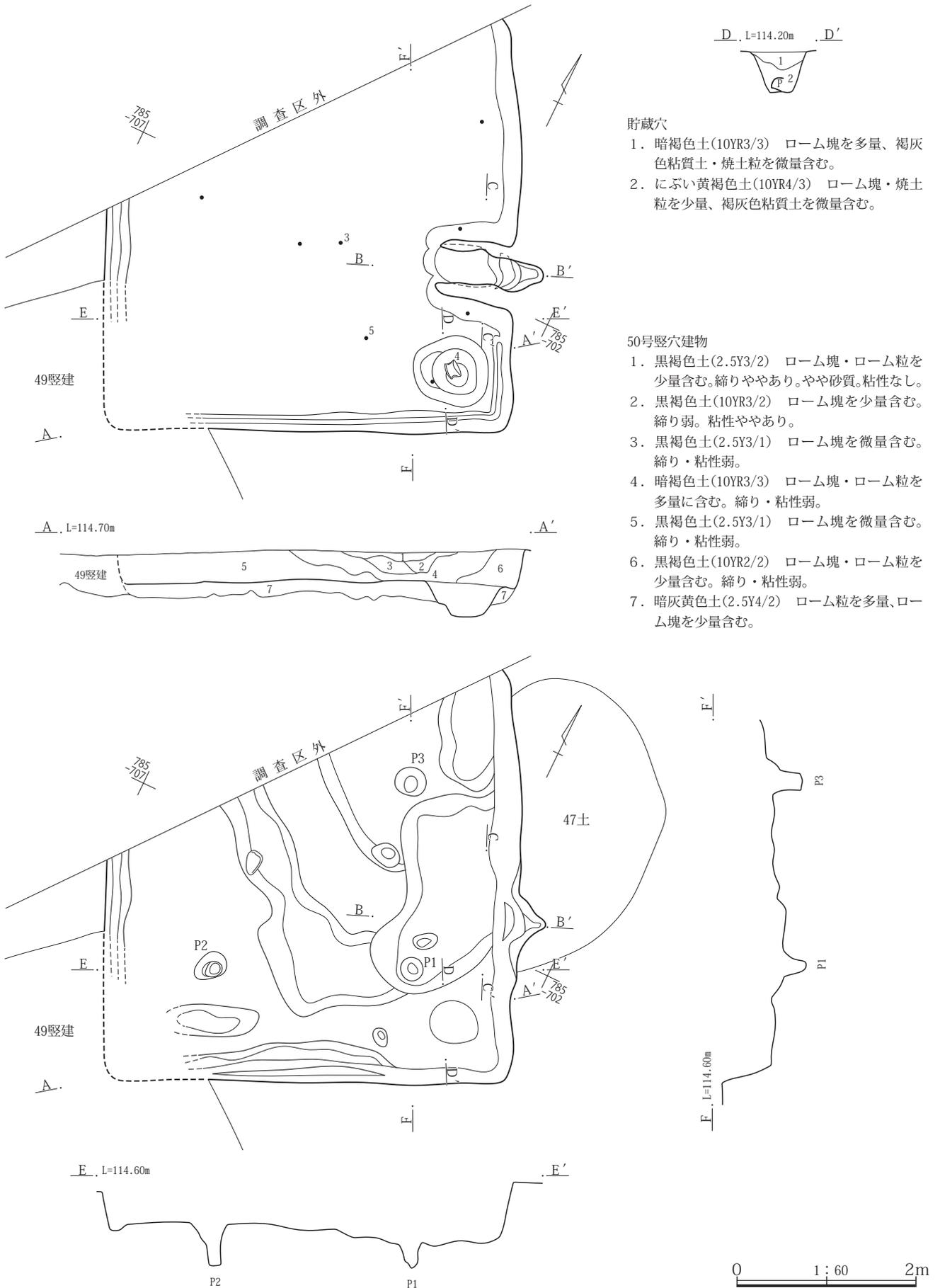
床面積(13.49㎡) 残存壁高33cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土と暗褐色土である。

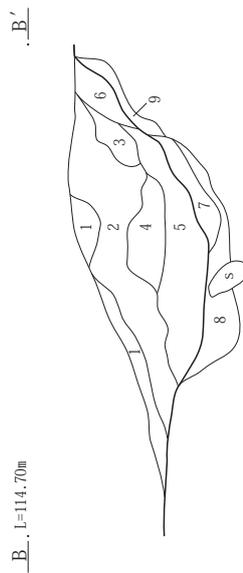
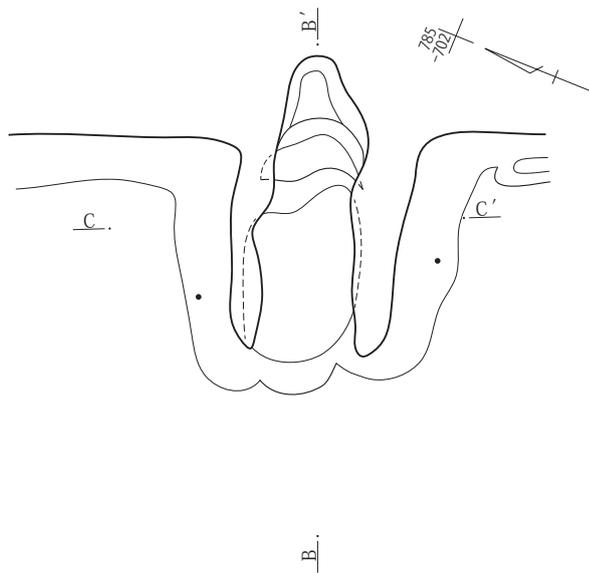
**床面** ほぼ平坦であるが、やや起伏がある。

**掘方** 床面から10cm~20cm程の深さで起伏があり、細かい凹凸も見られる。

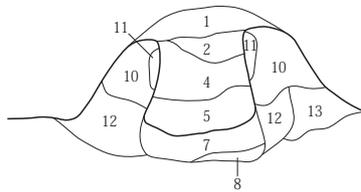
**竈** 東壁のやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸134cm、袖幅40cm、燃烧部幅46cmを測る。燃烧部がほ



第163図 2区50号竪穴建物

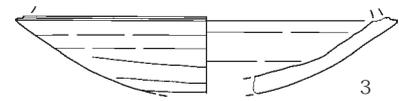
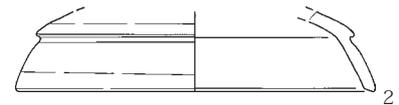
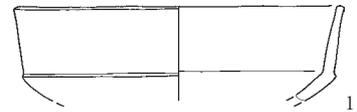
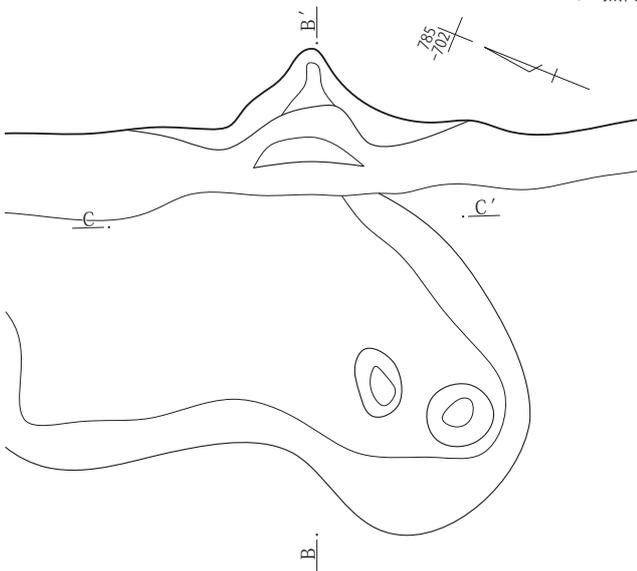


C, L=114.70m

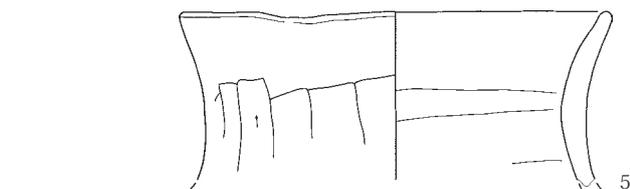


竈

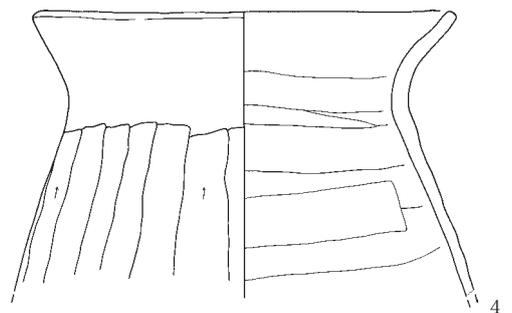
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、褐灰色粘質土・焼土粒・炭化物を微量含む。
2. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) 焼土を少量、ローム塊を微量含む。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2) 橙色焼土を多量に含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 明赤褐色焼土を多量に含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/2) 下部に暗灰色灰を多量、ローム塊を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土を微量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土・ローム塊・暗灰色灰を少量含む。
8. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を多量、上部に暗灰色灰を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土を少量含む。
10. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) 白灰色粘質土・黒褐色土を少量、ローム粒を微量含む。
11. 橙色焼土(5YR6/8) 褐灰色粘質土を少量含む。
12. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘土・ローム塊・焼土塊を多量に含む。
13. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・焼土を少量、褐灰色粘質土を微量含む。



0 1:30 1m



0 1:3 10cm



第164図 2区50号竪穴建物竈・出土遺物

ば建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは36cmである。褐灰色粘質土等を用いて構築している。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径89cm、短径70cmの楕円形で、深さ48cmを測る。

**柱穴** 床面では検出できなかったが、掘方の調査で3基のピットを検出した。掘方面でのそれぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×床面からの深さcm)である。

P 1 27×25×59 P 2 38×27×56

P 3 36×33×57

位置や規模、形状から、それぞれ支柱穴と考えられる。

**壁溝** 建物の南側で確認した。幅5cm～10cm、深さ10cmを測る。

**遺物** 貯蔵穴、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1:土師器杯、2:須恵器蓋杯の蓋、3:同蓋杯の身(床上12cm)、4:土師器甕(貯蔵穴底面)、5:同甕(床上8cm)である。

**所見** 調査できた範囲に限られているが、東壁と西壁の距離、柱穴の位置から、一辺4m60cm程の正方形の建物である可能性が高い。床面直上から掲載できる遺物の出土はなかったが、貯蔵穴底面で出土した甕、埋没土中で出土した蓋杯の蓋・身等、掲載した土器は共に矛盾のない形態である。これらの土器から、時期は7世紀前半と考えられる。

## 2区51号竪穴建物(第165・166図、PL.37・106)

調査区南側、49号竪穴建物の10m程南東にある。

**座標値** X=42,775～42,779 Y=-55,696～-55,701

**重複遺構** 52号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** ほぼ正方形 **主軸方位** N-71°-E

**規模** 長軸3.53m 短軸3.30m

床面積10.44㎡ 残存壁高26cm

**埋没土** ローム塊を含む黒褐色土と暗褐色土である。上層の一部に白色軽石、下層の一部に褐灰色粘質土や小礫を少量含んでいる。

**床面** ほぼ平坦である。南東隅で焼土塊、その付近で褐灰色粘質土塊が出土した。焼土塊は50cm×60cm程の範囲1箇所、粘質土塊は30cm×40cm前後の範囲3箇所、厚さは5cm～10cm程である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが30cm程の所がある

一方、1cm以下の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁のやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸106cm、袖幅50cm、燃烧部幅65cmを測る。燃烧部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは62cmである。燃烧部の底部から煙道にかけて、多量の焼土や灰を含む層が堆積していた。

**貯蔵穴** 建物北東隅の床面で長径41cm、短径38cm、深さ17cmのP 1を確認した。小規模であるが、位置や形状から貯蔵穴の可能性はある。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** ほぼ全周している。幅5cm～10cm、深さ5cmを測る。

**遺物** 埋没土中から須恵器や土師器の小片が出土した。掲載した遺物は、1・2:須恵器杯、3:同短頸壺、4:同壺、5:土師器甕である。

**所見** 多少北東隅の形状にゆがみがあるが、ほぼ正方形の小規模な建物である。南東隅の床面で出土した焼土塊、褐灰色粘質土塊は、竈の一部とも考えられるが、その場で焼土が生成される様な何らかの作業が行われていた可能性もある。掲載した土器は全て埋没土中で出土した小片であるが、おおむね8世紀第4四半期の年代観が与えられる。建物の時期も同様と考えられる。

## 2区52号竪穴建物(第167～172図、PL.38・39・106～108)

調査区南側、51号竪穴建物の北に位置し、建物の南隅が重複している。

**座標値** X=42,778～42,785 Y=-55,694～-55,702

**重複遺構** 51号竪穴建物、44号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

**形状** 南隅が重複によって壊されているが、確認できた範囲の形状から正方形と考えられる。

**主軸方位** N-43°-E

**規模** 長軸5.75m 短軸5.63m

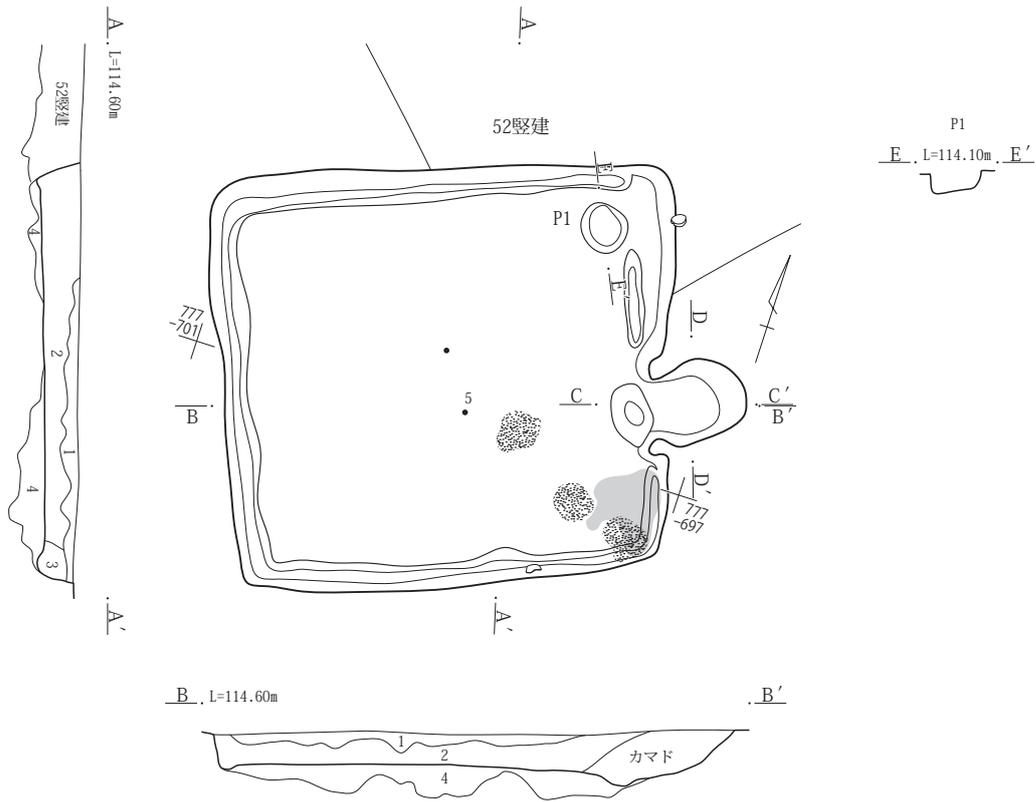
床面積(27.36㎡) 残存壁高25cm

**埋没土** 床面付近まで後世の攪乱が及んでいる箇所があるが、主に白色軽石やローム粒を含む黒褐色土である。周縁部の一部にはローム塊やローム粒を含む暗褐色土が堆積している。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

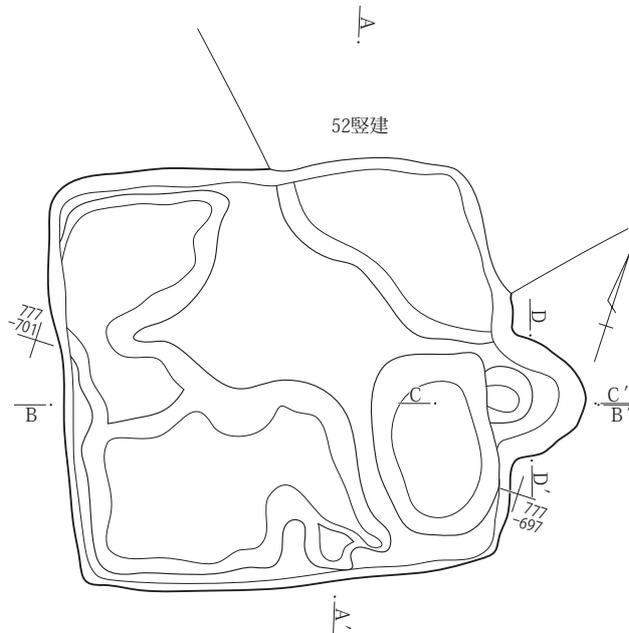
**掘方** 起伏があり、床面からの深さが30cm以上の所があ

第3章 調査の成果

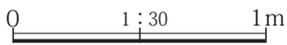
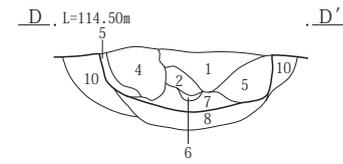
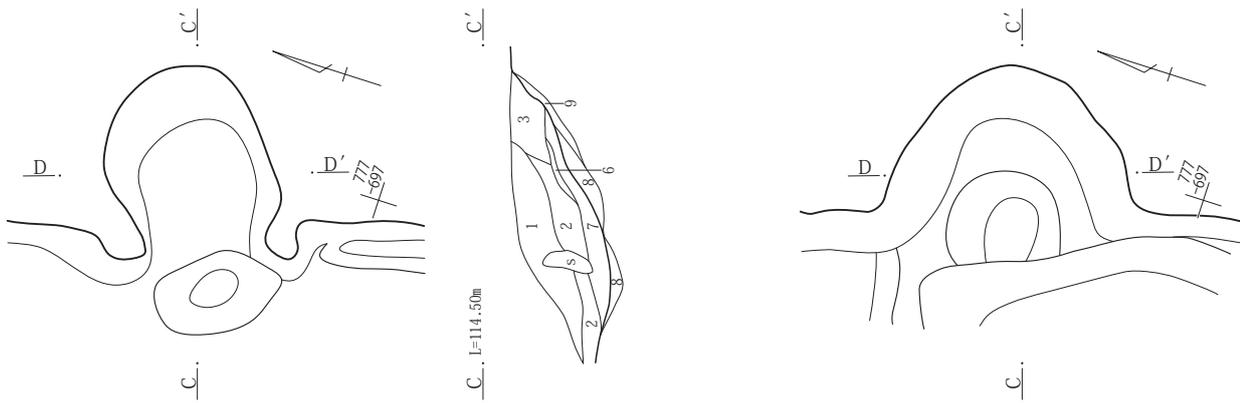


51号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石を少量含む。締りややあり。粘性弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、褐灰色粘質土を微量含む。締りややあり。粘性弱。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量、小礫を微量含む。締りややあり。粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。

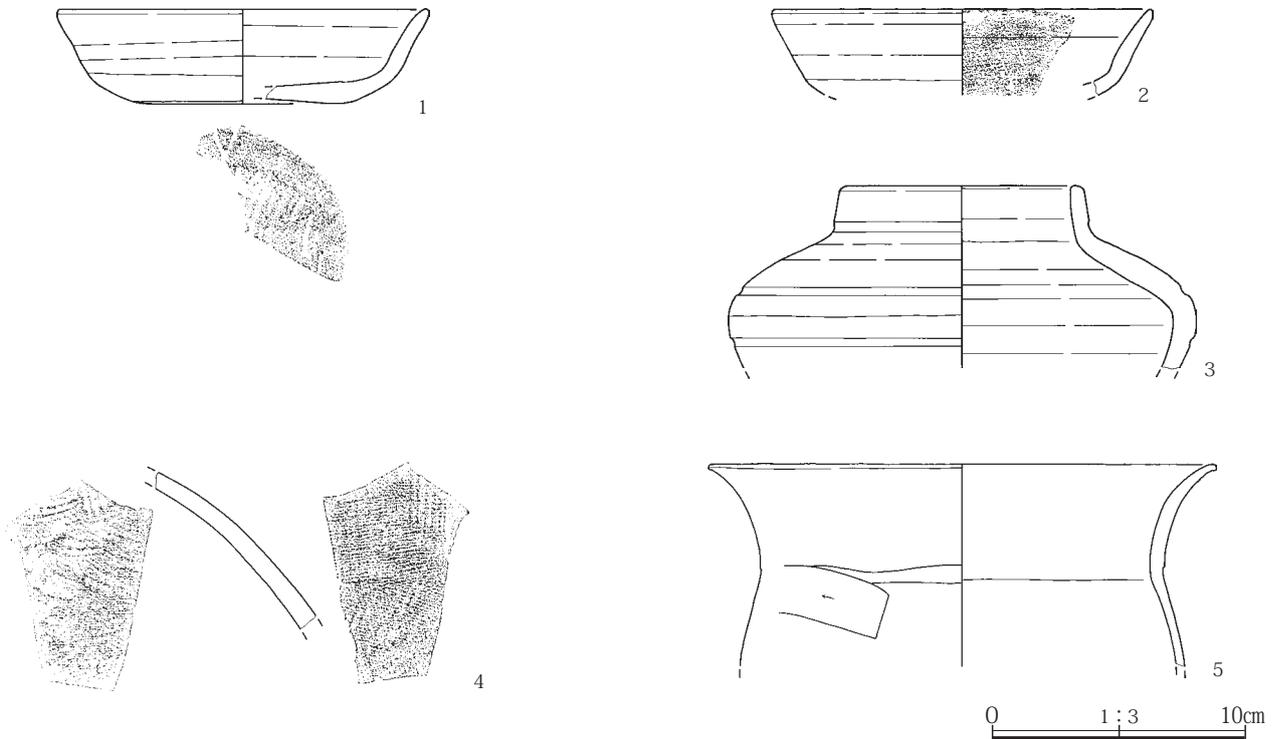


第165図 2区51号竪穴建物

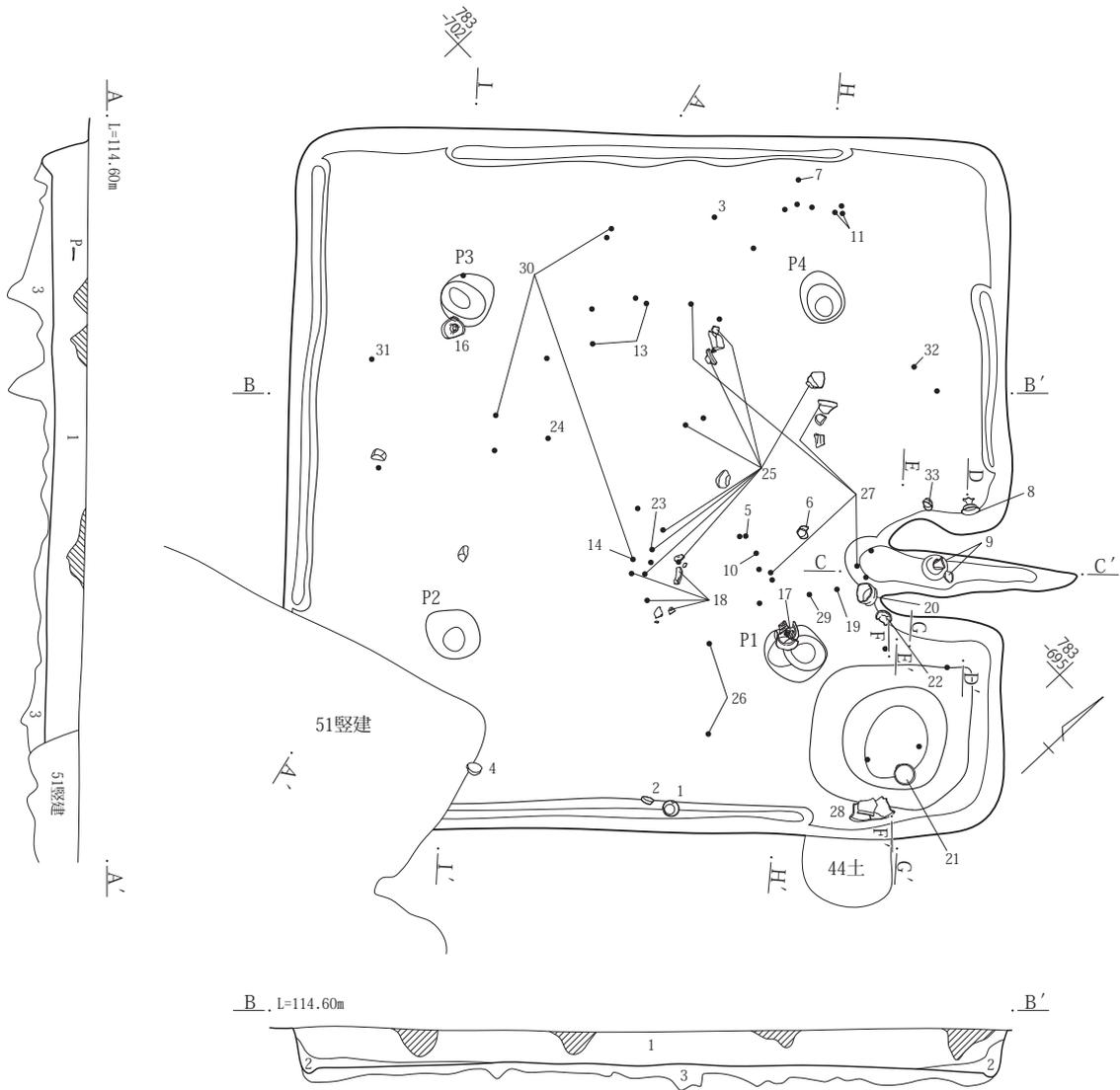


竈

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・褐灰色粘質土・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土・ローム塊を少量、焼土粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 褐灰色粘質土・明赤褐色焼土を多量に含む。
4. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) ローム粒・焼土粒を微量含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) 橙色焼土を多量・ローム粒を少量含む。
6. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土・灰・ローム粒を少量含む。
7. 黒褐色土(7.5YR3/2) 暗灰色灰・明赤褐色焼土を多量含む。
8. 黒褐色土(5YR3/1) ローム塊を多量、上部に暗灰色灰・焼土を少量含む。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒・ローム粒を微量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/4) 橙色焼土を一部に多量、ローム塊を微量含む。

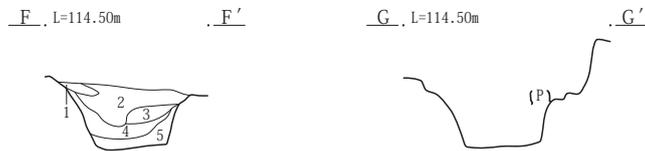


第166図 2区51号竪穴建物竈・出土遺物



52号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を多量、ローム粒を微量含む。締りややあり。粘性なし。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
3. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

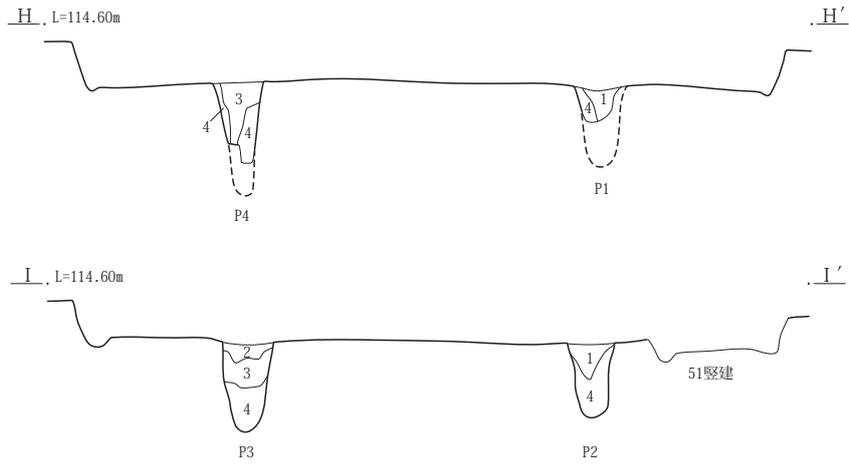


貯蔵穴

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物を少量、ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、焼土粒・炭化物片を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量、炭化物片を微量含む。かなりもろい。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。かなりもろい。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。かなりもろい。

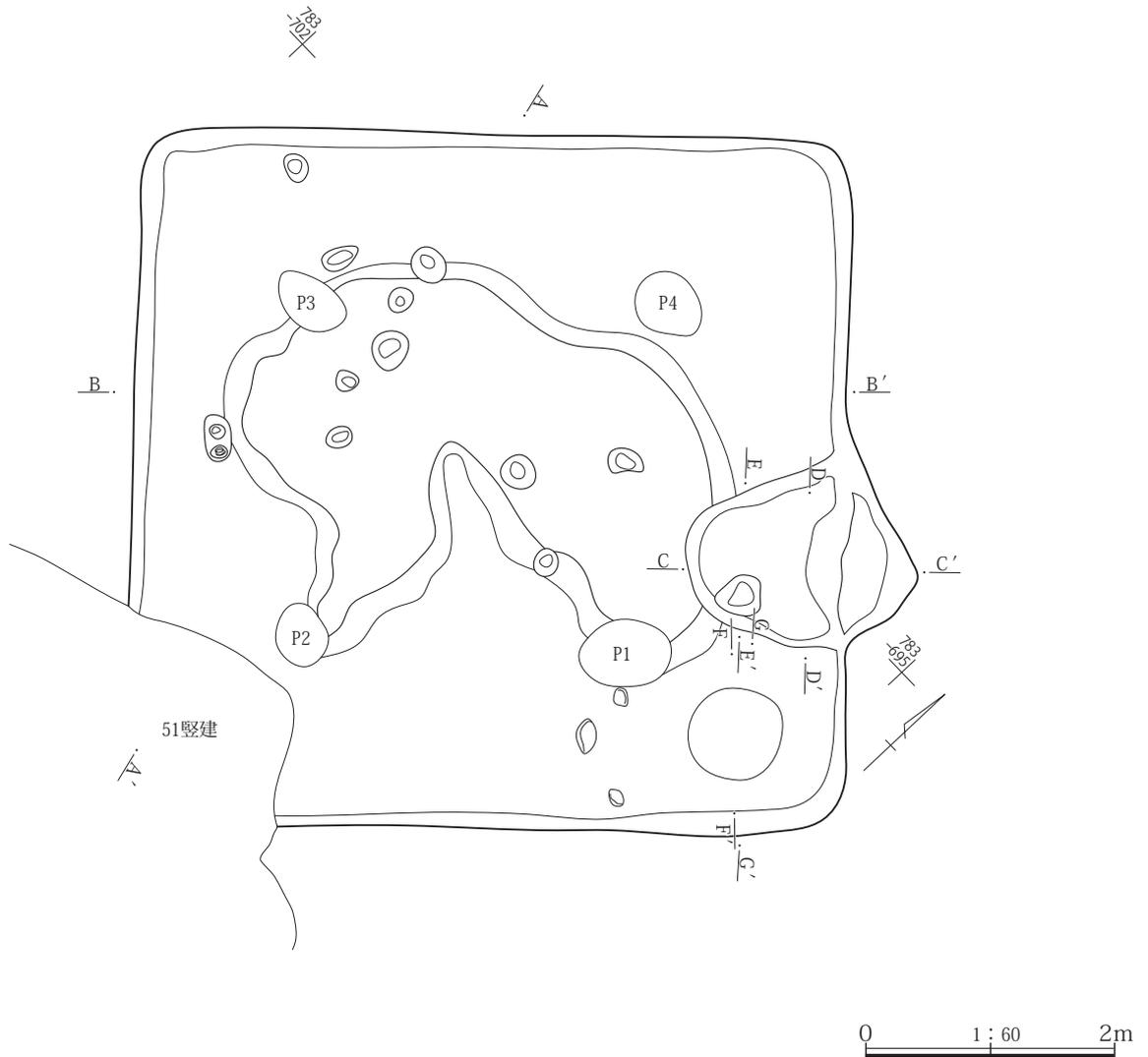


第167図 2区52号竪穴建物

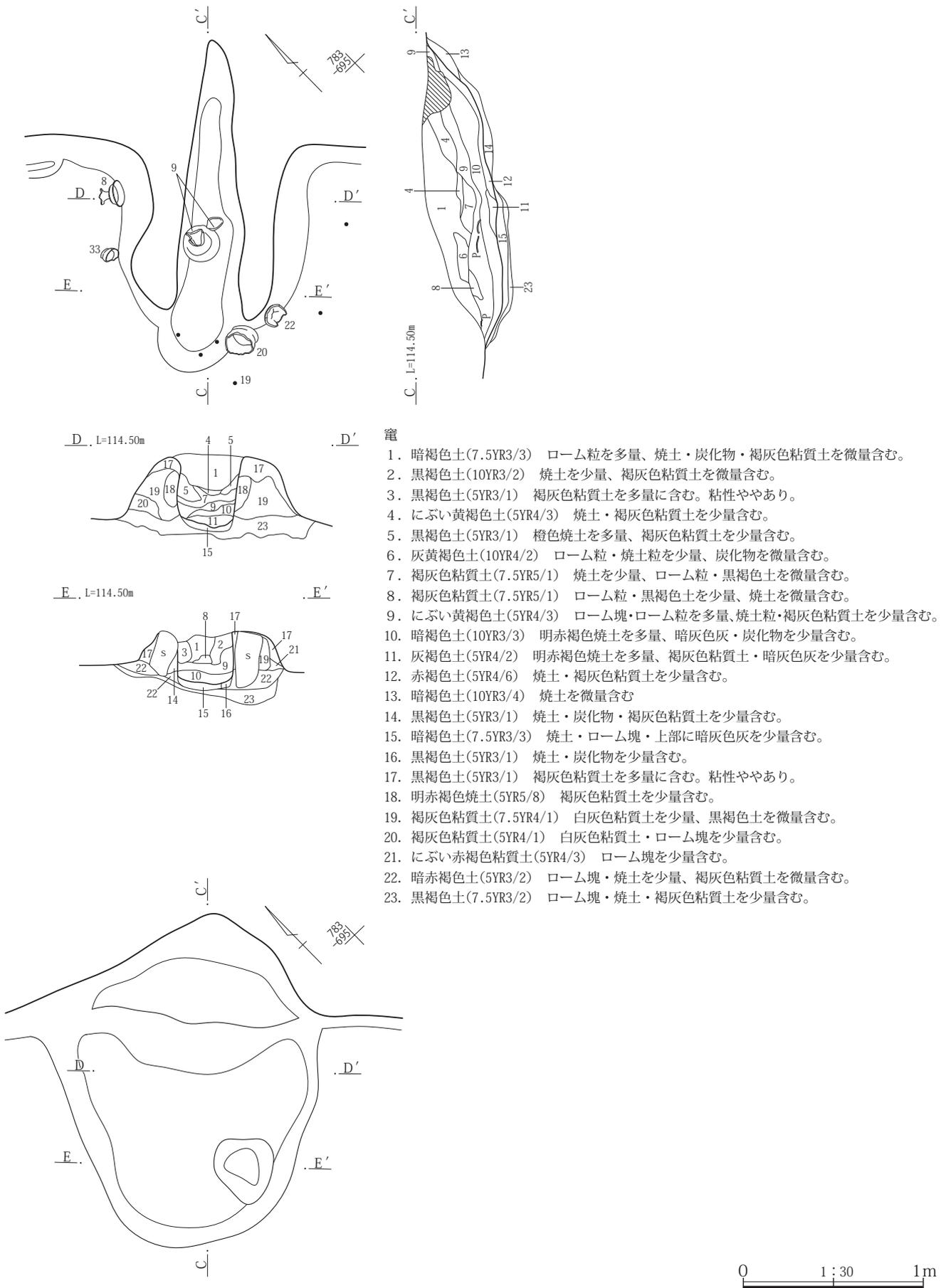


P 1 ~ P 4

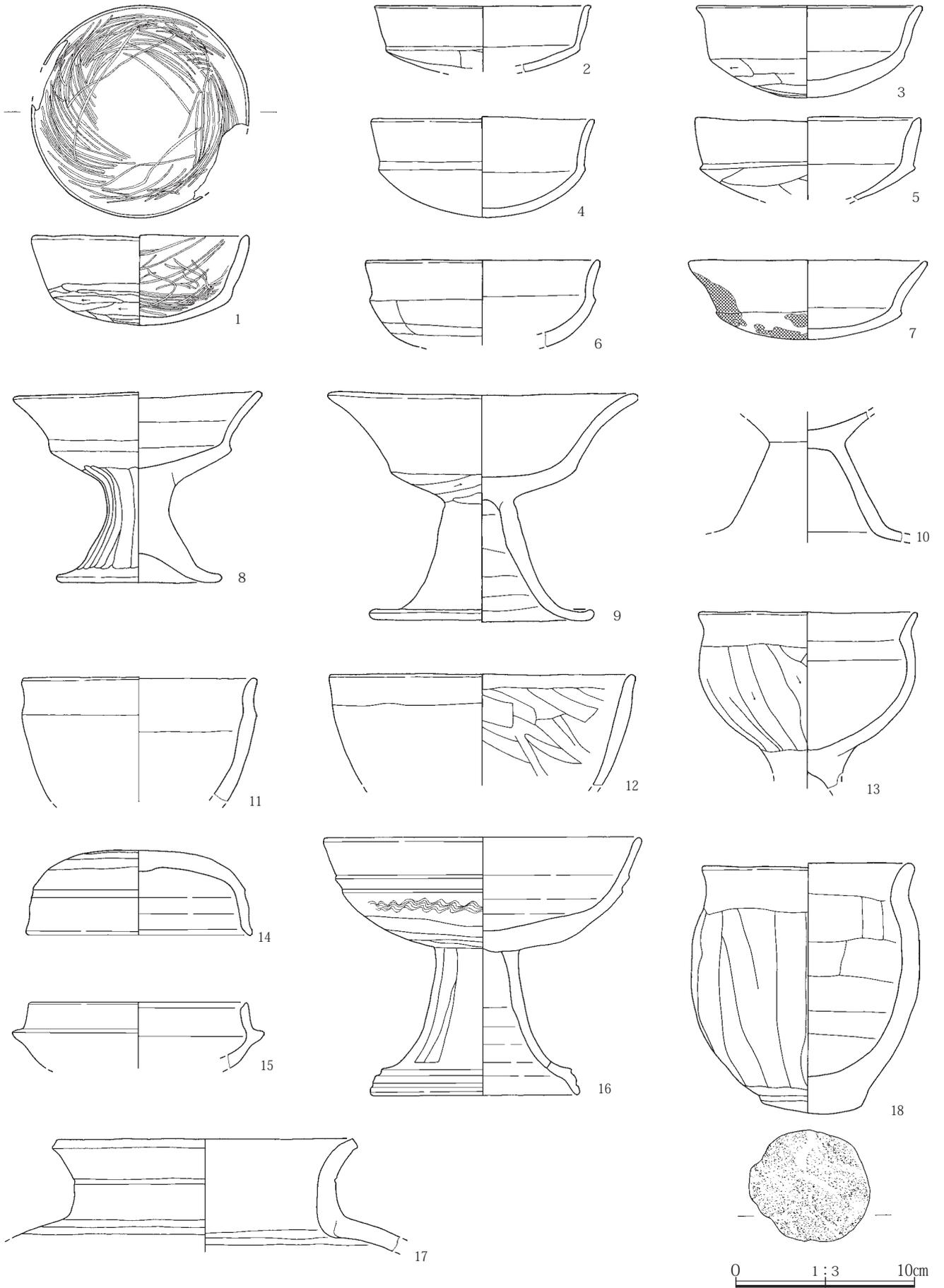
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・焼土塊・炭化物粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。



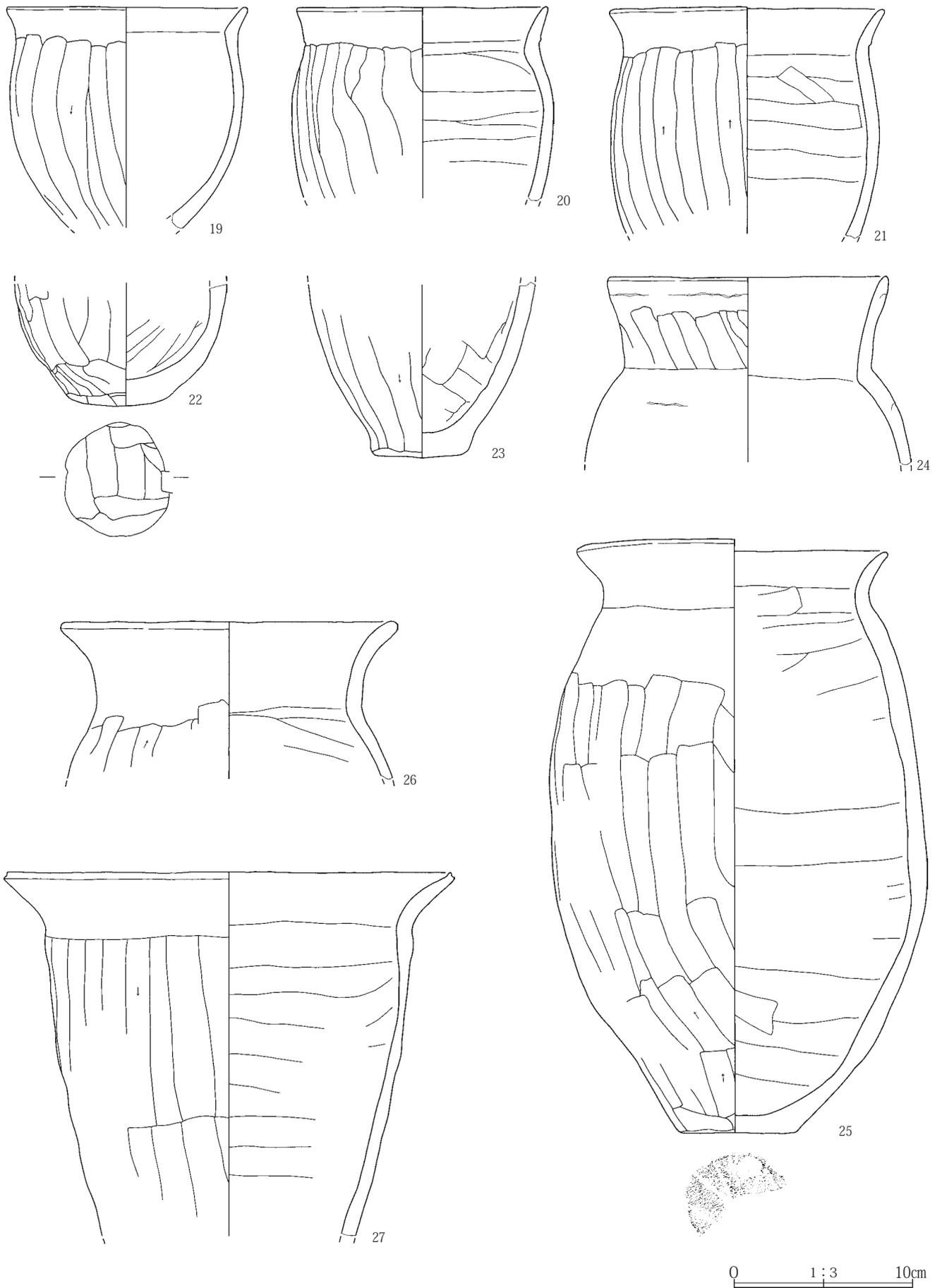
第168図 2区52号竪穴建物掘方



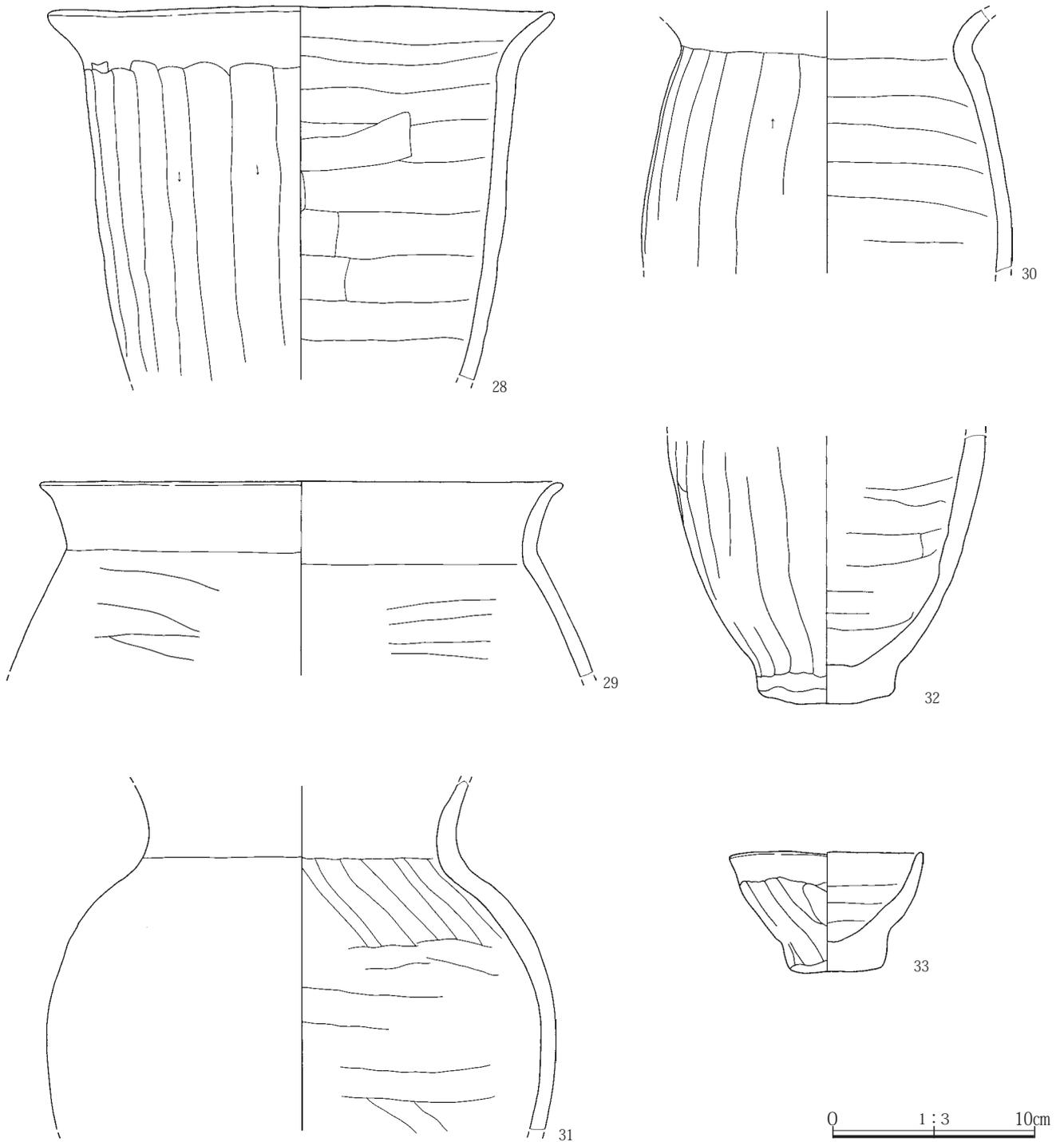
第169図 2区52号竈



第170図 2区52号竪穴建物出土遺物(1)



第171図 2区52号竪穴建物出土遺物(2)



第172図 2区52号竪穴建物出土遺物(3)

る一方、1cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。  
**竈** 北東壁のやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸185cm、袖幅35cm、燃烧部幅40cmを測る。幅が狭く、奥行きのある燃烧部で、ほぼ建物の内側に入る位置にある。壁外への掘り込みは60cmである。両袖に角礫を据え、褐灰色粘質土等を用いて構築している。袖石は右袖の方

が大きく、E-E'面での計測で幅13cm、高さ31cmを測る。左袖は幅11cm、高さ24cmで、若干上部が燃烧部側に傾いて出土した。それぞれの燃烧部側には、被熱による明赤褐色の変色が見られる。燃烧部の底部から煙道にかけて、多量の焼土や灰、炭化物を含む層が堆積していた。

**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径90cm、短径82cm

### 第3章 調査の成果

のほぼ円形で、深さ57cmを測る。貯蔵穴を含む1.3m×1.2mの範囲が、深いところで周囲の床面より10cm程低くなっており、蓋が置かれていた可能性がある。

**柱穴** 床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 50×46×78      P 2 48×42×61  
P 3 45×41×73      P 4 46×35×90

位置や規模、形状から、それぞれ主柱穴と考えられる。

**壁溝** 重複によって壊されている範囲や、検出されなかった箇所もあるが、広い範囲で確認した。幅5cm～10cm、深さ4～12cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈、貯蔵穴、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1～7：土師器杯(1・2は床面直上、4は床上7cm、5は床上9cm)、8～10：同高杯(8は床面直上、9は竈内、10は床上9cm)、11・12：同鉢、13：同台付鉢(床上8cm)、14：須恵器蓋杯の蓋(床面直上)、15：同蓋杯の身、16：同無蓋高杯(床面直上)、17：土師器壺(床面直上)、18・19・22・23：同小型甕(床面直上)、20・21・24～32：同甕(20・27は竈焚口、21は貯蔵穴内、24・25・26・28・30は床面直上、31は床上12cm)、33：鉢形の手捏ね土器(床面直上)である。

**所見** 一部重複により壊されているが、本遺跡では中規模の正方形の建物と考えられる。床面直上、竈で出土した土器は6世紀前半に比定でき、掲載したその他の土器も、共に矛盾のないものである。また、14の口縁部がほぼ直立している点や、高杯がMT15～TK10古段階に相当するものであること、更に、土師器杯に内斜口縁や内湾口縁のものが含まれないことから、この建物の時期は、6世紀前半の中でもその後半と考えられる。

### 2区53号竪穴建物(第173・174図、PL.39・108)

調査区南側、51号竪穴建物の10m程南東にある。

**座標値** X=42,768～42,772 Y=-55,688～-55,692

**重複遺構** なし      **形状** 正方形

**主軸方位** N-33°-E

**規模** 長軸3.10m 短軸2.92m

床面積8.60㎡ 残存壁高30cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土、暗褐色土等である。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、1cm以下の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁の南寄りの位置に設置している。袖部の確認ができなかったが、規模は、長軸90cm、燃焼部幅60cmを測る。燃焼部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは50cmである。褐灰色粘質土を用いて構築している。燃焼部の底部から煙道にかけて、焼土や灰・炭化物を含む層が堆積していた。

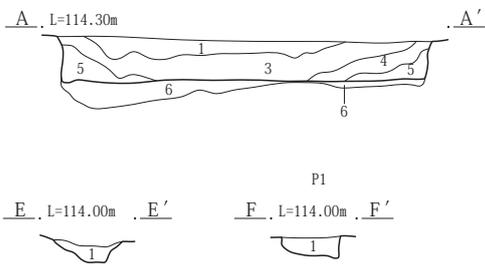
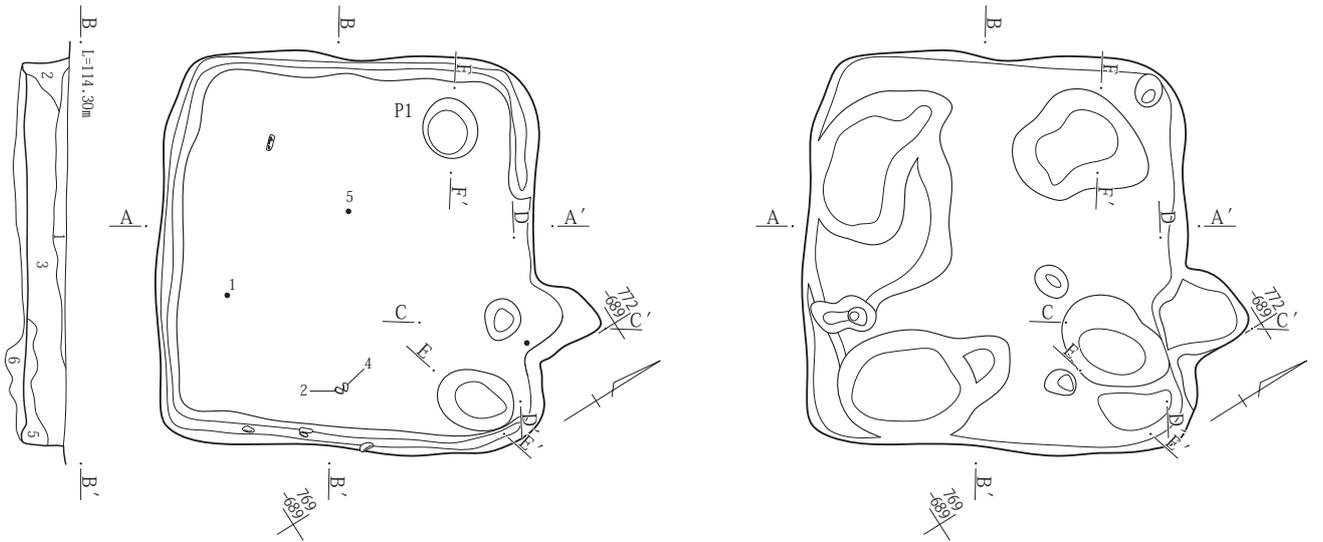
**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径62cm、短径48cmの楕円形で、深さ18cmを測る。また、北隅でP1を検出した。長径50cm、短径45cmの円形に近く、深さ15cmである。規模・形状が類似しており、同様に貯蔵穴の可能性はある。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** ほぼ全周している。幅5cm～8cm、深さ3cmを測る。

**遺物** 床面直上、床下、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1・2：土師器杯(床面直上)、3：須恵器杯、4・5：同壺(4は床面直上)、6：土師器甕(床下)である。

**所見** 一辺がほぼ3mの小規模な正方形の建物である。出土遺物は、小片が多く、時期がとらえにくいものもあるが、おおむね共伴して矛盾のない形状である。床面直上で出土した1・2の土師器杯から、時期は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期と考えられる。

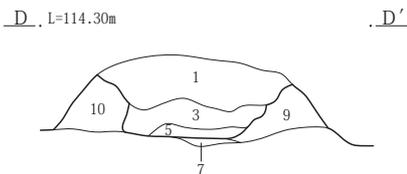
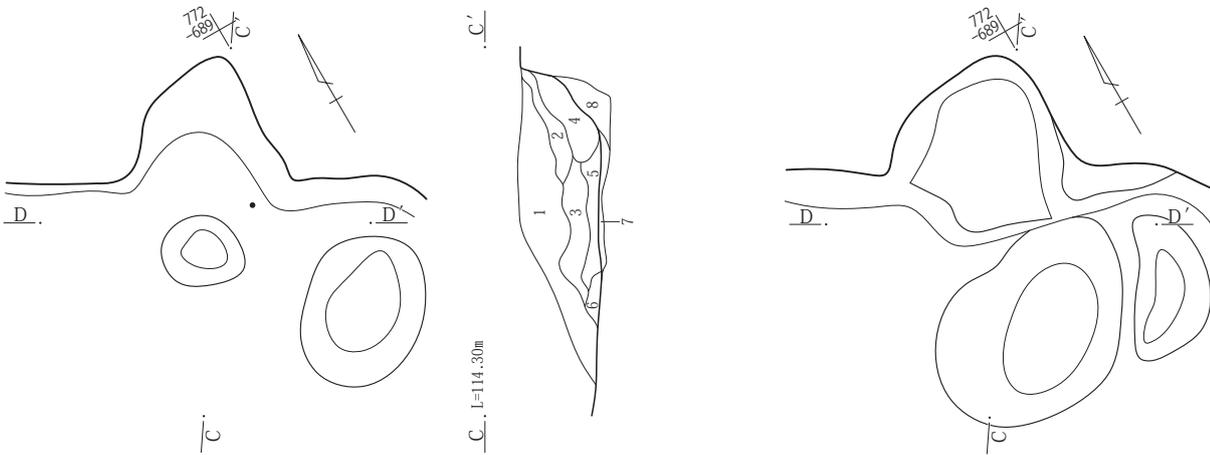
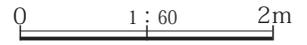


53号竪穴建物

- 1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。縮り・粘性弱。
- 2. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
- 3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
- 4. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒・褐灰色粘質土を微量含む。縮り・粘性ややあり。
- 5. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊を少量含む。縮り弱。粘性ややあり。
- 6. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

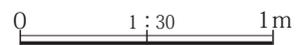
貯蔵穴

- 1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。
- P 1
- 1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量に含む。

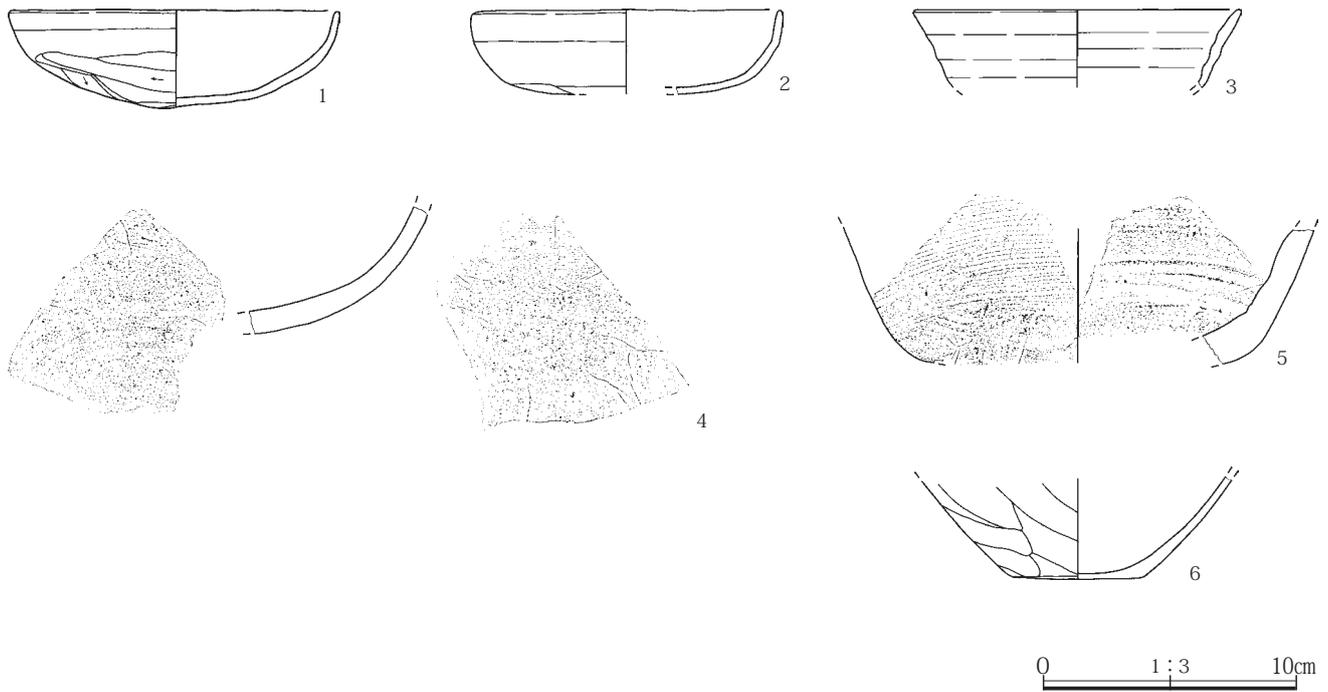


竈

- 1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。
- 2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 焼土・ローム塊・黒褐色土を少量含む。
- 3. 灰褐色土(7.5YR5/2) 焼土・黒褐色土を少量、ローム粒を微量含む。
- 4. 灰褐色土(5YR4/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土・暗灰色灰を少量含む。
- 5. 黒褐色土(5YR3/1) 暗灰色灰を多量、焼土粒・ローム粒を少量含む。
- 6. 黒褐色土(2.5Y3/1) 褐灰色粘質土を少量、焼土粒・ローム粒を微量含む。
- 7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量、暗灰色灰を少量含む。
- 8. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒・暗灰色灰を少量含む。
- 9. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
- 10. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム粒・褐灰色粘質土を微量含む。



第173図 2区53号竪穴建物・竈



第174図 2区53号竪穴建物出土遺物

**2区54号竪穴建物**(第175・176図、PL.40)

調査区南側、49号竪穴建物の5m程南西にある。

**座標値** X=42,772~42,776 Y=-55,707~-55,711

**重複遺構** 40号土坑と重複している。新旧関係は、本遺構が新しい。

**形状** 長方形 **主軸方位** N-128°-E

**規模** 長軸3.45m 短軸3.10m

床面積9.40㎡ 残存壁高30cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を多量に含む黒褐色土、暗褐色土等である。上層では白色軽石、下層の一部では褐灰色粘質土が見られる。

**床面** 平坦である。

**掘方** 起伏があり細かい凹凸も見られるが、全体的に浅めで、床面からの深さが1cmに満たない所が多く、深い所でも15cm程である。

**竈** 南東壁のやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸120cm、袖幅43cm、燃烧部幅50cmを測る。燃烧部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは80cmである。

**貯蔵穴** 床面の調査では確認できなかったが、掘方の調査で、建物南隅の長径105cm、短径60cmの楕円形に近い形状で、床面から底部までが20cm程の深さになる箇所を確認した。貯蔵穴の可能性もある。

**柱穴** 確認されなかった。掘方の調査で、ピット状の窪みを数箇所検出したが、柱穴に関わるものであるかは、明らかではない。

**壁溝** 全周している。幅5cm~10cm、深さ4cm~8cmを測る。

**遺物** 竈、埋没土中から土師器や須恵器の小片、土製品が出土した。掲載した遺物は、1：須恵器台付壺(竈内)、2：土師器甕、3：土製品玉である。

**所見** 小規模で、やや主軸方向に長い長方形の建物である。出土遺物が小片で残存状態も良好ではないため、時期の比定は難しいが、おおむね古墳時代後期と考えられる。

**2区55号竪穴建物**(第177・178図、PL.40・108)

調査区南側、54号竪穴建物の5m程南東にある。

**座標値** X=42,769~42,773 Y=-55,701~-55,705

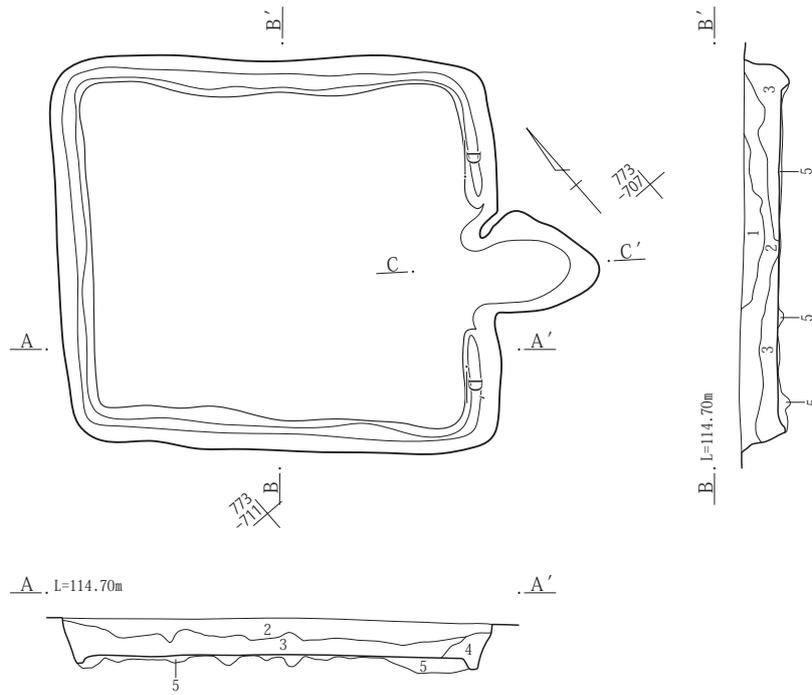
**重複遺構** 565号ピット重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** ほぼ正方形 **主軸方位** N-58°-E

**規模** 長軸3.30m 短軸3.25m

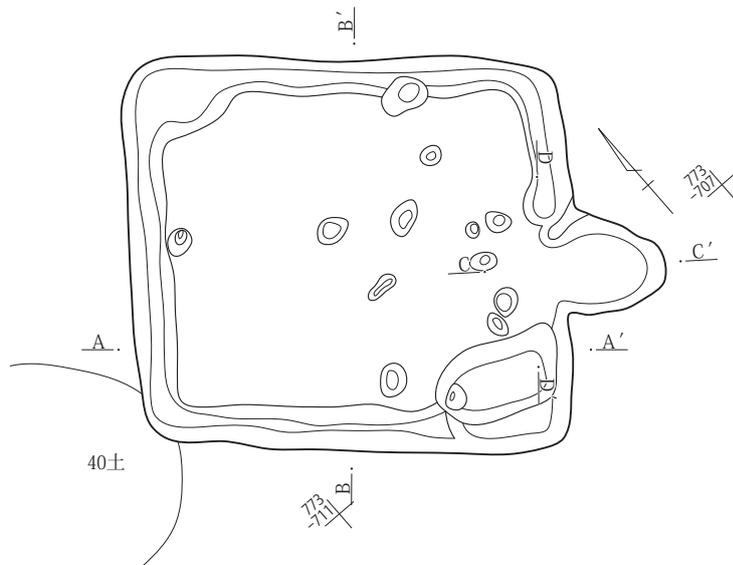
床面積9.36㎡ 残存壁高38cm

**埋没土** 主に白色粒、ローム塊、ローム粒を含む黒褐色土や暗褐色土等である。

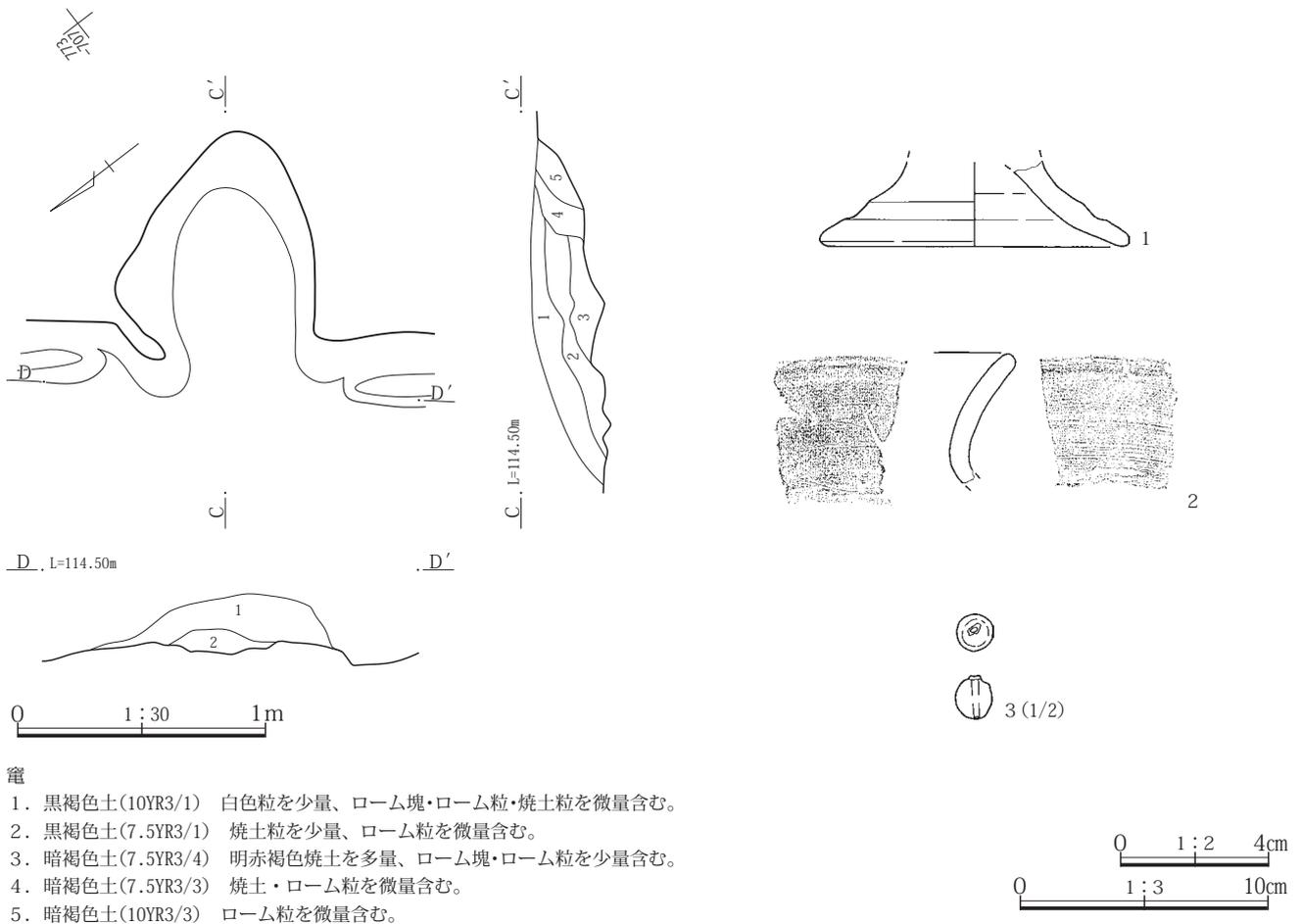


54号竪穴建物

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 白色軽石を少量、ローム粒を微量含む。締り・粘性ややあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を微量含む。締りややあり。粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR2/3) 褐灰色粘質土・ローム塊・ローム粒を微量含む。締り・粘性弱。
5. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第175図 2区54号竪穴建物



第176図 2区54号竪穴建物竈・出土遺物

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。竈の前から建物中央にかけて、硬化面を検出した。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが15cm以上の所がある一方、3cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 北東壁の南寄りの位置に設置している。袖部の確認ができなかったが、規模は長軸120cm、燃烧部幅50cmを測る。燃烧部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは65cmである。灰褐色粘質土等を用いて構築している。

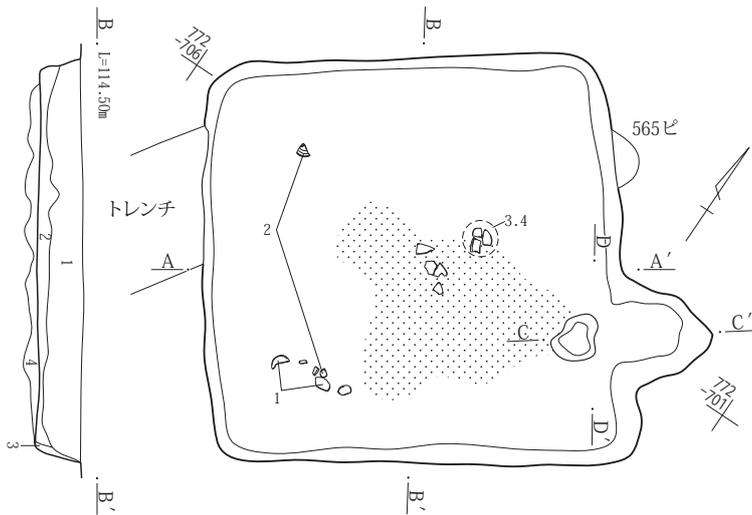
**貯蔵穴** 床面の調査では確認できなかったが、掘方の調査で検出した建物北隅の長径80cm、短径70cmの楕円形に近い形状で、床面から底部までが20cm程の深さになる箇所が貯蔵穴の可能性はある。

**柱穴** 確認されなかった。掘方の調査で、ピット状の窪みを数箇所検出したが、柱穴に関わるものであるかは、明らかではない。

**壁溝** 確認されなかった。

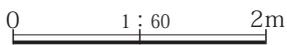
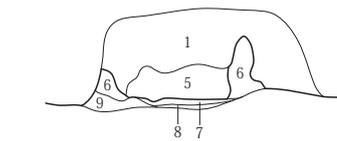
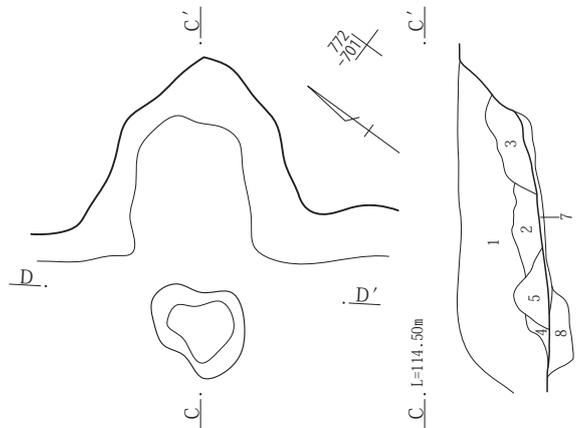
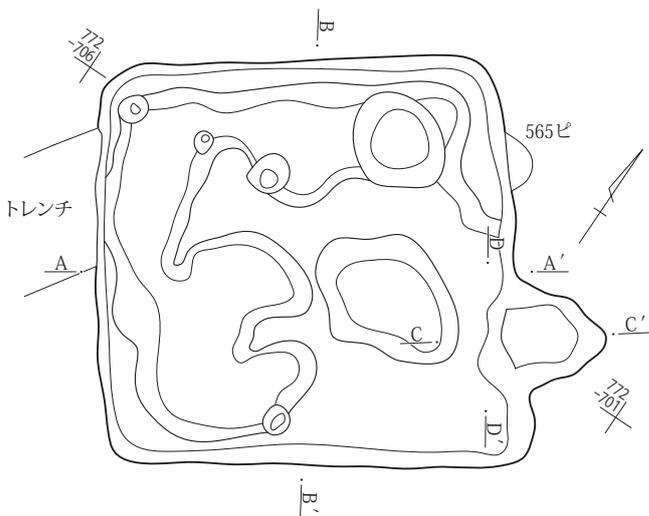
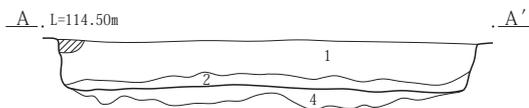
**遺物** 床面直上、竈内、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯、2：須恵器杯蓋、3・4：同壺(床面直上)、5・6：同甕(竈内)である。

**所見** 北西壁に対して南東壁がやや長くなっているが、ほぼ正方形の小規模な建物である。床面直上及び竈内で出土した3～6の土器は共伴関係にあると考えられるが、須恵器の壺・甕であるため年代観が与えにくい。1・2の土器については、8世紀後半に比定できるが、床面上20cm程での出土のため、3～6との共伴関係を断定することは難しい。これらのことから、この建物の時期は、8世紀後半を下限とする時期と考えられる。



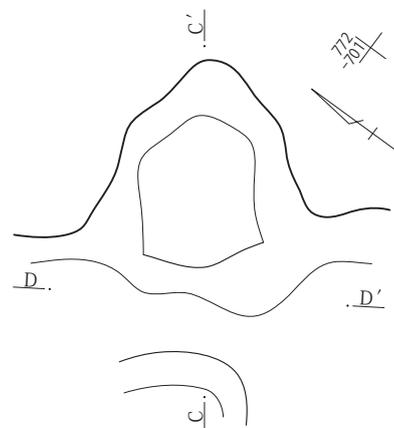
55号竖穴建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を少量、白色粒を微量含む。
3. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

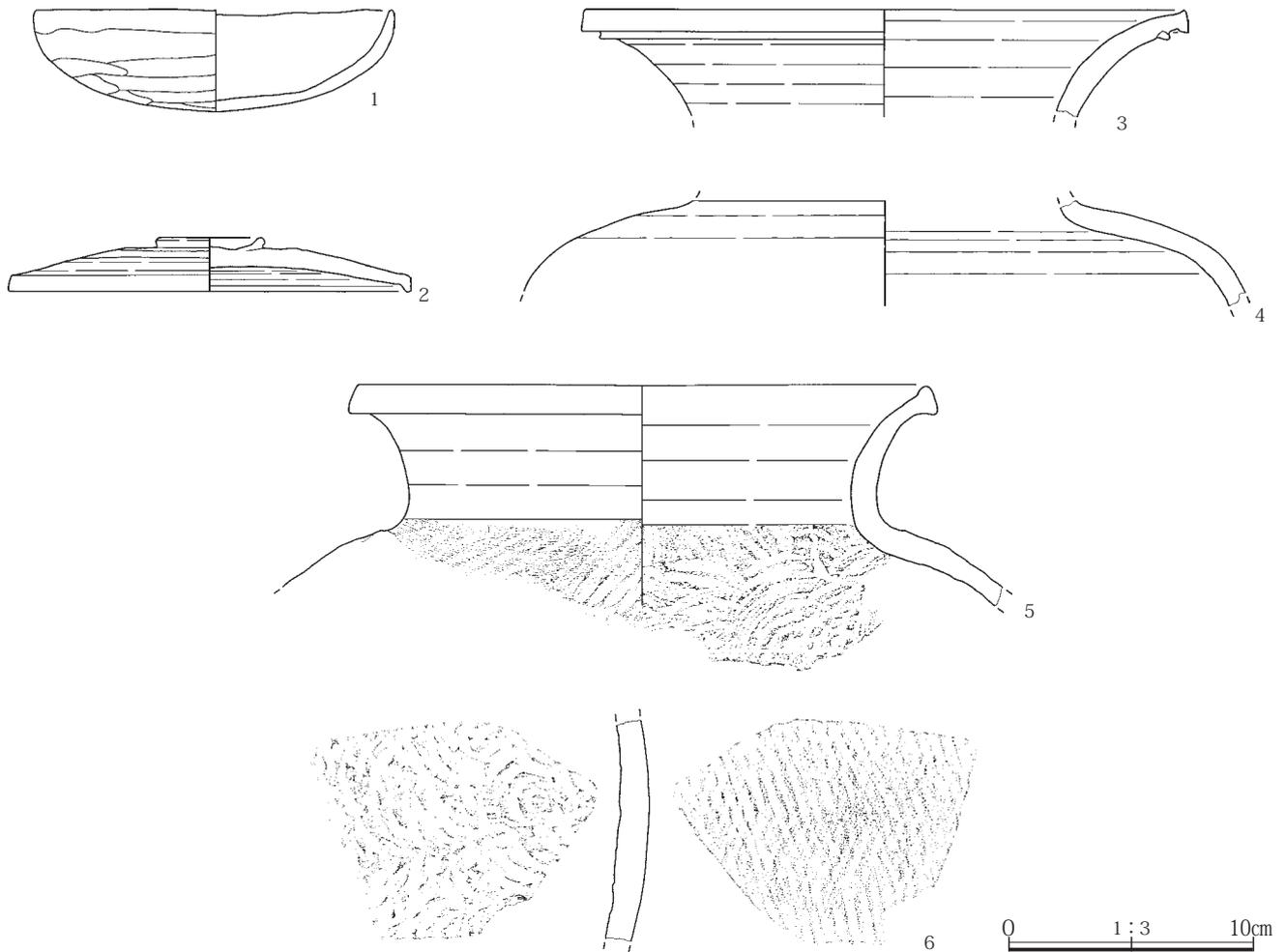


竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を少量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 明赤褐色焼土を少量含む。
3. 褐色土(7.5YR4/3) 明赤褐色焼土を多量に含む。
4. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒を少量含む。
5. 灰褐色粘質土(7.5YR4/2) 暗褐色土・焼土・ローム粒を少量含む。
6. 灰褐色粘質土(7.5YR4/2) 暗褐色土を多量、焼土・炭化物を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/4) 暗灰色灰を上部に多量、ローム粒を少量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。



第177図 2区55号竖穴建物・竈



第178図 2区55号竪穴建物出土遺物

**2区56号竪穴建物**(第179・180図、PL.41・108)

調査区南側、55号竪穴建物の5m程東にある。

**座標値** X=42,767~42,771 Y=-55,696~-55,700

**重複遺構** 57号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-105°-E

**規模** 長軸3.43m 短軸3.15m

床面積9.12㎡ 残存壁高30cm

**埋没土** 主に白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む黒褐色土や暗褐色土等である。

**床面** 多少起伏があり、建物の周縁部にやや低くなっている箇所がある。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の南端に設置している。袖部の確認ができなかったが、規模は長軸158cm、燃烧部幅55cmを測る。燃

焼部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは55cmである。褐灰色土を用いて構築している。

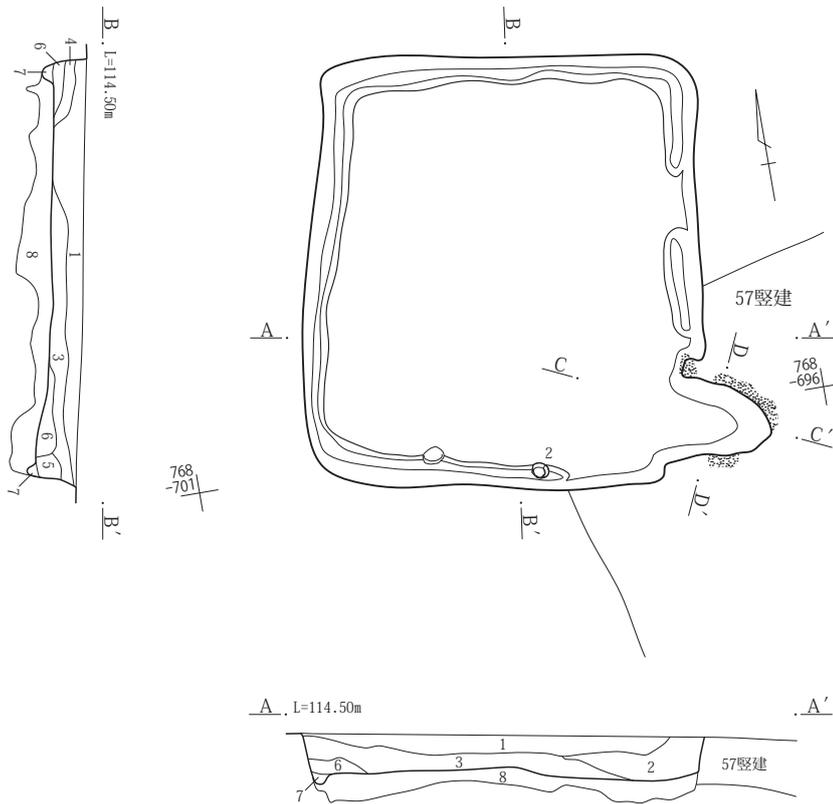
**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 竈周辺、東壁の一部を除き確認した。幅5cm~10cm、深さ4cm~8cmを測る。

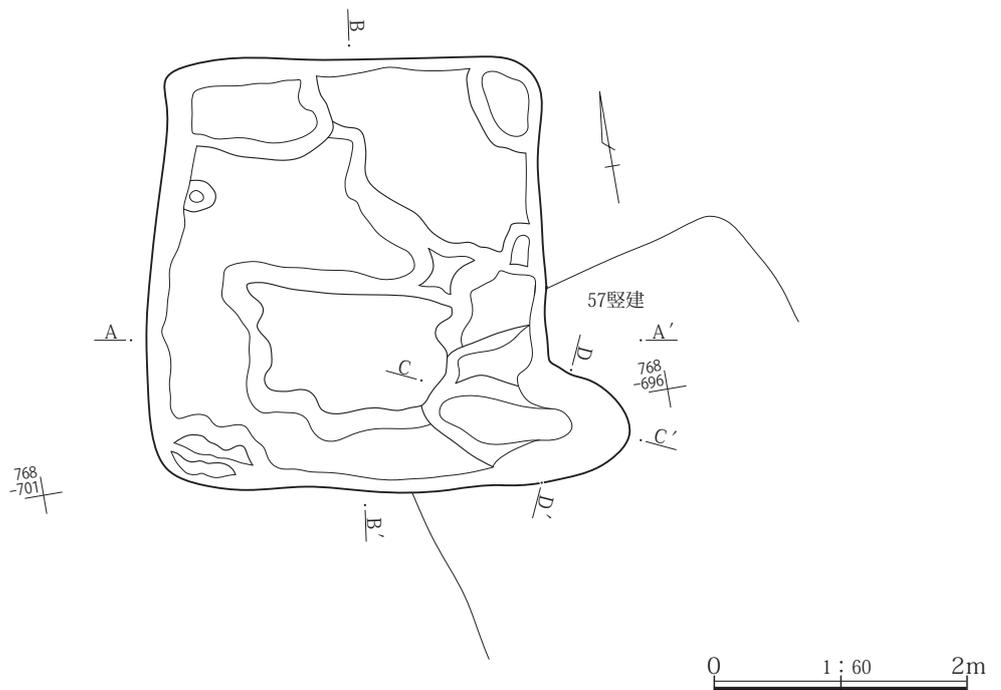
**遺物** 竈、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(竈内)、2：須恵器杯(床上13cm)、3：同椀、4：同器種不明土器(竈内)、5：同短頸壺である。

**所見** ほぼ正方形の小規模な建物である。東壁の南端に竈を設置する本遺跡では数少ない建物である。出土遺物は限られているが、埋没土中のもも含め共に矛盾のないものである。竈内で出土した杯から、時期は9世紀第1四半期と考えられる。



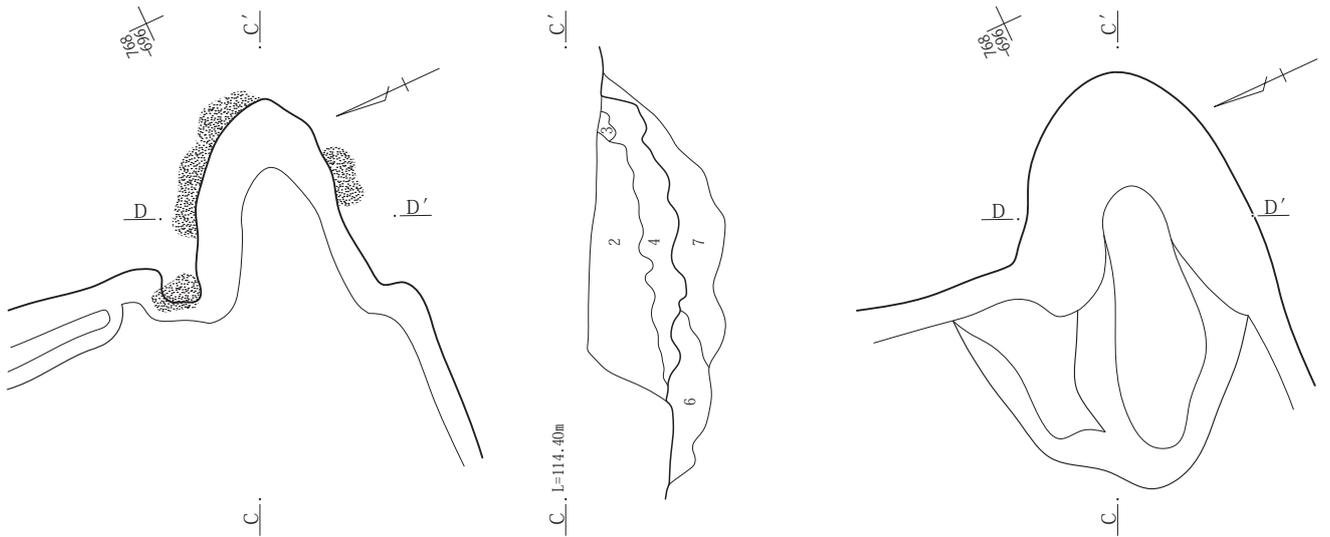
56号竖穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石を少量、ローム塊・ローム粒を微量含む。締りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石・ローム粒を微量含む。締りややあり。粘性弱。
3. 黒褐色土(2.5Y3/2) 白色軽石・ローム塊を微量含む。締り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量、白色軽石・ローム塊を微量含む。締りややあり。粘性なし。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。締り弱。粘性なし。
6. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
8. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

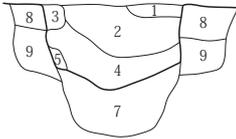


第179図 2区56号竖穴建物

第3章 調査の成果

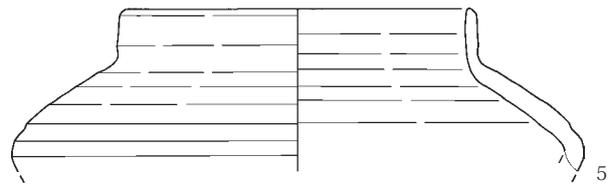
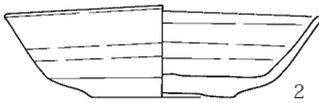
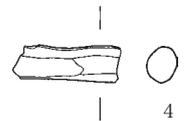
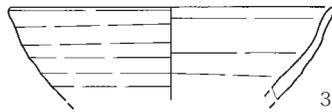
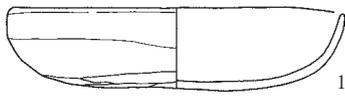


D, L=114.40m .D' 竈



1. 暗褐色土(10YR3/3) 褐灰色粘質土を多量、白色軽石を少量、ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石を少量、ローム塊・ローム粒・焼土粒を微量含む。
3. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) 褐灰色粘質土・橙色焼土粒を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(2.5Y3/1) 褐灰色粘質土・ローム粒・焼土粒を少量含む
6. 黒褐色土(7.5YR3/1) 褐灰色粘質土・ローム塊・ローム粒を微量含む。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を多量、上部に暗灰色灰・ローム粒を少量含む。
8. 褐灰色粘質土(10YR4/1) 黒褐色土・白色軽石・ローム粒を少量含む。
9. 黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色粘質土・白色軽石・ローム粒を少量含む。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第180図 2区56号竪穴建物竈・出土遺物

2区57号竪穴建物(第181～183図、PL.41)

調査区南側、56号竪穴建物の南東に位置し、建物の北西側が重複している。

座標値 X=42,765~42,769 Y=-55,694~-55,698

重複遺構 56号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

形状 北西隅は重複によって壊されているが、確認できた範囲の形状から、正方形と考えられる。

主軸方位 N-72°-E

規模 長軸3.40m 短軸3.28m

床面積(8.53㎡) 残存壁高30cm

埋没土 白色粒、ローム塊、ローム粒を含む黒褐色土や暗褐色土等である。

床面 おおむね平坦であるが、起伏があり、北東隅が低くなっている。

掘方 起伏があり、床面からの深さが30cm程の所がある

一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

竈 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸138cm、袖幅50cm、燃烧部幅65cmを測る。燃烧部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは60cmである。

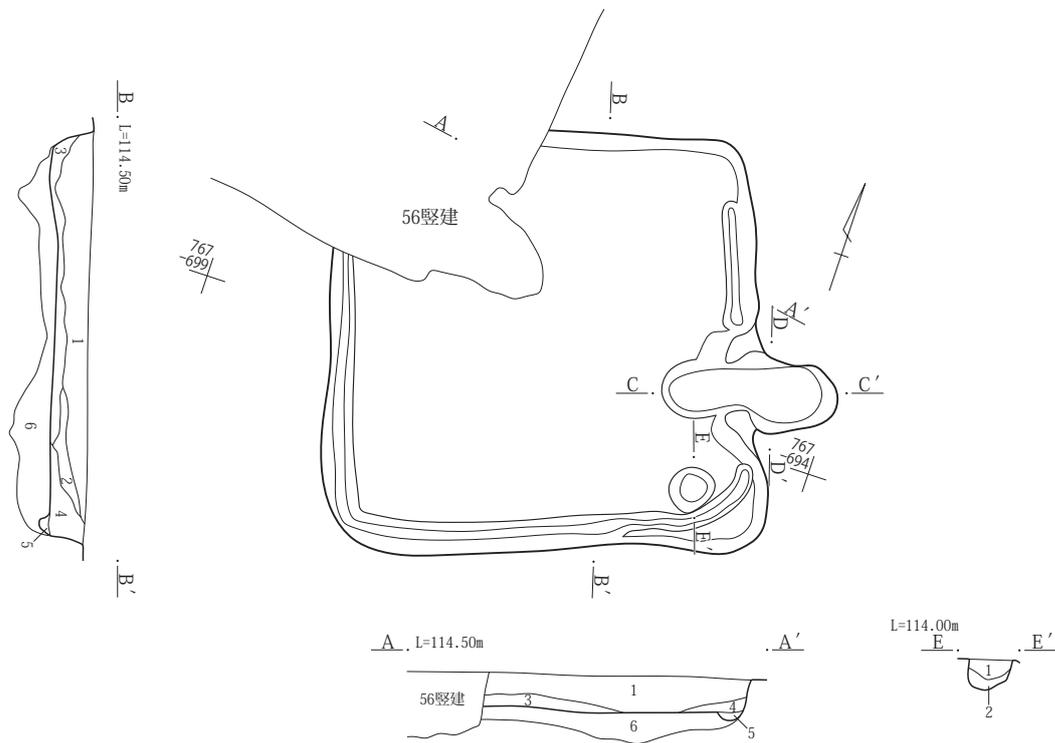
貯蔵穴 建物の南東隅にある。規模は長径35cm、短径32cmの楕円形で、深さ23cmを測る。

柱穴 確認されなかった。

壁溝 北壁付近を除く範囲で確認した。幅5cm~10cm、深さ6cmを測る。

遺物 竈内、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1:須恵器杯蓋(竈内)、2:同椀(竈内)、3:土師器台付甕、4・5:同甕(竈内)である。

所見 一部重複によって壊されているが、小規模な正方形の建物と考えられる。竈内で出土した土器には、やや年代に幅があるが、共伴には問題がなく、時期は9世紀第1四半期と考えられる。

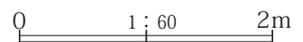


57号竪穴建物

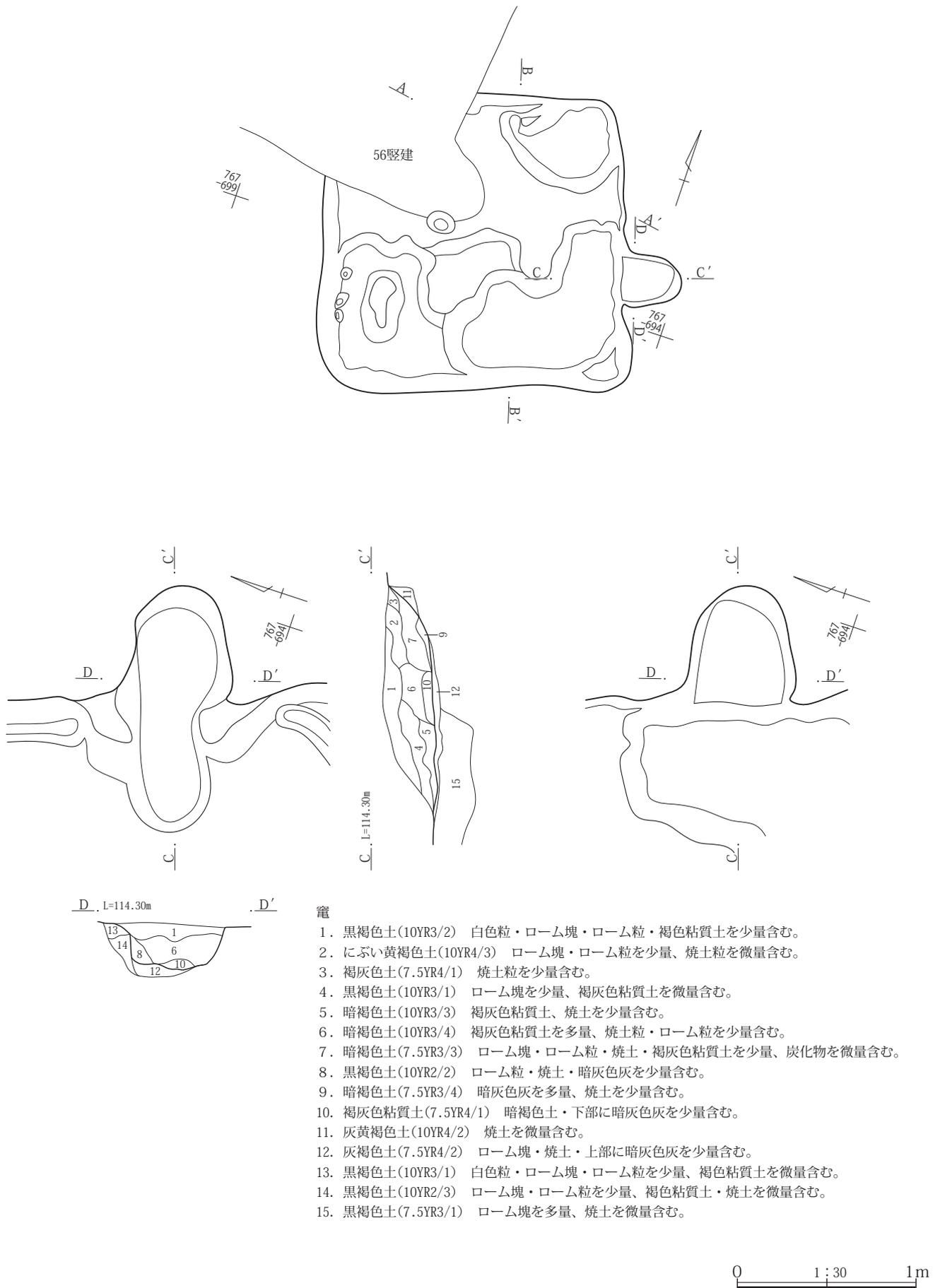
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を多量、ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 白色粒を少量、ローム粒を微量含む。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。
6. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

貯蔵穴

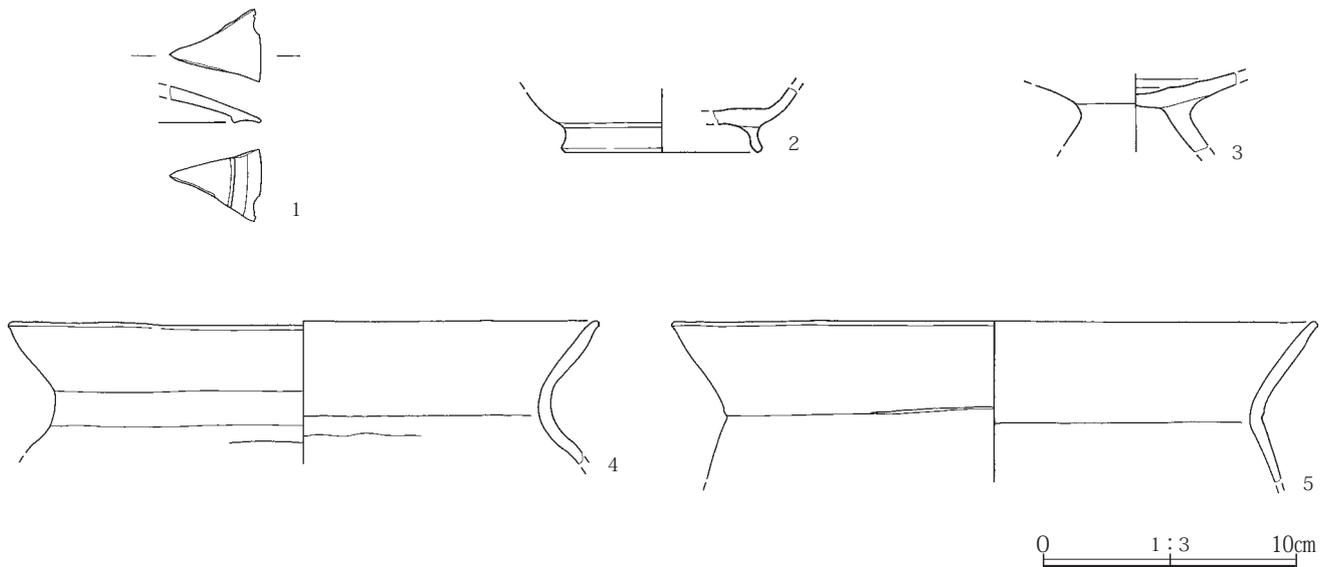
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム塊主体。暗褐色土を多量に含む。



第181図 2区57号竪穴建物



第182図 2区57号竪穴建物掘方・竈



第183図 2区57号竪穴建物出土遺物

**2区58号竪穴建物**(第184・185図、PL.41・42・108・109)

調査区南側、54号竪穴建物の5m程南にある。

**座標値** X=42,766~42,770 Y=-55,710~-55,713

**重複遺構** 59号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-100°-E

**規模** 長軸3.00m 短軸2.75m

床面積7.22㎡ 残存壁高13cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む暗褐色土、にぶい黄褐色土等である。

**床面** おおむね平坦であるが、やや起伏がある。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm以下の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。袖部の確認ができなかったが、規模は長軸96cm、燃焼部幅53cmを測る。燃焼部の多くが壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは55cmである。

**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 25×20×14 P 2 28×23×5

P 3 30×20×13 P 4 28×25×32

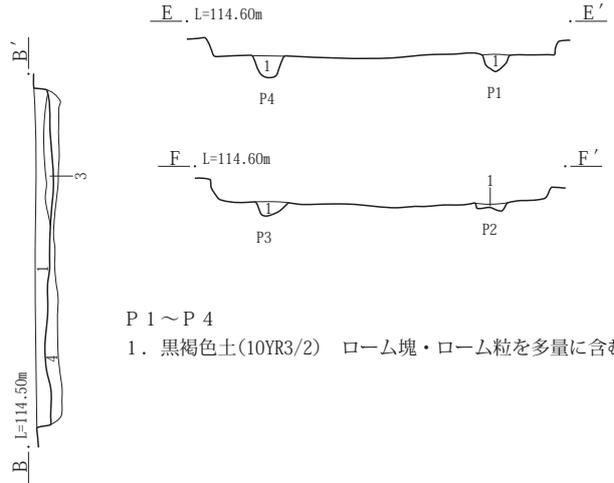
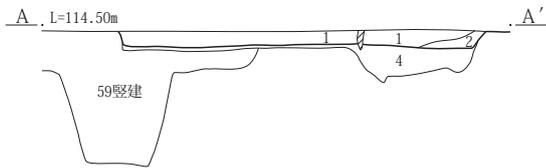
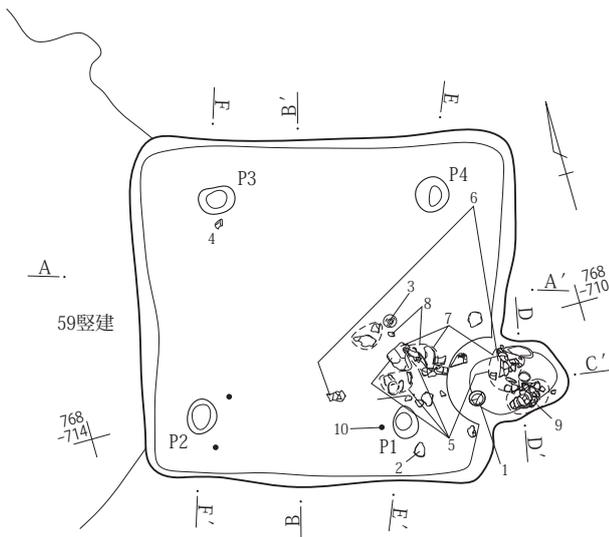
全体的に浅く、特にP 2の深さは5cmであるが、位置や平面の形状から、それぞれ主柱穴の可能性が高い。

**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 床面直上、竈、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(竈焚口)、2：須恵器杯(床面直上、底部に墨書「内百四」)、3・4：土師器台付甕(床面直上)、5～9：同甕(5・7・8は床面直上、6・9は竈内)、10：砥石(床面直上)である。

**所見** 北壁に対して南壁がやや短く、多少ゆがみのある平面形状であるが、正方形に近い小規模な建物である。

本遺構では、床面直上や竈内で多数の遺物が出土しており、おおむね共に矛盾のないものであるが、掲載した土師器の甕の口縁には、くの字状のものとコの字状のものがあり、年代には、やや幅がある。これらのことから、この建物の時期は、8世紀後半と考えられる。

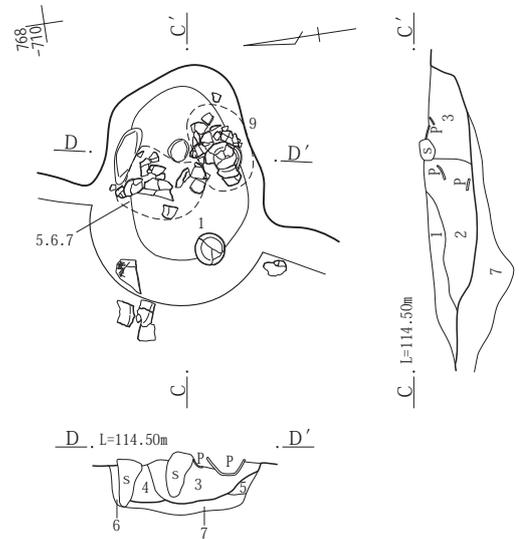
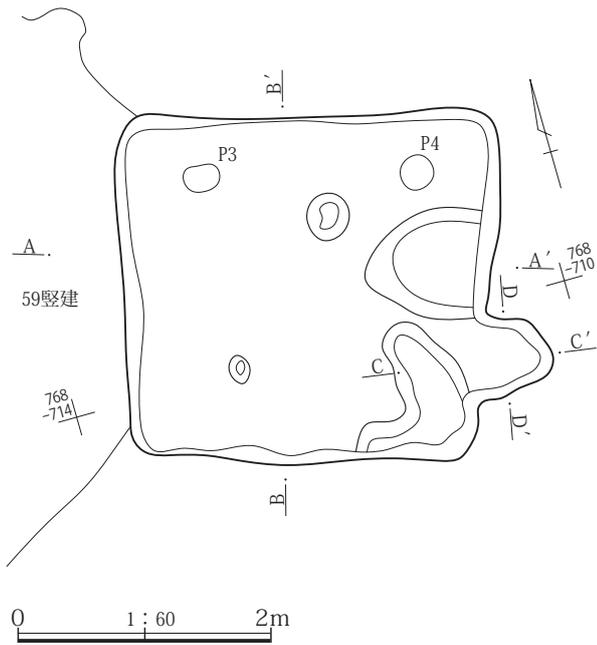


P 1 ~ P 4

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

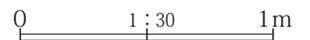
58号竪穴建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を微量含む。締りあまりなし。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

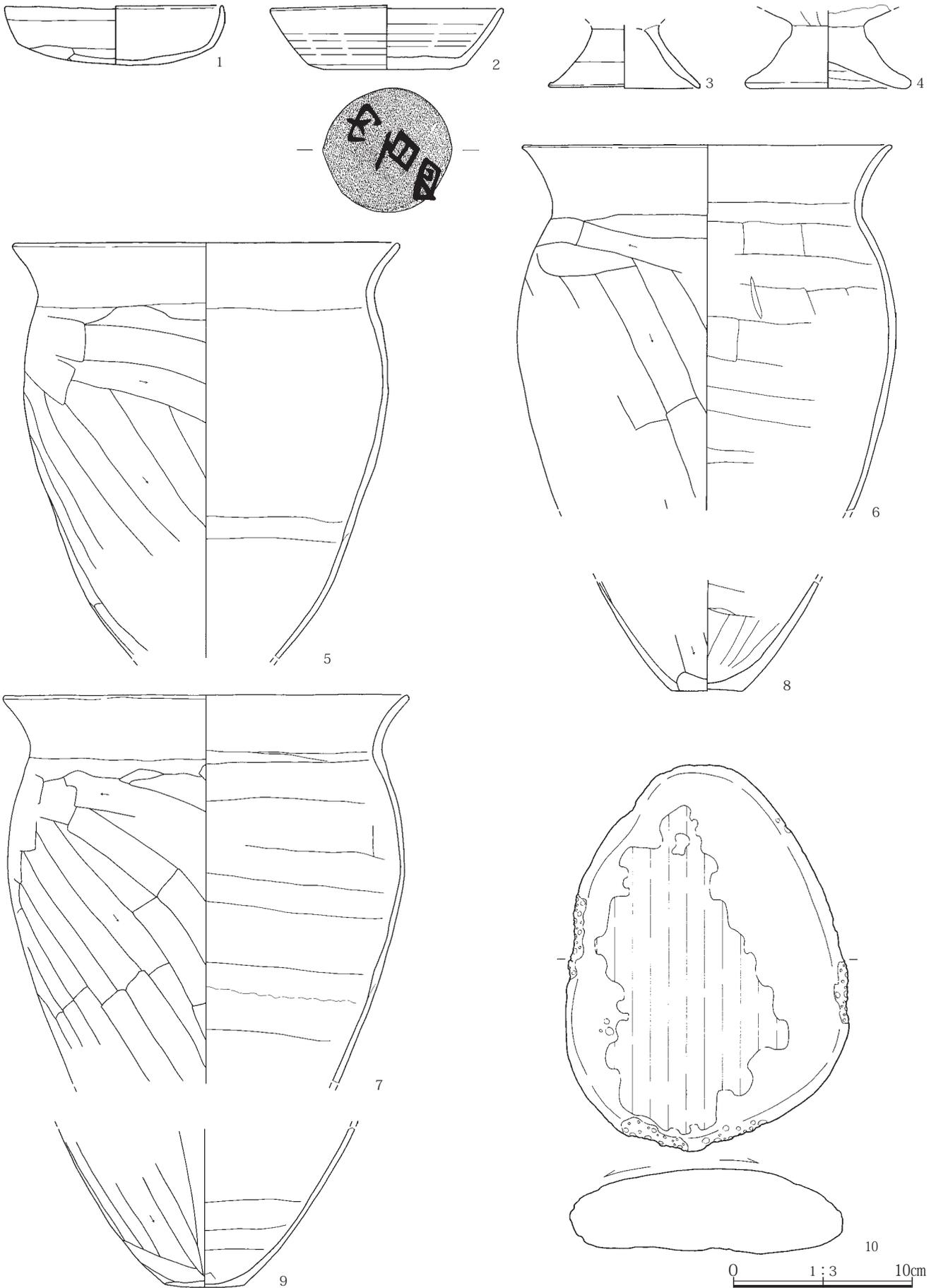


竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・焼土を少量、炭化物を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 明赤褐色焼土を多量に含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3) 焼土を少量含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) 焼土粒を微量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。



第184図 2区58号竪穴建物・竈



第185図 2区58号竪穴建物出土遺物

2区59号竪穴建物(第186~189図、PL.42・43・109)

調査区南側、58号竪穴建物の西に位置し、建物の東側が重複している。

**座標値** X=42,764~42,773 Y=-55,712~-55,719

**重複遺構** 58号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形の可能性が高いが、建物の北西部の多くが調査区外にあるため、明らかではない。

**主軸方位** N-124°-W

**規模** 長軸7.55m 短軸(5.50m)

床面積(31.82㎡) 残存壁高15cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土、暗褐色土等である。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm程の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 2基を確認した。それぞれ袖部の確認ができなかったが、南西壁の1号竈の規模は、長軸175cm、燃烧部幅60cmを測る。燃烧部は、ほぼ建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは52cmである。北東壁の2号竈の規模は、長軸70cm、燃烧部幅45cmを測る。燃烧部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは25cmである。共に一部が後世の攪乱を受けているが、厚い焼土の層や、多量の焼土を含む範囲が残存しており、両竈が建物の廃絶時まで使用されていたと考えられる。

**貯蔵穴** 2箇所を確認した。建物の南隅の1号貯蔵穴の規模は長径110cm、短径73cm、深さ88cmで、東隅の2号貯蔵穴は長径108cm、短径105cm、深さ89cmを測る。共に床面付近が広がっており、蓋を置くことが可能な形状である。平面形状は上部が丸みを帯び、底部は方形に近い。

**柱穴** 床面で9基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

- |     |           |     |          |
|-----|-----------|-----|----------|
| P 1 | 55×48×78  | P 2 | 38×36×63 |
| P 3 | 32×(15)×9 | P 4 | 45×38×26 |
| P 5 | 38×(25)×8 | P 6 | 55×45×43 |
| P 7 | 28×25×44  | P 8 | 48×28×13 |
| P 9 | 41×30×17  |     |          |

位置や規模、形状から、P 1・P 2は支柱穴と考えられる。

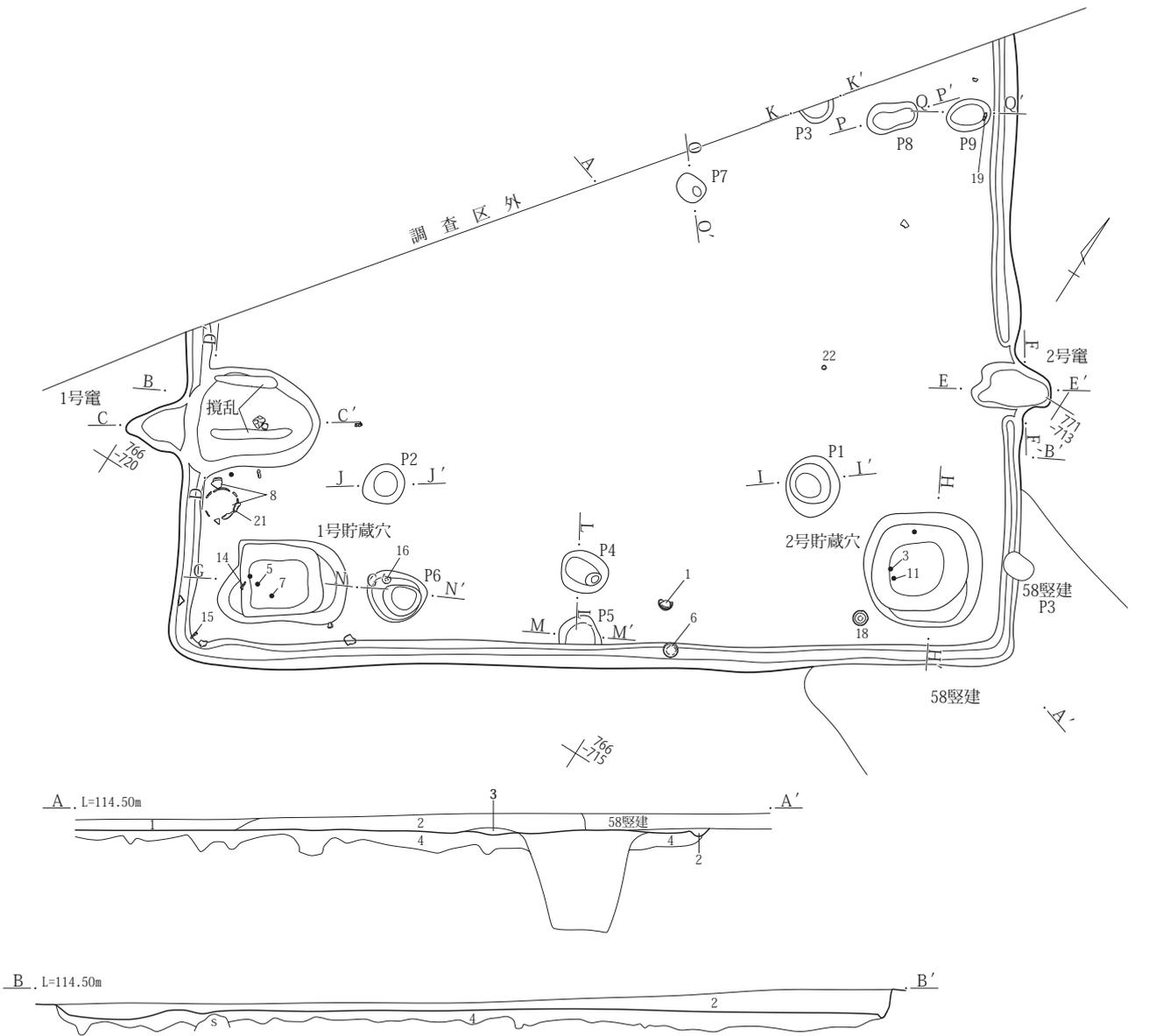
また、P 3は調査区際のため、規模や形状が明らかではないが、北東壁からの距離がP 1とほぼ同じであることから、支柱穴の可能性はある。P 4・P 5は南東壁中央付近にあり、出入り口に関わる可能性がある。尚、29号竪穴建物のP 5・P 6は北西壁付近であるが、規模や位置関係が類似している。P 6・P 8・P 9は、それぞれ支柱穴と考えられるピットと壁の間に位置しており、補強あるいは上部の何らかの内部施設の存在が想定できる。

**壁溝** 調査区内では全周している。幅5cm~10cm、深さ3cm~11cmを測る。

**遺物** 床面直上、貯蔵穴内、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1・12：土師器碗(1は床上14cm、12は2号貯蔵穴内)、2~11：同杯(3・4・11は2号貯蔵穴内、5・7・9は1号貯蔵穴内、8は床面直上、10は床下、6は床上15cm)、13：同鉢、14~16：同高杯(14は1号貯蔵穴内、15は壁溝内、16は床面直上)、17：同台付鉢(2号貯蔵穴内)、18：須恵器蓋杯の蓋(床面直上)、19：同蓋杯の身(床上14cm)、20：土師器小型甕(床下)、21：同壺(床面直上)、22：椀形の手捏ね土器(床面直上)、23：土製品玉(1号貯蔵穴内)である。

**所見** 北西側が調査区外にあるため、建物全体の規模は明らかではないが、長軸が7.55mで、P 3が支柱穴の1つであれば、短軸が少なくとも6.8m程ある長方形の建物となり、本遺跡最大の建物と考えられる。また、竈、貯蔵穴をそれぞれ2基有しており、集落において、特別な建物、あるいは有力な人物が使用した建物の可能性がある。

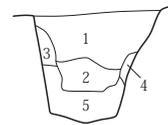
本遺跡で出土した土師器杯の大部分は赤色系の色調で県中央部と同様であるが、5・10・11は黄色系を呈し、東毛の影響をうけているとみられる。須恵器の18と19は焼成がやや不良で、内外面共に燻焼成が施されており、1組の蓋杯の可能性はある。これらを含む床面や貯蔵穴で出土した土器から、時期は5世紀末~6世紀初頭と考えられる。



59号縦穴建物

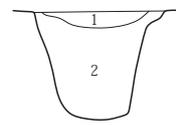
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒・焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

G, L=114.50m



G'

H, L=114.50m



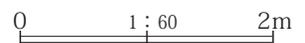
H'

1号貯蔵穴 G-G'

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を少量含む。粘性あり。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、焼土粒を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。

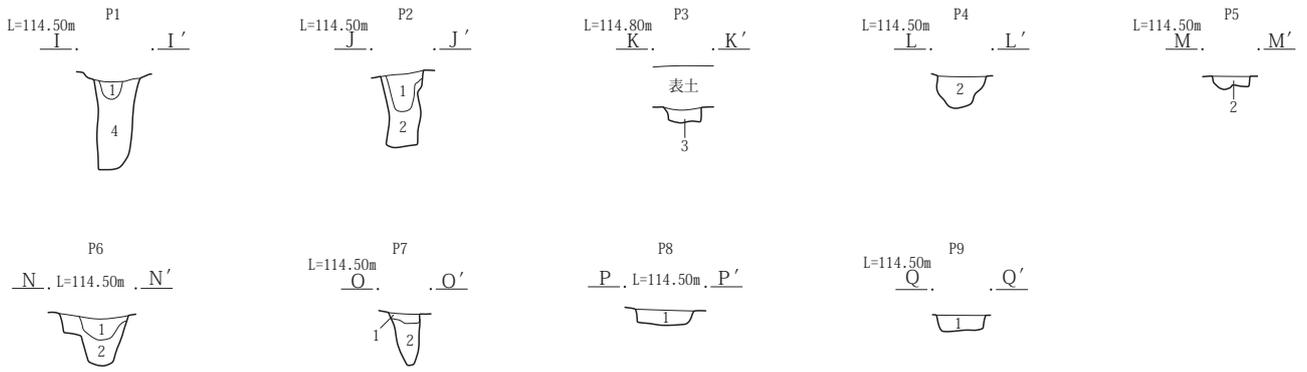
2号貯蔵穴 H-H'

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。



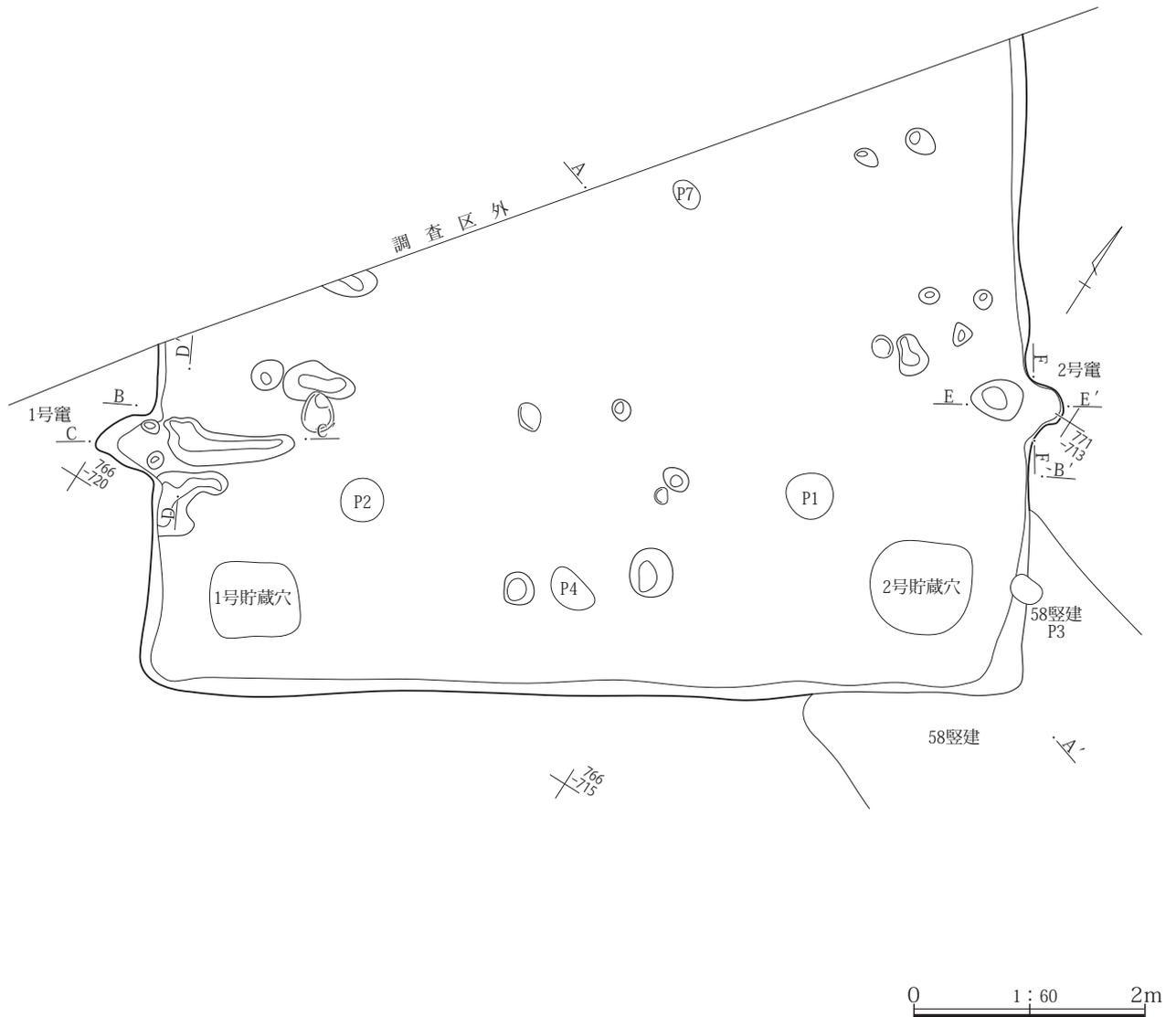
第186図 2区59号縦穴建物

第3章 調査の成果



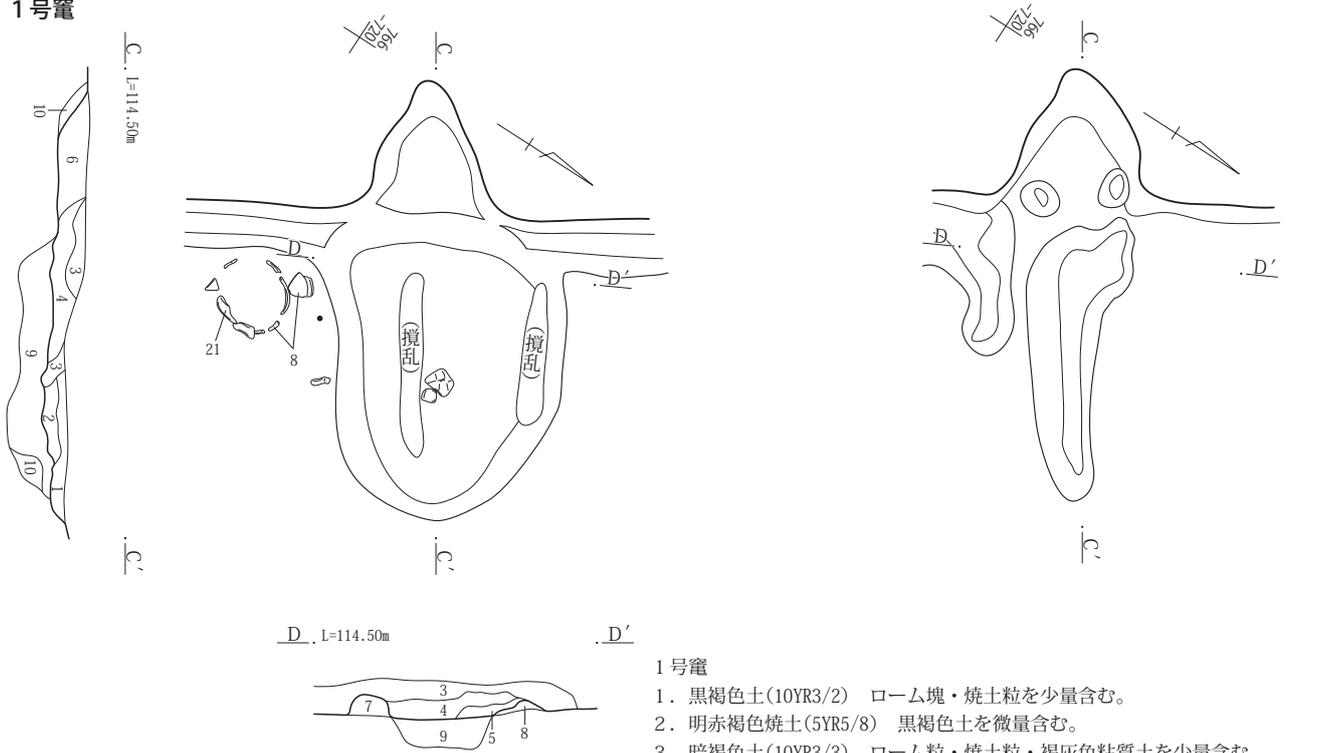
P 1 ~ P 9

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
4. 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。



第187図 2区59号竪穴建物掘方

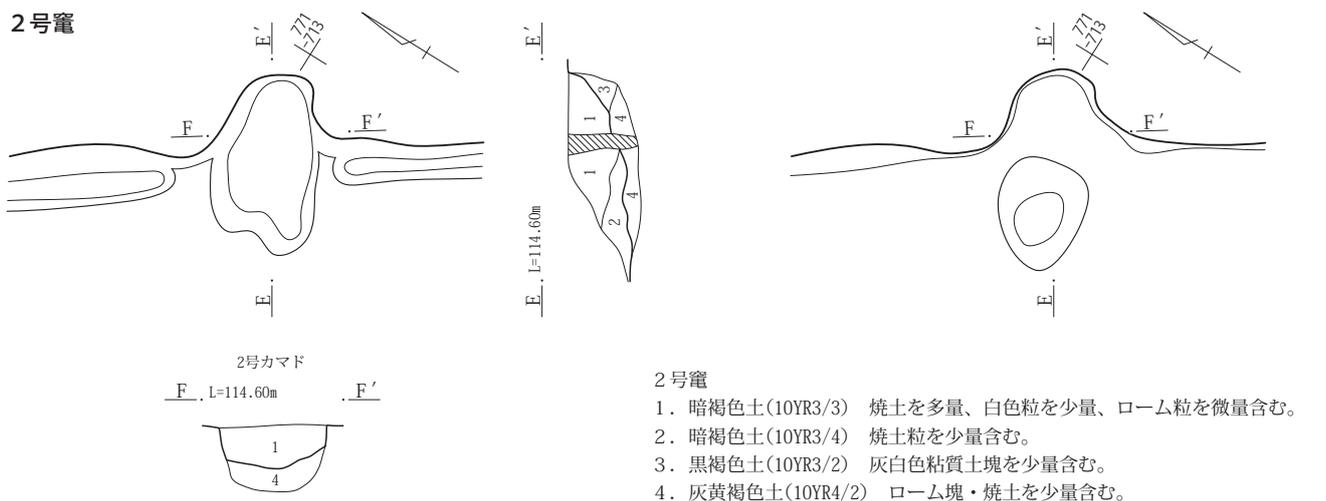
1号竈



1号竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・焼土粒を少量含む。
2. 明赤褐色焼土(5YR5/8) 黒褐色土を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒・褐灰色粘質土を少量含む。
4. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 灰白色粘質土・焼土粒を少量、暗褐色土を微量含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 褐灰色粘質土を多量に含む。
6. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒を少量、灰白色粘質土・黒褐色土を微量含む。
7. 灰白色粘質土(2.5Y7/1) 褐灰色粘質土を多量、焼土・暗褐色土を少量含む。
8. 黄褐色土(2.5Y5/4) 褐灰色粘質土を微量含む。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、上部に焼土を少量含む。
10. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

2号竈



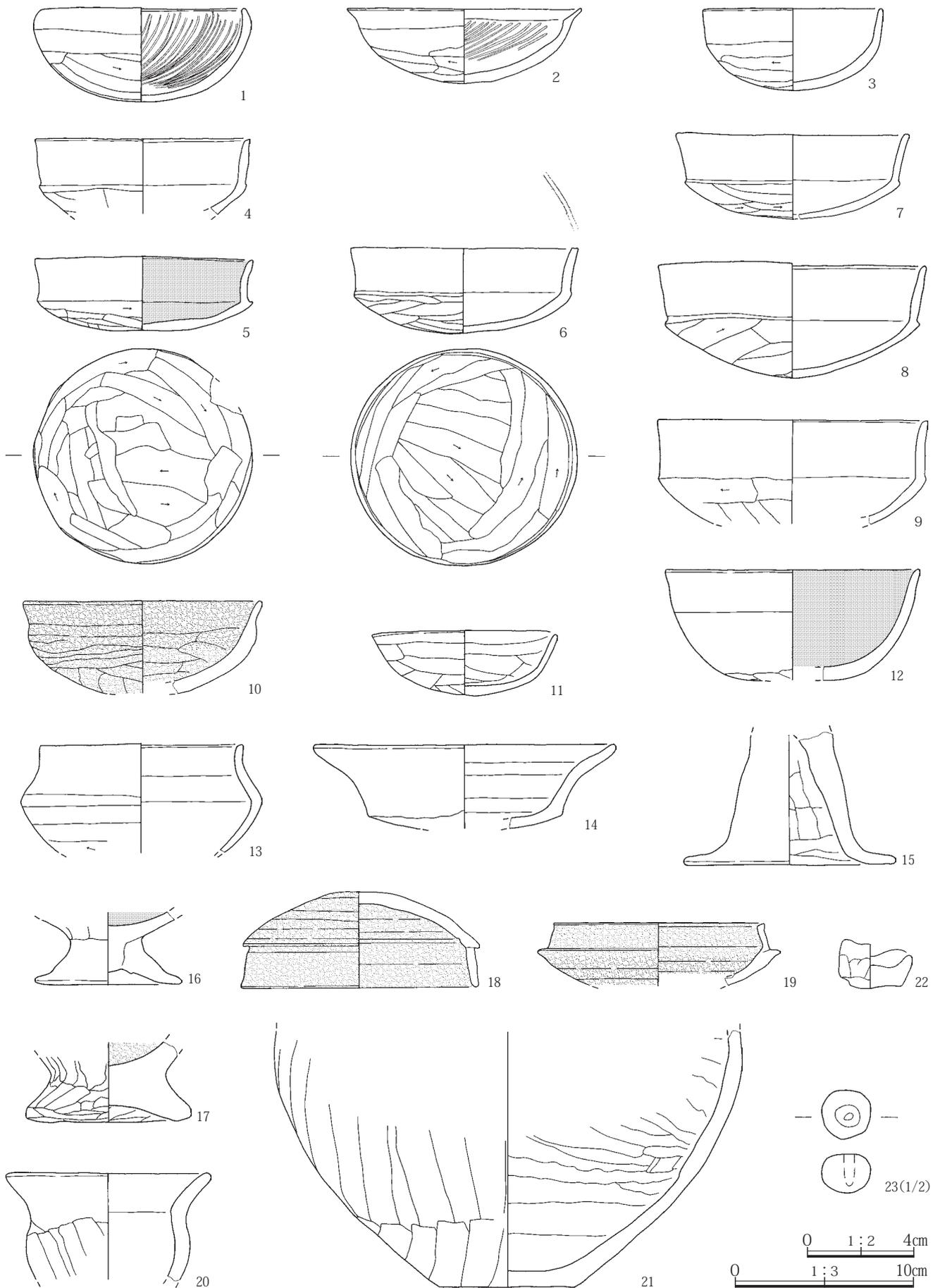
2号竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土を多量、白色粒を少量、ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粘質土塊を少量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・焼土を少量含む。



第188図 2区59号竪穴建物1・2号竈

第3章 調査の成果



第189図 2区59号竪穴建物出土遺物

**2区60号竪穴建物**(第190～194図、PL.43・44・109～111)

調査区南西端、59号竪穴建物の5m程南西にあり、建物の北西側が調査区外にある。

**座標値** X=42,758～42,764 Y=-55,720～-55,725

**重複遺構** 61号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形又は正方形とみられるが、北西側が調査区外にあるため、明らかではない。

**主軸方位** N-70°-E

**規模** 長軸5.55m 短軸(3.75m)

床面積(12.07㎡) 残存壁高48cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。

**床面** ほぼ平坦であるが、多少起伏があり、北方向に向かって僅かに傾斜している。

**掘方** 床面から3cm～15cm程の深さで起伏があり、細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸142cm、袖幅52cm、燃烧部幅60cmを測る。燃烧部は、ほぼ建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは55cmである。

**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は78cm×76cmのほぼ正方形で、深さ54cmを測る。床面付近が広くなっており、蓋を置くことが可能な形状である。

**柱穴** 床面で4基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 30×28×47      P 2 48×30×33  
P 3 40×(20)×98      P 4 25×(23)×28

P 3・P 4は一部調査区外に出ている。また、P 2とP 3は重複している。位置や規模・形状から、P 1・P 4は、それぞれ支柱穴と考えられる。P 2とP 3は建て替えや補強等が行われたことによるものの可能性がある。

**壁溝** 建物の南東隅周辺で確認した。幅5cm～10cm、深さ4cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈、埋没土中から多数の土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1～9：土師器杯(1は竈左袖、2・3・5・9は床面直上、4は竈焚口、6・7は竈内)、10：同鉢(竈内)、11：同有孔鉢(竈内)、12：同台付鉢(床面直上)、13・14：同壺(床面直上)、

15：同甕(床面直上)、16～19：同甕(16～18は床面直上、19は竈内)、20：須恵器杯(床下)である。

**所見** 北西側が調査区外にあるが、南西隅や支柱穴の位置から、主軸方向に僅かに長い長方形の建物の可能性が高い。掲載した9点の土師器の杯のうち、7点が須恵器杯身模倣である。他の建物でも須恵器杯身模倣の杯は出土しているものの、それが主体を占めているのは、この建物だけである。これらを含む床面直上や竈内で出土した土器から、この建物の時期は6世紀後半～7世紀初頭と考えられる。

**2区61号竪穴建物**(第195～197図、PL.44・112)

調査区南西端、60号竪穴建物の南東に位置し、建物の北西側1/3程が重複している。また、南西隅が調査区外にあり、南東隅の上部が攪乱を受けている。

**座標値** X=42,757～42,761 Y=-55,719～-55,723

**重複遺構** 60号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**形状** 確認できた範囲の形状から、長方形の可能性が高いが、建物の一部が調査区外にあり、60号竪穴建物との重複や攪乱によって壊されており、明らかではない。

**主軸方位** N-72°-E

**規模** 長軸4.40m 短軸(2.43m)

床面積(8.21㎡) 残存壁高20cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土、暗褐色土等である。南側の底部に焼土や炭化物が少量見られる。

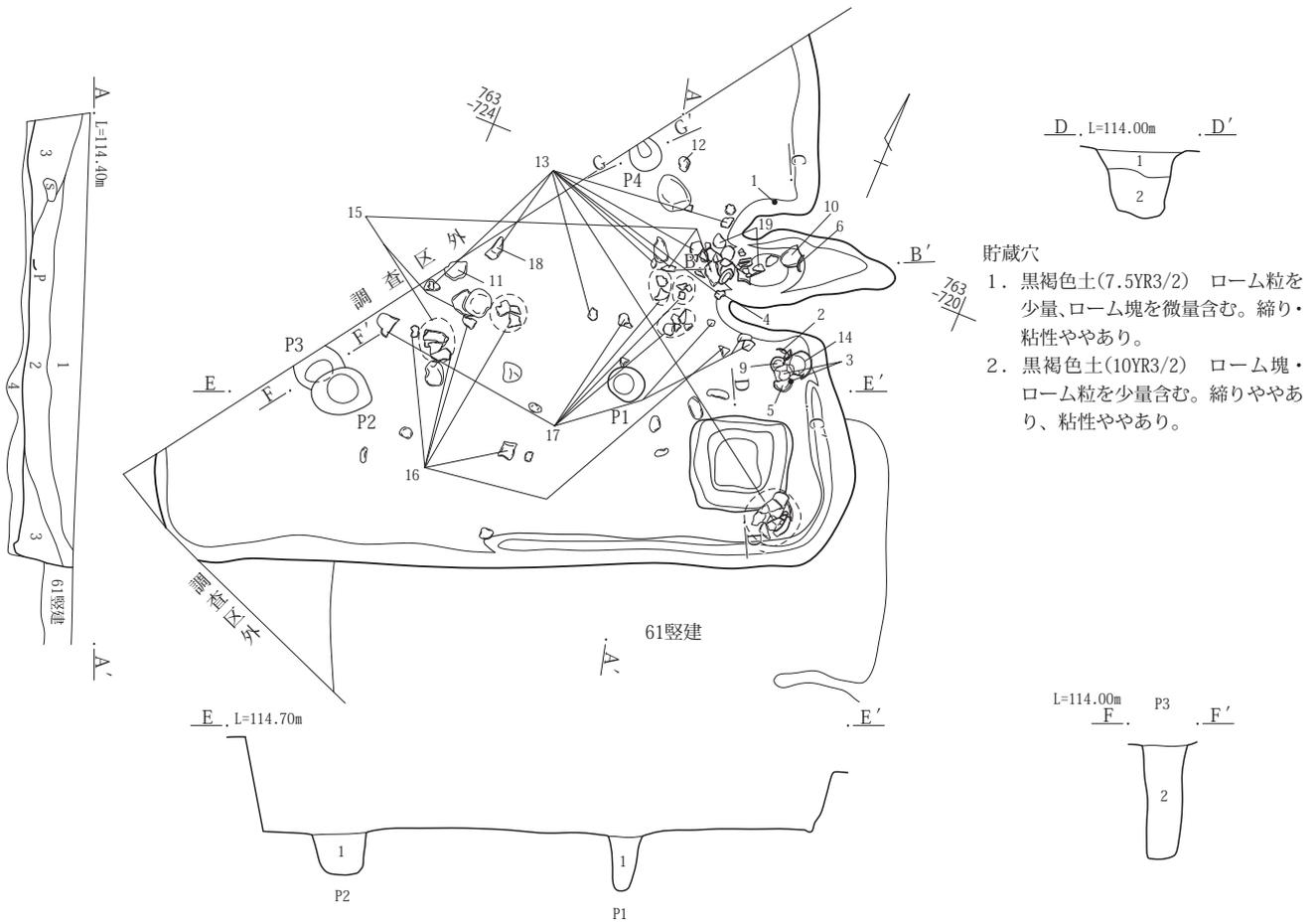
**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**掘方** 細かい凹凸があるが、全体的に浅めで5cm以内の所が多い。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸120cm、袖幅40cm、燃烧部幅50cmを測る。燃烧部が建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは35cmである。燃烧部の底部から煙道にかけて、焼土や灰・炭化物を含む層が堆積している。

**貯蔵穴** 床面では確認できなかったが、建物南東隅の攪乱下に残存していた掘方の調査で、円形に近い窪みを検出した。長径50cm、短径44cm、付近の床面の高さからの計測で深さは27cm程である。位置や形状から貯蔵穴の可能性はある。

**柱穴** 確認されなかった。



貯蔵穴

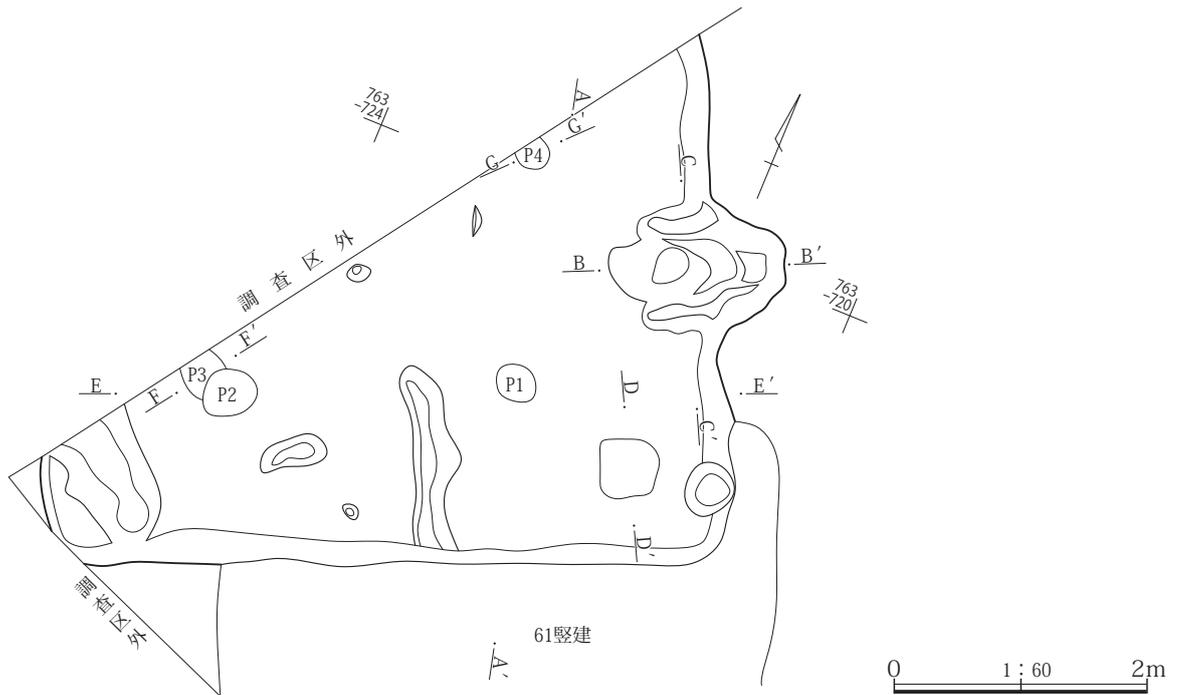
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。縮り・粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり、粘性ややあり。

60号竪穴建物

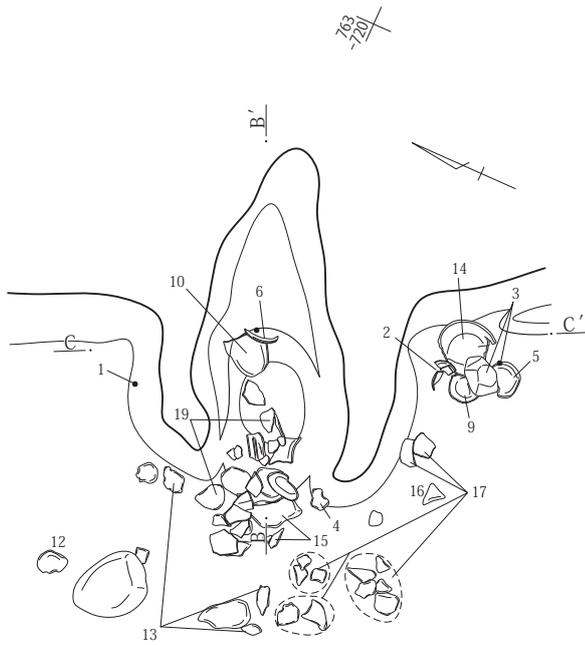
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P1～P4

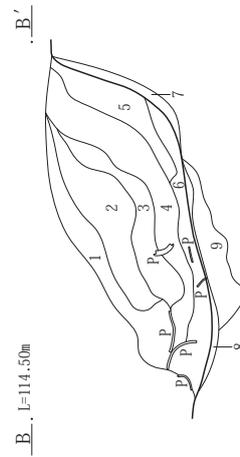
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り・粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。



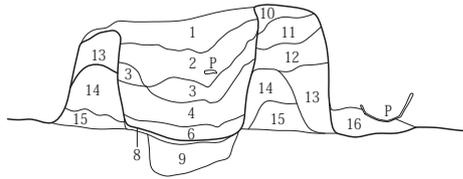
第190図 2区60号竪穴建物



C. L=114.50m



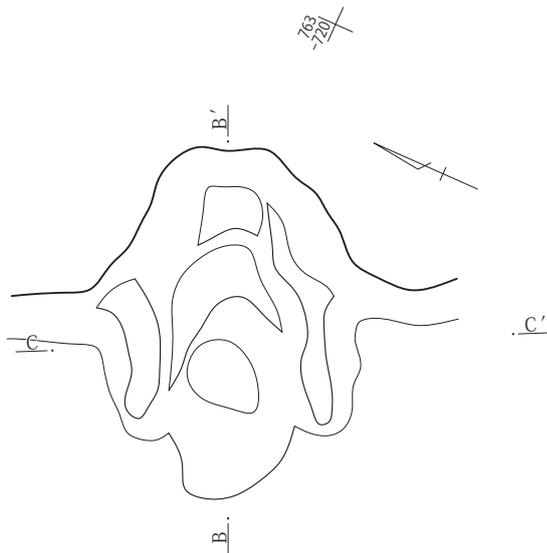
B'-B' L=114.50m



C'-C'

竈

1. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を少量、褐灰色粘質土・暗褐色土を微量含む。
2. 褐色土(10YR4/6) ローム塊・ローム粒を少量、褐灰色粘質土・暗褐色土・焼土粒を微量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒・褐灰色粘質土・焼土粒を微量含む。
4. 褐色土(7.5YR4/3) 明赤褐色焼土を多量に含む。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土・炭化物を微量含む。縮りなし。粘性弱。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 明赤褐色焼土を多量、暗灰色灰を微量含む。粘性ややあり。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・焼土粒を微量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/4) 明赤褐色焼土・暗灰色灰を少量含む。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、焼土粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒を少量、ローム粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
11. 褐灰色粘質土(5YR5/1) 黒褐色土を少量、焼土を微量含む。縮りあり。
12. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量、褐灰色粘質土・焼土粒を微量含む。
13. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。縮りあり。粘性弱。
14. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒・黒褐色土を微量含む。
15. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土を微量含む。
16. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊・褐灰色粘質土・焼土粒を微量含む。



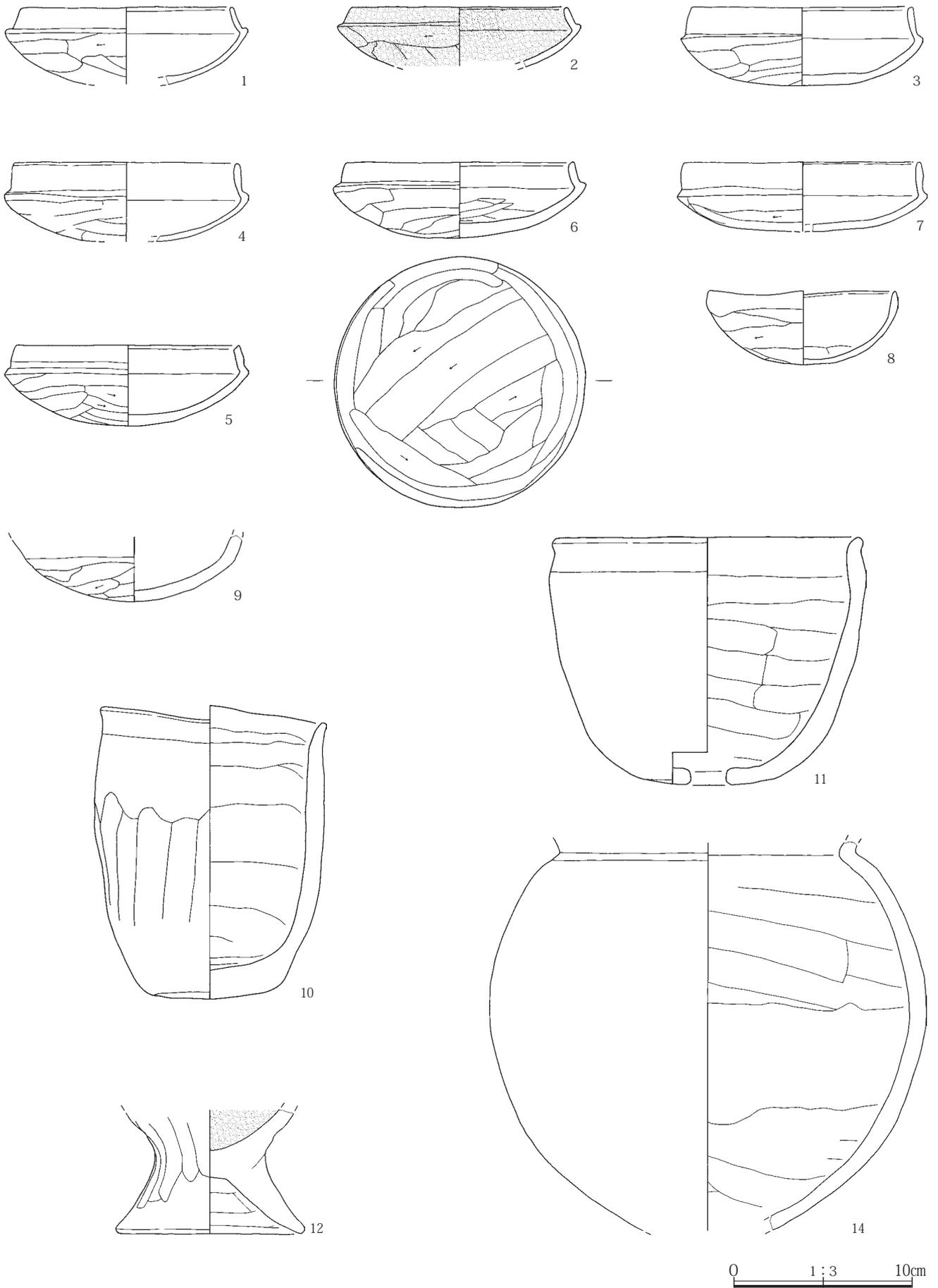
B.-B'

C.-C'

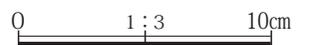
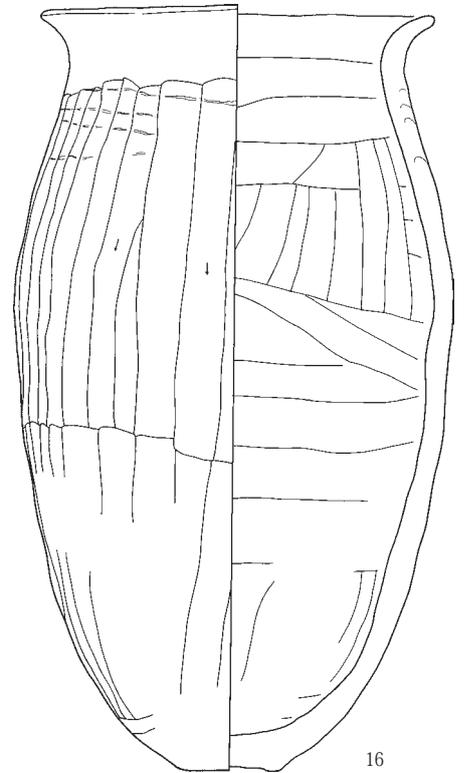
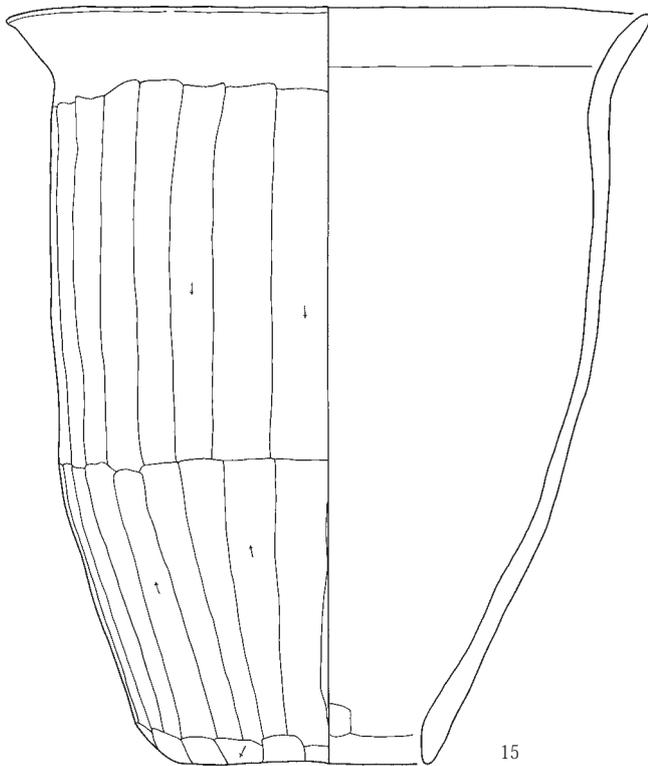
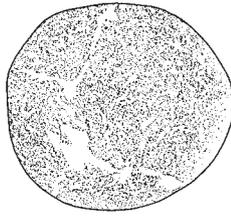
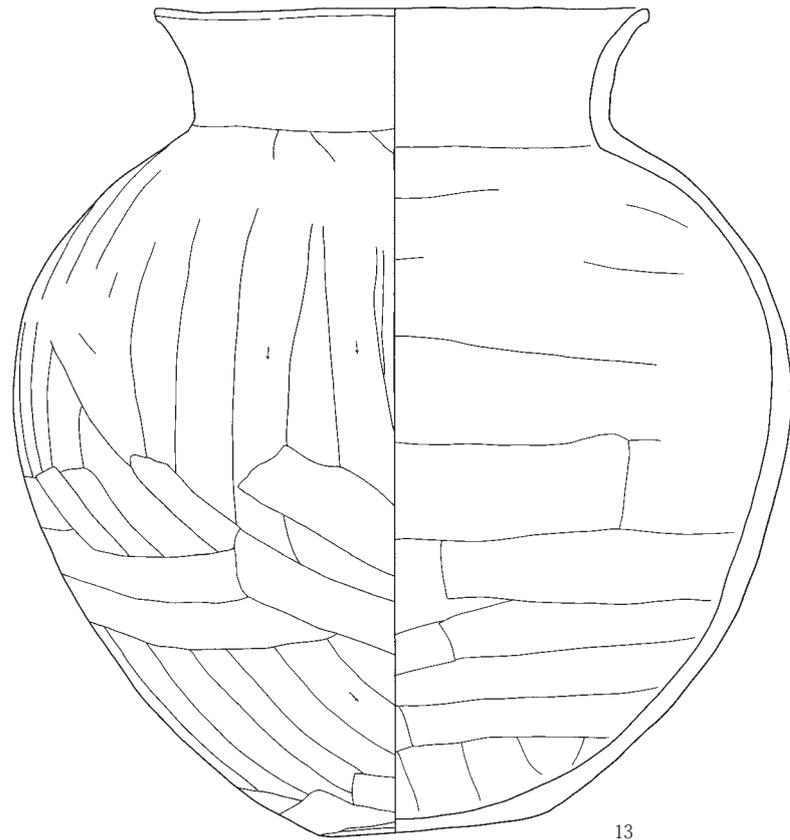
0 1:30 1m

第191図 2区60号竪穴建物竈

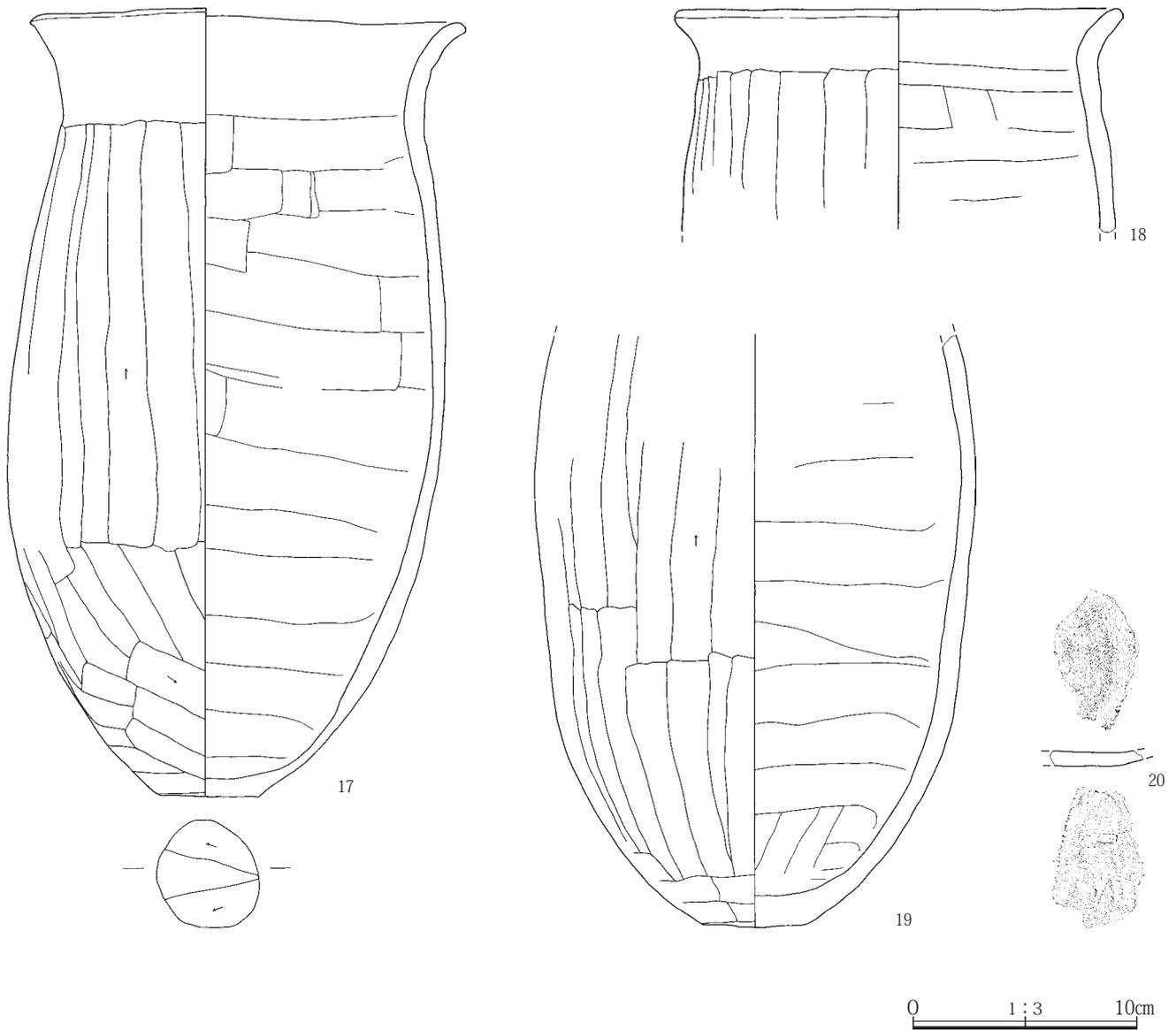
第3章 調査の成果



第192図 2区60号竪穴建物出土遺物(1)



第193図 2区60号竪穴建物出土遺物(2)



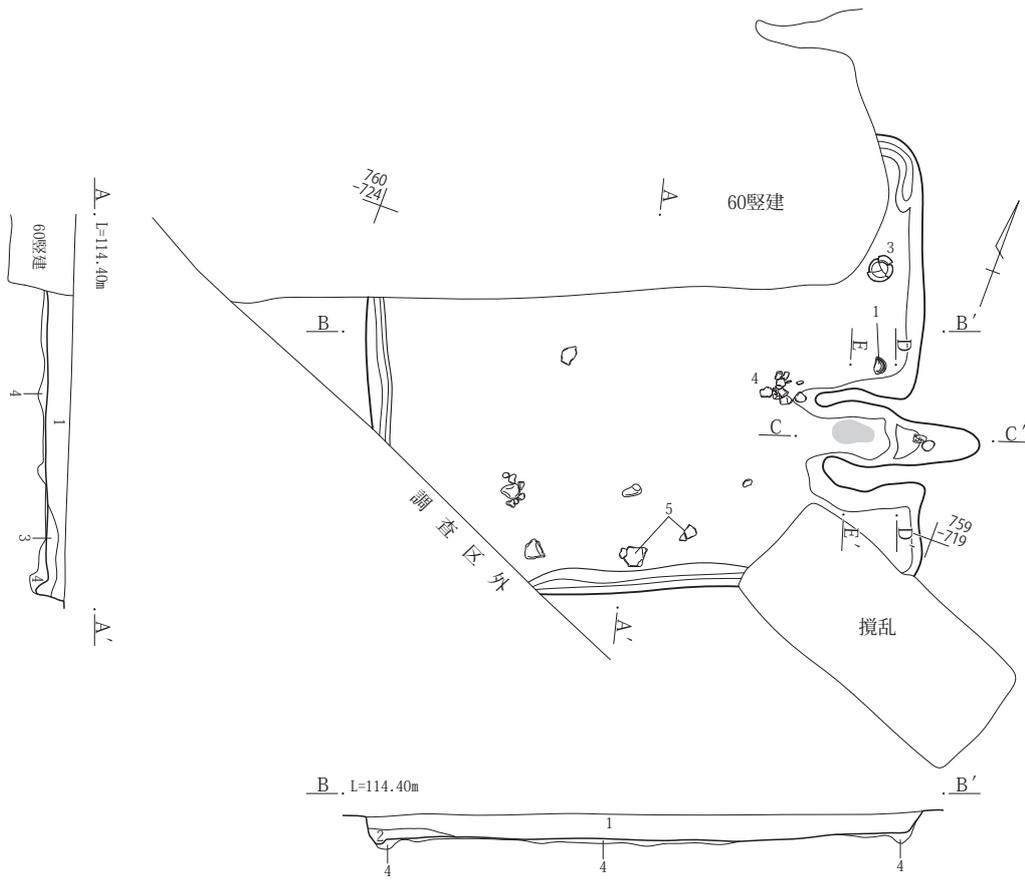
第194図 2区60号竪穴建物出土遺物(3)

**壁溝** 南壁、西壁の壊されていない範囲、北東隅で確認した。幅3cm～8cm、深さ9cmを測る。

**遺物** 床面直上、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2：須恵器杯蓋、3：同高杯(床面直上)、4：土師器無頸壺(床面直上)、5：同甕(床面直上)である。

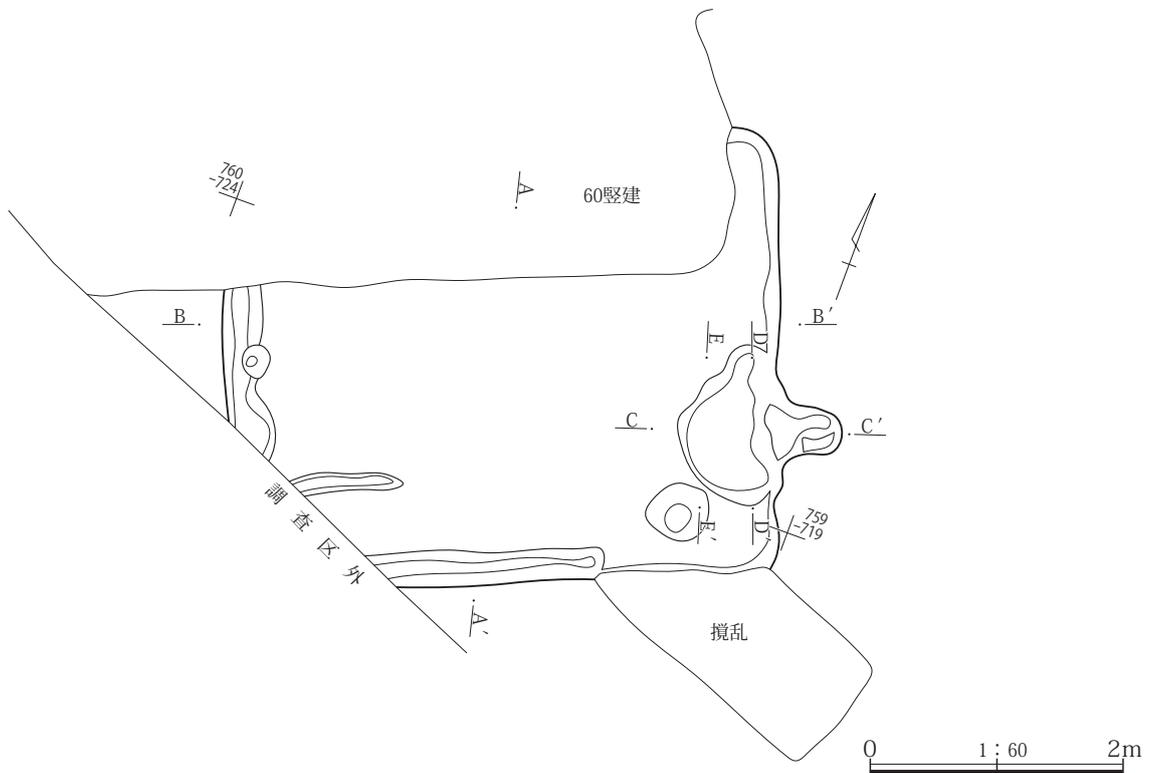
**所見** 一部が調査区外にあり、重複、攪乱によって壊されているが、南壁、西壁、北壁の東端、攪乱下で確認できた掘方を含む東壁の位置と方位から、主軸方向にやや長い長方形の建物の可能性が高い。床面直上で完形に近

いものを含む数点の土器が出土しており、建物との共伴に問題はない。これらの土器から、建物の時期は6世紀第4四半期と考えられる。



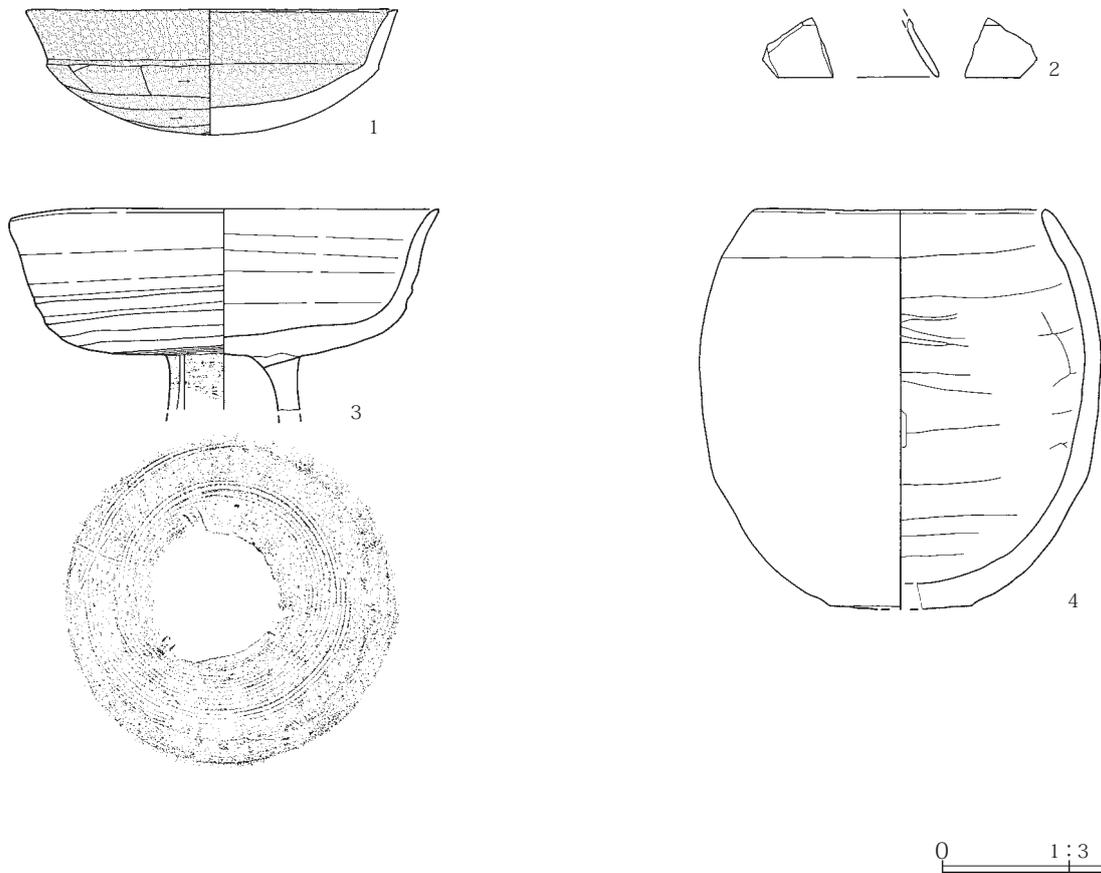
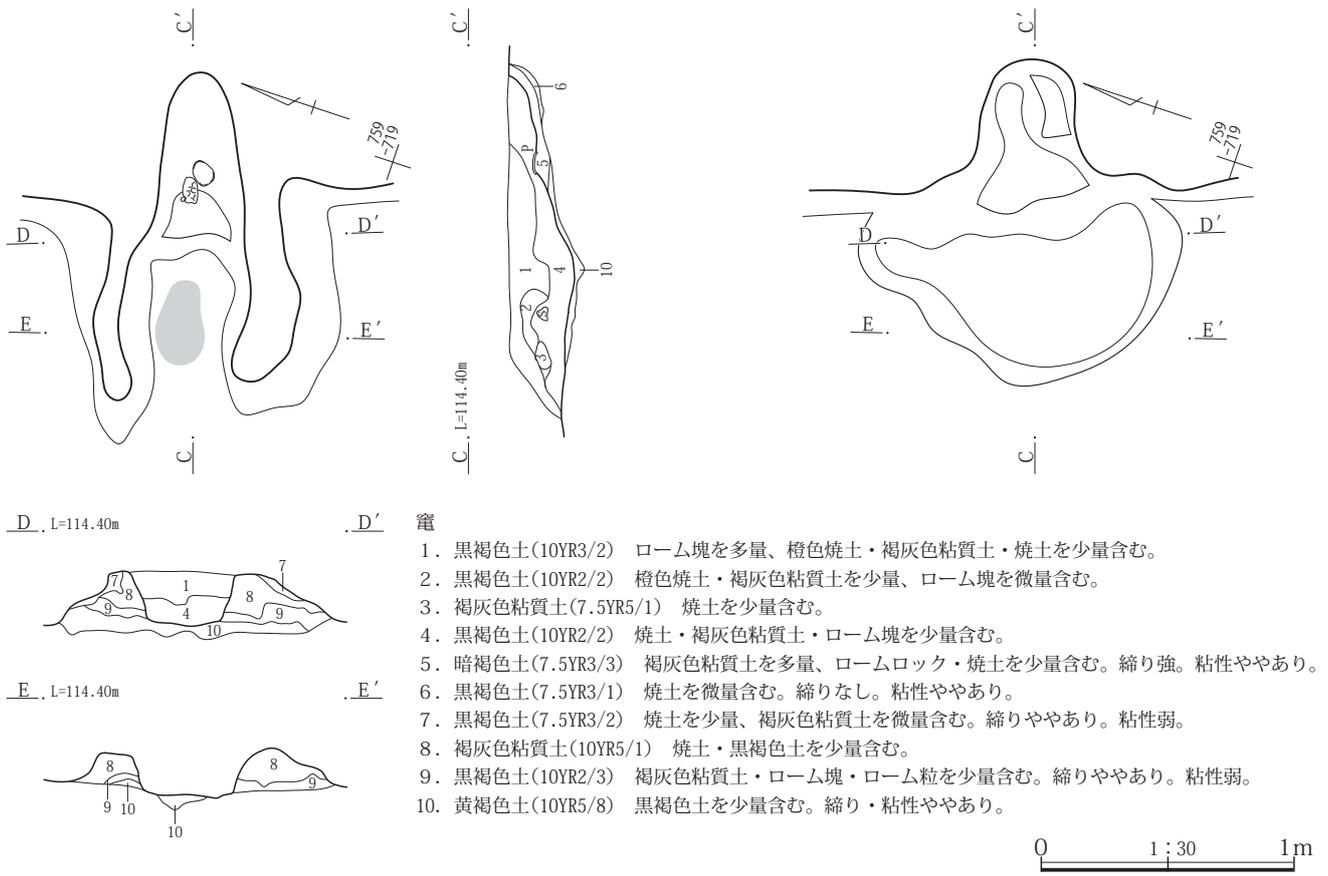
61号竪穴建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒・焼土・炭化物を少量含む。
4. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

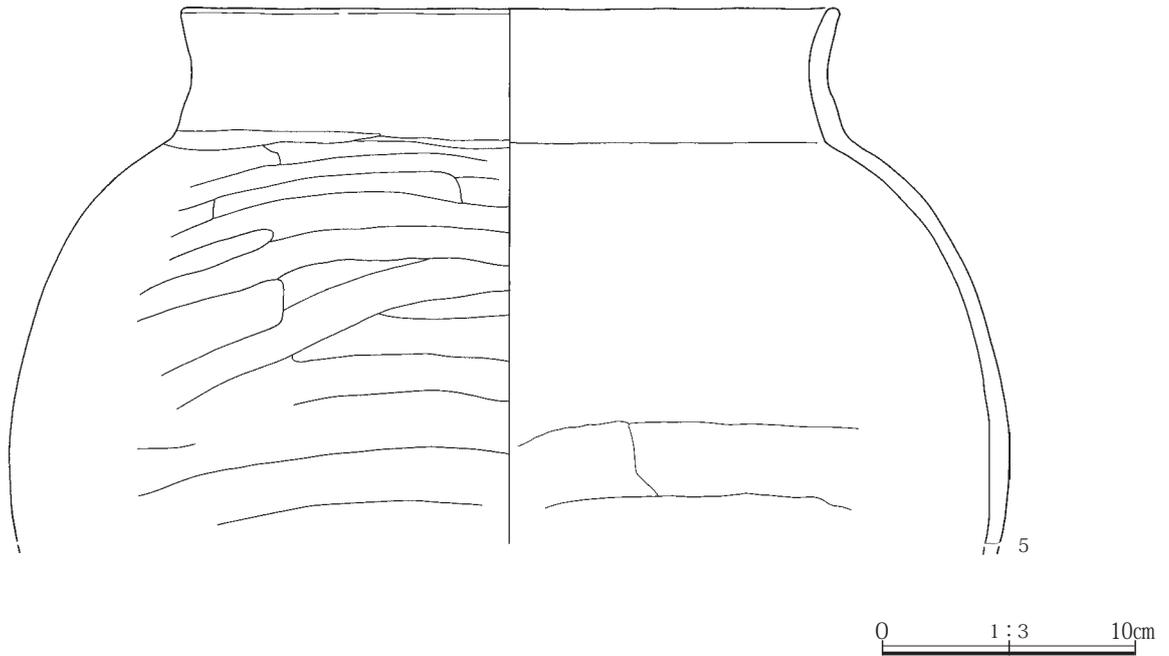


第195図 2区61号竪穴建物

第3章 調査の成果



第196図 2区61号竪穴建物竈・出土遺物(1)



第197図 2区61号竪穴建物出土遺物(2)

**2区62号竪穴建物**(第198・199図、PL.45・112)

調査区南側、59号竪穴建物の10m程南東にある。

**座標値** X=42,760~42,763 Y=-55,706~-55,711

**重複遺構** 63号竪穴建物、34号・42号・48号土坑と重複している。新旧関係は、本遺構が63号竪穴建物、42号・48号土坑より新しく、34号土坑より古い。

**形状** 南東端の上部が重複によって壊されているが、確認できた範囲の形状から長方形である。

**主軸方位** N-93°-E

**規模** 長軸3.70m 短軸3.20m

床面積9.90㎡ 残存壁高46cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土と灰黄褐色土である。一部に白色粒、焼土粒が見られる。また、建物中央の上層で土器と共に、人頭大~拳大程で丸みを帯びた多数の礫が出土した。周縁部に近い礫ほど出土位置が高く、埋没過程での混入と考えられる出土状況であった。

**床面** ほぼ平坦であるが、竈前から建物の中央周辺が低くなっている。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが15cm以上の所がある一方、1cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸135cm、袖幅55cm、燃烧部幅60cmを測る。燃烧部が僅か

に壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは62cmである。燃烧部の奥で長径23cm、短径1cm程の楕円体に近い形状の円礫が立った状態で出土した。燃烧部側に煤が付着し、その一部に赤褐色の変色が見られ、煙道側に30°程傾いていた。支脚として使用されたものの可能性がある。

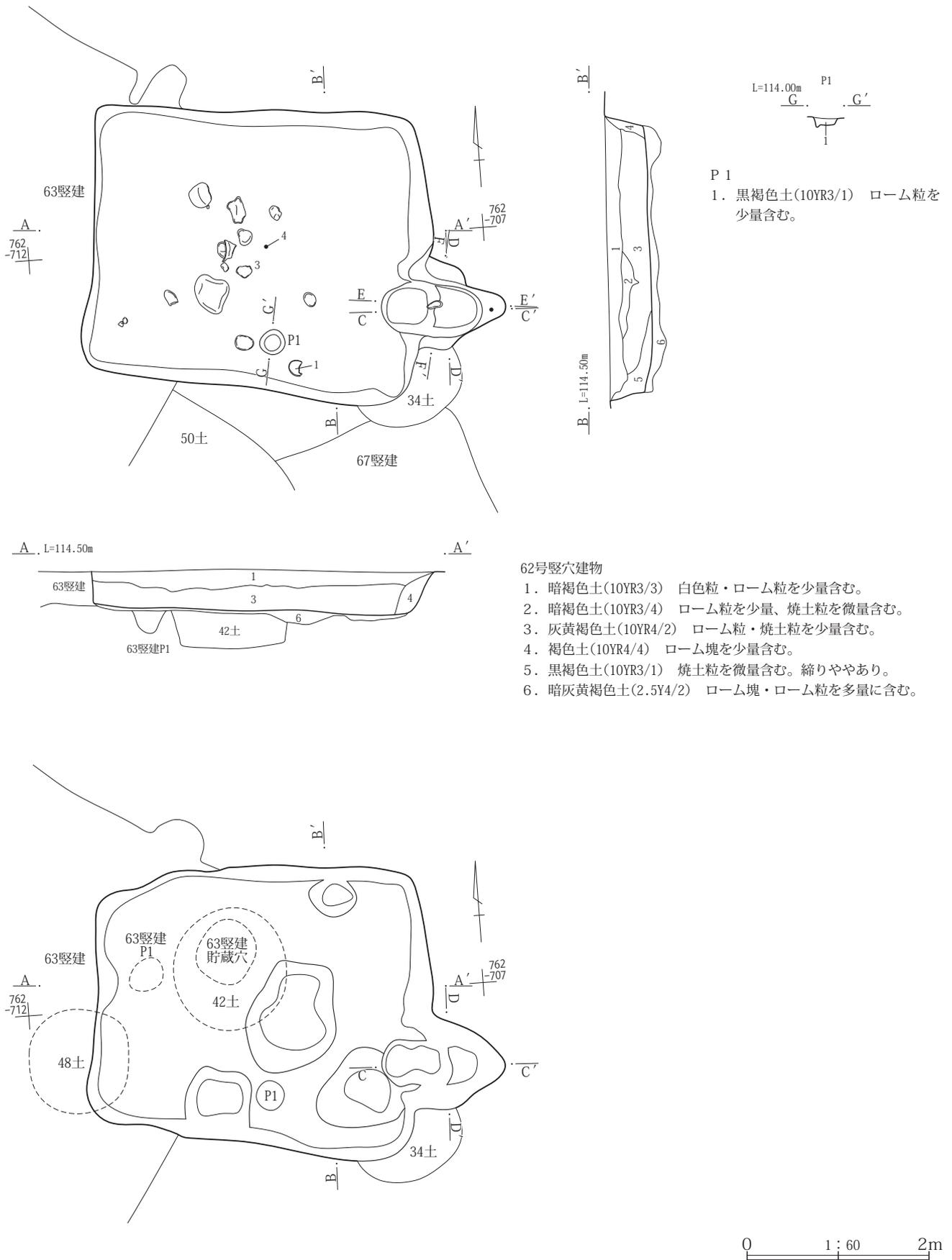
**貯蔵穴** 確認されなかった。

**柱穴** 床面でP1を検出した。計測値は長径15cm、短径14cm、深さ10cmである。南壁中央付近にあることから、主柱穴よりも、出入り口に関わる可能性が高い。

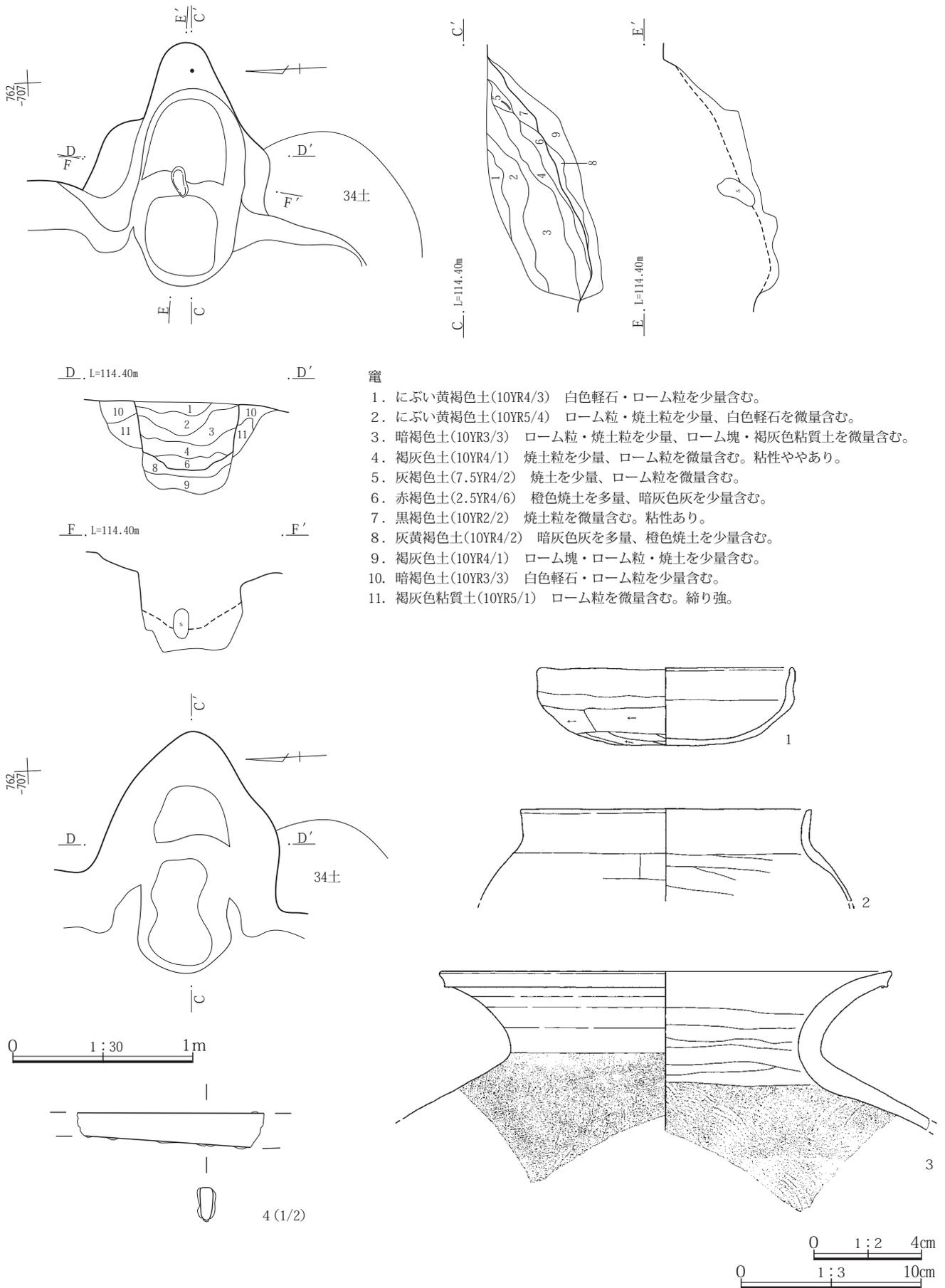
**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 床面直上、埋没土中から遺物が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床面直上)、2：土師器甕、3：須恵器壺、4：器種不明鉄製品(床下8cm)である。

**所見** 主軸方向がやや長い長方形の小規模な建物である。出土遺物は少数であるが、2の整形は武蔵型甕に近いが、口縁部が直立し、頸部に屈曲を持たない特異な形態である。胴部上位のヘラ削りが横方向であることから8世紀代と想定できる。床面直上で出土した1の杯も共に矛盾しない形態であることから、この建物の時期は8世紀代である。



第198図 2区62号竪穴建物



竈

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・焼土粒を少量、白色軽石を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒を少量、ローム塊・褐灰色粘質土を微量含む。
4. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土を少量、ローム粒を微量含む。
6. 赤褐色土(2.5YR4/6) 橙色焼土を多量、暗灰色灰を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR2/2) 焼土粒を微量含む。粘性あり。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗灰色灰を多量、橙色焼土を少量含む。
9. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊・ローム粒・焼土を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
11. 褐灰色粘質土(10YR5/1) ローム粒を微量含む。縮り強。

第199図 2区62号竪穴建物竈・出土遺物

**2区63号竪穴建物**(第200～202図、PL.45・46・112)

調査区南側、62号竪穴建物の西に位置し、建物の東側が重複している。

**座標値** X=42,758～42,766 Y=-55,710～-55,716

**重複遺構** 62号竪穴建物、42号・48号・50号・105号土坑と重複している。新旧関係は、本遺構が42号・48号・50号土坑より新しく、62号竪穴建物、105号土坑より古い。

**形状** 重複によって東側の一部が壊されているが、確認できた範囲の形状から、正方形とみられる。

**主軸方位** N-27°-E

**規模** 長軸5.50m 短軸5.45m

床面積(23.58㎡) 残存壁高25cm

**埋没土** 主に白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土である。

**床面** ほぼ平坦であるが、西方向に向かって僅かに傾斜している。主にP3とP4の間で炭化材が出土した。

**掘方** 細かい凹凸があるが、大きな起伏はなく、床面からの深さはおおむね10cm～20cm程である。

**竈** 北東壁の南寄りの位置に設置しており、重複により、右袖や燃焼部周辺が壊されている。残存した規模は長軸71cm、袖幅46cm、燃焼部幅50cmを測る。燃焼部は、ほぼ建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは30cmである。褐灰色粘質土を用いて構築している。

**貯蔵穴** 建物の東隅にある。発掘調査時には62号竪穴建物のピットとして調査を行ったが、整理作業での出土遺物の精査等を含め再検討した結果、本遺構の貯蔵穴と判断した。規模は長径38cm、短径34cmの楕円形で、深さ38cmを測る。(62号竪穴建物床面で計測)

**柱穴** 床面で9基、62号竪穴建物の調査において1基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。(P1は62号竪穴建物床面で計測)

P 1	46×42×59	P 2	55×53×69
P 3	53×50×70	P 4	75×52×70
P 5	50×40×14	P 6	50×33×21
P 7	43×31×27	P 8	43×25×23
P 9	20×20×22	P 10	32×28×27

位置や規模、形状から、P1～P4が主柱穴と考えられる。P6は南西壁中央付近にあり、出入り口に関わる可能性がある。P5・P10はそれぞれ主柱穴と壁の間に位

置していることから、補強あるいは上部の何らかの内部施設の存在が想定できる。他のピットについても補強等が考えられるが、明らかではない。

**壁溝** 重複によって壊された範囲以外では全周している。幅5cm～8cm、深さ10cmを測る。

**遺物** 床面直上、貯蔵穴内、埋没土中から土師器や須恵器等が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯、2～4：須恵器蓋杯の蓋(3は床面直上、4は貯蔵穴内)、5・6：土師器甕、7：椀形の手捏ね土器(P5内床下6cm)である。

**所見** 一部が壊されているが、本遺跡では中規模の正方形の建物と考えられる。床面直上や貯蔵穴内で出土した3・4の須恵器蓋杯の蓋の他、埋没土中で出土した1・4等も共に矛盾しない形態である。これらの土器から、建物の時期は6世紀後半である。

**2区64号竪穴建物**(第203・204図、PL.46・112)

調査区南側、62号竪穴建物の5m程北東にある。

**座標値** X=42,761～42,765 Y=-55,702～-55,706

**重複遺構** 592号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** ほぼ長方形 **主軸方位** N-117°-E

**規模** 長軸3.45m 短軸2.85m

床面積8.82㎡ 残存壁高13cm

**埋没土** 白色粒、ローム塊、ローム粒を含む黒褐色土と褐色土である。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

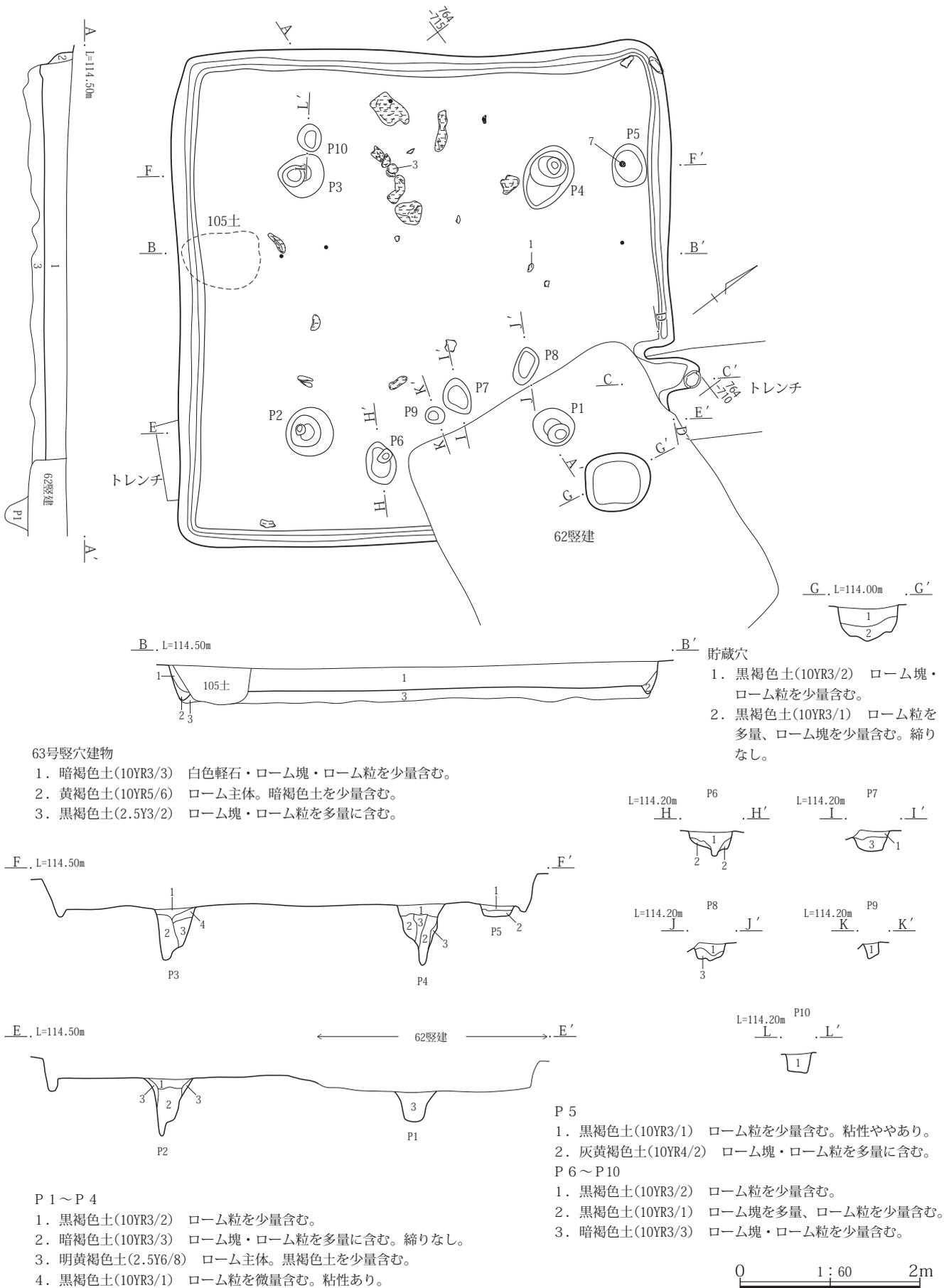
**掘方** 起伏や細かい凹凸があるが、全体的に浅く10cm以内で、5cm程の所がほとんどである。

**竈** 東壁の南端に設置している。袖部の確認ができなかったが、規模は長軸175cm、燃焼部幅62cmを測る。燃焼部の多くが壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは120cmである。

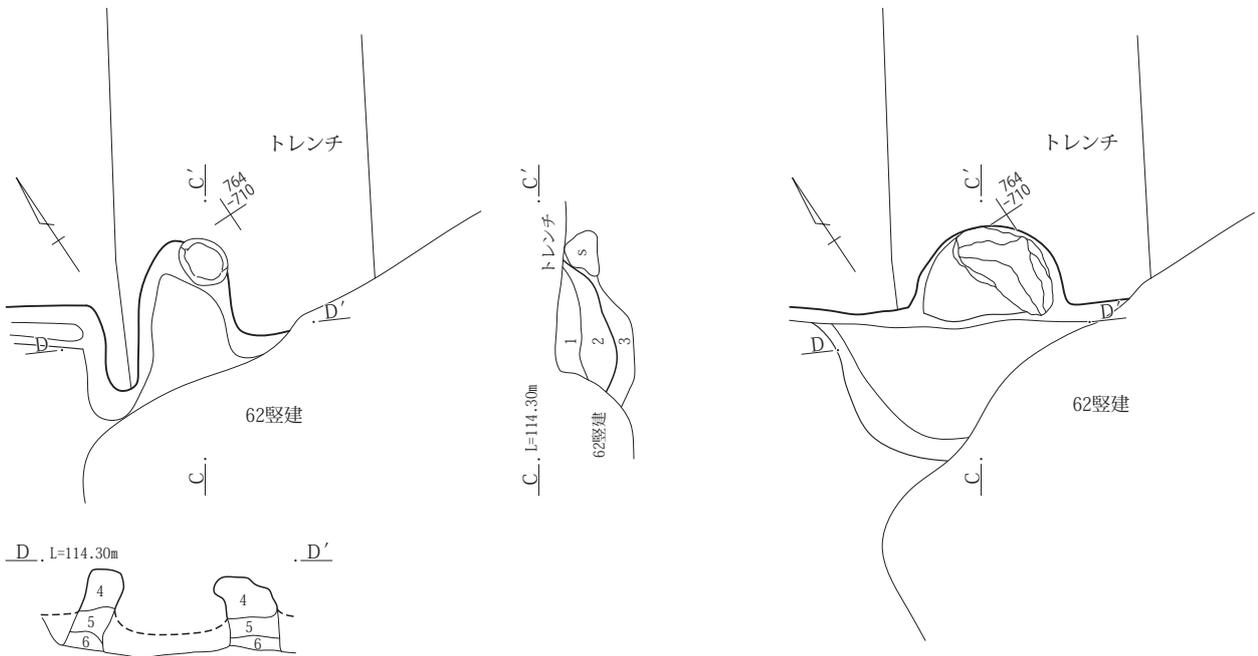
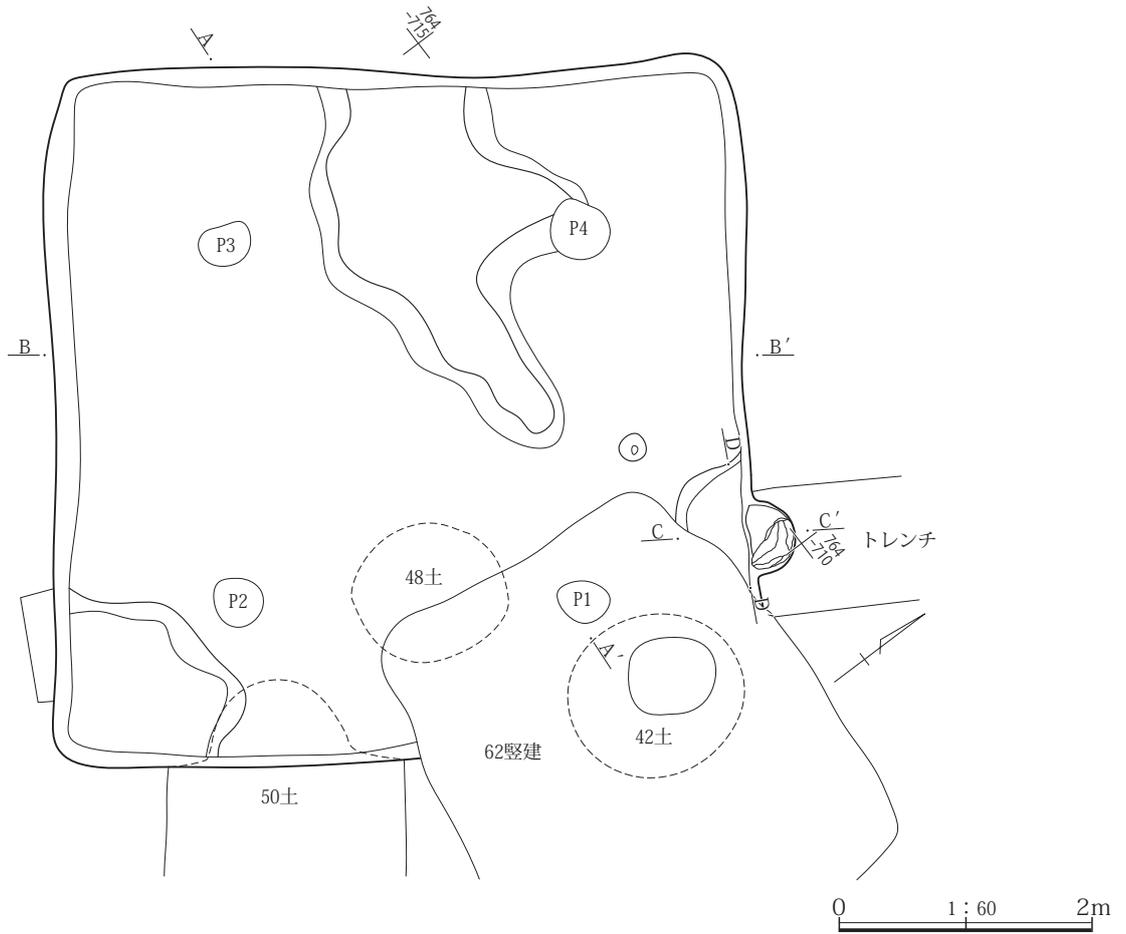
**貯蔵穴** 建物南西隅の床面で長径70cm、短径48cmの楕円形で、深さ31cmのP1を確認した。規模や形状から貯蔵穴の可能性はある。

**柱穴** 上述のように床面で1基のピットを検出したが、貯蔵穴の可能性が高く、他には確認されなかった。

**壁溝** 確認されなかった。



第200図 2区63号竪穴建物

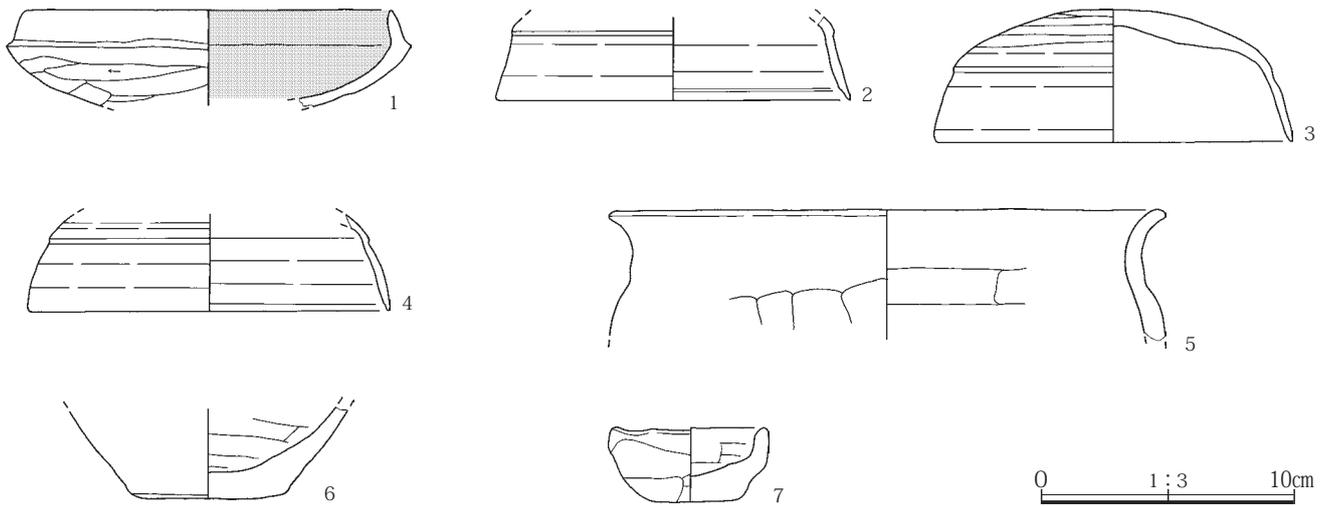


竈

1. 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) 焼土粒・黒褐色土を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒を少量含む。粘性あり。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 褐灰色粘質土を少量、上部に暗灰色灰を微量含む。やや砂質。
4. 褐灰色粘質土(7.5YR5/1) ローム粒・黒褐色土を微量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・褐灰色粘質土を少量含む。
6. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第201図 2区63号竪穴建物掘方・竈



第202図 2区63号竪穴建物出土遺物

**遺物** 床面直上、竈、P 1 (以下貯蔵穴と記す)、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1・2:須恵器杯(1は貯蔵穴内床下4cm、2は床面直上)、3:同碗(貯蔵穴内)、4:土師器小型甕(竈内)、5:同甕(竈焚口)、6:同羽釜(竈内)、7:須恵器羽釜(竈焚口)、8:釘である。

**所見** ほぼ正方形の小規模な建物である。東壁の南端に竈を設置する本遺跡では数少ない建物である。床面直上、竈、貯蔵穴で出土した土器から、建物の時期は10世紀第4四半期～11世紀初頭と考えられる。

#### 2区65号竪穴建物(第205・206図、PL.46・112)

調査区南側、64号竪穴建物の10m程南東にある。

**座標値** X=42,756~42,759 Y=-55,697~-55,700

**重複遺構** 5号溝と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** 正方形 **主軸方位** N-105°-E

**規模** 長軸2.63m 短軸2.60m

床面積5.73㎡ 残存壁高25cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を含む黒褐色土である。

**床面** ほぼ平坦である。

**掘方** 起伏があり、床面からの深さが20cm以上の所がある一方、5cm程の所もある。細かい凹凸も見られる。

**竈** 東壁のやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸100cm、袖幅44cm、燃焼部幅50cmを測る。燃焼部が僅かに壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは50cm

である。左袖から長径20cm程の礫が縦に重なるように2点出土した。褐灰色粘質土等と共に袖の構築に利用したとみられるが、右袖では確認されなかった。

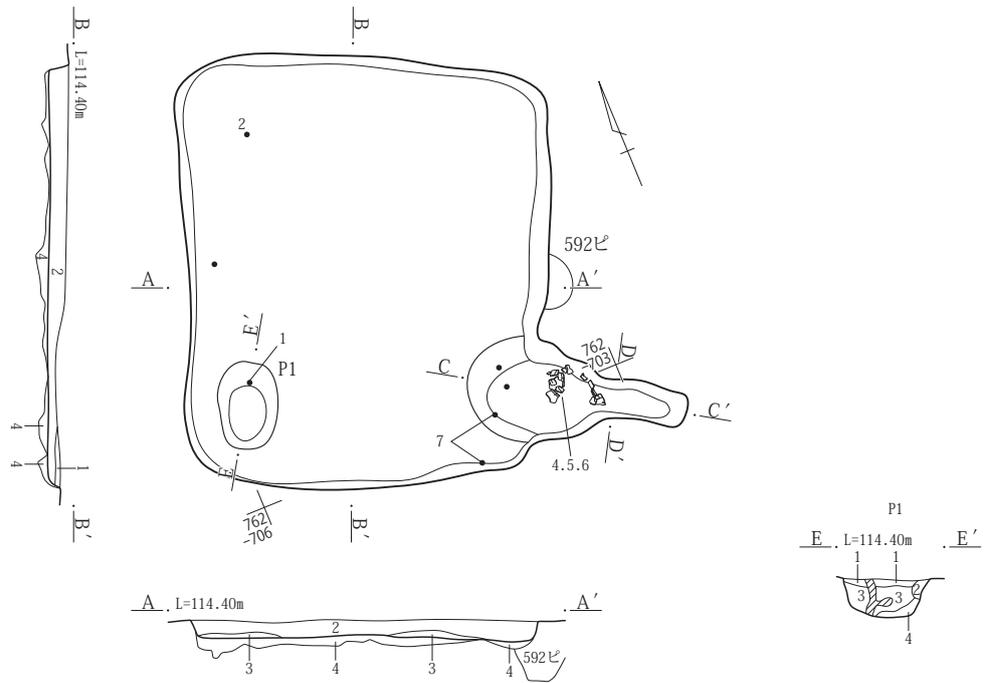
**貯蔵穴** 建物の南東隅にある。規模は長径54cm、短径42cmの楕円形で、深さ18cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 床面直上、竈焚口、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1:須恵器杯、2:土師器台付甕(竈焚口)、3:同甕(床面直上)4:須恵器壺、5:土師器高杯(床上15cm)、6:須恵器甗、7:鉄片である。

**所見** 本調査区で最も小規模な正方形の建物である。出土した遺物のうち5のみ古墳時代後期のものであるが、竈焚口付近で出土しており、竈の支脚として前時期のものが転用されていた可能性がある。床面直上や竈焚口で出土した土器から、建物の時期は8世紀第2四半期と考えられる。

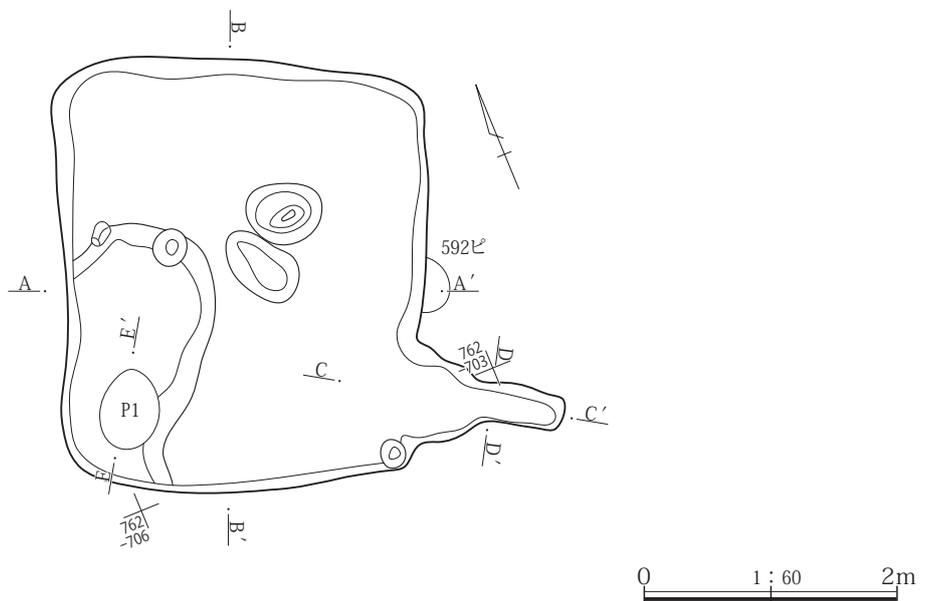


64号竪穴建物

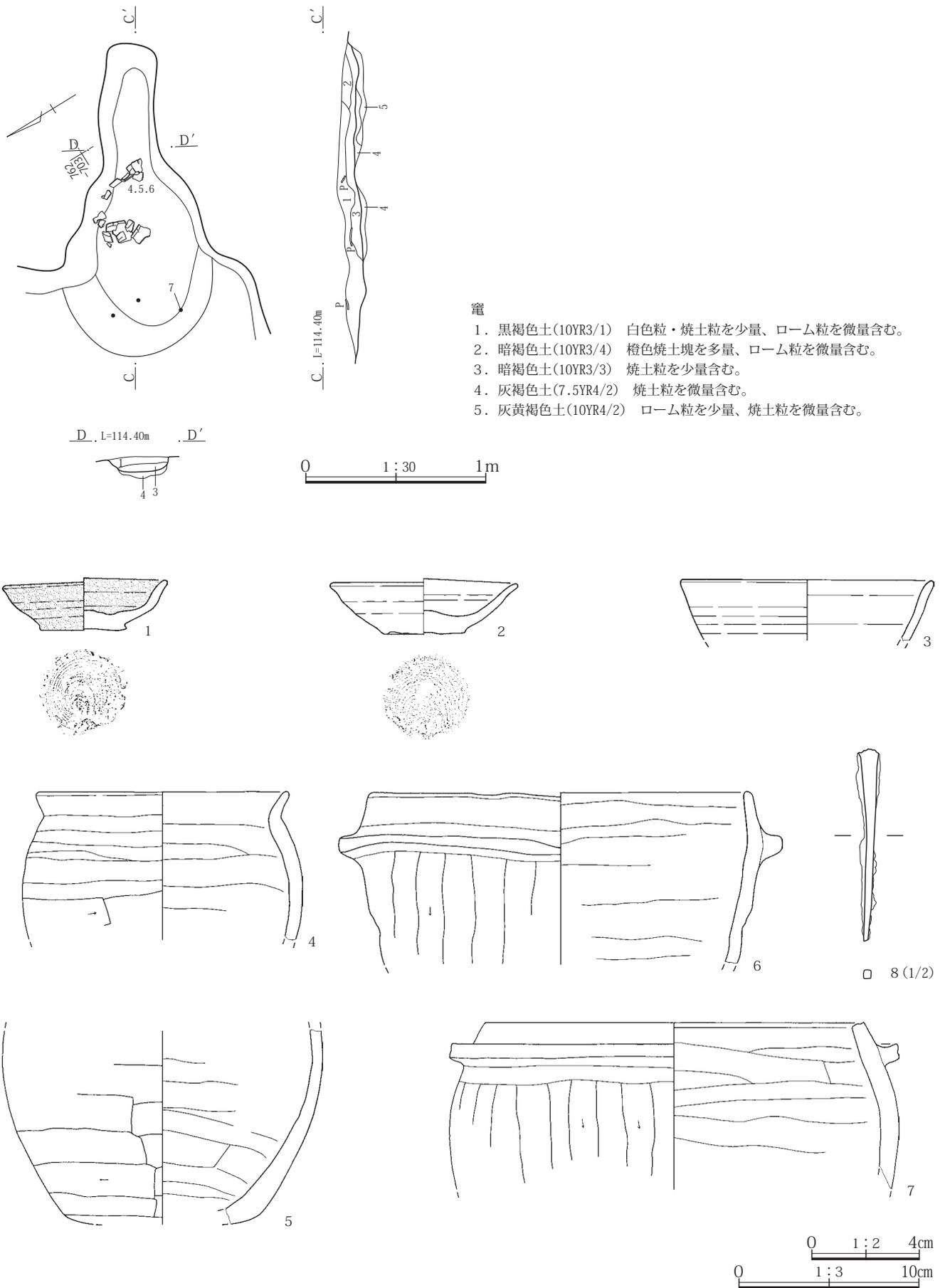
1. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を微量含む。締り弱。粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム粒を少量含む。締り・粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り弱。粘性ややあり。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P 1

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒を少量、ローム塊を微量含む。
4. 黒褐色土(7.5YR2/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。



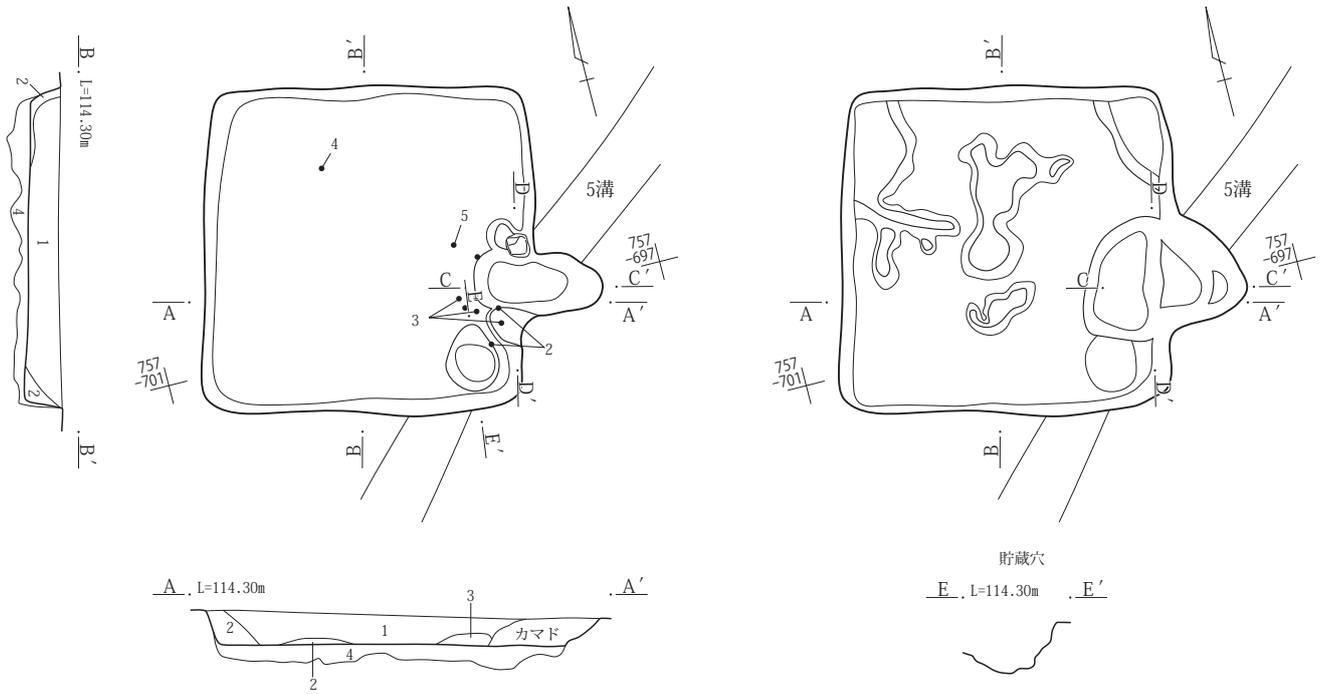
第203図 2区64号竪穴建物



竈

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 橙色焼土塊を多量、ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒を少量含む。
4. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土粒を微量含む。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。

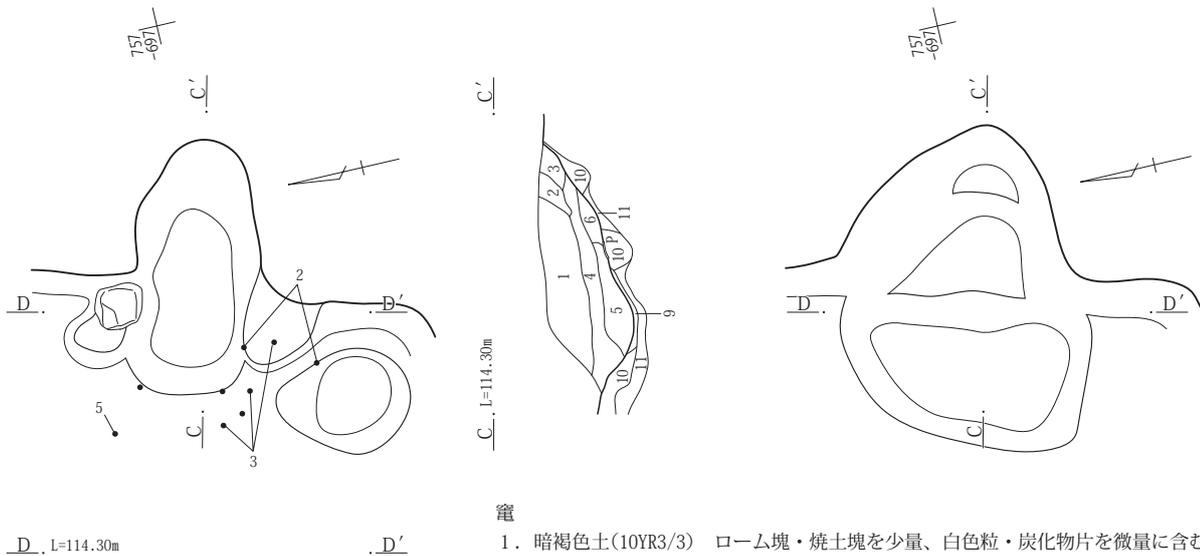
第204図 2区64号竪穴建物竈・出土遺物



65号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
2. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・焼土粒を微量含む。粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

0 1:60 2m

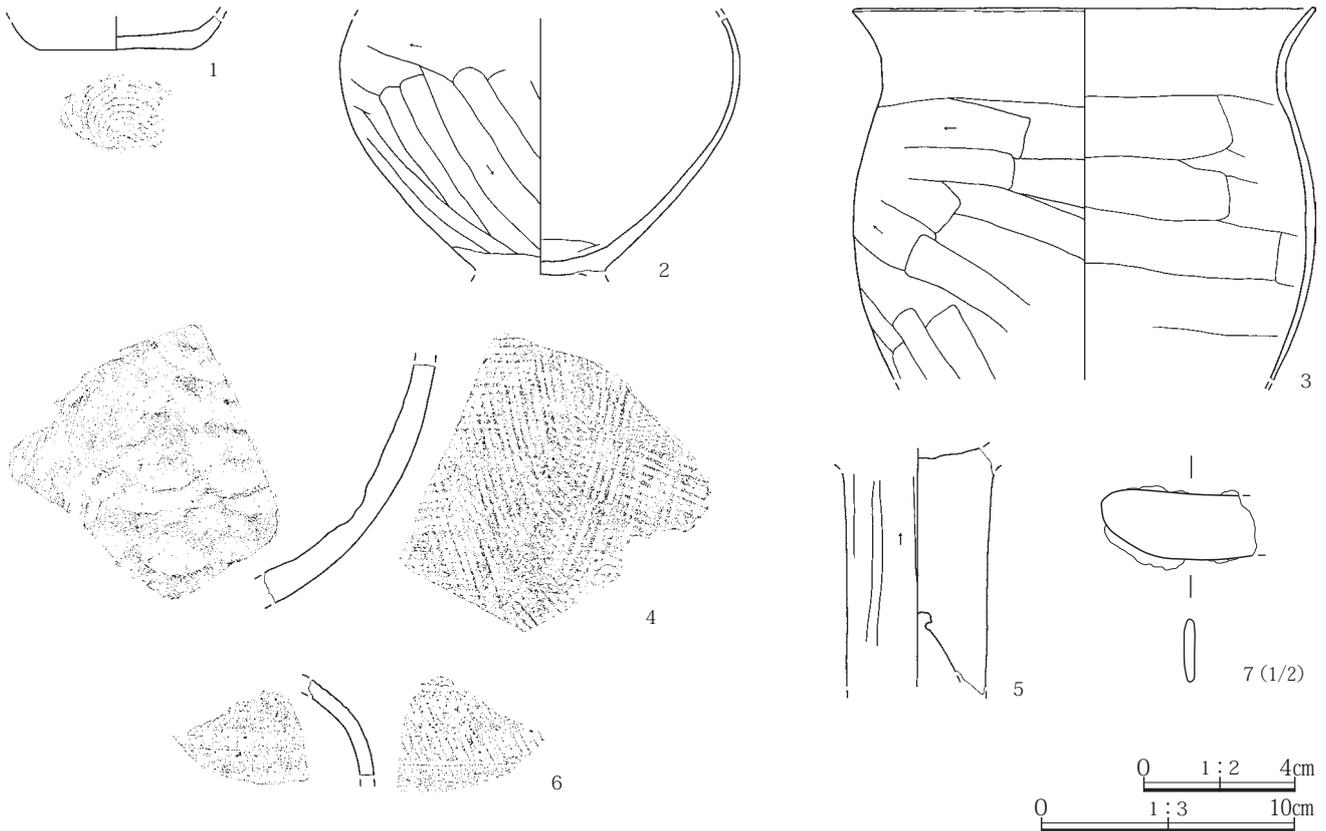


竈

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・焼土塊を少量、白色粒・炭化物片を微量に含む。
2. 灰褐色土(7.5YR4/2) 白色粒・ローム粒・焼土粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒・焼土塊を微量含む。
4. 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土塊を少量、ローム塊・褐灰色粘質土を微量含む。粘性ややあり。
5. 黒褐色土(5YR3/1) 暗灰色灰を多量、焼土を少量、ローム塊を微量含む。
6. 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土を少量、ローム粒・暗灰色灰を微量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・焼土粒・褐灰色粘質土を微量含む。
8. 暗赤褐色土(7.5YR3/2) 褐灰色粘質土を多量、焼土粒・ローム粒を微量含む。
9. 褐灰色土(5YR4/1) 暗灰色灰を多量、焼土を少量含む。
10. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。焼土粒を微量含む。
11. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。

0 1:30 1m

第205図 2区65号竪穴建物・竈



第206図 2区65号竪穴建物出土遺物

**2区66号竪穴建物**(第207・208図、PL.47・113)

調査区南端、63号竪穴建物の5m程南東にある。

**座標値** X=42,754~42,757 Y=-55,708~-55,711

**重複遺構** 67号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**形状** ほぼ正方形 **主軸方位** N-70°-E

**規模** 長軸2.90m 短軸2.80m

床面積6.14㎡ 残存壁高38cm

**埋没土** ローム塊やローム粒を多量に含む暗褐色土、褐色土等である。上層には白色粒が見られる。建物の中央周辺の床上10cm程の位置でやや凹凸のある礫が数点、西隅の床面直上で長径10cm~20cm程の楕円体に近い河床礫が多数出土した。

**床面** ほぼ平坦であるが、起伏があり、北側に向かってやや傾斜している。

**掘方** 起伏や細かい凹凸があり、床面からの深さは10cm~20cm程である。中央に長径124cm、短径108cm、深さ20cm程の床下土坑がある他、周縁部にも浅いピット状の窪みが見られる。

**竈** 北東壁の僅かに南寄りの位置に設置している。規模

は長軸160cm、袖幅45cm、燃烧部幅40cmを測る。燃烧部は建物の内側に入る位置にあり、壁外への掘り込みは60cmである。

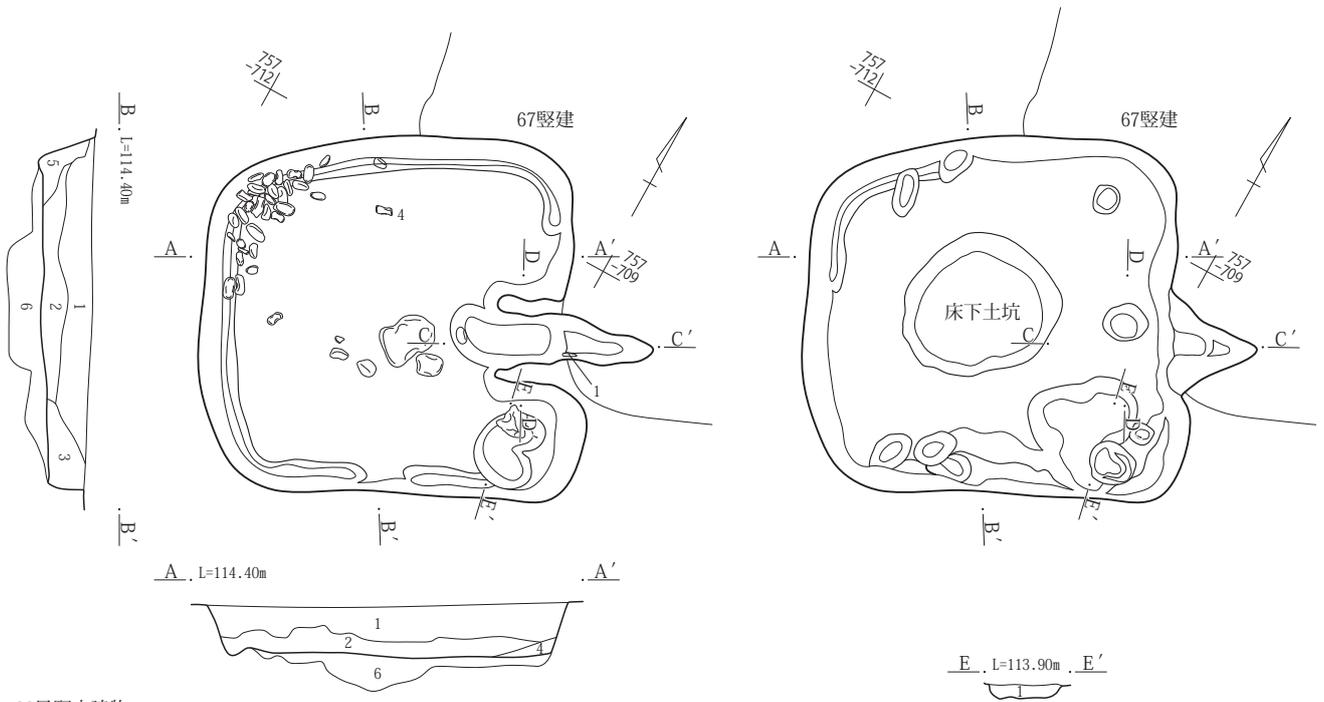
**貯蔵穴** 建物の東隅にある。規模は長径60cm、短径38cmの不整形で、深さ21cmを測る。

**柱穴** 確認されなかった。

**壁溝** ほぼ全周している。幅5cm~10cm、深さ3cm~7cmを測る。

**遺物** 竈、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(竈内)、2：同小型甕(床面直上)、3：須恵器甕、4：打製石斧である。

**所見** 一辺が3m未満の小規模な、ほぼ正方形の建物である。建物中央周辺の床上10cm程の位置で出土した礫群と、西隅の床面直上で出土した礫群では、出土位置及び形状が異なる。前者は埋没途中で投棄された可能性があるが、後者については何らかの目的で建物に伴って使用されたものと考えられる。出土遺物は限られているが、竈で出土した1の土師器杯は8世紀第3四半期に比定できる。また、2についても共伴に矛盾しないものであり、この建物の時期も同様と考えられる。

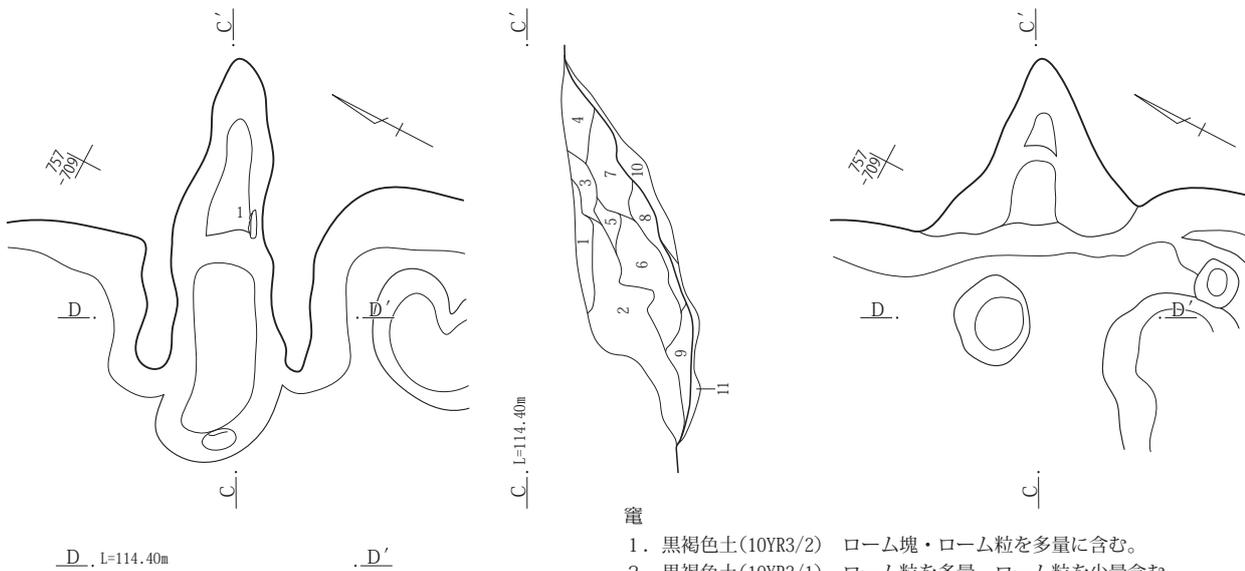
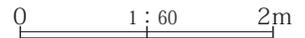


66号竪穴建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性ややあり。
3. 褐色土(10YR4/6) ローム塊を多量、ローム粒を少量、暗褐色土を微量含む。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒・暗褐色土を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

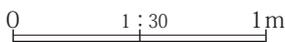
貯蔵穴

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

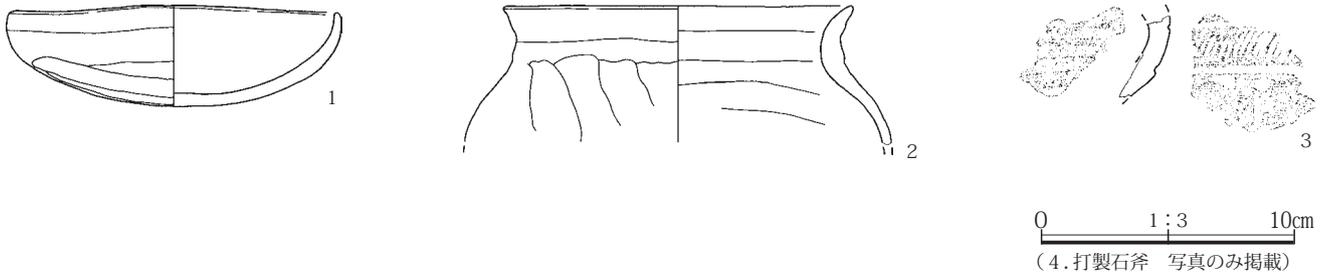


竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量、ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊・ローム粒を多量、焼土粒を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。
5. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒・焼土粒を微量含む。
6. 暗褐色土(7.5YR3/4) 橙色焼土・ローム塊・ローム粒を多量に含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土を少量、ローム粒を微量含む。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗灰色灰・灰色灰を多量、焼土粒を少量含む。
9. 黒褐色土(5YR3/1) 暗灰色灰・焼土を少量含む。
10. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量、焼土粒を微量含む。
11. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒を少量・焼土粒・暗灰色灰を少量含む。
12. 黒褐色土(5YR2/2) 橙色焼土を少量、ローム粒を微量含む。
13. 黄褐色土(2.5Y5/4) 暗褐色土・焼土を微量含む。
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。



第207図 2区66号竪穴建物・竈



第208図 2区66号竪穴建物出土遺物

**2区67号竪穴建物**(第209図、PL.47・48・113)

調査区南端、66号竪穴建物の北に位置し、建物の南側が重複している。

**座標値** X=42,756~42,760 Y=-55,706~-55,711

**重複遺構** 66号竪穴建物、50号・51号土坑と重複している。新旧関係は、本遺構が最も古い。

**形状** 複数の遺構との重複によって壊されており、明らかではないが、確認できた範囲の形状から、長方形と考えられる。

**長軸方位** N-22°-W

**規模** 長軸4.05m 短軸3.60m

床面積(9.75㎡) 残存壁高55cm

**埋没土** Ⅲ・Ⅳ層に近似した灰黄褐色土やにぶい黄褐色土である。確認できたのは限られた範囲であるが、自然堆積とみられる。

**床面** Ⅲ層~Ⅳ層を55cm掘り込んで床面を構築している。多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

**炉** 床面中央部から北壁寄りの位置で確認した。胴部下1/3を欠失した諸磯a式の深鉢土器を正位に埋設しており、その掘方は長径36cm、短径31cm、深さ18cmである。土器内には黒褐色土、外側には暗褐色土が堆積し、共に微量の焼土粒を含んでいる。

**柱穴** 床面で2基、重複する50号土坑下で1基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 18×13×26

(径は土坑下、深さは周囲の床面の高さから計測)

P 2 32×28×66

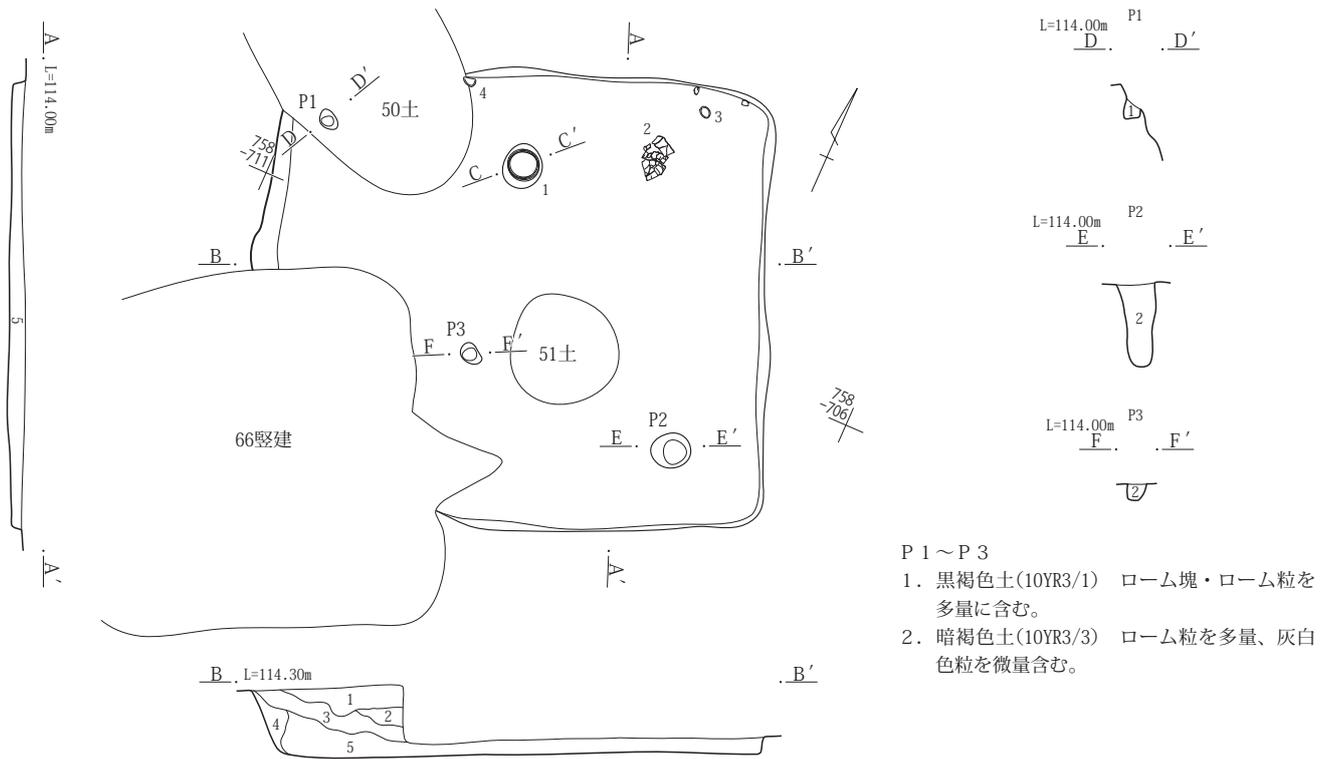
P 3 20×14×14

**壁溝** 確認されなかった。

**遺物** 炉、床面直上、埋没土中から遺物が出土した。掲載したのは、1：諸磯a式の深鉢(炉)、2：黒浜式の深鉢(床面直上)、3・4：凹石(床面直上)である。他、埋没土中から黒浜式と諸磯a式の小片各1点が出土した。

**所見** 壁溝を持たない小規模な長方形の建物である。出土した土器から時期は縄文時代前期であり、炉埋設土器から諸磯a式期と考えられる。

第3章 調査の成果

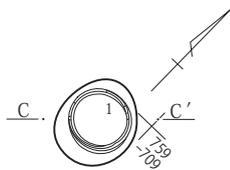


P 1 ~ P 3

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、灰白色粒を微量含む。

67号竪穴建物

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粒・暗褐色土を少量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 明黄褐色ローム塊を多量に含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色ローム塊を少量、灰白色粒・暗褐色土・ローム塊を微量含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黄褐色ローム塊を多量に含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黄褐色ローム塊を少量含む。締め・粘性ややあり。



C. L=114.00m C'

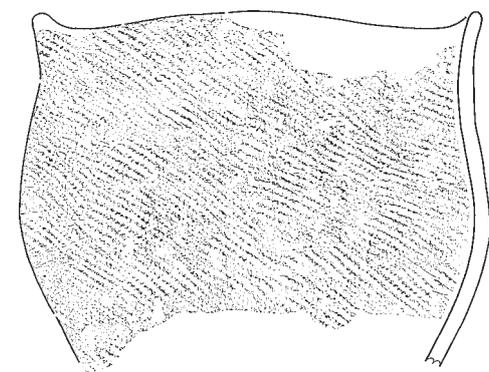
炉



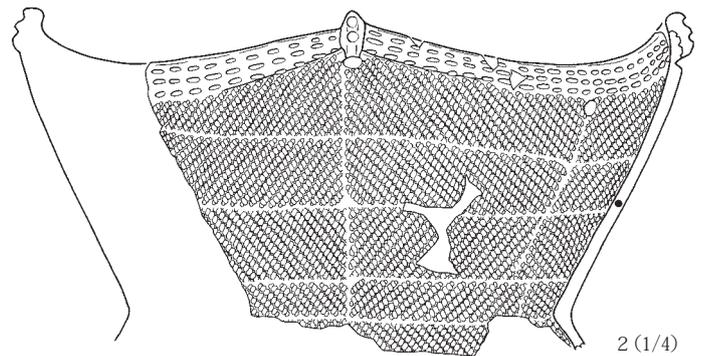
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量、焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒・焼土粒を微量含む。

0 1:30 1m

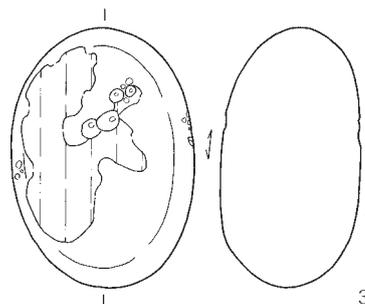
0 1:60 2m



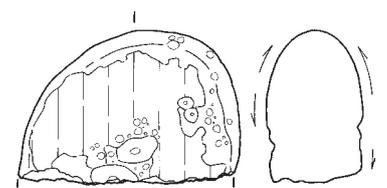
1



2(1/4)



3



4

0 1:3 10cm

0 1:4 10cm

第209図 2区67号竪穴建物・出土遺物

2区5号竪穴状遺構(第210・211図、PL.48・113)

調査区北側、23号竪穴建物の10m程南にある。

座標値 X=42,826~42,830 Y=-55,637~-55,642

重複遺構 なし 形状 ほぼ正方形

長軸方位 N-65°-E

規模 長軸4.15m 短軸3.80m

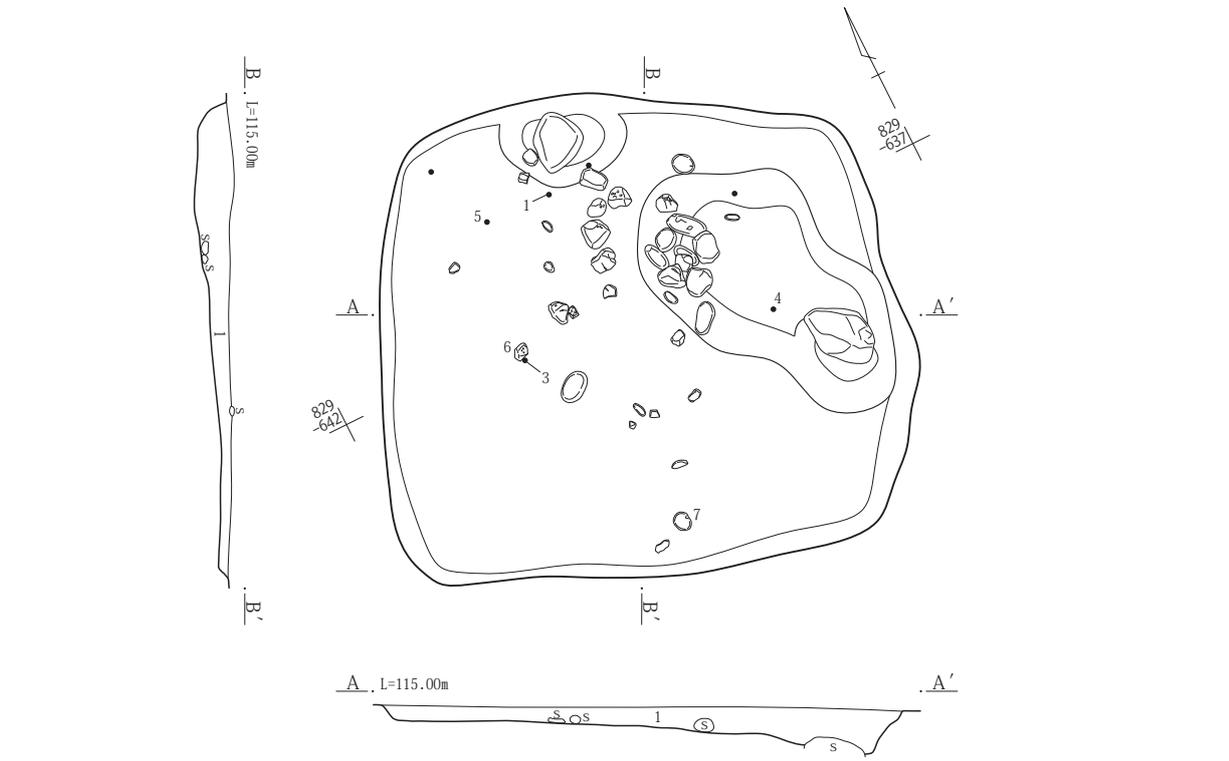
床面積12.69m<sup>2</sup> 残存壁高14cm

埋没土 白色粒やローム粒を含む黒褐色土である。土器片と共に径60cm~10cm程の大小様々な河床礫が多数出土した。

床面 起伏があり、特に遺構の北東側が低くなっている。

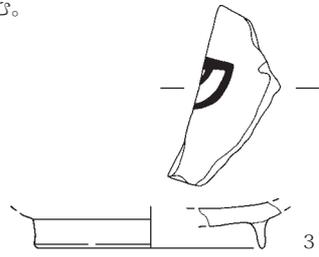
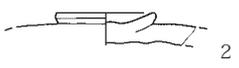
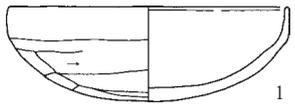
遺物 埋没土中で遺物が出土した。掲載した遺物は、1：土師器杯(床上7cm)、2：須恵器蓋、3：同有台杯(床上9cm)、4・5：同甕(共に床上12cm) 6：石皿(床上7cm)、7：器種不明の石製品(床上15cm)である。

所見 床面に起伏があり、竈、柱穴、貯蔵穴、壁溝共に検出できなかったため、竪穴状遺構とした。床面直上で出土遺物がなく、それぞれ小片のため、時期は明らかではないが、床上7cmで出土した杯は8世紀第2四半期のものである。この遺構の時期も同様の可能性がある。



5号竪穴状遺構  
1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒を少量、ローム粒を微量含む。

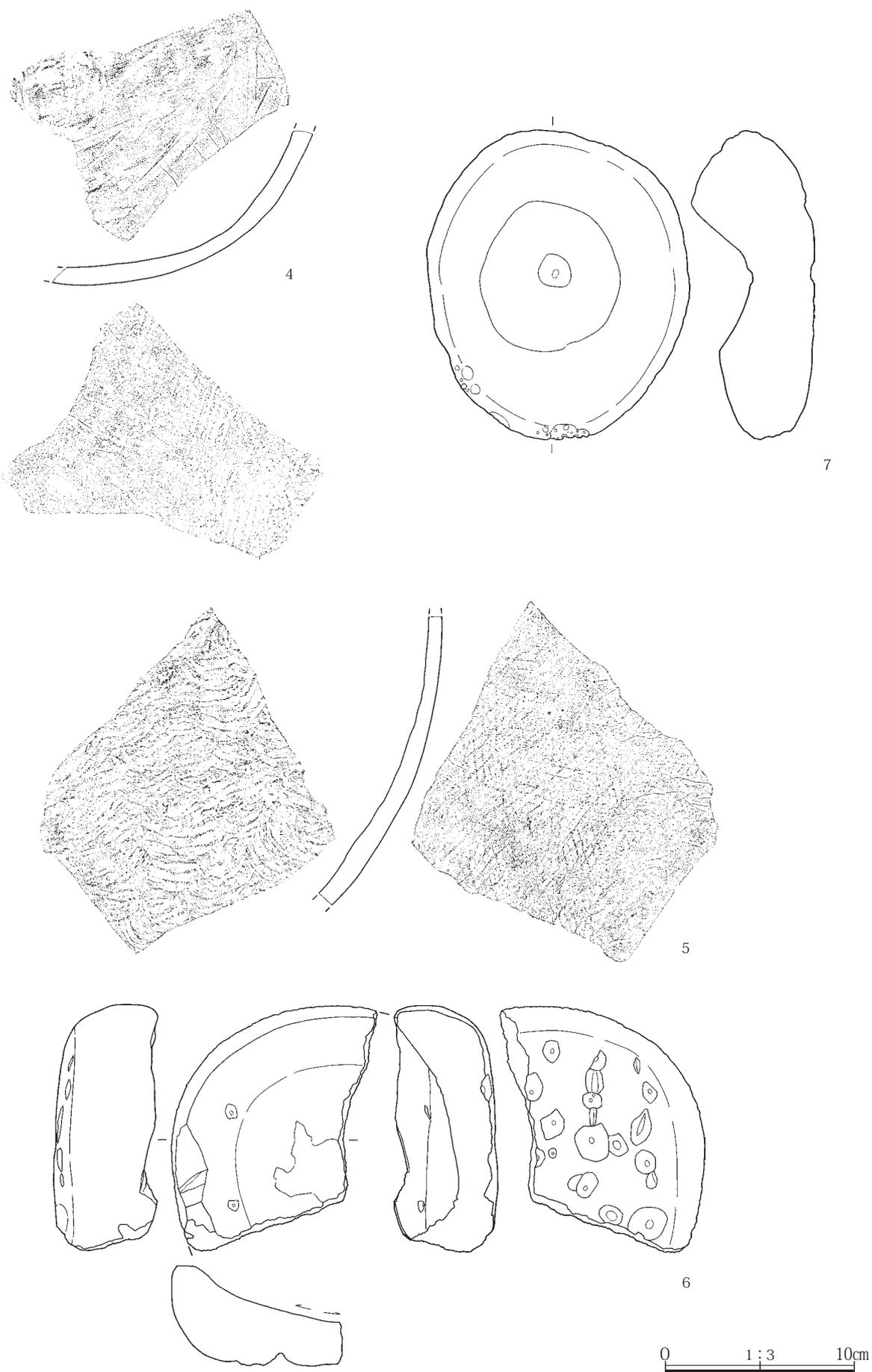
0 1:60 2m



0 1:3 10cm



第210図 2区5号竪穴状遺構・出土遺物(1)



第211図 2区5号竪穴状遺構出土遺物(2)

## 2. 掘立柱建物・柱穴列

1区では、竪穴建物20棟と掘立柱建物12棟を確認したが、2区では竪穴建物47棟に対し、掘立柱建物は3棟で、柱穴列が2条であった。範囲は調査区のほぼ中央に位置する13号掘立柱建物を除き、調査区の北端に限られていた。規模、柱間、主軸方位、柱穴の径や深さなどは様々である。

### 2区13号掘立柱建物(第212図、第15表、PL.49)

調査区中央、29号竪穴建物の5m程東にある。

**座標値** X=42,802~42,810 Y=-55,669~-55,674

**重複遺構** なし **桁行方位** N-20°-E

**規模形態** 桁行3間：6.30m~6.20m

梁行2間：3.40m

面積20.74㎡

南北に棟を取る側柱建物で、北東隅、南西隅の角度が若干大きく、柱筋は平行四辺形の平面形状である。

**検出状況** 検出された柱穴は10基で、柱間は桁行方向2.30m~1.82m、梁行方向1.88m~1.52mを測る。各柱穴はP10を除き、円形、あるいは円形に近い楕円形を呈し、規模は、長径31cm~25cm、短径30cm~20cmである。P10は、上部が広がっているため長径75cm、短径40cmであるが、底部の径は他とほぼ同様である。深さは40cm~74cmである。おおむね規模や形状が近似している。埋没土は白色粒やローム粒を含む黒褐色土とローム塊やローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** P10から1点の土師器が出土したが、小片で掲載できるものではなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の掘立柱建物と考えられる。周辺には6世紀代の数棟の竪穴建物があり、関連が想定されるが、いずれの建物も本建物の桁行方位とは主軸方位が異なっている。また、出土遺物が小片のため時期の比定が難しいことから、周辺の竪穴建物との関連を考えるには更に検討が必要である。

### 2区14号掘立柱建物(第213図、第16表、PL.49)

調査区北側、21号竪穴建物の5m程南西にあり、5号竪穴状遺構に隣接している。

**座標値** X=42,830~42,835 Y=-55,635~-55,639

**重複遺構** なし **桁行方位** N-22°-E

**規模形態** 桁行2間：3.66m~3.54m

梁行2間：3.50m

面積12.42㎡

2間×2間の側柱建物のため、建物の向きの判断が難しいが、柱間の広い南北を棟方向と考える。

**検出状況** 検出された柱穴は8基で、柱間は桁行方向1.91m~1.70m、梁行方向1.85m~1.65mを測る。各柱穴はおおむね円形に近い楕円形を呈し、規模は、長軸51cm~34cm、短軸50cm~32cm、深さ31cm~13cmである。規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主に白色粒、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土とローム塊や黒褐色土を含む灰黄褐色土である。

**遺物** 各柱穴から土器片が出土した。土師器が計14点、須恵器が計2点であるが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の掘立柱建物と考えられる。周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に21号竪穴建物、5号竪穴状遺構とは、主軸方向が合うか直交しており、時期差は少ないとみられる。これらのことから、古代の掘立柱建物と考えられる。

### 2区15号掘立柱建物(第214図、第17表、PL.50・113)

調査区北側、32号竪穴建物に隣接する位置にある。

**座標値** X=42,840~42,846 Y=-55,647~-55,654

**重複遺構** 321号・322号・379号・386号・389号・390号・526号ピットと重複している。新旧関係は明らかではない。

**桁行方位** N-19°-W

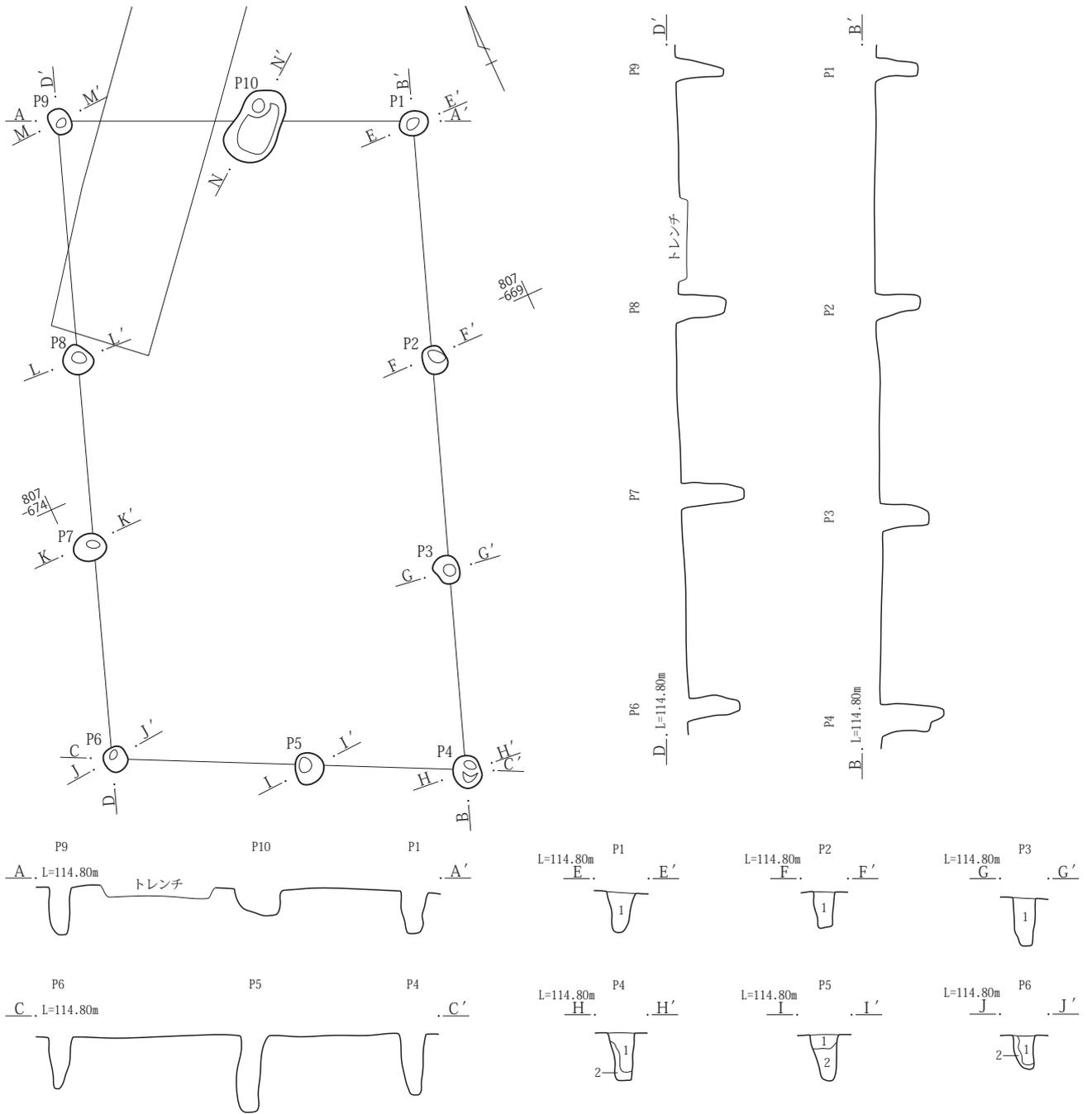
**規模形態** 桁行3間：4.85m~4.70m

梁行3間：4.75m~4.70m

面積22.39㎡

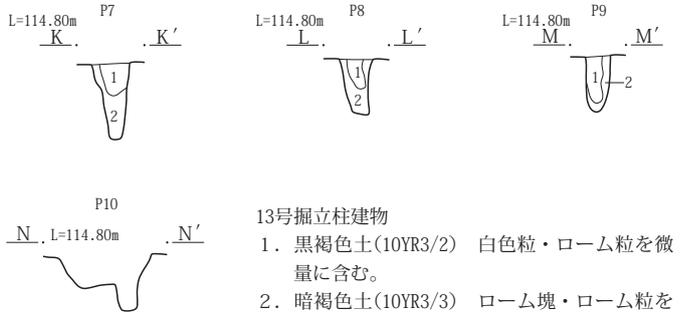
3間×3間の側柱建物のため、建物の向きの判断が難しいが、柱間の広い南北を棟方向と考える。

**検出状況** 検出された柱穴は12基で、柱間は桁行方向1.75m~1.40m、梁行方向1.70m~1.40mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈するが、不整形のものも確認された。各柱穴の規模は、長軸84cm~38cm、短軸75cm~35cm、深さ81cm~20cmである。ややばらつきはあるものの、規模や形状がおおむね近似

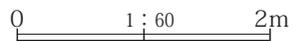


第15表 13号掘立柱建物柱穴一覧表

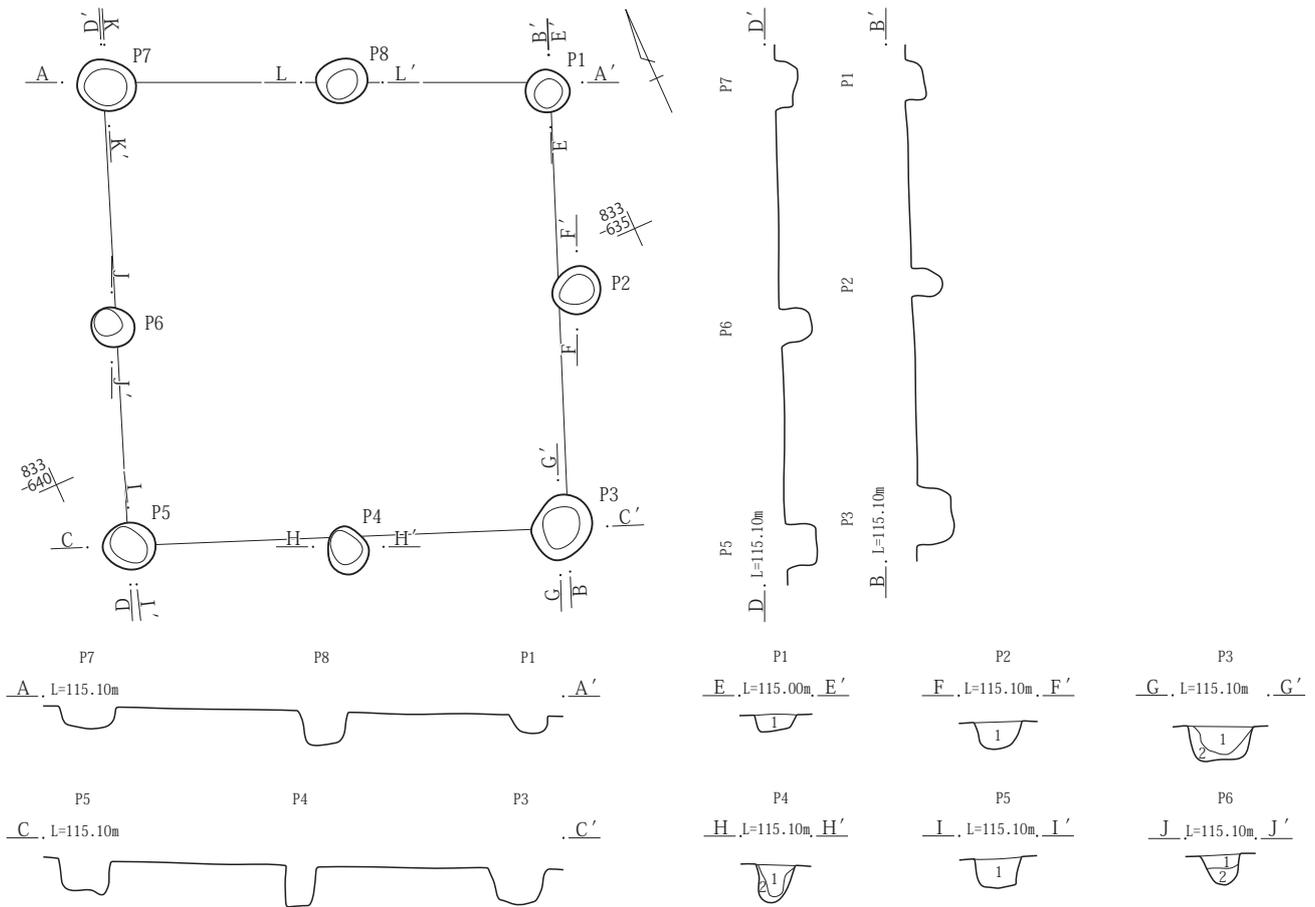
建物全体の規模		2間×3間		面積	20.74㎡		
主軸方位		N-20°-E		位置	X=42,802~42,810 Y=-55,669~-55,674		
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ピットNo.
		長径	短径	深さ			
東辺 6.30	P1	0.28	0.23	0.40	円形	2.30	P9
	P2	0.28	0.23	0.41	楕円形	2.08	P8
	P3	0.28	0.23	0.45	楕円形	1.92	P7
南辺 3.40	P4	0.32	0.26	0.64	楕円形	1.55	P6
	P5	0.30	0.30	0.74	楕円形	1.85	-
西辺 6.20	P6	0.25	0.23	0.51	円形	2.08	P4
	P7	0.31	0.26	0.60	円形	1.82	P3
	P8	0.30	0.28	0.45	円形	2.30	P2
北辺 3.40	P9	0.25	0.20	0.47	楕円形	1.88	P1
	P10	0.75	0.40	0.46	不整形	1.52	-



- 13号掘立柱建物
1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム粒を微量に含む。
  2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を微量に含む。



第212図 2区13号掘立柱建物



第16表 14号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模	2間×2間		面積	12.42㎡				
主軸方位	N-22°-E		位置	X=42,830~42,835 Y=-55,635~-55,639				
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.	
		長径	短径	深さ				
東辺	3.54	P1	0.35	0.34	0.13	円形	1.70	P7
		P2	0.38	0.38	0.25	円形	1.84	P6
南辺	3.50	P3	0.51	0.50	0.27	円形	1.80	P5
		P4	0.38	0.33	0.31	楕円形	1.70	-
西辺	3.66	P5	0.42	0.38	0.26	円形	1.75	P3
		P6	0.34	0.32	0.27	円形	1.91	P2
北辺	3.50	P7	0.45	0.40	0.19	円形	1.85	P1
		P8	0.40	0.35	0.26	円形	1.65	-

第213図 2区14号掘立柱建物

している。埋没土はローム塊を含む暗褐色土や黒褐色土である。

**遺物** P8・9・12以外の各柱穴から土師器が計86点、P3から須恵器の小片が2点出土した。掲載したのは、1・2：土師器の杯(1はP3、2はP6)である。

**所見** 周辺に所在する遺構と棟方向及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に32号竪穴建物に隣接している。また、多数の土器片が出土し、掲載した2点の杯は32号竪穴建物とほぼ同時期の8世紀第2四半期～第3四半期に比定できる。このことから本遺構は32号竪穴建物と同時期に使用され、何らかの関わりをもつ建物であった可能性がある。

14号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量に含む。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム塊を多量、黒褐色土を微量に含む。

**2区5号柱穴列(第215図、第18表、PL.50)**

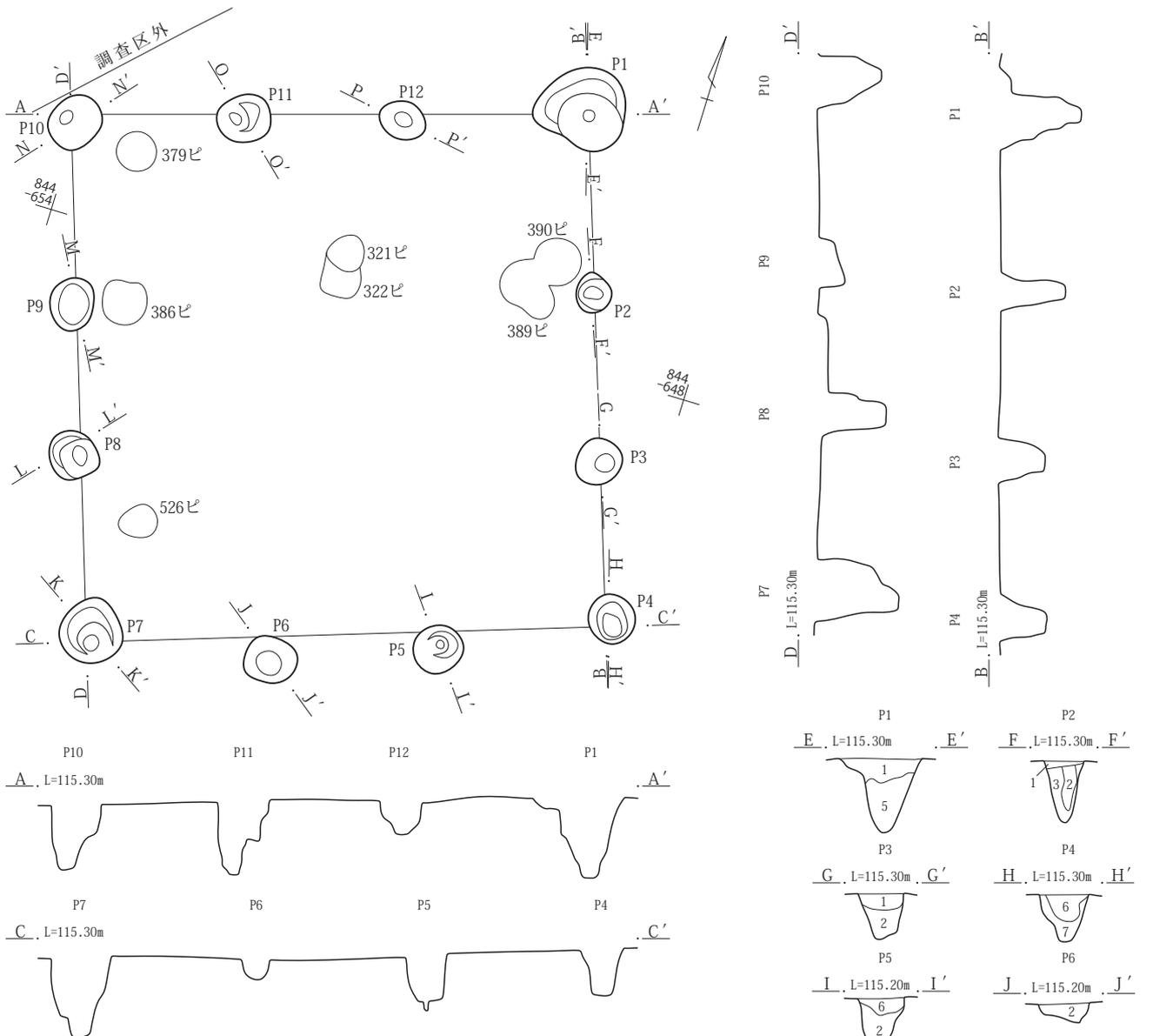
調査区北側、32号竪穴建物の南にあり、僅かに重複している。

**座標値** X=42,846~42,848 Y=-55,647~-55,652

**重複遺構** 32号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

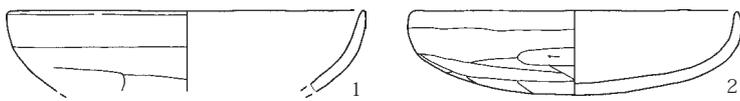
**方位** N-62°-E **規模** 5.35m

**検出状況** 検出された柱穴は4基で、3間の柱穴列である。柱間の距離は1.83m~1.38mを測る。各柱穴はおおむね円形に近い楕円形を呈し、長軸50cm~40cm、短軸40cm~32cm、深さ63cm~37cmである。ややばらつきはあるものの、規模や形状がおおむね近似している。埋没土は



第17表 15号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		3間×3間		面積		22.39㎡		
主軸方位		N-19°-W		位置		X=42,840~42,846 Y=-55,647~-55,654		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ピットNo.	
東辺	4.70	P1	0.84	0.75	0.70	不整形	1.65	319号ピット
		P2	0.38	0.32	0.59	楕円形	1.55	521号ピット
		P3	0.43	0.43	0.46	円形	1.50	522号ピット
南辺	4.75	P4	0.45	0.43	0.43	円形	1.60	523号ピット
		P5	0.46	0.43	0.67	円形	1.55	380号ピット
		P6	0.50	0.46	0.27	円形	1.60	382号ピット
西辺	4.85	P7	0.56	0.56	0.74	円形	1.75	394号ピット
		P8	0.45	0.43	0.81	円形	1.40	525号ピット
		P9	0.50	0.40	0.20	楕円形	1.70	524号ピット
北辺	4.70	P10	0.50	0.44	0.56	楕円形	1.60	327号ピット
		P11	0.50	0.43	0.68	円形	1.40	378号ピット
		P12	0.45	0.35	0.24	楕円形	1.70	320号ピット



0 1:3 10cm

15号掘立柱建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を微量含む。
5. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊を微量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量、焼土粒を微量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム塊を多量に含む。

0 1:60 2m

第214図 2区15号掘立柱建物・出土遺物

ローム塊やローム粒を含む暗褐色土と黒褐色土である。

**遺物** 各柱穴から土師器が出土した。計11点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の遺構と考えられる。周辺に所在する遺構と方位及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に15号掘立柱建物に隣接し、時期差は少ないとみられ、これに伴う遺構の可能性もある。これらのことから、古代の遺構と考えられる。

2区6号柱穴列(第215図、第19表、PL.50)

調査区北端、22号竪穴建物の北西にある。

**座標値** X=42,849~42,852 Y=-55,636~-55,637

**重複遺構** なし **方位** N-22°-E

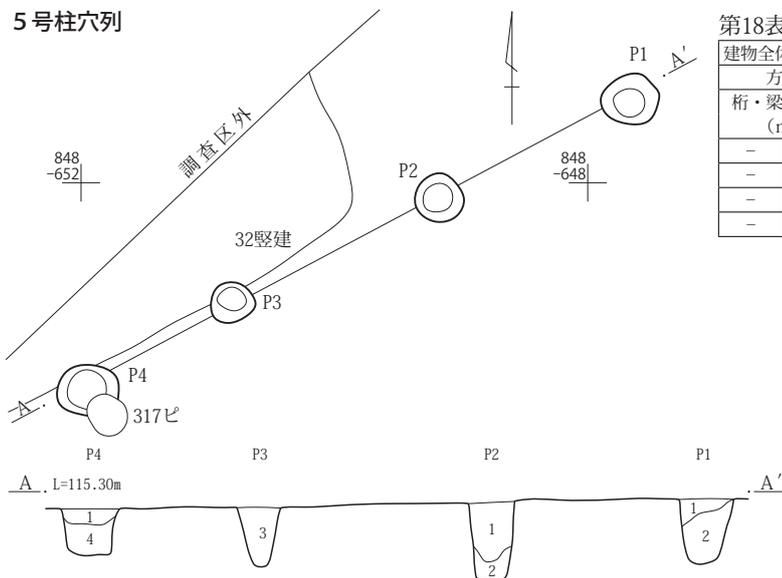
**規模** 3.15m

**検出状況** 検出された柱穴は3基で、2間の柱穴列である。柱間の距離は1.45mを測る。各柱穴はおおむね円形に近い楕円形を呈し、長軸35cm~28cm、短軸30cm~25cm、深さ22cm~20cmである。規模や形状が近似している。埋没土は主に白色粒やローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 各柱穴から土師器が計9点、P2から須恵器1点が出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の遺構と考えられる。周辺に所在する遺構と方位及び埋没土等が近似しており、関連が想定される。特に21号・22号竪穴建物の主軸と方位がほぼ直交し、時期差が少ない可能性がある。これらのことから、古墳時代あるいは古代の遺構と考えられる。

5号柱穴列



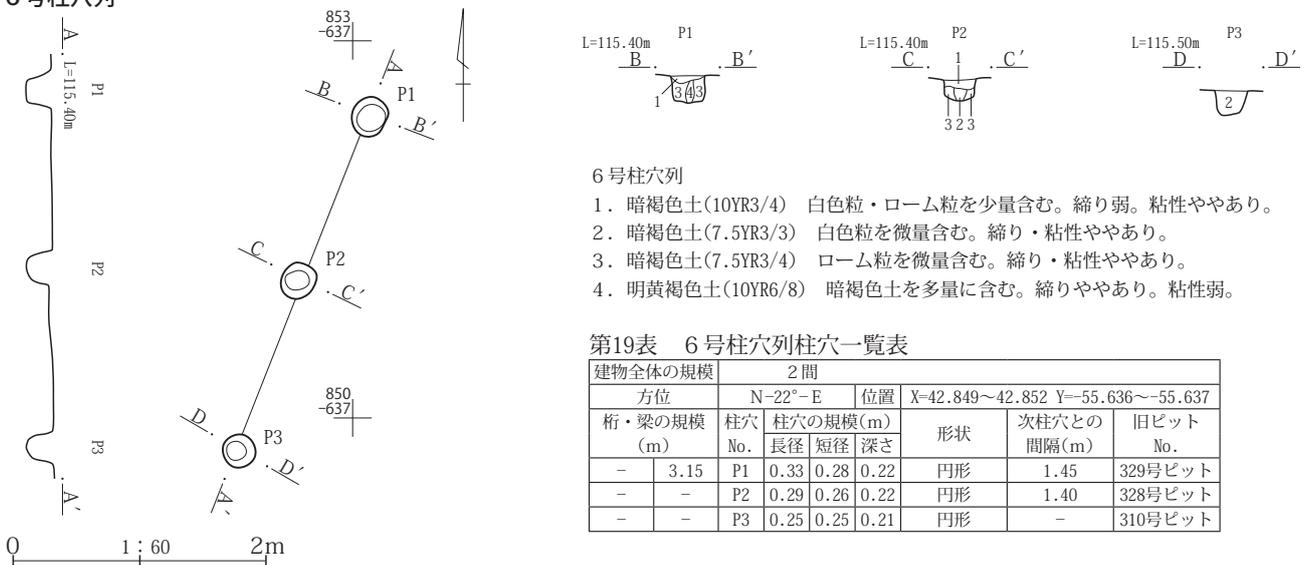
第18表 5号柱穴列柱穴一覧表

建物全体の規模		3間						
方位	N-62°-E	位置	X=42,846~42,848 Y=-55,647~55,652	柱穴の規模(m)		形状	次柱穴との 間隔(m)	旧ビット No.
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	長径	短径	深さ				
-	5.35	P1	0.45	0.43	0.51	円形	1.70	-
-	-	P2	0.40	0.38	0.63	円形	1.80	-
-	-	P3	0.35	0.32	0.53	円形	1.35	-
-	-	P4	0.50	0.40	0.37	円形	-	-

5号柱穴列

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量・ローム粒を微量含む。縮り弱。粘性ややあり。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊を多量・ローム粒を少量含む。粘性ややあり。

6号柱穴列



6号柱穴列

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム粒を少量含む。縮り弱。粘性ややあり。
2. 暗褐色土(7.5YR3/3) 白色粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
3. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒を微量含む。縮り・粘性ややあり。
4. 明黄褐色土(10YR6/8) 暗褐色土を多量に含む。縮りややあり。粘性弱。

第19表 6号柱穴列柱穴一覧表

建物全体の規模		2間						
方位	N-22°-E	位置	X=42,849~42,852 Y=-55,636~-55,637	柱穴の規模(m)		形状	次柱穴との 間隔(m)	旧ビット No.
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	長径	短径	深さ				
-	3.15	P1	0.33	0.28	0.22	円形	1.45	329号ビット
-	-	P2	0.29	0.26	0.22	円形	1.40	328号ビット
-	-	P3	0.25	0.25	0.21	円形	-	310号ビット

第215図 2区5・6号柱穴列

### 3. 溝

2区では、5条の溝を確認した。掘削目的の明確なものはないが、埋没土に水成堆積が見られることから水路としての機能が考えられるものや、区画溝に類する性格が推定されるものがあった。

#### 2区2号溝(第216・217図、PL.51・113)

座標値 X=42,782~42,830 Y=-55,560~-55,676

重複遺構 482号ピットと重複している。新旧関係の判断が難しく、本遺構に伴う遺構の可能性もある。

延伸方位 N-30°-E

規模 調査区の中央を緩くS字を描くように延伸しており、全長55.00m、幅0.75m~0.95m、深さ0.12m~0.18mを測る。

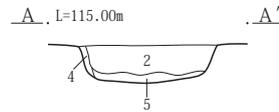
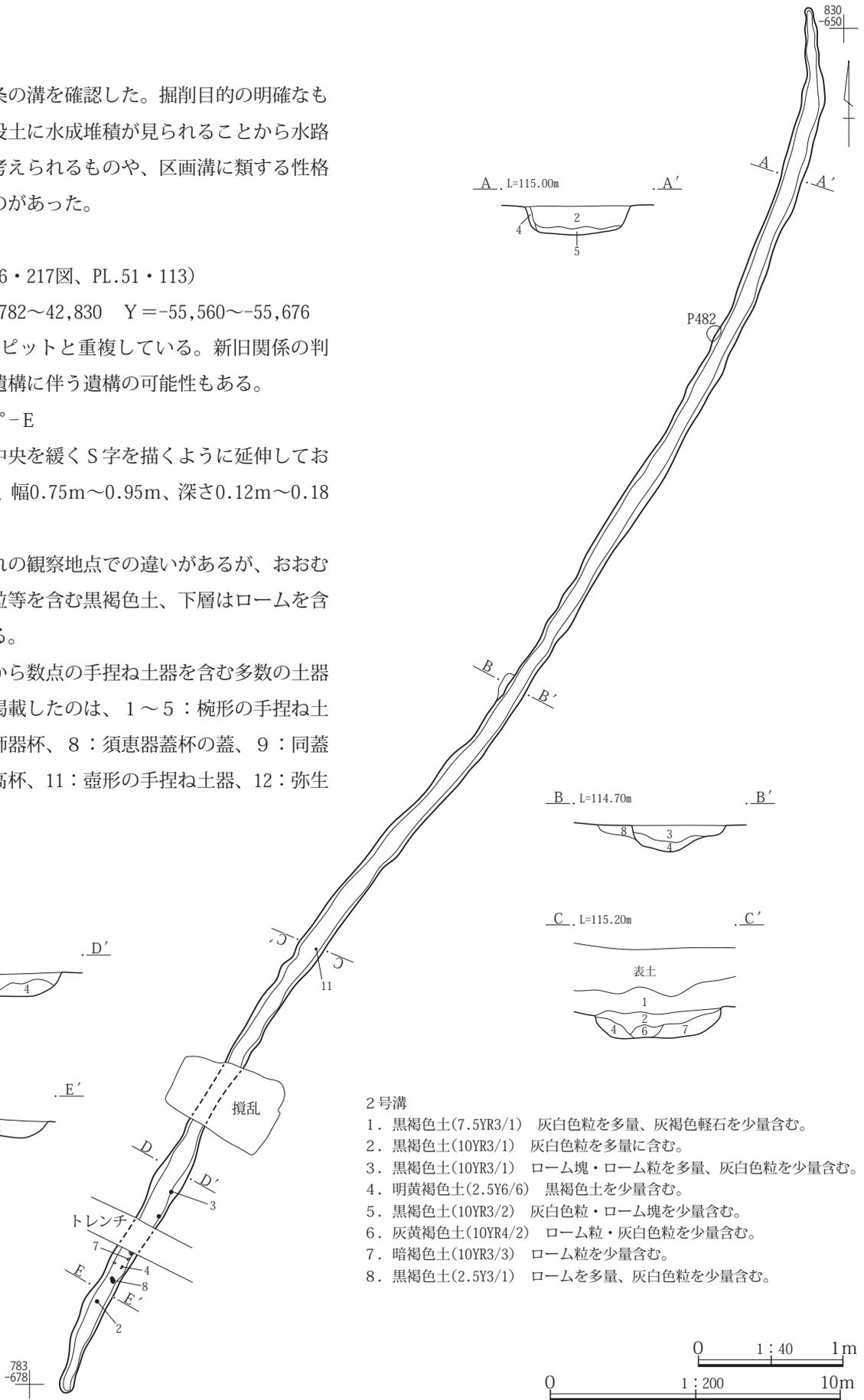
埋没土 それぞれの観察地点での違いがあるが、おおむね上層は灰白色粒等を含む黒褐色土、下層はロームを含む暗褐色土である。

遺物 埋没土中から数点の手捏ね土器を含む多数の土器片が出土した。掲載したのは、1~5: 椀形の手捏ね土器、6・7: 土師器杯、8: 須恵器蓋杯の蓋、9: 同蓋杯の身、10: 同高杯、11: 壺形の手捏ね土器、12: 弥生土器甕である。

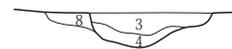
D. L=114.50m .D'



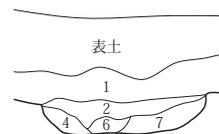
E. L=114.50m .E'



B. L=114.70m .B'

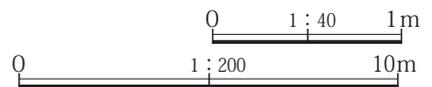


C. L=115.20m .C'

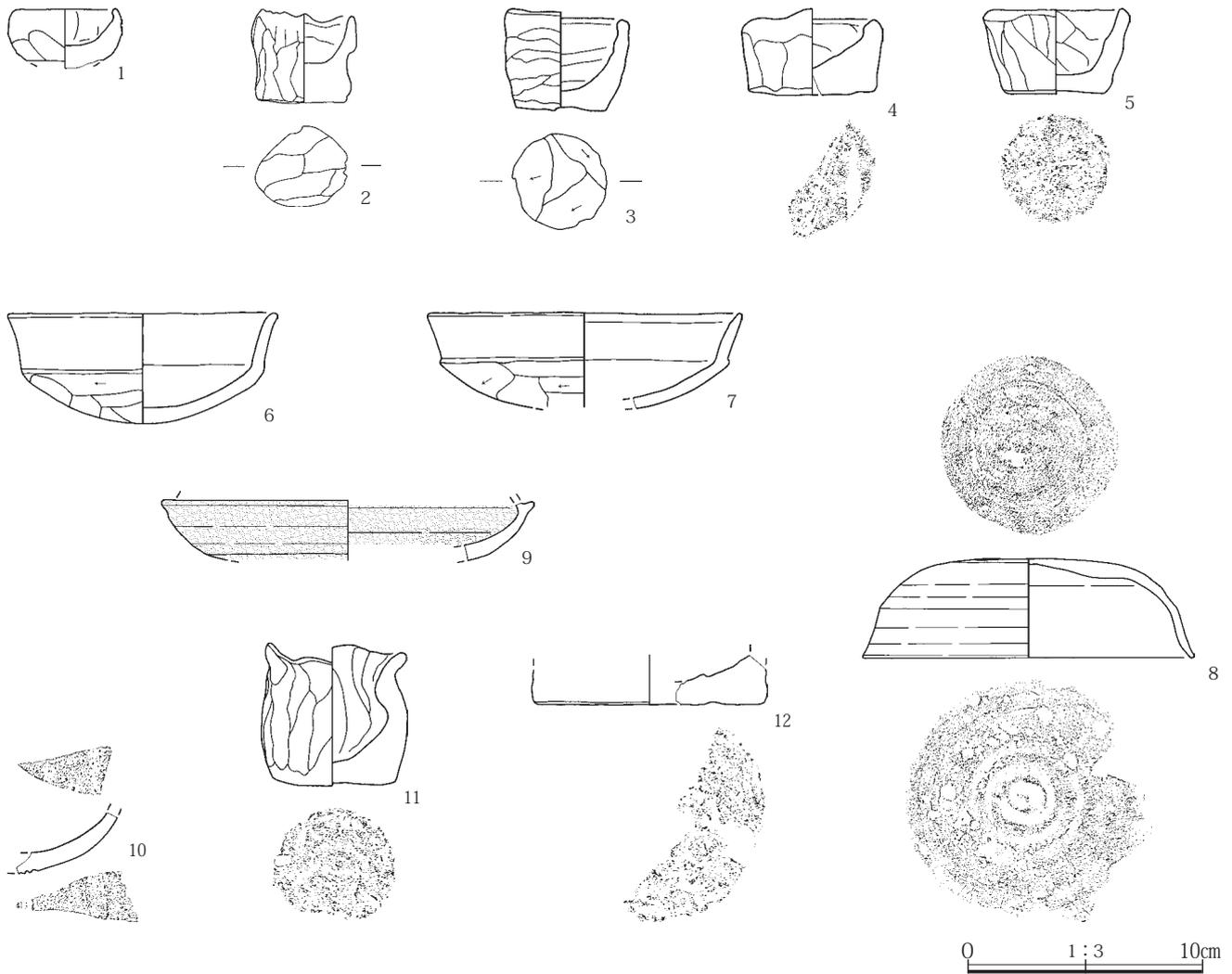


#### 2号溝

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 灰白色粒を多量、灰褐色軽石を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量、灰白色粒を少量含む。
4. 明黄褐色土(2.5Y6/6) 黒褐色土を少量含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム塊を少量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・灰白色粒を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
8. 黒褐色土(2.5Y3/1) ロームを多量、灰白色粒を少量含む。



第216図 2区2号溝



第217図 2区2号溝出土遺物

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。時期は出土遺物から6世紀後半の可能性が高い。掘削目的は明らかではないが、調査区西側で6世紀後半の建物が集中する範囲の東端に位置し、時期も近いと考えられる。重複する482号ピットを伴って集落の境界に設けられていた区画溝の可能性もある。また、B-B'上には、482号ピットに類するものが存在した可能性もあり、本遺構に沿って一定の間隔でピットが続いていたことが推定できる。

側が壊されている。残存した長さは1.30m、幅0.43m、深さ0.25mを測る。

**埋没土** 上層はローム塊を少量含む暗褐色土、下層はローム塊やローム粒を多量に含む灰黄褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。出土遺物がなく、小規模であるため、時期や掘削目的は明らかではないが、24号土坑との新旧関係から、古代以前の遺構と考えられる。

**2区3号溝**(第218図、PL.52)

**座標値** X=42,833・42,834 Y=-55,646・-55,647

**重複遺構** 24号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**延伸方位** N-30°-W

**規模** 調査区北側で24号土坑と重複する位置にあり、北

**2区4号溝**(第218図、PL.52)

**座標値** X=42,810~42,814 Y=-55,637~-55,641

**重複遺構** なし **延伸方位** N-45°-E

**規模** 調査区の中央よりやや北東に位置し、2号溝の20m程東にあつて、全長5.40m、幅0.50m、深さ0.20mを測る。

**埋没土** 上層は褐灰色粘質土や黒褐色土を含む灰黄褐色土、下層はローム塊を含む黒褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できないが、水成堆積とみられる層があり、水路の可能性もある。出土遺物もなく、時期の比定は難しいが、遺構確認面及び埋没土の様相から中世以前の遺構と考えられる。

**遺物** 土師器が1点出土しているが、小片のため掲載することはできなかった。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いており、凹凸が見られる。掘削目的は特定できないが、底部に水成堆積とみられる層があり、水路の可能性もある。出土遺物は土師器の小片が1点で、時期の比定は難しいが、遺構確認面及び埋没土の様相から中世以前の遺構と考えられる。

2区6号溝(第218図、PL.52)

**座標値** X=42,754~42,456 Y=-55,694~-55,696

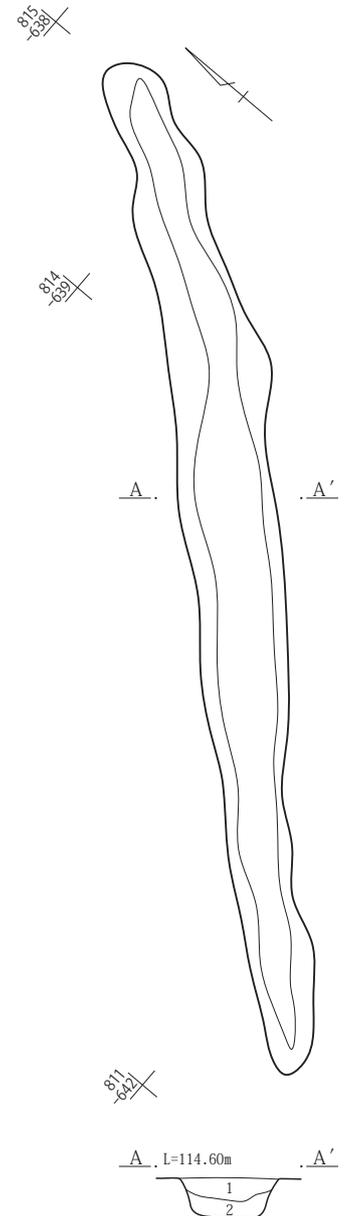
**重複遺構** なし

**延伸方位** N-42°-E

**規模** 調査区の南側に位置し、5号溝の4m程東にあって、全長2.32m、幅0.70m、深さ0.10mを測る。

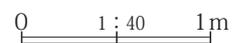
**埋没土** 上層はローム塊を含む黒褐色土、下層は黒褐色土を含む褐配色砂質土である。

4号溝

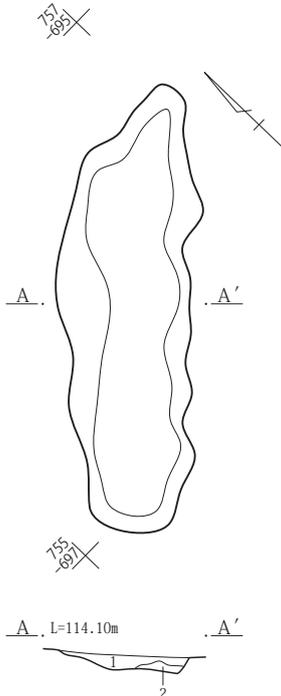


4号溝

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐灰色砂質土を多量、黒褐色土を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。



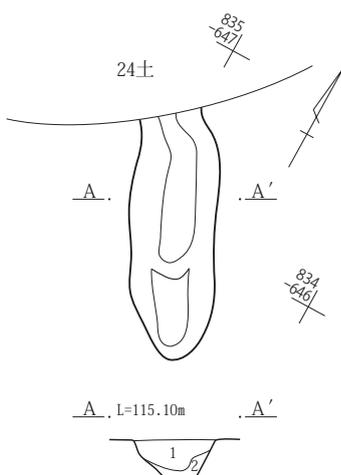
6号溝



6号溝

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊を少量含む。やや砂質。
2. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 黒褐色土を少量含む。

3号溝



3号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

第218図 2区3・4・6号溝

2区5号溝(第219図、PL.52)

座標値 X = 42,750~42,764 Y = -55,689~-55,704

重複遺構 65号竪穴建物、580号ピットと重複している。  
65号竪穴建物との新旧関係は本遺構が古い。580号ピットとの新旧関係の判断は難しく、本遺構に伴う遺構の可能性もある。

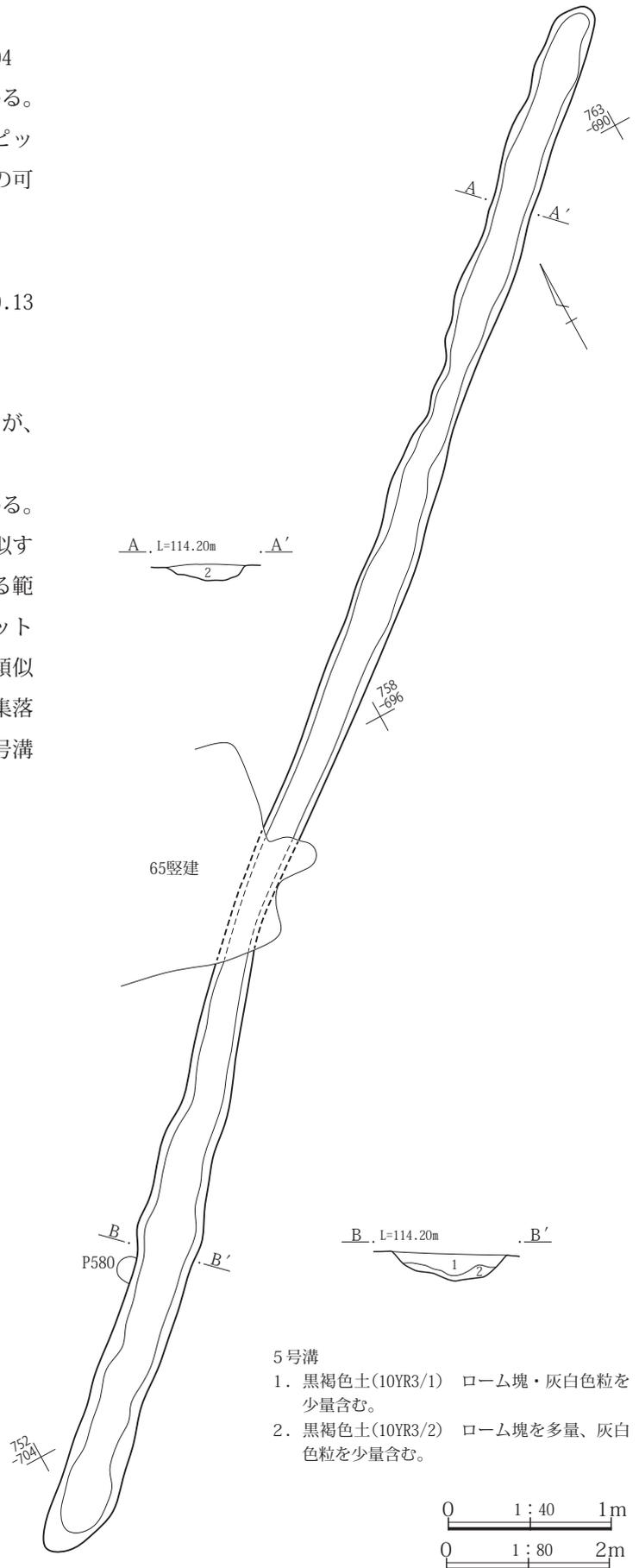
延伸方位 N-45°-E

規模 長さは20.00m、幅は0.50m~0.70m、深さは0.13mである。

埋没土 白色粒やローム塊を含む黒褐色土塊である。

遺物 土師器と須恵器の小片が各3点出土しているが、小片のため掲載することはできなかった。

所見 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。出土遺物からの時期の比定は難しいが、2号溝と類似する形状で、2号溝同様に6世紀後半の建物が集中する範囲の東端に位置している。また、本遺構と580号ピットの位置関係は、482号ピットと2号溝の位置関係に類似している。本遺構は、2号溝同様にピットを伴って集落の境界に設けられていた区画溝の可能性があり、2号溝と一連の遺構と考えることもできる。



第219図 2区5号溝

#### 4. 土坑

2区では31基の土坑を確認した。31基中、円形が5基、楕円形が18基、隅丸のものも含めて長方形が4基、不整形が3基、不明のものが1基である。遺物の出土した土坑は18基で、用途が想定できるものは10基である。

##### 2区23号土坑(第220図、PL.53)

**座標値** X=42,831・42,832 Y=-55,653・-55,654

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-32°-E

**規模** 長軸1.20m 短軸0.64m 深さ0.20m

**遺物** 土師器の小片が8点出土している。

**所見** 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

##### 2区24号土坑(第220図、PL.53)

**座標値** X=42,834~42,836 Y=-55,646~-55,648

**重複遺構** 3号溝と重複している。本遺構の僅かに上層で遺物集中箇所を検出した。

**形状** 楕円形

**長軸方位** N-50°-E

**規模** 長軸2.78m 短軸1.80m 深さ0.27m

**遺物** 土師器の小片が多数、須恵器の小片5点が出土した。掲載したのは土師器杯4点である。

**所見** 掲載した土師器の杯のうち、1は若干早い時期のものであるが、2~4は同時期に比定できる。これらの杯から、時期は8世紀第3四半期である。

##### 2区25号土坑(第220・231図、PL.53・113)

**座標値** X=42,831・42,832 Y=-55,665~-55,667

**形状** 楕円形か **長軸方位** -

**規模** 長軸1.60m 短軸(0.92m) 深さ0.76m

**遺物** 掲載した遺物は、1:諸磯a式、2:諸磯b式の深鉢土器である。他、諸磯a式6点、諸磯b式1点、不明1点の土器片が出土した。

**所見** 2点の深鉢土器から、時期は縄文前期、諸磯a式期~諸磯b式期である。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性があり、規模や形状から墓壇の可能性がある。

##### 2区26号土坑(第220図、PL.53)

**座標値** X=42,824 Y=-55,665

**重複遺構** 27号竪穴建物、430号ピット

**形状** 楕円形か **長軸方位** N-73°-W

**規模** 長軸(0.54m) 短軸(0.38m) 深さ0.50m

**遺物** 土師器の小片が4点出土している。

**所見** 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土している。27号竪穴建物を壊しており、時期は6世紀後半以降である。

##### 2区27号土坑(第220図、PL.53・114)

**座標値** X=42,834 Y=-55,664

**形状** 不明 **長軸方位** -

**規模** 長軸0.98m 短軸(0.30m) 深さ0.60m

**遺物** 埋没土中の中程の高さから、土師器甕1点が出土し、掲載した。

**所見** 多くの範囲が調査区外にあると考えられ、形状や用途は不明であるが、出土した土師器甕から、時期は6世紀代である。

##### 2区28号土坑(第221図、PL.53)

**座標値** X=42,837~42,839 Y=-55,634・-55,635

**形状** 方形 **長軸方位** N-25°-E

**規模** 長軸1.36m 短軸0.84m 深さ0.35m

**遺物** 土師器の小片が10点出土している。

**所見** 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土している。時期は古墳時代以降と考えられる。

##### 2区29号土坑(第221・231図、PL.53・114)

**座標値** X=42,823・42,824 Y=-55,669・-55,670

**重複遺構** 28号竪穴建物

**形状** 隅丸方形か **長軸方位** N-80°-W

**規模** 長軸1.35m 短軸1.18m 深さ0.75m

**遺物** 掲載した遺物は底部から出土した諸磯b式の深鉢である。他、諸磯c式の小片2点が出土した。

**所見** 胴部破片1点であるが、底部から深鉢が出土しており、時期は縄文前期、諸磯b式期~c式期と考えられる。埋没土中に多量のローム塊が含まれており、不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性があり、規模

や形状から墓壇の可能性はある。

#### 2区30号土坑(第221図、PL.53)

座標値 X=42,803・42,804 Y=-55,653

形状 楕円形 長軸方位 N-15°-E

規模 長軸1.15m 短軸0.63m 深さ0.18m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

#### 2区31号土坑(第221図、PL.53)

座標値 X=42,753~42,755 Y=-55,693~-55,695

形状 円形 長軸方位 N-65°-W

規模 長軸1.65m 短軸1.55m 深さ -

遺物 土師器の小片7点、須恵器の小片3点が出土した。掲載したのは、1：土師器杯、2：須恵器甕である。

所見 底部からの湧水が認められた。すり鉢形で下部が井筒状に深くなる井戸と考えられる。出土した遺物から、時期は8世紀第4四半期である。

#### 2区32号土坑(第222・231図、PL.53)

座標値 X=42,809~42,811 Y=-55,637・-55,638

重複遺構 34号竪穴建物

形状 楕円形か 長軸方位 N-23°-W

規模 長軸(1.90m) 短軸1.35m 深さ0.82m

所見 34号竪建を壊しており、8世紀以前の土坑である。出土遺物はなかったが、埋没土が調査区内に点在する縄文前期の土坑に類似しており、縄文前期前後の土坑の可能性はある。

#### 2区33号土坑(第222図、PL.53)

座標値 X=42,784・42,785 Y=-55,685・-55,686

重複遺構 48号竪穴建物 形状 楕円形

長軸方位 N-33°-W

規模 長軸1.15m 短軸1.00m 深さ0.47m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

#### 2区34号土坑(第222図、PL.53・114)

座標値 X=42,759・42,760 Y=-55,707・-55,708

重複遺構 62号竪穴建物

形状 楕円形 長軸方位 N-60°-E

規模 長軸1.10m 短軸1.01m 深さ0.18m

遺物 土師器の小片が4点出土している。掲載したのは、1・2：土師器杯(底部)、3：同甕(底部)である。

所見 62号竪穴建物を壊しており、時期は8世紀以降である。出土遺物から8世紀第3四半期の土坑と考えられる。

#### 2区35号土坑(第222図、PL.53)

座標値 X=42,794・42,795 Y=-55,696・-55,697

形状 楕円形 長軸方位 N-5°-W

規模 長軸1.25m 短軸0.90m 深さ0.26m

遺物 土師器の小片が16点出土している。

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

#### 2区36号土坑(第223図、PL.53・114)

座標値 X=42,786・42,787 Y=-55,697・-55,698

形状 円形 長軸方位 N-7°-E

規模 長軸1.00m 短軸0.94m 深さ -

遺物 土師器の小片12点、須恵器の小片1点が出土している。掲載したのは、1：須恵器蓋杯の身、2：土師器台杯甕である。

所見 形状から、すり鉢形で下部が井筒状に深くなる井戸とみられる。出土した遺物1は6世紀後半のもので混入の可能性が高く、2から時期は8世紀後半～9世紀と考えられる。

#### 2区37号土坑(第223図、PL.54)

座標値 X=42,783・42,784 Y=-55,693

形状 楕円形 長軸方位 N-5°-E

規模 長軸0.98m 短軸0.63m 深さ0.15m

所見 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

#### 2区38号土坑(第223～225図、PL.54・114・115)

座標値 X=42,785・42,786 Y=-55,694・-55,695

形状 楕円形 長軸方位 N-52°-W

規模 長軸0.95m 短軸0.85m 深さ0.36m

**遺物** 埋没土中から重なるようにして多数の土器片が出土した。掲載したのは、1・2:土師器壺、3:同甕、4・5:須恵器甕である。

**所見** 掲載した土器は、いずれも細かく割られ、重ねるようにして土坑内に納められていた。大型の須恵器が含まれており、例の少ない遺構である。これらの土器から時期は6世紀代である。用途は明らかではないが、祭祀に関わる土坑の可能性が高い。

**2区39号土坑**(第226図、PL.54)

**座標値** X=42,777・42,778 Y=-55,703・-55,704

**形状** 円形 **長軸方位** N-68°-E

**規模** 長軸1.52m 短軸1.50m 深さ0.33m

**遺物** 土師器の小片が7点出土している。

**所見** 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似している。出土した複数の土師器は小片であるが、6世紀代のものである可能性が高い。

**2区40号土坑**(第226図、PL.54)

**座標値** X=42,773~42,775 Y=-55,711~-55,713

**重複遺構** 54号竪穴建物 **形状** 円形

**長軸方位** N-66°-W

**規模** 長軸(2.10m) 短軸2.00m 深さ0.45m

**遺物** 土師器の小片が多数出土している。

**所見** 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似している。出土した多数の土師器は小片であるが、6世紀代のものである可能性が高い。

**2区41号土坑**(第226図、PL.54)

**座標値** X=42,849・42,850 Y=-55,648

**形状** 楕円形か **長軸方位** -

**規模** 長軸0.85m 短軸(0.75m) 深さ0.25m

**遺物** 土師器の小片が9点出土している。

**所見** 埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似している。出土した複数の土師器は小片であるが、7世紀~8世紀のものである可能性が高い。

**2区42号土坑**(第226・231図、PL.54)

**座標値** X=42,761~42,763 Y=-55,709・-55,710

**重複遺構** 62・63号竪穴建物

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-5°-E

**規模** 長軸1.40m 短軸1.30m 深さ0.42m

**所見** 62・63号竪穴建物によって壊されており、6世紀後半以前の土坑である。出土遺物はなかったが、埋没土が調査区内に点在する縄文前期の土坑に類似しており、縄文前期の土坑の可能性が高い。

**2区43号土坑**(第226図、PL.54)

**座標値** X=42,778・42,779 Y=-55,692・-55,693

**形状** 円形 **長軸方位** N-3°-W

**規模** 長軸1.10m 短軸1.05m 深さ -

**遺物** 土師器の小片が2点出土している。

**所見** 形状から、井筒形の井戸とみられる。埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、土師器の小片が複数出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

**2区44号土坑**(第227図、PL.54)

**座標値** X=42,780・42,781 Y=-55,694・-55,695

**重複遺構** 52号竪穴建物

**形状** 隅丸方形か **長軸方位** -

**規模** 長軸0.72m 短軸(0.55m) 深さ0.25m

**所見** 52号竪穴建物を壊しており、6世紀前半以降の土坑である。埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

**2区45号土坑**(第227・231図、PL.54)

**座標値** X=42,787~42,789 Y=-55,691~-55,693

**重複遺構** 46号竪穴建物、46号土坑、538号ピット

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-5°-W

**規模** 長軸2.35m 短軸1.42m 深さ1.24m

**所見** 46号竪穴建物によって壊されており、8世紀以前の土坑である。出土遺物はなかったが、埋没土が調査区内に点在する縄文前期の土坑に類似しており、縄文前期の土坑の可能性が高い。

**2区46号土坑**(第227・231図、PL.54)

**座標値** X=43,788・42,789 Y=-55,693

**重複遺構** 45号土坑、538・539号ピット

**形状** 隅丸方形か **長軸方位** N-10°-W

**規模** 長軸1.28m 短軸(0.72m) 深さ0.57m

**所見** 複数の遺構によって壊されており、遺構認定が難しかったため、断面の記録を残すことができなかった。45号土坑によって壊されていることから縄文前期あるいはそれ以前の土坑の可能性がある。

#### 2区47号土坑(第228・231図、PL.54・115)

**座標値** X=42,785~42,788 Y=-55,701~-55,703

**重複遺構** 50号竪穴建物、546号ピット

**形状** 楕円形か **長軸方位** N-8°-W

**規模** 長軸3.20m 短軸(2.18m) 深さ1.10m

**遺物** 掲載した遺物は、1:諸磯b式、2:前期後葉、3:諸磯c式の深鉢である。他、諸磯b式1点、諸磯c式2点、不明4点の土器片が出土した。

**所見** 規模や形状から、陥し穴と考えられる。時期は出土した土器から縄文前期、諸磯b式期~諸磯c式期である。

#### 2区48号土坑(第227・231図、PL.54)

**座標値** X=42,760・42,761 Y=-55,710~-55,712

**重複遺構** 62・63号竪穴建物 **形状** 楕円形

**長軸方位** N-31°-E

**規模** 長軸1.18m 短軸1.09m 深さ0.36m

**所見** 63号竪穴建物によって壊されており、6世紀後半以前の土坑である。出土遺物はなかったが、埋没土が調査区内に点在する縄文前期の土坑に類似しており、縄文前期の土坑の可能性がある。

#### 2区49号土坑(第229・231図、PL.54)

**座標値** X=42,800~42,802 Y=-55,681~-55,684

**重複遺構** 41号竪穴建物 **形状** 不整形

**長軸方位** N-63°-W

**規模** 長軸3.15m 短軸(2.70m) 深さ1.04m

**所見** 規模や形状から、陥し穴と考えられる。41号竪穴建物によって壊されており、6世紀後半以前の土坑である。埋没土が調査区内に点在する縄文前期の土坑に類似しており、時期は縄文前期の可能性はある。

#### 2区50号土坑(第230・231図、PL.54・115)

**座標値** X=42,758~42,760 Y=-55,709~-55,711

**重複遺構** 63・67号竪穴建物 **形状** 楕円形

**長軸方位** N-45°-W

**規模** 長軸2.60m 短軸1.10m 深さ1.04m

**遺物** 諸磯c式、縄文前期末葉の小片が各1点出土している。

**所見** 規模や形状から、陥し穴と考えられる。67号竪穴建物を壊し、63号竪穴建物によって壊されており、諸磯c式、縄文前期末葉の土器片が出土していることから、当該期の土坑と考えられる。

#### 2区51号土坑(第227・231図、PL.55)

**座標値** X=42,757・42,758 Y=-55,707・-55,708

**重複遺構** 67号竪穴建物

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-60°-W

**規模** 長軸0.88m 短軸0.85m 深さ0.69m

**所見** 67号竪穴建物を壊していることから、諸磯a式期以降の土坑である。不自然な堆積状況が見られ、埋め戻された可能性があり、規模や形状から墓壇の可能性はある。

#### 2区52号土坑(第227・231図、PL.55)

**座標値** X=42,775~42,778 Y=-55,678~-55,680

**形状** 不整形 **長軸方位** N-45°-W

**規模** 長軸2.45m 短軸1.45m 深さ0.84m

**所見** 規模や形状から、陥し穴と考えられる。埋没土が調査区内に点在する縄文前期の土坑に類似しており、時期は縄文前期の可能性はある。

#### 2区105号土坑(第230図、PL.55)

**座標値** X=42,760 Y=-55,714

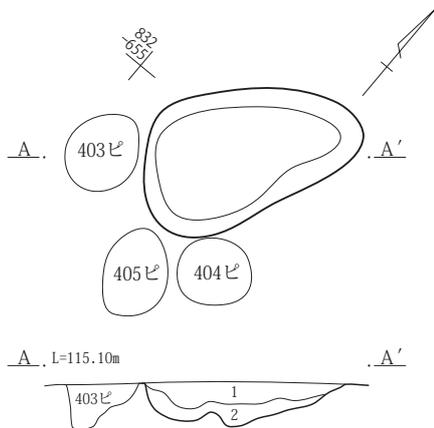
**重複遺構** 63号竪穴建物

**形状** 不整形 **長軸方位** N-40°-E

**規模** 長軸0.88m 短軸(0.75m) 深さ0.42m

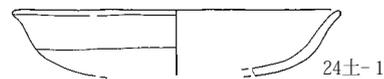
**所見** 63号竪穴建物を壊しており、6世紀後半以降の土坑である。

23号土坑



23号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。

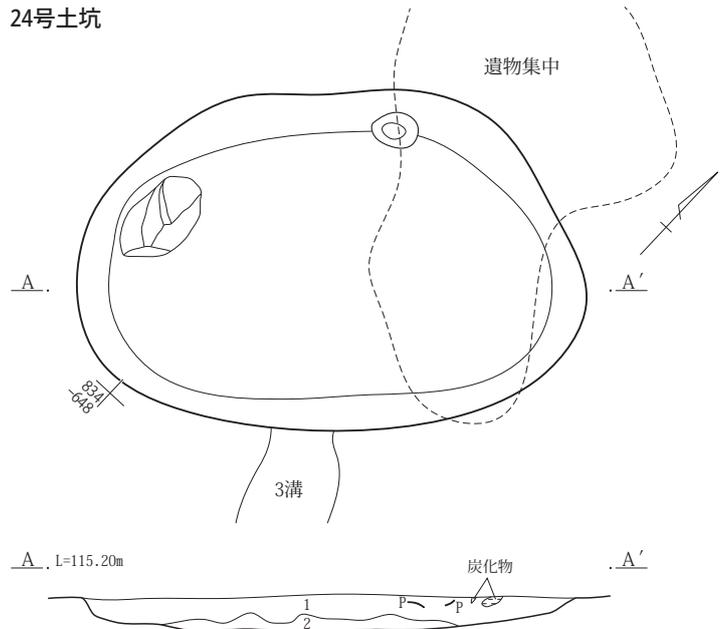


24土-1



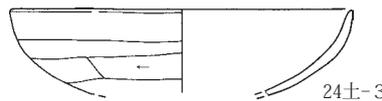
24土-2

24号土坑

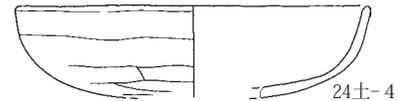


24号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 白色粒・炭化物粒を少量、ローム塊を微量含む。縮り弱。粘性ややあり。
2. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を少量含む。縮り・粘性ややあり。

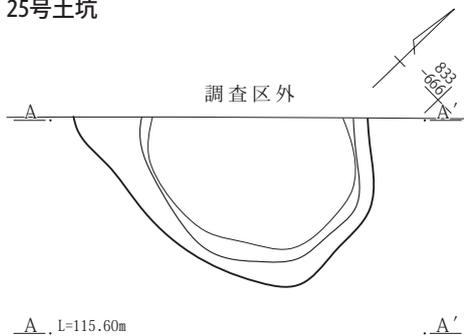


24土-3

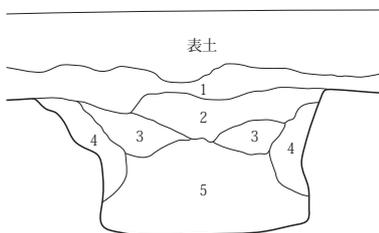


24土-4

25号土坑

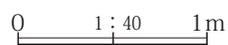


L=115.60m

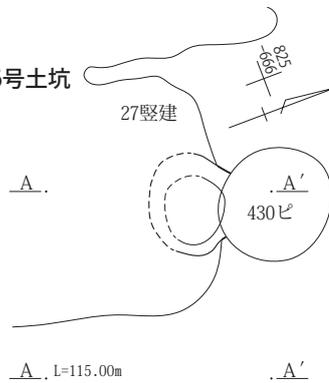


25号土坑

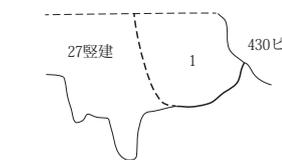
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム粒・ローム塊を少量含む。縮りあり。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒を多量、ローム塊を少量含む。固く縮る。
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム塊を多量に含む。固く縮る。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量含む。固く縮る。



26号土坑



L=115.00m



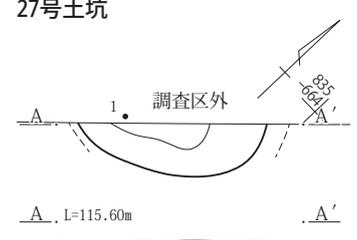
26号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。

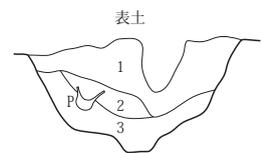
27竪建

430ピ

27号土坑



L=115.60m

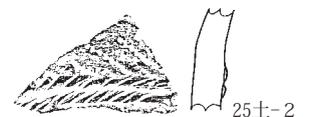


27号土坑

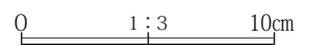
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。



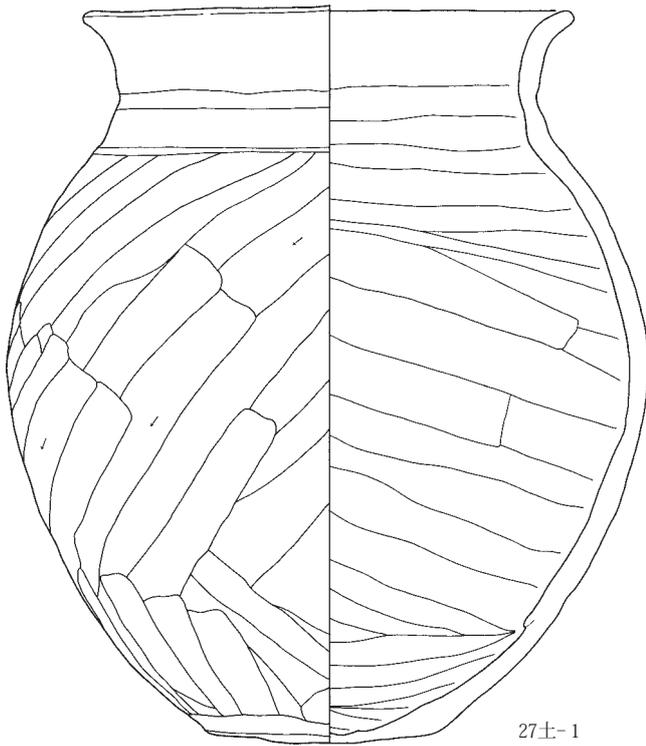
25土-1



25土-2

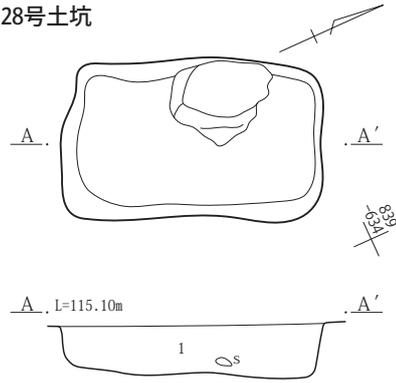


第220図 2区23~27号土坑・24・25号土坑出土遺物



27土-1

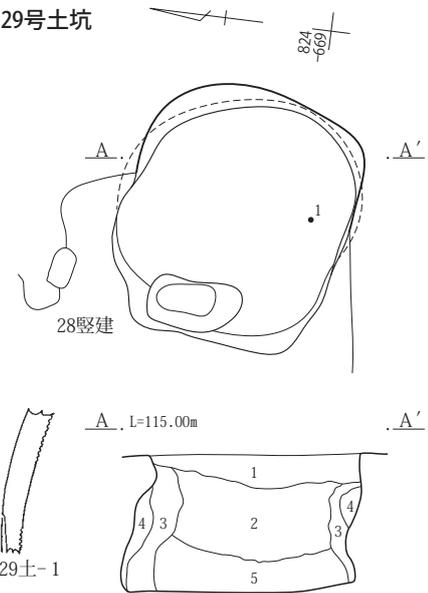
28号土坑



28号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。

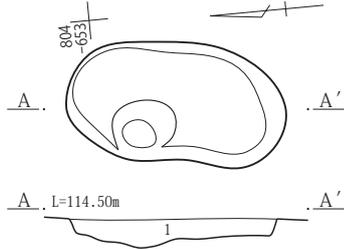
29号土坑



29号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を少量含む。締りあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を斑状に含む。固く締る。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。固く締る。
4. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。にぶい黄褐色土を微量含む。締りあり。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。固く締る。

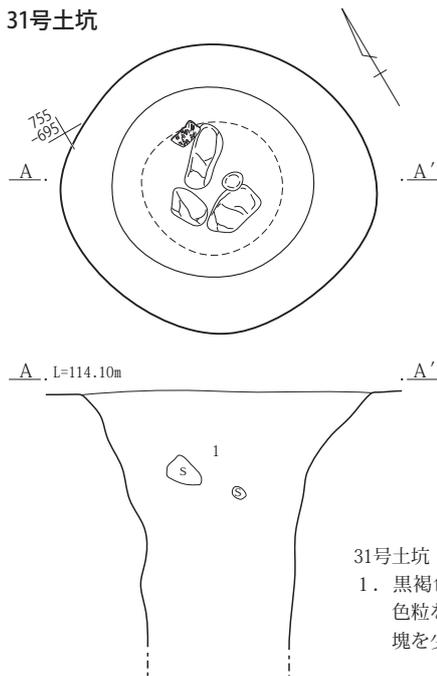
30号土坑



30号土坑

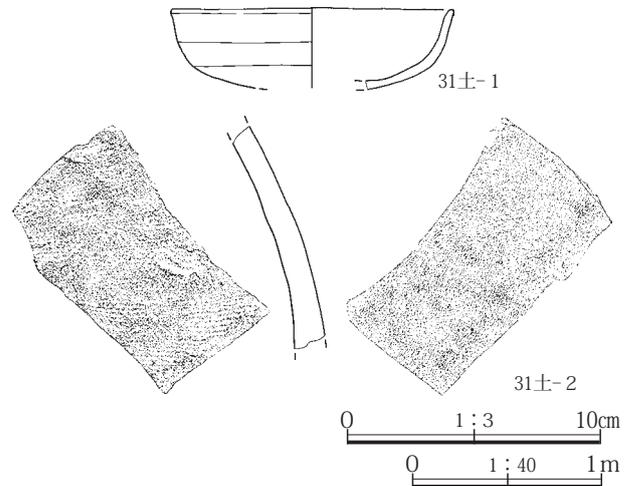
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム土を多量、白色粒・炭化物を微量含む。

31号土坑



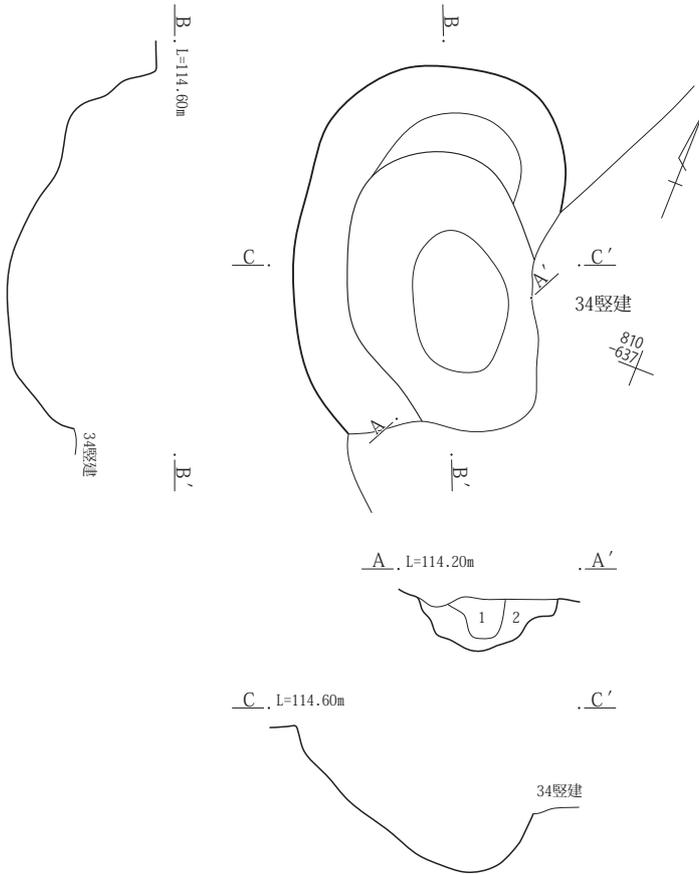
31号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 上層に白色粒を多量、ローム粒・ローム塊を少量含む。



第221図 2区28～31号土坑・27・29・31号土坑出土遺物

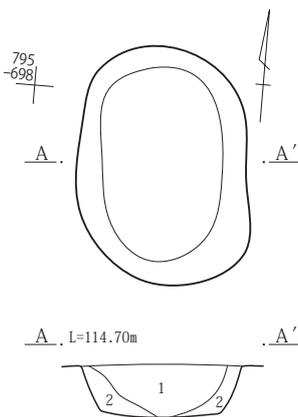
32号土坑



32号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 締り・粘性ややあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ロームを少量含む。締り・粘性ややあり。

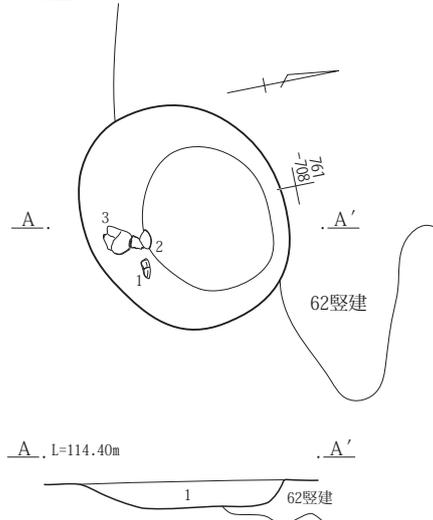
35号土坑



35号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・炭化物を少量、焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・炭化物を少量含む。

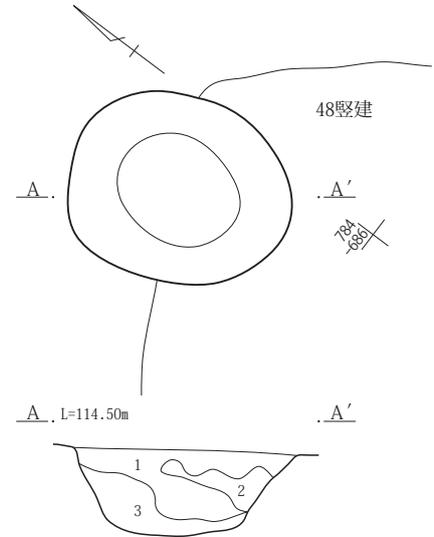
34号土坑



34号土坑

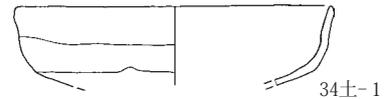
1. 黒褐色土(2.5Y3/2) 白色粒・ローム粒を少量含む。締り・粘性ややあり。

33号土坑



33号土坑

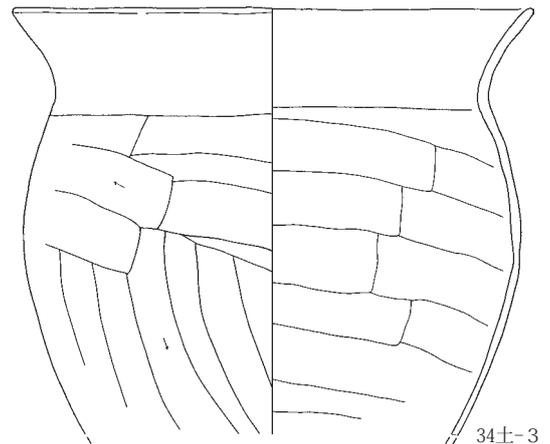
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
2. 暗褐色土(7.5YR3/4) 炭化物を多量、白色粒・ローム粒・焼土粒を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム粒を微量含む。



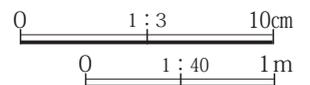
34土-1



34土-2

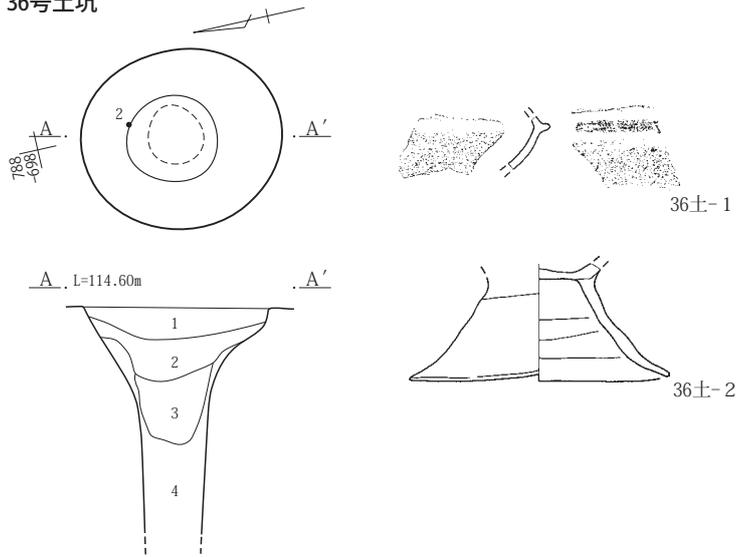


34土-3

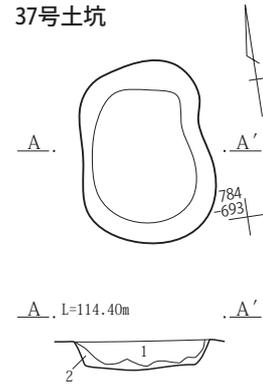


第222図 2区32~35号土坑・34号土坑出土遺物

36号土坑



37号土坑



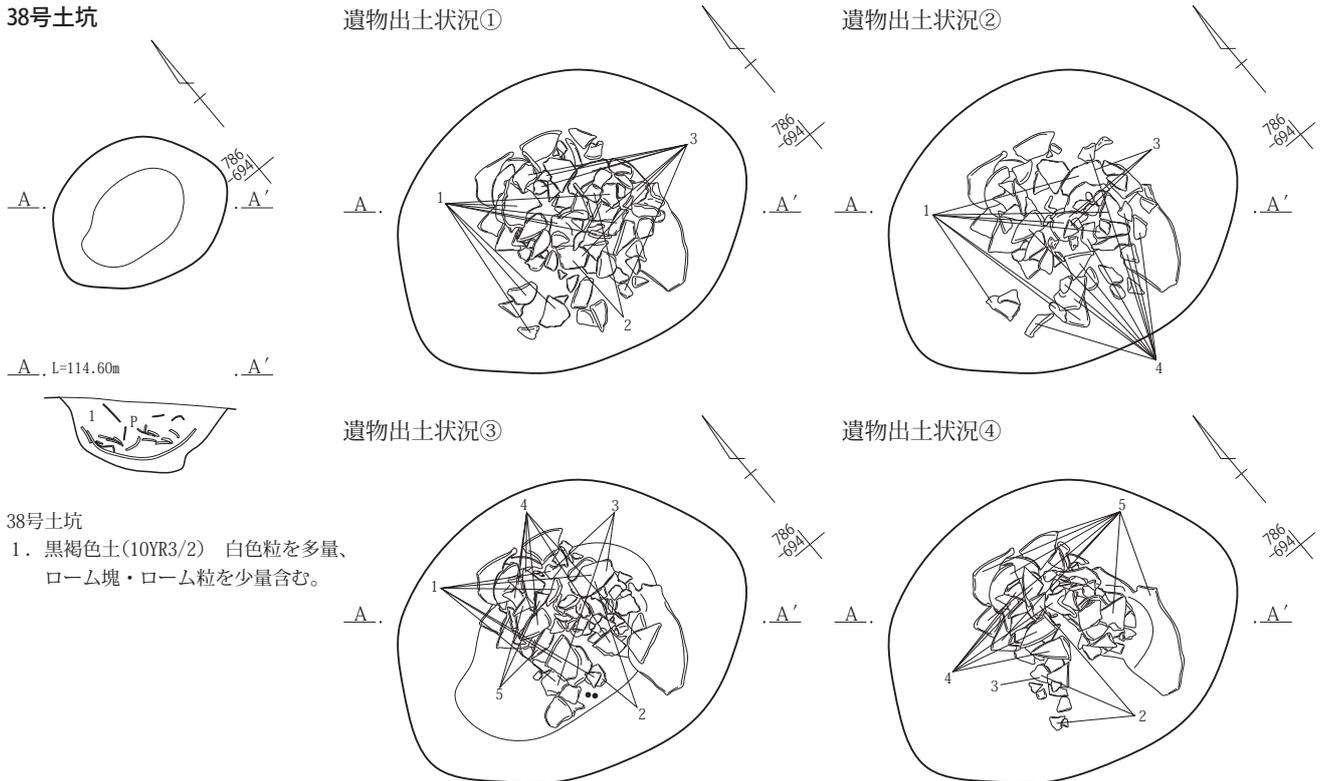
37号土坑

- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を少量、ローム塊を微量含む。
- 2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。締りあり。

36号土坑

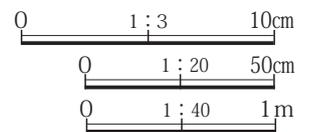
- 1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
- 2. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・焼土粒を微量含む。
- 3. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒を微量含む。締りあり。
- 4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を少量含む。

38号土坑

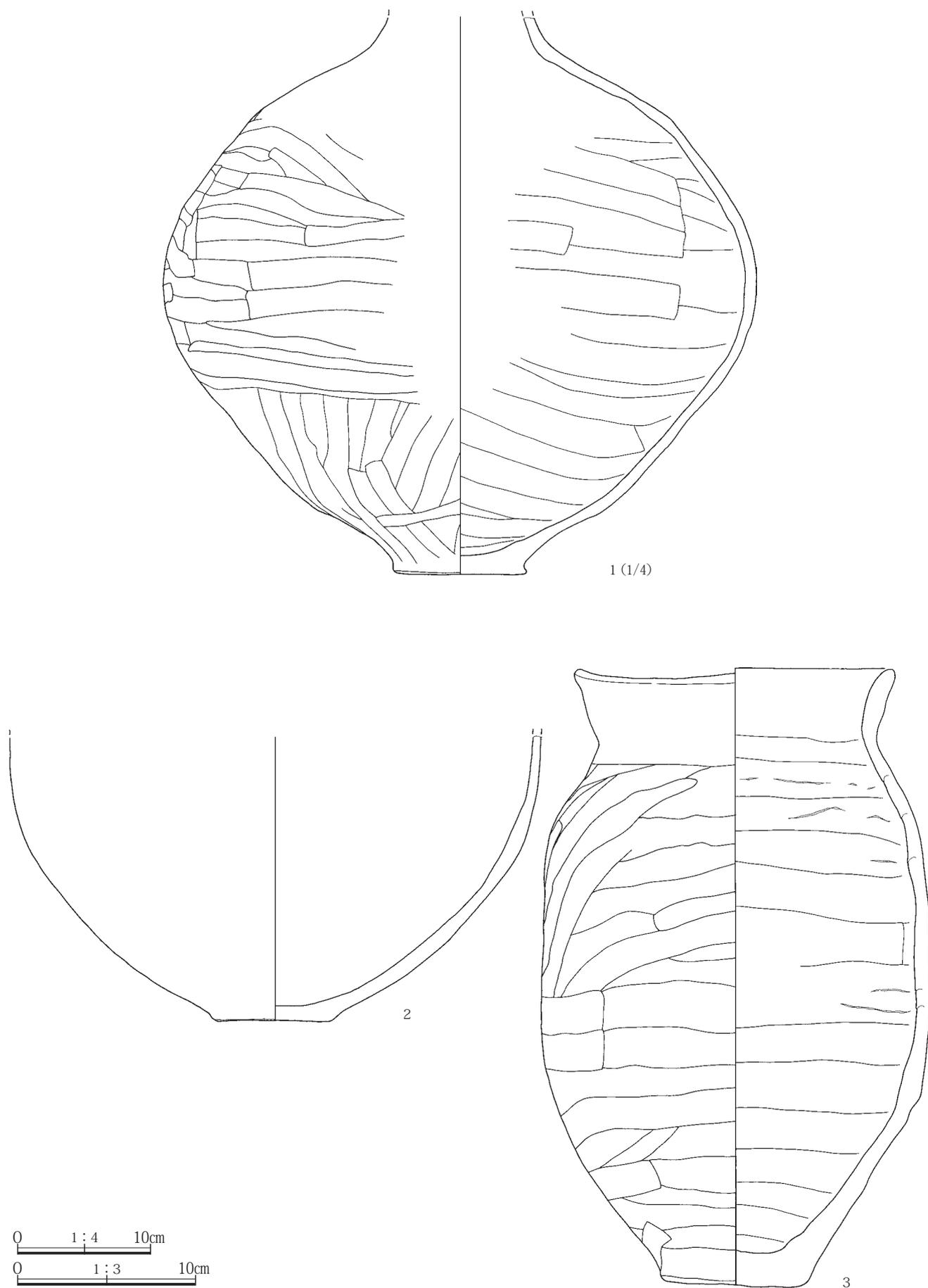


38号土坑

- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。



第223図 2区36～38号土坑・36号土坑出土遺物

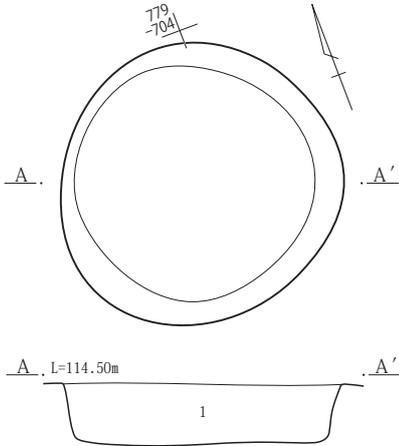


第224図 2区38号土坑出土遺物(1)



第225図 2区38号土坑出土遺物(2)

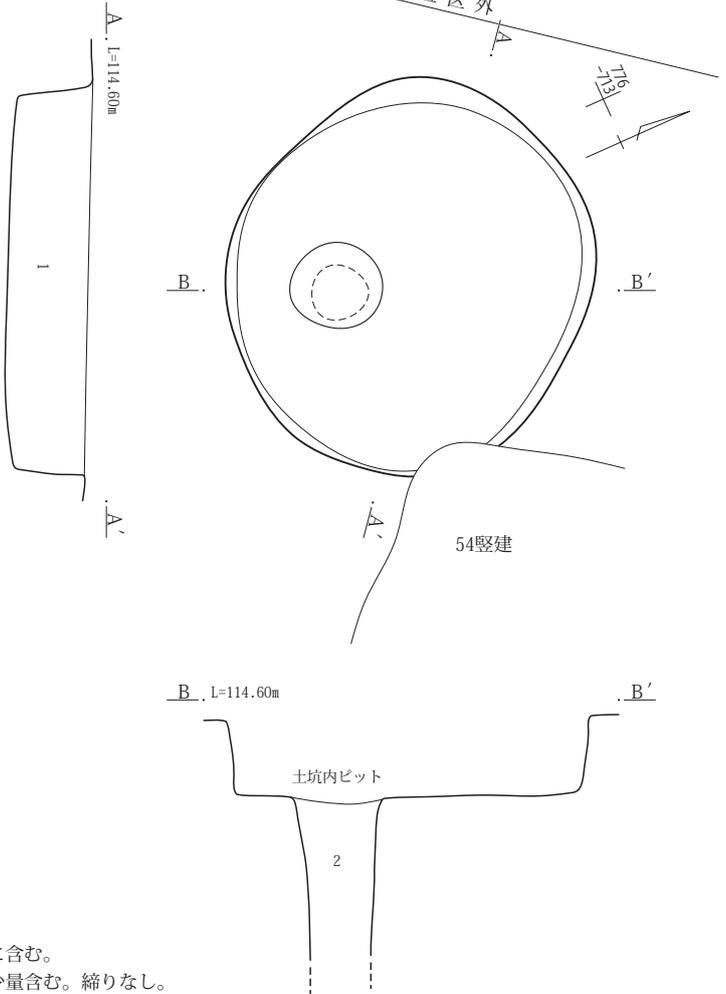
39号土坑



39号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、ローム塊を少量含む。

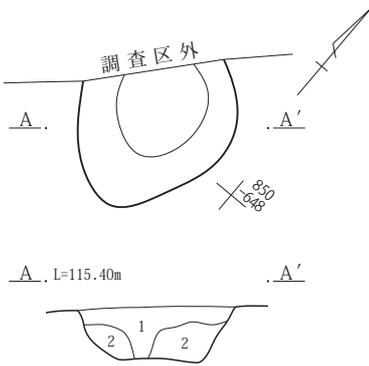
40号土坑



40号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を斑状に多量に含む。  
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ローム塊を少量含む。縮りなし。

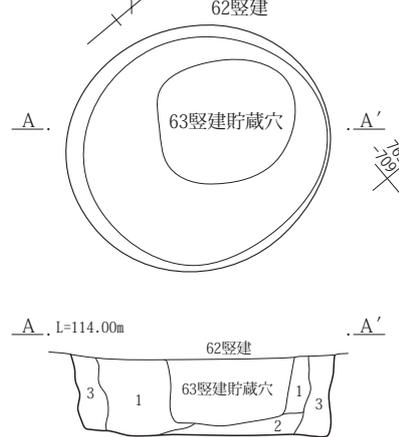
41号土坑



41号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。縮り・粘性ややあり。  
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。縮り・粘性ややあり。

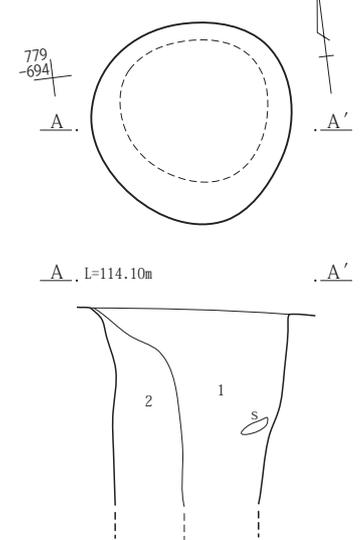
42号土坑



42号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰白色粒を少量含む。固く縮る。  
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量、灰白色粒を少量含む。  
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。にぶい黄褐色土を微量含む。縮りややあり。粘性なし。

43号土坑



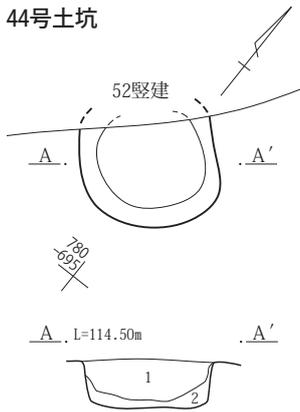
43号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を少量含む。縮りあり。  
2. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ローム塊を多量に含む。

0 1:40 1m

第226図 2区39~43号土坑

44号土坑



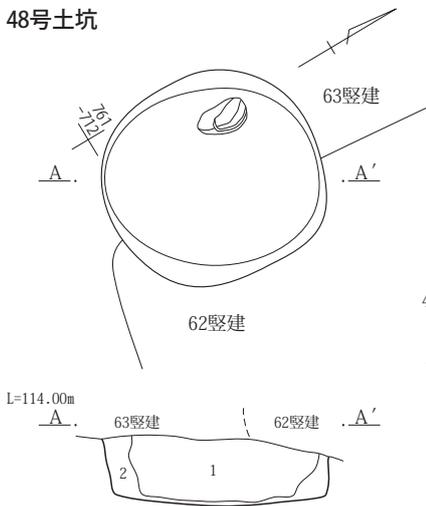
44号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、ローム塊を微量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を少量含む。

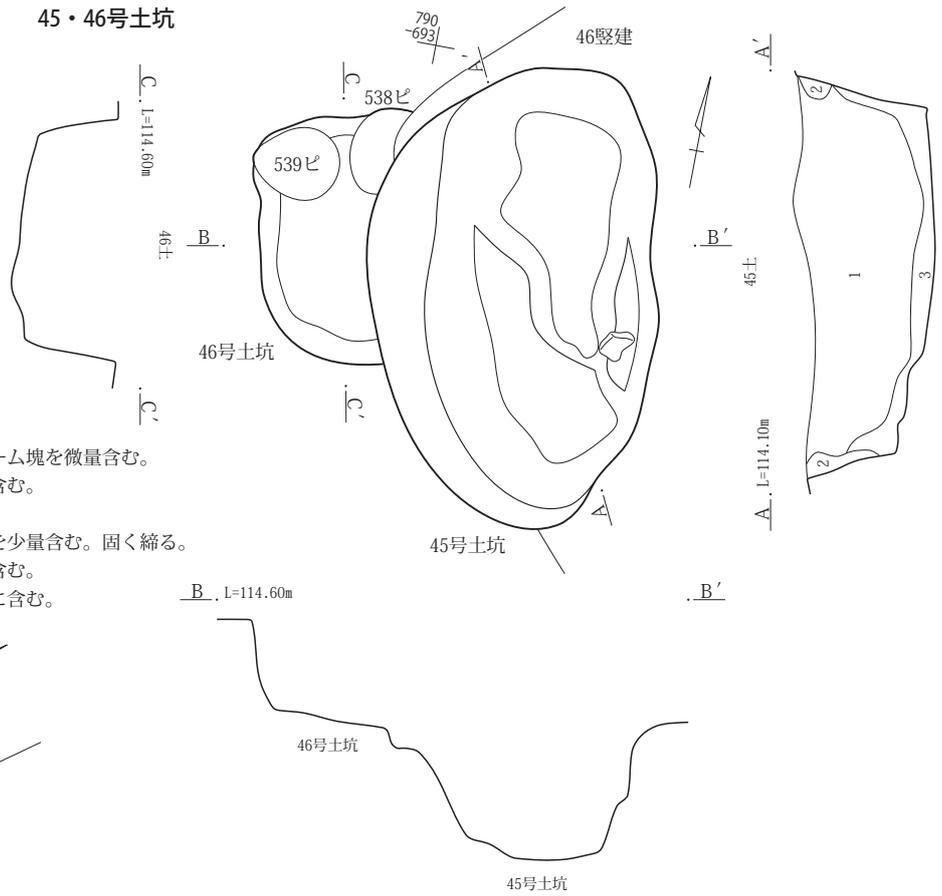
45号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム塊を少量含む。固く締る。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) 黒褐色土を微量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。

48号土坑



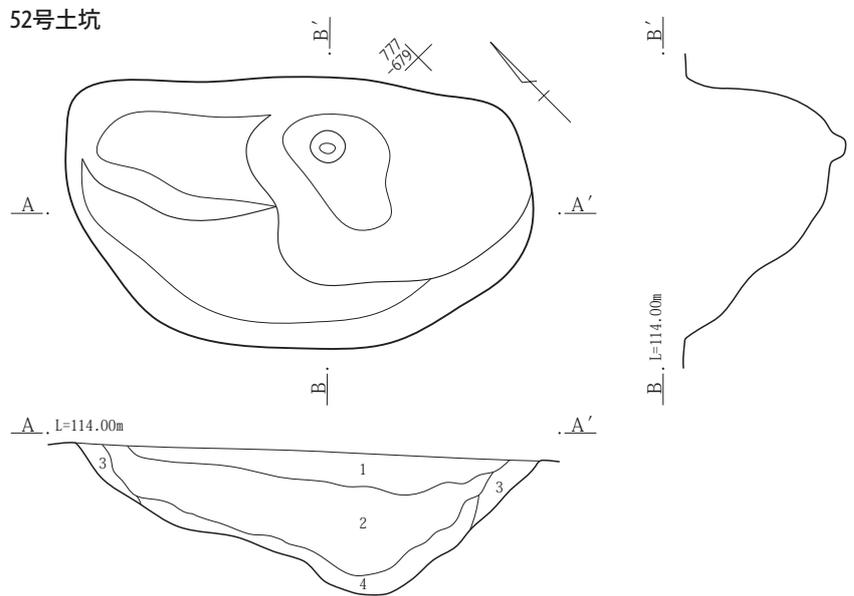
45・46号土坑



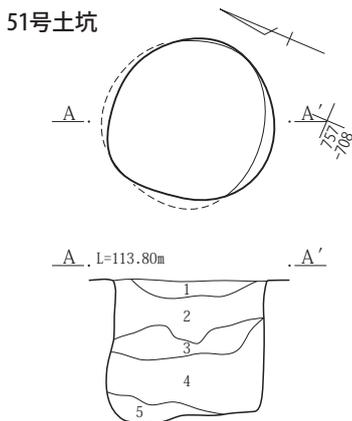
48号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。締りあり。粘性なし。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。にぶい黄褐色土を微量含む。締りややあり。粘性なし。

52号土坑



51号土坑

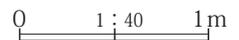


51号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粒を多量、黒褐色土・ローム塊を少量含む。固く締る。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。固く締る。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム塊を含む。固く締る。
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 灰黄褐色土を少量含む。

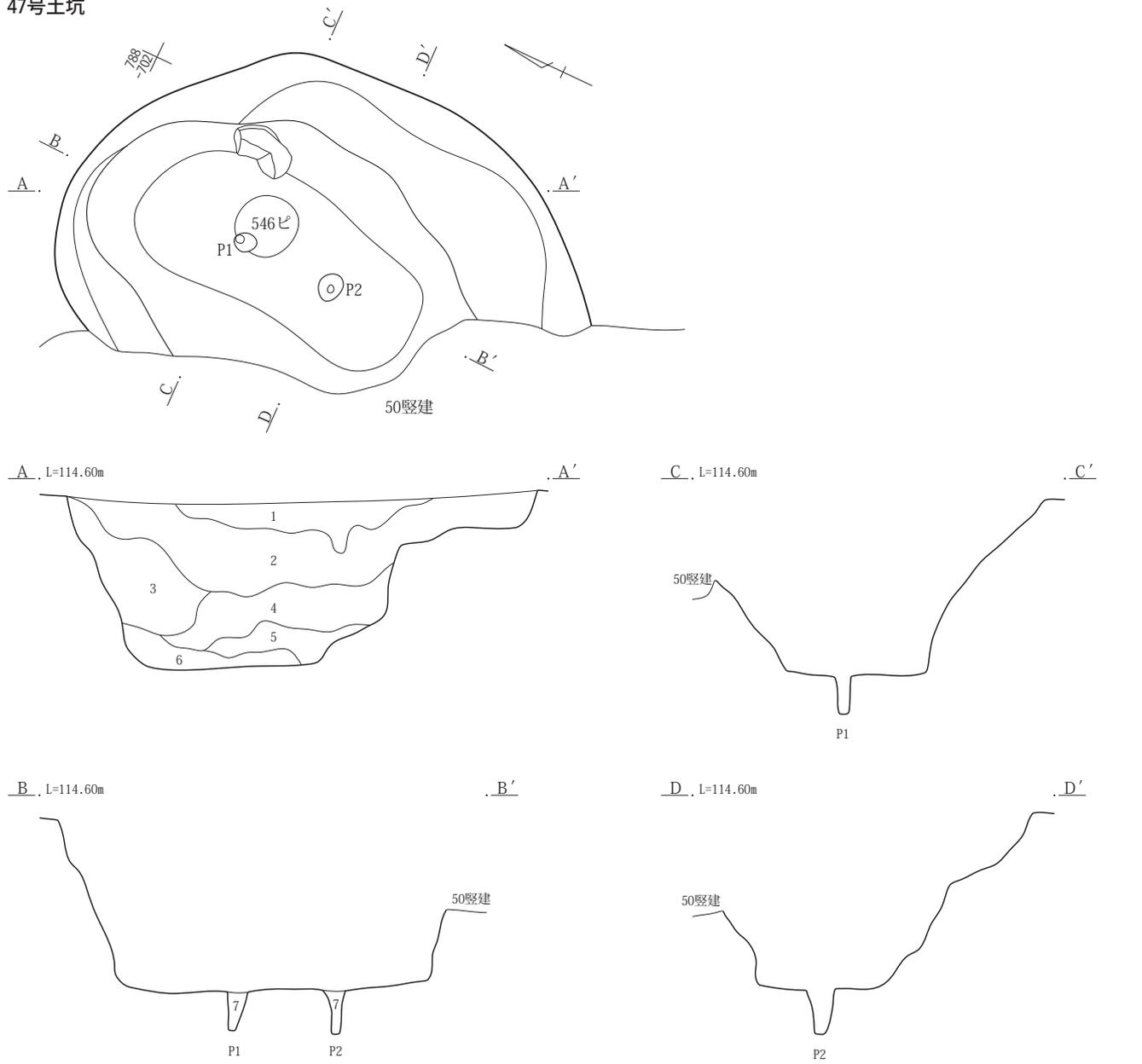
52号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒を少量含む。固く締る。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒・ローム粒を微量含む。固く締る。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒褐色土を微量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



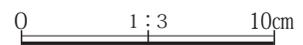
第227図 2区44~46・48・51・52号土坑

47号土坑



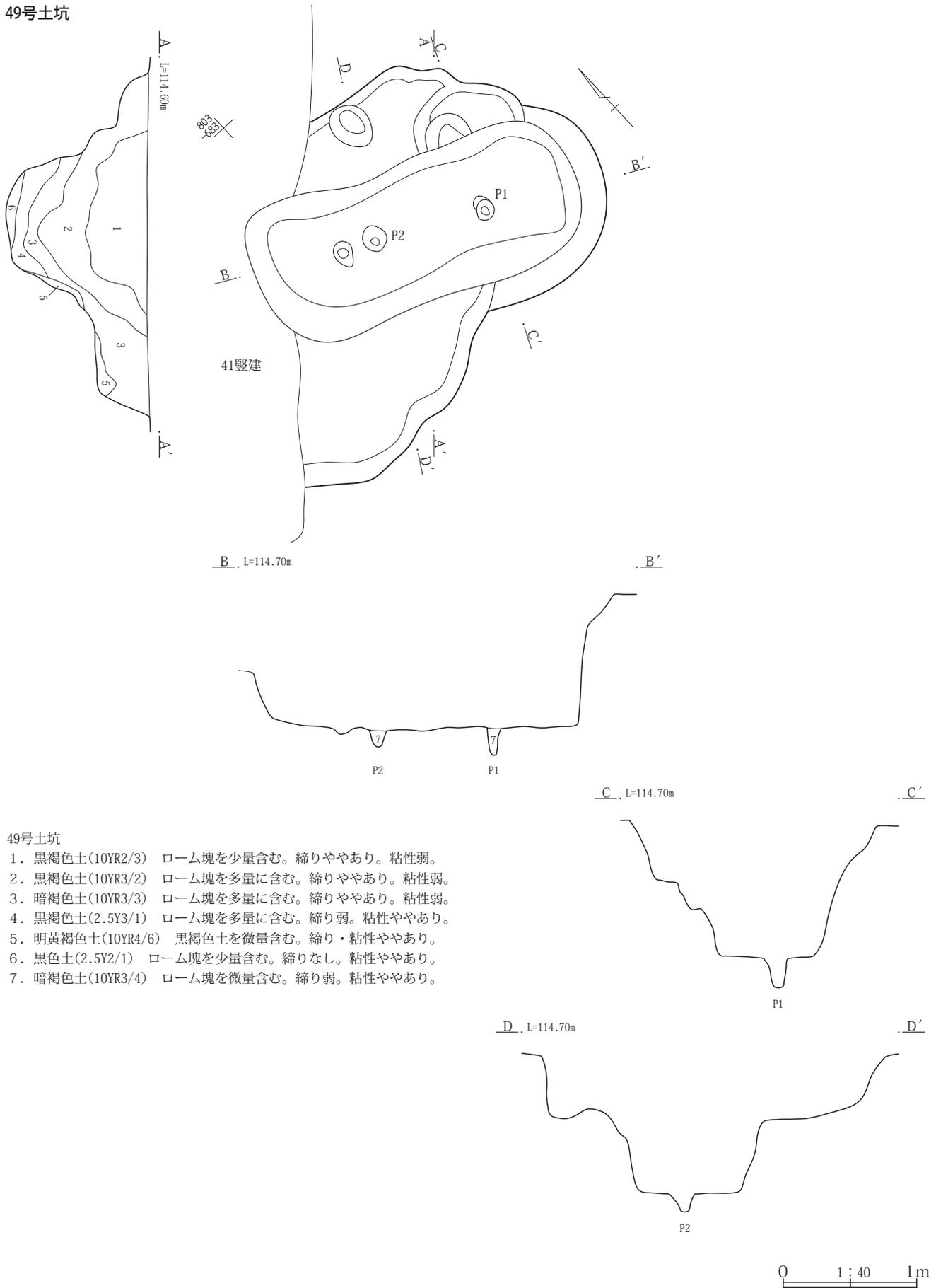
47号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。締り・粘性ややあり。
2. 黒褐色土(2.5Y3/2) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土を微量含む。締り・粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 灰黄褐色土塊・ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
5. 黄褐色土(10YR5/6) 黒褐色土を微量含む。締り・粘性ややあり。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。締り・粘性ややあり。
7. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。暗褐色土を少量含む。締りなし。



第228図 2区47号土坑・出土遺物

49号土坑

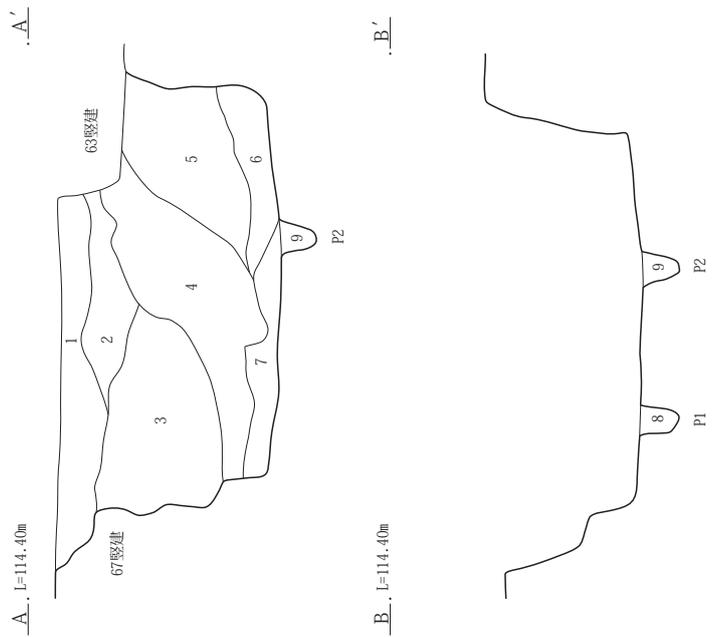
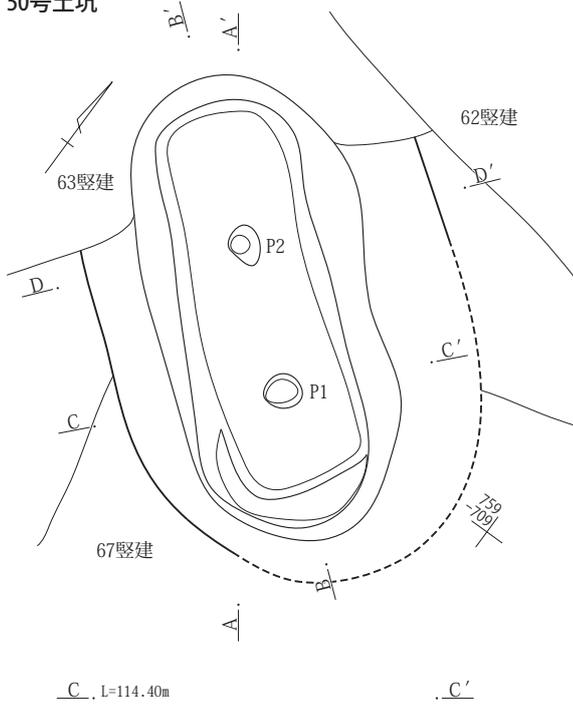


49号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊を少量含む。縮りややあり。粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量に含む。縮りややあり。粘性弱。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。縮りややあり。粘性弱。
4. 黒褐色土(2.5Y3/1) ローム塊を多量に含む。縮り弱。粘性ややあり。
5. 明黄褐色土(10YR4/6) 黒褐色土を微量含む。縮り・粘性ややあり。
6. 黒色土(2.5Y2/1) ローム塊を少量含む。縮りなし。粘性ややあり。
7. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を微量含む。縮り弱。粘性ややあり。

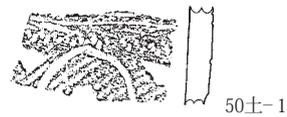
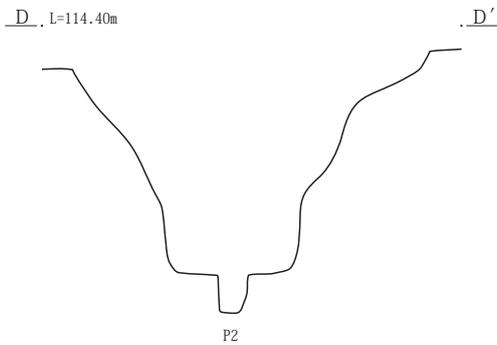
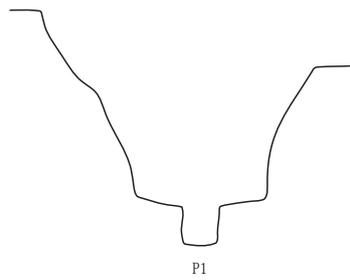
第229図 2区49号土坑

50号土坑

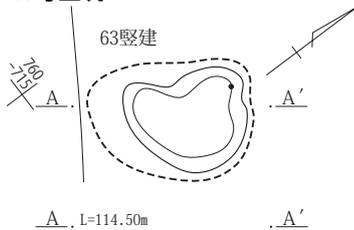


50号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を微量含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を斑状に多量、灰白色粒を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒を少量含む。粘性あり。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮りあり。
6. 黒褐色土(5YR2/1) ローム粒を少量含む。縮り弱。
7. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒褐色土を少量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/4) 縮り弱。粘性ややあり。
9. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量含む。縮り弱。粘性ややあり。

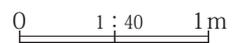


105号土坑

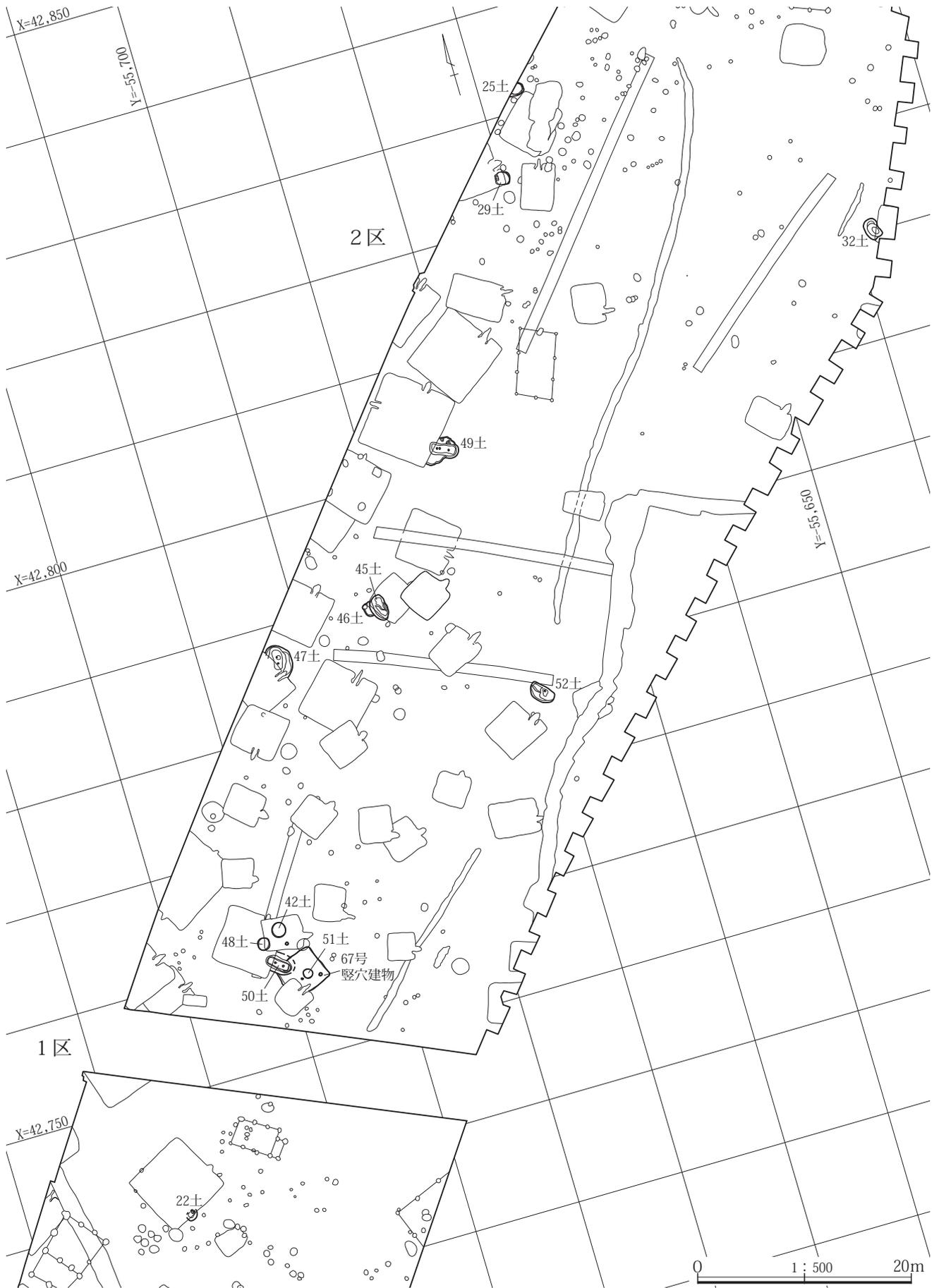


105号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粒・ローム粒・焼土塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。



第230図 2区50・105号土坑、50号土坑出土遺物



第231図 縄文時代の遺構分布

## 5. ピット(第20表、付図)

2区では調査区全体でピットを検出した。建物の集中する調査区の西側に多く見られ、集中する箇所があり、掘立柱建物として調査を行ったものもあった。その周囲を含め、単独のピットとして調査を行ったものは236基を数える。(付図を参照)平面形状は、ほとんどが円形または楕円形である。径は30cm～50cmが大半である。確認面からの深さは、50cm以上のものもあるが、大半は20cm～40cmである。遺物が出土したピットは97基あり、多くは土師器で、須恵器も僅かに含まれていたが、ほとんどが小片であった。

### 2区390号ピット(第232図、第20表、PL.55・115)

**座標値** X=42,844・42,845 Y=-55,649

**重複遺構** 389号ピット **形状** 円形

**規模** 長軸0.45m 短軸(0.40m) 深さ0.63m

**遺物** 埋没土中から土師器の小片18点、須恵器1点が出土した。掲載したのは須恵器杯蓋である。

**所見** 掲載した須恵器杯蓋は8世紀第2四半期～第3四半期に比定できる。

### 2区391号ピット(第232図、第20表、PL.55)

**座標値** X=42,840・42,841 Y=-55,647・-55,648

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.65m 短軸0.58m 深さ0.39m

**遺物** 埋没土中から土師器の小片が多数、須恵器の小片が2点出土した。掲載したのは、1：土師器杯、2：同鉢である。

**所見** 掲載した遺物は8世紀第3四半期に比定できる。

### 2区458号ピット(第232図、第20表、PL.55)

**座標値** X=42,821～42,823 Y=-55,669・-55,670

**形状** 楕円形

**規模** 長軸1.20m 短軸1.00m 深さ -

**遺物** 埋没土中から土師器の小片8点、須恵器の小片2点が出土した。掲載したのは須恵器壺である。

**所見** 形状から、すり鉢形で下部が井筒状に深くなる井戸とみられる。出土遺物から時期は古墳時代後期と考えられる。

### 2区464号ピット(第232図、第20表、PL.55)

**座標値** X=42,836・42,837 Y=-55,650・-55,651

**形状** 不整形

**規模** 長軸1.20m 短軸0.80m 深さ -

**遺物** 埋没土中から土師器の小片13点、須恵器の小片1点が出土した。掲載したのは須恵器甕である。

**所見** 形状から、井筒形の井戸の可能性ある。出土遺物から時期は古墳時代後期と考えられる。

### 2区471号ピット(第233図、第20表、PL.55)

**座標値** X=42,836・42,837 Y=-55,655・-55,656

**重複遺構** 24号竪穴建物

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.62m 短軸0.53m 深さ1.03m

**遺物** 埋没土中から土師器の小片10点、須恵器1点が出土した。掲載したのは須恵器の杯蓋である。

**所見** 掲載した須恵器杯蓋は8世紀第2四半期～第3四半期に比定できる。

### 2区526号ピット(第233図、第20表、PL.55)

**座標値** X=42,841 Y=-55,652

**形状** 楕円形

**規模** 長軸0.45m 短軸0.32m 深さ0.48m

**遺物** 埋没土中から土師器が3点出土した。掲載したのは杯である。

**所見** 掲載した土師器杯は8世紀第2四半期～第3四半期に比定できる。

### 2区556号ピット(第233図、第20表、PL.55)

**座標値** X=42,773 Y=-55,712・-55,713

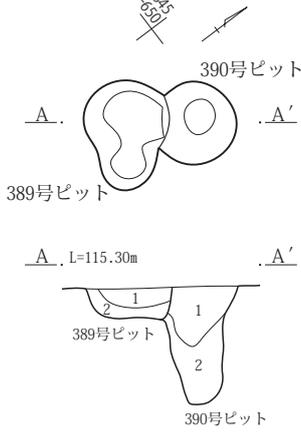
**形状** 円形

**規模** 長軸0.60m 短軸0.60m 深さ -

**遺物** 埋没土中から土師器が16点出土した。掲載したのは杯である。

**所見** 形状から、井筒形の井戸の可能性ある。出土遺物から時期は6世紀後半である。

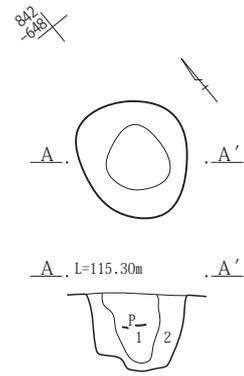
389号・390号ピット



389号・390号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・炭化物・焼土粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。

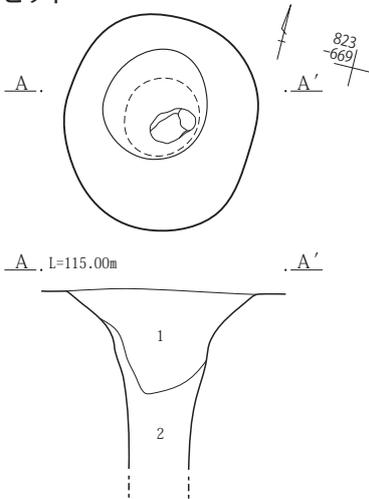
391号ピット



391号ピット

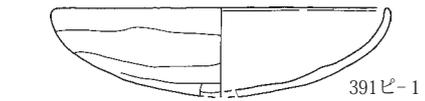
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・炭化物・焼土粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・焼土塊を少量、炭化物を微量含む。

458号ピット

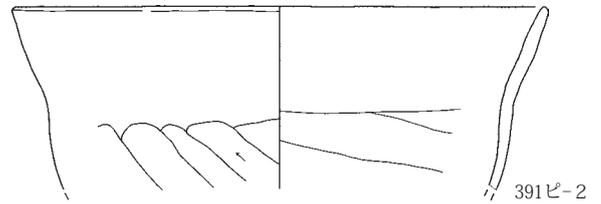


458号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。

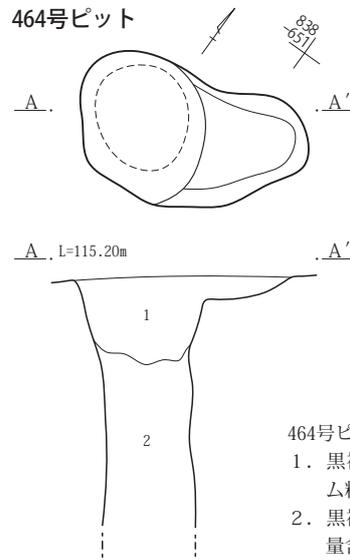


391ピ-1



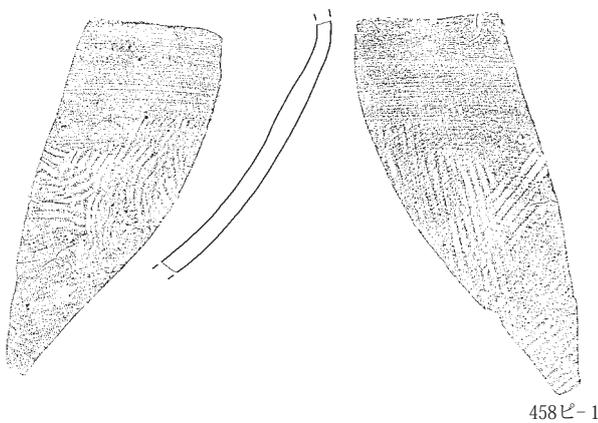
391ピ-2

464号ピット

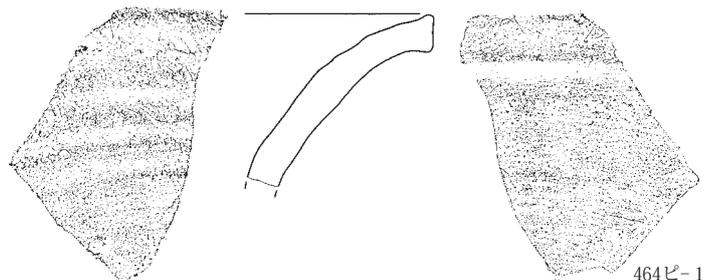


464号ピット

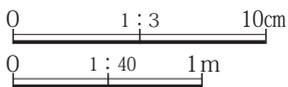
1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。



458ピ-1



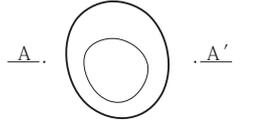
464ピ-1



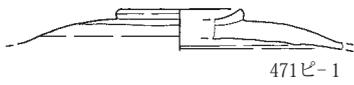
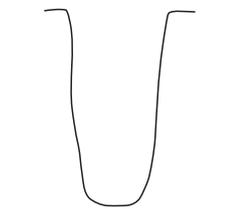
第232図 2区389・390・391・458・464号ピット・出土遺物

第3章 調査の成果

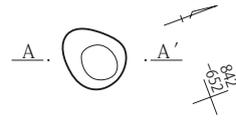
471号ピット



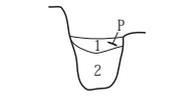
A. L=114.80m A'



526号ピット

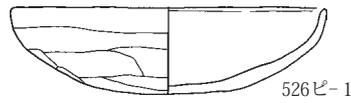


A. L=115.20m A'



526号ピット

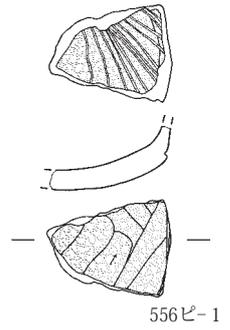
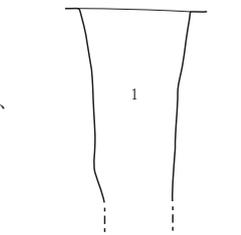
1. 黒褐色土(10YR3/2) 褐灰色粘質土・焼土塊を少量、ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を微量含む。



556号ピット



A. L=114.60m A'



556号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。

2区558号ピット(第233図、第20表、PL.55・115)

座標値 X=42,764 Y=-55,699

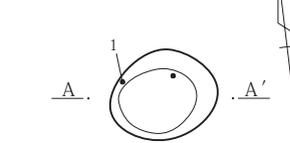
形状 円形

規模 長軸0.30m 短軸0.25m 深さ0.14m

遺物 埋没土中から土師器の小片1点、石製品1点が出土した。掲載したのは滑石製紡輪である。

所見 出土した遺物は古墳時代～古代のものと考えられる。

558号ピット

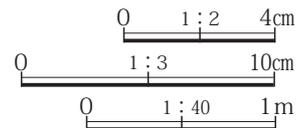
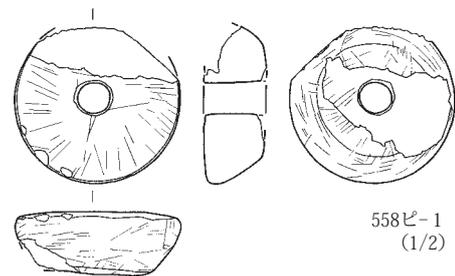


A. L=114.40m A'



558号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。



第233図 2区471・526・556・558号ピット・出土遺物

第20表 2区ピット一覧表

区	遺構名	座標値		平面形状	規模(m)		
					長軸	短軸	深さ
2	301号ピット	X=42,853・42,854	Y=-55,632・-55,633	楕円形	0.70	0.60	0.14
2	302号ピット	X=42,853	Y=-55,629・-55,630	楕円形	0.77	0.60	0.36
2	303号ピット	X=42,851・42,852	Y=-55,630・-55,631	楕円形	0.55	0.55	0.21
2	304号ピット	X=42,851	Y=-55,630・-55,631	円形	0.45	(0.20)	0.14
2	305号ピット	X=42,846・42,847	Y=-55,622	楕円形	0.40	0.33	0.17
2	306号ピット	X=42,846・42,847	Y=-55,621・-55,622	楕円形	0.65	0.65	0.34
2	307号ピット	X=42,844	Y=-55,621	楕円形	0.50	0.32	0.34
2	308号ピット	X=42,842	Y=-55,621・-55,622	楕円形	0.44	(0.20)	0.23
2	309号ピット	X=42,854	Y=-55,641・-55,642	円形	0.22	0.20	0.12
2	310号ピット	6号柱穴P3					
2	311号ピット	X=42,849・42,850	Y=-55,639	楕円形	0.35	0.28	0.24
2	312号ピット	X=42,849・42,850	Y=-55,646・-55,647	隅丸方形	0.54	0.50	0.71
2	313号ピット	X=42,848	Y=-55,648	楕円形	0.59	0.46	0.54
2	314号ピット	X=42,848・42,849	Y=-55,648	楕円形	0.55	0.38	0.21
2	315号ピット	X=42,850・42,851	Y=-55,647	隅丸方形か	0.50	0.50	0.60
2	316号ピット	X=42,850	Y=-55,647	円形	0.50	(0.33)	0.41
2	317号ピット	X=42,846	Y=-55,651	楕円形	0.35	0.30	0.37
2	318号ピット	X=42,844・42,845	Y=-55,645・-55,646	円形	0.35	0.30	0.29
2	319号ピット	15号掘立柱P1					
2	320号ピット	15号掘立柱P12					
2	321号ピット	X=42,844	Y=-55,651	楕円形	0.35	0.35	0.52
2	322号ピット	X=42,844	Y=-55,651	隅丸方形か	0.35	(0.25)	0.23
2	323号ピット	X=42,845	Y=-55,647・-55,648	円形	0.69	0.61	1.15
2	324号ピット	X=42,843・42,844	Y=-55,646・-55,647	楕円形	0.50	0.43	0.89
2	325号ピット	X=42,842	Y=-55,642	楕円形	0.67	0.35	0.42
2	326号ピット	X=42,841	Y=-55,643・-55,644	楕円形	0.65	0.60	0.45
2	327号ピット	15号掘立柱P10					
2	328号ピット	6号柱穴P2					
2	329号ピット	6号柱穴P1					
2	377号ピット	X=42,849	Y=-55,646	円形	0.35	0.33	0.42
2	378号ピット	15号掘立柱P11					
2	379号ピット	X=42,844	Y=-55,653	円形	0.38	0.35	0.25
2	380号ピット	15号掘立柱P5					
2	381号ピット	X=42,840	Y=-55,649	円形	0.35	0.35	0.15
2	382号ピット	15号掘立柱P6					
2	383号ピット	X=42,840	Y=-55,650	楕円形	0.43	0.38	0.34
2	384号ピット	X=42,839	Y=-55,651	円形	0.55	0.55	0.55
2	385号ピット	X=42,838	Y=-55,651	楕円形	0.50	0.39	0.17
2	386号ピット	X=42,843	Y=-55,652・-55,653	楕円形	0.45	0.43	0.69
2	387号ピット	X=42,846	Y=-55,640	円形	0.43	0.38	0.41
2	388号ピット	X=42,844	Y=-55,641・-55,642	楕円形	0.55	0.40	0.33
2	389号ピット	X=42,844	Y=-55,649	楕円形	0.60	0.34	0.20
2	390号ピット	X=42,844・42,845	Y=-55,649	円形	0.45	(0.40)	0.63
2	391号ピット	X=42,840・42,841	Y=-55,647・-55,648	楕円形	0.65	0.58	0.39
2	392号ピット	X=42,838	Y=-55,647	円形	0.26	0.26	0.11
2	393号ピット	X=42,837・42,838	Y=-55,651・-55,652	楕円形	1.00	0.82	1.36
2	394号ピット	15号掘立柱P7					
2	395号ピット	X=42,834	Y=-55,657	楕円形	0.33	0.27	0.33
2	396号ピット	X=42,834	Y=-55,656・-55,657	円形	0.60	0.52	0.45
2	397号ピット	X=42,832	Y=-55,657	楕円形	0.58	0.46	0.31
2	398号ピット	X=42,830・42,831	Y=-55,660	楕円形	0.62	0.45	0.40
2	399号ピット	X=42,832	Y=-55,658	円形	0.30	0.30	0.15
2	400号ピット	X=42,832	Y=-55,658	円形	0.30	0.28	0.41
2	401号ピット	X=42,831	Y=-55,657	楕円形	0.60	0.38	0.37
2	402号ピット	X=42,832	Y=-55,655	円形	0.31	0.30	0.24
2	403号ピット	X=42,831	Y=-55,654・-55,655	楕円形	0.45	0.38	0.10
2	404号ピット	X=42,831	Y=-55,653・-55,654	円形	0.40	0.38	0.26
2	405号ピット	X=42,830・42,831	Y=-55,654	楕円形	0.48	0.35	0.18
2	406号ピット	X=42,830	Y=-55,654・-55,655	楕円形	0.56	0.48	0.33
2	407号ピット	X=42,830・42,831	Y=-55,656	楕円形	0.35	0.31	0.20
2	408号ピット	X=42,830	Y=-55,656・-55,657	円形	0.50	0.46	0.57
2	409号ピット	X=42,829	Y=-55,656	楕円形	0.41	0.31	0.28
2	410号ピット	X=42,828・42,829	Y=-55,656・-55,657	楕円形	0.35	0.30	0.16
2	411号ピット	X=42,828・42,829	Y=-55,656	楕円形	0.40	(0.28)	0.10
2	412号ピット	X=42,833	Y=-55,664	円形	0.28	0.26	0.32
2	413号ピット	X=42,833	Y=-55,664	楕円形	0.30	0.25	0.22
2	414号ピット	X=42,828	Y=-55,657	円形	0.33	0.30	0.25

第3章 調査の成果

区	遺構名	座標値		平面形状	規模(m)		
					長軸	短軸	深さ
2	415号ピット	X=42,826・42,827	Y=-55,659	円形	0.34	0.32	0.33
2	416号ピット	X=42,829	Y=-55,660	円形	0.38	0.35	0.31
2	417号ピット	X=42,832	Y=-55,664・-55,665	円形	0.60	0.58	0.47
2	418号ピット	X=42,832	Y=-55,664	楕円形	0.38	0.30	0.31
2	419号ピット	X=42,830・42,831	Y=-55,666・-55,667	円形	0.54	0.52	0.42
2	420号ピット	X=42,827	Y=-55,661	楕円形	0.38	0.33	0.22
2	421号ピット	X=42,827・42,828	Y=-55,661	円形	0.60	0.60	0.39
2	422号ピット	X=42,827	Y=-55,661・-55,662	楕円形	0.45	0.35	0.19
2	423号ピット	X=42,827	Y=-55,663	円形	0.60	0.60	0.47
2	424号ピット	X=42,825・42,826	Y=-55,661・-55,662	楕円形	0.86	0.73	0.56
2	425号ピット	X=42,825・42,826	Y=-55,662・-55,663	円形	0.57	0.57	0.41
2	426号ピット	X=42,824	Y=-55,661	楕円形	0.55	0.48	0.32
2	427号ピット	X=42,823	Y=-55,661・-55,662	楕円形	0.80	0.60	0.15
2	428号ピット	X=42,823・42,824	Y=-55,663	円形	0.38	0.35	0.24
2	429号ピット	X=42,824・42,825	Y=-55,663・-55,664	円形	0.72	0.72	0.48
2	430号ピット	X=42,824	Y=-55,665	円形	0.60	0.60	0.43
2	431号ピット	X=42,849・42,850	Y=-55,647	円形	0.38	0.30	0.26
2	432号ピット	X=42,823	Y=-55,664	楕円形	0.40	0.33	0.50
2	433号ピット	X=42,822	Y=-55,664・-55,665	円形	0.28	0.25	0.15
2	434号ピット	X=42,818・42,819	Y=-55,666	円形	0.48	0.48	0.50
2	435号ピット	X=42,817・42,818	Y=-55,666	円形	0.37	0.37	0.31
2	436号ピット	X=42,817・42,818	Y=-55,666・-55,667	円形	0.40	0.38	0.46
2	437号ピット	X=42,818	Y=-55,667	楕円形	0.35	0.30	0.31
2	438号ピット	X=42,819	Y=-55,667・-55,668	楕円形	0.65	0.52	0.46
2	439号ピット	X=42,817	Y=-55,668	楕円形	0.46	0.40	0.19
2	440号ピット	X=42,816・42,817	Y=-55,669	楕円形	0.40	0.35	0.22
2	441号ピット	X=42,816・42,817	Y=-55,668	円形	0.30	0.28	0.31
2	442号ピット	X=42,816	Y=-55,667	不整形	0.58	0.40	0.52
2	443号ピット	X=42,818	Y=-55,669・-55,670	円形	0.65	0.60	0.48
2	444号ピット	X=42,819	Y=-55,670・-55,671	楕円形	0.63	0.53	0.47
2	445号ピット	X=42,822・42,823	Y=-55,672・-55,673	楕円形	0.55	0.48	0.38
2	446号ピット	X=42,821・42,822	Y=-55,675	楕円形?	0.40	0.40	0.45
2	447号ピット	X=42,821	Y=-55,675	円形	0.40	0.38	0.19
2	448号ピット	X=42,817	Y=-55,673・-55,674	楕円形	0.60	0.45	0.27
2	449号ピット	X=42,829	Y=-55,668	円形	0.55	0.50	0.27
2	450号ピット	X=42,828	Y=-55,669	楕円形	0.53	0.45	0.36
2	451号ピット	X=42,837	Y=-55,647・-55,648	円形	0.65	0.60	0.40
2	452号ピット	X=42,835・42,836	Y=-55,648	楕円形	0.35	0.32	0.22
2	453号ピット	X=42,835	Y=-55,649	楕円形	0.45	0.35	0.23
2	454号ピット	X=42,835	Y=-55,649	楕円形	0.35	0.28	0.16
2	455号ピット	X=42,833・42,834	Y=-55,650	楕円形	0.78	0.50	0.30
2	456号ピット	X=42,834	Y=-55,657・-55,658	楕円形	0.45	0.38	0.39
2	457号ピット	X=42,834	Y=-55,658	円形	0.46	0.40	0.56
2	458号ピット	X=42,821-42,823	Y=-55,669・-55,670	楕円形	1.20	1.00	-
2	459号ピット	X=42,813	Y=-55,669・-55,670	円形	0.30	0.28	0.29
2	460号ピット	X=42,813	Y=-55,669・-55,670	円形か	0.36	0.36	0.32
2	461号ピット	X=42,812	Y=-55,670・-55,671	不整形	0.78	0.43	0.31
2	462号ピット	X=42,812・42,813	Y=-55,672・-55,673	円形	0.46	0.45	0.30
2	463号ピット	X=42,811	Y=-55,672・-55,673	円形	0.27	0.25	0.37
2	464号ピット	X=42,836・42,837	Y=-55,650・-55,651	不整形	1.20	0.80	-
2	465号ピット	X=42,829	Y=-55,653・-55,654	楕円形	0.55	0.32	0.38
2	466号ピット	X=42,827・42,828	Y=-55,652・-55,653	円形	0.50	0.50	0.91
2	467号ピット	X=42,828	Y=-55,651・-55,652	楕円形	0.45	0.32	0.18
2	468号ピット	X=42,826	Y=-55,654	円形	0.45	0.43	0.34
2	469号ピット	X=42,824	Y=-55,657	円形	0.60	0.54	0.26
2	470号ピット	X=42,823	Y=-55,654	楕円形	0.50	0.40	0.28
2	471号ピット	X=42,836・42,837	Y=-55,655・-55,656	楕円形	0.62	0.53	1.03
2	472号ピット	X=42,818	Y=-55,666	楕円形	0.18	0.19	0.31
2	473号ピット	X=42,830	Y=-55,651	円形	0.35	0.35	0.47
2	474号ピット	X=42,821	Y=-55,656	円形	0.25	0.24	0.25
2	475号ピット	X=42,821	Y=-55,656	円形	0.30	0.28	0.19
2	476号ピット	X=42,821	Y=-55,655	円形	0.25	0.25	0.16
2	477号ピット	X=42,821	Y=-55,655	円形	0.34	0.30	0.23
2	478号ピット	X=42,822	Y=-55,657・-55,658	円形	0.49	0.45	1.00
2	479号ピット	X=42,821・42,822	Y=-55,658・-55,659	円形	0.40	0.38	0.18
2	480号ピット	X=42,815	Y=-55,663	円形	0.31	0.30	0.20
2	481号ピット	X=42,838	Y=-55,651	隅丸方形か	0.50	(0.30)	1.19
2	482号ピット	X=42,819	Y=-55,654	楕円形か	0.60	(0.45)	0.37

区	遺構名	座標値		平面形状	規模(m)		
					長軸	短軸	深さ
2	483号ピット	X=42,811・42,812	Y=-55,660	楕円形	0.80	0.60	0.16
2	484号ピット	X=42,825	Y=-55,669	楕円形	0.57	0.51	0.44
2	485号ピット	X=42,823・42,824	Y=-55,668	隅丸方形か	0.65	(0.34)	0.41
2	486号ピット	X=42,831	Y=-55,643	円形	0.43	0.42	0.25
2	487号ピット	X=42,831	Y=-55,642	円形	0.33	0.30	0.27
2	488号ピット	X=42,832・42,833	Y=-55,643	楕円形	0.48	0.46	0.29
2	489号ピット	X=42,832・42,833	Y=-55,644	楕円形	0.38	0.32	0.20
2	490号ピット	X=42,834	Y=-55,643	円形	0.55	0.50	0.50
2	491号ピット	X=42,835・42,836	Y=-55,636	円形	0.41	0.40	0.58
2	492号ピット	X=42,835	Y=-55,634	円形	0.40	0.36	0.23
2	493号ピット	X=42,831	Y=-55,840・-55,841	円形	0.25	0.25	0.28
2	494号ピット	X=42,809・42,810	Y=-55,661	円形か	0.50	0.50	0.53
2	495号ピット	X=42,809・42,810	Y=-55,661・-55,662	楕円形	0.55	0.50	0.28
2	496号ピット	X=42,824・42,825	Y=-55,633・-55,634	楕円形	0.60	0.56	1.23
2	497号ピット	X=42,823・42,824	Y=-55,635・-55,636	円形	0.53	0.49	0.40
2	498号ピット	X=42,821・42,822	Y=-55,635	楕円形	0.45	0.40	0.28
2	499号ピット	X=42,820・42,821	Y=-55,634・-55,635	楕円形	0.46	0.35	0.35
2	500号ピット	X=42,820・42,821	Y=-55,634	楕円形	0.40	0.37	0.29
2	501号ピット	X=42,820	Y=-55,643	円形	0.35	0.33	0.27
2	502号ピット	X=42,819	Y=-55,645	円形	0.40	0.38	0.22
2	503号ピット	X=42,828・42,829	Y=-55,648	楕円形	0.36	0.35	0.35
2	504号ピット	X=42,828・42,829	Y=-55,646	円形	0.36	0.32	0.32
2	505号ピット	X=42,816・42,817	Y=-55,649	円形	0.40	0.38	0.20
2	506号ピット	X=42,818	Y=-55,642・-55,643	円形	0.38	0.37	0.28
2	507号ピット	X=42,812	Y=-55,648・-55,649	円形	0.50	0.45	0.27
2	508号ピット	X=42,812	Y=-55,648	楕円形	0.70	0.55	0.24
2	509号ピット	X=42,812	Y=-55,646	円形	0.35	0.35	0.35
2	510号ピット	X=42,809・42,810	Y=-55,661	円形か	0.42	0.38	0.60
2	511号ピット	X=42,814	Y=-55,635	円形	0.40	0.40	0.33
2	512号ピット	X=42,806・42,807	Y=-55,645・-55,646	円形	0.70	0.65	1.12
2	513号ピット	X=42,805	Y=-55,647	円形	0.40	0.38	0.45
2	514号ピット	X=42,803	Y=-55,643・-55,644	楕円形	0.45	0.35	0.29
2	515号ピット	X=42,800	Y=-55,650	楕円形	0.42	0.30	0.22
2	516号ピット	X=42,806・42,807	Y=-55,655・-55,656	楕円形	0.75	0.65	0.16
2	517号ピット	X=42,806	Y=-55,656・-55,657	円形	0.56	0.52	0.19
2	518号ピット	X=42,802	Y=-55,658	円形	0.30	0.30	0.42
2	519号ピット	X=42,802	Y=-55,658	円形	0.30	0.28	0.28
2	520号ピット	X=42,825・42,826	Y=-55,631・-55,632	円形	0.52	0.49	0.98
2	521号ピット	15号掘立柱P2					
2	522号ピット	15号掘立柱P3					
2	523号ピット	15号掘立柱P4					
2	524号ピット	15号掘立柱P9					
2	525号ピット	15号掘立柱P8					
2	526号ピット	X=42,841	Y=-55,652	楕円形	0.45	0.32	0.48
2	527号ピット	X=42,839	Y=-55,651	隅丸方形か	0.30	(0.12)	0.42
2	528号ピット	X=42,768	Y=-55,678・-55,679	楕円形	0.45	0.40	1.01
2	529号ピット	X=42,797	Y=-55,664	楕円形	0.32	0.25	0.35
2	530号ピット	X=42,835	Y=-55,658	楕円形	0.32	0.27	0.42
2	531号ピット	X=42,835	Y=-55,657	楕円形	0.30	0.26	0.40
2	532号ピット	欠番					
2	533号ピット	X=42,795	Y=-55,697	円形	0.30	0.28	0.30
2	534号ピット	X=42,795	Y=-55,697	円形	0.35	0.30	0.25
2	535号ピット	X=42,780・42,781	Y=-55,692・-55,693	円形	0.60	0.56	0.21
2	536号ピット	X=42,790	Y=-55,692	楕円形	0.45	0.33	0.35
2	537号ピット	X=42,790	Y=-55,693・-55,694	楕円形	0.30	0.30	0.43
2	538号ピット	X=42,789	Y=-55,693	楕円形か	0.45	(0.25)	0.40
2	539号ピット	X=42,789	Y=-55,693	楕円形	0.45	0.35	0.48
2	540号ピット	X=42,788・42,789	Y=-55,696・-55,697	楕円形	0.33	0.28	0.35
2	541号ピット	X=42,786・42,787	Y=-55,691・-55,692	楕円形	0.50	0.35	0.44
2	542号ピット	X=42,785・42,786	Y=-55,696	楕円形	0.35	0.30	0.17
2	543号ピット	X=42,785	Y=-55,688	円形	0.32	0.30	0.41
2	544号ピット	X=42,795・42,796	Y=-55,692	楕円形	0.40	0.38	0.26
2	545号ピット	X=42,794	Y=-55,694・-55,695	楕円形	0.35	0.32	0.17
2	546号ピット	X=42,786・42,787	Y=-55,702	円形	0.40	0.40	0.23
2	547号ピット	X=42,782	Y=-55,703	円形	0.38	0.36	0.35
2	548号ピット	X=42,780	Y=-55,701	円形	0.30	0.30	0.32
2	549号ピット	X=42,776・42,777	Y=-55,708	円形	0.35	0.30	0.26
2	550号ピット	X=42,775	Y=-55,707	楕円形	0.38	0.32	0.57

第3章 調査の成果

区	遺構名	座標値		平面形状	規模(m)		
					長軸	短軸	深さ
2	551号ピット	X=42,774・42,775	Y=-55,703・-55,704	楕円形	0.55	0.45	0.24
2	552号ピット	X=42,773	Y=-55,705	円形	0.55	0.50	0.31
2	553号ピット	X=42,767	Y=-55,700	円形	0.45	0.40	0.25
2	554号ピット	X=42,767・42,768	Y=-55,702・-55,703	円形	0.45	0.45	0.35
2	555号ピット	X=42,769	Y=-55,704	円形	0.50	0.45	0.33
2	556号ピット	X=42,773	Y=-55,712・-55,713	円形	0.60	0.60	-
2	557号ピット	X=42,764	Y=-55,702	円形	0.35	0.35	0.26
2	558号ピット	X=42,764	Y=-55,699	円形	0.30	0.25	0.14
2	559号ピット	X=42,762	Y=-55,701	円形	0.40	0.36	0.25
2	560号ピット	X=42,762	Y=-55,699・-55,700	円形	0.32	0.30	0.18
2	561号ピット	X=42,760	Y=-55,695・-55,696	楕円形	0.75	0.65	1.05
2	562号ピット	X=42,759	Y=-55,700・-55,701	円形	0.45	0.43	1.12
2	563号ピット	X=42,758	Y=-55,705	円形	0.38	0.36	0.42
2	564号ピット	X=42,758	Y=-55,705	円形	0.40	0.38	0.40
2	565号ピット	X=42,773	Y=-55,702	円形か	0.45	(0.20)	0.33
2	566号ピット	X=42,789	Y=-55,684・-55,685	円形	0.70	0.70	1.10
2	567号ピット	X=42,780・42,781	Y=-55,692・-55,693	円形	0.50	0.50	1.75
2	568号ピット	X=42,776	Y=-55,704・-55,705	楕円形	0.75	0.60	1.06
2	569号ピット	X=42,787	Y=-55,677	楕円形	0.40	0.33	0.48
2	570号ピット	X=42,787	Y=-55,677	楕円形	0.35	0.25	0.34
2	571号ピット	X=42,786・42,787	Y=-55,681	楕円形	0.35	0.35	0.40
2	572号ピット	X=42,779	Y=-55,686	楕円形	0.37	0.30	0.25
2	573号ピット	X=42,779・42,780	Y=-55,688	楕円形	0.50	0.35	0.29
2	574号ピット	X=42,770・42,771	Y=-55,705・-55,706	不整形	0.95	0.50	0.49
2	575号ピット	X=42,757・42,758	Y=-55,694・-55,695	楕円形	0.35	0.30	0.36
2	576号ピット	X=42,752	Y=-55,698・-55,699	円形	0.35	0.35	0.31
2	577号ピット	X=42,752	Y=-55,699	円形	0.35	0.35	0.42
2	578号ピット	X=42,752	Y=-55,700	円形	0.40	0.40	0.53
2	579号ピット	X=42,749・42,750	Y=-55,701	楕円形	0.30	0.30	0.50
2	580号ピット	X=42,753	Y=-55,701・-55,702	円形か	0.32	(0.20)	0.25
2	581号ピット	X=42,753・42,754	Y=-55,708	楕円形	0.30	0.28	0.30
2	582号ピット	X=42,754	Y=-55,709	楕円形	0.35	0.25	0.33
2	583号ピット	X=42,753・42,754	Y=-55,709	楕円形	0.40	0.30	0.23
2	584号ピット	X=42,753	Y=-55,708・-55,709	楕円形	0.48	0.38	0.38
2	585号ピット	X=42,753	Y=-55,710	円形	0.33	0.33	0.35
2	586号ピット	X=42,753	Y=-55,711	楕円形	0.39	0.30	0.39
2	587号ピット	X=42,755	Y=-55,713	楕円形	0.50	0.42	0.39
2	588号ピット	X=42,764	Y=-55,716	楕円形	0.32	0.27	0.46
2	589号ピット	X=42,763	Y=-55,716・-55,717	円形	0.35	0.35	0.41
2	590号ピット	X=42,790	Y=-55,685	楕円形か	0.40	(0.40)	0.87
2	591号ピット	X=42,775	Y=-55,681	楕円形か	0.40	(0.20)	0.34
2	592号ピット	X=42,762	Y=-55,703	円形か	0.45	0.45	0.50
2	593号ピット	X=42,761	Y=-55,719	不整形	0.33	0.25	0.21
2	594号ピット	X=42,761・42,762	Y=-55,719	円形	0.25	0.25	0.14
2	595号ピット	X=42,762	Y=-55,719	楕円形	0.35	0.28	0.22
2	596号ピット	X=42,762	Y=-55,718・-55,719	円形	0.40	0.38	0.26
2	597号ピット	X=42,761・42,762	Y=-55,717・-55,718	楕円形	0.35	0.25	0.29
2	911号ピット	X=42,802・42,803	Y=-55,689・-55,690	円形	0.50	0.48	0.66

6. 遺物集中

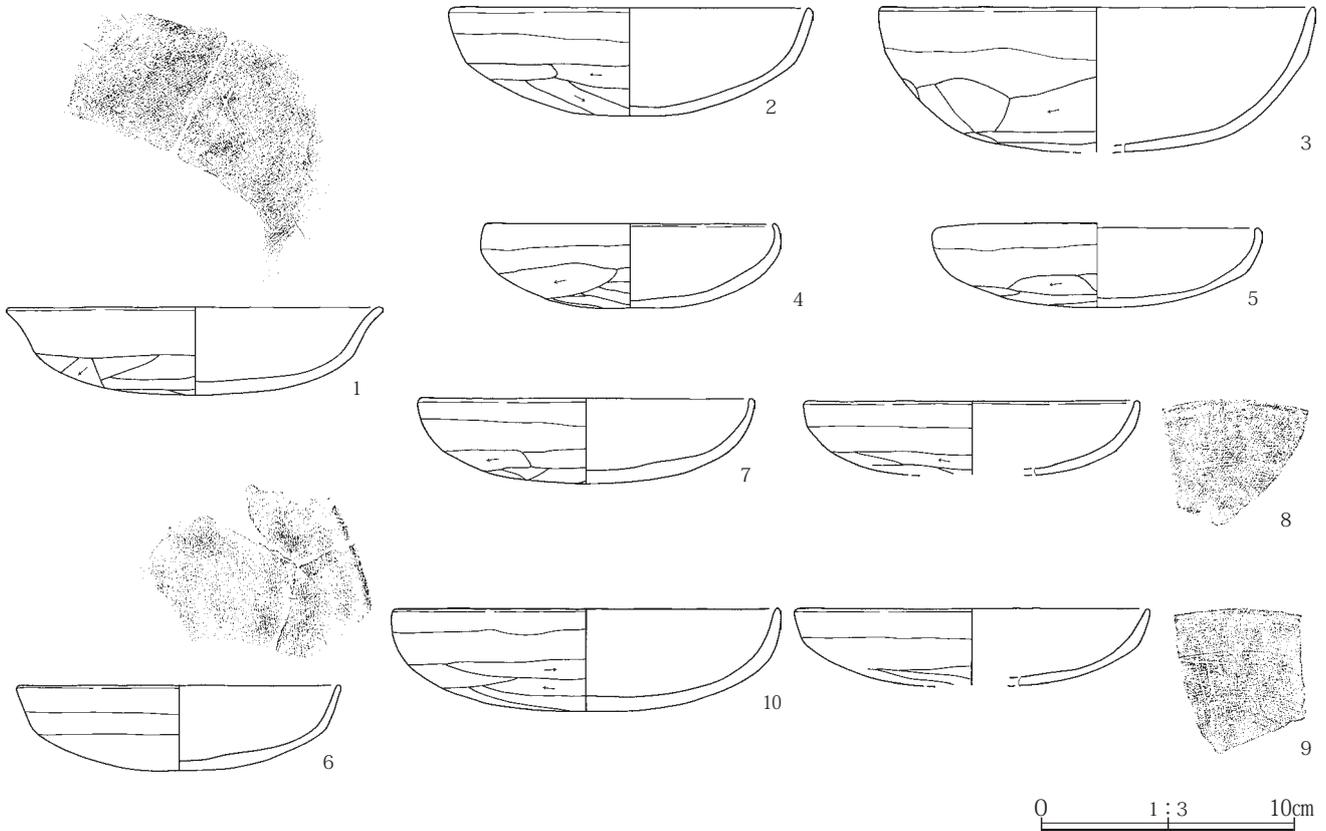
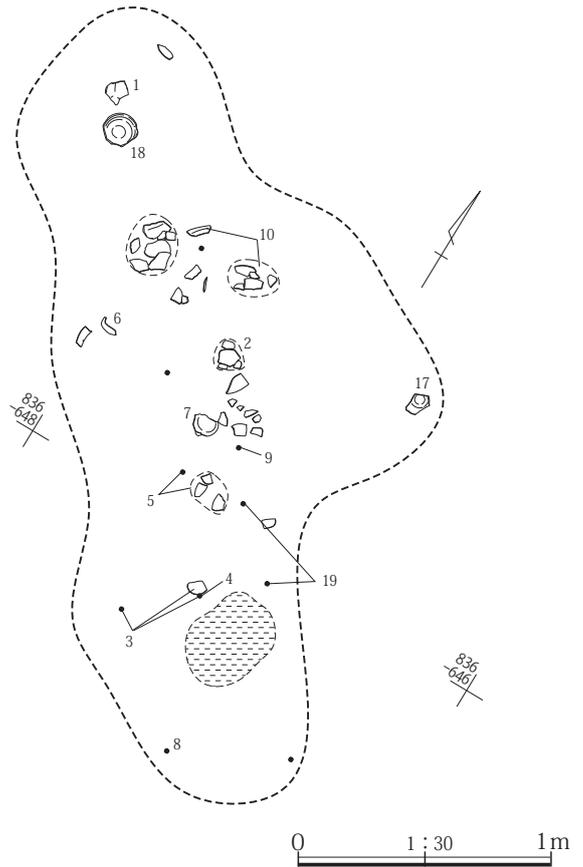
調査区北側、24号竪穴建物の8m程東、24号土坑の僅かに上面で多数の土師器や須恵器が出土したが、遺構の検出には至らなかった。そのため、遺物が出土した範囲全体を遺物集中として扱うこととする。

2区1号遺物集中(第234・235図、PL.55・115・116)

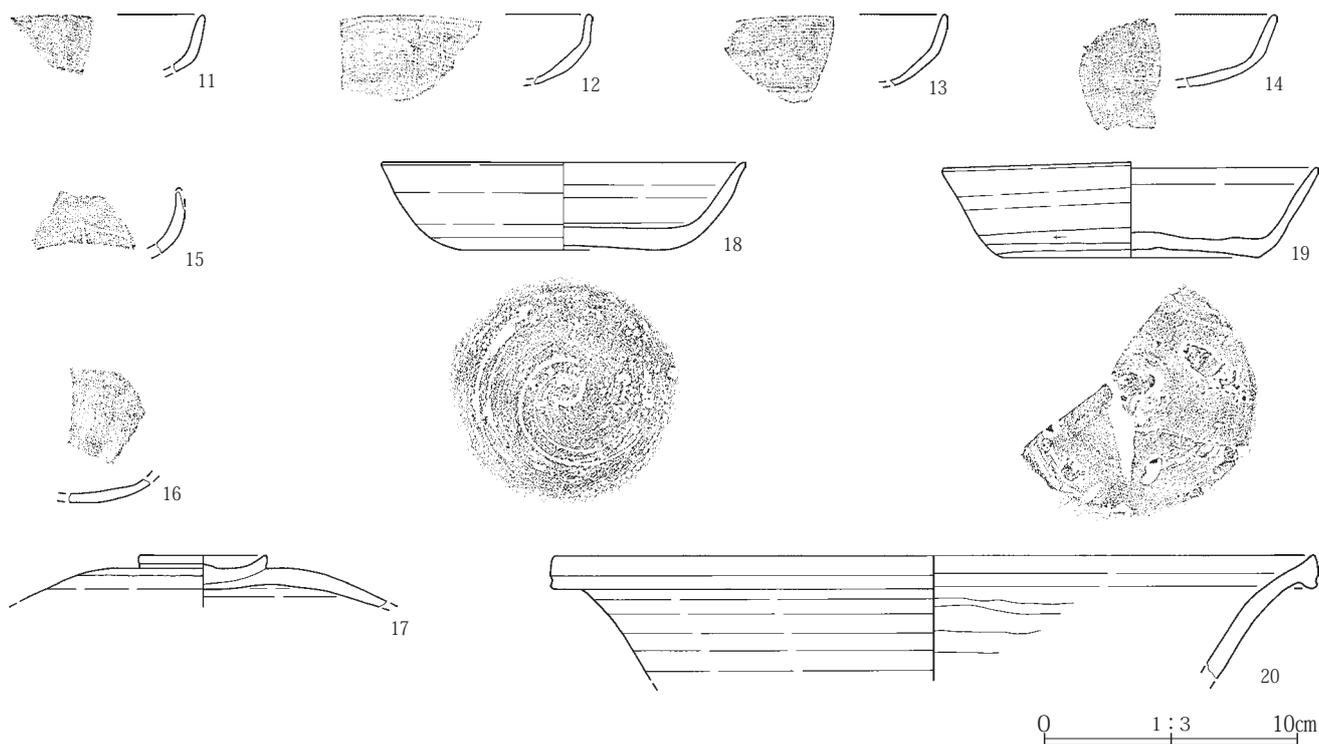
座標値 X=42,835~42,838 Y=-55,646~-55,649

遺物 掲載した遺物は、1~16:土師器杯(1・6・8・9・11~16は内面に線刻、6の線刻は焼成前)、17:須恵器杯蓋、18・19:同杯、20:同甕である。他に、土師器の小片が多数、須恵器の小片が27点出土した。

所見 1~3は8世紀前半、他は8世紀第3四半期に比定できる。10点の土師器杯の内面に線刻がある。6については、焼成前に刻まれており、祭祀目的で製作されたと考えることもできる。



第234図 2区1号遺物集中・出土遺物(1)



第235図 2区1号遺物集中出土遺物(2)

## 7. 遺構外の遺物

2区で出土した遺構に伴わない遺物を扱う。土器類、石器類、石製品である。以下、種別ごとに記載する。

### (1) 土器類(第236・237図、PL.116・117)

縄文時代の土器として1～47の47点を掲載した。

いずれも器種は深鉢である。型式は、1～4：黒浜式、5～16：諸磯a式、17～28：諸磯b式、29～34：諸磯c式、35：興津式、36・37：十三菩提式、38～43：前期末葉、44：中期初頭、45：称名寺、46：堀之内1式、47：堀之内2式である。

弥生時代の土器として48：樽式の1点を掲載した。

古墳時代～古代の土器として49～65の17点を掲載した。

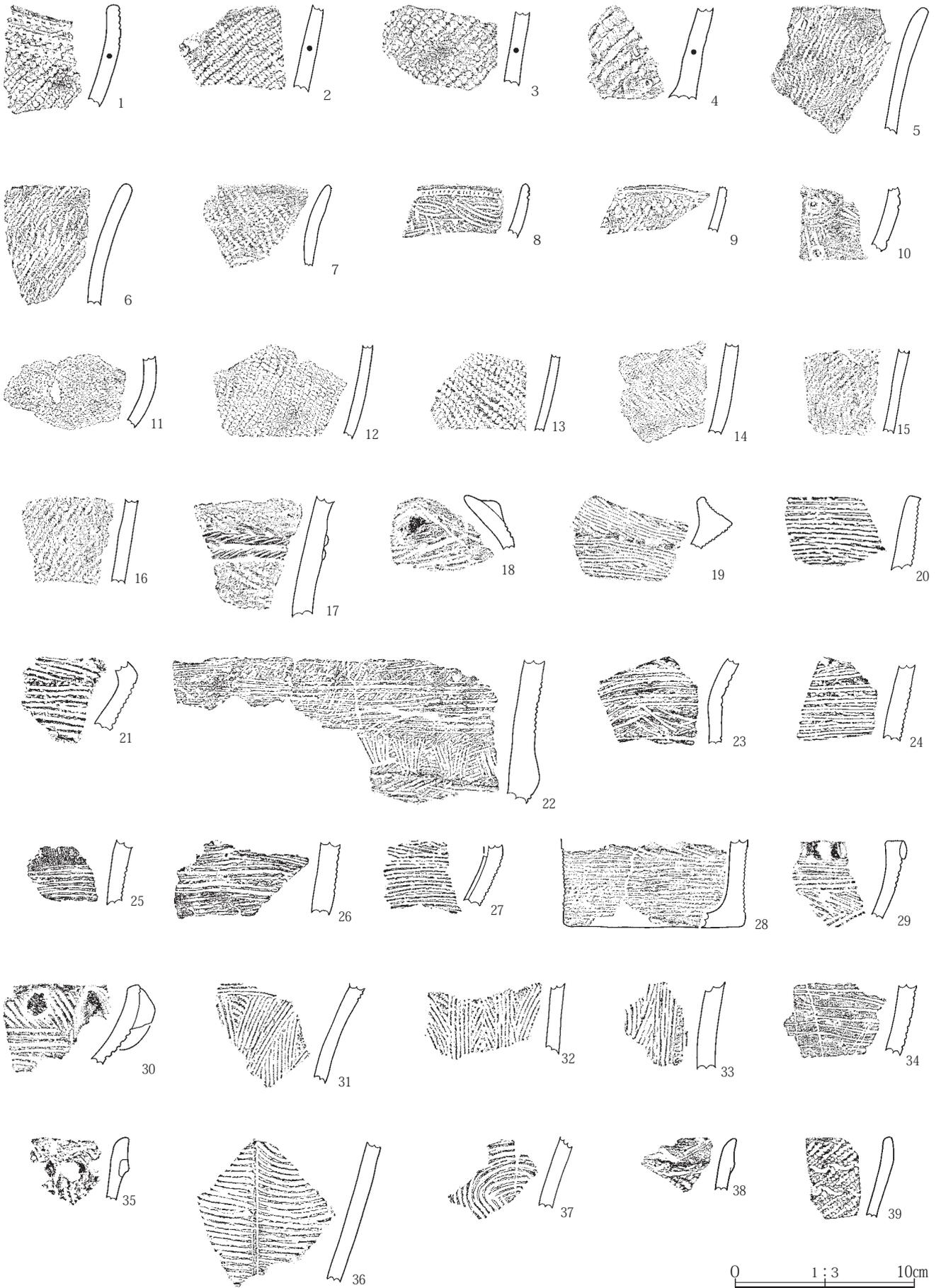
49～51：土師器の杯、52：須恵器蓋杯の身、53・54：同高杯、55：同椀、56：同甕、57：土師器甕か、58：同器種不明土器、59～65：手捏ね土器である。

### (2) 石器類(第237図、PL.117)

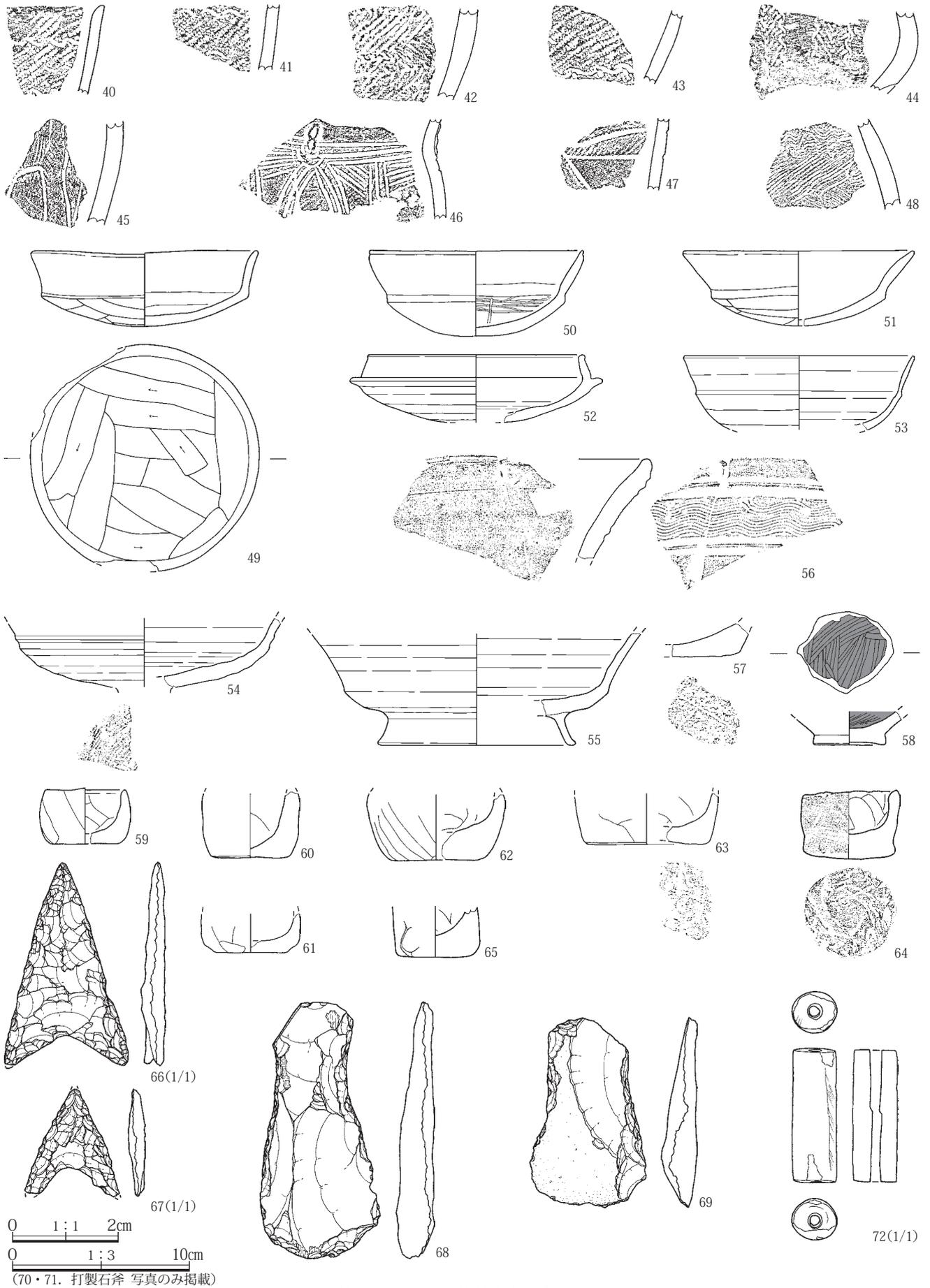
掲載した石器は、66・67：石鏃、68～71：打製石斧の4点である。

### (3) 石製品(第237図、PL.117)

掲載した石製品は、72：滑石製管玉の1点である。



第236図 2区遺構外出土遺物(1)



第237図 2区遺構外出土遺物(2)

## 第4節 2区北～5区の遺構と遺物

### 1. 囲い状遺構

2区北～3区北西部にかけて、溝と柱穴列がコの字状に並ぶ遺構を検出した。柱穴列は溝の内側縁に一定の位置と間隔で並んでいることから、一連の遺構と考え、囲い状遺構として調査を行った。囲い状遺構の範囲は特定できないが、今回の調査で検出したのは南東の部分にあたると思われる。その内部には、柱穴列・溝と方位が揃う掘立柱建物2棟が検出されており、その配置の規格性から、この建物も囲い状遺構と一連の遺構と推定される。

**2区北・3区7号柱穴列**(第238～244図、第21表、PL.58～60・117)

**座標値** X=42,852～42,909 Y=-55,568～-55,626

**重複遺構** 68号竪穴建物、27号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

**方位・規模** 2区北の調査区南側から3区北西側にかけて、コの字状に柱穴が並んでいる。

南西辺(P1～P8) N-54°-W 23.90m

南東辺(P9～P13) N-42°-E

(P14～P20) N-38°-E

(P21～P27) N-36°-E 計58.0m

北東辺(P28～P32) N-54°-W 12.95m

**検出状況** 調査で検出された柱穴は32基であるが、P3・P4は他の柱穴に比べ規模が小さく、柱間が短い。P3・P4以外の柱穴の柱間は2.60m～3.55mを測る。各柱穴はおおむね円形や円形に近い楕円形を呈し、長径24cm～62cm、短径24cm～54cm、深さ41cm～116cmである。埋没土は主にローム塊やローム粒、白色軽石を含む暗褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土である。

**遺物** 3基のピットから土師器が出土している。掲載したのは、1～3：土師器杯(1・2はP16中程、3はP6内)、4：同甕(P2上部)である。

**所見** コの字状に並ぶ柱穴のうち、北東辺の5基と南西辺の8基を結ぶ方位はほぼ等しく、南東辺の19基が並ぶ方位と直交している。また、全ての柱穴が12号溝の内側

で接する位置で平行している。この状況から、本遺構は12号溝とともに囲い状遺構を構成するものであると考えられる。北東辺と南西辺は同様の柱穴が調査区外へと続き、南東辺と方位が等しい北西辺が存在することが想定できる。32基の柱穴のうち、P3・P4は他の柱穴に比べ規模が小さく、柱間が短い。位置や埋没土から、本遺構に伴う柱穴と考えられるが、他の柱とは役割が異なる柱の可能性が高い。P16の中程から出土した1・2は5世紀後半～6世紀初頭に比定できる。2はほぼ完形の状態で出土しており、本遺構の時期も同様である可能性が高い。

**2区北・3区12号溝**(第238～244図、PL.61)

**座標値** X=42,851～42,910 Y=-55,567～-55,629

**重複遺構** 68号竪穴建物、27号溝、631号・653号・787号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が27号溝、68号竪穴建物より古い。631号・653号・787号ピットとの新旧関係は明らかではない。

**方位** 南西辺：N-58°-W 南東辺：N-36°-E

北東辺：N-55°-W

**規模** 2区北では、調査区南西壁からおおむね10mの位置で、北西壁外から南東壁外までほぼ直線的に掘られている。3区では、途切れる箇所があるが、調査区北西隅外から南東方向へ約17m、そこから南西方向へほぼ直角に向きを変えており、さらに北西壁手前で北西方向へほぼ直角に向きを変えて調査区外へと続いている。

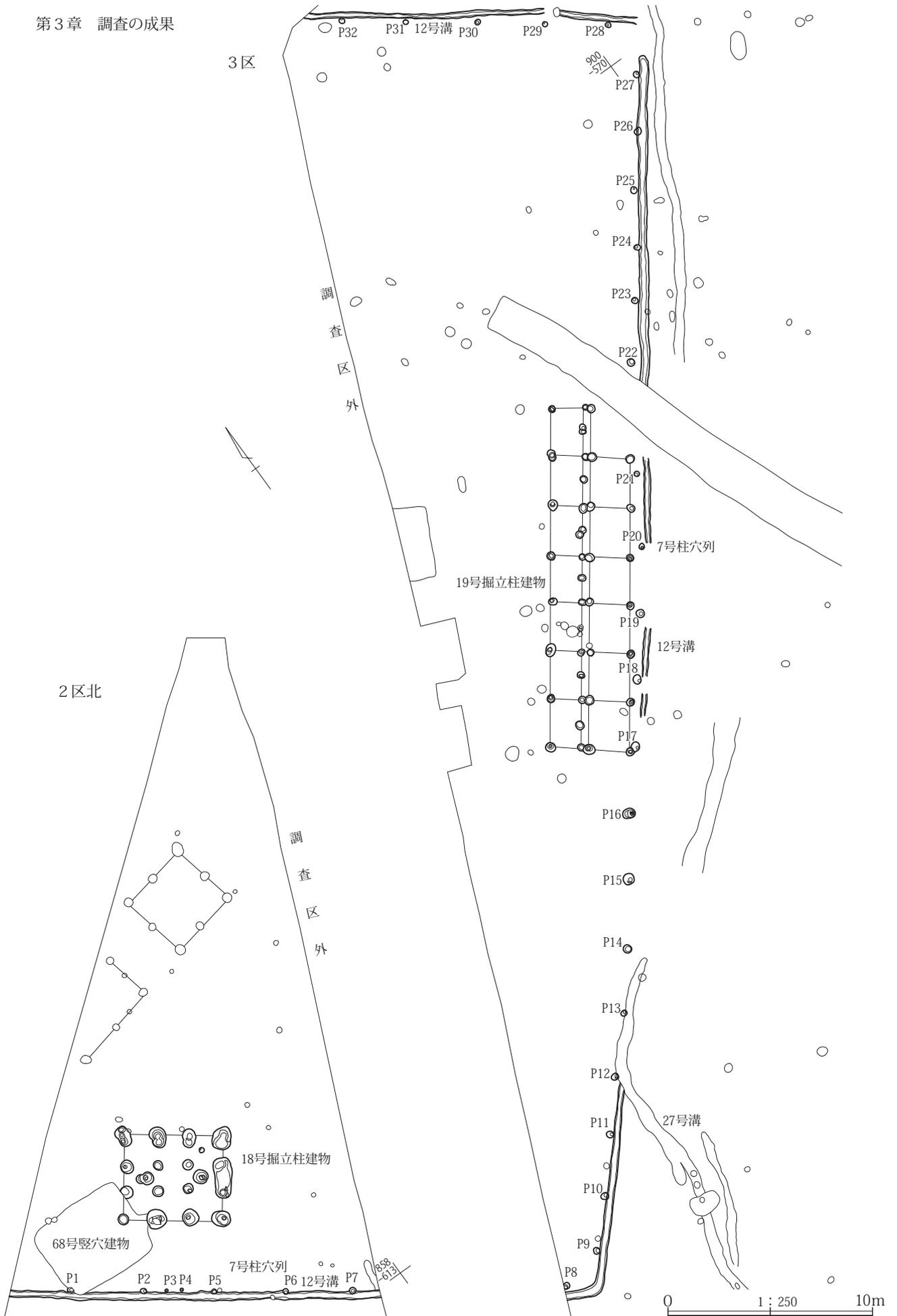
**調査長** 2区北18m 3区51m 計69m

幅0.20m～0.50m 深さ0.03m～0.12m

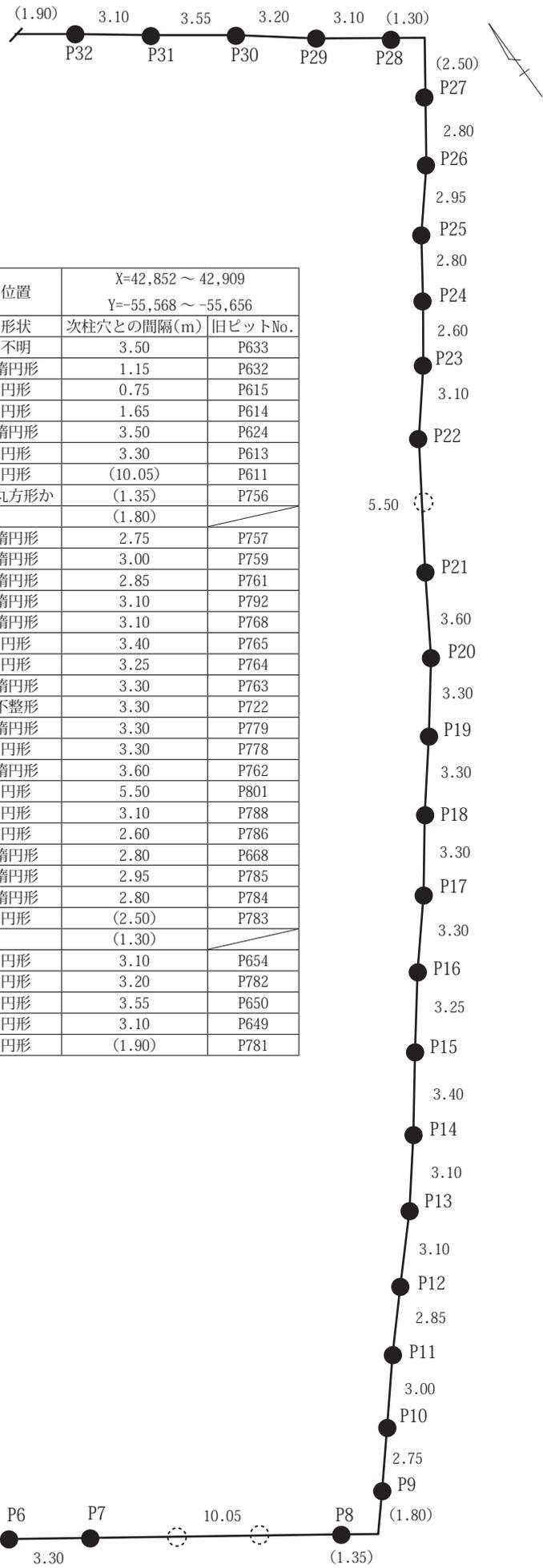
**埋没土** 白色軽石、黄色軽石、ローム塊を含む暗褐色土である。

**遺物** 埋没土中から土師器甕の小片1点が出土し、掲載した。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。7号柱穴列に沿い、コの字状に延伸しているが、南東辺の北端と中央付近で途切れている箇所がある。溝のない箇所があったことも想定できるが、後世の削平等により検出できなかったと考えられ、溝は連続していた可能性が高い。前述(7号柱穴列)のとおり、本遺構は7号柱穴列を伴う囲い状遺構の南東側の部分と考えられる。



第238図 2区北・3区囲い状遺構全体図

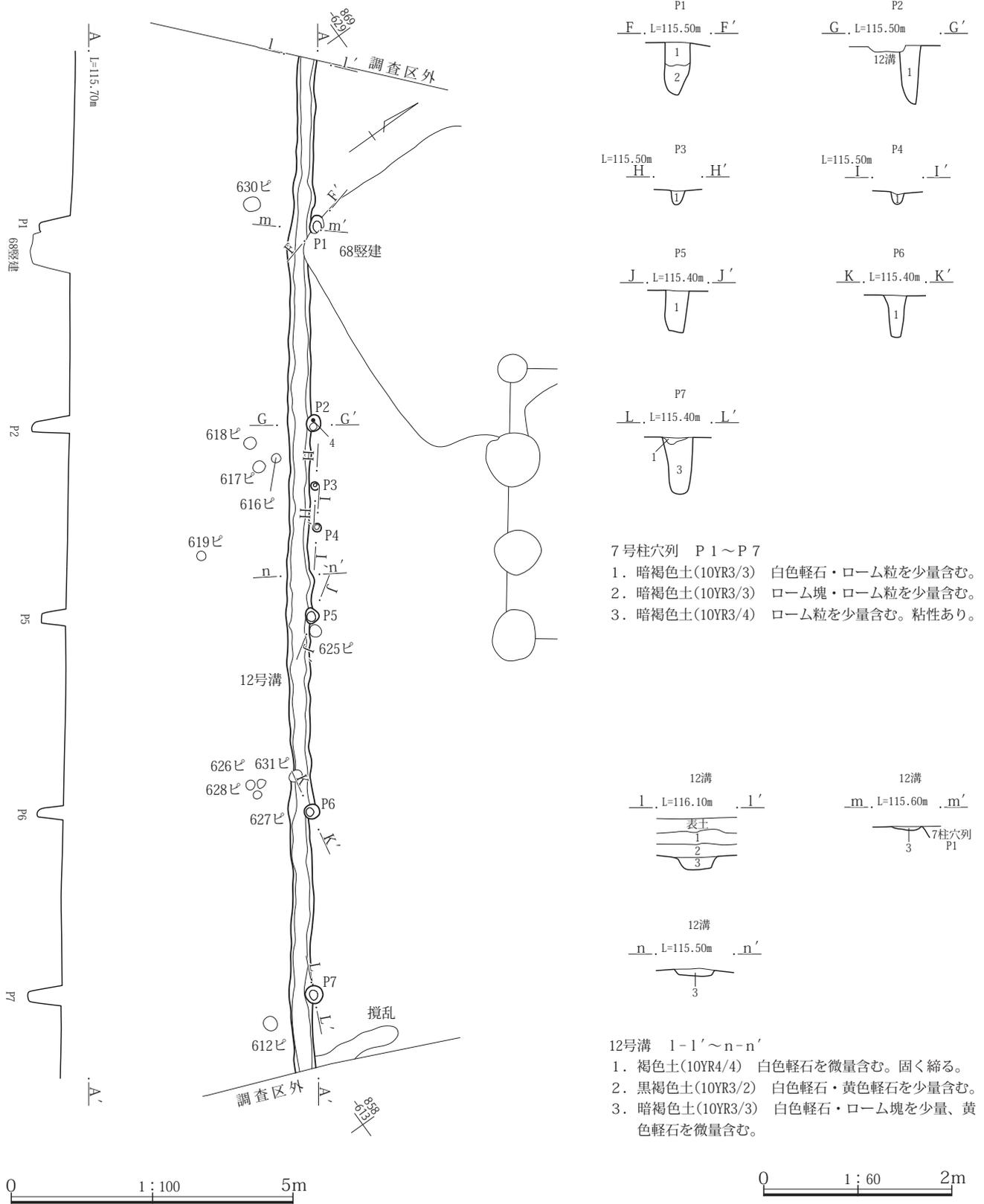


第21表 7号柱穴列柱穴一覧表

区	各辺の規模 方位	柱穴No.	柱穴の規模 (m)			位置 形状	X=42,852 ~ 42,909 Y=-55,568 ~ -55,656	
			長径	短径	深さ		次柱穴との間隔(m)	旧ピットNo.
2区北	南西辺23.90m N-54°-W	P 1	0.30	(0.25)	0.58	不明	3.50	P633
2区北		P 2	0.30	0.25	0.67	楕円形	1.15	P632
2区北		P 3	0.15	0.15	0.17	円形	0.75	P615
2区北		P 4	0.14	0.14	0.15	円形	1.65	P614
2区北		P 5	0.28	0.24	0.44	楕円形	3.50	P624
2区北		P 6	0.28	0.28	0.46	円形	3.30	P613
2区北		P 7	0.31	0.31	0.61	円形	(10.05)	P611
2区北		P 8	0.30	(0.30)	0.68	隅丸方形か	(1.35)	P756
3区	南隅	(X=42,852 Y=-55,605)				(1.80)		
3区	南東辺58.0m N-42°-E	P 9	0.35	0.30	0.59	楕円形	2.75	P757
3区		P 10	0.37	0.35	0.78	楕円形	3.00	P759
3区		P 11	0.46	0.33	0.79	楕円形	2.85	P761
3区		P 12	0.36	0.30	0.58	楕円形	3.10	P792
3区		P 13	0.30	0.27	0.67	楕円形	3.10	P768
3区	N-38°-E	P 14	0.42	0.40	0.62	円形	3.40	P765
3区		P 15	0.55	0.54	1.06	円形	3.25	P764
3区		P 16	0.62	0.50	0.55	楕円形	3.30	P763
3区		P 17	0.43	(0.38)	1.16	不整形	3.30	P722
3区		P 18	0.45	0.38	1.08	楕円形	3.30	P779
3区		P 19	0.39	0.39	0.62	円形	3.30	P778
3区		P 20	0.32	0.26	0.63	楕円形	3.60	P762
3区	N-36°-E	P 21	0.28	0.25	0.46	円形	5.50	P801
3区		P 22	0.38	0.35	0.76	円形	3.10	P788
3区		P 23	0.32	0.30	0.51	円形	2.60	P786
3区		P 24	0.33	0.28	0.53	楕円形	2.80	P668
3区		P 25	0.33	0.30	0.80	楕円形	2.95	P785
3区		P 26	0.40	0.33	0.88	楕円形	2.80	P784
3区		P 27	0.32	0.30	0.72	円形	(2.50)	P783
3区	東隅	(X=42,901 Y=-55,567)				(1.30)		
3区	北東辺12.95m N-54°-W	P28	0.28	0.25	0.41	円形	3.10	P654
3区		P29	0.25	0.25	0.70	円形	3.20	P782
3区		P30	0.28	0.25	0.58	円形	3.55	P650
3区		P31	0.24	0.24	0.75	円形	3.10	P649
3区		P32	0.38	0.38	0.76	円形	(1.90)	P781



第239図 2区北・3区7号柱穴列柱間模式図

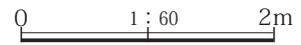
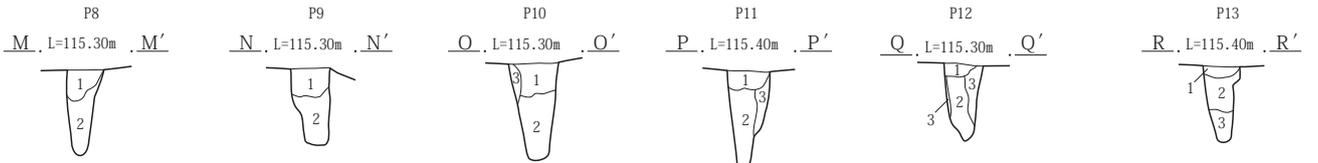


- 7号柱穴列 P1～P7
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
  2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
  3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。粘性あり。

- 12号溝 1-1'～n-n'
1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石を微量含む。固く締る。
  2. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石・黄色軽石を少量含む。
  3. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量、黄色軽石を微量含む。

第240図 2区北7号柱穴列・12号溝(1)

第4節 2区北～5区の遺構と遺物



P 8

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。締り弱。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を多量に含む。締りなし。

P 9

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石を多量に含む。締りややあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り弱。

P 10

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・ローム粒を少量含む。締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR2/1) ローム塊を少量含む。締り弱。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量・白色軽石を少量含む。

P 11

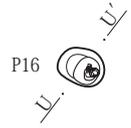
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。締りなし。
3. 黄褐色土(10YR5/6) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。

P 12

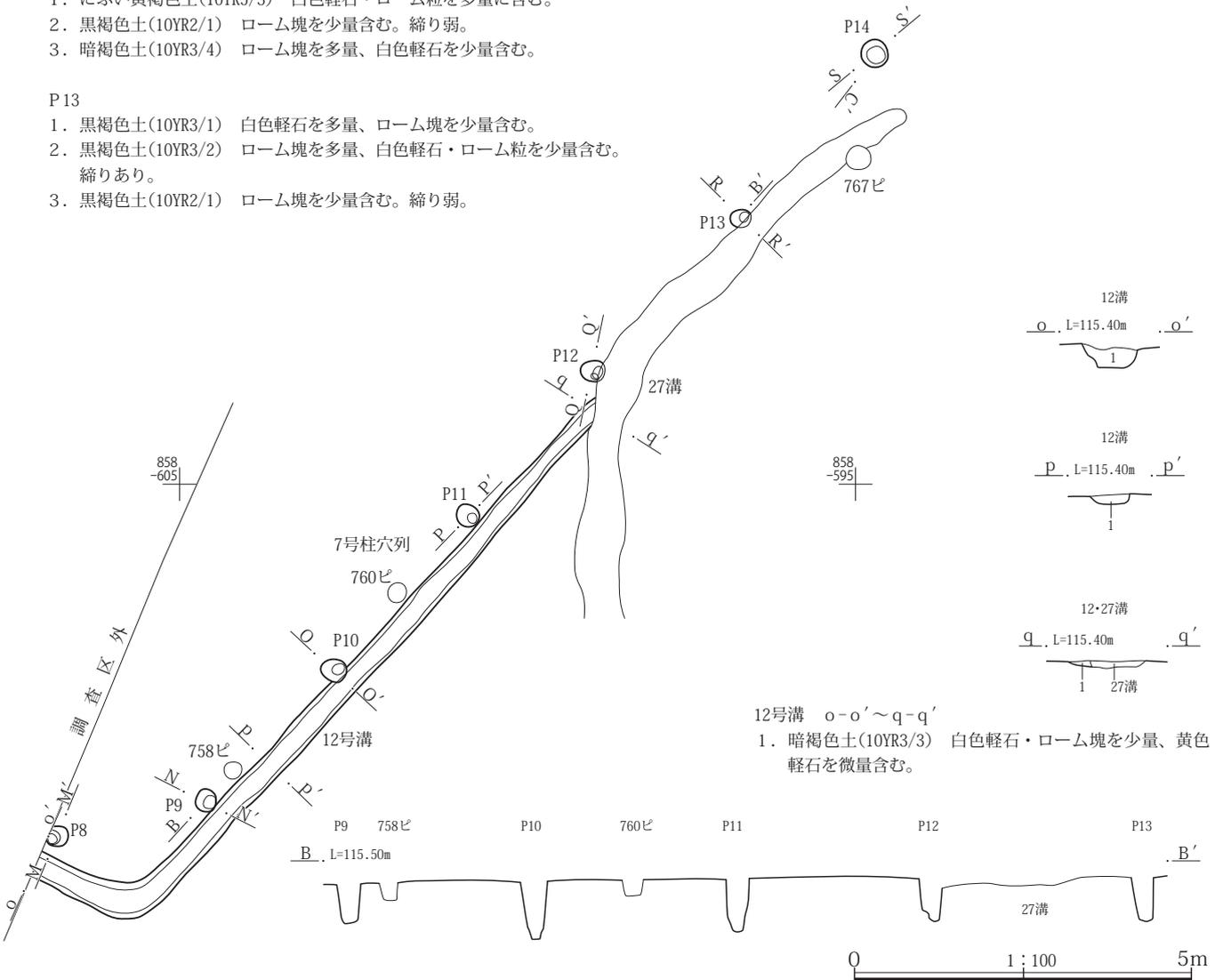
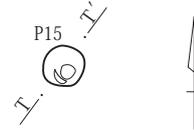
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR2/1) ローム塊を少量含む。締り弱。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色軽石を少量含む。

P 13

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石を多量、ローム塊を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を多量、白色軽石・ローム粒を少量含む。締りあり。
3. 黒褐色土(10YR2/1) ローム塊を少量含む。締り弱。

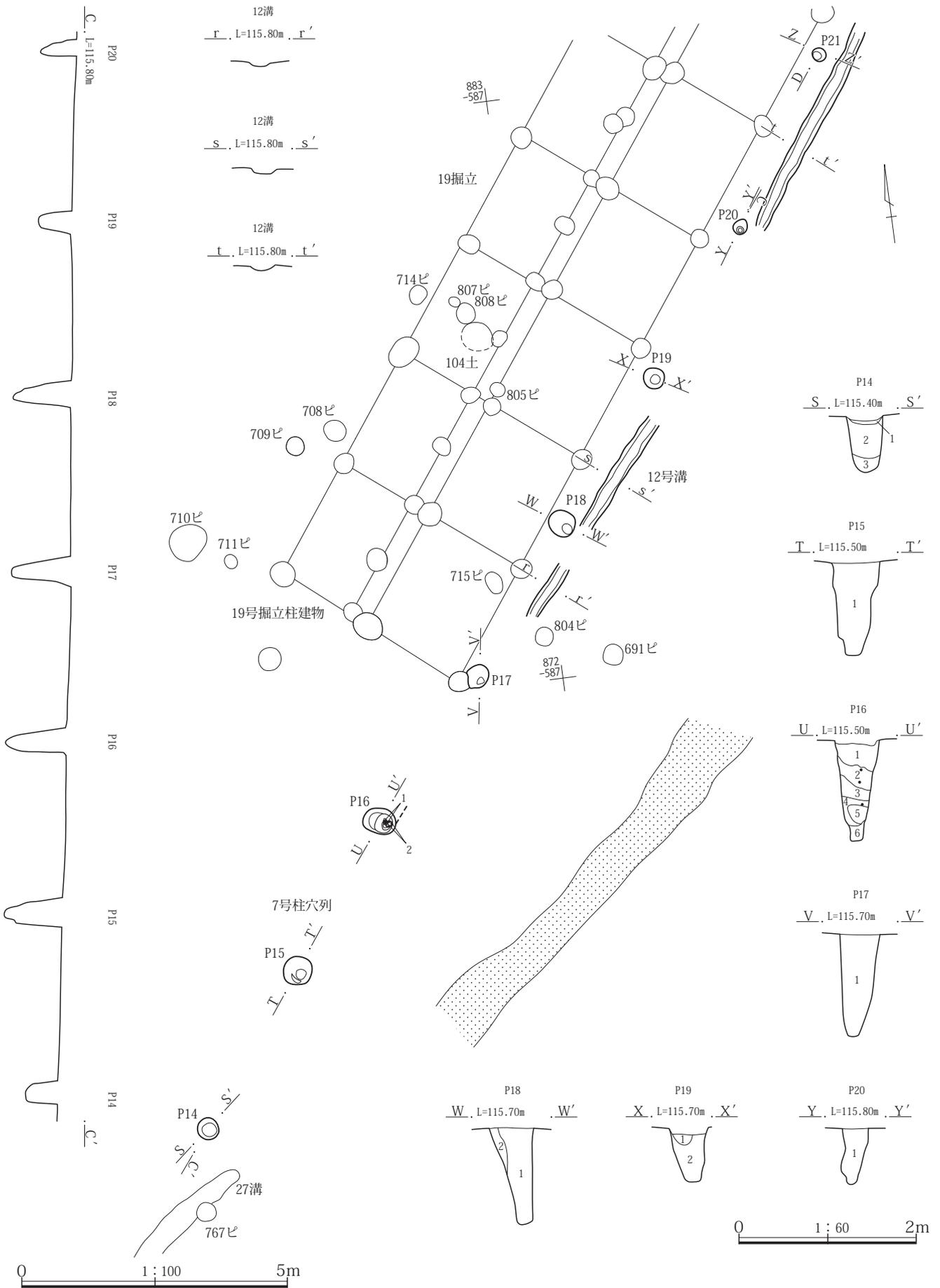


7号柱穴列



- 12号溝 o-o' ~ q-q'
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量、黄色軽石を微量含む。

第241図 3区7号柱穴列・12号溝(2)



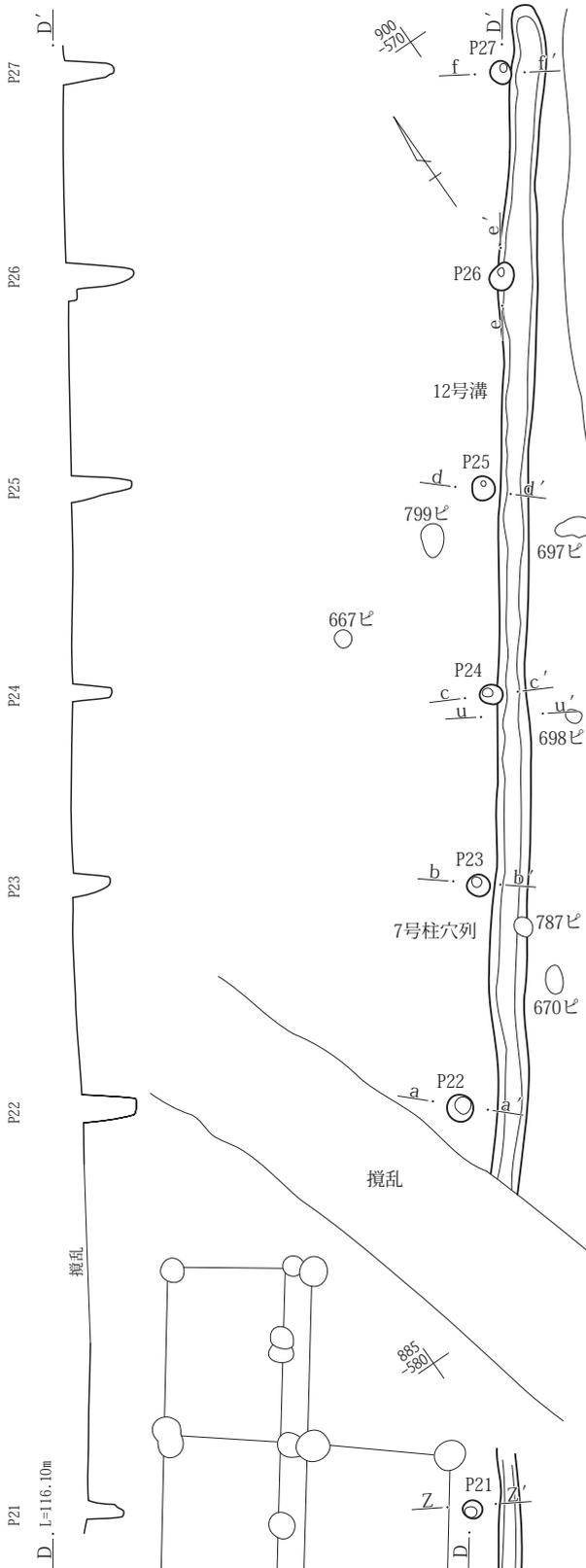
第242図 3区7号柱穴列・12号溝(3)

P14

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。締りなし。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量、ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、ローム粒を微量含む。

P15

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。締りあり。



第243図 3区7号柱穴列・12号溝(4)

P16

1. にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム塊・黒褐色土塊・褐色土塊を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・褐色土を多量に含む。
3. 明黄褐色土(2.5Y7/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。
4. 浅黄色土(2.5Y7/4) ローム主体。黒褐色土を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多量に含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

P17

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量、白色軽石・黒褐色土を少量含む。

P18

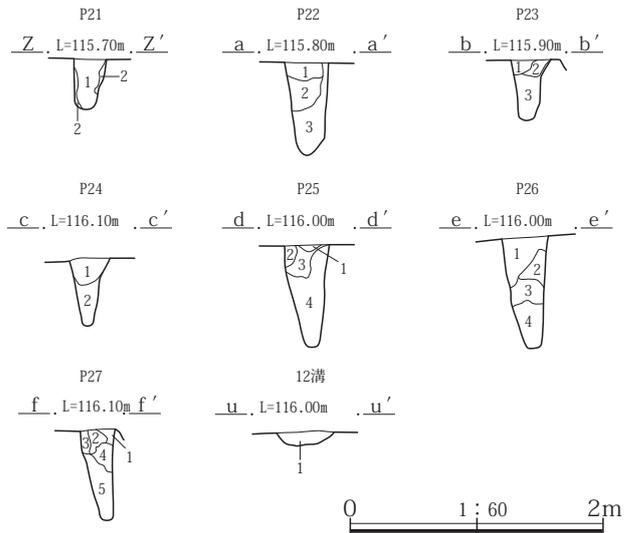
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・黒褐色土・褐色土を多量に含む。
2. 明黄褐色土(2.5Y7/6) ローム主体。黒褐色土を微量含む。

P19

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒褐色土・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。締りなし。

P20

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を多量に含む。締りなし。



P21

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
2. 明黄褐色土(2.5Y7/6) ローム主体。黒褐色土を微量含む。

P22

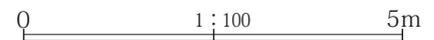
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色軽石を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/1) ローム塊を少量含む。締り弱。

P23

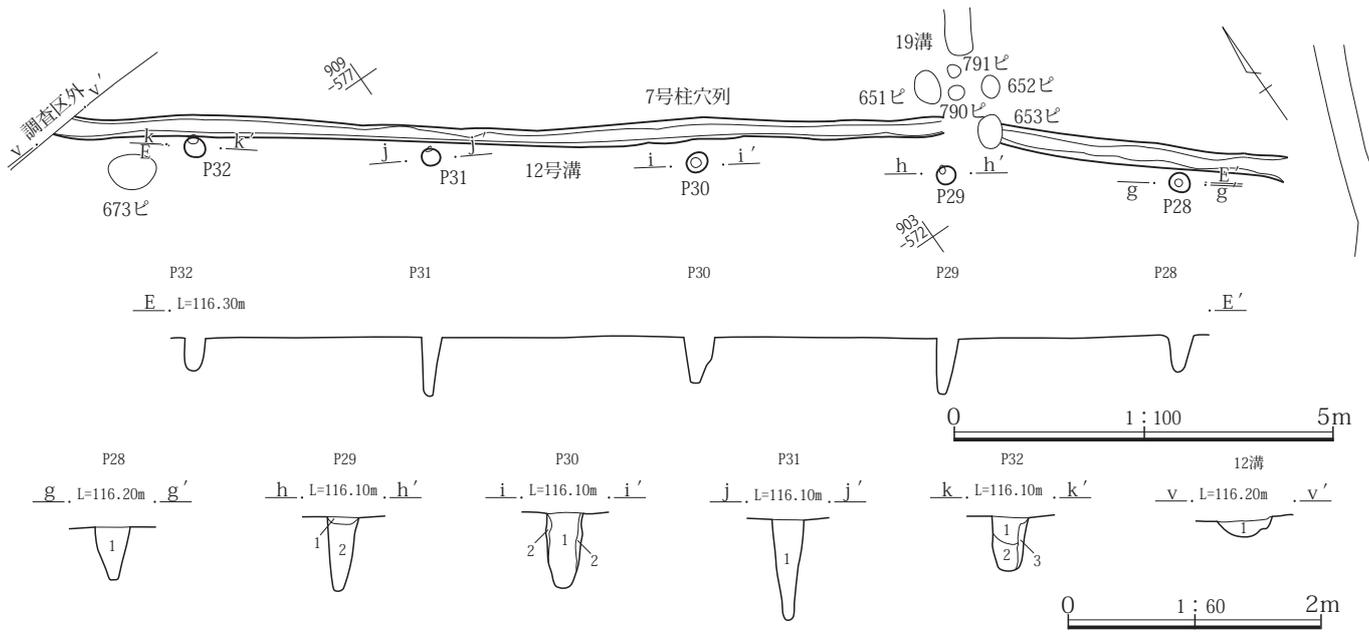
1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。締り弱。

P24

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。締りあり。
2. 黒褐色土(10YR2/1) ローム粒を少量含む。締りなし。



第3章 調査の成果



P25

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を微量含む。縮りなし。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を多量に含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒を少量含む。縮りなし。

P26

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りあり。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮り弱。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P27

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮り弱。
2. 黄褐色土(10YR5/6) 白色軽石・黄橙色粒を少量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石を少量含む。縮りあり。
4. 黒褐色土(10YR2/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りあり。
5. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P28

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りなし。

P29

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P30

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮りややあり。
2. 明黄褐色土(2.5Y7/6) ローム主体。黒褐色土を微量含む。

P31

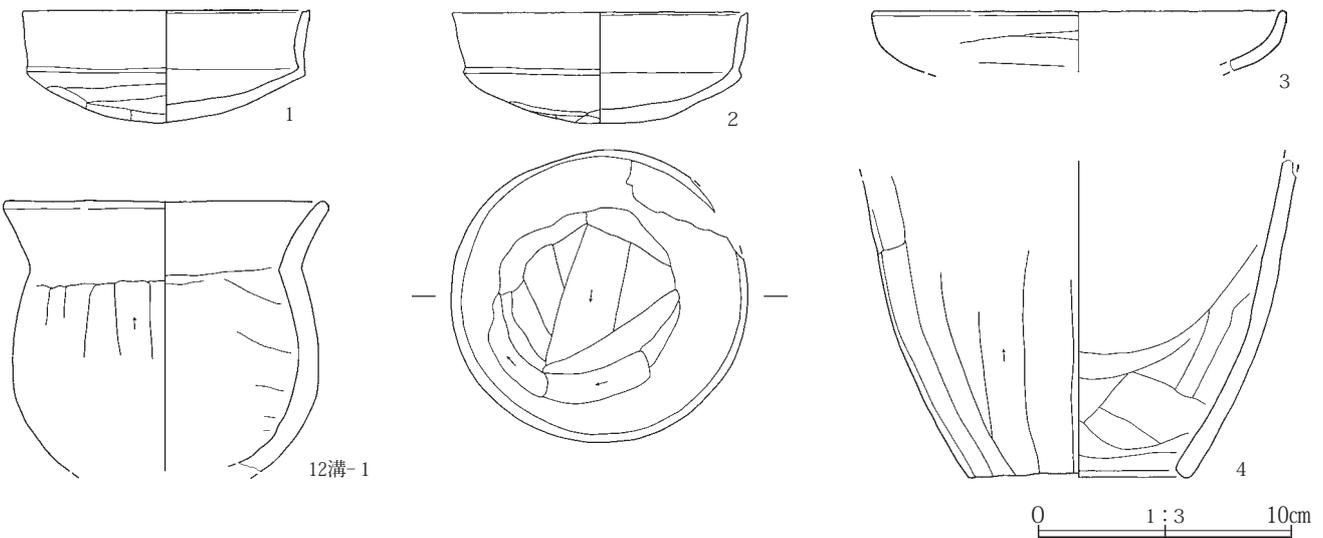
1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮りややあり。

P32

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮り弱。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を多量に含む。縮りなし。
3. 黄褐色土(10YR5/6) ローム塊を多量に含む。

12号溝 u-u'・v-v'

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量、黄色軽石を微量含む。



第244図 3区7号柱穴・12号溝(5)・出土遺物

2区北18号掘立柱建物(第245～248図、第22表、PL.62・63)

調査区のほぼ中央よりやや南側、7号柱穴列と12号溝から3m程の位置にある。

座標値 X=42,864～42,871 Y=-55,615～-55,622

重複遺構 68号竪穴建物、645号ピットと重複している。

新旧関係は、本遺構が最も古い。

桁行方位 N-52°-W

規模形態 桁行3間：4.80m 梁行3間：4.20m

面積20.16㎡

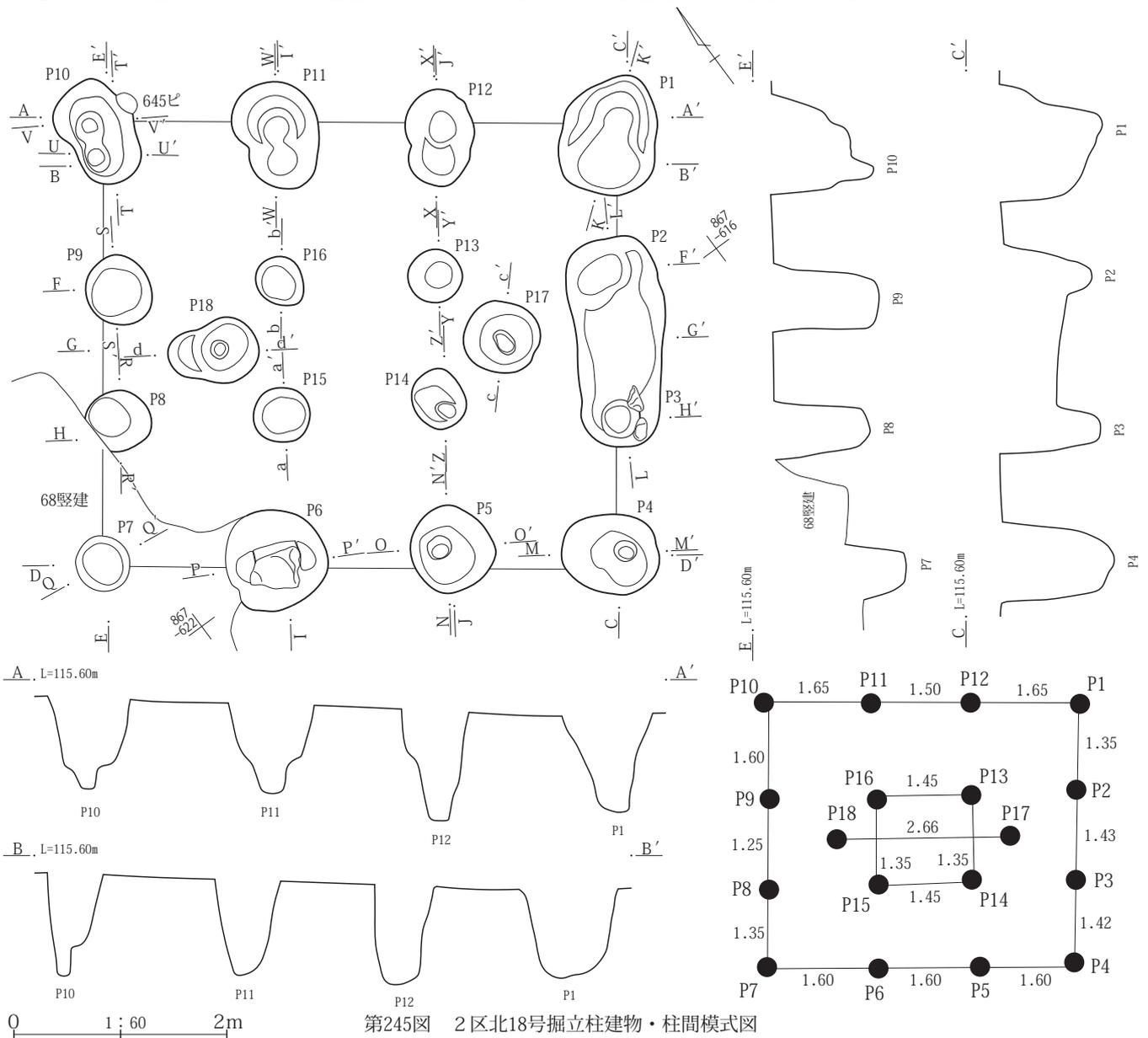
南東-北西に棟を取る総柱建物

検出状況 検出された柱穴は18基で、柱間は桁行方向1.50m～1.70m、梁行方向1.25m～1.60mを測る。各柱穴の規模は、側柱のP1～P12(上部が壊されているP7を除く)の長径が60cm～150cm、短径58cm～90cm、深さ

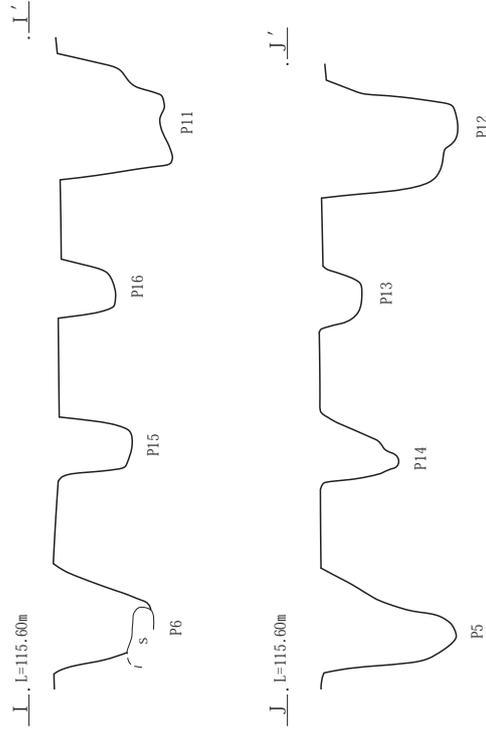
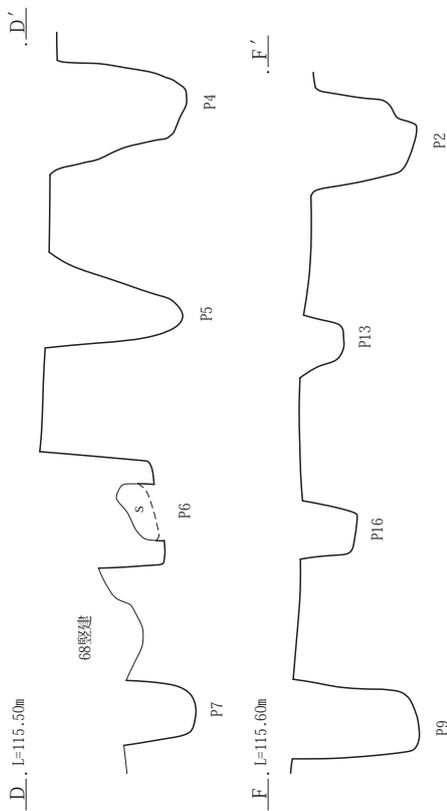
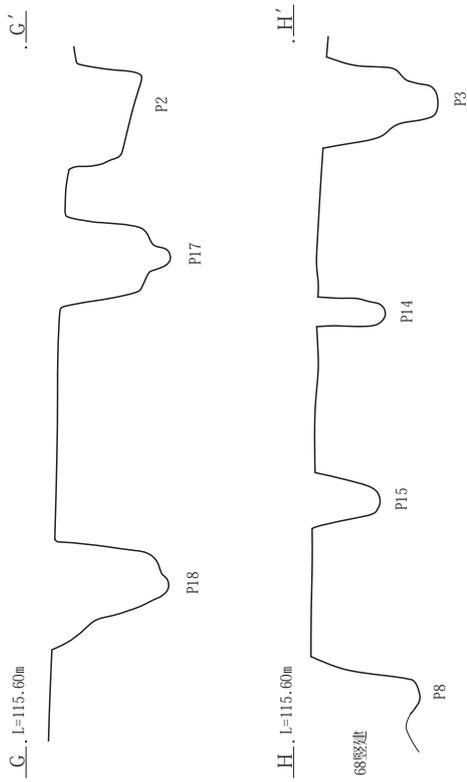
83cm～122cm、東柱のP13～P16の長径は50cm～55cm、短径43cm～52cm、深さ40cm～65cm、P17・P18は、それぞれ順に長径が73cm・85cm、短径70cm・60cm、深さ83cm・91cmである。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。

遺物 P10の埋没土中から土師器小型甕の小片が1点出土し、掲載した。

所見 12本の側柱、4本の東柱に加え、2基の柱穴を側柱の内側で確認した。東柱の可能性もあるが、側柱と同様の規模であることから、棟持柱と考えられ、高床の寄棟の建物の可能性がある。P10で出土した小型甕は、小片のため時期の比定は難しいが、7号柱穴列・12号溝の方位と桁行方位がほぼ一致しており、囲い状遺構を構成する建物の1つと考えられる。



第245図 2区北18号掘立柱建物・柱間模式図

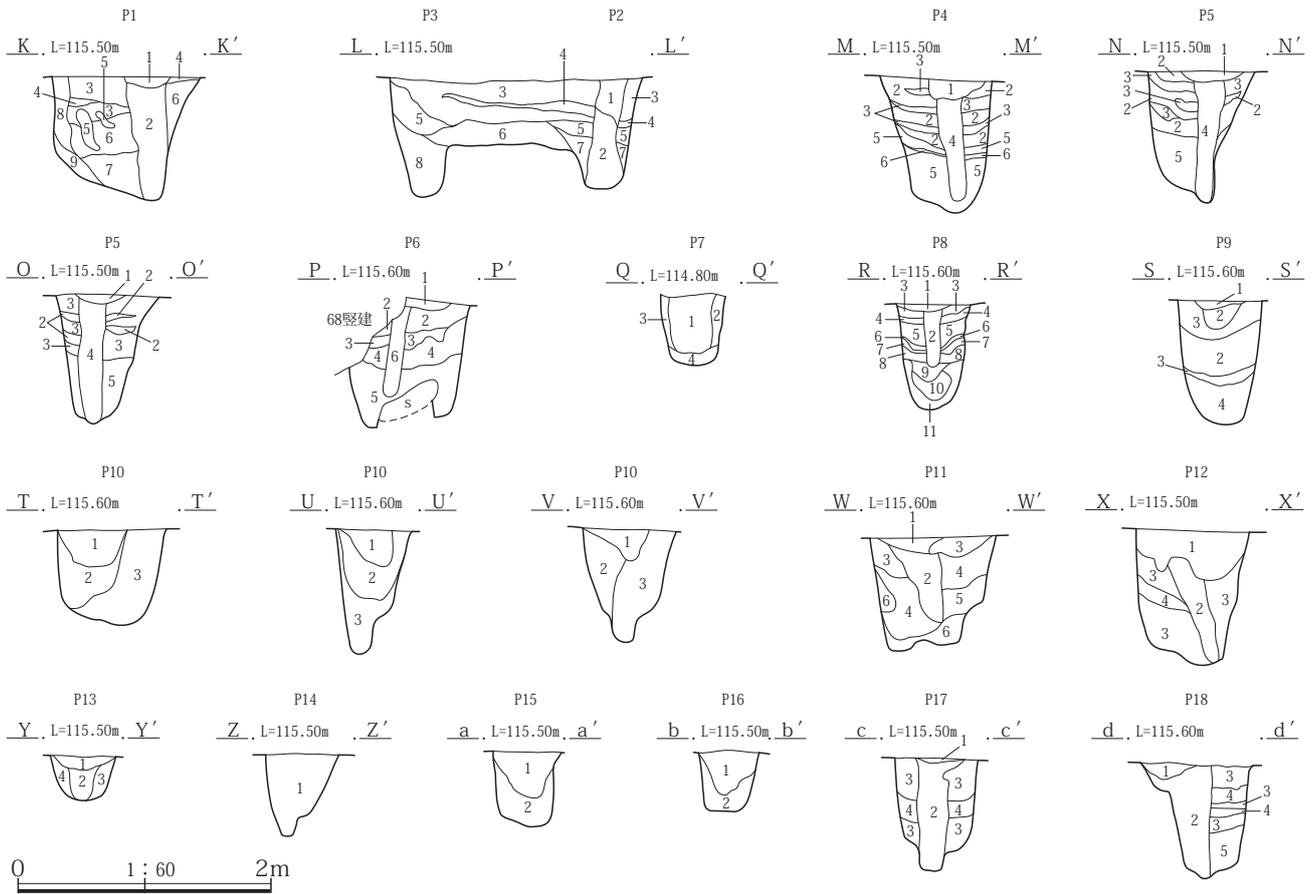


第22表 2区北18号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模	3間×3間		面積	位置	次柱穴との 間隔(m)	旧ピットNo.	
	N-52°-W						X=42.846~42.871 Y=55.615~55.622
主軸方位	柱穴の規模(m)		形状				
桁・梁の規模(m)	No.	長さ		短径	深さ		
南東辺 (4.20)	P1	1.15	0.90	0.92	楕円形	1.35	P9
	P2	(1.20)	0.90	0.83	不明	1.43	P10
	P3	(0.80)	0.75	0.93	不明	1.42	P10
南西辺 4.80	P4	0.93	0.75	1.03	楕円形	1.60	P1
	P5	0.85	0.80	1.03	楕円形	1.60	P2
	P6	(0.95)	0.90	0.99	円形か	1.60	P3
北西辺 4.20	P7	(0.53)	(0.50)	1.22	不明	1.35	P17
	P8	0.60	0.58	0.88	円形	1.25	P4
	P9	0.68	0.60	1.02	楕円形	1.60	P5
北東辺 4.80	P10	1.50	0.65	0.96	不整形	1.65	P6
	P11	1.03	0.72	0.92	不整形	1.50	P7
	P12	0.90	0.65	1.03	不整形	1.65	P8
	P13	0.51	0.51	0.40	円形	1.4~1.35	P14
	P14	0.55	0.50	0.65	楕円形	1.5~1.45	P11
	P15	0.52	0.52	0.60	円形	1.6~1.35	P12
	P16	0.50	0.43	0.45	楕円形	1.3 1.45	P13
	P17	0.73	0.70	0.83	円形		P15
	P18	0.85	0.60	0.91	不整形		P16

第246図 2区北18号掘立柱建物断面図(1)

第4節 2区北～5区の遺構と遺物



18号掘立柱建物 P 1

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 褐色土(10YR4/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。縮り弱。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を少量含む。縮り弱。
6. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒・黒色土塊を少量、ローム塊を微量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒・黄褐色軽石を微量含む。縮り弱。
9. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P 2・P 3

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 黒色土塊を多量、白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。固く締る。
6. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。
7. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
8. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム粒を少量含む。

P 4

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
3. 褐色土(10YR4/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を微量含む。縮り弱。

5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、黒色土塊を少量含む。粘性あり。縮り強。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 黒色土塊を少量含む。粘性あり。固く締る。

P 5

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 褐色土(10YR4/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を微量含む。縮り弱。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、黒色土塊を少量含む。粘性あり。縮り強。

P 6

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を少量、白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
3. 褐色土(10YR4/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊・黒色土塊を多量に含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体。黒色土塊を微量含む。粘性あり。固く締る。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を微量含む。縮り弱。

P 7

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を少量含む。縮り強。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量、黒色土塊を少量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粘質土塊を多量に含む。粘性強。

第247図 2区北18号掘立柱建物断面図(2)

### 第3章 調査の成果

P 8

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を多量、ローム粒を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を少量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 白色粒・ローム塊・黒色土塊を微量含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量、黄褐色軽石を微量含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を微量含む。
8. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒を微量含む。
9. 褐色土(10YR4/4) 黒色土塊を少量含む。
10. 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム塊・ローム粒を少量含む。粘性あり。
11. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P 9

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒を少量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊・黒色土塊を少量含む。粘性あり。縮り強。

P 10

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒を少量含む。

P 11

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム粒を少量、黒色土塊を微量含む。固く締る。
5. 褐色土(10YR4/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
6. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P 12

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・黒色土塊を少量含む。
2. 褐色土(10YR4/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。縮り弱。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム粒を少量、黒色土塊を微量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。

P 13

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量、ローム塊を微量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量、黒色土塊を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム粒を少量含む。

P 14

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム塊・ローム粒を微量含む。縮り弱。

P 15

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
2. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P 16

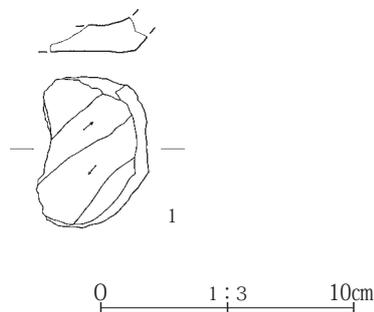
1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
2. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

P 17

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・ローム塊・ローム粒・黒色土塊を少量含む。固く締る。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 黒色土塊を多量、白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。固く締る。

P 18

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 黒色土塊を多量、白色粒・ローム塊・ローム粒を少量含む。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、白色粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。
5. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量、黒色土塊を微量含む。粘性強。



第248図 2区北18号掘立柱建物出土遺物

3区19号掘立柱建物(第249～252図、第23表、PL.64～66)

調査区北側で、7号柱穴列と12号溝の西側に隣接する位置にあり、P1が7号柱穴列のP17に接している。7号柱穴列に伴う遺構の可能性はある。

座標値 X=42,872～42,888 Y=-55,580～-55,592

重複遺構 104号土坑、805号・807号・808号ピットと重複している。新旧関係は明らかではない。

桁行方位 N-36°-E

規模・形態 桁行7間：14.34m～16.70m

梁行2間：1.90m～3.86m

面積(58.97㎡)

南西-北東に棟を取る建物

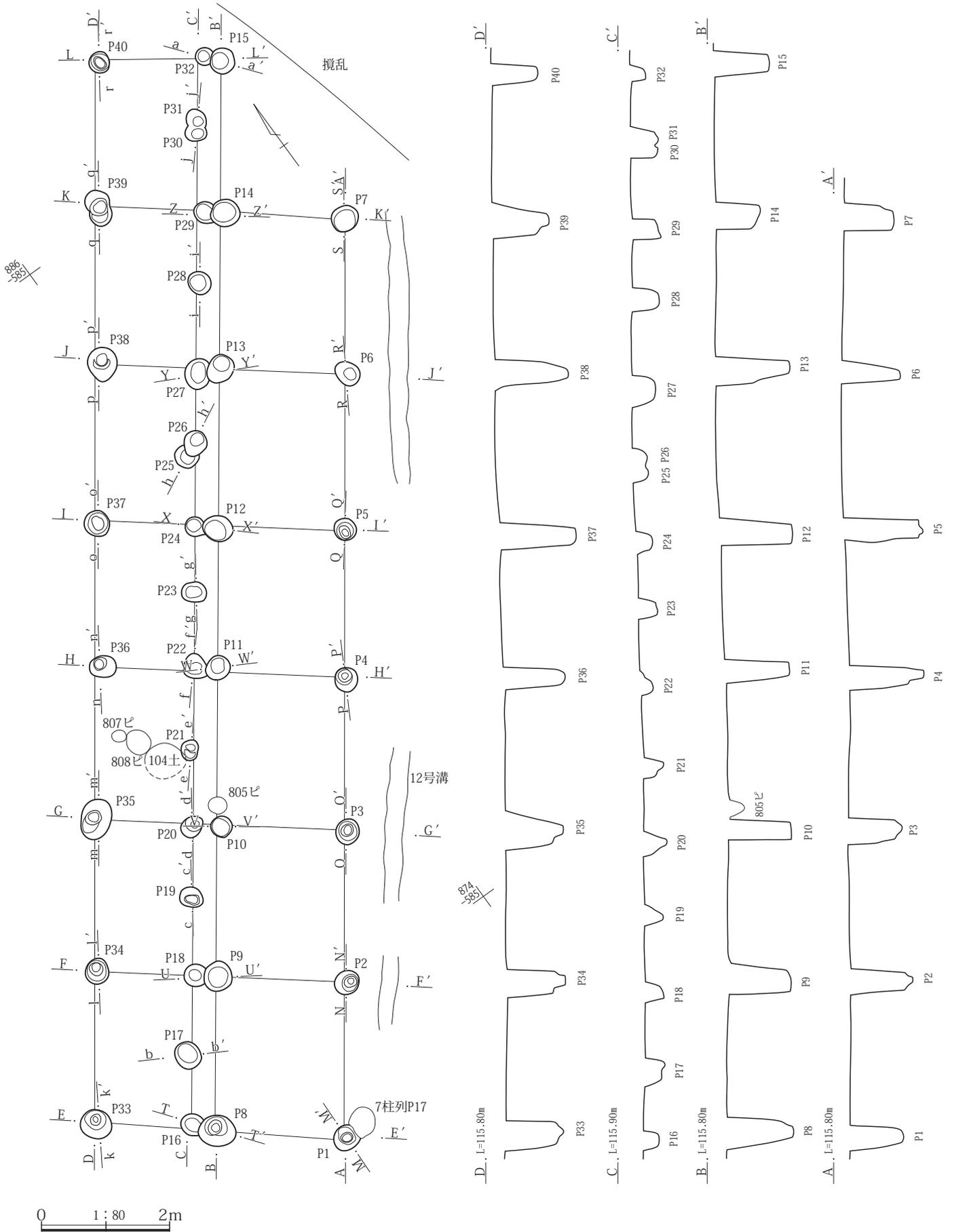
検出状況 検出された柱穴は40基で、柱間は桁行方向2.25m～2.50m、梁行方向3.85m～4.00mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形・隅丸方形を呈している。P16～P32を除く各柱穴の規模は、長径35cm～63cm、短径33cm～50cm、深さ68cm～122cmである。P16～P32は規模が小さく、長径28cm～50cm、短径25cm～40cm、深さ22cm～42cmである。7間×2間の東隅にあたる範囲は攪乱によって壊されており、柱穴を確認することはできなかった。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。

遺物 P33の埋没土中から土師器杯の小片が1点出土し、掲載した。

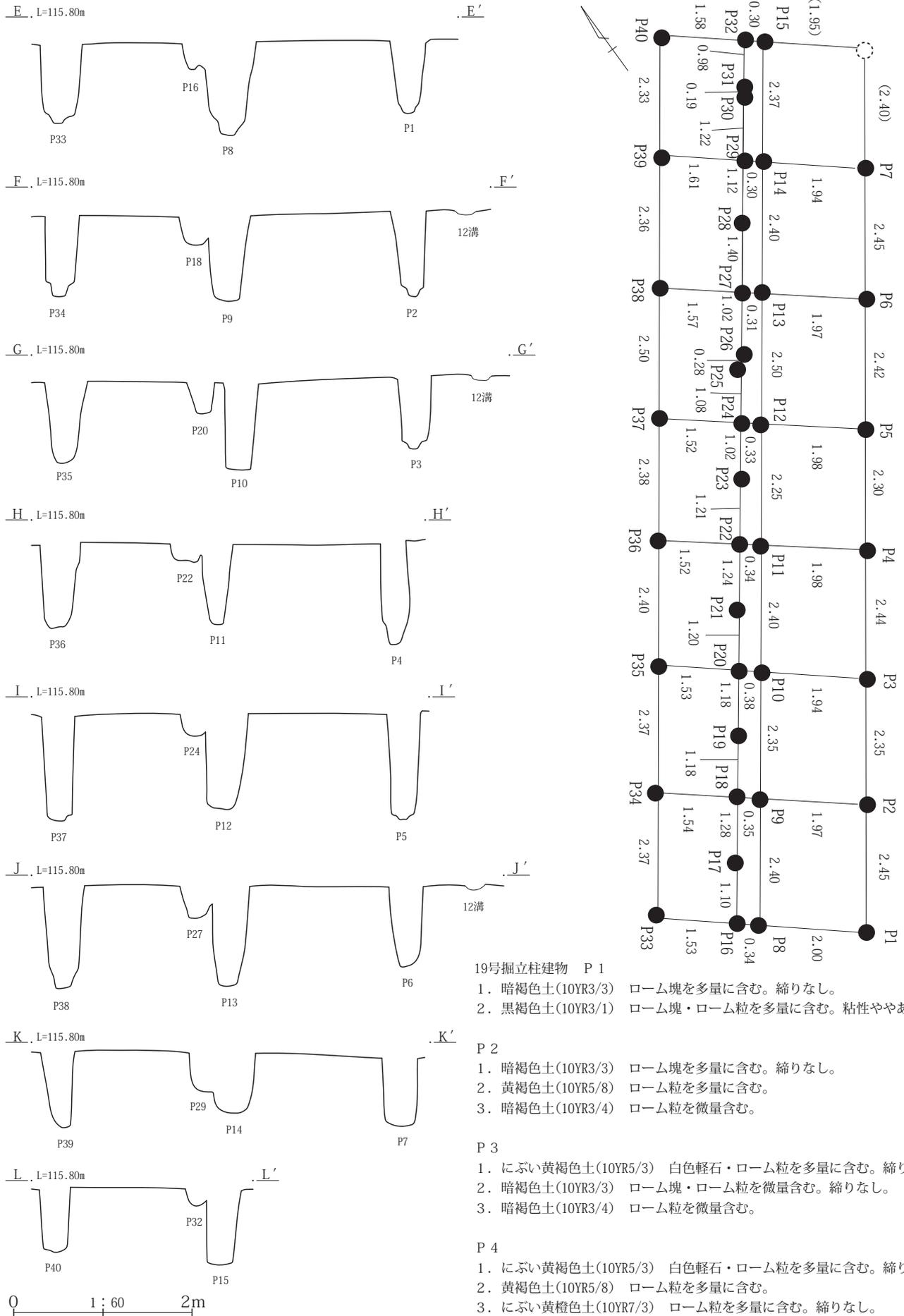
所見 類例の乏しい形態の建物である。南東辺は使用時も6間であったと考えることもできるが、攪乱によって壊された範囲に建物の東隅にあたる柱が存在した可能性が高い。その柱とP1～P7、P8～P15、P33～P40に立っていた計24本の柱による7間×2間の長方形の建物であった可能性がある。また、P9～P14は、側柱と同様の規模であることから、束柱ではなく、通し柱の可能性が高く、地面を床面としていたと考えることもできる。それに対し、P16～P32は規模が小さく1/2の間隔でP8～P15に近接する位置に配置されていることから、通し柱でも束柱でもなく、建物内を仕切る柵のような別の構造物の可能性があると考えられる。P33で出土した杯は、小片のため時期の比定は難しい。7号柱穴列・12号溝の方位と桁行方位がほぼ一致しており、囲い状遺構を構成する建物の1つと考えられる。

第23表 3区19号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		2間×7間か		面積 (58.97㎡)		位置		X=42,872～42,888 Y=-55,580～-55,592	
主軸方位		N-36°-E		位置		X=42,872～42,888 Y=-55,580～-55,592			
桁・梁の規模 (m)	柱穴 No.	柱穴の規模 (m)		形状	次柱穴との間隔 (m)		旧ピット No.		
		長径	短径		深さ				
南東辺 (14.34)	P1	0.40	(0.38)	0.78	円形か	2.45	P8へ 2.04	P766	
	P2	0.40	0.37	0.99	円形	2.35		P721	
	P3	0.40	0.35	0.83	楕円形	2.38		P720	
	P4	0.40	0.35	1.15	楕円形	2.30		P719	
	P5	0.35	0.35	1.22	円形	2.43		P718	
	P6	0.41	0.34	0.90	楕円形	2.43		P717	
	P7	0.42	0.42	0.75	円形	P14へ 1.82		P716	
中央(1)	16.70	P8	0.55	0.50	1.04	楕円形	2.40	P16へ 0.30	P747
	P9	0.48	0.44	0.98	楕円形	2.35		P744	
	P10	0.34	0.34	0.98	円形	2.40		P741	
	P11	0.38	0.38	0.96	円形	2.25		P738	
	P12	0.49	0.40	1.08	楕円形	2.50		P735	
	P13	0.46	0.40	1.14	楕円形	2.40		P731	
	P14	0.46	0.43	0.68	円形	2.40		P728	
中央(2)	16.70	P15	0.40	0.38	0.87	円形	P32へ 0.26		P724
	P16	0.35	(0.30)	0.24	楕円形か	1.10	P33へ 1.56	P746	
	P17	0.45	0.40	0.27	楕円形	1.25		P745	
	P18	0.35	(0.30)	0.34	円形か	1.20		P743	
	P19	0.35	0.30	0.30	楕円形	1.20		P742	
	P20	0.38	0.28	0.37	楕円形	1.15		P740	
	P21	0.30	0.25	0.31	楕円形	1.20		P739	
	P22	0.40	(0.33)	0.22	楕円形か	1.25		P737	
	P23	0.40	0.32	0.33	楕円形	1.10		P736	
	P24	0.30	(0.25)	0.24	楕円形か	1.00		P734	
	P25	0.35	(0.20)	0.29	円形か	0.30		P732	
	P26	0.45	0.36	0.28	円形	1.10		P733	
	P27	0.50	(0.35)	0.37	楕円形か	1.30		P730	
	P28	0.38	0.33	0.42	楕円形	1.15		P729	
P29	0.35	(0.30)	0.41	楕円形か	1.20		P727		
北西辺	16.70	P30	0.35	(0.20)	0.40	楕円形か	0.20		P725
	P31	0.30	(0.30)	0.42	楕円形か	1.00		P814	
	P32	0.28	(0.25)	0.24	円形か	P40へ 1.58		P723	
	P33	0.48	0.48	0.90	円形	2.40		P755	
	P34	0.40	0.38	0.93	円形	2.40		P754	
	P35	0.63	0.45	1.03	楕円形	2.40		P753	
	P36	0.40	0.33	0.99	楕円形	2.30		P752	
	P37	0.40	0.38	1.20	円形	2.50		P751	
北西辺	16.70	P38	0.55	0.45	1.17	楕円形	2.40		P750
	P39	0.58	0.35	0.88	不整形	2.30		P749	
	P40	0.35	0.33	0.68	円形	-		P748	

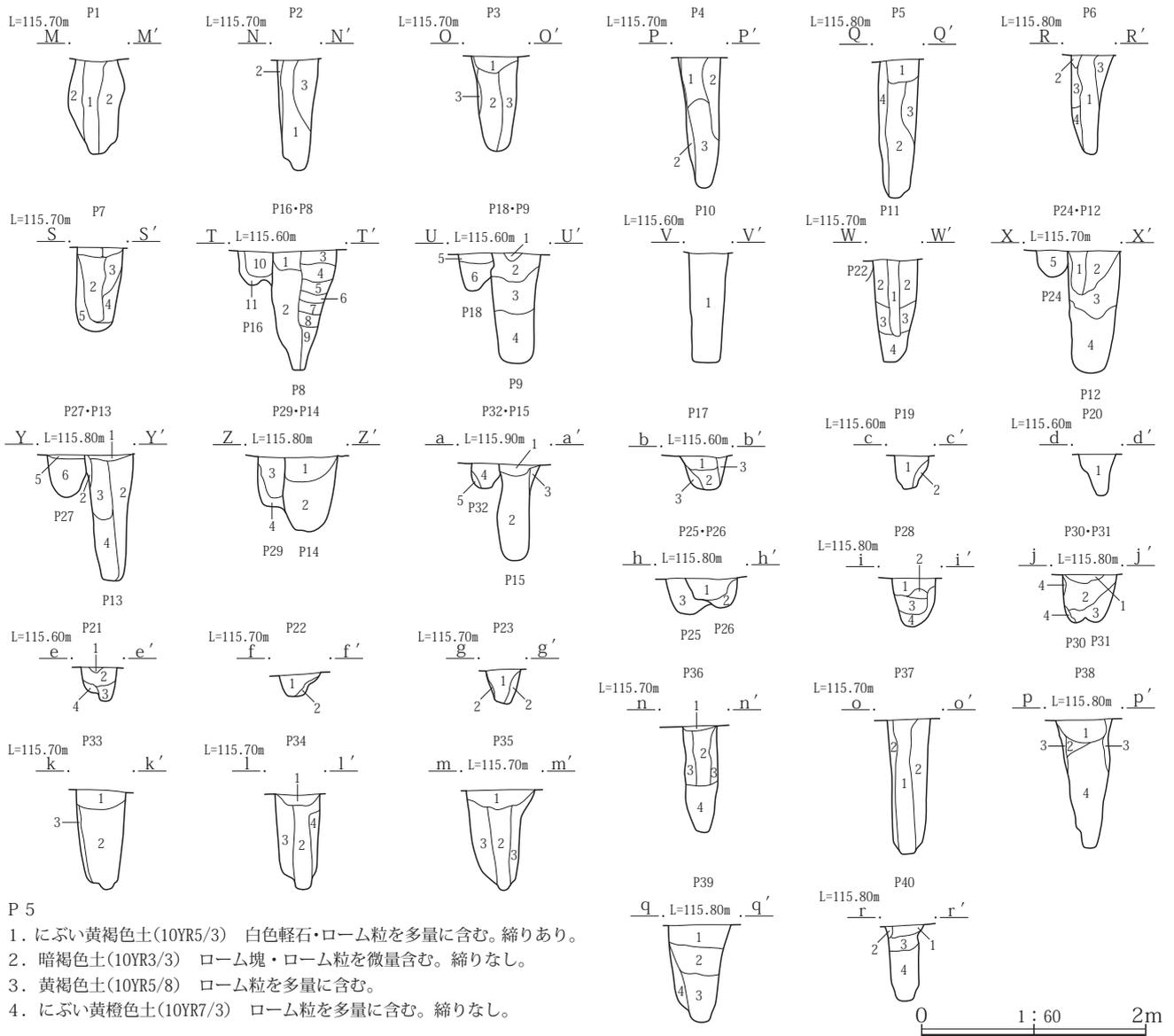


第249図 3区19号掘立柱建物



第250図 3区19号掘立柱建物断面図(1)・柱間模式図

### 第3章 調査の成果



#### P 5

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。締りあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。締りなし。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム粒を多量に含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR7/3) ローム粒を多量に含む。締りなし。

#### P 6

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。締りあり。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を微量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム粒を多量に含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR7/3) ローム粒を多量に含む。締りなし。

#### P 7

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。締りあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を微量含む。締りなし。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を微量含む。
4. 黄褐色土(10YR5/8) ローム粒を多量に含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR7/3) ローム粒を多量に含む。締りなし。

#### P 16・P 8

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を多量に含む。下位程締りなし。
3. 明黄褐色土(10YR6/8) 暗褐色土・ローム塊を多量に含む。
4. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。
6. 黄褐色土(10YR7/8) ローム粒を多量に含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。
8. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を少量含む。締りなし。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。

11. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒褐色土塊を少量含む。

#### P 18・P 9

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を多量に含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・褐色土塊を少量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を微量含む。締り弱。
4. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を多量・ローム粒少量含む。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。

#### P 10

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を含む。締りなし。

#### P 11

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。締りなし。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。

#### P 24・P 12

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒白色軽石を含む。締りなし。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を多量に含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。

第251図 3区19号掘立柱建物断面図(2)

4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
5. 黄褐色土(10YR5/8) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P27・P13

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮りなし。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を微量含む。縮りなし。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
5. 黄褐色土(10YR5/8) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量、白色軽石を少量含む。縮りあり。

P29・P14

1. 黄褐色土(10YR5/8) 白色軽石・ローム塊を多量に含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を含む。縮り弱。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を多量に含む。縮りあり。
4. 黄褐色土(10YR5/8) 褐色土塊を少量含む。縮りなし。

P32・P15

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を少量含む。縮りなし。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。
5. 黄褐色土(10YR5/8) 褐色土塊を少量含む。

P17

1. 黒褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P19

1. 暗褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P20

1. 暗褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。

P21

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/1) 白色軽石を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・褐色土塊を少量、白色軽石を微量含む。縮りあり。
4. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P22

1. 暗褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒褐色土塊を少量含む。

P23

1. 暗褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りややあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒褐色土塊を少量含む。

P25・P26

1. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量、白色軽石を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量、白色軽石を微量含む。縮りあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮りあり。

P28

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を微量含む。縮りあり。

3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を多量に含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。
4. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。褐色土塊を微量含む。

P30・P31

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を微量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りあり。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を多量に含む。
4. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P33

1. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石・ローム粒を少量含む。縮りなし。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を少量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P34

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。縮りなし。
4. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P35

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を微量含む。縮りあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。粘性ややあり。縮り弱。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を少量含む。

P36

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を微量含む。縮りあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。粘性ややあり。縮り弱。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 中位にローム塊を多量に含む。
4. 黒色土(10YR2/1) 縮り弱。

P37

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮り弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

P38

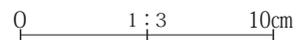
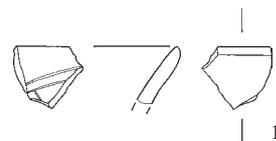
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を微量含む。縮りややあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。粘性ややあり。縮り弱。

P39

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。縮りあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。やや粘質。縮り弱。
3. 黒色土(10YR2/1) 縮り弱。
4. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。

P40

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。縮りあり。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。褐色土塊を少量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を多量に含む。縮り弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を少量含む。縮りなし。



第252図 3区19号掘立柱建物出土遺物

## 2. 竪穴建物・竪穴状遺構

2区北から5区において調査した竪穴建物は3棟、竪穴状遺構は2基である。全て2区北と3区に位置しており、4区・5区では検出されなかった。時期は6世紀後半の竪穴建物が1棟で、それ以外の遺構は8世紀代と考えられる。1区や2区とはその様相が異なっていた。

### 2区北68号竪穴建物(第253～258図、PL.67・117～119)

2区北の中央から5m程西の位置にある。

**座標値** X=42,865～42,870 Y=-55,620～-55,626

**重複遺構** 18号掘立柱建物、7号柱穴列、12号溝と重複している。本遺構が最も新しい。

**形状** 長方形

**主軸方位** N-94°-E

**規模** 長軸4.85m 短軸4.08m

床面積16.07㎡ 残存壁高67cm

**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む暗褐色土と褐色土で、一部に黒色土塊が多量に見られる。

**床面** ほぼ平坦で固く締っている。建物の中央付近を横切る地割れの痕跡を検出した。北壁の中央より1m弱東寄りの位置から、南壁のほぼ中央に向かってやや蛇行して続いている。床面よりも黒味の強い土が床面に入り込んでいる。

**掘方** 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm程の所もあるが、1cm～2cmの所もある。また、細かい凹凸も見られる。建物の北東隅よりやや内側で床下土坑を1基検出した。規模は長径95cm、短径90cm、深さ21cmを測る。

**竈** 東壁中央よりやや南寄りの位置に設置している。規模は長軸190cm、袖幅42cm、燃焼部幅58cmを測る。燃焼部は壁の内側にあり、壁外への掘り込みは95cmである。燃焼部底部やその周辺に多量の焼土や灰、炭化物が堆積している。

**貯蔵穴** 竈右脇にある。規模は長径52cm、短径35cmの楕円形で、深さ19cmを測る。

**柱穴** 床面で2基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 30×30×15          P 2 34×34×10

P 2は、その位置から支柱穴の一つとも考えられるが、

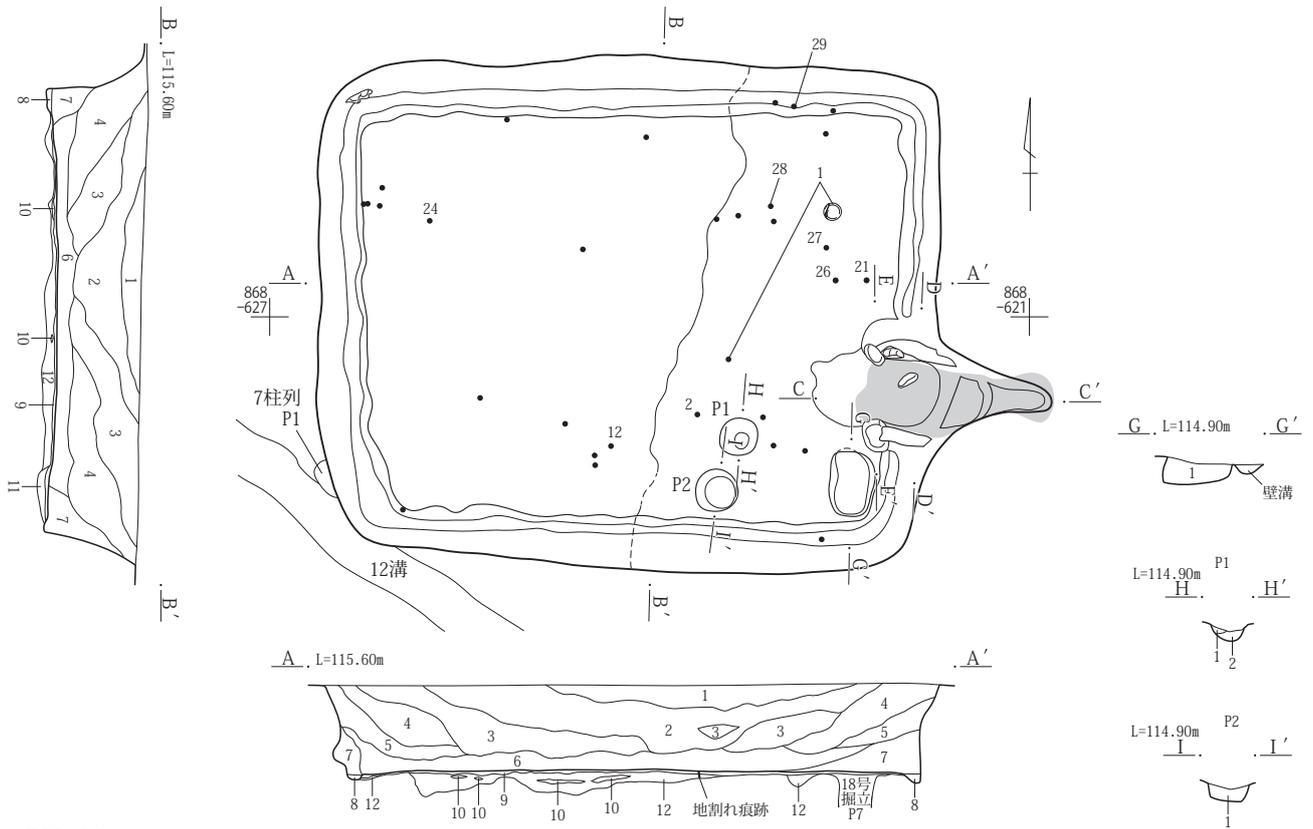
他に対応する柱穴が確認できないため、検討が必要である。

**壁溝** 全周している。幅8cm～13cm、深さ4cm～7cmを測る。

**遺物** 床面直上、竈内、埋没土中から様々な遺物が出土した。掲載した遺物は、1～5:土師器杯(1は床面直上)、6:須恵器杯蓋、7～9:同有台杯、10～12:土師器甕、13:須恵器壺、14～22:土師器甕(14・15・19・22は竈焚口、16～18は竈燃焼部底部、20・21は竈左袖付近)、23:土製紡錘車、24:須恵器蓋杯の蓋(床上15cm)、25:同高杯、26～30:敲石(26～28は床面直上、29は壁溝内)、31・32:礫である。

**所見** 本遺跡では、比較的規模の小さい建物で、竈は真東に掘り込まれている。床面で検出した地割れの痕跡は壁面や掘方面にも僅かに続いているが、埋没土中では検出されなかったことから、建物の使用中または埋没の初期段階で起こった地割れの可能性が高い。

床面直上で出土した杯1や、竈内及びその周辺で出土した甕14～22など、共に矛盾しない形態である。また、土師器甕の頸部は、くの字状を呈するものと、18のような口縁部と頸部の間に屈曲をもつコの字状口縁初期のものが存在することから、この建物の時期は、8世紀第3四半期から第4四半期に比定できる。囲い状遺構内にあたる地点で検出されたが、7号柱穴列、12号溝と重複して一部を壊していることから、囲い状遺構より新しい建物である。

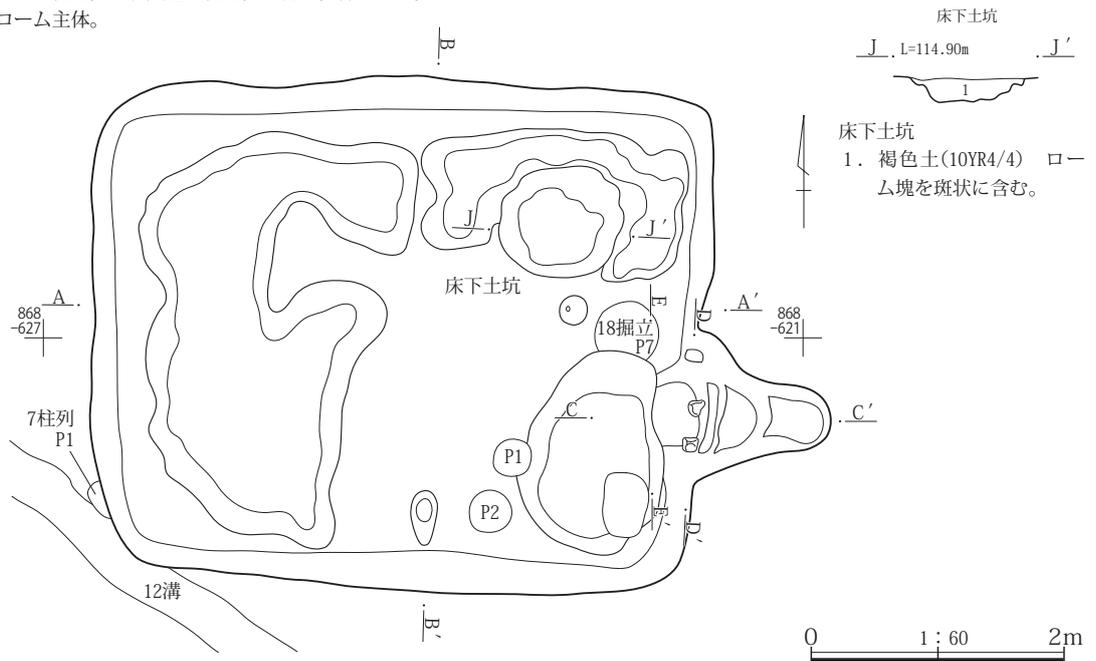


68号竪穴建物

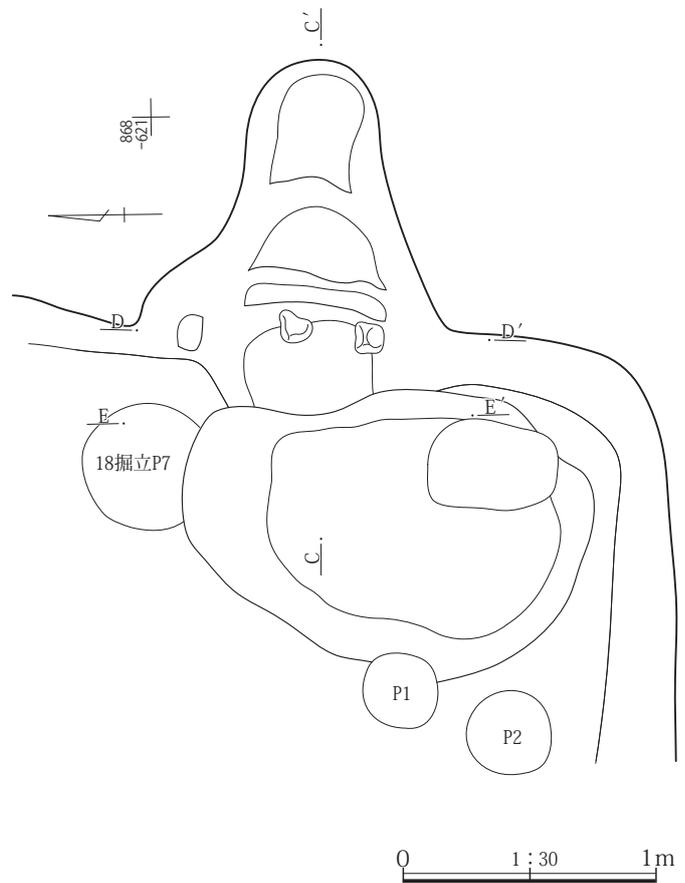
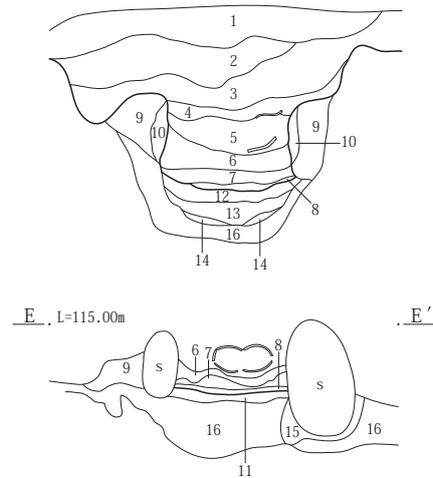
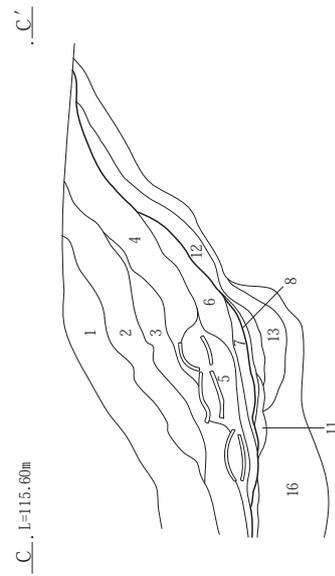
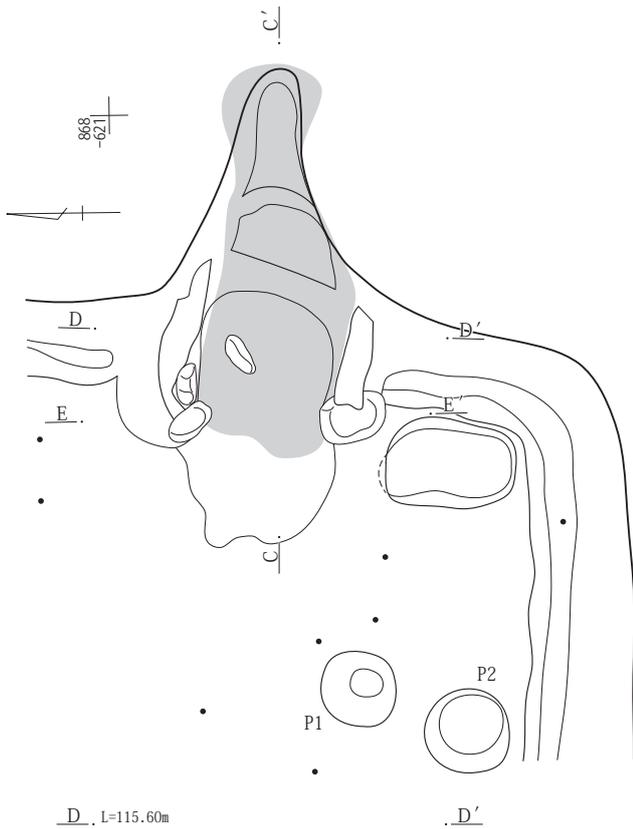
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒・焼土粒を微量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、黒色土塊を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・黒色土塊を多量、ローム粒を少量含む。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。粘性強。
7. 褐色土(10YR4/6) ローム塊を多量に含む。
8. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を斑状に多量に含む。締りなし。
9. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。固く締る。
10. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・黒色土塊を少量含む。固く締る。
11. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、黒色土塊を少量含む。締りなし。
12. 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。

貯蔵穴

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を斑状に多量に含む。
- P 1
1. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、炭化物を少量含む。
  2. 黒色土(10YR2/1) 細かな炭化物主体。粘性なし。やわらかい。
- P 2
1. 褐色土(10YR4/4) ローム主体。黒褐色土塊・焼土粒を微量含む。



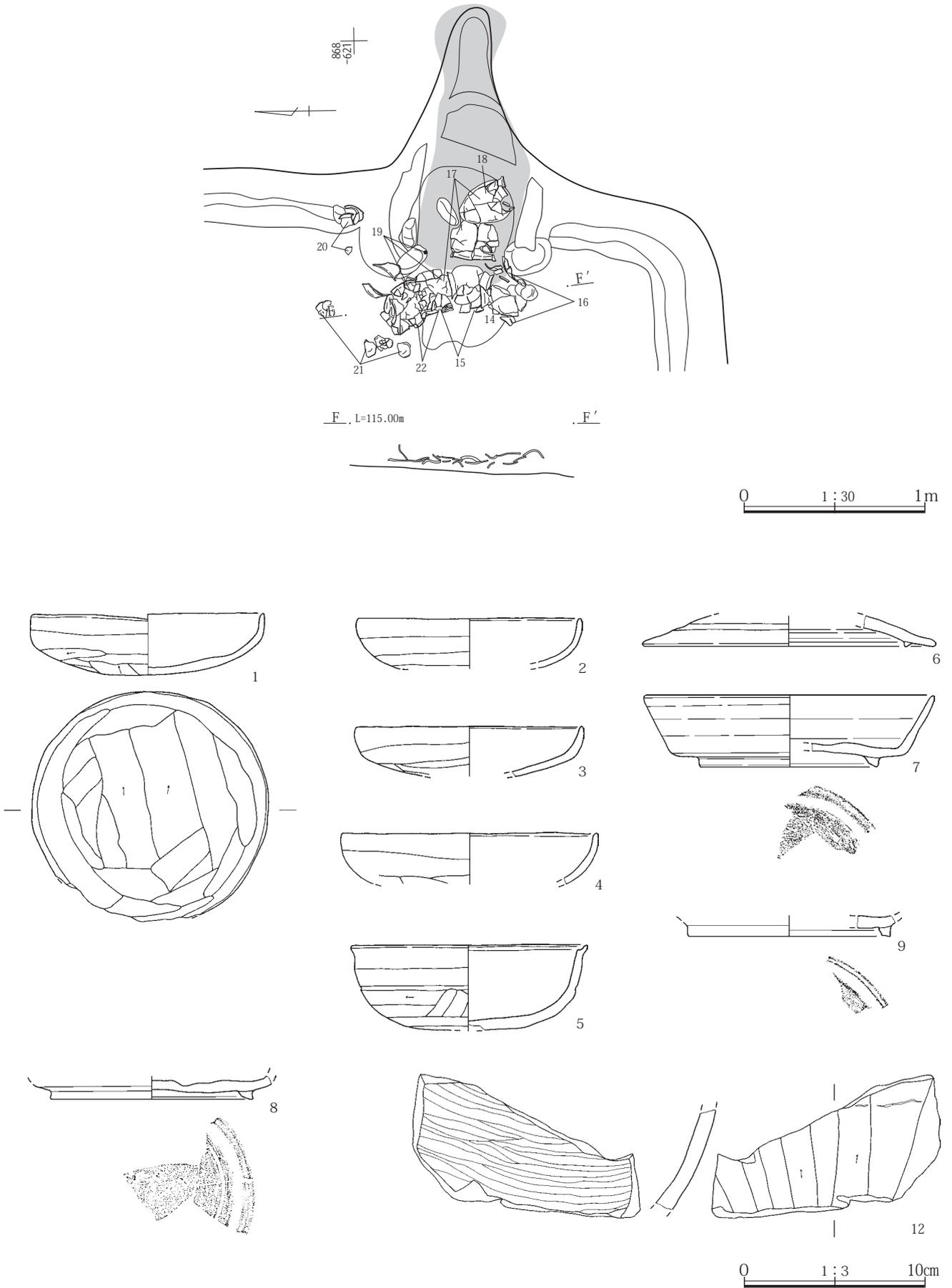
第253図 2区北68号竪穴建物



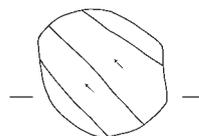
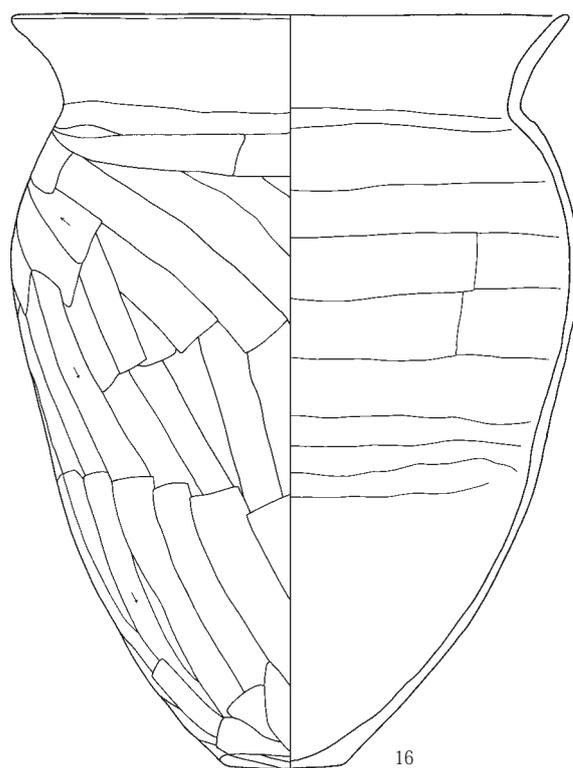
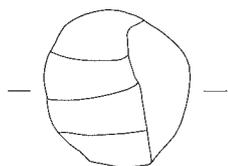
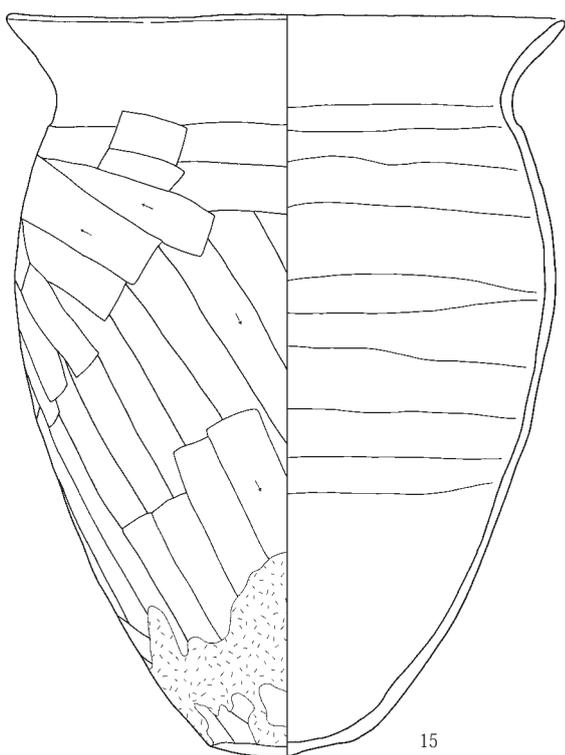
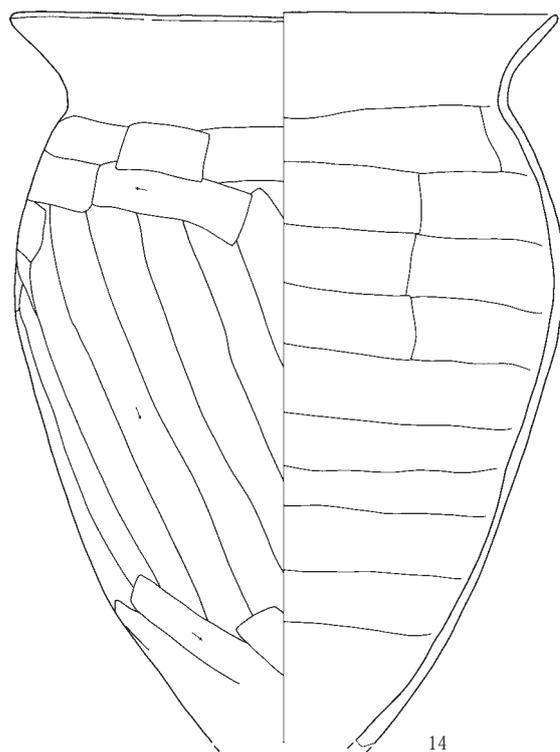
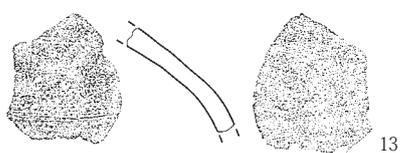
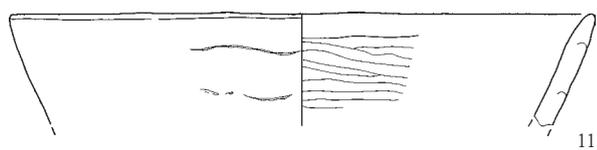
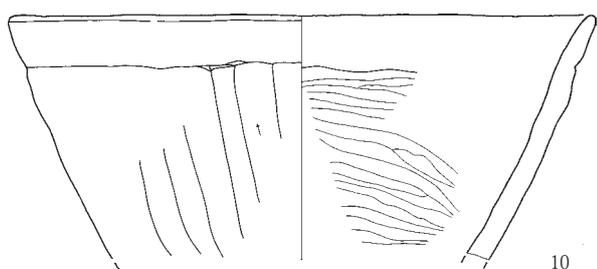
竈

1. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒・ローム粒・黒色土塊を少量含む。
2. 黄褐色土(2.5Y5/3) 焼土粒を微量含む。粘性強。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化粒・焼土粒・ローム粒を微量含む。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土塊を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊を少量含む。粘性強。
6. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土塊を少量含む。粘性強。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 赤褐色焼土を多量、炭化物を少量含む。
8. 褐灰色土(10YR4/1) 灰層。炭化物粒を多量に含む。締りなし。
9. 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2) 焼土を微量含む。固く締る。
10. 赤褐色粘質土(10R5/4) 暗褐色土を微量含む。
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土・褐灰色粘質土を少量含む。
12. 灰黄褐色土(7.5YR4/2) 赤褐色焼土を多量に含む。
13. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 暗灰色灰・ローム塊を少量含む。
14. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
15. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。
16. 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。褐色土を微量含む。

第254図 2区北68号竈穴建物竈

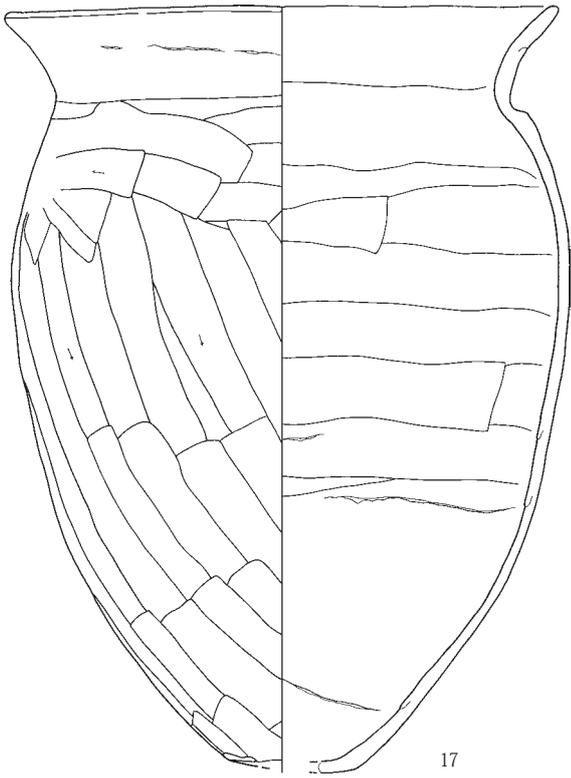


第255図 2区北68号竪穴建物竈遺物出土状況・出土遺物(1)

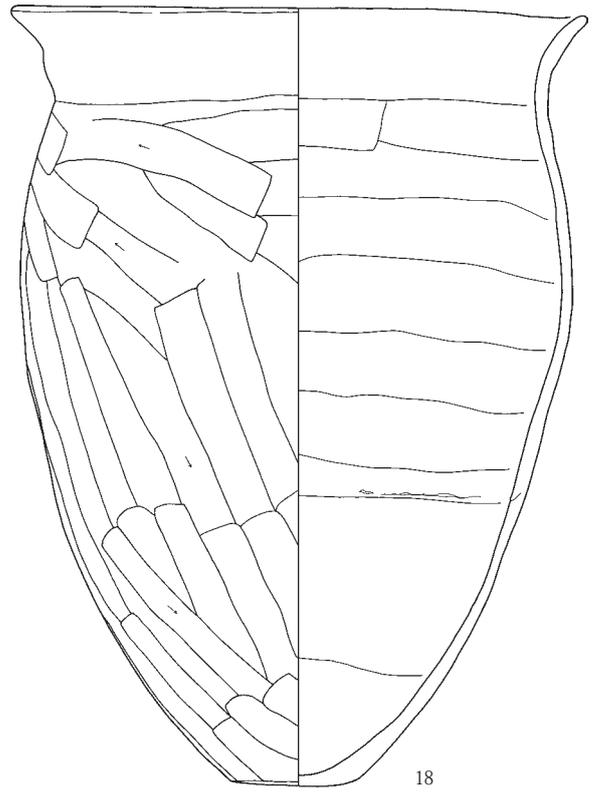


0 1:3 10cm

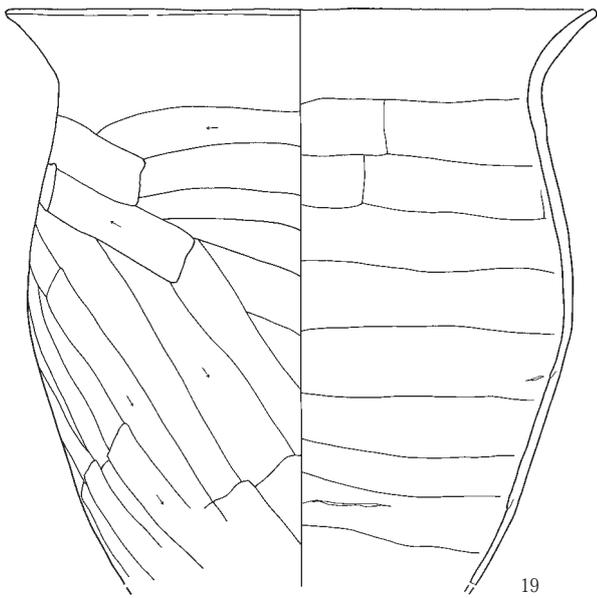
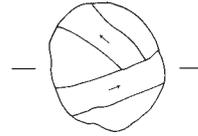
第256図 2区北68号竪穴建物出土遺物(2)



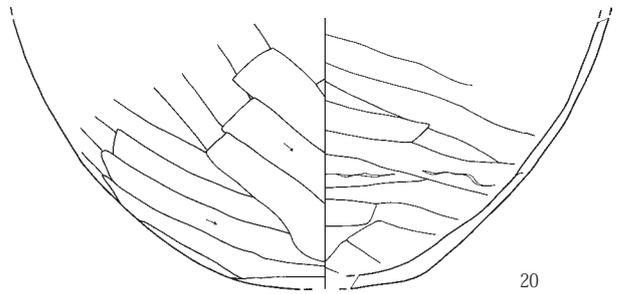
17



18



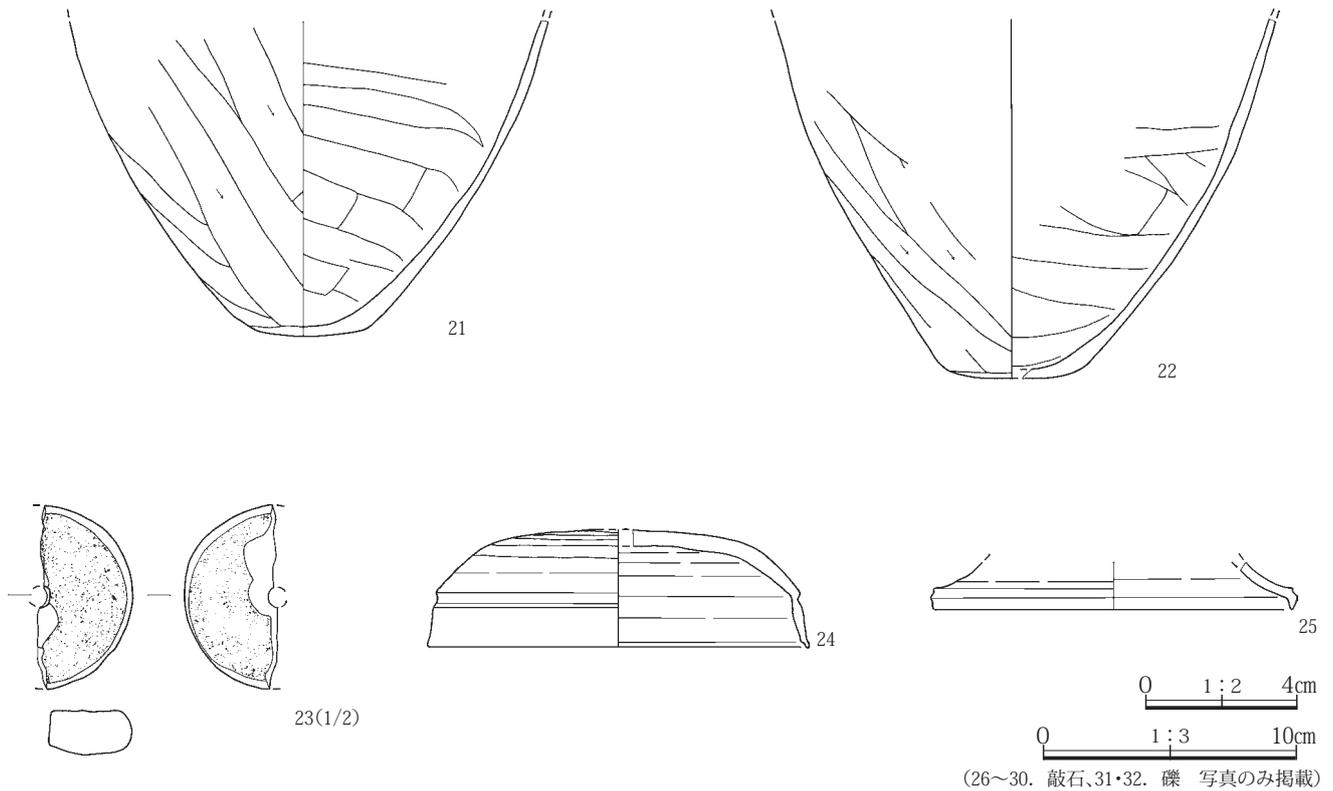
19



20



第257図 2区北68号竪穴建物出土遺物(3)



(26~30. 敲石、31・32. 礫 写真のみ掲載)

第258図 2区北68号竪穴建物出土遺物(4)

### 3区69号竪穴建物(第259図、PL.67)

調査区北西壁際やや北寄りの位置にあり、建物の多くが調査区外にあると考えられる。

**座標値** X=42,884~42,888 Y=-55,590~-55,592

**重複遺構** なし

**形状** 確認できた範囲の形状から、方形の可能性ある。

**主軸方位** N-24°-E

**規模** 長軸3.60m 短軸(1.50m)

床面積(4.48㎡) 壁高24cm

**埋没土** ローム塊やローム粒や白色軽石などを含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。

**床面** ほぼ平坦である。建物の中央周辺とみられる範囲では、硬化を確認した。その内側の長径60cm、短径30cm程のほぼ楕円形の範囲では、焼土を多量に含む黒褐色土を検出した。

**掘方** 細かい凹凸が見られるが、床面からの掘り込みが少なく、深い所でも7cm程である。

**竈・貯蔵穴・壁溝** 調査範囲内では確認されなかった。

**柱穴** 床面で2基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P 1 48×31×16

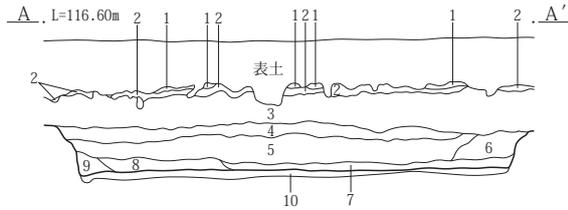
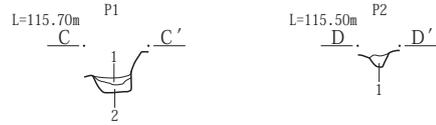
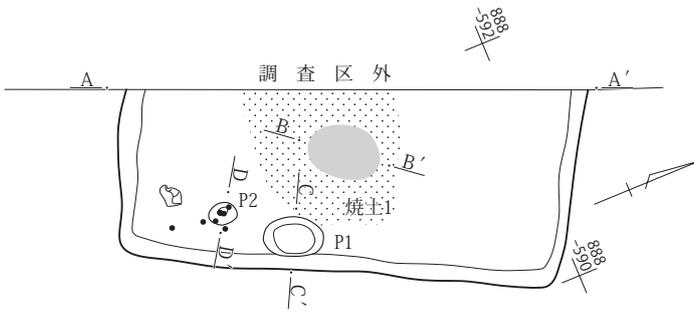
P 2 23×18×17

また、掘方の調査で調査区北西壁付近のピット状の窪みを検出した。長径19cm、短径15cm、床面からの深さ20cmである。位置や形状から掘方面で検出したピット状の窪みは柱穴の1つの可能性がある。P 1は出入り口に関わるものと想定することもできるが、明らかではない。

**遺物** 床面付近や埋没土中から土師器の小片が数点出土した。掲載したのは土師器杯である。

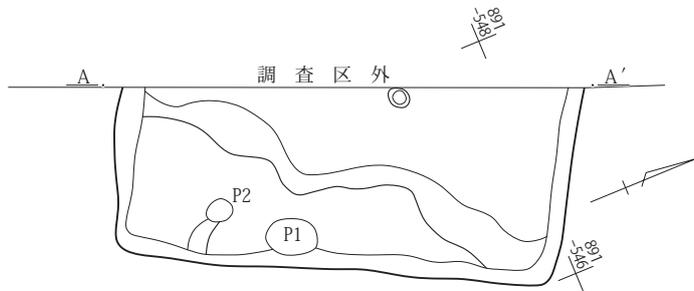
**所見** 多くが調査区外にあり明らかではないが、小規模な方形の建物と考えられる。床面の一部が硬化しており、その内側に焼土を多量に含む範囲があることから、その場で高熱を伴う作業が行われていた可能性がある。

出土した土器が小片のため、詳細な時期の比定は難しいが、掲載した土師器杯は6世紀後半前後のものである。囲い状遺構内にあたる地点で検出されたが、7号柱穴列の出土遺物とはやや時期差があり、建物の主軸方位も一致しないことから、囲い状遺構に伴う建物である可能性は低い。



69号竪穴建物

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-B混土。固く締る。
2. As-B一次堆積層
3. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を多量、黄褐色軽石を微量含む。締りあり。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・褐色土塊を少量含む。締りややあり。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色軽石を少量含む。粘性ややあり。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を少量、白色軽石を微量含む。
7. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石を少量含む。固く締る。
8. 褐色土(10YR4/4) ローム粒・塊を多量に含む。
9. 黄褐色土(10YR5/6) 黒色土塊・白色軽石を少量含む。
10. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。黒色土塊を微量含む。



焼土1

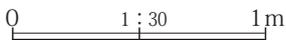
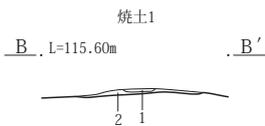
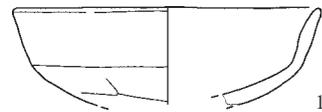
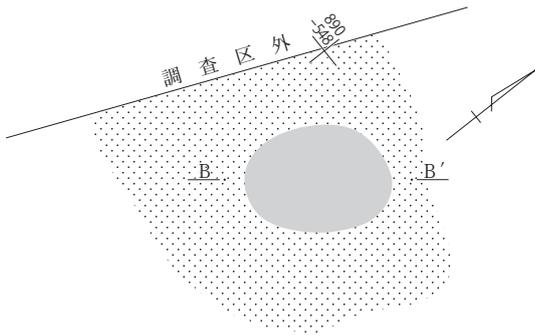
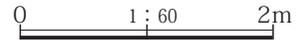
1. 浅黄橙色焼土(7.5YR8/6) 黒褐色土を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒を少量含む。締りあり。

P1

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 白色軽石を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・粒を多量に含む。

P2

1. 黄橙色土(10YR7/8) 暗褐色土塊を少量含む。締り弱。



第259図 3区69号竪穴建物・出土遺物

3区70号竪穴建物(第260～262図、PL.68・119)

調査区北側、69号竪穴建物の東約45mの位置にある。

座標値 X=42,887～42,892 Y=-55,545～-55,549

重複遺構 59号土坑と重複している。本遺構が古い。

形状 正方形

主軸方位 N-130°-E

規模 長軸3.50m 短軸3.30m

床面積9.66㎡ 残存壁高56cm

埋没土 上層は白色粒や白色軽石を含む暗褐色土、下層は、白色粒、白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む褐色土で埋没しており、床面付近には多量の炭化物や焼土を含む黒褐色土が堆積している。

床面 ほぼ平坦である。建物の中央から南側の範囲で硬化を確認した。また南隅などで炭化材や焼土が出土した。

掘方 場所によって起伏があり、床面からの深さが20cm程の所もあるが、5cm未満の所もある。また、細かい凹凸も見られる。

竈 南東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸92cm、袖幅50cm、燃烧部幅40cmを測る。燃烧部の一部が壁を掘り込む位置にあり、壁外への掘り込みは66cmである。袖石は残されていなかったが、掘方の調査で検出したP2、P3は袖石の据え付け掘方の可能性が高い。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

P2 16×13×11 P3 17×14×12

貯蔵穴 床面では確認されなかったが、建物の南隅の掘方で貯蔵穴の痕跡を検出した。

柱穴 P2・P3の他、建物の南西壁中央付近の掘方でピット1基を検出した。計測値は長径24cm、短径22cm、深さ14cmであった。その位置から、柱穴ではなく、出入り口に関わる可能性が高い。

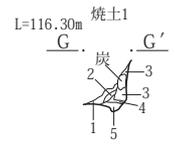
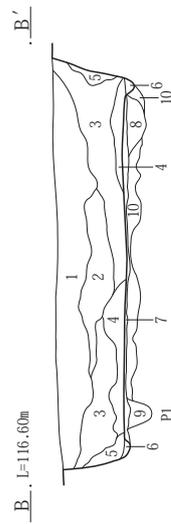
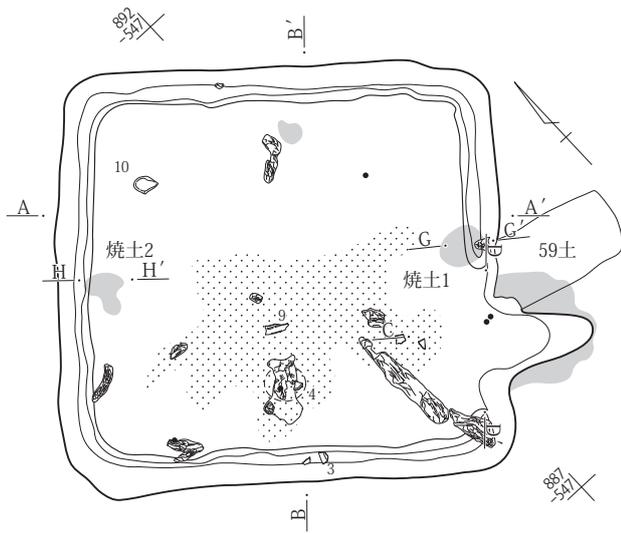
壁溝 全周している。幅5cm～15cm、深さ3cm～4cmを測る。

遺物 床面直上や竈内、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1～6：土師器杯(3・4は床面直上、5は竈内)、7：須恵器蓋杯の蓋、8・9：土師器甕(9は床上8cm)、10：器種不明の石製品(床面直上)、11：器種不明の鉄製品である。

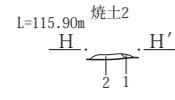
所見 正方形の小規模な建物である。床面直上で出土した炭化材や焼土は、南側に多く見られ建物全体に点在しており、建物の構築に利用された木材が、焼失したものと考えられる。据え付け掘方の残る竈袖石が残っていなかったこと、P1や貯蔵穴の痕跡とも考えられる形状が掘方の調査で確認されたことなどから、建物の放棄時に竈や出入り口に伴う施設の解体、貯蔵穴の埋め戻しなどを行って、建物が焼却されたことが想定できる。出土した遺物の中には、埋没過程での混入の可能性があるものも見られるが、竈内で出土した土師器杯などから、時期は8世紀第2四半期と考えられる。



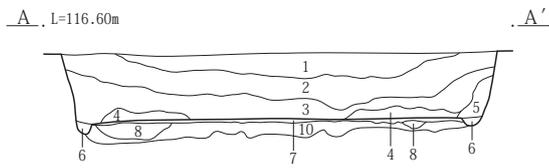
70号竪穴建物炭化材出土状況(南西から)



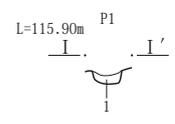
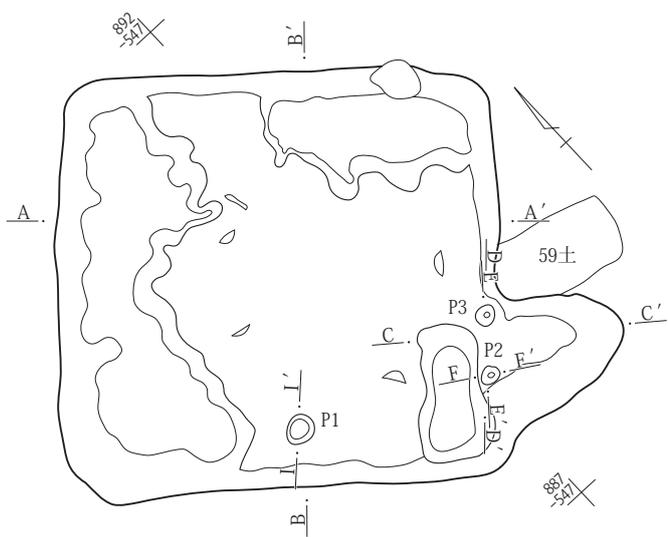
- 焼土1
1. 暗赤褐色土(2.5YR3/3) 橙色焼土を多量、炭化物を少量、ローム塊を微量含む。
  2. 暗褐色土(7.5YR3/3) 焼土を少量、ローム塊を微量含む。
  3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。しまりなし。
  4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。
  5. 褐色土(10YR4/6) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。



- 焼土2
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土・炭化物を多量に含む。
  2. にぶい赤褐色焼土(2.5YR4/4) にぶい黄褐色土を少量含む。固く締る。



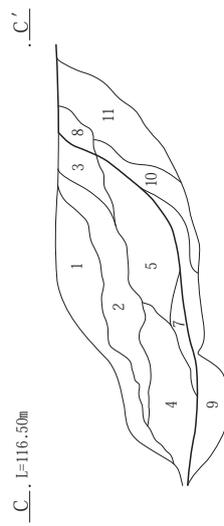
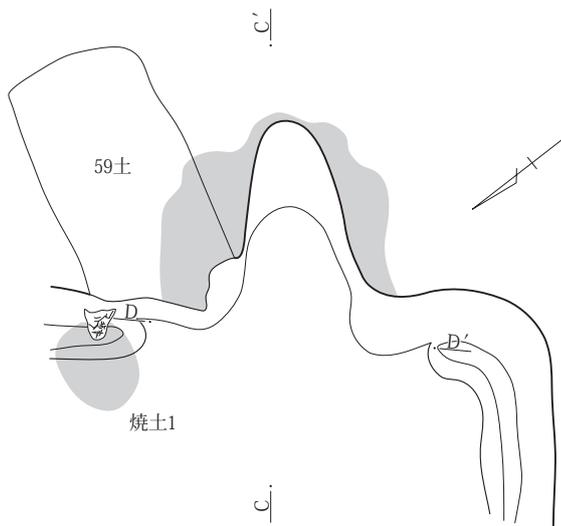
- 70号竪穴建物
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を多量、白色軽石を微量含む。
  2. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒を少量、白色軽石を微量含む。
  3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を少量、白色粒・白色軽石を微量含む。
  4. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物を多量、焼土粒を少量含む。
  5. 褐色土(10YR4/6) ローム塊を多量に含む。
  6. 褐色土(10YR4/6) ローム粒を多量、ローム塊を少量含む。
  7. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を多量、黒色土を少量含む。固く締る。貼床。
  8. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、黒色土を微量含む。
  9. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、炭化物粒を少量含む。
  10. 褐色土(10YR4/6) ローム主体。黒色土を微量含む。



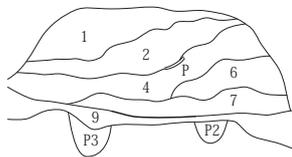
- P 1
1. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、炭化物粒を少量含む。



第260図 3区70号竪穴建物



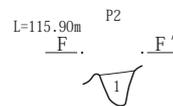
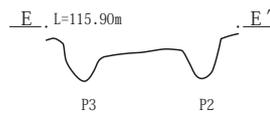
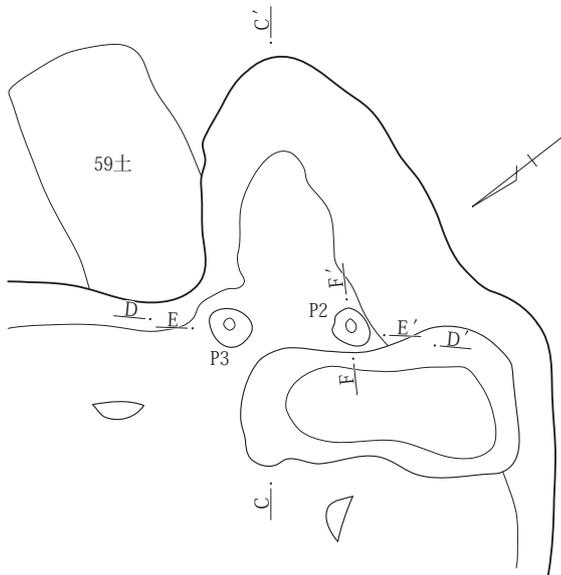
D, L=116.40m



D'

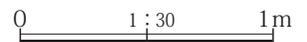
竈

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒を多量に含む。
2. にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム塊を多量に含む。粘性あり。固く締る。
3. 赤褐色土(2.5YR4/6) ローム主体。焼土塊を多量に含む。粘性あり。固く締る。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を多量に含む。締り弱。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土塊・焼土粒を多量、炭化物を少量含む。締り弱。
6. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒を多量、炭化物を少量含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物を多量に含む。締り弱。
8. 褐色土(10YR4/4) 焼土粒を少量含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物を多量に含む。
10. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒・炭化物を少量含む。締り弱。
11. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締り弱。



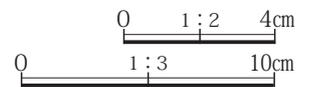
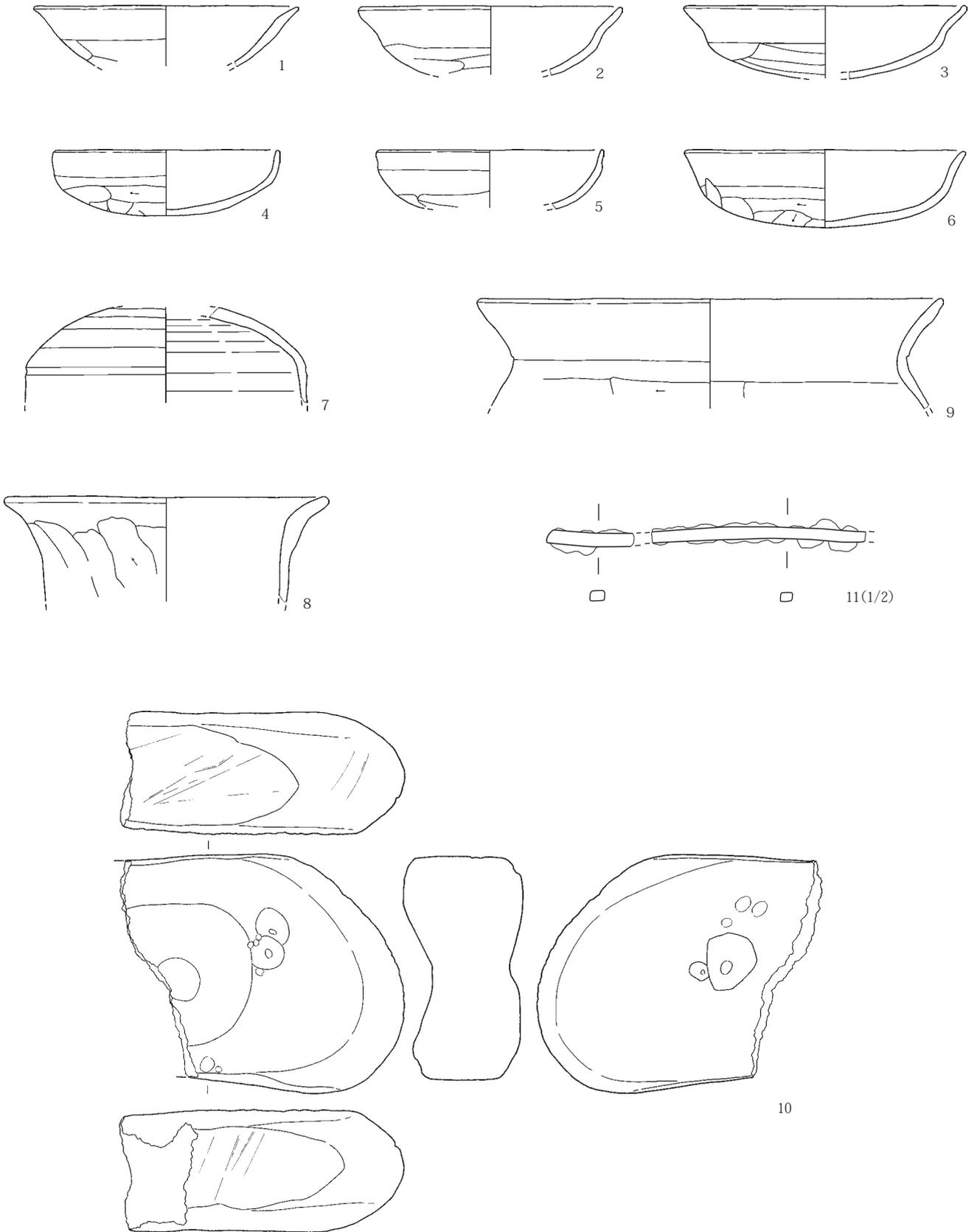
P 2

1. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締りなし。



第261図 3区70号竈穴建物竈

第4節 2区北～5区の遺構と遺物



第262図 3区70号竪穴建物出土遺物

3区6号竪穴状遺構(第263図、PL.68)

調査区北端、70号竪穴建物の5m程北にあり、遺構の北側が調査区外にある。

座標値 X=42,896・42,897 Y=-55,544~-55,546

重複遺構 なし

形状 遺構の北側が調査区外にあり、調査できた範囲の形状にもややゆがみがあって明らかではないが、方形に近い形状とみられる。

長軸方位 N-18°-E

規模 長軸2.00m 短軸(1.50m)

床面積(2.23㎡) 残存壁高28cm

埋没土 全体的に微量の焼土や炭化物が見られ、上層は白色粒を含むにぶい黄褐色土、下層は主に白色粒や灰白色軽石を含む暗褐色土で埋没している。

床面 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。遺構の西隅の50cm×40cm程の範囲で焼土が出土した。

遺物 床面直上や埋没土中から土師器や須恵器の小片が

多数出土した。掲載したのは、1:須恵器杯(床面直上)、2・3:土師器甕(2は床面直上)、4:須恵器甕(床面直上)である。

所見 長軸が2m程で、竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝共に確認されなかったため、竪穴状遺構としたが、おおむね平坦な床面を確認した。小片ながら、床面直上で出土した土器から、時期は8世紀前半と考えられる。

3区7号竪穴状遺構(第264図、PL.68)

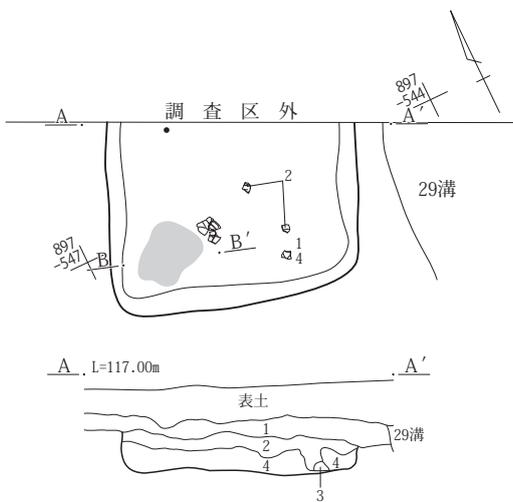
調査区南西隅にあり、遺構の北西側と南東側が調査区外にある。

座標値 X=42,812~42,815 Y=-55,619~-55,623

重複遺構 なし

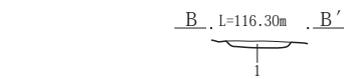
形状 遺構の北西側と南東側が調査区外にあるため明らかではないが、確認できた範囲の形状から、方形の可能性はある。

長軸方位 N-60°-W



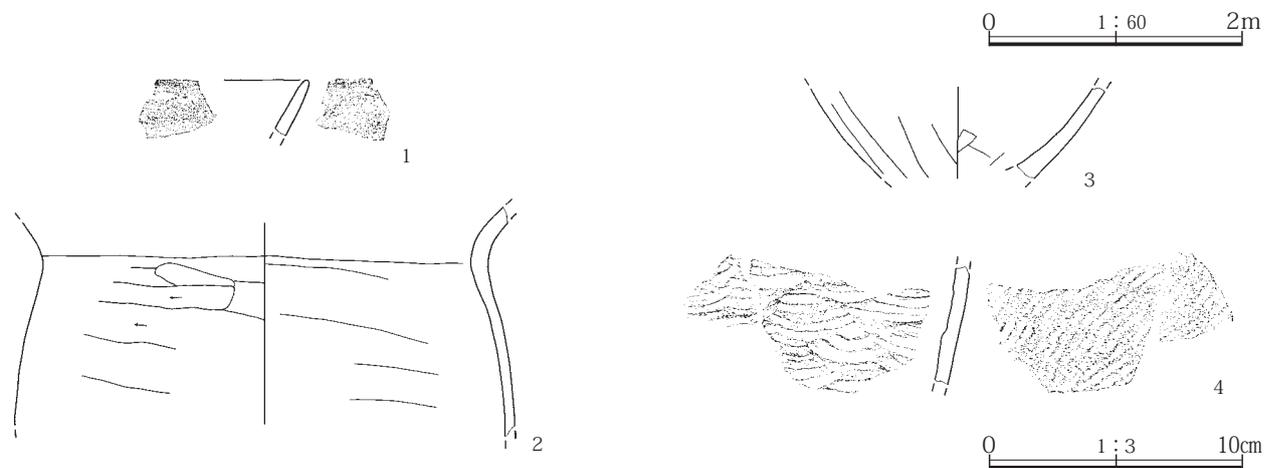
6号竪穴状遺構

1. 褐色土(10YR4/4) 白色粒を少量、ローム塊を微量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒・炭化物・焼土粒を微量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量に含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒・灰白色軽石・ローム塊・焼土粒・炭化物を微量含む。



B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3) 橙色焼土塊を少量含む。



第263図 3区6号竪穴状遺構・出土遺物

**規模** 長軸2.70m 短軸(2.50m)

床面積(6.75㎡) 残存壁高40cm

**埋没土** 主に白色軽石を含む黒褐色土や暗褐色土である。埋没土の更に上層にはAs-Bの一次堆積層やAs-B混土が残存していた。

**床面** 多少起伏があるが、ほぼ平坦である。遺構の北東壁付近で2基の土坑を検出した。それぞれの計測値は以下のとおり(長径×短径×深さcm)である。

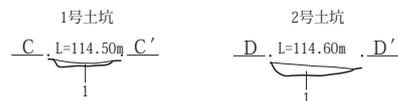
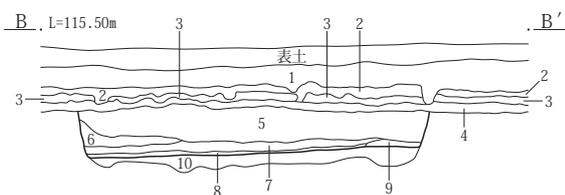
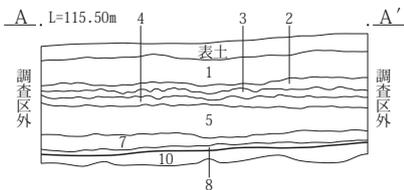
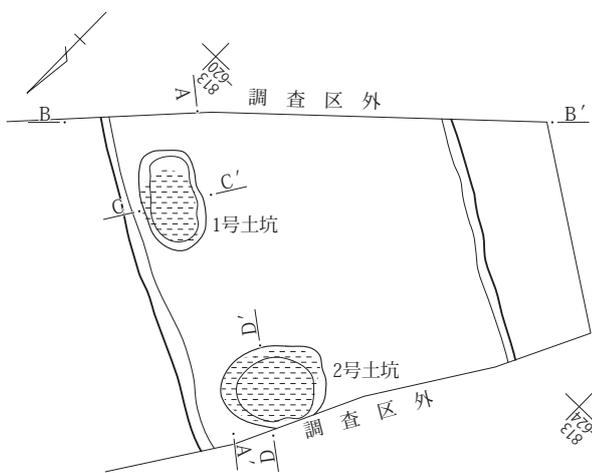
1号土坑 80×48×4      2号土坑 85×65×14

それぞれの用途は不明であるが、2号土坑の埋没土の底部には多量の炭化物が含まれていた。

**掘方** 床面から3cm～15cm程の深さで、起伏や細かい凹凸が見られる。

**遺物** 埋没土中から土師器の小片が数点出土した。掲載した掲載したのは、1：土師器杯、2：須恵器蓋杯の蓋である。

**所見** 確認できた範囲では、竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝共に確認されなかったため、竪穴状遺構としたが、おおむね平坦な床面があり、掘方も確認した。埋没土中からはあるが、8世紀後半の土器が出土しており、その時期の建物の可能性がある。



1号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物を多量、焼土粒を微量含む。

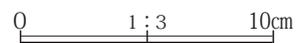
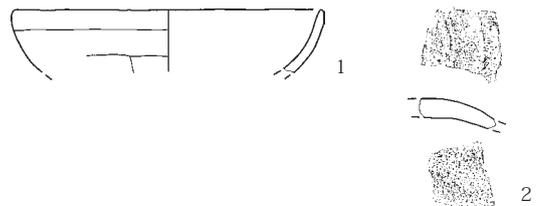
2号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 底部に炭化物を多量、ローム塊・ローム粒を少量含む。



7号竪穴状遺構

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒を多量に含む。粘性弱。固く締る。
2. 暗褐色土(10YR3/3) As-B混土。
3. As-B一次堆積層。灰塊を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石を少量含む。粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を多量に含む。固く締る。
6. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石を多量に含む。締りあり。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色軽石・褐色土塊を少量含む。粘性あり。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 白色軽石を少量含む。締りあり。
9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
10. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。黒褐色土塊を少量含む。



第264図 3区7号竪穴状遺構・出土遺物

### 3. 掘立柱建物

2区北から5区において調査した掘立柱建物は、囲い状遺構内の2棟を除き、2区北で2棟、4区で1棟であった。5区では検出されなかった。

#### 2区北16号掘立柱建物(第265図、第24表、PL.69・70)

調査区北側、68号竪穴建物の北東約15mの位置にある。

**座標値** X=42,876~42,881 Y=-55,608~-55,613

**重複遺構** なし **桁行方位** N-12°-W

**規模形態** 桁行2間：3.55m~3.50m

梁行2間：3.40m~3.38m 面積11.95㎡

東西に棟を取る側柱建物

**検出状況** 検出された柱穴は8基で、柱間は桁行方向1.93m~1.57m、梁行方向1.78m~1.60mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈する。各柱穴の規模は、長径37cm~72cm、短径35cm~55cm、深さ28cm~60cmである。ややばらつきはあるものの、規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主に白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。

**遺物** P4・P6から土師器の小片が出土した。掲載したのは、1：土師器鉢(P4内)、2：須恵器杯蓋(P6内) 3：土師器甕(P6内)である。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。隣接する17号掘立柱建物と規模はやや異なるが、棟方向がほぼ同じか直行しており、埋没土が近似していることから、時期差は少ないとみられる。P4内やP6内で出土した土器は、小片のため詳細な時期の比定は難しいが、古墳後期~古代のものである。囲い状遺構内にあたる地点で検出されたが、本遺構で出土した遺物は、7号柱穴列の出土遺物とはやや時期差があり、建物の主軸方位も一致しないことから、囲い状遺構に伴う建物である可能性は低い。

#### 2区北17号掘立柱建物(第266図、第25表、PL.70)

調査区北側、16号掘立柱建物の西に隣接し、建物の北西側の一部または多くが調査区外に続いている。

**座標値** X=42,875~42,878 Y=-55,614~-55,619

**重複遺構** 634号・635号ピットと重複している。新旧関係は明らかではない。

**桁行方位** N-104°-W

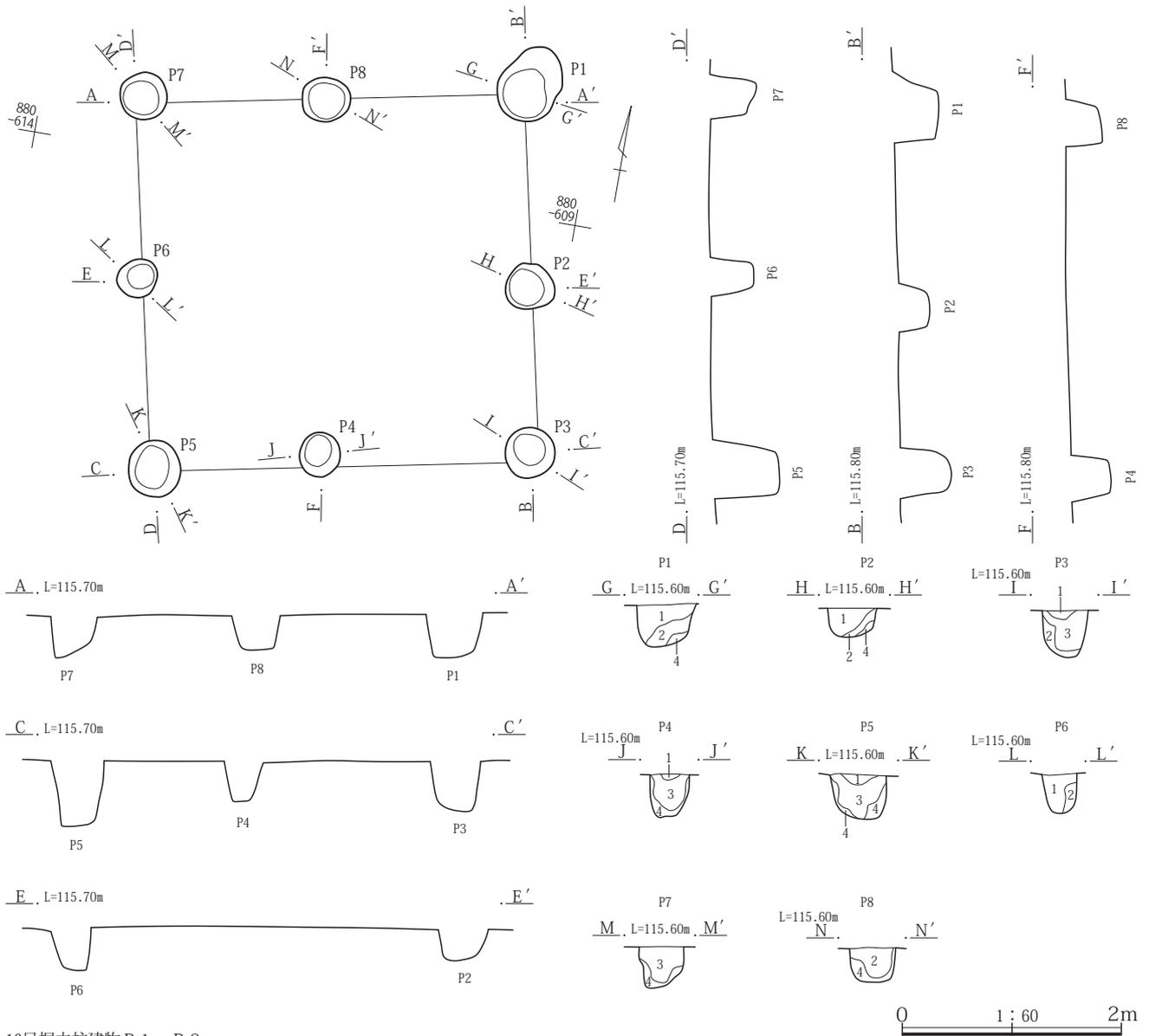
**規模形態** 桁行2間：(4.35m)

梁行1間以上：(2.22m) 面積(4.83㎡)

**検出状況** 検出された柱穴は4基で、柱間は桁行方向2.15m~2.20m、梁行方向2.22mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形を呈し、規模は、長径35cm~55cm、短径30cm~40cm、深さ35cm~52cmである。ややばらつきはあるものの、規模や形状がおおむね近似している。埋没土は主に白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 確認面、埋没土等から、中世以前の建物と考えられる。建物の一部、または大部分が調査区外にあり、より規模の大きい建物の可能性がある。隣接する16号掘立柱建物と柱間はやや異なるが、棟方向がほぼ同じか直交しており、埋没土が近似していることから、時期差は少ないとみられ、16号掘立柱建物と同様に2間×2間の側柱建物であることも想定できる。囲い状遺構内にあたる地点で検出されたが、建物の主軸方位が一致せず、囲い状遺構に伴う建物である可能性は低い。

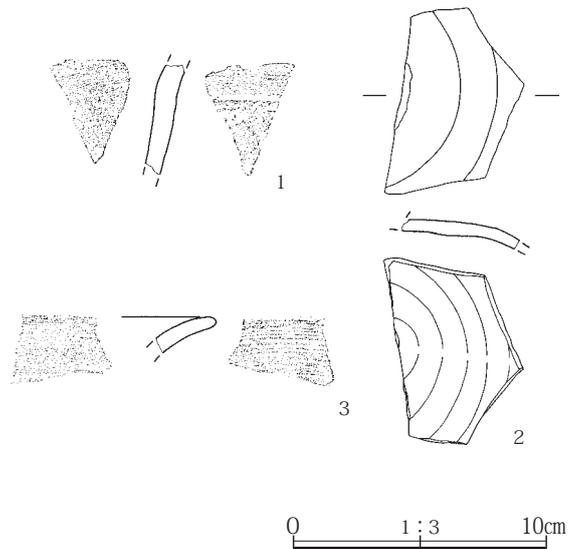


16号掘立柱建物 P 1～P 8

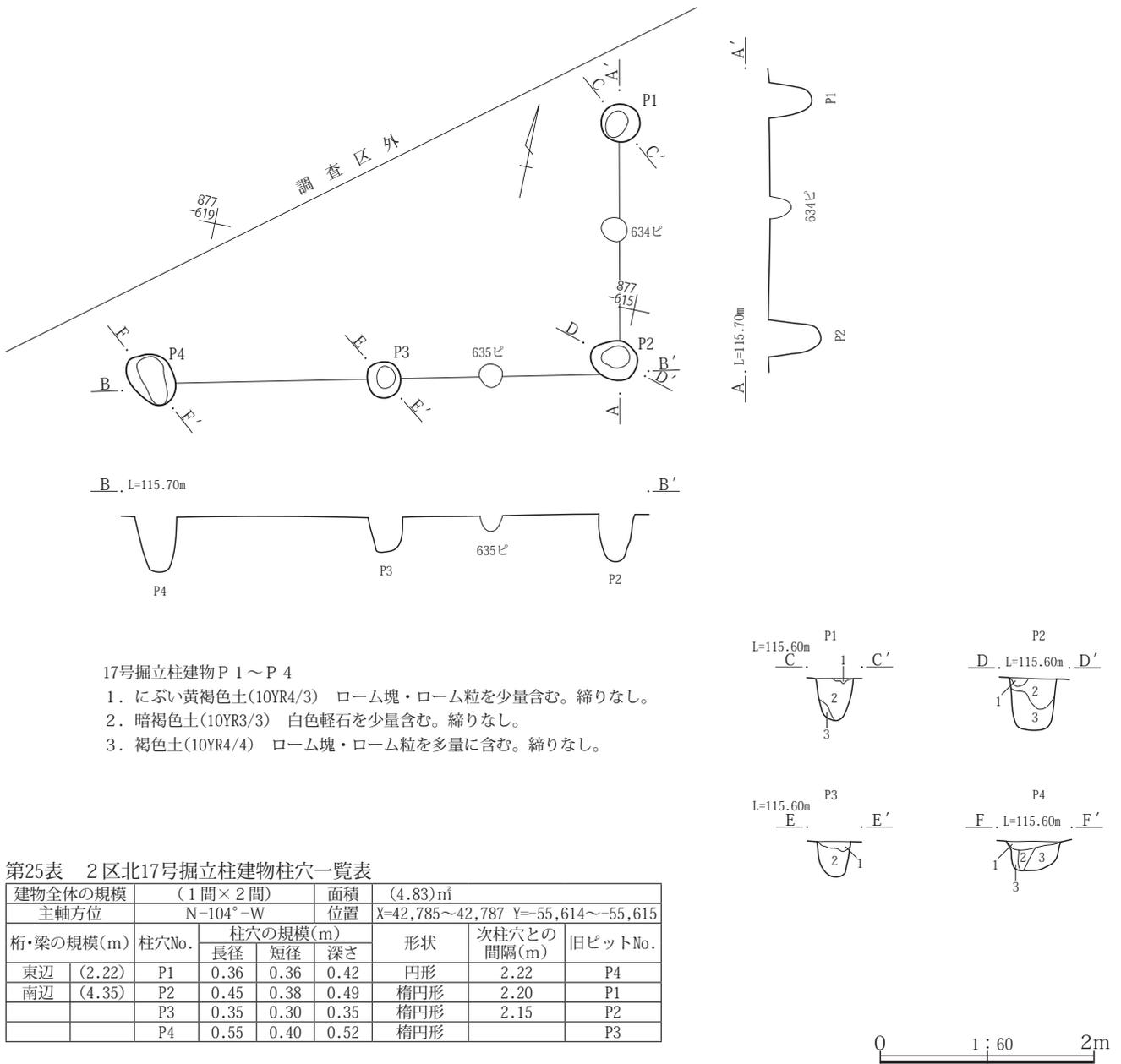
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。締りなし。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を少量含む。締りなし。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。締りなし。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締りなし。

第24表 2区北16号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		2間×2間		面積		11.95㎡		
主軸方位		N-12°-W		位置		X=42,876~42,881 Y=-55,608~-55,613		
桁・梁の規模(m)	柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ピットNo.	
		長径	短径	深さ				
東辺	3.38	P1	0.72	0.55	0.41	楕円形	1.78	P7
		P2	0.45	0.42	0.28	円形	1.60	P8
南辺	3.50	P3	0.45	0.45	0.46	円形	1.93	P1
		P4	0.40	0.38	0.37	楕円形	1.57	P2
西辺	3.40	P5	0.52	0.48	0.60	楕円形	1.75	P3
		P6	0.37	0.35	0.40	円形	1.65	P4
北辺	3.55	P7	0.43	0.43	0.40	円形	1.73	P5
		P8	0.44	0.40	0.32	円形	1.82	P6



第265図 2区北16号掘立柱建物・出土遺物



第266図 2区北17号掘立柱建物

4区20号掘立柱建物(第267・268図、第26表、PL.71)

調査区南西壁際にある。

座標値 X = 42,898 ~ 42,906 Y = -55,524 ~ -55,532

重複遺構 828号・829号・895号・896号ピットと重複している。新旧関係は、本遺構が896号ピットより新しく、895号ピットより古い。828号・829号ピットとの関係は明らかではない。

桁行方位 N-10°-E

規模形態 桁行3間：6.35m～6.45m

梁行3間：3.85m

面積24.45㎡

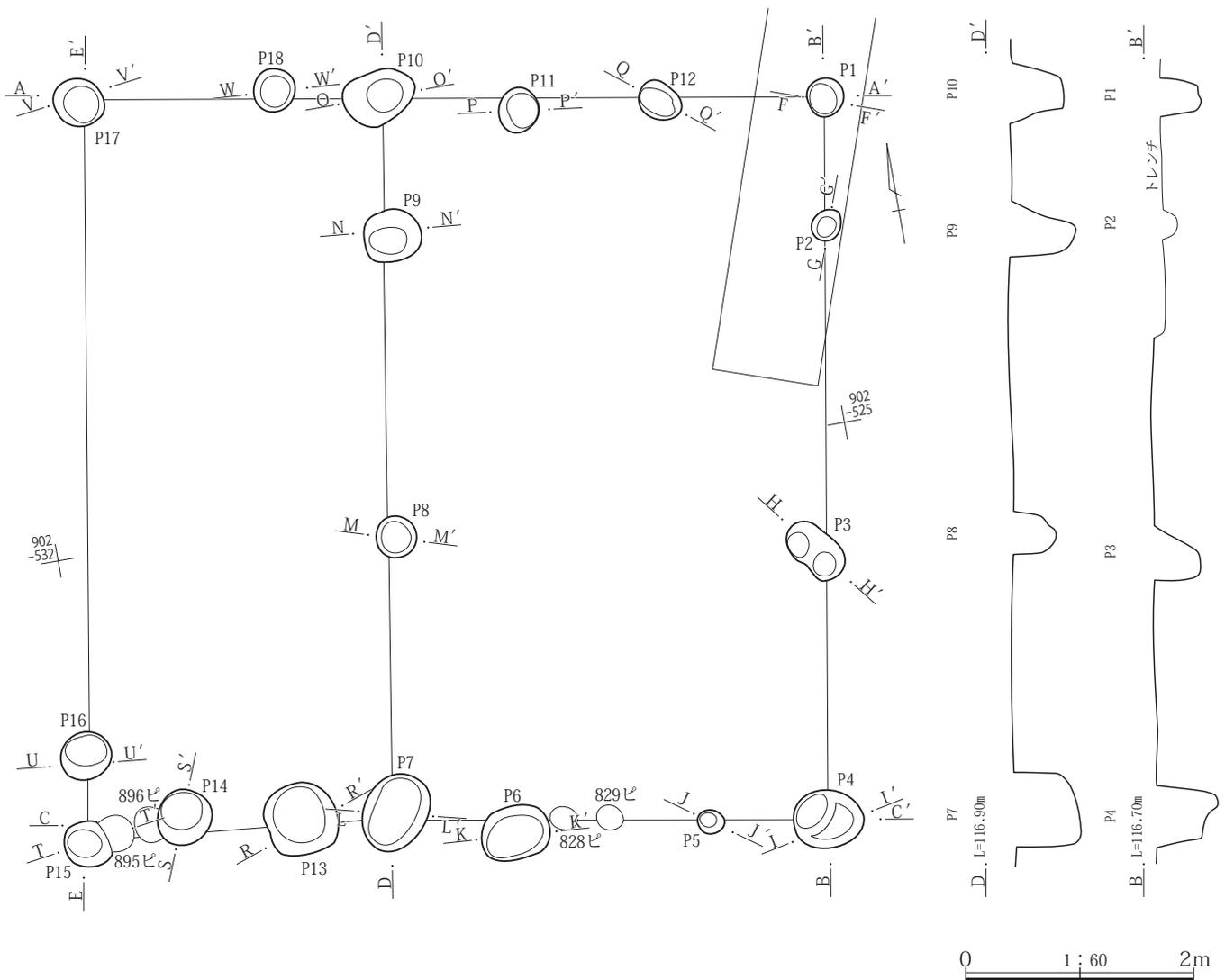
南北に棟を取り、西に庇をもつ側柱建物

検出状況 検出された柱穴は18基で、柱間は桁行方向1.10m～3.00m、梁行方向1.05m～1.70mを測る。各柱穴はおおむね円形、あるいは円形に近い楕円形・隅丸方

形を呈し、規模は、長径24cm～70cm、短径20cm～63cm、深さ21cm～60cmである。形状はおおむね近似しているが、規模にはややばらつきがある。埋没土は主にローム塊やローム粒を含む褐色土系の土である。

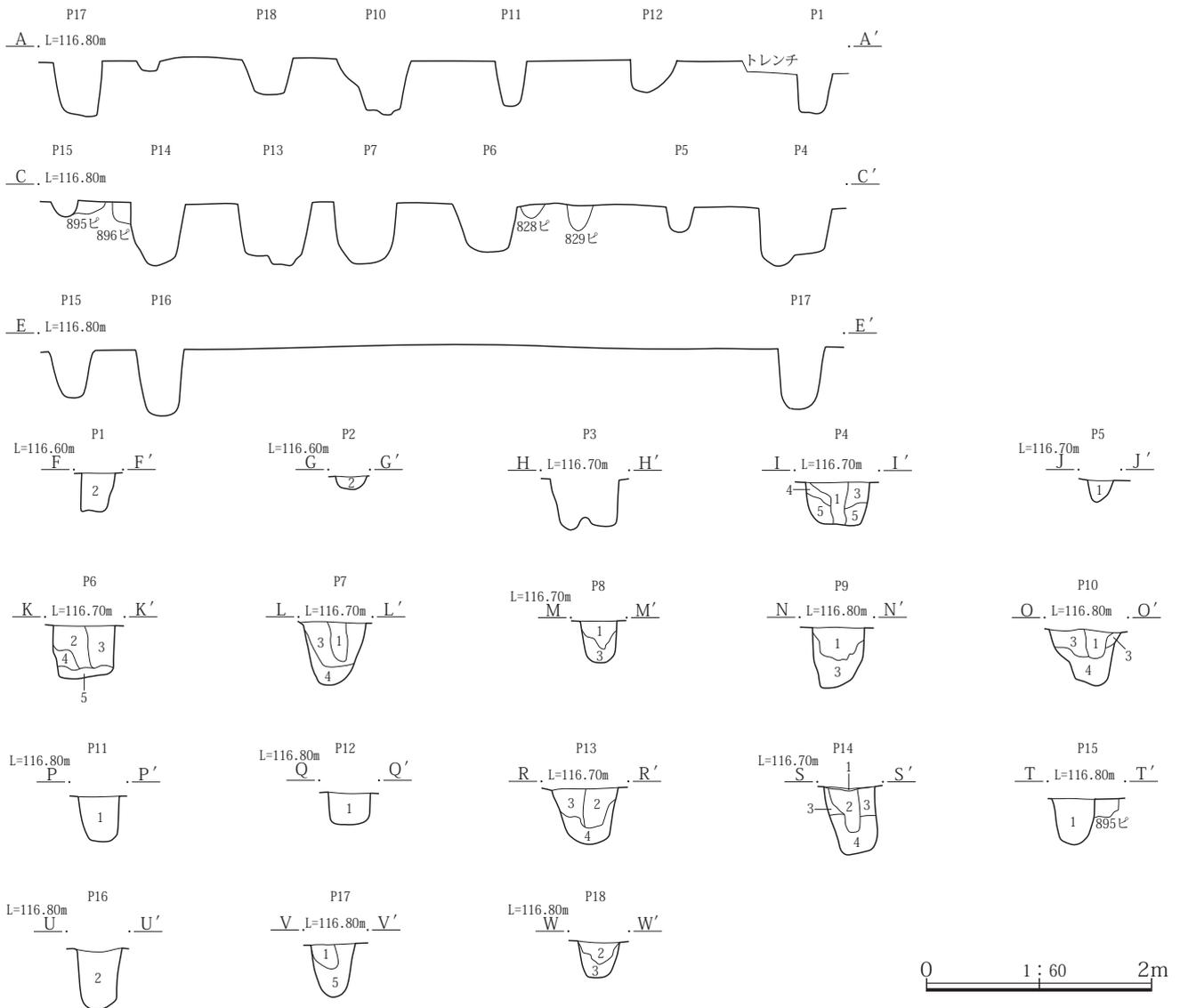
遺物 P6から土師器の土器片が5点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見 確認面、埋没土、出土遺物等から、中世以前の建物と考えられる。周辺に所在する建物等は少ないが、3区の北側に位置する70号竪穴建物や6号竪穴状遺構は8世紀代の遺構の可能性が高い。これらの遺構の埋没土に本遺構の埋没土がおおむね類似していることから、時期差は少ないとみられる。これらのことから、古代の掘立柱建物と考えられる。



第267図 4区20号掘立柱建物

第3章 調査の成果



20号掘立柱建物 P 1～P 12

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。締り弱。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。締り弱。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量、黒褐色土塊を少量含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土を少量、ローム塊を微量含む。固く締る。
5. 褐色土(10YR4/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締り弱。

P 13～P 18

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を少量含む。締り弱。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を多量、黒褐色土を少量含む。固く締る。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土・ローム塊を少量含む。固く締る。
5. 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒を多量に含む。固く締る。

第26表 4区20号掘立柱建物柱穴一覧表

建物全体の規模		3間×3間+庇部		面積		24.45㎡		
主軸方位		N-10°-E		位置		X=42,898~42,906 Y=55,524~55,532		
桁・梁の規模(m)		柱穴No.	柱穴の規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)	旧ビットNo.
			長径	短径	深さ			
東辺	6.35	P1	0.35	0.30	0.48	円形	1.10	P841
		P2	0.30	0.25	0.21	楕円形	3.00	P842
		P3	0.60	0.35	0.42	楕円形	2.25	P824
南辺	3.85	P4	0.61	0.52	0.54	楕円形	1.05	P830
		P5	0.24	0.20	0.23	楕円形	1.70	P843
		P6	0.60	0.46	0.45	楕円形	1.10	P854
西辺	6.45	P7	0.70	0.55	0.58	楕円形	2.50	P827
		P8	0.38	0.38	0.38	円形	2.70	P822
		P9	0.50	0.50	0.60	円形	1.25	P821
北辺	3.85	P10	0.65	0.48	0.49	楕円形	1.20	P816
		P11	0.42	0.35	0.42	楕円形	1.20	P818
		P12	0.40	0.30	0.29	楕円形	1.45	P819
庇部		P13	0.63	0.63	0.56	隅丸方形		P826
		P14	0.50	0.46	0.60	楕円形		P831
		P15	0.40	0.38	0.42	隅丸方形		P894
		P16	0.45	0.41	0.59	円形		P897
		P17	0.45	0.45	0.56	円形		P902
		P18	0.40	0.38	0.33	円形		P815

第268図 4区20号掘立柱建物断面図

## 4. 溝

2区北～5区では、12号溝以外に34条の溝を検出した。3区の西側の一部には、As-B混土層やAs-Bの一次堆積層が残存し、埋没土にAs-Bを含むものなど、他の遺構の検出面より上層にあたる黒褐色土(I④)中で検出した溝が5条あった。

出土遺物は主に土師器や須恵器及び近世の陶磁器である。中世の遺物がほとんど見られないことから、溝の時期はおおむね古代と近世に分けられる。

掘削目的の明確なものはほとんどないが、4区東端で検出した溝には水路としての機能が考えられる溝があった。これは1つの大規模な水路の様相を呈していたが、近世から近現代まで掘削と埋没が繰り返された複数の溝で、埋没した状態が継続していた期間もあったことを確認した。

## 3区14号溝(第269図、PL.72)

黒褐色土中で検出した溝である。

**座標値** X=42,862～42,872 Y=-55,593～-55,595

**重複遺構** 15号・16号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

**延伸方位** N-15°-E

**規模** 3区の中央、西寄りの位置でほぼ南北に延伸し南端が16号溝と重複している。調査長8.70m、幅0.40m～1.00m、深さ0.06m～0.10mを測る。

**埋没土** As-Bを多量に含む黄褐色土である。

**遺物** 土師器の土器片が1点出土したが、小片のため掲載できなかった。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。幅は南側ほど広がっている。掘削目的は特定できない。出土した土器が小片のため時期の比定は難しいが、埋没土にAs-Bが多量に含まれていることから、中世以降と考えられる。

## 3区15号溝(第270図、PL.72)

黒褐色土中で検出した溝である。

**座標値** X=42,862～42,868 Y=-55,583～-55,598

**方位** N-70°-W

**重複遺構** 14号・17号溝と重複している。新旧関係は本

遺構が最も新しい。

**規模** 3区の中央、西寄りの位置ではほぼ東西に延伸し西端が攪乱によって壊されている。調査長15.40m、幅0.70m～1.30m、深さ0.07m～0.17mを測る。

**埋没土** 白色軽石を少量含む暗褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。出土遺物がなく時期は明らかではないが、14・17号溝より新しいことから、中世以降と考えられる。

## 3区16号溝(第269図、PL.72)

黒褐色土中で検出した溝である。

**座標値** X=42,826～42,864 Y=-55,592～-55,602

**重複遺構** 14号・17号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も新しい。

**延伸方位** N-18°-E

**規模** 調査区の中央付近から3区南東壁外まで延伸している。調査長35.50m、幅0.30m～0.70m、深さ0.03m～0.08mを測る。

**埋没土** As-Bを多量に含むにぶい黄褐色砂質土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状である。掘削目的は明らかではないが、水成堆積の様相が見られ、溝の西側では水田の一部とも考えられる痕跡を検出した。水田耕作との関りを想定することもできる。出土遺物がなく時期は明らかではないが、14・17号溝より新しいことから、中世以降と考えられる。

## 3区37号溝(第269図、PL.72)

黒褐色土中で検出した溝である。

**座標値** X=42,824・42,825 Y=-55,615～-55,618

**重複遺構** なし **延伸方位** N-68°-W

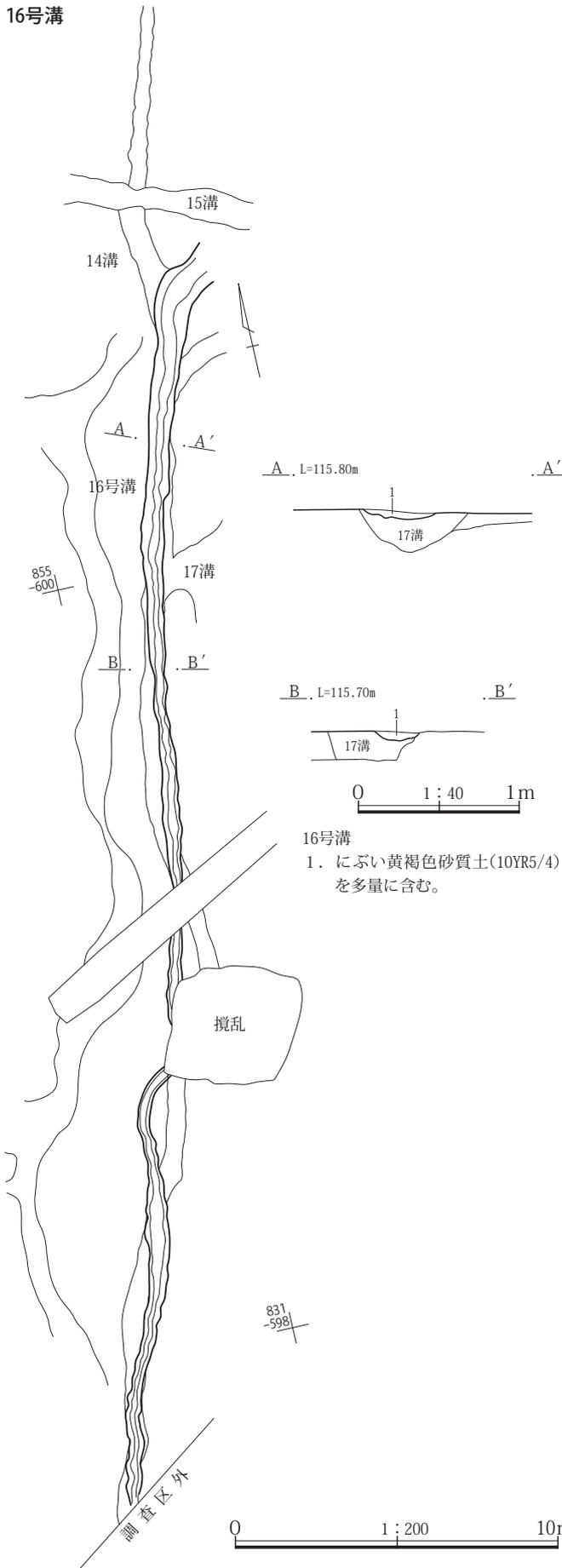
**規模** 調査区北西壁外から延伸している。調査長3.30m、幅0.50m～0.65m、深さ0.07m～0.15mを測る。

**埋没土** 白色軽石や黄橙色軽石を含む灰黄褐色土である。

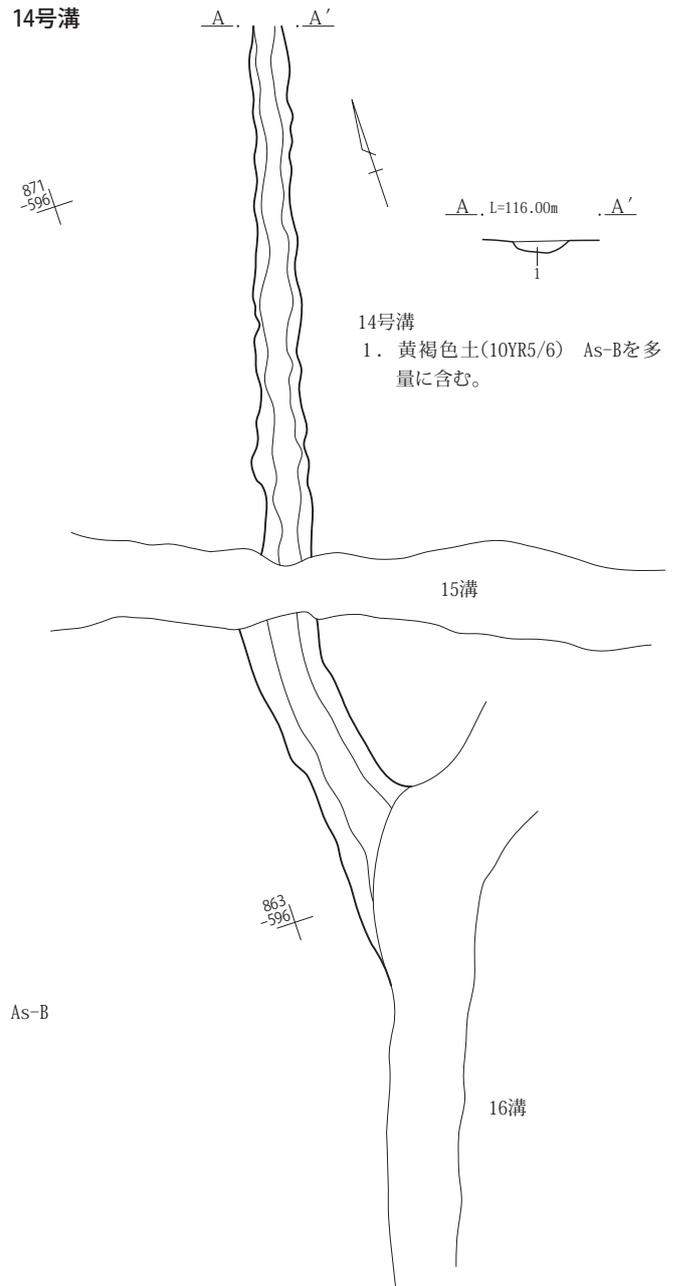
**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いてお

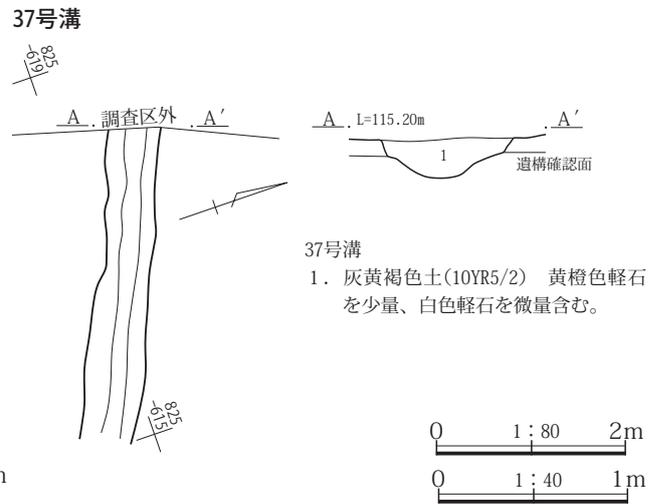
16号溝



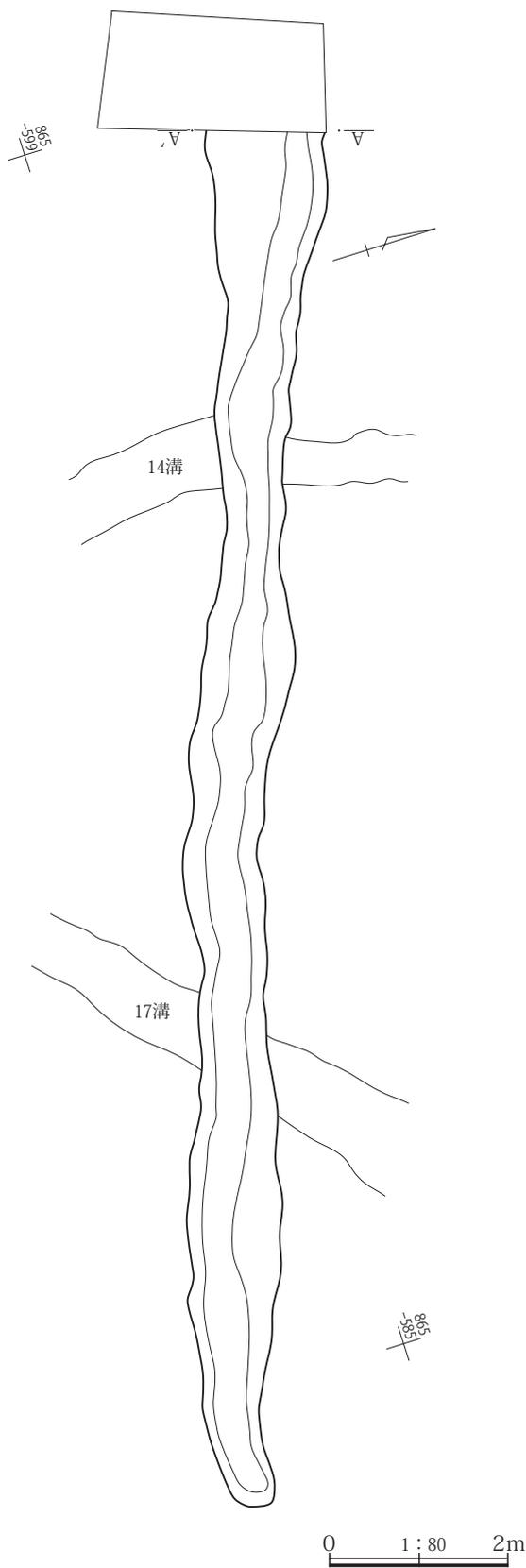
14号溝



37号溝



第269図 3区14・16・37号溝



15号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を少量含む。締りややあり。

り、底面はU字形である。掘削目的は特定できない。出土遺物がなく、時期は明らかではないが、遺構確認面及び埋没土の様相から中世以降の溝と考えられる。

3区17号溝(第271・272図、PL.72)

黒褐色土中で検出した溝である。

座標値 X=42,826～42,867 Y=-55,585～-55,604

重複遺構 15号・16号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も古い。

延伸方位 N-48°-E、N-18°-E、N-25°-E

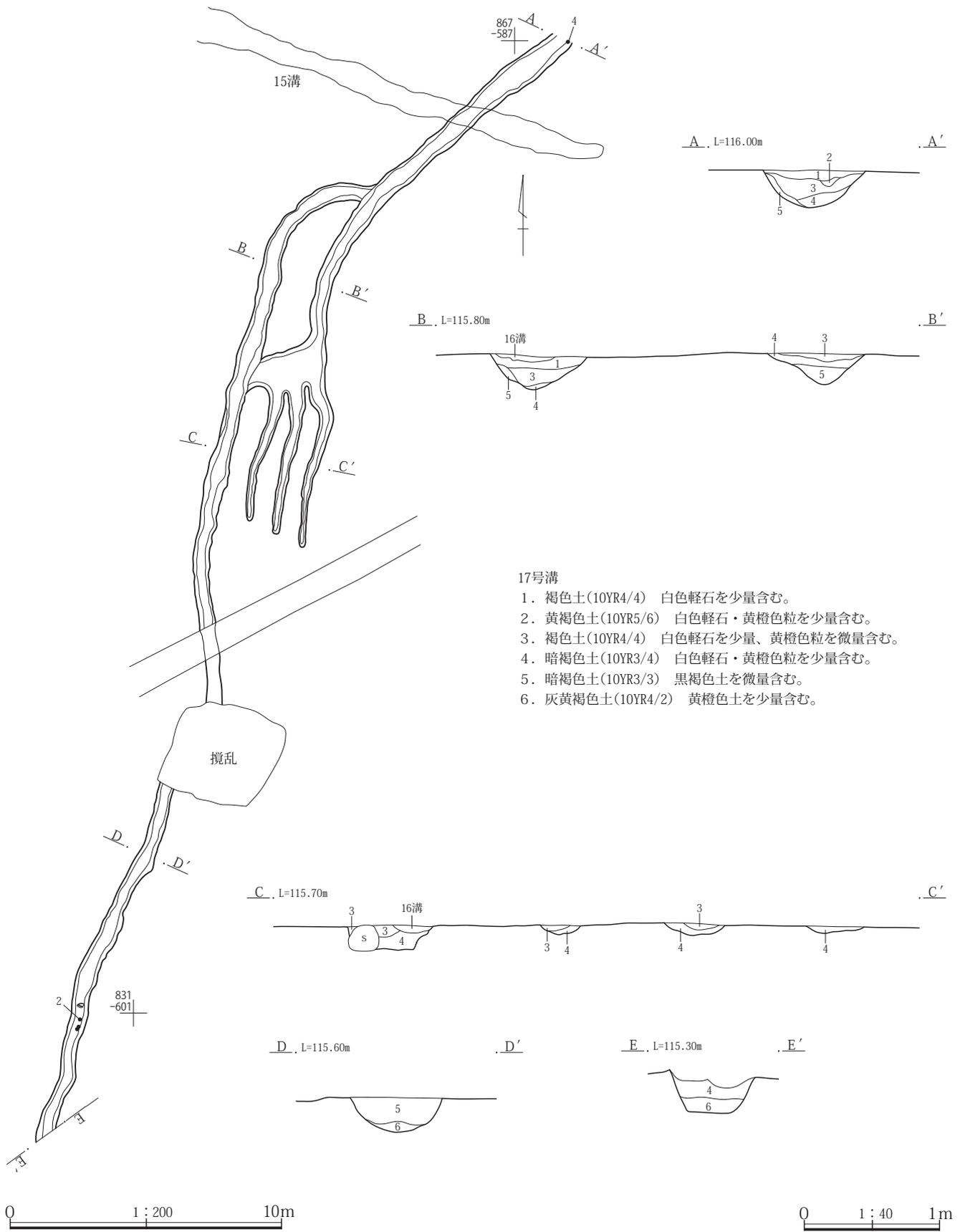
規模 3区中央付近からおおむね南北に延伸しているが、途中多方向に分岐し、その一つは南東壁外まで続いている。調査長の合計66.10m、幅0.20m～0.80m、深さ0.02m～0.31mを測る。

埋没土 主に白色軽石や黄橙色粒などを含む褐色土や暗褐色土である。

遺物 埋没土中から土師器や須恵器の小片が多数出土した。掲載したのは、1：須恵器蓋、2：同杯、3：同瓶、4・5：土師器甕(4は底部)である。

所見 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面はU字形である。掘削目的は明らかではない。出土した遺物から、時期は8世紀後半と考えられる。

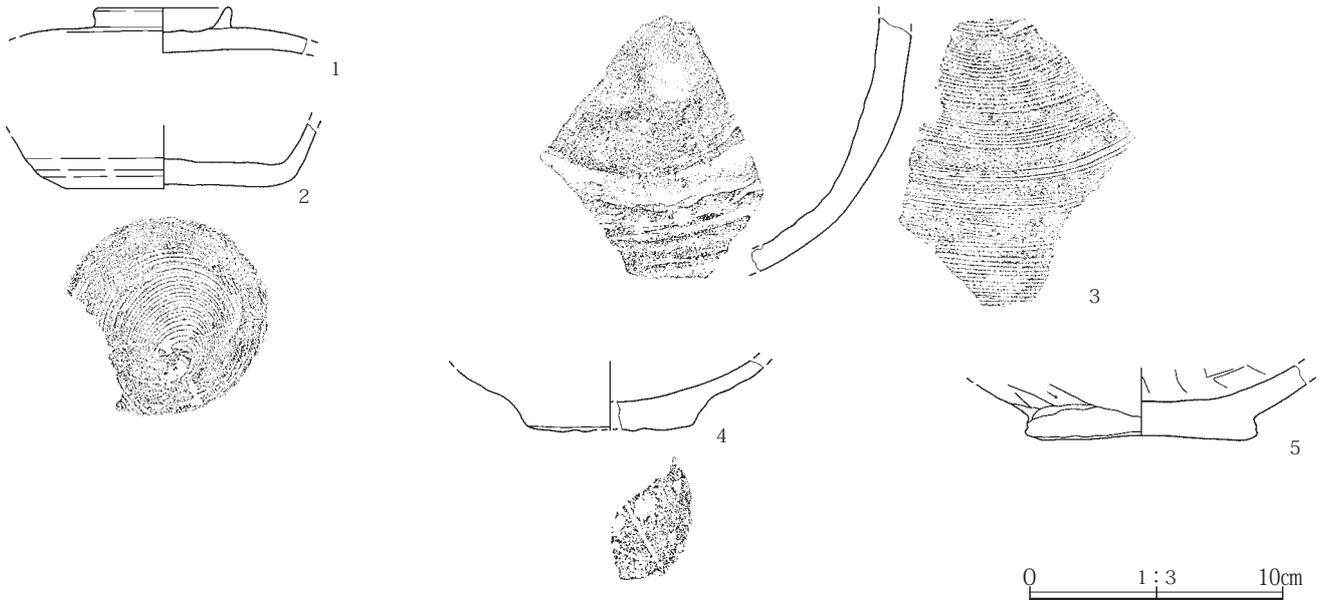
第270図 3区15号溝



17号溝

1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/6) 白色軽石・黄橙色粒を少量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石を少量、黄橙色粒を微量含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・黄橙色粒を少量含む。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土を微量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄橙色土を少量含む。

第271図 3区17号溝



第272図 3区17号溝出土遺物

**3区20号溝**(第273図、PL.73)

**座標値** X=42,818~42,846 Y=-55,606~-55,614  
**重複遺構** 28号・35号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も新しい。  
**延伸方位** N-20°-E  
**規模** 3区南側の攪乱されている地点から南東壁外まで延伸している。調査長27.80m、幅0.35m~0.60m、深さ0.04m~0.17mを測る。  
**埋没土** 白色軽石、黄橙色軽石、ローム塊、ローム粒を含む黒褐色土と黒褐色土を含むローム主体の明黄褐色土である。  
**遺物** 埋没土中から土師器や須恵器の小片が数点出土している。掲載したのは、1・2：須恵器甕である。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は明らかではない。小片ながら土師器や須恵器が数点出土しており、時期は古墳時代~平安時代の可能性がある。

**3区28号溝**(第273図、PL.73)

**座標値** X=42,842~42,844 Y=-55,606~-55,610  
**重複遺構** 20号溝と重複している。新旧関係は本遺構が古い。  
**延伸方位** N-57°-W  
**規模** 3区北西壁外から延伸し東端は20号溝と重複している。調査長4.00m、幅0.20m~0.32m、深さ0.04m~

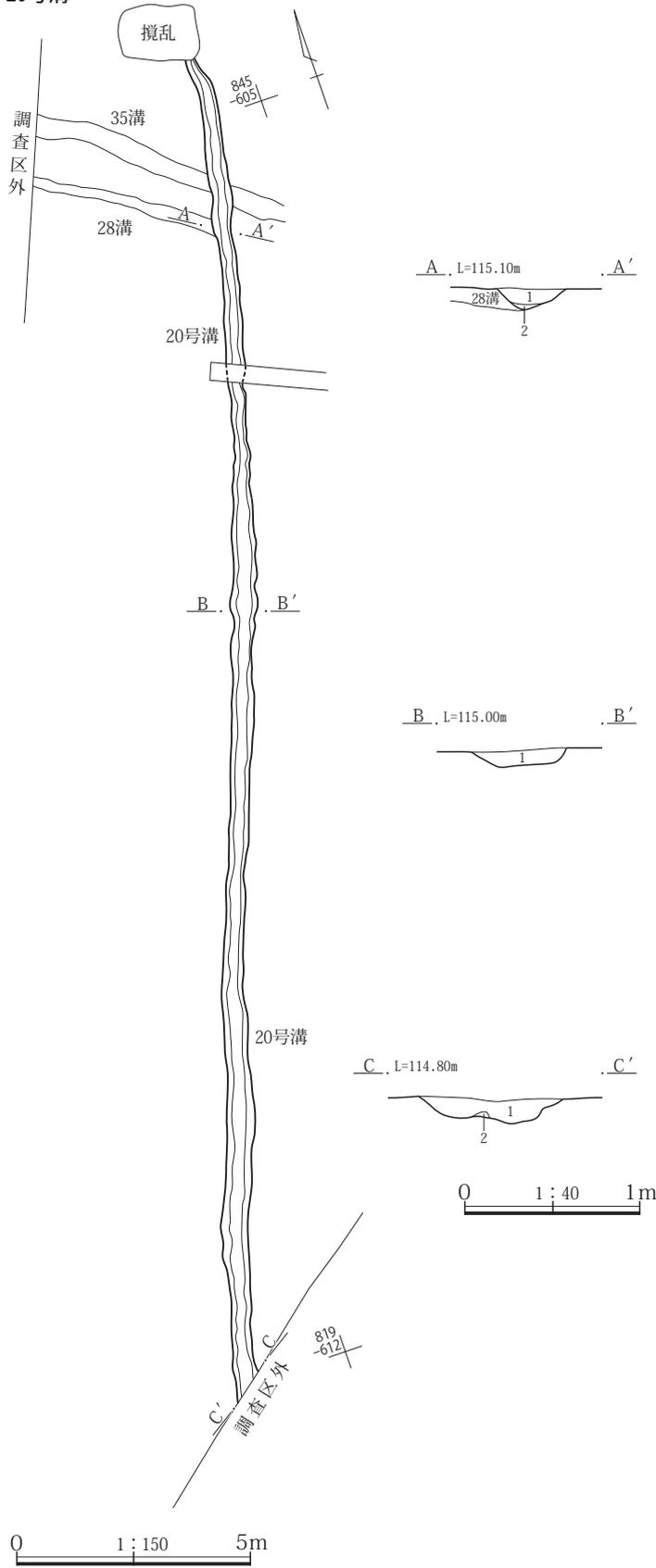
0.09mを測る。

**埋没土** 白色軽石や黄橙色軽石を含む暗褐色土と、ローム塊を含む褐灰色土である。  
**遺物** 出土遺物はない。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。出土遺物がなく、時期は明らかではないが、20号溝との新旧関係から平安時代以前の可能性がある。

**3区35号溝**(第273図、PL.73)

**座標値** X=42,842~42,846 Y=-55,605~-55,609  
**重複遺構** 20号溝と重複している。重複する地点が浅く、新旧関係の確認ができなかった。  
**延伸方位** N-50°-W  
**規模** 3区北西壁外から延伸し21号溝手前で途切れている。調査長5.10m、幅0.40m~0.50m、深さ0.20mを測る。  
**埋没土** 白色軽石や黄橙色軽石を含む暗褐色土である。  
**遺物** 出土遺物はない。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。出土遺物がなく、時期は明らかではないが、周辺の溝と規模・形状や延伸方位が類似しており、遺構確認面及び埋没土の様相から平安時代~中世の溝と考えられる。

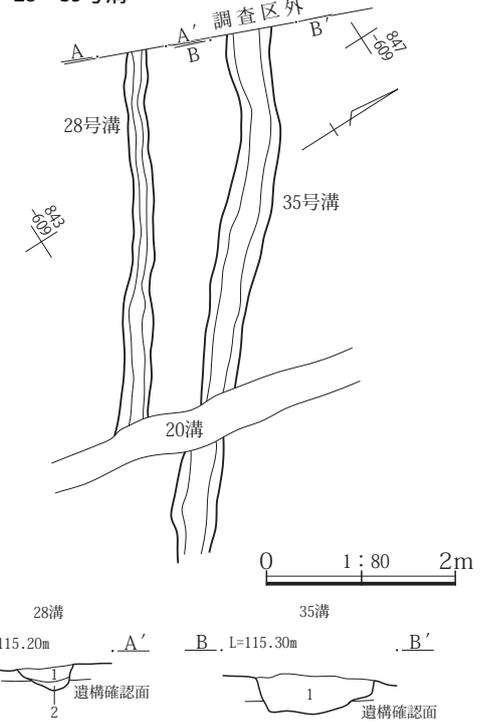
20号溝



20号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石・黄橙色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 明黄褐色土(10YR7/6) ローム主体。黒褐色土を少量含む。

28・35号溝

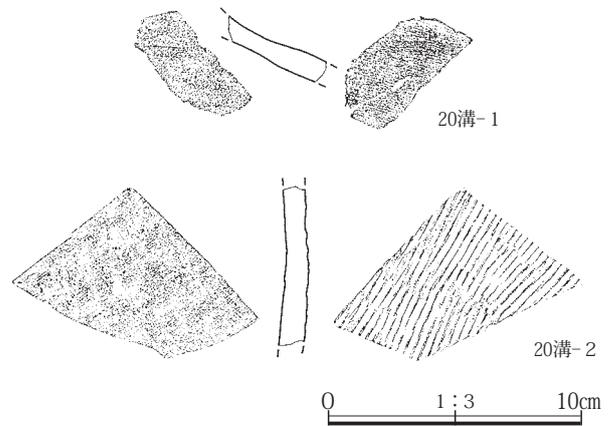


28号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・黄橙色軽石を少量含む。
2. 褐灰色土(10YR4/1) ローム塊を多量に含む。

35号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・黄橙色軽石を少量含む。



第273図 3区20・28・35号溝・20号溝出土遺物

**3区21号溝**(第274・275図、第27表、PL.73・119)

**座標値** X=42,821～42,842 Y=-55,602～-55,611  
**重複遺構** 22号・27号溝、60号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が最も新しい。  
**延伸方位** N-22°-E  
**溝内ピット** 溝の全域で底部に並ぶ小ピットを検出した。計39基で、各ピットの平面形状はおおむね円形に近い楕円形、隅丸方形を呈し、長軸18cm～51cm、短軸16cm～45cm、深さ7cm～33cmを測る。  
**規模** 北端は27号溝と重複しており、3区南東壁外まで延伸している。調査長21.40m、幅1.40m～1.70m、深さ0.33m～0.50mを測る。  
**埋没土** 主に白色軽石、暗褐色土、ローム塊、ローム粒を含むにぶい黄褐色土と、白色軽石、ローム塊を含む黒褐色土である。

**遺物** 埋没土中から土師器や須恵器の小片が数点出土した。掲載したのは、1：須恵器瓶、2：土師器甕、3：石皿である。  
**所見** 断面形状は壁面が大きく傾斜し、ハの字状に広く開いている。周辺の溝に比べ幅が広く、底部に並ぶ小ピットがあり、特徴的な溝であるが、掘削目的は明らかではない。小片ながら土師器や須恵器が数点出土しており、時期は古墳時代～平安時代の可能性がある。

**3区22号溝**(第274・275図、PL.73)

**座標値** X=42,824～42,835 Y=-55,603～-55,606  
**重複遺構** 21号溝と重複している。新旧関係は本遺構が古い。  
**延伸方位** N-10°-E、N-35°-E  
**規模** 北端は21号溝と重複し、3区南東壁外まで延伸している。調査長11.50m、幅0.45m～0.90m、深さ0.03m～0.09mを測る。  
**埋没土** 白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土やにぶい黄褐色土と、暗褐色土を少量含むローム主体の明黄褐色土である。  
**遺物** 埋没土中から土師器と須恵器の小片が各1点出土している。掲載した遺物は須恵器甕である。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。小片ながら土師器と須恵器が出土しており、時期は古墳時代～平安時代の可能性がある。

**3区27号溝**(第276図、第28表、PL.74)

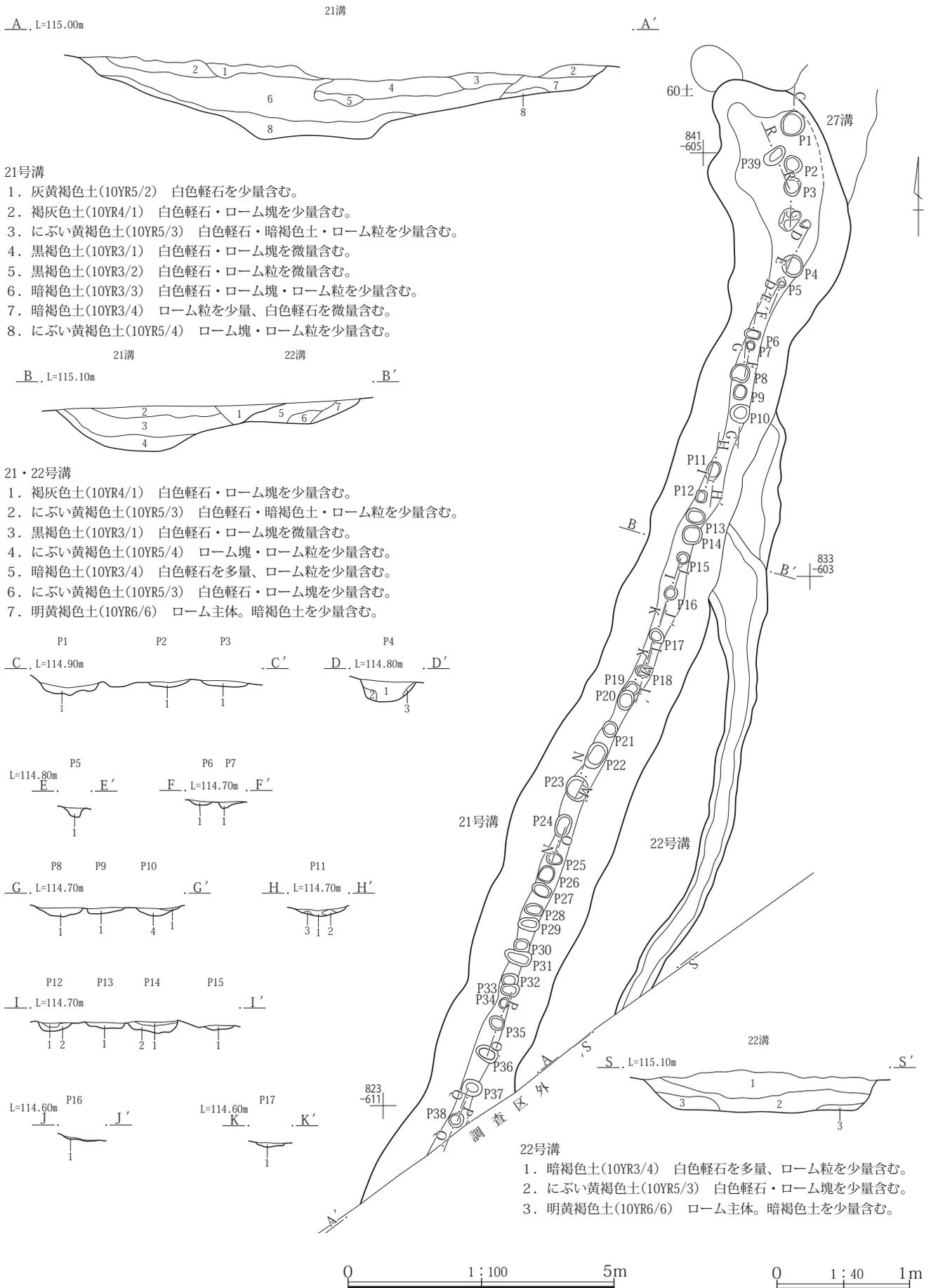
**座標値** X=42,840～42,863 Y=-55,594～-55,603  
**重複遺構** 7号柱穴列、12号・21号溝、767号ピットと重複している。新旧関係は7号柱穴列、12号溝より新しく、21号溝、767号ピットより古い。  
**延伸方位** N-0°、N-20°-E、N-50°-E  
**溝内ピット** 溝の南側と中央で底部に並ぶ小ピットを検出した。計11基で、各ピットの平面形状はおおむね円形に近い楕円形を呈し、長軸20cm～50cm、短軸15cm～48cm、深さ1cm～8cmを測る。  
**規模** 北端は12号溝と重複し、南端は21号溝と重複している。調査長23.00m、幅0.50m～1.00m、深さ0.08m～0.24mを測る。  
**埋没土** 白色軽石やローム粒を含む褐灰色土と、褐灰色土を含むローム主体の黄橙色土である。

**遺物** 埋没土中から多数の土師器や須恵器等が出土しているが、小片のため掲載できるものはなかった。  
**所見** 調査区北壁の先から続いている。断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状である。掘削目的は特定できない。溝の南側と中央で検出した小ピットは21号溝内のものに類似しているが、範囲が限られ、数が少なく、浅いものが多い。21号溝同様に用途は不明である。小片ながら土師器や須恵器が多数出土しており、時期は古墳時代～平安時代の可能性がある。

**3区36号溝**(第276図、PL.74)

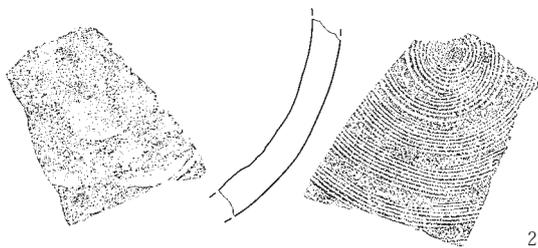
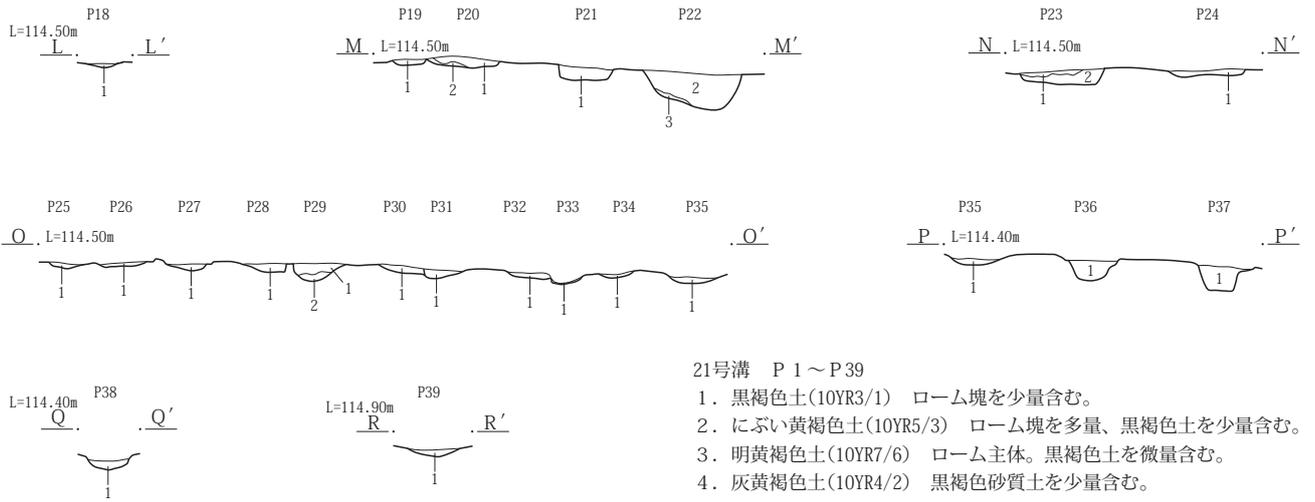
**座標値** X=42,848～42,854 Y=-55,597～-55,599  
**重複遺構** なし **延伸方位** N-13°-E  
**規模** 3区南側をほぼ南北に延伸している。調査長7.00m、幅0.25m～0.50m、深さ0.04m～0.12mを測る。  
**埋没土** 白色軽石、黄橙色軽石、ローム塊を含む暗褐色土とにぶい黄褐色土である。  
**遺物** 埋没土中から須恵器が3点出土しているが、小片のため掲載できるものはなかった。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状である。掘削目的は明らかではない。小片ながら須恵器が複数出土しており、時期は古墳時代～平安時代の可能性がある。

第3章 調査の成果



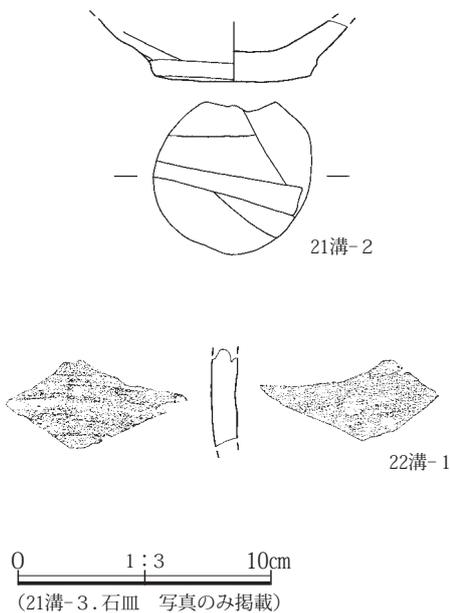
第274図 3区21・22号溝

第4節 2区北～5区の遺構と遺物



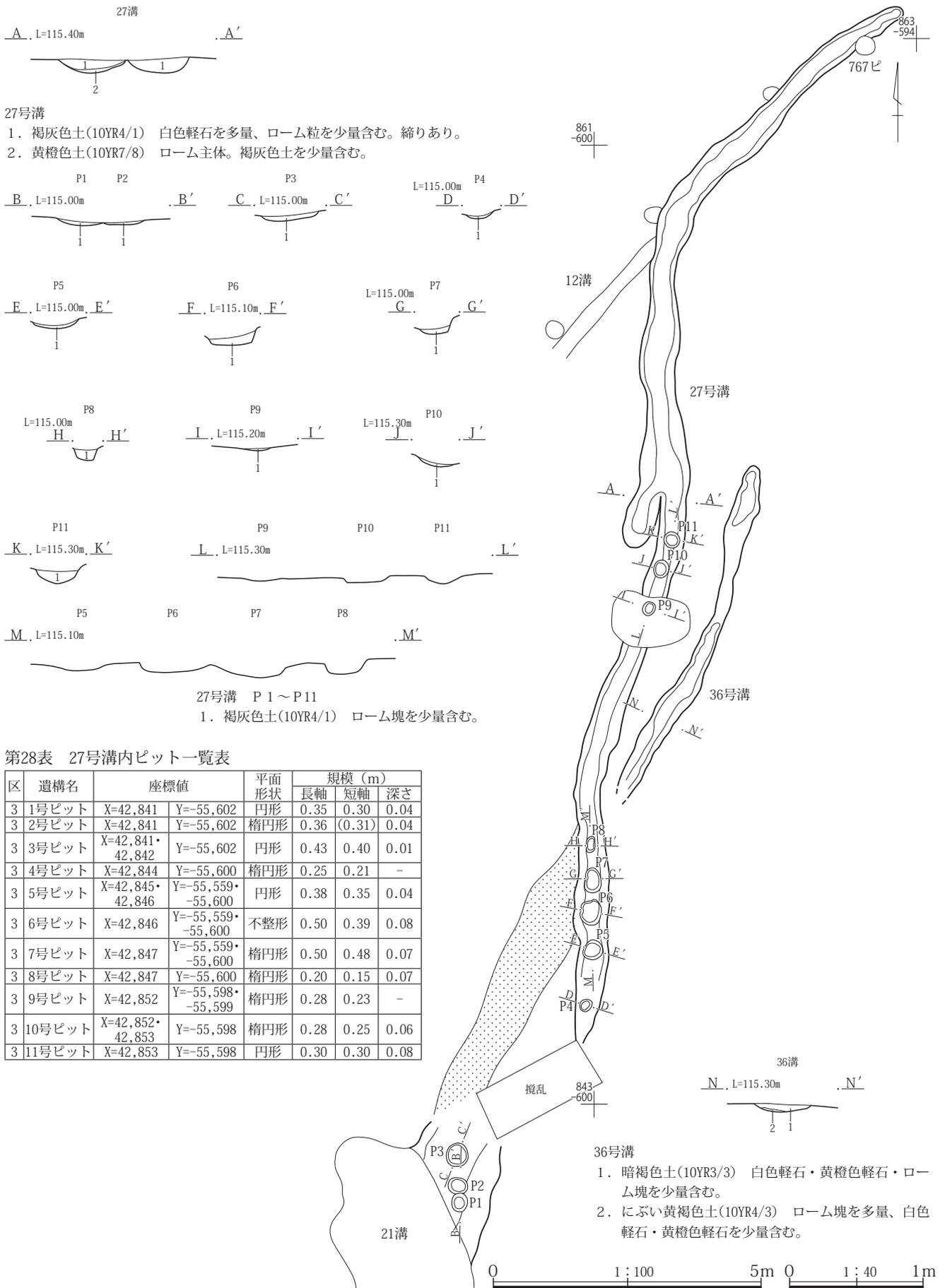
第27表 21号溝内ピット一覧表

区	遺構名	座標値		平面形状	規模(m)		
					長軸	短軸	深さ
3	1号ピット	X=42,841	Y=-55,603	円形	0.48	0.45	0.22
3	2号ピット	X=42,840	Y=-55,603	円形	0.34	0.34	0.14
3	3号ピット	X=42,840	Y=-55,603	隅丸方形	0.35	0.32	0.15
3	4号ピット	X=42,838・42,839	Y=-55,603	隅丸方形	0.42	0.40	0.16
3	5号ピット	X=42,838	Y=-55,603	楕円形	0.18	0.16	0.11
3	6号ピット	X=42,837	Y=-55,603・-55,604	隅丸方形	0.30	0.18	0.05
3	7号ピット	X=42,837	Y=-55,604	楕円形	0.18	0.16	0.04
3	8号ピット	X=42,836	Y=-55,604	隅丸方形	0.35	0.35	0.09
3	9号ピット	X=42,836	Y=-55,604	楕円形	0.30	0.25	0.08
3	10号ピット	X=42,835・42,836	Y=-55,604	円形	0.35	0.35	0.09
3	11号ピット	X=42,834・42,835	Y=-55,604	楕円形	0.30	0.25	0.08
3	12号ピット	X=42,834	Y=-55,604・-55,605	隅丸方形	0.25	0.20	0.18
3	13号ピット	X=42,834	Y=-55,604・-55,605	楕円形	0.35	0.28	0.16
3	14号ピット	X=42,833	Y=-55,605	隅丸方形	0.36	0.35	0.18
3	15号ピット	X=42,833	Y=-55,605	円形	0.23	0.23	0.07
3	16号ピット	X=42,832	Y=-55,605	円形	0.25	0.22	0.07
3	17号ピット	X=42,931	Y=-55,605	楕円形	0.30	0.23	0.14
3	18号ピット	X=42,931	Y=-55,606	隅丸方形	0.27	0.22	0.07
3	19号ピット	X=42,830	Y=-55,606	不明	0.23	(0.20)	0.05
3	20号ピット	X=42,830	Y=-55,606	楕円形	(0.38)	0.30	0.07
3	21号ピット	X=42,830・42,829	Y=-55,606	円形	0.30	0.28	0.14
3	22号ピット	X=42,829	Y=-55,606・-55,607	楕円形	0.50	0.34	0.29
3	23号ピット	X=42,828・42,829	Y=-55,607	楕円形	0.49	0.43	0.17
3	24号ピット	X=42,828	Y=-55,607	楕円形	0.44	0.30	0.12
3	25号ピット	X=42,827	Y=-55,607	楕円形	0.30	0.25	0.14
3	26号ピット	X=42,827	Y=-55,607・-55,608	隅丸方形	0.33	0.29	0.12
3	27号ピット	X=42,826・42,827	Y=-55,607・-55,608	楕円形	0.38	0.25	0.13
3	28号ピット	X=42,826	Y=-55,608	楕円形	0.36	0.23	0.16
3	29号ピット	X=42,826	Y=-55,608	楕円形	0.42	0.25	0.20
3	30号ピット	X=42,825・42,826	Y=-55,608	隅丸方形?	0.30	(0.25)	0.15
3	31号ピット	X=42,825	Y=-55,608	楕円形	0.51	0.26	0.18
3	32号ピット	X=42,825	Y=-55,608	楕円形	0.32	(0.20)	0.18
3	33号ピット	X=42,825	Y=-55,608	楕円形	0.35	(0.22)	0.22
3	34号ピット	42,824・42,825	Y=-55,608	楕円形	0.22	0.18	0.18
3	35号ピット	X=42,824	Y=-55,608	円形	0.28	0.28	0.21
3	36号ピット	X=42,823・42,824	Y=-55,608・-55,609	楕円形	0.42	0.30	0.29
3	37号ピット	X=42,823	Y=-55,609	隅丸方形	0.38	0.31	0.33
3	38号ピット	X=42,822	Y=-55,609	円形	0.29	0.28	0.27
3	39号ピット	X=42,840・42,841	Y=-55,603	楕円形	0.45	0.30	0.17



第275図 3区21号溝断面図・21・22号溝出土遺物

第3章 調査の成果



第276図 3区27・36号溝

3区23号溝(第277図、PL.74)

座標値 X=42,829~42,835 Y=-55,599

重複遺構 なし 延伸方位 N-7°-W

規模 北端はトレンチと重なり3区南東壁外まで延伸している。調査長6.16m、幅0.03m~0.50m、深さ0.05m~0.09mを測る。

埋没土 白色軽石や黄橙色粒を含む浅黄橙色土と、黄橙色粒や浅黄橙色粒を含む褐灰色土である。

遺物 出土遺物はない。

所見 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状である。掘削目的は特定できない。出土遺物がなく、時期は明らかではないが、周辺の溝と規模・形状や延伸方位が類似しており、遺構確認面及び埋没土の様相から平安時代～中世の溝と考えられる。

3区13号溝(第278図、PL.74)

座標値 X=42,886~42,905 Y=-55,564~55,575

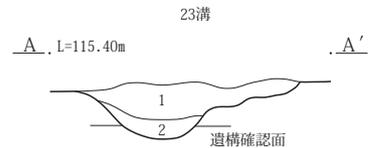
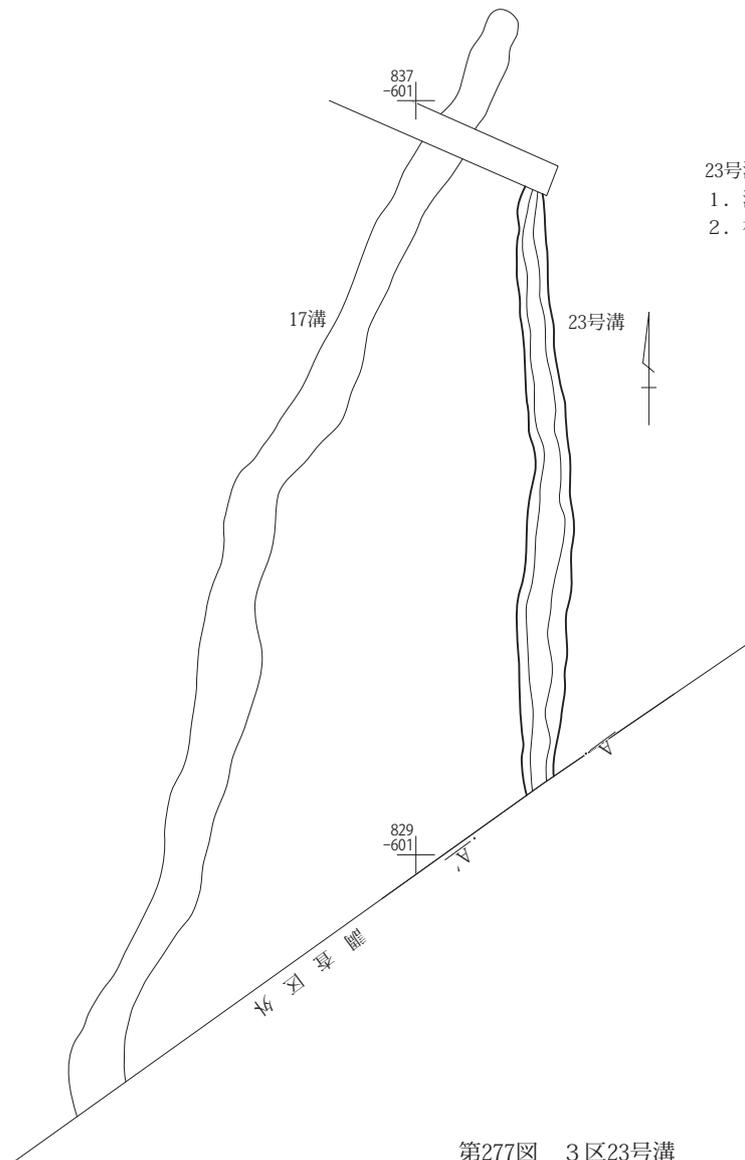
重複遺構 なし 延伸方位 N-35°-E

規模 3区北東壁外から南西方向に延伸している。調査長22.50m、幅0.40m~0.60m、深さ0.03m~0.14mを測る。

埋没土 白色軽石や焼土を含む褐色土である。

遺物 埋没土中から土師器や須恵器の土器片が数点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状である。掘削目的は特定できない。出土した土器が小片のため時期の比定は難しいが、土師器・須恵器のみが数点出土していることから、古墳時代～平安時代と考えられる。

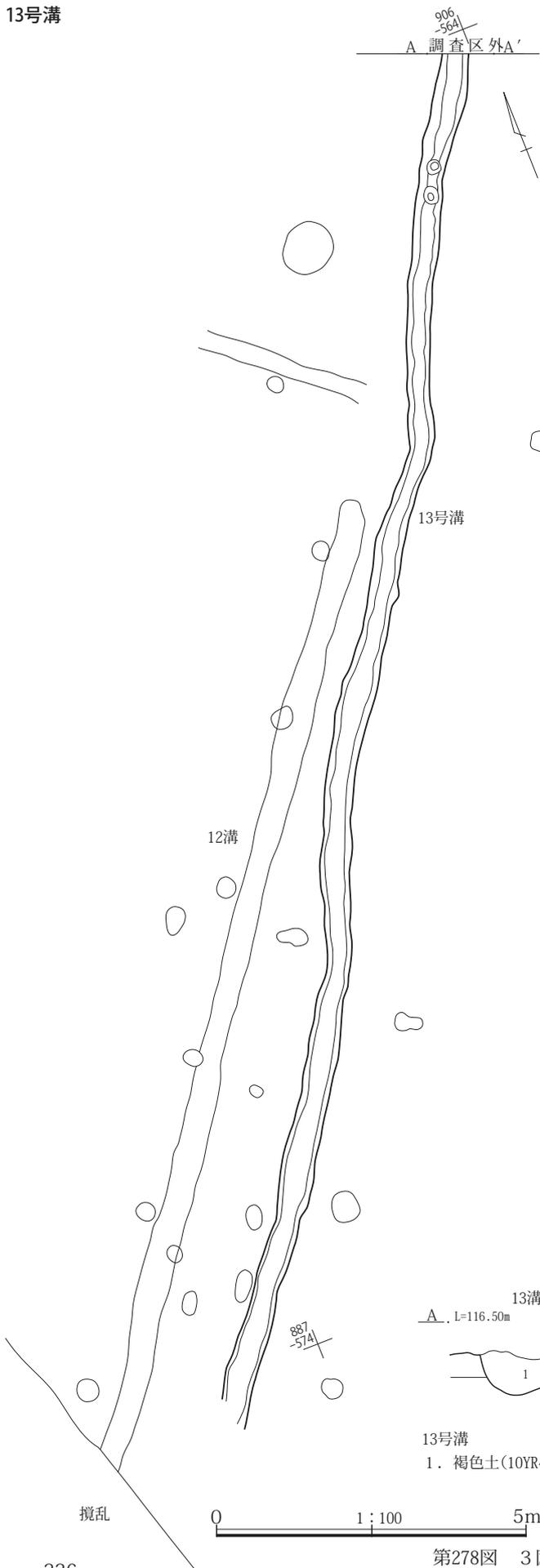


23号溝

1. 浅黄橙色土(10YR8/3) 白色軽石・黄橙色粒を多量に含む。
2. 褐灰色土(10YR4/1) 浅黄橙色土・黄橙色粒を少量含む。

第277図 3区23号溝

13号溝



3区19号溝(第278図、PL.74)

座標値 X=42,904~42,907 Y=-55,568~-55,570

重複遺構 なし 延伸方位 N-33°-E

規模 3区北東壁外から12号溝手前まで延伸している。

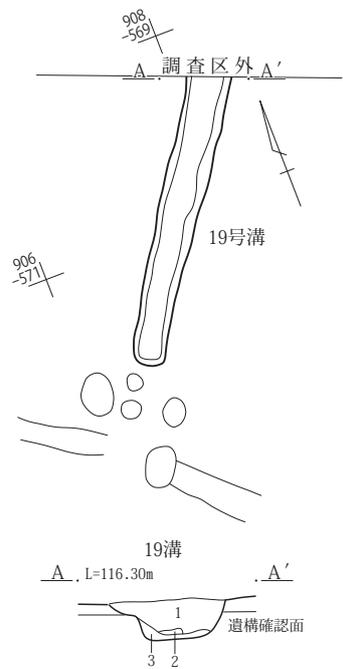
調査長3.16m、幅0.40m 深さ0.07m~0.11mを測る。

埋没土 主に白色軽やローム粒を含む暗褐色土と、暗褐色土を含むローム主体の明黄褐色土である。

遺物 出土遺物はない。

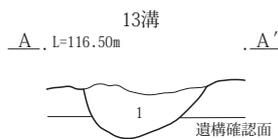
所見 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。12号溝や7号柱穴列と延伸方位が直交し、12号溝に規模や埋没土が類似していることから、時期差は少ないと考えられる。更に、本遺構の北側に区画遺構の範囲が広がり、その範囲を区画する溝であることも想定できるが、明らかではない。

19号溝



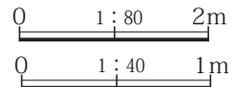
19号溝

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・ローム粒を微量含む。
2. 褐灰色砂質土(10YR5/1) 明黄褐色土を多量に含む。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。暗褐色土を微量含む。

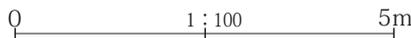


13号溝

1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石を少量、底部に焼土を微量含む。



攪乱



第278図 3区13・19号溝

**3区24号溝**(第279・280図、PL.75・120)

**座標値** X=42,880~42,893 Y=-55,560~-55,563

**重複遺構** なし

**延伸方位** N-20°-E、N-27°-W

**規模** 3区北側をほぼ南北に延伸し、南端は攪乱によって壊されている。調査長14.00m、幅0.46m~1.00m、深さ0.24m~0.50mを測る。

**埋没土** 主に褐灰色砂質土やローム粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土で、壁面付近には灰黄褐色土を僅かに含むローム主体の黄褐色土が見られる。

**遺物** 埋没土中で多数の土器が出土した。掲載したのは、1：土師器器台、2：須恵器杯蓋、3・4：肥前磁器染付碗、5：肥前陶器呉器手碗、6：同三島手鉢、7~10：瀬戸・美濃陶器尾呂碗、11：同皿、12：同すり鉢である。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。出土した土器のうち数点は土師器や須恵器であるが、多くは国産の陶磁器であった。掲載した瀬戸・美濃陶器・肥前磁器・肥前陶器はそれぞれ多少の時期差はあるが、ほとんどが17世紀後葉~18世紀中葉の範囲内に比定できる。

**3区25・26号溝**(第279図、PL.75・120)

**座標値** X=42,862~42,881 Y=-55,551~-55,556

**重複遺構** なし

**延伸方位** 25号溝：N-30°-W

26号溝：N-30°-W、N-28°-E

**規模** 3区東側の攪乱によって壊されている地点から南東壁外まで延伸している。

25号溝：調査長8.60m 幅0.90m

深さ0.12~0.27m

26号溝：調査長20.20m 幅1.20m~1.40m、

深さ0.20m~0.48m

**埋没土** 主に白色軽石やローム塊を含む暗褐色土と、ローム塊や黒褐色土を含む灰黄褐色土である。

**遺物** 埋没土中から黒色土器碗の小片が1点出土し、掲載した。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。25号溝と26号溝は別の遺構として調査を行ったが、埋没後に再度掘削された同一の溝

の可能性がある。小片ながら、黒色土器碗が出土しており、時期は平安時代の可能性がある。

**3区29号溝**(第281、PL.76)

**座標値** X=42,885~42,896 Y=-55,543~-55,545

**重複遺構** 30号・31号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も新しい。

**延伸方位** N-7°-E

**規模** 3区北東壁外からほぼ南北に延伸し南端は攪乱によって壊されている。調査長11.20m、幅0.70m~1.05m、深さ0.27m~0.49mを測る。

**埋没土** 主に白色軽石、褐色土、ローム塊を含む暗褐色土と、ローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土である。

**遺物** 埋没土中から数点の土師器と陶磁器が出土しているが、小片のため掲載できるものはなかった。

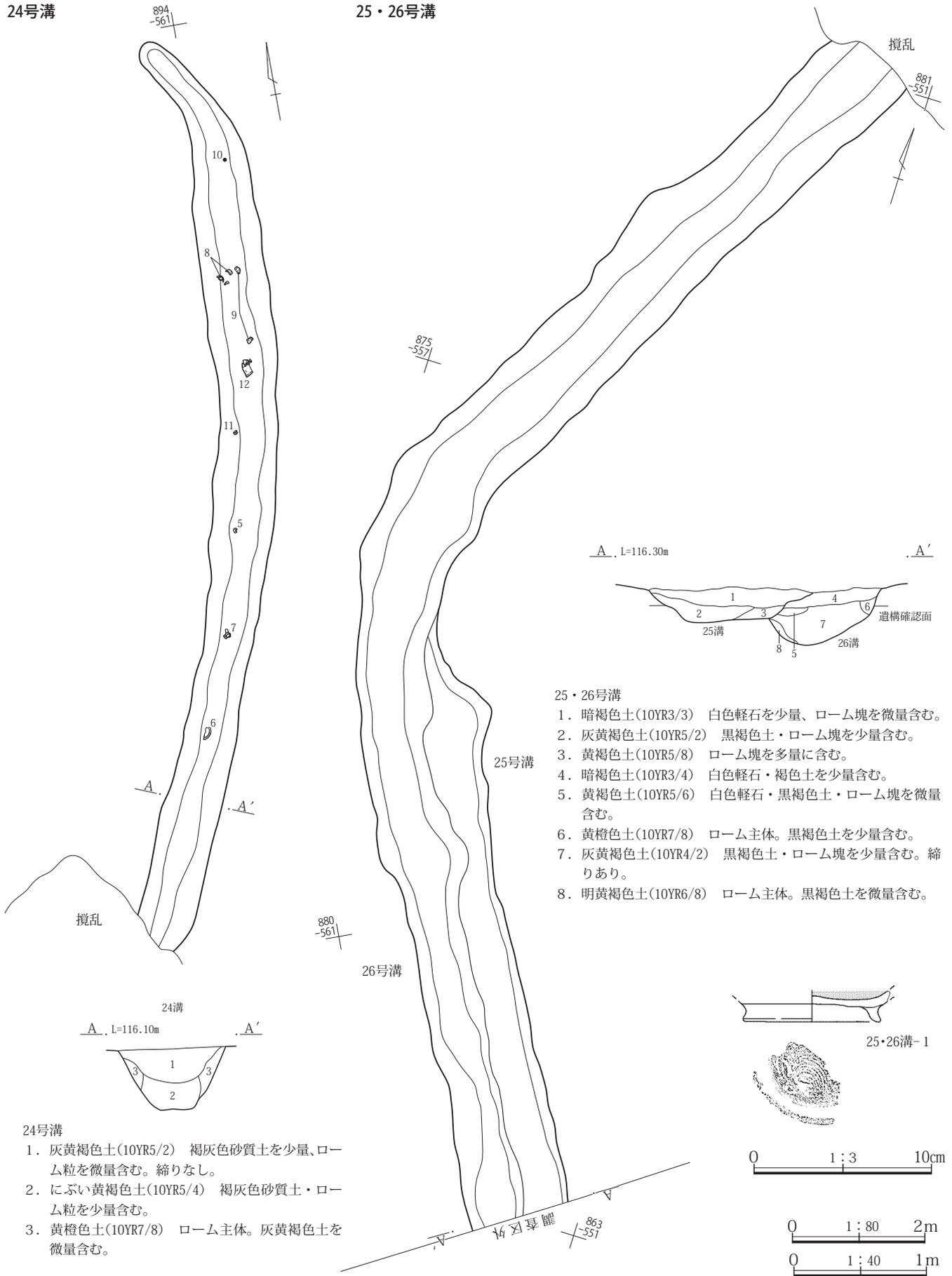
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。出土した小片の土器は土師器が6点、近世の陶磁器が12点であった。この遺構の時期は近世の可能性が高い。



4区 43・44号溝調査状況（南西から）

24号溝

25・26号溝



24号溝

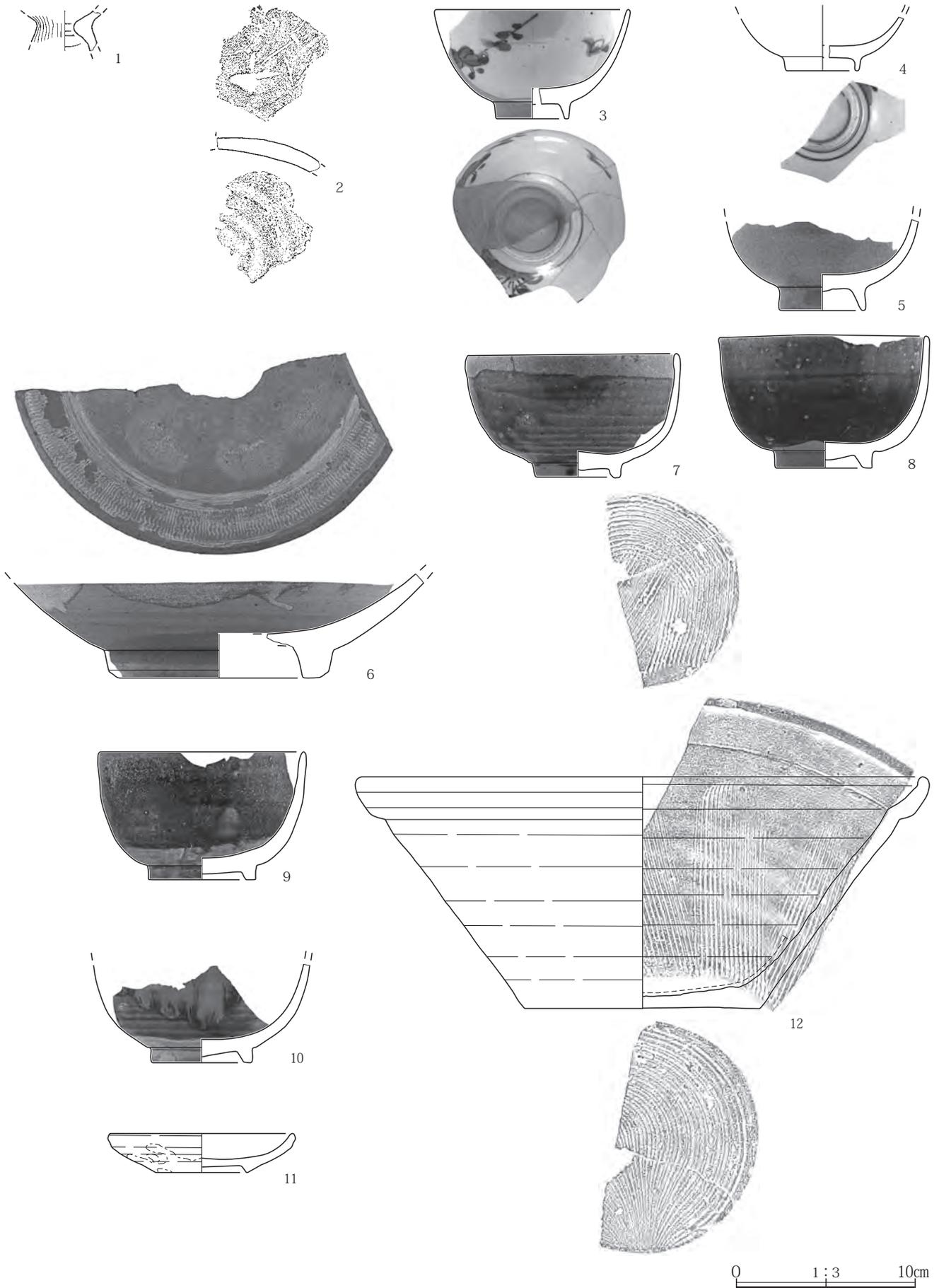
1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 褐灰色砂質土を少量、ローム粒を微量含む。縮りなし。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 褐灰色砂質土・ローム粒を少量含む。
3. 黄橙色土(10YR7/8) ローム主体。灰黄褐色土を微量含む。

25・26号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を少量、ローム塊を微量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 黒褐色土・ローム塊を少量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・褐色土を少量含む。
5. 黄褐色土(10YR5/6) 白色軽石・黒褐色土・ローム塊を微量含む。
6. 黄橙色土(10YR7/8) ローム主体。黒褐色土を少量含む。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土・ローム塊を少量含む。縮りあり。
8. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。黒褐色土を微量含む。

25・26溝-1

第279図 3区24～26号溝・25・26号溝出土遺物



0 1:3 10cm

第280図 3区24号溝出土遺物

**3区30号溝**(第281、PL.76)

**座標値** X=42,891~42,896 Y=-55,532~-55,551

**重複遺構** 10号・29号溝と重複している。新旧関係は10号溝より新しく、29号溝より古い。

**延伸方位** N-78°-W

**規模** 3区の北端をほぼ東西に延伸し、北東壁外まで続いている。調査長21.00m、幅0.70m~0.80m、深さ0.29m~0.35mを測る。

**埋没土** 主に白色軽石やローム粒を含む褐色土と、ローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 埋没土中から数点の土師器や須恵器が出土しているが、小片のため掲載できるものはなかった。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できないが、直線的に延伸し、31号溝と方位がほぼ同様であることから関連が考えられる。小片ながら土師器や須恵器が数点出土しており、時期は古墳時代~平安時代の可能性がある。

**3区31号溝**(第281、PL.76)

**座標値** X=42,888~42,890 Y=-55,532~-55,544

**重複遺構** 10号・29号・33号溝と重複している。新旧関係は33号溝より新しく、10号・29号溝より古い。

**延伸方位** N-78°-W

**規模** 西端は29号溝と重複し、東端は10号溝と重複している。調査長8.30m、幅0.70m~0.90m、深さ0.10m~0.20mを測る。

**埋没土** ローム塊を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できないが、ほぼ直線的に延伸し、30号溝と方位がほぼ同様であることから関連が考えられる。出土遺物はなかったが、33号溝より新しく10号溝より古いことから、時期は古墳時代~平安時代と考えられる。

**3区32号溝**(第281・282、PL.76・120)

**座標値** X=42,878~42,882 Y=-55,527~-55,538

**重複遺構** 10号溝 **延伸方位** N-76°-W

**規模** 西端は攪乱によって壊されており、3区南東壁外まで延伸している。調査長10.30m、幅0.60m~1.10m、深さ0.24m~0.41mを測る。

**埋没土** 主に白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土と、にぶい黄褐色土や暗褐色土を含むローム主体の明黄褐色土である。

**遺物** 埋没土中から数点の陶磁器、土師器の小片1点が出土した。掲載したのは、1:瀬戸・美濃陶器小碗、2・3:同尾呂碗である。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。29号溝と規模・形状や埋没土が類似し、出土遺物の時期も同時期のものが多いことから、攪乱内にあたる位置で向きを変えている同一の溝の可能性はある。出土した瀬戸・美濃陶器尾呂碗の時期は18世紀中葉~後葉である。

**3区33号溝**(第281図、PL.76)

**座標値** X=42,885~42,890 Y=-55,538・-55,539

**重複遺構** 31号溝と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**延伸方位** N-10°-E

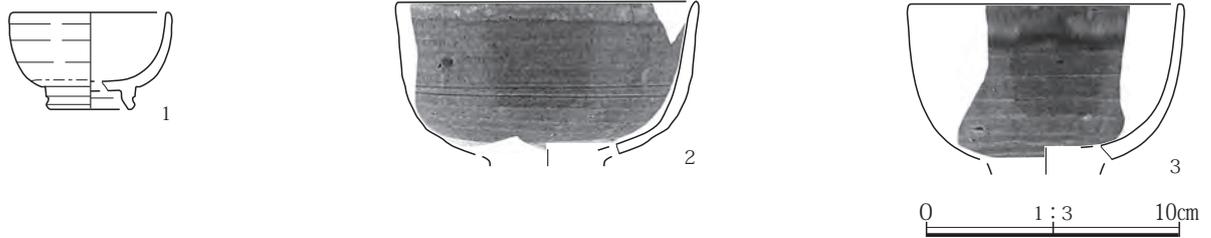
**規模** 3区北端をほぼ南北に延伸し、南端は攪乱によって壊されている。調査長5.10m、幅0.48m~0.70m、深さ0.13m~0.17mを測る。

**埋没土** 白色軽石、ローム塊、ローム粒を含むにぶい黄褐色土と、にぶい黄褐色土を含むローム主体の明黄褐色土である。

**遺物** 埋没土中から土師器の土器片が1点出土しているが、小片のため掲載できなかった。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。31号溝より旧く、小片ながら土師器が1点出土していることから、時期は古墳時代~平安時代と考えられる。





第282図 3区32号溝出土遺物

**3・4区7号溝**(第283図、PL.77)

**座標値** X=42,897~42,917 Y=-55,551~-55,557  
**重複遺構** 8号溝と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。  
**延伸方位** N-23°-E N-9°-E  
**規模** 4区北西壁外から3区北側の攪乱によって壊されている地点まで延伸している。調査長計13.90m、幅0.35m~0.70m、深さ0.03m~0.11mを測る。  
**埋没土** ローム塊を含む暗褐色土と、ローム粒、白色軽石を含む灰黄褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 4区北西壁の調査区外から続いており、4区内で8号溝と重複している。更に3区へと延伸し、攪乱によって壊されている地点で途切れている。断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。重複する8号溝と埋没土が類似しているが、共に出土遺物がなく、時期は明らかではない。

**4区8号溝**(第283図、PL.77)

**座標値** X=42,908~42,918 Y=-55,550~-55,554  
**重複遺構** 7号溝と重複している。新旧関係は本遺構が古い。  
**延伸方位** N-22°-E  
**規模** 4区北西壁外から南西壁外まで延伸している。調査長9.70m、幅0.50m~0.90m、深さ0.03m~0.08mを測る。  
**埋没土** ローム塊を含む暗褐色土と、ローム塊、ローム粒、白色軽石を含む褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 北西壁の調査区外から続いており、7号溝と重複し、更に南西壁の調査区外へと続いている。断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定

できない。重複する7号溝と埋没土が類似しているが、共に出土遺物がなく、時期は明らかではない。

**3・4区9号溝**(第283・284図、PL.77・120)

**座標値** X=42,892~42,919 Y=-55,547~-55,558  
**重複遺構** 54号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。  
**延伸方位** N-33°-E N-10°-E  
**規模** 4区北西壁外から3区北側まで延伸している。調査長計20.40m、幅1.15m~1.40m、深さ0.46m~0.62mを測る。  
**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土である。

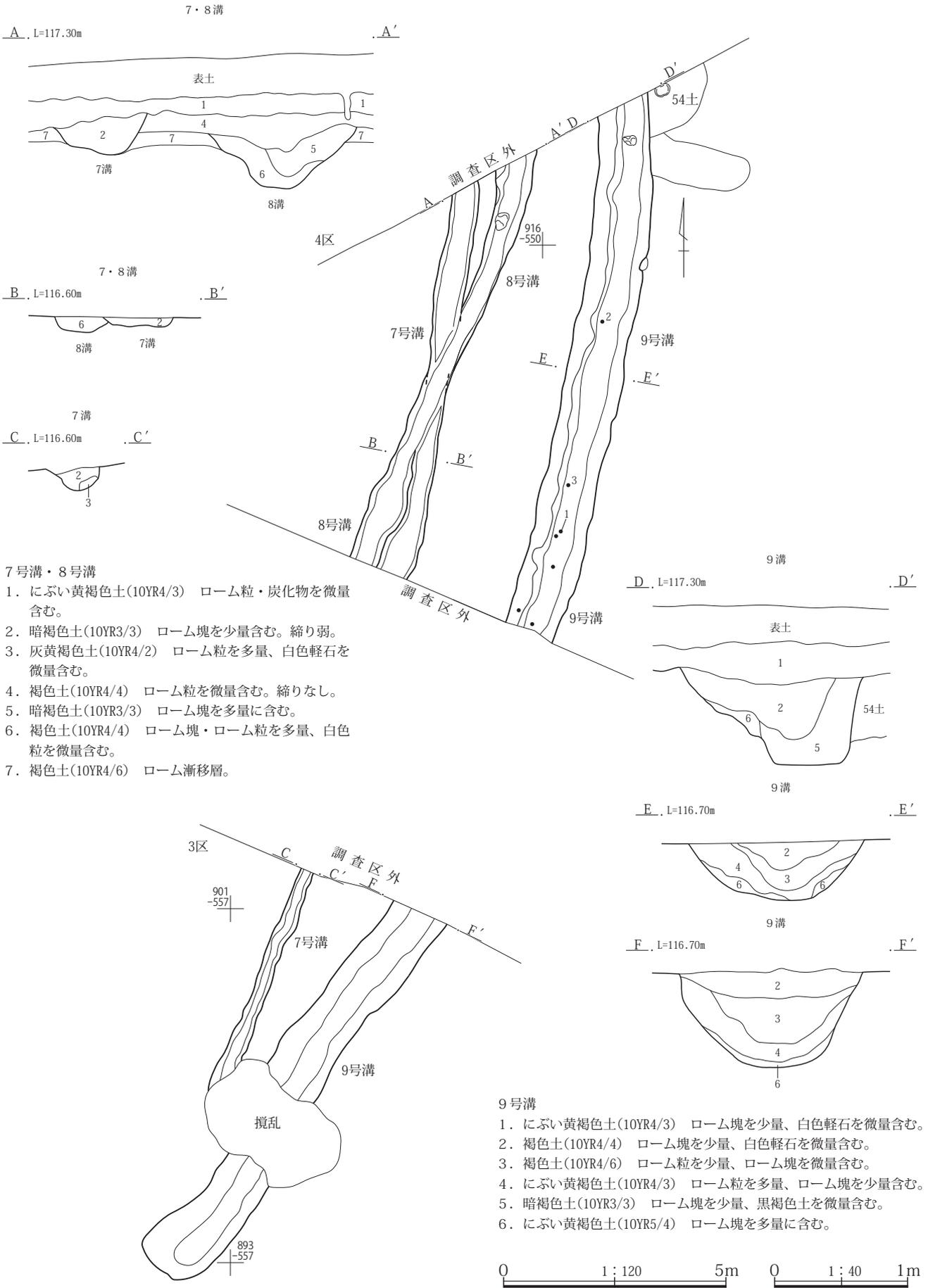
**遺物** 埋没土中から数点の土器片と石製品が出土した。掲載したのは1：瀬戸・美濃陶器片口鉢、2：在地系土器焙烙、3：砥石である。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。出土した土器には掲載した陶磁器の他、土師器や須恵器も含まれていたが小片であった。瀬戸・美濃陶器片口鉢や在地系土器焙烙は江戸時代のものであり、本遺構の時期は近世の可能性が高い。

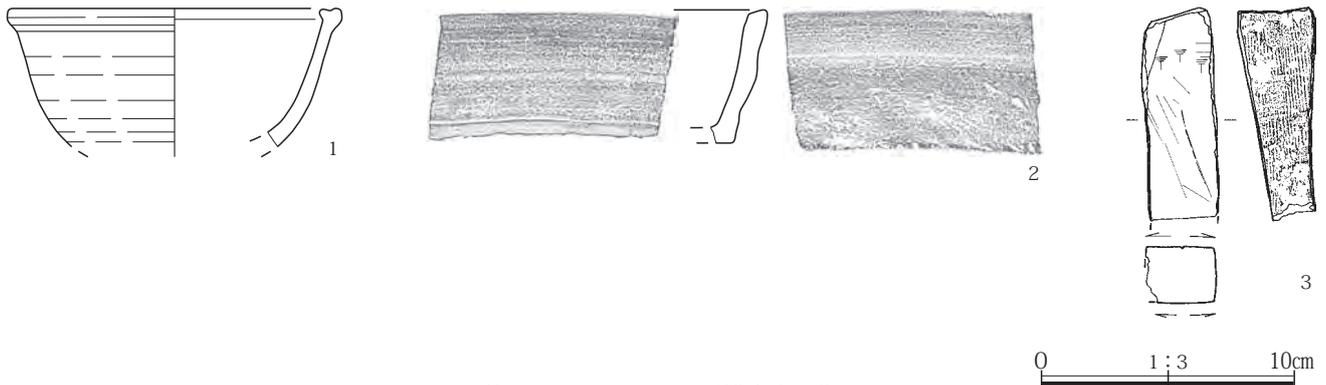
**3・4区10号溝**(第285図、PL.77・120)

**座標値** X=42,875~42,921 Y=-55,532~-55,544  
**重複遺構** 11号・30号・31号・32号溝、55号土坑と重複している。新旧関係は11号・31号溝、55号土坑より新しく、30号・32号溝より古い。  
**延伸方位** N-29°-W N-0° N-20°-W、N-5°-E N-40°-W

**規模** 4区北西壁外から3区南東壁外まで延伸している。調査長計41.50m、幅0.80m~1.40m、深さ0.05m~0.22mを測る。



第283図 3・4区7～9号溝



第284図 3・4区9号溝出土遺物

**埋没土** 主に白色粒、ローム塊、黒褐色土塊を含む暗褐色土と、白色粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 埋没土中から土師器や須恵器の小片多数と鉄滓1点が出土した。掲載したのは鉄滓である。

**所見** 4区北西壁の先から続いており、同様に調査区外から続く11号溝と重複し、南西壁の調査区外へと続いている。更に3区内へと延伸し、同南東壁の調査区外へと続いている。4区の北側の範囲では、埋没後に再度掘削されている状況が見られる。断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。埋没土中で鉄滓が1点出土しているが、掘削目的は特定できない。重複する遺構との新旧関係や土師器や須恵器が多数出土していることから、時期は古墳時代～平安時代と考えられる。

#### 4区11号溝(第285図、PL.77)

**座標値** X=42,918~42,921 Y=-55,544

**重複遺構** 10号溝と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

**延伸方位** N-9°-W

**規模** 4北西壁外から延伸して10号溝と重複している。調査長2.80m、幅0.32m~0.50m、深さ0.05m~0.13mを測る。

**埋没土** ローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。確認できた範囲が限られ、遺物の出土がないため時期は明らかではないが、10号溝より古いことから古墳時代～平安時代と考えられる。

#### 4区38号溝(第286図、PL.78)

**座標値** X=42,910=42,930 Y=-55,519~-55,521

**重複遺構** なし

**延伸方位** N-3°-W

**規模** 北端は北西壁手前の攪乱によって壊されており、ほぼ南北に延伸している。調査長14.80m、幅0.50m~0.60m、深さ0.04m~0.12mを測る。

**埋没土** 白色軽石、ローム塊、ローム粒を含む暗褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。ほぼ直線状に延伸しており、区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。出土遺物がなく、時期は明らかではないが、遺構確認面及び埋没土の様相から近世以降の溝の可能性がある。

#### 4区39号溝(第286図、PL.78)

**座標値** X=42,918~42,934 Y=-55,507~-55,510

**重複遺構** 40号溝と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**延伸方位** N-9°-E

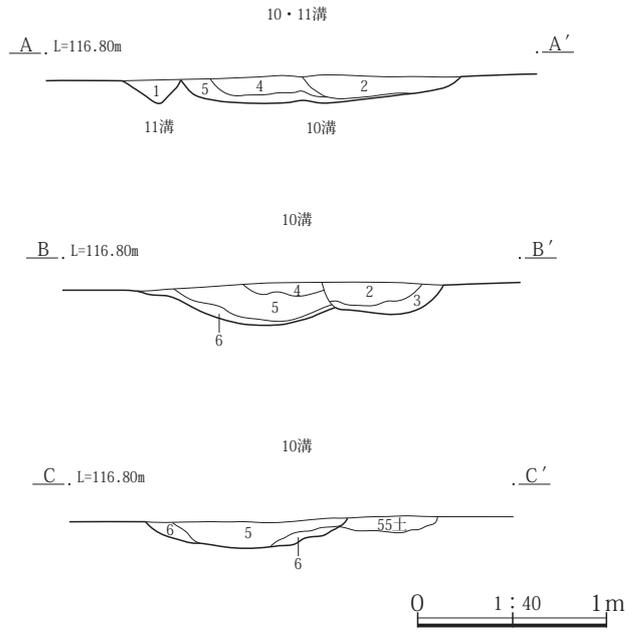
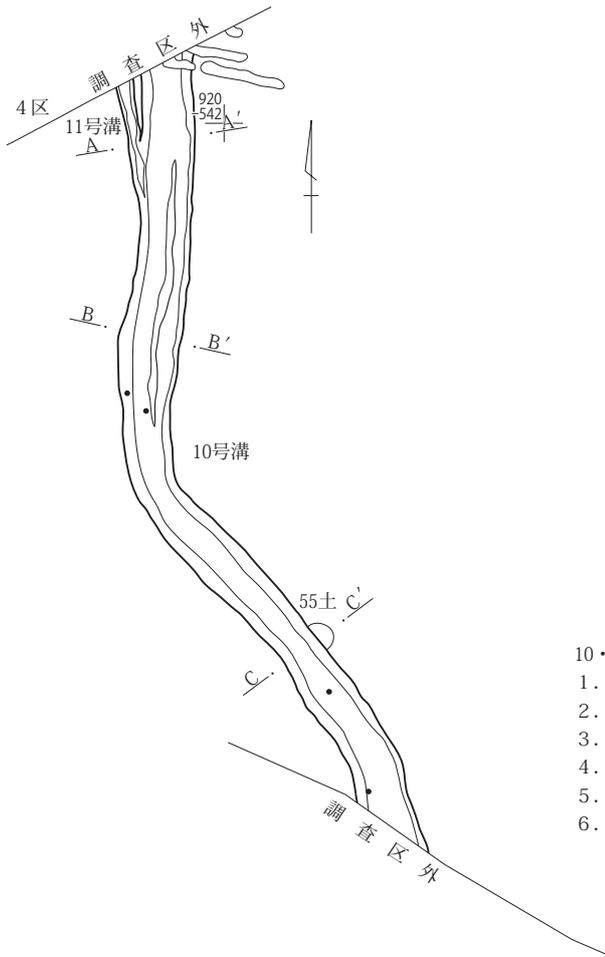
**規模** 調査区北壁外からほぼ南北に延伸し、南端は攪乱によって壊されている。調査長16.00m、幅0.35m~0.55m、深さ0.15m~0.20mを測る。

**埋没土層** ローム粒を含む暗褐色土と、ローム塊やローム粒を含む褐色土である。

**遺物** 出土遺物はない。

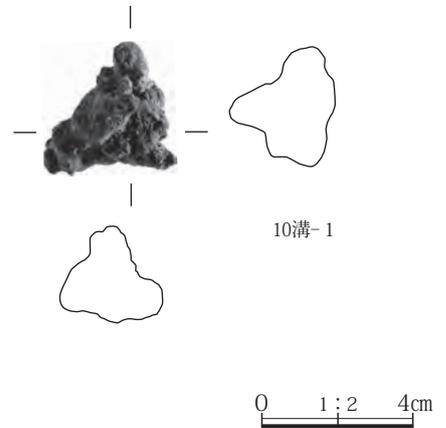
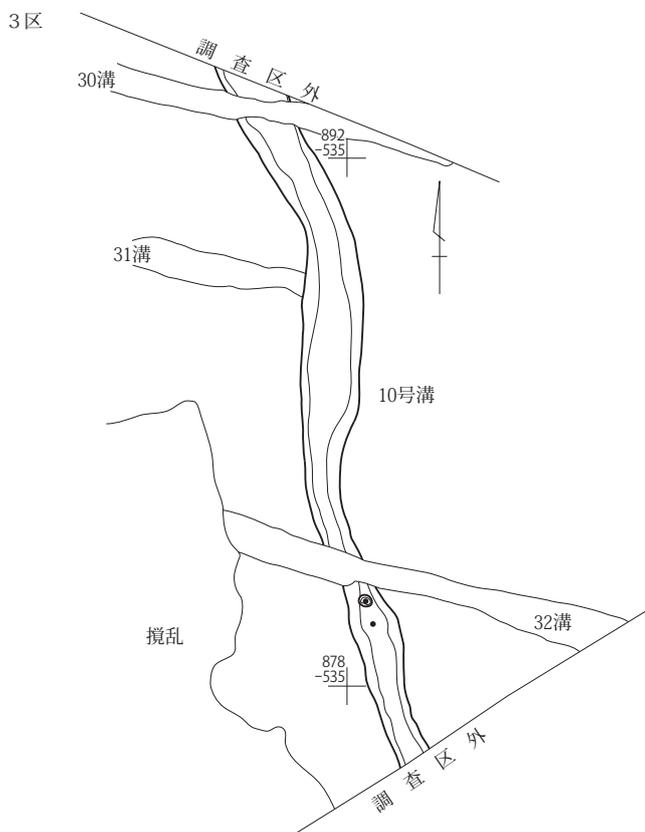
**所見** 40号溝との新旧関係から、近現代の掘り込みであることを確認した。

第4節 2区北～5区の遺構と遺物



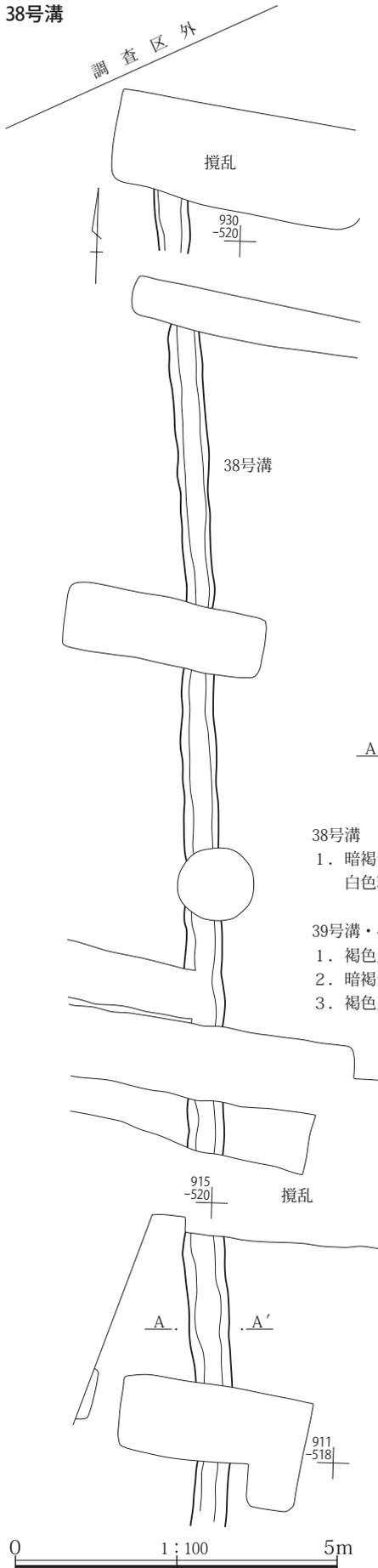
10・11号溝

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を多量に含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。
4. 暗赤褐色土(5YR3/2) 白色粒・ローム塊・黒褐色土を少量含む。
5. 暗赤褐色土(5YR3/6) ローム塊を少量含み、鉄分による赤褐色の変色が見られる。
6. 褐色土(10YR4/6) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

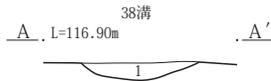
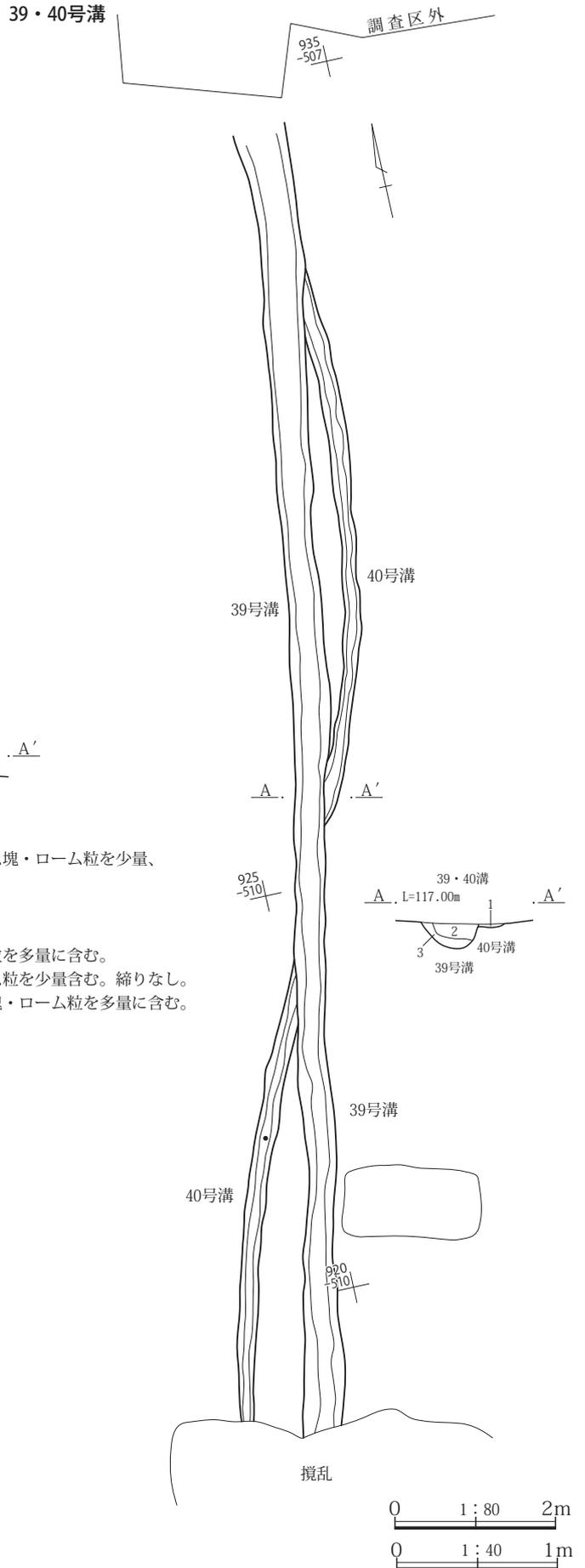


第285図 3・4区10・11号溝・10号溝出土遺物

38号溝



39・40号溝

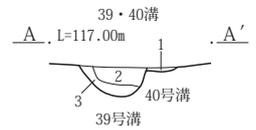


38号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を少量、白色粒を微量含む。

39号溝・40号溝

1. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。締りなし。
3. 褐色土(10YR4/6) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



第286図 4区38～40号溝

**4区40号溝**(第286図、PL.78)

**座標値** X=42,918～42,932 Y=-55,507～-55,511  
**重複遺構** 39号溝と重複している。新旧関係は本遺構が古い。  
**延伸方位** N-17°-E N-2°-E  
**規模** 調査区北壁外からほぼ南北に延伸し、南端は攪乱によって壊されている。調査長11.80m、幅0.18m～0.25m、深さ0.02m～0.06mを測る。  
**埋没土層** ローム粒を含む褐色土である。  
**遺物** 埋没土底部から近現代の鉄製品が出土した。  
**所見** 底部で出土した鉄製品から、近現代の掘り込みであることを確認した。

**4区46号溝**(第287図、PL.78)

**座標値** X=42,892～42,904 Y=-55,514～-55,516  
**重複遺構** 71号土坑  
**延伸方位** N-7°-E N-38°-W N-0  
**規模** 4区南側を蛇行し調査区外まで延伸している。調査長12.80m、幅0.30m～0.80m、深さ0.05m～0.31mを測る。  
**埋没土** 主にローム粒を含む暗褐色土と、白色軽石、ローム塊、ローム粒を含むにぶい黄褐色土である。  
**遺物** 土師器、近世の国産施釉陶器が各1点出土しているが、小片のため掲載できなかった。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。土師器と近世の陶磁器の小片が1点出土しているが、時期は明らかではない。

**4区47号溝**(第287図、PL.78)

**座標値** X=42,910～42,912 Y=-55,477～-55,509  
**重複遺構** なし  
**延伸方位** N-76°-W  
**規模** 4区中央付近をほぼ東西に延伸し南東壁外へ続いている。調査長30.00m、幅0.40m～0.50m、深さ0.13m～0.50mを測る。  
**埋没土** 主にローム塊やローム粒を含む黒褐色土と黒褐色土を含むローム主体の明黄褐色土である。  
**遺物** 須恵器が1点、近世の陶磁器が6点出土しているが、小片のため掲載できなかった。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。

掘削目的は特定できない。近世の陶磁器が複数出土しており、近世の溝の可能性はある。

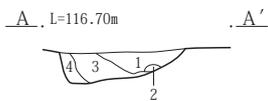
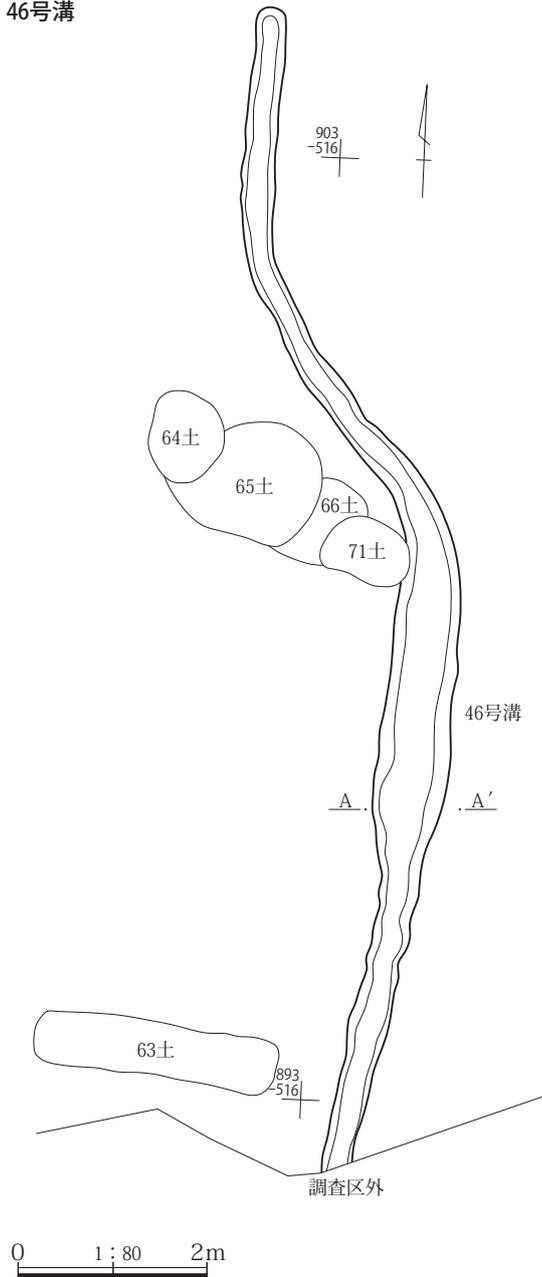
**4区41号溝**(第288図、PL.79)

**座標値** X=42,933～42,952 Y=-55,473～-55,478  
**重複遺構** 42号溝と重複する。新旧関係は本遺構が古い。  
**延伸方位** N-7°-E N-79°-W  
**規模** 4区北西壁外から南北に延伸し、東方向に向きを変えて途切れている。調査長21.20m、幅0.32m～0.48m、深さ0.05m～0.39mを測る。  
**埋没土** 主に白色粒、黄色粒、ローム塊を含む暗褐色土と、ローム粒や暗褐色土を含む褐色土である。  
**遺物** 埋没土中から土師器と須恵器が各1点出土しているが、小片のため掲載できなかった。  
**所見** 断面形状は壁面がほぼ直立しており、底面も平らである。区画溝の可能性はあるが、範囲が限られており、掘削目的は特定できない。小片ながら土師器と須恵器が出土しており、時期は古墳時代～平安時代の可能性がある。

**4区42号溝**(第288図、PL.79)

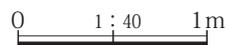
**座標値** X=42,936～42,953 Y=-55,474～-55,482  
**重複遺構** 41号溝と重複する。新旧関係は本遺構が新しい。  
**延伸方位** N-7°-E N-22°-E N-80°-E  
**規模** 4区北西壁から蛇行し西壁外まで延伸している。調査長19.00m、幅0.32m～0.48m、深さ0.05m～0.39mを測る。  
**埋没土** ローム塊を含む暗褐色土と、ローム塊、ローム粒、黒褐色土を含む褐色土である。  
**遺物** 出土遺物はない。  
**所見** 断面形状は壁面がほぼ直立しており、底面は皿状である。掘削目的は特定できない。出土遺物がなく時期は明らかではないが、41号溝との新旧関係から平安時代以降の溝と考えられる。

46号溝

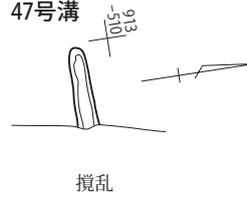


46号溝

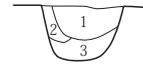
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。やや粘質。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。暗褐色土を微量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量、白色軽石を微量含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒を多量、ローム塊を少量、白色軽石を微量含む。



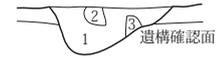
47号溝



A, L=116.90m, A'

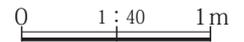


B, L=117.10m, B'

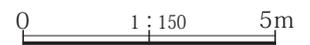
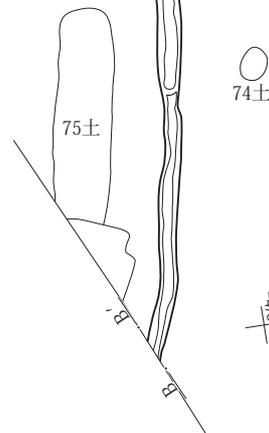


47号溝

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を多量、ローム塊・黒褐色土を少量含む。
3. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。黒褐色土を微量含む。



47号溝



第287図 4区46・47号溝



**4区43号溝**(第289～293図、PL.79・121)

**座標値** X=42,917～42,957 Y=-55,459～-55,467  
**重複遺構** 44・49号溝と重複している。本遺構が最も古い。

**延伸方位** N-4°-E

**規模** 4区東端を南北に横断している。調査長36.50m、幅5.60m、深さ2.60mを測る。

**埋没土** 上層は主に褐色土、暗褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土、下層は主に褐灰色砂質土、オリーブ褐色土等で、全体的に砂質土が多く見られ、特に下層には礫が多く含まれている。

**遺物** 埋没土中から多数の遺物が出土している。土器の割れ口や器表には、摩滅が認められるものが多い。掲載したのは、1:土師器杯、2:同高杯、3・4:須恵器杯、5:肥前磁器皿、6:肥前磁器とみられる染付徳利、7:肥前陶器陶胎染付碗、8～10:同呉器手碗、11:同青緑釉皿、12:瀬戸美濃磁器とみられる染付端反碗、13:瀬戸美濃陶器尾呂碗、14:同天目碗、15・16:同菊皿、17・20:同輪禿皿、18・19・23～25:同皿、21・22:同御深井皿、26:同香炉、27:同片口鉢、28・29:在地系土器鍋、30～36:同焙烙、37:同火鉢又は香炉、38:砥石、39:石皿、40:銅製煙管である。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面に凹凸が見られる。水成堆積の様相が見られると共に、出土した土器の割れ口や器表に摩滅が認められ、流下したものと考えられることから、水路の可能性が高い。主に17世紀中葉～18世紀中葉の遺物が多数出土しており、その時期の溝と考えられる。

**4区44号溝**(第289・290・294～296図、PL.79・122)

**座標値** X=42,919～42,958 Y=-55,456～-55,463  
**重複遺構** 43・45号溝と重複している。43溝より新しく、45溝より古い。

**延伸方位** N-4°-E

**規模** 4区東端を南北に横断している。調査長38.50m、幅4.50m、深さ0.85mを測る。

**埋没土** 上層は主に灰褐色砂質土や赤褐色の変色が見られるにぶい黄褐色土で、下層は褐灰色砂質土や小石を含む暗灰黄色土である。

**遺物** 埋没土中から多数の遺物が出土している。掲載し

たのは、1・2:肥前磁器染付小丸碗、3・4:同染付碗、5:同染付端反碗、6:同染付皿、7:肥前陶器呉器手碗、8:瀬戸・美濃磁器とみられる染付端反碗、9:瀬戸・美濃陶器碗、10:同鉄絵皿、11・12:同御深井皿、13:同菊皿、14:同片口鉢、15:同鉢、16:同耳壺、17:同筒形香炉、18・19:製作地不詳磁器染付端反碗、20:同染付丸碗、21堺・明石陶器すり鉢、22:製作地不詳陶器すり鉢、23・24:在地系土器鍋、25・26:同焙烙、27:同釜輪、28:同火鉢、29:同養蚕火鉢、30:同炉形製品である。  
**所見** 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状で凹凸が見られる。水成堆積の様相が見られ、水路の可能性が高い。主に18世紀～19世紀の遺物が多数出土しており、その時期の溝と考えられる。

**4区45号溝**(第289・290図、PL.79)

**座標値** X=42,949～42,959 Y=-55,453～-55,455  
**重複遺構** 44号溝と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**延伸方位** N-3°-E

**規模** 4区北西壁外から延伸し44号溝と重複している。調査長10.00m、北西壁断面での幅5.16m、深さ1.25mを測る。

**埋没土** 上層は主にローム塊やローム粒等を含むにぶい黄褐色土で一部に赤褐色の変色が見られる。下層は小石や砂を多量に含む灰黄褐色土で、ビニール片・ガラス片が混入していた。

**遺物** 出土遺物はない。

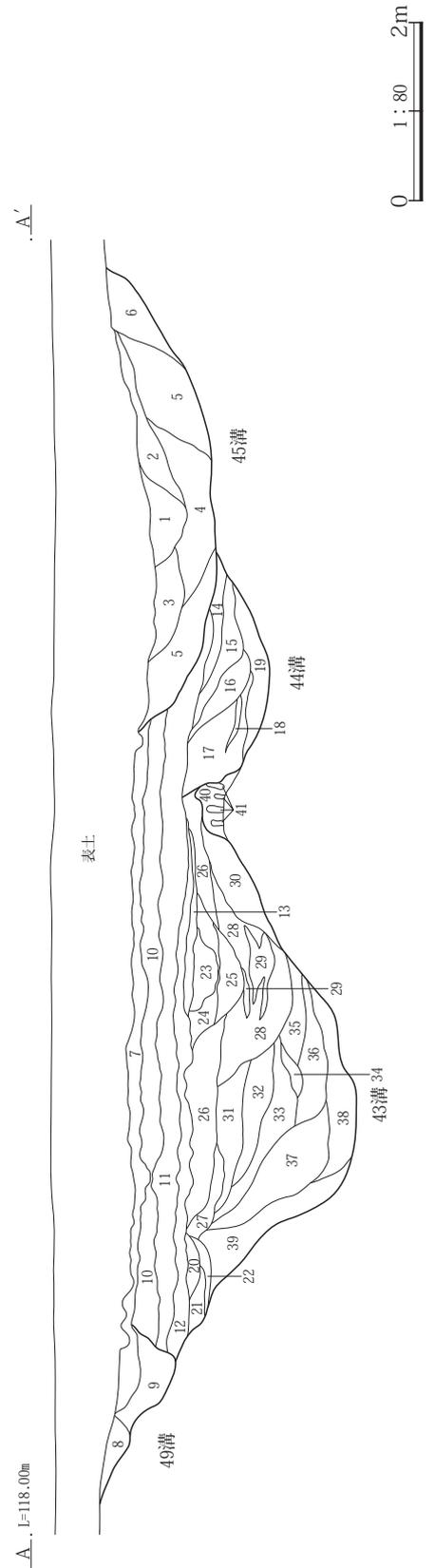
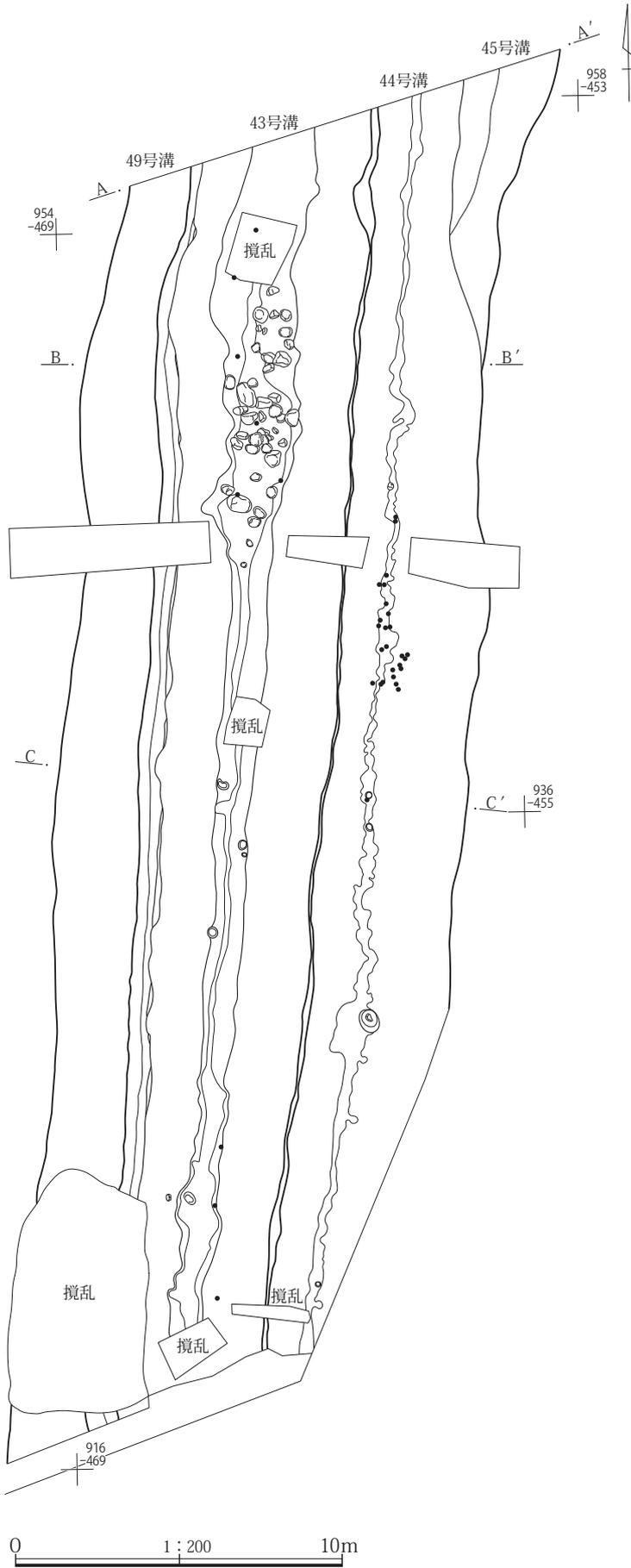
**所見** 断面形状は壁面が傾斜してハの字状に開いており、底面は皿状である。水成堆積の様相が見られ、水路の可能性が高い。出土遺物はなかったが、底部にビニール片やガラス片が混入していたことから、時期は現代である。

**4区49号溝**(第289・290・296図、PL.79・120)

**座標値** X=42,916～42,955 Y=-55,464～-55,471  
**重複遺構** 43号と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

**延伸方位** N-4°-E

**規模** 4区東端を南北に横断している。調査長30.50m、幅2.00m～2.40m、深さ0.84mを測る。

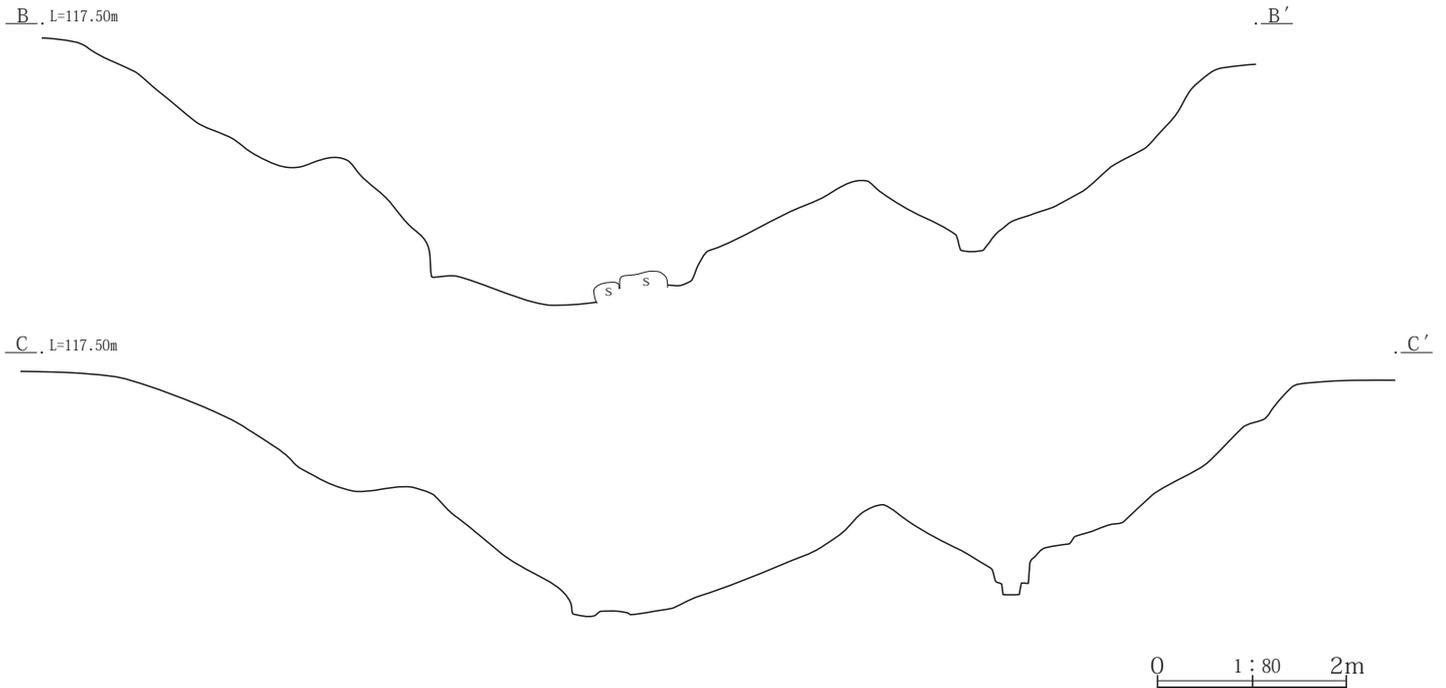


第289図 4区43～45・49号溝

### 第3章 調査の成果

43・44・45・49号溝

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒・白色粒を少量含む。締りなし。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・黒褐色土を少量含む。締りなし。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 赤褐色の変色が斑状に見られる。きめ細かなシルト質。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小石や砂を多量に含む。きめ細かなシルト質。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 赤褐色の変色が一部に見られる。シルト質。
6. 褐色土(10YR4/6) 黒褐色土を少量含む。
7. 褐灰色粘質土(10YR6/1) 白色粒・褐色土を微量含む。
8. 黄褐色土(10YR5/6) ローム塊を多量に含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。
10. 黄褐色土(2.5Y5/3) 赤褐色の変色がわずかに見られる。シルト質。
11. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 赤褐色の変色が見られる。
12. 黄褐色土(2.5Y5/4) 赤褐色の変色が見られる。
13. 黄褐色土(2.5Y5/6) ローム粒を少量含む。
14. 灰褐色砂質土(7.5YR4/2) 下部に小石を含む。
15. 褐色砂質土(7.5YR4/3) 赤褐色の変色が見られる。
16. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 赤褐色の変色が一部に見られる。シルト質。
17. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 縞状の灰色粘土層を含む。シルト質。
18. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 褐灰色砂質土を多量に含む。
19. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 褐灰色砂質土・小石を多量に含む。
20. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
21. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を少量含む。
22. 黒褐色土(10YR3/2) 砂礫を多量に含む。
23. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。黄褐色土を少量含む。
24. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒を少量含む。
25. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・褐灰色砂質土を微量含む。
26. 褐色土(10YR4/4) 褐灰色砂質土を微量含む。粘性あり。
27. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を微量含む。粘性あり。
28. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 褐灰色砂質土を少量含む。粘性あり。
29. 褐灰色砂質土(10YR5/1) 礫を多量に含む。
30. 褐色土(7.5YR4/3) ローム粒を微量含む。粘性あり。
31. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を微量含む。粘性あり。
32. オリーブ褐色土(2.5Y4/4) ローム粒を少量含む。粘性あり。
33. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) ローム塊・褐灰色砂質土を少量含む。
34. オリーブ褐色土(2.5Y4/6) 褐灰色砂質土・礫を多量に含む。締りなし。
35. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・褐灰色砂質土を少量含む。
36. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 礫を多量に含む。締りなし。
37. 褐灰色砂質土(7.5YR4/1) 礫を少量含む。
38. 褐灰色砂質土(7.5YR5/1) 礫を多量に含む。
39. 黄褐色土(2.5Y5/4) ローム塊を多量、褐灰色砂質土を少量含む。
40. 灰黄褐色粘質土(10YR6/2) ローム粒を微量含む。
41. 灰黄褐色土(10YR4/2) 締りなし。



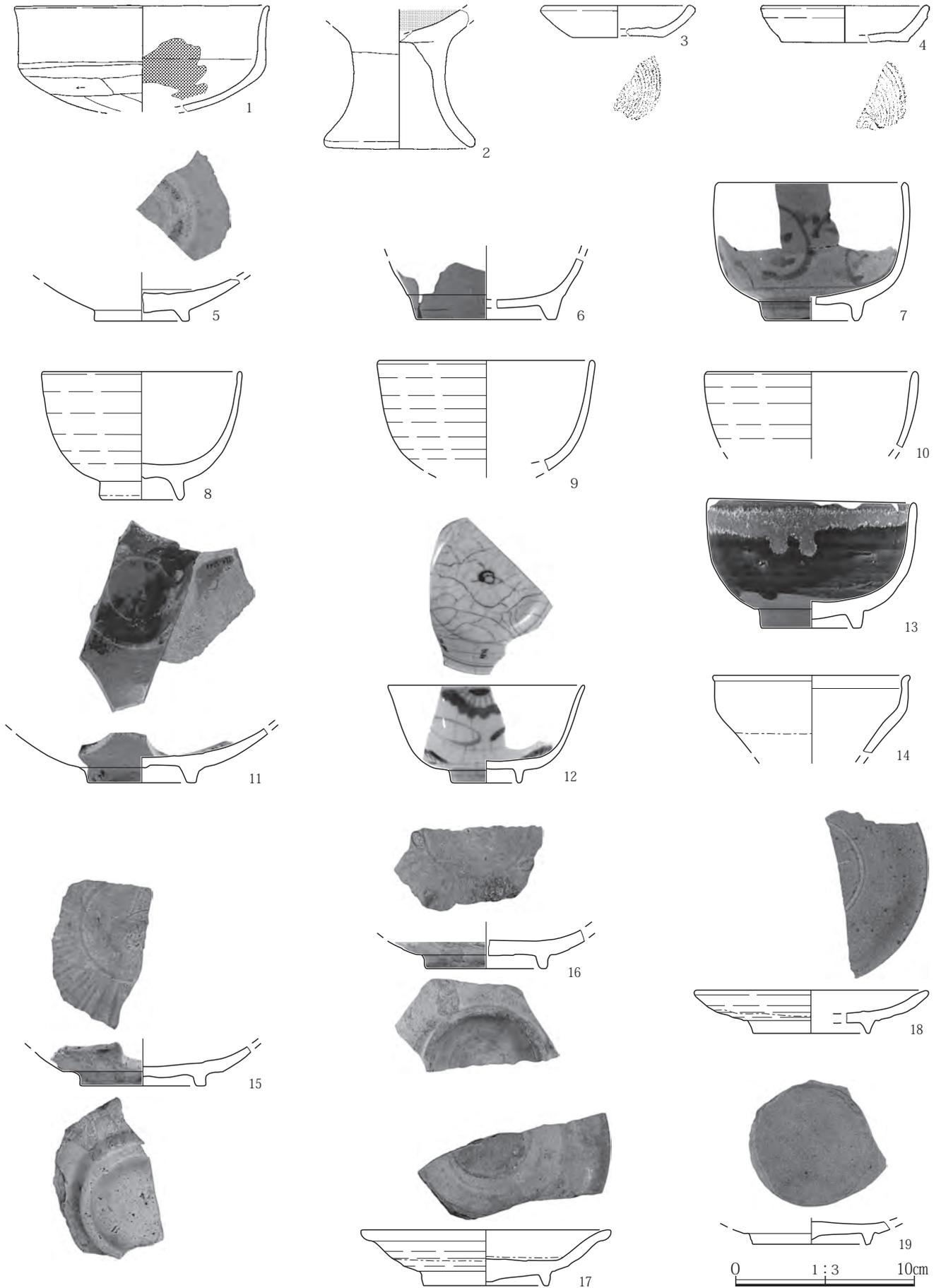
第290図 4区43～45・49号溝断面図

**埋没土** ローム塊を多量に含む黄褐色土とにぶい黄褐色土である。

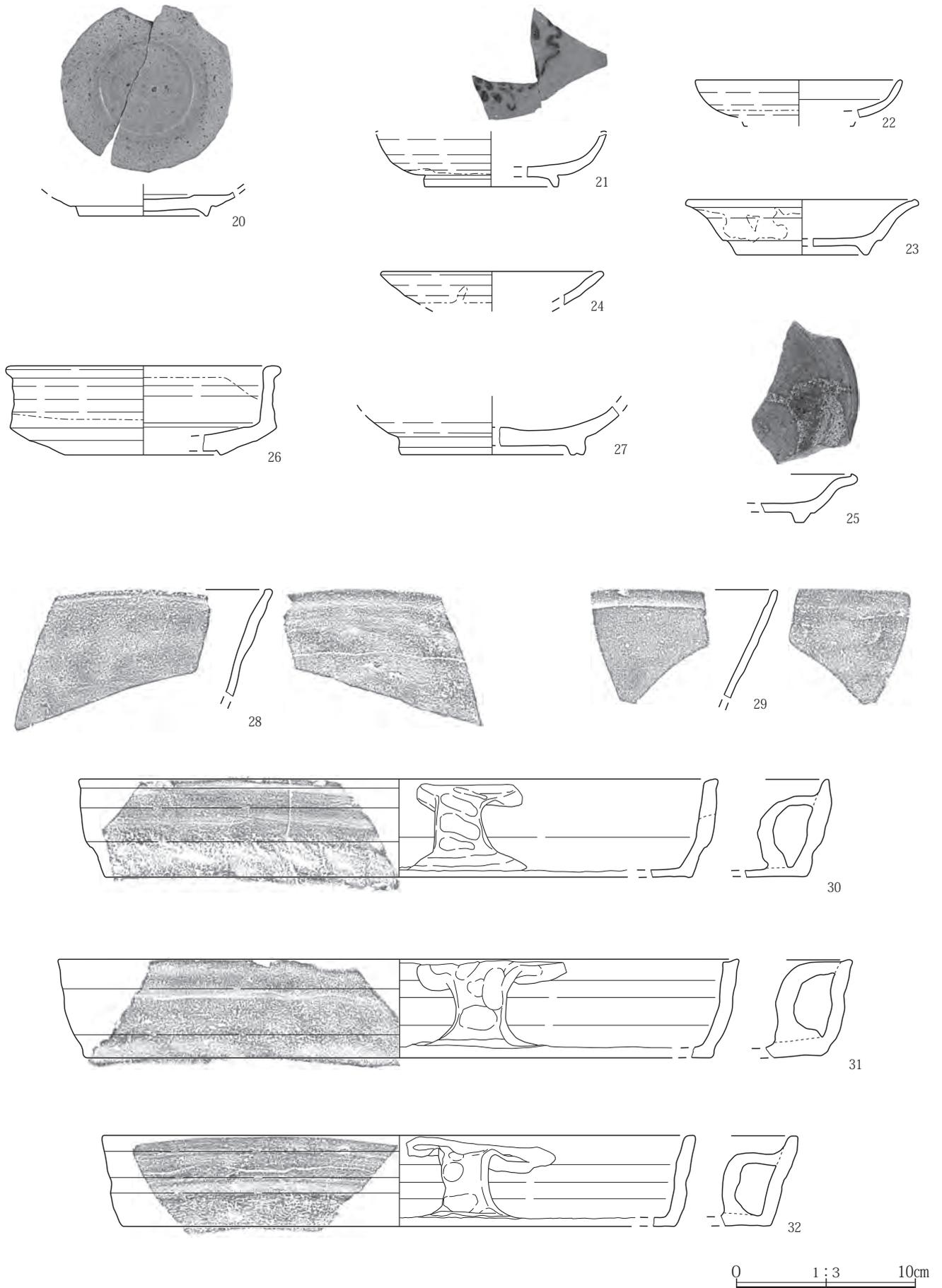
**遺物** 埋没土中から小片の土器が数点出土した。掲載したのは、龍泉窯系青磁碗である。

**所見** 断面形状は壁面が傾斜し、ハの字状に開いている。水成堆積は確認できなかったが、43溝・44溝と延伸方位

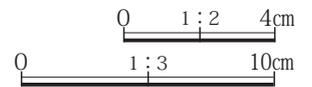
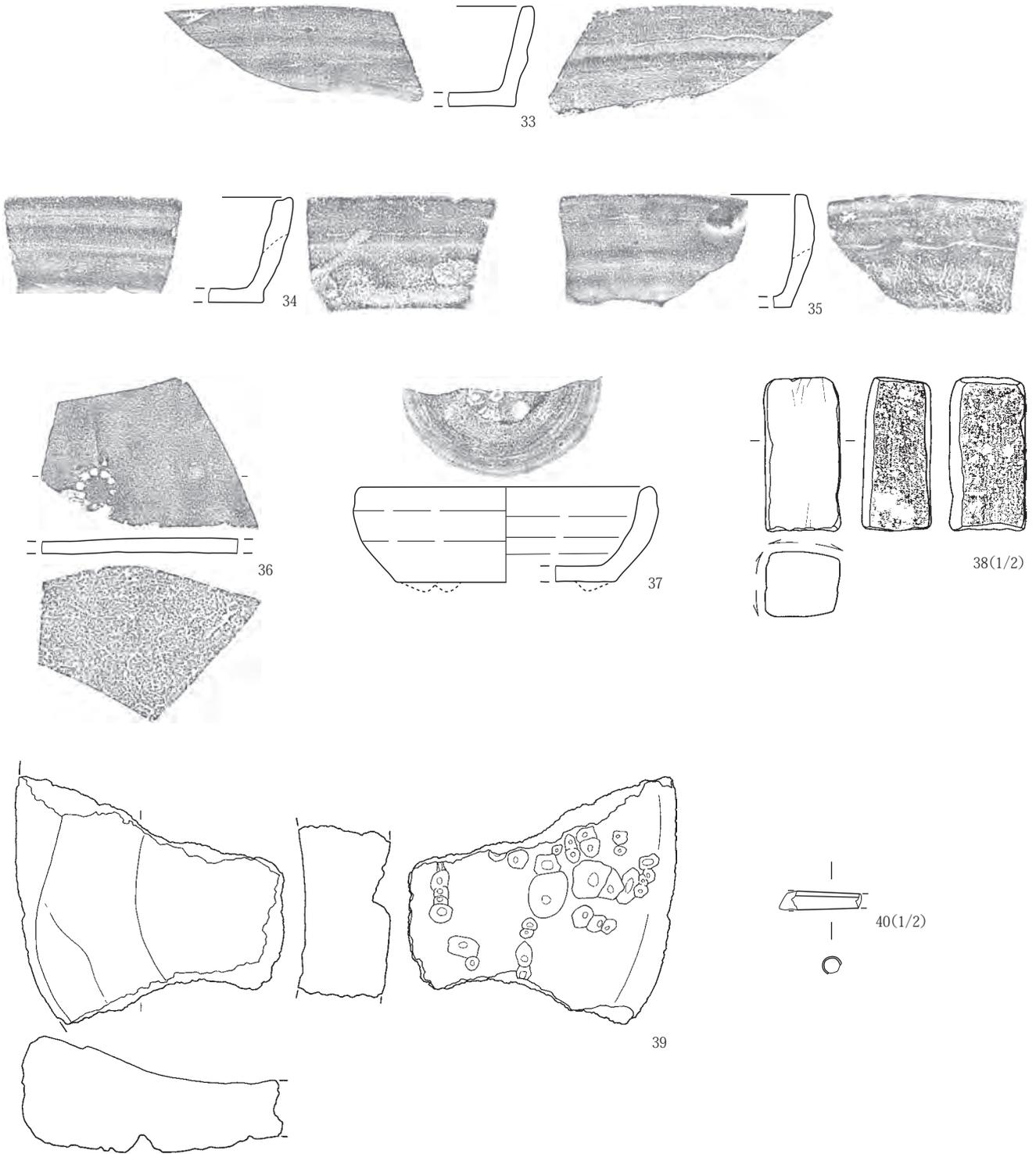
が同様の水路の可能性ある。掲載した龍泉窯系青磁碗は12世紀中葉～後葉の時期に比定でき、土師器や須恵器が数点出土した一方、近現代の陶磁器も複数出土しており、重複する溝との新旧関係、土層断面の観察等から、時期は近現代と考えられる。



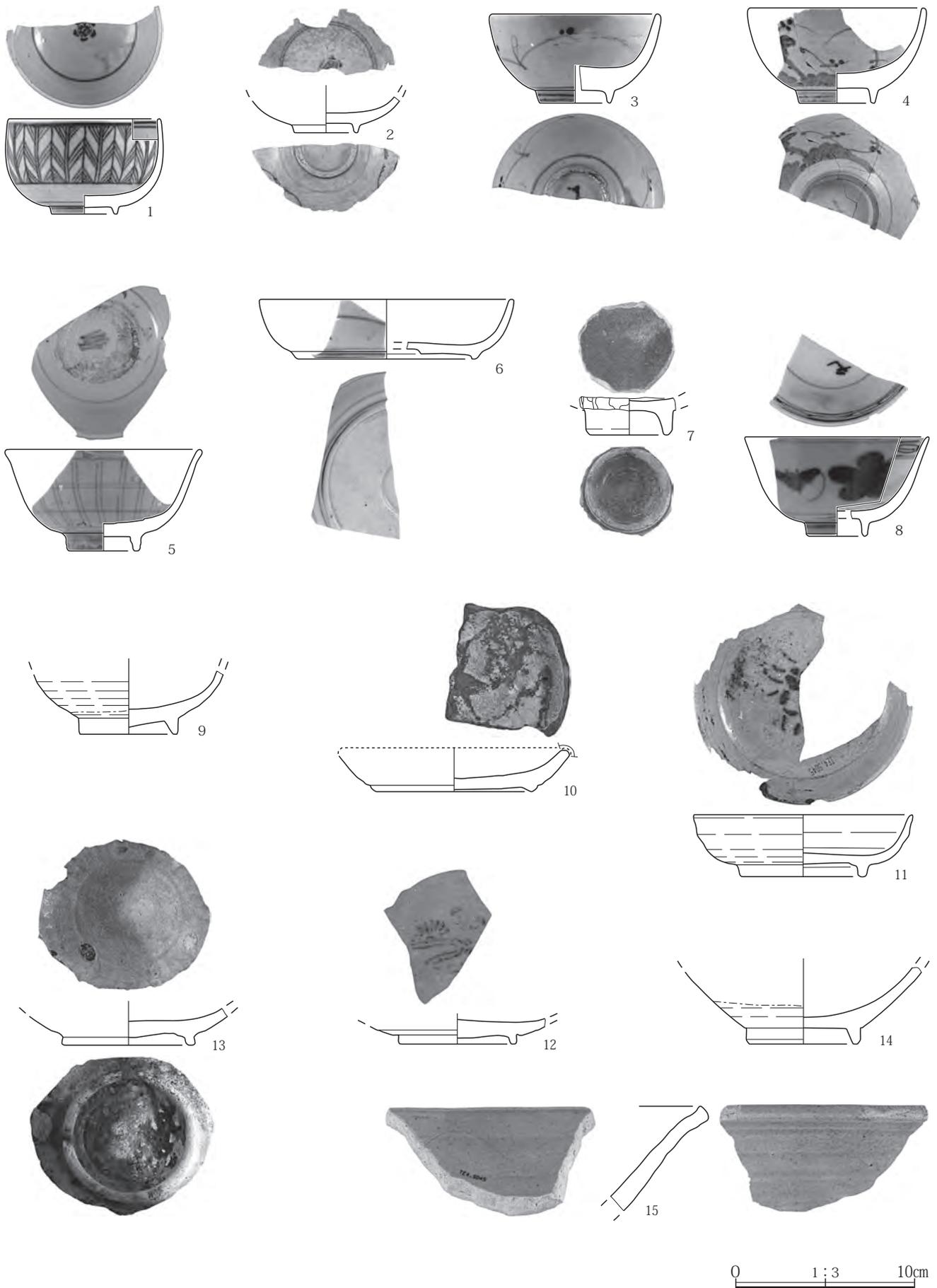
第291図 4区43号溝出土遺物(1)



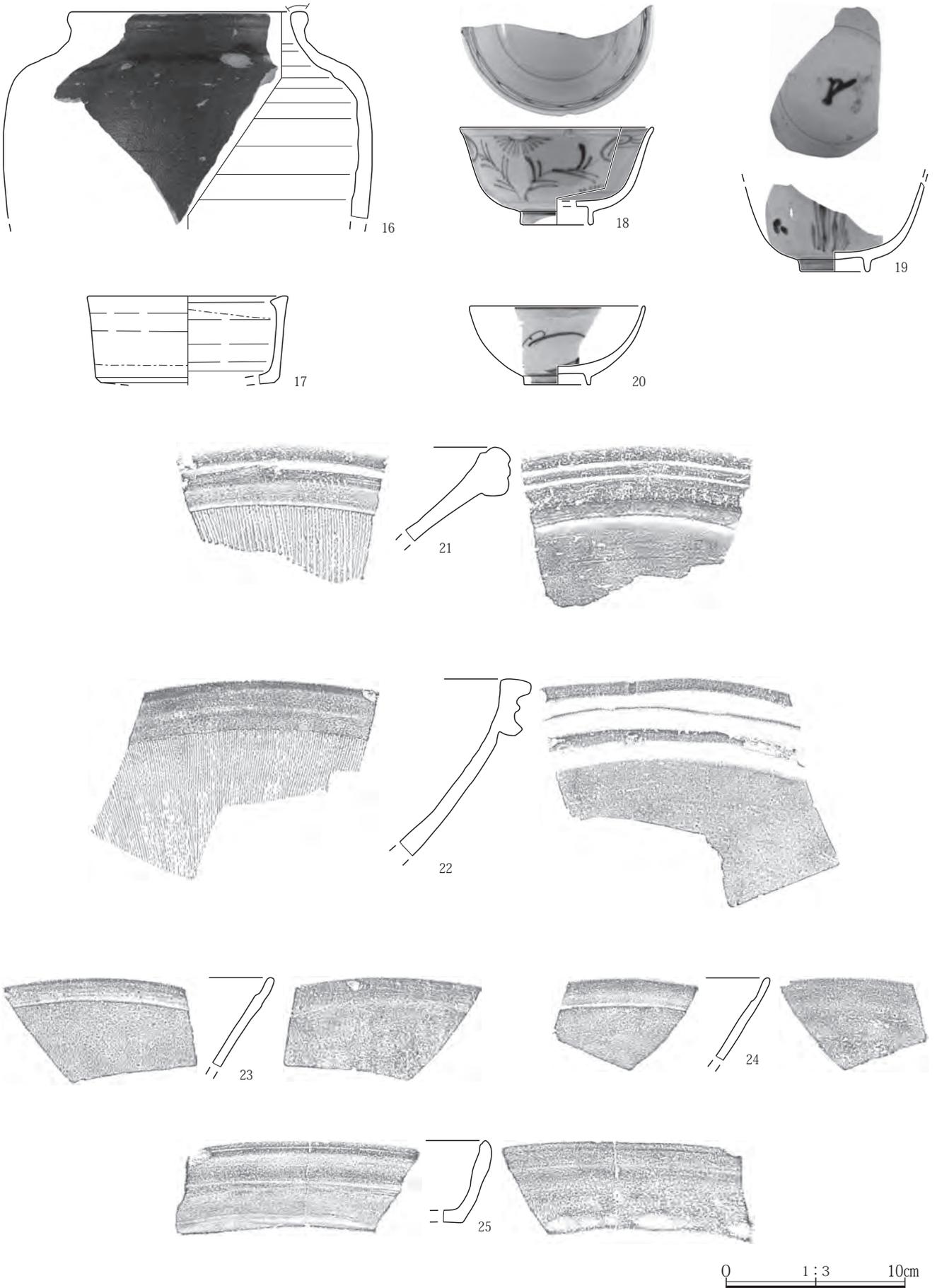
第292図 4区43号溝出土遺物(2)



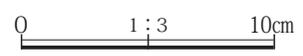
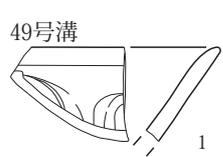
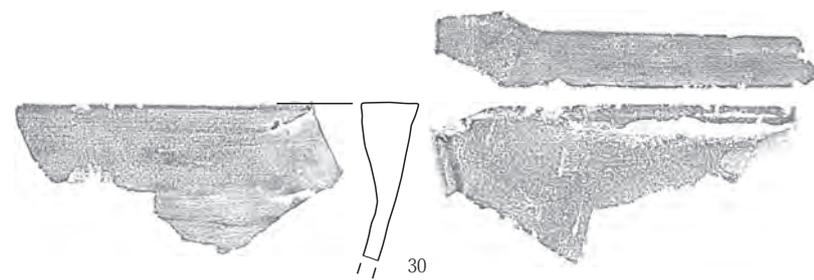
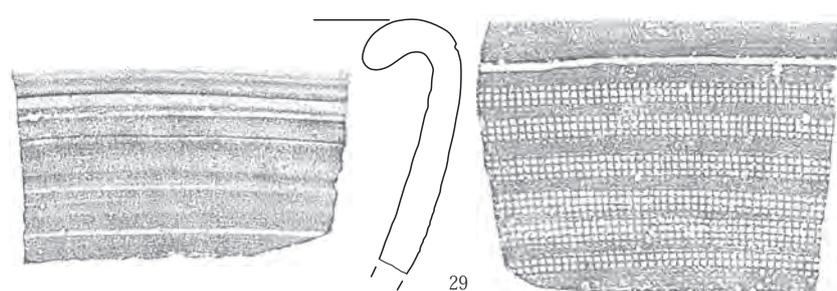
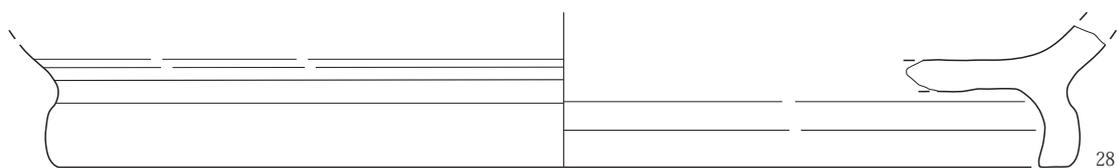
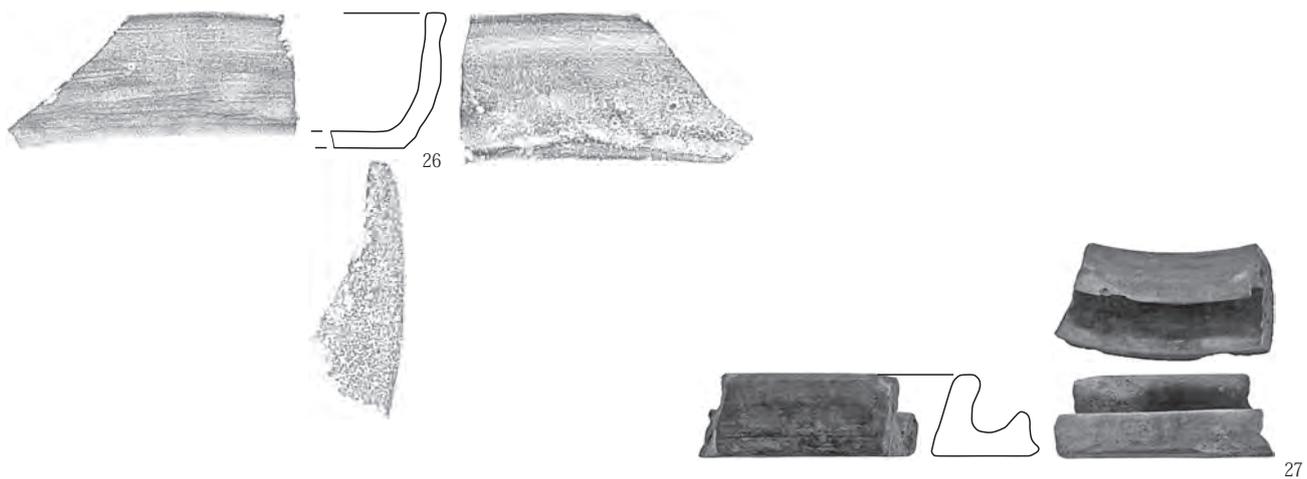
第293図 4区43号溝出土遺物(3)



第294図 4区44号溝出土遺物(1)

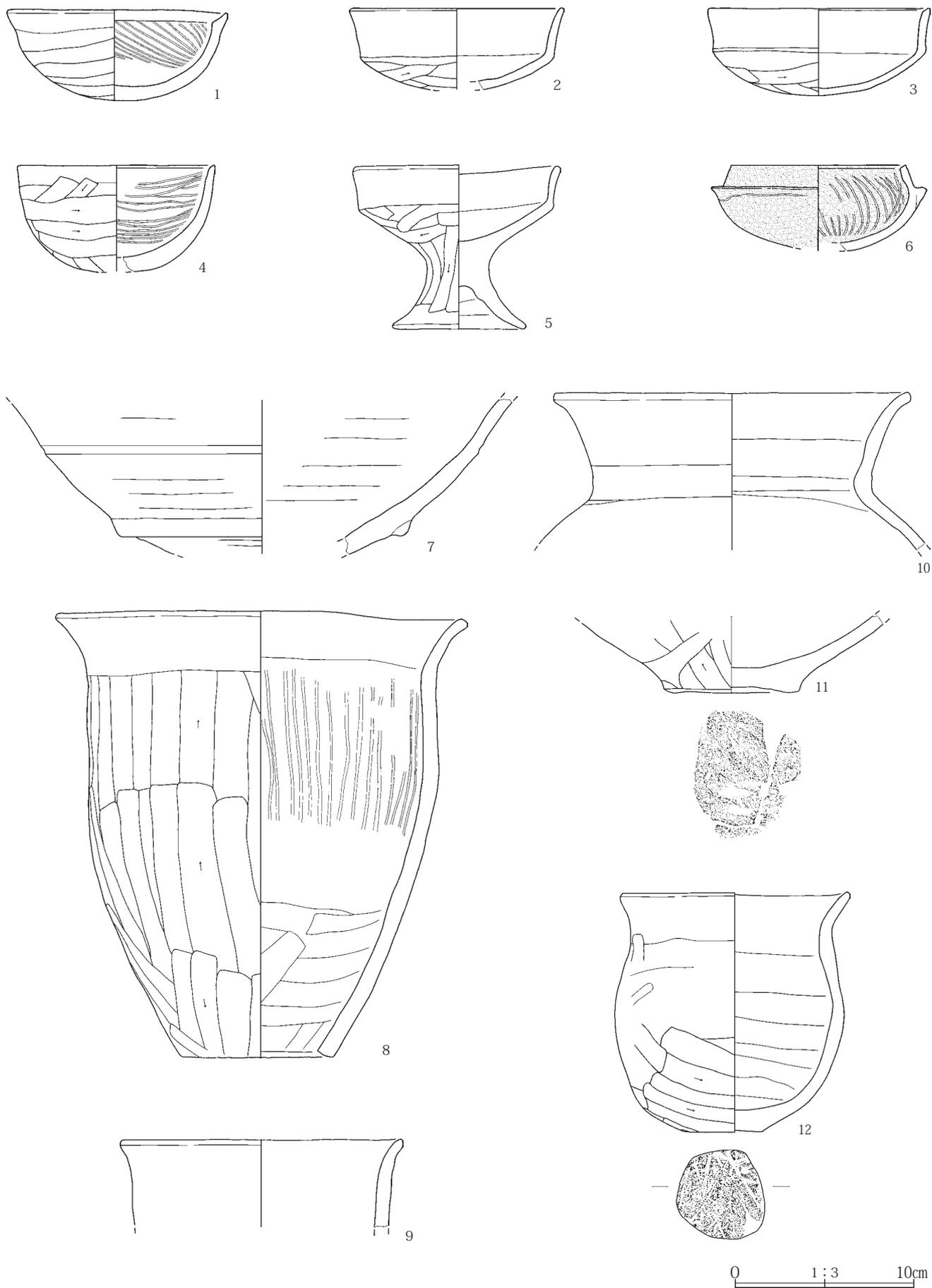


第295図 4区44号溝出土遺物(2)

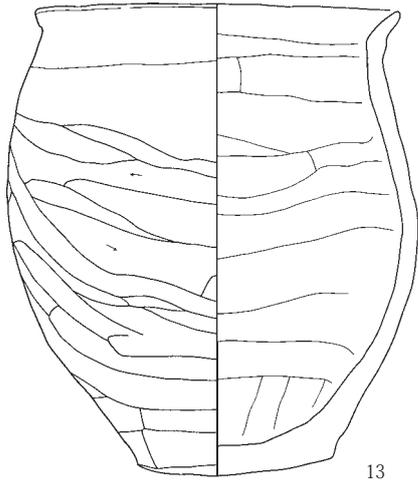


第296図 4区44号溝出土遺物(3)・49号溝出土遺物

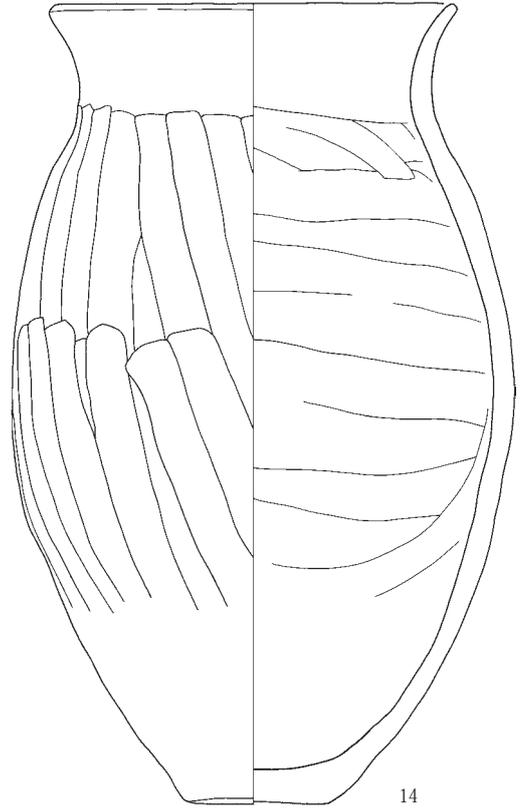
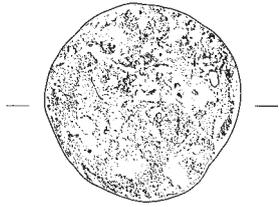




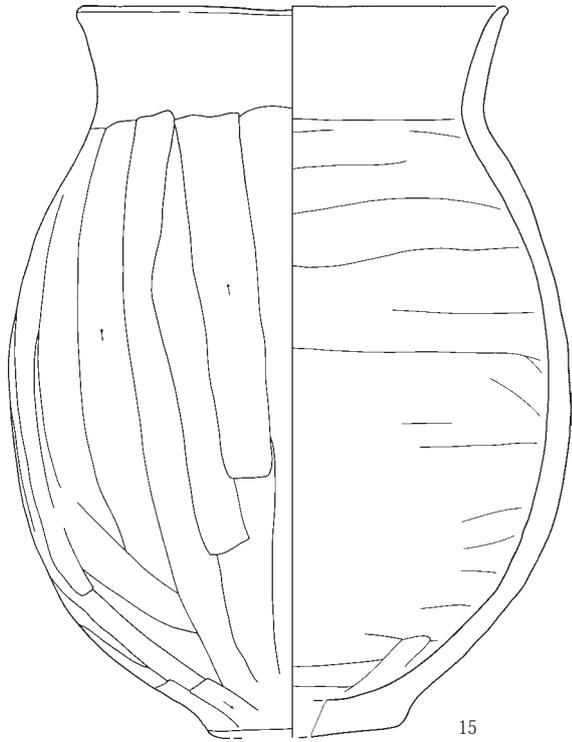
第298図 5区48号溝出土遺物(1)



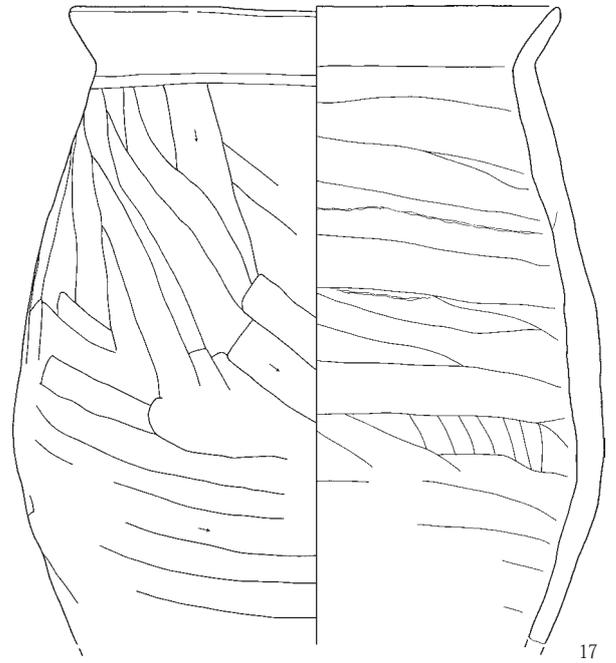
13



14



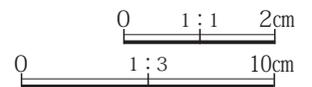
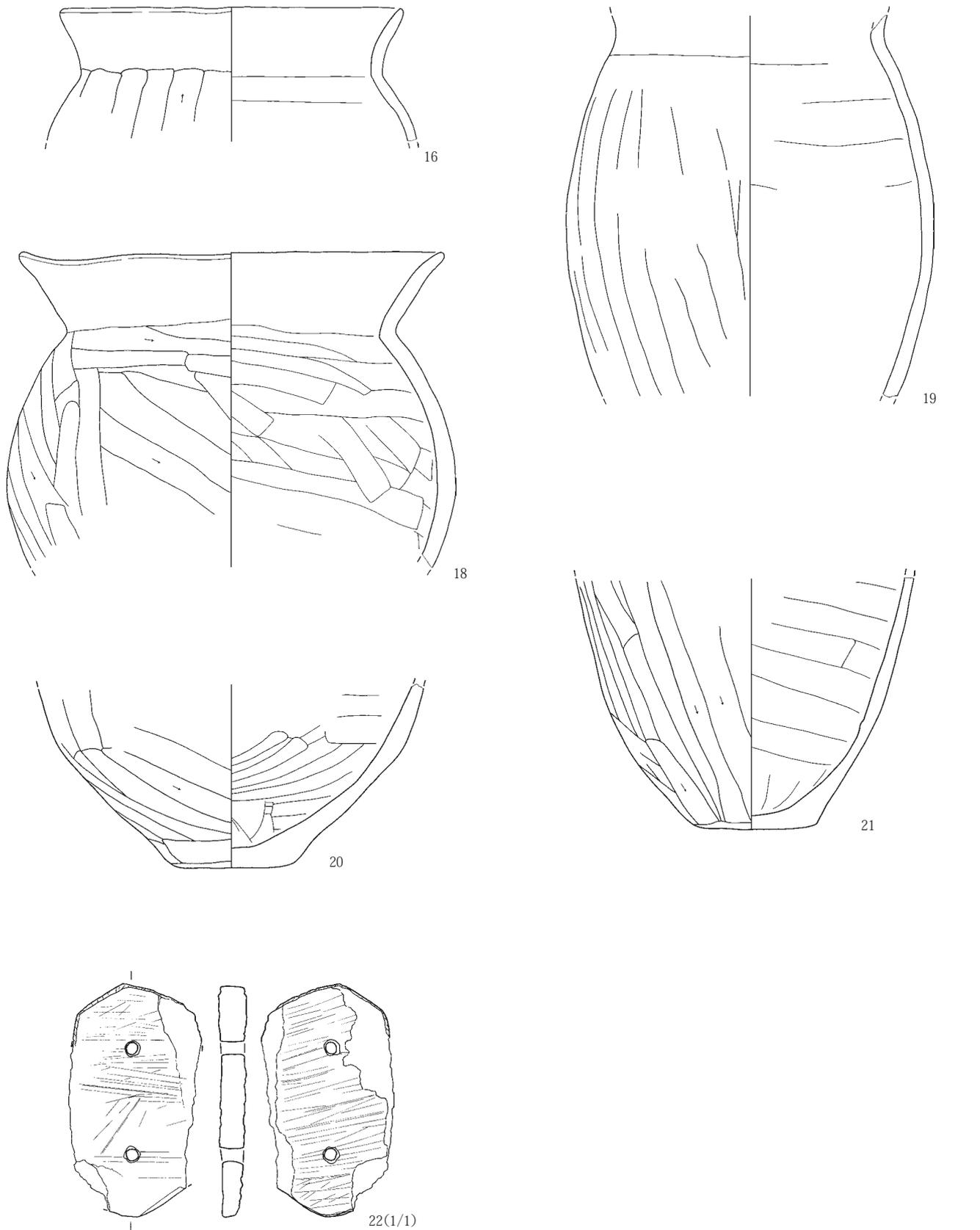
15



17

0 1:3 10cm

第299図 5区48号溝出土遺物(2)



第300図 5区48号溝出土遺物(3)

## 5. 土坑

3区で6基、4区で21基、5区で25基、計52基の土坑を確認した。2区北では土坑は検出されなかった。3区では調査区北側、4区では南側に集中している。5区では調査区全体に分布しているが、溝の東側に多く見られる。52基中、円形が8基、楕円形が33基、隅丸のものも含め長方形が6基、不整形が2基、不明のものが3基である。遺物が出土した土坑は6基で、用途が考えられるものは3基である。

### 3区56号土坑(第301図、PL.80)

**座標値** X=42,903 Y=-55,567・-55,568

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-58°-E

**規模** 長軸0.86m 短軸0.76m 深さ0.37m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 用途や時期は明らかではないが、囲い状遺構の北東隅付近にあることから、何らかの関連も想定される。

### 3区57号土坑(第301図、PL.80)

**座標値** X=42,896・42,897 Y=-55,563・-55,564

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-33°-E

**規模** 長軸1.40m 短軸0.75m 深さ0.36m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 用途や時期は明らかではないが、囲い状遺構の北東隅付近にあることから、何らかの関連も想定される。

### 3区58号土坑(第301図、PL.80)

**座標値** X=42,891・42,892 Y=-55,550～-55,552

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-75°-W

**規模** 長軸1.47m 短軸0.52m 深さ0.37m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

### 3区59号土坑(第301図、PL.80)

**座標値** X=42,888 Y=-55,545・-55,546

**重複遺構** 70号竪穴建物と重複している。

**形状** 長方形か **長軸方位** N-76°-W

**規模** 長軸(1.08m) 短軸0.60m 深さ0.35m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 70号竪穴建物を壊しており、8世紀以降と考えられる。

### 3区60号土坑(第301図、PL.80)

**座標値** X=42,842・42,843 Y=-55,604・-55,605

**重複遺構** 21号溝と重複している。

**形状** 楕円形か **長軸方位** N-50°-W

**規模** 長軸(1.05m) 短軸0.80m 深さ0.11m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 21号溝によって壊されており、埋没土が類似していることから、時期は古墳時代～平安時代と考えられる。

### 3区104号土坑(第301図、PL.80)

**座標値** X=42,878 Y=-55,586・-55,587

**形状** 円形か **長軸方位** N-60°-W

**規模** 長軸(0.60m) 短軸(0.55m) 深さ1.14m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 19号掘立柱建物の内部にあたる位置にあり、埋没土が周辺の柱穴と類似していることから、関連も想定される。

### 4区53号土坑(第302図、PL.80)

**座標値** X=42,905・42,906 Y=-55,536・-55,537

**形状** 楕円形 **長軸方位** N-0°

**規模** 長軸0.90m 短軸0.72m 深さ0.51m

**遺物** 出土遺物はない。

**所見** 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区54号土坑(第302図、PL.80)

座標値 X=42,918~42,920 Y=-55,546・-55,547

重複遺構 9号溝と重複している。

形状 不明 長軸方位 -

規模 長軸 - 短軸 - 深さ0.43m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区55号土坑(第302図、PL.80)

座標値 X=42,906 Y=-55,539

重複遺構 10号溝と重複している。

形状 楕円形か 長軸方位 N-36°-W

規模 長軸0.80m 短軸(0.68m) 深さ0.11m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区61号土坑(第302図、PL.80)

座標値 X=42,897・42,898 Y=-55,528・-55,529

形状 ほぼ円形 長軸方位 N-53°-E

規模 長軸1.10m 短軸1.08m 深さ0.29m

遺物 土師器の小片が1点、近世の国産施釉陶器の小片が2点出土している

所見 近世の国産施釉陶器が出土しており、時期は近世以降と考えられる。

4区62号土坑(第302図、PL.80・125)

座標値 X=42,901 Y=-55,521・-55,522

形状 隅丸方形 長軸方位 N-89°-W

規模 長軸0.50m 短軸0.43m 深さ0.11m

遺物 埋没土中から数点の遺物が出土した。掲載したのは、1：銅製品煙管、2～4：釘、5：古銭(新寛永)である。

所見 埋没土中から煙管、釘、古銭が出土しており、近世の土壌墓の可能性がある。

4区63号土坑(第302・303図、PL.80)

座標値 X=42,893 Y=-55,516~-55,518

形状 長方形 長軸方位 N-85°-W

規模 長軸2.58m 短軸0.56m 深さ0.34m

遺物 埋没土中から在来系土器片口鉢が1点出土し掲載した。

所見 出土した在地系土器片口鉢の時期は13世紀後半とみられる。

4区64号土坑(第303図、PL.80)

座標値 X=42,899・42,900 Y=-55,517

重複遺構 65号土坑と重複している。

形状 楕円形 長軸方位 N-5°-W

規模 長軸0.98m 短軸0.80m 深さ0.34m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区65号土坑(第303図、PL.80・81)

座標値 X=42,898~42,900 Y=-55,516・-55,517

重複遺構 64号・66号土坑と重複している。

形状 不整形 長軸方位 N-88°-E

規模 長軸(1.64m) 短軸1.30m 深さ0.33m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区66号土坑(第303図、PL.80・81)

座標値 X=42,898・42,899 Y=-55,515・-55,516

重複遺構 65号・71号土坑と重複している。

形状 不明 長軸方位 -

規模 長軸 - 短軸 - 深さ0.26m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区67号土坑(第303図、PL.81)

座標値 X=42,904 Y=-55,502・-55,503

形状 楕円形 長軸方位 N-3°-W

規模 長軸0.58m 短軸0.53m 深さ0.25m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区68号土坑(第303図、PL.81)

座標値 X=42,904 Y=-55,499・-55,500

形状 楕円形 長軸方位 N-15°-E

規模 長軸0.83m 短軸0.66m 深さ0.38m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区69号土坑(第303図、PL.81)

座標値 X=42,902・42,903 Y=-55,494・-55,495

形状 楕円形 長軸方位 N-0°

規模 長軸0.82m 短軸0.56m 深さ0.37m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区70号土坑(第304図、PL.81)

座標値 X=42,899 Y=-55,502・-55,503

形状 長方形 長軸方位 N-80°-W

規模 長軸1.33m 短軸0.70m 深さ0.14m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区71号土坑(第303図、PL.80・81)

座標値 X=42,898・42,899 Y=-55,515・-55,516

重複遺構 66号土坑と重複している。

形状 楕円形 長軸方位 N-82°-W

規模 長軸0.93m 短軸0.64m 深さ0.30m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区72号土坑(第304図、PL.81・125)

座標値 X=42,906・42,907 Y=-55,492～-55,494

形状 楕円形 長軸方位 N-50°-W

規模 長軸1.70m 短軸1.45m 深さ -

遺物 埋没土中から瀬戸・美濃陶器すり鉢が1点出土し掲載した。

所見 底部からの湧水が認められた。すり鉢形で下部が井筒状に深くなる井戸とみられる。出土した瀬戸・美濃陶器すり鉢の時期は江戸時代である。

4区73号土坑(第304図、PL.81)

座標値 X=42,897 Y=-55,507

形状 円形 長軸方位 -

規模 長軸0.70m 短軸0.70m 深さ -

遺物 出土遺物はない。

所見 底部からの湧水が認められた。その形状から井筒形の井戸とみられる。埋没土が72号土坑と類似しており、時期は近世の可能性はある。

4区74号土坑(第304図、PL.81)

座標値 X=42,913 Y=-55,482・-55,483

形状 楕円形 長軸方位 N-69°-W

規模 長軸0.66m 短軸0.50m 深さ0.11m

遺物 埋没土中から国産磁器の小片1点が出土している。

所見 小片1点であるが、国産磁器が出土しており、時期は近世以降の可能性はある。

4区75号土坑(第305図、PL.81)

座標値 X=42,909・42,910 Y=-55,480～-55,484

形状 長方形か 長軸方位 N-80°-W

規模 長軸(4.20m) 短軸1.15m 深さ0.22m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区97号土坑(第305図、PL.81)

座標値 X=42,925・42,926 Y=-55,476・-55,477

重複遺構 98号土坑と重複している。

形状 楕円形 長軸方位 N-66°-E

規模 長軸(0.90m) 短軸0.58m 深さ0.30m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区98号土坑(第305図、PL.81)

座標値 X=42,926 Y=-55,475・-55,476

重複遺構 97号土坑と重複している。

形状 楕円形 長軸方位 N-66°-E

規模 長軸0.45m 短軸0.36m 深さ0.25m

遺物 出土遺物はない。

所見 周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

4区99号土坑(第305図、PL.81)

座標値 X=42,903・42,904 Y=-55,533・-55,534

形状 ほぼ円形 長軸方位 N-87°-W

規模 長軸0.89m 短軸0.87m 深さ0.09m

遺物 出土遺物はない。

所見 一部で焼土を検出したが、用途は明らかではない。周辺で土師器や須恵器が出土している遺構と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区76号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,953 Y=-55,386

重複遺構 77号土坑と重複している。

形状 不整形 長軸方位 N-6°-E

規模 長軸0.60m 短軸0.46m 深さ0.23m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区77号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,953・42,954 Y=-55,385・-55,386

重複遺構 76号土坑と重複している。

形状 楕円形か 長軸方位 N-23°-E

規模 長軸(0.70m) 短軸0.54m 深さ0.27m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区78号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,947・42,948 Y=-55,377・-55,378

形状 楕円形 長軸方位 N-0°

規模 長軸1.28m 短軸1.10m 深さ0.25m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区79号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,949・42,950 Y=-55,373

重複遺構 874号ピットと重複する。

形状 楕円形 長軸方位 N-16°-E

規模 長軸0.63m 短軸0.40m 深さ0.24m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区80号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,954 Y=-55,370

形状 楕円形 長軸方位 N-23°-E

規模 長軸0.65m 短軸0.50m 深さ0.44m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区81号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,953・42,954 Y=-55,384・-55,385

形状 楕円形 長軸方位 N-55°-W

規模 長軸0.60m 短軸0.45m 深さ0.23m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区82号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,967 Y=-55,377

形状 楕円形 長軸方位 N-40°-W

規模 長軸0.58m 短軸0.45m 深さ0.29m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区83号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,966・42,967 Y=-55,388

形状 楕円形 長軸方位 N-20°-W

規模 長軸0.95m 短軸0.70m 深さ0.30m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区84号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,969・42,970 Y=-55,387・-55,388

形状 楕円形 長軸方位 N-45°-E

規模 長軸1.08m 短軸0.85m 深さ0.24m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区85号土坑(第306図、PL.82)

座標値 X=42,974・42,975 Y=-55,385・-55,386

形状 楕円形 長軸方位 N-32°-W

規模 長軸0.53m 短軸0.50m 深さ0.26m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区86号土坑(第307図、PL.82)

座標値 X=42,941 Y=-55,401

形状 楕円形 長軸方位 N-44°-E

規模 長軸0.71m 短軸0.60m 深さ0.85m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区87号土坑(第307図、PL.82)

座標値 X=42,942 Y=-55,398・-55,399

形状 ほぼ円形 長軸方位 N-35°-W

規模 長軸0.64m 短軸0.62m 深さ0.15m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区88号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,963 Y=-55,402

形状 楕円形 長軸方位 N-52°-W

規模 長軸0.50m 短軸0.40m 深さ0.34m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区89号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,966・42,967 Y=-55,399・-55,400

重複遺構 90号土坑と重複している。

形状 楕円形か 長軸方位 N-25°-W

規模 長軸(0.75m) 短軸0.58m 深さ0.43m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区90号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,965・42,966 Y=-55,399

重複遺構 89号土坑と重複している。

形状 楕円形 長軸方位 N-25°-W

規模 長軸(0.98m) 短軸0.56m 深さ0.45m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区91号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,967・42,968 Y=-55,399

形状 楕円形 長軸方位 N-26°-E

規模 長軸0.72m 短軸0.62m 深さ0.53m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代

以降と考えられる。

5区92号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,952 Y=-55,392

重複遺構 884号ピットと重複する。

形状 楕円形 長軸方位 N-72°-E

規模 長軸0.52m 短軸0.40m 深さ0.13m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区93号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,966・42,967 Y=-55,382

形状 円形 長軸方位 -

規模 長軸0.73m 短軸0.73m 深さ0.29m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区94号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,977 Y=-55,381

形状 円形 長軸方位 -

規模 長軸0.38m 短軸0.38m 深さ0.25m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区95号土坑(第307図、PL.83)

座標値 X=42,977 Y=-55,385・-55,386

形状 不明 長軸方位 -

規模 長軸 - 短軸 - 深さ0.18m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区96号土坑(第308図、PL.83)

座標値 X=42,947~42,949 Y=-55,399~-55,402

形状 隅丸長方形 長軸方位 N-70°-W

規模 長軸2.75m 短軸1.90m 深さ0.25m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区100号土坑(第308図、PL.83)

座標値 X=42,947・42,948 Y=-55,423

形状 楕円形 長軸方位 N-50°-W

規模 長軸0.58m 短軸0.55m 深さ0.29m

遺物 土師器と須恵器の小片が各1点出土している。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、土師器と須恵器の小片が出土していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区101号土坑(第308図、PL.83)

座標値 X=42,956・42,957 Y=-55,417・-55,418

形状 楕円形 長軸方位 N-52°-E

規模 長軸1.01m 短軸0.86m 深さ0.22m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区102号土坑(第308図、PL.83)

座標値 X=42,963・42,964 Y=-55,416・-55,417

形状 ほぼ円形 長軸方位 N-87°-E

規模 長軸1.03m 短軸1.01m 深さ0.36m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

5区103号土坑(第308図、PL.83)

座標値 X=42,958・42,959 Y=-55,420

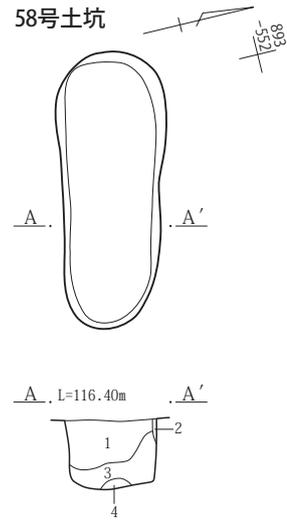
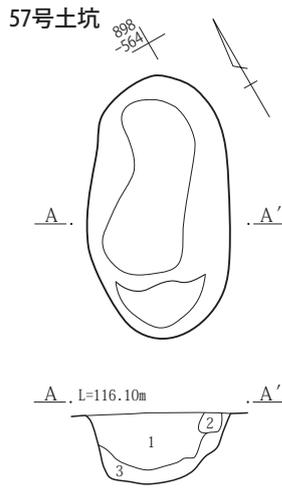
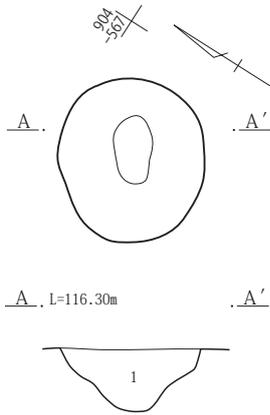
形状 楕円形 長軸方位 N-63°-E

規模 長軸0.65m 短軸0.57m 深さ0.39m

遺物 出土遺物はない。

所見 48号溝と埋没土が類似しており、時期は古墳時代以降と考えられる。

3区  
56号土坑



56号土坑

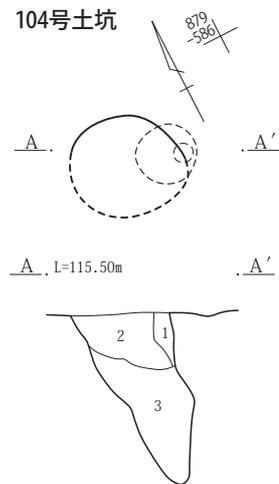
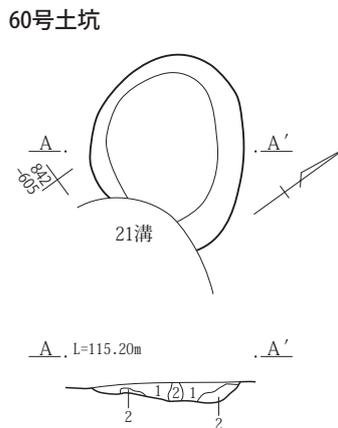
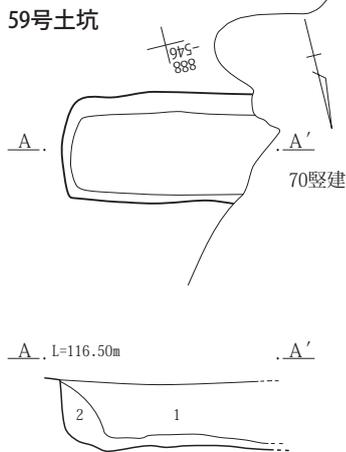
1. 黄橙色土(10YR7/8) にぶい黄橙色土を多量に含む。

57号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を多量に含む。締りややあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を少量含む。締りあり。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を多量に含む。粘性ややあり。

58号土坑

1. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. 黄橙色土(10YR7/8) にぶい黄褐色土を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を少量含む。粘性強。
4. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。



59号土坑

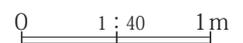
1. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。締りなし。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締りなし。

60号土坑

1. 黒褐色粘質土(10YR2/3) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を微量含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

104号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・黒褐色土を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊・ローム粒を少量を含む。

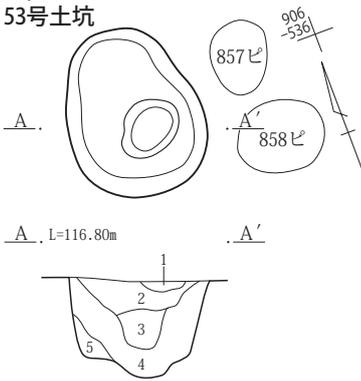


第301図 3区56～60・104号土坑

第3章 調査の成果

4区

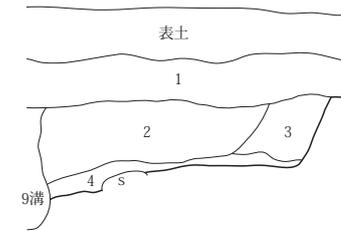
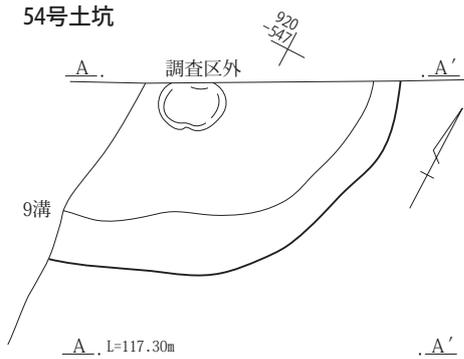
53号土坑



53号土坑

1. 黄褐色土(10YR5/6) ローム塊を多量に含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色軽石・ローム粒を少量含む。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・ローム粒を少量、白色軽石を微量含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊を多量、ローム粒を少量含む。
5. 黄褐色土(10YR8/8) ローム主体。黄褐色土を少量含む。

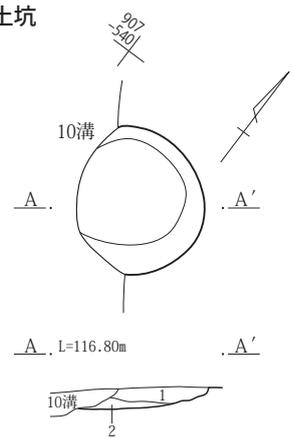
54号土坑



54号土坑

1. 褐色土(10YR4/4) ローム塊を少量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・黒褐色土を多量に含む。
3. 褐色土(10YR4/6) ローム塊・黒褐色土を少量含む。
4. 褐色土(10YR4/6) ローム塊を多量に含む。

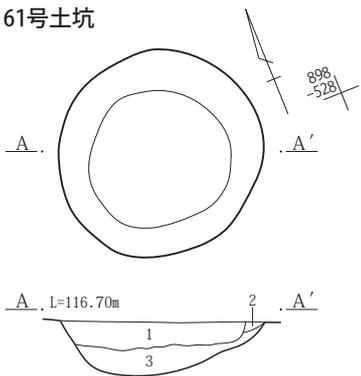
55号土坑



55号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を少量、炭化物を微量含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。暗褐色土を少量含む。

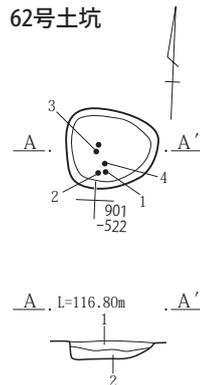
61号土坑



61号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を微量含む。
2. 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) 明褐色土を微量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) 灰黄褐色粘質土・暗褐色土を少量含む。

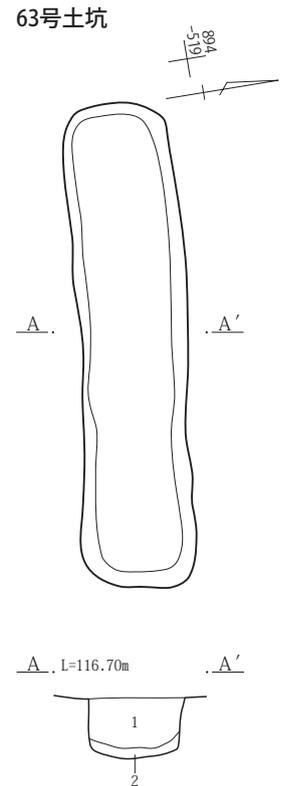
62号土坑



62号土坑

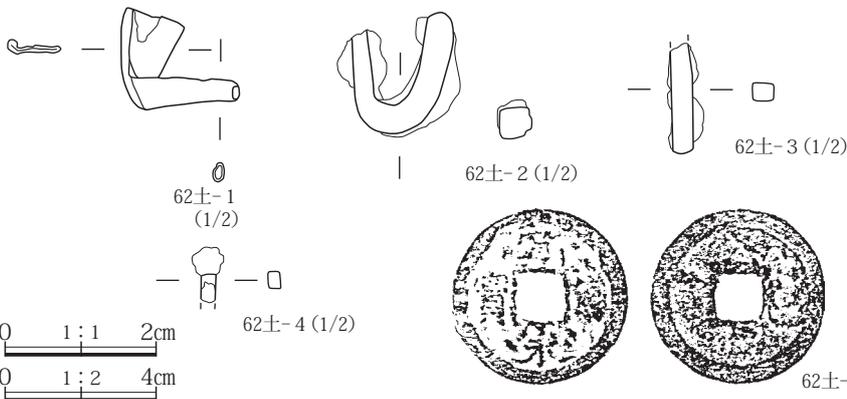
1. 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒を含む。締り弱。
2. にぶい黄褐色土(10YR7/3) 褐灰色土塊を含む。

63号土坑

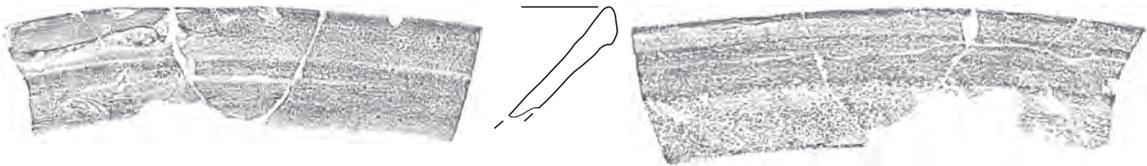


63号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。暗褐色土を少量含む。



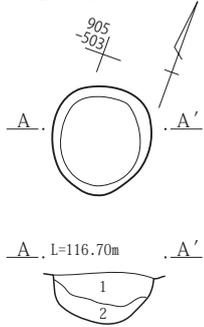
第302図 4区53~55・61~63号土坑・62号土坑出土遺物



63土-1

0 1:3 10cm

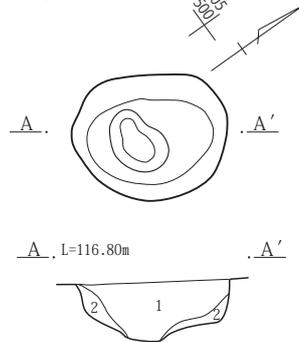
67号土坑



67号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り弱。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

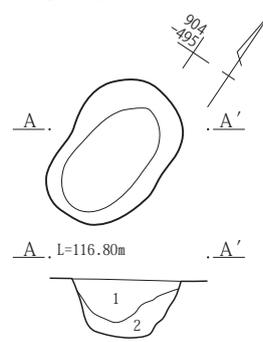
68号土坑



68号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。締り弱。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

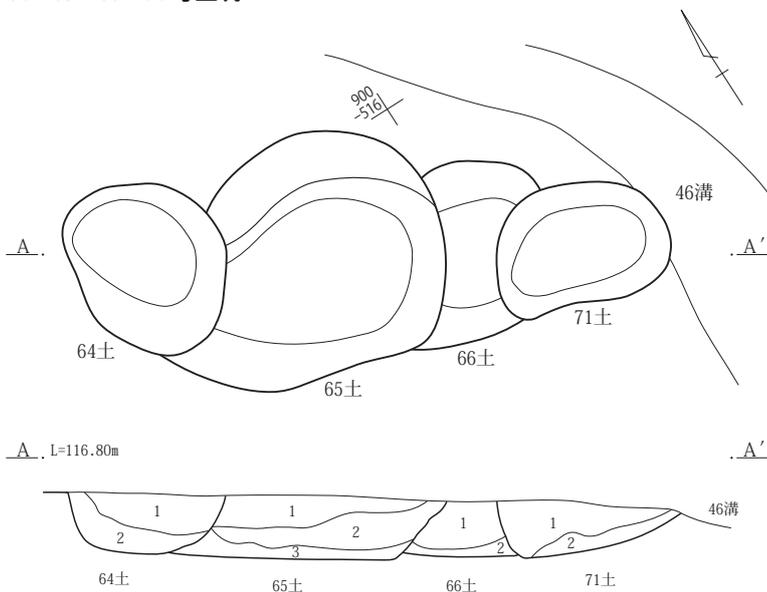
69号土坑



69号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を多量に含む。締りややあり。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

64・65・66・71号土坑



64号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石・ローム塊を少量含む。締りあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム塊を多量に含む。

65号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。
2. にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム塊を多量、白色軽石・暗褐色土を少量含む。
3. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム塊主体。暗褐色土を少量含む。

66号土坑

1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石・黄褐色土を少量含む。
2. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム塊主体。白色軽石・暗褐色土を微量含む。

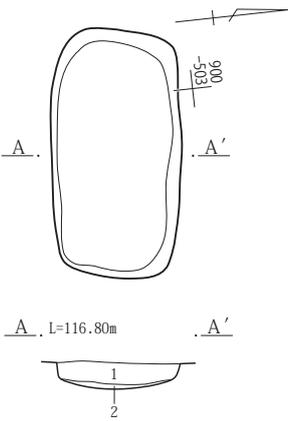
71号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石・ローム塊を少量含む。締りあり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊を多量に含む。

0 1:40 1m

第303図 4区64～69・71号土坑・63号土坑出土遺物

70号土坑



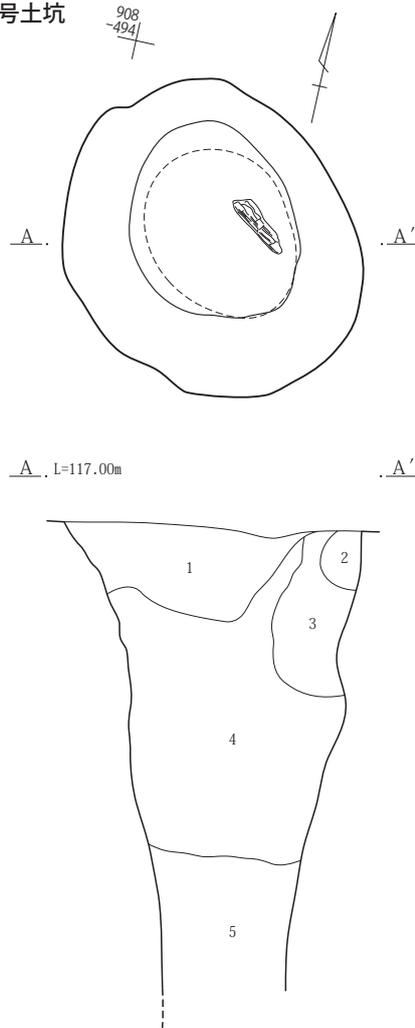
70号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。

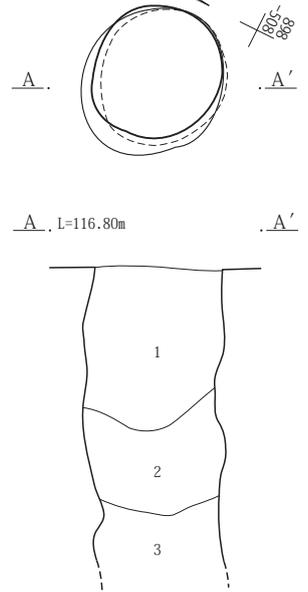
72号土坑

1. 褐灰色砂質土(10YR6/1) 小礫を微量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。締りややあり。
4. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 褐色土塊を含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊を多量に含む。水分を含み粘性あり。

72号土坑



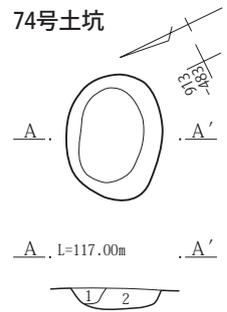
73号土坑



73号土坑

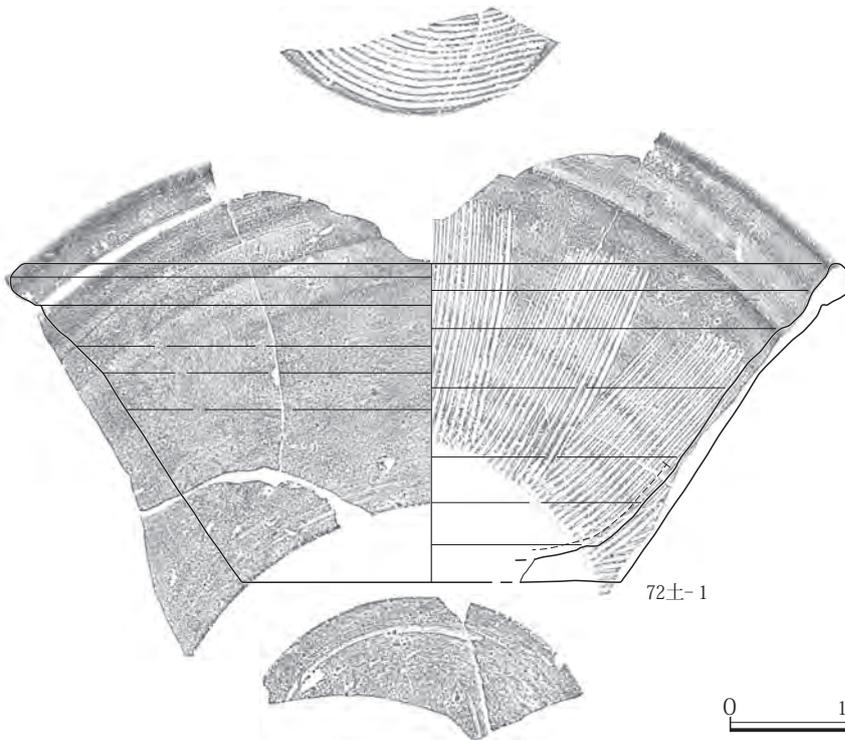
1. 褐灰色土(10YR5/1) ローム塊・ローム粒を多量に含む。粘性強。
2. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊を少量含む。粘性強。
3. 灰白色砂質土(10YR7/1) 小礫を含む。

74号土坑

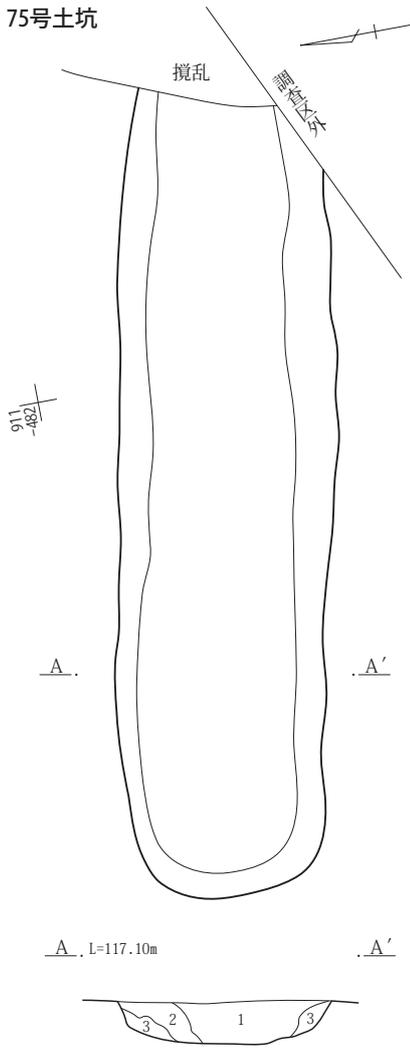


74号土坑

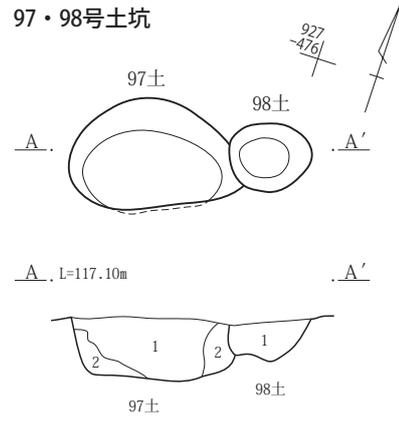
1. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。粘性ややあり。



第304図 4区70・72~74号土坑・72号土坑出土遺物

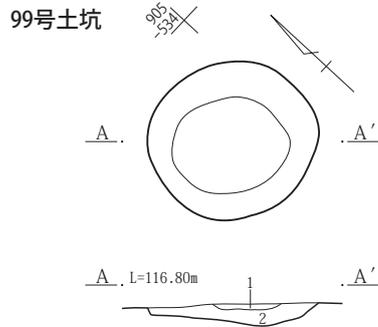


- 75号土坑
1. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 白色軽石・褐色土塊を少量含む。
  2. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石を少量含む。締りあり。
  3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を少量含む。

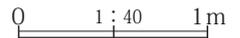


- 97号土坑
1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を多量、白色軽石を少量含む。締りあり。
  2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

- 98号土坑
1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊を多量に含む。



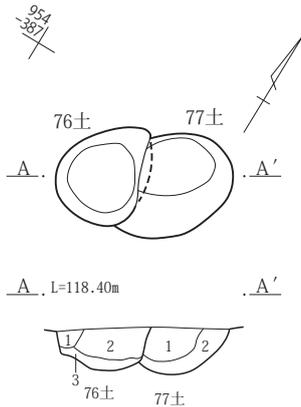
- 99号土坑
1. 赤褐色焼土(2.5YR4/6) 褐色土を少量、白色軽石を微量含む。
  2. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石を微量含む。



第305図 4区75・97～99号土坑

5区

76・77号土坑



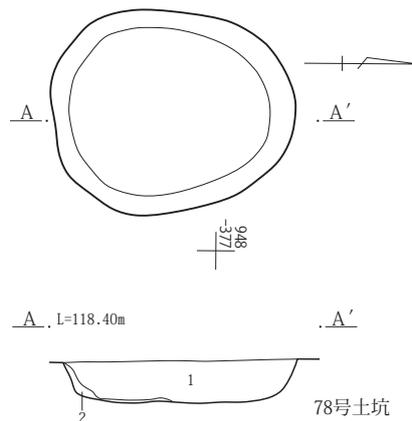
76号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 白色軽石を少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土を多量に含む。締りあり。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土を多量に含む。

77号土坑

1. 黄褐色土(10YR5/8) 焼土粒・浅黄橙色土粒を多量に含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 褐色粘質土塊を少量含む。

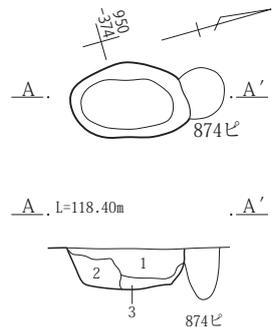
78号土坑



78号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土を多量に含む。締りあり。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。

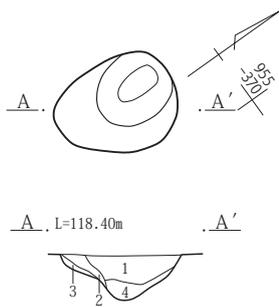
79号土坑



79号土坑

1. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
2. にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム塊を多量に含む。
3. 黒褐色粘質土(10YR2/3) ローム塊を少量含む。

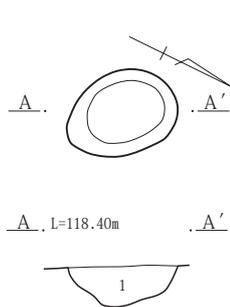
80号土坑



80号土坑

1. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊・ローム粒を多量、白色軽石を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 白色軽石を少量含む。
3. にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム粒を多量に含む。
4. 黒褐色粘質土(10YR2/3) ローム塊を少量含む。

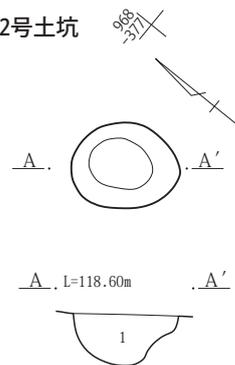
81号土坑



81号土坑

1. 黄褐色土(10YR5/8) 暗褐色土・ローム塊を少量含む。締り弱。

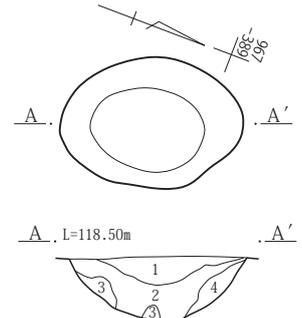
82号土坑



82号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム塊を多量に含む。締りあり。

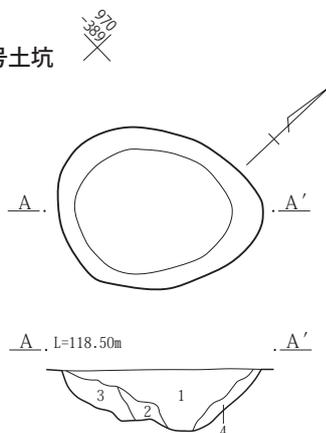
83号土坑



83号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 白色軽石を多量に含む。締り弱。
2. 黄褐色土(10YR5/8) 黒褐色土・ローム塊を多量に含む。
3. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム塊主体。黒褐色土を微量含む。
4. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム塊主体。黒褐色土を少量含む。

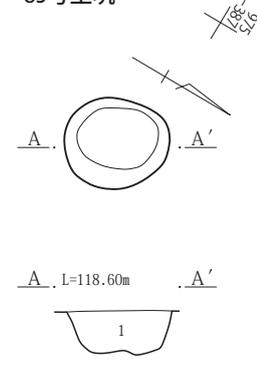
84号土坑



84号土坑

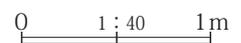
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土・ローム塊を少量含む。締りあり。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 黒褐色土を少量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。
4. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。褐色土を少量含む。

85号土坑



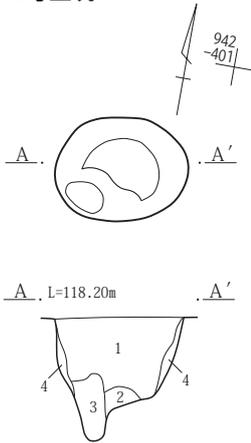
85号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐色土・ローム塊を少量含む。

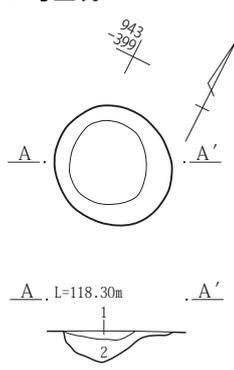


第306図 5区76～85号土坑

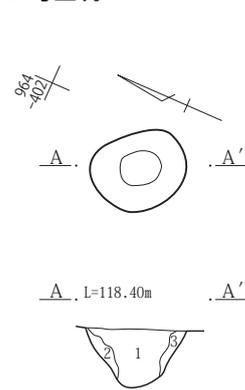
86号土坑



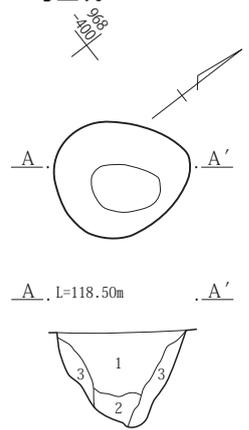
87号土坑



88号土坑



91号土坑



86号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐色土・ローム塊を多量に含む。縮りあり。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム主体。暗褐色土を少量含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒を少量含む。
4. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。褐色土を微量含む。

87号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗褐色土・ローム塊を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量、暗褐色土を少量含む。

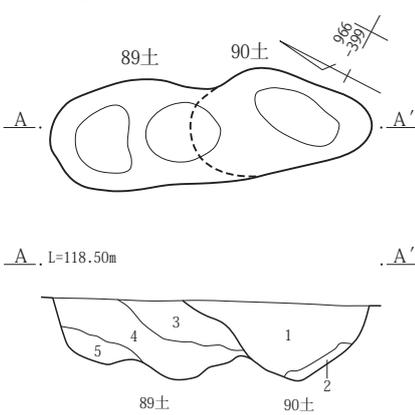
88号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮りあり。
2. 明黄褐色土(10YR6/8) ローム主体。にぶい黄褐色土を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量に含む。

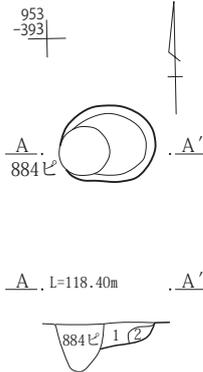
91号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊・黒褐色土を少量含む。
2. 黄橙色土(10YR7/8) ローム塊を多量、黒褐色土を少量含む。
3. にぶい黄橙色土(10YR7/3) ローム主体。黒褐色土塊を少量含む。

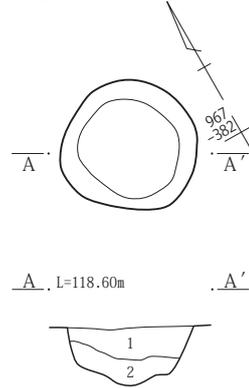
89・90号土坑



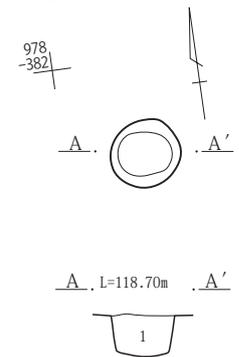
92号土坑



93号土坑



94号土坑



89・90号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊・黒褐色土を少量含む。
2. にぶい黄橙色土(10YR7/3) ローム主体。黒褐色土を少量含む。
3. 黄橙色土(10YR7/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。
5. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量、暗褐色土を少量含む。

93号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 暗褐色土・ローム塊を少量含む。
2. 黄褐色土(10YR5/8) ローム塊を多量に含む。

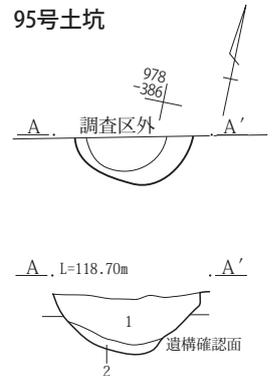
94号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 暗褐色土・ローム塊を少量含む。

92号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊・ローム粒・黒褐色土を少量含む。
2. 黄橙色土(10YR7/8) ローム塊・ローム粒を多量に含む。

95号土坑

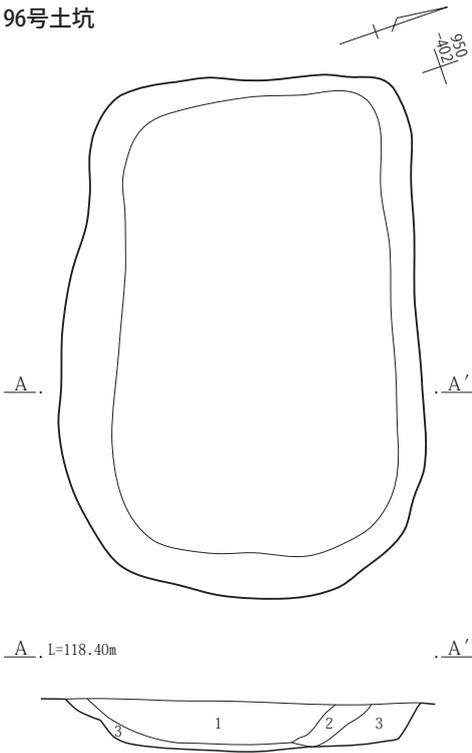


95号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。粘性ややあり。
2. 明黄褐色土(10YR7/6) ローム主体。暗褐色土を少量含む。縮りあり。

0 1:40 1m

96号土坑



96号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石・ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊を多量に含む。粘性ややあり。
3. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊を多量、褐色土を少量含む。縮りあり。

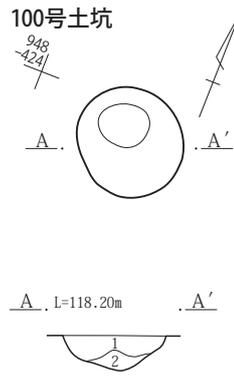
102号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・ローム粒・褐色土を少量含む。

103号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

100号土坑



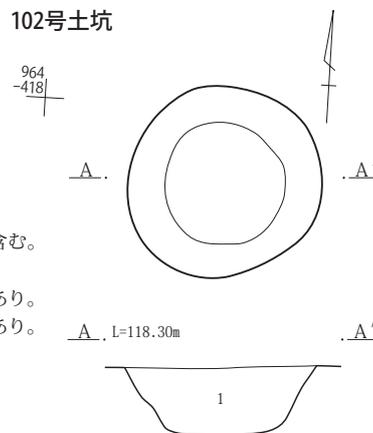
100号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を少量含む。縮りなし。
2. 暗褐色土(10YR3/4) ローム塊・ローム粒を少量含む。縮りなし。

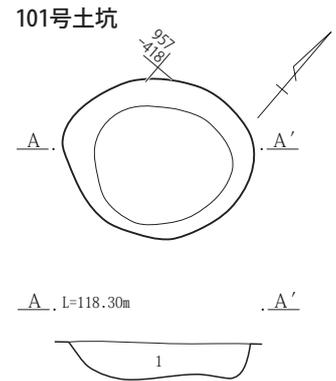
101号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊・ローム粒を多量に含む。縮り弱。

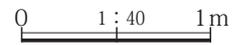
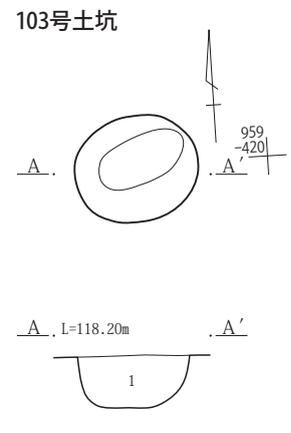
102号土坑



101号土坑



103号土坑



第308図 5区96・100～103号土坑

6. ピット(第29表、付図)

2区北や3区では、建物や柱穴列付近で多く見られる。4区では掘立柱建物周辺を中心に調査区南側に集中している。5区では調査区全体に分布しているが、48号溝の東側に多く見られる。2区北～4区では、掘立柱建物として調査を行ったものもあった。単独のピットとして調査を行ったものは220基を数える。(付図を参照)

平面形状は、ほとんどが円形又は楕円形である。径は20cm～40cmが大半である。確認面からの深さは、50cm以上のももあるが、大半は10cm～40cmである。遺物が出土したピットは6基あり、土師器、須恵器、陶器の小片であった。そのうち、4基のピットから出土した4点の遺物を以下に掲載した。

2区北629号ピット(第309図、第29表)

座標値 X=42,863・42,864 Y=-55,626・-55,627

形状 円形

規模 長軸0.22m 短軸0.21m 深さ0.13m

遺物 埋没土中から土師器杯が出土し、掲載した。

所見 掲載した土師器杯は5世紀後半～6世紀初頭に比定できる。

2区北645号ピット(第309図、第29表)

座標値 X=42,871 Y=-55,619

形状 不明

規模 長軸0.25m 短軸(0.15m) 深さ0.30m

遺物 埋没土中から甕とみられる土師器の小片が出土し、掲載した。

所見 掲載した土器は弥生土器の可能性もある。

3区772号ピット(第310図、第29表)

座標値 X=42,826 Y=-55,610

重複遺構 773号ピットと重複している。

形状 円形

規模 長軸0.28m 短軸0.28m 深さ0.46m

遺物 埋没土中から土師器杯の小片が出土し、掲載した。

所見 掲載した土師器杯は8世紀代のものとみられる。

4区837号ピット(第310図、第29表、PL.125)

座標値 X=42,901 Y=-55,523

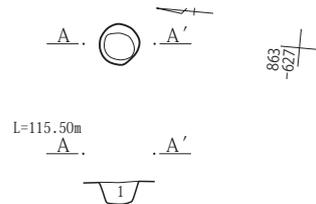
形状 楕円形

規模 長軸0.55m 短軸0.34m 深さ0.47m

遺物 埋没土中から肥前陶器陶胎染付碗が出土し、掲載した。

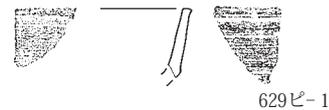
所見 掲載した肥前陶器陶胎染付碗は18世紀中葉～後葉に比定できる。

629号ピット

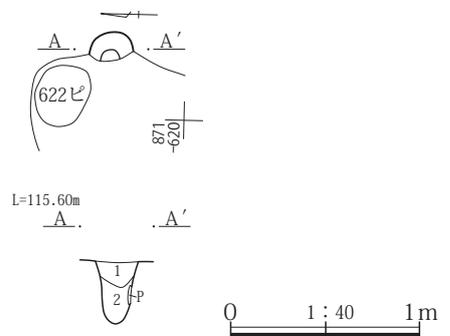


629号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子を含む。黒色土を主体とした土。

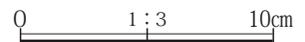
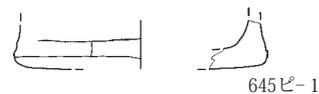


645号ピット



645号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 暗褐色土中に白色粒子と細かなFP粒含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 1層中にφ2cm程度のFP軽石とローム粒を含む。



第309図 2区北629・645号ピット・出土遺物

第3章 調査の成果

第29表 2区北～5区ピット一覧表

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
2北	601号ピット	X=42,881	Y=-55,609	円形	0.25	0.24	0.12
2北	602号ピット	X=42,877	Y=-55,608	円形	0.19	0.19	0.19
2北	603号ピット	X=42,874	Y=-55,608	円形	0.25	0.23	0.23
2北	604号ピット	X=42,876	Y=-55,613	円形	0.21	0.20	0.15
2北	605号ピット	X=42,871	Y=-55,610	円形	0.38	0.38	0.24
2北	606号ピット	X=42,868・42,869	Y=-55,614	円形	0.24	0.25	0.14
2北	607号ピット	X=42,867	Y=-55,613・-55,614	円形	0.21	0.20	0.10
2北	608号ピット	X=42,863	Y=-55,614	円形	0.22	0.20	0.61
2北	609号ピット	X=42,860	Y=-55,615	円形	0.20	0.18	0.24
2北	610号ピット	X=42,860	Y=-55,615	円形	0.20	0.20	0.24
2北	611号ピット	7号柱穴列P7					
2北	612号ピット	X=42,857	Y=-55,615	円形	0.25	0.25	0.23
2北	613号ピット	7号柱穴列P6					
2北	614号ピット	7号柱穴列P4					
2北	615号ピット	7号柱穴列P3					
2北	616号ピット	X=42,863	Y=-55,623	円形	0.18	0.16	0.07
2北	617号ピット	X=42,863	Y=-55,623	楕円形	0.23	0.20	0.15
2北	618号ピット	X=42,863	Y=-55,623・-55,624	円形	0.21	0.20	0.14
2北	619号ピット	X=42,861	Y=-55,622	円形	0.18	0.18	0.28
2北	620号ピット	X=42,869・42,870	Y=-55,617	円形	0.23	0.23	0.20
2北	621号ピット	X=42,872	Y=-55,619	楕円形	0.35	0.23	0.14
2北	622号ピット	X=42,871	Y=-55,619・-55,620	楕円形	0.53	0.28	0.25
2北	623号ピット	X=42,868	Y=-55,617	楕円形	0.25	0.23	0.33
2北	624号ピット	7号柱穴列P5					
2北	625号ピット	X=42,862	Y=-55,620	円形	0.21	0.21	0.18
2北	626号ピット	X=42,860	Y=-55,618・-55,619	楕円形	0.18	0.15	0.09
2北	627号ピット	X=42,859	Y=-55,618	円形	0.15	0.15	0.13
2北	628号ピット	X=42,859	Y=-55,619	円形	0.13	0.13	0.12
2北	629号ピット	X=42,863	Y=-55,626・-55,627	円形	0.22	0.21	0.13
2北	630号ピット	X=42,865・42,866	Y=-55,627	楕円形	0.30	0.25	0.11
2北	631号ピット	X=42,860	Y=-55,618	楕円形	0.25	0.20	0.11
2北	632号ピット	7号柱穴列P2					
2北	633号ピット	7号柱穴列P1					
2北	634号ピット	X=42,877	Y=-55,615	円形	0.25	0.23	0.22
2北	635号ピット	X=42,876	Y=-55,616	円形	0.22	0.21	0.16
2北	636号ピット	X=42,862	Y=-55,629	楕円形	0.28	0.22	0.12
2北	637号ピット	X=42,860	Y=-55,624	円形	0.18	0.18	0.21
2北	638号ピット	X=42,860	Y=-55,626	楕円形	0.42	0.35	0.28
2北	639号ピット	X=42,859	Y=-55,626	円形	0.18	0.16	0.11
2北	640号ピット	X=42,859	Y=-55,627	円形	0.15	0.15	0.15
2北	641号ピット	X=42,858	Y=-55,627	楕円形	0.21	0.18	0.13
2北	642号ピット	X=42,861	Y=-55,633・-55,634	円形	0.28	0.26	0.33
2北	643号ピット	X=42,870	Y=-55,625	不明	0.32	(0.30)	0.39
2北	644号ピット	X=42,870	Y=-55,625	不明	0.32	(0.10)	0.37
2北	645号ピット	X=42,871	Y=-55,619	不明	0.25	(0.15)	0.30
3	646号ピット	X=42,907・42,908	Y=-55,581	円形	0.48	0.48	0.59
3	647号ピット	X=42,906・42,907	Y=-55,578	円形	0.44	0.43	0.39
3	648号ピット	X=42,906	Y=-55,578	楕円形	0.37	0.32	0.26
3	649号ピット	7号柱穴列P31					
3	650号ピット	7号柱穴列P30					
3	651号ピット	X=42,904	Y=-55,570・-55,571	楕円形	0.46	0.35	0.23
3	652号ピット	X=42,904	Y=-55,570	楕円形	0.30	0.25	0.17
3	653号ピット	X=42,903	Y=-55,570	楕円形	0.45	0.30	0.22
3	654号ピット	7号柱穴列P28					
3	655号ピット	X=42,898	Y=-55,572	円形	0.42	0.40	0.37
3	656号ピット	X=42,897	Y=-55,586・-55,587	楕円形	0.60	0.40	0.22
3	657号ピット	X=42,897	Y=-55,584・-55,585	楕円形?	(0.40)	0.30	0.22
3	658号ピット	X=42,897	Y=-55,584	楕円形	(0.34)	0.18	0.22
3	659号ピット	X=42,893・42,894	Y=-55,583・-55,584	楕円形	0.50	0.48	0.45
3	660号ピット	X=42,894	Y=-55,582	楕円形	0.31	0.24	0.11
3	661号ピット	X=42,893	Y=-55,581・-55,582	楕円形	0.35	0.27	0.17
3	662号ピット	X=42,892・42,893	Y=-55,583	円形	0.50	0.48	0.50
3	663号ピット	X=42,890・42,891	Y=-55,581	楕円形	0.25	0.20	0.21
3	664号ピット	X=42,888・42,889	Y=-55,583	楕円形	0.48	0.43	0.20
3	665号ピット	X=42,893・42,894	Y=-55,586	楕円形	0.40	0.28	0.16
3	666号ピット	X=42,887	Y=-55,587・-55,588	楕円形	0.80	0.35	0.53
3	667号ピット	X=42,893	Y=-55,575	楕円形	0.25	0.22	0.18

第4節 2区北～5区の遺構と遺物

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
3	668号ビット	7号柱穴列P24					
3	669号ビット	X=42,889	Y=-55,574	楕円形	0.40	0.25	0.28
3	670号ビット	X=42,888	Y=-55,575	楕円形	0.40	0.22	0.19
3	671号ビット	X=42,886	Y=-55,753・-55,754	円形	0.35	0.35	0.21
3	672号ビット	X=42,885	Y=-55,753・-55,754	楕円形	0.35	0.26	0.26
3	673号ビット	X=42,909	Y=-55,759・-55,580	楕円形	0.64	0.50	0.22
3	674号ビット	X=42,902	Y=-55,558	楕円形	0.27	0.24	0.40
3	675号ビット	X=42,902	Y=-55,557・-55,558	楕円形	0.65	0.55	0.26
3	676号ビット	X=42,899	Y=-55,562	円形	0.40	0.40	0.24
3	677号ビット	X=42,896	Y=-55,561	円形	0.43	0.43	0.41
3	678号ビット	X=42,896	Y=-55,560	楕円形	0.35	0.25	0.33
3	679号ビット	X=42,872	Y=-55,576・-55,577	円形	0.25	0.25	0.24
3	680号ビット	X=42,871	Y=-55,580	楕円形	0.40	0.30	0.41
3	681号ビット	X=42,867	Y=-55,578・-55,579	楕円形	0.24	0.20	0.13
3	682号ビット	X=42,866・42,867	Y=-55,577	楕円形	0.30	0.25	0.21
3	683号ビット	X=42,860・42,861	Y=-55,574	楕円形	0.23	0.21	0.28
3	684号ビット	X=42,851・42,852	Y=-55,580	円形	0.20	0.19	0.37
3	685号ビット	X=42,848	Y=-55,577	楕円形	0.34	0.21	0.22
3	686号ビット	X=42,857	Y=-55,585	円形	0.30	0.29	0.22
3	687号ビット	X=42,854	Y=-55,589・-55,590	円形	0.50	0.46	0.18
3	688号ビット	X=42,843	Y=-55,594	楕円形	0.50	0.30	0.17
3	689号ビット	X=42,837	Y=-55,590	円形	0.23	0.21	0.24
3	690号ビット	X=42,835	Y=-55,593	楕円形	0.25	0.20	0.26
3	691号ビット	X=42,872	Y=-55,585・-55,586	隅丸方形	0.40	0.38	0.24
3	692号ビット	X=42,898	Y=-55,559	楕円形	0.45	0.38	0.33
3	693号ビット	X=42,865・42,866	Y=-55,578	楕円形	0.27	0.20	0.12
3	694号ビット	X=42,864	Y=-55,572	円形	0.19	0.18	0.18
3	695号ビット	X=42,899	Y=-55,565	円形	0.33	0.32	0.34
3	696号ビット	X=42,898	Y=-55,562・-55,563	円形	0.34	0.31	0.22
3	697号ビット	X=42,893	Y=-55,571・-55,572	楕円形	0.50	0.30	0.23
3	698号ビット	X=42,891	Y=-55,573	楕円形	0.23	0.18	0.10
3	699号ビット	X=42,888・42,889	Y=-55,752	隅丸方形	0.50	0.44	0.29
3	700号ビット	X=42,884	Y=-55,570	楕円形	0.33	0.25	0.19
3	701号ビット	X=42,883	Y=-55,569	円形	0.32	0.32	0.17
3	702号ビット	X=42,875	Y=-55,550	楕円形	0.35	0.30	0.26
3	703号ビット	X=42,903	Y=-55,560・-55,561	隅丸長方形	0.58	0.38	0.50
3	704号ビット	X=42,891	Y=-55,570	楕円形?	0.30	(0.25)	0.32
3	705号ビット	X=42,891	Y=-55,570	楕円形	(0.20)	0.20	0.32
3	706号ビット	X=42,883	Y=-55,585・-55,586	楕円形	0.28	0.25	0.58
3	707号ビット	X=42,880	Y=-55,588・-55,589	楕円形	0.60	0.49	0.38
3	708号ビット	X=42,877	Y=-55,590	円形	0.43	0.40	0.24
3	709号ビット	X=42,877・42,878	Y=-55,590	円形	0.35	0.34	0.25
3	710号ビット	X=42,875	Y=-55,593	楕円形	0.73	0.65	0.13
3	711号ビット	X=42,874・42,875	Y=-55,592	楕円形	0.28	0.24	0.25
3	712号ビット	X=42,880	Y=-55,588	楕円形	0.39	0.35	0.19
3	713号ビット	X=42,872・42,873	Y=-55,592	円形	0.44	0.44	0.68
3	714号ビット	X=42,879	Y=-55,588	楕円形	0.37	0.30	0.27
3	715号ビット	X=42,873・42,874	Y=-55,587・-55,588	楕円形	0.45	0.30	0.76
3	716号ビット	19掘立P7					
3	717号ビット	19掘立P6					
3	718号ビット	19掘立P5					
3	719号ビット	19掘立P4					
3	720号ビット	19掘立P3					
3	721号ビット	19掘立P2					
3	722号ビット	7号柱穴列P17					
3	723号ビット	19掘立P32					
3	724号ビット	19掘立P15					
3	725号ビット	19掘立P30					
3	726号ビット	欠番					
3	727号ビット	19掘立P29					
3	728号ビット	19掘立P14					
3	729号ビット	19掘立P28					
3	730号ビット	19掘立P27					
3	731号ビット	19掘立P13					
3	732号ビット	19掘立P25					
3	733号ビット	19掘立P26					
3	734号ビット	19掘立P24					
3	735号ビット	19掘立P12					

第3章 調査の成果

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
3	736号ビット	19掘立P23					
3	737号ビット	19掘立P22					
3	738号ビット	19掘立P11					
3	739号ビット	19掘立P21					
3	740号ビット	19掘立P20					
3	741号ビット	19掘立P10					
3	742号ビット	19掘立P19					
3	743号ビット	19掘立P18					
3	744号ビット	19掘立P9					
3	745号ビット	19掘立P17					
3	746号ビット	19掘立P16					
3	747号ビット	19掘立P8					
3	748号ビット	19掘立P40					
3	749号ビット	19掘立P39					
3	750号ビット	19掘立P38					
3	751号ビット	19掘立P37					
3	752号ビット	19掘立P36					
3	753号ビット	19掘立P35					
3	754号ビット	19掘立P34					
3	755号ビット	19掘立P33					
3	756号ビット	7号柱穴列P8					
3	757号ビット	7号柱穴列P9					
3	758号ビット	X=42,853	Y=-55,604	円形	0.25	0.25	0.28
3	759号ビット	7号柱穴列P10					
3	760号ビット	X=42,856	Y=-55,601	円形	0.30	0.26	0.24
3	761号ビット	7号柱穴列P11					
3	762号ビット	7号柱穴列P20					
3	763号ビット	7号柱穴列P16					
3	764号ビット	7号柱穴列P15					
3	765号ビット	7号柱穴列P14					
3	766号ビット	19掘立P1					
3	767号ビット	X=42,862	Y=-55,594・-55,595	円形	0.38	0.38	0.39
3	768号ビット	7号柱穴列P13					
3	769号ビット	X=42,831	Y=-55,608	円形	0.29	0.26	0.15
3	770号ビット	X=42,831	Y=-55,608	円形	0.21	0.20	0.48
3	771号ビット	X=42,825・42,826	Y=-55,609・-55,610	円形	0.35	0.33	0.25
3	772号ビット	X=42,826	Y=-55,610	円形?	0.28	0.28	0.46
3	773号ビット	X=42,826	Y=-55,610	楕円形?	0.33	0.29	0.59
3	774号ビット	X=42,824	Y=-55,612・-55,613	円形	0.27	0.26	0.63
3	775号ビット	X=42,821	Y=-55,613・-55,614	円形	0.20	0.19	0.23
3	776号ビット	X=42,819	Y=-55,614	不整形	0.30	0.28	0.25
3	777号ビット	X=42,829	Y=-55,611	楕円形	0.30	0.25	0.28
3	778号ビット	7号柱穴列P19					
3	779号ビット	7号柱穴列P18					
3	780号ビット	X=42,839・42,840	Y=-55,609	円形	0.32	0.32	0.18
3	781号ビット	7号柱穴列P32					
3	782号ビット	7号柱穴列P29					
3	783号ビット	7号柱穴列P27					
3	784号ビット	7号柱穴列P26					
3	785号ビット	7号柱穴列P25					
3	786号ビット	7号柱穴列P23					
3	787号ビット	X=42,889	Y=-55,575		0.29	0.24	0.27
3	788号ビット	7号柱穴列P22					
3	789号ビット	X=42,896	Y=-55,577	楕円形	0.30	0.23	0.27
3	790号ビット	X=42,904	Y=-55,570	円形	0.20	0.20	0.10
3	791号ビット	X=42,904	Y=-55,570	楕円形	0.18	0.16	0.06
3	792号ビット	7号柱穴列P12					
3	793号ビット	X=42,850	Y=-55,604	円形	0.29	0.28	0.29
3	794号ビット	X=42,821	Y=-55,613	楕円形	0.30	0.26	0.49
3	795号ビット	X=42,887	Y=-55,540・-55,541	楕円形	0.43	0.36	0.38
3	796号ビット	X=42,889	Y=-55,537	円形	0.18	0.18	0.21
3	797号ビット	X=42,888	Y=-55,537・-55,538	楕円形	0.22	0.20	0.22
3	798号ビット	X=42,888	Y=-55,537	円形	0.18	0.18	0.20
3	799号ビット	X=42,894	Y=-55,573	楕円形	0.47	0.31	0.09
3	800号ビット	X=42,888	Y=-55,574	楕円形	0.54	0.25	0.15
3	801号ビット	7号柱穴列P21					
3	802号ビット	X=42,852	Y=-55,596	円形	0.27	0.25	0.08
3	803号ビット	X=42,832	Y=-55,596	円形	0.33	0.31	0.23

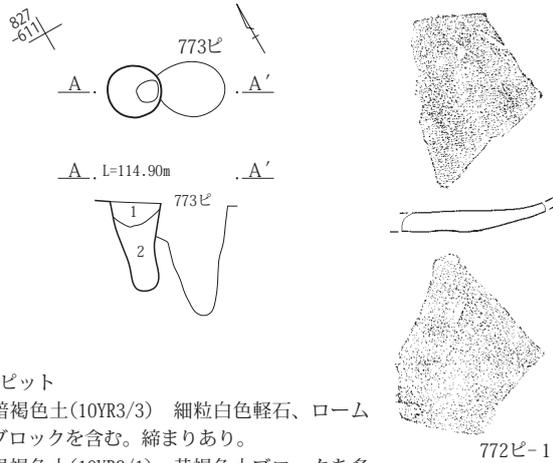
第4節 2区北～5区の遺構と遺物

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
3	804号ビット	X=42,872	Y=-55,587	隅丸方形	0.35	0.33	0.33
3	805号ビット	X=42,877	Y=-55,587	円形	0.30	0.28	0.25
3	806号ビット	X=42,831・42,832	Y=-55,597	楕円形	0.28	0.20	0.58
3	807号ビット	X=42,879	Y=-55,588	楕円形	0.23	0.18	0.13
3	808号ビット	X=42,879・42,879	Y=-55,587・-55,588	楕円形	0.40	0.35	0.24
3	809号ビット	X=42,851	Y=-55,599	楕円形	0.32	0.26	0.48
3	810号ビット	X=42,834	Y=-55,596	楕円形	0.35	0.30	0.28
3	811号ビット	X=42,845	Y=-55,596	楕円形	0.35	0.25	0.26
3	812号ビット	X=42,856	Y=-55,593・-55,594	楕円形	0.45	0.39	0.33
3	813号ビット	X=42,835・42,836	Y=-55,594	円形	0.35	0.30	0.54
3	814号ビット	19掘立P31					
3	846号ビット	X=42,833	Y=-55,611	円形	0.23	0.23	0.11
3	847号ビット	X=42,829	Y=-55,616	楕円形	0.28	0.18	0.10
3	848号ビット	X=42,828	Y=-55,615	円形	0.24	0.24	0.14
3	849号ビット	X=42,826・42,827	Y=-55,616	円形	0.28	0.28	0.16
3	850号ビット	X=42,826	Y=-55,614	楕円形	0.20	0.16	0.09
3	851号ビット	X=42,818	Y=-55,617	楕円形	0.23	0.18	0.17
3	852号ビット	X=42,816	Y=-55,618	楕円形	0.25	0.20	0.11
3	853号ビット	X=42,815・42,816	Y=-55,620	楕円形	0.37	0.33	0.09
4	598号ビット	X=42,911	Y=-55,555・-55,556	円形	0.22	0.24	0.30
4	599号ビット	X=42,916	Y=-55,542	円形	0.30	0.28	0.32
4	600号ビット	X=42,913	Y=-55,539・-55,540	楕円形	0.33	0.26	0.52
4	815号ビット	20掘立P18					
4	816号ビット	20掘立P10					
4	817号ビット	X=42,905	Y=-55,527	円形	0.36	0.36	0.41
4	818号ビット	20掘立P11					
4	819号ビット	20掘立P12					
4	820号ビット	X=42,904・42,905	Y=-55,529	楕円形	0.53	0.43	0.58
4	821号ビット	20掘立P9					
4	822号ビット	20掘立P8					
4	823号ビット	X=42,901	Y=-55,527・-55,528	楕円形	0.52	0.48	0.45
4	824号ビット	20掘立P3					
4	825号ビット	X=42,900	Y=-55,529	楕円形	0.27	0.25	0.48
4	826号ビット	20掘立P13					
4	827号ビット	20掘立P7					
4	828号ビット	X=42,898・42,899	Y=-55,527・-55,528	楕円形	0.25	0.20	0.14
4	829号ビット	X=42,898・42,899	Y=-55,527	円形	0.24	0.23	0.24
4	830号ビット	20掘立P4					
4	831号ビット	20掘立P14					
4	832号ビット	X=42,899	Y=-55,528	楕円形	0.36	0.32	0.31
4	833号ビット	X=42,898	Y=-55,527・-55,528	楕円形	0.35	0.25	0.76
4	834号ビット	X=42,906	Y=-55,523	円形	0.26	0.26	0.23
4	835号ビット	X=42,902	Y=-55,523	円形	0.24	0.24	0.16
4	836号ビット	X=42,901・42,902	Y=-55,522	楕円形	0.58	0.35	0.29
4	837号ビット	X=42,901	Y=-55,523	楕円形	0.55	0.34	0.47
4	838号ビット	X=42,900	Y=-55,523	円形	0.20	0.20	0.17
4	839号ビット	X=42,900	Y=-55,522・-55,523	不明	0.45	0.25	0.32
4	840号ビット	X=42,899	Y=-55,523	楕円形	0.35	0.30	0.36
4	841号ビット	20掘立P1					
4	842号ビット	20掘立P2					
4	843号ビット	20掘立P5					
4	844号ビット	X=42,903	Y=-55,527・-55,528	円形	0.55	0.53	0.57
4	845号ビット	X=42,901	Y=-55,528	楕円形	0.40	0.36	0.53
4	854号ビット	20掘立P6					
4	855号ビット	X=42,901	Y=-55,528	隅丸方形	0.38	0.34	0.45
4	856号ビット	X=42,905・42,906	Y=-55,538	円形	0.50	0.50	0.41
4	857号ビット	X=42,905・42,906	Y=-55,536	楕円形	0.40	0.30	0.28
4	858号ビット	X=42,905	Y=-55,536	楕円形	0.48	0.39	0.40
4	859号ビット	X=42,907	Y=-55,539	円形	0.35	0.35	0.29
4	860号ビット	X=42,903	Y=-55,539	楕円形	0.43	0.35	0.22
4	861号ビット	X=42,903	Y=-55,500	楕円形	0.53	0.38	0.21
4	862号ビット	X=42,904・42,905	Y=-55,498	楕円形	0.35	0.28	0.20
4	863号ビット	X=42,903・42,904	Y=-55,498	円形	0.50	0.50	0.22
4	864号ビット	X=42,902・42,903	Y=-55,497	円形	0.55	0.50	0.34
4	865号ビット	X=42,903	Y=-55,493	不明	(0.60)	(0.34)	0.19
4	866号ビット	X=42,902・42,903	Y=-55,499	楕円形	0.42	0.36	0.35
4	867号ビット	X=42,903	Y=-55,493	楕円形	0.52	0.45	0.27
4	868号ビット	X=42,895	Y=-55,522	楕円形	0.64	0.45	0.15

第3章 調査の成果

区	遺構名	座標値		平面形状	規模 (m)		
					長軸	短軸	深さ
4	869号ビット	X=42,912	Y=-55,482	楕円形	0.29	0.26	0.39
4	870号ビット	X=42,898	Y=-55,518・-55,519	楕円形	0.41	0.30	0.49
4	887号ビット	X=42,927・42,928	Y=-55,478	楕円形	0.40	0.30	0.15
4	888号ビット	X=42,924	Y=-55,491	円形	0.22	0.21	0.30
4	889号ビット	X=42,923	Y=-55,490・-55,491	楕円形	0.25	0.20	0.45
4	890号ビット	X=42,921	Y=-55,492	楕円形	0.25	0.18	0.20
4	891号ビット	X=42,923	Y=-55,493	円形	0.16	0.16	0.39
4	892号ビット	X=42,923	Y=-55,492	円形	0.20	0.18	0.23
4	893号ビット	X=42,899~42,901	Y=-55,533・-55,534	楕円形	1.70	0.77	0.65
4	894号ビット	20掘立P15					
4	895号ビット	X=42,899	Y=-55,532・-55,531	円形か	0.30	(0.25)	0.18
4	896号ビット	X=42,899	Y=-55,531	不明	0.32	(0.20)	0.20
4	897号ビット	20掘立P16					
4	898号ビット	X=42,899・42,900	Y=-55,532・-55,533	円形	0.50	0.45	0.61
4	899号ビット	X=42,904	Y=-55,530	円形	0.45	0.45	0.51
4	900号ビット	X=42,904・42,905	Y=-55,531	楕円形	0.55	0.47	0.50
4	901号ビット	X=42,905	Y=-55,531	楕円形	0.66	0.58	0.50
4	902号ビット	20掘立P17					
4	903号ビット	X=42,905	Y=-55,534	円形	0.36	0.35	0.28
4	904号ビット	X=42,905	Y=-55,530	円形	0.25	0.21	0.22
5	871号ビット	X=42,953	Y=-55,385	楕円形	0.51	0.42	0.15
5	872号ビット	X=42,947	Y=-55,373	円形	0.23	0.22	0.36
5	873号ビット	X=42,948	Y=-55,373	円形	0.31	0.29	0.31
5	874号ビット	X=42,950	Y=-55,373	円形か	0.25	(0.20)	0.14
5	875号ビット	X=42,948	Y=-55,368・-55,369	楕円形	0.38	0.35	0.60
5	876号ビット	X=42,969	Y=-55,380	円形	0.43	0.41	0.40
5	877号ビット	X=42,958	Y=-55,370・-55,371	円形	0.25	0.25	0.25
5	878号ビット	X=42,859	Y=-55,371・-55,372	円形	0.40	0.36	0.10
5	879号ビット	X=42,979	Y=-55,369	円形	0.35	0.35	0.21
5	880号ビット	X=42,947	Y=-55,372	楕円形	0.25	0.21	0.37
5	881号ビット	X=42,947	Y=-55,372	円形	0.25	0.25	0.31
5	882号ビット	X=42,963	Y=-55,388	円形	0.42	0.40	0.26
5	883号ビット	X=42,966	Y=-55,399	円形	0.28	0.26	0.13
5	884号ビット	X=42,952	Y=-55,392	円形	0.26	0.25	0.25
5	885号ビット	X=42,964	Y=-55,398・-55,399	楕円形	0.38	0.34	0.20
5	886号ビット	X=42,967・42,968	Y=-55,397	円形	0.55	0.55	0.28
5	905号ビット	X=42,941・42,942	Y=-55,420・-55,421	楕円形	0.54	0.41	0.29
5	906号ビット	X=42,948	Y=-55,420	円形	0.35	0.35	0.16
5	907号ビット	X=42,948	Y=-55,406	楕円形	0.68	0.61	0.42
5	908号ビット	X=42,955	Y=-55,405・-55,406	円形	0.52	0.50	0.38
5	909号ビット	X=42,969	Y=-55,409	楕円形	0.50	0.35	0.25
5	910号ビット	X=42,957	Y=-55,433	円形	0.50	0.48	0.38

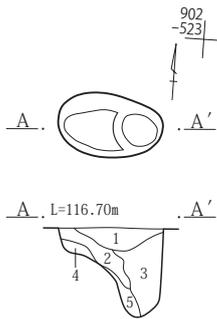
772号ピット



772号ピット

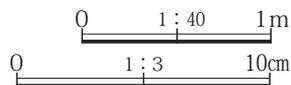
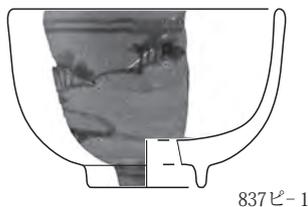
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 細粒白色軽石、ロームブロックを含む。縮まりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/1) 黄褐色土ブロックを多量に含む。粘質土。

837号ピット



837号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を含む。しまり弱い。
- 2 褐色土(10YR4/4) ロームを突き固めている。黒色土ブロックを少し含む。
- 3 にぶい褐色土(10YR4/3) 黒色土とロームブロックを含む。黒色土の割合が多く固くしまっている。
- 4 褐色土(10YR4/4) ローム粒を多く含む。しまり弱い。1層に似るがφ1cm程度のロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 1層に似るが固い黒色土ブロックを含む。



第310図 3区772号ピット・4区837号ピット・出土遺物

7. 遺構外の遺物

2区北～5区で遺構に伴わない形で出土した遺物は、土器類、石製品である。以下、その一部を各区について種別ごとに記載する。

(1) 2区北(第311図、PL.125)

①土器類

古墳時代の土器として1：土師器高杯の1点を図示した。

(2) 3区(第311図、PL.125)

①土器類

縄文時代の土器として1・2の2点を図示した。

共に器種は深鉢である。型式は、1：黒浜式、2：後期後葉である。

古墳時代～平安時代の土器として3～5の3点を図示した。3：須恵器壺、4：同把手、5：椀形とみられる手捏ね土器である。

②石製品

図示した石製品は、6：器種不明の石製品である。

(3) 4区(第311図、PL.125)

①土器類

縄文時代の土器として1～5の5点を図示した。

いずれも器種は深鉢である。型式は、1～3：黒浜式、4：諸磯a式、5：諸磯b式である。

近世の土器として6：在地系土器焙烙を図示した。

(4) 5区(第311図、PL.125)

①土器類

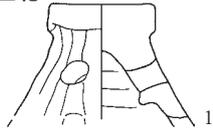
縄文時代の土器として1～3の3点を図示した。

いずれも器種は深鉢である。型式は、1・2：黒浜式、3：後期後半である。

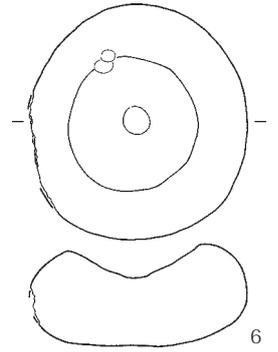
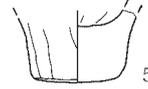
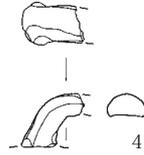
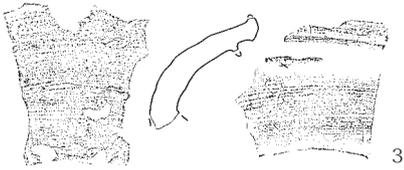
②石製品

図示した石製品は、4：凹石である。

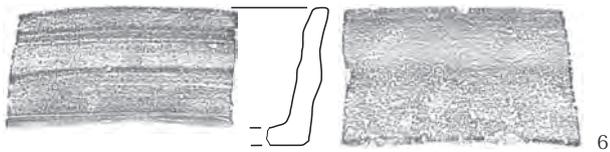
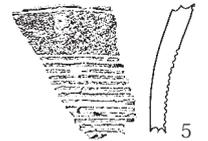
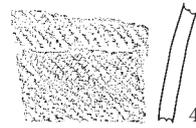
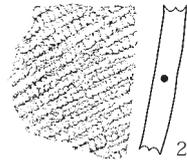
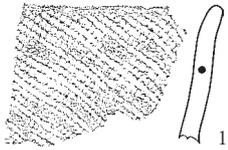
2区北



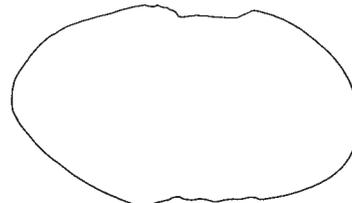
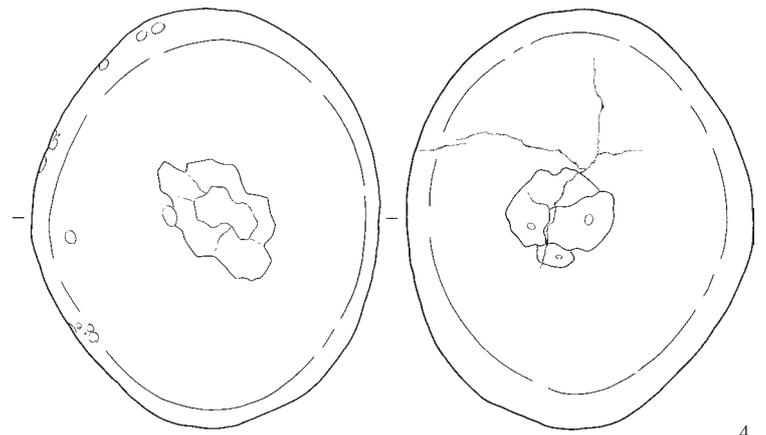
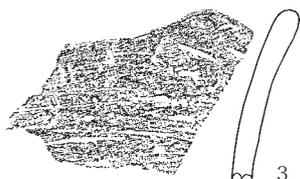
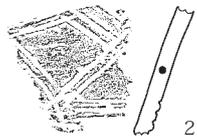
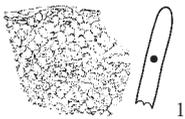
3区



4区



5区



0 1:3 10cm

第311図 2区北・3区・4区・5区遺構外出土遺物

## 第5節 旧石器時代の調査

### 1. 遺跡の概要

#### (1) 遺跡の位置(第312・313図)

本遺跡は、群馬県伊勢崎市赤堀今井町に所在する。1区を中心付近で、東経139度12分47秒、北緯36度23分4秒、標高約115mである。

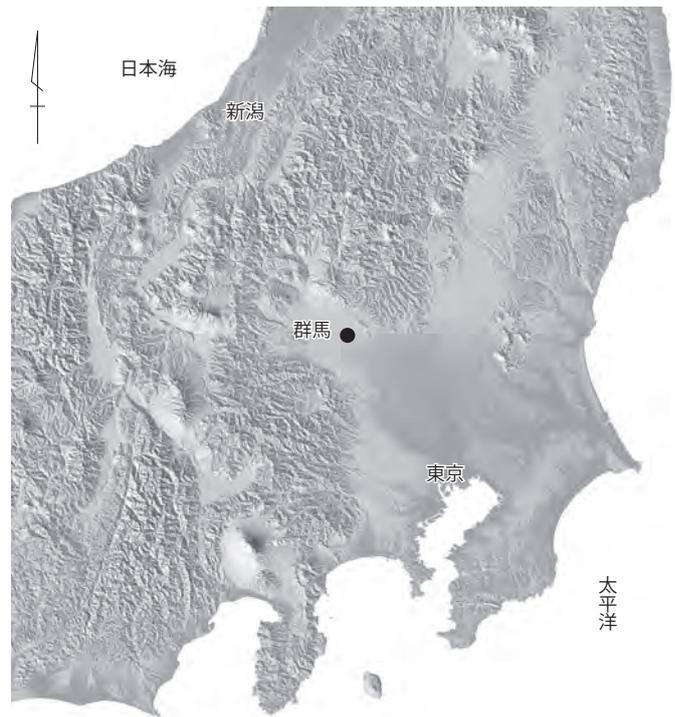
#### (2) 遺跡の立地地形(第313・314図)

本遺跡は、関東平野の北西末端部と赤城山南麓の末端部の境界付近に位置し、多田山(以下、多田山丘陵という。)の東側に形成された平坦なローム台地に立地する。このローム台地は、東側を南流する浅い谷地と西側の多田山丘陵の裾部を南流する谷地に挟まれた南北方向に細長く伸びた平坦な低位のローム台地である。東西の幅は2区付近でおよそ250mである。南側には同一のローム台地に柳田遺跡が立地し、東側には同じく今井北原遺跡が立地し、旧石器時代の遺跡(以下、旧石器遺跡という。)が検出されている。

現在、遺跡周辺の土地は、ローム台地も谷地も圃場整備により整然と区画された平坦な畑地や水田、住宅地になっているが、かつては起伏に富んだ地形であった。

また、赤城山南麓地域には、更新世の赤城山山体崩壊に伴い形成された流れ山が平野部に突き出た独立丘陵としていくつも点在している。本遺跡周辺には、多田山のほか石山、峯岸山、洞山などがある。流れ山は、2mを超えるような巨石を含む大小さまざまな大きさの角礫で構成された礫層を基盤層とし、基盤層の上位にはローム層が堆積している。ただし、ロームが侵食され巨石が露出した流れ山もあり、例えば流れ山の上に建立された石山観音(伊勢崎市)や産泰神社(前橋市)では、露出した巨石が磐座として古くから信仰を集めている。

本遺跡の西側約300mには流れ山の一つである多田山丘陵が位置している。多田山丘陵は、長さ(南北)約2000m、幅(東西)約700mの南北に長く伸びた流れ山で、この付近では最大級の規模を誇る。標高は159.2mで、本遺跡(標高約115m)との比高は約45mである。山頂部付近を境界として西側の前橋市と東側の伊勢崎市(旧佐波郡赤堀町)に跨る。多田山丘陵には多くの古墳があり、



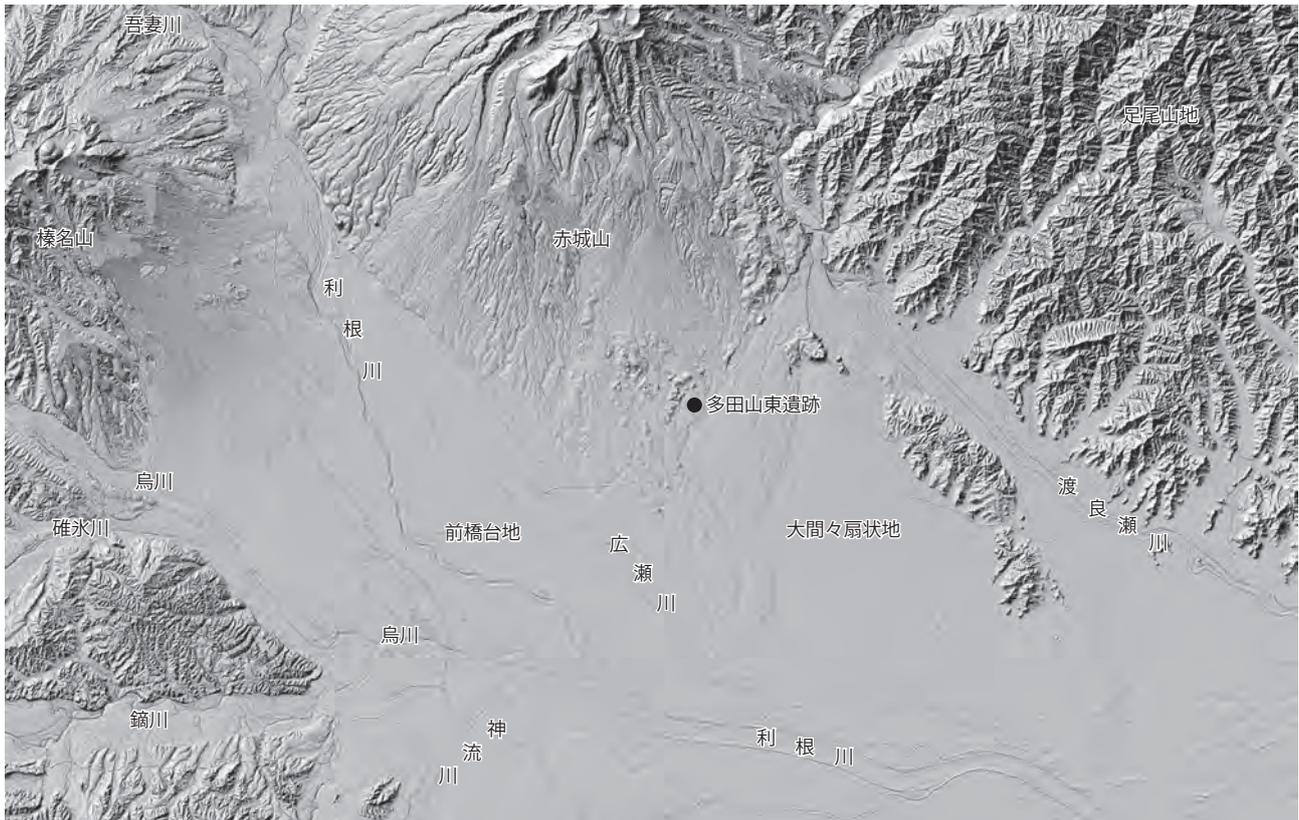
第312図 遺跡位置図(● 国土地理院地図をもとに作成)

北側頂上部付近には、学史上著名な赤堀茶白山古墳が位置している。

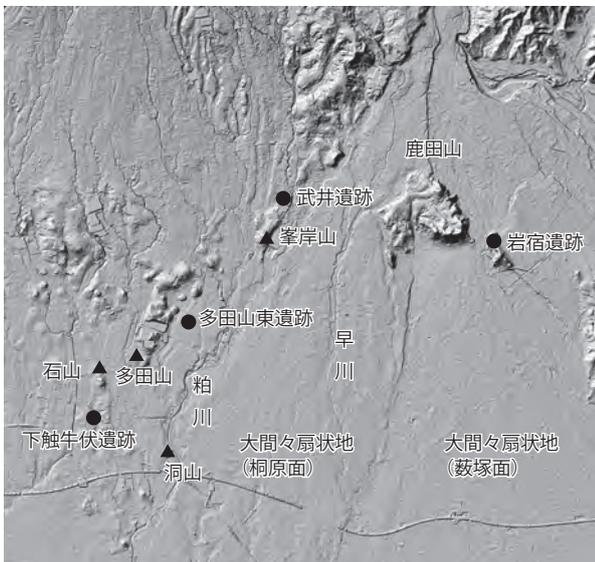
多田山丘陵は関東平野北西部の平坦地に突き出た独立丘陵で、周囲を360°見渡すことができ遠方からも望むことができるランドマークでもある。南側から東側には広大な関東平野、北側から西側には雄大な裾野が広がる赤城山、西側には榛名山、妙義山、荒船山、浅間山を遠くに望むことができる。さらに、はるか遠方には群馬県域を囲むように聳える足尾山地、越後山脈、関東山地などの山岳部を望むことができる。これらの山岳部は群馬と栃木・福島・新潟・長野県境で、太平洋側地域と日本海側地域、中部高地を画する分水嶺となっている。

多田山丘陵は丘陵全体が遺跡で、県道前橋今井線を挟んで北側に今井三騎堂遺跡、南側に今井見切塚遺跡が立地し、1990年代後半から2000年代初頭にかけて造成工事に伴い当事業団が発掘を行った。広大な面積を発掘した結果、旧石器時代から中近世の遺跡が多数検出され、特に丘陵全体を覆う大規模かつ濃密な遺物分布の旧石器遺跡、唐三彩陶枕が発見された多田山12号墳をはじめとする多田山古墳群の調査で大きな成果を上げた。

現在、多田山丘陵は南半部一帯が大規模に削平されて産業団地となり、大型の建物や太陽光パネルが林立し、



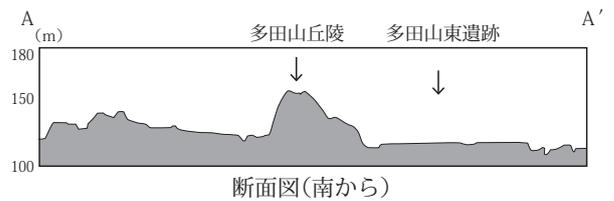
第313図 遺跡位置(●)と関東平野北西部の地形図(国土地理院地図(陰影起伏図)をもとに作成)



主な旧石器遺跡(●)と流れ山(▲)

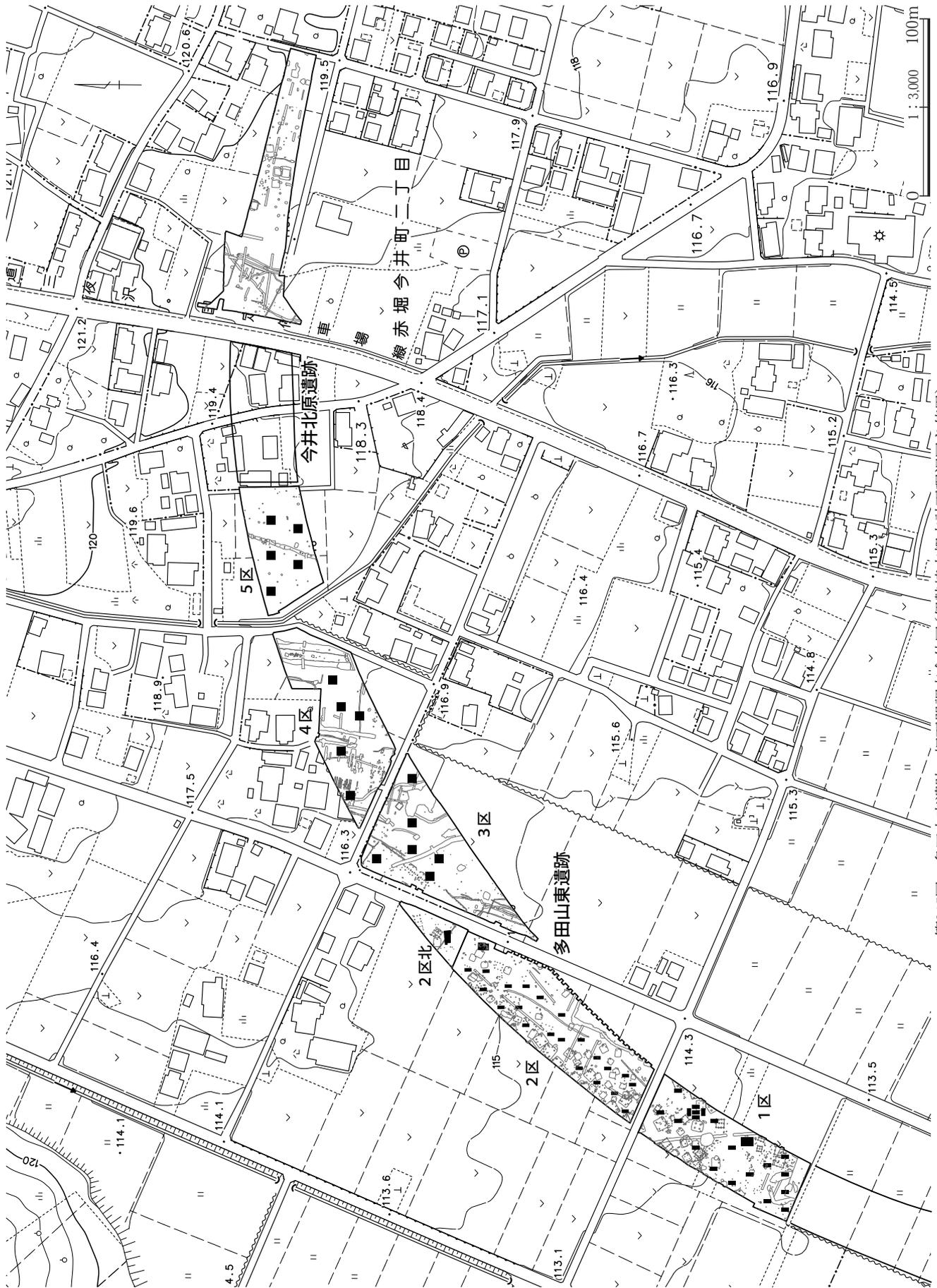


周辺遺跡



断面図(南から)

第314図 多田山東遺跡周辺地形図(国土地理院地図(陰影起伏図)をもとに作成、断面図は高さを10倍)



第315図 多田山東遺跡 旧石器調査全体図(伊勢崎市都市計画現況図を使用)

本来の丘陵地形や植生は失われ景観は一変した。赤堀茶臼山古墳が立地している北側部分がかろうじて残っている程度となり、かつての多田山丘陵の面影を偲ぶことは難しくなった。

## 2. 旧石器調査の概要

### (1)旧石器確認調査の方法(第315図)

縄文時代以降の調査終了後、旧石器遺跡の有無を確認するための旧石器確認調査を行った。

本遺跡は、群馬県内で最も旧石器遺跡が多く分布する赤城山南麓地域に位置し、しかも多数の文化層が検出された今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡がある多田山丘陵の東側に隣接するローム台地上に立地するため、旧石器遺跡が検出される可能性が高いことが予測された。そこで、綿密に旧石器トレンチを設定して、旧石器確認調査を実施することとした。調査方法は次のとおりである。

旧石器トレンチを1区から5区まで調査範囲全体に網羅的に設定した。旧石器トレンチの規格は2m×4m=8㎡の長方形を基本とし、部分的に5m×5m=25㎡も採用した。掘削方法はすべて人力とした。

掘削土層は、縄文草創期から旧石器時代の遺物包含層に相当する黒ボク土、ローム漸移層、その下位のローム層とした。掘削深度は、暗色帯の下位に堆積するローム層の上部までとした。赤城山南麓地域をはじめ群馬県で旧石器遺跡の発見率が最も高い暗色帯までは必ず完掘させて、旧石器遺跡の有無を判定した。

旧石器確認調査の結果、本遺跡で検出された旧石器遺跡は小規模であることが判明した。このため、旧石器確認調査後の旧石器本調査は遺物出土トレンチ周辺部を拡張して行うこととした。旧石器本調査に関しては別途調査工程を改めて策定する必要はなく、旧石器確認調査の工程内で対応可能と判断し実施した。

### (2)旧石器調査の概要

旧石器調査の概要は次のとおりである。

#### ① 出土遺物(第318・324図)

1区と2区で遺物が出土した。1区では、旧石器8号トレンチでMPとAs-BPGの間のローム層中から黒色安山岩製のナイフ形石器が1点出土した。遺物集中部(以下、ブロックという。)は確認できず単独出土であった。この

ほか、1区1号溝覆土から旧石器時代の石器と考えられる黒曜石製の剥片が1点出土した。

2区では、旧石器19号トレンチで珪質頁岩製の剥片が1点出土した。出土位置は不明であるが、ローム層からの出土が確実であるため、旧石器時代の石器と判定した。

#### ② 遺構

ブロック、礫群、配石、陥し穴、土坑、ピット、炭化物集中、焼土などの遺構は確認できなかった。

### (3)礫集中及び礫密集部について

旧石器調査で礫集中が検出された。1区では、旧石器8号トレンチ、旧石器14号トレンチ、2区では旧石器20号トレンチ・31号トレンチ・34号トレンチ・36号トレンチで検出された。

礫集中は、石器の共伴が確認できなかったものの、旧石器遺跡の礫群と同じような出土状況を示したことから、発掘段階では人為的な遺構か自然地形の痕跡かの判定が困難であった。このため、一旦人為的な遺構として調査し、その後の整理作業で詳細に検討してから判定し報告することにした。

#### ① 礫集中・礫密集部の定義

旧石器調査で検出された礫のまとまりを礫集中とした。また、礫集中のなかでも特に狭い範囲に密集した礫のまとまりを礫密集部とし礫集中とは区別した。礫集中及び礫密集部については、発掘段階では礫群と呼称して調査したが、本報告では人為的な遺構としての礫群と明確に区別するために、礫群ではなく礫集中、礫密集部と呼称することにした。

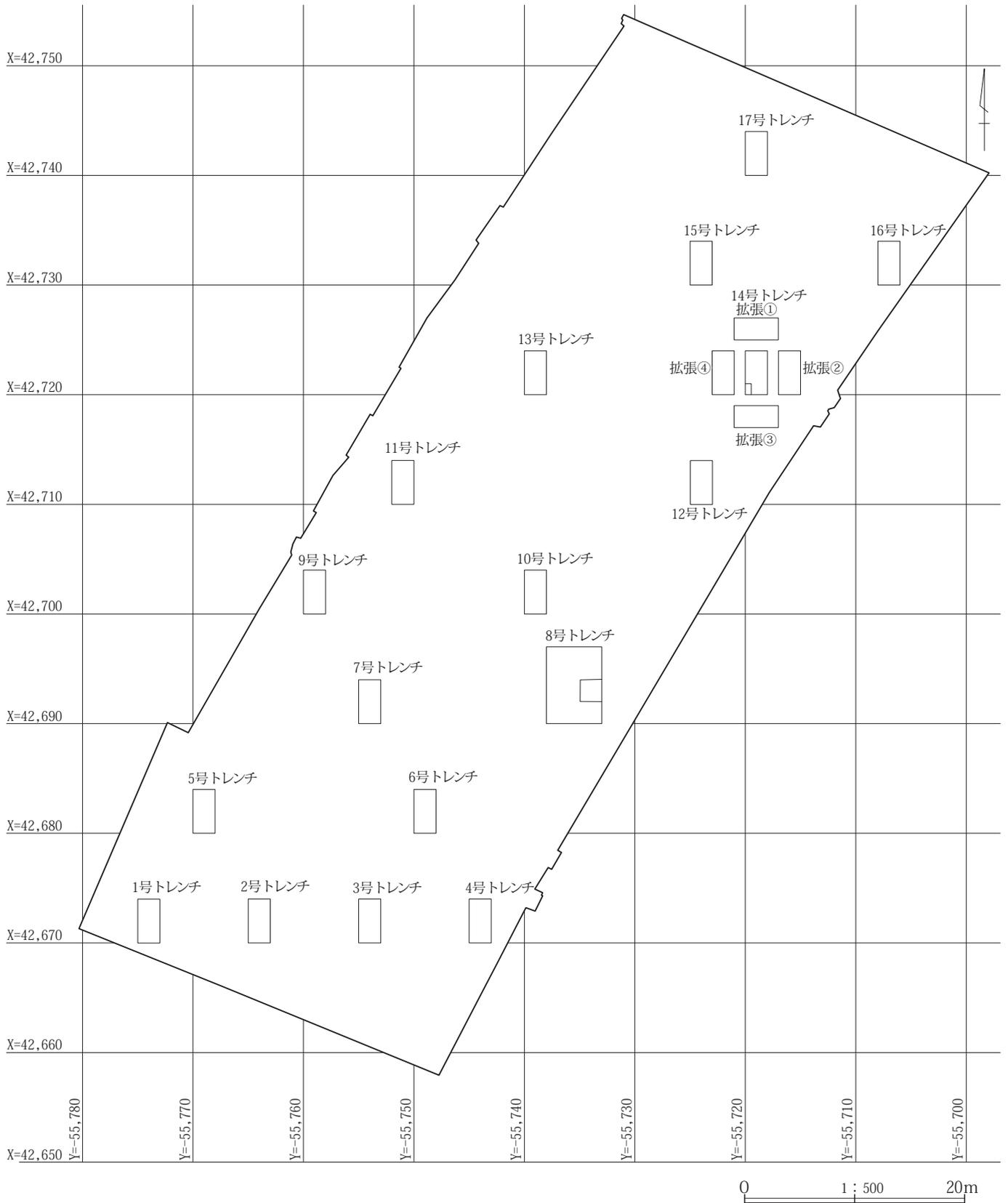
#### ② 礫集中の出土状況

石器が共伴した礫集中は確認できなかった。礫の分布は、数点程度の礫が点在したもの、多数の礫がまとまったもの、多数の礫が狭い範囲に密集したものが見られた。また、礫集中はどの旧石器トレンチでも検出されたわけではなく、一つの調査区内でも検出された場所とされなかった場所が確認された。

#### ③ 礫集中の出土層位

暗色帯の上部で多く、上層のローム層(ハードローム)になるに従いほとんどなくなる傾向が認められた。垂直分布はほぼ同じで、著しい高低差は認められなかった。

#### ④ 礫集中の形成時期



第316図 1区旧石器トレンチ全体図

出土層位からみて、AT下位の暗色帯の堆積期と推定される。この時期は群馬旧石器編年Ⅰ期・Ⅱ期に相当し、赤城山南麓地域に旧石器遺跡が多数残された時期である。

#### ⑤ 礫の供給源

礫集中が検出された旧石器トレンチの暗色帯の下位、あるいは上位に礫の供給源となる礫層は確認できなかった。調査区内にも礫層は確認できなかった。しがたって、礫集中の構成礫の供給源は調査範囲外にあり、そこから自然営為によって移動してきた可能性が高いと推定される。後述するように、その供給源は流れ山の基盤礫層で、西側の多田山丘陵であった可能性が高い。

#### ⑥ 礫集中の判定結果

礫集中について検討した結果、次のように判定した(詳細は各項目を参照)。

1区旧石器8号トレンチ礫集中は、人為的な遺構ではなく、自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。

1区旧石器14号トレンチ拡張部礫集中は、人為的な遺構ではなく、自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。

1区旧石器14号トレンチ礫密集部は、自然地形の痕跡の可能性があると判定したものの、人為的な遺構の可能性も残ると判定した。

2区旧石器20号トレンチ礫集中は、人為的な遺構ではなく、自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。

2区旧石器31号トレンチ・34号トレンチ・36号トレンチは詳細不明であるが、自然地形の痕跡の可能性が推定される。

### 3. 1区の旧石器調査

#### (1) 概要(第316図)

1区では、17箇所の旧石器トレンチを設定して調査した。その結果、旧石器8号トレンチからナイフ形石器が1点出土した。また、旧石器8号トレンチから礫集中、旧石器14号トレンチから礫集中と礫密集部が検出され、拡張して調査した。

このほか、旧石器時代と考えられる黒曜石製の剥片が1号溝覆土から1点出土した。

#### (2) 出土石器(第318図、第33表、PL.126・133)

##### ① ナイフ形石器(第318図1)

縦長剥片を素材にした切出形ナイフ形石器である。左右両側縁の基部に調整加工を施し、右側縁先端部を折断して切出形の刃部を作出している。黒色安山岩製。

旧石器8号トレンチの東壁際から単独で出土した。なお、トレンチ東側を拡張していないため、分布の詳細は不明である。出土層位はMPとAs-BPGの間のローム層である。群馬旧石器編年Ⅲ期に相当する。石器型式の編年観と出土層位は整合的である。

また、旧石器8号トレンチでは暗色帯で礫集中が確認された。このナイフ形石器は礫集中よりも約30cm上層から出土したため、礫集中には共伴しないと判断した。

##### ② 剥片(第318図2)

黒曜石製の縦長剥片で、左右両側縁に微細剥離痕を有する。背面は自然面である。1区1号溝覆土からの出土であるが、旧石器時代の可能性がある。

#### (3) 旧石器8号トレンチ礫集中(第317図、第30・31・33表、PL.126)

旧石器8号トレンチで検出された礫集中である。礫は計9点を回収した。石器の出土はなかった。上位のローム層から出土したナイフ形石器(第318図1)は、平面分布が散漫な礫集中とやや離れ、垂直分布も約30cm離れているため礫集中には共伴しないと判断した。

#### 調査区 1区

調査範囲 X=42,690~42,697 Y=-55,733~-55,738

#### 出土遺物

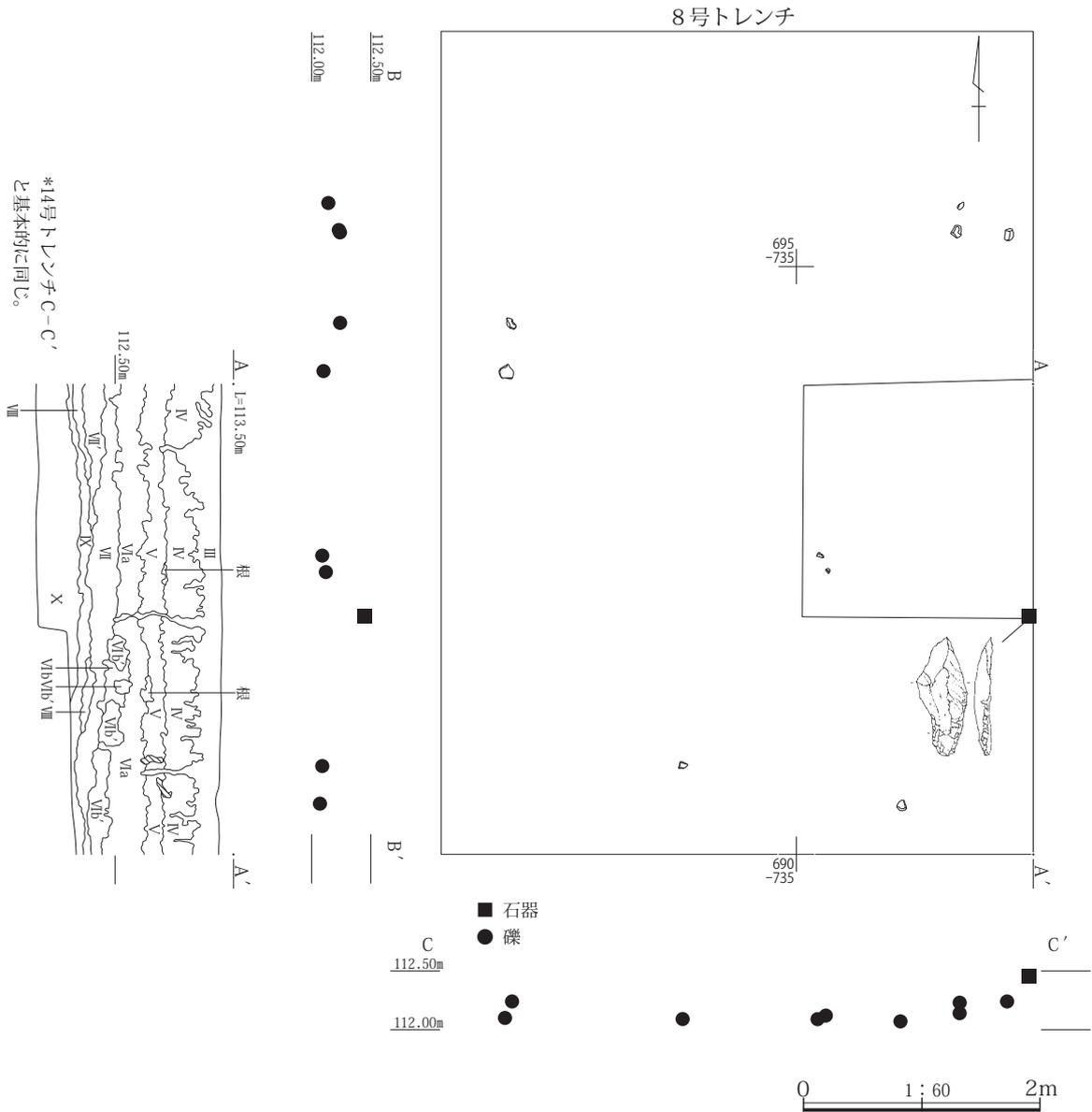
礫9点が出土した。石器の出土はなかった。焼土や炭化物の分布も確認できなかった。礫集中は礫だけで構成され、共伴遺物はなかった。

#### 分布状況

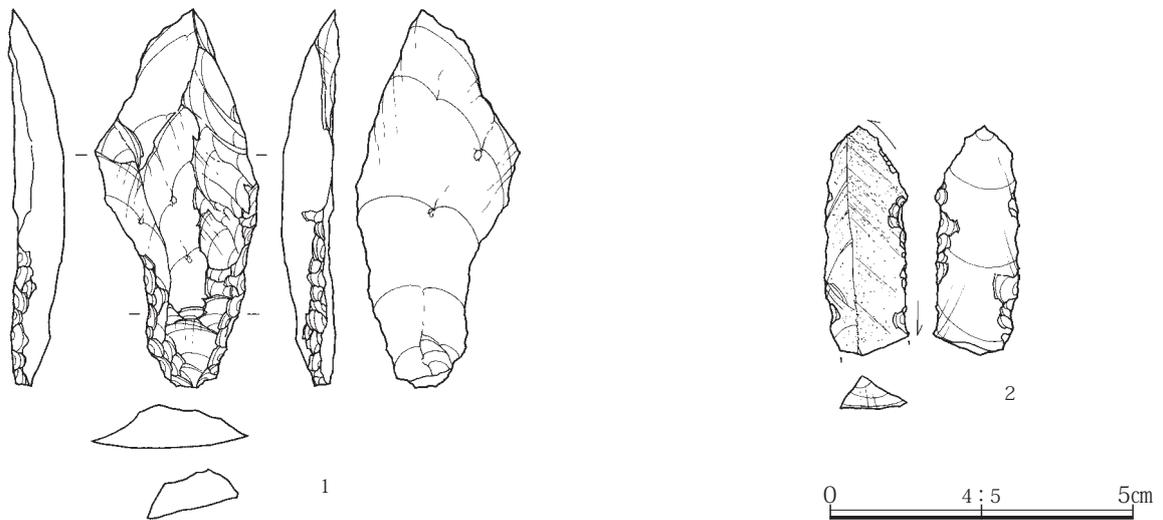
平面分布は、長さ(南北)約6m、幅(東西)約5mの範囲であった。密集度は低く点在した分布であった。北側に3点が1m四方内に近接していたが、密集とまではいいがたい。垂直分布は、標高112.07~112.24m(平均112.15m)で、約20cmの範囲にまとまる。

#### 出土層位

出土層位に関する調査所見が不足しているため、個々の礫の詳細は不明である。図面や写真等から参照する限り、As-BPG下位から暗色帯にかけての出土層位で暗色帯からの出土が最も多いと推測される。



第317図 1区旧石器8号トレンチ礫集中と石器の出土状況



第318図 1区出土石器

旧石器8号トレンチでは、暗色帯の上位にATが検出された。出土層位はATよりも下位と推測される。

#### 礫の属性(第30・31・33表、PL.133)

##### ① 礫の石材

すべて粗粒輝石安山岩であった。肉眼観察では、礫は互いに石質がよく似ており、また流れ山の基盤礫層の礫の粗粒輝石安山岩にもよく似ている。

##### ② 礫の形状

すべて角礫もしくは亜角礫であった。角が磨滅した亜角礫もあるが、河川礫の円磨度ほどではない。このため、礫は河川礫の可能性は低いといえる。なお、縄文時代の台石や磨石では、粗粒輝石安山岩の円礫や亜円礫がよく利用されるが、それらの形状とも明らかに異なる。

##### ③ 礫面の状況

礫面が全面に残るもの、礫面が剥落したものがみられる。礫面は、多数の小さな凹みを持つあばた状を呈し、河川礫にみられる平滑な礫面とは異なる。

色調は、礫面では概ね褐色(7.5YR4/4・4/6)を呈し、剥落部分では明褐色(7.5YR7/1)を呈する。礫面の褐色の色調は、被熱の赤化とは異なる。これは地中の鉄分が付着した影響であり、被熱の痕跡ではないと考えられる。

##### ④ 使用痕・被熱痕・付着物

肉眼観察で敲打痕、擦痕、摩耗痕などの使用痕と評価できる痕跡は確認できなかった。また、赤化や火はねなどの被熱痕は確認できなかった。付着物も確認できなかった。このことから、礫が人為的に使用された可能性は低いと考えられる。

##### ⑤ 大きさ・重量(第321・322図、第30・31表)

長さは最小値41mm、最大値128mm、平均値91.7mmであった。幅は最小値38mm、最大値121mm、平均値76.9mmであった。厚さは最小値28mm、最大値86mm、平均値49.3mmであった。重量は最小値37g、最大値1188g、平均値354.7gであった。

点数を見ると、長さは1～50mm 1点、51～100mm 4点、101～150mm 4点であった。幅は1～50mm 2点、51～100mm 4点、101～150mm 3点であった。厚さは1～30mm 1点、31～60mm 6点、61～90mm 2点であった。重量は1～250g 5点、251～500g 1点、501～750g 2点、1001～1250g 1点であった。

## 所見

旧石器8号トレンチ礫集中は、礫だけで構成され石器の共伴はなかった。分布状況は散漫であった。石材はすべて粗粒輝石安山岩で単一の石材構成であった、形状は角礫や亜角礫で、大きさや重量にばらつきがみられた。礫には敲打痕や擦痕などの使用痕、被熱痕、付着物が確認できなかった。

以上のことから、旧石器8号トレンチ礫集中は人為的な遺構ではなく、自然営為によって形成された自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。形成時期はAT降灰以前で暗色帯堆積期と推定される。

(4)旧石器14号トレンチ礫集中・旧石器14号トレンチ礫密集部(第319・320図、第30・31・33表、PL.127～129)

旧石器14号トレンチとその拡張トレンチ(拡張①～④)から礫がまとまって検出された。これを旧石器14号トレンチ礫集中とした。さらに、旧石器14号トレンチの北側で14点の礫が狭い範囲に密集して検出された。これを旧石器14号トレンチ礫密集部(以下、礫密集部という。)とした。礫密集部は、狭い範囲に礫がまとまり炭化物も確認されたため、発掘段階では人為的な遺構の礫群と判断し、周辺部を拡張して調査した(拡張①～④)。なお、旧石器14号トレンチと拡張①～④の間の幅1mの範囲が未調査となり、礫密集部からは計14点の礫が出土し記録したものの8点のみの回収となった。

また、礫密集部とその周辺からAT純層(本報告でいうAT純層とは、一次堆積ではなく、水成二次堆積した純度の高いATのことを示す)とMPの一次堆積層が検出された。さらにAT純層の直上には炭化物が薄層となって堆積していた(以下、AT直上炭化物とする)。このAT直上炭化物を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)と樹種同定を行った(第4章自然科学分析参照)。

#### 調査区 1区

調査範囲 X=42,717～42,727 Y=-55,715～-55,723

#### 出土遺物

礫は計53点が出土し、このうち47点を回収した。石器は出土しなかった。AT直上炭化物が広範囲に分布していた。焼土は確認できなかった。

#### 分布状況

旧石器14号トレンチとそれを中心にした拡張トレンチ4箇所(拡張①～④)の計5箇所を調査した。以下、旧石器14号トレンチの礫密集部と拡張①～④の分布状況について示す。

旧石器14号トレンチでは、北側の東西1m×南北0.5mの範囲内(概ねX=42,723・42,724、Y=-55,718～-55,720)から14点の礫が密集していた。これを礫密集部とした。

礫密集部14点のうち12点は、概ね30×30cmの範囲にさらに密集していた。掘り込みの痕跡は確認できなかった。なお、14点のうち回収した礫は8点である。垂直分布は、礫の底面の標高が112.10m付近で、いずれの礫もほぼ同じ高さであった。礫の底面付近にAT直上炭化物が分布していた。

拡張①では、礫は旧石器14号トレンチに近い南側に分布していた。2・3点が近接する場所もあるが、全体的には散漫な分布であった。また、AT直上炭化物が分布していた。

拡張②では、礫は1点のみであった。ただし、AT直上炭化物が広範囲に分布していた。

拡張③では、礫は10点であった。中央付近に多いが全体的には点在した分布であった。

拡張④では、礫は9点であった。中央付近に点在した分布であった。約10cm離れて出土した14tr-34と14tr-35が接合した。これは埋没過程で自然に割れた礫同士が接合したものと考えられる。

#### 出土層位

礫密集部では、礫の底面はいずれも暗色帯上部であった。暗色帯は粘土化し水が滲み出る状況であった。礫の底面付近にAT純層とAT直上炭化物が確認された。

拡張①～④では、個々の礫の出土層位に関する調査所見がないため詳細は不明である。図面や写真等の参照から、旧石器8号トレンチ礫集中と同じくAs-BPG下位から暗色帯で、暗色帯が最も多いと推定される。

#### 礫の属性(第30・31・33表、PL.133・134)

礫密集部8点、拡張部39点の計47点の礫を回収した。以下、観察結果について示す。

##### ① 礫の石材

すべて粗粒輝石安山岩である。旧石器8号トレンチ礫集中部の礫と石質がよく似ている。

##### ② 礫の形状

角礫、亜角礫、亜円礫である。角が磨滅しているものがあるが、河川礫のような円磨度ではないため、河川礫の可能性は低いといえる。これは旧石器8号トレンチ礫集中の礫と同じである。

##### ③ 礫面の状況

礫面が全体に残るもの、礫面が剥落したものがみられる。礫面は、多数の小さな凹みを持つあばた状を呈し、河川礫にみられる平滑な礫面とは異なる。色調は、礫面では概ね褐色(7.5YR4/4・4/6)、剥落部分では明褐灰色(7.5YR7/1)を呈する。礫面の褐色化は、地中の鉄分が礫に付着したもので、被熱による赤化とは色調が異なる。これは旧石器8号トレンチ礫集中の礫と同じである。

##### ④ 使用痕・被熱痕・付着物

敲打痕、擦痕、被熱痕などは確認できなかった。付着物については、28点に炭化物の付着を確認した。礫面の広範囲に付着したもの、部分的に付着したものがあつた。この炭化物はAT直上炭化物が埋没過程の中で後から礫に付着したものと考えられる。

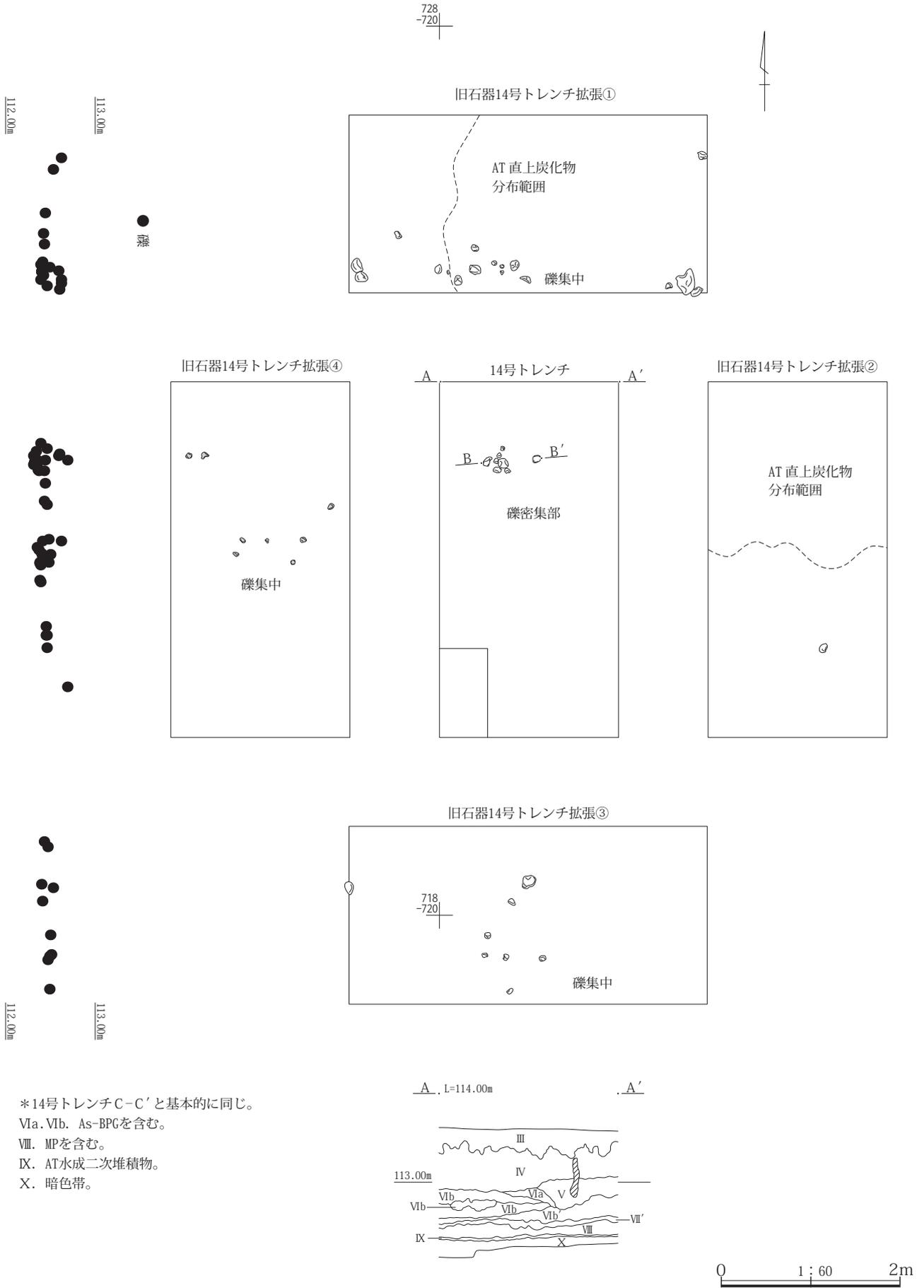
##### ⑤ 大きさ・重量(第321・322図、第30・31表)

礫密集部と拡張①～④出土の計47点について示す。

長さは最小値35mm、最大値218mm、平均値92.2mmであった。幅は最小値31mm、最大値169mm、平均値70.5mmであった。厚さは最小値18mm、最大値132mm、平均値47.8mmであった。重量は、最小値25g、最大値2825g、平均値351.8gであった。

点数を見ると、長さは1～50mmが4点、51～100mmが27点、101～150mmが12点で、1～150mmが90%以上を占めた。幅は1～50mmが13点、51～100mmが25点、101～150mmが7点で、1～150mmが90%以上を占めた。厚さは1～30mmが10点、31～60mmが24点、61～90mmが11点で、1～90mmが90%以上を占めた。重量は1～250gが26点、251～500gが8点、501～750gが6点で、1～750gで80%以上を占めた。

旧石器14号トレンチ礫集中と礫密集部の礫は、長さ200mm、重量2750gを超える大型礫もあるが、全体的には長さ100mm以下、重量250g以下の小型礫を主体としているといえる。

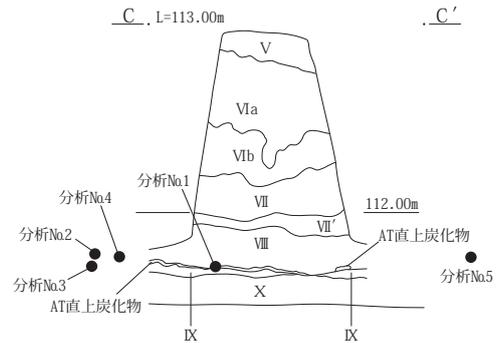


第319図 1区旧石器14号トレンチ礫集中



旧石器14号トレンチ B-B'

1. 褐色土(7.5YR4/6) 鉄分凝集によって変色しており、MPを含む。締り・粘性あり。
2. 褐灰色土(7.5YR6/1) 締り・粘性あり。C-C' IX層に相当。
3. にぶい赤褐色土(5YR5/4) 鉄分凝集によって変色しており、砂状の黒色粒を多く含む。締り・粘性ややあり。
4. 褐灰色土(5YR4/1) 一部が鉄分凝集によって変色している。締り・粘性あり。C-C' X層に相当。

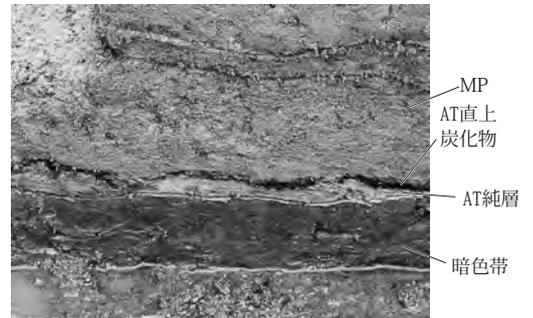


旧石器14号トレンチ C-C'

- V. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 硬質ローム層。軽石類を含まない。
- VIa. 明黄褐色土(10YR6/6) 部分的に明赤褐色を帯びる。As-BPを少量、上部にAs-0k1の可能性のある軽石を微量含む。
- VIb. にぶい黄褐色土(10YR6/4) As-BPGを塊状に少量、炭化物を微量含む。硬質ローム層。
- VII. 黄褐色土(10YR5/6) 暗色部分。As-BPGとMPの間層と考えられる。
- VII'. 黄褐色土(2.5Y5/6) 暗色部分。As-BPGとMPの間層と考えられる。
- VIII. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 橙色軽石(MP)を含む。部分的に下部5~10cm程の暗褐色土が見られる。やや軟質。
- IX. 灰白色土(10YR8/2) 粘質ローム層。ATの水成二次堆積層(AT純層)。部分的に一次堆積層の可能性。
- X. 灰黄褐色土(10YR5/2) 暗色帯。



C-C' セクション①(北から)



C-C' セクション②(拡大)

暗色帯の直上にAT純層、AT純層の直上にAT直上炭化物、さらにその直上にMPが堆積している。

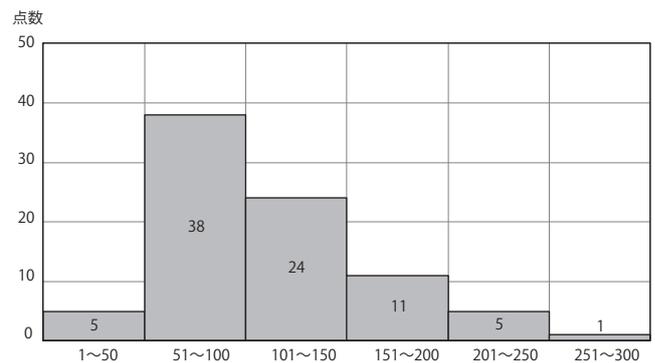
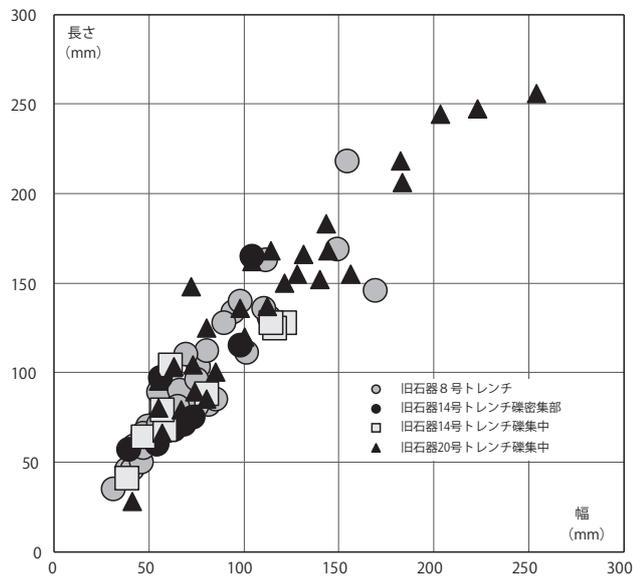
第320図 1区旧石器14号トレンチ礫密集部

第3章 調査の成果

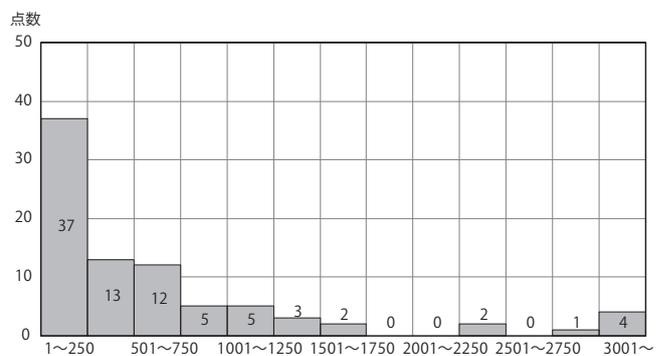
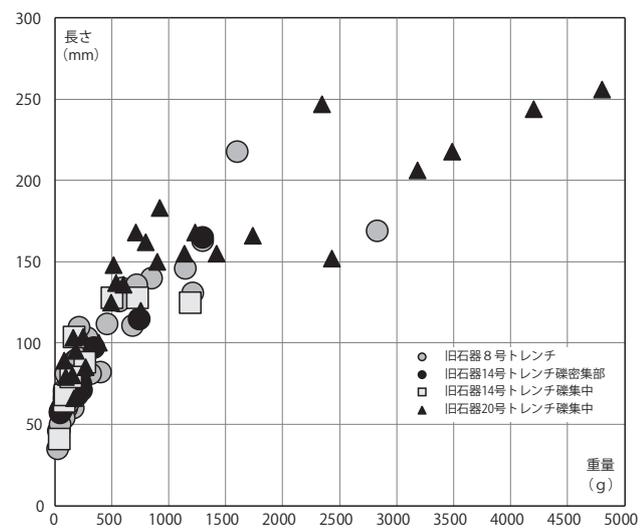
第30表 礫の集計

	旧石器8号 トレンチ	旧石器14号トレ ンチ礫密集部	旧石器14号 トレンチ拡張①	旧石器14号 トレンチ拡張②	旧石器14号 トレンチ拡張③	旧石器14号 トレンチ拡張④	旧石器20号 トレンチ	全体
礫の点数	9	8	19	1	10	9	28	84
長さ (mm)	最小値	41	57	46	110	46	35	35
	最大値	128	165	218	110	169	96	256
	平均値	91.7	88.5	107.0	110.0	90.3	65.1	110.3
幅 (mm)	最小値	38	39	38	69	41	31	31
	最大値	121	104	154	69	169	75	254
	平均値	76.9	69.4	84.5	69.0	78.7	50.8	117.8
厚さ (mm)	最小値	28	28	27	39	18	21	18
	最大値	86	97	87	39	132	42	132
	平均値	49.3	57.1	60.6	39.0	53.0	29.0	58.8
重量 (g)	最小値	37	47	35	215	33	25	25
	最大値	1,188	1,295	1,598	215	2,825	288	4,801
	平均値	354.7	392.0	539.0	215.0	519.2	93.6	675.7

\*旧石器20号トレンチの数値は任意に回収した28点から算出したものである。



第321図 礫の散布図(長さ/幅)・ヒストグラム(長さ別)



第322図 礫の散布図(長さ/重量)・ヒストグラム(重量別)

第31表 礫の度数集計  
長さ(mm)

長さ(mm) データ区間	旧石器8号トレンチ		旧石器14号トレンチ							旧石器20号トレンチ		全体	
	点数	%	礫密集部	拡張①	拡張②	拡張③	拡張④	小計	%	点数	%		%
1~50	1	11%		1		1	2	4	9%			5	6%
51~100	4	44%	6	7		7	7	27	57%	7	25%	38	45%
101~150	4	44%	1	9	1	1		12	26%	8	29%	24	29%
151~200			1	1		1		3	6%	8	29%	11	13%
201~250				1				1	2%	4	14%	5	6%
251~300										1	4%	1	1%
合計	9	100%	8	19	1	10	9	47	100%	28	100%	84	100%

幅(mm)

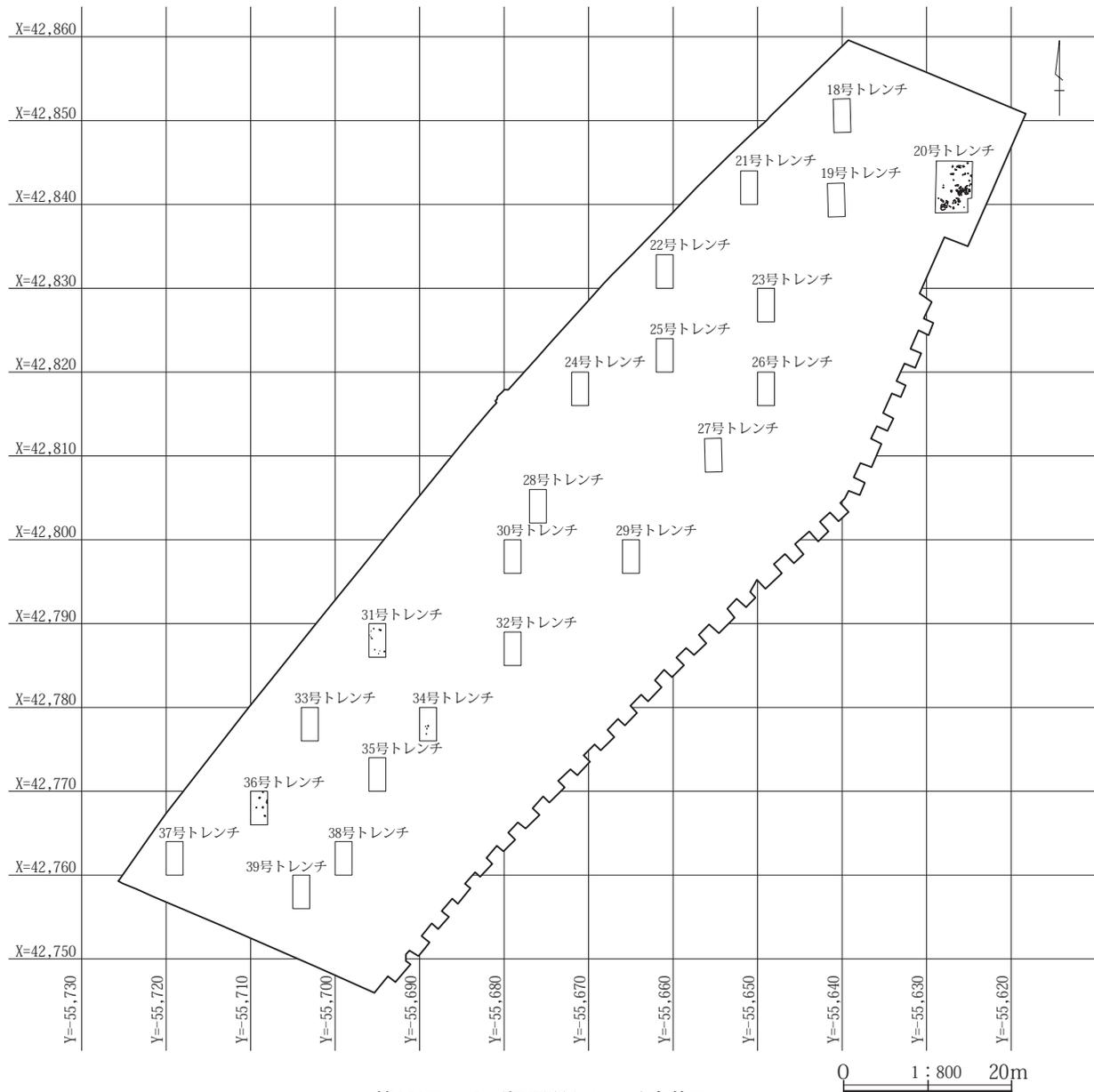
幅(mm) データ区間	旧石器8号トレンチ		旧石器14号トレンチ							旧石器20号トレンチ		全体	
	点数	%	礫密集部	拡張①	拡張②	拡張③	拡張④	小計	%	点数	%		%
1~50	2	22%	1	4		2	6	13	28%			15	18%
51~100	4	44%	6	9	1	6	3	25	53%	13	46%	42	50%
101~150	3	33%	1	5		1		7	15%	9	32%	19	23%
151~200				1		1		2	4%	3	11%	5	6%
201~250										2	7%	2	2%
251~300										1	4%	1	1%
合計	9	100%	8	19	1	10	9	47	100%	28	100%	84	100%

厚さ(mm)

厚さ(mm) データ区間	旧石器8号トレンチ		旧石器14号トレンチ							旧石器20号トレンチ		全体	
	点数	%	礫密集部	拡張①	拡張②	拡張③	拡張④	小計	%	点数	%		%
1~30	1	11%	1	1		1	7	10	21%	4	14%	15	18%
31~60	6	67%	5	8	1	8	2	24	51%	14	50%	44	52%
61~90	2	22%	1	10				11	23%	5	18%	18	21%
91~120			1					1	2%	4	14%	5	6%
121~150						1		1	2%	1	4%	2	2%
合計	9	100%	8	19	1	10	9	47	100%	28	100%	84	100%

重量(g)

重量(g) データ区間	旧石器8号トレンチ		旧石器14号トレンチ							旧石器20号トレンチ		全体	
	点数	%	礫密集部	拡張①	拡張②	拡張③	拡張④	小計	%	点数	%		%
1~250	5	56%	5	5	1	7	8	26	55%	6	21%	37	44%
251~500	1	11%	1	5		1	1	8	17%	4	14%	13	15%
501~750	2	22%	1	5				6	13%	4	14%	12	14%
751~1000				1				1	2%	4	14%	5	6%
1001~1250	1	11%		1		1		2	4%	2	7%	5	6%
1251~1500			1	1				2	4%	1	4%	3	4%
1501~1750				1				1	2%	1	4%	2	2%
1751~2000													
2001~2250													
2251~2500										2	7%	2	2%
2501~2750													
2751~3000						1		1	2%			1	1%
3001~										4	14%	4	5%
合計	9	100%	8	19	1	10	9	47	100%	28	100%	84	100%



第323図 2区旧石器トレンチ全体図

**礫密集部の形成過程とAT純層、AT直上炭化物、MP、As-BPGについて**

礫密集部とその周辺の拡張部で、AT純層、AT直上炭化物、MP、As-BPGが検出された。

AT純層は、暗色帯の直上で検出された微細なテフラで、一次堆積層ではなく水成二次堆積した純度の高いATのことである。灰白色(7.5YR7/1)を呈し、層厚は概ね5~20mmで最大40mmの堆積も確認された。AT純層は礫密集部の底面付近に堆積していたため、一見するとAT純層の上位に礫密集部が形成されたように見える。しかし、これは当時の地表に露出していた礫密集部に後から降灰したATが礫の底面付近に水成二次堆積したことにより形成されたものと推定される。

AT直上炭化物は、AT純層の直上に薄く層状に堆積していた。黒色(7.5YR7/1)を呈し、層厚は5~10mmほどであった。さらに、AT直上炭化物の直上にはMPが一次堆積していた。また、AT直上炭化物は礫密集部だけでなく北側の拡張①、東側の拡張②でも検出され、広範囲に分布することが確認された。礫密集部の礫にはAT直上炭化物が付着したものが複数確認された。

MPは、褐色(7.5YR4/6)を呈する粒径5mm以下のテフラで、AT直上炭化物の直上に堆積していた。細かくつぶれ一部粘土化していた。層厚100mmほどの一次堆積層で確認された。MPの上位には暗褐色ロームが堆積し、さらに暗褐色ロームの上位に一次堆積したAs-BPGを含むローム層が堆積していた。

As-BPGは、層厚50～100mmほどであった。As-BPG内のローム層中には炭化物(概ね3～10mm程度)が点在していた。このような炭化物を含む現象は赤城山南麓地域の同層準でよくみられるもので、それが本遺跡でも確認されたといえる。

以上をまとめると、次のような層位的な上下関係と形成過程になると考えられる。

暗色帯の堆積→礫密集部の形成→AT降灰とAT純層の形成→AT直上炭化物の形成→MP降灰→暗褐色ローム層の堆積→As-BPG降灰、という形成過程である。

補足すると、暗色帯堆積期の暗色帯上部に自然営為により礫密集部が形成された。その後、ATが降灰し、当時地表面に露出していた礫密集部の周辺にATが水成二次堆積した(AT純層)。その直後にAT純層の直上にAT直上炭化物が形成され、さらにその直上にMPが降灰した。そして、MPの上位にローム層が堆積し、やがてAs-BPGが降灰した、というものである。

#### 所見

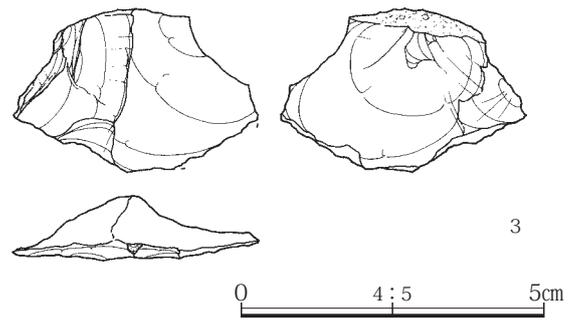
旧石器14号トレンチ礫集中は、礫だけで構成され石器の共伴はなかった。礫密集部は、狭い範囲にまとまっていたものの、同じく石器の共伴はなく全体的に散漫な分布であった。また、AT直上炭化物が確認されたものの、焼土は確認できなかった。

礫は粗粒輝石安山岩のみの単一の石材構成であった。礫の形状は角礫や亜角礫もしくは亜円礫で、小型礫が主体であった。敲打痕や摩耗痕などの使用痕、被熱痕は確認できなかった。

礫密集部は、平面的に狭い範囲にまとまり密集度が高く垂直分布も同じレベルで、礫群と同じ出土状況であった。しかし、石器の分布がなく焼土も確認できなかった。礫には使用痕・被熱痕も確認できなかった。

以上のことから、旧石器14号トレンチ礫集中については、人為的な遺構ではなく、自然営為によって形成された自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。

一方、旧石器14号トレンチ礫密集部については、自然地形の痕跡の可能性が高いと推定したものの、礫群と同じ密集度を示した。よって、旧石器人が流れ山の基盤礫層から礫を抜き取り、それを遺跡に運搬して構築した礫群の可能性も否定できないため、人為的な遺構の可能性も残ると判定した。



第324図 2区出土石器

## 4. 2区の旧石器調査

### (1) 概要(第323図)

2区では、22箇所の旧石器トレンチを設定し調査した。その結果、旧石器20号トレンチ・31号トレンチ・34号トレンチ・36号トレンチ等で礫集中が検出された。これらの礫集中は、1区の礫集中と同様に人為的な遺構ではなく、自然営為によって形成された自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。

石器は、旧石器19号トレンチから珪質頁岩製の剥片が1点出土したのみで、ほかに遺物は確認できなかった。

### (2) 出土石器(第324図、第33表、PL.133)

3：珪質頁岩製の横長剥片である。旧石器確認調査時に旧石器19号トレンチから一括回収されたもので、出土位置は不明である。ローム層出土が確実のため、旧石器時代の石器と判定した。

### (3) 礫集中

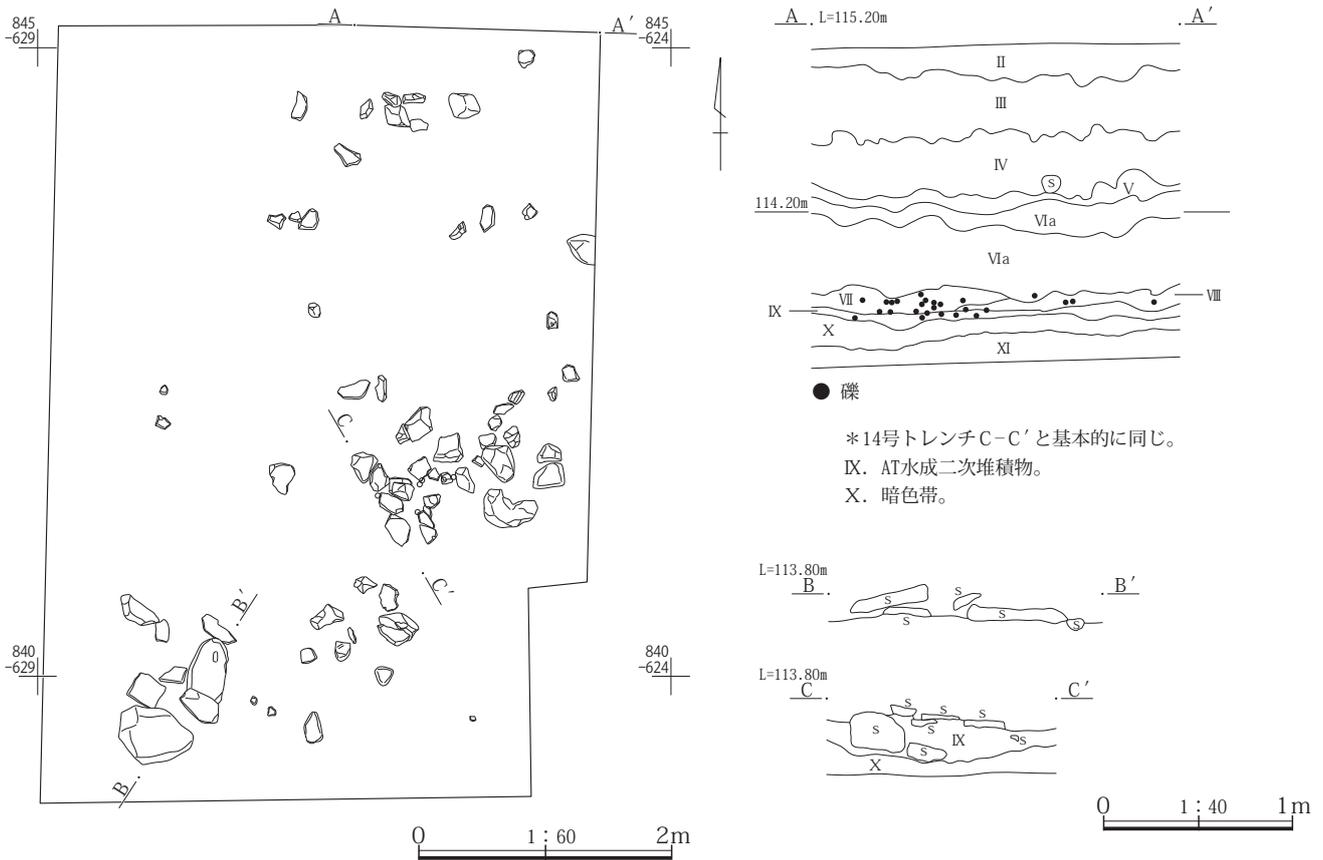
2区の旧石器調査で検出された礫集中のうち、旧石器20号トレンチについて示す。

### (4) 旧石器20号トレンチ礫集中(第325図、第30・31・33表)

旧石器20号トレンチとその拡張部で検出された礫集中である。およそ70点の礫がまとまって出土した。このうち任意に28点の礫を回収した。

#### 調査区 2区

調査範囲 X=42,839～42,845 Y=-55,624～-55629



第325図 2区旧石器20号トレンチ礫集中

**出土遺物**

およそ70点の礫が出土した。石器の出土はなかった。焼土や炭化物の分布も確認できなかった。

**分布状況**

礫集中は、拡張範囲を含めトレンチ全体に分布していた。西側の旧石器18号・19号トレンチでは検出されなかったので、礫集中は20号トレンチを中心とした範囲に分布していると考えられる。

平面分布は長さ(南北)約6m、幅(東西)約5mの範囲である。拡張していないものの、分布状況から見てさらにトレンチの外側にも分布していることは確実である。中央部でやや密集度が高く、割れた礫同士の接合も確認された。

**出土層位**

出土層位に関する調査所見が不足しているため、個々の礫の詳細は不明である。図面や写真等を参照する限り、As-BPG下位から暗色帯にかけての層位で、暗色帯からの出土が最も多いと推定される。標高は113.60m～113.80mで20cmの範囲にまとまる。旧石器8号トレンチ礫集中、

14号トレンチ礫集中・礫密集部と同じ暗色帯からの出土と考えられる。

**礫の属性**(第30・31・33表、PL.135)

およそ70点出土した礫のうち、回収した礫28点の属性について示す。

① 礫の石材

すべて粗粒輝石安山岩である。石質は、肉眼で観察すると流れ山の基盤の粗粒輝石安山岩とよく似ている。

② 礫の形状

角礫、亜角礫、割れた偏平な大型礫である。

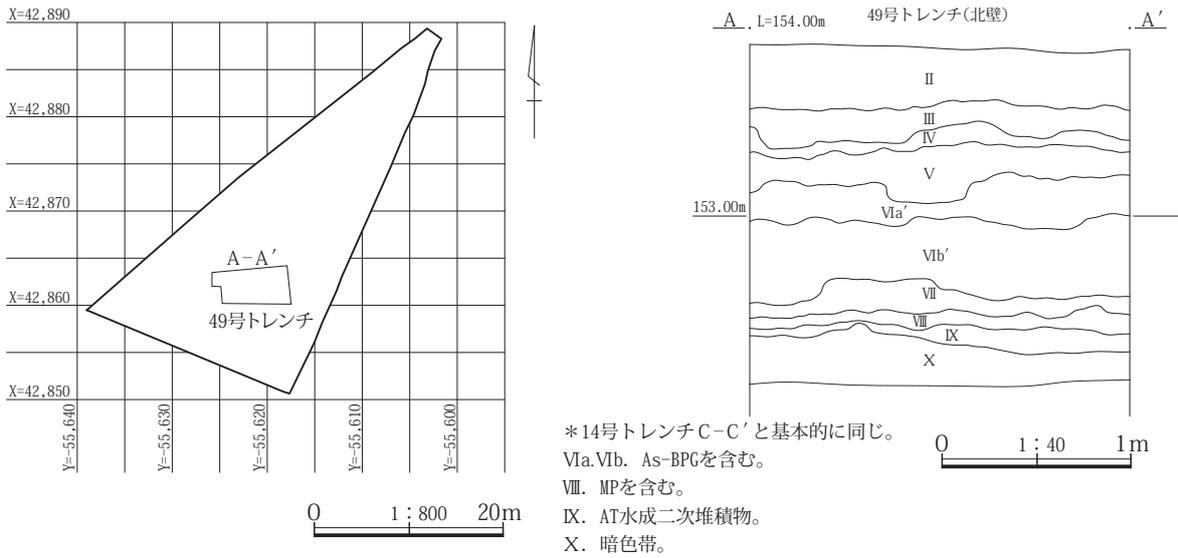
③ 礫面の状況

礫面が全体に残るもの、礫面が剥落したもの、割れ面がみられる。礫面は多数の小さな凹みを持つあばた状を呈する。礫面の褐色は、地中の鉄分が付着した影響と考えられ、被熱による赤化とは色調が異なる。

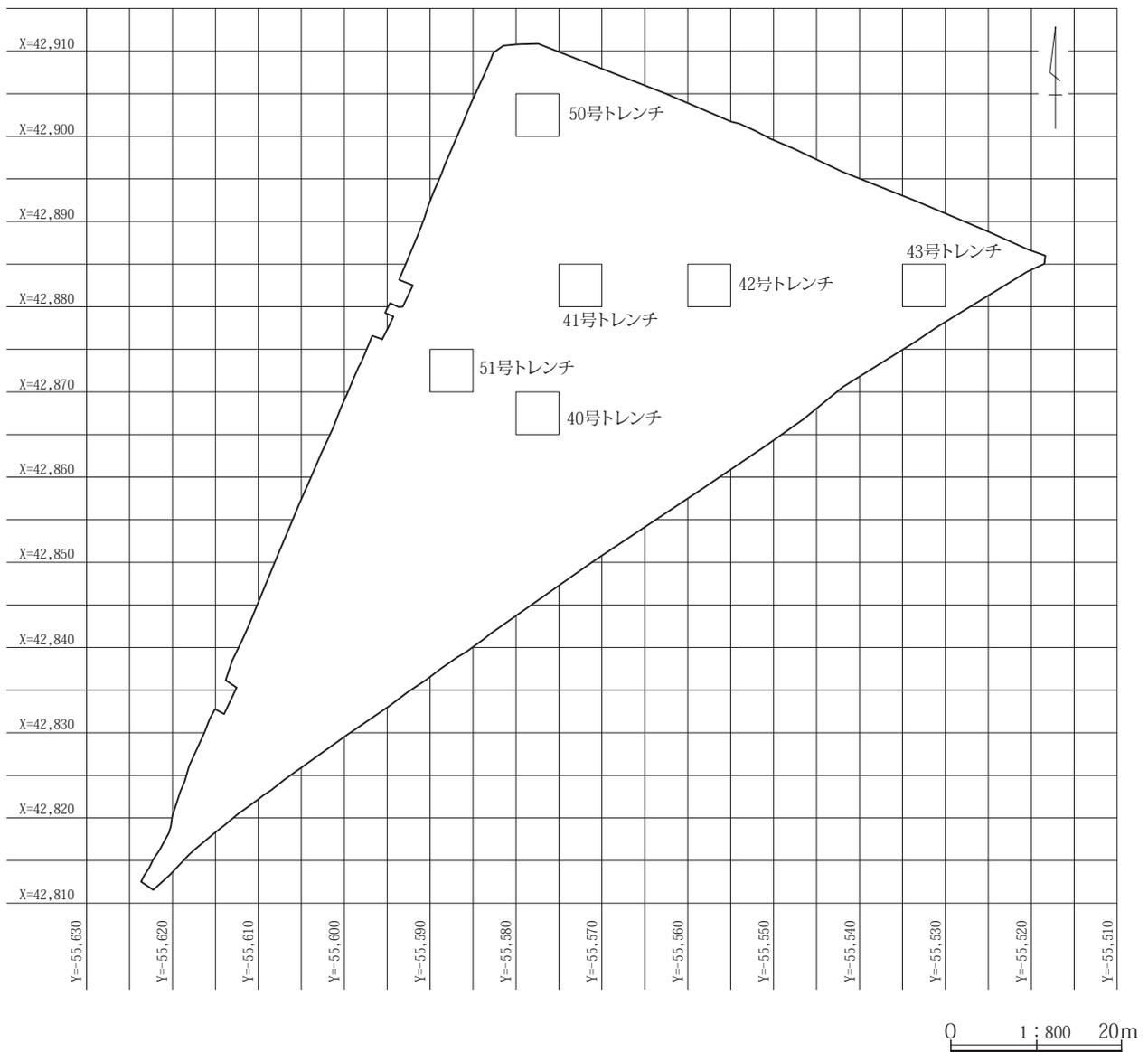
④ 使用痕・被熱痕・付着物

敲打痕、擦痕、摩耗痕などの使用痕、赤化や火はねなどの被熱痕、付着物は確認できなかった。

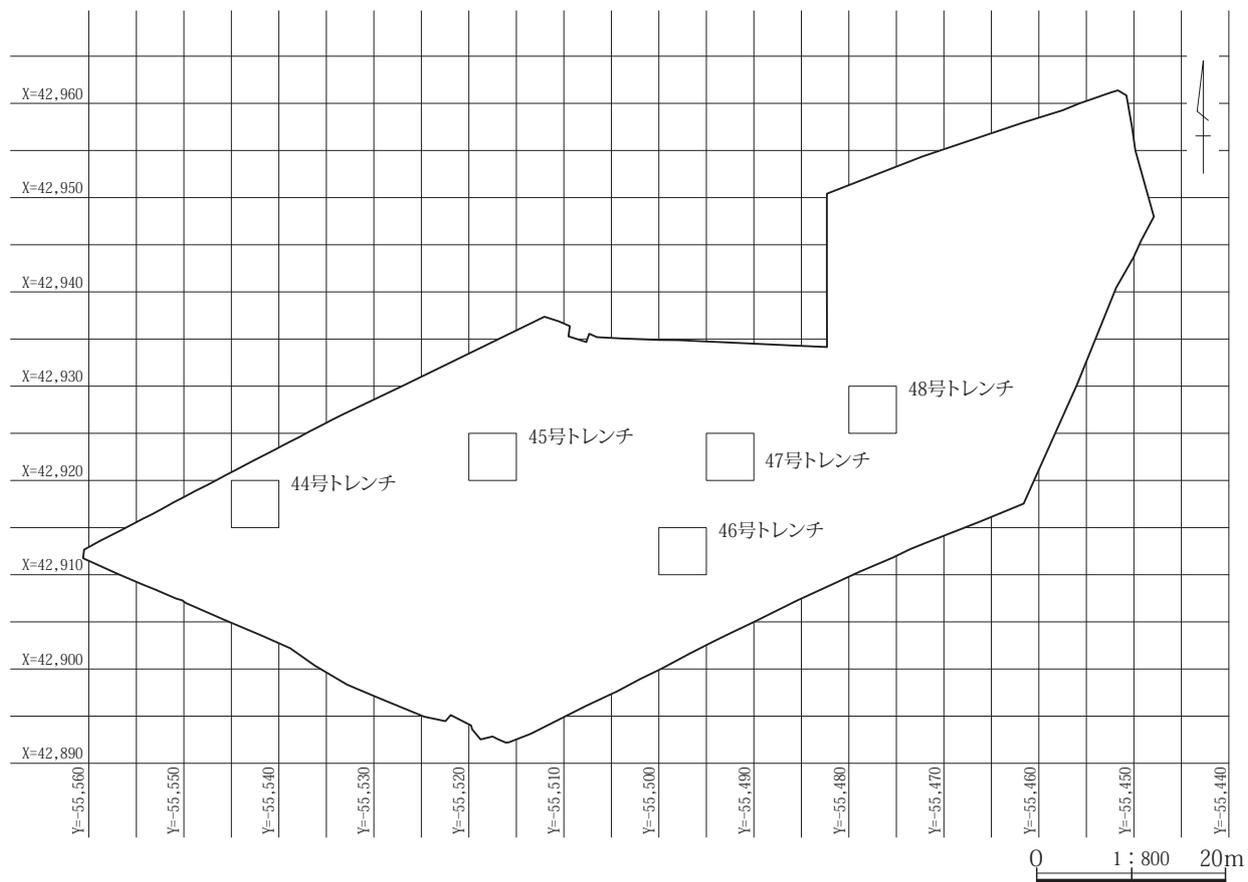
⑤ 大きさ・重量(第321・322図、第30・31表)



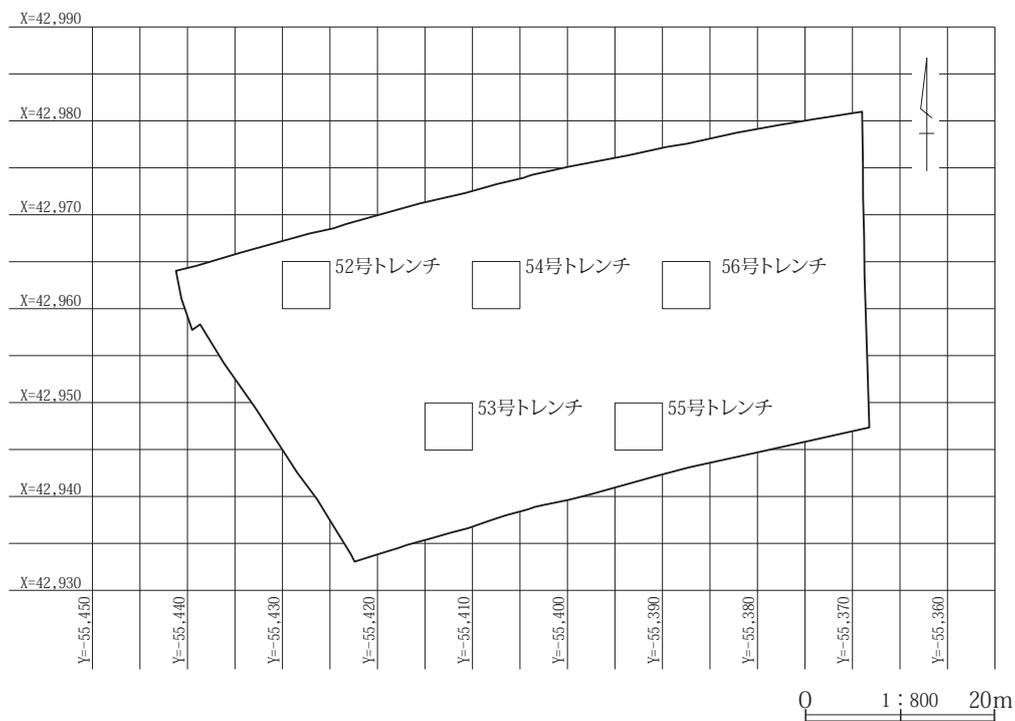
第326図 2区北旧石器トレンチ全体図・土層断面図



第327図 3区旧石器トレンチ全体図



第328図 4区旧石器トレンチ全体図



第329図 5区旧石器トレンチ全体図

長さは概ね60～300mm、幅は概ね50～250mm、厚さは概ね20～130mm、重量は概ね80～5000gであった。ただし、この数値は出土礫のうち任意に回収した28点の礫をもとに示したものである。未回収の礫には長さが50mm以下の多数の小型礫や500mm超の大型礫もあった。したがって、数値はあくまで参考値であり、実際には小型礫を主体にさまざまな大きさの礫で構成されていたと推測される。

#### ⑥ 礫の接合

割れた礫の接合が確認された。隣接した礫同士の接合で、その分布範囲は狭い。これは、本来1個であった大型礫が埋没過程の中で自然に割れ、狭い範囲に移動した結果を示していると考えられる。

#### 所見

旧石器20号トレンチ礫集中は、礫だけで構成され石器の共伴はなかった。石材はすべて粗粒輝石安山岩で単一の石材構成であった。礫の形状は角礫や亜角礫、割れた大型礫で、使用痕、被熱痕、付着物は確認できなかった。割れた礫同士の接合が狭い範囲内で確認されたが、これは人為的に割られたものではなく、埋没過程で自然に崩壊したもので、崩壊により小さくなった礫が狭い範囲に移動して分布域を形成したものと推定される。このような出土状況は、自然営為によって形成された礫集中の礫が崩壊しながら大型礫から小型礫へと徐々に変化し、その変化の過程で少しずつ周辺に移動しながら分布域を形成していく埋没過程を示したものと考えられる。

以上のことから、旧石器20号トレンチ礫集中は人為的な遺構ではなく、自然営為によって形成された自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。

### 5. 2区北～5区の旧石器調査

#### (1) 2区北の旧石器調査(第326図)

2区北では、1箇所旧石器トレンチを設定し確認調査を行った。その結果、遺物の出土はなかった。

#### (2) 3区の旧石器調査(第327図)

3区では、6箇所旧石器トレンチを設定し確認調査を行った。その結果、遺物の出土はなかった。

#### (3) 4区の旧石器調査(第328図)

4区では、5箇所旧石器トレンチを設定し確認調査

を行った。その結果、遺物の出土はなかった。

#### (4) 5区の旧石器調査(第329図)

5区では、5箇所旧石器トレンチを設定し確認調査を行った。その結果、遺物の出土はなかった。

### 6. 旧石器調査における自然科学分析

#### (1) 概要

旧石器調査で検出された試料を用いて、放射性炭素年代測定(AMS法)、樹種同定、テフラ分析を実施した(詳細は第4章自然科学分析参照)。以下、その概要を示す。

#### (2) 分析試料(第320図)

放射性炭素年代測定と樹種同定の試料は、旧石器14号トレンチ礫集中のAT直上炭化物から採取した5点とAs-BPG炭化物から採取した1点の合計6点である。

AT直上炭化物の試料5点の内訳は、礫密集部の1m南側から採取した4点(分析No1～4)と礫密集部の礫(14tr-41)の脇から採取した1点(分析No5)で、5点ともほぼ同一レベルからの採取である。

As-BPG炭化物は、1区旧石器14号トレンチ西壁のAT直上炭化物よりも約30cm上位に堆積したAs-BPG内から採取した1点(分析No6)である。

#### (3) 放射性炭素年代測定(第32表)

分析結果を第32表に示した。詳細は第4章参照。以下、概要を示す。なお、ここでは年代範囲のうち中央値を示した。

AT直上炭化物では、分析No2が最も古く27970cal BPであった。一方、分析No5が最も新しく22380cal BPであった。As-BPG炭化物(分析No6)は、25440cal BPであった。

AT直上炭化物5点の分析結果については、いずれもATの年代観(約3万年前)よりも新しいため、層位的に矛盾はないといえる。しかし、5点とも層位的な上下差がほとんどないにもかかわらず、最も古い27970cal BPから最も新しい22380cal BPまでの5千年以上もの範囲の中にはばらついた。

また、分析No1(25730cal BP)と分析No3(25470cal BP)では、分析No6のAs-BPG炭化物に近い年代になった。さらに、分析No4(23930cal BP)と分析No5(22380cal BP)

第32表 年代測定結果

分析No	測定番号	出土位置 遺物取上No	試料	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	2 $\sigma$ 暦年代範囲	中央値 cal BP	備考
1	PLD-41002 試料No.1	旧石器14号 トレンチ 炭化物SP1	針葉樹	-26.11 $\pm$ 0.21	21345 $\pm$ 76	21350 $\pm$ 80	25911-25366	25730	AT直上 炭化物
2	PLD-41003 試料No.2	旧石器14号 トレンチ 炭化物SP2	針葉樹	-26.43 $\pm$ 0.20	23885 $\pm$ 90	23890 $\pm$ 90	28298-27764	27970	AT直上 炭化物
3	PLD-41004 試料No.4	旧石器14号 トレンチ 炭化物SP4	マツ科	-28.35 $\pm$ 0.19	21120 $\pm$ 72	21120 $\pm$ 70	25678-25245	25470	AT直上 炭化物
4	PLD-41005 試料No.6	旧石器14号 トレンチ 炭化物SP5	針葉樹	-27.02 $\pm$ 0.23	19922 $\pm$ 66	19920 $\pm$ 70	24153-23793	23930	AT直上 炭化物
5	PLD-41010 遺物No.1	旧石器14号 トレンチ 20200122No1	針葉樹	-33.92 $\pm$ 0.17	18459 $\pm$ 62	18460 $\pm$ 60	22491-22265	22380	AT直上 炭化物
6	PLD-41011 試料No.現地 取上	旧石器14号 トレンチ VIb層	マツ科	-25.44 $\pm$ 0.21	21076 $\pm$ 72	21080 $\pm$ 70	25651-25215	25440	As-BPG 炭化物



分析試料の検出状況(左: 1区旧石器14号トレンチ礫密集部のAT直上炭化物、右: 1区旧石器14号トレンチ西壁のAs-BPG炭化物)

では、分析No 6のAs-BPG炭化物の年代(25440cal BP)よりも新しく、層位的な上下関係と矛盾した年代になった。

分析結果のうち、分析No 2(27970cal BP)がATとMPの年代観からみて最も調和的な年代といえる。そこで本報告では、AT直上炭化物の形成年代は分析No 2を採用して、約2.8万年前と推定した。

また、As-BPG炭化物の形成年代は分析No 6(25440cal BP)を採用して約2.5万年前とし、そこから本遺跡におけるAs-BPG降灰年代は約2.5万年前と推定した。

以上をまとめると、AT降灰年代はAT直上炭化物よりも古い約2.8万年前、AT直上炭化物の形成年代は約2.8万年前、MP降灰年代はAT直上炭化物よりも新しくAs-BPG降灰年代よりも古い約2.8万年前から2.5万年前の間で、なおかつMPの堆積状況からみてAT直上炭化物の年代に近接した年代、As-BPG降灰年代は約2.5万年前と推定した。

#### (4) 樹種同定

樹種同定の試料は、年代測定と同一試料を用いた。分

析の結果、AT直上炭化物5点については、分析No 1・2・4・5が分類群不明の針葉樹、分析No 3がマツ科と判定された。As-BPG炭化物1点(分析No 6)については、マツ科と判定された。

AT降灰からAs-BPG降灰の時期は最終氷期最寒冷期に相当し、関東平野には針葉樹主体の植生が広がっていたと想定され、樹種同定結果はそれと整合的といえる。

また、AT直上炭化物とAs-BPG炭化物は火を受け燃えて炭化した可能性が高いと推定された。ただし、発火が人為的なものか、自然によるものかは判断できない。

#### (5) テフラ分析

火山灰分析の結果、暗色帯の上位で検出された細粒の白色テフラはATが水成二次堆積した可能性が高いことが判明した。これをAT純層とした。また、ATの上位に堆積していた軽石質のテフラは、As-BPG最下部にあたるMP(室田軽石)の可能性が高いことが判明した。

## 7. 旧石器調査のまとめと考察

### (1) 多田山東遺跡における旧石器調査の意義

本遺跡は多田山丘陵の東側に位置する低位の平坦なローム台地に立地している。多田山丘陵との比高は最大45mである。旧石器調査の範囲は1区から5区まで幅30m×長さ430mに及んだ。低位のローム台地に計56箇所の特レンチを規則的に配置して調査した。

調査の結果、1区で石器1点、2区で石器1点が単独で出土したのみで、ブロックは検出されず旧石器遺跡は希薄であることが判明した。南側の同一台地に立地する柳田遺跡でも小規模な旧石器遺跡が発見されている程度で低位のローム台地では旧石器遺跡が少ないことがわかった。

一方、本遺跡の西側約300mには多田山丘陵があり、この丘陵上に立地する今井見切塚遺跡と今井三騎堂遺跡では、群馬旧石器編年Ⅰ期～Ⅴ期までのおよそ2万年間にわたる旧石器遺跡の濃密な分布が確認され、このうちAT下位の暗色帯堆積期に相当する群馬旧石器編年Ⅰ期からⅡ期の遺跡が最も多いことが判明している。このように、本遺跡一帯の旧石器遺跡の分布は、低位のローム台地では希薄で、反対に高位の丘陵部では密集した旧石器遺跡群という対照的な様相であった。

今回の旧石器調査の細長い調査範囲は、多田山丘陵の東側の低位のローム台地を南北に縦貫する大型特レンチの役割を果たし、旧石器遺跡の分布の様相から多田山丘陵を中心とした小地域における旧石器遺跡の形成過程を検討できる大きな成果をもたらしたといえる。この成果は、特レンチを調査区内に規則的に配置して網羅的な旧石器確認調査を行ったことにより得られたものであり、旧石器遺跡の有無の確認という旧石器確認調査が持つ本来の目的を達成した成果にほかならない。

### (2) 礫集中及び礫密集部の形成過程の推定

旧石器調査で礫集中と礫密集部が検出された。いずれも角礫、亜角礫、亜円礫の粗粒輝石安山岩の礫で構成され石器の共伴はなかった。旧石器8号・14号・20特レンチ礫集中については、人為的な遺構ではなく自然営為によって形成された自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。一方、旧石器14号特レンチ礫密集部については、

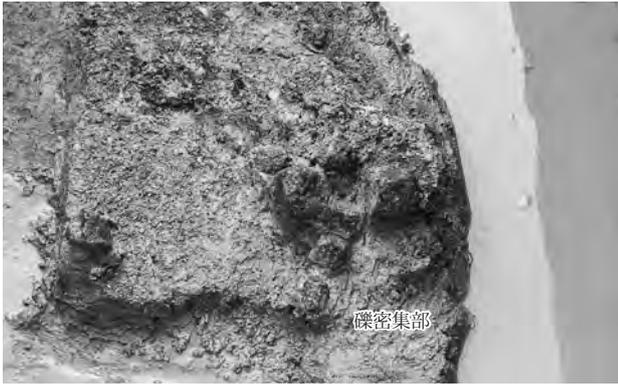
自然地形の痕跡の可能性が高いものの、人為的な遺構の可能性も残ると判定し確定はできなかった。

旧石器8号特レンチ礫集中をはじめ、自然地形の痕跡と判定した礫集中を構成する礫の供給源は、河川ではなく流れ山の基盤礫層で、西方に位置する多田山丘陵の基盤礫層の可能性が高いと推定した。そこから土砂崩れや土石流、洪水など水の影響を受けた自然作用によって低位のローム台地に運搬されてきた礫が堆積した痕跡と考えられる。ただし、自然作用は遺跡全体を覆うほどの規模ではなかったため、礫集中が形成された部分と形成されなかった部分の差が遺跡内に生じたと推定される。ローム台地に堆積した後も、礫は崩壊、移動、流失を繰り返しながら地中に徐々に埋没していき、その埋没過程でATが降灰して水成二次堆積し、AT直上炭化物が形成され、さらにMPが降灰したと考えられる。今回の旧石器調査は、こうした埋没過程を持つ自然地形の痕跡として礫集中を検出し調査した訳である。

一方、礫密集部については、礫の属性がほかの礫集中の礫と共通していたため、同じく自然地形の痕跡の可能性が高いと考えた。しかし、最終的には人為的な遺構の可能性も残ると判定した。礫密集部も石器の共伴はなかったが、礫の密集度が礫集中よりも高いため旧石器人が多田山丘陵の基盤礫層から礫を抜き取り、遺跡まで運搬してきて人為的に構築した礫群の可能性も完全には否定できない。よって、礫密集部は人為的な遺構の可能性も残ると判定した。

礫集中の形成時期については、暗色帯堆積期の群馬旧石器編年Ⅰ期で、その時期に本遺跡の西側に位置する多田山丘陵の基盤礫層を構成する礫が土砂崩れや洪水などの自然作用により本遺跡まで運搬され堆積したものと推定される。当時、低位のローム台地は暗色帯が堆積できる環境と地形ではあったものの、水の影響を受けやすかったと考えられる。

これは当時の旧石器人の居住行動にも影響を及ぼしたと考えられる。流れ山が点在する本遺跡一帯では、旧石器人は水の影響を受けやすい標高の低い低位のローム台地よりも、標高の高い丘陵部を選んで居住したと考えられる。その結果、今井見切塚遺跡・今井三騎堂遺跡など丘陵部の多田山に多数の旧石器遺跡が残され、偏在的な遺跡分布が形成されたと考えられる。



1区旧石器14号トレンチ礫密集部(北から)



2区旧石器20号トレンチ礫集中(西から)

(3) 今後の礫集中の調査に向けて

礫集中及び礫密集部は、礫群と同じような出土状況で検出されたものの石器の共伴は確認できなかった。このため、発掘段階でこれらが人為的な遺構か自然地形の痕跡かを判定することは困難であり、人為的な遺構(礫群)の可能性があると想定して調査を進めた。

本遺跡で検出されたこのような礫集中は、本遺跡以外にも流れ山周辺の低位のローム台地に存在していることが予想される。今後も流れ山の近くに立地する遺跡で旧石器調査を行えば、暗色帯相当層準で礫集中が検出される可能性が高い。

では、検出された場合、礫集中をどのように認識し調査を進めればよいのであろうか。

旧石器調査で礫集中が検出された場合、発掘段階で人為的な遺構か自然地形の痕跡かを判定し調査しなければならないが、実際には本報告で示したように発掘段階でそれを判定するのは難しい。人為的な遺構と積極的に判定できる根拠を持った出土状況であればよいが、そうではない出土状況の方が圧倒的に多いことが予想される。このため、発掘段階ですぐに人為的な礫群であると判定できないし、だからといってすべてが自然地形の痕跡であるとも判定できない。

さらに、次のような場合には礫集中の判定をより難しくするであろう。それは、本来は自然地形であった礫集中に、後から人為的な遺構である石器製作によるブロックが平面的に重複して上書きされた場合である。この場合、通常の旧石器調査であれば、礫集中は石器が共伴した人為的な礫群として調査されるはずである。つまり、本来は自然地形の礫集中であっても、石器が共伴した場

合には礫集中を人為的な礫群ではなく自然地形と判定することは現実的には困難なのである。本遺跡で検出された礫集中や礫密集部に石器や石器製作のブロックが仮に重複していたなら、人為的な遺構の礫群として判定したであろう。したがって、検出される礫集中には、自然地形の痕跡と判断できる場合もあれば、人為的な遺構の可能性を持つ場合もあると発掘段階で認識しておくことが必要である。

このような礫集中をめぐる認識を踏まえた上で、今後の旧石器調査で礫集中が検出された場合、発掘段階で必要なことは一旦は人為的な遺構として想定して調査することである。そして、その後の整理作業で出土状況や礫の属性を十分に検討してから、人為的な遺構か自然地形の痕跡かを最終的に判定すべきである。大切なのは、後に検証できるように出土状況に関する図面・写真、調査所見等を記録し、遺物を取り上げて調査し、整理作業で出土状況や礫の属性などを総合的に検討してから人為か自然営為かを判定し報告することである。

今後、多田山丘陵をはじめ流れ山の周辺部で旧石器調査が行われる場合、本遺跡のような出土状況を持つ礫集中が検出されることが十分予想される。人為的な遺構か自然地形の痕跡か判定の難しい礫集中が旧石器調査の途中で検出されたとしても、旧石器調査自体は滞りなく粛々と進めなければならない。そのための方策として、本報告書で示した内容が参考となるはずである。

第33表 旧石器遺物一覧表

No	図番号	区	出土位置	取上No	器種	石材	形状	表面の色調	表面	被熱痕	付着物	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	X座標	Y座標	標高
1		1	旧石器1号トレンチ	No1	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	割面	×	×	43	27	8	9	42672.27	-55773.83	112.53
2	318図 PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-001	ナイフ形石器	黒色安山岩				×	×	62	27	9	12.6	42692.03	-55733.03	112.45
3	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-002	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	88	80	54	263	42690.43	-55734.12	112.07
4	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-003	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR7/1明褐色	あばた状	×	×	64	47	41	79	42692.54	-55734.82	112.09
5	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-004	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR7/1明褐色	あばた状	×	×	41	38	28	37	42692.40	-55734.75	112.12
6	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-005	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	×	128	121	47	502	42694.11	-55737.46	112.10
7	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-006	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	104	61	43	169	42694.52	-55737.40	112.24
8	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-007	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	68	58	31	91	42690.75	-55735.96	112.09
9	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-008	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	79	57	38	138	42695.54	-55733.62	112.14
10	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-009	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	125	116	86	1188	42695.31	-55733.62	112.23
11	PL133	1	旧石器8号トレンチ	8tr-010	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	128	114	76	725	42695.29	-55733.22	112.24
12		1	旧石器14号トレンチ	分析No1	炭化物	PLD41002	針葉樹	AT直上炭化物								42722.14	-55718.83	112.35
13		1	旧石器14号トレンチ	分析No2	炭化物	PLD41003	針葉樹	AT直上炭化物								42722.07	-55718.51	112.40
14		1	旧石器14号トレンチ		炭化物SP3			AT直上炭化物								42721.97	-55718.58	112.38
15		1	旧石器14号トレンチ	分析No3	炭化物	PLD41004	マツ科	AT直上炭化物								42721.96	-55718.50	112.38
16		1	旧石器14号トレンチ	分析No4	炭化物	PLD41005	針葉樹	AT直上炭化物								42721.77	-55718.56	112.38
17		1	旧石器14号トレンチ		炭化物	炭化物										42721.15	-55718.00	112.46
18		1	旧石器14号トレンチ	サンプル1	炭化物											42733.88	-55707.51	112.91
19		1	旧石器14号トレンチ	サンプル2	炭化物											42733.87	-55707.45	112.89
20	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-001	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	×	134	94	53	590	42725.20	-55720.87	112.42
21	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-002	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	△	111	101	71	680	42725.29	-55720.93	112.49
22	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-003	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	△	90	75	52	263	42725.67	-55720.48	112.42
23	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-004	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	163	111	86	1296	42725.24	-55719.97	112.40
24	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-005	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	103	76	54	281	42725.15	-55719.78	112.62
25	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-006	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	128	89	67	548	42725.25	-55719.60	112.59
26	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-007	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	82	81	65	398	42725.55	-55719.70	112.43
27	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-008	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	58	46	44	96	42725.26	-55719.86	112.41
28	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-009	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	131	113	87	1211	42725.35	-55719.40	112.41
29	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-010	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	60	50	52	160	42725.31	-55719.32	112.40
30	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-011	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	60	54	38	104	42725.24	-55719.31	112.40
31	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-012	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/5褐色	あばた状	×	×	54	44	50	84	42725.24	-55719.31	112.40
32	PL133	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-013	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	×	140	98	82	848	42725.32	-55719.18	112.39
33	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-014	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	×	136	110	66	716	42725.15	-55719.00	112.39
34	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-015	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	△	112	80	66	457	42726.39	-55717.84	112.53
35	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-016	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR5/6明褐色	あばた状	×	△	81	75	56	311	42726.52	-55717.03	112.62
36	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-017	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	△	218	154	73	1598	42725.11	-55717.26	112.62
37	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-018	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR5/6明褐色	あばた状	×	△	126	117	63	565	42725.04	-55717.18	112.60
38	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張①	14tr-019	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	×	46	38	27	35	42725.08	-55717.45	112.46
39	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張②	14tr-020	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR5/6明褐色	あばた状	×	×	110	69	39	215	42721.01	-55715.71	112.46
40	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-021	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	63	51	40	115	42717.17	-55719.25	112.49
41	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-022	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	73	55	37	120	42717.50	-55718.88	112.47
42	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-023	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	66	50	45	129	42717.54	-55719.27	112.49
43	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-024	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	46	41	18	33	42717.56	-55719.51	112.51
44	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-025	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	76	66	50	195	42717.78	-55719.46	112.50
45	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-026	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	○	89	55	45	175	42718.16	-55719.22	112.41
46	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-027	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR3/4暗褐色	あばた状	×	○	146	169	59	1141	42718.35	-55719.03	112.40
47	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-028	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR3/4暗褐色	あばた状	×	○	90	66	52	196	42718.77	-55719.71	112.47
48	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-029	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR3/4暗褐色	あばた状	×	○	85	85	52	263	42718.83	-55719.77	112.43
49	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張③	14tr-030	礫	粗粒輝石安山岩	亜円礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	169	149	132	2825	42718.31	-55721.02	112.53
50	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-031	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/6褐色	あばた状	×	×	35	31	28	25	42721.25	-55721.31	112.45
51	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-032	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	50	46	30	49	42721.97	-55721.63	112.48
52	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-033	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	70	49	42	117	42722.23	-55721.52	112.48
53	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-034	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/3褐色	あばた状	×	×	59	42	31	58	42722.21	-55721.89	112.62
54	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-035	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1明褐色	あばた状	×	×	66	47	30	79	42722.06	-55722.26	112.50
55	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-036	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1明褐色	あばた状	×	×	58	47	27	47	42722.21	-55722.22	112.41
56	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-037	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	71	55	25	81	42722.62	-55721.21	112.46
57	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-038	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	96	75	21	288	42723.17	-55722.63	112.59
58	PL134	1	旧石器14号トレンチ拡張④	14tr-039	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	81	65	27	98	42723.19	-55722.79	112.60
59	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-040	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	57	39	34	47	42723.22	-55719.29	112.34
60	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-041	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	71	68	48	236	42723.17	-55719.31	112.31

第3章 調査の成果

No	図番号	区	出土位置	取上No	器種	石材	形状	表面の色調	表面	被熱痕	付着物	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	X座標	Y座標	標高
61	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-042	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	115	98	82	736	42723.08	-55719.41	112.35
62	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-043	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	75	73	55	223	42723.10	-55719.35	112.32
63	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-044	礫	粗粒輝石安山岩	亜円礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	165	104	97	1295	42723.07	-55719.26	112.31
64	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-045	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	97	56	55	340	42723.12	-55718.93	112.35
65	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-046	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	△	68	63	58	198	42723.01	-55719.34	112.36
66	PL134	1	旧石器14号トレンチ礫密集部	14tr-047	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	60	54	28	61	42723.00	-55719.24	112.37
67		1	旧石器14号トレンチ礫密集部	不明1	礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	42723.31	-55719.42	112.39
68		1	旧石器14号トレンチ礫密集部	不明2	礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	42723.12	-55719.40	112.69
69		1	旧石器14号トレンチ礫密集部	不明3	礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	42723.12	-55719.00	112.44
70		1	旧石器14号トレンチ礫密集部	不明4	礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	42723.00	-55719.02	112.43
71		1	旧石器14号トレンチ礫密集部	不明5	礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	42722.86	-55718.40	112.44
72		1	旧石器14号トレンチ礫密集部	不明6	礫	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	42722.66	-55718.10	112.43
73		1	旧石器14号トレンチ	分析No5	炭化物	PLD41010	針葉樹	AT直上炭化物	礫密集部サンプル20200122No1							42723.01	-55719.51	112.37
74		1	旧石器14号トレンチ	分析No6	炭化物	PLD41011	マツ科	As-BPG炭化物								42720.57	-55719.44	112.69
75		1	旧石器14号トレンチ	SP1	炭化物			AT直上炭化物								42721.15	-55717.98	112.45
76		1	旧石器14号トレンチ	SP2	炭化物			AT直上炭化物								42721.75	-55718.58	112.39
77		1	旧石器14号トレンチ	SP3	炭化物			AT直上炭化物								42721.94	-55718.52	112.39
78		1	旧石器14号トレンチ	SP4	炭化物			AT直上炭化物								42722.04	-55718.51	112.41
79		1	旧石器14号トレンチ	SP5	炭化物			AT直上炭化物								42721.97	-55718.60	112.39
80		1	旧石器14号トレンチ	SP6	炭化物			AT直上炭化物								42722.11	-55718.84	112.37
81		1	旧石器14号トレンチ	拡張SP1	炭化物			AT直上炭化物								42725.90	-55718.33	112.44
82		1	旧石器14号トレンチ	拡張SP2	炭化物			AT直上炭化物								42723.25	-55715.49	112.46
83	324図 PL134	2	旧石器19号トレンチ	一括	剥片	珪質頁岩				×	×	28	41	9	7.7	-	-	-
84		2	旧石器20号トレンチ	No1	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	152	140	132	2429	42842.39	-55624.80	113.65
85		2	旧石器20号トレンチ	No2	礫	粗粒輝石安山岩	亜角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	120	100	59	754	42842.02	-55625.41	113.73
86		2	旧石器20号トレンチ	No3	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	66	57	53	166	42841.93	-55625.29	113.69
87		2	旧石器20号トレンチ	No4	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	136	98	45	599	42842.24	-55625.22	113.70
88	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No5	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	244	203	58	4204	42841.80	-55625.76	113.69
89	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No6	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	155	128	66	1135	42841.59	-55625.66	113.69
90	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No7	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	85	80	46	269	42841.60	-55625.88	113.65
91	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No8	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	100	85	30	382	42841.62	-55625.77	113.68
92	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No9	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	80	55	36	152	42841.56	-55625.79	113.66
93		2	旧石器20号トレンチ	No10	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	103	63	24	161	42841.59	-55625.72	113.67
94	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No11	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	206	183	65	3178	42842.01	-55625.97	113.72
95	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No12	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	148	72	66	517	42841.92	-55626.12	113.70
96	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No13	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	168	144	60	1229	42841.67	-55625.99	113.68
97		2	旧石器20号トレンチ	No14	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	79	67	19	96	42841.56	-55625.97	113.68
98	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No15	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	95	55	45	182	42841.53	-55625.99	113.65
99	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No16	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	150	121	100	901	42841.49	-55626.13	113.74
100	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No17	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	155	156	56	1420	42841.48	-55626.14	113.69
101	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No18	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	162	104	53	798	42841.14	-55625.93	113.69
102	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No19	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	168	114	57	713	42841.24	-55625.95	113.69
103		2	旧石器20号トレンチ	No20	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	137	112	36	539	42841.41	-55625.88	113.67
104		2	旧石器20号トレンチ	No21	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR6/1褐色	断面	×	×	89	74	18	82	42841.31	-55626.00	113.67
105	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No22	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	104	73	48	251	42841.31	-55625.91	113.66
106	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No23	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	166	131	62	1738	42841.58	-55626.30	113.67
107	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No24	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	183	143	94	920	42841.38	-55626.22	113.66
108	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No25	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	247	223	98	2343	42841.17	-55626.16	113.65
109	PL135	2	旧石器20号トレンチ	No26	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	125	80	38	496	42841.44	-55626.32	113.63
110		2	旧石器20号トレンチ	No27	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	218	182	98	3483	42840.66	-55626.25	113.61
111		2	旧石器20号トレンチ	No28	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	256	254	83	4801	42841.57	-55627.07	113.78
112	PL135	2	旧石器22号トレンチ	SP1	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	181	132	84	1528	42832.71	-55660.24	113.86
113	PL135	2	旧石器22号トレンチ	SP2	礫	粗粒輝石安山岩	角礫	7.5YR4/4褐色	あばた状	×	×	122	95	66	572	42832.64	-55660.17	113.88
114	318図 PL133	1	1号溝	一括	剥片	黒曜石				×	×	38	13	4	2.6	-	-	-

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 目的と成果

多田山東遺跡における発掘調査の中で、1. テフラ分析、2. 放射性炭素年代測定、3. 樹種同定分析、4. 植物珪酸体分析の4種類の自然科学分析を委託した。以下、各分析の目的と得られた成果について簡単に記す。詳細なデータ・結果については第2節～第5節の分析報告を参照いただきたい。なお、各分析は発掘調査に伴って実施されたものであるため、第2節では旧石器8号トレンチを「旧石器トレンチ8」、旧石器14号トレンチを「旧石器トレンチ14」、旧石器16号トレンチを「北端旧石器トレンチ」、2区北12号溝SPI-I'を「2区12号溝SPA-A'」、3区12号溝SP0-0'を「3区12号溝SPD-D'」、第3節・第4節では竪穴建物を「住居」、旧石器14号トレンチを「14トレンチ」、第2節Ⅱ・第5節では3区の基本土層について、I②・I③層を「Ⅲ層」、I④層を「Ⅳ層」「Ⅴ層」、I⑤層を「Ⅵ層」、I⑥層を「Ⅶ層」、Ⅱ層を「Ⅷ層」、Ⅲ層を「Ⅸ層」と表記している。

#### 1. テフラ分析

本遺跡の調査が行われた令和元年度と令和2年度において、それぞれテフラ分析を実施した。

##### I. 令和元年度

**目的：**1区旧石器時代の確認調査中に実施した。層位や年代が不明な炭化物、礫群が検出されたことから地質調査を行って土層層序を記載するとともに、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を実施して、層位や年代などに関する資料を収集することになった。

**分析方法：**3地点において採取した18試料を対象に、テフラ検出分析を行って、資料に含まれるテフラ粒子の特徴の定性的把握を実施した。

**結果及び成果：**下位より始良Tn火山灰(AT, 約3万年前)、室田軽石を含む浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約2.4～2.9万年前)のうちの少なくとも5層、浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.5～

1.65万年前)などを検出することができた。発掘調査では、AT直下からAs-BP Group中にかけて複数の層準で炭化物が認められたが、本遺跡の礫群およびそれに伴う炭化物の層位は、As-BP Group最下部の室田軽石(MP)の直下にある。また、ナイフ形石器の出土層位は、MPとその上位のAs-BP Group構成層との間にあることがわかった。

##### Ⅱ. 令和2年度

**目的：**2区北、3区の発掘調査中に実施した。層位や年代が不明な土層や遺構が検出されたことから、野外調査(地質調査・試料採取)を実施して、土層やテフラ層の層序記載ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、示標テフラの検出同定を委託して実施した。

**分析方法：**3地点において採取した18試料を対象に、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出・同定を実施した。

**結果及び成果：**浅間火山軽石流期のテフラの包含層の上位に、下位より浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)の火山ガラス、榛名二ツ岳渋川テフラ層(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)に由来する可能性のある軽石、浅間Bテフラ層(As-B, 1108年)、浅間A軽石層(As-A, 1783年)などを認めることができた。発掘調査により2区および3区で検出された12号溝の層位は、As-Cより上位で、最終的にはHr-FA降灰後に埋没した可能性が指摘された。

#### 2. 放射性炭素年代測定

**目的：**1区10号竪穴建物、17号竪穴建物、21号竪穴建物、旧石器調査14号トレンチで出土した炭化物について、年代を明らかにするために、今回の測定を行った。

**分析方法：**計10点の試料について、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

**結果及び成果：**14号トレンチから出土した炭化材は、試料No.1(PLD-41002)が25911-25564 cal BP (93.62%)およ

び25428-25366 cal BP (1.83%)、試料No.2 (PLD-41003)が28298-27764 cal BP (95.45%)、試料No.4 (PLD-41004)が25678-25245 cal BP (95.45%)、試料No.6 (PLD-41005)が24153-23793 cal BP (95.45%)、遺物No.1 (PLD-41010)が22491-22265 cal BP (95.45%)、旧石器14号トレンチのVIb層出土の炭化材(PLD-41011)が25651-25215 cal BP (95.45%)であった。いずれも後期旧石器時代後半に相当する年代である。

10号竪穴建物出土の炭化材は、試料No.7 (PLD-41006)が1822-1715 cal BP (95.45%)であった。これは弥生時代後期に相当する。また、試料No.8 (PLD-41007)は1738-1693 cal BP (49.91%)および1668-1623 cal BP (45.54%)であった。これは弥生時代後期～古墳時代前期に相当する年代である。

17号竪穴建物出土の試料No.9 (PLD-41008)は、1242-1228 cal BP (3.96%)、1177-1174 cal BP (1.94%)、1170-1067 cal BP (89.54%)であった。これは、飛鳥時代～平安時代前期の年代である。

21号竪穴建物出土の試料No.10(PLD-41009)は、1175-1162 cal BP (11.07%)、1124-1049 cal BP (44.49%)、1035-975 cal BP (39.89%)であった。これは、奈良時代～平安時代前期の年代である。

以上の結果から、出土層位や遺構の年代と整合する成果が得られた。

### 3. 樹種同定分析

**目的:** 1区10号竪穴建物、17号竪穴建物、21号竪穴建物、旧石器14号トレンチで出土した炭化物について、樹種を明らかにするために、今回の分析を行った。

**分析方法:** 樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製VHX-D510)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

**結果及び成果:** 14号トレンチから出土した炭化材は、マツ科と分類群不明の針葉樹であった。10号竪穴建物出土の炭化材がクヌギ節とコナラ節、17号竪穴建物出土の炭化材がクヌギ節、21号竪穴建物出土の炭化材がヌルデで

あった。群馬県における弥生時代～古墳時代の建築部材としては、クヌギ節とコナラ節、クリが多く、平安時代にもクリとコナラ節、クヌギ節を主体とした広葉樹が多く利用されていたことが確認されている(伊東・山田編, 2012)。今回の分析結果は、当時における周辺地域の木材利用の傾向と類似していると推測される。

### 4. 植物珪酸体分析

**目的:** 3区西側の一部には、As-B混土層やAs-Bの一次堆積層が残存し、埋没土にAs-Bを含むものなど、黒褐色土(I④)中で検出した遺構も含まれていた。この黒褐色土中における稲作を検証するために、植物珪酸体分析を行った。

**分析方法:** 2ヶ所(1地点と2地点)で採取した試料について、植物珪酸体の産状を調べる。各試料を5g前後(湿重)で秤量する。次に過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2010)の分類を参考に同定・計数する。

**結果及び成果:** 3点の植物珪酸体含量は、1地点と2地点のIV層最上部で多く、1地点の試料番号1で146,800個/g、2地点の試料番号1で197,700個/gである。1地点のIV層最上部より下位(試料番号2)ではこれらの試料よりも少なく、50,100個/gである。

これらの結果から、1地点と2地点のIV層最上部で稲作が行われていた可能性が高いと判断できた。推定された生産量(kg/m<sup>2</sup>・cm)もヨシ属に次いで多く、検出された珪酸体や短細胞列は植物体の存在を示唆していることから、稲作の過程で土壌中に稲葉殻や葉部が混入した状況も示唆された。

## 第2節 テフラ分析

### I. 令和元年度

#### 1. はじめに

関東地方北西部に位置する伊勢崎市とその周辺には、浅間や榛名など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(tephra, 火山碎屑物, いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 2011など)に収録されており、考古遺跡などで調査分析を行ってテフラを検出することで、地形や地層の形成年代、さらには遺物や遺構の層位や年代の解明ができるようになってきている。

伊勢崎市多田山東遺跡における発掘調査でも、層位や年代が不明な石器や遺構などが検出されたことから、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を実施して、遺物遺構の層位や年代などに関する資料を収集することになった。調査分析の対象は、旧石器トレンチ8東壁、旧石器トレンチ8北壁、旧石器トレンチ14中・北部、北端旧石器トレンチ南壁、北端旧石器トレンチ北壁の5地点である。

#### 2. 調査分析地点の土層層序

##### (1)旧石器トレンチ8東壁(690・-730グリッド)

旧石器トレンチ8東壁では、本遺跡におけるいわゆるローム層の基本的土層断面を観察できた。ここでは、下位より灰色粘質土(層厚10cm以上, XI層)、青灰色岩片を少量含む暗灰褐色粘質土(層厚14cm, X層)、白色粘質細粒火山灰層(層厚2cm)、暗灰褐色粘質土(層厚1cm, IX層)、成層したテフラ層(層厚9cm, VIII層)、灰褐色土(層厚13cm, VII'層)。黄色細粒軽石を少し含む黄褐色土(層厚21cm, VII層)、炭化物混じりで黄色がかかった灰色砂質土(層厚14cm)、黄色砂質土(層厚24cm)、黄色土(層厚4cm, 以上VIa層)、砂混じり黄褐色土(層厚10cm)、白色細粒軽石混じり黄色土(層厚6cm, 軽石の最大径2mm)、やや黄色がかかった灰色土(層厚4cm, 以上V層)、黄色細

粒軽石混じり黄色土(層厚18cm, 軽石の最大径2mm)、黄白色軽石を多く含む黄色土(層厚14cm, 軽石の最大径18mm, 以上IV層)、やや黄色がかかった灰色土(層厚14cm, III層)が認められる(330図)。このうち、成層したテフラ層(VIII層)は、下位よりやや黄色がかかった白色粗粒火山灰層と、風化した黄色細粒軽石層(層厚6cm)からなる。

発掘調査では、VII層の中位付近からナイフ形石器が検出されている。

##### (2)旧石器トレンチ8北壁(690・-730グリッド)

旧石器トレンチ8北壁では、下位より灰色粘質土(層厚10cm以上, XI層)、暗灰褐色粘質土(層厚9cm)、灰色粘質土(層厚2cm)、暗灰褐色粘質土(層厚2cm, 以上X層)、上部が褐色をおびた灰白色細粒火山灰層(層厚10cm, IX層)、風化した橙褐色細粒軽石層(層厚8cm, 軽石の最大径2mm, VIII層)、灰褐色土(層厚11cm, VII'層)、黄橙色軽石に富む灰黄色粗粒火山灰層(層厚7cm, 軽石の最大径4mm)、黄橙色細粒軽石混じり褐色砂質土(層厚5cm)、炭化物や砂を含む暗灰褐色土(層厚4cm)、黄橙色細粒軽石混じり灰黄色粗粒火山灰層(層厚6cm, 軽石の最大径3mm, 以上VIb層)、黄色砂質土(層厚5cm以上, VIa層)が認められる(331図)。

##### (3)旧石器トレンチ14中・北部(720・-710グリッド)

炭化物の良い濃集が礫群とともに認められた旧石器トレンチ14中・北部では、下位より暗灰色粘質土(層厚3cm以上)、黄色粘質土(層厚2cm)、褐色粘質土(層厚4cm)、黒色炭化物層(層厚0.3cm)、白色粘質細粒火山灰層(層厚2~6cm)、灰色粘質土(層厚0.3cm)、風化した黄色軽石層(層厚9cm, 軽石の最大径3mm)、暗灰褐色土(層厚6cm)、炭化物を含みかすかに成層した橙灰色粗粒火山灰層(層厚17cm)、砂混じり黄褐色土(層厚15cm)、褐色土(層厚5cm以上)が形成されている(332図)。このうち、風化した黄色軽石層の直下では、部分的に炭化物の濃集が認められ、粗粒の礫群も同層準で検出されている。

##### (4)北端旧石器トレンチ南壁(730・-700グリッド)

北端旧石器トレンチ南壁では、下位より灰褐色粘質土(層厚10cm)、炭化物混じり灰色粘質土(層厚5cm)、黄色がかかった灰色凝灰質泥層(層厚3cm)、炭化物混じり灰色

粘質土(層厚2 cm)、風化した黄色軽石層(層厚6 cm、軽石の最大径2 mm)、灰褐色土(層厚5 cm、VII'層)、暗褐色土(層厚6 cm、VIII層)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚10 cm)、炭化物混じり褐色土(層厚4 cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚4 cm)、砂混じり褐色土(層厚5 cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚3 cm)、黄褐色砂質土(層厚1 cm)、黄灰色細粒軽石層(層厚4 cm、軽石の最大径2 mm)、黄褐色砂質土(層厚7 cm)、褐色土(層厚13 cm)、黄白色細粒軽石混じり黄色土(層厚2 mm)が認められる(333図)。

#### (5)北端旧石器トレンチ北壁(730・-700グリッド)

北端旧石器トレンチ北壁では、下位より、灰褐色粘質土(層厚9 cm)、かすかに成層した黄灰色粗粒火山灰層(層厚11 cm)、炭化物混じり褐色土(層厚2 cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚3 cm)、黄橙色細粒軽石層(層厚4 cm、軽石の最大径2 mm)が認められた(334図)。

### 3. テフラ検出分析

#### (1)分析試料

上述5地点において採取された試料33点を対象に、テフラ検出分析を行って、試料に含まれるテフラ粒子の特徴の定性的把握を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1)砂分の量に応じて試料5～8 gを秤量。
- 2)超音波洗浄により泥分を除去。
- 3)80℃で恒温乾燥。
- 4)実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

#### (2)分析結果

テフラ検出分析の結果を第34・35表に示す。旧石器トレンチ8東壁では、試料33に無色透明のバブル型ガラスが多く含まれている。この試料を境に、下位では磁鉄鉱など不透明鉱物を除く重鉱物(以降、重鉱物)として角閃石や斜方輝石が、上位では斜方輝石や単斜輝石が目立つ傾向にある。試料21～14には斜方輝石や単斜輝石が多く含まれており、ほかに淡褐色のスポンジ状軽石型ガラスや灰褐色の分厚い中間型ガラスが特徴的に含まれている。試料9や試料5には、淡灰色や無色透明の中間型ガラスが比較的多く、またfelsic鉱物が多く含まれている。

旧石器トレンチ8北壁では、試料4に無色透明のバブル型ガラスがとくに多く含まれている。それより上位で

は斜方輝石や単斜輝石が多く、とくに試料2には白色や灰色のスポンジ状軽石型ガラスが比較的多い。

旧石器トレンチ14中・北部では、試料2および試料2'に無色透明のバブル型ガラスが比較的多く含まれている。北端旧石器トレンチの南壁では、試料4～3に白色や灰白色のスポンジ状軽石型、試料2に灰褐色スポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。一方、北端の試料2および試料1では、量が少ないものの白色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスがやや目立つ。北端旧石器トレンチの試料に含まれる重鉱物は、斜方輝石や単斜輝石である。

### 4. 考察

#### (1)指標テフラとの同定

土層断面観察とテフラ検出分析の結果を合わせると、本遺跡には次のような指標テフラが降灰していると考えられる。

1)X層中に含まれる青灰色岩片：層位や岩相から、約3万年前<sup>\*1</sup>に榛名火山から噴出した榛名箱田テフラ、あるいはその下位に層位がある赤城火山から噴出した赤城小沼ラピリ(Ag-KLP, 守屋, 1968)の可能性はある。

2)IX層下部の白色細粒火山灰層：火山ガラスの色調や形態から、約2.8～3万年前に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2011)。本遺跡では層厚に違いがあるが、もっとも厚い旧石器トレンチ14中・北部の火山灰層に含まれる火山ガラスの含有率はさほどでもなく、ほとんどの地点で認められるものは水成二次堆積物と思われる。その中で、旧石器トレンチ8北壁のそれは非常に高く、ATの一次堆積層の可能性が高い。この地点における層厚は4 cmである。

3)VIII層の成層した軽石質テフラ層：風化が進むこのテフラ層は、層位や岩相、重鉱物組成などから、約2.9～2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 2016, 2019など)の一部と考えられる。そこで、このテフラ層を仮にBPt-1と呼ぶことにする。このテフラは、ATとの層位関係や高温型石英を含むことなどから、As-BP Groupの最下位にある室田軽石(MP, 約2.9万年前, 森山, 1972, 早田, 2016, 2019など)に同定される可能性が非常に高い。

4)VIb層中の軽石質テフラ層：本遺跡では、4層準に粗

粒火山灰層や細粒軽石層が認められる。そのうち、最下位のテフラ層がもっとも厚い。これらのテフラ層中には、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれているほか、灰褐色のスポンジ状軽石型ガラスや中間型ガラスが特徴的に認められる。これらのテフラ層はMP以外のAs-BP Groupに対応するものと考えられ、下位よりBPt-2～5と呼ぶことにする。なお、VIa層最上部の明色土中にも、As-BP Groupの最上部付近のテフラの降灰層準があるのかも知れない。

5) V層最上部の白色細粒軽石：この土層中には、淡灰色や無色透明の中間型ガラスや白色の細粒スポンジ状軽石型ガラスが含まれている。重鉱物の組み合わせを合わせると、このテフラは、約2万年前に浅間火山から噴出した浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996, 町田・新井, 2011, 早田, 2019など)の可能性もある。ただし、ここでは軽石が白色を呈することを考慮して、約2.2万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984, 町田・新井, 1992, 早田, 2019など)の可能性を指摘しておく。

6) IV層中の黄色細粒軽石：土層中には、淡灰色や無色透明の中間型ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。以上のことから、この土層にはAs-0k Groupが含まれている可能性が高い。

7) IV層上部の軽石質テフラ：軽石の岩相や層位、さらに火山ガラスの特徴や重鉱物の組み合わせから、約1.5～1.65万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2011, 早田, 2019など)と考えられる。

## (2) 遺物および遺構などの層位

発掘調査により、旧石器トレンチ8のVII層から検出されたナイフ形石器は、As-BP GroupのうちのMPと、その上位のテフラとの間に層位がある。この石器の土層は、赤城南麓とその周辺で、AT上位の暗色帯とも呼ばれているものである。一方、旧石器トレンチ14で検出された礫群に伴う炭化物の濃集層は、ATより上位で、MPに直接覆われている。石器に関しては、現段階において原位置が不明なことから、周辺での調査による石器と遺構などの層位関係の解明が期待される。

このほか、AT直下やBPt-2とBPt-3の間で炭化物を認め

ることができた。とくにATより上位の炭化物は、群馬県内の広い範囲でも認められることから、その成因に関する今後の調査分析を期待したい。また、As-BP Groupについては、給源に近接した地域で、火山ガラスや斜方輝石の屈折率特性をもとにテフラ層区分が実施されていることから(早田ほか, 2016)、今後、同様の分析測定を行って、As-SrやAs-0k Groupなどとの同定精度向上と合わせて、詳細な対応関係が解明されると良い。

## 5. まとめ

多田山東遺跡において、地質調査を行って土層やテフラの層序を記載するとともに、テフラ分析(テフラ検出分析)による指標テフラの検出同定を実施した。その結果、下位より始良Tn火山灰(AT, 約3万年前)、室田軽石を含む浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約2.4～2.9万年前)のうちの少なくとも5層、浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.5～1.65万年前)などを検出することができた。発掘調査では、AT直下からAs-BP Group中にかけて複数の層準で炭化物が認められたが、礫群およびそれに伴う炭化物の層位は、As-BP Group最下部の室田軽石(MP)の直下にある。また、ナイフ形石器の層位は、MPとその上位のAs-BP Group構成層との間にあることがわかった。

### 文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス-日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺(第2刷)」, 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 守屋以智雄(1968)赤城火山の地形と地質。前橋宮林局, 53p.
- 森山昭雄(1971)榛名火山東・南山麓の地形-とくに軽石流の地形について-。地理学報告, No.36・37, p.107-116.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒斑～前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, no.7, p.256-267.
- 早田 勉(2016)浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)の層序と前橋泥堆積物の層位。平成28年度岩宿フォーラム講演要旨集, p.6-14.
- 早田 勉(2019)北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化。令和元年度岩宿フォーラム講演要旨集, p.19-25.
- 早田 勉・下岡順直・若井明彦(2016)浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)に含まれる火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性に関する新資料。平成28年度岩宿フォーラム講演要旨集, p.15-19.

第34表 テフラ検出分析結果

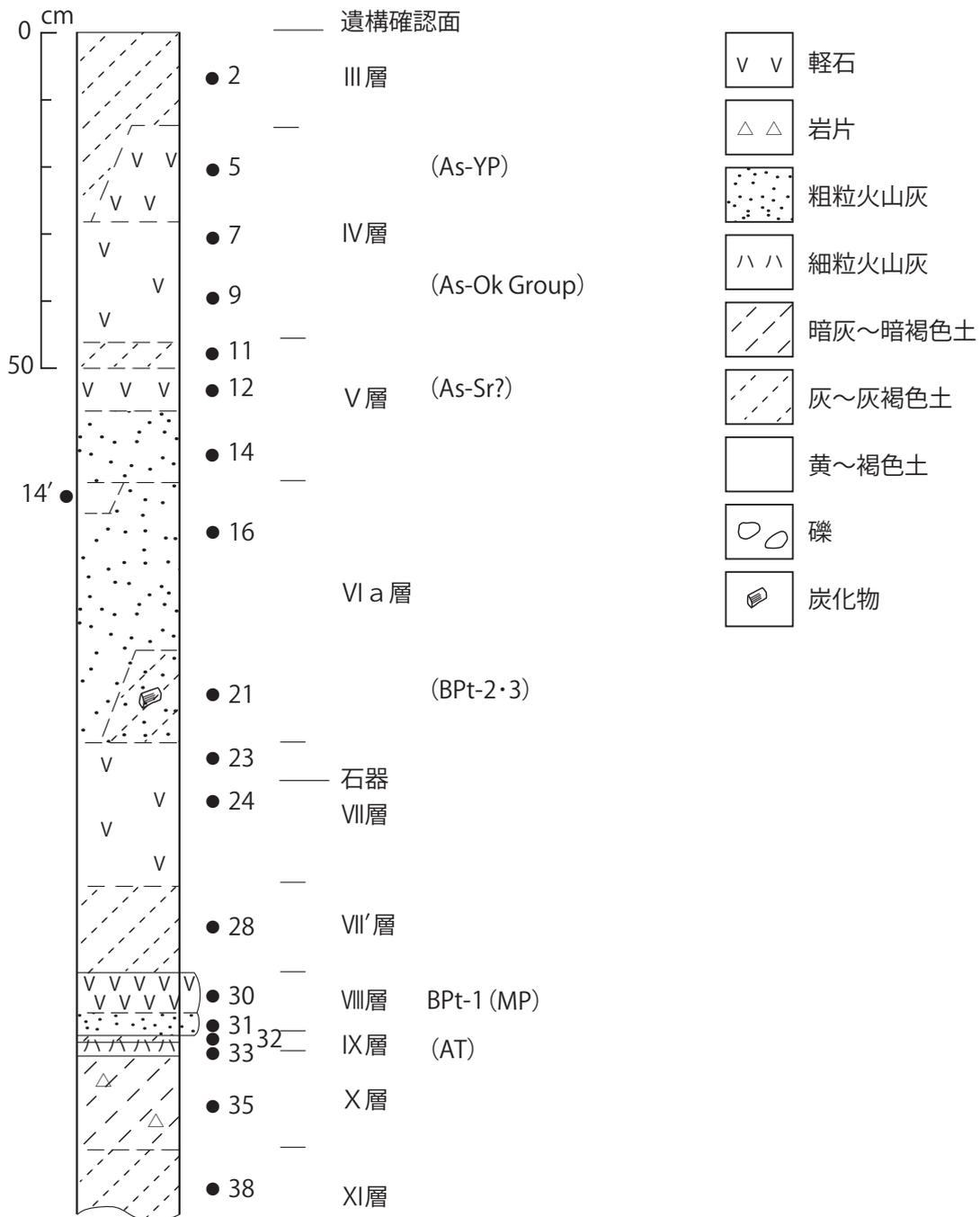
地点(グリッド)		軽石・スコリア		火山ガラス		おもな重鉱物 (不透明鉱物以外)	
試料	量	色調	最大径	量	形態	色調	
旧石器トレンチ8東壁(690・-730)							
2	*			*	md	無色透明	opx, cpx
5	**			**	md	無色透明, 淡灰	opx, cpx
7	*			*	md	淡灰, 無色透明	opx, cpx
9	**			**	md	淡灰, 無色透明	opx, cpx
11	*			*	md > pm(sp)	淡灰, 無色透明, 灰褐	opx, cpx
12	*			*	md > pm(sp)	淡灰, 無色透明, 灰褐, 白	opx, cpx
14	*			*	pm(sp) > md	淡褐, 灰褐	opx, cpx
14'	(*)			(*)	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明	opx, cpx
17	*			*	pm(sp) > md	淡褐, 灰褐	opx, cpx
21	(*)			(*)	md	灰褐	opx, cpx
23							opx, cpx
24	(*)			(*)	bw	無色透明	opx, cpx
28							opx, cpx
30	(*)			(*)	pm(sp)	灰	opx, cpx, (am)
31	**			**	bw > md	無色透明, 淡灰	opx, cpx, am
32	*			*	bw	無色透明	opx, cpx, am
33	***			***	bw	無色透明	(am, opx, cpx)
35							am, opx
38							am, opx

\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): 非常に少ない, 最大径の単位: mm.  
 bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石.  
 重鉱物の( )は, 量が少ないことを示す.

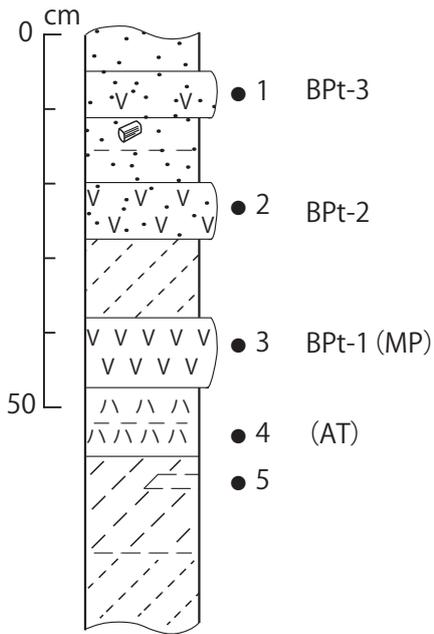
第35表 テフラ検出分析結果

地点(グリッド)		軽石・スコリア		火山ガラス		おもな重鉱物 (不透明鉱物以外)	
試料	量	色調	最大径	量	形態	色調	
旧石器トレンチ8北壁(690・-730)							
1	(*)			(*)	md	灰褐	opx, cpx
2	**			**	pm(sp)	白, 灰白	opx, cpx
3	(*)			(*)	md	灰	opx, cpx
4	***			***	bw	無色透明	
5							am, opx, cpx
旧石器トレンチ14(720・-710)							
1	**			**	bw	無色透明	opx, cpx
2	**			**	bw	無色透明	(opx, cpx, am)
2'	**			**	bw	無色透明	(opx, am)
北端旧石器トレンチ南壁(730・-700)							
1	(*)			(*)	pm(sp)	灰褐, 灰白	opx, cpx
2	**			**	pm(sp)	灰褐, 白, 灰白	opx, cpx
3	*			*	pm(sp), md	白, 灰白, 灰褐	opx, cpx
4	**			**	pm(sp) > md	白, 灰白, 灰褐	opx, cpx
北端旧石器トレンチ北壁(730・-700)							
1	*			*	pm(sp), md	白, 灰褐	opx, cpx
2	(*)			(*)	pm(sp) > md	白, 灰白, 灰褐	opx, cpx

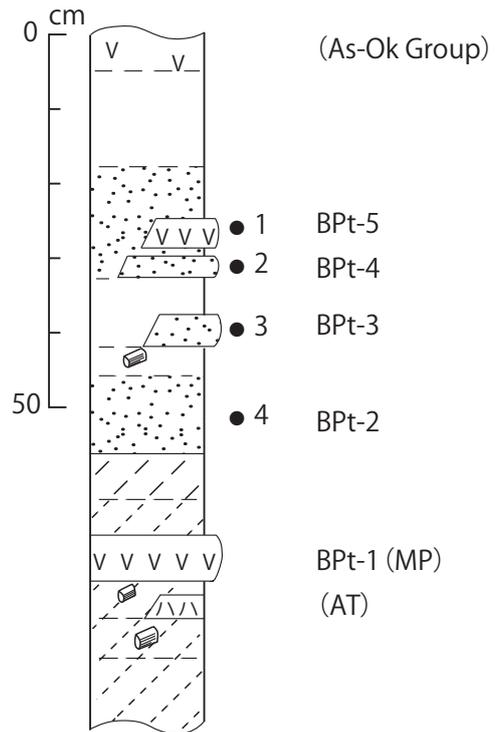
\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): 非常に少ない, 最大径の単位: mm.  
 bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石.  
 重鉱物の( )は, 量が少ないことを示す.



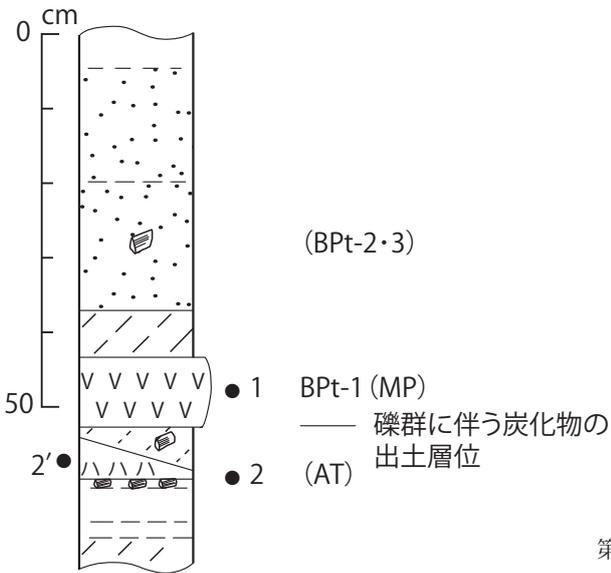
第330図 旧石器トレンチ 8 (690・-730グリッド)東壁の土層柱状図  
 ●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.



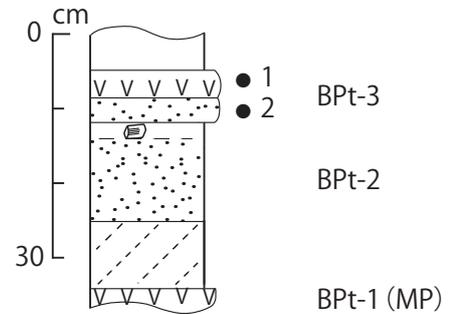
第331図 旧石器トレンチ8 (690・-730グリッド)北壁の土層柱状図  
●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.



第333図 北端旧石器トレンチ(730・-700グリッド)南壁の土層柱状図  
●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.



第332図 旧石器トレンチ14(720・-710グリッド)の土層柱状図  
●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.



第334図 北端旧石器トレンチ(730・-700グリッド)北壁の土層柱状図  
●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.

多田山東遺跡自然科学分析写真図版1

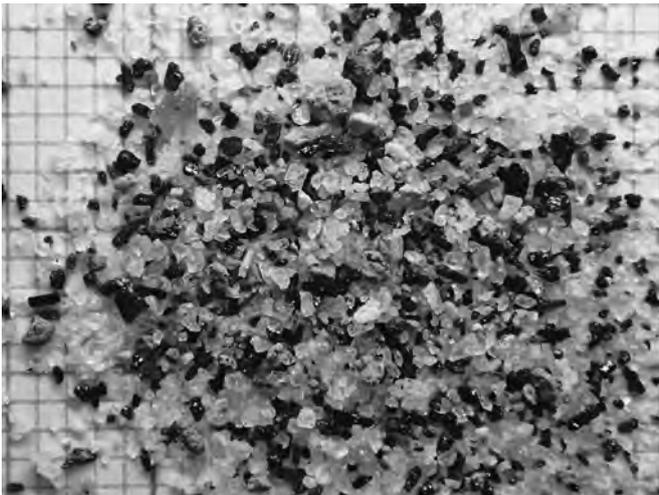


写真1 旧石器トレンチ8東壁・試料5(落射光)  
多くのfelsic鉱物、斜方輝石および単斜輝石のほかに、無色透明や淡灰色の中間型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。

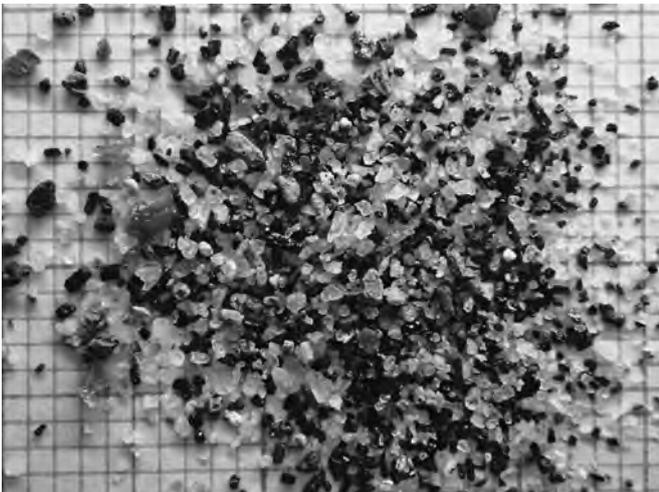


写真2 旧石器トレンチ8東壁・試料9(落射光)  
felsic鉱物や斜方輝石および単斜輝石のほかに、無色透明や淡灰色の中間型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。



写真3 旧石器トレンチ8東壁・試料12(落射光)  
斜方輝石および単斜輝石のほかに、無色透明や淡灰色の中間型ガラス、白色のスポンジ状軽石型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。

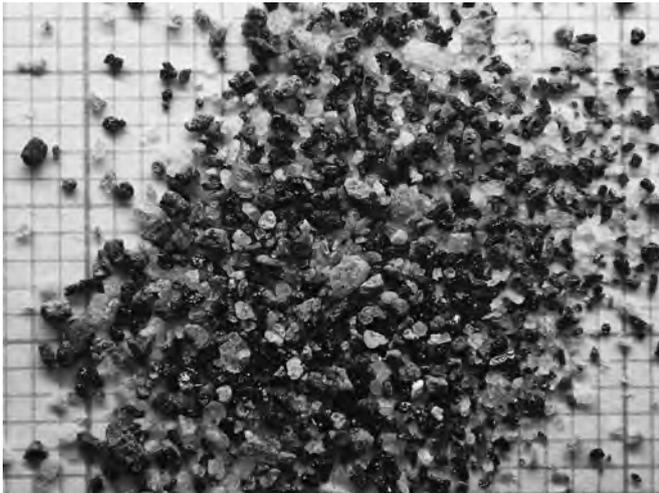


写真4 旧石器北端トレンチ南壁・試料1(落射光)  
多くの斜方輝石および単斜輝石のほかに、灰褐色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。

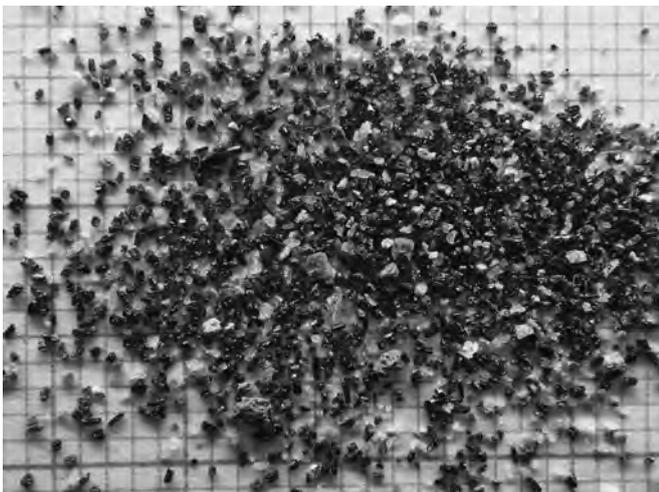


写真5 旧石器北端トレンチ南壁・試料2(落射光)  
多くの斜方輝石および単斜輝石のほかに、白色、灰白色、灰褐色のスポンジ状軽石型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。

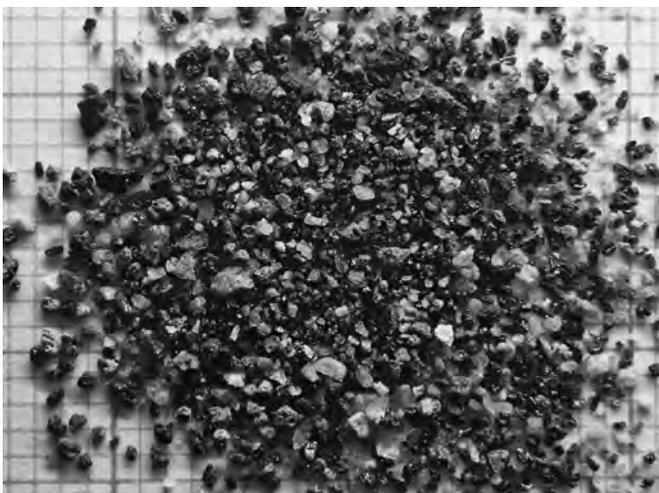


写真6 旧石器北端トレンチ南壁・試料3(落射光)  
多くの斜方輝石および単斜輝石のほかに、白色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラス、灰褐色の中間型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。

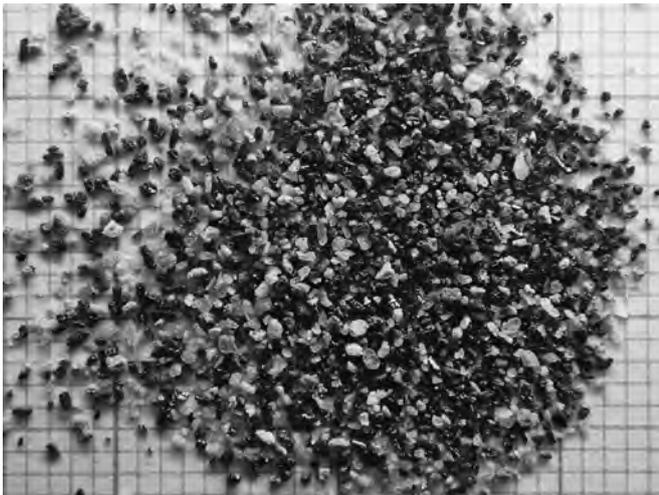


写真7 旧石器北端トレンチ8・試料4(落射光)  
多くの斜方輝石および単斜輝石のほかに、白色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスが含まれている。背後は1mmメッシュ。

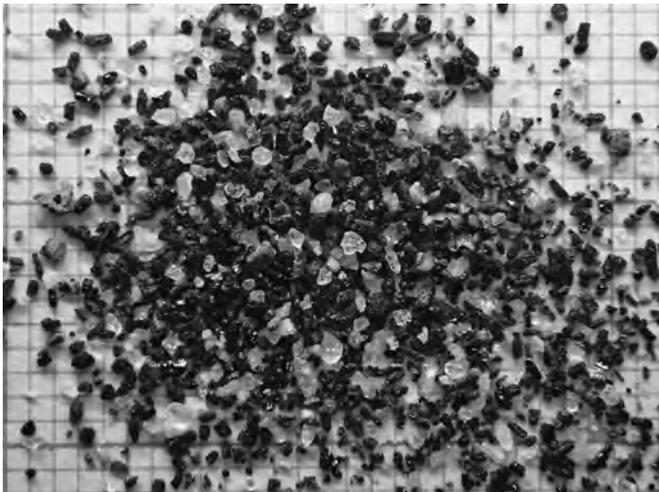


写真8 旧石器トレンチ8東壁・試料30(落射光)  
斜方輝石および単斜輝石のほかに、灰色のスポンジ状軽石型ガラスや高温型石英が含まれている。背後は1mmメッシュ。

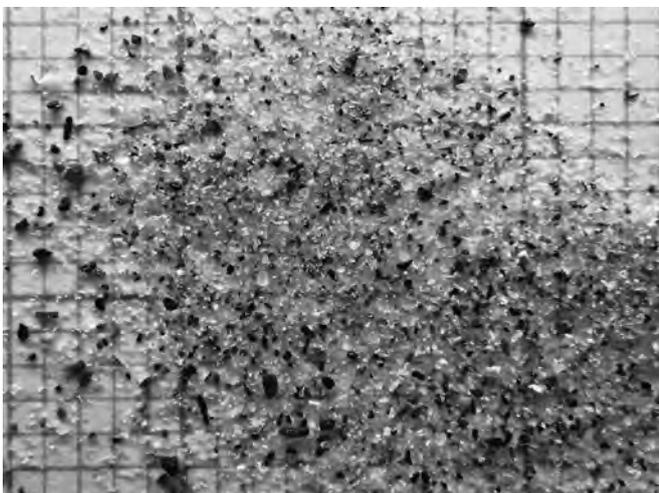


写真9 旧石器トレンチ8北壁・試料4(落射光)  
無色透明のバブル型ガラスがとくに多く含まれている。背後は1mmメッシュ。

## II. 令和2年度

### 1. はじめに

関東地方北西部に位置する赤城山南麓とその周辺には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山碎屑物、火砕物)が多く降灰している。とくに、後期更新世遺構に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的な特徴がテフラカタログ(たとえば町田・新井, 2011)などに収録されており、考古遺跡などでテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明確な指標テフラを検出することで、遺物包含層や遺構の年代などに関するデータを得られるようになっている。

伊勢崎市多田山東遺跡の発掘調査においても、層位や年代が不明な土層や遺構が検出されたことから、野外調査(地質調査・試料採取)を実施して、土層やテフラ層の層序記載ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、示標テフラの検出同定を実施した。調査分析対象地点は、3区基本土層、2区12号溝SPA-A'、3区12号溝SPD-D'の3地点である。

### 2. 調査分析地点の土層層序

#### (1) 3区基本土層

3区基本土層は、下位よりわずかに黄色がかかった灰色土(層厚3cm以上, IX層)、暗灰褐色土(層厚8cm, VIII層)、灰白色軽石を多く含む黒灰色土(層厚9cm, VII層)、粗粒の白色軽石を含む黄色細粒火山灰層(層厚4cm, 軽石の最大径13mm, VI層)、粗粒の白色軽石混じり暗灰褐色土(層厚23cm, 軽石の最大径49mm, IV・V層)、成層したテフラ層(レンズ状, 最大層厚4.5cm, III層)、灰褐色土(層厚8cm)、灰白色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、灰褐色土(層厚3cm, 以上I層)、灰褐色土(層厚25cm, 表土)からなる(第335図)。

このうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層(層厚0.5cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)、桃色細粒火山灰層(層厚2cm)からなる。

#### (2) 2区12号溝SPA-A'

2区12号溝SPA-A'では、下位よりわずかに黄色がかかった灰色土(層厚10cm以上)、暗灰褐色土(層厚6cm, IX層)が認められる(第336図)。その上位に12号溝が造られており、溝は黄灰色軽石や白色軽石を含む暗灰褐色土(層厚17cm, 軽石の最大径7mm)で覆われている。さらに、その上位には、白色軽石混じりで黄灰色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚9cm, 軽石の最大径11mm, VII層)、褐色粗粒火山灰を多く含む灰褐色土(層厚17cm, I層)、灰褐色土(層厚12cm, 表土)が認められる。

#### (3) 3区12号溝SPD-D'

3区12号溝SPD-D'では、下位より暗灰褐色土(層厚7cm)、黄灰色の粗粒火山灰を含む黒灰褐色土(層厚6cm, IX層)が認められる(第337図)。その上位に12号溝が造られており、溝は黄灰色軽石を少し含む暗灰褐色土(層厚17cm, 軽石の最大径3mm)で覆われている。さらに、その上位には、白色軽石混じりで黄灰色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚12cm, 軽石の最大径9mm, VIII層)、粗粒の白色軽石混じり暗灰色土(層厚14cm, 軽石の最大径17mm, V層)、灰色粗粒火山灰層(レンズ状, 最大層厚4cm, IV層)、やや灰色がかかった褐色砂質土(層厚5cm)、炭化物混じり灰色土(層厚34cm, 以上表土)が認められる。

### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

上述した3地点において採取された18試料を対象に、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出・同定を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 砂分の含有率に応じて試料3~6gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第36表に示す。本遺跡におけるテフラ検出分析の結果、次の4種類の軽石や火山ガラスを検出できた。

タイプa：破片状や塊状の分厚い中間型ガラスで、色調

は淡灰色、淡褐色、無色透明である。

タイプb：無色透明の繊維束状軽石型ガラス。

タイプc：灰白色のスポンジ状軽石型ガラス。斑晶に斜方輝石や単斜輝石を含む。

タイプd：白色やわずかに灰色をおびた白色の軽石(最大径10.1mm)やスポンジ状軽石型ガラス。斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

タイプe：淡灰色の軽石(最大径3.9mm)や、淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型ガラス。斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

タイプf：わずかに灰色がかった白色のスポンジ状や繊維束状の軽石型ガラス。

3区基本土層のうち、試料7にはタイプaやタイプbの火山ガラスが少量含まれている。また、試料6～3にはタイプcの火山ガラス、試料4および試料3にはタイプdの軽石や火山ガラス、試料2および試料1にはタイプeの軽石や火山ガラス、そして試料1にはタイプfの火山ガラスが認められる。

2区12号溝SPA-A'では、試料7～3にタイプcの火山ガラス、試料6～3にはタイプdの軽石や火山ガラス、さらに試料1にはタイプeの軽石や火山ガラスが含まれている。また、3区12号溝SPD-D'では、試料10にタイプaの火山ガラス、試料10～3にタイプcの火山ガラス、試料9～3にタイプdの軽石や火山ガラス、さらに試料1にはタイプeの軽石や火山ガラスが含まれている。

#### 4. 考察

##### (1) テフラ層およびテフラ粒子の示標テフラとの同定

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、タイプaの火山ガラスは、その検出層位や特徴などから、約2万年前の浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group, 中沢ほか, 1984, 早田, 2019など)や、約1.5～1.65万年前の浅輪板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2011など)で代表される浅間火山軽石流期(荒牧, 1968)のテフラに由来する可能性が高い。また、タイプbの火山ガラスは、層位や特徴などから、As-YPに関係するものと推定される。タイプcの火山ガラスは、岩相から、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010, 町田・新井, 2011)と考えら

れる。

タイプdの軽石や火山ガラスは、岩相やその産出層準に角閃石が認められることから、6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)や、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)に由来すると推定される。

3区基本土層断面で認められたテフラ層(VI層, 試料4)は、その層相からHr-FAと考えられるが、それより上位のV層やIV層に含まれる、より粗粒の白色軽石については、Hr-FPの可能性も否定できない。赤城山南麓において、Hr-FPの一次堆積層はまだ認められていないことから、その層相の特徴把握をもとに、同定精度を向上させる必要がある。

タイプeの軽石や火山ガラスは、岩相や層位から、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ層(荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。したがって、3区基本土層のIII層(試料2)や3区12号溝SPD-D'のIV層(試料1)は、As-Bと考えられる。3区基本土層のI層中の細粒火山灰層(試料1)については薄層のために試料の純度がやや低く、As-Bの混入も認められるが、層位、層相、含まれる火山ガラスの特徴から、1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)と考えられる。

##### (2) 遺構の層位について

2区および3区で検出された12号溝は、As-C包含層(IX層)の上位である。また、覆土中に比較的細粒の榛名系テフラ粒子(タイプd)のテフラが混在しており、Hr-FAの一次堆積層は認められない。したがって、溝の構築はAs-C降灰後でHr-FA降灰前の可能性もあるが、最終的な溝の埋没はHr-FA降灰後と推定される。

#### 5. まとめ

伊勢崎市多田山東遺跡において、野外調査(地質調査・試料採取)とテフラ分析(テフラ検出分析)を実施した。その結果、浅間火山軽石流期のテフラの包含層の上位に、下位より浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)の火山ガラス、榛名二ツ岳渋川テフラ層(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛

第4章 自然科学分析

名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)に由来する可能性のある軽石、浅間Bテフラ層(As-B, 1108年)、浅間A軽石層(As-A, 1783年)などを認めることができた。発掘調査により2区および3区で検出された12号溝の層位は、As-Cより上位で、最終的にはHr-FA降灰後に埋没した可能性が指摘される。

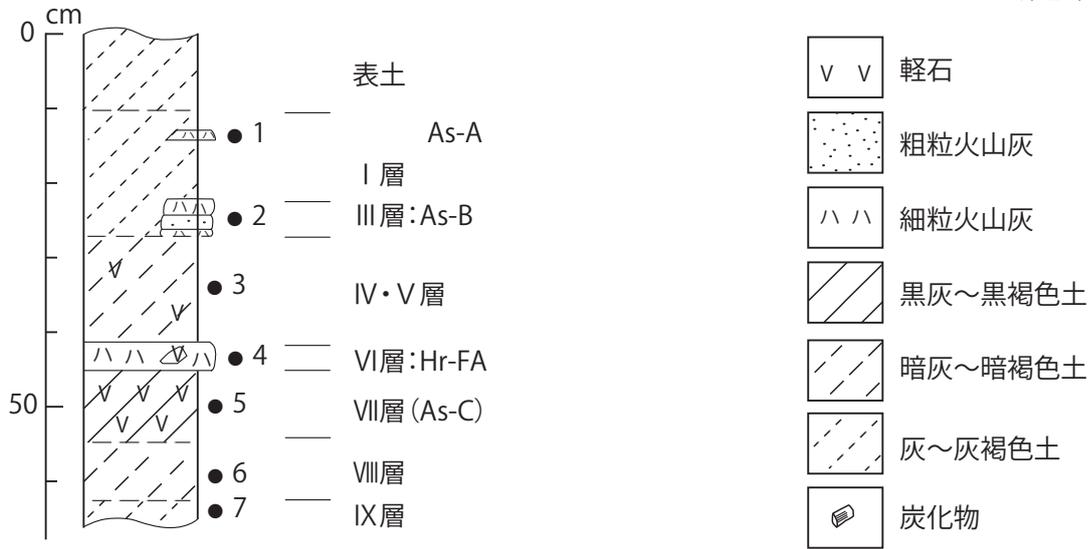
文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.  
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.  
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no.14, p.1-45.  
 町田 洋・新井房夫(2011)新編火山灰アトラス(第2刷). 東京大学出版会, 336p.  
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒斑～前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.  
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.  
 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係—. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.  
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.  
 早田 勉(2019)北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化. 令和元年度岩宿フォーラム講演要旨集, p.19-25.

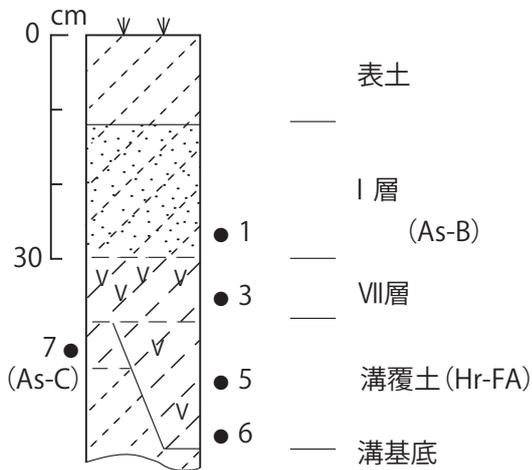
第36表 テフラ検出分析結果

地点名	軽石・スコリア			火山ガラス			おもな重鉱物 (不透明鉱物以外)
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
3区基本土層	1	**		pm(sp,fb)	淡灰,(灰)白	opx,cpx	
	2	(*)	2.3mm	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐	opx,cpx	
	3	**		pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,(am)	
	4	**	5.3mm,5.5mm	pm(sp)	白,(灰)白	am,opx	
	5	*		pm(sp)	灰白	opx,cpx	
	6	(*)		pm(sp)	灰白	opx,cpx	
	7	*		md,pm(fb)	無色透明,淡灰	opx,cpx	
2区12号溝SPA-A'	1	(*)	2.1mm	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐	opx,cpx	
	3	*	4.2mm	pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,am	
	5	*		pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,(am)	
	6	**		pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,am	
	7	(*)		pm(sp)	灰白	opx,cpx	
	1	(*)	3.9mm	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐	opx,cpx	
	3	(*)	2.2mm	pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,am	
3区12号溝SPD-D'	5	(*)	10.1mm	pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,am	
	7	(*)	2.2mm	pm(sp)	灰白,白	opx,cpx,am	
	9	(*)	2.1mm	pm(sp)	白,灰白	opx,cpx,am	
	10	(*)		pm(sp),md	灰白,淡灰,淡褐	opx,cpx	

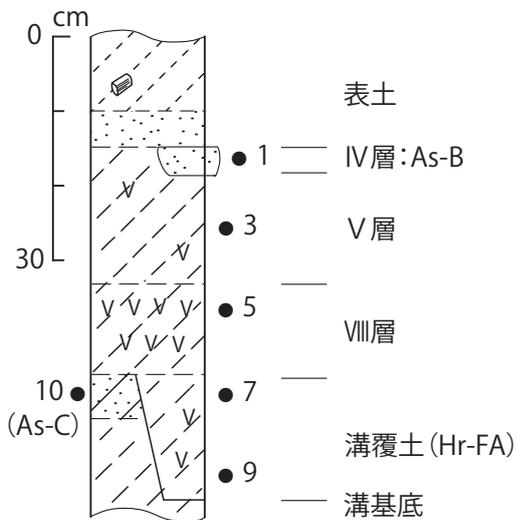
\*\*\*\*:とくに多い, \*\*\*:多い, \*\*:中程度, \*:少ない, (\*):非常に少ない.  
 bw:バブル型, pm:軽石型, md:中間型, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, am:角閃石.  
 重鉱物の( )は, 量が少ないことを示す.



第335図 3区基本土層の総合柱状図  
 ●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.



第336図 2区12号溝SPA-A'の土層柱状図  
 ●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.



第337図 3区12号溝SPD-D'の土層柱状図  
 ●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析の試料番号.

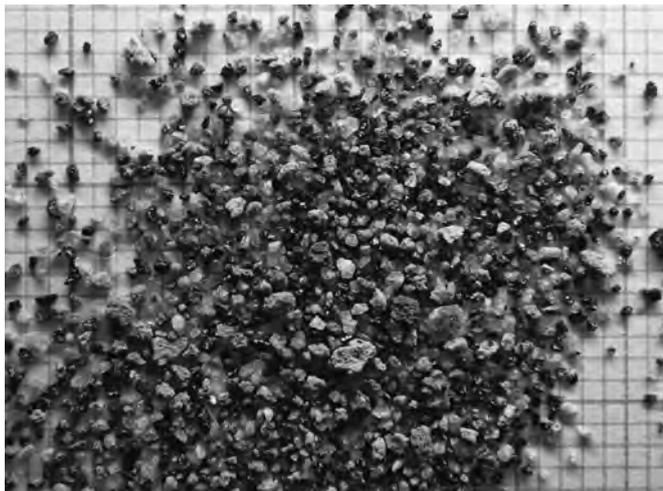


写真10 3区基本土層・試料2(落射光)  
As-B. 少量の淡灰色軽石のほか、とくに多くの淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型ガラスを含む。重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。背後は1mmメッシュ。

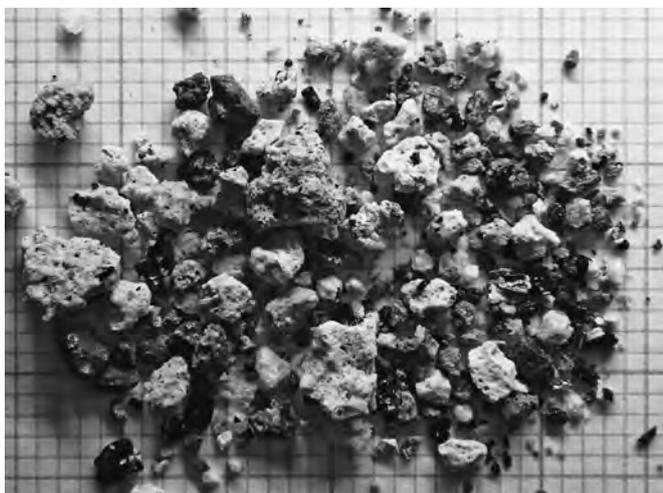


写真11 3区基本土層・試料4(落射光)  
Hr-FA. 白色やわずかに灰色をおびた白色の軽石やスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物には、角閃石や斜方輝石が認められる。背後は1mmメッシュ。

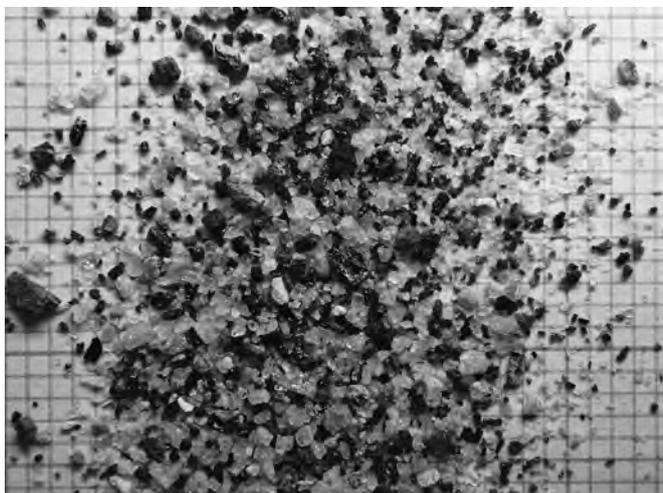


写真12 2区12号溝SPA-A'・試料6(落射光)  
As-C・Hr-FAが混在。灰白色や白色のスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物には、斜方輝石、単斜輝石角閃石が認められる。背後は1mmメッシュ。

## 第3節 放射性炭素年代測定

### 1. はじめに

伊勢崎市の多田山東遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。なお、同じ試料を用いて樹種同定も行われている(樹種同定の項参照)。

### 2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第37表のとおりである。14トレンチの旧石器の層位から出土した炭化材4点(試料No.1、2、4、6:PLD-41002~41005)とVIb層から出土した炭化材が1点(試料No.現地取上:PLD-41011)、1区の10号住居跡から出土した炭化材が2点(試料No.7、8:PLD-41006、41007)、17号住居跡から出土した炭化材が1点(試料No.9:PLD-41008)、21号住居跡から出土した炭化材が1点(試料No.10:PLD-41009)、その他に遺物No.1とされる炭化材が1点(PLD-41010)の、合計10点である。住居跡は弥生時代もしくは古代の遺構と推測されている。なお、炭化材は10点とも最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

### 3. 結果

第38表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{14}\text{C}$ 年代、暦年較正結果を、第338図と第339図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$ 年代(yrBP)の算出には、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$

年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその $^{14}\text{C}$ 年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い( $^{14}\text{C}$ の半減期 $5730\pm 40$ 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$ 年代の暦年較正には0xCal14.4(較正曲線データ: IntCal20)を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}\text{C}$ 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

### 4. 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち $2\sigma$ 暦年代範囲(確率95.45%)に着目して、時期別に結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については小林(2009)を参照した。

14トレンチの旧石器の層位から出土した炭化材は、試料No.1(PLD-41002)が25911-25564 cal BP (93.62%) および25428-25366 cal BP (1.83%)、試料No.2(PLD-41003)が28298-27764 cal BP (95.45%)、試料No.4(PLD-41004)が25678-25245 cal BP (95.45%)、試料No.6(PLD-41005)が24153-23793 cal BP (95.45%)、遺物No.1(PLD-41010)が22491-22265 cal BP (95.45%)、14トレンチのVIb層出土の炭化材(PLD-41011)が25651-25215 cal BP (95.45%)であった。いずれも後期旧石器時代後半に相当する年代である。

10号住居跡出土の炭化材は、試料No.7(PLD-41006)が1822-1715 cal BP (95.45%)であった。これは弥生時代後期に相当する。また、試料No.8(PLD-41007)は1738-1693 cal BP (49.91%) および1668-1623 cal BP (45.54%)であった。これは弥生時代後期~古墳時代前期に相当する年代である。

17号住居跡出土の試料No.9(PLD-41008)は、1242-1228 cal BP (3.96%)、1177-1174 cal BP (1.94%)、

第4章 自然科学分析

1170-1067 cal BP (89.54%)であった。これは、飛鳥時代～平安時代前期の年代である。

21号住居跡出土の試料No.10(PLD-41009)は、1175-1162 cal BP (11.07%)、1124-1049 cal BP (44.49%)、1035-975 cal BP (39.89%)であった。これは、奈良時代～平安時代前期の年代である。

なお、木材は最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。今回の試料はいずれも最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。

引用・参考文献

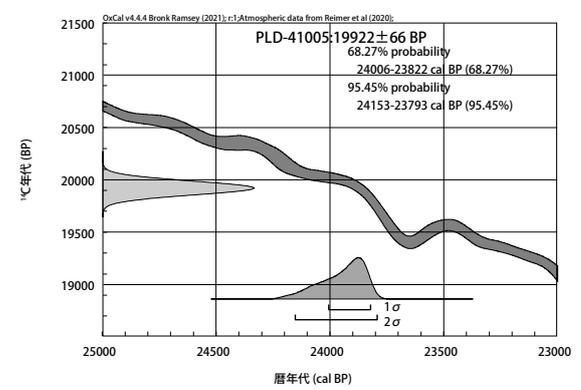
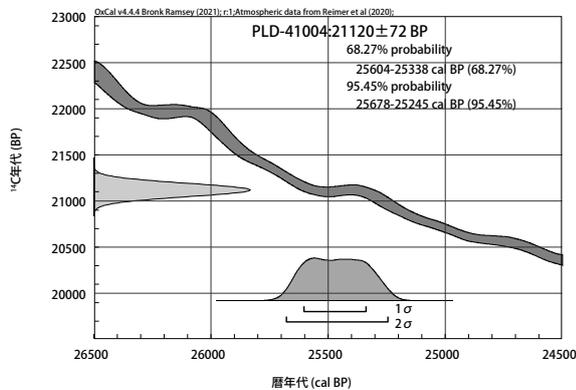
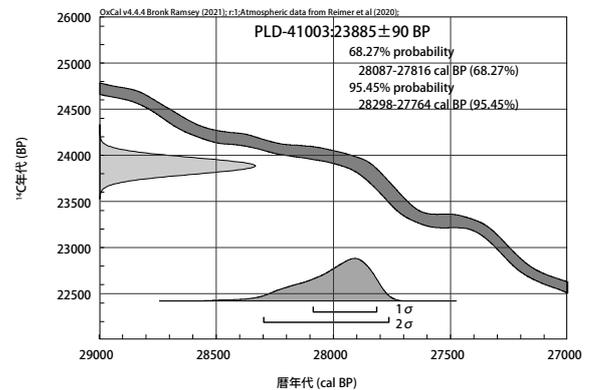
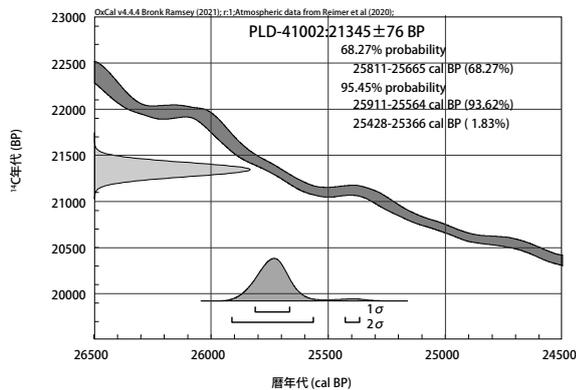
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.  
 小林謙一(2009)近畿地方以東の地域への拡散.西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」:55-82,雄山閣.  
 中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」:3-20,日本第四紀学会.  
 Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第37表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41002	遺構:14トレンチ グリッド:720-710 試料No.1	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41003	遺構:14トレンチ グリッド:720-710 試料No.2	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41004	遺構:14トレンチ グリッド:720-710 試料No.4	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41005	遺構:14トレンチ グリッド:720-710 試料No.6	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41006	遺構:10号住 調査区:1区 試料No.7	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41007	遺構:10号住 調査区:1区 試料No.8	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41008	遺構:17号住 調査区:1区 試料No.9	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41009	遺構:21号住 調査区:2区 試料No.10	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41010	遺物No.1 その他:20200122	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)
PLD-41011	遺構:14トレンチ 試料No.現地取上 層位:VIb層	種類:炭化物・材 試料の性状:最終形成年輪以外部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L)

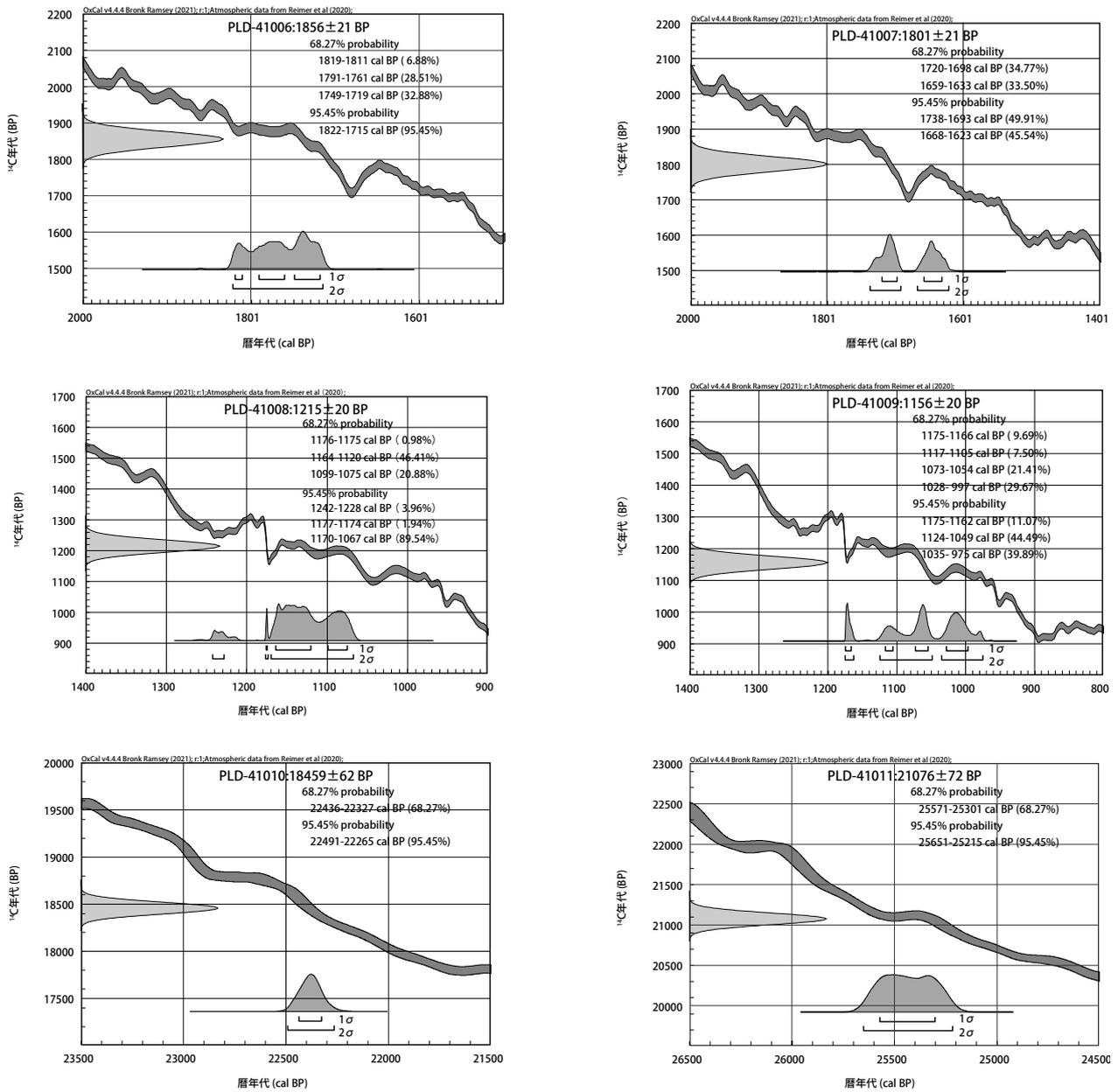
第38表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した暦年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-41002 試料No.1	-26.11 $\pm$ 0.21	21345 $\pm$ 76	21350 $\pm$ 80	25811-25665 cal BP (68.27%)	25911-25564 cal BP (93.62%) 25428-25366 cal BP (1.83%)
PLD-41003 試料No.2	-26.43 $\pm$ 0.20	23885 $\pm$ 90	23890 $\pm$ 90	28087-27816 cal BP (68.27%)	28298-27764 cal BP (95.45%)
PLD-41004 試料No.4	-28.35 $\pm$ 0.19	21120 $\pm$ 72	21120 $\pm$ 70	25604-25338 cal BP (68.27%)	25678-25245 cal BP (95.45%)
PLD-41005 試料No.6	-27.02 $\pm$ 0.23	19922 $\pm$ 66	19920 $\pm$ 70	24006-23822 cal BP (68.27%)	24153-23793 cal BP (95.45%)
PLD-41006 試料No.7	-27.69 $\pm$ 0.22	1856 $\pm$ 21	1855 $\pm$ 20	1819-1811 cal BP (6.88%) 1791-1761 cal BP (28.51%) 1749-1719 cal BP (32.88%)	1822-1715 cal BP (95.45%)
PLD-41007 試料No.8	-27.81 $\pm$ 0.21	1801 $\pm$ 21	1800 $\pm$ 20	1720-1698 cal BP (34.77%) 1659-1633 cal BP (33.50%)	1738-1693 cal BP (49.91%) 1668-1623 cal BP (45.54%)
PLD-41008 試料No.9	-26.71 $\pm$ 0.16	1215 $\pm$ 20	1215 $\pm$ 20	1176-1175 cal BP (0.98%) 1164-1120 cal BP (46.41%) 1099-1075 cal BP (20.88%)	1242-1228 cal BP (3.96%) 1177-1174 cal BP (1.94%) 1170-1067 cal BP (89.54%)
PLD-41009 試料No.10	-25.95 $\pm$ 0.17	1156 $\pm$ 20	1155 $\pm$ 20	1175-1166 cal BP (9.69%) 1117-1105 cal BP (7.50%) 1073-1054 cal BP (21.41%) 1028-997 cal BP (29.67%)	1175-1162 cal BP (11.07%) 1124-1049 cal BP (44.49%) 1035-975 cal BP (39.89%)
PLD-41010 遺物No.1	-33.92 $\pm$ 0.17	18459 $\pm$ 62	18460 $\pm$ 60	22436-22327 cal BP (68.27%)	22491-22265 cal BP (95.45%)
PLD-41011 試料No.現地取上	-25.44 $\pm$ 0.21	21076 $\pm$ 72	21080 $\pm$ 70	25571-25301 cal BP (68.27%)	25651-25215 cal BP (95.45%)



第338図 暦年較正結果(1)

第4章 自然科学分析



第339図 暦年較正結果(2)

## 第4節 樹種同定分析

### 1. はじめに

伊勢崎市の多田山東遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

### 2. 試料と方法

試料は、14トレンチの旧石器時代の層位から出土した炭化材4点(分析No. 1、2、4、6)と、同じく14トレンチのVIb層から出土した炭化材(分析No.12)、古代および弥生時代の住居跡に伴う炭化材4点(分析No. 7~10)、その他に遺物No. 1(分析No.11)の、合計10点である。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VHX-D510)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

### 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のマツ科と、分類群不明の針葉樹、広葉樹のコナラ属クヌギ節(以下、クヌギ節)、コナラ属コナラ節(以下、コナラ節)、ヌルデの5分類群が確認された。結果を表1に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1)マツ科 Pinaceae 図版1 1a-1c(No.4)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部は狭い。状態が悪く、分野壁孔と放射仮道管は確認できなかった。樹脂道を有するため、カラマツ属かトウヒ属、マツ属のいずれかであると思われる。

(2)針葉樹 Coniferous wood 図版1 2a-2c(No.11)

仮道管と放射組織を有する針葉樹である。状態が悪く、樹脂道の有無や分野壁孔などは確認できなかった。

(3)コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版1 3a-3c(No.8)、4a(No.9)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が、単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアバマキがある。材は重硬および強韌で、加工困難である。

(4)コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 5a-5c(No.7)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

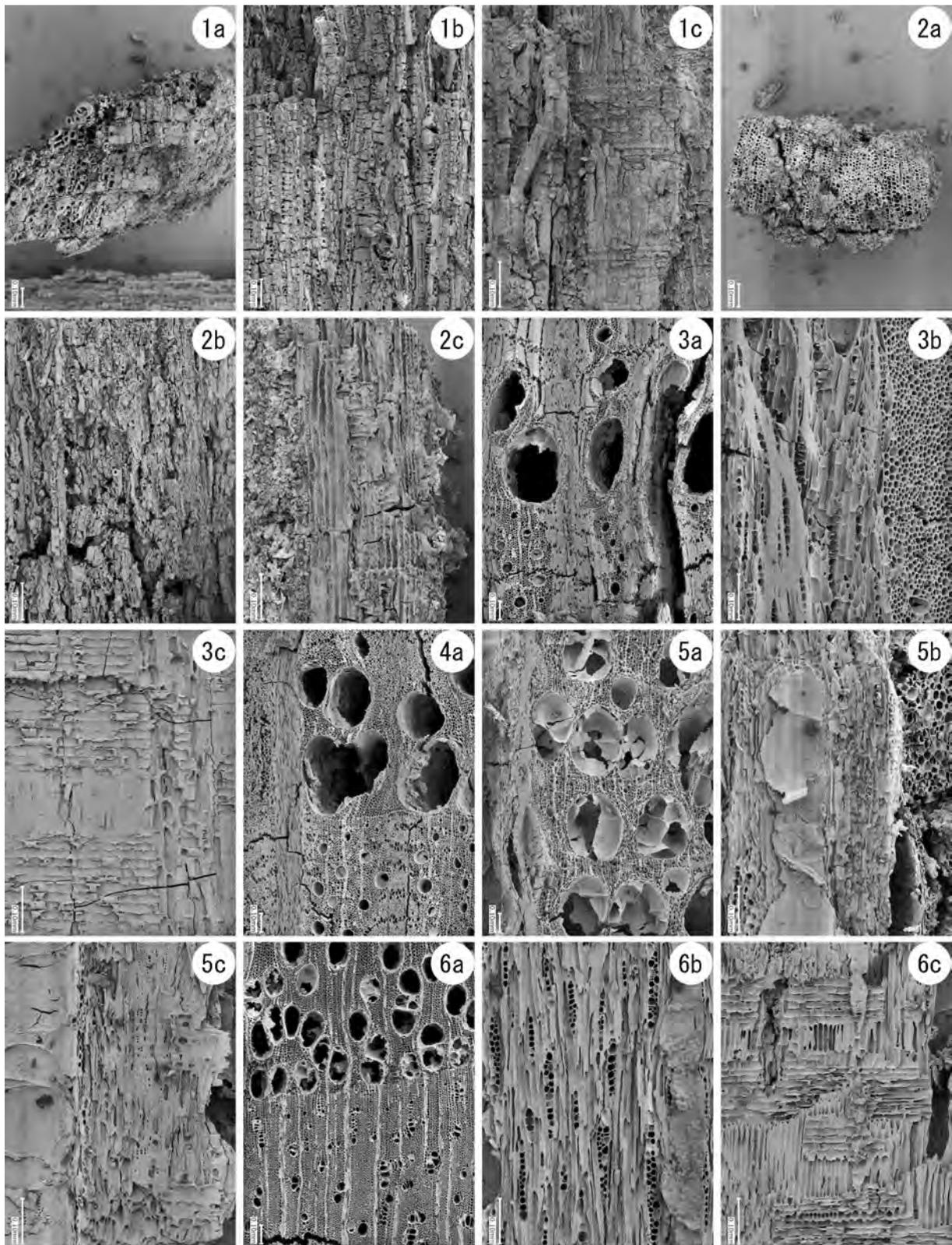
コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(5)ヌルデ *Rhus javanica* L. var. *chinensis* (Mill.) T.Yamaz. ウルシ科 図版1 6a-6c(No.10)

大型の道管が、年輪のはじめに単独もしくは数個複合して配列する半環孔材である。晩材部では道管の大きさが徐々に減じ、年輪の終わりでは小道管が集団をなして

第39表 樹種同定結果

分析No.	グリッド・調査区	位置/遺構	層位	備考	番号	樹種	年代測定番号
1	720-710	14トレンチ	旧石器		一括	針葉樹	PLD-41002
2	720-710	14トレンチ	旧石器		一括	針葉樹	PLD-41003
4	720-710	14トレンチ	旧石器		一括	マツ科	PLD-41004
6	720-710	14トレンチ	旧石器		一括	針葉樹	PLD-41005
7	1区	10号住	-		一括	コナラ属コナラ節	PLD-41006
8	1区	10号住	-		一括	コナラ属クヌギ節	PLD-41007
9	1区	17号住	-		一括	コナラ属クヌギ節	PLD-41008
10	2区	21号住	-		一括	ヌルデ	PLD-41009
11	-	-	-	20200122	No.1	針葉樹	PLD-41010
12	-	14トレンチ	VIb	-	-	マツ科	PLD-41011



図版1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. マツ科(No.4)、2a-2c. 針葉樹(No.11)、3a-3c. コナラ属クヌギ節(No.8)、4a. コナラ属クヌギ節(No.9)、  
5a-5c. コナラ属コナラ節(No.7)、6a-6c. ヌルデ(No.10)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

接線状～斜線状に配列する。道管の穿孔は単一である。放射組織は平伏細胞と直立細胞が混在する異性で、1～3列幅である。

ヌルデは熱帯から温帯に分布する落葉高木である。材は、耐朽性および保存性はあまり高くないが、吸水しにくく、切削および加工が容易である。

#### 4. 考察

旧石器時代の層位から出土した炭化材4点は、マツ科と分類群不明の針葉樹であった。また、14トレンチのVIb層の炭化材はマツ科、その他の遺物No. 1は針葉樹であった。これらの炭化材は、年代測定の結果、2.0～2.6万年前で後期旧石器時代後半の暦年代を示した。工藤(2012)によると、この暦年代は、環境史の分類でいうとMIS 2のLGM Cold-1(約24,000～28,000 cal BP)とLGM Cold-2(約15,000～24,000 cal BP)に相当する。この時期は最終氷期で、もっとも寒冷な気候であり、関東平野にはトウヒ属やマツ属単維管束亜属、カラマツ属などからなる針葉樹が主体の植生が広がっていたと推測されている。今回同定されたマツ科は、カラマツ属かトウヒ属、マツ属であると思われるため、周辺地域の植生とも整合的である。

住居跡の試料では、10号住居跡出土の炭化材がクヌギ節とコナラ節、17号住居跡出土の炭化材がクヌギ節、21号住居跡出土の炭化材がヌルデであった。なお、年代測定の結果では、10号住居跡出土の炭化材が弥生時代後期～古墳時代前期、17号住居跡と21号住居跡出土の炭化材が奈良時代～平安時代前期の暦年代を示した。群馬県で確認されている弥生時代～古墳時代の建築部材ではクヌギ節とコナラ節、クリが多く、平安時代にもクリとコナラ節、クヌギ節を主体とした広葉樹が多く利用されている(伊東・山田編, 2012)。今回は各遺構の分析点数が少ないため、遺構ごとおよび時期別の特徴や傾向は明確ではないが、周辺地域の木材利用の傾向と類似していると推測される。

引用・参考文献

平井信二(1996)木の百科. 394p, 朝倉書店.

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

工藤雄一郎(2012)旧石器・縄文時代の環境文化史：高精度放射性炭素年代測定と考古学. 373p, 新泉社.

## 第5節 植物珪酸体分析

### 1. はじめに

群馬県伊勢崎市赤堀今井町内に所在する多田山東遺跡では、弥生時代後期から中世にかけての集落跡が確認されている。また、発掘調査において浅間Bテフラ(新井, 1979: 以下As-B)の降灰層が確認され、その直下に水田耕作土とされる土層が認められた。

本分析調査では、3区で確認された水田耕作土での稲作を検証するために、層位的、空間的に採取された土層を対象として、植物珪酸体分析を行う。

### 2. 試料

3区の土層は、I層～IX層に区分される。このうち、III層はAs-Bとされ、土色や粒径でIII 1層とIII 2層に細分される。この直下に、水田耕作土とされるIV層が見られる。IV層は黒褐色を呈し、白色粒子などが含まれ、固く締まる。

試料は、2ヶ所(1地点と2地点)で採取された。1地点では、III層直下のIV層最上部(試料番号1)およびその下位(試料番号2)、2地点ではIV層最上部(試料番号1)が、それぞれ1点ずつ採取された。分析に際しては、これら3点を用いた。

### 3. 分析方法

各試料について、植物珪酸体の産状を調べる。各試料を5g前後(湿重)で秤量する。次に過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレパラートで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2010)の分類を参考に同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作

成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を計量し、堆積物 1 g あたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物 1 g あたりの個数に換算)を求めると、結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。この際、100個以下は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸める(100単位にする)。なお、今回は杉山(2000)を参考として主な分類群の推定生産量(kg / m<sup>2</sup>・cm)を求める。推定生産量は機動細胞珪酸体の含量(個/g)に土壤の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体 1 個体当たりの植物体乾重;単位:10<sup>-5</sup> g)をかけて、面積 1 m<sup>2</sup>で層厚 1 cm当たりの植物体の生産量を求めたものである。分類群の換算係数は、イネ属(赤米の地上部)が 2.94、キビ連(ヒエ属として)が8.4、メダケ属(ネザサ節として)が0.48、ヨシ属が6.31、ススキ属が1.24を用いる。この結果も表中に併記する。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

#### 4. 結果

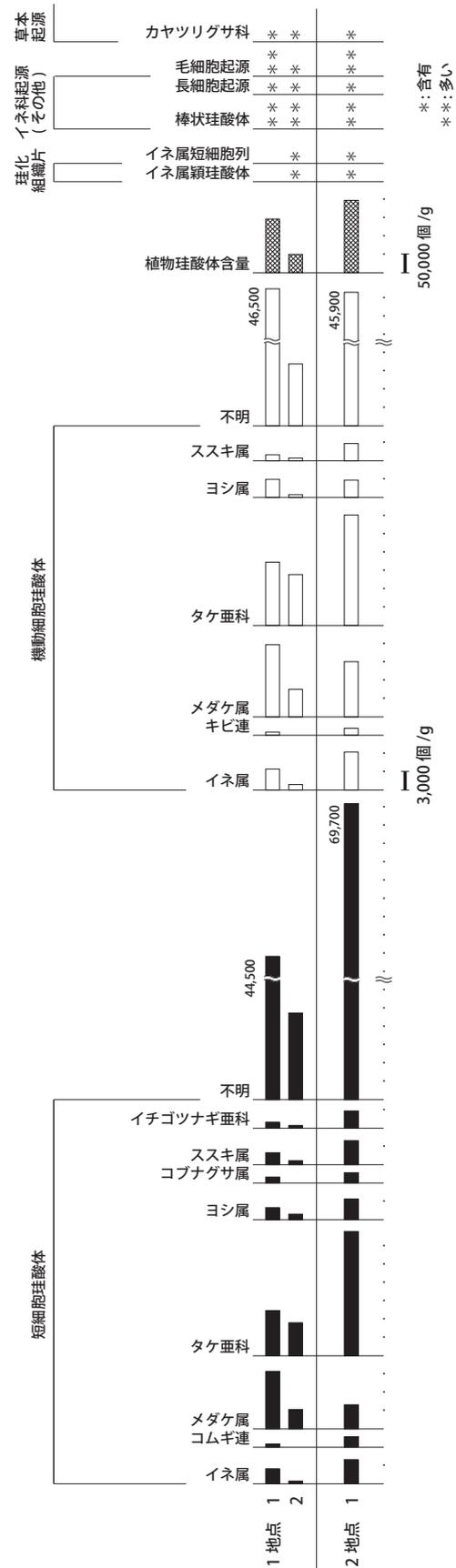
結果を第40表と第340図に示す。各試料から検出された植物珪酸体の保存状態は、概ね良好である。

3点の植物珪酸体含量は、1地点と2地点のIV層最上部で多く、1地点の試料番号1で146,800個/g、2地点の試料番号1で197,700個/gである。1地点のIV層最上部より下位(試料番号2)ではこれらの試料よりも少なく、50,100個/gである。

各試料からは、栽培植物であるイネ属が産出し、概して機動細胞珪酸体の含量が多い。また、その含量は層位的、空間的にばらつきが見られる。すなわち、1地点の試料番号1では短細胞珪酸体の含量が2,500個/g、機動細胞珪酸体が3,500個/g、下位の試料番号2では短細胞珪酸体の含量が500個/g、機動細胞珪酸体が900個/g、2地点の試料番号1が1地点の試料よりも多く、短細胞珪酸体の含量が4,000個/g、機動細胞珪酸体が6,200個/gである。また1地点の試料番号2と2地点の試料番号1では籾殻(穎)に形成される穎珪酸体や葉部の短細胞列も検出される。

栽培種を含む分類群であるキビ連やコムギ連も、IV層最上部に当たる1地点の試料番号1と2地点の試料番号1より産出する。

この他にメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、



第340図 3区での植物珪酸体群集の層位的・空間的な変化  
 乾土 1g あたりの個数で示す。

第40表 3区の植物珪酸体含量

分類群	(個/g)		
	1地点		2地点
	1	2	1
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	2,500	500	4,000
コムギ連	500	-	1,700
メダケ属	9,400	3,200	4,000
タケ亜科	7,400	5,400	20,400
ヨシ属	2,000	900	3,400
コブナグサ属	1,000	-	1,700
ススキ属	2,000	700	4,000
イチゴツナギ亜科	1,000	500	2,800
不明	44,500	14,200	69,700
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	3,500	900	6,200
キビ連	500	-	1,100
メダケ属	11,900	4,500	9,100
タケ亜科	10,400	8,300	18,100
ヨシ属	3,000	500	2,800
ススキ属	1,000	500	2,800
不明	46,500	10,200	45,900
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	70,200	25,300	111,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	76,600	24,800	86,100
植物珪酸体含量	146,800	50,100	197,700
機動細胞珪酸体含量を基にした単位面積(層厚1cm)当たりの			
植物体生産量(単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm)			
イネ属	1.02	0.27	1.83
キビ連	0.41	-	0.95
メダケ属	0.57	0.22	0.43
ヨシ属	1.87	0.28	1.79
ススキ属	0.12	0.06	0.35
珪化組織片			
イネ属穎珪酸体	-	*	*
イネ属短細胞列	-	*	*
イネ科起源(その他)			
棒状珪酸体	**	**	**
長細胞起源	*	*	*
毛細胞起源	**	*	**
草本起源			
カヤツリグサ科	*	*	*

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

-: 未検出, \*: 含有, \*\*: 多い

イチゴツナギ亜科などが見られる。この中では、タケ亜科の含量が多い。なお主な分類群の推定生産量(kg/m<sup>2</sup>・cm)は、イネ属が0.27~1.83、キビ連が0.41~0.95、メダケ属が0.22~0.57、ヨシ属が0.28~1.87、ススキ属が0.06~0.35である。なお、コムギ連は機動細胞珪酸体が形成されないために、生産量の推定には至らない。またイネ科起源(棒状珪酸体,長細胞起源,毛細胞起源)も多く見られるものの、由来となった分類群は明確にならない。他の草本類として、カヤツリグサ科も検出される。

## 5. 考察

### (1) 稲作について

3区の土層断面で見られたAs-B直下のIV層最上部では、1地点と2地点のいずれからでもイネ属が産出した。安定した稲作が行われた水田跡の土壌では、栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壌中に蓄積され、植物珪酸体含量(植物珪酸体密度)が高くなる。水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(機動細胞由来)が試料1g当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている(杉山,2000)。ただし、3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例も有り、これを判断の基準とする場合もある(株式会社古環境研究所,2007)。これらの事例と比較すれば、1地点と2地点のIV層最上部では稲作が行われていた可能性が高いと言える。推定された生産量(kg/m<sup>2</sup>・cm)もヨシ属に次いで多く、耕作に伴って植物体が土層中に混入したことがうかがえる。検出された穎珪酸体や短細胞列は植物体の存在を示唆しており、稲作の過程で土壌中に混入した稲穀殻や葉部に由来すると思われる。なお、1地点よりも2地点でイネ属の含量が多いが、植物珪酸体含量の総数も2地点で多い点を考慮すれば、1地点よりも植物珪酸体が蓄積しやすかったことが想定される。その要因には、生産量や耕作期間、堆積環境の違いが考えられる。また、1地点ではIV層最上部の下位の試料でもイネ属が産出した。IV層最上部の時期より前にも水田耕作が行われていた可能性が考えられるが、IV層最上部に比して含有量が少ないことから、生産量が少ない、耕作期間が短かったことが推定される。

栽培種を含む分類群であるキビ連やコムギ連も、IV層最上部で産出した。これらが栽培種に由来するものであ

れば、周辺でキビやムギの仲間が栽培されていた可能性がある。

### (2) 古植生

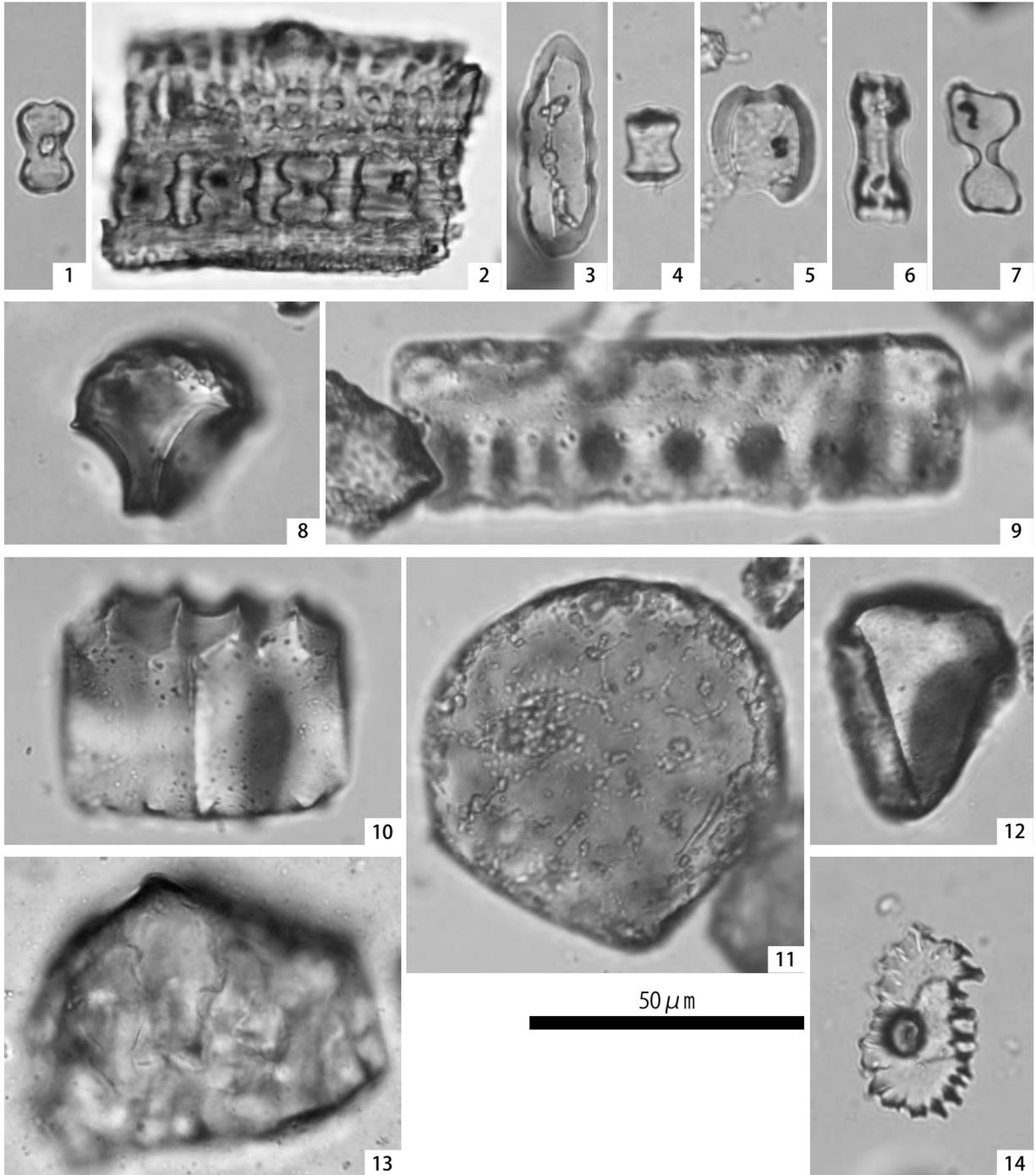
3区の土層より検出された分類群から、メダケ属、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科が生育していたと考えられる。この中では、タケ亜科の産出が目立った。タケ亜科や随伴するススキ属は、開けた乾いた場所に生育する種類が多い。そのため、周辺にはこれらが生育するような乾いた場所が存在したと思われる。

また推定生産量(kg/m<sup>2</sup>・cm)では、ヨシ属も多い。ヨシ属は、湿潤な場所に生育する。イネ科以外の草本類として検出されたカヤツリグサ科も同様に湿潤な場所に生育する種類が多い。これらを考慮すれば、調査区内に湿潤な場所も推定される。そうであれば、As-B降灰時の稲作は湿潤な状態で行われる水田稲作であった可能性が考えられる。

### 引用文献

- 新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層.考古学ジャーナル,157,41-52.  
株式会社古環境研究所,2007,付編 石関西田遺跡Ⅲの自然科学分析.石関西田遺跡Ⅲ 市道00-061号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書,前橋市埋蔵文化財発掘調査団.7p.  
近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.  
杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻 誠一郎(編著)考古学と自然科学3 考古学と植物学,同成社,189-213.

図版2 植物珪酸体



- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体 (1地点;1)   | 2. イネ属短細胞列 (1地点;2)       |
| 3. コムギ連短細胞珪酸体 (2地点;1)  | 4. メダケ属短細胞珪酸体 (2地点;1)    |
| 5. ヨシ属短細胞珪酸体 (2地点;1)   | 6. コブナグサ属短細胞珪酸体 (1地点;1)  |
| 7. ススキ属短細胞珪酸体 (1地点;1)  | 8. イネ属機動細胞珪酸体 (2地点;1)    |
| 9. キビ連機動細胞珪酸体 (2地点;1)  | 10. メダケ属機動細胞珪酸体 (2地点;1)  |
| 11. ヨシ属機動細胞珪酸体 (2地点;1) | 12. ススキ属機動細胞珪酸体 (1地点;1)  |
| 13. イネ属穎珪酸体 (2地点;1)    | 14. カヤツリグサ科葉部珪酸体 (2地点;1) |

第41表 多田山東遺跡遺物観察表  
1区1号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図 PL.84	1	土師器 杯	竈焼部 4/5	口 稜	11.8 13.0	高 4.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 面口縁部下に凹線が巡る。	須恵器杯身模 倣
第10図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.2 13.0	高 3.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯身模 倣
第10図	3	土師器 高杯	床直 底部～脚部片				細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部底から脚部はヘラ削り。 脚部内面はヘラナデ。	
第10図	4	須恵器 蓋杯の蓋	竈内 天井部～口縁部 片	稜	13.6		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第10図	5	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面 はナデ。	
第10図	6	土師器 甕	埋没土 底部片	底	6.0		細砂粒/良好/灰黄 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。 外面は全体的に煤けている。	
第10図	7	須恵器 甕	床直 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には叩き痕が微かに残る。内面は同心 円状アテ具痕が残る。	
第10図	8	須恵器 甕	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には叩き痕が微かに残る。内面は同心 円状アテ具痕が残る。	
第10図 PL.84	9	鉄滓	埋没土 破片	縦 横	3.3 2.7	厚 重 2.0 22.0		わずかに酸化土砂が付着している。滓質は密。発泡はわず かに見える。	

1区2号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL.84	1	黒色土器 椀	床直 1/2	口 底	10.0 4.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘ ラナデ、高台は貼付。内面は全面にヘラミガキ。	
第12図	2	黒色土器 椀	竈焚口 口縁部～体部片	口	13.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。体部下位に回 転ヘラ削り。内面は全面にヘラミガキ。	
第12図 PL.84	3	須恵器 皿	床直 3/4	口 底	9.2 5.7	台 高 6.0 3.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第12図 PL.84	4	須恵器 皿	床直 ほぼ完形	口 底	9.8 5.3	台 高 6.0 3.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第12図 PL.84	5	須恵器 皿	床直 完形	口 底	10.0 5.2	台 高 6.2 2.7	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。	
第12図 PL.84	6	須恵器 皿	床直 3/4	口 底	10.0 5.2	台 高 6.2 3.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第12図 PL.84	7	須恵器 皿	床直 4/5	口 底	10.2 5.7	台 高 6.2 3.3	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。	
第12図 PL.84	8	須恵器 皿	床直 完形	口 底	10.6 5.5	台 高 6.0 3.2	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。	
第12図	9	須恵器 椀	竈焚口 口縁部～底部片	口 底	13.8 5.9		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後高台を貼 付。	
第12図 PL.84	10	須恵器 椀	竈焚口 3/4	口 底	14.0 6.2	台 高 7.0 5.9	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第13図	11	須恵器 椀	床直 口縁部～底部片	口 底	14.6 7.5	台 高 8.8 6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第13図 PL.84	12	須恵器 椀	竈焚口 2/3	口 底	16.0 7.2	台 高 8.4 5.9	細砂粒/酸化焰/黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第13図 PL.84	13	須恵器 椀	床直 3/4	口 底	17.5 7.0	台 高 8.4 7.6	細砂粒/酸化焰/黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付、体部下位は回転ヘラ削り。	
第13図 PL.84	14	土師器 鉢	床直 1/4	口 底	17.6 9.6	高 13.5	細砂粒/良好/黒褐	内面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、体部と底部 はヘラ削り、体部上位から中位は器面磨滅のため単位不明。 内面は底部から体部にヘラナデ。	
第13図	15	土師器 鉢	床直 口縁部～体部片	口	17.6		細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削りか、器面磨滅のため不明。 内面はヘラナデ。	
第13図	16	土師器 甕	竈右袖 口縁部～胴部上 位片	口 胴	23.0 25.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り後一部に横方向 のヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。口唇部は須恵器的な 作り。	
第13図 PL.85	17	須恵器 羽釜	竈焚口 3/4	口 罎	21.6 26.6	底 高 9.8 28.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/黒褐	ロクロ成形。罎は貼付。胴部は上位に縦方向、中～下位に 横方向ヘラ削り、底部もヘラ削り。内面は底部から胴部、 口縁部にヘラナデ。胴部最大径は罎径と同じ26.6cmと罎は 機能を果たしていない。	
第13図	18	須恵器 羽釜	竈焚口 口縁部～胴部上 位片	口 罎	21.8 24.6		細砂粒/酸化焰/明 赤褐	ロクロ成形。罎は貼付、胴部は縦方向ヘラ削り。内面口縁 部から胴部にヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第13図 PL.85	19	須恵器 羽釜	竈焚口 底部～胴部下半	底	10.0		細砂粒/酸化焰/暗 赤褐	ロクロ成形。底部と胴部は縦方向へラ削り。内面は底部から胴部にへラナデ。		
PL.85	20	石製品	埋没土 完形	長 幅	29.1 22.5	厚 重	15.9 9600	粗粒輝石安山岩	礫上面に礫面を除去することで得られた平坦面があり、台石的に使用を考え取り上げたものであるが、台石としては明らかに安定性に欠けている。圃場整備段階の重機掘削によるものかもしれない。	楕円礫

#### 1区3号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第14図 PL.85	1	鉄滓	埋没土 破片	縦 横	4.8 2.8	厚 重	1.3 13.9		一部大きめの発泡が見られる。下面は丸く上面はやや平坦。上面の凹凸は大きい。	

#### 1区4号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第16図	1	土師器 杯	床上9cm 1/5	口	11.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへラ削り。内面は底部から体部にへラナデ。	
第16図	2	土師器 杯	床直 口縁部～底部片	口	12.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへラ削り。	
第16図 PL.85	3	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.4 6.0	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリ ーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整、底部周縁は擦り磨かれている。	
第16図 PL.85	4	土師器 甕	竈付近の床直竈 右袖 口縁～胴部片	口 胴	18.2 20.2			細砂粒/良好/橙	口縁部の歪み大。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面は胴部にへラナデ。	
第16図 PL.85	5	鉄製品 刀子	埋没土 一部欠損	長 幅	(7.9) 1.0	厚 重	0.3 5.6		刃部の先端が欠損している。関近くから研ぎ減りがみられる。	

#### 1区5号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第18図	1	土師器 杯	壁溝内 口縁部～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへラ削り。	
第18図	2	土師器 杯	埋没土 1/5	口 高	12.0 3.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへラ削り、口縁部下にわずかなナデが残る。	
第18図 PL.85	3	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	11.6 3.0			細砂粒・/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへラ削り。	
第18図 PL.85	4	土師器 杯	床直 1/2	口 稜	16.8 14.8	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちへラ削り。口縁部は大きく外反する。	
第18図	5	土師器 甕	竈右袖 口縁部～胴部上 位片	口	14.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向へラ削り。内面は胴部にへラナデ。	
第18図	6	土師器 甕	竈床下19cm 口縁部片	口	22.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、頸部にへラ削りの痕跡がみられる。	

#### 1区6号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20図 PL.86	1	須恵器 杯	床直 3/4	口 底	12.5 7.4	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第20図	2	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	12.2 7.6	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へラ削り。	
第20図	3	須恵器 椀	床直 底部	底 台	7.9 8.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。口縁部から体部は丁寧な打ち欠き、再利用の痕跡はみられない。	
第20図	4	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	13.3			細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面は胴部にへラナデ。	
第20図 PL.86	5	土師器 甕	床直 3/4	口 胴	21.7 22.0	底 高	4.5 27.5	細砂粒/良好/明褐	内面胴部の中ほどに輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへラ削り。内面は底部から胴部にへラナデ。	
第20図 PL.86	6	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 胴	20.4 21.3	底 高	4.5 28.3	細砂粒/良好/明褐	内面胴部の中ほどに輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへラ削り。内面は底部から胴部にへラナデ。	
第20図 PL.86	7	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部片	稜 底	12.0 4.2			細砂粒(片岩)/還 元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。杯部底部は回転へラ削り。脚部に3方透孔を作る。	混入品、6世紀代。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第20図 PL.86	8	凹石	埋没土 完形	長 幅	16.8 15.2	厚 重	7.5 2126.3	粗粒輝石安山岩	礫面中央付近に漏斗状の窪み穴1がある。孔の周辺は摩耗して平滑。上端小口および側縁に敲打痕がある。	楕円礫

1区7号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第23図 PL.85	1	土師器 杯	床直 1/3	口 稜	11.8 13.2	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。	須恵器杯身模倣
第23図	2	土師器 杯	床上9cm 1/5	口 稜	12.0 13.1			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。	須恵器杯身模倣
第23図	3	土師器 鉢	竈内 口縁部～体部片	口	14.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面は体部にへらナデ。	
第23図	4	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 口縁部小片	口	14.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部に凹線が巡る。	
第23図	5	須恵器 高杯	埋没土 杯部小片	稜	13.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部底部は回転へら削り。	
第23図	6	須恵器 高杯	床下 杯部					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部底部はカキメ、底部に2透孔の痕跡。	
第23図	7	須恵器 高杯	埋没土 脚部端部片	脚	16.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。端部は下方に屈曲し、その上位に小凸帯を作る、残存上端に透孔を確認。断面は酸化焰焼成。	
第23図 PL.85	8	須恵器 甕	床直 口縁部上半欠	頸 胴	4.0 7.7			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部中位に円形の孔が穿たれている。底部から胴部下位はへら削り後ナデ、胴部中位に凹線による区画、区画内に刺突文が巡る、口縁部は3段以上の波状文。内面は胴部から頸部の絞り込みがみられない。	
第23図 PL.85	9	土師器 壺	床直 底部～胴部下半	底 胴	7.3 16.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第23図	10	土師器 甕	埋没土 底部～胴部片	底	9.0			細砂粒/良好/暗灰 黄	底部はへら削り、胴部は内外面とも器面磨滅のため成形不明。	
第23図	11	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には叩き痕、間隔をあけたカキメ。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

1区8号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第25図 PL.86	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 底	12.7 10.4	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第25図	2	須恵器 杯	床直 底部	底	7.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後、周囲を回転へら削り。内面底部のロクロ痕は磨滅。	

1区9号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第28図 PL.86	1	土師器 杯	竈内 1/3	口 高	12.6 4.1			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。	
第28図 PL.86	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	13.4 3.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。	
第28図 PL.86	3	土師器 杯	埋没土 2/3	口 高	12.8 3.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。	
第28図 PL.86	4	須恵器 皿	埋没土 1/2	口 底	15.7 10.6	高	2.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちへら削り。	
第28図 PL.86	5	須恵器 杯	床直 1/2	口 底	14.3 9.4	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。	
第28図 PL.86	6	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 半	口 胴	23.4 22.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第28図	7	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 半片	口 胴	23.6 22.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部は手持ちへら削り。	
第28図 PL.86	8	土製品 土錘	埋没土損 端部欠損	長 径	5.4 1.3	孔 重	0.6 8.3	細砂粒/良好/にぶ い褐	外面はナデ。	

1区10号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高					
第30図 PL.87	1	弥生土器 壺	床直 ほぼ完形	口 底	28.8 14.7	高 64.1	細砂/良好	2段の折り返し口縁。肥厚部上下端に刺突列をめぐらす。頸部に4連止め廉状文、肩部に3帯の櫛描羽状文をめぐらし、櫛描波状文で画す。胴上位横、中位斜め、下位縦ミガキ、内面口縁部横ミガキ整形。	樽式	
第30図 PL.87	2	土師器 壺	床直 口縁～胴部2/3	口	22.7		粗砂/良好	折り返し口縁。外面ハケメ整形後、胴部に部分的な横ミガキ整形。内面口縁部ハケメ整形、胴部横ナデ整形。	古墳時代前期	
第30図 PL.87	3	土師器 鉢	床直 完形	口 底	11.1 4.6	高 6.9	粗砂、白色粒/良好	外面斜位、縦位のハケメ整形。底部際細かなケズリ。内面ヘラナデ整形。	古墳時代前期	
第30図 PL.87	4	土師器 高坏か	埋没土 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	有段。内外面ハケメ整形。	古墳時代前期	
第30図 PL.87	5	土師器 ミニチュア 土器	床直 完形	口 底	4.0 3.4	高 6.6	細砂、輝石/良好	壺形。内外面横ナデ後、部分的なミガキ整形。	古墳時代前期	
第30図 PL.87	6	土師器 器台	床直 完形	口 底	6.9 8.5	高 7.6	細砂、輝石/良好	外面縦ナデ後、縦ミガキ、内面横ナデ整形。	古墳時代前期	
第30図 PL.87	7	土製品 紡輪	床直 完形	径 孔	4.7 0.8	厚 重	1.3 28.8	細砂、輝石/良好	部分的なミガキ整形。	
第30図 PL.87	8	鉄製品 不明	埋没土 一部欠損	長 幅	(8.6) 1.9	厚 重	0.4 7.7		刃部が凸レンズ状に作られている。約1.3cmほどの長さの断面四角形の茎が確認できる。刃の先端部は欠損している。	

1区11号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第32図 PL.88	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	15.4 13.3		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.88	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口 最	11.4 11.6	高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、底部は手持ちヘラ削り、体部はヘラ削り後ナデ。	
第32図 PL.88	3	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
第32図	4	土師器 杯	床上8cm 口縁部～底部片	口 高	13.0 3.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第32図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	11.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.88	6	須恵器 杯蓋	床直 1/5	口 力	20.0 17.2		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。	
第32図	7	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～天井部 片	口 力	20.0 17.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。	

1区12号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第35図 PL.88	1	土師器 杯	床上8cm 4/5	口 高	12.1 3.3		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第35図 PL.88	2	土師器 杯	床直 1/2	口 高	12.2 3.4		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第35図 PL.88	3	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 高	12.3 3.5		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第35図 PL.88	4	土師器 杯	竈右袖 ほぼ完形	口 高	12.5 3.3		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第35図	5	土師器 杯	埋没土 1/4	口 高	12.8 2.8		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。内面は口縁部に木口の残るヘラナデ。	
第35図 PL.88	6	土師器 杯	竈内 1/3	口 高	13.4 3.1		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。内面の一部に煤が付着。	
第35図 PL.88	7	須恵器 杯蓋	床直 完形	口 摘	14.1 3.1	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。口唇端部は折り曲げ。摘は疑宝珠状を貼付。	
第35図 PL.88	8	須恵器 杯蓋	床上11cm 3/4	口 摘	14.8 5.2	高 2.8	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。口唇端部は折り曲げ。摘は粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作り、端部をヘラ削り。内面を硯に転用、部分的に墨痕が残る。外面には降灰が厚く付着。	転用硯。
第35図	9	須恵器 杯蓋	壁溝内 摘	摘	3.1		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘は疑宝珠状を貼付。	
第35図	10	須恵器 杯蓋	埋没土 1/4	口 力	15.6 13.6		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部の整形は降灰付着のため不明。内面にカエリを作る。摘は貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第35図	11	須恵器 杯	埋没土 底部	底	6.1		細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。底部は 疑似高台状を呈す。	
第35図 PL.88	12	須恵器 杯	床上9cm 1/3	口 底	12.8 7.1	高 4.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を回 転ヘラ削り。底部は疑似高台状を呈す。外面底部に墨書。 残存不良のため判読不能。	
第35図 PL.88	13	須恵器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 底	13.2 7.0	高 4.3	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を回 転ヘラ削り。内面底部に成形時のヘラ痕が残る。	
第35図 PL.88	14	須恵器 杯	埋没土 2/3	口 底	13.2 7.6	高 4.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第35図 PL.88	15	須恵器 杯	床直 1/2	口 底	13.4 7.5	高 4.0	細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を回 転ヘラ削り。底部は疑似高台状を呈す。外面底部に「十」 の線刻。	
第35図	16	須恵器 杯	埋没土 底部	底	8.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を手 持ちヘラ削り。	
第36図 PL.88	17	須恵器 杯	埋没土 底部	底	8.0		細砂粒/酸化焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後一部を残 しヘラ削り。外面体部に「十」の刻書。	
第36図	18	須恵器 杯	埋没土 底部	底	8.4		細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲を回 転ヘラ削り。	
第36図 PL.89	19	須恵器 有台杯	床直 2/3	口 底	13.7 8.6	台 高 8.0 4.7	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲をナ デ、高台は貼付。	
第36図 PL.89	20	須恵器 有台杯	床直 底部	底 台	8.5 7.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲をナ デ、高台は貼付。体部は丁寧に打ち欠いている。内外面と も使用されていない。	転用碗か。
第36図 PL.89	21	須恵器 有台杯	床上7cm 底部	底 台	8.0 8.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲をナ デ、高台は貼付。体部は丁寧に打ち欠いている。内面がや や摺り磨かれている。	転用碗。
第36図 PL.89	22	須恵器 有台杯	竈煙道 底部	底 台	9.0 8.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周囲をナ デ、高台は貼付。体部は丁寧に打ち欠いている。外面に墨 痕が残る。	転用碗。
第36図 PL.89	23	須恵器 小型短頸壺	埋没土 1/3	口 胴	4.3 8.3	底 高 4.1 5.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。底部と胴部の底部周縁はへ ら削り、胴部中位から上位はヘラナデ。口縁部から胴部上 位と内面底部に降灰付着。	
第36図	24	須恵器 壺	埋没土 底部～胴部下位 片	底	7.8		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、胴部は 底部周縁にヘラ削り、その上位はヘラナデ。	
第36図	25	土師器 台付甕	床上8cm 台部片	台	10.6		細砂粒/良好/褐	台部は横ナデ、胴部は台部を上端に巻き上げるように成形 か。	
第36図 PL.89	26	土師器 甕	床下 口縁～胴部中位 片	口 胴	20.8 20.3		細砂粒/良好/明赤 褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ、器面磨滅のため単 位不明。	
第36図	27	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	口	21.7		細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ、 器面磨滅のため単位不明。	
第36図 PL.89	28	鉄製品 釘か	床直 一部欠損	長 幅	(4.3) 0.6	厚 重 0.4 2.4		両端が欠損する。断面形状はほぼ正方形となる。中心部は 劣化により空洞化する。	

1区13号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第39図	1	土師器 杯	床直 1/4	口 底	16.0 7.4	高 5.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
第39図 PL.89	2	土師器 杯	床上9cm ほぼ完形	口 高	13.2 3.1		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第39図 PL.89	3	土師器 杯	床直 3/4	口 高	13.6 3.5		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内 面体部に「×」の刻書	
第39図	4	土師器 杯	床直 1/4	口 高	14.0 3.2		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。	
第39図 PL.89	5	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	口 底	15.0 9.0	高 4.3	細砂粒/還元焰・ 燻/黒褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。外面は 燻焼成。	
第39図 PL.89	6	土師器 甕	床直 口縁～胴部中位 片	口 胴	21.2 20.6		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	
第39図 PL.89	7	土師器 甕	竈両袖 口縁部～胴部片	口 胴	21.4 19.7		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ、大部分は器面磨滅のため単位不明。	
第39図 PL.89	8	土師器 甕	床直 底部～胴部下半 片	底	6.6		細砂粒・粗砂粒多 /良好/褐	底部はヘラ削り、胴部はヘラ削り後ナデ、内面は底部か ら胴部にヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第39図 PL.89	9	管玉	埋没土 完形	長 幅	(1.8) 1.1	厚 重	(1.01) 2.6	葉ろう石	全面研磨され、丁寧な作り。色調は淡緑色～濃緑色。下半側欠損。
第39図 PL.89	10	鉄製品 釘	埋没土 ほぼ完形	長 幅	6.0 0.9	厚 重	0.4 4.4		頭部が折れる釘。頭部は薄く伸ばされ、手前に折られる。

1区14号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第42図	1	須恵器 蓋杯の身	竈内 蓋受け～体部片	受	16.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第42図	2	須恵器 蓋杯の身	竈内 蓋受け～体部片	受	16.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
PL.90	3	打製石斧	埋没土 完形	長 幅	8.8 4.9	厚 重	2.3 127.8	砂岩	未製品？表面側に礫面を大きく残す幅広剥片を用い、表裏面とも側縁加工を行い、石器を作出する。製作途上破損したもののか。	短冊形
第42図 PL.90	4	鉄製品 釘か	埋没土 一部欠損	長 幅	4.9 0.7	厚 重	0.4 2.3		体部は断面が四角だが、両端部が薄く平らになる。薄くなる部分は両端で直交関係になる。	

1区15号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.90	1	土師器 杯	床上11cm 1/2	口 最	13.3 13.6	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちへラ削り。
第46図 PL.90	2	土師器 杯	床直 1/2	口 最	13.4 13.6	高	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへラ削り。
第46図	3	土師器 杯	床直 1/3	口 高	12.0 3.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへラ削り、器面磨滅のため単位不明。
第46図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口	13.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへラ削り。
第46図	5	須恵器 杯蓋	埋没土 摘～天井部片	摘	6.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。摘は粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作る。
第46図	6	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～天井部片	口 力	14.0 11.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。内面にカエリを作る。
第46図	7	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～天井部片	口 力	16.0 13.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面にカエリを作る。
第46図 PL.90	8	須恵器 杯	床下4cm 1/3	口 底	11.2 8.6	高	3.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちへラ削り。
第46図 PL.90	9	須恵器 杯	竈床下 底部	底	10.6			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へラ削り。
第46図	10	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部片	受	13.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。体部下半から底部は回転へラ削り。
第46図	11	須恵器 壺	埋没土 頸部片					細砂粒/還元焰/灰	口縁部はロクロ整形、頸部にて胴部と接合。
第46図	12	須恵器 長頸壺	埋没土 高台片	台	11.6			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。高台は貼付が剥落。

1区16号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第49図 PL.90	1	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	15.0 12.8	高	3.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへラ削り。内面煤付着。
第49図 PL.90	2	土師器 杯	埋没土 完形	口 稜	15.2 12.2	高	3.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部上半はナデ、下半から底部は手持ちへラ削り。内面体部に「×」の線刻。
第49図 PL.90	3	土師器 杯	床上7cm 1/2	口 高	13.9 3.2			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへラ削り。
第49図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口	15.6			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへラ削り。
第49図 PL.90	5	須恵器 杯蓋	竈焚口 完形	口 摘	21.6 6.1	高	3.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。口唇端部は折り曲げ。摘は粘土紐を貼付し、環状に作る。
第49図 PL.90	6	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	13.8 8.2	高	4.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちへラ削り。
第49図	7	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	5.4			細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後中央のわずかな部分を残し回転へラ削り。
第49図 PL.90	8	須恵器 有台杯	埋没土 1/3	口 底	12.4 9.6	台 高	9.5 4.4	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底台	胴	高			
第49図	9	須恵器 有台杯	埋没土 底部～体部下位 片	底台	8.2 8.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第49図 PL.90	10	須恵器 鉢	埋没土 底部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちへら削り。	
第49図	11	須恵器 長頸壺	埋没土 口縁部下半片				細砂粒・粗砂粒・ 黒色粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	
第49図 PL.90	12	土師器 甗	埋没土 底部片				細砂粒/良好/にぶ い黄褐	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。底部に径6～8mm の小孔が複数穿たれている。	
第49図 PL.90	13	土師器 台付甗	甗右袖 台部～胴部下半	台底	11.8 7.0	胴 17.4	細砂粒/良好/明赤 褐	胴部と台部の接合状態不明。台部は横ナデ、胴部はへら削り。 内面は胴部が底部から胴部にへらナデ。	
第49図	14	土師器 甗	埋没土 口縁部～胴部中 位片	口 胴	20.0 24.6		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部に へらナデ。	
第50図	15	土師器 台付甗	甗右袖 口縁部～胴部上 位片	口	14.4		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部に へらナデ。	
第50図	16	土師器 甗	甗焚口 口縁～胴部上半 片	口 胴	21.5 18.5		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部に へらナデ。	
第50図	17	土師器 甗	甗焚口 口縁部～胴部上 位片	口	21.8		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第50図 PL.90	18	土師器 甗	甗焚口 3/4	口 胴	22.2 20.0	底高 6.0 31.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ。	
第50図 PL.91	19	土師器 甗	甗焚口 ほぼ完形	口 胴	22.3 21.0	底高 4.7 30.1	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ、器面磨滅のため単位不明、胴部 下半と上半の接合痕残る。	
第50図 PL.91	20	土師器 甗	甗焚口 ほぼ完形	口 胴	22.5 21.4	底高 5.3 31.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ。	
第51図 PL.91	21	土師器 甗	甗焚口 底部欠損	口 胴	22.6 21.4	底高 5.1 31.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ。	
第51図 PL.91	22	土師器 甗	甗焚口 ほぼ完形	口 胴	23.4 21.7	底高 5.3 30.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ。	
第51図 PL.92	23	須恵器 甗	埋没土 胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は無文のアテ具 痕が残る。	
第51図 PL.92	24	須恵器 甗	埋没土 胴部下位片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き締め成形、内面に輪積み痕が残る。外面には平行叩き 痕が残るが下位に粘土をナデ付けた痕跡がある。内面は無 文のアテ具痕が微かに残るが、ほとんどナデ消している。	

1区17号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口高	厚	重			
第52図 PL.92	1	土師器 杯	床直 4/5	口高	13.0 3.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち へら削り。	
第52図	2	黒色土器 椀	埋没土 口縁部片				細砂粒/酸化焰/黒	内外面とも黒色処理。ロクロ整形か。内外面ともへらミガ キ。	混入品
第52図	3	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	9.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。底 部は大きく横に引き出され疑似高台状呈す。内面の底部と 体部の屈曲部は明瞭である(親指技法状)。	
第52図 PL.92	4	鉄製品 鎌	床直14cm 一部欠損	長幅	15.0 2.9	厚重 0.3 40.0		柄を取り付ける部分が折り返されている。やや曲がり浅 く、研ぎべりしているか。先端部が欠損している。	

1区18号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口稜	高	重			
第56図 PL.92	1	土師器 杯	貯蔵穴内 3/4	口稜	11.5 10.9	高 4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯蓋模 倣
第56図 PL.92	2	土師器 杯	床直 3/4	口稜	12.8 11.6	高 4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯蓋模 倣
第56図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口稜	12.3 11.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯蓋模 倣
第56図	4	土師器 杯	竈内 1/5	口稜	12.8 12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯蓋模 倣
第56図 PL.92	5	土師器 杯	貯蔵穴内 1/2	口稜	12.0 12.4	高 4.5	細砂粒/良好・燻/ 黄灰	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内 外面とも燻焼成。	須恵器杯身模 倣か。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第56図	6	土師器 杯	埋没土 底部～稜片	稜	14.3			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内 面底部に煤が付着。	須恵器杯身模 倣
第56図 PL.92	7	土師器 杯	床直 完形	口 稜	13.6 12.0	高	5.1	細砂粒/良好・燻 暗灰黄	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り、口 縁部中ほどに段を作る。外面は燻焼成。	有段口縁杯
第56図	8	土師器 杯	床直 1/4	口 稜	15.8 13.5			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り、口 縁部に2段を作る。	有段口縁杯
第57図 PL.92	9	土師器 盤	埋没土 1/3	口 稜	24.0 20.8	高	6.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内 面は底部から体部に手持ちへら削り。	
第56図 PL.92	10	土師器 椀	埋没土 1/4	口 稜	13.8 14.2			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り、器 面磨滅のため単位不明	
第56図 PL.92	11	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口	15.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちへら削り。内面は体部にへ らナデ。	有孔鉢か
第56図	12	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部～口縁部 上位片	稜	15.4			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転へら 削り。	
第56図	13	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部小 片	受	13.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第56図	14	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部小 片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第56図	15	須恵器 高杯	床上11cm 杯底部片	稜 脚	13.6 3.4			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯底部は回転へら削り。底 部中ほどに脚部の貼付痕。	脚=脚接合部 径
第56図	16	須恵器 高杯	埋没土 杯身底部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。残存片 端部に透孔を穿った痕跡が残る。	
第56図 PL.92	17	須恵器 高杯	埋没土 脚部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。脚部に2方の透孔を穿つ。	
第56図 PL.92	18	須恵器 高杯	埋没土 脚部片					細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。脚部中ほどに凹線を巡らし、 上下2段2方の透孔を穿つ。	
第56図	19	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。残存片中位に凹線による区画、その上下に波 状文を巡らす。	
第56図	20	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	13.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部に へらナデ。	
第56図 PL.92	21	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位	口	21.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ、 器面磨滅のため単位不明。	
第56図 PL.92	22	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 半片	口	23.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部から口縁部 下半にへらナデ。	
第57図 PL.93	23	土師器 甕	床直、竈内 4/5	口 胴	20.1 18.4	底 高	5.2 36.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ。	
第57図 PL.93	24	土師器 壺	床直 1/2	口 胴	22.6 28.0	底 高	7.6 30.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は 底部から胴部にへらナデ、一部器面剥離。	
第58図	25	土師器 壺	床直 口縁部～胴部上 位片	口	21.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部に へらナデ。内面の一部に煤が付着。	
第58図 PL.93	26	土師器 壺	竈内 底部～胴部下半	底	7.7			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。底部と胴部はへら削り。内面 は底部から胴部にへらナデ。	
第58図 PL.93	27	土師器 壺	床直 底部～胴部下半 片	底 胴	7.8 31.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。 外面は全体的に煤けている。	
第58図	28	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第58図 PL.93	29	土製品 土錘	埋没土 完形	長 径	5.2 1.4～ 1.7	孔 重	0.4 11.6	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	上端は面を作る。外面はナデ。	
第58図 PL.93	30	土師器 鉢	床下 1/2	口 底	13.4 3.5	高	4.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面ともへらミガキ。	混入品
PL.93	31	敲石	床下 完形	長 幅	12.1 5.6	厚 重	390.5	粗粒輝石安山岩	上端側小口部が敲打され、礫頭部形態が大きく変形してい る。	楕円礫
PL.93	32	棒状礫	P4内 完形	長 幅	16.6 6.2	厚 重	5.0 737.5	変質安山岩	掌サイズの棒状礫だが、特に打痕等は見られない。サイズ 的には菰網石に似る。	棒状礫
PL.93	33	棒状礫	貯蔵穴内 完形	長 幅	16.3 5.9	厚 重	4.5 615.9	粗粒輝石安山岩	掌サイズの棒状礫だが、特に打痕等は見られない。サイズ 的には菰網石に似る。	棒状礫
第58図 PL.93	34	鉄製品 不明	埋没土 一部欠損	長 幅	11.3 0.4	厚 重	0.3 5.5		断面形は四角形。先端部は薄くなり尖っている。	

1区19号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第61図 PL.94	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	10.0 11.2	高 4.7	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ、稜下はナデ、体部から底部は手持ちヘラ 削り。	須恵器杯身模 倣
第61図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	10.6 11.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 面は底部から体部に放射状ヘラミガキ。	須恵器杯身模 倣
第61図	3	土師器 杯	床直 口縁部～底部片	口 稜	14.4 14.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り後ヘラミガ キ。内面はヘラミガキ。	
第61図	4	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部上 半片	口 稜	12.8 11.5		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。内面は胴部 から口縁部にヘラナデ。口縁部は中ほどに凹線がめぐる。	
第61図 PL.94	5	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～底部片	口 受	12.6 14.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第61図 PL.94	6	土師器 甕	竈焚口 口縁部～胴部	口 胴	17.5 19.3		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。 外面下位にカマド装着時の粘土付着。	
第61図 PL.94	7	土師器 甕	竈焚口 口縁部～胴部	口 胴	19.5 19.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

1区20号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第63図 PL.94	1	土師器 杯	床上11cm 1/3	口 稜	13.0 12.4	高 3.8	細砂粒/良好・燻/ オリーブ黒	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 外面とも燻焼成。	
第63図	2	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～蓋受け 小片				細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形。	
第63図 PL.94	3	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部～脚部 上位	最	11.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚部と杯部は接合。杯部底部 はロクロ整形、底部は回転ヘラ削り。口縁部下に凹線が巡 る。脚部には3方透孔を穿つ。	
第63図	4	須恵器 高杯	埋没土 脚部小片				細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回りか。脚部には3方透孔。	
第63図 PL.94	5	土師器 小型壺	床直 口縁部～胴部片	口 頸	9.6 8.2	胴 12.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面頸部下に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘ ラ削り。内面は胴部にヘラナデ。内外面とも器面磨滅のた め単位不明。	
第63図 PL.94	6	土師器 壺	床直 底部～頸部	底 胴	5.1 14.6	頸 7.3	細砂粒/良好/橙	底部と胴部はヘラ削り、胴部上半は器面磨滅のため単位不 明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第63図 PL.94	7	土師器 壺	埋没土 底部～胴部下 半	底	5.9		細砂粒/良好/赤褐	底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明、胴部はヘラナ デ。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第63図 PL.94	8	土師器 甕	床上8cm 口縁部～胴部上 位片	口 胴	24.6 23.7		細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に 縦方向ヘラミガキ。	
第63図	9	土師器 小型甕	床上13cm 口縁部～胴部上 半片	口	12.2		細砂粒/良好/灰褐	外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第63図	10	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	15.2		細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	

1区2号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第64図 PL.94	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口 最	12.6 12.9	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第64図	2	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～天井部 片	口 力	20.0 17.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り天井部は回転ヘラ削り。内面に カエリを作る。	

1区3号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第65図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	14.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラナデ、胴部はヘラ削り。 内面は胴部にヘラナデ。外面は全体的に煤けている。	
第65図	2	土師器 壺	埋没土 底部～胴部下 位	底	7.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。 内外面とも器面磨滅のため単位不明。	

1区4号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部下半～底部片	稜	9.3		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯蓋模倣
第65図	2	土師器 杯身	床上9cm 1/4	口 稜	11.8 13.0	高 3.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、稜下は体部上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯身模倣

1区2号掘立柱建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第67図	1	土師器 甕	P6埋没土 胴部片				細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面はハケメ(1cm当たり4～5本)、内面はヘラナデ。	

1区1区7号掘立柱建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第73図 PL.94	1	土師器 杯	P11中位 1/2	口	12.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

1区1号方形周溝墓遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80図	1	土師器 小型壺	周溝底面付近 底部～胴部下半	底	3.8		細砂粒/良好/橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。外面は全体的に煤けている。	
第80図 PL.95	2	土師器 壺	周溝西側上位 ほぼ完形	口 胴	16.0 16.9	底 高 7.8 19.1	細砂粒/良好/黄褐	外面と内面頸部まで赤色塗彩。底部穿孔。口縁部は横ナデ、頸部にハケメが残るが、頸部から胴部はヘラミガキ。内面は口縁部から頸部までヘラミガキ、胴部はヘラナデ。	二重口縁壺
第80図 PL.95	3	土師器 壺	周溝底面付近 ほぼ完形	口 胴	17.1 17.3	底 高 6.2 21.0	細砂粒/良好/黄褐	外面と内面頸部まで赤色塗彩。底部穿孔。口縁部は下半にヘラミガキ、頸部にハケメが残る、胴部はヘラミガキ。内面は口縁部から頸部までヘラミガキ、胴部はヘラナデ。	二重口縁壺
第80図 PL.94	4	土師器 壺	周溝底面付近 口縁部～胴部下 位	口 頸	15.0 9.6	胴 26.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口唇部は折り返し。内面胴部に輪積み痕が残る。口唇部は横ナデ、口縁部は縦方向ヘラ削り、胴部はヘラミガキ、器面磨滅のため単位不明。内面は胴部から口縁部にヘラナデ。	
第80図	5	土師器 台付甕	周溝底面付近 台部～胴部下 位	台 底	8.6 4.8		細砂粒/良好/にぶ い褐	胴部と台部の接合方法不明。胴部はヘラ削り、台部はハケメ(1cm当たり10本)。内面は台部・胴部ともヘラナデ。	

1区1号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図	1	埴輪 円筒	埋没土 胴部片				細砂粒/酸化焰/橙	凸帯は貼付、形状はややだれた台形状を呈す。外面はハケメ(2cm当たり13本)、内面は縦方向ナデ。	

1区1号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図 PL.95	1	龍泉窯系 青磁碗	埋没土 体部片				灰白	残存部外面無文。内面片彫りによる施文。大宰府分類の龍泉窯青磁碗I-2・3類。	12世紀中葉～後葉

1区2号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図 PL.95	1	中国磁器 白磁碗	埋没土 体部下位片				灰白	体部内面に段差。内面から高台脇施釉。大宰府分類の白磁碗V類か。	11世紀～12世紀

1区12号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第83図	1	須恵器 壺	埋没土 底部片				細砂粒/還元焰/にぶ い赤褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。	

1区17号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第83図 PL.95	1	須恵器 杯蓋	床上14cm 完形	口 摘	14.7 3.4	高 3.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。口唇端部は折り曲げ。摘は疑宝珠状を貼付。	

1区97号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 最	8.0 8.6		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	

## 1区256号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.95	1	土師器 壺	埋没土 1/2	口 胴	17.4 18.0	底 高	6.0 14.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部にヘラナデ。
第85図 PL.95	2	土製品 土錘	上位 完形	長 径	5.2 1.4	孔 重	0.5 8.4	細砂粒/良好/橙	外面はナデ。

## 1区278号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	1	土師器 杯	中～上位 口縁部～底部片	口	16.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下底部から底部は手持ちヘラ削り。

## 1区293号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	1	土師器 大型杯	上位 口縁部～底部片	口 最	19.0 19.6			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。

## 1区299号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	25.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。

## 1区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第86図 PL.95	1	縄文土器 深鉢	1 方形周溝墓 口縁部破片				細砂、繊維/ふつ う	口縁部にC字状爪形文を2条めぐらす。以下、RL縄文を横 位施文。	黒浜式
第86図 PL.95	2	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				細砂、輝石、繊維 /ふつう	LR縄文を横位施文する。	黒浜式
第86図 PL.95	3	縄文土器 深鉢	202ピット 底部破片				細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第86図 PL.95	4	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第86図 PL.95	5	縄文土器 深鉢	202ピット 胴部破片				細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第86図 PL.95	6	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂、細礫/良好	横位集合沈線帯間に斜位、縦位の集合沈線を施す。地文に RL縄文を横位施文。	諸磯b式
第86図 PL.95	7	縄文土器 深鉢	8 竪穴建物 底部破片				粗砂/良好	横位集合沈線を施す。	諸磯b式かc 式
第86図 PL.95	8	縄文土器 深鉢	1 土坑 胴部破片				粗砂、輝石/良好	縦位、弧状の集合沈線を施し、棒状貼付文を付す。	諸磯c式
第86図 PL.95	9	縄文土器 深鉢	1 方形周溝墓 胴部破片				細砂、赤色粒/良 好	レンズ状の集合沈線内に斜格子目状の平行沈線を充填す る。地文に無節LR縄文を横位施文。	諸磯c式
第86図 PL.95	10	縄文土器 深鉢	12竪穴建物 胴部破片				粗砂/ふつう	縦位、レンズ状の集合沈線を施し、レンズ状文内に斜位、 鋸歯状の集合沈線を充填する。	諸磯c式
第86図 PL.95	11	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				細砂/良好	口縁下に縦位の貝殻腹縁文を充填施文し、抉るような角状 刺突列をめぐらす。	興津式
第86図 PL.95	12	縄文土器 深鉢	7 竪穴建物 胴部破片				細砂、輝石/良好	半截竹管内皮による押引文を複数段施し、以下、縦位の貝 殻腹縁文を充填施文する。	興津式
第86図 PL.95	13	縄文土器 深鉢	18竪穴建物 口縁部破片				粗砂、細礫、輝石、 石英/良好	折り返し状の肥厚口縁。肥厚部に縦位沈線を充填施文し、 下端に三角形の印刻を施す。口縁内面も内削ぎ状に肥厚 させる。	前期末葉～中 期初頭
第86図 PL.95	14	縄文土器 深鉢	6 竪穴建物 口縁部破片				粗砂、輝石、雲母 /良好	口縁下に角押文をめぐらす。	阿玉台式
第86図 PL.95	15	縄文土器 深鉢	18竪穴建物床下 胴部破片				粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	沈線によるU字状文を施し、RL縄文を充填施文する。	加曾利E4式
第86図 PL.95	16	弥生土器 甕	18竪穴建物 口縁部破片				細砂/良好	頸部廉状文、口縁部櫛描波状文をめぐらす。内面横ナデ整 形。	樽式
第86図	17	須恵器 杯	口縁部～底部片	口 底	12.2 6.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。
第86図	18	須恵器 杯	底部片	底	5.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。
第86図 PL.95	19	手捏ね土器 鉢型	1/2	口 底	4.4 4.6	高	3.6	細砂粒/良好/褐	外面はヘラナデ、内面はナデ。
第86図 PL.95	20	鉄製品 羽口	埋没土 破片	長 径	(4.6) (5.2)	厚 重	2.0 32.0		わずかな白色の砂が含まれる。スサは見られない。表面に 横方向の整形時の痕跡が見られる。

2区21号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第89図	1	土師器 杯	床下 口縁～底部片	口 底	11.8 10.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第89図 PL.96	2	土師器 杯	竈内 1/4	口 底	12.6 10.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第89図	3	須恵器 杯	埋没土 1/5	口 底	13.0 8.0	高 4.5	細砂粒/酸化焰・ 燻/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部と体部の体部周縁は手持ちヘラ削り。内外面とも燻焼成。	
第89図 PL.96	4	土師器 甗	竈焚口 口縁部～胴部中 位	口 胴	19.8 20.6		細砂粒/良好/にぶ い明赤褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第89図 PL.96	5	土師器 甗	竈焚口 口縁部～胴部中 位	口 胴	20.2 22.1		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第89図 PL.96	6	土師器 甗	竈内 口縁部～胴部中 位片	口 胴	20.2 20.6		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第89図 PL.96	7	土師器 甗	竈焚口 ほぼ完形	口 胴	20.2 21.6	底 4.9 高 28.0	細砂粒/良好/明赤 褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第90図 PL.96	8	土師器 甗	竈右袖 1/2	口 胴	20.6 20.7	底 4.0 高 29.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第90図 PL.97	9	土師器 甗	竈焚口 口縁～胴部中位	口 胴	20.7 20.9		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第90図 PL.97	10	土師器 甗	床直 口縁部～胴部中 位	口 胴	23.0 21.8		細砂粒/良好/明赤 褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第90図 PL.97	11	土師器 甗	竈左袖 口縁部～胴部中 位	口 胴	21.0 21.5		細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。胴部上位の横方向ヘラ削り幅が狭い。	
第91図 PL.97	12	土師器 甗	竈焚口 2/3	口 胴	21.2 21.6	底 5.6 高 27.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ、胴部中ほどの輪積み痕はナデ消されている。	
第91図	13	須恵器 甗	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	叩き締め成形。外面は叩き痕をナデ消しているが、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第91図	14	須恵器 甗	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/褐 灰	叩き締め成形。外面は叩き痕をナデ消している。内面はアテ具痕をナデ消しているが痕跡が残る。	
第91図 PL.97	15	須恵器 壺	埋没土 底部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。外面に線刻。	
第91図	16	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部下位～体 部片	受	13.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り	
第91図	17	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部片				細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部底部は回転ヘラ削り。	
第91図 PL.97	18	鉄製品 刀子	埋没土 一部	長 幅	4.1 1.0	厚 0.4 重 2.2		刀子の茎部分。端部がとがっているが、刃は見られない。	

2区22号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図	1	土師器 杯	竈内 口縁部～底部片	口 稜	10.4 10.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第94図 PL.98	2	土師器 杯	床上6cm 1/3	口 稜	13.4 11.1		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に不規則なヘラミガキ。内面黒色処理をしていた可能性がある。	
第94図	3	土師器 杯	竈内 口縁部～体部片	口 稜	13.6 14.6		細砂粒/良好/黄灰	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。	
第94図 PL.98	4	土師器 鉢	床直 完形	口 最	11.3 11.6	底 5.2 高 7.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第94図 PL.98	5	土師器 有孔鉢	床直 完形	口 底	14.1 5.5	高 10.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り、体部上半は器面磨滅のため単位不明。内面は底部から体部にヘラナデ。底部に径4～6mmの小孔を8か所穿つ。	
第94図	6	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部片	稜	14.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。外面に降灰付着。	
第94図	7	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部～口縁 部下位片	稜	15.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図 PL.98	8	土師器 小型甕	床直 ほぼ完形	口 胴	15.6 16.7	底 高	7.7 12.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラナデ、底部には木葉 痕が残る。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第94図 PL.98	9	土師器 甕	床直 完形	口 底	20.0 8.8	高	20.5	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ、胴部は底部周縁に横方向、その上位は縦 方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラミガキ、方向は外面と同 様。
第94図 PL.98	10	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 胴	16.6 23.8	底 高	6.6 32.7	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラミガキか、器面磨 滅のため詳細不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。

#### 2区23号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第97図 PL.99	1	土師器 杯	床直 完形	口 底	12.2 9.8	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第97図	2	須恵器 有台杯	埋没土 底部片	底 台	13.0 10.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。回転ヘラ削り。高台は底部周 縁ではなくやや内側に貼付。
第97図	3	須恵器 壺	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部下に2条の凸帯を作る。 4と同一個体か。
第97図 PL.99	4	須恵器 壺	埋没土 口縁部～胴部上 位片	頸	30.0			細砂粒/還元焰/灰 白	胴部は叩き締め成形か。内外面の叩き痕とアテ具痕はナデ 消されている。口縁部はロクロ成形。頸部にて接合。 3と同一個体か。
第97図 PL.99	5	土製品 環状品	床上7cm 完形	長 短	3.3 3.1	厚 孔	1.5 1.2	細砂粒/良好/橙	表裏、側面ともヘラナデ。重さ13.9g
第97図 PL.99	6	鉄滓	埋没土 1/4	縦 横	11.1 14.7	厚 重	10.2 1058.3		下面は流動性が高く、大型の炭痕跡が確認できる。小石が わずかに混じり、発泡がみられる。上面は一部酸化が見ら れる。

#### 2区24号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図 PL.99	1	土師器 杯	床直 完形	口 稜	17.6 15.6	高	4.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちヘラ削り。
第100図	2	土師器 杯	床直 1/4	口 稜	17.8 15.2	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちヘラ削り。
第100図	3	土師器 杯	竈内 口縁部～底部片	口	11.1			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第100図 PL.99	4	土師器 杯	竈焚口 3/4	口 高	12.1 3.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。
第100図	5	土師器 杯	埋没土 1/5	口 高	12.3 3.5			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。
第100図 PL.99	6	土師器 杯	埋没土 4/5	口 最	12.4 12.8	高	3.7	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。
第100図 PL.99	7	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	11.2 8.0	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。
第100図 PL.99	8	土師器 小型甕	床直 口縁部～胴部片	口	18.2			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面頸部から口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、 胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第100図	9	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	口	23.9			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は斜め方向のヘラ削り。内 面は胴部にヘラナデ。
第100図 PL.99	10	土師器 甕	竈左袖 ほぼ完形	口 胴	20.5 18.8	底 高	5.5 33.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は斜めから縦方向のヘラ削 り、底部もヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第100図 PL.99	11	土師器 甕	竈焚口 口縁部～胴部下 半	口 胴	22.8 18.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部は横から斜め方向のヘラ削り。内面 は胴部にヘラナデ。
第100図	12	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 具痕が残る。内面は酸化焰状態。

#### 2区25号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第102図 PL.100	1	黒色土器 杯	床上13cm 完形	口 底	13.5 7.3	高	4.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形か、回転は右回り。内面黒色処理。底部に木葉 痕残り、体部下半は回転ヘラ削り。内面は底部から体部 にヘラミガキ。
第102図	2	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	16.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回か。口縁部は端部を折り曲げ。
第102図	3	須恵器 杯	埋没土 底部～体部片	底	9.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部から底部周縁は回転ヘラ 削り。
第102図	4	須恵器 有台杯	埋没土 底部片	底 台	11.6 11.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は 貼付。

2区26号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第104図 PL.100	1	土師器 杯	床直 1/2	口 高	13.0 3.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため単位不明。	
第104図	2	須恵器 杯	埋没土 底部～体部片	底	11.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第104図	3	須恵器 杯	埋没土 底部～体部片	底	8.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。体部下位は横に大きく開き立ち上がる。	
第104図	4	須恵器 壺	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面はアテ具痕が残る。	
第104図	5	須恵器 甕	埋没土 口縁部上半片				細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。外面は2条の凹線により区画、区画内に波状文を施す。断面は酸化焰状態。	

2区27号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	口 稜			
第106図	1	土師器 杯	床直 1/4	口 稜	12.6 14.0		細砂粒/良好・燻/ 黒褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。外面の体部から底部と内面を燻焼成。	須恵器杯身模倣
第106図 PL.100	2	土師器 杯	床上9cm 1/3	口 稜	12.8 13.3		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
第106図 PL.100	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	13.2 11.4		細砂粒/良好・燻/ 黒褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。内外面とも燻焼成。	
第106図 PL.100	4	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	口 稜	13.2 11.5		細砂粒/良好・燻/ 灰黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。内面は燻焼成。	
第106図	5	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	口 稜	20.5 16.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。内面は燻焼成か。	
第106図 PL.100	6	土師器 鉢	竈焚口 3/4	口 高	15.0 7.8		細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部は横ナデ、体部は上位がナデ、中位から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第106図 PL.100	7	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位 片				細砂粒/良好/にぶ い橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。底部に径5mm前後の孔を多数穿つ。	
第106図	8	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	16.8		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第106図	9	土師器 小型甕	床上12cm 底部～胴部下位	底	3.0		細砂粒/良好/黒褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

2区28号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第109図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	14.0 14.0		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明	須恵器杯身模倣
第109図 PL.100	2	土師器 杯	床直 2/3	口 稜	14.0 13.0	高 3.9	細砂粒/良好・燻/ 黒褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口縁部は中ほどに凹線による段を作る。内外面とも燻焼成。	有段口縁杯
第109図 PL.100	3	土師器 杯	床上8cm 1/2	口 稜	14.0 12.5	高 4.0	細砂粒/良好・燻/ 灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口縁部は中ほどに凹線による段を作る。内外面とも燻焼成。	有段口縁杯
第109図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	14.8 14.0		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口縁部は中ほどに凹線による段を作る。	有段口縁杯
第109図	5	土師器 甕	竈右袖 底部～胴部下 半片	底	9.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部はヘラ削り。内面は底部が横方向、胴部が縦方向のヘラナデ。	
第109図 PL.100	6	土師器 甕	竈焚口 3/4	口 胴	19.4 20.5	底 高 7.0 33.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第109図 PL.100	7	土師器 甕	竈内外 4/5	口 胴	19.6 19.0	底 高 5.0 35.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。外面胴部の一部に粘土付着。	
第109図	8	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下 位片	底	6.4		細砂粒/良好/にぶ い橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第109図	9	須恵器 甕	竈内 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
PL.100	10	土製品 不明	竈内 完形か	縦 横	3.0 5.0	厚 重 3.3 40.1	細砂粒/良好/黄灰	表裏、側面ともナデ。	
第109図 PL.100	11	凹石	床上7cm 完形	長 幅	9.3 6.4	厚 重 5.5 322.4	粗粒輝石安山岩	表裏面および左側面に1ヶ所づつ漏斗状の窪み穴がある。これに対し、右側面は平坦部がなく打痕のみ残される。	略楕円礫
第109図 PL.100	12	砥石	埋没土 2/3	長 幅	(9.7) (6.6)	厚 重 4.3 286.9	粗粒輝石安山岩	表面側礫面に縦位の刃ならし傷および研磨痕が広がる。上端側小口部には打痕があり、磨石を転用した可能性がある。石器下端部を欠損する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第113図 PL.100	13	敲石	床直15cm 完形	長 幅	11.0 5.5	厚 重	3.5 295.7	粗粒輝石安山岩	小口部両端および両側縁に敲打痕がある。右側縁はノッチ状に抉れるほどであり、激しく使い込まれている。	楕円偏平礫
PL.100	14	磨石か	埋没土 完形	長 幅	13.9 7.0	厚 重	4.0 457.0	粗粒輝石安山岩	小口部両端および両側縁に敲打痕がある。断面三角形状を呈す掌サイズの礫を用いる。	偏平礫

2区29号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第113図 PL.101	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	11.5 12.2	高	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯身模倣
第113図 PL.101	2	土師器 杯	床直 1/3	口 稜	11.2 12.2	高	3.8	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯身模倣
第113図 PL.101	3	土師器 杯	貯蔵穴内 1/2	口 稜	11.6 12.4	高	4.2	細砂粒/良好・燻/ オリーブ黒	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部にへらミガキ。内外面とも燻焼成。	須恵器杯身模倣
第113図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	16.4			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第113図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	23.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第113図	6	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位 片	底	7.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部と胴部はへら削り、底部は器面磨滅のため単位不明。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第113図	7	土師器 甕	埋没土 底部	底	7.4			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部外面はへら削り、内面はへらナデ。	

2区30号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第115図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口 稜	12.1 11.6			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。	須恵器杯蓋模倣
第115図	2	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部中 位片	口 胴	13.9 13.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第115図 PL.101	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	17.6			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	
第115図	4	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には明瞭に平行叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はナデ消されている。外面に降灰が付着。	
第115図 PL.101	5	凹石	床直 完形	長 幅	8.7 (7.1)	厚 重	(5.2) 278.4	粗粒輝石安山岩	表面側に漏斗状の窪み穴1がある。通常、伴う摩耗痕は表裏面とも礫面が被熱剝離して不明瞭。	略楕円礫

2区31号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第117図 PL.101	1	土師器 杯	床直 1/2	口 稜	13.8 12.0	高	4.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第117図	2	土師器 高杯か	竈内 杯部片	稜	14.5			細砂粒/良好/明赤 褐	稜上はへらナデ、下はへら削り。	
第117図	3	須恵器 蓋杯の蓋	竈内 口縁部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇端部は平坦面を作る。	
第117図 PL.101	4	土師器 甕	竈左袖 底部～胴部下位 片	底	4.9			細砂粒/良好/にぶ い橙	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	

2区32号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第119図 PL.101	1	土師器 杯	床直 完形	口 稜	16.1 12.2	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第119図	2	土師器 杯	埋没土 1/5	口 稜	16.2 14.2	高	4.1	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第119図 PL.101	3	土師器 杯	埋没土 完形	口 高	12.0 3.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部はへら削り。	
第119図 PL.101	4	土師器 杯	床直11cm 1/2	口 最	12.2 12.6	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第119図 PL.101	5	土師器 杯	床直 1/2	口 最	13.0 13.3	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第119図 PL.101	6	土師器 甕	P1内床下11cm 口縁～底部2/3	口 胴	21.8 21.4	底 高	5.3 30.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。

### 2区33号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第122図	1	土師器 杯	竈内 体部片					細砂粒/良好/灰黄 褐	稜下体部が残存。体部は手持ちヘラ削り。
第122図 PL.101	2	土師器 高杯	床上11cm 脚部柱状部					細砂粒/良好/にぶ い黄橙	杯部と脚部の接合状態不明。脚部から杯部底部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。
第122図	3	須恵器 甕	埋没土 頸部下～胴部片					細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。内外面の叩き痕とアテ具痕はヘラナデで消されている。
第122図	4	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面は格子状叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はほとんど消されている。
第122図	5	須恵器 甕	床直 胴部片					細砂粒/還元焰/灰 白	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが、内面の同心円状アテ具痕は使用によって磨滅している。
第122図 PL.101	6	手捏ね土器 碗形	床直 口縁部一部欠	口 底	4.8 4.1	高	3.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はヘラナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
PL.101	7	敲石	床直 完形	長 幅	15.8 5.7	厚 重	4.2 501.2	ホルンフェルス	特に使用痕は確認できないが、右側縁には小剥離痕1があり、敲打具として使用された可能性も否定できないが、風化等で詳細は不明。

### 2区34号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第123図 PL.101	1	須恵器 杯	床直 1/2	口 底	12.5 8.4	高	3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。
第123図	2	須恵器 杯	床直 口縁欠1/2	底	9.9			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。
第123図 PL.101	3	須恵器 杯	床上9cm 3/4	口 底	13.0 6.6	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。
第123図 PL.101	4	手捏ね土器 碗形	埋没土 1/3	口 底	4.5 4.1	高	3.6	細砂粒/良好/褐	口縁部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。

### 2区35号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第125図 PL.101	1	土師器 杯	竈内 1/4	口 高	12.6 3.4			細砂粒/良好/黄褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。
第125図 PL.101	2	土師器 杯	床上10cm 1/3	口	13.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。
第125図	3	土師器 杯	竈内 口縁部～底部片	口	14.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。
第125図 PL.101	4	須恵器 杯	貯蔵穴内床下2 cm 完形	口 底	14.0 8.0	高	3.9	細砂粒/酸化焰 ぎみ/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。底部から体部下位は大きく開く。
第125図 PL.102	5	須恵器 長頸壺	床直 底部～胴部片	底 胴	9.6 19.0			細砂粒/還元焰/灰	胴部下位は叩き締め成形、中位から上位はロクロ成整形。高台は貼付、胴部は下位から中位に回転ヘラ削り、上位の肩周縁に凹線を巡らし、その内側に刺突文を施す。内面下位に同心円状アテ具痕が残る。
第125図 PL.102	6	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位	口	14.5			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第126図	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	16.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第126図	8	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	口	21.8			細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。外面口縁部に輪積み痕が残る。
第126図	9	土師器 甕	床下 口縁部～胴部上 位片	口	21.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第126図 PL.102	10	土師器 甕	竈内 2/3	頸 胴	19.2 20.5	底	5.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第126図 PL.102	11	土師器 甕	床下16cm 底部～胴部下 位	底	6.5			細砂粒/良好/黒褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第126図	12	須恵器 甕	埋没土 頸部片					細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面の叩き痕は降灰が厚く付着し不鮮明。内面には同心円状アテ具痕が残る。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第126図 PL.102	13	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部片	稜	13.9		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ 削り。天井部中央に線刻。		
第126図 PL.102	14	手捏ね土器 壺形	竈内 1/3	底	5.0		細砂粒・粗砂粒(褐 色粒)/良好/にぶ い褐	底部と胴部はヘラナデ。内面はナデ。		
第126図 PL.102	15	砥石	床直 完形	長 幅	8.7 4.4	厚 重	4.5 258.5	砥沢石	四面使用。表面側は著しく研ぎ減り、右側面には刃ならし 傷が残る。裏面側砥面は剥落して荒れた状況にある。下端 側破損面は風化摩耗しており、破損後の使用は確実。	
PL.102	16	台石	床上10cm 2/3	長 幅	16.6 (14.0)	厚 重	2.9 1095.5	粗粒輝石安山岩	礫平坦面が部分的に弱く光沢を帯び、これを光沢面と捉え 台石と見た。被熱破損しており、礫周辺が焼ける。	扁平円礫

#### 2区36号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第127図	1	土師器 杯	埋没土 小片					細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちヘラ削り。

#### 2区37号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第129図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部小 片	口	14.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第129図	2	須恵器 甕	床直 胴部					細砂粒/還元焰/灰 黄	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 具痕が残る。
第129図 PL.102	3	鉄製品 刀子	壁溝内 茎部のみ	長 幅	(7.2) 1.6	厚 重	1.3 9.7		柄の木質が残存するが、金属部分は劣化している。緑が残 存している。

#### 2区38号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第131図 PL.102	1	土師器 杯	竈煙道 2/3	口 高	13.3 3.5			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。
第131図 PL.102	2	須恵器 杯蓋	床直 ほぼ完形	口 摘	19.3 4.8	高	4.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ 削り。口縁部は折り曲げ。摘は粘土板を貼付し周囲をつ まみ上げ環状に作るが、径は小径である。
第131図	3	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片					細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部下に凹線が巡る。

#### 2区39号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第132図	1	須恵器 杯蓋	埋没土 摘～天井部片	摘	4.7			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。摘は 粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作り上端をヘラ削 りて平坦にしている。
第132図 PL.102	2	土師器 小型甕	埋没土 底部～胴部下位	底	5.9			細砂粒/橙/橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第132図	3	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焰/灰 黄	叩き締め成形。外面には平行叩き痕が残るが、内面のアテ 具痕はナデ消されている。

#### 2区40号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第134図	1	土師器 杯	竈内 口縁部～底部片	口 高	13.2 2.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第134図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	15.0			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。
第134図	3	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	16.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部は折り曲げ。

#### 2区41号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第139図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	13.0 13.3			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ、稜下部上半はナデ、下半から底部は手 持ちヘラ削り。	須恵器蓋模倣
第139図 PL.102	2	土師器 杯身	埋没土 完形	口 稜	10.5 11.8	高	3.4	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇部は凹線を巡らす。	須恵器杯身模 倣
第139図 PL.102	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	12.0 13.2			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯身模 倣

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第139図 PL.102	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	14.7 12.6		細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口縁部中ほどに段を作る。	有段口縁杯	
第139図 PL.102	5	土師器 杯	埋没土 1/5	口 稜	16.2 14.2		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口縁部中ほどに段を作る。	有段口縁杯	
第139図 PL.103	6	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口	19.0		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、体部上位と中位はナデ、下位はへら削り。内面は体部にへらナデ。内外面に煤付着か。		
第139図	7	須恵器 蓋杯の蓋	1号竈内 天井部～稜片	稜	13.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。天井部に降灰付着。		
第139図	8	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。		
第139図	9	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。天井部中央に線刻。		
第139図 PL.103	10	須恵器 蓋杯の身	埋没土 1/5	口 受	11.0 13.3		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。口縁部は蓋受け基部に輪積み痕が残る。		
第139図	11	須恵器 蓋杯の身	1号竈内 口縁部～蓋受け 片	口 受	14.0 16.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は蓋受け基部に輪積み痕が残る。		
第139図 PL.103	12	須恵器 蓋杯の身	埋没土 底部～蓋受け片	受	16.0		細砂粒/還元焰/黄 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。		
第139図	13	須恵器 高杯	埋没土 口縁部～体部片	口	16.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部下に凹線が巡る。		
第139図 PL.103	14	須恵器 高杯	埋没土 脚部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。縦長の透孔を三方に穿つ。		
第139図 PL.103	15	土師器 短頸壺	2号竈燃焼部底 部 1/3	口 胴	14.0 16.5		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部上位にナデ、中位から底部はへら削り。内面は底部から胴部下半にへらナデ、口縁部に2条の凹線が巡る。		
第139図 PL.103	16	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部上 半片	口 胴	13.0 17.2		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位がナデ、中位以下がへら削り。内面は胴部にへらナデ。		
第139図	17	須恵器 甗	埋没土 口縁部片	凸	10.2		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。残存部中ほどにつまみ上げたような凸帯、その下位に波状文を巡らす。		
第139図	18	須恵器 瓶	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。	提瓶か横瓶	
第140図 PL.103	19	土師器 甗	床上15cm 口縁部～胴部上 半片	口	27.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらミガキ。		
第140図 PL.103	20	砥石?	埋没土 完形	長 幅	9.8 9.0	厚 重	1.1 209.2	粗粒輝石安山岩	表面側には摩耗して光沢面が形成されるほか、多方向に刃ならし様の粗い傷が残る。裏面側にも敲打痕を伴う摩耗痕が認定可能かもしれないが不明瞭。	扁平円礫
第140図 PL.103	21	石製品	床上15cm 完形	長 幅	16.7 11.8	厚 重	4.7 998.5	粗粒輝石安山岩	表面側・礫中央付近に漏斗状の窪み穴2があるほか、これと似た窪み穴が右辺エッジにある。表面側の窪み穴周辺には摩耗痕は見られない。裏面側には顕著な研磨面があり、これに3本の刃ならし傷が伴う。研磨面と漏斗状の窪み穴が同時存在したか不明。	扁平礫

2区42号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第143図 PL.103	1	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	12.1 13.2	高	4.7	細砂粒/良好・燻/ 赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部上位はナデ中位から底部は丁寧な手持ちへら削り。内面は底部周囲から体部に粗い斜放射状へらミガキ。内外面とも燻焼成。	須恵器杯身模倣
第143図 PL.103	2	土師器 杯	床直 1/3	口 稜	12.0 13.2	高	4.1	細砂粒/良好・燻/ にぶい褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部に放射状へらミガキ。口唇端部は面を作る。内面は燻焼成。	須恵器杯身模倣
第143図 PL.103	3	土師器 杯	埋没土 完形	口 稜	12.5 13.5	高	4.0	細砂粒/良好・燻/ 灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。内外面とも燻焼成。	須恵器杯身模倣
第143図 PL.103	4	土師器 杯	P2内床下33cm 完形	口 稜	12.8 14.0	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。	須恵器杯身模倣
第143図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	12.8 14.2			細砂粒/良好・燻/ 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内面は底部から体部に放射状へらミガキ。内外面とも燻焼成。	須恵器杯身模倣
第143図 PL.103	6	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	13.5 11.6	高	4.4	細砂粒/良好・燻/ 灰褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口縁部中ほどに段を作る。内外面とも燻焼成。	有段口縁杯
第143図	7	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	13.6 11.8			細砂粒/良好・燻/ 黒褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。内外面とも燻焼成。	有段口縁杯

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第143図 PL.103	8	土師器 高杯	埋没土 杯部片	口	17.6		細砂粒/良好/褐灰	杯部と脚部の接合状態不鮮明。杯部は口縁部が横ナデ、体部がヘラ削り。	
第143図	9	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部片				細砂粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第143図 PL.103	10	須恵器 短頸壺	床下 1/5	口 胴	10.1 13.0	底 8.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り、胴部はヘラナデ。	
第143図	11	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 胴	7.9 11.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第143図	12	須恵器 壺	床直 底部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第143図	13	須恵器 壺	床直 底部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第144図 PL.103	14	土師器 甕	竈右袖 ほぼ完形	口 胴	18.0 18.3	底 高 5.2 30.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部上位は器面磨滅のため単位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第144図 PL.104	15	土師器 甕	竈左袖 ほぼ完形	口 胴	21.8 18.0	底 高 4.4 32.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ、中位は煤焦げが付着し単位不明。	
第144図 PL.104	16	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 胴	19.8 19.2	底 高 5.0 35.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第144図 PL.104	17	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 胴	18.5 18.0	底 高 3.0 38.9	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。外面胴部上位の一部に粘土付着。	
第143図	18	土師器 小型甕	床直 底部～胴部下位	底	6.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第143図 PL.103	19	手捏ね土器 壺形	床直 口縁部欠損	底 胴	5.4 6.0		細砂粒/良好/明褐	底部と胴部はヘラナデ。内面は底部から胴部にナデ。	

#### 2区43号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第146図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部小 片	稜	10.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。内面は口縁部に斜放射状ヘラミガキ。	
第146図	2	土師器 高杯	埋没土 杯部底部～脚上 位片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	杯部と脚部の接合状態不明。脚部から杯部底部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナデ。脚部に2方の透孔を穿つ。	
第146図 PL.104	3	須恵器 蓋杯の蓋か	埋没土 天井部	稜	13.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。天井部の一部に降灰が付着。	
第146図	4	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面口唇端部に浅い凹線が巡る。	
第146図	5	須恵器 蓋杯の身?	埋没土 口縁部小片	口	11.8		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部はやや内傾する。	
第146図	6	須恵器 高杯	埋没土 脚端部片	脚	13.9		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。脚部端部は屈曲し、屈曲部に凹線が巡る。	

#### 2区44号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第149図 PL.104	1	土師器 杯	埋没土 1/5	口 高	11.8 4.1		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	内斜口縁杯
第149図	2	土師器 杯	埋没土 底部～体部下位 片				細砂粒/良好/明赤 褐	外面はヘラ削り。内面は斜放射状ヘラミガキ。	内湾口縁杯か
第149図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	10.8 10.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。口唇端部は面を作る。	
第149図 PL.104	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	13.8 12.8		細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第149図	5	土師器 椀	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	11.2 11.5		細砂粒/良好/暗灰 黄	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。口唇端部は面を作る。	
第149図	6	土師器 高杯	竈焚口 杯部底部～脚部 上位片				細砂粒/良好/明赤 褐	ロクロ整形、回転は右回り。杯部は脚部に巻き付けるように接合か。内面は脚部がナデ。	ロクロ土師器
第149図 PL.104	7	土師器 鉢	床上11cm 1/2	口 底	12.8 7.4	高 11.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第149図	8	土師器 小型壺	埋没土 頸部～胴部上位 片				細砂粒/良好/明赤 褐	頸部に口縁部接合痕が残る。内外面ともヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第149図 PL.104	9	土師器 台付壺	竈内 台部～胴部下 半片	台	9.0			細砂粒/良好/明赤 褐	台部は貼付。台部は横ナデ、胴部はへら削り、器面剥離のため単位不明。内面は底部から胴部にへらナデ。
第149図	10	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	17.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。
第149図 PL.104	11	土師器 甕	床上6cm 口縁部～胴部上 半片	口	18.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ、器面磨滅のため単位不明。
第149図	12	土師器 甕	床上12cm 底部～胴部下位	底	6.0			細砂粒/良好/暗赤 褐	底部と胴部はへら削り、底部は器面磨滅のため単位不明。内面は底部から胴部にへらナデ。
第149図	13	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。口唇部下に断面三角形の凸帯を作る。口縁部に2段の波状文を巡らす。

2区45号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第151図 PL.105	1	土師器 杯	床直 完形	口 最	14.7 15.0	高 4.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。内面の底部から体部の一部に煤が付着。	
第151図	2	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～天井部 片	口	15.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転へら削り。口縁部は折り曲げ。	高杯杯部片の可能性も
第151図	3	須恵器 有台杯	埋没土 底部～体部片	底 台	10.0 9.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り、高台は貼付。	
第151図	4	須恵器 杯	埋没土 底部～体部片	底	9.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。底部は疑似高台状を呈す。	
第151図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	20.9			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第151図 PL.105	6	磨製石 鎌	埋没土 1/2	長 幅	(3.3) (2.0)	厚 重	0.2 1.6	珪質準片岩	右側縁から右辺基部、基部側に孔が残る。全面研磨されることで、概形と同形の稜が形成されている。	

2区46号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第153図 PL.105	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	15.5 13.2	高 3.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第153図 PL.105	2	土師器 杯	床直 4/5	口 高	11.7 3.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。	
第153図	3	土師器 杯	床下 口縁部～体部片	口 最	16.8 17.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちへら削り。	
第153図	4	土師器 高杯	床下 脚部下位片	脚	11.0			細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部の屈曲部は凸帯上に作る。	
第153図 PL.105	5	白玉	埋没土 完形	径	1.2	高 重	0.9 2.0	滑石	上面孔側は平坦だが、下面孔側は研磨が及ばず部分的に窪み部が残る。体部外面の整形痕は摩耗して痕跡程度に線条痕が残されている。	

2区47号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第156図 PL.105	1	土師器 杯	床直 1/4	口 稜	12.2 11.6	高 3.4		細砂粒/良好・燻/ 黒褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。内外面とも燻焼成。	須恵器杯蓋模倣
第156図	2	土師器 杯	床下 口縁部～底部片	口 稜	12.4 10.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	須恵器杯蓋模倣
第156図 PL.105	3	土師器 杯	床上7cm 1/4	口 最	11.4 11.8	高 3.9		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。	北武蔵型・新型
第156図 PL.105	4	土師器 高杯	床直 3/4	口 脚	15.7 13.6	高 10.9		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	脚部との接合状態不明。口縁部は横ナデ、杯部体部から脚部柱状部にかけてはへら削り、脚部裾部は横ナデ。内面は杯部底部と脚部柱状部がへらナデ。	
第156図	5	土師器 高杯	床上12cm 杯部片	口	14.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	脚部との接合状態不明。口縁部は横ナデ、体部から脚部にかけてはへら削り。	
第156図	6	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 口縁部～天井部 片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。稜下に凹線が巡る。	
第156図 PL.105	7	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部～脚部 上位片					細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。杯部底部から脚部にはカキメ。脚部に3方の透孔。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156図	8	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第156図 PL.105	9	土師器 甗	床直 底部～胴部下 半片	底 孔	5.4 3.6		細砂粒/良好/橙	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ後 胴部に縦方向へらミガキ。	
第156図	10	土師器 甗	床上7cm 頸部～胴部上 半片	頸	18.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	

## 2区48号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第159図 PL.105	1	土師器 杯	竈煙道 完形	口 稜	14.6 13.4	高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第159図	2	土師器 杯	竈内 2/3	口 稜	15.0 12.6	高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第159図 PL.105	3	土師器 杯	埋没土 3/4	口 稜	15.2 12.8	高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。	
第159図 PL.105	4	土師器 杯	竈内 完形	口 稜	15.3 13.0	高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り、器 面磨滅のため単位不明。	
第159図	5	土師器 杯	竈焚口 1/4	口 高	10.5 3.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち へら削り。	
第159図 PL.105	6	土師器 杯	竈内 2/3	口 底	12.2 6.0	高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち へら削り。	
第159図 PL.105	7	須恵器 杯蓋	竈左袖上部 完形	口 摘	13.5 4.0	カ 高 11.0 3.5	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面 にカエリを作る。摘は粘土板を貼付。	
第159図 PL.105	8	須恵器 杯蓋	埋没土 ほぼ完形	口 摘	19.0 5.3	カ 高 16.0 3.6	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転へら 削り。内面にカエリを作る。摘は粘土板を貼付し周囲をつ まみ上げ環状に作るが、周囲を打ち欠いている。	
第159図 PL.105	9	須恵器 杯蓋	埋没土 ほぼ完形	口 摘	13.4 3.7	高 2.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転へら 削り。口唇部端部は折り曲げ。摘は粘土板を貼付し周囲をつ まみ上げ環状に作る。	
第159図	10	須恵器 有台杯	埋没土 底部～体部片	底 台	14.0 12.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り、高台は 貼付。	
第159図 PL.105	11	土師器 甗	床直 底部欠	口 胴	15.8 21.2		細砂粒/良好/明赤 褐	底部と口縁部がずれる歪のある成形。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第159図	12	須恵器 甗	埋没土 口縁部下位片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。残存部ではつまみ上げによる 小凸帯で区画し、その上下に波状文を巡らす。	
第159図 PL.105	13	鉄製品 刀子	床直 一部	長 幅	(6.8) 1.2	厚 重 0.5 8.5		刀身の約半分、茎の一部が欠損している。両区とみられる が下区ははっきりしない。	
第159図 PL.105	14	鉄製品 釘	埋没土 一部欠損	長 幅	(5.2) 0.5	厚 重 0.5 2.2		頭部と脚部の一部が欠損する釘。断面長方形。	

## 2区49号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第162図 PL.106	1	須恵器 蓋杯の蓋	床直 完形	口 稜	12.8 11.8	高 4.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面 口唇部に浅い窪み状の凹線がめぐる。外面天井部に線刻。	
第162図 PL.106	2	須恵器 蓋杯の蓋	床直 完形	口 稜	14.0 12.7	高 4.9	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転へら 削り。内面口唇部に浅い窪み状の凹線が巡る。外面に降灰 が付着。	3とセット
第162図 PL.106	3	須恵器 蓋杯の身	床直 完形	口 受	11.9 14.2	高 4.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。口縁部 はやや内傾する。外面底部から体部に降灰が付着。	2とセット
第162図 PL.106	4	須恵器 蓋杯の身	床直 完形	口 受	12.4 13.6	高 5.2	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部から体部下位は手持ちへ ら削り。	
第162図	5	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部片	受	12.8		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。蓋受け上面に降灰が付着。	
第162図	6	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部片	口 受	12.2 14.3		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第162図	7	須恵器 高杯	埋没土 脚部上位片				細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。縦長の透 孔を三方に穿つ。	
第162図	8	須恵器 壺	埋没土 頸部～下胴部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	胴部はロクロ成形、回転右回り。外面に線刻。	
第162図	9	土師器 甗	埋没土 底部～胴部下 位片	底	6.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	底部と胴部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第162図	10	土師器 甕	床直 底部	底	6.2		細砂粒/良好/赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第162図 PL.106	11	手捏ね土器 椀形	床上15cm ほぼ完形	口 底	5.7 4.2	高 4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はナデ。内面は底部から体部下 半に指頭が残るナデ、上半はナデ。	

### 2区50号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第164図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部上 半片	口 稜	12.6 12.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部は手持ちヘラ削り。口唇端部は 平坦面を作る。	
第164図	2	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 口縁部～天井部 片	口 稜	14.0 12.5		細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。	
第164図	3	須恵器 蓋杯の身	床上12cm 底部～蓋受け片	受	15.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。口縁部 は貼付が剥落。胎土中に雲母含む。	
第164図 PL.106	4	土師器 甕	貯蔵穴底面 口縁部～胴部上 位片	口	16.1		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部か ら頸部にヘラナデ。	
第164図	5	土師器 甕か	床上8cm 口縁部～胴部上 位片	口	16.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

### 2区51号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第166図 PL.106	1	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	14.4 8.0	高 3.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。体部下 位に稜を作る。	
第166図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	14.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面体部に「井」の字状の刻書。	
第166図 PL.106	3	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 胴	9.0 18.4		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部上位に2条の凹線を巡ら す。	
第166図	4	須恵器 壺	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面はカキメで叩き痕が消されている。内 面は同心円状アテ具痕が微かに残る。	
第166図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	19.8		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	

### 2区52号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第170図 PL.106	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	11.9 9.9	高 5.1	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 面は体部から口縁部に弧を描く斜放射状ヘラミガキ。	
第170図	2	土師器 杯	床直 口縁部～底部片	口 稜	12.0 10.8		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。	
第170図 PL.106	3	土師器 杯	埋没土 3/4	口 稜	12.4 10.7	高 5.2	細砂粒・粗砂粒(石 英)/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第170図 PL.106	4	土師器 杯	床上7cm 4/5	口 稜	12.4 11.6	高 5.6	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り、器 面磨滅のため単位不明。口唇端部は平坦面を作る。	
第170図 PL.106	5	土師器 杯	床上9cm 口縁部～底部片	口 稜	12.4 12.0		細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。	
第170図	6	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	12.9 12.6		細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第170図 PL.106	7	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	13.0 10.3	高 4.5	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り、器 面磨滅のため単位不明。外面の一部に煤が付着。	
第170図 PL.106	8	土師器 高杯	床直 脚部裾部欠	口 稜	13.6 10.0	脚 高 9.1 10.7	細砂粒/良好/明赤 褐	脚部に口縁部を巻き付けるように杯部を成形。口縁部は横 ナデ、稜下から脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面は脚 部にヘラナデ。	
第170図 PL.106	9	土師器 高杯	竈内 脚部一部欠	口 稜	17.0 10.2	脚 高 12.6 12.9	細砂粒/良好/橙	杯部と脚部は接合。杯部は口縁部が横ナデ、底部はヘラ削 り。内面は脚部にヘラナデ。	ロクロ土師器 か
第170図 PL.106	10	土師器 高杯	床上9cm 脚部片				細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。器面磨滅のため成形不明。内 面は脚部にヘラナデ、単位不明。	ロクロ土師器 か
第170図	11	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口	12.7		細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不 明。内面体部はヘラナデ。	
第170図	12	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口	16.8		細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不 明。内面体部はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第170図	13	土師器 台付鉢	床上8cm 鉢部～台部片	口	12.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	鉢部と台部は接合。鉢部は口縁部が横ナデ、体部がヘラ削り、台部はヘラナデ。内面は鉢部の底部から体部にヘラナデ。	
第170図 PL.107	14	須恵器 蓋杯の蓋	床直 3/4	口 稜	12.3 11.9	高 4.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第170図	15	須恵器 蓋杯の身	埋没土 口縁部～体部片	口 受	12.0 14.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。器面磨滅のため成形不鮮明。	
第170図 PL.107	16	須恵器 無蓋高杯	床直 3/4	口 底	17.6 5.1	脚 高 11.4 14.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。口縁部下位に段を作り、体部に波状文が巡る、底部は回転ヘラ削り。脚部は透孔を3方に穿ち、脚端部は2条の凹線が巡る。	
第170図 PL.107	17	土師器 壺	床直 口縁部～胴部上 位片	口	16.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。口縁部中位に凹線が巡る。	
第170図 PL.107	18	土師器 小型甕	床直 3/4	口 胴	11.5 12.7	底 高 5.6 14.0	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第171図	19	土師器 小型甕	床直 口縁部～胴部片	口 胴	13.2 13.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第171図 PL.107	20	土師器 甕	竈焚口 口縁部～胴部中 位	口 胴	13.8 14.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第171図 PL.107	21	土師器 甕	貯蔵穴内 口縁部～胴部中 位	口 胴	15.2 14.9		細砂粒(多)/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第171図	22	土師器 小型甕	床直 1/2	底 胴	6.3 11.7		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第171図	23	土師器 小型甕	床直 底部～胴部下位	底	5.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第171図 PL.107	24	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	15.4		細砂粒/良好/明赤 褐	外面に輪積みが残る。口唇部上半が横ナデ、下半から胴部はヘラ削り、胴部は器面磨滅のため単位不明。内面胴部はヘラナデ。	
第171図 PL.107	25	土師器 甕	床直 2/3	口 胴	17.0 20.7	底 高 6.4 33.5	細砂粒/良好/灰黄	口縁部は横ナデ、胴部は上位の整形をナデ消している、中位から下位はヘラ削り、底部は木葉痕が残る。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第171図	26	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	18.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第171図 PL.107	27	土師器 甕	竈焚口 口縁部～胴部中 位片	口	24.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第172図 PL.107	28	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中 位片	口	24.8		細砂粒・粗砂粒(褐 色粒)/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第172図	29	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	25.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第172図 PL.108	30	土師器 甕	床直 頸部～胴部上半 片	頸 胴	14.3 18.3		細砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第172図	31	土師器 甕	床上12cm 口縁部～胴部上 半片	頸 胴	15.7 25.1		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、外面は器面磨滅のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第172図	32	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位 片	底	6.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第172図 PL.108	33	手捏ね土器 鉢形	床直 4/5	口 底	9.3 4.4	高 6.0	細砂粒/良好/黄灰	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から口縁部にヘラナデ。	

2区53号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第174図 PL.108	1	土師器 杯	床直 1/2	口 高	12.8 3.9		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。	
第174図 PL.108	2	土師器 杯	床直 1/3	口 底	12.0 9.6	高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第174図	3	須恵器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	12.8		細砂粒/還元焰/オ リーブ黒	ロクロ整形、回転は右回り。	
第174図	4	須恵器 壺	床直 底部～胴部下位 片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。外面はヘラナデ。内面底部 に降灰が付着。	
第174図	5	須恵器 壺	埋没土 底部～胴部下位 片	底	13.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。胴部は カキメ。	
第174図	6	土師器 甕	床下 底部～胴部下位 片	底	5.4		細砂粒/良好/赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

2区54号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				台	縦 径	孔 重			
第176図	1	須恵器 台付壺	竈内 台部片	台	12.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。断面は酸化焰焼成。	台付鉢か
第176図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。	
第176図 PL.108	3	土製品 玉	埋没土 完形	縦 径	1.2 1.0	孔 重 0.2 1.0	微砂粒/良好/橙	外面はナデ。	

2区55号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第178図 PL.108	1	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	14.5 4.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。	
第178図 PL.108	2	須恵器 杯蓋	埋没土 1/3	口 摘	16.2 4.4	高 2.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ 削り。口縁端部は折り曲げ。摘は粘土板を貼付し周囲をつ まみ上げ環状に作る。	
第178図	3	須恵器 壺	床直 口縁部片	口	24.4		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は上下に引き出され平 面を作り、口唇部下に断面三角形の凸帯を貼付。	
第178図	4	須恵器 壺	床直 胴部上位片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第178図 PL.108	5	須恵器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	口	23.2		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	胴部は叩き締め成形、口縁部はロクロ成形、で製作し、頸 部で接合。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ 具痕が残る。断面は酸化焰状態。	
第178図	6	須恵器 甕	竈内 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ 具痕が残る。	

2区56号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第180図 PL.108	1	土師器 杯	竈内 1/2	口 高	13.0 3.2		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第180図 PL.108	2	須恵器 杯	床上13cm ほぼ完形	口 底	12.3 5.7	高 3.6	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。底 部は疑似高台状を呈す。	
第180図	3	須恵器 椀	埋没土 口縁部～体部片	口	12.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第180図 PL.108	4	須恵器 不明	竈内 一部片	長 幅	4.0 1.4	厚 1.1	細砂粒/還元焰/灰 黄	外面はヘラナデ。	計測値の「長」 は残長を示す。
第180図	5	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 胴	13.4 22.4		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部は肩より下位にヘラナデ。	

2区57号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第183図	1	須恵器 杯蓋	竈内 口縁部小片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面にカエリを作る。	
第183図	2	須恵器 椀	竈内 底部～体部下位 片	底 台	7.8 7.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	重			
第183図	3	土師器 台付甕	埋没土 台部上位～胴部 下位片	底	4.2			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	台部は貼付。台部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は底部 から胴部にヘラナデ。
第183図	4	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	口	21.6			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。
第183図	5	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	口	23.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。

2区58号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	重			
第185図 PL.108	1	土師器 杯	竈焚口 完形	口 高	12.0 3.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第185図 PL.108	2	須恵器 杯	床直 1/3	口 底	12.8 7.0	高 3.6		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。外面底 部に墨書、「内百四」と判読。
第185図	3	土師器 台付甕	床直 台部	台	8.4			細砂粒/良好/橙	台部は胴部に貼付。台部は内外面とも横ナデ。
第185図	4	土師器 台付甕	床直 台部～胴部下位 片	台	8.6			細砂粒/良好/橙	台部は胴部に貼付。台部は内外面とも横ナデ、胴部は外面 ヘラ削り。
第185図 PL.108	5	土師器 甕	床直、竈内 口縁部～胴部下 位片	口 胴	21.2 20.2			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。
第185図 PL.108	6	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部中 位片	口 胴	20.3 21.1			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。
第185図 PL.109	7	土師器 甕	床直、竈内 口縁部～胴部下 位片	口 胴	22.4 22.1			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。
第185図 PL.108	8	土師器 甕	床直 底部～胴部片	底	4.0			細砂粒/良好/明赤 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第185図	9	土師器 甕	竈内 底部～胴部下位	底	4.5			細砂粒/良好/にぶ い褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第185図 PL.109	10	砥石	床直 完形	長 幅	21.6 15.7	厚 重	5.1 2030.1	粗粒輝石安山岩	表裏面とりわけ表面側礫面が広く摩耗する。摩耗面は光沢 を帯び、石の目が明らかに潰れるほどである。

2区59号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	重			
第189図 PL.109	1	土師器 椀	床上14cm 完形	口 最	11.2 12.0	高	5.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は体 部から口縁部に斜放射状ヘラミガキ。
第189図 PL.109	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	12.9 4.2			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。内面は体部から口縁部下半(稜)にかけて斜放射 状ヘラミガキ。
第189図	3	土師器 杯	2号貯蔵穴内 1/4	口 稜	9.8 9.6	高	4.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。稜 は不明瞭。
第189図	4	土師器 杯	2号貯蔵穴内 1/4	口 稜	11.9 11.5			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。
第189図 PL.109	5	土師器 杯	1号貯蔵穴内 ほぼ完形	口 稜	12.0 12.0	高	4.2	細砂粒/良好/にぶ い黄	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持 ちヘラ削り。口唇端部は平坦面を作る。
第189図 PL.109	6	土師器 杯	床上15cm 完形	口 稜	12.5 12.0	高	4.8	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。
第189図	7	土師器 杯	1号貯蔵穴内 1/3	口 稜	12.9 12.0	高	4.9	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。
第189図 PL.109	8	土師器 杯	床直 1/2	口 稜	14.8 14.2	高	6.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。
第189図	9	土師器 杯	1号貯蔵穴内 1/4	口 稜	15.0 15.0			細砂粒/良好/黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。
第189図	10	土師器 杯	床下 1/3	口 稜	13.2 12.7			細砂粒/良好・燻/ 黒褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 面は底部から体部にヘラナデ。内外面とも燻焼成。
第189図 PL.109	11	土師器 杯	2号貯蔵穴内 2/3	口 高	10.2 3.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は底 部から体部にヘラナデ。
第189図	12	土師器 椀	2号貯蔵穴内 1/3	口 底	14.0 7.0	高	6.2	細砂粒/良好/にぶ い褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持 ちヘラ削り。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第189図 PL.109	13	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口 最	11.2 13.6		細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	在地系	
第189図	14	土師器 高杯	1号貯蔵穴内 杯部片	口 稜	16.6 10.8		細砂粒/良好/明赤 褐	杯部内面にロクロ痕状の凹凸が残る。口縁部は横ナデ、稜下はヘラナデ。		
第189図	15	土師器 高杯	壁溝内 脚部片	脚	11.8		細砂粒/良好/明赤 褐	脚部は柱状部がナデ、裾部は横ナデ。内面は柱状部上半がナデ、下半はヘラナデ。		
第189図 PL.109	16	土師器 高杯	床直 脚部	脚	8.2		細砂粒/良好/明赤 褐	杯部はホゾを作り、脚部に差し込み接合。杯部は内面黒色処理。脚部は横ナデ。		
第189図	17	土師器 台付鉢	2号貯蔵穴内 台部片	台	9.2		細砂粒/良好・燻 赤褐	鉢部と台部の接合状態不明。外面は胴部から台部にヘラ削り。内面はヘラナデ。内面は燻焼成。		
第189図 PL.109	18	須恵器 蓋杯の蓋	床直 4/5	口 稜	13.0 13.2	高 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・燻/灰オ リーブ	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。内外面とも燻焼成。	須恵器蓋模倣 杯	
第189図	19	須恵器 蓋杯の身	床上14cm 口縁部～底部片	口 受	11.8 13.5		細砂粒/酸化焙ぎ み・燻/暗灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。内外面とも燻焼成。		
第189図 PL.109	20	土師器 小型甕	床下 口縁部～胴部片	口 胴	11.0 9.2		細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。		
第189図	21	土師器 壺	床直 底部～胴部下 半片	底 胴	7.6 26.1		細砂粒/良好/褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。		
第189図 PL.109	22	手捏ね土器 碗形	床直 完形	口 底	3.7 3.4	高 2.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はナデ、体部と底部はヘラナデ。内面はナデ。		
第189図 PL.109	23	土製品 玉	1号貯蔵穴内 完形(未成品)	径 幅	1.8 1.8	孔 重	0.4 4.7	微砂粒/良好/橙	孔は貫通していない。外面はナデ。	

2区60号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第192図	1	土師器 杯	竈左袖 1/4	口 稜	11.8 13.5		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は面を作る。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図	2	土師器 杯	床直 口縁部～底部片	口 稜	12.0 13.5		細砂粒/良好・燻 黒褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻焼成。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.109	3	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	12.4 13.5	高 4.4	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は面を作る。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.109	4	土師器 杯	竈焚口 1/2	口 稜	12.4 13.6	高 4.4	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.109	5	土師器 杯	床直 完形	口 稜	12.4 13.6	高 4.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は平坦面を作る。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.109	6	土師器 杯	竈内 完形	口 稜	12.6 14.0	高 4.3	細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部下半にヘラナデ。口唇端部は平坦面を作る。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図	7	土師器 杯	竈内 1/2	口 稜	13.2 14.0	高 3.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口唇端部は面を作る。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.109	8	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	10.4 4.1		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.109	9	土師器 杯	床直 口縁部上半欠損	稜	11.6		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	須恵器杯身模 倣杯	
第192図 PL.110	10	土師器 鉢	竈内 ほぼ完形	口 底	12.4 6.3	高 16.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口唇部は横ナデ、口縁部から体部と底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位など不鮮明。内面は底部から体部にヘラナデ。甕の下半部を作り鉢に変更か。		
第192図 PL.110	11	土師器 有孔鉢	竈内 1/2	口 底	17.0 7.0	孔 高	2.0 13.3	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ、体部から胴部はヘラ削り後ヘラナデ。内面は底部から体部にヘラナデ。内面は煤か黒色処理か不明。	
第192図 PL.110	12	土師器 台付鉢	床直 台部～胴部下位	台 底	10.2 6.2		細砂粒/良好/明褐	胴部と台部の接合状態不明。台部下半は横ナデ、上半から胴部はヘラ削り。胴部内面は燻焼成か。		
第193図 PL.110	13	土師器 壺	床直 ほぼ完形	口 胴	19.1 30.6	底 高	8.9× 8.2 32.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。底部と口縁部は平行ではなく、成形時に歪みがみられる。	
第192図 PL.110	14	土師器 壺	床直 胴部片	頸 胴	16.6 24.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は頸部で打ち欠き、欠け口を再調整。胴部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。内面はヘラナデ、中位から下位は器面剥落。		
第193図 PL.111	15	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 底	25.1 9.9	高 30.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデか、底部周縁を除き器面磨滅のため単位不明。		
第193図 PL.110	16	土師器 甕	床直 4/5	口 胴	15.2 17.2	底 高	4.0 30.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面胴部に輪積み。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第194図 PL.111	17	土師器 甕	床直 ほぼ完形	口 胴	18.7 19.3	底 高	4.5 35.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ。
第194図 PL.111	18	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	19.6			細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第194図 PL.111	19	土師器 甕	竈内 底部～胴部中位	底 胴	4.6 18.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第194図	20	須恵器 杯	床下 底部片					細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。

#### 2区61号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図 PL.112	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	14.3 13.0	高	5.0	細砂粒/良好・燻/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。内面は燻焼成。
第196図	2	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～稜片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。残存部上位に稜が残り、口 縁部はハの字状に開く。
第196図 PL.112	3	須恵器 高杯	床直 杯身部	口 稜	16.6 14.7	脚	5.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部下に段を2段作り、体 部は回転ヘラ削り、底部はカキメ。脚部には透孔を3方に 穿つ。
第196図 PL.112	4	土師器 無頸壺	床直 1/3	口 胴	11.4 15.8	底 高	5.5 15.8	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、器面磨滅のため 単位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第197図 PL.112	5	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 半片	口 胴	25.8 39.4			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ、 器面磨滅のため単位不鮮明。

#### 2区62号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第199図 PL.112	1	土師器 杯	床直 2/3	口 底	14.0 5.6	高	4.3	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り、口縁部と 体部の間に僅かなナデが残る。
第199図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	16.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第199図 PL.112	3	須恵器 壺	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	24.8			細砂粒/還元焰/暗 灰	口縁部はロクロ成形、胴部は叩き締め成形。頸部にて接合。 胴部は平行叩き痕が残る。内面は口縁部下位から頸部にヘ ラナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。
第199図 PL.112	4	鉄製品 不明	床下8cm 一部欠損	長 幅	(6.9) 1.4	厚 重	0.7 8.1		端部がつぶれており、端部以外は断面長方形。刃部は確認 できないが下部がやや細くなる。

#### 2区63号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第202図 PL.112	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	14.3 15.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。
第202図	2	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 口縁部～稜片	口 稜	13.8 12.6			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。内面口唇部にごく低い段を作 る。
第202図 PL.112	3	須恵器 蓋杯の蓋	床直 2/3	口 稜	14.0 12.5			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は周辺まで回転ヘラ削 り。内面は器面剥落のため成形不明。
第202図	4	須恵器 蓋杯の蓋	貯蔵穴内 口縁部～天井部 周縁片	口 稜	14.0 12.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。断面は酸化焰焼成。
第202図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	21.6			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。
第202図	6	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位 片	底	6.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第202図 PL.112	7	手捏ね土器 椀形	P 5内床下6cm ほぼ完形	口 底	6.0 3.7	高	2.9	細砂粒/良好/黄灰	口縁部は横ナデ、体部と底部はナデ。内面は底部から体部 にナデ。

#### 2区64号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第204図 PL.112	1	須恵器 杯	貯蔵穴内床下4 cm 完形	口 底	8.8 4.7	高	2.9	細砂粒/酸化焰・ 燻/黒褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内 外面とも燻焼成。
第204図 PL.112	2	須恵器 杯	床直 4/5	口 底	10.2 4.5	高	3.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第204図	3	須恵器 椀	貯蔵穴内 口縁部片	口	13.9		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第204図	4	土師器 小型甕	竈内 口縁部～胴部上 半片	口 胴	13.6 15.3		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部は上半が回転ヘラナデ、 下半がヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	ロクロ土師器
第204図 PL.112	5	土師器 甕	竈焚口 底部～胴部下 半片	底 胴	10.7 17.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は手持ちヘラ削り、胴 部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	ロクロ土師器
第204図	6	土師器 羽釜	竈内 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	20.6 24.5		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	鏝は貼付、口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラ ナデ。	
第204図 PL.112	7	須恵器 羽釜	竈焚口 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	21.0 25.0	胴 24.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転は右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
第204図 PL.112	8	鉄製品 釘	埋没土 一部欠損	長 幅	7.2 0.9	厚 重 0.5 4.7		頭部が欠損する釘。ちょうど折り返しに近い部分で欠損し ていると見られる。	

### 2区65号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第206図	1	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	6.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第206図	2	土師器 台付甕	竈焚口 胴部片	底 胴	8.0 15.8		細砂粒/良好/黒褐	台部は貼付、底部付近は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ、器面磨滅のため単位不明。	
第206図 PL.112	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中 位片	口 胴	18.0 18.1		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	
第206図	4	須恵器 壺	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。外面には格子目状叩き痕、内面には 無文のアテ具痕が残る。	
第206図	5	土師器 高杯	床上15cm 脚部柱状部	径	5.5		細砂粒/良好/橙	杯部は脚部上端に巻き付けるように成形か。脚部上位は柱 状に作り、縦方向のヘラ削り。内面はナデ。	支脚に転用 か。
第206図	6	須恵器 甕	埋没土 胴部上位片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。胴部はカキメ後2条の凹線で 区画、区画内に刺突文を2段巡らし、凹線下に波状文を巡 らす。	
第206図 PL.112	7	鉄製品 鉄片	埋没土 破片	長 幅	4.1 2.1	厚 重 0.3 5.0		わずかに刃部のように見える部分もあるが、断面は明瞭で はなく、用途ははっきりとしない。	

### 2区66号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第208図 PL.113	1	土師器 杯	竈内 完形	口 最	12.8 13.1	高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。	
第208図	2	土師器 小型甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	13.6		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	
第208図	3	須恵器 甕	埋没土 胴部中位片				細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部中位に2条の凹線による 区画、区画内に波状文を巡らす、胴部下位はヘラ削りか。 内面はヘラナデ。	
PL.113	4	打製石斧	埋没土 完形	長 幅	14.5 7.5	厚 重 3.0 344.2	黒色頁岩	明らかな未製品。荒削状態で製作が中断している。この状 態で持ち歩いたのか、外部から搬入したのか不明。	短冊形

### 2区67号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第209図 PL.113	1	縄文土器 深鉢	床下18cm(炉) 口縁～胴部2/3	口	(23.0)		粗砂、細礫/良好	緩やかな波状口縁。RL縄文を横位全面施文する。	諸磯a式
第209図 PL.113	2	縄文土器 深鉢	床直 口縁～胴部破片	口	(34.5)		細砂、繊維/ふつ う	波状口縁。胴中位でくの字状に外屈する器形。波頂部に押 捺を伴う突起を付し、突起下端から口縁に沿って細隆線を めぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、横位刺突列を3条 施す。以下、LR、RL縄文を羽状施文する。波頂部、波底部 下の隆線下に円形刺突を施す。	黒浜式
第209図 PL.113	3	凹石	床直 完形	長 幅	10.2 7.2	厚 重 5.5 577.7	粗粒輝石安山岩	表裏面とも中央付近にアバタ状の敲打痕があり、これに摩 耗痕が伴う。	楕円礫
第209図 PL.113	4	凹石	床直 1/2	長 幅	(6.1) (8.7)	厚 重 3.9 298.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の窪み穴があるほか、小口部上端に敲打 痕・礫面に摩擦混が広がる。礫の下半部を破損する。	楕円偏平礫

## 2区5号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第210図	1	土師器 杯	床上7cm 1/5	口 高	10.9 3.6		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。		
第210図	2	須恵器 蓋	埋没土 摘～天井部片	摘	4.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。摘は粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作る。		
第210図 PL.113	3	須恵器 有台杯	床上9cm 底部片	底 台	9.1 9.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。内面底部に墨書、残存が一部のため判読不能。		
第211図	4	須恵器 甕	床上12cm 底部～胴部下位 片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	底部から胴部は叩き締め成形。外面は斜格子状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。		
第211図	5	須恵器 甕	床上12cm 底部～胴部下位 片				細砂粒/還元焰/灰	底部から胴部は叩き締め成形。外面は叩き痕をヘラナデで毛時ている。内面はヘラナデ。		
第211図 PL.113	6	石皿	床上7cm 1/3	長 幅	(13.0) (10.8)	厚 重	(5.5) 559.7	粗粒輝石安山岩	有縁の石皿。左辺部上端側破片で、使用面コーナー付近に漏斗状を呈する小形の窪み穴1がある。裏面側には漏斗状の窪み穴多数がある。	
第211図 PL.113	7	石製品	床上15cm 完形	長 幅	16.4 13.9	厚 重	6.5 1331.8	粗粒輝石安山岩	表面側中央に漏斗状の窪み穴1がある。孔の内面は粗く磨き整形されているが、平滑とは言い難い。	楕円磔

## 2区15号掘立柱建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第214図	1	土師器 杯	P3 口縁部～体部片	口	14.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	8世紀第2～第 3四半期
第214図 PL.113	2	土師器 杯	P6 1/2	口 高	12.6 3.3			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	8世紀第3四半 期

## 2区2号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第217図 PL.113	1	手捏ね土器 椀形	埋没土 1/3	口 底	4.2 3.2	高	2.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第217図 PL.113	2	手捏ね土器 椀形	埋没土 完形	口 底	3.7 3.7	高	4.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第217図 PL.113	3	手捏ね土器 椀形	埋没土 ほぼ完形	口 底	4.7 3.8	高	4.3	細砂粒/良好/褐	口縁部はナデ、体部はヘラナデ、底部はヘラ削り。内面はナデ。	
第217図 PL.113	4	手捏ね土器 椀形	埋没土 1/2	口 底	5.2 5.2	高	3.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第217図 PL.113	5	手捏ね土器 椀形	埋没土 1/2	口 底	5.6 4.0	高	3.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第217図 PL.113	6	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	11.2 10.2	高	4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第217図	7	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	13.2 12.2			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第217図 PL.113	8	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 3/4	口 稜	13.9 12.6	高	4.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は左回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。内面は天井部中ほどを除き器面剥離。	
第217図	9	須恵器 蓋杯の身	埋没土 蓋受け～体部片	受	15.8			細砂粒/酸化焰・ 燻/黒	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。内外面とも焼成。	
第217図	10	須恵器 高杯	埋没土 杯部片					細砂粒/還元焰/黒	ロクロ整形、回転は右回りか。杯部底部に脚部との接合のための凹線が刻まれている。他底部から体部はヘラ削り。	
第217図 PL.113	11	手捏ね土器 壺形	埋没土 完形	口 底	5.5 5.1	高	6.1	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から胴部は内外面ともナデ、底部は器面磨滅のため不鮮明。	
第217図 PL.113	12	弥生土器 甕	埋没土 底部1/2	底	9.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

## 2区24号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第220図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	12.8 10.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第220図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	13.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第220図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	13.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第220図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	13.7			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	

2区25号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第220図 PL.113	1	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯 a 式
第220図 PL.113	2	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂/良好	横位浮線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯 b 式

2区27号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221図 PL.114	1	土師器 甕	中程 4/5	口 胴	18.7 25.0	底 高 9.2 29.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部・頸部にヘラナデ。頸部のヘラナデは木目が残る。	

2区29号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221図 PL.114	1	縄文土器 深鉢	床直 胴部破片				粗砂/ふつう	横位集合沈線帯間に羽状の集合沈線を施す。	諸磯 b 式

2区31号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	11.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第221図	2	須恵器 甕	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	胴部は叩き締め成形。外面の叩き痕と内面のアテ具痕はナデ消されている。	

2区34号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第222図	1	土師器 杯	底部 口縁部～底部片	口	12.4		細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第222図 PL.114	2	土師器 杯	底部 1/4	口 底	15.2 6.2	高 4.0	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り、口縁部と体部の間に僅かなナデが残る。	
第222図	3	土師器 甕	底部 口縁部～胴部中位片	口 胴	20.4 19.5		細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	

2区36号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第223図	1	須恵器 蓋杯の身	埋没土 蓋受～体部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第223図 PL.114	2	土師器 台付甕	中程 台部	台	10.0		細砂粒/良好/明赤褐	台部は胴部に貼付。台部は内外面とも横ナデ。	

2区38号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第224図 PL.114	1	土師器 壺	底部～上部 底部～頸部片	底 胴	10.0 44.4	頸 11.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り、内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第224図	2	土師器 壺	底部～上部 底部～胴部下片	底 胴	6.8 29.6		細砂粒/良好/橙	器面は内外面とも剥離や磨滅で整形が不鮮明。	
第224図 PL.114	3	土師器 甕	底部～上部 4/5	口 胴	17.4 21.6	底 高 8.3 35.0	細砂粒/良好/明赤褐	内面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第225図 PL.115	4	須恵器 甕	底部～上部 口縁部～胴部上位片	口	40.2		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口縁部はロクロ成形、胴部は叩き締め成形。頸部にて接合。口唇部下に小凸帯を作る、口縁部は中位に小凸帯を2条巡らす、小凸帯の上位に2段の波状文、下位に1段の波状文を巡らす。胴部は外面に平行叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はナデ消されている。	
第225図 PL.115	5	須恵器 甕	底部～上部 底部～胴部上位片	胴	69.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが一部はナデ消されている。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

2区47号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第228図 PL.115	1	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	緩やかな波状口縁。緩く内屈する口縁部に八の字状に平行沈線を施し、以下、横位の平行沈線をめぐらす。	諸磯 b 式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第228図 PL.115	2	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				細砂/良好	口縁下に斜位の集合短沈線を施す。以下、無文。器面の凹凸目立つ。	前期後葉
第228図 PL.115	3	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂/良好	横位、弧状の集合沈線を施す。	諸磯c式

#### 2区50号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第230図 PL.115	1	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂/ふつう	横位平行沈線、円状の沈線を施し、円文内部に円形状、両脇に三角形の印刻を施す。地文にRL、LRの結末羽状縄文を横位施文。	前期末葉

#### 2区390号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232図 PL.115	1	須恵器 杯蓋	埋没土 1/4	口 摘	16.6 4.7	高 2.9	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。口縁部は端部を折り曲げ。摘は粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作る。	8世紀第2～第 3四半期

#### 2区391号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	13.0 3.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	8世紀第3四半 期
第232図	2	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口	21.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	時期不明、8 世紀代か。

#### 2区458号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232図	1	須恵器 壺	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	胴部は叩き締め成形、上半はロクロ整形で叩き・アテ具痕をナデ消している。胴部下半は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	古墳時代後期

#### 2区464号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第232図	1	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰	口縁部はロクロ成形、外面はヘラナデ。内面に降灰が付着。	古墳時代後期

#### 2区471号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第233図	1	須恵器 杯蓋	埋没土 摘～天井部片	摘	4.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。摘は粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作る。	8世紀第2～第 3四半期

#### 2区526号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第233図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 高	12.4 3.4		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちヘラ削り。	8世紀第2～第 3四半期

#### 2区556号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第233図	1	土師器 杯	埋没土 稜～底部片				細砂粒/良好・燻 黄褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状ヘラミガキ。内外面とも燻焼成。	6世紀後半

#### 2区558号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第233図 PL.115	1	紡輪	埋没土 ほぼ完形	径	(4.4)	高 重	1.7 40.8	滑石	上面側は良く研磨され光沢を帯びているが、軸穴孔周辺は回転運動で擦れて光沢を欠く。表裏面とも刃ならし様の深く短い傷が残る。	厚型台形状

#### 2区1号遺物集中遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第234図 PL.115	1	土師器 杯	1/2	口 稜	14.6 12.4	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内面底部に焼成後の線刻あり。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第234図	2	土師器 杯	1/2	口 高	14.0 4.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。
第234図 PL.116	3	土師器 杯	1/2	口 底	17.0 10.2	高	5.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。
第234図	4	土師器 杯	1/4	口 最	11.4 11.8	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。
第234図	5	土師器 杯	1/3	口 最	12.6 12.9	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。
第234図 PL.116	6	土師器 杯	1/4	口 高	12.6 3.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。内面底部から体部に焼成前の線刻あり。
第234図	7	土師器 杯	1/3	口 高	13.0 3.3			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。
第234図 PL.115	8	土師器 杯	口縁部～底部片	口	13.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。内面体部に線刻あり。
第234図 PL.115	9	土師器 杯	口縁部～底部片	口	13.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。内面体部に線刻あり。
第234図 PL.116	10	土師器 杯	1/2	口 高	15.0 4.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。
第235図 PL.116	11	土師器 杯	口縁部～体部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は器面磨滅のため成形不明。内面体部に線刻あり。
第235図 PL.116	12	土師器 杯	口縁部～底部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。内面体部に線刻あり。
第235図 PL.116	13	土師器 杯	口縁部～底部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。内面体部に線刻あり。
第235図 PL.116	14	土師器 杯	口縁部～底部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。内面体部に線刻あり。
第235図 PL.116	15	土師器 杯	口縁部～体部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は器面磨滅のため成形不明。内面体部に線刻あり。
第235図 PL.116	16	土師器 杯	底部片					細砂粒/良好/橙	底部はへら削り。内面に線刻あり。
第235図	17	須恵器 杯蓋	摘～天井部片	摘	5.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転へら削り。摘は粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作る。
第235図 PL.116	18	須恵器 杯	3/4	口 底	14.2 8.6	高	3.5	細砂粒/還元焰・ 燻/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り。内外面とも燻焼成。
第235図 PL.116	19	須恵器 杯	1/2	口 底	14.6 10.0	高	3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部と体部下半は回転へら削り。
第235図	20	須恵器 甕	口縁部上半片	口	29.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に断面三角形の凸帯を作る。内面は残存部の下半がへらナデ。

## 2区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図 PL.116	1	縄文土器 深鉢	23竪穴建物 口縁部破片					細砂、輝石、繊維 /ふふう	波状口縁。口縁部にC字状爪形文を3条めぐらす。以下、LR縄文を横位施文。
第236図 PL.116	2	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片					細砂、輝石、繊維 /良好	LR縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	3	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片					細砂、輝石、石英、 繊維/良好	LR縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	4	縄文土器 深鉢	63竪穴建物床下 胴部破片					細砂、赤色粒、織 維/良好	無節LR縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	5	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片					粗砂、細礫、白色 粒、輝石/良好	LR縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	6	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片					粗砂、白色粒、輝 石/良好	LR縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	7	縄文土器 深鉢	表土 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	RL縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	8	縄文土器 深鉢	26竪穴建物 口縁部破片					細砂/良好	口縁下にC字状爪形文を1条めぐらし、以下、平行沈線による木葉文等の幾何学文を施す。
第236図 PL.116	9	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片					細砂/良好	横位平行沈線、円形刺突を施す。以下、RL縄文を横位施文。
第236図 PL.116	10	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片					粗砂/良好	平行沈線による肋骨文、円形刺突を施す。
第236図 PL.116	11	縄文土器 深鉢	450ピット 胴部破片					細砂/良好	RL縄文を横位施文する。
第236図 PL.116	12	縄文土器 深鉢	旧石器26号ト ンチ 胴部破片					粗砂、輝石/良好	LR縄文を横位施文する。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図 PL.116	13	縄文土器 深鉢	24竪穴建物 胴部破片			粗砂、赤色粒/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯 a 式
第236図 PL.116	14	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂、輝石/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯 a 式
第236図 PL.116	15	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂/良好	無節LR縄文を横位施文する。表面が剥離した内面にも縄文が見られる。	諸磯 a 式
第236図 PL.116	16	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂/良好	無節LR縄文を横位施文する。	諸磯 a 式
第236図 PL.116	17	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂、細礫/良好	横位浮線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	18	縄文土器 深鉢	64竪穴建物 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	波状口縁で口縁が内屈する。波頂部下に瘤状の貼付文を付し、これを囲むように菱形状に平行沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	19	縄文土器 深鉢	29竪穴建物 口縁部破片			粗砂/良好	波状口縁で口縁がくの字状に強く内屈。横位集合沈線を施す。地文に無節RL縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	20	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片			粗砂/ふつう	横位集合沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	21	縄文土器 深鉢	42竪穴建物 胴部破片			粗砂/良好	口縁がくの字状に内屈。横位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	22	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	胴中位でくの字状に内屈する器形。横位集合沈線帯間に逆ハの字状の集合沈線を充填施文する。地文に無節LR縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	23	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位集合沈線帯間に鋸歯状の集合沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	24	縄文土器 深鉢	60竪穴建物 胴部破片			粗砂、白色粒/良好	横位集合沈線を施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	25	縄文土器 深鉢	53竪穴建物 胴部破片			粗砂/良好	横位集合沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	26	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位集合沈線を施す。地文に無節LR縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	27	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂/良好	くの字状に内屈する器形。横位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	28	縄文土器 深鉢	埋没土 底部破片	底	9.8	粗砂、白色粒/良好	横位集合沈線帯間に斜位の集合沈線を施す。	諸磯 b 式
第236図 PL.116	29	縄文土器 深鉢	63竪穴建物 口縁部破片			細砂/ふつう	口縁下に刻み列をめぐらし、以下、横位、羽状の集合沈線を施す。	諸磯 c 式
第236図 PL.116	30	縄文土器 深鉢	63竪穴建物 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	口縁が緩く内湾。横位集合沈線をめぐらし、口縁部に斜位集合沈線帯を区画、口縁下に耳たぶ状、ボタン状貼付文を付す。	諸磯 c 式
第236図 PL.116	31	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐらして区画、以下、縦位展開する集合沈線を施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯 c 式
第236図 PL.116	32	縄文土器 深鉢	424ピット 胴部破片			粗砂/良好	羽状の集合沈線を挟んだ集合沈線により縦位区画し、区画内に弧状の集合沈線を施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯 c 式
第236図 PL.116	33	縄文土器 深鉢	2溝 胴部破片			粗砂、白色粒/ふつう	縦位、レンズ状の集合沈線を施す。	諸磯 c 式
第236図 PL.116	34	縄文土器 深鉢	47竪穴建物 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	格子目状の集合沈線を施す。	諸磯 c 式
第236図 PL.116	35	縄文土器 深鉢	35土坑 口縁部破片			細砂/良好	口縁下に斜位の集合短沈線帯を施し、抉るような角状刺突列を施文、以下、縦位の貝殻腹縁文を施す。	興津式
第236図 PL.116	36	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂/良好	平行沈線により縦位区画し、連弧状に平行沈線を充填施文する。欠損部上端は逆V字状の輪積痕となる。	十三菩提式
第236図 PL.116	37	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂/良好	No. 36と同一個体。同心円状の集合沈線を施す。	十三菩提式
第236図 PL.116	38	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片			細砂/良好	横位隆線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、区画内に鋸歯状文をめぐらす。以下、縄文を施文。	前期末葉
第236図 PL.116	39	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片			細砂/良好	結節LR縄文を横位施文する。	前期末葉
第237図 PL.117	40	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片			粗砂/良好	結節LR縄文を横位施文する。	前期末葉
第237図 PL.117	41	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			粗砂/良好	結節LR縄文を横位施文する。	前期末葉
第237図 PL.117	42	縄文土器 深鉢	39竪穴建物 胴部破片			粗砂/良好	無節LR、R1の結束羽状縄文を横位施文する。	前期末葉
第237図 PL.117	43	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片			細砂、輝石/良好	結節LR縄文を横位施文する。	前期末葉
第237図 PL.117	44	縄文土器 深鉢	35竪穴建物 胴部破片			粗砂/良好	LR、RLの結節羽状縄文を縦位帯状施文する。	中期初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第237図 PL.117	45	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂/ふつう	帯状沈線によるモチーフを描き、LR縄文を充填施文する。	称名寺1式
第237図 PL.117	46	縄文土器 深鉢	48竪穴建物、表 土 胴部破片				細砂/良好	屈曲部に8の字貼付文、横位集合沈線を施し、以下、集合 沈線による懸垂文を施す。	堀之内1式
第237図 PL.117	47	縄文土器 深鉢	48竪穴建物 胴部破片				細砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを描き、RL縄文を充填施文する。	堀之内2式
第237図 PL.117	48	弥生土器 甕	60竪穴建物 肩部破片				細砂/良好	櫛描波状文、櫛描羽状文をめぐらす。	樽式
第237図 PL.117	49	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	12.5 11.8	高 4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。	古墳時代後期
第237図	50	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.0 9.8	高 4.8	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り、器 面磨滅のため単位不明。内面は底部から体部にヘラミガキ。	古墳時代後期
第237図	51	土師器 杯	埋没土 1/5	口 稜	12.9 9.8	高 4.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 面は全面にヘラミガキ、器面磨滅のため単位不明。	古墳時代後期
第237図	52	須恵器 蓋杯の身	埋没土 1/5	口 受	12.0 14.2		細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	古墳時代後期
第237図	53	須恵器 高杯	埋没土 杯部口縁部～体 部片	口 稜	12.9 11.6		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。稜下体部は回転ヘラ削り。	古墳時代後期
第237図	54	須恵器 高杯	埋没土 杯部底部～稜片	稜	14.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部はカキメ、脚部に透孔あ り。口縁部は段を作る。	古墳時代後期
第237図	55	須恵器 椀	埋没土 底部～口縁部片	底 台	10.2 10.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。体部下位に稜を作る。	8世紀後半
第237図	56	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部は2条の凹線によつ て区画、区画内に波状文を巡らす。	
第237図	57	土師器 甕か	埋没土 底部片				細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り後線刻。	
第237図 PL.117	58	土師器 不明	埋没土 底部	底	4.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部から体部はヘラナデ。内面はヘラミガキ。内面赤採か。	
第237図	59	手捏ね土器 椀形	埋没土 1/3	口 底	4.4 4.0	高 3.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第237図	60	手捏ね土器 椀形か	埋没土 底部～体部片	底	4.4		細砂粒/良好/橙	外面は器面磨滅のため整形不明。内面はナデ。	
第237図	61	手捏ね土器 椀形か	埋没土 底部～体部片	底	4.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第237図	62	手捏ね土器 椀形か	埋没土 底部～体部片	底	5.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第237図	63	手捏ね土器 椀形か	埋没土 底部～体部片	底	7.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	体部はナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
第237図 PL.117	64	手捏ね土器 椀形	埋没土 口縁～底部ほぼ 完形	口 底	5.2 5.0	高 3.9	細砂、赤色粒/良 好	外面細かなハケメ整形。内面指ナデ整形。	古墳時代中期 ～後期前半
第237図 PL.117	65	手捏ね土器 椀形か	埋没土 胴～底部1/2	底	4.1		細砂、赤色粒/良 好	No.64と同様の器形と思われる。内面指ナデ整形。粘土塊 を貼り合わせて成形した痕跡が見られる。	古墳時代中期 ～後期前半
第237図 PL.117	66	石鏃	埋没土 完形	長 幅	3.9 2.4	厚 重 0.5 2.8	チャート	完成状態。表裏面とも押圧剥離が全面を覆う。器体は長身 で、大形の部類に属す。石器基部を浅く三角形に抉り、 返し部は明瞭である。	凹基無茎鏃
第237図 PL.117	67	石鏃	埋没土 完形	長 幅	(2.1) (1.8)	厚 重 0.4 0.7	黒色安山岩	完成状態。表裏面とも押圧剥離が全面を覆い、三角形に 器体を整える。石器基部は大きく抉れ、返し部は細く長い。	凹基無茎鏃
第237図 PL.117	68	打製石斧	埋没土 完形	長 幅	14.5 6.8	厚 重 2.1 164.3	黒色頁岩	完成状態。器体上半部を弱く抉り着柄部とする。側縁は弱 く開き、刃部に石斧最大幅がある。表裏面とも刃部摩耗、 裏面側に刃部再生に伴う剥離痕が見られる。	短冊形
第237図 PL.117	69	打製石斧	埋没土 完形	長 幅	(10.7) 6.6	厚 重 2.0 113.2	黒色頁岩	完成状態?幅広剥片を横位に用い、両側縁を粗く加工して、 やや幅広短小の器体を作成する。刃部その他に摩耗痕等は 見られず、未使用の状態。	
PL.117	70	打製石斧	埋没土 3/4	長 幅	(9.3) (4.0)	厚 重 1.7 61.6	黒色頁岩	裏面側に残る主要剥離面は端部がヒンジ状に捲れ、石斧製 作を早い段階で放棄している可能性が大。右側縁のみ摩耗 しており、削器的に使用されたものかもしれない。	不明
PL.117	71	打製石斧	埋没土 2/3	長 幅	(6.4) (4.0)	厚 重 (1.9) 44.3	黒色頁岩	表裏面とも左辺側剥離が大きく、左右でバランスが異なる。 石斧再生を試みているのかもしれない。	短冊形
第237図 PL.117	72	管玉	埋没土 完形	長 幅	2.6 0.9	厚 重 0.8 3.0	滑石	上面孔側は平坦、下面孔側分割面は良く研磨されているが、 浅くレンズ状に窪む。体部外面は光沢を帯びている部分と、 斜位線条痕が目立つ部分の両者がある。径2mmの孔を両側 穿孔。	

2区北7号柱穴列(囲い状遺構)遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第244図 PL.117	1	土師器 杯	P16中程 1/2	口 稜	11.2 10.9	高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り。口唇端部は平坦面を作る。	5世紀後半～6世紀初頭
第244図 PL.117	2	土師器 杯	P16中程 ほぼ完形	口 稜	11.6 10.9	高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちへら削り、稜下は器面磨滅のため単位不明。口唇端部は平坦面を作る。	5世紀後半～6世紀初頭
第244図	3	土師器 杯	P6内 口縁部～体部片	口	16.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。	8世紀前半
第244図 PL.117	4	土師器 甗	P2上部 底部～胴部下位 片	底	8.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。	古墳時代後期

3区12号溝(囲い状遺構)遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第244図	5	土師器 甗	埋没土 口縁部～胴部片	口 胴	12.4 11.8		細砂粒/粗砂粒/ 良好/黒褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向へら削り。内面は胴部にへらナデ。	

3区18号掘立柱建物(囲い状遺構内)遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第248図	1	土師器 小型甗	P10内 底部片				細砂粒/良好/にぶ い黄褐	底部は外面がへら削り、内面はへらナデ。	時期不詳

3区19号掘立柱建物(囲い状遺構内)遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第252図	1	土師器 杯	P33内 口縁部片				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、内面に斜放射状へらミガキ。	時期不詳

2区北68号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第255図 PL.117	1	土師器 杯	床直 4/5	口 高	12.6 3.4		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。		
第255図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	12.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。		
第255図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	12.4		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。		
第255図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	14.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちへら削り。		
第255図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部小 片	口	13.0		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	ロクロ成形か。体部下半から底部は回転へら削り、一部手持ちへら削り。口唇部は蓋受け状に作る。		
第255図	6	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口 力	16.0 12.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へら削り。内面にカエリを作る。		
第255図 PL.117	7	須恵器 有台杯	埋没土 1/4	口 底	15.8 11.0	台 高	9.8 4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り、高台は貼付。	
第255図	8	須恵器 有台杯	埋没土 底部片	底 台	11.2 11.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら削り、高台は貼付。	
第255図	9	須恵器 有台杯	埋没土 高台片	底 台	11.0 11.1			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第256図	10	土師器 甗か	埋没土 口縁部～胴部上 半片	口	22.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらミガキ。		
第256図	11	土師器 甗か	埋没土 口縁部片	口	22.8		細砂粒/良好/浅黄 キ	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらミガキ。	10と同一個体か	
第255図	12	土師器 甗	埋没土 胴部下位片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面胴部に輪積み痕が残る。外面はへら削り、内面はへらミガキ。	10.11と同一個体か	
第256図	13	須恵器 壺	埋没土 胴部小片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。外面には降灰が厚く付着。		
第256図 PL.117	14	土師器 甗	竈焚口 口縁部～胴部下 位	口 胴	21.1 21.5		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部にへらナデ。		
第256図 PL.118	15	土師器 甗	竈焚口 ほぼ完形	口 胴	21.6 21.0	底 高	5.7× 6.2 29.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部にへらナデ。外面胴部下位に粘土付着。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 胴	底 高	底 高				
第256図 PL.118	16	土師器 甕	竈 4/5	口 胴	21.6 22.2	底 高	4.6× 5.5 30.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ。	
第257図 PL.118	17	土師器 甕	竈 ほぼ完形	口 胴	21.6 22.4	底 高	5.0 30.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第257図 PL.118	18	土師器 甕	竈 ほぼ完形	口 胴	22.3 21.6	底 高	4.4× 5.1 30.9	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ。	
第257図 PL.119	19	土師器 甕	竈焚口 口縁部～胴部中 位	口 胴	23.0 21.3			細砂粒/良好/にぶ い橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第257図 PL.118	20	土師器 甕	竈左袖 底部～胴部下位 片	底	7.6			細砂粒/良好/褐	内面胴部に輪積み痕が残る。底部と胴部はヘラ削り。内面 は底部から胴部にヘラナデ。	
第258図 PL.118	21	土師器 甕	竈左袖 底部～胴部下位	底	4.9			細砂粒/良好/暗灰 黄	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第258図 PL.119	22	土師器 甕	竈焚口 底部～胴部下位	底	5.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第258図 PL.119	23	土製品 紡錘車	埋没土 1/2	径 厚	5.0 1.2	孔	0.6	微砂粒/良好/橙	内外面と側面はナデ。	
第258図	24	須恵器 蓋杯の蓋	床土15cm 1/4	口 稜	15.0 14.3	高	4.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中ほどまで回転ヘラ 削り。内面の口唇端部に浅い段を作る。	
第258図	25	須恵器 高杯	埋没土 脚端部小片	脚	14.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。端部に小凸帯を作る。	
PL.119	26	敲石	床直 完形	長 幅	13.4 5.9	厚 重	4.8 494	粗粒輝石安山岩	小口部両端および側縁に敲打痕があるほか、裏面側のみ礫 面が摩耗、磨石的に使われた可能性がある。掌サイズの礫 を用いる。	棒状礫
PL.119	27	敲石	床直 完形	長 幅	12.6 5.9	厚 重	4.2 213.3	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕がある。破損した礫2点が接合したも のだが、破損理由は不明。やや多孔質で、石材観は粗い。	
PL.119	28	敲石	床直 完形	長 幅	11.9 6.4	厚 重	4.5 422.5	粗粒輝石安山岩	上端側小口部に弱い敲打痕があるほか、右側縁に敲打・摩 耗痕がある。右側縁側のそれは穀摺石の使い方によるもの か。断面三角形状を呈す掌サイズの礫。	棒状礫
PL.119	29	敲石	壁溝内 完形	長 幅	12.5 6.4	厚 重	4.8 565.2	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕がある。掌サイズの礫を用いる。	棒状礫
PL.119	30	敲石	完形	長 幅	14.0 7.1	厚 重	4.7 560.4	粗粒輝石安山岩	小口部上端に敲打痕と敲打に伴う剥離痕がある。表面側と 右側縁の礫面は敲打されて白く脱色しているが、農具痕に 似たキズが重なり、使用痕とすることができるか不明瞭。	楕円礫
PL.119	31	礫	完形	長 幅	9.8 5.3	厚 重	3.5 227.4	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕がある。表面側・敲打痕や刃物傷の詳 細は不明。掌サイズの礫。	楕円礫
PL.119	32	礫	完形	長 幅	11.3 6.5	厚 重	4.2 365.2	粗粒輝石安山岩	掌サイズの偏平楕円礫、礫の表面側に敲打痕がある。	楕円礫

### 2区北69号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 胴	底 高	底 高			
第259図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 胴	12.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。

### 3区70号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 胴	底 高	底 高			
第262図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	14.0 11.2			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。
第262図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	14.0 11.5			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。
第262図	3	土師器 杯	床直 1/5	口 稜	14.9 12.5			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。
第262図 PL.119	4	土師器 杯	床直 3/4	口 高	11.8 3.5			細砂粒/良/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。
第262図	5	土師器 杯	竈 口縁部～底部片	口 胴	12.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り、器面磨滅 のため単位不明。
第262図 PL.119	6	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	14.8 4.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ち ヘラ削り。
第262図 PL.119	7	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 1/3	口 稜	14.9			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。天井 部と口縁部の間に凹線を巡らし稜を作る。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第262図	8	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	17.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向へラ削り。内面は胴部にへ ラナデか器面剥離のため単位不明。		
第262図	9	土師器 甕	床上8cm 口縁部～胴部上 位片	口	24.7		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面は胴部に へラナデ。		
第262図 PL.119	10	石製品 不明	床直 1/2	長 幅	(12.8) 15.2	厚 重	6.5 1469	粗粒輝石安山岩	左右の両側面に粗い刃ならし傷を伴う砥面がある。表裏面 とも中央付近に大きな漏斗状の窪み穴を持つ。	楕円磔
第262図 PL.119	11	鉄製品 不明	一部欠損	長 幅	(10.7) 0.6	厚 重	0.3 7.0		断面四角形の棒状鉄製品。端部はやや細くなっているか。 釘としては長く、詳細は不明。	

### 3区6号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第263図	1	須恵器 杯	床直 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第263図	2	土師器 甕	床直 口縁部下半～胴 部上位片				細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面は胴部に へラナデ。	
第263図	3	土師器 甕	埋没土 胴部下位片				細砂粒/良好/褐	胴部はへラ削り。内面は胴部にへラナデ。	
第263図	4	須恵器 甕	床直 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面には格子目状叩き痕、内面は同心円状 アテ具痕が残る。	

### 3区7号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第264図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへラ削り。	
第264図	2	須恵器 蓋杯の蓋	埋没土 天井部片				細砂粒/還元焰/暗 灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。	

### 3区16号掘立柱建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第265図	1	土師器 鉢	P4内 口縁部～体部片				細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はへラ削り。	古墳時代後期
第265図	2	須恵器 杯蓋	P6内 天井部片				細砂粒/還元焰/暗 オリーブ灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘の剥落痕が残る。天井部は 回転へラ削り。	8世紀
第265図	3	土師器 甕	P6内 口縁部片				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	古墳時代後期

### 3・4区9号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第284図	1	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	口縁部1/7	口	(13.0)		淡黄	口縁端部内面に突き出る。口縁端部上面窪む。内外面黄釉。 口縁部形態から片口鉢であろう。	江戸時代	
第284図	2	在地系土器 焙烙	口縁部片			高	5.3	黒色鉱物含む/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。口縁端部内面 外傾。	江戸時代
第284図 PL.120	3	砥石	完形	長 幅	(8.5) 3.0	厚 重	3.1 102.3	砥沢石	二面使用。表裏面とも著しく研ぎ減り、断面は糸巻状を呈 する。側面や上端面にはタガネ状の工具痕が残る。右側面 の剥落は被熱によるだが、下端部の欠損も関連する可能性 が高い。	

### 3・4区10号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第285図 PL.120	1	鉄滓	完形か	縦 幅	3.3 2.8	厚 重	2.8 22.8		粘度はわずかに高く、流動性を持つか。発泡は見られない。

### 3区17号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第272図	1	須恵器 蓋	埋没土 摘～天井部片	摘	5.5		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。摘は 粘土紐を環状に貼付している。	
第272図	2	須恵器 杯	埋没土 底部～体部下位 片	底	8.0		細砂粒/酸化焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第272図	3	須恵器 瓶	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/褐 灰	叩き締め成形後ロクロ整形。外面は間隔をあけたカキメ、 内面はヘラナデ、微かにアテ具痕が残る。	横瓶か。
第272図	4	土師器 甕	底部 底部～胴部下位 片	底	6.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り、底部に木葉痕が残る。内面は底部 から胴部にヘラナデ。	
第272図	5	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位 片	底	9.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

### 3区20号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第273図	1	須恵器 甕	埋没土 胴部上位片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。	
第273図	2	須恵器 甕	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	叩き締め成形。外面は平行叩き痕が残るが内面のアテ具痕 はナデ消されている。	

### 3区21号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第275図	1	須恵器 瓶	埋没土 胴部片				細砂粒/還元焰/褐 灰	叩き締め成形。外面はカキメ、内面はアテ具痕が残る。内 面に降灰が付着。	横瓶か。	
第275図	2	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位 片	底	6.1		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。		
PL.119	3	石皿	破片	長 幅	(11.2) (9.6)	厚 重	(4.7) 622.3	粗粒輝石安山岩	有緑石皿。裏面側に漏斗状を呈する多数の窪み部がある。 浅く窪んでいるだけで、使用開始後まもなく廃棄されたも のと思われる。	

### 3区22号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第275図	1	須恵器 甕	埋没土 頸部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。	

### 3区24号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第280図	1	土師器 器台	埋没土 受部下位～脚部 上位	孔	1.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	外面はヘラミガキ、内面はナデ。		
第280図	2	須恵器 杯蓋	埋没土 天井部片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。		
第280図 PL.120	3	肥前磁器 染付碗	埋没土 1/3	口 底	(10.6) (4.0)	高	6.2	白	外面染付。高台内1重圏線。	17世紀末～18 世紀中葉
第280図 PL.120	4	肥前磁器 染付碗	埋没土 底部1/3	底	(4.0)			白	体部外面染付。高台内1重圏線。	17世紀末～18 世紀
第280図 PL.120	5	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 底部ほぼ完	底	4.7			灰白	高台端部を除き貫入の入る透明釉。	17世紀後葉
第280図 PL.120	6	肥前陶器 三島手鉢	埋没土 底部1/3	底	(11.3)			橙～浅黄橙	内面印刻施文後に白化粧。内面から体部外面中位透明釉。 高台外面面取り。	江戸時代
第280図 PL.120	7	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部～体部 1/4欠	口 底	11.6 4.7	高	6.9	灰白	内面から高台脇鉛釉、口縁部薬灰釉。高台脇以下鉄化粧。	18世紀前葉～ 中葉
第280図 PL.120	8	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗か	埋没土 口縁部一部欠	口 底	11.3 5.3	高	7.5	灰	内面から高台脇鉛釉、口縁部灰釉。高台脇以下鉄化粧。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第280図 PL.120	9	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部1/4、底 部完	口 底	(11.3) 5.9	高	7.2	灰	内面から高台脇鉛釉、口縁部の薬灰釉は斑状。高台脇以下 鉄化粧。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第280図 PL.120	10	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 底部完	底	5.5			灰白	内面から高台脇鉛釉、口縁部薬灰釉。高台脇以下鉄化粧。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第280図 PL.120	11	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	(10.1) 5.1	高	2.2	灰白	底部外面碁笥底状。内面から口縁部外面灰釉。	江戸時代
第280図 PL.120	12	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋没土 口縁部1/8、底 部1/2	口 底	(31.2) 13.1	高	13.0	淡黄	口縁部外反し、端部内面に小さく折り返す。内外面錆釉。 底部外面静止糸切無調整。	17世紀末～18 世紀前葉

## 3区25・26号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第279図	1	黒色土器 椀	埋没土 底部片	口 底	7.9 7.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸 切り、高台は貼付。内面はヘラミガキ、器面磨滅のため単 位不明。	

## 3区32号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第282図 PL.120	1	瀬戸・美濃 陶器 小碗	埋没土 口縁部1/5、底 部1/3	口 底	(6.1) (3.2)	高 3.9	灰	高台境抉りこむ。高台外面凹線1条。内面から高台脇灰釉。	18世紀後葉か
第282図 PL.120	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部～体部 1/4	口	(11.7)		灰白	内面から高台脇鉛釉。口縁端部付近葉灰釉。	18世紀中葉～ 後葉 4片接合
第282図	3	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部～体部 1/5	口	(10.6)		灰白	内面から高台脇鉛釉。口縁端部付近葉灰釉。	18世紀中葉～ 後葉 4片接合

## 4区43号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第291図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	14.0 13.7		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。内 面の一部に煤が付着。	6世紀前半
第291図 PL.121	2	土師器 高杯	埋没土 脚部片	脚	8.0		細砂粒/良好/橙	杯部と脚部は接合。杯部内面は黒色処理。脚部は内外面と も裾部が横ナデ、柱状部がヘラナデ。	古墳時代後 期、詳細不詳
第291図	3	須恵器 杯	埋没土 1/5	口 底	8.0 5.0	高 1.8	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	11世紀
第291図	4	須恵器 杯	埋没土 1/5	口 底	9.0 7.0	高 2.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	11世紀
第291図	5	肥前磁器 皿	埋没土 底部1/4	底	(5.2)		灰白	残存部無文。内面から高台外面透明釉。見込み蛇の目釉剥 ぎ。	17世紀末～18 世紀前葉
第291図 PL.121	6	肥前磁器か 染付徳利	埋没土 底部1/2	底	7.8		灰白	高台外面1重圈線。内面と高台端部を除き透明釉。	江戸時代 2片接合
第291図 PL.121	7	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土 口縁部一部、底 部1/2	口 底	(10.3) (5.1)	高 7.7	灰	外面に簡略化した唐草文。高台端部を除き透明釉。貫入入 る。	18世紀前葉～ 中葉
第291図 PL.121	8	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 口縁部1/3、底 部完	口 底	(11.0) 4.5	高 7.2	淡黄	高台端部を除き貫入の入る透明釉。	17世紀後葉
第291図 PL.121	9	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 口縁部～体部 2/3	口	11.8		灰白	内外面貫入の入る透明釉。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第291図	10	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 口縁部1/4	口	(11.6)		灰白	内外面貫入の入る透明釉。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第291図 PL.121	11	肥前陶器 青緑釉皿	埋没土 底部	底	6.0		灰白	内面青緑釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。外面上半透明釉。	17世紀後葉～ 18世紀前葉 2片接合
第291図 PL.121	12	瀬戸・美濃 磁器か 染付端反碗	埋没土 口縁部一部、底 部完	口 底	(10.9) 3.8	高 5.5	白	外面に簡略化した菊花文。やや焼成不良で透明釉に粗い貫 入入る。	19世紀中葉～ 後葉
第291図 PL.121	13	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部一部欠	口 底	11.4 5.6	高 7.2	灰白	外面口縁部以下回転篋削り。高台貼り付けか。内面から高 台脇鉛釉の後、口縁部に葉灰釉。高台脇以下は鉛釉を化粧 風に施しており、光沢を有する。	18世紀前葉～ 中葉
第291図	14	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	埋没土 口縁部から体部 1/8	口	(10.8)		灰白	口縁端部小さく外反。内面から体部外面鉄釉。	江戸時代
第291図 PL.121	15	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	埋没土 底部1/4	底	(6.9)		灰白	内面から体部外面灰釉。見込み窪む。内面の花卉は2本一 単位。	江戸時代
第291図	16	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	埋没土 底部1/2	底	(6.7)		灰白	内面から体部外面灰釉。見込み目痕2カ所。	江戸時代
第291図 PL.121	17	瀬戸・美濃 陶器 輪禿皿	埋没土 口縁部一部、底 部1/2	口 底	(13.9) (6.9)	高 3.2	灰白	口縁部外反。体部外面以下回転篋削り後、高台貼り付け。 見込み蛇の目釉剥ぎ。	17世紀中葉～ 後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第291図 PL.121	18	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 1/4	口 底	(12.9) (6.5)	高 2.4	灰白	口縁部外面以下回転篋削り。高台断面三角形。内面から 体部外面灰釉。見込み重ね焼痕。	17世紀中葉～ 後葉
第291図	19	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 底部	底	6.5		灰白	外面回転篋削り。内面から高台脇灰釉。見込み重ね焼き痕。	17世紀
第292図 PL.121	20	瀬戸・美濃 陶器 輪弁皿	埋没土 底部	底	7.2		灰白	外面回転篋削り後、高台貼り付け。内面灰釉で見込み周縁 幅広く無釉。	江戸時代
第292図 PL.121	21	瀬戸・美濃 陶器 御深井皿	埋没土 体部一部、底部 1/3	底	(7.4)		灰	内面鉄絵具による型紙刷り。内面から高台脇に灰釉。	17世紀後葉～ 18世紀中葉 2片接合
第292図	22	瀬戸・美濃 陶器 御深井皿か	埋没土 口縁部片	口	(11.4)		灰	内面から体部外面灰釉。貫入する。残存部無文だが、御深 井皿の可能性あり。	江戸時代
第292図 PL.121	23	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 1/3	口 底	(12.6) (7.2)	高 3.1	灰白	体部から口縁部外面。体部外面下位以下回転篋削り。内面 から口縁部外面灰釉。	17世紀中葉～ 後葉か
第292図	24	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 口縁部片	口	(12.1)		灰	口縁部緩く外反。内面から体部外面灰釉。	江戸時代
第292図 PL.121	25	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 1/5				灰白	体部外面以下回転篋削り。口縁部外反し、端部は小さく立 ち上がる。口縁部輪花。内面から口縁部外面に灰釉の後、 内面に銅緑釉垂らす。	17世紀
第292図 PL.121	26	瀬戸・美濃 陶器 香炉	埋没土 口縁部一部、底 部1/5	口 底	(14.9) (8.6)	高 5.0	灰白	底部外面回転篋削り。底部基筒底状。体部外面輪軸目明瞭。 口縁部内面から体部外面下位錆釉に近い鉄釉。	17世紀か
第292図	27	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢か	埋没土 底部1/4	底	(10.2)		灰白	内面鉛釉。見込み目痕1カ所。高台端部凹線。外面摩滅す るが、鉄化粧残る。	江戸時代
第292図	28	在地系土器 鍋	埋没土 口縁部片				黒色鈹物含む/灰 白	口縁部外反し、器厚薄くなる。外面接合痕残る。	江戸時代
第292図	29	在地系土器 鍋	埋没土 口縁部片				黒色鈹物含む/黒	断面黒色、内面器表灰黄色、外面器表褐色。口縁部内面 低い段をなして器壁薄くなる。	江戸時代
第292図 PL.121	30	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部～底部片	口 底	(35.4) (32.6)	高 5.5	黒色鈹物含む/灰 白	断面中央暗灰色、器表付近から内面器表灰白色、外面器表 暗灰色。幅広の内耳下部は底部に貼り付け。	江戸時代
第292図 PL.121	31	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部～底部片	口 底	(37.8) (34.8)	高 5.5	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、内面器表灰色、外面器表 黒褐色。幅広の内耳下部は底部に貼付け。	江戸時代
第292図 PL.121	32	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部～底部片	口 底	(32.8) (30.8)	高 5.1	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近淡黄色、内面器表灰色、外面器表 暗灰色。内面幅広の耳貼り付け。	江戸時代
第293図	33	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部～底部片			高 5.1	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近と内面器表灰白色、外面器表褐色 色。外面下半篋削りか。	江戸時代
第293図	34	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部～底部片			高 5.4	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、内面器表黄灰色、外面器 表褐色。口縁端部上面凹線状に窪む。	江戸時代
第293図	35	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部～底部片			高 5.8	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近から内面器表灰白色、外面器表灰 色。口縁部内面内耳貼り付け痕一部残る。	江戸時代
第293図	36	在地系土器 焙烙	埋没土 底部片				黒色鈹物含む/黒 褐	断面中央黒褐色、内面器表浅黄褐色、外面器表褐色。内面 花状の押印。	江戸時代
第293図 PL.121	37	在地系土器 火鉢か香炉	埋没土 1/2	口 底	(14.7) (10.9)		黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近から器表灰色。脚欠損。鑄込み菊 花状押印。	江戸時代
第293図 PL.121	38	砥石	完形	長 幅	5.2 2.6	厚 重 2.4 55.6	砥沢石	表面側が主たる砥面、左側面には幅広の刃ならし傷が残る。 右側面にはタガネ状工具痕が残る。裏面側は折断後に磨き 整形。下半部を欠いているが、欠損後も使用。	切り砥石
第293図 PL.121	39	石皿	破片	長 幅	(12.6) (13.5)	厚 重 814.4	粗粒輝石安山岩	有縁の石皿。左辺側下端部破片で、掻き出し口が残る。裏 面側には漏斗状の窪み穴2がある。	
第293図 PL.121	40	銅製品 煙管	破片	長 幅	(2.8) 0.6	厚 重 1.5		つなぎ目は明瞭。吸口の口付近くと見られる。	

4区44号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第294図 PL.122	1	肥前磁器 染付小丸碗	埋没土 1/2	口 底	(8.3) (3.6)	高 5.4	白	外面矢羽根文。口縁部内面2重圏線。見込み1重圏線内に 五弁花。	18世紀後葉～ 19世紀初頭
第294図	2	肥前磁器 染付小丸碗	埋没土 底部1/2	底	(3.4)		白	外面文様不明。見込み2重圏線内に簡略化した五弁花。や や焼成不良で貫入する。	18世紀後葉～ 19世紀初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第294図 PL.122	3	肥前磁器 染付碗	埋没土 1/2	口底 (9.3) (3.9)	高	5.0	灰白	底部器壁厚。外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	18世紀末～19 世紀前葉
第294図 PL.122	4	肥前磁器 染付碗	埋没土 口縁部一部、底 部1/2	口底 (9.6) (4.1)	高	5.4	灰白	焼成不良で透明釉白濁。外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	18世紀中葉～ 後葉
第294図 PL.122	5	肥前磁器 染付端反碗	埋没土 口縁部一部、底 部完	口底 (10.7) 4.0	高	5.7	灰白	外面格子状文。高台内釉切れ。口縁部内面2重圏線。見込み1重圏線内に不明文様。見込み蛇の目釉剥ぎ。	19世紀前葉～ 中葉
第294図 PL.122	6	肥前磁器 染付皿	埋没土 口縁部一部、底 部1/4	口底 (14.0) (9.9)	高	3.3	白	体部内面雪持ち笹か。底部内面花状文。蛇の目凹型高台。	18世紀前葉～ 中葉
第294図 PL.122	7	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 底部	底		4.4	灰白	高台端部を除き貫入の入る透明釉。高台脇細かい叩打により円盤状に成型か。二次加工品か。	17世紀末～18 世紀前葉
第294図 PL.122	8	瀬戸・美濃 磁器か 染付端反碗	埋没土 1/4	口底 (10.0) (3.2)	高	5.6	白	外面花文。口縁部内面簡略化した四方禪文。見込み1重圏線内に「元」の文字。	19世紀前葉～ 中葉
第294図	9	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土 底部	底		5.3	灰白	外面回転筥削り後、高台貼り付け。内面から高台脇餘釉。高台脇以下無釉。	18世紀
第294図 PL.122	10	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	埋没土 1/4	底		(8.7)	灰白	口縁部小さく外反。内面鉄絵。内面から高台内灰釉か志野釉。焼成不良で釉が鮫肌状を呈する。内外面目痕1カ所残る。	17世紀前葉～ 中葉
第294図 PL.122	11	瀬戸美濃陶 器 御深井皿	埋没土 1/2	口底 (12.1) (6.9)	高	3.5	灰	外面口縁部以下回転筥削り。貼付け高台。見込み周縁浅く細い1重圏線。見込み鉄絵具による型紙刷り。内面から高台脇灰釉。	18世紀前葉
第294図 PL.122	12	瀬戸・美濃 陶器 御深井皿	埋没土 底部1/2	底		(6.5)	灰白	見込み鉄絵具による型紙刷り。内面貫入の入る灰釉。貼付け高台。	18世紀前葉か
第294図 PL.122	13	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	埋没土 底部	底		7.2	灰白	見込み周縁1重凹線。体部内面に菊花文。内面灰釉。見込み目痕3カ所。貼付け高台。	江戸時代
第294図	14	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢か	埋没土 底部	底		6.1	灰白	外面回転筥削り。内面から体部外面下位灰釉。	江戸時代
第294図 PL.122	15	瀬戸・美濃 陶器 鉢	埋没土 口縁部1/7	口		(24.4)	灰白	口縁部内面小さく立ち上がる。口縁部内面2本一単位の波状文。内外面灰釉。	江戸時代
第295図	16	瀬戸・美濃 陶器 耳壺	埋没土 口縁部1/4、体 部一部	口		(12.9)	灰白	口縁部玉縁状。耳部剥落。外面肩部以下回転筥削り。頸部内面付近から外面厚めの錆釉。肩部上面に藁灰釉？をかける。口縁部上面摩滅。	江戸時代
第295図	17	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	埋没土 1/5	口		(11.0)	灰白	口縁部内面傾し、内面は突き出る。口縁部内面から体部外面下位灰釉。	18世紀
第295図 PL.122	18	製作地不詳 磁器 染付端反碗	埋没土 口縁部1/2、底 部一部	口底 (10.6) (4.0)	高	5.5	白	外面簡略化した植物文。口縁部内面簡略化した四方禪文。見込み1重圏線内に不明文様。	19世紀中葉～ 後葉
第295図 PL.122	19	製作地不詳 磁器 染付端反碗	埋没土 体部一部、底部 完	底		3.7	白	外面不明文様、見込み1重圏線内に不明文様。	19世紀中葉～ 後葉
第295図 PL.122	20	製作地不詳 磁器 染付丸碗	埋没土 口縁部一部、底 部2/3	口底 (9.7) 3.7	高	4.4	白	酸化コバルトによる染付。口縁部染付。外面植物文。内面無文。	近代
第295図 PL.122	21	堺・明石陶 器 すり鉢	埋没土 口縁部片				明赤褐	外面口縁部以下回転筥削り。すり目重なり多く、撫で消し強い。	19世紀前半～ 後半
第295図 PL.122	22	製作地不詳 陶器 すり鉢	埋没土 口縁部1/6				明赤褐	すり目細かく密に施す。口縁部内面のすり目轆轤撫でですり消す。口縁部上面平坦。口縁部内面から外面に錆色の鉄釉。	近代
第295図	23	在地系土器 鍋	埋没土 口縁部片				黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近から内面器黒色から暗灰色。外面器表灰色。口縁部段をなして器壁薄くなる。	江戸時代
第295図	24	在地系土器 鍋	埋没土 口縁部片				黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近から内面器表灰白色、外面器表灰色。口縁部段をなして器壁薄くなる。	江戸時代
第295図 PL.122	25	在地系土器 焙烙	埋没土 破片		高	4.7	黒色鈹物含む/灰 白色	器表灰色。口縁部部尖る。口縁部器壁やや肥厚。	江戸時代
第296図	26	在地系土器 焙烙	埋没土 破片		高	5.4	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、内面器表灰色、外面器表黒色。体部内湾。体部外面下端筥削り。	江戸時代

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第296図	27	在地系土器 釜輪	埋没土 破片		高 3.3	黒色鈹物含む/浅 黄橙	器表浅黄橙から黒色。	江戸～近代
第296図	28	在地系土器 火鉢	埋没土 底部1/8	底 (39.6)		黒色鈹物含む/明 赤褐	器表黒色。貼付け高台。底部外面縮緬状痕残る。	江戸～近代
第296図	29	在地系土器 養蚕火鉢か	埋没土 口縁部片			黒色鈹物含む/に ぶい橙	器表にぶい橙色から暗灰色。口縁部強く内湾。外面格子状 文を回転施文具により施文。28と同一個体の可能性あり。	江戸～近代
第296図	30	在地系土器 炬形製品か	埋没土 口縁部片			黒色鈹物含む/灰 白	器表灰白色から灰色。粘土板を貼り付け平面方形に成形。 口縁部肥厚。	江戸～近代
第298図 PL.123	1	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	12.1 5.1	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。内面は体 部に左傾の斜放射状ヘラミガキ。	内斜口縁杯

5区48号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第298図 PL.123	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	11.6 10.7	高 4.6	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は面を作る。	須恵器蓋模倣
第298図 PL.123	3	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	12.3 11.8	高 4.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、稜下体部から底部は手持ちヘラ削り。口 唇端部は平坦面を作る。	須恵器蓋模倣
第298図 PL.123	4	土師器 椀	埋没土 1/2	口 高	11.0 6.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は上半が横ナデ、下半・体部と底部は手持ちヘラ削 り。内面は体部から口縁部下半にヘラミガキ。	
第298図 PL.123	5	土師器 高杯	底部、埋没土 4/5	口 稜	11.1 10.9	脚 高 7.0 9.2	細砂粒/良好/明赤 褐	杯部と脚部の接合状態不明。杯部口縁部と脚部裾部は横ナ デ、稜下から脚部柱状部はヘラ削り。内面は脚部にヘラナ デ。	
第298図 PL.123	6	須恵器 蓋杯の身	埋没土 3/4	口 受	9.8 11.9	高 4.7	細砂粒/還元焰・ 燻/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。蓋受は貼付、底部は手持ち ヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。内面は底部から口縁 部に蛇行する斜放射状ヘラミガキ。内外面とも燻焼成。	
第298図 PL.123	7	ロクロ土師 器 高杯形器台 か	床直～中程 杯部下位片	凸	16.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。杯部は内外面ともヘラナデ。 残存部外面の上位に凹線を巡らし、下位に凸帯を貼付。	接合しない破 片あり
第298図 PL.123	8	土師器 甗	底部 ほぼ完形	口 底	22.2 8.4	高 25.1	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ後上半にヘラミガキ。	
第298図	9	土師器 壺	埋没土 口縁部片	口	15.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。	
第298図	10	土師器 壺	底部 口縁部～胴部上 位片	口	19.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。 胴部は内外面とも器面磨滅のため単位不明。	
第298図	11	土師器 壺	埋没土 底部～胴部下位 片	底	7.6		細砂粒/良好/にぶ い褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第298図 PL.123	12	土師器 小型甗	底部 ほぼ完形	口 胴	12.4 12.8	底 高 4.6× 5.0 13.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半がヘラナデ、下半と 底部ヘラ削り。内面底部からは胴部にヘラナデ。	
第299図 PL.123	13	土師器 甗	底部、埋没土 ほぼ完形	口 胴	14.0 16.0	底 高 7.7× 7.8 18.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部上 位はヘラ削りをナデ消している。内面は底部から胴部にヘ ラナデ。	
第299図 PL.123	14	土師器 甗	底部、埋没土 4/5	口 胴	15.5 19.8	底 高 5.6 31.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部下 位から底部は器面磨滅のため単位不明。内面は底部から胴 部にヘラナデ、胴部下位は外面と同様。	
第299図 PL.124	15	土師器 甗	中程、埋没土 4/5	口 胴	16.5 22.0	底 高 7.6 29.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部にヘラナデ。	
第300図	16	土師器 甗	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	18.0		細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。 胴部は内外面とも器面磨滅のため単位不明。	
第299図 PL.124	17	土師器 甗	中程、埋没土 口縁部～胴部中 位	口 胴	19.0 23.2		細砂粒/良好/にぶ い褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第300図 PL.124	18	土師器 甗	上部、埋没土 口縁部～胴部中 位片	口 胴	22.6 24.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に ヘラナデ。	
第300図 PL.124	19	土師器 甗	埋没土 頸部～胴部片	頸 胴	14.4 19.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第300図	20	土師器 甗	埋没土 底部～胴部下位 片	底	6.9		細砂粒/良好/灰黄 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第300図 PL.124	21	土師器 甕	底部、埋没土 底部～胴部下位	底	6.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。
第300図 PL.124	22	石製模造品	完形	長 幅	4.2 2.4	厚 重	0.5 7.2	滑石	上端側を山形に整形、両側縁は折断整形。下端部の研磨整形は中央付近のみで、左側縁は削ぎ落されたようにみえるが、意図的か判断が難しい。表裏面とも粗い横位線条痕が残る。

#### 4区49号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第296図 PL.120	1	龍泉窯系 青磁碗	埋没土 口縁部片					灰白	残存部外面無文。内面片彫りによる施文。大宰府分類の龍泉窯青磁碗I-2・3類。

#### 4区62号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第302図 PL.125	1	銅製品 煙管(吸口)	ほぼ完形	長 幅	3.1 (1.6)	重	2.8		途中から捻じれ、潰れている吸口。つなぎ目は明瞭。
第302図 PL.125	2	鉄製品 釘か	一部欠損	長 幅	(3.2) 0.8	厚 重	0.5 1.4		小さな釘と見られるが、頭部等は確認できていない。断面四角形。
第302図 PL.125	3	鉄製品 釘か	破片	長 幅	(2.9) 0.5	厚 重	0.4 3.4		体部と見られる一部のみが残存する釘。埋蔵時にはすでに欠損していたとみられる。
第302図 PL.125	4	鉄製品 釘	一部	長 幅	1.5 0.8	厚 重	0.4 0.6		小さな釘の一部とみられる。頭部は多くが錆に覆われているため、詳細は不明。
第302図 PL.125	5	銭貨 新寛永	完形	外 内	2.347 1.928	厚 重	0.140 3.1		面の文字はわずかに「通」の字が不明瞭。背の輪、郭は不明瞭。

#### 4区63号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第303図	1	在地系土器 片口鉢	口縁部片					灰	口縁部玉縁状。口縁部内面轆轤目残る。

#### 4区72号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第304図 PL.125	1	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	口縁部一部、底 部1/3	口 底	(31.8) (14.8)	高	12.7	浅黄橙	錆釉施釉後に体部外面下位以下を拭う。底部外面回転削り。口縁部外面に小さく折り返す。

#### 2区北629号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第309図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、残存部下端に稜が残ることから須恵器蓋杯の蓋模倣、口唇部は平坦面を作る。

#### 2区北645号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第309図	1	土師器 甕か	埋没土 底部片	底	9.8			細砂粒/旅行/明褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。

#### 3区772号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第310図	1	土師器 杯	埋没土 底部片					細砂粒/良好/明赤 褐	底部は手持ちヘラ削り。

#### 4区837号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第310図 PL.125	1	肥前陶器 陶胎染付碗	口縁部一部、底 部1/3	口 底	(10.3) (4.5)	高	7.1	灰	外面植物文。高台端部を除き貫入の入る透明釉。

#### 2区北遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第311図 PL.125	1	土師器 高杯	埋没土 脚部上半片					細砂粒/良好/にぶ い黄橙	杯部と脚部は接合。脚部はヘラ削り、透孔を3方に穿つ。杯部は脚部上端より一回り大きな箇所再調整。

3区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底幅	長さ	厚重				
第311図 PL.125	1	縄文土器 深鉢	30溝 胴部破片				細砂、輝石、繊維 /良好	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜式	
第311図 PL.125	2	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				細砂、石英/良好	細密捺糸文Rを縦位、斜位施文する。	晩期後葉	
第311図	3	須恵器 壺	埋没土 口縁部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	口クロ整形、回転は右回り。口唇部下に断面三角形の凸帯 を作る。		
第311図	4	須恵器 把手	埋没土 小片				細砂粒/還元焰/灰	把手は貼付。表面はナデ。	提瓶か	
第311図	5	手捏ね土器 椀形か	埋没土 底部～体部片	底	3.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部はへら削り、体部はへらナデ。内面はナデ。		
第311図 PL.125	6	石製品	完形	長 幅	9.3 (8.5)	厚 重	4.2 407.4	粗粒輝石安山岩	表面側・礫中央付近に大きな漏斗状の窪み穴1がある。孔 内面は磨き整形されているが、平滑面が形成されるほどで はない。	楕円礫

4区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底幅	長さ	厚重				
第311図 PL.125	1	縄文土器 深鉢	44溝 口縁部破片				細砂、輝石、石英、 繊維/ふつう	RL縄文を横位施文する。	黒浜式	
第311図 PL.125	2	縄文土器 深鉢	表土東 胴部破片				細砂、輝石、繊維 /ふつう	LR縄文を横位施文する。	黒浜式	
第311図 PL.125	3	縄文土器 深鉢	表土東 胴部破片				細砂、輝石、繊維 /良好	RL縄文を横位施文する。	黒浜式	
第311図 PL.125	4	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片				細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式	
第311図 PL.125	5	縄文土器 深鉢	表土西 胴部破片				粗砂、輝石/ふつ う	横位集合沈線を施す。	諸磯b式	
第311図	6	在地系土器 焙烙	口縁部から底部 片			高	5.5	黒色鈹物含む/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色。体部内面緩 い段差。	江戸時代

5区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底幅	長さ	厚重				
第311図 PL.125	1	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂、輝石、石英、 繊維/ふつう	LR縄文を横位施文する。	黒浜式	
第311図 PL.125	2	縄文土器 深鉢	48溝 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	斜格子目状に平行沈線を施す。	黒浜式	
第311図 PL.125	3	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂、細礫、輝石 /良好	波状口縁。無文。横ナデ整形。	後期後半	
第311図 PL.125	4	凹石	完形	長 幅	16.6 13.7	厚 重	8.4 2061.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも礫面中央付近に深い窪み穴がある。窪み穴は漏 斗状のそれと違い、敲打によるものである。被熱してヒビ 割れている。	

旧石器遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(mm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	長さ	厚 重			
第318図 PL.133	1	剥片石器 ナイフ形石 器	1区旧石器8号 トレンチ 完形	長 幅	62 27	厚 重	9 12.6	黒色安山岩	切出形ナイフ形石器、左右両側縁の基部に調整加工、右側 縁先端部は切断加工。
第318図 PL.133	2	剥片石器 剥片	1区1号溝 完形	長 幅	38 13	厚 重	4 2.6	黒曜石	縦長剥片、左右両側縁に微細剥離痕。
第324図 PL.133	1	剥片石器 剥片	2区旧石器19号 トレンチ 完形	長 幅	28 41	厚 重	9 7.7	珩質頁岩	珩質頁岩製の横長剥片。

# 報告書抄録

書名ふりがな	ただやまひがしいせき
書名	多田山東遺跡
副書名	一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	733集
編著者名	山中 豊/関口博幸/神谷佳明
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240319
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ただやまひがしいせき
遺跡名	多田山東遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせさきしあかぼりいまいまち
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市赤堀今井町
市町村コード	10204
遺跡番号	AK044
北緯(世界測地系)	362305
東経(世界測地系)	1391249
調査期間	20191101-20200930
調査面積	17,222㎡
調査原因	道路建設工事
種別	集落跡
主な時代	縄文/古墳/古代/中世/近世以降
遺跡概要	縄文-竪穴建物1+土坑13/古墳-囲い状遺構1+竪穴建物29+竪穴状遺構2+掘立柱建物2+方形周溝溝1+溝4+土坑10+ピット8/古墳時代~古代-竪穴状遺構1+掘立柱建物4+柱穴列1+溝12/古代-竪穴建物40+竪穴状遺構4+掘立柱建物14+柱穴列1+溝7+土坑24+ピット7+遺物集中1/古墳時代以降-土坑50/中世-溝4+土坑1/中世以降-溝4/近世以降-溝11+土坑5+ピット1/時期不明-溝3+ピット853
特記事項	2区北~3区北西部にかけて、溝と柱穴列がコの字状に並ぶ囲い状遺構を検出した。5世紀後半~6世紀初頭の遺構で、その内部では稀有な2棟の掘立柱建物を確認した。
要約	多田山東遺跡は伊勢崎市赤堀町今井に所在し、多田山丘陵の東側の南北に伸びる舌状の低台地上に立地する集落遺跡である。縄文時代の竪穴建物1棟と土坑が発見されたが、弥生時代の遺構は発見されず、僅かに遺物が出土したのみであった。古墳時代以降では、囲い状遺構の他、竪穴建物、掘立柱建物、方形周溝墓、土坑、ピット、溝などが発見された。古墳時代以降の竪穴建物は69棟で、6世紀後半から8世紀後半の建物が最も多く確認された。特筆すべき遺物としては、1区2号竪穴建物から出土した仏教法具とみられる須恵器小型有台皿などが挙げられる。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第733集

## 多田山東遺跡 — 第1分冊 —

一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6(2024)年3月11日 印刷

令和6(2024)年3月19日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社

